

# 云笈七签

第一部

（宋）张君房 著

## 目录

序.....	001
卷一 道德部.....	003
总叙道德.....	003
卷二 混元混洞开辟劫运部.....	012
混元.....	012
空洞.....	013
混沌.....	013
混洞.....	014
劫运.....	014
太上老君开天经.....	017
卷三 道教本始部.....	021
道教序.....	021
道教所起.....	022
道教三洞宗元.....	023
左乙混洞东蒙录.....	025
灵宝略纪.....	026
三宝杂经出化序.....	028
天尊老君名号历劫经略.....	029
卷四 道教经法传授部.....	033
上清源统经目注序.....	033

灵宝经目序.....	035
上清经述.....	036
三皇经说.....	039
道教相承次第录.....	040
玄都九真盟科九品传经录.....	043
卷五 经教相承部.....	047
真系.....	047
晋茅山真人杨君.....	048
雷平山真人许君.....	049
仙人临沮令许君.....	049
宋庐山简寂陆先生.....	050
齐兴世馆主孙先生.....	052
梁茅山贞白陶先生.....	052
唐茅山升真王先生.....	054
中岳体玄潘先生.....	055
王屋山贞一司马先生.....	056
茅山玄静李先生.....	057
卷六 三洞经教部.....	059
三洞（并序）.....	059
三洞品格.....	062
七部（并序）.....	066
四辅.....	067
十二部.....	071
三十六部.....	073
卷七 三洞经教部本文.....	075
说三元八会六书之法.....	075
云篆.....	076

八体六书六文.....	077
符字.....	077
八显.....	078
玉字诀.....	078
皇文帝书.....	079
天书.....	079
龙章.....	079
凤文.....	080
玉牒金书.....	080
石字.....	080
题素.....	081
玉字.....	081
文生东.....	082
玉策.....	082
玉篇.....	082
玉札.....	083
丹书墨策.....	083
玉策.....	083
福连之书.....	083
琅絺琼文.....	084
白银之编.....	084
赤书.....	084
火炼真文.....	084
金壶墨汁字.....	085
琼札.....	085
紫字.....	086
自然之字.....	086

四会成字.....	087
琅简蕊书.....	087
石石贡.....	087
卷八 三洞经教部经释.....	089
释《三十九章经》.....	089
释《太上大道君洞真金玄八景玉策》.....	100
释《上清高圣太上大道君金玄八景玉策》.....	100
释《太上神州七转七变僊天经》.....	102
释《神虎上符消魔智慧经》.....	103
释《太上素灵洞玄大有妙经》.....	103
释《回元九道飞行羽经》.....	104
释《九灵太妙龟山元录》.....	104
释《大有八禀太丹隐书》.....	104
释《七圣玄记回天九霄经》.....	105
释《曲素诀辞五行秘符》.....	105
释《天关三图七星移度经》.....	106
释《除六天玉文三天正法》.....	106
释《青要紫书金根众经》.....	107
释《石精金光藏景录形经》.....	107
释《太上九赤斑符五帝内真经》.....	107
卷九 三洞经教部经释.....	108
释《太霄琅书》.....	108
释《太微黄书》.....	108
释《太上金书秘字》.....	109
释《太上上皇民籍定真玉策》.....	109
释《太上仓元上策》.....	111
释《太上太素玉策》.....	111

释《太上神虎玉符》 .....	112
释《太上金虎符》 .....	112
释《太上金篇虎符》 .....	113
释《太上玉清神虎内真隐文》 .....	113
释《太上三元玉检布经》 .....	114
释《洞真太上九真中经》 .....	114
释《洞真玉晨明镜金华洞房雌一五老宝经》 .....	114
释《洞真中黄老君八道秘言经》 .....	114
释《洞神秘篆》 .....	115
释《玄真文赤书玉诀》 .....	115
释《紫度炎光神玄经》 .....	116
释《胎精中记》 .....	116
释《隐地八术》 .....	116
释《外国放品经》 .....	117
释《四十四方经》 .....	117
释《八素真经》 .....	117
释《三九素语》 .....	118
释《紫凤赤书》 .....	118
释《灵飞六甲》 .....	118
释《元始洞玄灵宝赤书五篇真文》 .....	118
释《洞玄智慧大诫经》 .....	119
释《洞玄通微定志经》 .....	119
释《洞真黄气阳精三道顺行经》 .....	119
释《洞真玉佩金珰太极金书上经》 .....	120
释《洞玄太极隐注经》 .....	120
释《七经》（并序） .....	121
卷十 三洞经教部经 .....	123

老君太上虚无自然本起经.....	123
卷十一 三洞经教部经.....	132
上清黄庭内景经.....	132
卷十二 三洞经教部经.....	157
上清黄庭内景经.....	157
太上黄庭外景经.....	168
卷十三 三洞经教部经.....	182
太清中黄真经（并释题）.....	182
卷十四 三洞经教部经.....	200
黄庭遁甲缘身经.....	200
卷十五 三洞经教部经.....	208
黄帝阴符经叙.....	208
黄帝阴符经.....	208
天机经.....	213
卷十六 三洞经教部经.....	220
灵宝洞玄自然九天生神章经.....	220
太极真人颂二首.....	227
卷十七 三洞经教部经.....	229
太上老君内观经.....	229
洞玄灵宝定观经.....	232
老君清净心经.....	235
卷十八 三洞经教部经.....	237
老子中经（上）.....	237
卷十九 三洞经教部经.....	252
老子中经（下）.....	252
卷二十 三洞经教部经.....	267
太上飞行九神玉经.....	267

羽章.....	273
步天纲.....	281
倒行法.....	282
反行法.....	283
卷二十一 天地部.....	288
总序天.....	288
三界宝篆.....	289
四梵三界三十二天.....	298
卷二十二 天地部.....	300
总说天地五方.....	300
九地三十六音.....	302
朝礼诀法.....	303
高上九玄三十六天内音.....	304
洞渊九地三十六音内铭.....	307
登山住止安居审地吉凶法.....	309
东方呵罗提国.....	310
南方伊沙鹍国.....	311
西方尼维罗绿那国.....	312
北方旬他罗国.....	312
上方元精青沌自然国.....	313
中央太和宝真无量国.....	314
卷二十三 日月星辰部.....	315
总叙日月.....	315
三奔录.....	316
奔日.....	316
奔月.....	316
奔辰.....	317



太上玉晨郁仪结桀奔日月图.....	317
太上玉晨郁仪奔日赤景玉文、结桀奔月黄景玉章.....	318
峨嵋山北洞中石室户枢刻石书字.....	318
太上郁仪日中五帝讳字服色.....	319
太上结桀月中五帝夫人讳字服色.....	320
太素真人受太帝君日月诀法.....	321
大方诸宫服日月芒法.....	321
太上玄真诀服日月法.....	322
服日子三五七九玄根气法.....	322
服日月气法.....	323
太一游日服日月法.....	324
求月中丹光夫人法.....	325
服日月六气法.....	326
金仙内法.....	326
存思日月法.....	327
向日取嚏法.....	327
双景翼形隐道.....	328
食竹笋（鸿脯附）.....	328
卷二十四 日月星辰部.....	329
总说星.....	329
二十八宿.....	332
北斗九星职位总主.....	334
太上空常飞步录.....	336
卷二十五 日月星辰部.....	338
北极七元紫庭秘诀.....	338
七童卧斗法.....	343
太上招五辰于洞房飞仙秘道.....	344

升斗法.....	345
卧斗.....	347
存二十四星法.....	349
奔辰飞登五星法.....	350
卷二十六 十洲三岛部.....	357
十洲（并序）.....	357
三岛.....	363
卷二十七 洞天福地部.....	366
天地宫府图（并序）.....	366
十大洞天.....	366
三十六小洞天.....	368
七十二福地.....	372
卷二十八 二十八治部.....	379
二十四治（并序）.....	379
天师所立四治.....	391
卷二十九 禀生受命部.....	393
禀受章.....	393
太上九丹上化胎精中记.....	395
解胎十二结法.....	397
卷三十 禀生受命部.....	404
帝一混合三五立成法.....	404
九真中经天上飞文.....	407
大洞回风混合帝一之法.....	410
卷三十一 禀生受命部.....	418
太微帝君太一造形紫元内二十四神回元经.....	418
济众经.....	422
说真父母.....	423

九真帝君九阴混合纵景万化隐天诀.....	423
卷三十二 杂修摄部.....	426
养性延命录（并序）.....	426
杂戒忌禳灾祈善.....	433
服气疗病.....	436
导引按摩.....	438
卷三十三 杂修摄部.....	442
摄养枕中方.....	442
自慎.....	442
仙经禁忌.....	445
仙道忌十败.....	445
仙道十戒.....	445
学仙杂忌.....	446
导引.....	447
行气.....	448
守一.....	449
太清存神炼气五时七候诀.....	450
五时.....	450
七候.....	451
卷三十四 杂修摄部.....	453
太清导引养生经（凡十二事）.....	453
宁先生导引养生法.....	454
虾蟆行气法.....	455
龟鳖等气法.....	456
喻月精法.....	457
彭祖导引法（凡十事）.....	457
王子乔导引法（凡三十四事）.....	458

导引杂说.....	462
神炁养形说.....	463
将摄保命篇.....	464
卷三十五 杂修摄部.....	466
明补.....	466
禁忌.....	466
方便.....	467
化身坐忘法.....	468
胎息法.....	468
影人.....	469
服紫霄法.....	469
养生篇.....	470
禁忌篇.....	472
卷三十六 杂修摄部.....	476
玄鉴导引法.....	476
按摩法.....	478
食气法.....	478
食气绝谷法.....	479
摄生月令.....	480
卷三十七 斋戒部.....	487
斋戒叙.....	487
洞玄灵宝六斋十直.....	488
年六斋.....	488
月十斋.....	488
六种斋.....	489
二种斋.....	490
十二斋.....	490

八节斋.....	491
心斋.....	491
斋直.....	492
释斋有九食法.....	493
说杂斋法.....	493
斋科.....	496
持斋.....	497
阴阳杂斋日.....	498
卷三十八 说戒部.....	500
说十戒.....	500
大戒上品（并叙）.....	501
太上洞玄灵宝消魔宝真安志智慧本愿大戒.....	501
礼经祝三首.....	505
太霄琅书十善十恶.....	507
思微定志经十戒.....	508
妙林经二十七戒.....	510
老君二十七戒.....	511
卷三十九 说戒部.....	512
老君说一百八十戒（并叙）.....	512
老君说五戒.....	521
化胡经十二戒.....	522
修斋求道当奉十戒.....	523
说戒喻.....	523
卷四十 说戒部.....	525
说百病.....	525
崇百药.....	527
初真十戒.....	530

清戒.....	531
太玄都中宫女青律戒.....	532
太上黄素四十四方经戒.....	532
金书仙志戒.....	533
上清大洞戒.....	534
灵宝戒.....	535
受持八戒斋文.....	535
卷四十一 杂法部.....	537
沐浴.....	537
沐浴七事获七福.....	540
沐浴吉日.....	540
栴沐浴.....	543
解秽（并叙）.....	544
朝礼.....	545
太素真人隐朝礼愿上仙法.....	546
朝极.....	547
朝玉晨君.....	548
朝青童君.....	549
隐朝胎元法.....	550
朝礼九天魂魄帝君求仙上法.....	550
朝太素三元君.....	551
卷四十二 存思部.....	553
存《大洞真经》三十九真法.....	553
卷四十三 存思部.....	575
存思三洞法.....	575
老君存思图十八篇（并叙）.....	576
思修九宫法.....	586

思九宫五神法.....	590
存元成皇老法.....	590
存帝君法.....	591
存玄一老子法.....	592
存司命法.....	592
卷四十四 存思部.....	594
太一帝君太丹隐书.....	594
镇神养生内思飞仙上法.....	601
三九素语玉精真诀存思法.....	604
紫书存思元父玄母诀.....	607
紫书存思九天真女法.....	609
卷四十五 秘要诀法部.....	610
修真旨要.....	610
卷四十六 秘要诀法部.....	626
修真旨要.....	626
卷四十七 秘要诀法部.....	640
安魂魄咒.....	640
著衣咒.....	640
栲发咒.....	640
洗手面神咒.....	642
耳鸣祝.....	642
审耳鸣吉凶法.....	643
未食咒.....	644
道士三时食饭咒.....	644
斋见不祥之物解法.....	644
行道见死尸法.....	645
道士既见死尸上经解歹奄法.....	645

练祝死尸法.....	646
修行咒诅诀.....	646
道士被天魔所试即诵拂魔咒.....	647
玉帝卫灵咒鬼上法.....	648
治急病法.....	649
反舌塞喉法.....	649
金仙内法.....	650
卷四十八 秘要诀法部（行持旨要）.....	651
老君明照法叙事（誓法附）.....	651
明照法.....	655
宝照法.....	656
摩照法.....	657
拂童法.....	658
神枕法（并序）.....	658
神杖法.....	659
帝君明灯内观求仙上法.....	660
按天庭法.....	662
服雾法.....	662
卷四十九 秘要诀法部（三一）.....	664
守一.....	664
三一诀.....	665
玄门大论三一诀（并叙）.....	666
金阙帝君五斗三元真一经口诀.....	671
守五斗真一经口诀.....	672
卷五十 秘要诀法部（三一）.....	676
三一九宫法.....	676
四宫雌一内神宝名玉诀.....	680



金阙帝君三元真一经诀.....	682
卷五十一 秘要诀法部（行持事要）.....	687
八道命籍.....	687
八道秘言.....	689
太上曲素五行秘符.....	691
玉珮金铛（黄衣童附）.....	693
流金火铃（振威大祝附）.....	696
五铃登空虚保仙上符.....	697
卷五十二 杂要图诀法部.....	700
九真行事诀.....	700
升玄行事诀.....	702
方诸洞房行事诀.....	705
五神行事诀.....	706
二十四神行事诀.....	707
五辰行事诀.....	709
回元行事诀.....	710
五帝杂修行乘龙图.....	713
卷五十三 杂秘要诀法部.....	715
太上隐书八景飞经八法（并序）.....	715
太上丹景道精隐地八术.....	719
太清玉霞紫映内观上法.....	722
存玄白法.....	724
三素云法.....	724
卷五十四 魂神部.....	726
说魂魄.....	726
拘三魂法.....	729
制七魄法.....	730

对日存三魂法.....	731
朝礼九天魂魄求仙上法.....	732
魂精法.....	733
上清飞步七星魂魄法.....	733
卷五十五 魂神部.....	735
思神诀.....	735
存身神法.....	737
受生天魂法.....	738
精神.....	740
入室思赤子法.....	741
卷五十六 诸家气法部.....	744
元气论（并序）.....	744
卷五十七 诸家气法部.....	763
服气精义论（并序）.....	763
卷五十八 诸家气法部.....	782
胎息精微论.....	782
茅山贤者服内气诀.....	783
胎息根旨要诀.....	784
胎息杂诀.....	786
尹真人服元气术.....	786
服元气法.....	789
胎息口诀（并序）.....	790
卷五十九 诸家气法部.....	793
延陵君修养大略.....	793
赤松子服气经序.....	795
神仙绝谷食气经.....	796
太无先生服气法.....	798

墨子闭气行气法.....	799
太清王老口传服气法.....	800
晁鸾法师服气法.....	801
达磨大师住世留形内真妙用诀.....	802
项子食气法.....	804
张果先生服气法.....	805
申天师服气要诀.....	805
王真人气诀.....	806
大威仪先生玄素真人要用气诀.....	807
王说山人服气新诀.....	808
嵩山李奉时服气法.....	809
卷六十 诸家气法部.....	811
中山玉柜服气经.....	811
幻真先生服内元气诀法.....	819
胎息经.....	828
卷六十一 诸家气法部.....	830
用气集神诀.....	830
服五方灵气法.....	831
五厨经气法（并叙）.....	833
谷神妙气诀.....	836
辨杂呼神名.....	838
中岳郗俭食气法.....	839
十二月服气法.....	840
三一服气法.....	841
服三气法.....	842
服气杂法秘要口诀.....	842
延陵君炼气法.....	845

卷六十二 诸家气法部.....	847
太清王老口传法序.....	847
说膈结.....	847
初学诀法.....	848
说覆仰法.....	848
服气杂法.....	849
辨肠转数法.....	851
服气十事.....	852
神息法.....	855
服气问答诀法.....	855
姑婆服气亲行要诀问答法.....	856
王老真人经后批.....	861
卷六十三 金丹部.....	862
玄辨九君辨金虎铅汞造鼎入金秘真肘后方上篇.....	862
旨教五行内用诀.....	863
造金鼎铭.....	866
正隐甲法象天符用火并合金造鼎肘后方下篇.....	868
行符合天符法象.....	869
卷六十四 金丹诀部.....	872
金华玉女说丹经.....	872
玄解录.....	875
辨金石药并去毒诀.....	875
守仙五子丸方.....	879
王屋真人口授阴丹秘诀灵篇.....	880
卷六十五 金丹诀部.....	884
太清金液神丹经（并序）.....	884
作六一泥法.....	888

合丹法.....	889
祭受法.....	890
太清金液神丹阴君歌.....	892
卷六十六 金丹部.....	896
丹论诀旨心照五篇.....	896
旨叙诀第一.....	896
明辨章第二.....	897
金丹论第三.....	900
大还丹宗旨第四.....	903
赤松子玄记第五.....	904
梁朝四公诀.....	904
卷六十七 金丹部.....	905
金丹序.....	905
黄帝九鼎神丹序.....	908
九转丹名.....	909
太清神丹法.....	910
九转丹迟速效验.....	911
九光丹法.....	912
五灵丹法.....	912
岷山丹法.....	913
五成丹法.....	913
金液法（威喜巨胜法附）.....	913
卷六十八 金丹部.....	916
太上八景四蕊紫浆五珠降生神丹方一首（并序）.....	916
九还金丹二章.....	921
卷六十九 金丹部.....	932
七返灵砂论（并序）.....	932

卷七十 内丹诀法部.....	0946
还丹内象金钥匙（并序）.....	0946
黑铅水虎论.....	0946
红铅火龙诀.....	0948
还金术三篇（并序）.....	0954
卷七十一 金丹部.....	0958
太清丹经要诀（并序）.....	0958
卷七十二 内丹部.....	0979
大还丹契秘图（并序）.....	0979
真元妙道修丹历验抄.....	0989
卷七十三 内丹部.....	1003
古龙虎歌.....	1003
金丹金碧潜通诀.....	1007
阴丹慎守诀.....	1009
大还心镜.....	1010
太清神丹中经叙.....	1012
卷七十四 方药部.....	1014
太极真人青精乾石丁饭上仙灵方.....	1014
太上巨胜腴煮五石英法.....	1018
太上肘后玉经八篇.....	1021
太一饵瑰葩云屑神仙上方（并引说）.....	1025
灵飞散方传信录（云母法附）.....	1026
灵飞散方.....	1028
治云母法.....	1029
卷七十五 方药部.....	1031
神仙炼服云母秘诀序.....	1031
卷七十六 方药部.....	1049

灵宝还魂丹方（并序） .....	1049
修金碧丹砂变金粟子方 .....	1052
修羽化河车法 .....	1053
神室河车方 .....	1054
九转炼铅法 .....	1055
金丹法 .....	1055
伏火北亭法 .....	1056
化庚粉法 .....	1057
伏药成制汞为庚法 .....	1057
四壁柜朱砂法 .....	1058
卷七十七 方药部 .....	1059
大洞西华玉堂仙母金丹法 .....	1059
镇魂固魄飞腾七十四方灵丸 .....	1060
南岳真人郑披云传授五行七味丸方 .....	1062
九真中经四镇丸 .....	1063
黄帝四扇散方 .....	1065
王母四童散方 .....	1065
帝女玄霜掌上录 .....	1066
萤火丸方 .....	1067
黄帝受黄轻四物仙方 .....	1068
真人驻年藕华方 .....	1068
老君益寿散方 .....	1069
骊山老母绝谷麦饭术 .....	1069
文始先生绝谷方 .....	1070
太清飞仙法 .....	1070
太白星官洗眼方 .....	1071
张少真炼九转铅精法 .....	1072

茯苓<麦少>方.....	1073
卷七十八 方药部.....	1074
三品颐神保命神丹方叙.....	1074
上品颐神保命篇第一.....	1075
中品和形养性篇第二.....	1083
下品疗疾蠲痼篇第三.....	1088
古铁胤粉方.....	1094
后代名医造铁胤粉.....	1094
卷七十九 符图部.....	1096
五岳真形图序.....	1096
五岳真形神仙图记.....	1098
王母授汉武帝真形图.....	1100
五岳真形图法（并序）.....	1105
晋鲍靓施用法.....	1107
卷八十 符图部.....	1111
洞玄灵宝三部八景二十四住图.....	1111
五称符二十四真图.....	1121
元览人鸟山形图.....	1122
卷八十一 庚申部.....	1125
上清元始谱录太真玉诀.....	1125
论庚申存童子去玄灵诀.....	1127
制六欲神法.....	1128
六甲存童子去玄灵法.....	1131
三尸中经.....	1134
去三尸符法.....	1135
卷八十二 庚申部.....	1137
三尸篇.....	1137



游稚川记.....	1146
梦三尸说.....	1147
卷八十三 庚申部.....	1150
中山玉柜经服气消三虫诀.....	1150
说三尸.....	1154
说三尸所居法.....	1154
候三尸法.....	1155
赵先生口诀祝尸虫法（凡三法）.....	1155
东方氏制三尸法.....	1156
紫微宫降太上去三尸法.....	1157
太虚真人消三尸法.....	1158
思念道诚去三尸法.....	1158
五行紫文除尸虫法（凡三法）.....	1159
存心中赤气去三尸法.....	1159
卷八十四 尸解部.....	1160
太极真人石精金光藏景录形经说.....	1160
释石精金光藏景录形法.....	1160
尸解叙.....	1161
造剑尸解法.....	1162
尸解次第事迹法度.....	1164
太极真人诫.....	1165
尸解神杖法.....	1165
水解（凡三人）.....	1166
卷八十五 尸解部.....	1168
太极真人飞仙宝剑上经叙.....	1168
戎胡授舜十转紫金丹叙.....	1168
太一守尸.....	1169

景霄真人.....	1170
太玄阴生符.....	1170
太极真人遗带散.....	1171
轩辕黄帝.....	1171
宁封（火解）.....	1172
玉子.....	1172
王子乔.....	1173
清平吉.....	1173
司马季主.....	1174
鲍叔阳.....	1175
徐弯.....	1175
董仲君.....	1175
龙述.....	1176
王方平.....	1176
栾巴（兵解）.....	1177
女真赵素台.....	1177
女真程伟妻.....	1178
刘卞画.....	1178
张玄宾.....	1178
王嘉（兵解）.....	1179
阴君传鲍靓尸解法.....	1180
折象.....	1181
吴猛.....	1181
左慈.....	1181
王延.....	1183
王叟.....	1184
卷八十六 尸解部.....	1185

洞生太帝君镇生五脏诀.....	1185
太阴炼形.....	1188
水火荡炼尸形.....	1188
阴阳六甲炼形质法.....	1189
修九真中道.....	1190
化形濯景.....	1190
地下主者.....	1191
宁先生.....	1192
灵寿光.....	1193
赵成子.....	1193
许玉斧.....	1194
张鲁.....	1194
许道育（女真）.....	1195
范豹.....	1195
乔顺.....	1195
卷八十七 诸真要略部.....	1197
太清神仙众经要略.....	1197
卷八十八 仙籍旨诀部.....	1210
道生旨.....	1210
养生辨疑诀.....	1216
下元歌.....	1218
卷八十九 诸真语论部.....	1220
经告.....	1220
卷九十 七部语要部.....	1226
连珠（凡六十五首）.....	1226
卷九十一 七部名数要记部.....	1236
九守（凡九篇）.....	1236

十三虚无.....	1243
七报.....	1244
七伤.....	1245
卷九十二 仙籍语论要记部.....	1247
众真语录.....	1247
卷九十三 仙籍语论要记部.....	1255
神仙可学论.....	1255
道性论.....	1259
三相论.....	1260
真相论.....	1262
阴阳五行论.....	1262
卷九十四 仙籍语论要记部.....	1264
坐忘论（并序凡七篇）.....	1264
卷九十五 仙籍语论要记部.....	1275
法性虚妄.....	1275
道性因缘.....	1276
本性淳善.....	1276
有为无为法.....	1277
观四大相.....	1278
色身烦恼.....	1278
筏喻.....	1280
病说.....	1281
求道二患.....	1283
梦喻虚妄.....	1284
散花喻.....	1284
论种子.....	1286
真假.....	1287

空法.....	1288
卷九十六 赞颂部赞颂歌.....	1289
太微天帝君《赞 大有妙经 颂》一章.....	1289
天帝君赞《大有妙经颂》一章.....	1289
太帝君赞《大有妙经颂》一章.....	1289
《老君本生经颂》一章.....	1290
《太上智慧徊玄经颂》一章.....	1290
《太上智慧经赞》一章.....	1290
《本愿大戒经颂》一章.....	1290
《玉皇授演生大洞三十九章与《登龙台歌》二章.....	1291
《西王母授紫度炎光神变经颂》三篇.....	1291
《灵宝真一自然太上玄一真人颂》一章.....	1292
《太上弘道颂》一章.....	1292
方诸宫东海上房灵妃歌曲一章.....	1292
青童大君常吟咏一章.....	1293
太虚真人常吟咏一章.....	1293
西城真人王君常吟咏一章.....	1293
小有真人王君常吟咏一章.....	1293
郭四朝常乘小船游戏塘中叩船而歌四首.....	1294
保命仙君告许虎牙杜广平常喜歌一章.....	1294
西王母宴汉武帝上元夫人弹云林之攄歌步虚之曲一章.....	1295
西王母又命侍女田四妃答歌一章.....	1295
王母赠魏夫人歌一章（并序）.....	1295
双礼珠弹云攄而答歌一章.....	1296
高仙盼游洞灵之曲一章（并序）.....	1296
四真人降魏夫人歌共五章（并序）.....	1297
方诸青童歌一章.....	1297

次扶桑神王歌一章.....	1298
次清虚真人歌二章.....	1298
《人间可哀》之曲一章（并序）.....	1299
巴谣一章（并序）.....	1299
杨羲真人梦蓬莱仙公洛广休召四人各赋诗一章.....	1300
石安庆先作诗一章.....	1300
次张诱世作诗一章.....	1300
次许玉斧作诗一章.....	1301
次丁玮宁作诗一章.....	1301
吴王夫差书一章（并序）.....	1301
辛亥子诗三首（并序）.....	1302
卷九十七 赞颂部歌诗.....	1303
太微玄清左夫人歌一首（并序）.....	1303
灵凤歌一首（并序）.....	1303
女仙张丽英石鼓歌一首（并序）.....	1304
汉初童谣歌一首（并序）.....	1304
萼绿华赠羊权诗三首（并序）.....	1305
九华安妃赠杨司命诗二首（并序）.....	1306
中候王夫人诗四首（并序）.....	1307
方丈台昭灵李夫人诗三首（并序）.....	1308
南极王夫人授杨羲诗三首（并序）.....	1309
紫微王夫人诗一十七首（并序）.....	1310
卷九十八 赞颂部诗赞辞.....	1314
太真夫人赠马明生诗二首（并序）.....	1314
云林右英夫人觐杨真人许长史诗二十六首（并序）.....	1316
太极真人智慧经赞六首.....	1322
卷九十九 赞颂部诗赞辞.....	1324

吴子来写真赞一首诗二首（并序） .....	1324
仙人贻白永年诗一首（并序） .....	1325
李公佐仙仆诗一首（并序） .....	1326
攄浩然泛虚舟辞遗栾浑之诗二首（并序） .....	1326
灵响词五首（并序） .....	1327
众仙步虚词五首 .....	1329
青童天君常吟一首 .....	1329
南岳夫人作与许长史一首 .....	1329
南岳夫人作一首 .....	1330
卷一百 纪传部纪 .....	1331
真宗皇帝御制《先天纪叙》 .....	1331
轩辕本纪 .....	1332
卷一百一 纪传部纪 .....	1350
元始天王纪 .....	1350
太上道君纪 .....	1350
上清高圣太上玉晨大道君纪 .....	1352
三天君列纪 .....	1353
青灵始老君纪 .....	1355
丹灵真老君纪 .....	1356
中央黄老君纪 .....	1358
金门皓灵皇老君纪 .....	1358
五灵玄老君纪 .....	1359
卷一百二 纪传部纪 .....	1361
混元皇帝圣纪 .....	1361
太微天帝君纪 .....	1364
青要帝君纪 .....	1365
总真主录纪 .....	1366

中天玉宝元灵元老君纪.....	1366
赤明天帝纪.....	1367
南极尊神纪.....	1368
卷一百三 纪传部传.....	1370
宋真宗御制《翊圣保德真君传序》.....	1370
翊圣保德真君传.....	1371
进翊圣保德真君事迹表.....	1386
批答.....	1387
卷一百四 纪传部传.....	1388
玄洲上卿苏君传.....	1388
太和真人传（元阳子附）.....	1390
太极真人传.....	1392
太清真人传.....	1393
太元真人东岳上卿司命真君传.....	1394
卷一百五 纪传部传.....	1401
清灵真人裴君传.....	1401
卷一百六 纪传部传.....	1417
清虚真人王君内传.....	1417
紫阳真人周君内传.....	1421
马明生真人传.....	1426
阴真君传（阴真君自叙附）.....	1430
吴猛真人传.....	1431
许逊真人传.....	1432
许迈真人传.....	1433
杨羲真人传.....	1436
鲍靓真人传.....	1436
卷一百七 纪传部传录.....	1438



陶先生小传.....	1438
华阳隐居先生本起录.....	1438
梁茅山贞白先生传.....	1444
卷一百八 纪传部传.....	1447
列仙传.....	1447
卷一百九 纪传部传.....	1459
神仙传.....	1459
卷一百一十 纪传部传.....	1474
洞仙传.....	1474
卷一百一十一 纪传部传.....	1489
洞仙传.....	1489
卷一百一十二 纪传部传.....	1496
神仙感遇传.....	1496
卷一百一十三（上） 纪传部传.....	1518
神仙感遇传（续）.....	1518
卷一百一十三（下） 纪传部·传.....	1529
续仙传.....	1529
卷一百一十四 纪传部·传.....	1557
壙城集仙录叙.....	1557
卷一百一十五 纪传部传.....	1568
壙城集仙录叙（续）.....	1568
卷一百一十六 纪传部·传.....	1577
壙城集仙录叙（续）.....	1577
卷一百一十七 灵验部.....	1588
宫观.....	1588
真宗皇帝御制叙.....	1588
广成先生序.....	1588

饶州开元观神运殿阁过湖验.....	1589
洋州冯行袭毁素灵宫验.....	1590
文铎台二僧击救苦天尊像验.....	1591
亳州太清宫老君挫贼验.....	1592
周真人居上经堂基验.....	1593
魏夫人坛十僧来毁九遭虎噬验.....	1594
严譔掘洪州铁柱验.....	1594
王峰吴行鲁毁掘成都龙兴观验.....	1595
刘将军取东明观土修宅验.....	1595
南康王梦二神人告以将富贵验.....	1596
果州开元观工匠同梦得材木验.....	1597
北都潜丘台崔相国应梦修观验.....	1598
相国刘瞻梦天尊言再居相位验.....	1599
李蔚相国应梦天尊修观验.....	1560
郑相国还愿修宁州真宁观验.....	1560
段相国报愿修忠州仙都观验.....	1561
楼观赤光示人以避难验.....	1561
卷一百一十八 道教灵验记部.....	1603
木文天尊见像验.....	1603
汉州什邡县水浮铁像天尊验.....	1604
青城丈人真君赐钱验（铁像验附）.....	1604
金州洵阳县望仙观天尊理讼验.....	1605
张仁表念太一救苦天尊验.....	1606
李邵画太一天尊验.....	1607
杨师谟修观享寿验.....	1608
吕细修观仙人来往验.....	1609
黑髭老君召代宗游十洲三岛验.....	1609

玉局化玉像老君应梦验.....	1610
自然石文老君降雨验.....	1610
赖处士预言老君降生作幼主验.....	1611
贾湘严奉老君验.....	1612
沈莹供养老君验.....	1613
姚鹄修老君殿验.....	1614
杨闹儿奉事老君验.....	1614
卷一百一十九 道教灵验记部.....	1616
昭成观壁画天师验（绢画验附）.....	1616
陵州天师井填欠数盐课验.....	1617
李环梦遇天师告授陵州刺史验.....	1618
谢贞精意圻壤遇天师授符验.....	1619
道士刘方瀛依天师剑法治疾验.....	1620
西王母塑像救疾验（三将军附）.....	1620
归州黄魔神峡水救船验.....	1621
青城丈人同葛王贵化灵官示现验.....	1621
罗真人降雨助金验.....	1622
嘉州开元观飞天神王像捍贼验.....	1623
楚王赵匡凝北帝祥应.....	1625
李昌遐诵《消灾经》验.....	1625
崔昼诵《度人经》验.....	1626
姚元崇女精志焚修老君授经验.....	1626
王道珂诵《天蓬咒》验.....	1626
王清远诵《神咒经》验.....	1627
忠州平都山仙都观取《太平经》验.....	1628
天台玉霄宫叶尊师符治狂邪验.....	1629
贾琼受《童子箴》验.....	1631

尹言念《阴符经》验.....	1631
赵业受《正一箓》验.....	1631
僧法成窃改道经.....	1632
僧行端辄改《五厨经》验.....	1633
崔公辅取宝经不还验.....	1634
刘载之诵《天蓬咒》验.....	1635
姚生持《黄庭经》验.....	1636
卷一百二十 道教灵验记部.....	1637
处州青田县清虚观古钟自归验.....	1637
青城山宗玄观铜钟不能损验.....	1638
温江县太平观铸钟道士得道验.....	1638
眉州故彭山市观大钟伤寺匠验.....	1638
浴爱赤木古钟水洗疮验（古钟验附）.....	1639
渝州南平县道昌观古钟奇巧验.....	1640
黔南盐井古钟多年无毁蚀验.....	1640
天台山玉霄宫古钟僧偷而卒验.....	1640
开州龙兴观钟雪冤验（云安钟附）.....	1641
施州清江郡开元观钟见梦验.....	1642
洪州游帷观钟州官强取入寺验.....	1643
天师剑愈疾验.....	1643
张让黄神印救疾验.....	1644
范希越天蓬印祈雨验.....	1645
越州上虞县钟时鸣地中验.....	1646
王谦据蜀隋文帝黄箓斋克平验.....	1646
青城丈人授黄帝龙栢并降雨验.....	1647
天师叶法善设醮摄魅验.....	1647
范阳卢蔚醮本命验.....	1648

崔图修黄箬斋救母生天验.....	1648
赫连宠修黄箬斋解父冤验.....	1649
唐献修黄箬斋母得生天验.....	1650
李承嗣解妻儿冤修黄箬斋验.....	1651
吴韬修黄箬斋却兵验.....	1651
公孙璞修黄箬斋忏悔宿冤验.....	1652
卷一百二十一 道教灵验记部.....	1654
胡尊师修清斋验.....	1654
崔玄亮修黄箬斋验（持经验附）.....	1655
武昌人醮水验.....	1656
徐翥为父修黄箬斋验.....	1656
张班妻陪钱纳天曹库验.....	1658
苏州盐铁院招商官修神咒道场验.....	1659
相国杜鹵公修黄箬斋免阎罗王验.....	1660
南康王韦皋修黄箬道场验.....	1661
李约妻要黄箬道场验.....	1661
卢贲修黄箬道场验.....	1663
樊令言修北帝道场诛狐魅验.....	1664
鲜于甫为解冤修黄箬道场验.....	1665
窦德玄为天符专追求奏章免验.....	1665
马敬宣为妻修黄箬道场验.....	1666
秦万受斗尺欺人罪修黄箬斋验.....	1667
杜鹏举父母修南斗延生醮验.....	1668
卷一百二十二 道教灵验记部.....	1670
衢州东华观监斋隐欺常住验.....	1670
婺州开元观蒙刺史复常住验.....	1670
杭州余杭上清观道流隐欺常住验.....	1671

李赏斫龙州牛心山古观松柏验.....	1672
蜀州新津县平盖化被盗毁伐验.....	1673
嘉州开元观门扉为马栈验.....	1674
成都景云观三将军堂柱础验.....	1674
成都卜肆支机石验.....	1675
成都玉局化洞门石室验.....	1675
汉州金堂县三元观辙迹验.....	1676
玉局化九海神龙验.....	1676
青城绝顶上清宫天池验（六时水验附）.....	1677
葛王贵化丁东水验.....	1677
金堂县昌利化玄元观九井验.....	1678
仙都山阴君洞验.....	1679
嘉州东观尹真人石函验.....	1679
九疑山女仙鲁妙典石盆铁臼验.....	1681
真宗皇帝御制《天童护命妙经序》.....	1681
《太上天童经》灵验录.....	1682

## 序

祀汾阴之岁，臣隶职霜台，作句稽之吏。越明年秋，以鞫狱无状，谪掾于宁海。冬十月，会圣祖天尊降延恩殿，而真宗皇帝亲奉灵仪，躬承宝训，启绵鸿于帝系，濬清发于仙源。诞告万邦，凝休百世。于是天子锐意于至教矣。在先时，尽以秘阁道书、太清宝蕴太清宝蕴：指太清宫唐写本《道藏》。出降于余杭郡，俾知郡故枢密直学士戚纶、漕运使今翰林学士陈尧佐，选道士冲素大师朱益谦、冯德之等，专其修较，俾成藏而进之。然其纲条湮漫，部分参差，与《琼纲》、《玉纬》之目舛谬不同。岁月坐迁，科条未究。适纶等上言，以臣承乏，委属其绩。时故相司徒王钦若总统其事，亦误以臣为可使之。又明年冬，就除臣著作佐郎，俾专其事。臣于时尽得所降到道书，并续取到苏州旧《道藏》经本千余卷，越州、台州旧《道藏》经本亦各千余卷，及朝廷续降到福建等州道书，《明使摩尼经》等，与诸道士依三洞纲条、四部录略，品详科格，商较异同，以铨次之，仅能成藏，都卢四千五百六十五卷，起千字文“天”字为函目，终于“宫”字号，得四百六十六字。且题曰：《大宋天宫宝藏》。距天禧三年春，写录成七藏以进之。臣涉道日浅，丁时幸深，讵期尘土之踪，坐忝神仙之职？蛙跳缺甃，积迷虬蟹之区；蚋泊浮萍，但局醯鸡之覆。虽年栖暮景，而宝重分阴。于是精究三乘，详观四辅，采摭机要，属类于文。探晨

灯虹映之微，综玉佩金珰之说。泥丸、赤子、九宫，爰系于一方；神室、婴儿、百道，皆根于两半。至如三奔三景之妙，九变十化之精，各探其门，互称要妙。刻舟求剑，体貌何殊？待兔守株，旨意宁远。因兹探讨，遂就编联，掇云笈七部之英，略宝蕴诸子之奥，总为百二十卷，事仅万条。习之可以阶云汉之游，览之可以极天人之际。考核类例，尽著指归，上以酬真宗皇帝委遇之恩；次以备皇帝陛下乙夜之览；下以稗文馆校讎之职，外此而往，少畅玄风耳。

臣君房谨序



## 卷一 道德部

### 总叙道德

《老君指归》曰：太上之象，莫高乎道德；其次莫大乎神明；其次莫大乎太和；其次莫崇乎天地；其次莫著乎阴阳；其次莫明乎大圣。夫道德，所以可道而不可原也。神明，所以可存而不可伸也。太和，所以可体而不可化也。天地，所以可行而不可宣也。阴阳，所以可用而不可传也。大圣，所以可观而不可言也。故度之所度者知，而数之所数者少，知之所知者浅，而为之所为者薄。至众之众不可数，而至大之大不可度。微妙穷理，非知之所能测，大成之至，非为之所能得，天地之间祸乱患咎，非事之所能克也。故不道之道，不德之德，政之元也；不名之名，亡功而功，化之根也。是故王者有为而天下有欲，去醇而离厚，清化而为浊。开人耳目，示以声色，养以五味，说以功德，教以仁义，导以礼节，民如寢觉出于冥室，登丘陵而盼八方，览参辰而见日月。故化可言而德可列，功可陈而名可别。是以知放流而邪伪作，道德壅蔽，神明隔绝。百残萌生，太和消竭。天下惶惶迷惑，驰骋是非之境，失其自然之节。情变至化，糅于万物。悴憔黧黑，忧患满腹，不安其生，不乐其俗。丧其天年，皆伤暴虐。是以君臣相顾而营营，父子相念而

恋恋，兄弟相忧而凄凄，民人恐惧而↑双身。↑双身相结，死不旋踵，为患祸也。父子恋恋，兄弟凄凄，昏定晨省，出辞入面，为天伤也。臣见其君，五色无主，疾趋力拜，翕肩促肘，稽首膝行以严其上者，为不相亲也。故可道之道，道德彰而非自然也；可名之名，功名显而非素真也。

《老君指归略例》曰：夫物之所以生，功之所以成，必生乎无形，形由乎无名。无形无名者，万物之宗也。不温不凉，不宫不商，听之不可得而闻，视之不可得而彰，体之不可得而知，味之不可得而尝。故其为物也则混成，为象也则无形，为音也则希声，为味也则无呈。故能为品物之宗主，包通天地，靡使不经也。若温也，则不能凉矣。宫也，则不能商矣。形必有所分，声必有所属。故象而形者，非大象也。音而声者，非大音也。然则四象不形，则大象无以畅；五音不声，则大音无以至。四象形而物无所主焉，则大象畅矣。五音声而心无所适焉，则大音至矣。故执大象则天下往，用大音则风俗移。无形畅，天下虽往，往而不能释也；希声至，风俗虽移，移而不能辩也。是故天生五物，无物为用；圣行五教，不言为化。是以“道可道，非常道；名可名，非常名”也。五物之母，不炎不寒，不柔不刚。五教之母，不皦不昧，不恩不伤。虽古今不同，时移俗易，此不变也。所谓自古及今，其名不去者也。天不以此则物不生，治不以此则功不成。故古今通，终始同。执古可以御今，证今可以知古始，此所谓常者也。无皎昧之状，温凉之象，故知常曰明也。物生功成，莫不由乎此，故以阅众甫。夫奔电之疾，犹不足以一时周；御风之行，犹不足以一息期。善速在不疾，善至在不行。故可道之盛，未足以官天地；有形之极，未足以府万物。是故叹之者不能尽乎斯美，咏之者不能畅乎斯弘。名之不能当，称之不能既。名必有所分，称必有所

由。有分则有不兼，有由则有不尽。不兼则大殊其真，不尽则不可以名。此可演而明也。夫道也者，取乎万物之所由也。玄也者，取乎幽冥之所出也。深也者，取乎探赜而不可究也。大也者，取乎弥纶而不可极也。远也者，取乎缅邈而不可及也。微也者，取乎幽微而不可睹也。然则道玄深大妙远之言，各有其义，未尽其极者也。然弥纶无极，不可名细；微妙无形，不可名大。是以《经》云：字之曰“道”，谓之曰“玄”，而不名也。然则言之者失其常，名之者离其真，为之则窒其性，执之则失其原矣。是以圣人以言为主，则不违其常；不以名为常，则不离其真；不以为为事，则不败其性；不以执为制，则不失其原矣。然则老君之文，欲辩而诤者，则失其旨也；欲名而责者，则违其义也。故其大归也，论太始之原以明自然之性；演幽冥之极以定惑罔之迷。因而不为，损而不施，崇本以息末，守母以存子；贱夫巧术，为在未有，无责于人，必求诸己；此其大要也。而法者尚乎齐同，而形以检之；名者尚乎定真，而言以正之；儒者尚乎全爱，而誉以进之；墨者尚乎俭嗇，而智以立之；杂者尚乎众美，而总以行之。夫形以检物，巧伪必生；名以定物，理恕必失；誉以进物，争尚必起；矫以立物，乖违必作；杂以行物，秽乱必兴。斯皆用其子而弃其母，物失所载，未足守也。然致同涂而异至，合旨而趋乖，而学者惑其所致，迷其所趋。观其齐同则谓之法，睹其定真则谓之真，察其纯爱则谓之儒，鉴其俭嗇则谓之墨，见其不系则谓之杂。随其所鉴而正名焉，顺其所好而执意焉。故使有纷纭愤错之论，殊趋辨析之争，盖由斯矣。又其为文也，举终以证始，本始以尽终。开而弗达，导而弗牵。寻而后既其义，推而后尽其理。善法事始以首其论，明夫会归以终其文。故使同趋而感发于事者，莫不美其兴言之始，因而演焉；异旨而独构者，莫不说其

会归之征，以为证焉。夫涂虽殊必同其归，虑虽百必均其致，而举夫归致以明至理，故使触类而思者，莫不欣其思之所应，以为得其义焉。凡物之所以存，乃反其形；功之所以克，乃反其名。夫存者不以存为存，以其不忘亡也；安者不以安为安，以其不忘危也。故保其存者亡，不忘亡者存；安其位者危，不忘危者安。善力举秋毫，善听闻雷霆，此道之与形反也。安者实安，而曰非安之所安；存者实存，而曰非存之所存；侯王实尊，而曰非尊之所尊，皆理之大者也。名号生乎形状，称谓出乎涉求。名号不虚生，称谓不虚出。故名号则大失其旨，称谓则未尽其极。是以谓玄，则玄之又玄；称道，则域中有四大也。

《韩非子·主道篇》曰：道者，万物之始（物从道生，故曰始），是非之纪也（是非因道彰，故曰纪），是以明君守始以知万物之源，治纪以知善败之端。故虚静以待令，臣将自表异（君见其志，臣用其意以称之）。故曰：去好去恶，臣乃见素；去贤去智，臣乃自备。故有智而不以虑，使万物知其处；有行而不以贤，观臣下之所因；有勇而不以怒，使群臣尽其武。是故去智而有明，去贤而有功，去勇而有强。群臣守职，百官有常，因能而使之，是谓习常。故曰：寂乎其无位而处，寥乎莫得其所名。明君无为于上，群臣悚惧于下。明君之道，使智者尽其虑，而君因以断事，故君不穷于智；贤者敕其材，君因而任之，故君不穷于能。有功则君有其贤，有过则臣任其罪，故君不穷于名。是故不贤而为贤者师，不智而为智者正。臣有其劳，君有其成功，此之谓贤主之经也。

《淮南·洪烈》曰：“夫道者覆天载地，廓四方，拆八极；高不可际，深不可测；包裹天地，禀授无形；原流泉淙，冲而徐盈；混混汨汨，浊而徐清。故植之而塞于天地，横之而弥于四海，施之无穷而无所朝夕；舒之幌于六合，卷之不盈于一

握。约而能张，幽而能明，弱而能强，柔而能刚；横四维而含阴阳，宇宙而章三光；甚淖而淖，甚纤而微。山以之高，渊以之深；兽以之走，鸟以之飞；日月以之明，星辰以之行；麟以之游，凤以之翔。

太古二皇，得道之柄，立于中央；神与化游，以抚四方。是故能天运地滞，轮转而无废，水流而不止，与万物终始。风兴云蒸，事无不应；雷声雨降，并应无穷；鬼出电入，龙兴鸾集；钧旋毂转，周而复匝；已雕已琢，还反于朴。无为为之而合于道，无为言之而通乎德；恬愉无矜而得于和，有万不同而便于性；神托于秋毫之末，而大与宇宙之总。其德优天地而合阴阳，节四时而调五行；句俞覆育，万物群生；润于草木，浸于金石；禽兽硕大，毫毛润泽；羽翼奋也，角觝生也，兽胎不殍，鸟卵不殍；父无丧子之忧，兄无哭弟之哀；童子不孤，妇人不孀，虹姿不出，贼星不行；含德之所致。

夫太上之道，生万物而不有，成化象而弗宰。跂行喙息，蛄飞蠕动，待而后生，莫之知德；待之后死，莫之能怨。得以利者不能誉，用而败者不能非；收聚畜积而不加富，布施稟授而不益贫；周旋而不可究，纤微而不可勤；累之而不高，堕之而不平；益之而不众，损之而不寡；斫之而不薄，杀之而不残；凿之而不深，填之而不浅。惚兮恍兮，不可为象兮；恍兮惚兮，用不屈兮；幽兮冥兮，应无形兮；邃兮洞兮，不虚动兮；与柔刚卷舒兮；与阴阳俯仰兮。葛仙公《五千文经序》曰：老君体自然而然，生乎太无之先，起乎无因，经历天地终始，不可称载；穷乎无穷，极乎无极也。与大道而轮化，为天地而立根。布气于十方，抱道德之至纯。浩浩荡荡，不可名也。焕乎其有文章，巍乎其有成功，渊乎其不可量，堂堂乎为神明之宗。三光持以朗照，天地稟之得生，乾坤运以吐精。高而无民，贵

而无位，覆载无穷。是故八方诸天，普弘大道。开辟已前，复下为国师，代代不休，人莫能知之。匠成万物而不言我，为玄之德也。故众圣所共宗。道尊德贵，夫莫之爵而常自然，惟老子乎！周时复托神李母，剖左腋而生，生即皓然，号曰“老子”。老子之号，因玄而出，在天地之先，无衰老之期，故曰老子。世人谓老子当始于周代。老子之号，始于无数之劫，窈窈冥冥，眇邈久远矣。周室世衰，大道不行，西游天下。关令尹喜曰：“大道将隐乎，愿为我著书。”于是作《道德》二篇五千文上下经焉。

《老君戒文》云：老君生玄洪圣堂。尔时未有天地日月，手无所攀，足无所蹠，悬身而处，不堕不落；身著三光之衣，照于虚芒，如今日月之光也。%

《混元皇帝圣纪序》曰：原夫大道玄寂，理极无为；上德冲虚，义该众妙。是以精凝真一，非假物以称生；形结九空，不待有而成体。含神太混，毓粹幽原，恍惚帝先，希微至极。故能真融金阙，教逸不言；惠涣玉京，慈光有物。二仪持以覆载，万品赖以滋荣。神冠阴阳，功成造化。先天地而独立，后尘劫而无昧。

唐开元皇帝《道德经序》曰：昔在元圣，强著玄言。权舆真宗，启迪来裔。遗文诚在，精义颇乖。撮其指归，虽蜀严而犹病；摘其章句，自河公而或略。其余浸微，固不足数。则我玄元妙旨，岂其将坠？朕诚寡薄，常感斯文，猥承有后之庆，恐失无为之理。每因清宴，辄叩玄关；随所意得，遂为笺注。岂成一家之说，但备遗阙之文。今兹绝笔，是询于众公卿臣庶、道释二门，有能起予类于卜商，针疾同于左氏。渴于纳善，朕所虚怀；苟副斯言，必加厚赏。且如谏臣，自圣幸非此流。悬市相矜，亦云小道。既其不讳，咸可直言。勿为来者所嗤，以

重朕之不德。

唐吴筠《玄纲论·道篇》曰：道者何也？虚无之系，造化之根，神明之本，天地之元。其大无外，其微无内，浩旷无端，杳冥无际。至幽靡察而大明垂光，至静无心而品物有方。混漠无形，寂寥无声；万象以之生，五行以之成。生者无极，成者有亏。生生成成，今古不移。此之谓道也。德者何也？天地所禀，阴阳所资；经以五行，纬以四时；牧之以君，训之以师；幽明动植，咸畅其宜；泽流无穷，群生不知谢其功；惠加无极，百姓不知赖其力。此之谓德也。然则通而生之谓之道，道固无名焉；畜而成之谓之德，德固无称焉。尝试论之：天地人物、仙灵鬼神，非道无以生，非德无以成。生者不知其始，成者不见其终。探奥索隐，孰窥其宗？入有之末，出无之先。莫究其朕，谓之自然。自然者，道德之常，天地之纲也。又曰：道德者，天地之祖；天地者，万物之父；帝王者，三才之主。然则道德、天地、帝王一也，而有今古浇淳之异，尧桀理乱之殊者何哉？夫道德无兴衰，人伦有否泰，古今无变易，情性有推迁。故运将泰乎则至阳真精降而为主，贤良辅而奸邪伏矣；时将否乎则太阴纯精升而为主，奸邪弼而贤良隐矣。天地之道，阴阳有数，故理乱之殊也。所以古淳而今浇者，亦犹人幼愚而长慧也。婴儿未孩，则上古之含纯粹也；渐有所辩，则中古之尚仁义也；成童可学，则下古之崇礼智也；壮齿多欲，则季世之竞浮伪也。变化之理，世俗之宜，故有浇淳之异也。核其所以，原其所由，子以习教而性移，人以随时而朴散。虽然，父不可不教于子，君不可不理于人。教子在于义方，理人在于道德。义方失则师友不可训也；道德丧，则礼乐不能理也。虽加以刑罚，益以鞭楚，难制于奸人贼子矣。是以示童儿以无诳，则保于忠信；化时俗以纯素，则安于天和。故非执道德以化人者，

未闻其至理也。

唐陆希声《道德经传序》曰：大道隐，世教衰，天下方大乱。当是时，天必生圣人。圣人忧斯民之不底于治，而扶衰救乱之术作，周之末世其几矣。于是仲尼阐三代之文以扶其衰，老氏据三皇之质以救其乱，其揆一也。盖仲尼之术兴于文，文以治情；老氏之术本于质，质以复性。性情之极，圣人所不能异；文质之变，万世所不能一也。《易》曰：显诸仁。以文为教之谓也。文之为教，其事彰，故坦然明白。坦然明白，则雅言者详矣。《易》曰：藏诸用。以质为教之谓也。质之为教，其理微，故深不可识。深不可识，则妄作者众矣。夫惟老氏之术，道以为体，名以为用，无为无不为，而格于皇极者也。杨朱宗老氏之体，失于不及，以至于贵身贱物。庄周术老氏之用，失于太过，故务欲绝圣弃智。申、韩失老氏之名，而弊于苛缴刻急。王、何失老氏之道，而流于虚无放诞。此六子者，皆老氏之罪人也。而世因谓老氏之指，其归不合于仲尼。故訾其名，则曰槌提仁义，绝灭礼学；病其道，则曰独任清虚，不可以为治。于戏！世之迷，其来远矣！是使老氏受诬于千载，道德不行于当世，良有以也。且老氏本原天地之始，历陈古今之变，先明道德，次说仁义，下陈礼学之失，刑政之烦，言其驯致而然耳。其秉要执本，在乎情性之极。故其道，始于身心，形于家国，终于天下，如此其备也，而惑者尚多云云，岂不谓厚诬哉！昔伏羲氏画八卦，象万物，穷性命之理，顺道德之和。老氏亦先天地，本阴阳，推性命之极，原道德之奥。此与伏羲同其原也。文王观太《易》九六之动，贵刚尚变，而要之以中。老氏亦察太《易》七八之正，致柔守静，而统织以大。此与文王通其宗也。孔子祖述尧舜，宪章文武，导斯民以仁义之教。老氏亦拟议伏羲，弥纶黄帝，冒天下以道德之化，此与孔子合



其权也。此三君子者，圣人之极也。老氏皆变而通之，反而合之，研至变之机，探至精之归，斯可谓至神者矣。而王弼以为圣人与道合体，老氏未能体道，故阮籍谓之上贤亚圣之人，盖同于辅嗣。岂以老氏经世之迹未足充其所言耶？斯不然也。于戏！圣人之在世也，有有迹，有无迹。故道之不行也，或危身历聘，以天下为其忧；或藏名飞遁，示世故不能累。有迹无迹，殊途同归。斯实道义之门，非徒相反而已。然则仲尼之所以出，老氏之所以处；老氏之所以默，仲尼之所以语，盖屈伸隐显之极也。二子安能识之哉？司马迁统序众家，以道德为首，可谓知本末矣。班固作《古今人表》，乃诎老氏于第三品。虽其名可诎，而道可贬乎哉？于戏！老氏之术，见弃于当代久矣，斯数子者之由也。且仲尼亲见老氏，叹其道曰“犹龙乎”。从之问礼。诚无间然，著在纪传，后世不能探其意，是以异端之说纷然，盖迷之者不穷其源，故非之者不尽其致。噫！斯传之不作，则老氏之旨或几乎息矣。今故极其致，显其微，使昭昭然与群圣人意相合。有能体其道，用其名，执古以御今，致理如反掌耳。自昔言老氏术者，独太史公近之；为治少得其道，唯汉文耳。其他皮傅诡说，皆不足取。

## 卷二 混元混洞开辟劫运部

### 混元

混元者，记事于混沌之前，元气之始也。元气未形，寂寥何有？至精感激而真一生焉，元气运行而天地立焉，造化施张而万物用焉。混沌者，厥中惟虚，厥外惟无，浩浩荡荡，不可名也。广大之旨，虽典册未穷，秘妙之基，而玄经可见。古今之言天者一十八家，爰考否臧，互有得失。则盖混天仪之述，有其言而亡其法矣。至如蒙庄《逍遥》之篇，王仲任《论衡》之说，《山海经》考其理舍，列御寇书其清浊，汉武帝黄道，张衡铜仪，周髀之书，宣夜之学，听天安天之旨，晁崇、姚信之流，义趣不同，师资各异。所以虞喜、虞耸、刘焯、葛洪，宋有承天，梁有祖 恒，唐朝李淳风，皆有述作。庐江句股之术，释氏俱舍之谭，或托寓词，或申浮说。若夫定两规之分次，明二道之运行，经纬不差，上下无爽者，惟浑天法耳。葛稚川言浑天之状，如鸡子卵中之黄。地乘天而中居，天乘气而外运，三百六十五度四分度之一，半出地上，半绕地下。二十八舍半隐半见。此乃符上清之奥旨，契玄象之明验矣。

## 空洞

道君曰：元气于眇莽之内，幽冥之外，生乎空洞。空洞之内，生乎太无。太无变而三气明焉。三气混沌，生乎太虚而立洞，因洞而立无，因无而生有，因有而立空。空无之化，虚生自然。上气曰始，中气曰元，下气曰玄。玄气所生出乎空，元气所生出乎洞，始气所生出乎无。故一生二，二生三，三者化生以至九玄，从九反一，乃入道真。气清成天，滓凝成地，中气为和，以成于人。三气分判，万化禀生；日月列照，五宿焕明。上三天生于三气之清，处于无上之上，极乎无极也。

## 混沌

《太始经》云：昔二仪未分之时，号曰洪源。溟滓濛鸿，如鸡子状，名曰混沌玄黄。无光无象，无音无声，无宗无祖，幽幽冥冥。其中有精，其精甚真。弥纶无外，湛湛空成。于幽原之中而生一气焉。化生之后九十九万亿九十九万岁，乃化生三气。各相去九十九万亿九十九万岁，共生无上也；自无上生后九十九万亿九十九万岁，乃生中二气也，中三气也；中二气、中三气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共成玄老也；自玄老生后九十九万亿九十九万岁，乃化生下三气也；下三

气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共成太上也。《灵宝经》曰：一气分为玄、元、始三气，而理三宝。三宝皆三气之尊神，号生三气。三号合生九气。九气出乎太空之先，隐乎空洞之中。无光无象，无形无名，无色无绪，无音无声。导运御世，开辟玄通，三色混沌，乍存乍亡。运推数极，三气开光。气清高澄，积阳成天；气结凝滓，积滞成地。九气列正，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受成生。天地万化，自非三气所育，九气所导，莫能生也。三气为天地之尊，九气为万物之根。故三合成德，天地之极也。

### 混洞

《太真科》云：混洞之前，道气未显。于恍莽之中，有无形象天尊，谓无象可察也。后经一劫，乃有无名天尊，谓有质可睹，不可名也。又经一劫，乃生元始天尊，谓有名有质，为万物之初始也。极道之宗元，挺生乎自然。寿无亿之数，不始不终，永存绵绵。消则为气，息则为人。不无不有，非色非空。居上境为万天之元，居中境为万化之根，居下境为万帝之尊。无名可宗，强名曰“道”。

### 劫运

《上清三天正法经》云：天圆十二纲，地方十二纪。天纲

运关，三百六十轮为一周；地纪推机，三百三十轮为一度。天运三千六百周为阳勃，地转三千三百度为阴蚀。天气极于太阴，地气穷于太阳。故阳激则勃，阴否则蚀，阴阳勃蚀，天地气反。天地气反，乃谓之小劫。小劫交则万帝易位，九气改度，日月缩运。陆地通于九泉，水母决于五河，大鸟屯于龙门，五帝受会于玄都。当此之时，凶秽灭种，善民存焉。天运九千九百周为阳蚀，地转九千三百度为阴勃。阳蚀则气穷于太阴，阴勃则气极于太阳。故阴否则蚀，阳激则勃。阴阳蚀勃，则天地改易。天地改易，谓之大劫。大劫交则天地翻覆，河海涌决，人沦山没，金玉化消，六合冥一。白尸飘于无涯，孤爽悲于洪波，大鸟扫秽于灵岳，水母受事于九河，五龙吐气于北元，天马玄辔以徒魔，赤锁伏精于辰门，岁星灭王于金罗，日月昏翳于三豪之馆，五气停晕于九岭之巅，龙王鼓华于东井之上，河侯受对于九海之下，圣君显驾于明霞之馆，五帝科简于善恶。当此之时，万恶绝种，鬼魔灭迹，八荒四极，万不遗一。至于天地之会，自非高上三天所不能褰，自无青篆白简所不能脱也。

又云：天关在天西北之角，与斗星相御。北斗九星，则天关之纲柄，玉晨之华盖，梵行九天十二辰之气。斗纲运关，则九天并转。天有四候之门，九天合三十六候。一昼一夜，则斗纲运关，经一候之门。昼夜三十六日，则经三十六候都竟。则是九天一轮，三百六十轮为九天一周。九天一周，则六天之气皆还上三天。三天改运促会，以催其度。三千六百周则为小劫。小劫交则九气改正，万帝易位，民亡鬼灭，善好清治，六合宁一。九千九百周为大劫终。大劫终则九天数尽，六天运穷。运穷则气激于三五。群妖凶横，因时而行，放毒灭民。此皆运穷数极，乘机而鼓，以至于此也。地机在东南之分，九泉之下。则九河之口，吐翕灵机，上通天源之淘注，傍吞九洞之渊澳，

以十二时纪推四会之水，东回一昼一夜，则气盈并凑。九河之机昼夜三十三日，机转西北，回东北，张西南，翕东南。张则溢，翕则亏。周于四会，天源下流通波，是为一转。三百三十转为一度。一度则水母促会于龙王，河侯受封于三天。三千三百度谓之阴否。阴否则蚀。阴蚀则水涌河决，山沦地没。九千三百度为大劫之终，阴运之极。当此之时，九泉涌于洪波，水母鼓于龙门，山海冥一，六合坦然。此阴运之充，地气之激也。

又云：赤精开皇元年七月七日丙午中时，登琳琅之都，月之上馆，受符于元始天王，开金阳玉匮，玄和玉女口命出皇民录谱。自开皇已前，三象明曜以来，至于开皇，经累亿之劫，天地成败，非可称载。九天丈人于开皇时，\*-定元元，校推劫运，白简青录，得道人名记皇民谱录，数极唐尧。是为小劫一交。其中损益，有二十四万人应为得者。自承唐之后，数四十六丁亥，前后中间甲申之年，乃小劫之会，人名应定。在此之际，阳九百六，二气离合，吉凶交会。得过者特为免哉。然甲申之后，其中壬辰之初，数有九周，至庚子之年，吉凶候见，其道审明。当有赤星见于东方，白彗干于月门，袄子续党于虫口，乱群填尸于越川。人啖其种，万里绝烟。强臣称霸，弱主蒙尘。其后当有五灵讳瑞，义合本根。龙精之后，续族之君，平灭四虏，应符者隆，龙虎之世，三六乃清。民无横命，柞无危患。自承唐之后四十六丁亥，是三劫之周。又从数五十五丁亥至壬辰、癸巳是也，则是大劫之周。天翻地覆，金玉化消，人沦山没，六合冥一。天地之改运，非真所如何，惟高上三天，白简青策，乃得晏鸿翩而腾翔，飞景霄而盼目耳。此玄和玉女口命，金阳玉匮论天地之成败、吉凶之兆也。

《上清八景飞经》云：大劫之周，三道亏盈，二气离合，理物有期。承唐之世，阳九放灾，剪除凶勃，搜采上真也。

《老君戒文》云：西向流沙中无量国，有巨石，高二百丈，周旋一千五百里。巨石北则有芥子城。壁方四十里，四面石坛高二十丈。飞仙一岁送一芥子著此城中，以衣拂巨石，令消与平地无别。芥子城令满中芥子，则时运周劫，世转一阶也。《灵宝斋戒威仪经诀》下云：石如昆山，芥子满四十里。中天人罗衣百年一度，拂尽此石；取芥子一枚，譬如一劫之终。若是之久，谁当悟斯者也？

又《灵宝天地运度经》云：灵宝自然运度，有大阳九、大百六也；小阳九、小百六也。三千三百年为小阳九、小百六也。九千九百年为大阳九，大百六也。夫天厄谓之阳九也，地亏谓之百六也。至金天氏之后甲申之岁，是其天地运度，否泰所终，阳九百六会。至时道德方明，凶丑顿肆，圣君受任于壬辰之年也。

### 太上老君开天经

盖闻未有天地之间，太清之外，不可称计。虚无之里，寂寞无表。无天无地，无阴无阳；无日无月，无晶无光；无东无西，无青无黄；无南无北，无柔无刚；无覆无载，无坏无藏；无贤无圣，无忠无良；无去无来，无生无亡；无前无后，无圆无方。百亿变化，浩浩荡荡。无形无象，自然空玄。穷之难极，无量无边；无高无下，无等无偏；无左无右，高下自然。唯吾老君，犹处空玄寂寥之外，玄虚之中。视之不见，听之不闻。若言有，不见其形；若言无，万物从之而生。八表之外，渐渐始分，下成微妙，以为世界，而有洪元。洪元之时，亦未有天

地，虚空未分，清浊未判。玄虚寂寥之里，洪元一治，至于万劫。洪元既判，而有混元。混元一治，万劫至于百成。百成亦八十一万年而有太初。太初之时，老君从虚空而下，为太初之师。口吐《开天经》一部，四十八万卷。一卷有四十八万字。一字辟方一百里，以教太初。太初始分别天地清浊，剖判溟滓鸿蒙，置立形象，安竖南北，制正东西，开暗显明，光格四维。上下、内外、表里、长短、粗细、雌雄、白黑、大小、尊卑，常如夜行。太初得此老君开天之经，清浊已分。清气上升为天，浊气下沉为地。三纲既分，从此始有天地，犹未有日月。天欲化物，无方可变，便乃置生日月在其中，下照暗冥。太初时虽有日月，未有人民。渐始初生，上取天精，下取地精，中间和合以成一神，名曰人也。天地既空，三分始有，生生之类，无形之象，各受一气而生。或有朴气而生者，山石是也；动气而生者，飞走是也；精气而生者，人是也。万物之中，人最为贵。太初一治，至于万劫。人民之初，故曰太初。是时唯有天地、日月、人民，都未有识名。太初既没，而有太始。太始之时，老君下为师，口吐《太始经》一部，教其太始。置立天下九十一劫。九十一劫者至于百成。百成者亦八十一万年。太始者，万物之始也，故曰太始。流转成练素象于中而见气，实自变得成阴阳。太始既没而有太素。太素之时，老君下降为师，教示太素，以法天下。八十一劫，至于百成，亦八十一万年。太素者，万物之素，故曰太素。太初已下，太素已来，天生甘露，地生醴泉，人民食之，乃得长生。死不知葬埋，弃尸于远野，名曰上古。太素既没而有混沌。混沌之时，始有山川。老君下为师，教示混沌，以治天下。七十二劫，混沌流行，成其山川，五岳四渎，高下尊卑，乃其始起也。混沌以来始有识名。混沌号生二子，大者胡臣，小者胡灵。胡臣死为山岳神，胡灵死为



水神，因即名为五岳四渎，山川高下。混沌既没而有九宫。九宫之时，老君下为师，口吐《乾坤经》一部，结其九宫，识名天地。清气为天，浊气为地。从九宫以来，天是阳，地是阴。阳者刚强，远视难睹，在天成象，日月星辰是也；在地成形，五岳四渎是也；在人成生，心肝五脏是也。分别名之有异，总而名之是一也。取三刚名也。九宫没后而有元皇。元皇之时，老君下为师，口吐《元皇经》一部，教元皇治于天下，始有皇化，通流后代，以渐成之。元皇之后次有太上皇。太上皇之时，老君下为师，教示太上皇以治天下。太上皇之后而有地皇。地皇之后而有人皇。人皇之后而有尊庐，尊庐之后而有句娄，句娄之后而有赫胥。赫胥之后而有太连。太连以前，混沌以来，名曰中古。尔时天生五\*)，地生五味，人民食之，乃得延年。太连之后而有伏羲，生于一源之始，继天而生；调习阴阳，以定八卦。自伏羲以前，五经不载，书文不达。唯有老君，从天虚空，无亿河沙在太清之外，不可称计。大道既分天地以来，开置皇化，转佐天帝，通流后世，以自记之。伏羲之时，老君下为师，号曰无化子，一名郁华子，教示伏羲推旧法，演阴阳，正八方，定八卦，作《元阳经》以教伏羲。伏羲已前，未有姓字，直有其名。尔时人民朴直，未有五谷。伏羲方教以张罗网，捕禽兽而食之。皆衣毛茹血，腥臊臭秽。男女无别，不相嫉妒。冬则穴处，夏则巢居。伏羲没后而有女娲，女娲没后而有神农。神农之时，老君下为师，号曰大成子，作《太微经》，教神农尝百草，得五谷，与人民播植，遂食之，以代禽兽之命也。神农没后而有燧人。燧人时，老君下为师，教示燧人钻木出火，续日之光，变生为熟，以除腥臊。燧人没后而有祝融。祝融之时，老君下为师，号广寿子，教修三纲，齐七政。三皇修道，人皆不病。作《按摩通精经》。次有高原、高阳、高辛三世，

次有仓颉、仲说，教书学文。三皇之后而有轩辕黄帝。黄帝之时，老君下为师，号曰力牧子，消息阴阳，作《道戒经》、《道康经》。黄帝以来，始有君臣父子，尊卑以别，贵贱有殊。黄帝之后，次有少昊。少昊之时，老君下为师，号曰随应子，作《玄藏经》。尔时升平，嘉禾生，醴泉出，麒麟至，凤凰来，景星照。少昊之后，次有帝瑞珎。瑞珎之时，老君下为师，号曰元阳子，作《微言经》。瑞珎没后而有帝啍。帝啍之后而有帝尧。帝尧之时，老君下为师，号曰务成子，作《政事经》。帝尧之后而有帝舜。帝舜之时，老君下为师，号曰尹寿子，作《太清经》。帝舜之后而有夏禹。夏禹之时，老君下为师，号曰直宁子，作《德诚经》。夏禹之后而有殷汤，殷汤之后而至周初。周初时，老君下为师，号曰郭叔子，作《赤精经》。老君曰：秘化之初，吾体虚无，经历无穷，千变万化，先下为师。三皇以前，为神化之本，吾后化三皇五帝，为师并及三王，皆劝令修善。天一、地二、人三、时四、音五、律六、星七、风八、州九，合有四十五。子、午、卯、酉、中央，各有九\*-。戴九履一，左三右七，二四为肩，六八为足，中有五龟，体成八卦。水流归未，分八至丑；叶落归本，分六至亥；金刚本强，分二至未，土王四季，分四至巳。坎怨独走，离明数四；艮八高掺，三从坤位；乾当城坤，与一相逐；巽吁天门，从乾贷一；震雷动泽，从兑所减；辰午酉亥，自刑之卦，各内其八卦以成，余有九\*-成易字。老君即演行期术曰：行期之法自有术，先举坎就坤二，西南王母东青龙，习气发裔地户间，巽上四期入中宫，\*-出中宫升于乾，西之大泽华山巅，东北之上寅艮间，南之炎火离霍山，幡然变化北入玄。

### 卷三 道教本始部

#### 道教序

上古无教，教自三皇五帝以来有矣。教者，告也。有言、有理、有义、有授、有传。言则宣，教则告。因言而悟教明理，理明则忘言。既有能教、所教，必在能师、所师。是有自然之教、神明之教。此二教，无师资也。神明之教，义说则有，据理则无。正真之教、三皇五帝返俗之教、训世之教，宜分权实。且斯五教，启乎一真。自然教者，元气之前，淳朴未散，杳冥寂尔，颢旷空洞，无师说法，无资受传，无终无始，无义无言，元气得之而变化，神明得之而造作，天地得之而覆载，日月得之而照临，上古之君得之而无为。无为，教之化也。神明之教者，朴散为神明。夫器莫大于天地，权莫大于神明。混元气而周运，叶至道而裁成，整圆清而立天，制方浊而为地，溥灵通而化世界，蒸和气而成人伦。阴阳莫测其端倪，神鬼不知其情状。正真之教者，无上虚皇为师，元始天尊传授。洎乎玄粹，秘于九天，正化敷于代圣，天上则天尊演化于三清众天，大弘真乘，开导仙阶；人间则伏羲受图，轩辕受符，高辛受天经，夏禹受洛书。四圣禀其神灵，五老现于河渚。故有三坟五典，常道之教也。返俗之教者，玄元大圣皇帝以理国理家。灵文真

诀，大布人间；金简玉章，广弘天上。欲令天上天下，还淳返朴，契皇风也。训世之教者，夫子伤道德衰丧，阐仁义之道，化乎时俗，将礼智而救乱，则淳厚之风远矣。噫，立教者，圣人救世愍物之心也。悟教则同圣人心，同圣人心则权实双忘，言诠俱泯，方契不言之理，意象固无存焉。

### 道教所起

寻道家经诰，起自三元；从本降迹，成于五德；以三就五，乃成八会，其八会之字，妙气所成，八角垂芒，凝空云篆。太真按笔，玉妃拂筵；黄金为书，白玉为简；秘于诸天之上，藏于七宝玄台，有道即见，无道即隐。盖是自然天书，非关仓颉所作。今传《灵宝经》者，则是天真皇人于峨嵋山授于轩辕黄帝，又天真皇人授帝谥于牧德之台，夏禹感降于鍾山，阖闾窃窥于句曲。其后有葛孝先之类，郑思远之徒，师资相承，蝉联不绝。其老君《道德经》，乃是大乘部摄正当三辅之经，未入三洞之教。今人学多浮浅，唯诵道德，不识真经，即谓道教起自庄周，始乎柱下。眷言弱丧，深所哀哉！蠡酌管窥，一至于此，何者？寻老君生于殷末，长自周初。托神玄妙玉女玄妙，处胎八十一载，逍遥李树之下，剖左腋而生。生即皓然，号曰老子。指树为氏，因姓李焉。其相也，美眉黄色，日月角悬，蹈五把十，耳有三门，鼻有双柱。周德下衰，世道交丧。平王三十三年十二月二十五日去生西度，青牛薄\*2，紫气浮关，遂付《道德真经》取关令尹喜。由此明道家经诰；非唯五千。元始天尊实殊老君，岂唯年代差异，亦有位号不同。若为名三界

：一者欲界。有六天。即从《度人经》太皇黄曾天，数满六天是欲界。人寿命万岁。人在世生，不犯身业杀盗邪淫之罪，来生即登此天之中。无六欲染著，故生此天。二者色界，有十八天。即以次取之。其天人寿亿万岁。若一生之中不犯身业贪嗔之罪，得生此天。三者无色界天。其中人寿命亿劫岁。若人一生之中不恶口两舌，妄言绮语，当来过往，得居此天。其中善男子、善女人，功行满足，堪上四天者，王母迎之，登上四天。其三界太虚无上常融天、太释玉隆腾胜天、龙变梵度天、太极平育贾奕天，此四天名种民天。即三界之上，三灾所不及。四种民天上有三清境。三清之上即是大罗天。元始天尊居其中，施化敷教。

### 道教三洞宗元

原夫道家由肇，起自无先。垂迹应感，生乎妙一。从乎妙一，分为三元。又从三元变成三气，又从三气变生三才。三才既滋，万物斯备。其三元者，第一混沌太无元，第二赤混太无元，第三冥寂玄通元。从混沌太无元化生天宝君；从赤混太无元化生灵宝君；从冥寂玄通元化生神宝君。大洞之迹，别出为化主，治在三清境。其三清境者，玉清、上清、太清是也。亦名三天。其三天者，清微天、禹馀天、大赤天是也。天宝君治在玉清境，即清微天也。其气始青。灵宝君治在上清境，即禹馀天也。其气元黄。神宝君治在太清境，即大赤天也。其气玄白。故《九天生神章经》云：此三号虽殊，本同一也。此三君各为教主，即是三洞之尊神也。其三洞者，谓洞真、洞玄、洞

神是也。天宝君说十二部经为洞真教主；灵宝君说十二部经为洞玄教主；神宝君说十二部经为洞神教主。故三洞合成三十六部尊经。第一洞真为大乘，第二洞玄为中乘，第三洞神为小乘。从三洞总成七部者，洞真、洞玄、洞神，太玄、太平、太清为辅经。太玄辅洞真，太平辅洞玄，太清辅洞神。三辅合成三十六部，正一盟威通贯总成七部，故曰三洞尊文、七部玄教。又从七部\*\*开三十六部。其三十六部者，第一本文，第二神符，第三玉诀，第四灵图，第五谱录，第六戒律，第七威仪，第八方法，第九众术，第十传记，第十一赞诵，第十二表奏，右三洞各十二部，合成三十六部。其三气者，玄、元、始三气也。始气青，在清微天；元气黄，在禹余天；玄气白，在大赤天。故云玄、元、始三气也。又从玄、元、始变生阴、阳、和。又从阴、阳、和变生天、地、人。故《道德经》云：道生一，一生二，二生三，三生万物。自玄都玉京已下，合有三十六天。二十八天是三界内，八天是三界外。其三界内者，欲界、色界、无色界。从下六天为欲界，次十八天为色界，次四天为无色界，三界合二十八天。其三界胜境，身相端严。从欲界天已上，人寿命长远。皆以黄金荐地，白玉为阶，珠玉珍宝，自然而有。虽复欢乐，并不免生死。其次三界，上四天名为种民天，亦名圣弟子天，亦名四梵天。此天人断生死，三灾之所不能及。其次即至三境。境别有左、右、中三宫；宫别有仙王、仙公、仙卿、仙伯、仙大夫，别有一太上老君天师。太清境有九仙，上清境有九真，玉清境有九圣，三九二十七位也。其九仙者，第一上仙，二高仙，三大仙，四玄仙，五天仙，六真仙，七神仙，八灵仙，九至仙。真、圣二境，其号次第亦以上、高、太、玄、天、真、神、灵、至而为次第。最上一天名曰大罗，在玄都玉京之上。紫微金阙，七宝骞树，麒麟、师子化生其中，三世天

尊治在其内。三界二十八天，其次四天，其次三境，最上大罗，合三十六天，总是三尊所统。故《经》云：三界之上，眇眇大罗；上无色根，云层峨峨；唯有元始，浩劫之家。三代天尊者，过去元始天尊，见在太上玉皇天尊，未来金阙玉晨天尊。然太上即是元始天尊弟子。从上皇半劫以来，元始天尊禅位。三代天尊亦有十号：第一曰自然，二曰无极，三曰大道，四曰至真，五曰太上，六曰道君，七曰高皇，八曰天尊，九曰玉帝，十曰陛下。

### 左乙混沌东蒙录

东海青华小童曰：余忝植昔因旷劫贻果，曩辰恭承太上嘉命，试守青华之宫。紫云盖上，日月映傍。众仙玉女，妙行真人，侍卫左右，安乐自然。命登不死，位毗上君。统摄学生之人，奉迎太平后圣，宫内东殿，金房玉格，有宝经三百卷，玉诀九千篇。无数文诰，弥劫不穷，妙理要方，备在此内。此内之要，《左乙》为端；箴职所尝，常用欣欢，愿济一切，同归道源。群生垢滞，谅难拯度。太上大慈，敕余严密，随运接引，导诱勿休。念兹在心，不敢暂替。既正主学仙簿录，领受为真之人，誓志宣通，开奖成美。天宝禁重，不得轻传，传之必是其人。先启告太上，须有瑞应，乃得施行。三百宝轴，《左乙》在前。思以广救，未遇其人，学者虽多，会真者少。出之惧招泄宝之灾，闭之虑延绝道之咎。积感淹时，斋思累岁。上相青童君共寻宝经题目，“左乙东蒙之录”又名“三天不死之章”、又名“智慧长生妙诀”、又名“上圣接生宝篇”、又名“源

洞续善玉历”、又名“雌一混沌真文”。中三品总名簿录。检其上品，名“不死之录”，又名“紫字青文”，又名“青录紫章”，又名“紫书录文”，又名“玉简青符”。次有中品，名“长生之策”、又名“黄策白简”、又名“玉牒金篇”、又名“玉书金字”、又名“金文玉符”。次有下品，名“死籍之录”、一名“丹章玄牒”、一名“黑简朱文”、一名“赤目石记”、一名“勒退幽符”。知下品录名，得进入中品；知中品录名，即升上品。知识名题尚能进品，况乃解了修行者乎？

### 灵宝略纪

述曰：经法元起量世，所谓与虚空齐量，信不可计。劫劫出化，非所思议。过去有劫，名曰龙汉。爰生圣人，号曰梵气天尊。出世以《灵宝》教化，度人无量。其法光显大千之界。龙汉一运，经九万九千九百九十九劫，气运终极，天沦地崩，四海冥合，乾坤破坏，无复光明。经一亿劫，天地乃开，劫名赤明。有大圣出世，号曰元始天尊。以《灵宝》教化。其法兴显，具如上说。赤明经二劫，天地又坏，无复光明。具更五劫，天地乃开。太上大道君以开皇元年托胎于西方绿那玉国，寄孕于洪氏之胞，凝神琼胎之府三千七百年，降诞于其国郁察山浮罗之岳，丹玄之阿侧。名曰器度，字上开元。及其长，乃启悟道真，期心高道。坐于枯桑之下，精思百日，而元始天尊下降，授道君灵宝大乘之法十部妙经。元始时仍住其国长乐舍中，普为时俗人天开畅大法。是时得道之人，尘沙非譬。元始乃与道君游履十方，宣布法缘。既毕，然后以法委付道君，则赐道君



太上之号。道君即为广宣经策，传乎万世。尔时十方大法布满，唯宛利城境法音未周，而此土众生与法有缘。在昔帝尝时，太上遣三天真皇赍灵宝五篇真文以授帝尝，奉受供养，弥其年稔，法策传乎世。帝尝将仙，乃封之于锺山。锺山在西北弱水之外，山高万五千里。至夏禹登位，乃登名山巡狩，度弱水，登锺山，遂得帝尝所封灵宝真文。于是奉持出世，依法修行。禹唯自修而已，不传于世，故禹得大神仙力，能凿龙门，通四渎。功毕，川途治导，天下又安。乃托尸见死，其实非死也。故智者美其迹，真人知其灵。禹未仙之前，乃复封之，镇乎北岳及包山洞庭之室。距吴王阖闾时，王出游包山，见一人在中。问曰：“汝是何人？”答曰：“我姓山，名隐居。”阖闾曰：“子在山必有异见者。试为吾取之。”隐居诺。乃入洞庭，访游乎地天一千五百里，乃至焉。见一石城，不敢辄入。乃于外斋戒三日然后入。见其石城门开，于室内玉几上有素书一卷，文字非常。即便拜而奉出，呈阖闾。阖闾即召群臣共观之，但其文篆书不可识，乃令人赍之问孔子。使者忽然譎诳曰：“吴王闲居殿堂，忽有赤乌衔书来落殿前。王不解其意，故令请问。”孔子愀然不答。良久乃言曰：“丘闻童谣云：‘吴王出游观震湖，龙威丈人山隐居，北上包山入灵墟，乃入洞庭窃禹书，天帝大文不可舒，此文长传百六初，若强取出丧国庐。’若是此书者，丘能知之。赤乌所衔，则丘未闻。”使者乃自首谢曰：“实如所言。”于是孔子曰：“此是灵宝五符真文。昔夏禹得之于锺山，然后封之于洞庭之室。”使者反白阖闾乃尊事之。然其侈性慢易，不能遵奉道科，而真文乃飞上天，不知所在。后其子夫差嗣位，乃登劳山，复得之。奉崇供养。自尔相承，世世录传。至三国时，吴主孙权赤乌之年，有琅琊葛玄，字孝先。孝先乃葛尚书之子。尚书名孝儒，年八十乃诞玄。玄多灵应，年

十三，好慕道德，纯粹忠信。举孝廉，不就。弃荣辞禄，志尚山水。入天台山学道。精思遐彻，未周一年，感通太上，遣三圣真人下降，以《灵宝经》授之。其第一真人自称太上玄一第一真人郁罗翹；其第二真人自称太上玄一第二真人光妙音；其第三真人自称太上玄一第三真人真定光。三真未降之前，太上又命太极真人徐来勒，为孝先作三洞法师。孝先凡所受经二十三卷，并语稟、请问十卷，合三十三卷。孝先传郑思远，又传兄太子少傅海安君，字孝爰。孝爰付子护军悌，悌即抱朴子之父。抱朴从郑君盟，郑君授抱朴于罗浮山，去世以付兄子海安君，至从孙巢甫，以隆安之末传道士任延庆、徐灵期等，世世录传，支流分散，孳孕非一。此大运之通，应根而作者，因缘冥会，乃神明之意。有心君子，可以取焉。

### 三宝杂经出化序

夫众先元起，资乎本真。本真清凝，巍然渊静，湛体常住，无去来相。自古及今，其名不去。无形无名，为万物之宗矣。《三元经》谓之众生真父母者也。我之所生，乃是因缘和会，寄胎父母耳。众生灵照，本资真父母而生。但以本性既微，未能照见，为尘劳所惑，遂便有身。有身之患，万累生焉。是以转轮五道，还源靡遂，因以本性相资。灵照本同，皆有智性，卒莫反真。圣人兴慈父之悲，爱同赤子，随宜拯济，使之离苦，得无为之乐。是以三洞及诸法门，随其所好而开，今其解脱。解脱所由，盖缘能悟。悟则受行，能弃俗法；安神无为，得不死术。若有智者能为诸人解畅经旨，使长迷反晓者，其福可量。

乎？余未染道服，披寻经教，求之意绪，度脱彷彿，辄述三宝出化所由，并训解经卷数篇。辩诸疑惑，以拟有道君子；述作而已，不敢远其中道。植训乖谬，览者详焉。

### 天尊老君名号历劫经略

老君至开冥贤劫之时，托生扶桑太常玉帝天宫，以法授扶桑太帝，号曰无极太上大道君，亦号曰最上至真正一真人，亦号曰无上虚皇元始天尊。在元阳之上，则无极上上清微天中高上虚皇道君也。于是放身清凉，神光明朗，照大幽之中。尔时盘古真人，因立功德见召于天中。盘古乃稽首元始虚皇道君，请受《灵宝内经》三百七十五卷。时高上虚皇太上道君则授以《三皇内经》三十六卷。而盘古真人乃法则斯经，运行功用，成天立地，化造万物。下游天地，发圆珠之应万六千日月明三辰天元而起，遂有五亿五千五百五十亿万重天地焉。十方俱行道德之化，后天皇氏始兴焉。时老君降三玄空天宫，以《天皇内经》十四篇授与天皇，以治天下三十六万岁，乃白日升仙，上三玄空天宫中。天皇氏后而地皇氏兴焉。太极老君又授《地皇内经》十四篇。地皇氏得此经，以治天下三十六万岁，乃白日升天，上素虚玉皇天宫中，万帝朝尊。地皇仙后，人皇氏兴焉。太极老君又授《人皇内经》十四篇。人皇得此经，以治天下三十六万岁，于是白日升仙，上太素虚玉皇天宫，受自然之寿。由是以后九亿九千九百九十九万岁，方至于五帝兴焉。五帝各理三万六千岁，而五帝氏后，逮于中皇天皇君出世，而启太上老君太极真人下降昆仑之山，又授以《天皇内经》十四篇。

而天皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙，上升太清天中。天皇君仙后而地皇君兴焉。地皇君出世，太上老君太极真人又下降流纲之山，授地皇君《地皇内经》十四篇。而地皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙，上升太极虚皇天中。而地皇君仙后，而人皇君兴焉。人皇君时，太极真人太上老君下降于南霍之山，又授以《人皇内经》十四篇。而人皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙于太极南朱上天宫。自中三皇氏后，老君经九万九千九百九十九万岁，又以法授人皇君子孙，俾治世修道，元始天尊真人皆降焉。后五龙氏兴焉。天真皇人太上老君降下开明之国，以《灵宝真文》《三皇内经》各十四篇，授五龙氏。五龙氏得此经，以道治世万二千岁，白日登仙。尔时甘露降焉，苍生则于中化生。是后运动阴阳，作为五行。四微、世欲、生死之业，于是而起。人乃任性混朴，茹毛饮血，男女无别。夏则巢居，冬则穴处。经于三十六万岁后，神人氏兴焉。神人氏出生，其状神异，若盘古真人，而亦号盘古，即是无劫苍生万物之所承也。以已形状类象，分别天地、日月、星辰、阴阳、四时、五行、九宫、八卦、六甲、山川河海，不能决定，故以天中元景元年七月一日，上登太极天王，上启元始太上天尊，更授《神宝三皇内经》并《灵宝五符经》。老君下降，授神人氏，得斯经下世，则按经图分画天地，名前劫。高上真人更新开乎造化时事，故昧前皇圣人功用，所以于此而为更始。但世人相聚，只知有此盘古，岂明今天前始之初复有盘古者哉？所以自斯盘古，以道治世万九千九百九十九载，白日升仙，上昆仑，登太清天中，授号曰元始天王。则王母学道，降人鸟之山人。而盘古真人氏仙后，伏羲氏兴。伏羲氏兴而太极天真大神以清浊已分元年，上启太上老君，以《天皇内经》十四篇，并《灵宝图道德五千文》授伏羲。伏羲按

经文，以道化天下，故致别白众生殊类，则以人为贵。方列其男女、夫妻、父子、兄弟、氏族，则《灵宝五千文经》之功也。伏羲以道治世六千岁，白日升天中，号曰天真景星真人。伏羲氏后，而燧人氏兴焉。燧人氏兴，故玉虚真人以清浊已分元年，上启太上老君，下降丹霍之丘，以《地皇内经》十四篇，并《灵宝五千文道德经》授燧人氏。燧人氏得斯经，造火，变生为熟，乃《灵宝》之功也。燧人氏以道经治世六千岁，于丹霍之山白日升仙，登于太极左宫，号曰玉虚真人。燧人氏后，祝融氏兴焉。祝融氏兴，太上老君以天汉元年，下降南岳衡山及蓬莱山，以《人皇内经》、《灵宝五千文道德经》等，以授祝融氏。观《人皇内文》，则知金玉七宝之所在，故范土为金，治石为铁，乃造刀斧锯凿等，以利益众生，使不损众生手爪之用。是以祝融氏以道德治天下六千岁，白日升于太极南昌上宫，号大行真人。自伏羲、燧人各授六百岁，传子孙得六千岁。祝融氏后，而神农氏兴焉。神农氏兴，而元始太上老君以天景元年下降形马之山，以《灵宝》五篇真文、《三皇内经》、《道德经》授神农氏。所以神农按经文欲为天下众生合仙药欲为天下众生，以济天下万民。是时普四天下众生，既非仙药能济，所以方按《三皇内经》，召天上前劫高上父母天中大圣真人，问以先劫造化时事。既决，已则负灵宝真文，飞行百卉之山。遇其苦则生，遇其甘则死。所以一日之中，百生百死，故于农石山谷，方备得五谷、五辛以还，教民种植，以代生杀，使教谷食。孟时民既为日已久，五脏见烂，故重按道方为品类草、木、石等，以为医方，治民疾病。造作称、尺、斗、斛，货易则驾云轮之车，周行天下，各随国土所宜，无不尽备矣。而神农以道天下治二百岁，于大室之山白日升仙，上登太皇之天，号曰灵宝虚皇真人。传世子孙合五百二十二年，后则轩辕氏兴。以

上皇元年十月五日，老君下降于峨嵋之山，授黄帝《灵宝经五符真文》。黄帝登南霍山，有朱灵神人以《三皇内经》授帝。是黄帝既平蚩尤以没，方思神妙化用之意，不能开解，而师广成子。按《三皇内经》召高天大圣真人、前劫造化神仙真人，以九天父母，问乎前劫造化功用时事。是元始天尊、真仙并降，语帝曰：“尔欲知前劫造化时事者，汝可寻《太上玄老灵宝君五符真文经》也。功用本起，莫不从于是经，以庄严天地，至于万物、一切苍生，功德是足，备出斯经。品物名色，众生殊类，普陈载焉。”尔时元始老君为帝解说，所以帝依其解文句，深思俯察，改致造作城台、宫阙、房室、衣冠，教以荣华之色。乃制舟车，以通水陆。陶坯鼎器物，以给天下饮食之用。又推天文、礼乐，故百工周奏以助其化。皆犹灵宝三等经文之功。又至上皇三年七月二十九日壬子，天真皇人下授黄帝六壬式图、六甲三元、遁甲造式之法。法威天下，流传子孙也。故黄帝以道治世一百二十年，于鼎湖山白日升天，上登太极宫，号曰中黄真人。

## 卷四 道教经法传授部

### 上清源统经目注序

上清者，宫名也。明乎混沌之表，焕乎大罗之天。灵妙虚结，神奇空生，高浮澄净，以上清为名；乃众真之所处，大圣之所经也。宫有丹青金书玉字上皇宝经，皆玄古之道，自然之章。起于九天之王九玄道君。推校本元，已历九万亿九千劫。上皇典格，各不相参。道君以中皇元年九月一日，于玉天琼房金阙上宫，命东华青宫寻俯仰之格，拣校古文，撰定灵篇，集为宝经。传至汉武帝时得经，起柏梁台以贮之。帝既为神真所降，自云得道，放情怠懈，不从王母至言。明年天火烧柏梁台，经飞还太空，于兹绝迹。太元真人茅君，讳盈，师西城王君，受上清玉佩金珰、二景璇玑之道，以汉宣帝地节四年三月升天。又玄洲上卿苏君，讳林，师涓子，受上清三一之法，以汉神爵二年三月六日登天。又周君、李君、众仙各有所得，并相承经业，多不传世。汉孝平皇帝元始二年九月戊午，西城真人以《上清经》三十一卷，于阳洛之山授清虚真人小有天王王褒。褒以晋成帝之时，于汲郡修武县授紫虚元君南岳夫人魏华存。华存以咸和九年，岁在甲午，乘飚轮而升天。去世之日，以经付其子道脱，又传杨先生讳羲。羲生有殊分，通灵接真，乃晋简

文皇帝之师也。杨君师事南岳魏夫人，受《上清大洞真经》三十一卷。至晋孝武皇帝太元十一年，岁在丙戌升仙。许先生者，名映，丹阳句容人也。七世祖许子阿，生有阴德，福润流洒，锺于后嗣。子阿六世孙名副，仕为剡县令。副有八子，其第一子名迈，字叔玄，小名映，改名远游。少好仙道，耽心冥肆，吐纳和气，矫志云汉，超迹绝世。以晋建兴元年岁在癸酉，渡江入赤城山中，往而不返。师南海太守鲍靓、太元真人茅君。远游第五弟名谧，仕为护军长史、散骑常侍。师太元真人，受上清众经，于宁康元年隐景去世。谧有三子。其第三子名玉斧，长名翺，字道翺。道德淳莹，绝世无伦。师杨先生授《上清三天正法曲素凤文》三十一卷，遁迹潜化。玉斧子黄民，黄民子名豫之。以元嘉十二年终剡之白山。临去世之时，以上清宝经、三洞妙文，封以玄台，印以白银，留寄鄞县马度生家。语之曰：“今且暂行，不久当还，勿开此经！”马氏崇奉累世。安康有道士娄化者，常憩马氏舍。究悉经源，苦求开看。马氏固执，竟不从命，结屈无方。是时宋明皇帝崇敬大法，招集道士，供养后堂。娄化乃因后堂道士段季真密启之。帝即命使逼取至京，乃拜礼开之。忽有五色紫光洞焕眼前。帝惊曰：“神真叵触！”比其年不愈而崩。元徽元年，马氏即出诉，启请其经。诏敕听还。于是天藏真书复归马氏。兹乃上真注笔，朱简紫书，后之凡庶，摸而传奉，号曰真迹。今记神王所撰宝经卷三十一首，篇章目第，并指事为名。然天真之言，理奥难寻。或名同而事异，或理合而字乖。灵秘妙隐，不与世合。幸而见之，卒难详辨。余宿植缘会，游涉法源；性好幽旨，耽灵味玄；钻研弥龄，始觉仿佛。谨以鄙思寻校众经，为《上清目义》。非敢有裨大乘，聊自记而已。



## 灵宝经目序

元嘉十四年某月日，三洞弟子陆修静，敬示诸道流相与同法，弘修文业，赞扬妙化，兴世隆福。每欣一切遭遇慈泽，离彼恶道，入此善场，逍遥长乐，何庆如之！但至赜宛奥，妙义微远，灵匠未遇，群滞莫披。翘翘渴仰者，岂予小子乎？既太虚眇邈，玄师难希，宜求之于心，即理而断也。敢竭暗浅，先言所怀。

夫灵宝之文，始于龙汉。龙汉之前，莫之追记。延康长劫，混沌无期。道之隐沦，宝经不彰。赤明革运，灵文兴焉。诸天宗奉，各有科典。一劫之周，又复改运。遂积五劫，迨于开皇已后。上皇元年，元始下教。大法流行，众圣演畅，修集杂要，以备十部三十六帙，引导后学，救度天人。上皇之后，六天运行。众圣幽升，经还大罗。自兹以来，回绝元法。虽高辛招云舆之校，大禹获钟山之书。老君降真于天师，仙公授文于天台。斯皆由勋感太上，指成圣业。岂非扬芳于世，普宣一切也？按《经》言，承唐之后四十六丁亥，其间先后庚子之年，殒子续党于禹口，乱群填尸于越川。强臣称霸，弱主西播。龙精之后，续祚之君，罢除伪主，退翦逆民。众道势讫，此经当行。推数考实，莫不信然。期运既至，大法方隆。但经始兴，未尽显行，十部旧目，出者三分。虽玄蕴未倾，然法轮已遍于八方。自非时交运会，孰能若斯之盛哉？

顷者以来，经文纷互，似非相乱。或是旧目所载，或自篇章所见，新旧五十五卷，学士宗竟，鲜有甄别。余先未悉，亦

是求者一人。既加寻览，甫悟参差。或删破上清；或采持余经；或造立序说；或回换篇目，裨益句章，作其符图；或以充旧典；或别置盟戒。文字僻左，音韵不属，辞趣烦猥，义味浅鄙，颠倒舛错，事无次序。考其精伪，当由为猖狂之徒，质非挺玄，本无寻真之志，而因修窥阅，假服道名，贪冒受取，不顾殃考，兴造多端，招人宗崇，敢以鱼目厕于隋侯之肆，辄将散砾托于和氏之门。启诳愚蒙，诬桀太玄。既晚学推信，弗加澄研，遂令精粗糅杂，真伪混行。视听者疑惑，修味者闷烦。上则损辱于灵囿，下则耻累于学者。进退如此，无一可宜。徒倾产疲力，将以何施？夫轻慢之咎既深，毁谤之罪靡赦。余少耽玄味，志爱经书，积累锱铢，冀其万一。若信有可崇，何苟明言坐取风刀乎？虑有未悉，今条旧目已出，并仙公所授事注解，意疑者略云尔。

### 上清经述

述曰：寻经之意，乃太虚齐量，劫劫出化，非可筹\*-。自开皇之后距天汉时，范阳桑平王褒，字子登。以正月一日辞二亲，欲寻神仙，求不死之道。乃入华阴山，精思一十八年，遂感上圣太极真人西梁子，下降授丁饭方、并服云牙法。复五年，太极真人王总真复降，以《上清经》三十一卷付子登，并将子登游五岳，观名山，备受上法。逮乎晋武皇帝时，任城魏华存，字贤安，乃魏阳元之女也。阳元仕至荥阳、宜阳二郡太守，散骑常侍、冀州刺史。其父乃嫁贤安于南阳刘岳，字幼彦。岳，妻时除为修武县令，贤安随焉。贤安自少为女，处乎内室，性

好至道，虽未得仙而真人屡降。及其长也，女子有夫之义，修尚之事有时而废。及至儿女成立，告诫子曰：“我愿终寻真之志。”于是离群独处，不交人事；深托隐疴，还修曩尚。入室百日，所期仙灵，积思希感。尔乃独节应神，丹心潜会，精苦仰彻，天真遐降。于是季冬之月，夜半清朗，忽闻空中有锺鼓之响，笳箫之声，音韵嘈囋。出户望之，见从东方虚空而来，旌旗郁勃，羽盖纷纭，光辉幽蔼，灿烂太虚，他人莫之见也。须臾有虎辇玉舆隐轮之车，并顿驾来降夫人之静室。凡四真人，并年可二十余，容貌伟朗，天资秀颖。同著紫花莲冠，飞锦衣裳，琼蕊宝带；体佩虎文，项有圆光，手把华幡。其一人自称曰：“我太极真人安度明也。”其一人曰：“我东华大神方诸青童君也。”其一人曰：“我扶桑碧海暘谷神王景林真人也。”其一人曰：“我清虚真人小有仙人王子登也。”于是夫人匍匐再拜，叩头自转：“不期今日道君降下，唯乞神仙长生度世。”四人乃坐良久。王子登告夫人曰：“闻子曩日念善，展转求生。密练真气，魂和体清。丹怀远迈，录字上清；高契真人。抱信期灵；幽感启微，潜曜赤城。遂金书紫极，藏简玉庭，故感高晨，玄唱齐并。是以太帝君敕我今来教授于子神真之道焉。”其东华青童君曰：“此清虚真人者，尔之师也。当受业焉。”其安度明曰：“子因缘上业，积感求道，苦心久矣，用思至也。道今来矣，子得之焉。”其景林真人曰：“子勤感累世，积念真灵，将积应之所期，乃明挺之标会也。虚皇早鉴尔之用思太极，已注子名于玉札，录字紫虚之宫，金书东华之阁，刻名上清丹文锦籍，应为紫虚元君上真司命。又加名山之号，封南岳夫人。今视子之质，实霄景高焕，圆精重照，凤骨龙姿，脑色宝耀，五藏紫络，心有羽文，形栖晨霞，神友灵肆。天人之任，良不虚矣。帝诰王褒相为盟师，故遣太极真人鉴子之精，子其

勛哉。”四真各有辞。致言毕，夫人叩头自转而言曰：“华存卑贱，枯骨之余，自处尘垢，久染浊秽，天地寥邈，高下悬隔，纵恣五浊，翻错臭秽，滞塞灵艾沈沦凡俗。无冀日月回曜幽冗，不谓天尊下交凡肆。所以割心断意，取同蝼蚁。自顾少好神仙，贪乐长生，心之所诣，出于自然。志之所期，誓以三光。而值季世，俱忌礼度，制置无从脱免，良愿不遂。今形非顾影，体气臭恶，久为垢秽所逼者，徒励节无益。自入刘门，修道日废。须者少闲，内外乖隔，容得斋思，谨按道法寻求经方入室之制，为欲静护五藏，辟诸疾病耳。岂图上愿惟在今日今夕，道君并降，庆出分外。光照幽谷，荷戴天眷，不胜惶惧！此是婢子有幸，当得度世。唯乞哀矜，赐以性命。”自陈毕，东华小童指招而告之曰：“子少好道，真至诚密。感是，故因缘世生，胎炼五神，寄慧齐见，超度八难，气适灵辉，挺会真\*，自当为紫虚之宫上真司命。勤精弥纶太极，所\*/又加名岳之封，位均诸侯。然不受闻上道内法、晨景玉经者，仙道众妙，无缘得成也。子其勉哉！我后日当更期会于阳洛山中，汝勤之矣！”于是清虚真人王君乃命侍女华散条、李明允等，使披云蕴、开玉笈，出《太上宝文》、《八素隐书》、《大洞真经》、《灵书紫文八道紫度炎光石精玉马神真虎文》、《高仙羽玄》等经三十一卷，是王君昔于阳洛山遇南极真人西城王君所授者也。今于汲郡修武县中授夫人焉。暘谷神王又别授夫人《黄庭内景经》，正一真人张君又别授“治精制鬼法”。夫人前后所授，非但此三十一卷而已。其篇卷悉在传中，不能一一书之。此乃《上清经》从此而行世也。

### 三皇经说

《三皇经》云：昔天皇治时，以《天经》一卷授之。天皇用而治天下二万八千岁，地皇代之。上天又以经一卷授之。地皇用而治天下二万八千岁，人皇代之。上天又以经一卷授之。人皇用而治天下亦二万八千岁。三皇所授经合三卷，尔时号为《三坟》是也，亦名《三皇经》。三皇后又有八帝，治各八千岁。上天又各以经一卷授之，时号为《八索》是也。此乃《三坟》、《八索》根本经也。如法而言，三宝俱起无量之世，但以隐显有时。自三皇八帝之后，其文亦隐。至于晋武皇帝时，有晋陵鲍靓，官至南海太守，少好仙道。以晋元康二年二月二日登嵩高山，入石室清斋，忽见古三皇文，皆刻石为字。尔时未有师。靓乃依法以四百尺绢为信，自盟而受。后传葛稚川，枝孕相传，至于今日。三宝行世，自然之数，心与理契，因缘冥符使之然也。术曰：夫众生昏惑，长迷生死，神明蔽瞶，不能悟理。圣人兴，大慈大悲，爱若赤子。随时化生，随宜救拔，欲令离苦，得无为之乐。但圣道渊邃，难可顿悟，必须阶渐，以发其蒙。未显大法，先教厨食、章书、杂法、黄赤之道。杂化浅近，以应遇情信伏。能修杂法，名为奉道。既能奉道，则能舍离魔俗之法。渐渐调伏，而后教以《灵宝》。既信《灵宝》，便求为道士。既为道士，便宜受持一百八十大戒、二百四十威仪。修行六通，能遣六尘，四十五念、十二上愿、十二可从一切法行，皆能受持。研心宗极，洞体道真，洞然玄悟，以得神仙。从此而修，终会无为。当知章厨杂化为渐导之义，虽

名奉道，未识正理。惟体识君子，宜裁之焉。

### 道教相承次第录

谨按《云台治中内录》言：太上老君传授《云台正治官图》，《治山灶鼎》等得四十一代相承。具人名代数如后：

第一代老君（老君火山大丹治法传授三百人。唯三人系代：王方平、尹喜、徐甲）。

第二代王君（王君授三十人。唯三人系代：茅蒙、孙盈、章震）。

第三代章震（震授十七人。唯二人系代：若士、李夫人名仙）。

第四代若士（士授五十二人。唯三人系代：李元君、白石先生、李常存）。

第五代李元君（元君授七十二人。唯二人系代：王子乔、许述成）。

第六代诸仙别传分散，世绝系治官气并治名。老君念于志学之子，再下平盖山，授张陵为云台治，火芝火仙之经、方术变化、长生不死之药、登升云天之道。敕陵为第六代道之外孙，而东海小童君为陵保举，师太上老君为度师，度云台治。封陵为天师（天师授三百人。唯三人系代行治：张申、王升、李忠）。

第七代张申（申授三十三人。唯三人系代，行传治法：李仲春、李意期、李玄）。

第八代李仲春（仲春授十五人。唯二人系代：李少君、魏

伯阳)。

第九代李少君(少君授九十人。唯二人系代：栾巴、李常存)。

第十代栾巴(巴授五人。唯二人系代：阴长生、李宙先)。

第十一代阴长生(长生授八人。唯二人系代：张景霄、王万缙)。

第十二代张景霄(景霄授五人。唯一人系代：刘冯)。

第十三代刘冯(冯授五人。唯一人系代：刘政)。

第十四代刘政(政授五人。唯二人系代：孙博、严光)。

第十五代孙博(博授三人，无可代者。乃入林屋山中，合龙虎大丹而升天。治法遂绝)。

太上老君命李仲甫出神仙之都，以法授江南左慈，字元放，故令继十六代为师相付。(元放授八十人。唯三人系代：介象、严光女、李佗)。

第十七代介象(介象授四十人。唯五人系代：李延、张授、万葛卿、阮玉、李用)。

第十八代李延、介谈(延、谈授十八人。唯一人系代：刘景)。

第十九代刘景(景授四人。唯一人系代：东海郭延)。

第二十代东海郭延(延授三十人。唯一人系代：灵寿光)。

第二十一代灵寿光(寿光本外国人。授十八人。唯一人系代：何述)。

第二十二代何述(述授十人。唯一人系代：罗先期)。

第二十三代罗先期(先期授二十人。唯二人系代：甘季仁、甘孝先)。

第二十四代甘孝先(孝先授五十一人。唯一人系代：石帆公)。

第二十五代石帆公（帆公授十九人。唯一人系代：宫户。一云宫中用，字也）。

第二十六代宫户（户授八十人。无可传者，治法遂绝。户入南岳及天台山，经八十五年。世绝仙人，正道不继）。

老君念其功修之徒，再降庐山，敕左元放授施存、葛玄，令继代为仙官世祖，师传仁人者也。

第二十七代施存（存授七十人。但皆地仙耳。唯同学葛玄继代）。

第二十八代葛玄（玄授十九人。唯三人系代：张秦、仇真、李用别出）。

第二十九代尹思（太上老君差紫衣使者下命于庐山，授五人更二人。尹思、尹轨系代传治。思授七十人。唯二人系代：女子樊忠和、韦义山）。

第三十代尹轨（轨授十九人。唯一人系代：女仙李元一）。

第三十一代女仙樊忠和（忠和授二人。唯一人系代：刘纲东陵母）。

第三十二代女仙李元一（元一授四十人。无人可传，治法代绝）。

第三十三代刘纲（纲，樊夫人弟子。虽居官治，又其夫也，治法后绝）。

第三十四代张秦（秦，葛玄弟子。玄见其代绝，乃再令秦授十一人。唯一人系代：王列）。

第三十五代王列（列授九人。唯二人系代：许逊、胡少真）。

第三十六代许逊（逊授一百人。而无人可授，系代又绝。逊升天后两代，人民征伐，真志不传）。

老君敕使三人于天台山，令葛玄传郑思远，系三十七代（



思远授十九人。唯二人系代：葛洪、李淳风）。

第三十八代李淳风（淳风授四十人。唯四人系代而未传授。二人者：李道兴、李靖。后又隐于房公之山，一百年后，出授张常存、李太虚、李惠举，同太师神等四人）。

第三十九代李惠举、张常存而各分代传授，皆称三十九代孙（惠举授三十人。唯三人可代：李保真、白玄中、李太昌。张常存授三十七人。唯三人愿系代：孙张真、应真、孙道用）。

第四十代李保真（保真授二十四治一百人。唯二人系代：林通元、李德仁）。

第四十一代林通元。

### 玄都九真盟科九品传经录

《玄都上品》第一篇曰：《大洞真经》、《雌一宝经》、《太上素灵大有妙经》，三奇之章，高上玉皇宝篇。秘在九天之上，大有之宫，太玄灵台玉房之中。上皇之初，旧科经万劫一传。三道正明，学真日兴高上科。七千年内听得三传。侍卫玉童玉女各七千人，执香典炁，按科传授之法，皆对告斋百日，分金钮为盟，给玉童玉女，依四极盟科。不依科而传，罪延七祖，幽魂充役，吞火食铁，负山运石，以填无极之考，抱风刀之罚，身歿形残，长闭地狱，万不得仙。

《玄都上品》第二篇曰：传《大洞真经三十九章》于后者，誓以上金十两，铜二十五斤，钮五双，金鱼、玉龙各一枚、青丝一两缠钮。若《雌一》，以上金五两、五色锦绶各五十尺、香一斤、金钮三双。《太上素灵洞真玄经》，上金三两、紫纹

百尺、青缯二十七尺、赤丝五两、香一斤、丹一两，上皇以信誓心，不得有阙，阙则亏科。师犯则夺侍经玉童玉女，还于本官。不过三年，身被风刀考罚，自然失经。受者不依盟科，皆失明形残，七祖父母被受酆都之责，万劫还生，非人之道，学者慎之。

《玄都上品》第三篇曰：凡有金名东华，玉字上清，得授《太霄琅书琼文帝章》、《紫度炎光神玄变经》、《上清变化七十四方九真中经》、《丹景道精隐地八术》、《解形遁变流景玉经》、《七变舞天经》，皆九天真王元始天王、太上天帝君、中央黄老君，受于太空中九玄之内，虚无之高章也。皆秘在太上灵都之宫紫房，三元君主之，侍卫玉童玉女皆三千人。元始之初，经七千劫一传。自三道立正之后，七千年内听三传。七百年中有其人，亦听传。传皆对斋九十日，或九日，告盟而授之。给玉童玉女，依四极盟科。若不依科而传，罪延七祖父母，充责鬼官，运蒙山之石，填积夜之河，万劫还生，非人之道。己身被风刀之考，自然失经，终不得仙，传者慎之。

《玄都上品》第四篇曰：传《琼文帝章》，赍金鱼、玉龙，青缯三十二尺、金钮三双为誓。《紫度炎光》，五色锦各五十尺、上金五两、沈香五斤、真朱一斤、书刀一口、金札七枚、绛纹七十尺之誓。《上清变化七十四方经》，青缯四十尺、上金十两、金钮六双、好香一斤、金鱼玉龙之誓。《九真中经》，旧科落发为盟，今以白绢九十尺准盟，法于九真之数。青丝一斤、绛纹二十四尺、北暉之誓。碧缯二十四尺，月华之誓。金钮三双，元常童子圆变之信。《丹景道精隐地八术》，《解形遁变流景玉经》，悉上金十两、金鱼、玉龙各一枚、青缯四十尺、紫纹四十尺、金钮各三双。《七变舞天经》，上金五两、真朱一斤、青缯三十二尺之誓。信以质心，不得有阙，阙则违

科。师以天信投于山栖，以救穷乏。余以供营经书之具，不得他散。师犯上科，夺玉童玉女，减\*-夺纪，注名度还比酆。受者不依科，皆丧魂失神，风刀之考，不出三年，自然失经，终不得仙。

《玄都上品》第五篇曰：《消魔智慧玉清隐书》、《宝洞飞霄绝玄金章》、《紫凤赤书八景晨图》、《金真玉光灵书紫文》、《金珰玉佩金根上经》、《三天正法》，皆太上大道君、元始天王、金阙帝君之宝章。秘在玉清之宫金房紫户之内。典卫灵文玉童玉女各三千人。元始之初，千劫一传。自三天立正之后，七百年内听得三传。百年中有其人，听一传。给玉童玉女，依四极盟科。授者对斋九十日，或九日而传。不依科而传，罪延七玄之祖，长充鬼役，无有解脱。已身被风刀之考，死充下鬼，万不得仙。

《玄都上品》第六篇曰：传《消魔智慧》、《宝洞飞霄绝玄金章》、《赤书八景晨图》，皆上金十两、玉札一枚、金鱼、玉龙各一枚、紫绶四十尺。《金根经》、《灵书紫文》，上金五两、金简、玉札各一枚，长一尺六寸，广二寸四分；金鱼、玉龙各一枚、紫绶百尺、青纹四十尺。《三天正法》，青绶三十尺、青布四十三尺、金环五双以为密誓；上金十两通神之信。《金真玉光》、《玉佩金珰玉清隐书》，皆金鱼、玉龙各一枚以为誓信。依科不得有阙，阙则师夺玉童玉女，注名还度北酆。受不依科，皆丧魂失神，罚以风刀，不出三年，自然失经，万不得仙。

《玄都上品》第七篇曰：《七星移度》、《白羽黑翮飞行羽经》、《飞步天纲》、《蹶行七元太上隐书》、《灵飞六甲》，皆太上太帝君、太极太微天帝君登空之道，隐化之章。秘在太上琼宫之上、紫房之内。侍卫玉童玉女皆三千人。依科七

千年一传。三天立正之后，改七百年内听得三传。若百年中有其人，便传便授。告斋九十日，或三十日，给玉童玉女，依四极盟科。不依科而传，罪延七玄之祖，长充北酆鬼役，十苦八难，已身被风刀之考，身没幽源，万不得仙。

《玄都上品》第八篇曰：传《七星移度》，青纹三十一尺、绛绶七十尺、凤纹之罗九十尺、金钮一双。《白羽黑翮飞行羽经》，上金二两、青纹三十二尺以代截发歃血之誓。《飞步天纲》，锦三十尺、金鱼、玉龙各一枚。《太上隐书》，金鱼、玉龙之誓。《灵飞六甲》，白素六十尺、金鹤六双、青丝六两。天科以信质心，不得有阙。阙则违科。师夺玉童玉女，除落青簿玉名，移还北酆。受者不依科，亡精丧神，罚以风刀，不出三年，自然失经，终不得仙。

《玄都上品》第九篇曰：《方诸文震灵符》、《豁落七元八天隐文》、《流金火铃金神虎符》、《消魔支干夜照神烛八术》、《隐遁紫清玉符》、《五籍洞玄六甲上符》、《五行秘文》，《玄都格》诸符，凡有六百部。太上悉以其文标于旧经之内，以为立用。传授盟科悉依经科。传授有阙，罪同上品。有经无符，则天魔害人；有符无经，则思念无感，神真不降。科云皆不得单行，单行罪亦如之。科、经及符，本同出于自然之气，虚无之章。故不可得独修也。无科修道，万不成仙。

## 卷五 经教相承部

真系 陇西李渤述

今道门以经箓授受，所自来远矣。其昭彰尤著，使吸绅先生不惑者：自晋兴宁乙丑岁，众真降授于杨君，杨君授许君，许君授子玄文，玄文付经于马朗。景和乙巳岁，敕取经入华林园。明帝登极，受季真启还私廨。简寂陆君南下立崇虚馆，真经尽归于馆。按黄素方，因缘值经，准法奉修，亦同师授。其陆君之教，杨、许之胄也。陆授孙君，孙君授陶君，陶君搜摭许令之遗经略尽矣。陶授王君，王君又从宗道先生得诸胜诀，云经法秘典大备于王矣。王授潘君，潘君授司马君，司马君授李君，李君至于杨君，十三世矣。杨、许并越汉登真，许令亦终获度世。马、受幸会而不业。自陆君已降，则帝者无不趋其风矣。此皆史有明文，或遗迹可访。又世世从事于斯者，其支裔焉。且知理而不知神，非长生之士也。超理入神，混合于气，无为而无不为者，我真宗之道也。道无否泰，教有通塞。塞而通之者，存乎其人。故予述真系，传其同源分派者。录名仙籍，不辑于此。时贞元乙酉岁七月二十一日，于庐山白鹿洞栖真堂中述。

## 晋茅山真人杨君

真人姓杨，名羲，晋咸和五年九月生于句容。似吴人，洁白美姿容，善言笑。攻书好学，该涉经史。性渊懿沈厚，幼而通灵。与二许早结神明之交（二许：映与穆），思玄荐于相王，用为公府舍人。以永和初，受《中黄制虎豹法》。六年，又就刘璞传灵符（璞即魏夫人长子也）。君渊沈应感，虚抱自得。若燥湿之引水火，冥默幽歛相袭无朕矣。年三十六，以兴宁乙丑岁众真降授，有若上相青童君、太虚真人、赤君上宰、西城王君、太元茅真人、清灵裴真人、桐柏王真人、紫阳周真人、中茅君、小茅君、范中候、荀中候、紫元夫人、南岳夫人、右英夫人、紫微夫人、九华安妃、昭灵夫人、中候夫人，莫不霓旌暗曳，神轡潜竦，纷纷属乎烟消沦踪收于俗蹊。宴声金响，于君月无旷日，岁不虚矣。君师魏夫人，俪九华而朋于诸真。故安妃云：“明君受质虚闲，秘构玉朗，兰渊高流，清响金宫，必高佐四辅，承制圣君，主察阴阳之和气，为吴越鬼神之君。后二十二年，将乘龙驾云，白日升天。今若不耐风火之烟，可寻剑解作告终之术也。”《真诰》算以太元十二年丙戌去世。弟子许翊，先师告翊父穆，亦因君偶真。故许氏九人，虽道庆自先，数至神发，如尘鉴凝照，挥莹之功，并归子君矣。

### 雷平山真人许君

真人许翺，字道翺，小名玉斧。父穆，晋护军长史，真位上清左卿。母陶氏，名科斗，入易迁宫。真人幼独标挺，含真渊凝，长史器异之。郡举上计掾主簿，并不赴。清秀莹洁，糠粃俗务，如泉去蒙，盈其科而自进。居雷平山下，师杨君，传《三天正法曲素凤文》。后定录真人授其上道，告之曰：“学道当如穿井。井愈深，土愈难出。若不坚心正行，岂得见泉源耶？”真人常愿早游洞室，不欲久停人间，遂诣北洞告终，即居方隅山洞方源馆中，常去来四年方平台，故《真诰》云：幽人在世时，心乐居焉。又杨君与长史书亦云：不审方隅幽人，设座于易迁户中。真人化后十六年，当度东华受书，为上清仙公，上相帝晨《二录》。太和二年丁卯，时年二十七岁。咸康七年辛丑生。自太和三年己后，无复显迹。世谱年三十，则庚午年去世。《耆旧传》云：在此洞石坛上烧香礼拜，因而不起。明旦视形如生。坛今犹存。《真诰》云：从张镇南受衣解法。”盖夜于坛上去耳。娶建康令黄演女，生男黄民，乃还家。

### 仙人临沮令许君

临沮令许仙人名黄民，字玄文。上清仙公翺之子，上清左卿穆之孙。以升平五年辛酉生。时掾年二十一，仕郡主簿，察

孝廉，石头仓丞南蛮参军，临沮令。永兴三年，京畿纷乱。令乃奉经入剡，为马朗所翹翹：谓推崇。。朗从父弟牢，亦相周给。时人咸知许先生得道，又父祖皆有名称，各加崇敬。元嘉六年，欲移居钱塘，乃封其真经一厨付朗。靖中语：“此是仙灵之迹，非我自来，纵有书，亦勿与人。”及至杜道鞠家，停少时而终，时年六十九。《真诰》言黄民及伯祖迈、姑婆娥皇、伯联，与黄民子荣、弟孙、女琼辉，并得度世。马朗敬经若君父，每有神光灵气，见于堂宇。朗妻数见有青衣玉女空中去来。其家皆保富寿。朗忿何道敬窃书泄意，乃洋铜灌厨愁，敕家人不得复开。朗终，子洪、殳季真犹共尊尚。景和元年，娄惠朗讽殳季真启取。季真善道术，为当时所知。及至，奉呈于华林园。既见真迹，瑰异朱黄，焕赫不敢穷览。至明帝登祚，季真乃启还私廨。陆简寂南下立崇虚馆，《经》亦归于馆。何神真巧运，既闕于马，又发于殳，终授于陆君。殳、马犹巾几负籍幂之荣，而无容入其妙焉。

### 宋庐山简寂陆先生

先生吴兴懿族陆氏之子，讳修静。道降元气，生而异俗。其色怡怡，其德熙熙。明以启著，虚以贯幽。少宗儒氏，坟索讖纬，靡不总该。以为先天抚化，混一精气，与真宰为徒者，载在金编玉字，不形于此。遂收迹寰中，冥搜潜衡、态湘，暨九嶷、罗浮，西至巫峡、峨嵋。如云映松风，丽乎山而映乎水。功成，扣玄感神，授灵诀。适然自得，通交于仙真之间矣。宋元嘉末，因市药京邑，文帝味其风而邀之，先生不顾。及太初



难作，人心骇疑，遂溯江南游，嗜匡阜之胜概，爰构精庐。澡雪风波之思，沐浴浩气，挹漱元精。宋明皇帝袭轩皇淳风，欲稽古化俗，虚诚致礼，至于再三。先生固称幽忧之疾，曾莫降眄。天子乃退斋筑馆，恭肃以迟之，不得已而莅焉。于是顺风问道，妙沃帝心。朝野识真之夫，若水奔壑，如风应虎，其谁能御之？先生拨雾开日，汰沙引金，指方以倒之。中人以上，皆自盈其分，司徒袁粲之流是也。既立崇虚馆，爰氏所宝经诀，并归于我焉。初先离山，有熊虎猿鸟之属，悲鸣拥路，出谷而止。及天子不豫，请事涂炭之斋。是夜卿云纷郁，翌日乃瘳。先时洞真之部，真伪混淆。先生刊而正之，泾渭乃判。故斋戒仪范至于今典式焉。桂阳王构逆暴，白骨遍野。先生具棺槨收而瘞之。其阴德密运，则无得而称也。迨元徽五年春正月，谓门人曰：“吾得还山，可整装。”众感讶，诏旨未从而有斯说。至三月二日，乃偃卧解带，肤体辉烁，目瞳映朗。但闻异香芬馥，满室而已。后三日，庐山诸徒共见先生霓旌霭然，还止旧宇，斯须不知所在，相与惊而异之。顾命盛以布囊，投所在崖谷。门人不忍，遂奉还庐山，时春秋七十二。所谓炼形幽壤，腾景太微者矣。有诏谥曰“简寂先生”，以故居为简寂馆，宗有道也。凡撰记论议，百有余篇，并行于代。门徒得道者，孙游岳、李果之最著称首。后孔德璋与果之书论先生云：先生道冠中都，化流东国。帝王禀其规，人灵宗其法。而委世潜化，游影上玄。微言既绝，大法将谢。法师禀神定之资，居入室之品，学悟之美，门徒所归。宜其整缉遗踪，提纲振纪，光先师之余化，纂妙道之遗风。可以导引末俗，开晓后途者矣。

### 齐兴世馆主孙先生

有吴裔子孙名游岳，字颖达，东阳人也。幼而恭，长而和。其静如渊，其气如春。甄汰九流，潜神希微。尝步赤松涧缙云堂，遂卜终焉之地。宋太初中，简寂先生至自庐岳，云游帝宅。先生乃抠衣而趋，嗣承奥旨，授三洞并所秘杨真人、许掾手迹。因茹术却粒，服谷仙丸，六十七年，颜彩轻润，精爽秀洁。暨简寂上宾，方旋旧室，摅摭道机，断核真假，与褚、章、朱，四君交密。齐永明二年，诏以代师，并任主兴世馆。于是搜奇之士，知袭教有宗，若凤萃于桐，万禽争赴矣。孔德璋、刘孝标等争结尘外之好。后频谢病归山，朝命未许。至永明七年五月内，以挥神托化，沐浴称疾，怡然而终。门徒弟子数百人，唯陶弘景入室焉。自恭事六载，义贯千祀，唯贵知真，故特蒙赏识。经法诰诀，悉相传授。方欲共营转炼，已集药石，将就治合，事故不遂。

### 梁茅山贞白陶先生

吴荆牧陶濬七代孙名弘景，字通明，丹阳秣陵人也。母初娠，梦日精在怀，并二天人降，手执金香炉。觉语左右曰：“当孕男子，非凡人也。然恐无后。”及生，标异。幼而聪识，成而博达。因读《神仙传》，便有乘云驭龙之志。年十七，与

江斅、褚炫、刘俟为宋升明四友。仕齐，历数王侍读。皆总记室，笺疏精丽，为时所重师法。及清溪宫成，献颂。宣旨褒赞，兼欲刻石。王俭议之乃止。年二十余服道后，就兴世馆孙先生谘稟经法，精行道要，通幽洞微。转奉朝请，乃拜表解职，答诏优勤，赐与其厚。公卿祖之征虓亭，供帐之盛，咸云自齐以来，未有斯事。遂入茅山，又得杨、许真书。遂登岩告静，自称“华阳隐居”，书疏亦如此代名。特爱松风，庭院皆植之，每闻其响，便欣然为乐。至明帝时，欲迎往蒋山，恳辞得止。然敕命饷赆，常为烦剧，乃造三层楼栖止。身居其上，弟子居中，接宾于其下，令一小竖传授而已。潜光隐耀，内修秘密，深诚所诣，远属霞人，可谓感而遂通。身長七尺八寸。为性圆通谦谨，心如明镜，遇物斯应。少忧戚，无疾竞，灭喜怒，澹哀乐。有形于言迹者，是显事广物。深慕张良之为人，率任轻虚，飘飘然有云霞气。其所修为，皆自得于心，非傍识能及。尤长于诂正伪谬，地理历算。文不空发，成即为体用。造浑天仪，转之与天相会。其纂《真诰隐诀》、注老君等书二百余卷。至永元二年，深托向晦。及梁武帝革命，议国号未定。先生乃引诸讖记，梁是应运之符。又择郊禅日，灵验昭著，敕使入山，宣旨酬谢。帝既早与之游，自此之后，动静必报。先生既得秘诀，以为神丹可成。每苦无药，帝皆给之。又手敕谘迓，先生画两牛，一牛散放水草之间，一牛著金络头，有人执绳，以杖驱之。帝笑曰：“此人无所求，欲效曳尾龟，岂有可致之理。”或时有大事，无不前已奉陈，时人谓为“山中宰相”。以大通初，献刀二口，一名“喜胜”，二名“成胜”，为佳宝。梁帝《金楼子》云：“于隐士重陶贞白，于士大夫重周弘正。其于义理，情转无穷，真一时名士也。”先生常作诗云：“夷甫任散诞，平叔坐谈空，不意昭阳殿，化作单于宫。”其时人士竞

谈玄理，不习武事。侯景之难，并如所言。大同二年告化时，年八十五。颜色不变，屈伸如常。屋中香气，积日不散。诏赠“中散大夫”，谥“贞白先生”。仍遣舍人监护丧（马枢《得道传》云：授蓬莱仙监），弟子数十人，唯王远知、陆逸冲称上足焉。

### 唐茅山升真王先生

琅琊王远知，陈扬州刺史昙首之子。外祖丁超，梁驾部郎中。其母因梦灵凤有娠，又闻腹中啼。宝志曰：“生子当为神仙宗伯也。”年七岁，日览万言，博总群书，心冥至道。年十五，入华阳事贞白先生，授三洞法。又从宗道先生臧矜，传诸秘诀。陈主召入重阳殿，特加礼敬，赏赉资送还茅山。先生乃于洞西北岭上，结靖室以居，研味玄秘。大建末，靖室中忽有一神人，醉卧呕吐。先生然香礼候。神人曰：“卿是得道之人，张法本亦甚有心。吾欲并将游天台山，石桥广阔可过得，彼多散仙人，又常降甘露，以器盛之，服一升可寿得五百岁。卿能去否？”先生便随出，上东岭，就法本。至山半，忽思未别二三弟子付嘱经书。背行三十步，回望神人，化为鹤飞去。隋晋王广镇扬州，王子相、柳顾言相续奉请。先生既至，斯须而须发变白。王惧而归之，少选复旧。王践祚，敕崔凤举谘逐。帝亲执弟子礼，敕城都起玉清玄坛以处之，仍令代王越师焉。高祖龙潜时，先生尝密告符命。秦王与房玄龄微服就谒，先生迎谓曰：“此中有圣人。”秦王因以实告。先生曰：“方作太平天子，愿自爱也。”秦王诣先生受三洞法。及登极，将加重位，

固请归山。至贞观九年，敕润州于茅山置太平观，并度七人。降玺书曰：“朕昔在藩朝，早获问道，眷言风范，无忘寤寐。近览来奏，请归旧山。已有别敕，不违高志。所令置观，用表宿心。”先生浩气虚怀，语默一致，涵照如镜，应物无私。时有窦德玄，先经杨州，遇司命使者言其有重禄，以九九数当终命。德玄求哀于使者。云：“真人王法主是少室仙伯，检录人鬼之任。关奏天曹，无不即应。”德玄遂恳祈于先生。先生不得已，因与请命。使者报曰：“更延十三年。”至高宗朝，德玄为左相。捐馆舍之日，言皆如之。故举世呼先生为“法主”，又知已授仙职。后谓潘师正曰：“吾昨见仙格，以小时误损一童子吻，不得白日升天。署少室仙伯，将行在近。”翌日，沐浴加冠衣，焚香而寐。告化时年一百二十六岁。潘师正、徐道邈同得秘诀，为入室弟子。陈羽、王轨次之。其余各栖洞府，终身无替。高宗调露二年，赠太中大夫，谥曰“升玄先生”。乃敕置太平观，度满四十九人。天后嗣圣初，又赠金紫光禄大夫，改谥“升真先生”。明皇天宝中，敕李含光于太平观造影堂写真像，用旌仙迹焉。

### 中岳体玄潘先生

中岳道士，前有天师，次称潘先生。先生名师正，赵州赞皇人。少丧母，庐于墓侧，以至孝闻。先生真气内融，辉光外发，如隋珠荆玉，不假于饰而人自宝之。隋大业中入道，王仙伯尽以隐诀及得符箓相授。栖于太室逍遥谷，积二十年，但嚼松叶饮水而已。高宗皇帝每降玺辇，亲诣精庐，先生身不下堂，

接手而已。及问所须，答言松树清泉，山中不乏。帝与武后共尊敬之，留连信宿而返。寻敕于所居造崇唐观，岭上别起精思院以处之。敕置奉天宫，令于逍遥谷口特开一门，号曰“仙游门”。复于苑北面置寻真门。太常奏仙乐，又以《祈仙》、《望仙》、《翹仙》为曲，皆谓先生名焉。前后赐诗五百首。先生每叹曰：“大丈夫业道，不能灭影云林，以烦世主，吾之过也。”遂欲东求蓬莱，孤舟入海。属帝敦笃斯道，祈叹愈加，踟蹰山隅，辍策未往。以永淳元年告化，时年八十九。帝追望不止，赠太中大夫，谥曰“体玄先生”。先生神标仙骨，雅似隐居。夫阶真韬冥，练景游化者，其有类乎？弟子十八人，并皆殊秀。然鸾姿凤态，眇映云松者，有韦法昭、司马子微、郭崇真，皆禀训瑶庭，密受琼室，专玉清之业，遗下仙之俦矣。时陈子昂又作颂云云。

### 王屋山贞一司马先生

后周琅琊公司马裔玄孙，名承祯，字子微，河内人也。少事体玄先生，传其符篆及辟谷、导引、服饵之术。体玄特相赏异，谓曰：“我自简寂传授正法，至汝六叶矣。”先生是后因浪游，远诣于天台山。武太后闻其名，召至都，降手诏赞美。及将还，敕李峤饯于洛桥之东。景云二年，睿宗令其兄子承祿，就山迎至京，入宫中间以阴阳数术。先生对曰：“《经》云：‘为道日损，损之又损之，以至于无为。’且目所见者，损之尚未能已，岂复攻乎异端，而增其智虑哉？”帝曰：“治身无为，则清高矣。治国无为，如何？”对曰：“国犹身也。老君

曰，游心于澹，合气于漠，顺物自然而无私焉，而天下理。’  
《易》曰：‘大人与天地合其德。是知不言而信，不为而成。无为之旨，理国之道也。’帝叹曰：“广成之言，何以加此！”因固辞还山。乃赐宝琴一张及霞文帔。中朝词人赠诗者百余首。开元九年，明皇又遣使迎至京。帝亲受法箓。前后赏赐甚厚。十年，驾入都。先生又请归山。帝赋诗，于王屋山自选形胜，置坛宇以居之。先生因上言：“今五岳之神祠，皆是山林之神，非正真之神也。五岳皆有洞府，各有上真人降任其职，请别立斋祠。”帝从其言，因置真君祠。其形像制度，皆请先生推按道经创为之焉。先生颇善篆、隶，写三体《道德经》，刊正文字，著五千三百八言，为真本。又撰《修真秘旨》，窥之者得其门矣。敕于先生所居置阳台观，帝自书额，并相续赐赉甚厚。至二十三年告化时八十九。制赠银青光禄大夫，谥曰“贞一先生”。又御制碑文。先生门徒甚众，唯李含光、焦静真得其道焉。静真虽禀女质，灵识自然，因精思间，有人导至方丈山，遇二仙女，谓曰：子欲为真官，可谒东华青童道君，受《三皇法》。请名氏，则贞一也。乃归而诣先生，亦欣然授之。

### 茅山玄静李先生

弘孝威者，晋陵人。家本纯儒，州里号“贞隐先生”。避敬宗皇帝讳，改为李氏。其子曰含光，年十三，辞家奉道。端视清霄，慈向蠢类；暗室之中，如对君亲。时人见之，情色皆敛。幼攻篆、隶，或有称过其父者，一闻此义，终身不书。后事贞一先生，云篆宝书，倾囊相付。既而目之曰：“真玉清之

客也！”抱虚无而行功者，于道不穷；托幽阜而灭迹者，于德亦浅。承之自远，宜且救人。是引后学升堂稟玄训也。先生元气不散，瑶图虚映，达灵久矣。晦辉为常，动非用开，静非默闭。当吹万之会，若得一之初。应迹可名，常道不可名也。孕育至化，虚融物心，心一变至于学，学一变至于道。同淑气自来，得之不见。所以抠衣而进者，仰范元和，若秋芳之依层巘，夏潦之会通川也。先生忘情于身而慈于人，祯祥屡应，视同众象。士庶谘询，色受其意。常令章坛闭院，醺火择薪。精微诚敬，率皆类此。开元末，明皇礼请先生而问理化。对曰：“道德，君王师也。昔汉文行其言，仁寿天下。”次问金鼎，对曰：“道德，公也；轻举，公中私也。时见其私。圣人存教，若求生徇欲，乃似系风耳。”帝加“玄静”之号以尊之。无何，固以疾辞，东还句曲山。敕于其所居造紫阳观以居焉。自后天书继至，资奉相续，及公卿祈请，往来无虚月。卒使玄门之中，转见真操。持慈俭之宝，归羲皇之风。至矣哉，先生之教也！所撰《仙学传》，及《论三玄异同》，又著《真经》并《本草音义》，皆备载阙遗，穷颐精义矣。以大历四年冬十一月，顾谓入室弟子韦景昭、孟湛然曰：“吾将顺化。”神气怡然，若坐亡长往，时年八十七。灵云降室，芝草丛生，执简如常，和色不去。据《真经》，斯乃秉化自然，仙阶深妙者也。景昭授皋洞虚，洞虚授李方来，皆嗣德不坠。时柳识又颂先生云：“古有强名，元精希夷。黄帝遗之，先生得之。纵心而往，与一相随。真性所容，太元同规。日行仙路，不语到时。人言万龄，我见常姿。明皇仰止，徵就京师。紫极徒贵，白云不知。遐方后学，来往怡怡。空有多门，真精自持。顺化而去，人焉能窥？玄科秘诀，本有冥期。”



## 卷六 三洞经教部

### 三洞（并序）

《道门大论》云：三洞者，洞言通也。通玄达妙，其统有三，故云三洞。第一《洞真》，第二《洞玄》，第三《洞神》。乃三景之玄旨，八会之灵章，凤篆龙书，金编玉字，修服者因兹入悟，研习者得以还源。故《玉经隐注》云：三洞经符，道之纲纪。《本际经》云：若有经文，具十二部，应三洞者，是名正法。《洞真》以不杂为义，《洞玄》以不滞为名，《洞神》以不测为用。故洞言通也。三洞上下，玄义相通。《洞真》者，灵秘不杂，故得名真。《洞玄》者，生天立地，功用不滞，故得名玄。《洞神》者，召制鬼神，其功不测，故得名神。此三法皆能通凡入圣，同契大乘，故得名洞也。

然三洞所起，皆有本迹。《洞真》之教，以教主天宝君为迹，以混洞太无元高上玉皇之气为本。《洞玄》之教，以教主灵宝君为迹，以赤混太无元无上玉虚之气为本。洞神之教，以教主神宝君为迹，以冥寂玄通元无上玉虚之气为本也。又云：天地是玄义，虚是精义，神是无累之义。此既三洞垂法，从仙达圣，品级转迁之理也。谓修学之人，始入仙阶，登无累境，故初教名洞神神宝。其次智渐精胜，既进中境，故中教名洞玄

灵宝。既登上境，智用无滞，故上教名洞真天宝也。通名宝君者，宝是可尊，君是群义，明为群生之所尊仰也。又《洞真法》天宝君住玉清境，《洞玄法》灵宝君住上清境，《洞神法》神宝君住太清境。此为三清妙境，乃三洞之根源，三宝之所立也。今明玉以无杂，就体而名玉清也。上以上登逐用，而名上清也。泰以通泰体事，故为太清也。又修道之人，初登仙域，智用通泰，渐升上境，终契真淳。故以三境三名，示其阶位之始也。通名三清者，言三清净土，无诸染秽。其中宫主，万绪千端，结气凝云，因机化现，不可穷也。

又三洞之元，本同道气，道气惟一，应用分三。皆以诱俗修仙，从凡证道，皆渐差故别，有三名。其经题目：《洞神》即云洞神三皇，《洞玄》即云洞玄灵宝，《洞真》即杂题诸名，或言以教垂文，或以色声著体，并是难思知用，随方立名耳。

原夫经教所出，按《业报经》、《应化经》并云：天尊曰：吾以道气，化育群方。从劫到劫，因时立化。吾以龙汉元年，号无形天尊，亦名天宝君。化在玉清境，说《洞真经》十二部，以教天中九圣，大乘之道也。《玉纬》云：《洞真》是天宝君所出，又云：以元始高上玉帝出《上清洞真之经》三百卷，《玉诀》九千篇，《符图》七千章，秘在九天之上，大有之宫。后传玉文付上相青童君，封于玉华宫。元景元年，又封一通于西城山中。又太帝君命搏桑太帝暘谷神王出《独立之诀》三十卷、《上经》三百卷行之于世。又襄城小童授轩辕黄帝《七元六纪飞步天纲》之经。汉元封元年，西王母、上元夫人同授汉武帝《灵飞六甲上清十二事》。又太元真人茅盈受西城王君所传玉佩金珰缠璇之经。又玄洲上卿苏林真人受涓子所传“三一”之法。又真人王褒，汉平帝时，西城王君所传上清宝经三十一卷，晋成帝时于汲郡传南岳魏夫人。夫人之子传茅山杨羲，羲

传许迈，迈复师南海太守鲍靓，受上清诸经。迈弟谧、谧子玉斧，皆受《三天正法曲素凤文》。

天尊曰：吾以延康元年，号无始天尊，亦名灵宝君，化在上清境，说洞玄经十二部，以教天中九真，中乘之道也。《玉纬》云：洞玄是灵宝君所出，高上大圣所传。按元始天王告西王母曰：太素紫微宫中，金格玉书灵宝文，真文篇目十二部妙经，合三十六帙。又《四极盟科》云：洞玄经万劫一出，今封一通于劳盛山。昔黄帝于峨嵋山诣天真皇人，请灵宝五芽之经。于青城山诣宁封真君，受灵宝龙躔之经。又九天真王降于牧德之台，授帝尝灵宝天文。帝行之得道，遂封秘之于鍾山。又夏禹于阳明洞天感太上，命绣衣使者降授灵宝五符以理水，檄召万神。后得道为太极紫庭真人。演出大、小劫经，中山神咒，八威召龙等经。今行于世矣。时太极真人徐来勒，与三真人以己卯年正月降天台山，传《灵宝经》以授葛玄。玄传郑思远，思远以灵宝及三洞诸经付玄从弟少传奚，奚付子护军悌，悌付子洪，洪即抱朴子也。又于马迹山诣思远告盟奉受。洪又于晋建元二年三月三日于罗浮山付弟子安海君、望世等。后从孙巢甫，晋隆安元年传道士任延庆、徐灵期，遂行于世。今所传者，即黄帝、帝尝、禹、葛玄所受者。十二部文未全降世。

天尊曰：吾以赤明之年，号梵形天尊，亦名神宝君，化在太清境，说洞神经十二部，以教天中九仙，小乘之道也。《玉纬》云：洞神经是神宝君所出，西灵真人所传。此文在小有之天，玉府之中。《序目》曰：《小有三皇文》，本出《大有》，皆上古三皇所授之书，亦诸仙人所授，以藏名山。昔黄帝东到青丘，过风山，见紫府真人，受《三皇内文》。又黄卢子、西岳公皆受禁虎豹之术。真人介象受乘虎之符。《八威使者受策虎豹文》。又鲍靓于晋惠帝永康年中，于嵩山刘君石室，清斋

思道，忽有刻石《三皇天文》出于石壁。靚以绢四百尺告玄而受。后授葛洪。又壶公授费长房，亦有洞神之文。石室所得，与今《三皇文》小异。陆修静先生得之，传孙游岳。游岳传陶隐居。其天中十二部经，未尽出世。今传者是黄帝、黄卢子、西岳公、鲍靓、抱朴子所授者也。三洞既降，遂有大、小、中乘，初、中、后法三种分别，以教于世。夫三洞者，盖是一乘之妙旨，三景之玄言。了达则上圣可登，晓悟则高真斯陟。龙章凤篆，显至理之良诠；玉简金书，引还元之要术。故《玉经隐注》云：三洞经符，道之纲纪；太虚之玄宗，上真之首经矣。岂中仙之所闻哉？《正一经》又云：三洞妙法，兼而该之，一乘道也。

### 三洞品格

《八素真经》云：太上之道有三；上真之道有七；中真之道有六；下真之道有八。今出如左：

《玉清隐书》

《神虎大符》

《金虎真符》

右是太上之道。行此真道，得为太上之真位，为上真玉皇君也。

《太上郁仪奔日文》

《太上结炁奔月章》

《太上八素奔晨隐书》

《太微帝君飞行天纲上经》

《高上大洞真经三十九章》

《金阙灵书紫文上经》

《黄老八道九真中经》

右上真之道。总而行之其道，则为上清上元真人。

《太丹隐书朝真上经玉帝神符》

《三天正法凤真之文九真升玄文》

《三元布经四真之章太上金策》

《方诸洞房玉字上经六甲灵飞符》

《灵宝秘符三皇内文天文大字》

《青要紫书曲素诀词三五顺行经》

右中真之道。总而行之，则为上清中道真人。

《上清九化十变三九素语》

《丹景道精隐地八术》

《天关三图玄皇玉书》

《神州七变七转洞经》

《紫度中方石精玉马水母经》

《绛绿黄道玉目龙书众文》

《素奏中章五行秘符》

《五帝玉女上元五书》

右下真之道。总而行之，则为上清下元真人也。

元始天王告西王母曰：太上紫微宫中，金格玉书，灵宝真文篇目有十部妙经，合三十六卷，是灵宝君所出，高上大圣所撰。具如灵宝疏释，有二十一卷已现于世，十五卷未出。孟法师云：高玄大法师夏禹师仙公所撰十卷，及《修行要用》五卷，足为三十六，合为六卷，即今世所行。其后分有内教十卷，即是升玄之文，亦世所行也。按《太玄都四极盟科》曰：洞玄经万劫一出，今封一通于太山，一通于劳盛山。元始天王告西王

母云：太上紫微金格玉书灵宝真文十部妙经，太上所秘，不尽传世。王母所得，讎已极源；五岳所藏，亦多不备。龟山西室，王屋南洞，天经备足。昔黄帝登峨嵋山，诣天真皇人请受此法，驾龙升玄。帝尝之时，九天真王驾九龙之舆，降牧德之台，授帝尝此法。帝后封之于锺山。夏禹所感之书出见，有异今略序者。按《真一自然经》云：太极真人夏禹，通圣达真。太上命钞出灵宝自然经，分别有大、小劫品经、《栖山神咒八威召龙神经》云：小劫至时，必脱大水焉。又云：徐来勒等三真，以己卯年正月一日日中时，于会稽上虞山传仙公葛玄。玄字孝先。后于天台山传郑思远、竺法兰、释道微。道微传吴主孙权等。仙公升化，令以所得三洞真经，一通传弟子；一通藏名山；一通付家门子孙，与从弟少传奚。奚子护军悌，悌子洪。洪又于马迹山诣思远，盟而授之。洪号曰“抱朴子”。抱朴以建元六年三月三日于罗浮山，隆安之末传道士任延庆、徐灵期之徒。相传于世，于今不绝。《玉纬》云：昔元始天王以开皇元年七月七日丙午中时，三天玉童传皇上先生教曰：若白简青篆之人，自然得乎此法。又虚无先生传于唐尧，后圣帝君命小有天王撰集宣行。青童君云：自唐尧之后，得上文者乃七千人。此飞龙玄升，或沦化潜引，不可具记。得道者皆藏文五岳。经内明三劫化主，及开皇劫，以此妙经生天立地。大圣应于始青之中，号元始天尊，或太上道君。人天化主，此如三宝科释，今不具详。《玉经隐注》云：《三皇天文》、或云《洞神》、或云《洞仙》、或云《太上玉策》。洞仙者，明此教法能通行者登太清仙，故曰洞仙也。玉策者，是策进之名，亦是扶持之目，谓策勤行者，扶持使仙也。《三皇文》者，《洞神》第十四云：第一《天皇文内字》。字者，志也。明天使人仰观上文，心识觉悟，内志习勤，外不炫耀。第二《地皇内记书文》。文者，

明也。内学志明，记正无惑，舒以广济，缘明至极也。第三《人皇文》。文者，明也。人能俯察地理，法地则天，定内安外，普度无穷，同归玄门，由学所得。此并经释也。又称《三皇经》者，谓三皇各受，隔世禀行。又八帝之经，亦是随方为化。犹如灵宝一文，五帝分宝，即为五帝文。鲍南海《序目》云：上古初以授于三皇，名之《三皇文》也。《洞神》第六又云：仙人曰：皇文乃是三皇已前，鸟迹之始大章者也。第三又云：皇文帝书，皆出自然，虚无空中，结气成字。又云：本源无异矣。至于三皇，各受一部，分为三元，三才之道也。第十三卷云：三元八会，自然成文。方丈悬空，字字各现。第十四云：得失由人，此文不灭；圣真宝之，镇太极宫中也。

《序目》云：《小有三皇文》本出《大有》，皆上古三皇所受之书也。《天皇》一卷，《地皇》一卷，《人皇》一卷，凡三卷，皆上古三皇时所授之书也。作字似符文，又似篆文，又似古书。各有字数。神宝君所出，西灵真人所撰。此文在小有之天，玉府之中。诸仙人授之，以藏诸名山石室，皆不具足，唯蜀郡峨嵋山具有此文。昔仙人智琼以《皇文》二卷，见义起不能解，遂还之。王公以帛公精勤所得，传之贤达，宣行至今。《大字序说》十四篇，是天文次第之诀。《小有经下记》所载十一卷，推部本经，分别仪式，合一十四卷。今孟先生所录者，是其山中所传，犹十一卷。此二本并行于世。抱朴子云：昔黄帝东到青丘，过风山，见紫府先生，受《三皇内文》。晋时鲍靓学道于嵩高，以惠帝永康二年于刘君石室清斋，忽有《三皇文》刊石成字，乃依经以四百尺绢告玄而受。后亦授葛洪。按《三皇经序》云：鲍君所得石室之文，与世不同，洪或兼受也。陆先生时所得初传弟子孙游岳，有四卷而已。孙后传陶先生。先生分析支流，稍至十一卷耳，即山中所传者是。《命召咒文

》云：三皇治世，各受一卷以理天下。有急，皆召天地鬼神敕使之，号曰《三坟》。后有八帝，次三皇而治。人各授一卷，凡八卷，号曰“八索”。八帝之治，邪鬼逆窜。黄帝述以断邪恶。

### 七部（并序）

夫七部者，盖乃总道化之教方，统玄门之正典，包罗群艺，综括众文。六综之辩莫阶，五时之说非拟。睹斯法海，靡不成真；涉此慈波，咸皆舍伪者也。

七部者，今因《正一经》次；一者洞神部、二者洞玄部、三者洞真部、四者太清部、五者太平部、六者太玄部、七者正一部，前之三部，已如三洞义释。今释后四：言太清者，孟法师云：大道，气之所结，清虚体大，故曰太清，以境目经也。今谓此经是从所辅之境得名，何者？此经既辅洞神，洞境是太清故也。亦未必示者，此经既明金丹之术，服御之者远升太清，故言太清也。太平者，太言极太，平谓和平。明六合太通为一，正平之气斯行，故《太平经》云：今平气行矣。平亦是安。又云：欲复古太平之法，先安中气也。又云：三五气和，日月光明，乃为太平。《尔雅》云：明，成也。此亦可训明。言明君治世，成济品物，为太平也。或有解云三阶正为太平。或有解云景星现曰太平。此并一事为释耳。今明此经现世，能使六合同风，万邦共轨，君明物度，可谓太平也。太玄者，孟法师云是太玄都也。今为老君既隐太平之乡，亦未详此是何所，必非摄迹还本，遣之又遣，玄之又玄，寄名太玄耶？此经名太玄



者，当是崇玄之致，以玄为太，故曰太玄也。若言起自玄都，不无此义。但七部皆尔，非独此文也。正一者，《盟威经》云：正以治邪，一以统万。又言：法文者，法以合离，文以分理。此言众生离本，所以言离，故下文云：反离还本，合真舍伪，由法乃成。言“统万”者，总摄一切，令得还真，故下文云：一切学士，觉悟少欲，欲少近乎道宗，宗道在乎戒也。《治邪文》云，众生根粗，去道赊邈。大道慈悲，立法训治，趣令心开，两半成一，一成无败，与常道合真。故曰“正一法文”也。通言“部”者，以部别为义。三部通名“太”，正一独称“正”者，以三部辅于三洞大法，故言“太”。正一既遍陈三乘，简异邪道，故称为“正”也。

## 四辅

### 第一太清者太一为宗

《老君演说建丰经》云：微妙之旨，出于太清。《天老秘讖经》云：生道实妙，人不释诚；释诚不倦，升太清也。《九君申明道要》云：《太清中经》，元始出来；出于老君，传付元君、九皇真人，祖习不绝，皆开此君也。《正一经》云：《太清金液天文地理》之经四十六卷。此经所明，多是金丹之要。又著纬候之仪，今不详辩。按黑录所明，即汉安元年，太上以此经四十六卷付于天师，因此至今也。

## 第二太平者三一为宗

《老君所说》甲部第一云：学士习用其书，寻得其根；根之本宗，三一为主。《玉纬》云：太平者，六合共行正道之号也。今宛利世界九州八十一域，摆除六天，上问神人，详说古道，家国安宁，长居庆乐。丁部第四云：欲知吾道大效，付贤明道德之君，使其按用之，立与天地乃响应，是其大明效证验也。甲部第一又云：诵吾书，灾害不起，此古贤圣所以候得失之文也。又云书有三等：一曰神道书，二曰核事文，三曰浮华记。神道书者，精一不离，实守本根，与阴阳合，与神同门。核事文者，核事异同，疑误不失。浮华记者，离本已远，错乱不可常用，时时可记，故名浮华记也。又云：澄清大乱，功高德正，故号太平。若此法流行，即是太平之时。故此《经》云应感而现，事已即藏。又云：圣主为治，谨用兹文；凡君在位，轻忽斯典。然其卷数，或有不同。今甲乙十部合一百七十卷，今世所行。按《正一经》云，有《太平洞极》之经一百四十四卷。今此经流亡殆将欲尽。此之二经，并是盛明治道，及证果修因，禁忌众术等也。若是一百四十卷《洞极经》者，按《正一经》，此汉安元年太上亲授天师，流传兹目。若是甲乙十部者，按《百八十戒》云，是周赧王时，老君于蜀郡临邛县授于琅琊于吉，尔来又隐。近人相传云：海嵎山石函内有此经。自宋梁以来，求者不得。或往取之，每值风雨暝暗，雷电激扬。至陈祚开基，又屡取不得。每至山所，风雨如故。至宣帝立，帝好道术，乃命太平周法师，讳智响往取此经。法师挺素清高，良难可序。受请至山，清斋七日，将就取经。未展之顷，朝云暗野，晓雾昏山。师拜礼进趋，天光开朗。乃命从人数十，齐心运力，前跪取函，函遂不得开。法师敛气开之，乃见此经，

请还台邑。帝乃具礼迎接，安于至真观供养。经放大光明，倾国人民并皆瞻仰。帝命法师于至真观开敷讲说，利安天下，时称太平。自此以来，其文盛矣。帝因法师得此经，故号法师为太平法师，即藏靖法师之稟业也。

### 第三太玄者重玄为宗

《老君所说故经》云：玄玄至道宗。然其卷数，亦有不同。《正一经》云：《太玄道经》二百七十卷。今《玉纬》所撰，止有一百三十五卷。又非尽是本经，余者不见。当时运会未行，然此经所明，大略以玄为致，故《太玄经》云：无无曰道，义极玄玄。乐真人云：《道德五千文》，兹境之经也。旧云《道德经》有三卷。《玉纬》云：其中经珍秘，部入太清。亦未详此解。按《西升序》云：列以二篇，乃河滨授于汉文。又云：《素书》二卷，尹喜所受，凡得五卷。既说有三时，玄靖法师开为三部，宗致《道德》二卷，是先说以道德为体，其致则总，以其文内无的对扬之旨故也。《西升》次说以无欲为体，故云当持上慧，源妙真一。后说既盛明真一，故以真一为体。其源流者，所授尹生五卷，由渐甚多，今不更说。通诸一部者，按《正一经》云：太上亲授天师《太玄经》，有二百七十卷。推检是汉安元年七月得是经。尔来传世，乃至今日。但其零落阙遗，亦是运还天府耳。

### 第四正一者真一为宗

《太上所说正一经》，天师自云：我受于太上老君，教以正一新出道法。谓之新者，物厌故旧，盛新新出，名异实同。

学正除邪，仍用旧文，承先经教，无所改造，亦教人学仙，皆用上古之法。王长虑后改易法师，故撰传录文，名为《正一新出仪》。故天师云：后世男女，必改吾法。贪财爱色，不施散一切。汝曹重檐地狱为家，宜各慎之！《正一经》云：《正一法文》一百卷，今孟法师录亦一百卷，凡为十帙。未知并是此经不耳。斯经所明，总述三乘之用。故此经云：《正一》遍陈三乘。王长所撰《新出之仪》四十卷，但未有次第。长既随师升玄，于时多承口诀，祇录为卷名，未论次第也。其源流者，《玉纬》云：昔元始天王以开皇元年七月七日丙午中时，使玉童传皇上先生白简青篆之文，自然得乎此法。虚无先生传于唐尧，又后圣帝君命小有天王撰集宣行。青童云：自尔之后，得此文者乃七千人。皆飞龙玄升，或沦化潜引，不可具记。得道者藏文五岳，精思积感，先得此文。此文极妙，得之随缘。文来或出河洛，或戒经方，依因结果也。汉末有天师张道陵，精思西山，太上亲降，汉安元年五月一日，授以三天正法，命为天师；又授正一科术要道法文。其年七月七日，又授《正一盟威妙经》、三业六通之诀，重为三天法师正一真人。按《正一经治化品目录》云：《正目经》九百三十卷，符图七十卷，合千卷。付天师《正一》百卷即在其内。后会教重，自当具显道本。《尊卑经》云：真经要妙，其文无双，三十六万四千正言无数，不离正一。演气布化，《五千》为宗，真精要妙，三洞为最也。然此法虽复久远，论其所盛，起自汉朝。天师既升天后，以此法降与子孙、弟子、嗣师、系师，及诸天人一切内外至信者，修行传习。屡有传道之人，今不具载。此文因此行矣。谨按《正一经图科戒品》云：太清经辅洞神部金丹以下仙业；太平经辅洞玄部，甲乙十部以下真业；太玄辅洞真部，《五千文》以下圣业。《正一法文》宗道德，崇三洞，遍陈三乘。《

太平经》云：辅者，父也。今言三太辅三洞者，取其事用相资，成生观解，若父之能生也。众生钝劣，闻深教不解，更须开说翼成，方能显悟，即是扶替之义也。

## 十二部

夫十二部经者，盖是通三乘之妙训，贯七部之鸿规；寻之者知真，玩之者悟理；实出生死之津梁，入大道之途径。故《正一经》云：三乘所修，各十二部。

夫十二部道义，通于三乘。今就中乘为释，余例可知。十二者：第一本文，第二神符，第三玉诀，第四灵图，第五谱录，第六戒律，第七威仪，第八方法，第九众术，第十记传，第十一赞颂，第十二表奏。言本文者，即三元八会之书，长行元起之说，其例是也。紫微夫人云：三元八会之书，太极高真所有。本者，始也，根也。是经教之始，文字之根。又为得理之元，万法之本。文者，分也，理也。既能分辨二仪，又能分别法相。既能理于万事，又能表诠至理。如木有文，亦名为理也。不名真文者，十二义通三乘真文教主中，洞非通义也。神符者，即龙章凤篆之文，灵迹符书之字是也。神，则不测为义；符，以符契为名。谓此灵迹，神用无方，利益众生，信若符契。玉诀者，如河上释柱下之文，玉诀玉诀：对奥秘经文的阐幽释难。解金书之例是也。玉名无染，诀语不疑。谓决定了知，更无疑染。灵图者，如含景五帝之像，图局三一之形，其例是也。灵，妙也；图，度也。谓度写妙形，传流下世。谱录者，如生神所述三君，立本所陈五帝，其例是也。谱，绪也；录，记也。绪

记圣人以为教法，亦是绪其元起，使物录持也。戒律者，如六情、十恶之例是也。戒者，解也，界也，止也。能解众恶之缚，能分善恶之界，防止诸恶也。律者，率也，直也，栗也。率计罪愆，直而不枉，使惧栗也。威仪者，如斋法典戒，请经轨仪之例是也。威是俨凝可畏，仪是轨式所宜，亦是曲从物宜，为威法也。方法者，如存三守一，制魄拘魂之例是也。方者，方所；法者，节度修行。治身有方所节度也。众术者，如变丹炼石，化形隐景之例是也。众，多也；术，道也。为趣至极之初道也。记传者，如道君本业，皇人往行之例是也。记、志也；传，传也。谓记至本业，传示学人。赞颂者，如《五真新颂》、《九天旧章》之例是也。赞以表事，颂以歌德，故《诗》云：颂者，美盛德之形容。亦曰偈。偈，憩也。以四字，五字为憩息也。表奏者，如六斋启愿，三会谒请之例是也。表，明也；奏，凑也。谓表心事，上共凑大道。通言部者，以部类为义，亦以部别为名。谓别其义类以相从也。无方释义，十二互通，从通制别，意如前释。然十二部内，唯本文有通相、别相，以十二部皆是文字为得理之本，通名为本文。本文犹是经之异名。十二部既通名为经，是通相本文也。于通相文内，则出一部是五篇真文，有生天立地之能，是一切法本，为别相本文也。不可言十二部皆是玉诀，别出一部是别相玉诀也。余部例然。又有长行为偈本称本文者。余二乘经望此可知。本文是生法之本，数自居前。既生之后，即须扶养，故次辩神符。八会云篆，三元玉字，若不谙炼，岂能致益？故须玉诀，释其理事也。众生暗钝，直闻声教，不能悟解，故立图像，助以表明。圣功既显，若不祖宗物情，容言假伪，故须其谱录也。此之五条，生物义定，将欲辅成，必须鉴戒，恶法文弊，宜前防止，故有戒律。既舍俗入道，出家簪于师宝，须善容仪，故次明威仪也。又前

乃防恶，宿罪未除，故须修斋轨仪，悔已生恶也。仪容既善，宿根已净，须进学方术，理期登真要。假道术之妙，显乎记传，论圣习学，以次相从也。亦是学功既著，名传竹帛，故次记传。始自生物，终乎行成，皆可嘉称，故次有赞颂。又前言诸教，多是长行散说。今论赞颂，即是句偈。结辞既切，功满德成，故须表申灵府，如斋讫言功之例，故终乎表奏也。又前十一部，明出世之行；后之表奏，祛世间之灾。如三元涂炭，子午请命之流，皆关表也。

### 三十六部

三乘之中，乘各有十二部，故合成三十六部也。论其相摄者，一往大乘具有三十六部，中乘具有二十四部，小乘唯十二部。何者？以大得兼小故也。又大乘得学小，为遍行也。小不得兼学大，故止十二。中乘可知。此远论界内化门意也。再论三洞，即是会前三乘入此一乘，故三洞、大乘唯一耳。而又约三洞开三乘者，此欲示一乘之内，无所不包。又云有二经不同：一者，太玄部《老君自然斋仪》云：经有三条：一曰天经，天真所修；二曰地经，洞天所习；三曰人经，世间所行三景之法。相通而成一，曰三乘。三乘之用，各有十二部，交会相通，总曰三十六部。十二条：一曰无为，二曰有为，三曰无为而有为，四曰有为而无为，五曰续爱，六曰断爱，七曰不断不续，八曰分段，九曰无断，十曰知微，十一曰知彰，十二曰适用。当境而曰十二部。隐显兼施则有七十二部。今谓此文所出前三经，自可是教。后之十二，意在行也。二者，正一所明十二

者：一者心迹俱无为，二者心无为迹有为，三者心有为迹无为，四者舍家处人间，五者携家入川泽，六者出世与人隔绝，七者与世和光同尘，八者断欲斯断，九者不断而断，十者游空中，十一者在地下，十二者住天上。三乘皆有十二，故成三十六部也。释此文意，已在位业义科。但此两经名味不同者，亦当教义自是一途之说耳。太玄所出，多据于心；正一所明，通论心迹。但太玄十二中第八一事言分段，考事涉迹，又不显十二部经科。



## 卷七 三洞经教部·本文

### 说三元八会六书之法

《道门大论》曰：一者阴阳初分，有三元五德八会之气，以成飞天之书，后撰为八龙云篆明光之章。陆先生解三才，谓之三元。三元既立，五行咸具。以五行为五位，三五和合，谓之八会，为众书之文。又有八龙云篆明光之章，自然飞玄之气，结空成文字，方一丈，肇于诸天之内，生立一切也。按《真诰》紫微夫人说，三元八会之书、建文章之祖，八龙云篆是根宗所起，有书之始也。又云八会是三才五行，形在既判之后。《赤书》云：《灵宝赤书》五篇真文，出于元始之先。即此而论，三元应非三才，五德应非五行也。此正应是三宝丈人之三气，三气自有五德耳。故《九天生神章》云：天地万化，自非三元所育，九气所导，莫能生也。又曰：三气为天之尊，九气为万物之根。故知此三元在天地未开，三才未生之前也。宋法师解八会，只是三气五德。三元者：一曰混沌太无元，高上玉皇之气；二曰赤混太无元，无上玉虚之气；三曰冥寂玄通元，无上玉虚之气。五德者，即三元所有。三五会即阴阳和。阴有少阴、太阴，阳有少阳、太阳，就和中之和，为五德也。篆者，撰也。撰集云书，谓之云篆。此即三元八会之文。八龙云篆之章，皆

是天书，三元八会之例是也。云篆明光，则五符五胜之例是也。八会本文，凡一千一百九字。其篇真文合六百六十八字。是三才之元根，生立天地，开化人、神、万物之由。故云有天道、地道、神道、人道、此之谓也。《玉诀》云：修用此法五篇，皆分字数，各有四条。

一者主召九天上帝校神仙图篆，求仙致真之法；二者主召天宿星官正天分度，保国宁民之道；三者摄制酆都六天之气；四者敕命水帝制召龙鸟也。其诸天内音，一天有八字，三十二天合二百五十六字。论诸天度数期会、大圣真仙名讳位号、所治官府台城处所、神仙变化升降品次、众魔种类、八鬼生死转轮因缘。其十三字是五方元精名号、服御求仙、练神化形、白日腾空之法。馀一百二十二字阙元音解。

二者演八会为龙凤之文，谓之龙书。此下皆玄圣所述，以写天文也。

三者轩辕之时，仓颉傍龙凤之势，采鸟迹为古文，以代结绳，即古体也。

四者周时史籀，变古文为大篆。

五者秦时程邈，变大篆为小篆。

六者秦后盱阳，变小篆为隶书。又云汉谓隶书曰佐书，或言程邈狱中所造，出于徒隶，故以隶为名。此即为六书也。

## 云篆

又有云篆明光之章，为顺形梵书。文别为六十四种，播于三十六天。今经书相传，皆以隶字解天书，相杂而行也。

### 八体六书六文

一曰大篆，二曰小篆，三曰刻符，四曰虫书，五曰摹印，六曰署书，七曰殳书，八曰隶书。王莽时，使司徒甄丰校定文字，复有六书：一曰古文，孔子壁中书；二曰奇字，古文异书；三曰篆书；四曰佐书，即隶书；五曰缪篆，所以摹印；六曰鸟篆，翻言也。仓颉始书，已应有笔。《诗》云“彤管”，则是笔也。而言蒙恬造笔者，盖恬为秦将，三世有名，制削笔精，能独擅名也。汉和帝时，蔡伦始造纸，尔前唯书简牒。牒者，诮牒语事也；简者，在简而不繁也。但知本是天书金简，余地书已下八体六文，皆从真出外，学者自更详之。又未知何时书于此经，在纸作卷。今谓劫初已自有笔。太真所书，何言无也？及以八体六文等耶？以天尊造化，具一切法也。后人承用，自有前后耳。六文：一曰象形，日月是也；二曰指事，上下是也；三曰形声，河海是也；四曰会意，武信是也；五曰转注，考老是也；六曰假借，令长是也。

### 符字

一切万物，莫不以精气为用。故二仪三景，皆以精气行乎其中。万物既有，亦以精气行乎其中也。是则五行六物，莫不有精气者也。以道之精气布之简墨，会物之精气以却邪伪，辅

助正真；召会群灵，制御生死；保持劫运，安镇五方。然此符本于结空太真，仰写天文，分置方位，区别图象符书之异。符者，通取云物星辰之势；书者，别析音句铨量之旨；图者，画取灵变之状。然符中有书，参似图象；书中有图，形声并用。故有八体六文，更相发显。

### 八显

八显者，一曰天书，八会是也；二曰神书，云篆是也；三曰地书，龙凤之象也；四曰内书，龟龙鱼鸟所吐者也；五曰外书，鳞甲毛羽所载也；六曰鬼书，杂体微昧，非人所解者也；七曰中夏书，草艺云篆是也；八曰戎夷书，类于昆虫者也。此六文八体，或今字同古，或古字同今，符彩交加，共成一法，合为一用，故同异无定也。此依宋法师所说，未见正文。而三洞经中符有字者，如《古文尚书》中有古字，与今同者耳。

### 玉字诀

太上道君于南丹洞阳上馆，为学士王龙赐说此灵文玉字之诀，但未知定是何世所注，学者寻之。又说诸修行符醮五方思存禳灾等法，然正是解决八会之文，而就本文理中复明理，如解真文中更明感通之理。《定志经》又云：出思微之义，事中复有事，如玉诀中复明传经及盟授威仪之事。然诸经中凡有解

诀，皆通谓之玉诀也。

### 皇文帝书

《三皇经》云：皇文帝书，皆出自然虚无空中，结气成字。无祖无先，无穷无极，随运隐见，绵绵常存。

### 天书

《诸天内音经》云：忽有天书，字方一丈，自然见空。其上文彩灿烂，八角垂芒，精光乱眼，不可得看。天真皇人曰：斯文尊妙，不譬于常，是故开《大有》之始，而闭天光明，以宝其道而尊其文。其字宛奥，非凡书之体，盖贵其妙象而隐其至真也。

### 龙章

《灵宝经》云：赤明开图，运度自然；元始安镇，敷落五篇；赤书玉字，八威龙文；保制劫运，使天长存。此之龙章也。

## 凤文

《紫凤赤书经》云：此经旧文藏在太上六合紫房之内，有六头师子巨兽夹墙，玉童玉女侍卫凤文。

## 玉牒金书

《三元布经》：皆刻金丹之书，盛以自然云锦之囊，封以三元宝神之章，藏于九天之上大有之宫。谓之玉牒金书。又云：以紫玉为简，生金为文；编以金缕，缠以青丝。《太上太真科》云：玉牒金书，七宝为简，又名紫简。

## 石字

《本行经》云：道言昔禅黎世界，队王有女，字絳音。生仍不言，年至十四。王怪之焉。乃弃女于南浮长桑之阿、空山之中。女行山周匝，忽与神人会于丹陵之舍、柏林之下。神执絳音右手，题赤石之上。语絳音曰：“汝虽不能言，可忆此也。”天为其感，愍其疾，遣朱宫灵童，下教絳音治身之术，授其赤书八字。絳音于是能言。《灵宝玉诀经》云：道告阿丘曾曰

：“汝前生与南极尊神同在禅黎世界，于丹陵之舍、柏林之下，同发道意。尔时南极姓皇，字度明，执汝右手，俱题赤石，以记姓名南宫。即书汝笔迹题于南轩。今犹尚在，石字亦存。汝忆之不？”丘曾心悟，举目即见南极所主南壁刻书云：太甲岁七月一日，皇度明王、阿丘曾同于丹陵柏林下发愿。合二十三字，字甚分明。

### 题素

《五符经》云：《五符》一通，书以南和之缙；（南和，赤色缙也。）封以金英之函；印以玄都之章；付震水洞玄之君。《仙公请问经》云：《道德上下经》及《洞真玄经》、《三皇天文》、《上清众篇咏》等，皆是太上所撰而为文，书于南和之缙，故曰题素也。

### 玉字

《内音玉字经》云：天真皇人曰：《诸天内音》，自然玉字，字方一丈，自然而见空玄之上，八角垂芒，精光乱眼。灵书八会，字无正形。其趣宛奥，难可寻详。皆诸天之中大梵隐语，结飞玄之气，合和五方之音，生于元始之上，出于空洞之中，随运开度，普成天地之功。

天尊命天真皇人注解其正音，使皇道清畅，泽被十方。皇

人不敢违命，按笔注解之曰：形魂顿丧，率我所见，聊注其文。五合之义，其道足以开度天人也。和合五方无量之音，以成《诸天内音》，故曰五合之义也。

### 文生东

《太平经》云：文者，生于东，明于南，故天文生东北，故书出东北，而天见其象。虎有文章家在寅，龙有文章家在辰。文者生于东，盛于南。是知真文初出在东北也。

### 玉箓

《玉清隐书》：有帝简金书玄玉箓籍，可以传《玄羽玉经》也。又云自非帝图玉箓者，不得闻见上皇玉慧玉清之隐书，金玄隐玄之羽经也。

### 玉篇

《众篇序》云：元始命太真按笔，玉妃拂筵，铸金为简，刻书玉篇。五老掌箓，秘于九灵仙都之宫，云蕴而授葛仙公之经也。



### 玉札

《金根经》云：太上大道君以《大洞真经》付上相青童君，掌箓于东华青宫，使传后圣应为真人者。此金简玉札，出自太上灵都之宫，刻玉为之。

### 丹书墨箓

《太真科》云：丹简者，乃朱漆之简，明火主阳也。墨箓者，以墨书文，明水主阴也。人学长生，遵之不死，故名丹简墨箓，秘不妄传。

### 玉策

天皇手执飞仙玉策，人皇手执上皇保命玉策，地皇手执元皇定策玉策。

### 福连之书

《三十九章经》曰：太上有琼羽之门，合延为胎命之王，玄一为三气之尊，元老为上帝之宾，并扶兆身，神台刊名于福连之简。又曰：太上金简玉札为福连之书。

### 琅虬琼文

《飞行羽经》云：金书玉篆，乃琅虬琼文也。

### 白银之编

《金房度命经》云：太常灵神都宫中，有金房度命回年之诀。皆铸金为简，刻白银之编，紫笔书编也。

### 赤书

《玉诀经》云：元始赤书五篇真文，置以五帝，导以阴阳，转轮九天之纽，运明五星之光也。

### 火炼真文

《本相经》曰：吾昔赤明元年，与高上大圣玉帝于此土中炼其真文，以火莹发字形。尔时真文火漏余处，气生化为七宝林，是以枝叶成紫书，金地银镂玉文其中，及诸龙禽猛兽一切神虫，常食林露，真气入身，命皆得长寿，三千万劫。当终之后，皆转化为飞仙，从道不辍，亦得正真无为之道。

### 金壶墨汁字

《圣纪》云：浮提国献善书二人，乍老乍少，隐形则出影，闻声则藏形。时出金壶四寸，上有五龙之检，封以青泥。壶中有黑汁若淳漆，洒木石皆成篆隶科斗之字，记造化人伦之始。老君撰《道经》垂十万言，皆写以玉牒，编以金绳，贮以玉函。及金壶汁尽，浮提二人乃欲剖心沥血，以代墨焉。

### 琼札

《玉清隐书金虎符》云：《郁仪赤文》，招日同舆；《结璘黄章》，与月共居。《上清消魔经》：启洞门于希林，寻灵迹于丹穴。发元天之朱匱，望上清之琼札。玄书既刻于玉章，绛名始刊于灵阙。四遇三元于玄宫，六造五老于灵室。

### 紫字

《八素经》云：《八素真经》玄文，生于太空之内，见于西龟之山，玄圃之上，积石之阴。《八素高玄羽章》，灵文郁乎洞标，紫字焕乎琼林，神光流辉于九元，金音虚朗于紫天。文威焕赫，气布紫庭。众真晏礼，称庆上清。

### 自然之字

《玉帝七圣玄记》云：尔乃回天九霄，白简青篆，上圣帝君受于九空，结飞玄紫气自然之字，玄记后学得道之名。灵音韵合，玉朗稟真。或以字体，或以隐音，上下四会，皆表玄名。空生刻书广灵之堂，旧文有十万玉言。字无正类，韵无正音。自非上圣，莫能意通。积七千年，而后昆仑之室，北洞之源，字方一丈，文蔚灿烂。四合垂芒，虚生晦暖，若存若亡。流光紫气拂其秽，黄金冶炼莹其文。遂经累劫，字体鲜明。至上皇元年九月十七日，七圣齐灵清斋长宫，金青盟天，〈贝危〉誓告灵，奉受灵文。高上解其曲滞，七圣通其妙音。记为回天九霄得道之篇。刻以白银之简，结以飞青之文，藏于云锦之囊，封以启命之章。付于五老仙都左仙公，掌录琼宫也。

### 四会成字

《玉帝七圣玄记》云：《七圣玄记回天上文》，或以韵合，或以支类相参，或上下四会以成字。音或标其正，讳或单复相兼。皆出玄古空洞之中，高真撰集以明灵文。后学之人，若有玄名者得见此文。青空揀（初角切）名，四司所保，五帝记名也。

### 琅简蕊书

《八素经》云：西华宫有琅简蕊书，当为真人者乃得此文。

### 石碯

《三洞珠囊》云：西王母以上皇元年七月，于南浮洞室下教，以授清虚真人王君，传于夏禹。禹封文于南浮洞室石 匱之中。碯有作此碯者。故《五符》云九天灵书犹封于石碯是也。今检诸字，类无此碯字也。《玉诀》下云：五老真文封题玉匱，亦其例也。孔灵符《会稽记》云：会稽山南有宛委山，其上有石，俗呼为石簠。壁立干云，累梯然后至焉。昔禹治洪水，

厥功未就，斋于此山，发石簍得金简字，以知山河体势。于是疏导百川，各尽其宜也。

## 卷八 三洞经教部·经释

### 释《三十九章经》

《大洞真经》云：高上虚皇道君而下三十九道君，各著经一章，故曰《三十九章经》，乃大洞之首也。

#### 第一章

高上虚皇君曰：元气生于九天之上，名曰辟非。辟非之烟下入人之身而为明梁之气，居人五脏之中，处乎心华之下。此至气之所在，长烟之所托。能知辟非之由者，乃得领祖太无。领祖太无者，尽体虚玄之大，冠道素之标矣。益元羽童，乃人鼻之神也。众风乱玄，人鼻之气也。四清抚闲，乃鼻下口上之间也。当令鼻气恒闲。又当数加手按，读此篇，捻鼻间乃高上之正座，天岳之混气。气之来也解百结。鼻神翩翩，列坐绿室。绿室者，唇上人中之际也。以帝一上景摄烟连众，长契虚运，反华自然矣。易有者，九天之上西北之门名也。若既登易有之门，乃得升帝堂之会。然后五涂既化，森罗幽郁，音暗（一云音响）太和，万唱幽发。百混九回，还而顺一耳。太一隐生之宝，人之心也。乃明梁之所馆，辟非之所栖。是故七祖反生，

道济帝简，高上之旨，理于此矣。读高上之洞经既毕，乃口祝曰：三蓝罗波逮台。此九天之祝言，高上之内名也。夫三蓝罗波逮台者，于地上之音曰天命长，人常宁也。易有者，于地上之音曰长台。

## 第二章

上皇玉虚君曰：玄归者，于九天之音曰泥丸也。天晨、金霄，帝一雌雄之道。天晨为雌，金霄为雄。雄一之神曰晨，雌一之神曰霄。玉州黄篆者，帝之金简也。德刃者，九天之台名也。

## 第三章

皇上玉帝君曰：玉帝有玄上之幡，一名反华之幡。皆玉帝之旌旗，招仙之号令也。以制命九天之阶级，徵召四海五岳之神王也。九天真人呼曰为“濯耀罗”。三天真人呼曰为“圆光蔚”。玉清天中有树似松，名曰空青之林。得食其华者身为金光。自非妙寻云景，而金房不登；自非重诵洞章，而玉宾弗见也。若既陟其途，则可以窥森然晃朗之门，而手掇空青之华也。

## 第四章

上皇先生紫晨君曰：太冥在九天之上，谓冥气远而绝乎九玄，惟读《大洞玉经》者可以交接其间也。故谓洞景寄以神道耳。又玉清天中有绮合台，下有万津之海，其水波涌，如连岳焉。



## 第五章

太微天帝君曰：九天真人呼风为“浮”。金房在明霞之上，九户在琼阙之内，此皆太微之所馆，天帝之玉宇也。

## 第六章

三元紫精君曰：紫精之天，处太无之中。三元之气，在上景之衢。秀朗者，玉清天中台名。太混者，玉清天中殿馆名。羽明者，上清天人之车名也。

## 第七章

真阳元老玄一君曰：真阳者，上清之馆名。玉皇者，虚无之真人。逸宅者，真气之明堂。丹玄乃泥丸之所在也。若能七转洞经于震灵之上，三回帝尊于白气之中，则真人定录而魔王立到，则注生籍于玉阙，招五老于金台矣。太上有琼羽之门，合延为胎命之王，玄一为三气之尊，元老为上帝之宾，并扶兆身神台，刊名于福连之简也。太上金简玉札，名为福连之书。

## 第八章

上元太素三元君曰：太素三元宫中，有三华之气，生于自然也。似芙蓉之晖。晨灯者，乃玉真天中明气之光，洞照于三元之台也。广灵堂者，上清之房名。兆若能存雌一于夙夜，诵洞章以万遍者，则太微小童负五图于帝侧，绛宫真人承五符于胎尊，合变于三素之气，得形于晨灯之光，则人无哭兆，终身

不亡矣。

## 第九章

上清紫精三素君曰：上清紫精天中有树，其叶似竹而赤，其华似鉴而明，其子似李而无核，名曰育华之林。食其叶而辟饥，食其华以不死，食其实即飞仙。所谓绛树丹实，色照五脏者也。自非长冥眇思，栖神太无，而育华之实不可得而食也。上清玉房生七宝之云，云色七重，其气九扇，以童子辟非、童女宣弥得乘此宝云，上入玉清之天也。而辟非者，太微之内神；宣弥者，玉清之神女。若兆能离合百神，间关帝一，变化九魂，混畅五七者，则辟非可赖，宣弥可致。七度死厄，三光所利。五老延日以曲照，太上三便以相入矣。三便者，太上金房之名也。

## 第十章

青灵阳安元君曰：青灵者，真人之位号。八气者，云色之相沓。元君者，虚皇之司命。三华者，玉清之房名，乃阳安元君之处也。

## 第十一章

皇清洞真道君曰：皇清，乃上清三仙皇之真人也。洞真，乃上清元老之君也。皆俱合生于太无之外，俱合死于广汉之上。能生能死，是以皇清、洞真三帝合生，理出于此矣。日母者，玉清之老母，主胞胎于尊神也，名曰“正荟条”。兆能知日母

之名，则胞结自解，七祖罪消。

## 第十二章

高上太素君曰：高上皇人常宴紫霄之上。玉根者，玉清天中山名也，乃五老上真之所治。太素真人拂日月之光于帝一之前，太素天中呼日为“眇景”也。玉门、兰室，并是上清宫中门户名也。月中树名骞树，一名药王。凡有八树在月中也。得食其叶者为玉仙。玉仙之身，洞彻如水精琉璃焉。

## 第十三章

皇上四老道中君曰：皇上四老真人，在日中无影。呼日名为“九曜”。生常乘明玉之轮，转宴于日中也。广霞者，玉清天中山名，乃九日之所出矣，日帝之所司也。

## 第十四章

玉晨太上大道君曰：道君保形景于法化之内，回眄镜于上清之上，解襟带于玉映之室，乘八素入于四明之门，反日中之神王，并月中之高灵矣。玉映者，玉晨之宫名。四明者，上清玉帝之南门也。

## 第十五章

太清大道君曰：太清天中有山名浮绝，三天神王之所治也。彼天人呼日为“太明”。又有金华楼，诸受真仙玉录者，皆在

此楼之中。

### 第十六章

太极大道元景君曰：太极有元景之王，司摄三天之神仙者也。太漠者，太清之外也。太极真人呼曰为“圆明”。

### 第十七章

皇初紫元君曰：皇初紫元之天，常有晖晖之光，郁郁如薄霞焉。乃九日之所出，有如一日照耳。六渊者，乃元君之宫名。寒童者，山名也。故曰登寒童之岳，会六渊之中矣。

### 第十八章

无英中真上老君曰：无英中真上老君处上真之宫，领五帝之籍，解兆五符于重结，化兆五神于胎骨，常游紫房明堂之内也。

### 第十九章

中央黄老君曰：中央黄老君，三元之真皇也。圆华者，黄老之宫名也。玉寿者，太微天中之山名也。皆黄老君之理所。

### 第二十章

青精上真内景君曰：青精之宫有上华之室。室中有自然青

气，号曰返香之烟。逆风闻三千里。紫空者，内景之山名也。青精君常乘羽逸之车，携玄景之童，登紫空之山，入玉室之内也。

## 第二十一章

太阳九气玉贤元君曰：太阳九气者，变化三晨之上，策驾紫輶于微玄之下。微玄者，日中之神，名曰主贤。天中或呼曰为“微玄”也。开阴太漠者，是胎神之所在也。胎门既塞，乃滞血之所移；胎门既开，而婴神之所栖。太漠为玄重之根，开阴为常生之源。若胎开而明洁，则帝一之气全也。若太漠之内修，则五老之宴欢。故云开阴太漠，长保阳源。阳源者，犹人之有势也。兆能使阳源不倾，玄泉不动，淡然渊停，潭然天静，亦回老驻年，与灵均气也。

## 第二十二章

太初九素金华景元君曰：太初天中有华景之宫。宫有自然九素之气。气烟乱生，雕云九色。入其烟中者易貌，居其烟中者百变。又有庆液之河，号为吉人之津。又有流汨之池，池广千里，中有玉树。饮此流汨之水，则五脏明彻，面生紫云。

## 第二十三章

九皇上真司命君曰：九皇上真者，玉虚之元君也。四司者，天帝之禁宫也。晨晖者，玉虚司命之宫名也。飞霞者，玉虚天中之山名。逸录者，仙皇之符箓也。

## 第二十四章

天皇上真玉华三元君曰：天皇上真者，是上清真人之典禁主，玉华仙女之母，故号曰玉华三元君也。乘神徊之车，登云飚之宫，入流逸之室。神徊者，是真人一轮车名。九曲下户者，是男女之阴地也，男曰九曲，女曰下户。此阴地常生白云之气，以薰黄庭之间，是得道之候验也。

## 第二十五章

太一上元禁君曰：太一上元君者，万仙之司，主方岳真气也。主除死籍，刻书生简。赤气王者，日中之上神，其名曰将车梁。能知赤气王名者不死。

## 第二十六章

元虚黄房真晨君曰：元虚黄房者，是真晨仙君之所治也。玉宫者，是得道符籍之所在也。九元镇真者，是九元太帝之名也。太帝名镇，字真。兆能知之者不死。

## 第二十七章

太极主四真人元君曰：太极元君乘凌羽之车，结云气以雕华，控九龙以齐骤，扬威于高上之天，转轂于太明之丘，鸣钟于朱火之台。

## 第二十八章

四斗中真七晨散华君曰：玉清天中有散华之台，是四斗七晨道君之所治也。七晨天中有反生之香气，反冲于三宝之山。山在四斗之中，上有金琅之馆，名曰映清夷之宫。其中上皇真人皆项负宝曜，体映圆光，气合三宝，灵洞五藏也。洞经所谓香风扇三宝，五脏映清夷。

## 第二十九章

辰中黄景元君曰：辰中真人带迎延之符，登太霞之庭，飞羽轮于沧浪之台，佩玉章之文于太霞之宫。

## 第三十章

金阙后圣太平李真天帝上景君曰：金阙之中有上景之气，气色郁郁，晖照十方，乃后圣之灵都，太平之所会也。种年祚于日气之中，植三命于月宫之庭。五毒绝于沈没，解结生于天堂。

## 第三十一章

太虚后圣无景彭室真君曰：太霞之中有彭彭之室。结白气以造构，合九云而立宇；紫烟重扉，神华所聚，故号曰彭彭之室，而太虚元君之所处焉。

## 第三十二章

太玄都九气丈人主仙君曰：太玄都九气丈人乘晨徊之风，登荡滞之山，焕郁然之烟，入太晖之宫。伐胞树于死户，养胎气于冥初，济五毒于常关，定三命于金书。

### 第三十三章

上清八皇老君曰：上清之天在绝霞之外，有八皇老君运九天之仙，而处上清之宫也。乘广琅之车，把凤羽之节，登华便之山，入太老之堂。上真人呼日、月为“太宝”、“九华”。

### 第三十四章

东华方诸宫高晨师玉保仙王曰：青童君东华者，仙真之州也，在始晖之间，高晨玉保王所治也。东华真人呼日为“紫曜明”，或曰“圆珠”。青童君乘雕玉之辔，御圆珠之气，登云波之山，入东华之堂。

### 第三十五章

搏桑太帝九老仙皇君曰：九老京者，山名也。在搏桑之际。九老仙皇处搏桑之际，治九老之京。太帝君治搏桑之杪，会方丈之台也。二道君时乘合羽之车。合羽车者，云沓之色。登搏桑之杪，会九老之京，出灵户之符，召大魔之王矣。

### 第三十六章

小有玉真万华先生主图玉君曰：小有玉真天中有万华之宫，



小有先生主图玉君之所治也。此宫之中藏录上帝之宝经、玉清之隐书也。又有洞观之堂，悬在太无之中。重泉曲者，魔王之阴府也。兆既得洞一之道，乃拔死于泉曲之籍，书仙名于灵羽之录。

### 第三十七章

玄洲二十九真伯上帝司禁君曰：玄洲有三溺之津，非飞仙而莫越也。又有羽景之堂，在太无之庭。又有绝空之宫，在五云之中，王灵仙母、金华仙女常所游也。司禁真伯上帝玉君时乘日月之辔，披虎文之裘，登重漠之山，入宴羽景之堂，濯纓帝川之池，会仙绝空之宫也。

### 第三十八章

太无晨中君刊峨嵋山中洞宫玉户太素君曰：太无在洞景之表，太素在幽玄之上。九宫列金门于大素之表，丹楼沓七重于太无之庭，乃太素三元君所游也。

### 第三十九章

西元龟山九灵真仙母青金丹皇君曰：昆仑山有九灵之馆，又有金丹流云之宫。上接璇玑之轮，下在太空之中。乃王母之所治也。西元龟山在昆仑之西，太帝玉妃之所在。

### 释《太上大道君洞真金玄八景玉策》

《经释》题曰：东华上仙名《太上八素隐书》，南华上仙曰《大洞真经》，西华上仙曰《金真玉光映天洞观玉经》，北华上仙曰《萧条九曜豁落七元上经》，玉皇中仙曰《太上高圣八景玉策》，中央黄老君、南极元君藏录二经于太素瑶台玄云羽室，封以郁林之笈，玉清三元之章。乃命北寒金台龙华玉女七百人，又命白空虞宫西灵玉童七百人侍卫焉。晋永和十一年，岁在乙卯，九月一日夜半，受经于紫微王夫人。凡二万二百三十字。其《大洞真经》一万字。

### 释《上清高圣太上大道君金玄八景玉策》

上清高圣太上大道君者，盖二晨之精气，庆云之紫烟，玉晖辉焕，金映流真，结化含秀，苞凝玄神，寄胎母氏，育形为人。讳次天真，字开元。母妊三千七百年，乃诞于西那天郁察山浮罗岳丹玄之阿。于是受书玉虚，眺景上清，位为太上高圣玉晨大道君，治蕊珠日阙馆七映紫房，玉童玉女各三十万人侍卫。于是振策七圃，杨青建朱，腾空舞旌，驾景骋飚，徘徊八烟，盘桓空涂，仰簪日华，拾落日珠，摘绛林之琅实，饵玄河之紫蕖，偃蹇灵轩，领理帝书。万神八拜，五德把符。上真侍晨，天皇抱图。乃仰空而言曰：子欲为真，当存日中君驾龙骖

凤，乘天景云，东游桑林，遂入帝门。若必升天，当思月中夫人驾十飞龙，乘我流铃，西朝六领，遂诣帝堂。精根运思，上朝玉皇。荟荟敷郁仪以蹑景，晃晃散结璘以暨霄。双皇合辇，后天而凋。夫大有者，九天之紫宫；小有者，清虚三十六天之首洞。于是太上大道君初乘一景之舆，驾八素紫云，摄希微仓帝名录丰子，俱东行，诣郁悦那林昌玉台天，见玉清紫道虚皇上君，受九晖大晨隐符。

太上大道君次乘二景之舆，驾七素绛云，摄中微赤帝，名定无彦，俱南行，诣高桃厉冲龙罗天，见玉清翼日虚皇太上道君，受观灵元晨隐符。

太上大道君次乘三景之舆，驾六素红云，摄紫微白帝，名渠渊石，俱西行，诣碧空歌饮黎天，见玉清昌阳始虚皇高元君，受总晨九极隐符。

太上大道君次乘四景之舆，驾五素青云，摄玄微黑帝，名齐元旋，俱北行，诣加卅摩坦娄于医天，见玉清七静道生高上虚皇君，受沓曜旋根隐符。

太上大道君次乘五景之舆，驾四素黄云，摄始微上帝，名接空子，俱东北行，诣扶力盖浮罗天，见玉清太明虚皇洞清君，受玄景晨光隐符。

太上大道君次乘六景之舆，驾三素绿云，摄灵微中帝，名秉巨文，俱东南行，诣具谓耶渠初默天，见玉清始元虚皇太霄君，受合晖晨命隐符。

太上大道君次乘七景之舆，驾二素紫云，摄宣微下帝，名宏肤子，俱西南行，诣冲容郁离沙天，见玉清七观无生虚皇金灵君，受齐晖晨玄隐符。

太上大道君次乘八景之舆，驾一素灵云，摄洞微真帝，名洞澄摅，俱西北行，诣单绿察宝轮法天，见玉清八观高元虚皇

淳景君，受高上龙烟隐符。

太上大道君又乘洞景玉舆，驾太霞紫烟玄景之晖，摄九微内帝君，名申明闲，及上皇九玄九天诸真仙王等，俱仰登弥梵罗台霄绝寥丘飞元云根之都玉清上天，见玉清紫晖太上玉皇明上大道君，受高清太虚无极上道君隐符。

### 释《太上神州七转七变 天经》

神州在天关之北，日月回度其南，七星轮转其中央。昼左回八纬，夜右转七经。七星运周，天光回灵，此上皇紫晨受化之庭。修七转之法，位登于玉清。

七转七变之道，上皇紫晨君受于九天父母，修行道成，以传玄感清天上皇君。皇君以传三天玉童，玉童以传紫极真元君，紫极真元君传天帝君，天帝君传南极上元君，南极上元君传太微天帝君，太微天帝君传后圣金阙君，后圣金阙君传上相青童君。承真相系，皆经万劫一传。小有天王后撰一通以封于西城山中。得者皆奉迎圣君于上清宫，给玉童玉女各二十一人典卫灵文，营护有经者身。

《神州玉章》凡十四章。乃十四帝君洞野之曲，百神内名，玉天之玄象，三晨之精。诵其章，玉响激朗。上元诵之万遍，白日升天。

### 释《神虎上符消魔智慧经》

神者，灵也。灵变无穷，阴阳不测，名之曰神也。虎者，威也。威震九遐之域，神光焕乎上清。上者，太上，秘乎灵都上宫，神虎七千，备于玉阙，因以为名。符者，信也。太上之信，召会群灵。消魔者，灭鬼也。凡有玉简紫名，得修上经，莫不为众邪所乘，鬼魔所试。兆当讽咏此经，则激百阳以生电，鼓千阴以吐威；六天失气，九魔消摧也。智者，日中之星也。慧者，宜以生生为急也。故慧字有两生，并而共乘一急之象者也。诵经五千遍，则神智开朗，圣慧明发。命八景以高登，骋神虎以飞升。此大威变之道，故以消魔为名。

### 释《太上素灵洞玄大有妙经》

太者，大也。弥纶而不可极，故曰太也。上者，处乎无穷之表，故曰上也。是道君之号也。素灵者，房名也。洞者，洞天洞地，无所不通也。玄者，幽冥之所出也。大有者，宫名也。妙者，微之极也。经者，营也。弘畅幽极，经理神关，故谓之经。而有玄丹上化三真元洞之道，本与玄气同存，元始俱生，三精凝化，结朗玉章。构演三洞之府，总御万真之渊。乃秘在九天之上，大有妙宫金台玉室素灵之房。蒹藁玄玄之上，萧萧始晖之中，是时上圣众帝，清斋三月，仰禀太冥，玄思感于大

寂，积稔启于上清而受焉。因经所藏之处而以为名。

### 释《回元九道飞行羽经》

回元者，运星元之纲轮也。轮空洞之大辐，调四气之长存。九道者，北斗九星也。九星之运，观涣五常。五行乘之以致度，万物稟之以得生，皆九道之运也。飞行羽经者，九天父母、太真丈人同宴景龙之舆，息驾无崖之端，忽致玄灵瑞降白鸾之车。黑翮之凤，口衔素章，登空步虚，经历无穷，因名《白羽黑翮飞行羽经》。

### 释《九灵太妙龟山元录》

龟山在天西北角，周回四千万里，高与玉清连界，西王母所封也。元录者，九虚上真始生变化大妙之法，记为名录也。皆刻书龟山，流精紫闼金华琼堂。其旨隐奥，其音宛妙，盖九天书录，名题龟山。

### 释《大有八稟太丹隐书》

大有，宫名也，在九天之上。八者，八节也。稟者，授节

度也。太丹，南宫名也。隐，藏也。书，文也。言八节吉辰天上宴会，八稟开真大庆之日，其时乃万神集议，皆列言大有之宫。为学之士以其日清斋首过，即上生于南宫也。

### 释《七圣玄记回天九霄经》

七圣者，高圣玉帝君、高圣太上大道君、上圣紫清太素三元君、上圣白玉龟台九灵太真西王母、上圣中央黄老君、上圣搏桑太帝君、后圣金阙帝君也。玄记者，七圣各逆注得道之人玄名也。回天者，太上道君携契玉虚紫宸，回天倾光，上登九层七映朱宫，徘徊明霞之上，萧条九空之中。列七范于仙录，刻王名于隐篇。九霄，九天也，一名九空。上圣帝君受命于九空，结飞气成自然之字，玄记后学得道之名。灵音韵合，玉朗稟真，或以字体，或以隐音，上下四会，皆表玄名。

### 释《曲素诀辞五行秘符》

曲者，台名也。素者，八方之素也。玄都上有九曲峻嶒凤台，皆结自然风气而成琼房玉室，处于九天之上、玉京之阳，虚生八会交真之气，十折九曲，洞达八方，上招扶摇之翮，傍通八素之灵，故以曲素为名。诀者，旨诣也。辞者，忧乐之曲也。结九元正一之气，以成忧乐之辞。上庆神真之欢，下悲兆民之忧，故曰忧乐之辞也。五行者，金、木、水、火、土也。

秘者，藏于上清琼宫也。符者，文也。五色流精，凝而成文也。混化万真，总御神灵。

### 释《天关三图七星移度经》

天关三图者，九天之上有关玉台，一名天关，一名天图，一名天开。是九天之生门，关之枢机也。其西五千里则金阙宫，东九千里则青华宫，上去玉清宫七千里，是众真之所经，神仙之所历，学者之所由也。七星者，斗星也。移度者，历转也。日月回周其境，七星历转其关，上运九天明皇之气，下润流洒梵行诸天。高上玉帝出入游宴之道，乃学者简录所通之门。上相所撰以挟后学。有知上帝宫馆之次第，上真所游处，克成真人也。

### 释《除六天玉文三天正法》

除者，罢也。六天者，赤虚天、泰玄都天、清皓天、泰玄天、泰玄仓天、泰清天。此六天起自黄帝以来，民人互兴杀害，不稟自然，六天之理，于兹而兴。太上给以鬼兵，使于三代之中驱除恶民，而六天临治，转自伪辞。太上下玉文，遂截六天之气，更出三天正法，割恶救善。三天者，清微天、禹馀天、大赤天是也。



### 释《青要紫书金根众经》

青要者，紫清帝君之别号也。紫书者，紫笔缮文也。金者，金简也。根者，日根也。众经者，科集众经之最要也。盖玉帝命高上侍真总仙君，科集宝目，采日根之法，合为众经，以紫笔缮文，金简为篇也。

### 释《石精金光藏景录形经》

石精者，妙铁也。石者铁之质，精者石之津。治之为剑而发金光。金者，剑之干。光者，刃之神。藏景者，隐身也。录形者，代身也。

### 释《太上九赤斑符五帝内真经》

太上者，是无极大道之号也。九赤者，乃九元之气也。九元者，五岳四海也。山海色杂，目之斑也。符者，真文也。五岳得之以镇，四海得之以润，五帝得之以灵，人得之以神仙也。

## 卷九 三洞经教部·经释

### 释《太霄琅书》

《太霄琅书妙经》云：九天九王，万炁之本宗，众帝之祖先，乃九气之精源。以天地未凝，三晨未明，结自然而生于空洞之内，溟滓之中，历九黄劫而分气各治，置立天地，日、月、星、辰于是而明。万气流演，结成道真，元始上皇、高上玉虚，并生始天之中；三十九帝、二十四真，遂有宫阙次序之官。上皇宝经皆结自然之章，以行长生之道，不死之方。符章玉诀，皆起于九天之王，传于世代之真。至三五改运，九灵应期，后圣九玄道君推校本元，以历九万亿九千累劫，上皇典格，多不相参。道君以中皇元年九月一日于玉天琼房金阙上宫，命东华青宫寻俯仰之格，拣校古文，撰定灵篇，集为宝经三百卷，以付上相青童君，使传后学玉名含真之人。

### 释《太微黄书》

《太微黄书》八卷素诀，乃含于九天玄母结文空胎，历岁

数劫以成自然之章。太皇中岁成《洞真金真玉光八景飞经》。元始天王名之《八景飞经》，广生太真名之《八素上经》，青真小童名之《豁落七元》，太上道君曰《隐书玉诀金章》。

### 释《太上金书秘字》

《金书秘字》出乎混沌太无，紫气练真，锋芒艳乎日月，断诸邪暗，飞彩空玄。太上有命，付诸天君。青真小童奉受修习，传太极真人、清虚真人、南岳赤松子、刘子先等，宝秘尤严，得者勿泄。

### 释《太上上皇民籍定真玉策》

凡欲定心，当受《上皇民籍定真玉策》。此策至要，为学之先，先能定心，仙名乃定。仙名者由此策焉。是三天正一先生所佩，以定得仙之名，传于玉帝三十九真也。

青童君请问太上道君曰：“治心入道，科术参罗，各云要妙，由之有缘。未审今之所最要，何方为胜？”太上答曰：“胜理虽多，其有最者，治心之要，在乎惭愧；动心举目，转体安身，常怀惭愧，不忘须臾，心神乃定。定则入道。此为最要也。”

青童曰：“何所惭愧，而得入道？”太上曰：“心有神识，识道可尊。尊由无为，而我有为，有为有累，志愿无为，无为

无累，不可便及。力进苦迟，负累稍至。为此惭愧，不离心中。又当思我稟生，生由父母。父母鞠养，辛苦劬劳。而我成长，学术不深，无奇方异法，令父母延年，长生不死，同得神仙。此期未克，供养又亏。公私愆过，父母垂忧。思虑不精，功行怠退。为此惭愧，不离心中。又父母爱念，令其携诱，从师学问，智慧通神，求得仙圣，为道种人。师又劝励，方便抑扬，善诱善接，既练既陶。而任欲肆心，负违师训。或将成而罢，叛正入邪，攻伐师友，反道破经，罪延尊上，祸灭己身。灾殃将至，不知改悛。或不自觉悟，以为真正。苦及方悔，悔无所追。为此惭愧，不离心中。又君王赏德，搜贤访美。举其宗乡，拔其萃类。爵禄光厚，宴集绸缪。不能竭力尽忠，赞宣圣化，贪荣慕势，阿谀面从，佞媚自进，抑绝高明，嫉害胜己，结对连仇。灾凶贼害，毒至不知。知不能脱，误及亲友。为此惭愧，不离心中。又崇道不忘，事亲能孝，奉君必忠，不负幽显，而前身宿障，否病相缠，公私口舌，诽谤横生。或斗讼牢狱，非意而及。或执勤守慎，清直异群。君上所憎，众邪所怨。或事师敬友，往还身心，遭罹凶丑。恶鬼恶人，交互劫掠，慑胁中伤。或为善成恶，舍财致怨，尽礼为佞，竭诚为奸。或起立馆舍，缮写经图。堂宇虽立，不得常安。篇部虽多，不得披览。公私罣碍，风火志失。惨疾饥寒，不从本忘。白日空去，素愿未成。一失生道，方向冥冥。幽苦烦恼，未测还期。今欲救之，未得要诀。为此惭愧，不离心中，心中有神。不知惭愧，则驰竞遑遑，无时得定，定由惭愧。惭愧既立，常在心中。心中有惭愧，俯仰思道。思道不忘须臾，则神明定乎内。内定则罪去，罪去则福来，福来则成真，成真则入道，入道由惭愧，惭愧则入神也。”

青童曰：“惭愧在心，谨闻命矣。请问惭愧在迹，其状可

闻乎？”太上曰：“善哉善哉，要尔之问也！夫有形则有心，有心则有事，有事则有迹，有迹则有状，有状则有言，有言则有法，有法则有道，有道则可陈矣。学士治心，惭愧在内，惭愧之迹，其状在外。豫兮若冬涉川，犹兮若畏四邻，是其状也。慎言语，惧恟总也；节饮食，虑贪饕也；衣粗而净，在素洁也；居陋而隐，守静笃也；恭敬一切，避凌辱也；不敢为先，免嫉谤也；始终贞信，潜化导也；进止和光，密行教也；挫锐解纷，明道有时也；出处变化，见神应之缘也。各有其法，同是惭愧之状也。”

### 释《太上仓元上箓》

《仓元上箓》，一名《太清内文》，又名《玉镜宝章》，又名《金图琼宇》，又名《破淹洞符》，又名《玄览宝箓》，又名《人鸟山经》，又名《金生策文》，又名《威武太一扶命》，玉晨君所修。秘于素灵上宫，得而奉行，能飞能沉，能隐能显，位为真人。

### 释《太上太素玉箓》

《太素玉箓》者，玉晨君所修。五帝神使秘于素灵上宫大有之房。得者飞行太空，能隐能藏。给玉童、玉女各二人。密修即验，泄露致灾。精加谨慎，谛忆师官也。

### 释《太上神虎玉符》

老君曰：《神虎玉符》，太真九天父母所出。太真丈人以传东海小童、九天真王，九天真王以传太上道君。太上道君常所宝秘，藏于太陵灵都琼宫玉房之里，卫以巨兽，捍以毒龙，神虎七千备于玉阙也。神虎班其匠，金虎亘其真，智慧标其干，消魔演其源。微旨幽邃，妙趣难详。皆署天魔隐讳，或标百神内名。诵其章，千精骇动；咏其篇，万祆束形。以三天立正之始，传付太微天帝君，使威制六天，斩馘万神，摄山召海，束缚群灵。威魔灭试，回转五星。

符在本经。

晋兴宁三年乙丑岁七月一日，桐柏真人授道士许远游，言至甲申、乙亥、壬辰、癸巳岁，九月一日、七月一日、四月八日，当有道士著七色法衣，手持九曲策杖，或在灵坛之所，或在人间告乞，或咏经诗，或作狂歌。子若见之，勤请其道，必授子《神虎上符》。此南岳真人，太上常使其时下在人间，察视学者之心也。

### 释《太上金虎符》

此符本刻于上清玉简《智慧》篇中，有七万言。灵音道妙，微旨难详。或著天魔隐讳，或表万神内名，或释幽论凝，决于

琼音也。小有王君抄出此符及《威神内文》之法，以制天地群灵，有一百言耳。此咒甚秘，名曰《三天虎书太元上篆》。受之者先斋七十日，赍金虎玉铃，素锦玄罗三十尺，以为金真之誓，盟天地不宣之约，依《四极明科》，听使七百年中得传三人。

符在本经。

### 释《太上金篇虎符》

太微天帝君以传金阙帝君。朱书白素，盛以紫锦囊。佩之头上以行，则制命天地群灵，神仙敬伏，玉华执巾，天丁卫躯，山岳稽精。加敕威神之祝，玉清之章，使得斩馘九魔，千妖灭形矣。此上清禁符，不传于世。得佩之者，飞升上清。

### 释《太上玉清神虎内真隐文》

太上道君曰：李山渊德合七圣，为金阙之主。方当参谒十天，理命亿兆；定中元于玄机，制阴阳于不测。以齐首拔真，擢领封河召海，断任死生，把执天威，馘灭六天，总罚三官。既以说之以《智慧》，又复记之以《消魔》。《智慧》可以驱神，《消魔》可以灭邪。复授之以《神虎真符》，助之以散秽去患也。文辞在本经中。

### 释《太上三元玉检布经》

《高上三元布经》，乃上清三天真书，上真玉检飞空之篇：《上元检天大策》、《下元检地玉文》、《中元检仙真书》。如是宝篇，高上皆刻金丹书，贮以自然云锦之囊，封以三元宝神之章，藏于九天之上大有之宫、金台玉室九曲丹房。南极上元君主之，以上元朱宫玉女七百人侍卫。

### 释《洞真太上九真中经》

《太上九真中经》，一名《天上飞文》，一名《外国放品》，一名《神州灵章》，虽有四号，故一书耳。

### 释《洞真玉晨明镜金华洞房雌一五老宝经》

一名《三元玉晨法》，一名《雌一隐玄经》。

### 释《洞真中黄老君八道秘言经》



太虚真人南岳赤松子曰：此经或名《九素上书》，或名《太极中真玉文》，或名《八道金策》。

### 释《洞神秘篆》

《小有经下记》曰：三皇治世，各受一卷，以天下有急，召天上神，地下鬼，皆敕使之，号曰“三坟”。后有八帝，次三皇而治，又各受一卷。亦以神灵之教治天下。上三卷曰“三精”，次三卷曰“三变”，次二卷曰“二化”，凡八卷，号曰“八索”。

### 释《玄真文赤书玉诀》

《东方九气青天真文赤书》，一名《生神宝真洞玄章》，一名《东山神咒八威策文》。

《南方三气丹天真文赤书》，一名《南云通天宝灵铃》，一名《九天神咒》，一名《赤帝八威策文》。

《中央黄天真文赤书》，一名《宝劫洞清九天灵书》，一名《黄神大咒》，一名《黄帝威灵策文》。

《西方七气素天真文赤书》，一名《金真宝明洞微篇》，一名《西山神咒》，一名《八威召龙文》。

《北方五气玄天真文赤书》，一名《元神生真宝洞文》，

一名《北山神咒》。

### 释《紫度炎光神玄经》

《紫度炎光神玄经》者，非紫度炎光有本元，乃是神经自生空虚之中，凝气成章，玄光炎映，积七千年，其文乃见。太微天帝君以紫简结其篇目，金简刻书其文。仍记为《紫度炎光神玄变经》者，从玄中变而名焉。

### 释《胎精中记》

九天丈人告三天玉童曰：《九丹上化胎精中记》，乃生九玄之初，结太空自然之气以成宝文。二十四真，三十九帝悉所修行。一名《琼胎灵曜经》，一名《洞真太丹隐书》，一名《帝君七化变景九形经》，一名《太一二度帝宝五精经》。

### 释《隐地八术》

《隐地八术》乃紫清帝君游隐之道，玄变之诀。旧文乃有八卷。变化八方，藏形隐影之事。

### 释《外国放品经》

《外国放品经》皆玄古洞空之书，自然之章，是上真帝皇以下，及学仙得道者，莫不受音于太空。

### 释《四十四方经》

《太上黄素四十四方》，皆九天之上书，八会之隐文也。是以太上大道君命上清高仙太极真人科集品目，陈其次序，合为黄素神方四十四首。

### 释《八素真经》

《八素真经》乃玄清玉皇之道。又有《地仙八素经》，论服王气吐纳之道也。又有《九素经》，论召鬼使精，行厨检魂魄之事。

### 释《三九素语》

《三九素语玉精真诀》，上相青童君曰：《三九素语》出九帝、三真命咒之辞。理气停年，开解灵关，五藏华鲜。

### 释《紫凤赤书》

《龙景九文紫凤赤书》曰：太上闲居峻嶒之台、金华九曲之房，说《龙景九文紫凤赤书》。

### 释《灵飞六甲》

《琼宫五帝灵飞六甲内文》，一名《太上六甲素奏丹符》，一名《五帝内真通灵之文》，一名《玉精真诀》，一名《景中之道》，一名《白羽黑翮隐玄上经》、《灵飞左右六十上符》，并生于九玄之中，结清阳之气以成玉文。

### 释《元始洞玄灵宝赤书五篇真文》

《五老灵宝五篇真文元始天书》，生于空洞之中，为天地之根。又云：《元始赤书五篇真文》上清自然之书，九天始玄，化空洞之灵章。成天立地，开张万真。

### 释《洞玄智慧大诫经》

《洞玄智慧大诫经》，元始天尊以开皇元年七月一日，于西那玉国郁察山浮罗之岳长桑林中，授太上大道君《智慧上品大诫法文》。

### 释《洞玄通微定志经》

天尊曰：“卿并还坐。吾欲以思微定志旨诀告卿。其要简易得悟，不亦快乎？”二真曰：“思微定志为有经也？”天尊曰：“都无文字。”二真曰：“斯徒解壁无底大痴。如无文字，何从得悟？”答曰：“即时一切经书，本无文字也。今日之言，不亦经乎？”

### 释《洞真黄气阳精三道顺行经》（一名《藏天偃月经》）

南极上元君曰：“吾爱高上顺行三道之要、黄气阳精之道。喻御灵晖，口啜皇华，仰餐飞根。存七曜于紫庭，行三道于金门。洞阔狭于渊景，明日月之方圆。睹朱阶于洞阳，入练汤于广寒。登七宝于玄圃，攀飞梯于灵关。回阳精于浮黎，采黄气于郁单。傍金翅于高木，回石景以映颜。修御灵图，遂感神真。乃三景垂映，七精翼轩，五灵交带，四司结篇，西龟定策，名题高晨，故位登南极上元之君。此道高妙，非庸夫狭学所可言论。今集其所禀，粗说高上玉帝口言，以标玄虚自然灵文。付上相青童君，掌录玄宫。经万劫之后，当授玄记白简青篆之人。”

### 释《洞真玉佩金珰太极金书上经》

玉佩者，九天魂精，九天之名曰晨灯，一名《太上隐玄洞飞宝章》。金珰者，九天魄灵，九天之名曰虹映，一名《上清华盖阴景之内真》。

### 释《洞玄太极隐注经》

《太上玉经隐注》曰：上清之高旨，极真之微辞，飞仙之妙经也。《灵宝经》或曰《洞玄》，或云《太上升玄经》，皆高仙之上品，虚无之至真，大道之幽宝也。《三皇天文》或云《洞神》，或云《洞仙》，或云《太上玉策》，此三洞经符，

立道之纲纪，太虚之玄宗，上真之首经矣。岂中仙之所闻哉？”

### 释《七经》（并序）

道学七经。经者，径也；由也；常也；成也。径直易行，由之得进，常通不塞。正以治邪，转败为成，经纬相会也。玄、素、黄帝、容成、彭铿、巫咸、陈抟，习学七经，演述阴阳，生生为先。先仁之志，非但七人。七人迹多，亦号七经。天门玉子，皆传斯道。外儒失道，不知道为儒本，儒为道末。本末不知，致无长寿之人，遂为淫乱之俗也。至于外儒，五经备有。

《诗》首关雎。《礼》贵婚嫁。传嗣之重，历代所同；无后之罪，三千莫大；而知男女气数、阴阳兴衰，闻之疑怪，蚩鄙成灾，良可痛念！智者悟之，能归内道，救理外儒。《诗》、《礼》、《传》、《易》，至于《尚书》、《礼》、《乐》、《孝经》，敛末崇本。本孝合乎道，习乐同乎德。道德弘深，仁义备举。礼智恒用，信不暂亏。缘末入本，引外还内，上学之功，于此乎在。

七经者：一曰仁经。男女婚嫁，恩爱交接，生子种人，永世无绝。

二曰礼经。既生当长，壮不可恣，夫清妇贞，内外分别。尊卑相敬，和而有节。

三曰信经。既知礼节，亲疏相间。朝野忠直，无相违负。

四曰义经。既知忠直，有与有取。罚恶赏善，更相成济。

五曰智经。既知赏罚，防有枉滥。抑扬通流，除邪入正。

六曰德经。治邪保正，五德均平。无偏无苦，常乐长存。

七曰道经。常乐长存，腾泰无上。上德不德，教化立功。功成身退，权变无穷。

凡人学道，共修七经。经有所明，各有多少。仁经恩多，余事皆少。少不受称，多故立名。名为仁经，亦有《礼》、《义》、《信》、《智》、《德》、《道》六同若斯。唯《道》独多，少行均平，故号大道，一切所宗也。



## 卷十 三洞经教部·经

### 老君太上虚无自然本起经

道者，谓太初也。太初者，道之初也。初时为精，其气赤盛，即为光明，名之太阳，又曰元阳子丹。丹复变化即为道君，故曰道之初藏在太素之中，即为一也。太素者，人之素也。谓赤气初变为黄气，名曰中和，中和变为老君，又为神君，故曰黄神来入骨肉形中，成为人也；故曰人之素藏在太始之中，此即为二也。太始者，气之始也。谓黄气复变为白气，白气者，水之精也。名太阴，变为太和君，水出白气，故曰气之始也，此即为三气也。夫三始之相包也，气包神，神包精，故曰白包黄，黄包赤，赤包三，三包一，三一混合，名曰混沌。故老君曰：一生二，二生三，三生万物。又曰：混沌若鸡子。此之谓也。夫人形者，主包含此三一，故曰三生，又曰三精，又曰三形。元包含神，神得气乃生，能使其形安，止其气。如此三事，当相生成。

夫道为三一者，谓虚、无、空。空者，白也，白包无。无者，黄也，黄包赤。赤为虚。何为虚？虚者，精光明，明而无形质。譬若日、月及火，其精明然。而无有形质，故为虚。何谓无？无者，气也。气有形可见，无质可得，故为无。何谓空

？空者，未有天地山川，左顾右视，荡荡漭漭，无所障碍，无有边际，但洞白无所见，无以闻，道自然从其中生。譬若琴瑟鼓箫之属，以其中空，故出声音。是以圣人作经诫后贤者，欲使守道，空虚其心，关闭其耳目，不复有所念。若有所念思想者，不能得自然之道也。所以者何？道未变为神时，无端无绪，无心无意，都无诸欲，澹泊不动不摇。及变为神明，神者外其光明，多所照见，使有心意，诸欲因生，更乱本真。或曰思想不能复还反于道，便入五道，无有休息时。何谓五道？一道者，神上天为天神；二道者，神入骨肉形为人神；三道者，神入禽兽为禽兽神；四道者，神入薜荔，薜荔者，饿鬼名也；五道者，神入泥黎，泥黎者，地狱名也。神有罪过，入泥黎中考。如此五道，各有劫寿岁月，是以贤者学道，当晓知虚无自然。守虚无者得自然之道，不复上天也。常在世间变化，见死生，为世人师。守神者能练骨肉形为真人，属天官，当飞上天。此谓中自然也。守气者能含阴阳之气，以生毛羽，得飞仙道，名曰小自然。故神有广狭，知有浅深，明有大小。由是言之，学道赞诵圣文，寻逐明师，开解愚冥也。

夫守道之法，当熟读诸经，还自思惟我身。神本从道生，道者清静，都无所有，乃变为神明，便有光明，便生心意，出诸智慧。智慧者，谓五欲六情。五欲者，谓耳欲声，便迷塞不能止；目欲色，便淫乱发狂；鼻欲香，便散其精神；口欲味，便受罪入网罗；心欲爱憎，便偏邪失正平，凡此五欲，为惑乱覆盖。六情者，谓形识知痛痒，欲得细滑；耳闻声，心乐之；目见色，心欲之；鼻闻香，心逐臭；口得味，心便喜；身得细滑衣被，心便利之；得所爱，心便悦之。坐此六情以丧，故复名六情丧人。神但坐此六情所牵引，迷乱淫邪，垢浊暗蔽，使神明不畅达。便有肉人不能识别，听视不聪明，情志闭塞，皆

坐此五欲六情之所惑乱受罪，展转入五道死生，无有休息时。以是故当熟自思此意，其神本自清静，无此情欲；但思念此意，诸欲便自然断止，断止便得垢浊尽索，垢浊尽索便为清静，便明见道，与道合，便能视听无方，变化无常。人若复不解此意，且听吾说。譬如此类若镜。其师本作镜时，极令清明。至于人买镜持归，不肯护之，至使令冥无所光照，乃复令摩镜，师以药摩之，乃复正明，以明能见人形影。人神亦如此。神本从道生，道者清静，故神本自清静。而使以情欲迷惑，陷于暗冥。其镜冥者，药摩之便明。人神以欲自蔽冥者，亦当以经法自摩，诸欲乃得自然断止而复清静，乃有所见。又若天新雨之水，皆扰浊。若收此水置一器中，初时水尚浑浊，无所照见；久久稍自澄清便明，明便可于其中照见形影。人神以诸欲乱时如此浊水。人能断此情欲者，如澄清水。诸欲断，便自然清静澄明，明便为得道。当晓知其本者，诸欲便自然断。其余外道，不晓知其本清静，而反常相教断情欲。夫情欲，非有形质也，来化无时，不效有形之物，可得断截，使不复生。此神情欲思想，出生无时，不可见知，不可预防遏，不得断截。不效悬悬之绪可得寄绝；不效草木可得破碎；不效光明可得障蔽；不效水泉可得壅遏。故神无形，呼吸之间，丹炁不万封，以是故不可得断绝。但晓知其本，清静无欲，自然断止。而不晓知其本强欲自断情欲，终不能断绝之。譬如断树木使不生，当掘出其根本，根本已出，便不复生，痴人不晓之，而但齐地斫之，其根续生如故。人不晓情欲之本，而强断绝其末，如此情欲绝不断也，会复生如故。外道家不晓，人神本清静，而反入室强塞耳目断情欲，不知情欲本在于心意。心意者，神也。神无形，往来无时；情欲从念中生，生出无时。以无形故不得断绝。但当晓知其本，自当断止其意，不复生。为道当熟明此意。若不明知

此，但自劳伤其精神耳。夫为道既知此情欲，当复解知道德经行之法。夫道者，谓道路也。经者，谓径路也。行者，谓行步也。德者，谓为善之功德也。法者，谓有成道经，可修读而得道也。谓有成道路之径可随而行之。夫有德之人，念施行诸善。行者谓举足从径行，乃得大道。此欲贤者因经法思念十善，施行功德，功德已行为得道。譬如举足，因成之径，行步以前，当得大道。假令人坚坐在家，殊不行步，何时得道？贤者若不思经法，施行功德，何能得道乎？人为道，但守一不移，而不作功德，譬若人生在家，未尝出入，不能见道路也。愚者虽守道，不作功德，亦不能得道也。故老君作《道经》，复作《德经》，使忠信者奉行之。假令但守道便可得遂，圣人但作一言之诀，何须并作诸经云耶？

夫道，得三乃成，故言三合成德。自不满三，诸事不成。夫三者，谓道、德、人也。人为一，当行功德；功德为二，功德行乃为道；道为三。如此人入道德，三事合乃可得。若有人但作功德，不晓道，而无功德亦不得道也。若但有道德而无人，人亦不得道也。譬若种谷，投种土中，不得水润，何能生乎？譬若酿酒，有曲有米而无水，何犹成酒乎？譬若有君臣而无民，当何宰牧乎？譬若有火有水而无谷食，人当何以自活乎？譬若有车有马而无人御之，何能自随行乎？如此譬喻，皆得三乃能成道。

夫道者有三三一。为三一：为三皇，为三神，为三太一。三太一：谓上太一，中太一。下太一。为三元，其三元各自有三三一。如此三三之一为九一，故有九宫。从一始到九终，九阳气从十月冬至始生黄泉之下，到新年六月更终。从十月到六月合为九月，阳气便终，故阳数九，故言九天，子午亦数。为道当知此九一之变化，始终之上下。

夫人形体为一，神为二，气为三；此三三一乃成人。又神为一，气为二，精为三；此三三一乃复成神。又天为一，地为二，人为三；此三三一乃复成道德。天地之本三一者，谓虚为一，虚中有自然，已立身也，亦道君、亦元阳子丹也、亦贵人也、亦神人也；其左方之一者，亦天也、亦日也、亦父也、亦阳也、亦得也、亦师也、亦魂也，为人主作政也；其右方之一者，亦地也、亦月也、亦母也、亦阴也、亦形也、亦司命鬼，为邪为魔，主为人作邪恶。贤者当晓了此三三一，分别善恶邪正。觉知此者，便能得道。

夫道当晓知此左右之一，善恶之教。中央之一正自我身。神者，即道子也。左右之一辅相我为善恶。左方之一，日月关告我为善，其功德日日盛强，我便为正道，右方之一不能复持邪事反戾我也，不能使我为恶也。右方之一，日日教告我为恶事，牵引我恶日日深大，便系属邪。右方之一此为属邪，日与恶通。贤者为道，但晓知其道而不作功德，便当属邪，不能自出于邪部界，邪则日日迷乱，入便暗冥，怒作妄语，邪精、邪鬼神日来附近人。贤者不晓此邪而强为静，闭塞耳目欲断情欲，此诸邪鬼便奸乱人。又为人造作邪念，前念适灭，后念复起，如此之间，无有解已。若有功德之人，至于静时便为左方之一，不能持邪事来干乱人也。以是言之，无功德之人而强为静，欲断情欲，则终为邪所乱，情欲不得定也。

夫自然有三法。守太虚无，谓高学功德之人，解道根元，深洞微妙。晓知三元九一之变化、玄中之玄始祖、无中之无极道，知其所始，见其所终。天地人物，皆各有形。物既有形，故有成败死生。精神无形，展转变化，故无止，故曰常在。不惑世所闻，不迷世所知，能知之明，览虚无之自然，故澹泊无忧喜，情欲不能倾。所以者何？此人但晓解其本，故不惑其末，

但为与人并有内形耳，智慧无穷极，此乃为虚无也。亦从学而知之，非有素自然也。其静守道时，当少食，正闭耳目，还神光明著绛宫，绝去诸念，不得强有所视思想也。久久，喘息稍微，从是以往，不复自觉喘息，泊然不自知有身无身。从是以往，为得定道之门。道者，虚也。当尔之时，神在天上虚无中，左顾右视，但皓然正白，中无所见。有状如雨雪时，四向树亦白、山亦白、地亦白、一切都白，皆无所见。所以者何？神出天上，前向视不复见日月星宿、山川河海，如此为复命返道，还入虚无也。若得是当下视，乃见天下诸事，便当回心念师言，为道当济度天下，但见是念，故便止前所见，白更冥，神便来还形中。不如此者，神便入道中，散形与道合，便为天下骨肉形，便踉蹌，故老君曰：知白守黑，为天下式。见白者为见空。守黑者，发心下视，念天下以有之故，便冥，是谓守黑。为天下式，谓神还形中，长在天下，为人道师，是谓大虚无之自然也。

夫守中自然之法，不能晓知天地人物所从出，不能知道之根源变化所由，缘不能及，不能知虚空之事。其所见闻，心便疑惑怪之，且迥然不知道独坐无，能生于自然。直受师言，告身中道云，言当守神者，亦当除情欲，闭塞耳目，还神绛宫。下视昆仑山，或有教令，将神升昆仑山，视其上，想见中黄道君。始时想见，久而见之，久久悉见。诸神与神语言，讲说天上事，无复有世俗之念。身中骨、脑、血，日变成万神盛强，共举身而上天受篆署，不得下在人间。此谓真人道也。名曰中虚无之自然也。

夫守小虚无自然之法，亦当除去情欲，闭塞耳目，还神绛宫，下视昆仑山，和合天地、日月、阴阳、雌雄、魂魄之精气，以养真人。以吾身阴阳气凝，精骨润光，便生毛羽，飞上五山。

时有奉使按行民间，亦不得久止也。此谓小虚无自然也。

夫从此大虚无、中虚无、小虚无以下，便为之法，不及虚无也。

夫有为者，谓历藏导引，动作诸气，飞丹合药，吞符跪拜，带印禁忌，随日时王相醮祭名号精灵，使人解占候，此谓有为，不能知道何所谓也。亦有得仙，亦有住年，亦有得尸解，从此已下，便为鬼道，非得长生也。

夫得大虚无自然之道者，不属天，但属道君耳。便能散形与道合，能变化，听视无方，所在作为。欲得此道者，当行道教化，作功德，奉行经诫，平等其心，无所贪著，无亲无疏，一心等之，如天如地，不得杀生。所以者何？夫蛸飞蠕动之类，道皆形之大虚无象。有晓道而杀生者为害道，是以禁之。其守中自然者，为守中神，尚颇有杀生。所以者何？神有虚无，所以有虚形，故有食，有杀生祀祭。道无有，故无祭祀，不杀生。

夫得道者，但能已得。夫人耳目，听有声之声，见有形之形，不能听视无形无声也。所以者何？神赤。赤者阳，阳者离，离为日，为目，但能见前，不能见后，亦不能见头上。日者天目也，但能照天内，不能照天外也，亦不能照覆冥之中。是以得神道上天者，但能以天耳。夫道耳目所听视，无前无后，无覆冥，无障蔽，洞彻见无数天下事，能听无声之声，能见无形之形。夫作仙道者，当故持天耳目听视，乃能有所见。假令不故持天耳目听视，但独见目前事。所以者何？仙人持骨肉去故。

夫欲知神何以养象，神赤但有光，以光为虚形。譬若镜中、水中所见景，是为无所有。其所治止，常在天上，为生君，其寿有劫数，终不得在人间也。其天上寿续尽，当复入五道，更形生死如故耳。或时寿尽，取道便灭矣。

夫真人者，有形景，属天为吏，寿岁有万数。治天上，时

时有奉使人间。天上寿尽，便或上补神人，则不入五道中，受形生死矣。

夫守太虚无得自然之道，住身天上，劫有千数。寿尽，变化灭，神亦尽，神续入五道中，受形生死。如故天神都无死生也，但展转在五道耳。唯有眈兆常知智神，譬如火灭，无所复有，故取道。夫为道所已神有灭尽者何？此皆道人为不晓知道本空静，专心守空便著空，使人空灭尽。

夫守神之人不能知晓道本空静，但自信有不信无，以故自守神为守有，为著不还道何？以故神展转入五道中，无有灭尽时。唯有善譬，最为功觉。有晓了知道本空静，亦不守有，亦不守无，亦不念实，亦不念空。遍在三界中间，有慈悲之心，欲度脱勤苦者，不肯入空取道，因是乃有功德，便自然之道，无有寿也。亦不复入五道生死，亦不灭尽常在，久后功满，常补道君。贤者为道，当熟解此意，当知优劣，各有所致到。贤者学道，若知枝末，自谓深足，不肯复讲问穷究渊深，是不知道乃独各自用，有所致到，深浅微妙不齐等。闻仙便呼得道。贤者学道，譬若上山下视。言独是高径，住上至顶，乃复前有高处；住上高顶，直复见前有高高处。学道亦如此，从小师学道，得至中师，见大师乃知道根元。以是言之，学不可呼为足也。当努力求明师为道切，若言尔等何不取大道乎？而于小道止，是暗冥浅近哉！

夫贤者学道，不广闻深见，更阅众师者，此人学不足言也。夫日月不高，所照不远；江海不广，不能容纳。出名宝学之人，譬若陂中鱼，游到池四塞之下，自谓穷尽天下之水，终日终夜不能学大水之鱼，交会语言，不知外乃有江、湖、淮、济、河、海、恒、溺之水也。譬若深山中有痴人，从生至老不行出入，无所见闻，安知外方人士之学问、尊卑差序、车马衣服、鲜绮



甘香乎？譬若学经书之人，但闻天下九州共一天子，云言四边但有夷狄，以谓天地界际极尽于此，安能知其外复何等有乎？学道亦如此。从师受道，以谓尽于此，安能如学道修行，书不能记载也？

夫学仙道，自谓为足，定得飞仙上天，乃自知道不及真人也。学真人道，亦自谓为足，定得真人，乃自知道不及神人也。学神人道，亦自谓为足，定得神人，乃自知不及大道也。学既得，大道之中当复有尊卑者，谓知不等也。是以言之学，学无有极，天下神尚后行从君学道，何况内政灭神，光明变化各有所主，有所入，各有所致。

夫为太虚无之道，得无象无声教。无思想，都无识念之欲。守时亦法教，道不得取景梦候效也。或时神相见，尚不得与神共语言，所以者何？或有邪神来试人，此处无象，自然求道不求神也。略小取大，故可得自然。故老君曰：有光而不曜。谓欲养其光明至于彻视，不欲小电曜光，精独与一神相见也。如此不能悉见天下之事矣。

## 卷十一 三洞经教部·经二

### 上清黄庭内景经

#### 梁丘子注释叙

夫万法以人为主，人则以心为宗。无主则法不生，无心则身不立。心法多门，取用非一。有无二体，随事应机，故有凡圣、浅深、愚智、真假，莫匪心神辩识运用之所由也。但天下之道，殊途而同归，百虑而一致。从粗入妙，权实则有二阶；吻迹符真，是非同乎一见。《黄庭内景经》者，东华之所秘也，诚学仙之要妙，羽化之根本。余褻习未周，而观想粗得，裁灵万品，模拟一形；义有四宗，会明七字；指事象谕，内外两言。绌聪隳体之余，任嘘从咽之暇，舐笔磨墨，辄贻原筮。

#### 务成子注叙

扶桑大帝君命暘谷神仙王传魏夫人（暘谷神王，当是大帝之臣。授此经之时，与青童君俱来。夫人初在修武县中也）。

《黄庭内景》者（脾为黄庭命门。明堂中部，老君居之，所以云“黄庭内人服锦衣也”。自脐后三寸，皆号黄庭命门，

故下一云命门中有黄庭元王玄阙大君。又云坐当命门。犹如头中亦呼为泥丸洞房中也。此《经》以虚无为主，故用黄庭标之耳。其景者，神也。其《经》有十三神，皆身中之内景名字。又别有《老君外景经》。总真云：黄庭内外。涓子云：《黄庭内经》、《外经》者，皆是也。此神名与八景不同。又递述有无者，盖所施用处异也。名服既殊，源本亦别。太极太微者，品号域也），一名《太上琴心文》（琴，和也。诵之可以和六腑、宁心神，使得神仙。此十七字，本经所注也），一名《大帝金书》（扶桑大帝君宫中昼诵此经。以金简刻书之，故曰金书。此二十一字，本经所注也），一名《东华玉篇》（东华者，方诸宫名也，东海青童君所居也。其中玉女、仙人皆诵咏之。刻玉书之为玉篇。此三十三字，本经所注。夫此二宫之神仙犹诵之者，非复以辟邪，正谓和神耳。但诵万遍毕，当得洞经。不信此义，亦为一滞也）。

当清斋九十日，诵之万遍（此谓先斋九十日，乃就诵之。非九十日斋令诵得万遍也。诵日数无定限，若专此一法，日夜自可二十遍。若兼以余事者，乘闲正可四五遍耳。计得十遍，亦可依法礼拜。若遍限既毕，未能通感者，但更精心诵之，勿便止也）。使调和三魂，制炼七魄；除去三尸，安和六腑；五脏生华，色反孩童；百病不能伤，灾祸不得干。万过既毕，自然洞观鬼神，内视肠胃，得见五脏。其时当有黄庭真人中华玉女，教子神仙焉。此不死之道也（临目外观，则鬼神显形，接手内视，则脏腑洞别，乃得表里无隔，栖真降灵，然后禀受玄教，施行妙诀也。既曰不死，则天地长存，复何索乎）。子有仙相，得吾此书（吾者，应是暘谷神王自称也）。此文罗列一形之神室，处胎神之所在耳（于形中诸神，乃不都尽，而目其室宅，亦备穷委密矣。胎神即明堂三老君，所谓胎灵大神也。

此最为黄庭之本)。恒诵咏之者，则神室明正，胎真安宁，灵液流通，百关朗清，骨髓充溢，肠胃虚盈（无复滓秽为虚，津液常满为盈。所谓六气盈满，神明灵也）。五脏结华，耳目聪明；朽齿白发，还黑更生。所以却邪痼之纷若者，谓我已得魂精六纬之姓名也（纷若者，犹乱杂也。今五脏并胆，是为六纬，并神魂之精爽矣）。形充魂精而曰欲死，不可得也。故曰内景黄庭为不死之道（人之死也，常在形神相离。今形既恒充，则神栖而逸；神既常宁，则形全无毁。两者相守，死何由萌？虽曰欲逝，其可得乎？此道乃未能控景登虚，高宴上清，而既无死患，形固神洁，内彻身灵，外降英圣，隐芝大洞，于是而至，端坐招真，不俟游涉，筌蹄之妙，岂得逾此）。受者斋九日，或七日，或三日，然后受之。授者为师，受者奉焉（此师及弟子俱应结斋。斋日多少，随其身事。若履涉世尘，宜须积日自洁。其山居清静者，三日便足也）。结盟立誓，期以勿泄。古有盟用玄云之锦九十尺，金简凤文之罗四十尺，金钮九双，以代割发歃血勿泄之约。此物是神乡之奇帛，非赤县之所有也。今锦可用白绢，罗可用青布，钮可用金钗，亦足以誓信九天，制告三官矣（诸经中信用金龙、玉鱼之例，多是宝贵，非寒栖能办，故许听以世中易得物比之。今罗、锦异类，事绝人工，理宜准代。犹应选极精洁者。绢九丈，当使连织。钗小细于钮，以上金九分作九双，于丰俭为适）。皆奉有经之师，散之寒栖。违盟负约，七祖受考于暘谷河源，身为下鬼，考于风刀（暘谷神仙王口诀。此七字本经中所注）。一人受书，得传九人（诸经多云七百年传三人，此非世上之格。今此虽限人数，不制年期，当是止就一生之身为言也）。

审视形气，必慈仁忠信、耽玄注真、不毁真正、敬乐神仙者，乃可示耳。自非其才，是为漏泄。谨量可授，亦诚难也（

人虽不可常保，或始勤而未怠，初善而后恶。但本性既能慈仁惠信，耽玄乐仙，应当无复为过咎矣。此六德则未可全亲，故后云宁慎密之）。

又当先求感应，推讯虚灵者乃佳也。审可传者，亦将得梦以告悟。临时之宜，亦玄解于心矣。宣泄之科既重，传之者良为嶮巇。有《黄庭内经》之子，宁慎密之（清虚真人口诀，夫《内景黄庭经》者，扶桑太帝君之金书，炼真秘言矣。二十六字本经所注。案此二篇，是说传授科格，非扶桑东华金书玉字本文，止是二匠授南真时口诀，故并题注言之也）。读《黄庭内景经》者，常在别室烧香洁净，乃执之也（凡欲读此经，皆当如此。施高座东向、烧香、沐浴、束带，舒经于案格之上，微其音响，吟讽斫咏，无使辍误。辍误之时，当依消摩法，重却前三十字更读也。记其遍数十过，则应起拜）。诸有此经，能辟百邪。若入山林空暗之地，心中震怖者，正心向北读《内经》一过，即神静意平，如与千人同旅而止（邪却则神安，故无复疑惧之患）。能读之万过，自见五脏肠胃，又见天下鬼神，役使在己（内视既朗，则外鉴亦彻。玉女尚来降授，鬼神何足役使也）。若困病者，心存读之，垂死亦愈（不能执书，故心存读之。若不堪首尾周遍，但取神名处诵之。涓子云，灵元是脾神，长四寸，坐脾上，如婴儿，著黄衣，位为中部明堂老君。若体中有疾，及饥饱不和适之时，但存中部老君之服色，便仿佛在脾。三呼其名毕，咽液七过，万病如愿也。此即经中所云“三呼我名，神自通”者也）。

大都通忌食六畜及鱼臊肉（六畜，牛、马、猪、羊、鸡、犬也。鱼臊，当谓生臊耳，故为禁也）。忌五辛（生葱、蒜、薤、韭、胡荽也）淹滯之事（世间所可为淹秽事者，皆宜避之，不复曲辩之也）。

若脱履淹漉之者，沐浴盥漱，烧香于左，读经一过，百疴除也（其余饮食所忌，学者本不待言。若脱遇淹秽，则可以桃竹而解之，烧香于左，以阳消阴。若不如此，则当致故气，百疴难除矣。按《经》后云“入室东向读玉篇”，而《序》云“北向读《内景经》一过”者，此谓却邪折恶时，与和神召灵时异也。今若依法恒读，自可依前所注东向之事也。又小君言山世远受孟先生法，暮卧先读《黄庭内景经》一遍乃眠，使人魂魄自制，但行此二十一年亦仙矣。是为合万过也。夕得三四过乃佳。北岳蒋夫人云读此经，亦使人无病，是不死之道也。如此暮临卧，每烧香东向，于寝床而诵之，旦夕一过者，至二十七年，正得万遍耳。今云二十一年，或是字误。若不尔，则夕不恒一过也。故复云夕三四过乃佳。计此十遍毕，亦可礼。所以云万过，亦是取其限义也。读不患数，患人不能勤耳）。

### 释题

黄庭内景（黄者，中央之色也。庭者，四方之中也。外指事，即天中、人中、地中；内指事，即脑中、心中、脾中。故曰黄庭内者，心也。景者，象也。外象谕，即日月、星辰、云霞之象；内象谕，即血肉、筋骨、藏府之象也。心居身内，存观一体之象色，故曰内景也）。

### 诵黄庭经诀

入室诵《黄庭内景玉经》，当烧香，清斋，身冠法服，入户北向四拜，长跪，叩齿二十四通，启曰：上启高上万真玉晨太上大道君，臣今当入室，诵咏玉经，炼神保脏；乞胃宫荣华，身得乘虚，上拜帝庭。毕，次东向揖四太帝，又叩齿十二通，启曰：上启扶桑太帝暘谷神王，臣某甲今入室披咏玉经，乞使静室神芝自生，玉华宝辉，三光洞明，万遍胎仙，得同帝灵。咒毕，东向诵经十遍为一过，便还北向四拜，东向四揖，不须复启。

### 上清章第一

上清紫霞虚皇前，太上大道玉晨君（上清者，三清名也。虚皇者，紫清太素高虚洞曜三元道君内号也。太上即高圣太真玉晨玄皇大道君也。理在上清协晨观蕊珠之房，紫霞焕落，瑞气交映也），闲居蕊珠作七言（蕊珠，上清境宫阙名也。述作此经，皆以七言为句也），散化五形变万神（散化形体，变通万神，明此经秘妙矣），是为黄庭曰内篇（真言叹美，又曰内篇也），琴心三叠僊胎仙（琴，和也。三叠，三丹田，谓与诸宫重叠也。胎仙即胎灵大神，亦曰胎真，居明堂中，所谓三老君为黄庭之主，以其心和则神悦，故僊胎仙也），九气映明出霄间（九天之气入于人鼻，周流脑宫，映明上达，故曰出霄间。《九天生神经》曰：三元育养，九气结形），神盖童子生紫烟（神盖谓眉也。童子，目神也。紫烟即目光气也），是曰《玉书》可精研，咏之万过升三天（此经亦曰玉书，谓精心研虑，诵满万遍即自升天矣。三天者，太清、上清、玉清也），千灾以消百病痊，不惮虎狼之凶残，亦以却老年永延（真经尊重，持

诵蒙恩，灾病自除，虎狼不犯，衰年转少，寿命延长。《道经》曰：摄生者，毒虫猛兽不搏也。此一章初说经之旨也。此经盖是太上弟子所撰记耳。犹如《孝经》、《礼记》，称孔子闲居也）。

### 上有章第二

上有魂灵下关元（魂，魂魄也。灵，胎灵也。魂在肝，魄在肺，胎灵在脾。关元，脐也。脐为受命之宫，则魂魄在上，关元居下），左为少阳右太阴（少阳，左目也。太阴，右目也），后有密户前生门（密户，肾也。肾为藏精宫，当密守之，使不躁泄。生门，命门也），出日入月呼吸存（谓常存日月于两目，使光与身合，则通真矣。《九真中经》曰：夜半生气，或鸡鸣时正坐闭气，存左目出日，右目出月，两耳之上为六合高窗，令日月使照一身，内彻泥丸，下照五脏肠胃之中，了了洞见。内彻外合，一身与日月光共合。良久，叩齿九通，咽液九过，微祝曰：太上玄一，九皇吐精，三五七变，洞观窈冥。日月垂光，下彻神庭，使照六合，太一黄宁。帝君命简，金书不倾。五老奉符，天地同诚。使我不死，以致真灵，却遏万邪，祸害咸平。上朝天皇，还老返婴，太帝有制，百神敬听），四气所合列宿分（四气，四时灵气也。列宿，三景也。谓常存元气合于身，兼思日月斗星分明焕照，久则通灵），紫烟上下三素云（三素者，紫素、白素、黄素也。常存三元妙气上下在身，则形神通感），灌溉五华植灵根（五华者，五方之英华，即气也。灵根，舌本也。谓漱咽津液，兼吸引五气而服之，则灵根永存，神府清畅），七液洞流冲牖间（牖间，两眉间，谓额也。七液者，谓四气三元结成灵液，流润脏腑，气冲脑盛也），回



紫抱黄入丹田（丹田，上丹田。在两眉间却入三寸之宫，即上元真一所居也。紫、黄者，三元灵气也），幽室内明照阳门（幽室，肾也。阳门，命门也。谓存念肾脏，令其内明；专气保精，无使泄散；朗照内外，兼守命门也。此一章先说黄庭宫府所在，气液周流，上下相通），

### 口为章第三

口为玉池太和宫（口中津液为玉液，一名醴泉，亦名玉浆。贮水为池，百节调柔，五脏和适，皆以口为官主也。一本有作“太和宫”，于文韵不便也。《大洞经》云：心存胃口有一女子，婴儿形，无衣服，正立胃管，张口承注魂液，仰吸五气。当即漱漏口中内外津液，满口咽之，遣直入玄女口中，五过毕，叩齿三通，微咒曰：玉清高上九天九灵，化液在玄，下入胃清，金和玉映，心开神明，服食日精，金华充盈），漱咽灵液灾不干（灵液真气，邪不干正），体生光华气香兰（不食五谷，无秽滓也），却灭百邪玉炼颜（肌肤若冰雪，绰约若处子），审能修之登广寒（广寒，北方仙宫之名，又云山名，亦曰广霞。《洞真经》云：冬至之日，月伏于广寒之宫，其时育养月魄于广寒之池。天人采青华之林条，以拂月光也），昼夜不寐乃成真（勤修静定，则为真人），雷鸣电激神泯泯（泯泯，取平声读。调神理气，魂魄恬愉，虽遇震雷，而不惊惧。又曰，雷鸣电激，为叩齿存思，乃是神用，不得言泯泯）。

### 黄庭章第四

黄庭内人服锦衣（黄庭内人谓道母，黄庭真人谓道父，人

身备有之。锦衣，具五色也。即谓五脏之真气也。三庭之中备有之），紫华飞裙云气罗（《十方经》云：高上玉皇衣文明飞云之裙，即神仙之所服也），丹青绿条翠灵柯（五色，杂气共生。枝条，仙衣之饰），七蕤玉龠闭两扉（外象谕也。七窍开阖以谕关龠，用之以道，不妄开也。蕤，龠之饰。存神必闭目，故名曰闭两扉也），重扇金关密枢机（金，取坚刚也。故《经》云：善闭者，无关键而不可开。言养生者善守精神，不妄泄也），玄泉幽关高崔巍（玄泉，口中之液也，一曰玉泉，一名醴泉，一名玉液，一名玉津，一名玉浆。两眉间为阙庭，两肾间为幽关。如门之左右象魏，中间阙然为道。肾在身中，故曰幽阙也。据肾在诸脏之下，而云高者，形状存神即在丹田之上，故言高也），三田之中精气微（内指事也。丹田之中神气变化，感应从心，非有无不可为象也。从粗入妙，必有其系，故以气言之。气以心为主，因主立象，至精至微，不可数求也。《道机经》云：天有三光日、月、星，人有三宝三丹田。三丹田中，气左青右黄，上白下黑也），娇女窈窕翳霄晖（《真诰》云：娇女，耳神名。言耳聪朗彻明，掩玄晖也），重堂焕焕明八威（重堂，喉咙名也，一曰重楼，亦曰重环。本经云“绛宫重楼十二级”，绛宫，心也。喉咙在心上，故曰重堂。喉咙者，津液之路，流通上下，滋荣一体，焕明八方。八卦之神曰八威也），天庭地关列斧斤（两眉间为天庭。紫微夫人祝曰：开通天庭，使我长生。列斧斤，言勇壮），灵台盘固永不衰（心为灵台。言有神灵君之，静则守一，动则存神，体安不衰竭矣）。

### 中池章第五

中池内神服赤珠（胆为中池。舌下为华池。小腹胞为玉池，

亦三池之通名。胆部曰“龙旂横天掷火铃”，赤珠者，火铃之服），丹锦云袍带虎符（丹锦云袍，心肺之色。在胆之上，故曰云袍符命也。《九真经》云：皇老君佩玄龙神虎符，带流金之铃。并道君之服也），横津三寸灵所居（内指事也。脐在胞上，故曰横津。脐下三寸为丹田，真人赤子之所居也），隐芝翳郁自相扶（谓男女之形体也。隐翳交合，自然之道。按《内外神芝诀》云：五脏之液为内芝。内芝则隐芝也。又云：隐，奥者也）。

### 天中章第六

天中之岳精谨修（天中之岳谓鼻也，一名天台。《消魔经》云：鼻欲数按其左右，令人气平，所谓溉灌中岳，名书帝录），云宅既清玉帝游（面为云宅，一名尺宅。以眉、目、鼻、口之所居，故为宅也。修之清通，则神仙矣。《洞神经》曰：面为尺宅，字或作“赤泽”），通利道路无终休（《太素丹景经》曰：一面之上，常欲两手摩拭之，高下随形，不休息，则通利耳目鼻口之气脉），眉号华盖覆明珠（明珠，目也），九幽日月洞空无（《五辰行事诀》云：眉上直入一寸为玉瑯紫阙，左日右月。又《玉历经》云：太清上有五色华盖九重，人身亦有之。当存目童如日月之明也），宅中有真常衣丹（真谓心神，即赤城童子也，亦名真人，亦名赤子，亦名子丹。心存见之，常在目前，与心相应。衣丹，象心气赤色也），审能见之无疾患（元阳子曰：常存心神，则无病也），赤珠灵裙华茜粲（玄膺之象也。外谕也），舌下玄膺生死岸（内指事也。玄膺者，通津液之岸也。本经云：“玄膺气管受津府。”），出青入玄二气焕，子若遇之升天汉（谓吐纳阴阳二气，焕然著明也。人

能善遇吐纳之理，则成天仙矣）。

### 至道章第七

至道不烦决存真（专心则至），泥丸百节皆有神（神者，妙万物而为言。因象立名，则如下说），发神苍华字太元（白与黑谓之苍。最居首上，故曰太元），脑神精根字泥丸（丹田之宫，黄庭之舍；洞房之主，阴阳之根。泥丸，脑之象也），眼神明上字英玄（目谕日月，在首之上，故曰明上。英玄，童子之精色，内指事也），鼻神玉垄字灵坚（阴垄之骨，象玉也。神气通天，出入不竭，故曰灵坚），耳神空闲字幽田（空闲幽静，听物则审，神之所居，故曰田也），舌神通命字正伦（咽液以舌，性命得通；正其五味，各有伦理），齿神嵒锋字罗千（牙齿坚利如剑嵒刀锋，摧罗众物而食之也），一面之神宗泥丸（脑中丹田，百神之主），泥丸九真皆有房（《大洞经》云：三元隐化，则成三宫；三三如九，故有三丹田，又有三洞房，合上元为九宫，中有九真神。三九二十七，神气相合，人当存见之。亦谓天皇九魄变成九气，化为九神，各居一洞房），方圆一寸处此中（房有一寸，故脑有九宫），同服紫衣飞罗裳（九真之服，皆象气色。飞，犹轻也），但思一部寿无穷（存思九真不死之道也），非各别住俱脑中（丹田之中，众神所居），列位次坐向外方（神绕丹田而外其面以扞不祥。《八素经》云：真有九品，向外列位，则当上真上向，高真南向，太真东向，神真西向，玄真北向，仙真东北向，天真东南向，灵真西南向，至真西北向，天真者不视而明，不听而聪，不言而正，不行而从），所存在心自相当（心存玄真，内外相应）。

## 心神章第八

心神丹元字守灵（内象谕也。心为脏府之元，南方火色。栖神之宅，故言守灵也），肺神皓华字虚成（肺为心之华盖。皓，白也，西方金之色。肺色白，其质轻虚，故曰虚成也），肝神龙烟字含明（肝位木行，东方青龙之色也。于脏主目。日出东方，木生火，故曰含明），翳郁导烟主浊清（翳郁，木象也。得火而烟生，得阳而气生。清则目明，浊即目暗。有别本无此一句），肾神玄冥字育婴（肾属水，故曰玄冥。肾精为子，故曰育婴也），脾神常在字魂停（脾，中央土位也，故曰常在，即黄庭之宫也。脾磨食消，神康力壮，故曰魂停），胆神龙曜字威明（胆色青黄，故曰龙曜。主于勇捍，故曰威明。外取东方青龙，雷震之象也），六腑五脏神体精（资系一身，废一不可，故曰神体精。心、肝、肺、肾、脾为五脏。胆、胃、大肠、小肠、膀胱、三焦为六腑。所言府者，犹府邑之府，取中受物之义，故曰府也。脏者，各是一质，共藏于身，谓之脏也。言三焦者多矣，而未的言其所在。盖心、肝、肺三脏之上，系管之中为三焦。《中黄经》云：肺首为三焦，当指其所也。又据五方之色脾为黄，应为五脏之主，而今共以心为主者何也？答曰：心居藏中，其质虚受也。夫虚无者，神识之体，运用之源，故遍方而得其主，动用而获其神，不可以象数言，不可以物类取也），皆在心内运天经（五脏六腑，各有所司，皆有法象，同天地，顺阴阳，自然感摄之道，故内运天经也），昼夜存之自长生（依上五神服也，思存不舍，不死之道也。《仙经》曰：存五脏之气，变为五色云，常在顶上，覆荫一身。日居于前，月居于后，左青龙，右白虎，前朱雀，后玄武。即去邪长生之道也）。

## 肺部章第九

肺部之宫似华盖（金宫也。肺在五脏之上，四垂为宇也），下有童子坐玉阙（童子名皓华。肺形如盖，故以下言之。玉阙者，肾中白气，上与肺连也），七元之子主调气（元阳子曰：七元之君负甲持符，辟除凶邪而布气七窍，主耳目聪明。七元，七窍之元气也），外应中岳鼻齐位（中岳者，鼻也，又为脐也。脐为昆仑之山，鼻为七气之门，位犹主也），素锦衣裳黄云带（素锦衣裳，肺膜之色也。黄云带者，肺中之黄脉，蔓延罗络，有象云气），喘息呼吸体不快（有时而然），急存白元和六气（白元君主肺宫也。《大洞经》云：白元君者，居洞房之右是也），神仙久视无灾害（邪不干正），用之不已形不滞（常存此道，形气华荣，至诚感神之所致也）。

## 心部章第十

心部之宫莲含华（火宫也。心脏之质，象莲花之未开也），下有童子丹元家（心神丹元，字守灵，神在心内而云下者，据华盖而言），主适寒热荣卫和（寒热，阴阳静躁之义也。人当和适以荣卫其身。老子《经》云：躁胜寒，静胜热。清静以为天下正），丹锦飞裳披玉罗（象心脏之色也。有肺之白气象玉罗），金铃朱带坐娑娑（金铃，肉蕊之象。朱带，血脉之象。坐娑娑者，言神之安静也。《九真经》云：黄老君带流金之铃，仙服也），调血理命身不枯（心安体和，则无病矣），外应口舌吐五华（心主口舌吐纳五脏之液，辨识五行之味，故言外应），临绝呼之亦登苏（人有病厄，当存丹元童子朱衣赤冠以救护

之也），久久行之飞太霞（常行此道，能获飞仙）。

### 肝部章第十一

肝部之中翠重裹（木宫也。肝色苍翠，大小相重之象也），下有青童神公子（肝，东方木位，主青，故曰青童。左位为公子。公子一名含明。上有华盖，故曰下），主诸关镜聪明始（于时主春，青阳之本始；于窍主目，五行之关镜，故曰聪明之始），青锦披裳佩玉铃（青锦，肝之色。玉铃，白脉垂之象也。《升玄经》云：三天玉帝，带火玉之珮。《素灵经》云：灵耀君衣青锦单裳。皆神仙之服也），和制魂魄津液平（内指事也。东春和煦，万物生成），外应眼目日月清（肝位属眼，象日月明），百病所钟存无英（左为无英，肝神在左，故存之。一本为无英。无英者，物生之象也），同用七日自充盈（五脏兼在，故言同用。七日为一竟。一竟，一复也。故《周易》曰“七日来复”是也），垂绝念神死复生（存念青衣童子，形如上说），摄魂还魄永无倾（《太微灵书》云：每月三日、十三日、二十三日夕，三魂弃身游外，摄之者当仰眠，去枕，伸足，交手心，瞑目，闭气三息，叩齿三通，存心中有赤如鸡子，从内出于咽中。赤气转大，覆身；变成火以烧身，使匝。觉体中小热，呼三魂名曰：夹灵、胎光、幽精。即微咒曰：太微玄宫，中黄始青。内炼三魂，胎光安宁。神宝玉室，与我俱生。不得妄动，鉴者太灵。若欲飞行，唯诣上清。若有饥渴，得饮玄水玉精。又每月朔、望、晦日，七魄流荡，交通鬼魅。制捡还魄之法，当此夕仰眠，伸足，掌心掩两耳，令指相接于项上，闭息七遍，叩齿七通，心存鼻端白气如小豆大，须臾渐大，冠身上下九重。气忽变成两青龙，在两目中；两白虎在两鼻孔中，皆向外；朱

鸟在心，上向人口；苍龟在左足下，灵蛇在右足下。两玉女著锦衣，手把火光，当两耳门。毕，咽液七过，呼七魄名曰：尸苟、伏矢、雀阴、吞贼、非毒、除秽、臭肺。即微咒曰：素气九回，制魄邪奸。天兽守门，娇女执关。炼魄和柔，与我相安。不得妄动，看察形源。若有饥渴，听饮月黄日丹）。

### 肾部章第十二

肾部之宫玄阙圆（水宫也。玄阙圆者，肾之形状也。玄，水色。内象谕也），中有童子冥上玄（肾为下玄，其神玄冥，字育婴。心为上玄。上玄幽远，气与肾连，故言冥上玄），主诸六腑九液源（五脏六腑，九液交连，百脉通流，废一不可。六腑如上说。九液，九窍之津液），外应两耳百液津（肾宫主耳，气衰则聩。阴阳和合，血液流通），苍锦云衣舞龙幡（苍锦，肾色之象也。云衣，肾膜之象也。龙幡，青脉之象也。《九真经》云：道君服青锦衣、苍华之裙也），上致明霞日月烟（肾气充足，耳目聪明，阴阳不衰。外象谕也），百病千灾急当存（元阳子曰：寒暑相生，男女相形。肾中二神常衣青，左男戴日，右女戴月，存想见之，则充无灾患者也）。两部水王对生门（肾脏双对，故曰两部。肾宫水王，则化为赤子，故曰对生门），使人长生升九天（赤子化为真人而升九天者，谓九气青天，其气主生者也）。

### 脾部章第十三

脾部之宫属戊己（土宫也。戊己，中央之辰也），中有明童黄裳里（明童谓魂停。黄裳，土之色），消谷散气摄牙齿（



脾为五脏之枢。脾磨食消，性气乃全。齿为罗干，故摄牙齿），是为太仓两明童（太仓，肚府。此明童谓肚神，神名混康），坐在金台城九重（注念存思，神状当然），方圆一寸命门中（即黄庭之中，丹田之所也），主调百谷五味香（口中滋味，脾磨之所致也），辟却虚羸无病伤（内指事也。食消故也），外应尺宅气色芳（尺宅，面也。饥饱虚羸，形乎面色。）光华所生以表明（亦知虚实），黄锦玉衣带虎章（脾主中黄，谓黄庭真人服锦衣也。《玉清隐书》云：太上道君佩神虎大章也），注念三老子轻翔（三老谓元老、玄老、黄老之君也。念脾中真人自然变化。子谓受黄庭之学），长生高仙远死殃（《庄子》曰：方生方死，方死方生；方可方不可，方不可方可。以此而谈，其理均也。故长生者不死，寂灭者不生。不死不生，则真长生；不生不死，则真寂灭。何死殃之所及也）。

#### 胆部章第十四

胆部之宫六腑精（胆、胃、大肠、小肠、膀胱、三焦，为六腑也。《太平经》云：积清成精。故胆为六腑之精也），中有童子曜威明（又云胆神龙曜，字威明。勇捍之义也），雷电八振扬玉旌（八方雷震，有威怒之象也。玉旌，则气之色也），龙旂横天掷火铃（胆，青龙之色。旂旗，威战之具也。火铃者，胆边肉珠之象也。怒则奋张，故言掷也），主诸气力摄虎兵（胆力牙用，主于捍难，故摄虎兵），外应眼童鼻柱间（内指事也。心之喜怒，形于眉目之间），脑发相扶亦俱鲜（人之震怒，发上冲冠），九色锦衣绿华裙（青锦，东方九气之色也。绿华裙，胆膜之象），佩金带玉龙虎文（胆神，威明之服饰也），能存威明乘庆云（内象谕也。思存胆神不倦，则仙道可致也），

役使万神朝三元（三元道君各处三清之上，诸天神仙并朝宗之故也）。

### 脾长章第十五

脾长一尺掩太仓（太仓，胃也。《中黄经》云：胃为太仓君。元阳子曰：脾正横在胃上也），中部老君治明堂（脾，黄庭之宫也，黄老君之所治。上应明堂，眉间入一寸是也），厥字灵元名混康（脾磨食消，内外相应。大肠为胃之子，混元而受纳之，康，安也），治人百病消谷粮（胃宫荣华则无病伤），黄衣紫带龙虎章（脾居胃上，故曰黄衣也。紫带龙虎章，胃络之象），长精益命赖君王（太仓混康，为君为王），三呼我名神自通（存思胃府之神，则心虚洞鉴也），三老同坐各有朋（上元老君居上黄庭宫，与泥丸君、苍华君、青城君及明堂中君臣、洞房中父母、及天庭真人等共为朋也。又中元老君居中黄庭宫，与赤城童子丹田君、皓华君、含明君、玄英君、丹元真人等为朋也。下黄老君居下黄庭宫，与太一君、魂停君、灵元君、太仓君、丹田真人等为朋也。常存三老和合，百神流通，部位营卫，无有差失也），或精或胎别执方（《玉历经》云：下丹田者，人命之根本，精神之所藏，五气之元也。在脐下三寸附著脊，号为赤子府。男子以藏精，女人以藏胎。主和合赤子阴阳之门户也。其丹田中气，左青右黄，上白下黑），桃孩合延生华芒（桃孩，阴阳神名，亦曰伯桃。《仙经》曰：命门脐宫中有大君，名桃孩，字合延。衣朱衣，巾紫芙蓉冠。暮卧存之，六甲、六丁来侍人也。生华芒，谓阴阳之气不衰也），男女偕九有桃康（男女合会，必存三丹田之法。桃康，下神名，主阴阳之事。偕三为九，故曰偕九。《大洞真经》云：三元隐

化，则成三宫。三宫中有九神，谓上、中、下三元君，太一、公子、白元、无英、司命、桃康，各有宫室，故曰桃康），道父道母对相望（阴阳两半成一，故曰相望），师父师母丹玄乡（道为宗师，阴阳之主也。丹玄乡，谓存丹田法也），可用存思登虚空（学仙之道），殊途一会归要终（合三以为一，散一以为三，道之要。《玄妙内篇》云：兆欲长生，三一当明），闭塞三关握固停（《经》云：“口为天关精神机，手为人关把盛衰，足为地关生命扉。又脐下三寸为关元，亦曰三关，言固精护气，不妄施泄），含漱金醴吞玉英（金醴、玉英，口中之津液。《大洞经》云：服玄根之法，心存胃口有一女子，婴儿形，无衣服，正立胃管，张口承注魂液，仰翕五气。当漱漏口中内外津液，满口咽之，遣入玄女口中。五过毕，叩齿三通，咽液九过也），遂至不饥三虫亡（《洞神诀》云：上虫白而青，中虫白而黄，下虫白而黑。人死则三虫出为尸鬼，各化为物，与形为殃，击之冲破也，其余众虫，皆随尸而亡。故学仙者精谨备于五情之气，服食药物以去三虫。又云：上尸彭踞，使人好滋味，嗜欲痴滞；中尸彭质，使人贪财宝，好喜怒；下尸彭矫，使人爱衣服，耽淫女色。亦名三毒），心意常和致欣昌（道通无碍），五岳之云气彭亨（五脏之气为五岳之云。彭亨，流通无拥之称也），保灌玉庐以自偿（玉庐，鼻庐也。言三虫既亡，真气和洽，出入玄牝，绵绵不绝，故曰自偿），五形完坚无灾殃（五体、五脏，自然相应故也）。

#### 上睹章第十六

上睹三元如连珠（三元谓三光之元，日、月、星也。非指上、中、下之三元也），落落明景照九隅（三光在上而下烛九

隅。九隅，九方也。言常存日月，洞照一身也），五灵夜烛焕八区（五灵谓五星也，炳焕罗列一身。常能存之，则与天地同休也），子存内皇与我游（大道无心，有感则应），身披凤衣衔虎符（仙官之服御也），一至不久升虚无（一者，无之称也。学道专一，与灵同体，神仙可致也。《庄子》云：人能知一万事毕），方寸之中念深藏（方寸之中，下关元，在脐下三寸，方圆一寸，男子藏精之所。言谨闭藏之），不方不圆闭牖窗（方止圆动，不动不静；但当杜塞，不妄泄也），三神还精老方壮（还精神于三田，则久寿延年也），魂魄内守不争竞（魂阳魄阴，各得其一，故《易》曰：一阴一阳之谓道），神生腹中衔玉瑯（腹心内明，口吐珠玉。按《五辰行事诀》云：两眉间直上一寸、入一寸为玉瑯紫阙。窃观文意，未应是此也），灵注幽阙那得丧（存神守一，无横夭也），琳条万寻可荫仗（外象谕也。琳条，玉树。万寻，高远象。身形同真，则神明之所庇荫者也），三魂自宁帝书命（真道既成，名书帝录）。

### 灵台章第十七

灵台郁蔼望黄野（灵台，心也。谓心专一存见黄庭，则黄野也），三寸异室有上下（三丹田上、中、下各处各异，每室方圆一寸，故云三寸。今人犹谓心为方寸，即一所），间关营卫高玄受（三田之间各有关，关营卫分部，至高至玄。心当受以存念之也），洞房紫极灵门户（《大洞经》云：两眉直上却入三分为守寸双田。入骨际三分有台阙明堂。正深七分，左为青房，右为紫户。却入一寸为明堂宫，左有明童真君，右有明女真官，中有明镜神君。却入二寸为洞房，左有无英君，右有白元君，中有黄老君。却入三寸为丹田宫，亦名泥丸宫，左有

上元赤子，右有帝卿君。却入四寸为流珠宫，有流珠真人居之。却入五寸为玉帝宫，有玉清神母居之。其明堂上一寸为天庭宫，上清真女居之。洞房上一寸为极真宫，太极帝妃居之。丹田上一寸为玄丹宫，中黄太一真君居之。流珠上一寸为太皇宫，太上真君居之。故曰灵门户也），是昔太上告我者（我者，扶桑大帝君自谓也。言我道成，昔承道君授以黄庭之术也。言此道不远，止在丹田，故却言是昔也），左神公子发神语（按《大洞经》云：左有无英。此云公子，亦牙言耳。发神语者，用心专一，则教之以道），右有白元并立处（右为学道者之侍者也），明堂金匱玉房间（皆上元之宫。释如下说也），上真人当吾前（上元部神，想在天庭之际），黄裳子丹气频频（谓中元童子处于赤城。频频气盛不衰竭），借问何在两眉端（明堂之前），内侠日月列宿陈（《五辰行事诀》云：太上真人招五辰于洞房，南极元君受传。每夜半坐卧，心存西方太白星在两眉间，直上一寸，入一寸为玉珰紫阙，左日右月。又次存北方辰星在帝乡玄宫，在发际下五分直入一寸也。又次存东方岁星在洞阙朱台，洞阙朱台在目后一寸直入一寸是也。又次存南方荧惑星在玉门华房，玉门华房在两目眦际直入五分是也。又次存中央镇星在金匱黄室长谷，黄室长谷在人中直入二分是也。存之缀悬于上。毕，叩齿五通，咽液二十五过，微咒曰：高元紫阙，中有五神。宝曜敷晖，放光冲门。精气积生，化为老人。首巾素容，绿帔绛裙，右带流铃，左佩虎真，手把天刚，散绛飞晨，足蹑华盖，吐芒练身。三景保守，令我得真。养魂制魄，乘飚飞仙。是其事也。内象谕），七曜九元冠生门（七曜，七星；配人之七窍。九元，九辰；配人之九窍。废一不可，故曰生门）。

## 三关章第十八

三关之中精气深，九微之内幽且阴（谓关元之中，男子藏精之所也。又据下文，口、手、足为三关。又元阳子以明堂、洞房、丹田为三关。并可以义取而存之，则成三宫，是名太清、太素、太和。三三如九，故有三丹田，又有三洞房，合上三元为九宫中精微，故曰九微，言九微幽玄而不可见也），口为心关精神机（言发于情，犹枢机也），足为地关生命渠（言运用己身而生也，渠成为扉），手为人关把盛衰（纵舍由己）。

## 若得章第十九

若得三宫存玄丹（三丹田之宫，故曰三宫。玄丹，丹元；谓心也。存思在心，故偏指一所也），太一流珠安昆仑（太一流珠谓目精。《洞神经》云：头为三台君，又为昆仑，指上丹田也。又云：脐为太一君，亦为昆仑，指下丹田也。言心存三丹田，诸神皎然在目前。本经曰：“子欲不死修昆仑”。昆仑，山名也。），重中楼阁十二环（谓喉咙。十二环相重，在心上。心为绛宫，有象楼阁者也），自高自下皆真人（高下三田，十二楼阁，皆有真神。文如上说），玉堂绛宇尽玄宫（绛宫、明堂，上下，相应，皆宫室也），璇玑玉衡色兰环（喉有环圆动转之象也。兰环，其色也），瞻望童子坐盘桓（存见赤城童子丹皇真人坐，言其神安静），问谁家子在我身？（言己有之），此人何去入泥丸（与上元诸神上下相应，《洞神经》云：脑为泥丸宫），千千百百自相连（神本出于一。一生二，二生三，三生万物。变化不离身心），一一十十似重山（存见万物，重叠安坐。山象坐形），云仪玉华侠耳门（云仪、玉华，鬓发之

号。言耳居其间。《经》曰：“发神名苍华”。凡言华者，上敷荣之义，犹草木之花），赤帝黄老与己魂（赤帝者，南方之帝君也。黄老者，中黄老也。魂为阳神，魄为阴神，阴阳相推，故言与我魂。《太微灵书》云：人有三魂：一曰爽灵，二曰胎光，三曰幽精。常呼念其名，则魂安人身也），三真扶胥共房津，五斗焕明是七元（五斗，五星。七元，北斗也。又《灵宝经》有五方之斗，亦为五斗。《洞房诀》云：存九元、七元者，眠起初卧及食毕，微咒曰：五星开道，六合紫房，回元隐道，豁落七辰。生魂者玄父，变一成神；生魄者玄母，化二生身。摄吾筋骨者公子，为吾精气者白元。长生久视，飞仙十天），日月飞行六合间（天地内为六合。存念身中日月星辰，森罗万象，一如天地户间，了了然也），帝乡天中地户端（眉上发际五分直入一寸，亦为帝乡。又明堂上一寸为天庭，天庭即天中也。又鼻为上部之地户。心存日月星辰等诸神，皆当在其端。端谓鼻之上，发际之下也），面部魂神皆相存（内外星神，自相应也）。

### 呼吸章第二十

呼吸元气以求仙（探飞根，采玄晖，吞五牙，挹九霞，服食胎息之道，皆谓天地阴阳、四时五行之气），仙公公子已可前（此洞房诀也。洞房宫左为无英君，一名公子。仙公，直指黄庭学者。言学黄庭仙公，复行洞房之诀，而存见公子，故言在前），朱鸟吐缩白石源（朱鸟，舌象。白石，齿象。吐缩，导引津液。谓阴阳之气流通不绝，故曰源），结精育胞化生身（本已之所从来也），留胎止精可长生（《真诰》曰：上清真人口诀，夫学仙之人，安心养神，服食治病，使脑宫填满，玄精

不倾。然后可以存神服气，呼吸三景。若数行交接，漏泄施写者，则气移神亡，精灵枯竭。虽复玄挺玉策，金书太极者，将亦何解于非生乎？在昔先师常戒于斯事云：学生之人，一交接则倾一年之药势，二交接则倾二年之药势，过此以往，则不止之药都倾于身。是以真仙常慎于此，以为生生之大忌也），三气右回九道明（三气谓三丹田之气。右回言周流顺绪，调和阴阳，则四关九窍，通流朗彻而无病也），正一含华乃充盈（存正守一，神气华荣，故能充满六合，乘物而变），遥望一心如罗星（存见赤城童子居在城中，如星之映罗谷），金室之下可不倾（谓心居肺下，肺主金，其色白，故曰金室。常能存之，长生不死也），延我白首反孩婴（内指事也。谓童颜不老也）。

### 琼室章第二十一

琼室之中八素集（谓上元清真琼室，体骨之象也），泥丸夫人当中立（《经》云：洞房中有父母。母即夫人也。亦名道母。泥丸、洞房，上已释），长谷玄乡绕郊邑（长谷，鼻也。玄乡，肾也。郊邑，谓五脏六腑也。言鼻中之气出入，下与肾连，周绕脏腑，心居赤城，存想内外。郭外曰郊。故为象谕也），六龙散飞难分别（言六腑之气，微妙潜通，难可分别，当审存之也），长生至慎房中急（气亡液漏，髓脑枯竭，虽益以呖浚，而泄以尾闾，不可不慎也），何为死作令神泣（房中不慎，伤精失明，故神泣也），忽之祸乡三灵歿（祸乡，死地。三灵，三魂也。谓爽灵、胎光、幽精歿亡者也），但当吸气录子精（呼吸吐纳，闭房止精），寸田尺宅可治生（谓三丹田之宅，各方一寸，故曰寸田。依存丹田之法以治生也。《经》云：寸田尺宅，彼尺宅谓面也），若当决海百渎倾（谓房中淫泄，不知



闭止也），叶去树枯失青青（象人死无生气），气亡液漏非己形（《仙经》云：闭房练液，不多言，不远唾。反是矣），专闭御景乃长宁（专闭情欲，存服日光。《老子》曰：善闭者，无关键而不可开。又《上清紫文灵书》有采飞根之法，常以日初出，东向叩齿九通，毕，阴咒日魂名、日中五帝字曰：日魂珠景照韬绿映回霞赤童玄炎飏象。祝呼此十六字毕，瞑目握固，存日中五色流霞来绕一身，于是日光流霞俱入口中，名曰日华、飞根、玉胞、水母也。向日吞霞四十五咽毕，又咽液九过也），保我泥丸三奇灵（泥丸，上丹田也。《大洞经》云：三元隐化，则成三宫。一曰太清之中三君，二曰三丹田之神，三曰符籍之神，故曰三奇灵也），恬淡闭视内自明（谓存思三丹田之法，一如上说），物物不干泰而平（行道真正，邪物不干），恚矣匪事老复丁（猛兽不据，攫鸟不搏。老者反壮，病者皆强。恚矣必然），思咏玉书入上清（精研《内景》，必获仙道）。

## 常念章第二十二

常念三房相通达（三房谓明堂、明房、丹田之房也。与流珠、玉帝、天庭、极真、玄丹、泥丸、太皇等诸宫，左右上下皆相通达），洞得视见无内外（存思三丹田，三三如九，合九为一，明玄洞彻，无有内外也），存漱五牙不饥渴（《灵宝》有服御五牙者，五行之生气以配五脏。《元精经》云：常以立春之日鸡鸣时入室，东向礼九拜，平坐，叩齿九通，思存东方安宝华林青灵始老帝君九千万人下降室内，郁郁如云，以覆己形，从口中入，直下肝府。祝曰：九气青天元始上精皇老尊神，衣服羽青，役御天官，焕明岁星，散耀流芳，陶溉我形。上食明霞，服引木精。固养青牙，保镇朽零，肝府充盈，玉芝自生，

延年驻寿，色反童婴。五气混合，天地长并。毕，引青气九咽止，便服东方赤书玉文十二字也），神华执巾六丁谒（神华者，《玉历经》云：太阴玄光玉女，道之母也。衣五色朱衣，在脾府之上，黄云华盖之下。六丁者，谓六丁阴神玉女也。《老君六甲符图》云：丁卯神司马卿玉女足曰之，丁丑神赵子玉玉女顺气，丁亥神张文通玉女曹漂之，丁酉神臧文公玉女得喜，丁未神石叔通玉女寄防，丁巳神崔巨卿玉女开心之。言服炼飞根，存漱五牙之道成，则役使六丁之神也），急守精室勿妄泄（精室，谓三丹田。上下资运而不绝，制之在心。心即中丹田也，缓急之所由，真妄之根本也），闭而宝之可长活（积精之所致也），起自形中初不阔（调心使气，微妙无形），三官近在易隐括（谓三丹田真官近在人身，隐括精气，常以心为君主者也），虚无寂寂空中素（外指事也。素，有二说），使形如是不当污（使形轻净，如悬缣素于空中也。又云身中虚空，使如器之练素，虚静当然。污谓有其事也），九室正虚神明舍（九室谓头中九宫之室及人之九窍。使上宫荣华，九窍真正，则众神之所止舍也。《洞神经》云：天有九星，两星隐，故称九天。地有九宫，故称九地。人有九窍，故称九生，言人所由而生也），存思百念视节度（存念身中百神呼吸上下，一如科法。文云“千千百百似重山”，皆神象），六腑修治勿令故（按《洞神经》云：六腑者，谓肺为玉堂宫尚书府，心为绛宫元阳府，肝为清冷宫兰台府，胆为紫微宫无极府，肾为幽昌宫太和府，脾为中黄宫太素府。异于常六腑也），行自翱翔入天路（谓升仙羽化也）。

## 卷十二 三洞经教部·经三

### 治生章第二十三

治生之道了不烦（无为清简，约以守志），但修洞玄与玉篇（谓洞玄灵宝玉篇真文《黄庭》也），兼行形中八景神（《玉纬经》云：五脏有八卦大神宿卫。太一八使者主八节日。八卦合太一为九宫。八卦外有十二楼，楼为喉咙也。脐中为太一君，主人之命也，一名中极，一名太渊，一名昆仑，一名特枢。主身中万二千神也），二十四真出自然（天有二十四真气，人身亦有之。又三丹田之所三八二十四真人，皆自然之道气也），高拱无为魂魄安（行忘、坐忘、离形、去智），清静神见与我言（能清能静，则心神自见。机览无外而与已言，即谓黄庭真人），安在紫房帷幕间（紫房帷幕，一名绛宫。谓赤城中童子所安之处。存思神其状如此），立坐室外三五玄（谓八景及二十四真神营护人身，则三田五脏真气调柔，无灾病也），烧香接手玉华前（玉华即华盖之前，谓眉间天庭也。百神之宗元，真人之窟宅，从面而存之也），共入太室璇玑门（《洞房经》云：天有太室、玉房、云庭，中央黄老君之所居也。玉房一名紫房，一名绛宫，通名明堂。上有华盖，东西宫洞通左右黄庭之内，人身具有之，如上文说，璇玑，中枢名），高研恬淡之

园（研精恬淡，真气来游），内视密盼尽睹真（入静存思，百神森森），真人在己莫问邻（《玉历经》云：老子者，天地之魂，自然之君，常侍道君左右，人身备有之也），何处远索求因缘（《道经》曰：大道汎兮，其可左右。言不远也）。

#### 隐影章第二十四

隐影藏形与世殊（学仙之士，含光藏辉，灭迹匿端），含气养精口如朱（肌肤若水虚，绰约若处子），带执性命守虚无（虚静恬淡，寂寞无为），名入上清死录除（得补真人，列象玄名），三神之乐由隐居（理身无为则神乐，理国无事则人安。三神，三丹田之神也），倏欬游遨无遗忧（倏欬，疾发也。下文云“驾欬接生宴东蒙。”或云倏欬，龙名也。无遗忧，谓悬解），羽服一整八风驱（八风，八方之风，先驱扫路也。羽服，仙服也。按《上清宝文》，仙人有五色羽衣。又《飞行羽经》云：太一真人衣九色飞云羽章。皆神仙之服也），控驾三素乘晨霞（外指事也。三云九霞，神仙之所御也），金辇正立从玉舆（《元录经》云：上清九天玄神八圣，骖驾九凤龙车。玉舆，金辇，皆仙人之服器），何不登山诵我书（书即是《黄庭经》也），郁郁窈窕真人墟（山中幽邃），入山何难故踌躇（责志不决）？人间纷纷臭帑如（人间世，不可君。帑，弊恶之帛也）。

#### 五行章第二十五

五行相推反归一（五行谓水、火、金、木、土。相推者，水生木，木生火，火生土，土生金，金生水，水又生木，周而复始。又相刻法：水刻火，火刻金，金刻木，木刻土，土刻水，

水又刻火，周而复始。相推之道也。反归一者，水数也，五行之首，万物之宗。《道经》云：道生一，一生二，二生三，三生万物。又《易》有太极，是生两仪。太极者，一也。两仪，天地。天地生万物，又终而归一。一者无之称。万物之所成终，故云归一），三五合气九九节（《玄妙经》云：三者，在天为日、月、星，名曰三光。在地为珠、玉、金，名曰三宝。在人耳、鼻、口，名曰三生。天、地、人凡三而各怀五行，故曰三五，其常精也。合三者为九宫。夫三五所怀，顺众类也。调和万物，理化阴阳，覆载天地，光明四海。风雨雷电，春秋冬夏，寒暑温凉，清浊之气，诸生之物，不得三五不立也。故曰天道不远，三五复返。三五者，天地之枢带，六合之要会也。九宫之气节，九九八十一为一章云云），可用隐地回八术（九宫中有隐遁变化之法，《太上八素奔晨隐书》是曰八术。又《太微八录术》云：太微中有三君：一曰太皇君，二曰天皇君，三曰黄老君。三元之气混成之精，出入上清太素之宫。能存思之，必得长生），伏牛幽阙罗品列（伏牛，肾之象。肾为幽阙。《中黄经》云：左肾为玄妙君，右肾为玄元君。罗品列，存思见之），三明出华生死际（天三明，日、月、星，人三明，耳、目、口，地三明，文、章、华，是生死之际。际音节也），洞房灵象斗日月（存三光于洞房。洞房、明堂已释于上者也），父曰泥丸母雌一（一明堂中有君臣，洞房中有夫妇，丹田中有父母。泥丸，脑神名。《道经》云：知其雄，守其雌。雌、无为一也），三光焕照入子室（明白四达），能存玄真万事毕（《庄子》曰：通于一，万事毕也），一身精神不可失（常存念之，不舍须臾）。

## 高奔章第二十六

高奔日月吾上道（吾，道君也。《上清紫文吞日气法》，一名《赤丹金精石景水母玉胞经》。其法常以日初出时，东向叩齿九通毕，微咒日魂名、日中五帝字曰：日魂珠景照韬绿映回霞赤童玄炎飏象。呼此十六字毕，瞑目握固，存日中五色流霞来接一身，于是日光流霞俱入口中。又《上清紫书》有吞月精之法：月初出时，西向叩齿十通，微咒月魂名，月中五夫人字曰：月魂暖萧芳艳翳寥婉虚灵兰郁华结翹淳金清莹灵容素標。咒呼此二十四字毕，瞑目握固，存月中五色精光俱入口中；又月光中有黄气，大如目瞳，名曰飞黄，月华玉胞之精也。能修此道，则奔日月而神仙矣），郁仪结璘善相保（郁仪，奔日之仙。结璘，奔月之仙。同声相应，同气相求，故二仙来相保持也），乃见玉清虚无老（升三清之上，与道合同也），可以回颜填血脑（魂魄反婴，得成真入），口衔灵芒携五皇（口吐五色云气，光芒四照，与五皇老君同游六合也），腰带虎篆佩金珰（仙人之服也。《九真经》云：中央黄老君腰佩玄龙神虎符，带流金之铃，执紫毛之节。篆，符篆也），驾欵接生宴东蒙（欵，倏欵。言乘风气忽发而往。或云欵也，龙名也。东蒙，东海仙境之山也。接生，长生也。与生气相接连，欵然而游其处）。

## 玄元章第二十七

玄元上一魂魄炼（资一以炼神，神炼以合一），一之为物叵卒见（一者，无之称。也心恬淡以得之，知得之而不可见），须得至真始顾眄（守真志满，一自归己），至忌死气诸秽贱（

凡飞丹炼药，服气吞霞等事，皆忌见死尸，殄穉之事，此卫生家之共悉也。然至道冲虚，本无净秽；未获真正，则净秽有殊；殊而不齐，则是非起于内，生死见于外，则清净者生之徒，浊秽者死之徒，故为养生之所忌也），六神合集虚中宴（六甲、六丁、六府等诸神俱在身中，身中虚空则晏然而安乐，不则忧泣矣），结珠固精养神根（结珠，谓咽液，先后相次如结珠。固精，不妄泄。神根，形躯也。夫神之于身，犹国之有君，君之有人。人以君为命，君以人为本，纁相资籍以为生主，而调养之也），玉匙金龠常完坚（《道经》云：善闭者，无关键不可开。龠，锁龠。匙，或为匙也），闭口屈舌食胎津（屈舌导津液，食津而胎仙，故曰胎津），使我遂炼获飞仙（积功勤诚之所致也）。

### 仙人章第二十八

仙人道士非有神（修学以得之也），积精累气以为真（有本或无此句，遂闕注），黄童妙音难可闻（黄童，黄庭真人，一名赤城童子。妙音，谓黄庭真人之妙音也），玉书绛简赤丹文（《黄庭经》一名《太帝金书》，一名《东华玉篇》也），字曰真人巾金巾（真人即黄童也。金色白，在西方，主肺。肺白，在心上，故曰巾金巾。《九真经》曰：青帝衣青玉锦衣帔苍华飞裙，芙蓉丹冠，巾金巾。又元阳子曰：真人凭午，居子、履卯、戴酉，酉者金也），负甲持符开七门（《老君六甲三部符》云：甲子神王文卿，甲戌神展子江，甲申神扈文长，甲午神卫上卿，甲辰神孟非卿，甲寅神明文章。存六甲神名，则七窍开通，无诸疾病），火兵符图备灵关（《赤章》、《斩邪篆》皆役使三五火兵。又《卫灵神咒》曰：南方丹天，三气流光

；荧星转烛，洞照太阳；上有赤精开明灵童总御火兵，备守三宫。即火兵三五家事也。符者，八素六神、阳精玉胎、炼仙阴精、飞景黄华、中景内化、洞神鉴乾等诸符也。图谓《太一混合三五图》、《六甲上下阴阳图》、《六甲玉女通灵图》、《太一真人图》、《东井沐浴图》、《老君内视图》、《西升八史图》、《九变舍景图》、《赤界》等诸图，可以守备灵关，即三关、四关等，身中具有之），前昂后卑高下陈（列位之形象也），执剑百丈舞锦幡（神兵、幡、剑之状），十绝盘空扇纷纭（空中作气，炜晔挥霍），火铃冠霄队落烟（金精火铃，冠彻霄汉。部伍队阵，状如落烟屯云之势），安在黄阙两眉间（存思火兵气，状俱在天庭。天庭一名黄阙，两眉间是），此非枝叶实是根（学仙之本）。

### 紫清章第二十九

紫清上皇大道君（亦名玉晨君也），太玄太和侠侍端（太玄、太和、真仙之嘉号也），化生万物使我仙（道气之功绩也），飞升十天驾玉轮（乘欸而往），昼夜七日思勿眠（至诚则感），子能行此可长存（延年神仙之道），积功成炼非自然（学以致其道也），是由精诚亦由专（守一如初，成道有余），内守坚固真之真（不失节度也），虚中恬淡自致神（神以虚受）。

### 百谷章第三十

百谷之实土地精（草实曰谷，阴之类也），五味外美邪魔腥（非清虚之真气），臭乱神明胎气零（胎气谓无味之味，自然之正气也。服气有胎息之法。零犹失也），那从反老得还婴（



言不可得发白反黑，齿落更生。此一句应在自存神之下，超此不类者），三魂忽忽魄糜倾（忽忽，不恬淡。糜倾，朽败也），何不食气太和精（进劝服炼之道）？故能不死入黄宁（黄宁，黄庭之道成也）。

### 心典章第三十一

心典一体五脏王（神以虚受，心为栖神之宅，故为王也），动静念之道德行（谓念丹元童子也。夫念为有，忘为无。念则易心而后语，忘则厌心而神全，故道德行），清洁善气自明光（常念之故），坐起吾俱共栋梁（神以身为屋宅，故云栋梁。吾，丹元子也），昼日曜景暮闭藏（《庄子》云：其觉也形开，其寐也魂交。交，闭也），通利华精调阴阳（谓心神用舍，与目相应。华精，目精也。心开则目开，心闭则目闭。昼阳而暮阴，故云调阴阳）。

### 经历章第三十二

经历六合隐卯酉（举心之用舍，阴阳之所由也。昼为经历，暮为隐藏。六合天地内上下四方，卯酉为朝暮，幽隐属也），两肾之神主延寿（肾神玄冥，字育婴。配属北方，主暮夜人能止，精则长寿。河上公曰：肾藏精），转降适斗藏初九（九，阳数也。斗，北辰也。北辰主阴，谓阳气下与阴合。《易》曰：乾元，在无首。无首，藏也），知雄守雌可无老（守雌，则藏九之义也）。知白见黑急坐守（《道经》云：知其雄，守其雌；知其白，守其黑。皆藏九之义也）。

## 肝气章第三十三

肝气郁勃清且长（肝位东方。东方木，主春，生气之本也。清长，气色之象），罗列六腑生三光（存想生气，遍照五脏六腑，如日月星辰光曜明朗也），心精意专内不倾（能知一也），上合三焦下玉浆（言肝气上则与三焦气合，下则为口中之液。亦犹阴气上则为云，下则为雨。雨润万物，玉浆润百骸九窍也），玄液云行去臭香（真气周流，则无灾病），治荡发齿炼五方（云行雨施，无所不通。五方，五脏也），取津玄膺入明堂（咽液之道，必自玄膺下入喉咙。喉咙一名重楼。重楼之下为明堂，明堂之下为洞房，洞房之下为丹田。此中部），下溉喉咙神明通（身命以津气为主也），坐侍华盖游贵京（华盖，肺也。肝在肺之下。贵京，丹田也），飘飘三帝席清凉（三帝，三丹田中之道君也，亦名真人。言肝气飘飘，周流三丹田之所也。肝气为目精，故言席清凉），五色云气纷青葱（肝气与五脏相杂，上为五色云），闭目内眇自相望（常存念之，五脏自见），使心诸神还相崇（赤城童子与五脏真人合契同符，共相尊敬也），七玄英华开命门（七窍流通，无留滞也），通利天道存玄根（身为根本），百二十年犹可还（当急修行，时不可失），过此守道诚独难（去死近矣），唯待九转八琼丹（九转神丹，白日升天。抱朴子《九丹论》云：考览养生之书，鸠集久视之方，曾所披涉，篇已千计矣。莫不以还丹金液为大要焉。又《黄帝九鼎神丹经》云：帝服之而升仙，与天地相毕，乘云驾龙，出入太清。八琼：丹砂、雄黄、雌黄、空青、硫黄、云母、戎盐、消石等物是也），要复精思存七元（虽服神丹，兼习黄庭之道。七元者，谓七星及七窍之真神也。又五帝元君及白元无英君亦

为七元道君。《洞房诀》云：存七元者，其咒曰：回元隐遁，豁落七辰。乃七元也），日月之华救老残（左目为日，右目为月。目主肝，配东方，木行。木位春，春为生气，故云救老残），肝气周流终无端（《庄子》曰：指穷为薪而火传。生得纳养而命续也）。

### 肺之章第三十四

肺之为气三焦起（《中黄经》曰：肺首为三焦。肺之为气谓气嗽，气嗽起自三焦，故言三焦起。说三焦者多末的其的，其实今以五脏之上系管为三焦。焦者，热也。言肝心肺头热之义也），视听幽冥候童子（童子，心神，赤城中者。元阳子曰：窥离而下存童子。童子是目童也。谓人欲知死生，当以手指柱目眦，候其目光，有光则生，无光则死也），调理五华精发齿（五华，五脏之气。《仙经》曰：发欲数栉，齿欲数叩也），三十六咽玉池里（口为玉池，亦曰华池。胆为中池，胞为玉泉。华池咽液入丹田，所谓溉灌灵根也），开通百脉血液始（身中血液，以口为本始也），颜色生光金玉泽（百节开道），齿坚发黑不知白（反老还婴），存此真神勿落落（专城不堕），当忆此宫有座席（此宫谓肺宫也。座席，神之所安。《中黄经》云：肺首为三焦，玄老君之所居也），众神合会转相索（众真同聚，虑有邪精），

### 隐藏章第三十五

隐藏羽盖看天舍（此明脾宫之事。脾为丹田黄庭，中央戊己，土行也。上观肝肺，如盖如舍也），朝拜太阳乐相呼（谓

魂神与众仙合会也。《素灵经》云：太上神仙有太阳君、少阳君、太虚君、浩素君，群仙宗道之游乐也），明神八威正辟邪（八威，八灵神也。《真诰》云：《北帝杀鬼咒》曰：七正八灵太上皓凶长颅巨兽，手把帝钟素杳三神威剑，神王卫法，辟邪之道也），脾神还归是胃家（脾神名常在，字魂停。脾磨食消，胃家之事也。《中黄经》云：胃为太仓。太仓，肚府也），耽养灵根不复枯（脾为黄庭，人命之根本。心专养之，延年神仙也），闭塞命门保玉都（元阳子曰：命门者，下丹田，精气出入之处也。养童下龠护其主。主，身也。身为玉都，神聚其所，犹都邑也），万神方胙寿有余（胙，报也。万神以养见报，故寿有余也），是谓脾建在中宫（脾主中宫，土德），五脏六腑神明主（以脾为主），上合天门入明堂（存五脏六腑之气，上合天门。天门在两眉间，即天庭是也。眉入一寸为明堂），守雌存雄顶三光（《道经》云：知其雄，守其雌。雌、牝；柔弱也。三光，日、月、星也），外方内圆神在中（外方内圆，明堂之象也），通利血脉五脏丰（神恬心静），骨青筋赤髓如霜（百脉九窍，皆悉真正），脾救七窍去不祥（脾磨食消，耳目聪明），日月列布设阴阳（日阳月阴，日男月女），两神相会化玉英（男女阴阳，自然之津液也），淡然无味天人粮（神虽合会，当味无味），子丹进饌肴正黄（饌，气也。子丹真人进丹田之真气。脾为中黄，脾磨食消也），乃曰琅膏及玉霜（津液，精气之色象也），太上隐环八素琼（谓绛宫重楼十二环，即喉咙也。中有八素之琼液也），溉益八液肾受精（咽液流下入肾宫，化为玉精也），伏于太阴见我形（太阴，洞房。谓睹琼液之形象也），扬风三玄出始青（扬风，感风化也。阴阳二气与和气为三，三生万物，生物微妙，故曰三玄出始青。言万物生而青色也。《太平经》曰：积清成青也），恍惚之间至清灵（

阴阳生气，至微至妙），坐于飚台见赤生（调畅之气化为赤子。赤子，真人也。飚台，阊风台。神仙之游集也），逸域熙真养华荣（物外真气，自然养生），内盼沉默炼五形（内观形体，神气长存），三气徘徊得神明（三丹田之气也），隐龙遁芝云琅英（《仙经》云：肝胆为青龙，故曰隐龙。五脏九孔、八脉八脉：中医称人身十二经脉以外的阳维、阴维、阳跷、阴跷、冲、督、任、带为八脉。为内芝，故曰遁芝。云琅英，脾气之津液），可以充饥使万灵（服气道成，役使鬼神），上盖玄玄下虎章（神仙之服御也。《元录经》云：仙人有玄羽之盖，神虎玉章也）。

### 沐浴章第三十六

沐浴盛洁弃肥薰（盛，古净字。肥，鱼、肉。薰，五辛），入室东向诵玉篇（太帝在东故也），约得万遍义自鲜（不出身中），散发无欲以长存（《仙经》：服九霞必先散发。又胎息法：仰卧散发，令枕高二寸五分。屈两手大母，指握固闭目，申两臂，去身五寸。乃漱满口中津液，咽之满三。徐徐以鼻内气。气入五六息则吐之。一呼一吸为一息。至十吐气可少频申。频申讫，复为之。满四九为一竟矣。寻观文意，此散发非专此道也。盖散发，无为自得之意，无外情欲而已），五味皆至正气还（合五为一，自然之道），夷心寂闷勿烦冤（闷，静也。寂默清静。《道经》云：其政闷闷，其民淳淳），过数已毕体神精（专精所致），黄华玉女告子情（丹田阴神与己言也），真人既至使六丁（真人，指学者身也。至，谓精至。六丁，如上说者也），即授隐芝大洞经（隐芝，谓隐者也。以仙人喻芝英），十读四拜朝太上（《玉清真诀》曰：《东华玉篇》者，

必十读四拜。玉篇，谓此文），先谒太帝后北向（太帝在东，七元居北故也），《黄庭内经》玉书畅（仙道成矣），授者曰师受者盟（斯文可重，故以为盟），云锦凤罗金钮缠（信誓之物），以代割发肌肤全（契诚不假，出血断发），携手登山歃液丹（受行黄庭道者，必重盟而后传），金书玉景乃可宣（信洽方授），传得可授告三官（三官，天、地、水也），勿令七祖受冥患（传非其人，殃及先世。患，读为还也），太上微言致神仙（可尊可贵），不死之道此真文（一心敬重，奉而行之）。

### 太上黄庭外景经 务成子注

#### 序

《黄庭经》者，盖老君之所作也。其旨远，其词微，其事肆而隐，实可为典要。强识其情，则生之本也。故黄者，二仪之正色；庭者，四方之中庭。近取诸身则脾为主，远取诸象而天理自会。然“谷神不死，是谓玄牝”。是以宝其生也。后晋有道士好黄庭之术，意专书写，常求于人。闻王右军精于草隶，而复性爱白鹅，遂以数头赠之，得乎妙翰。且右军能书，缮录斯文，颇多逸兴自纵，而未免脱漏矣。后代之人，但美其书璟而以为本，固未睹于真规耳。余每惜太上圣旨，万世莫测，今故纂注以成一卷，义分三部，理会万神。冀得圣人之教不泯，于当来矣。

## 上部经第一

老君闲居作七言（老子者，天之精魂，自然之君，造立神仙，万世常存。作斯七言，以示后生），解说身形及诸神（上谈元一，济活一身。从头至足，皆可得生。总统纲纪，形体常平。道无二家，究备者贤），上有黄庭下关元（黄庭者，目也。道之父母供养赤子，左为陵阳，字英明；右为太阴，字玄光。三合成德，相须而升），后有幽阙前命门（肾为幽阙目相连。脐为命门三寸，日出月入阴阳并，呼吸元气养灵根也），呼吸庐间入丹田（呼之则出，吸之则入，呼吸元气，会丹田中。丹田中者，脐下三寸阴阳户，俗人以生子，道人以生身），玉池清水灌灵根（口为玉池太和宫，唾为清水美且鲜。唾而咽之雷电鸣，舌为灵根常滋荣），审能修之可长存（昼夜行之去伏尸，杀三虫，却百邪，肌肤充盈正气还，邪鬼不从得长生，面有光），黄庭中人衣朱衣（目中小童为夫妇，左王父，右王母，被服衣朱，游宴与合会，多处丹田里。昼夜存思勿懈怠），关元茂龠阖两扉（冥目内视，无所不睹。闭口屈舌为食母。含咽玉英，终身无咎。无者，气也。齿为茂，舌为龠），幽阙侠之高巍巍（道有三元，恣意所从。下部幽阙，玄泉之常。中部幽阙，两肾为双。上部幽阙，两耳相望。金门玉户，上与天通。娇女弹箏，盛厉宫商），丹田之中精气微（丹田者，一室也，与明堂对。精气微妙，难可尽分，故曰微矣），玉池清水上生肥（口中唾也。亭动口舌，白唾积聚，状若肥焉。漱而咽之，可得遂生），灵根坚固老不衰（舌为灵根，制御四方，调和五味，去臭取香，啄齿咽气，化为饮浆），中池有土服赤朱（喉中若京为元土，中和之下阙分理，朱光衣服神为友），横下三寸神所居（明堂之宫，方圆三寸神所居，正在目中央。眉为华盖，五色青葱），

中外相距重闭之（中气当出，外气当入。当此之时门三关。二气相距，天道自然也），神庐之中当修治（教子去鼻中毛，神道往来则为庐宅。昼夜绵绵无休息也），玄膺气管受精府（喉中之央则为玄膺。元气下行，起动由之，故曰受府也），急固子精以自持（守精勿去也），宅中有土常衣绛（面为尺宅，真人官处其中央，被服赤朱，光耀灿然赤如绛），子能见之可不病（欲令世人深知道真，睹斯神功，终身不病也），横理长尺约其上（脾长一尺，约太仓上。中部明堂，老君昼所游止也），子能守之可无恙（守脾神老君所舍。深知知其意可无恙也），呼吸庐间以自偿（闭塞三关，屈指握固，呼吸元气，皆会头中，降于口中，含而咽之，则不饥渴，逐去三尸心意），子保完坚身受庆（人人有道，不能守之。保道之家，身形常平。上睹三光，状如连珠，落落象石，心中独喜，故以自庆），方寸之中谨盖藏（不方不圆，目也。闭户塞牖，中元不有。守之守之，得道之半），精神还归老复壮（精神欲去，常如飞云。上精不泄，下精不脱。魂魄内守，如年壮时也），心结幽阙流下竟（耳为心听，结连幽阙。鼻闻香则荫强，心达志通，则流下竟也），养子玉树令可杖（身为玉树，常令强壮。阴为玉茎，转相和唱。还精补脑，可得不病，长乐无忧在也），至道不烦无旁午（大道自然，不烦不虑，照察荡荡，则人本根至道，难得而易行焉），灵台通天临中野（头为高台，肠为广野。元气通天，玄母来下养我已也），方寸之中间关下（目央之中玉华际，大如鸡子黄在外，下入口中生五味，昼夜行之可不既也），玉房之中神门户（玉房，一名洞房，一名紫房，一名绛官，一名明堂。玉华之下金匱乡，神明门户，一之所从者哉），既是公子教我者（左为神公子，右为白元君。养我育我，常欲令我得神仙。父母供养子丹，日月相去三寸间），明堂四达法海源（三寸三



重有前后，使以日月归中升，洞达四方流于海也），真人子丹当吾前（象长一寸两眉端，俯仰见之心勿烦），三关之中精气深（口为心关，足为地关，手为人关。深固灵珠，更相结连，微妙难知，固为深焉），子欲不死修昆仑（头为昆仑，道治其中。子午为经，卯酉为纬。日月照明，丹焉游戏，百官宿卫也），绛宫重楼十二环（金楼五城，十二周匝，丹黄为郭，五彩云集。绛宫玉堂，真一所从出入也），琼室之中五色集（璇玑玉衡，命立中央。五色琅玕，极阴反阳。营室之中全室也），赤神之子中池立（喉中之神主池精，受符复行，传付太仓），下有长城玄谷邑（肠为长城，肠为邑。肾为玄谷，上应南北也），长生要慎房中急（房，玉房也。急而守之，共会六合。六合之中诚难语，子欲得道闭规矩也），弃捐淫俗专子精（贤者畜精，愚者畜财。捐去众累，一复何求？还精补脑，润泽发须），寸田尺宅可治生（寸田，丹田。尺宅，面也。道之经纬，不可废忽，努力求之，必得长生也），鸡子长留心安宁（大道混成自然子，濛濛鸿鸿，状如鸡子。专心一意，守之不解长安宁），推志游神三奇灵（大道游戏琬闾，琬闾权刚执志，观见道真，三灵侍侧，弹琴鼓箏也），行间无事心太平（恬淡无欲，以道自娱。施利不足，神明有余，则为太平也），常存玉房神明达（玉房，一室也。卧于山西，知于山东；处于幽冥，都见无穷。内外相须，故言明达也），时思太仓不饥渴（咀嚼太和，神注含太仓。胃管一神名黄常子。祝曰：黄常子，吾有长生之道，不食自饱。不得妄行，留为己使。辟谷不饥，所当得也），役使六丁玉女谒（清洁独居便利六丁之地，呼其神名字，玉女必来谒也），闭子精门可长活（阴阳交遘，此之时，精神欲去淫佚，淫佚纵情，五马不能禁止。以手抚弦囊，引玉龠，闭金门），正室堂前神所舍（正室之中五色杂，璇玑玉衡道所立，舍于

明堂游绛宫，变为真人丹田也），洗心自治无败湾（敬重天地，远僻嫌疑。闭目内视，思神往来，不与物杂，行不败湾，历观五脏视节度（五脏六腑，各有所主。修身洁白，绝谷勿食。饮食太和，周而更始，故不失节也），六府修治洁如素（心不妄念，口不妄言，目不妄视，耳不妄听，手不妄取，足不妄行。凡此六行，六府之候也。故能损之，道成德就，洁已如素也），虚无自然道之固（虚无恍惚，道之无，自然不存，俯仰自睹，常守玄素，须臾为早，知雄守雌，魂魄不离身也），物有自然道不烦（自然者，天地大神。不存不想，气自往来也），垂拱无为身体安（端壳自守，深畅元道。不犯天禁，身无灾咎，永保安也），虚无之居在帟间（虚无之性，乐于清静。修和独立，与神言语。施設帟帐，恶闻人声。观见玄德，五色徘徊。日月照察，使以东西。三五复反，转藏营机也），寂寞廓然口不言（隐藏华盖，归志洞虚，寂然广视，目睹明珠，昧然独息，不贪荣誉也），修和独立真人宫（太和之宫，在明堂垂华盖之下，衣朱衣。明堂四达知者谁？真人小童衣灿烂。欲知吾居处，问太微乎），恬淡无欲游德园（外如迷惑，内怀玉洁，恬淡欢乐，不贪世俗也），清静香洁玉女前（弃捐世俗，处无人之野，焚烧、香薰、便溺，六丁玉女自到，径来侍人也），修德明达神之门（德润身，富润屋。心达志通，视见神光、重楼绮户、金门玉堂）。

## 中部经第二

作道优游深独居（隐身藏形，与世绝逾。舍气养精，颜如丹珠也），扶养性命守虚无（决谢祖先，避世隐居。司命定录，死籍以除。改字易姓，坚守虚无也），恬淡自乐何思虑（恬淡

忽然，乐道守贫，不念不虑，至不烦也）？羽翼已具正扶骨（修道行仁，骨腾肉轻。道成德就，云车来迎。玉女扶轡，径升太清。非生毛羽也），长生久视乃飞去（万世常存，与一为友。玉女采芝啖之苗，食之。须臾立生毛羽，上帝徵聘，飞入沧海），五行参差同根带（五彩腾起，或参或差，混沌不别，共生根带），三五合气其本一（三五十五在中央，二友之隐，往来三阳。玄德微妙，其状似龙，见之独笑，勿以语人），谁与共之斗日月（雌在北极，雄在南宫。真人不远，近在斗中。三光洞明，天地相望。子欲得一问两童）？抱玉怀珠和子室碌碌如玉，连连如珠，调和室房，随世沉浮），子能守一万事毕（一为大神，天地之根，人之本命。子能知之，万事自毕），子自有之持无失（人人有一。有一不知守，素损本根，爱财宝。贤者得之以为友也），即欲不死入金室（却入三寸为金室，洞房之中当幽阒，变吾形为真人，真人所处丹田中），出日入月是吾道（日出太阳，月入太阴，回周返覆，受符复行），天七地三回相守（天七地三，橐龠缩鼻，引地气即上希也，故回相守），升降进退合乃久（地气上升，天气下降。阴阳列布，合于绛宫。或进或退，正气从容，乃得长久），玉石落落是吾宝（连珠玉璧，落落如石，出于太阳，气如火烟，转则不得，则吾重宝），子自有之何不守（人自有一，不知守之。守之者日还一日，失之命消也）？心晓根基养华彩（究备道真，深解无极，留年却老，自守本归根。开阖阴阳，布色华彩，常若少年），服天顺地合藏精（头为天，足为地。服食天气，灌溉身形，合人丹田，藏之脑户。天露云雨，何草不茂？）七日之午回相合（行道之要，七日一合），昆仑之上不迷误（昆仑，头也。上与天通，禀受元气不迷误），九原之山何亭亭（心为九原，真人太一处其中也。不出户房知四方。）中有真人可使令（真人，太一小

童子。金楼深藏伏不起，隐藏九原不可使），蔽以紫宫丹城楼（金楼玉城，丹黄为郭。百官宿卫，一为上客。绛宫玉堂，真人宅舍），挟以日月如明珠（左日右月，合精中央，五色混沌。昼如明星，暮如明珠。晃晃煌煌，曾不休哉！）万岁昭昭非有期（明珠来下，坚当守之。长生之符，万岁昭然，非复有期。司命定录，死籍已除），外本三阳物自来（三阳，三精也。状若冠纓。扉玄无主，用和为根。不呼自来，默默翻翻），内拘三神可长生（三神，三子。拘此三神，生道毕也），魂欲上天魄入渊（暮卧魂上天，送日中三足乌。鸡鸣忽朦，来还其处。魄者，形也。年七十、八十，魄欲入泉。老人愁思，形容欲别），还魂返魄道自然（拘魂制魄，不得行人，善守自然，不用筋力），庶几结珠固灵根（结珠，连珠也。入口中含咽其精，固灌灵根），玉颧金龕身完坚（玉颧，齿。金龕，舌。开口屈舌，食母之气。不传恶言，身保完全），戴地悬天周乾坤（人生地，道来附已，故言戴地。玄母在天下养万物，不用机素，神明微妙，非俗所闻。常欲令我得神仙，迫于乾坤，不可逾蹶哉！）象以四时赤如丹（四时五行，周则更始。真人子丹，一化为己。被服赤珠状若丹），前仰后卑列其门（仰，高也。前高后下，背子向午，右阴生阳，离楼门户），选以还丹与玄泉（选，取也。缩引还丹，及玄泉之气，所谓名上升泥丸，炼治发根，须臾微息，其道自然），象龟引气致灵根（龟以鼻取气。极停微息，闭口咽之致灵根），中有真人巾金巾（金宝真人巾金巾），负甲持符开七门（甲，子也。背子向午，要带卯酉，制御元气，受符复行，皇天大道君也，常窥看七门），此非枝叶实是根（上皇大道君老子，太和，常侍左右，化生万物，非为枝叶），昼夜思之可长存（常注意思念，自睹三光，道之至妙，近在斗中），仙人道士非异有（仙人度世，非有他神，守一坚固，上

精不泄，下精不脱，精神内守，千岁不死），积精所致和专仁（育养精气，专心一意。和气仁义，德合道真），人尽食谷与五味（俗人皆啖百谷之宝，土地之精，五味香连，当令饱食。厨内无真道，遂归黄泉），独食太和阴阳气（阴气上升，阳气下降合会，六合之中生五味，常自服食天相溉），故能不死天相溉（饮食太和，不死之药，食之不解，天自溉之），诚说五脏各有方（五脏象五行，六律肠胃方），心为国主五脏王（身有三百六十神，心为主。不出户，知天下；不下堂，知四方），受意动静气得行（志之所从，不可极也。清香洁善气自行），道自将我神明光（座与吾俱息，起与吾同衣。我饥来食，我居不行，客常日月三光相保守），昼日昭昭夜自守（昼日朗然，目睹景星。暮即徘徊，来归我已。知阳者明，不知阳，妄作凶），渴可得浆饥自饱（饥食自然之气，渴饮华池之浆。不饥不渴，可得长生也），经历六腑藏卯酉（两肾之神最为精，左王父，右王母。二气交错周六腑，上会目中，左卯右酉），通我精华调阴阳（阴阳列布若流星，流星七正益精华），转阳之阴藏于九（阳主阳中，乃种其类。阴生黍粟，阳生荧火，二气相得，更相包裹。九在口中也），常能行之可不老（知雄守雌，其德不离。知白守黑，常德不忒），肝之为气修而长（肝为青龙，肺为白虎，上与天通，故为长），罗列五脏主三光（心精意专，五内不倾；平床安卧，仰观三光），上合三焦下玉浆（上合三焦者，六合中也，流布四肢汗玉浆），我神魂魄在中央（拘魂制魄，不得动作。俱坐俱起，不得行止。明堂正在中央），精液流泉去臭香（精流液出，常如源泉。暮卧惺寤，荡涤口齿，去臭取香治发齿），立于玄膺舍明堂（明堂之中，方圆三寸，生道之根，大如鸡子黄如橘，过历玄膺甜如蜜），雷电霹雳往相闻，右酉左卯是吾室（午前子后之间，中央朝发太一华盖之

卿，阳气以下在绛宫）。

### 下部经第三

伏于志门候天道（志门，玄门也。候天道，守玄白），近在子身还自守（大道不远，近在身中。子自有之无求他），清静无为神留止（道为贤者施，不为愚者作。精心定志，神明欢也），精神上下开分理（精神上下，恍惚无常，求玄中之玄），精候天道长生草（上知天上，俯察地理。留年住命，白发如墨，则长生草），七窍已通不知老（耳听五音，目观玄黄，鼻受清气，口啖五味，不知老也），还坐天门候阴阳（天门，太阳一之门也。阴阳雌雄，微妙难睹。故坐伺候之），下于喉咙神明通（喉咙，咽也。啖食和气，则神明乃下降），过华盖下清且凉（华盖之下五色青葱，清灵之渊清且凉），入清灵渊见吾形（清灵之渊，微妙玄通。闭目内视，则见江海。伺候吾形，有顷相望，如照明镜深井，对相视，乐无极也），期成还年可长生（年到四十、五十，则不住还。得其理者，日益长久。不能明者，徒自苦耳），还过华下动肾精（华盖之下多阴凉，万神合会更相迎，引动肾气，上布紫宫），立于明堂望丹田（明堂、丹田相去不远，相望见），将使诸神开命门（一名大神。万物之先，保使群神，救护万民，出入命门），通利天道存灵根（九九八十一首，分为二部。从头至足，元气通流，周匝一身，灵根坚固，守之勿休也），阴阳列布若流星（三气升降，闭塞三关，百脉九孔，气候铄铄光晃晃，列布皮肤若奔星），肝气周还终无端（肝为青龙，出从吾左肺；为白虎，住在右。神道恍惚，无有端绪），肺之为气三焦起（肺有三叶三焦起，一名华盖，紫红色），上座天门候故道（天道，雄门。故道，本根。存本

守根，乃得长生），津液醴泉通六府，随鼻上下开两耳（闭气缩鼻，长久微息。呼吸元气，一上一下，缩鼻不止开其耳），窥视天地存童子（上窥天门，则睹三光。俯视地理，见小童子），调和精华治发齿（精液华池。常以鸡鸣，啄齿三十六，下漱咽之。常以管籥开闭九孔，皆上头中治发齿），颜色光泽不复白（门户开张，精神布合。颜色光润，须发滋荣不复白），下于咙喉何落落（存候天道要不烦，落落如石，中心独喜），诸神皆会相求索（大道游戏，众神合会，交游徘徊太素中），下入绛宫紫华色（下入绛宫丹城楼，金紫帟帐，徘徊四隅），隐藏华盖观通庐（暮隐华盖，昼游明堂。观望神庐金匱乡也），专守心神转相呼（心为国主太一宫，专心一意向太阳，执志清洁，众神喜乐相呼来），观我神明辟诸邪（一居中央，诸神宿卫。当此之时，仰观神光，元阳子丹辟万邪），脾神还归依大家（脾神朝进明堂，暮归其宫，故依大家太仓也），致于胃管通虚无（胃管，太仓口也。虚无之宫在太初），藏养灵根不复枯（藏养灵根使渐润，调和满口而咽之，内不枯燥），闭塞命门如玉都（关门闭牖以知天道耳。玉堂之阳，一神之都市，知万物之价数也），寿传万岁年有余（俗人有余财，圣人有余年，寿命无期），脾中之神主中宫（中宫戊己，主于土府。万物支行，土地之子。脾为明堂，神治中宫也），朝会五脏列三光（五脏六腑，神明之主。日月朝会，长幼有序。仰观三光日月斗），上合天门合明堂（天门开闭，出为雄雌。三光所生，侠在明堂。上圆下方，中无不有），通利六腑调五行（安神养己，六腑通畅，邪气却走，正气内守五行之精，金木水火土为荣），金木水火土为王（五行相生，土为其主。万物畴类，皆归于土），通利血脉汗为浆（含气养精，血脉丰盈，骨濡筋强，润滋皮肤，汗出若浆），修护七窍去不祥（同穴异窍，各隔东西。常

当修护，神明所依。辟却不祥，万物自化），二神相得化玉英（日月之神，阴阳之反。暮宿明堂，化生黄英下流口，淡如无味，用之不可既也），上禀天气命益长（坐常仰头鼻，受上清气，跨座随阳，四肢安宁。敬重天禁命益长），日月列布张阴阳（日月照察，万物瞻仰。阴阳设张，四时调和。凡此四行，亦在己躯也），五脏之主肾最精（肾之为气清且香。右为王母，左为王公。左青龙，右白虎，与天通），伏于太阴成吾形（太阴小童玄武里，赤神之子伏不起，转阳之阴成吾形，常存太素老小丁），出入二窍合黄庭（出入二窍两手间，黄庭中人主神仙，欲得吾处入阙山），呼吸虚不见吾形（虚无恍惚难悉言，呼吸元气环无端，欲睹吾形若临渊也），强我筋骨血脉盛（精气不泄，骨髓充满，常自壮强。血脉平盛，行若奔马，终身不倦），恍惚不见过青灵（恍惚中有物，青灵中有形。恍惚象大道有一，莫见其景也），坐于庐下见小童（神庐之下金匱野，顾见真人小童子，何从相求华盖下），内息思存神明光（闭目内视，存在神明见吾光。俯仰瞻之，青赤白黄），出于天门入无间（出于天门见四邻，入于无间睹太玄，太玄中有众妙之门），恬淡无欲养华茎（闲居静处，深固灵珠。素捐世俗，推刚就深含养玉茎，色如桃花），服食玄气可遂生（外为太玄，内为大渊。若如流俗，合四海源。审能服食，可得遂生），还过七门饮大渊（大渊玉浆甘如饴，近在吾身子不知，何处取之蓬莱溪），道我悬膺过青灵（太清之渊随时凉，青灵之台四远望，悬膺苑降太仓），坐于膺间见小童（金匱玉神小庐间坐，仙道见小童子，候吾规中道毕矣），问于仙道与奇方（仙道，谓虚无自然也。不行而至，举足万里，坐在立无。奇方，不死之药也），服食芝草紫华英（绝五谷，弃饴粮。使六丁玉女自来侍人，为取芝草金紫华英，得乃食之），头戴白素足丹田（真人致住，



常欲令人得神仙。昼日头黑，至头白如素也，足履丹田中也），沐浴华池生灵根（沐浴华池，炼身丹田之中，主润灵根。华池，玉池），三府相得开命门（老子，太和各为一府，共侍道君。常开阖命门，阳明无端也），五味皆至善气还（六合之中自生五味，演而食之，正气并来），被发行之可长存（大道万毕，被发僵卧，炼身五岳，则得长生），大道荡荡心勿烦（大道荡荡，昭然旷然。要道不烦，烦道不要，求于无形），吾言毕矣慎勿传（吾者，中央老君也。解说天道，从头至足，皆可生也。勿传非人，令道不明，慎之慎之）。

### 推诵《黄庭内景经》法

当入斋堂之时，先于户外叩齿三通。闭目想室中有紫云之气，郁郁来冠兆身。玉童侍左，玉女侍右，三光宝芝，洞映内外。咒曰：

天朗气清，三光洞明。金房玉室，五芝宝生。玄云紫盖，来映我形。玉童侍女，为我致灵。九帝齐景，三光同辔。得乘飞盖，升入紫庭。引气三十九咽，毕，入户北向四拜，长跪，叩齿二十四通，上启高上天真玉晨太上道君：某甲今当入室咏诵玉经，炼神宝藏。乞胃宫华荣，身得乘虚，上拜帝庭。毕，还东向揖大帝。又叩齿十二通，上启扶桑大帝暘谷神王：某乙今披咏玉经，乞使静室神芝自生，玉华宝耀，三光洞明，万遍胎仙，得同帝灵。毕，即东向诵十遍为一过。竟，还北向四拜，东向揖，不须复启也。但拜谒如法，随诵多少，然以十数为限。不依法而受经，亏损俯仰之格，徒劳于神，无益于求仙也。五

犯废功断事，十犯身死于风刀之考。死为下鬼，负石之役，万劫还生不人之道。当以八节日送金环、青缙九尺，以奉于有经之师。师得此信，速录上学弟子郡县、乡里、姓名、年纪、生月日时于九尺青缙之上，正中于山岳绝岩之侧，北向奏名青帝宫。叩齿二十四通，微咒曰：

天回道气，八道运精；三五应期，九祚代倾；命真玄寂，辅臣帝灵；玉札已御，今奏青名。谨关九府，五岳司灵，记我所列，上闻玉清。三年之后，来迎某甲微形，赐乘八景，升上帝庭。毕，埋青缙于绝岩之下。如此三年，有真人下降。一节不送，废功断事，不得入仙。三节违盟，告下三官，受考无穷。清虚真人曰：凡修《黄庭内景玉经》，应依帝君填神混化之道。读竟礼祝毕，正坐向东，临目内想身神形色、长短大小，呼其名字，还填本宫。不修此法，虽万万遍，真神不守，终无感效。徒亦损气疲神，无益于延命也。今故抄经中要节相示耳：

发神苍华字太元（形长二寸一分）。脑神精根字泥丸（形长一寸一分）。眼神明上字英玄（形长三寸）。鼻神玉垄字灵坚（形长二寸五分）。耳神空闲字幽田（形长三寸一分）。舌神通命字正纶（形长七寸）。齿神嵎锋字罗干（形长一寸五分）。右面部七神，同衣紫衣，飞罗裙，并婴儿形。思之审正，罗列一面，各填其宫。毕，便叩齿二十四通，咽气十二过，祝曰：

灵源散气，结气成神。分别前后，总统泥丸。上下相扶，七神敷陈。流形遁变，爱养华元。道引八灵，上冲洞门。卫驱摄景，上升帝晨。毕，次思心神丹元字守灵（形长九寸，丹锦飞裙）。肺神皓华字虚成（形长八寸，素锦衣黄带）。肝神龙烟字含明（形长六寸，青锦披裳）。肾神玄冥字育婴（形长三寸六分，苍锦衣）。脾神常在字魂停（形长七寸三分，黄锦衣）。胆神龙曜字威明（形长三寸六分，九色锦衣绿花裙）。右六

腑真人处五脏之内六腑之宫，形若婴儿，色如华童。思之审正，罗列一形，叩齿二十四通，咽气十二过，咒曰：

五脏六腑，真神同归。总御绛宫，上下相随。金房赤子，对处四扉。幽房玄阙，神室纽机。混化生神，真气精微。保结丹田，与日齐晖。得与八景，合形升飞。紫微真人曰：昔孟先生诵《黄庭》，修此道八年，黄庭真人降之。此妙之极也。《黄庭》秘诀尽于此矣。形中之神，亦可从朝至暮，恒念勿忘，不必待诵《黄庭经》矣。

### 卷十三 三洞经教部·经四

#### 太清中黄真经（并释题）

##### 释题

《中黄真经》者（中黄者，中天之君也。真者，得无为之身也。经者，为大道之径也）。九仙君撰（九仙者，天之真也。其位最崇，下管八天，上极真位，显两仪之成形。然大道之人，苞裹万景，含养天地，以慈爱为百行之源，以众善为资身之本；廓然洞达，存不舍之根；总察万行，无弃绝之智。是以出五明殿，入中和宫，放无极光，洞无极景。及与黄人论无极之义，显分圣教，须知无中不无，欲悟玄元，先了义趣。得之者同其生，失之者共其死。哀体内之莫测，病生灵之不悟。元气分散，随彼行之所生；体节分离，掩太阴之泉户。依余大教，必归云路）。中黄真人注（中黄者，九天之尊。余始自人间，登于圣路，保养和气，深藏其精。虑中行未成，切厉精诚，然后用其慈愍，剪其痴怒，去舍万端，百灵潜护，永绝爱欲，阴神私助，然可服灵气，固真一，知神仙可学也）。亦号曰《胎藏论》（夫《胎藏论》者，盖以人类受形于圣路，保和于气母。阴阳交配，随行所成。骨肉以精血为根，灵识以元气为本。故有浅深、

愚智、祸福不同。此经辨人伦之有形，明腹内之修养。穷本见末，寻苗识根。端明五脏，然可修身。用之以人，受之以法，守之以功。若亏是行，徒擅其能，亦不可学也）。《胎藏论》者，盖九仙君兼真人之所集也。真人常观察元气，浩然凝结成质。育之以五脏，法五行以相应；明之以七窍，象七曜以昭晰（夫人腹内有五行之正气，顺之即无疾，逆之即为害。头应于天，足应于地。天欲得高，高即日月明；七窍欲得大，七窍大者道易成。为心气大，骨气大，和气大，节气大，此为神宅，修道易成，亦主有寿）。其识潜萌，其神布行（夫人受形于胎，然布情识之根，心识为最。因心运已，得无不为。道有存神宅，皆以心识为用。即未若无心舍损，直上九天，为之大要）。安魂带魄，神足而生（魂生于天，魄生于地，入胎成形，诸神居位。婴儿在胞，善知人事，无息无声，合于至理。既出胎腹，六识潜萌，体袭五谷，贪恚并生。随识所用，坐变痴盲，故《太微灵书》有还魂制魄法，皆须用心存思。若暂有忘舍，前功悉弃。此书并不载，盖为舍损心识）。形神相托，神形相成。口受外味以亡识，身受内役以丧情，神离形以散坏，形离神以去生。殊不知皮肉相应，筋骨乃成。肝合筋，其外爪；心合脉，其外色；脾合肉，其外唇；肺合皮，其外毛；肾合骨，其外发。咸伤筋，苦伤骨，甘伤肉，辛伤气，酸伤血（《玉华灵书》云：阳为气，阴为味。味归形，形归气，气归精。精食气，形食味。味伤形，气伤精。初皆相因，后皆相反。初相生成，后皆克害。谷气盛，元气衰，即反壮成老。常欲得春七十二日省酸增甘，以养脾气。夏七十二日省苦增辛，以养肺气。秋七十二日省辛增酸，以养肝气。冬七十二日省咸增苦，以养心气。季月末各取十八日省甘增咸，以养肾气。但依此养生，亦可得三百岁矣。存神亦得奔于诸天，只得为仙官尔，不得列于尊位）。

故圣人曰：先除欲以养精，后禁食以存命。是知食胎气，饮灵元，不死之道，返童还年。此盖圣人之所重也。且夫一士专志，下学而上达：一夫有心，睹天道之不远。学而无志谓之愚（《准玄策》云：无志之夫，万行不成矣）。不学不知谓之蒙（《玄元章》云：三生修道未具志，今生方遇《中黄》秘，若能闭得养形章，阴神永不夺人志。学道修行，大忌轻言泄事。纵得玉策金章，终不成道。凡人遇异书奇术，皆天神助应，自是人愚慢其神理，难成道也。无分之人，永不相遇矣）。然三虫未去，子践荆榛之田；当三虫已亡，自达华胥之国（《玄镜章》云：华胥国者，非近非远乎！非人境所知，非车马所到。此国方广数万里，其国无寒热，无虫蛇，无恶兽，国内人民尽处台殿上，通诸天往来。人无少长，衣食自然，不知烟焰劳计之勤，不识耕桑农养之苦。所思甘膳，随意自生。百味珍羞，盈满堂殿。甘泉涌溜，注浪横飞。九酝流池，自然充溢。人饮一盞，体生光滑。异竹奇花，永无凋谢。祥禽瑞兽，韵合宫商。一国人民，纭相崇敬。然其国境外有三十里，草莽荆榛，四面充合。上有飞棘，罗覆数重；下有蒺藜，密布其地。欲游是国，先度此中。不顾凡身，然可得入。少生悔意，终不见达。凡言三十里荆棘者，为与三尸相持，身受虚羸寂寞，思食无味。等味及三虫亡后，身识冲和，情理安畅，冥心内境，自达胎仙。既入华胥，方验是迹。洞玄灵界，非凡所知）。显章云路，备述胎仙。知圣行之根源，辨仙官之尊位。至于霞衣羽服，玉馆天厨，盖为志士显言，聊泄天戒，非人妄告，殃尔明徵（准《玄元教令科》：凡是秘密天篆，不可妄开尔，当有灭门之祸。轻言泄事，阴神为慢易玄科，天夺人志。虽欲学道，多逢难事隔塞也，大忌之）。密此圣门，必登云路（《三天教》云：闭言之人，与道合神；天助其德，有其玉骨。如此之人，修道必成无疑耳）

。慎无传于浅学，誓莫示于斯文（学道无成，谓之浅学。妄传此等，当有刑祸之殃。道教禁科，大忌违誓，兼获罪无量，诫之）！慢而折神，轻言损寿（《玄格》曰：与人诤曲直尚减（弄）寿，况泄天章轻文传示。彼既受祸，此亦获殃，家当横难，身备刀光）。若非志士，无得显言（夫志士学道，心迹无二，然可口传，勿示文字）。总一十八章，列成一卷（一十八章者，为人有五脏六腑，外有七窍显应，故有十八章。不言九窍者，同于北斗九星，两星不见。一卷者，万行归之于一，此皆事合形神，应于运理）。号曰《胎藏中黄经》。皆以篇目相衔，文句相继。义精于成道，言尽于养生。行显意直，事具文切。食气之理备载，归天之道以成。援笔录章，列篇于后

#### 内养形神章第一（此章五句，三十五言）

内养形神除嗜欲（《洞元经》云：修养之道，先除嗜欲，内合五神；次当绝粒，心不动摇，六腑如烛。常修此道，形神自足），专修静定身如玉（夫人心起万端，随物所动。常令静居，不欲与众混同，内绝所思，外绝所欲。恒依此道，元气自足）。但服元和除五谷（世人常以五谷为肌肤，不知五谷坏身之有余。今取春三月，净理一室，著机案，设以厚暖床席。案上常焚名香。夜半一气初生之时，乃静心神，当叩齿三十六通，以两手握固，仰卧瞑目。候常喘息出时，便合口鼓满咽气，以咽入为度，渐渐咽之。若入肚，即觉作声，以饱为度，饥即更咽。但当坦然服之，无所畏惧。气入后如口觉干，即服三两盏胡麻汤，此物能润肠养气。其汤法：取上好苕蓂三大升，去皮，九蒸九暴；又取上好茯苓三两，细杵为末。先下苕蓂末煎三两沸，次下茯苓末，又煎数沸，即入少酥蜜。渴即饮一两盏，兼

止思食。或四时枸杞汤，时饮一两盏，亦善咽气，自得通畅。但觉腹中安和，咽气渐当流滑。一切汤水尽不要吃，自得通妙理。但服气攻盘肠粪尽，咽气自然如汤水直至脐下。初服气小便黄赤，勿恠怪也。心胸躁闷，亦勿惧。但心境不移，自合妙理。若不绝汤水，虽腹肠中滓尽，终不得洞晓是非。或若要绝水谷，只在自看任持，亦不量时限远近。亦有一月，亦有五十日，亦有百日者，三丹田自然相次停满。一月，下丹田满，六十日，中丹田满。九十日，上丹田满。下丹田气足，脏腑不饥。中丹田气满，体无虚羸。上丹田凝结，容貌充盛，三焦平实，永无所思，神凝体清，方鉴是非。下丹田满者，神气不泄；中丹田满者，行步超越；上丹田满者，容色殊绝。既三部充实，自然身安道泰，乃可栖心圣境，袭息胎仙。此为专气之妙门，求仙之捷径也。若或食或断，令人志散；好食诸味，难遣谷气。此二事者，习气之所疾，求仙之大病。《经》曰：咸美辛酸五脏病，津味入牙昏心境，致令六腑神气浊，百骸九窍不灵圣。人能坚守，禁绝嗜欲诸味者，九十日三丹田凝实；百日内观五脏；三百日鬼怪不藏形，阴神不敢欺；千日名书帝录，形入太微。必获寥天得真箓（凡飞炼上升，为下天仙官；存想无为气神，修三一之道，得上天仙官；若真子服胎息成者，得寥天升真箓，千乘万骑迎子，当获中天真尊），百日专精食气足（谓三丹田气足也。凡食气吞霞，言是休粮，盖非旦夕之功。先以德行护身，次以除阴贼嗔怒。此学道之志也。阴贼未息，三虫不除，或行非教之事，不复成矣。故《太微玄章》曰：除嗜欲，去贪嗔，安五脏，神足矣）。

食气玄微章第二（此章二十六句，一百八十二言）



食气玄微总五事（夫言玄微者，皆事理莫达，谓之玄妙。言五事者，但学绝粒，即魂魄变改，三尸动摇），大关之要莫能知（夫人内行未成，不知诸魔相违，谓言道法无效，盖不达真正理也。若是先具内行人，只服津液，由得不饥，况于服气乎）。元气初服力尚微（夫服气为有滓滞。至一七、二七已来，滓秽退出，渐觉体内虚弱，百节无力，但勿为惧。缘元气未达腹胃中，所以觉虚弱。但咽气，使渐通流，日胜一日。但当坚志守一，候下丹田满，顿无饥渴。假令未达，皮肤容色黄瘦，亦勿以为畏，后当悦怿矣。如不专志兼食，行即用气，无效也，亦爱数败。此亦为不具内行人即如此。有爱缘牵心，彼自使败），要子将心运守之（《太元经》曰：凡休粮诸门甚多，学道至近须九年以下。无成者唯有服气，坚守百日，禁诸汤水。子心不动，三尸自除，永无败矣。只为学者浮心未定，居二疑之端，使心神动摇，三尸齐起，百思既至，心迹难归。虽服气，易为退败里诚必不灵矣）。谷气未除子何别，气则难停而易泄（夫体服气，欲速达五脏，除汤药外，诸物禁断。四十九日，谷气自绝。若少食诸味，即难遣谷气。若要用气，使内藏分明，当服此元气。经五十日，百物不食，闭目内想脾藏中气从心起，散至四肢，仰卧祝曰：中央戊己，内藏元气，黄色力坚，运之可治。丹阳莫辞，朱阴共议。得达四支，黄云大起。每至五更鸡初鸣时常候，莫令参差。如此二十七日，内见脾藏中气郁郁如黄云，透过四支。后当使此气灭烛吹火。百步外便使之，如大风起，可以兴黄云闭彼形，人无见者。若不依五更初，及不能坚守，或则少一日，即无效矣。此中黄闭气法）。或即体弱而心虚，或即藏虚而力劣（用气未达四肢，当有虚弱之患，但志之勿为惧矣。《大洞经》云：守之如初，成道有余）。一者上虫居脑宫（《洞神玄诀》：上虫居上丹田脑、心也，其色白

而青，名彭居。使人好嗜欲、痴滞，学道之人宜禁制之。假令不绝五谷，常行此心，一年之外，上尸自终。人不知行，空绝五谷。若不绝贪欲，焉得虫终灭也）。万端齐起摇子心，常思饮膳味无穷，想起心生若病容（学道者不得内行扶身，却为三虫所惑乱也）。二者中虫住明堂（《洞神玄诀》曰：中虫名彭质，其色白而黄，居中丹田。使人贪财好喜怒，浊乱真气，使三魂不居，七魄流闭。《洞玄经》曰：无喜无怒，中尸大惧；不贪不欲；和气常足；坐见元阳，万神来集）。遣子魂梦神飞扬，或香或美无定方，或进或退难守常，精神恍惚似猖狂，令子坐败食谷粮，子若知之道自昌（怡然不易，其道自成也）。三者下尸居腹胃（下尸，其色白而黑，居下丹田，名彭矫。使人爱衣服，耽酒好色。但学道之人心识内安，三尸自死，永无败矣）。令子淡泊常无味（若常守淡泊，三尸既亡，永无思虑矣）。静则心孤多感思，挠则心烦躁多起（服气未通，被三尸虫较力。或则多怒，或则多悲思，或则多嗜滋味）。使人邪乱失情理，子能守之三虫弃（《太上升玄经》曰：食气坚心，一月内一虫当死，二虫无托。人但能服气，志守三十日，上虫死；六十日，中虫死；九十日，下虫死；百日心不移，即体康神清，永永不败。若或食或断，令人志退，则无效也），得见五牙九真气（五牙，为五行气，生子五脏中。九真者，为九天之道也。此五脏成，还应九天，所以五脏之气名九天也。元气成，当自别得五行之气，驱使无所不通也）。

### 五牙咸恶章第三（此章六句，四十二言）

五牙咸恶辛酸味（若五味不绝，五脏灵气不生，终不断思欲之想。但令水谷除，何虑不生五气？五气既生，即五情自畅

；五脏既满，元气自凝；元气既凝，五神自见；五神既见，贱恶人间，何世累之所能牵也），为有三虫镇随子，尸鬼坐待汝身死，何得安然不惊畏（三尸之鬼常欲人早终，在于人身中，求人罪状，每至庚申日白于司命。若不惊不惧，不早修炼形神，制绝五谷，使年败气衰，形神枯悴，纵使志若松筠，亦复无成矣。一朝命绝，悔恨何及）？劝子将心舍烦事（服气人大要者，静持心神，止舍烦务。使三虫动而无效，神气行而有徵，自得五神获安，妙理潜达），超然自得烟霞志（能清能净，即自得志潜明，超然洞悟，烟霞之畅，在乎目前）。

#### 烟霞净志章第四（此章四句，二十八言）

烟霞净志通神奥（若得水谷气除，自然诸脉通晓，五脏灵光生。纵舍自有深奥，故不可测也。灵光，神气也），令子坐知生死道（若能制绝诸味，百日后无不成矣。自得众灵潜伏。生死之路，备睹机械，天外阴司之道，常知矣）。蒸筋暴骨达诸关，握固潜通开百窍（谨案《胎息志理经》云：凡服气五十日后，假令未绝水谷气，遇日色晴明时景，朗曜景正午时，当于室宇内净软床席，散发于枕上，握固于两胁之傍，然后叩齿七通，端心瞑目，似觉微闷，即须用力握固，渐渐筋脉徐开，灵气潜通于骨肉之间，津液汗泽于皮肤之上，但当数数运用，自得颜色光悦，气力兼倍，发如新沐，髭若青丝。如不解闭气炼形，使用元气行通于毛发之间，自然每度鬓发跳踯。若不得此术，虽复休粮长生，有同瓦砾草木，无精光也）。

#### 百窍关连章第五（此章四句，二十八言）

百窍关连总有神（百窍通于百穴，百穴通于百脉。眼上二穴通于肝，肝脉通于心，故心悲则泪发于脸间。腭上双穴通于鼻脉，鼻脉通于心脉，故心悲则鼻酸。鼻脉复通于脑脉，故脑热则鼻干。《洞神明藏经》云：百脉通流，百窍相望，百关相锁，百节相连。故一穴闭则百病生，一脉塞则百经乱。故服气无疾，诸脉常自通畅。道人不死，胃腹无物停留。鉴察吉凶，百神归集于体，寒热不近，元气调伏于身。毒物不干，五脏灵神固护，猛兽不转，土地常自卫持。隐现无难，骨肉合于玄化，即何虑不通于圣智也），由子驱除归我身（百关九节，皆神宅也。脏腑无邪气所生，即万神归集。邪气即谷气是也。若正气流行，所有疮痕点靨客气，自然消灭）。恬然得达自明真（故得洞鉴昭然，足辨邪正之类），自明真道永长存（致形神于不死之门，升子身于九天之上）。

#### 长存之道章第六（此章四句，二十八言）

长存之道因专志（若不专不志，则难通于圣理也），返荷三魂知不死（气通之后，当即自荷形神，明不死之路也）。何物为冤七七里（服气滓尽后，绝水谷，最切者在四十九日。渐渐当百脉洞达，返照如烛，俗心顿舍，五脏恬和。若不能坚持，前功并弃），坚然慎守咸酸味（少食诸味，难遣谷气）。

#### 咸美辛酸章第七（此章十句，七十言）

咸美辛酸五脏病，津味入牙昏心境（但是五味入牙，皆通于两眼之穴，散沾于百脉之内，使谷气坚实，藏腹停留。若求速达，请卓然断绝也）。致令六腑神气衰，百骸九窍不灵圣（

为神气不凝于丹田之中，灵光不照于脏腑之内）。子能慎守十旬终，诸脉洞然若明镜（使功满十旬，神气自当凝实，灵光炫耀如烛，无不洞达）。六腑明神不隐藏，与子言语说心境。（五脏神自见也）。滞子神功去路难，大都谷实偏为病（若谷气不除，即不见幽玄至理也）。

### 谷实精华章第八（此章六句，四十二言）

谷实精华与灵隔，缠罗六腑昏诸脉（谷气精华化为涎膜，缠罗五脏六腑、关节筋脉，故不可知。但是服气人经五六十日后，见肠胃中滓尽，将谓更无别物，不知谷气精华殊未出也。所以有思食虑散之意，反使情切心悬，不可堪忍，亦为尸鬼所祸也。自后但有物如脓如血，或若坏脂，或若鸡鸭粪，此乃谷气欲出，有此状也。后更三二十日，又有异物如涎如膜，此则谷实精华之状也。若先曾兼食服气，或断或绝，经历岁余，一旦顿绝，还校便成。若无此物，亦不怪也。但无谷气，则诸脉洞达，反照如烛。《大洞经》云：初服气，人亦觉肠中滓尽，又见所食汤水，旋于肠中出，谓腹内更无别物，不知谷气未出也。谷气若尽，想更有何所思？形神如归，豁然安泰，情无虑思，寂寞瘦弱等患疾亦何惧？退败不进之忧必审而思之，无得退也。若能顿绝汤水，得三十日已来，却退不能坚持，即若穿井及纆，见水而不取也。一何痛也！）元神不返欲何依？子心未达焉能测（谷气未除于脏腑之间，神气不守于丹田之内，故道者昧然无知神功在近也）？可惜玄宫十二楼，那知返作三虫宅（若不修炼形神，身上宫室皆为三虫之窟宅）。

三虫宅居章第九（此章四句，二十八言）

三虫宅居三部里（此虫常在三丹田内）。子能运用何忧死（但依圣人之言，用心修行，何殃累之所及也）？漂然郁郁常居此（元气常引内气周流身中，即却复丹田之内也），自辩元和九仙气（谷气尽，即自辨识元气也）。

九仙真气章第十（此章十二句，八十四言）

九仙真气常自灵，三虫已死复安宁（《大洞元经》曰：三虫亡，神气昌。内照五脏中气，使之如神，若居世游隐法，具在《胎息章》中说）。由子运动呼吸生（神气若足，呼吸运动，兴起云雾，自然得成，隐化无滞）。居在丹田内荧荧（服气成者，居在丹田中，凝结若鸡子，炳焕如烛，光照数里，内无不见，是为三丹田气，自然如此也），筋骨康强体和平（《三光经》曰：炼髓如霜，换骨如刚。服之千日，力倍于常。后能日驰千里，奔马不及也）。心识怡然自畅情，思逸神高心彩明（食气成者，心神常自畅悦。情高思逸，弃贱人间也）。却闻五味觉膈腥（观五味，见滓败。示五香，闻腥坏。寻苗见根，故有是闻，自然如此。为天气达也，俱有此见）。肌肤坚白筋骸清（《胎息章》中自有炼骨法，具载也）。地府除籍天录名，坐察阴司役神明，内合胎仙道自成（入胎息至五百息，当入异境。地籍除名，三天录仙。至千息，魂游上境）。

胎息真仙章第十一（此章四句，二十八言）

胎息真仙食气得，却闭真气成胎息（服气二百日，五脏虚

疏，方可学入胎息。准《九天五神经》云：先须密室无风，厚软毡席，枕高四指，才与身平。求一志人，同心为道侣。然后捐舍心识，握固仰卧。情无所得，物无所牵。灵气渐开，心识怡然。初闭息，经十息至五十息、至百息，只觉身从一处，如在一房中。只要心不动移，凡一日一夜十二时，都一万三千五百息。故《太微升玄经》云：气绝曰死，气闭曰仙；魄留守身，魂游上天。至百息后，魂神当见。其魄缘是阴神，常不欲人生。其神七人，衣黑衣，戴黑冠，秉黑玺。《洞神经》曰：为之玄母。此神是阴尸之主。若见此神，子当谨心存念，祝曰：玄母玄母，吾尸之主。长骨养筋，莫离尸户。吾与魂父，同游天去。次当见魂父，三人各长一尺五寸，衣朱衣，戴朱冠，秉朱玺。当引上元宫诸脑神百余人出。子当身见三丹田中，元气如白云，光照洞达。当呼三魂名：一曰爽灵，二曰胎光，三曰幽精。得此三魂，阳神领脑宫神引子元神游于上天。初出之时，只觉身从一黑房中出，当见种种鬼神形容：或伟大者数丈，或微小者如燕雀，或披发若乱蓬，或开眼如张电，为上界道路，皆是鬼神之过路。子但安心，无生惧意，亦须得良伴相助。缘元气上与魂神相应，若有惧心，元气当自口鼻出，即子身不得去也。但一夕之中，令傍人自记喘息数。至息已，子当与三元神同游上界也。其道当成，以后即不得微有泄漏。大慎大慎！但不顾于物，鬼神伏德。羽服彩霞何所得？皆自五脏生云翼（后炼形上升，自成五色羽衣。《中天羽经》曰：轻轻状蝉翼，璨璨光何极。蝉为饮气乘露，故生羽翼。人服元气，而天衣不碍于体，即可知也）。

五脏真气章第十二（此章十四句，九十八言）

五脏真气芝苗英（《太华受经》曰：元气含化，布成六根。吉凶受用，应行相从。内气为识，胎气为神。子能胎息，复还童婴。反魂五脏之始，先布于水。内有六腑，外应六根），肝主东方其色青（《太明五纬经》曰：肝主于木，生于水，克之于土。来自东方，其色苍，受之于阳。潜伏此气，千息生光。但常用气，未至胎息。当存想青气出之于左肋，但六时思之不辍。自子时常隔一时，至五十日，当见此气如青云。用此气可治一切人热疾、时行臃肿、疥癣、急瘦。但观前人疾状，量其浅深，想此气攻之，无不愈差。如观前人肝色枯悴，不可治也）。子但闭固千息经，青气周流色自成（胎息经：千息为内养，此气青色，当自凝结）。心主南方其色赤，伏之千息赤色出（《太明五纬经》曰：心主于火，生之于木，克之于金。来自南方，其色赤光，受之于朱阳，为夏天也。潜伏千息，当出心堂。常服气，未至胎息。每日午时，想赤气在心，大如鸡子，渐渐自顶而出自散。咒曰：南方丙丁，赤龙居停。阴神避位，阳官下迎。思之必至，用之必灵。自此三咒之，能常行此气，存想五十日不阙，当有赤气如火光自见。用此气可治人一切冷病。当用气攻前人病时，其人面色带青即不治，阴气不可治。凡存神气法，并不欲得遣人知）。肺主西方其色白，服之千息白色极（《太明五纬经》云：肺主于金，生之于水，克之于木。来自西方，其色白，澄净微芒。功达千息，光彻洋洋。常服，每至丑时，存想肺间有气，状如白珠，其光渐渐上注于眉间，后乃咒曰：西方庚辛，太微玄真。内应六腑，化为肺神。见于无上，游于丹田。固护我命，用之成仙。急急如律令！存念一遍，如此四十九日，肺中有气如白云自见。此气照地下一切宝物，及察人善恶，示表知里。如不行存想五气法，服气三年，方见五脏内事。此缘不具真行，使用不辨相克相生。如寒用心气，



缘是火气。如热用肾气，缘是水气。不辨用气，即无效也。《九气经》中亦不言气法，寥廓尚秘，况是人间也？）脾主中央其色黄，服之千息黄色昌（《太明五纬经》云：脾主于土，生之于火，克之于水。来自中方，其色黄。闭气千息，不敢伏藏。存想黄气，但一日一想，不限时节，亦无咒。其脾藏存之四十九日，自见此气，已后能用，可将身入墙壁，人尽不见）。肾主北方其色黑，服之千息黑色得（《太明五纬经》曰：肾主于水，生之于金，克之于火。来自北方，其色黑，微芒。伏之下元，主持命房。内有真白，守之不忘。此五脏神气，但至五更初，各存想气色都出于顶上讫，即止。亦不假一一别存想，兼不用咒亦得，只是较迟，满百日方有效验也）。驱役万灵自有则（服气心志正，兼行内行，内外相扶。一年后，应是人间鬼怪、精魅、及土地神祇，并不敢藏隐。所到去处，地界神祇先出拜跪，常随卫道者。阴司六籍，善恶具知，然亦不可便将驱使，缘未具三天真篆，虑有损折。若入胎息得升身诀，且要游人间，但依此经尸解法，然可游世，即无遮碍。不尔，未可忘道。若不务此术，但务化人矣，自他俱利）。乘服彩霞归太极（《胎息伏阴经》曰：内息无名，唯行想成。若不行戒行入胎息，未得合神。《太微灵隐书》曰：凡人入胎息，游人间，行尸解术，随物所化，故有托衣衾所化者。常以庚辛日取庚时，于一净室内焚名香一炉，于所卧床头兼须设机案，上著香炉，下著所拄者龙杖及履鞋等物，尽安置于头边。身衣不解，以衾盖之，首西而卧。自念身作死人，当阴念此咒七遍，咒曰：太一玄冥，受生白云。七思七召，三魂随迎。代余之身，掩余之形。形随物化，应化而成。急急如律令！此存念一食间，但依寻常睡。如当存念之，起一食久，辄不得与人语，若与人语，其法不成。如此常行四十九日，渐渐法成。后要作，不问行住坐卧，阴念

此咒七遍，随手捉物，身便别处去。众人只见所把之物，身将以死矣。后却见物还归本形。此法即可以下界助身，不可以便行非法之事。大须护慎其法，大须隐默。若卧在床上，但以被覆身，隐念一遍，便却出入，只见所卧衾被是身，不见被形。若于财色留心，当为神理销折矣）。

### 太极真宫章第十三（此章七句，六十三言）

太极真宫住碧空，绛阙崇台一万重，玉楼相行列危峰（上界宫馆，生于窈冥，皆有五色之气而结成。下界土地，皆是水气横凝扶住，故不得自在，不得坚长，不得平正。上界以八珍为土地，七宝为用器。至于宫殿，七珍合成，有自然不运之力，无人功兴动之用。上界以七珍精气为日月，下界以阴阳纯气为日月。下界言一年三百六十日，是上界一日十二时也。《太黄经》曰：不食土地精，生居太一城。为形神俱得去也）。瑶殿荧光彩翠浓（为七珍翠彩灿烂，光彻内外无隐碍。千阁万楼，互相影对，太仙真人犹居此外也）。红云紫气常雍容，玉壁金梁内玲珑（《玄宫玉堂经》曰：白玉为壁，黄金为梁，青珊为架，红壁为床。进以九霄之膳，酌以八琼之浆）。凤舞鸾歌游咏中（上界有天凤舞鸾霄之歌，并是曲名也）。玉饌金浆意任从（《九宴玄厨经》曰：一日十进九霄之膳，七献八琼之浆，一日十进食，八献酒）。九气真仙位列崇（胎息得列九真上仙）。

### 九气真仙章第十四（此章十句，七十言）

九气真仙衣锦衣，绡縠云裳蝉带垂（真君衣琼文锦、蝉縠

之衣也)。天冠摇响韵参差(冠摇众佩,响韵五音,为自然也)。九文花履锦星奇(九文锦为履,其花零乱如众星钻壁也)。却佩霓裳朝太仪(霓服,仙官朝裳。人初得仙,皆朝太仪真君九天主也)。十方彩女执旌麾,百灵引驾玉童随,前有龙幡后虎旗(前朱雀,后玄武,左青龙,右白虎。皆是百灵之数)。羽服飘飏八气吹(八气,八方正气,先治道路也)。更上寥天入太微(太微都在第五天,金星轮朱华宫,亦太微,管下界生死籍部。每四时八节,申籍奏闻上界太微。凡此官吏,有四十万众大数)。

#### 太微玄宫章第十五(此章八句,五十六言)

太微直上寥天界,动静风调鸣竽籁(太微上界所有风摇,皆如笙竽之韵,如极乐之所,自然如此也)。殿阁穹崇何杳隗(香隗,谓虚峻极也。殿阁重数甚多,横壮尤丽也)。寿永衣轻人体大,九天各各皆相倍(九天羽服仪仗,各各相次加倍。羽衣转轻,人体转大。彩翠鲜华,日月转迈长远也)。是为因心得自在(因心运身,得出三界)。静理修真为圣人,九行门空列章戴(夫九行者,道人之窟宅,动息住持,不离其内。一者以慈愍为衣,二者以止舍为食,三者以正心为乘,四者以专志为才,五者以谦下为床,六者以顺义为器,七者以勤惠为屋,八者以修空为宅,九者以阴施为业。修道之子,不持此九行,去道疏矣)。

#### 九行空门章第十六(此章十二句,八十四言)

九行空门至真路,大道不与人争怒,动息能持勿暂停,阴

神返照神常助（持心不息，其道易成）。诸行无心是实心，因心运得归天去（无心之心，因心运心；虽无有心，还因心有）。除苟无心是谓真（众事曰苟，无事曰除，除心止念，万行归余），自随胎息入天门（胎息以善行为要机，无念为至路）。玄元正理内藏身，无曲潜形体合真（《洞玄经》曰：心无曲，万神足）。三部清虚元气固，六腑翻成百万神（三元静，六腑调，真气归于真行，二理相合。五脏六腑诸神，共有百万，自然相和应也）。

#### 六腑万神章第十七（此章十句，七十言）

六腑万神恒有常（五脏六腑，百关九节，有神百万，若日常清净修之，即当自见），元和净治谷实尽（但以元气攻运，何谷气之不去）？大肠之府主肺堂（肺为首三焦之主），中有元神内隐藏（脏腑既净，万神自藏。故《太明经》曰：大肠主肺也。鼻柱中央为候色也。重十二两，长一丈二尺，广八寸，在脐左边，曲叠积一十二盘。贮水谷一斗二升。主十二时。内有神，各具本色衣冠十二人。若除水谷气尽，元气自足，其神当见。各据本时，递相更直，以卫修道之子也）。肾府当明内宫女，外应耳宅为门户（《内神经》曰：精主肾，肾为后宫。内宫列女耳。肾之官承气于耳。左肾为壬，右肾为癸，循环两耳门中。有神五百人，内有元神，守自都管兼主志。凡人好嗔怒，即伤肾。肾伤即失志，俱丧元神。故道者忌嗔怒，道成，内神常见于人当卫道者也）。膀胱两府合津门，气海循环为要路（膀胱是两府气。肾合膀胱，乃受津之府，上应于舌根也。津液往来，常润肥泽舌岸，以应两膀胱气。若少不润，服气人未成，当欲少语，以养津也。语多即口干，口干难用气也。中

有神三百六十人，以应一年之数，气成当见。其神常抱无贪之行，故道者不贪，志合神理。《大洞升玄经》曰：行合神见，道成归天。此神人，行胎息即自出，常护卫人近道者也）。子当得见内神章，终身不泄神常助。

勿泄天神章第十八（此章八句，五十六言）

勿泄天神子存志（终始不泄，天神助子）。凡是天章勿轻示，三十三篇世绝知，况复《中黄》秘中秘（道有《胎光经》三十三篇，禁绝不许妄传泄，况兹中黄灵句，秘之特重，慎之慎之！）先礼三真玉仙使，然后精心睹文字（《教令科》云：欲开示三真等经，先须择甲子日，净室烧香，心存南华真人，念三天真君同开作证。首东作礼四拜，然后云：某为求道，辄开九天大圣真文，传示一遍。故得百灵同助，身归太无，名入天户。不得示三人，切忌容易泄漏。若不依经教妄开示，如睹常文必有殃，责非浅，莫轻慢！）违教身罹非命殃，子孙受祸当须忌（余殃明罚，世世子孙受祸。大忌大忌）！

## 卷十四 三洞经教部·经五

### 黄庭遁甲缘身经

道言昔于蕊珠宫中，听黄庭妙义、《大道琴心灵篇》内固变化之道。人之受生，分灵道气，含和阴阳。逐恋声色，为滋味所惑，为奢淫所诱，亡失正念，虚度壮年。焉知动静出处，当依教修习，履历妙行，以辅养其神，则身安静，万灾不干，邪魔不挠。存念善道，远离恶道，往来出入，当呼今日日神姓名字云：某送我去来。如是呼之，乃行其道，直日神与人同行神道，众恶不干，能却百鬼，不逢恶毒。又奏表上谒贵人，皆书符持怀中，三呼“直日之神，与我同行！”入疾病家、死生家，置符于怀中，遇阴日右畔，阳日左边。若入山林避难者，三叩齿，直呼之神名字。并呼甲申神，山中鬼魅、狼虎之类，尽皆迸走。若辟除恶神鬼者，书六甲六乙符持行，并呼甲寅神，鬼皆散走。若入军阵辟兵，即书六丙六丁符，并呼其神姓名，仍呼甲午神名，兵刃不伤。若欲辟火者，书六壬六癸符，并呼其神，又呼甲子神姓名字云：与我同行！即不被烧热。若欲避水难者，书六戊六己符，并呼甲戌神，即免水溺。若县官口舌，书六庚六辛符，并呼其神姓名，又呼甲辰神，官符口舌悉皆解散。已上所言，书符带之，秘之勿传。假令甲子神姓王字文卿，

王自是姓，文卿是字。至癸亥他皆仿此。从神计八百七人，每日有一神当直。人能每日清旦，三叩齿，诵直日之神名云：某君为直日，与我俱行，使我所在，咸亨利贞！又每日三叩齿，诵本命神，须食之物，宜与本命神契，尤加福寿。更能于本命日，与本命神作大福利，吉庆尤甚。“某乞左青龙孟章甲寅，右白虎监兵甲申，头上朱雀陵光甲午，足下玄武执明甲子，月为贵人入中央。”右此一首，常密念之令熟，勿令出声，不要佗人知。若有县官，或有殃害之气，军阵险难之处，及入佗国未习水土，或遇疫病辰日，数数存念之。或入孝家临尸见丧，亦入门一步诵一遍，叩齿三下，当诵三遍。此我法也。来日平觉，便念四海神名：

东海神名阿明，西海神名祝良，  
南海神名巨乘，北海神名禺强。  
四海大神辟百鬼，荡凶灾，急急如律令！

《黄庭内景秘要六甲缘身经》曰：若人卒得疾，及痈疽、恶气、飞尸、百毒、恶梦之属，便闭气诵甲午至戊戌止，留气在上斗中。上斗中者，在两乳间也。闭气暗诵甲午至戊戌十遍，然后吐气，又诵甲子至戊辰止，留气在下斗中。下斗中气暗诵甲午至戊戌十遍，然后吐气，又诵甲子至戊辰止，留气在下斗中。下斗中者，脐中也。亦暗诵十遍，然后吐气，以治建八尺之质，含万有之躯。外有四支、九窍，内有五脏、六腑，各有神主，精稟金火，气谐水木（五脏者，是五神之府，含生之器。神欲安，气欲宽，导养之妙）。

火则躁而礼，金则勇而义。躁与勇，义与礼，阴阳之数也。长阴则杀，长阳则生，生杀之数也。故抑躁行礼义则生，长勇

罢礼义则死。外行礼义，内安脾胆，导养之秘也。以忠孝为先，不识其原，伤生之道。然知其本灵秘之术，若能安其神，炼其形，摄生得气，归正背伪，出其恍惚，入其玄妙，辨补写之理，诞延育之方，可升仙矣。子龟镜焉，道在其中也。黄帝敬受灵诀，专精行之，未逾一纪而神猷先鉴，行气使心，精步逾玄，含灵契理，入水不溺，入火不焚，气运于内，神应于外，岂非至真哉！谨具五脏玉轴图于后。

### 肺脏图

治肺当用咽。咽为泻，吸为补。夫肺者，兑之气，金之精，其色白，其象如悬磬，其神如白狩。肺主魄，魄化为玉童，长七寸，持仗往来于肺脏。其神多怒者，盖发于肺脏也。欲安其魄而存其形者，则当收思敛欲，含仁育义，不怒其怒，不声其声，息其生则含乎太和。肺合于大肠，上主于鼻。故人之肺有风则鼻塞也。色枯者，肺干也。人鼻痒者，肺有虫也。人之多怖者，魄离于肺也。人之体生白点者，肺微也。人之多声者，肺强也。人之不耐寒者，肺劳也。好食辛者，肺不足也。颜色鲜白者，肺无他恶也。人大肠鸣者，肺气壅也。夫肺主商，肺有疾当用咽。咽，肺之气也。其气义，则瘳疾，义以安神。人有怨怒填塞胸臆者，则咽而泄之，盖自然之理也。向若不咽，必致伤败。获咽而获生乎！故病用咽耳。夫人无苦，用咽者不祥也。夫肺处七宫惊门，主信，使人方正平直，习武先忠，则魄安形全也。且肺者，秋之用事。秋三月，天地气明，肃杀万物，雀卧鸡起，用安至精，公施抑怒改息，两相形长，秋之道也，逆之则伤肺。常以七月、八月、九月望旭旦，西面平坐，鸣天鼓七，饮玉浆三，然后瞑目，吸兑宫白气，入口吞之，以



补咽之损。肺以正白之用，以致玉童饯，则神安思强，气全兆体，百邪不能殃之，兵刃不能害之，延年益寿，名飞仙耳。盖所谓补写神气，安息灵魄之所致哉。

### 心脏图

治心当用呵。呵为写，吸为补。夫心者，离之气，火之精，其色赤，其象如莲花，其神如朱雀。心主神，化为玉女，身長八寸，持玉英，出入于心府也。其神躁而无准，人之暴急者，盖发于心脏也。欲安其神而全其形者，则全忠履孝，辅义安仁，止其风，静其急，自其炽，澄其神，而全其形，则合中和也。心合乎小肠，主其血脉，上于舌。人之血壅者，心惊也。舌不知味者，心亏也。上智者，心有七孔，中智五孔，下智三孔，明达者，心有二孔，寻常者有一孔，愚痴者无孔也。多忘者，心神离也。好食苦者，心不足也。多悲者，心伤也。重应者，心乱也。面青黑者，心冰也。容色赤者，心无他恶也。夫心主徵，心有疾当用呵。呵者，心气也。理其气体，呵能静其心而和其神，所以人之心乱者则多呵，盖天全之候也，人皆为而不知哉！向若不呵，当致愤怒者也。故心疾用呵，除邪气也。夫心处九宫惊门，主智，使人乐善好施，恭孝以修仁，则心和而形全也。且夫心者，夏之用事也，天地气交，万物华结，亥寝丑起，无厌于养。英成实长，夏之德也，逆之则伤心。常以四月、五月、六月弦朔清旦，南面端坐，叩金梁九，漱玄泉三，静思想，吸离宫之赤气，入口三吞之，以补呵之损，植其灵府，开心穴，饵离火，濯玉女，神平体安，众殃不害，金火不能伤，治神之灵也。

## 肝脏图

治肝当用嘘。嘘为泻，吸为补。夫肝者，震之气，水之精，其色青，其象如悬匏。肝主魂，其神如龙，化为二玉女、玉童，一青衣，一黄衣，各长七寸；一负龙，一持玉浆，出入于肝脏也。其神好仁，人之行惠者，盖发于肝也。欲安其魂而延其龄者，则当泽被刍棘，恩覃庶类，而后全其生，则合乎太清者也。肝合于胆，上主于目。肝盛则目赤。又主于筋，肝亏则筋急。皮枯者，肝热也。肌肉黑黯者，肝风也。好食醋味者，肝不足也。色青者，肝盛也。手足汗者，肝无他恶也。毛发枯者，肝伤也。夫肝主角，故肝有疾者，当用嘘。嘘者，肝之气也。其气仁也，故除毁痛。人之有伤痛者，则嘘之以止痛，皆自然之验也，岂不以为灵哉？此之至理也，通玄之道。且肝之主春，春之用事。春三月，天地气生万物，花叶繁茂，人及刍萌，顺阳之道也，逆之伤肝也。伤之则毛骨不荣也。常以正月、二月、三月寅时东向平坐，叩齿三通，闭气七息，吸震宫之青气三吞之，补嘘之损，以享青帝之祀，以致二童之饌。木精乘王，则肝欢寡忧，精之妙也。

## 脾脏图

治脾当用呼。呼为泻，吸为补。夫脾者，坤之气，土之精，其色黄，状如覆盆。脾主意，其神如凤。化为玉女，长六寸，循环于脾脏也。其神多嫉妒。人之疾妒，盖起于脾脏也。土无正形，故妒之无准也。妇人则妒剧者，乘阴气也。欲安其神，则当去欲寡色，少思屏虑，长其土德而后全其生也。脾合乎太

阴，脾连胃，上主于口，消谷之腑，如磨之转，化生而入熟也。食不消者，脾不转也，食坚硬之物，磨之不化也。人不欲食讫便卧，其脾则侧，侧则不转，食坚物，生食不化，则为宿食之患也。故食不调则伤脾，脾藏不调则伤质，质神俱损，则伤人之速，故人之不欲食生硬坚涩之物，全人之道也。人不欲食，为脾中有不化食也。多惑者，脾识不安也。多食者，脾虚也。食不下者，脾塞也。无颜色者，脾伤也。好食甘者，脾不足也。颜色鲜滑者，脾无他恶也。夫脾主于中宫土也，故脾之有疾当用呼。呼者能引脾疾，故人之中热者，呼之以驱热温之弊也。向若不呼，则热气拥于内，阴气息于外，致愤闷之患，形何从而安哉？夫脾位寄于土宫，宫主义也。使人宽舒广大，屈己济人以利，不争者也。且脾之无正形，寄王四季，随六气助成万物。脾育肠胃，义之道也。不以自专为德，不以物竞为功，长坤之理，逆之则伤脾。常以四季月末十八日旭旦，正坐中宫，禁气五息，鸣天鼓七，吸土宫之黄气，入口五吞之，补呼之损，饮玉醴以致神之和，以补于脾，以佐神气，则入山不畏虎狼，登险不惧颠蹶者，行气之精也。

### 肾脏图

治肾当用吹。吹为泻，吸为补。夫肾者，阴之精，坎之气，其色黑，其象如圆石，其神如白鹿，两头化为玉童，长一尺，出入于肾脏。其神和也，人之柔顺者，盖发于肾脏也。欲安其神，则当仁德平广，膏润万物，长其精，顺其志，而后全其生形，则合乎太清者也。肾合于骨，上主于齿。齿痛者，肾伤也。又主于耳，人之骨痛者，肾虚也。耳不闻声者，肾亏也。齿多楚者，肾虚也。齿黑<齿肖>者，肾风也。耳痛者，肾气壅也。

腰不伸者，肾冰也。色黄者，肾衰也。容色紫光者，肾无他恶也。骨鸣者，肾羸也。夫肾主羽，人之有疾当用吹。吹者肾之气，能瘳肾之疾，故人之积气冲臆者，则强吹也。肾气沉滞，吹彻则通。且肾者冬之用事，三月乾坤气闭，万物伏藏，戌寝寅起，与玄阴并，外阴内阳以养骨齿，以治其神，逆之则伤肾。常以十月、十一月、十二月，面北平坐，鸣金梁七，饮玉泉三，吸玄宫之黑气，入口九吞之，以补吹之损，以符呦鹿呦鹿：《诗·小雅·鹿鸣》有“呦呦鹿鸣”句，该诗旨为欢宴嘉宾。之词，以致玉童之饌。益肾气，神和体安，则群妖莫害，可致长生之道矣。

### 胆脏图

以前名五脏，加胆名六腑。胆亦受水气，与坎同道。胆有疾，当用嘻。嘻为泻，吸为补。图形已附在肝脏。夫胆者，金之精，水之气，其色青，其象如悬瓠，其神龟蛇，化为玉童，长一尺，戟其手，奔驰于胆。其神勇，人之勇决者，盖发于胆脏也。欲安其神，当息忿寝争，与仁辅义，其后全生也。胆合于膀胱，上主于毛发。毛发枯者，胆损也。发燥者，胆有风也。无惧者，胆洪大也。颜貌青光者，胆无他恶也。爪甲干者，胆亏也。毛焦者，胆热也。无事泪出者，胆劳也。好酸者，胆不足也。夫胆寄于坎宫，使人观智慕善，并邪去佞绝奸，治方直也。且胆者，生于金，金主于武，故多勇，且抑之大吉。夫胆乘阴之气，秉金之精，故主于杀。杀则悲，故人之悲者，金生于水，目中坠泪也。夫心主火，胆主水，火主辛，水主苦，所以人有弊者，即言辛苦。故为水火二气相背，则火得水而煎，阴阳交争，水胜于火，故目泪出，泪流也。苦而出，故曰泪。

夫悲啼号泣，其声称苦者，为泪出于胆，而以苦为词也。胆，水也，而主于阴；目，明也，而主于阳。阴从阳，故从目出。常以孟月，端居正北，思吸玄宫之黑气，入口九吞之，以补嘻之损，以食龟蛇之味，饮玉童之浆，然后神治体和，颠不能犯，邪莫之向，胆气所致也。

岐伯曰：夫人之受天地之元气生。气之来也谓之精，精之媾也谓之灵，灵之变也谓之神，神之化也谓之魂，随魂往来谓之识，并精出入谓之魄，管主精魄谓之心，心有所从谓之情，情有所属谓之意，意有所指谓之志，志有所忆谓之思，思而远慕谓之虑，虑而用事谓之智。智者，乃识见者也，盖精神、魂魄、意志、思虑、情智、见识之所用也。

抱朴子曰：一人之身含天地之象。具在身矣。则胸胁为宫室，四支为郊境，头圆象天，足方象地，左目为日，右目为月。发为星辰，齿为金玉。大肠为江河，小肠为川渚。两乳、脐、膝为五岳，肝、肾、脾、肺、心为五行。故修道者常理之，若不修缉，必致毁败。营卫不通，血气不流，齿发不坚，五脏不调，则倾化随及。故至人修其未毁，治其无疾也。

## 卷十五 三洞经教部·经六

### 黄帝阴符经叙

《阴符》自黄帝有之，盖圣人体天用道之机也。《经》曰：得机者万变而愈盛，以至于王；失机者万变而愈衰，以至于亡。厥后伊吕得其未分，犹足以拯生灵，况圣人乎？其文简，其义玄。凡有先圣数家注解，互相隐显。后学难精，虽有所主者，若登天无阶耳。近代李筌，假托妖巫，妄为注述，徒参人事，殊紊至源。不惭窥管之微，辄呈酌海之见。使小人窃窥，自谓得天机也。悲哉！臣固愚昧，尝谓不然。朝愿闻道，夕死无悔。偶于道经藏中得《阴符传》，不知何代人制也。词理玄邈，如契自然。臣遂编之，附而入注。冀将来之君子，不失道旨。

### 黄帝阴符经 张果注解

经曰：观天之道，执天之行，尽矣（观自然之道，无所观也。不观之以目，而观之以心。心深微而无所不见，故能照自

然之性。性惟深微而能照，其斯谓之“阴”。执自然之行，无所执也。故不执之以手，而执之以机。机变通而无所系，故能契自然之理。夫惟变通而能契，斯谓之“符”。照之以心，契之以机，而“阴符”之义尽矣。李筌以“阴”为“暗”，“符”为“合”，以此文为序首，何昧之至也）。故天有五贼，见之者昌（五贼者，命、物、时、功、神也。传曰：圣人之理，图大而不顾其细，体瑜而不掩其瑕。故居夷则遵道布德以化之，履险则用权发机以拯之。务在匡天地，谋在济人伦。于是用大义除天下之害，用大仁兴天下之利，用至正措天下之枉，用至公平天下之私，故反经合道之谋，其名有五，圣人禅之，乃谓之贼；天下赖之，则谓之德。故贼天之命，人知其天而不知其贼，黄帝所以代炎帝也。贼天之物，人知其天而不知其贼，帝尧所以代帝摯也。贼天之时，人知其天而不知其贼，帝舜所以代帝尧也。贼天之功，人知其天而不知其贼，大禹所以代帝舜也。贼天之神，人知其天而不知其贼，殷汤所以革夏命也。周武所以革殷命也。故见之者昌，自然而昌也。太公以贼命为用味，以取其喻也。李筌不悟，以黄帝贼少女之命，白日上腾为非也）。五贼在乎心，施行在乎天；宇宙在乎手，万化生乎身（《传》曰：其立德明，其用机妙，发之于内，见之于外而已矣。岂称兵革以作寇乱哉？见其机而执之，虽宇宙之大，不离乎掌握，况其小者乎？知其神而体之，虽万物之众，不能出其胸臆，况其寡者乎？自然造化之力而我有之，不亦盛乎？不亦大乎？李筌等以五贼为五味，顺之可以神仙不死。诬道之甚也）。天性，人也；人心，机也。立天之道以定人也（《传》曰：人谓天性，机谓人心。人性本自玄合，故圣人能体五贼也）。天发杀机，龙蛇起陆；人发杀机，天地反覆（《传》曰：天机张而不生，天机弛而不死。天有弛张，用有否臧。张则杀威行，弛

则杀威亡。人之机亦然。天以气为威，人以德为机。秋冬阴气严凝，天之张杀机也，故龙蛇畏而蛰伏。冬谢春来，阴退阳长，天之弛杀机也，故龙蛇悦而振起。天有寒暄，德亦有寒暄。德刑整肃，君之张杀机也，故以下畏而服从。德失刑偏，君之弛杀机也，故奸雄悦而驰骋。位有尊卑，象乎天地，故曰：天发杀机，龙蛇起陆，寇乱所由作；人发杀机，天地反覆，尊卑由是革也。太公、诸葛亮等以杀人过万，大风暴起，昼若暝。以为天地反覆，其失甚矣。天人合德，万变定基（《传》曰：天以祸福之机运于上，君以利害之机动于下，故有德者万变而愈盛，以至于王；无德者万化而愈衰，以至于亡。故曰天人合德，万变定基。自然而然也）。性有巧拙，可以伏藏（《传》曰：圣人之性，巧于用智，拙于用力。居穷行险，则谋道以济之；对强与明，则伏义以退避之。理国必以是，用师亦以是）。九窍之邪，在乎三要，可以动静（《传》曰：九窍之用，三要为机。三要者，机、情、性也。机之则无不安；情之则无不邪；性之则无不正。故圣人动以伏其情，静以常其性，乐以定其机。小人反此，故下文云：太公为三要，为耳、目、口。李筌为心，神、志，皆忘机也。俱失《阴符》之正意）。火生于木，祸发必克；奸生于国，时动必溃。知之修炼，谓之圣人（《传》曰：夫木性静，动而生火，不觉火盛，而焚其质。由人之性静，动而生奸，不觉奸成而乱其国。夫明者见彼之隙以设其机，智者知彼之病以圆其利，则天下之人，彼愚而我圣。是以生者自谓得其生，死者自谓得其死，无为无不为，得道之理也。天生天杀，道之理也）。天地，万物之盗；万物，人之盗；人，万物之盗。三盗既宜，三才既安（《传》曰：天地以阴阳之气化为万物，万物不知其盗。万物以美恶之味飧人，人不知其盗。人以利害之谖制万物，万物不知其盗。三盗玄合于人心，三才



静顺于天理。有若时然后食，终身无不愈；机然后动，庶类无不安。食不得其时，动不得其机，殆至灭亡）。故曰食其时，百骸治；动其机，万化安。人知其神而神，不知其神所以神也（《传》曰：时人不知其盗之为盗，只谓神之能神。《鬼谷子》曰：彼此不觉谓之神。盖用微之功著矣。李筌不知此文意通三盗，别以圣人、愚人为喻，何甚谬也）。日月有数，大小有定，圣功生焉，神明出焉（《传》曰：日月有准，运数也；大小有定，君臣也。观天之时，察人之事，执人之机，如是则圣得以功，神得以明。心冥理合，安之善也。筌以度数为日月，以余分为大小，以神气能生圣功神明，错谬之甚也）。其盗机也，天下莫能见，莫能知也。君子得之固躬，小人得之轻命（《传》曰：其盗微而动，所施甚明博，所行极玄妙。君子用之，达则兼济天下，太公其人也。穷则独善一身，夫子其人也。岂非择利之能审乎？小人用之，则惑名而失其身，大夫种之谓欤？得利而亡义，李斯之谓欤？岂非信道之不笃焉）？瞽者善听，聋者善视。绝利一源，用师十倍。三返昼夜，用师万倍（《传》曰：瞽者善于听，忘色审声，所以致其聪。聋者善于视，遗耳专目，所以致其明。故能十众之功。一昼之中三而行之，所以至也。一夜之中三而思之，所以精也。故能用万众之人。李筌不知师是众，以为兵师，误也）。心生于物，死于物，机在于目（《传》曰：心有爱恶之情，物有否臧之用。目视而察之于外，心应而度之于内。善则从而行之，否则违而止之，所以劝善而惩恶也。筌以项羽昧机，心生于物；以符坚见机，心死于物。殊不知有否臧之用）。天之无恩而大恩生，迅雷烈风莫不蠢然（《传》曰：天以凶象咎徵见人，人能儆戒以修德。地以迅雷烈风动人，人能恐惧以致福。其无恩而生大恩之谓也。李筌以天地不仁为大恩，以万物归于天为蠢然。与《阴符》本

意殊背)。至乐性余，至静性廉（《传》曰：情未发谓之中，守中谓之常，则乐得其志而性有余矣。性安常谓之自足，则静得其志而廉常足矣。筌以奢为乐性，以廉为静，殊乖至道之意）。天之至私，用之至公（《传》曰：自然之理，微而不可知，私之至也。自然之功，明而不可违，公之至也。圣人体之亦然。筌引《孙子》云：视卒如爱子，可以之俱死。何也？擒之制在气（《传》曰：擒物以气，制之以机，岂用小大之力乎？太公曰：岂以小而相制哉？筌不知擒之义，误以禽兽。注解引云玄龟食蛇，黄腰啖虎之类，为是悲哉）！生者死之根，死者生之根。恩生于害，害生于恩（生者，人之所爱，以其厚于身。太过则道丧，而死自来矣。死者，人之所恶，以其损于事。至明则道存。而生自固矣。福理所及谓之恩，祸乱所及谓之害，损己则为物之所益，害之生恩也。筌引《孙子》用兵为生死，丁公、管仲为恩害。异哉）！愚人以天地文理圣，我以时物文理哲。人以虞愚，我以不虞圣。人以期其，我以不期其圣（《传》曰：观天之运四时，察地之化万物，无所不知，而蔽之以无知，小恩于人，以蒙自养之谓也。知四时之行，知万物之生，皆自然也。故圣人于我以中自居之谓也。故曰死生在我而已矣。人之死亡，譬如沉水自溺，投火自焚，自取灭亡。理国以道，在于损其事而已。理军以权，在于亡其兵而已。故无死机则不死矣，鬼神其如我何？圣人修身以安其家，理国以平天下，在乎立生机。以自去其死性者，生之机也。除死机以取其生情者，死之机也。筌不天道，以愚人、圣人、体道愚昧之人而验天道，失之甚也）。故曰沉水入火，自取灭亡（注在上矣）。自然之道静，故天地万物生（《传》曰：自然之道，无为而无不为。动静皆得其性，静之至也。静故能立天地，生万物，自然而然也。伊尹曰：静之至，不知所以生也）。天地之道浸，

故阴阳胜（《传》曰：浸，微也。天地之道，体著而用微，变通莫不归正，微之渐也。微渐故能分阴阳，成四时。至刚至顺之谓也）。阴阳相推，而变化顺矣（《传》曰：圣人变化顺阴阳之机。天地之位自然，故因自然而冥之，利自然而用之，莫不得自然之道也）。是故圣人知自然之道不可违，因而制之（注在文上）。至静之道，律历所不能契（《传》曰：道之至静也，律历因而制之，不能叶其中鸟兽之谓也）。爰有奇器，是生万象；八卦甲子，神机鬼藏（《传》曰：八卦变异之伎，从是而生。上则万象，下则万机。用八卦而体天，用九畴而法地。参之以气候，贯之以甲子，达之以神机，闭之以诡藏，奇譎之荡自然也）。阴阳相胜之术，昭昭乎进乎象矣（《传》曰：阴阳相胜之术，恒微而不违乎本，明之信可明，故能通乎精曜象矣）。

### 天机经（解《阴符》也）

叙曰：有机而无其人者败，有其人而无其道者败，故《易》曰：“即鹿，无虞。惟入于林中。君子几不如舍，往吝。”故圣人观其时而用其符，应其机而制其事，故能运生杀于掌内，成功业于天下者也。《易》曰：“君子藏器于身，待时而动。”是以圣人保之于灵台，以观机变。卷之则自胜，舒之则胜人。察之则无形，用之则不极。《易》曰：“阴阳不测之谓神。”而《阴符》象之矣。故圣人不测之符，陶均天下而无所归怨矣。夫天为地主，道为德君，故圣人奉地而法天，立德而行道。举天道而为经首，明地以奉之。《易》曰：乃顺承天，待时而动。

是故圣人将欲施为，必先观天道之盈虚，后执而行之。举事应机，则无遗策。《易》曰：“后天而奉天时。”

### 昌

夫圣人法地而奉天，立德而行道。居天地道德之间，建莫大之功者，未有不因五贼而成也。五贼者：其一贼命、其二贼物、其三贼时、其四贼功、其五贼神、皇帝王霸权变之道也。是以圣人观其机而应之，度其时而用之，故太公立霸典而灭殷朝，行王风而理周室，岂不随时应机，驱驰五贼者也？故圣人立本于皇王之中，应机于权霸之内。经邦治身，五贼者备矣，则天下望风而从之，竭其性命而无所归其恩怨也。乃谓之曰：有道之盗，无形之兵。呜呼！寇莫大焉。五贼在心，擒纵在手，治身佐世，莫尚于斯经云：“见之者昌，”不亦宜乎？

### 身

术曰：夫人心，身之主，魂之宫，魄之府。将欲施行五贼者，莫尚乎心。事有所图，必合天道。此则宇宙虽广，览之只在于掌中；万物虽多，生杀不离于术内。则明天地不足贵以远，以厚，而况耳目之前乎？

### 机

夫杀机者，两朝终始之萌，万人生死之兆。处云雷未泰之日，玄黄流血之时。故天之为变也，则龙出于田，蛇游乎路，此为交战之机，故曰龙蛇起陆。人之为变也，则春行秋令，赏

逆罚忠，此为颠堕之机，故曰天地反覆。天人之机同时而发，虽千变万化，成败之机定矣。

### 藏

夫仁者必有勇，勇者不必有仁；智者能愚，愚者不必能智。故圣人时通则见其巧而建其功；时否则见其拙而昧其迹。故孔明《序》曰：太公八十，非不遇也，盖审其主焉。呜呼！性命巧拙之时，识达行藏之势，可以观变察机，运用五贼。所以然者，夫圣人所以深衷远照，动不失机，观天料人，应时而作。故《易》曰：知进退存亡而不失其正者，其惟圣人乎？

### 静

夫九窍者，在天为九星；在地为九州；在人为九窍。九窍之气不正，故曰受邪。受邪则识用偏，识用偏则不可发机观变。故九窍之急，在乎三要。太公曰：耳、目、口也。夫耳、目、口者，心之佐助也；神之门户也；智之枢机也；人之祸福也。故耳无聪不能别其音，目无明不能见其机，口无度不能施其令。夫三要精，上不能治国，下不能治家，况兵者乎？悬人之性命，为国之存亡，静动之间，不得无事，岂可轻而用之？

### 人

夫火生于木，火发而木焚。国生于奸，奸深则国乱。亦犹蚕能作茧，茧成则杀其身；人能生事，事烦则害其命。非至圣不能修身炼行，防之于未萌，治之于未乱。夫十围之木，起于

拱把；百仞之台，起于足下。治小恶不惧，必成大祸。呜呼！木不相摩，火无由出；国无乱政，奸无由生。有始有终，是非不动。能知之其惟圣人乎？

### 安

万物盗天地之精以生成，人盗万物之形以御用，万物盗人之力以种植，彼此相盗，各获其宜，俱不知为万物化。故能用机者，法此三事，以道之盗而贼于物。物亦知为盗之道。所以然者，贵得其时也；贵得其机也。故曰合其时而食则百骸治，应其机而动则万化安。乖时失机，则祸乱生也。

### 神

老君曰：功成不有，为而不恃。此全生立德之本也。夫小人者，贪其财则以身徇利，爱其名则以力争功，矜衒神迹而求神名，物共嫉之，必丧其命。欲益招损，是不神矣。夫君子建大功而不恃，防小祸于未萌，退己进人，推能让物，物共戴之，故不夺其利。自发神智，不能争物，物共让之。不居其后，为损招益，是以至神矣。故老君曰：为者败之，执者失之。诚哉言也！

### 圣

假如千年一圣，五百年一贤，应日月之数所生而大小之人定矣。夫大人出世，应明德而建圣功；小人当时，则废正纲而生祸乱。故太公说于西伯知人望而已归周；刘琨表于琅琊识天

时而未离晋陵；母自死知明主之必兴括，母不诛，见赵军之必败。故天道人事，贤者可以预知。佐非其人，夷于九族。故《易》曰：长子帅师，开国成家。小人勿用，必乱邦也。

### 命

夫成败之道未形，死生之机未发，小人能见，君子能知，则易见而难知，见近而知远也。夫见机者则趋时而就利，皆不保其天年。知机者则原始而要终，固必全其性命。

### 倍

瞽者善听，神不离于耳；聋者善视，心不离于目。其为听也，神则专耳；其为视也，心则专目。耳之与目，递为用师。当用之时，利绝其一。心之所主，则无事不精，犹有十倍之利，何况反覆以此用之？三思精诚一计，顺时隐显，应机行藏，以此用师，固万倍之胜利。

### 物

夫人之心，无故不动。生之与死，缘物而然。物动则心生，物静则心死。生死之状，其惟物乎？

### 目

目者神之门，神者心之主。神之出入莫不游乎目。故见机者莫不尚乎目，能知机者莫不尚乎心。

蠢然

夫道不为万物而生春，万物感春气而自生。秋不为万物而杀，万物感秋气而自杀。其为生也，不恃其恩，不求其报，故其恩大矣。其为杀也，不恃其威，不求其惧，其威大矣。凡物，取而得之者小，不取而得之者大。故圣人不取。夫君王有道无道，则人民治乱之机。歌谣或乐或哀，则时年丰俭之兆。时人不能省察，天地乃降征祥；或五云腾起，七曜变行，皆因国风，是以然矣。且宋君失德，荧惑守心，及乎谢愆，退之三舍。用令倭古，皎在目前；以彼喻斯，岂劳心术？故智者悟于人事之初，而愚者晦于星象之后矣。

生

老君以无为有母，静为躁君。夫静者，元气未分之初，形于元气之中，故能生天地万物。亦犹人弘静。其心不挠，则能生天下万物也。

胜

胜，浸长也。天地之道，各自浸长。天则长阳也，地则长阴也。阴阳相招，一昼一夜，递为君臣，更相制胜，故曰阴阳相胜。夫开国用师，必侵天道。亦犹金火相交，而非交不伏也。天且弗违，而况于人乎？

顺



《易》曰：刚柔相摩而生变化。变化不愚，故曰顺也。夫人之育身治性，尚不可逆时为之，而况经邦佐世之雄哉！

契

至圣之道，窈然无为。无为则无机，无机则至静。夫律历之妙，动则能知。体既虚无，莫得施其管术，亦犹兵者不失其机，不露其衅，虽有智士，从何制焉？

象

奇器者，阴阳之故，能生万物，亦犹人心能造万事象矣。进前，象状也。八卦六甲，鬼神机密之事，刚柔相制之术，昭昭乎前列其状矣。

## 卷十六 三洞经教部·经七

### 灵宝洞玄自然九天生神章经（一名《三宝大有金书》）

天宝君者，则大洞之尊神。天宝丈人，则天宝君之祖气也。丈人是混洞太无元高上玉皇之气，九万九千九百九十亿万气，后至龙汉元年化生天宝君。出书时号高上大有玉清宫。灵宝君者，则洞玄之尊神。灵宝丈人，则灵宝君之祖气也。丈人是赤混太无元无上玉虚之气，九万九千九百九十九万气，后至龙汉开图，化生灵宝君。经一劫至赤明元年出书度人时，号上清玄都玉京七宝紫微宫。神宝君者，即洞神之尊神。神宝丈人，则神宝君之祖气也。丈人是冥寂玄通元无上玉虚之气，九万九千九百九十万气，后至赤明元年化生神宝君。经二劫至上皇元年出书时，号三皇洞神太清太极宫。此三号虽年殊号异，本同一也，分为玄、元、始三气而治三宝，皆三气之尊神，号生三气，三号合生九气。九气出乎太空之先，隐乎空洞之中，无光无像，无形无名，无色无绪，无音无声。导运御世，开辟玄通。三色混沌，乍存乍亡。运推数极，三气开光。气清高澄，积阳成天。气结凝滓，积滞成地。九气列正，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受生成。天地万化，自非三元所育，九气所导，莫能生也。三气为万物之根，故三合成德，天地之极也。人之受生

于胞胎之中，三元育养，九气结形，故九月神布气满，能声。声尚神具，九天称庆。太一执符，帝君品命，主策勒籍，司命定算，五帝监生，圣母卫房，天神地祇，三界备守。九天司马在庭东向读《九天生神宝章》九过。男则万神唱恭，女则万神唱奉；男则司命敬诺，女则司命敬顺。于是而生。九天司马不下命章，万神不唱恭诺，终不生也。夫人得还生于人道，濯形太阳，惊天骇地，贵亦难胜；天真地神，三界齐临，亦不轻也。当生之时，亦不为陋也。所以能爱其形，保其神，贵其气，固其根，终不死坏而得神仙，骨肉同飞上登三清，是与三气合德，九气齐并也。但人得生而自不能尊其气，贵其形，宝其命，爱其神，自取死坏，离其本真耳。《九天生神章》乃三洞飞玄之气，三合成音，结成灵文；混合百神，隐韵内名，生气结形自然之章。天宝诵之以开天地之光，灵宝诵之以开九幽长夜之魂，神宝诵之以制万灵，太一诵之以具身神，帝君诵之以结形，九天诵之以生人，学士诵之以升天，鬼灵闻之以升迁，凡夫闻之以长存，幽魂闻之以开度，枯朽闻之以发烟，婴孩闻之以能言，死骸闻之以还人。三宝神奥，万品生根，故非鬼神所知，凡夫所闻也。夫学上道，希慕神仙，及得尸解，灭度转轮，终归仙道。形与神同，不相远离，俱入道真，而无此文，则胞胎结滞，死气固根；真景不守，生气无津；九户阖塞，体不生神，徒受一形。若寄气而行；学得此法，可坐致自然。三宝尊重，九天至真，秘之大有九，重金格紫阳玉台，自非天地一开，其文不出。元始禁书，非鬼神所闻。窃之者风刀万劫，魂死无生。依科奉法，形神同仙。三元宫中宿有金名紫字，刻书来生应为三清神仙之人，当得此文。有其缘会，当赍金宝，奉师效心，依科盟受。闭心奉行，慎勿轻泄，风刀考身。修行之法，千日长斋，不关人事，诸尘漏尽，夷心默念，清心执戒。

入室东向叩齿九通，调声正气，诵咏宝章。诵之一过，声闻九天；诵之二过，天地设恭；诵之三过，三界礼房；诵之四过，天王降仙；诵之五过，五帝朝真；诵之六过，魔王束身；诵之七过，星宿停关；诵之八过，幽夜光明；诵之九过，诸天下临，一切神灵莫不卫轩。一过彻天，胞原宣通；二过响地，胎结解根；三过神礼，魂门练仙；四过天王降仙，魄户闭关；五过五帝朝真，藏府清凉；六过魔王伏诺，胃管生津；七过星宿朗明，孔窍开聪；八过幽夜显光，三部八景，整具形神；九过诸天下临，三关、五脏六腑、九宫、金楼玉室十二重门、紫户玉螭，三万六千关节，根原本始一时生神。九遍为一过。一过周竟，三界举名五帝友，别称为真人。十过通气，制御万灵，魔王保举，列上诸天。百过通神，坐致自然，太一度符，元君受生。千过通灵，坐在立亡，仙童玉女，役使东西。万过道备，驰骋龙驾，白日登晨。

元始天尊时静处闲居，偃息云宫黄房之内，七宝帟中。熙夷养素，空碧炼真；耽咀洞惠，俯研《生神》；理微太混，啸朗九天。是时飞天大圣无极神王，玉辅上宰四协侍晨，清斋建节，侍在侧焉。恁琼颜而妙感，仰灵眸而开衿，窃神章而踊跃，餐天音而蒙生，敢乘机而悟会，冒灵盼而披心。于是飞天大圣无机神王前进作礼，稽首而言，上白天尊：

“贱臣幸会，得仰侍灵轩，不以短狭，叨濯冥津。重悟凝玄，位登神王。总御生死，领括天仙。赏监七觉，远览遐方。雍观上宰，对司侍晨。方当乘机应会，履九太阳，洞理阴符，抚掌兆民。大运将期，数终甲申。洪流荡秽，凶灾弥天。三官鼓笔，料别种人。考算功过，善恶当分。自赤明以来至上皇元年，依元阳玉匮，受度者应二十四万人。开皇以后数至甲申，诸天选叙，仙曹空废，官僚不充，游散职司，皆应选人。

依元阳玉历，当于三代更料有心积善建功、为三界所举、五帝所保、名在上天者，取十万人以充其任。又当别举一十二万人以充储官。如此之例：或以宿名玄图；或骨像合仙；或以灭度，因缘转轮；或以笃好三宝，善功彻天；或供养师宝，为三官所称；或修斋奉戒，功德积感；或施散财宝，建立道堂；或救恤穷乏，载度天人；或为三师建功充足，天官有名。考筭簿录，三官相应，皆逆注种名，上下有别，毫分无遗。又九幽之府被东华青宫九龙符命，使拔九幽玉匮男女死魂，宿名有善、功德满足、应受开度者，取三十二万人以充。甲申驱除之后，开大有之民。当此之时，生死交会，善恶分判，得过者真为乐哉！然三官相切，文墨纷纭，龙门受会，鸟母督仙，万圣显驾，昼夜无闲。功过平等，使生死无偏，此之昏闹，亦臣之忧矣。大期既切，触事阙替，恒恐一旦受罹公门。伏闻天尊造大慈之化，垂怜苍生；开九天之奥以济兆民。明科有禁戒，非贱臣所可参闻。然大数有期，甲申垂终，运度促急，大法宜行。使有心者得于考筭之中闻于法音，开示于视听，劝化于未悟者也。缘兹上陈，惧触天颜，愿见哀愍，赐所未闻。”

于是天尊抚机高亢，凝神遐想。仰诵洞章，啸咏琳琅。良久，忽然叹曰：“上范虚漠，理微大幽，道达重玄，气冠神霄，至极难言，妙亦难超。子既司帝位，受任神王。飞天翼于琼阙，四宰辅于明轮。遐盼极览，领综无穷，雍和万化，抚料苍生。今大运启期，三五告辰，百六应机，阳九激扬，洪泉鼓波，万灾厉天。四宫选举，以充种民。三代昏乱，善恶宜分，子当劳心兆庶，疲于三官兴废之际，事须开能，今以相委，其勉之焉！宝书妙重，九天灵音，施于上圣，非鬼神所闻。明真有格，四万劫一行。今冒禁相付，子秘之矣，慎勿轻传！”登命九天司马侍仙玉朗，开紫阳玉笈云锦之囊，出《九天生神玉章》。

四辅别位，五老监真，太一命辰，玉帝唱盟，一依俯仰。明真具典，南向长跪以付飞天无极神王。法事既毕，诸天复位。

天尊重告飞天神王：“此九天之章乃三洞飞玄之气，三会成音结成真文。混合百神，隐韵内名。故太一试观，摄生十方，领会洞虚，启誓丹青。自无亿劫，因缘宿名帝图，不得参见。得眇篇目，九祖同仙。当采择其人应为仙者，七百年中，清斋千日，赍金缙誓心，依盟以传。慎之则享祚，漏之则祸臻。享祚则福延九祖，德重山海；招祸则考流亿劫，痛于毒汤，风刀相刑。可不慎之焉！”

#### 郁单无量天生神章第一

帝真胞命元，元一黄演之气。

混合空洞气，飞爽浮幽寥。延康无期劫，眇眇离本条。苦魂沉九夜，乘晨希阳翹。大有通玄户，郁单降晨霄。黄云凝灵府，阴阳气象交。胞元结长命，恶根应化消。桃康合精延，二帝秀玉飘。灌溉胞命门，精练神不凋。九天命灵章，生神神自超。元君遏死路，司马诵洞谣。一唱万真和，九遍诸天朝。稽首恭劫年，庆此荣旧苗。

#### 上上禅善无量寿天生神章第二

帝真胎命元，洞冥紫户之气。

无量结紫户，气尊天中王。开度飞玄爽，凝化轮空洞。故根离昔爱，缘本思旧宗。幽夜沦遐劫，对尽大运通。帝真始明精，号曰字元阳。婴儿史伯华，结胎守黄房。斩根断死户，熙颐养婴童。禅善导灵气，玄哺飞天芳。华景秀玉质，精练自成

容。务玄育尚生，罗列备明堂。太虚感灵会，命我《生神章》。一唱动九玄，二诵天地通。混合自相和，九遍成人功。大圣庆元吉，散华礼太空。诸天并欢悦，一切稽首恭。

### 梵监须延天生神章第三

帝真魄命元，长灵明仙之气。

须延总三云，玄元始气分。落落大范布，华京翠玉尊。明梵飞玄景，开度长夜魂。游爽赴期归，气气反故根。太帝号阳堂，字曰八灵君。九关回禄道，胎气生上元。陵梵度命籍，太一辅精延。泥丸敷帝席，三部八景分。魂生摄游气，九转自成仙。琅琅九天音，《玉章》生万神。三遍列正位，气参八辰门。玄关遏死户，灵镇津液源。应会感灵数，明道潜回轮。庆此婴儿蛻，稽首赞洞文。

### 寂然兜术天生神章第四

帝真魄命元，殒尸冥演由之气。

寂然无色宗，兜术抗大罗。灵化四景分，万条翠朱霞。游魄不顾反，一逝洞群魔。神公摄游气，飘飘练素华。荣秀椿劫期，乘运应灵图。空洞生神章，琼音逸九霞。一唱万真会，蹇爽合成家。九转景灵备，郁郁曜玉葩。兜术开大有，一庆享祚多。上圣回帝驾，婴儿歎以歌。不胜良晨会，一切稽首和。

### 波罗尼密不骄乐天生神章第五

帝真藏府命元，五仙中灵之气。

翻翻五帝驾，飘飘玄上门。游步黄华野，回灵骄乐端。采集飞空景，旧爽多不存。太微回黄旗，无英命灵幡。摄召长夜府，开度受生魂。公子辅黄宁，总录具形神。玉章洞幽灵，五转天地分。气炼元藏府，紫户自生仙。数周众真会，启阳应感繁。玉女灌五香，圣母庆万年。三界并欢乐，稽首礼天尊。

#### 洞元化应声天生神章第六

帝真灵府命元，高真冲融之气。

应声无色界，霄映冠十方。回化轮无影，冥期趣道场。灵驾不待轡，朗然生神章。空洞谅无崖，玄爽亦为强。练胎反本初，长乘飞玄梁。薪畜丧天真，散思候履常。斩伐胞树滞，心游超上京。愿会既玄玄，悟我理兼忘。界福九天端，交礼地辰良。混化归元一，高结元始玉。稽道俦灵运，长谢嚣尘张。

#### 灵化梵辅大生神章第七

帝真元府命元，高仙洞笈之气。

玄会统无崖，混气归梵辅。务猷运灵化，潜推无寒暑。乘数构真条，振袂拂轻羽。琼房有妙韵，泛登高神所。圆轮无停映，真仙森列序。上上霄衢邈，洞元深万巨。秀叶翳翠霞，停荫清冷渚。遨玩怡五神，繁想啸明侣。五难缘理去，冲心自怡处。爽魂随本根，亶亶空中处。七诵重关开，豁滞非神武。运通由中发，高唱稽首举。

#### 高虚清明天生神章第八



帝真华府命元，真灵化凝之气。

清明重霄上，合期庆云际。玉章散冲心，孤景要灵会。焕落景霞布，神矜靡不迈。玉条流逸响，从容虚妙话。灵音振空洞，九玄离幽裔。感爽无凝滞，去留如解带。明识生神章，高游无终败。玄景曜云衢，迹超神方外。应感无方圆，聊以运四大。研心稽首诵，众圣共称快。

#### 无想无结无爱天生神章第九

帝真神府命元，自然玄照之气。

无结固无情，玄玄虚中澄。轮化无方序，数来亦叵乘。谁云无色平，峨峨多丘陵。冥心纵一往，高期清神徵。良遇非年岁，劫数安可称？浮爽缘故条，反胎自有恒。灵感洞太虚，飞步霄上冰。津趣鼓万流，潜凝真神登。无爱固无忧，高观稽首升。

#### 太极真人颂二首

大道虽无心，可以有情求。伫驾空洞中，回盼翳沧流。净明三界外，萧萧玉京游。自无玄挺运，谁能悟冥陬？落落天汉澄，俯仰即虚柔。七玄散幽夜，反胎顺沉浮。冥期苟潜凝，阳九无虞忧。亲此去来会，时复为淹留。外身而身存，真仙会良俦。

亹亹玄中趣，湛湛清漈波。代谢若旋环，椿水不改柯。静心念至真，随运顺离罗。感应理常通，神适逮自徂。淡游初无

际，繁想洞九霞。飞根散玄叶，理反非有它。常能诵玉章，玄音彻霄霞。甲申洪灾至，控翮王母家。永享无终纪，岂知年劫多？

## 卷十七 三洞经教部·经八

### 太上老君内观经

老君曰：天地构精，阴阳布化，万物以生，承其宿业，分灵道一，父母和合，人受其生。始一月为胞精，血凝也；二月为胎形，兆胚也；三月阳神为三魂，动以生也；四月阴灵为七魄，静镇形也；五月五行分藏，以安神也；六月六律定腑，用滋灵也；七月七精开窍，通光明也；八月八景神具降，真灵也；九月宫室罗布，以定精也；十月气足，万象成也。元和哺食，时不停也。太一帝君在头，曰泥丸君，总众神也；照生识神，人之魂也；司命处心，纳心源也；无英居左，制三魂也；白元居右，拘七魄也；桃孩住脐，保精根也；照诸百节，生百神也；所以周身神不空也。元气入鼻，灌泥丸也。所以神明形固安也。运动住止，关其心也；所以谓生有由然也。子内观之，历历分也。心者，禁也，一身之主，禁制形神，使不邪也。心则神也，变化不测，无定形也，所以五藏藏五神也。魂在肝，魄在肺，精在肾，志在脾，神在心，所以字殊随处名也。心者，火也，南方太阳之精，主火。上为荧惑，下应心也。色赤，三叶如莲花，神明依泊，从所名也。其神也，非青非白，非赤非黄，非大非小，非短非长，非曲非直，非柔非刚，非厚非薄，

非圆非方，变化莫测，混合阴阳，大包天地，细入毫芒，制之则正，放之则狂。清净则生，浊躁则亡，明照八表，暗迷一方，但能虚寂，生道自常，永保无为，其身则昌。世以无形，莫之能名。祸福吉凶，悉由之矣。所以圣人立君臣，明赏罚，置官僚，制法度，正以教人。人之难伏，惟在于心，心若清净，则万祸不生。所以流浪生死，沉沦恶道，皆由心也。妄想憎爱，取舍去来，染著聚结，渐自缠绕，转转系缚，不能解脱，便至灭亡。犹如牛马，引重趋泥，转增陷没，不能自出，遂至于死，人亦如之。始生之时，神源清净，湛然无杂。既受纳有形，形染六情；眼则贪色，耳则滞声，口则耽味，鼻则受馨，意怀健羨，身欲轻肥，从此流浪，莫能自悟，圣人慈念，设法教化，使内观己身，澄其心也。

老君曰：谛观此身，从虚无中来，因缘运会，积精聚气，乘业降神，和合受生，法天象地，含阴吐阳，分错五行，以应四时，眼为日月，发为星辰，眉为华盖，头为昆仑，布列宫阙，安置精神，万物之中，人称最灵，性命合道，当保爱之。内观其身，谁尊之焉？而不自贵，妄染诸尘，不静臭秽，浊乱形神。孰观物我，何疏何亲？守道全生，为善保真。世愚役役，徒自苦辛。

老君曰：从道受生谓之命，自一禀形谓之性，所以任物谓之心，心有所忆谓之意，意之所出谓之志，事无不和谓之智，智周万物谓之慧，动以营身谓之魂，静以镇形谓之魄，流行骨肉谓之血，保神养气谓之精。气清而馥谓之荣，气浊而迟谓之卫，总括百骸谓之身，众象备见谓之形，块然有阎谓之质，状貌可则谓之体，大小有分谓之躯，众思不得谓之神，莫然应化谓之灵，气来入身谓之生，神去于身谓之死，所以通生谓之道。道者，有而无形，无而有情；变化不测，通神群生。在人之身，

则为神明，所谓心也；所以教人修道，则修心也；教人修心，则修道也。道不可见，因生以明之；生不可常，用道以守之。若生亡则道废，道废则生亡。生道合一，则长生不死，羽化神仙。人不能保者，以其不内观于心故也。内观不遗，生道常存。

老君曰：人所以流浪恶道，沉沦滓秽，缘六情起妄而生六识。六识分别，系缚憎爱，去来取舍，染著烦恼，与道长隔，所以内观六识因起，六识从何而起？从心识起。心从我起，我从欲起。妄想颠倒，而生有识。亦曰自然，又名无为，本来虚净，元无有识。有识分别，起诸邪见。邪见既兴，尽是烦恼。展转缠缚，流浪生死，永失于道。

老君曰：道无生死，而形有生死。所以言生死者，属形不属道也；形所以生者，由得其道也。形所以死者，由失其道也。人能存生守道，则长存不亡也。

老君曰：人常能清静其心，则道自来居，道自来居则神明存身，神明存身则生不亡也。人常欲生而不能虚心，人常恶死而不能保神，亦犹欲贵而不肯用道，欲富而不肯求宝，欲疾而足不行，欲肥而食不饱也。

老君曰：道以心得，心以道明。心明则道降，道降则心通。神明之在身，犹火之在卮。明从火起，火自炷存，炷因油润，油藉卮停。四者若废，明何生焉？亦如明缘神照，神托心存，心由形有，形以道全。一物不足，明何依焉？所以谓之神明者，眼见耳闻，意知身觉，分别物理，微细悉知。由神以明，故曰神明也。

老君曰：所以言虚心也，遣其实也；无心者，除其有也。定心者，令不动也。正心者，使不邪也。清心者，使不浊也。净心者，使不秽也。此皆已有，今使除也。心直者，不反覆也。心平者，无高低也。心明者，不暗昧也。心通者，不质碍也。

此皆本自然也。粗言数者，余可思也。

老君曰：知道易，信道难；信道易，行道难；行道易，得道难；得道易，守道难。守道不失，身常存也。

老君曰：道也者，不可以言传口受而得之，当虚心静神，道自来也。愚者不知，乃劳其形，苦其心，役其志，躁其神，而道愈远，而神愈悲。背道求道，怨道不慈。

老君曰：道贵长存。保神固根，精气不散，淳白不分。形神合道，飞升昆仑，先天以生，后天长存，出入无间，不由其门，吹阴煦阳，制魄抱魂。亿岁眷属，千载子孙，黄尘四起，骑牛真人。金堂玉室，送故迎新。

老君曰：内观之道，静神定心，乱想不起，邪妄不侵，周身及物，闭目思寻，表里虚寂，神道微深，外观万境，内察一心，了然明静，静乱俱息，念念相系，深根宁极，湛然常住，窈冥难测，忧患永消，是非莫识。

老君曰：吾非圣人，学而得之。故我求道，无不受持，千经万术，唯在心志也。

### 洞玄灵宝定观经

（灵者，神也，在天曰灵。宝者，珍也，在地曰宝。天有灵化，神用不测，则广覆无边；地有众宝，济养群品，则厚载万物。言此经如天如地，能覆能载，有灵有宝，功德无穷。证得此心，故名灵宝。定者，心定也。如地不动。观者，慧观也。如天常照，定体无念，慧照无边，定慧等修，故名定观。）

天尊告左玄真人曰（左者，定也。玄者，深妙也。真者，

纯也，一而无杂。人者，通理达性之人也。曰者，语辞也）：夫欲修道，先能舍事（进趣之心，名为修道；一切不染，名为舍事）。外事都绝，无与忤心（六尘为外事，须远离也。六尘者，色、声、香、味、触、法，更不染著，名为都绝。境不来忤，心即无恼。心不起染，境则无烦。心境两忘，即无烦恼。故名无与忤心）。然后安坐（摄澄烦恼，名之为安。本心不起，名之为坐）。内观心起。若觉一念，起须除灭，务令安静（慧心内照，名曰内观。漏念未除，名为心起。前念忽起，后觉则随；起心既灭，觉照亦忘，故称除灭。了心不起，名之为安。觉性不动，名之为静。故称安静）。其次虽非的有贪著，浮游乱想，亦尽灭除（众心不起，妄念悉忘。乱想不生，何有贪著？故曰灭除）。昼夜勤行，须臾不替（昼之言净，夜之言垢。垢净两忘，无有间替，故名不替）。唯灭动心，不灭照心（妄想分别，名曰动心。觉照祛之，故名为灭。慧照常明无有间，故名不灭照心）。但凝空心，不凝住心（不起一切心，名空心。一切无著，名之不凝住心）。不依一法，而心常住（若取一法，即名著相。心不取法，名为不依。照而常寂，故为常住）。然则凡心躁竞，其次初学，息心甚难。或息不得，暂停还失（言习性烦恼，难可灭除。定力未成，暂停还失也）。去留交战，百体流行（心起染境，境来牵心，心境相染，故名交战。妄念不息，百非自生，名曰百体流行）。久久精思，方乃调熟。勿以暂收不得，遂废千生之业（定心不起，则契真常。一念不收，千生遂废）。少得净已，则于行立坐卧之时（初得清静，正慧未生，故云少得净已。四威仪之时也）。涉事之处，喧闹之所，皆作意安（见一切诸相，为涉之处。起一切诸心，名为喧闹之所也。息乱归寂，名为作意；恬淡得所，名之为安也）。有事无事，常若无心；处静处喧，其志唯一（有无双遣，寂用俱忘

；万法不二，名之唯一）。若束心太急，又则成病。气发狂颠，是其候也（偏心执静，名曰束心。心外见相，名为颠也）。心若不动，又须放任；宽急得所，自恒调适（从定发慧，名为放任。定慧齐融，名曰得所。定多即愚，慧多即狂；定慧等用，名曰调适）。制而不著，放而不动；处喧无恶，涉事无恼者，此是真定（寂而常照，照而常寂；空而常用，用而常空。得本元寂，故为真定）。不以涉事无恼，故求多事；不以处喧无恶，强来就喧（习性尘劳，常须制御，不可纵逸）。以无事为真宅，有事为应迹（见本性空寂，故为真宅。慧用无边，故为应迹）。若水镜之为鉴，则随物而现形（本心清静，犹如水镜，照用无碍，万物俱现。名为现形）。善巧方便，唯能入定（诸法性空，寂无所起，故为入定）。慧发迟速，则不由人。勿令定中急急求慧。急则伤性，伤则无慧（急求知见，真定乃亡。贪著诸相，故云无慧）。若定不求慧，而慧自生，此名真慧（心体寂静，妙用无穷，故名真慧）。慧而不用，实智若愚（了无分别，名之不用。韬光晦迹，故曰若愚）。益资定慧，双美无极（寂照齐融，故云双美无极）。若定中念想，多感众邪，妖精百魅，随心应见（为心取相，诸相应生。一切邪魔，竞来挠乱）。所见天尊，诸仙真人，是其祥也（此为诸相不可取著）。唯令定心之上，豁然无覆；定心之下，旷然无基（前念不生，故云无覆。后念不起，故曰无基）。旧业日销，新业不造（宿习并尽，名曰旧业日销。更不起心，故名新业不造）。无所挂碍，回脱尘笼（一切不染，故名无所挂碍；解脱无系，故云迴脱尘笼）。行而久之，自然得道（智照不灭，名曰行而久之。契理合真，故云得道）。夫得道之人，凡有七候：一者心得定易，觉诸尘漏（心得清静，尘念尽知，故曰觉诸尘漏）。二者宿疾普销，身心轻爽（真气胎息，故疾尽瘳。体道合真，身轻不老）。三



者填补天损，还年复命（骨髓坚满，故填补天损。驻颜不易，名为还年复命也）。四者延数万岁，名曰仙人（长生不死，延数万岁，名编仙箓，故曰仙人）。五者练形为气，名曰真人（得本元气，故曰练形为气。正性无伪，故曰真人）。六者练气成神，名曰神人（真气通神，阴阳不测，故曰神人）。七者练神合道，名曰至人（真神契道，故曰至人）其于鉴力，随候益明（鉴力者，常照不息也。益明者，明明不绝也）。得至道成，慧乃圆备（若了本性，得道成真，智慧圆明，万法俱备）。若乃久学定心，身无一候，促龄秽质，色谢方空。自云慧觉，又称成道者，求道之理，实所未然（通神合道，即身得道真。心证身亡，不离生死。《西升经》云：是故失生本，焉能知道源？）而说颂曰：

智起生于境，火发生于缘。各是真动性，承流失道源。起心欲息知，心起知更烦。了知性本空，知则众妙门。

### 老君清净心经

老君曰：夫道，一清一浊，一静一动。清静为本，浊动为末。故阳清阴浊，阳动阴静；男清女浊，男动女静；降本流末，而生万物。清者浊之源，静者动之基。人能清静，天下贵之。人神好清而心扰之，人心好静而欲牵之。常能遣其欲而心自静，澄其心，而神自清，自然六欲不生，三毒消灭，而不能者，心未澄，欲未遣故也。能遣之者，内观于心，心无其心；外观于形，形无其形；远观于物，物无其物。三者莫得，唯见于空，观空亦空，空无所空；既无其无，无无亦无；湛然常寂，寂无

其寂；无寂寂无，俱了无矣，欲安能生？欲既不生，心自静矣。心既自静，神既无扰。神即无扰，常清静矣。既常清静，及会其道，与真道会，名为得道。虽名得道，实无所得，既无所得，强名为得。为化众生，开方便道。

老君曰：道所以能得者，其在自心。自心得道，道不使得。得是自得之道，不名为得。故言实无所得。

老君曰：道不能得者，为见有心。既见有心，则见有身。既见其身，则见万物。既见万物，则生贪著。既生贪著，则生烦恼。既生烦恼，则生妄想。妄想既生，触情迷惑，便归浊海，流浪生死，受地狱苦，永与道隔。人常清静，则自得道。于是而说偈曰：

天尊妙用常眼前，举体动心皆自然。  
息个动心看动处，动处分明无际边。  
边际由来本性空，非观心照得虚空。  
自悟因缘无自性，翛然直入紫微宫。  
宫中宫外光且明，万法圆中一道平。  
清心清镜皎无碍，无碍无心心自在。  
平等道平无有异，天堂地狱谁安置？  
神既内寂不亏盈，善恶若空何处生？  
只为凡夫生异见，强于地上起纵横。  
纵横遮莫千般苦，一一谛观无宰主。  
谛观无主本无宗，只个因缘即会中。  
中间虽会常无会，放会无为任物通。

若时有人知是经意，行住坐卧，若能志心念诵，深心受持，则能灭除无量一切宿障诸恶，冤家皆得和合，无受苦报。邪魔外道，道能降伏。告诸众生，欲度厄难，各已清静，信受奉行。

## 卷十八 三洞经教部·经九

### 老子中经（上）（一名《珠宫玉历》）

#### 第一神仙

经曰：上上太一者，道之父也，天地之先也。乃在九天之上、太清之中、八冥之外、细微之内，吾不知其名也，元气是耳。其神人头鸟身，状如雄鸡，凤凰五色，珠衣玄黄。正在兆头上，去兆身九尺，常在紫云之中，华盖之下住。兆见之言曰：上上太一道君，曾孙小兆王甲，洁志好道，愿得长生。

#### 第二神仙

经曰：无极太上元君者，道君也。一身九头，或化为九人，皆衣五色珠衣，冠九德之冠，上上太一之子也。非其子也，元气自然耳。正在兆头上紫云之中，华盖之下住。兆见之言曰：皇天上帝太上道君，曾孙小兆王甲好道，愿得长生。养我育我，保我护我。毒虫猛兽，见我皆蛰伏，令某所为之成，所求之得。太清乡，虚无里，姓朱愚，名光，字帝乡。乃在太微勾陈之内一星是也。号曰天皇太帝耀魄宝。兆常念之，勿忘也。人亦有

之，常存之眉间，通于泥丸，气上与天连。

### 第三神仙

经曰：东王父者，青阳之元气也，万神之先也。衣五色珠衣，冠三缝，一云三锋之冠。上有太清云曜五色。治于东方，下在蓬莱山。姓无为，字君鲜，一云君解。人亦有之，在头上顶巅，左有王子乔，右有赤松子，治在左目中，戏在头上。其精气上为日，名曰伏羲。太清乡，东明里，西王母，字偃昌。左目为日月，在目为日，右目为月。目中童子，字英明。王父在左目，王母在右目，童子在中央，两目等也。兆欲修真，当念东王父、西王母、正在头上，有三人并立，乃合日月精光，下念紫房、太一、绛宫、黄庭、太渊、丹田，行其真气五周，施于腹中。复行气十二周，施于一身中。道毕，即止朱雀阙门。阙门，两乳是也。左乳曰君阿，右乳曰翁仲，当两乳下有玉阙，天狗、天鸡在其上，主晨夜鸣吠。

### 第四神仙

经曰：西王母者，太阴之元气也。姓自然，字君思。下治昆仑之山，金城九重，云气五色，万丈之巅；上治北斗，华盖紫房，北辰之下。人亦有之，在人右目之中，姓太阴，名玄光，字偃玉。人须得王父王母护之两目，乃能行步，瞻视聪明，别知好丑，下流诸神，如母念子，子亦念母也。精气相得，万世长存。夫人两乳者，万神之精气，阴阳之津液也。左乳下有日，右乳下有月，王父王母之宅也。上治目中，戏于头上，止于乳下，宿于绛宫紫房，此阴阳之气也。

### 第五神仙

经曰：道君者，一也；皇天上帝中极北辰中央星是也。乃在九天之上，万丈之巅，太渊紫房宫中。衣五色之衣，冠九德之冠，上有太清元气，云曜五色。华盖九重之下，老子、太和侍之左右。姓制皇氏，名上皇德，字汉昌。人亦有之，在紫房宫中，华盖之下，元贵乡，平乐里，姓陵阳，字子明。身黄色，长九分，衣五色珠衣，冠九德之冠。思之长三寸，正在紫房宫中，华盖之下。其妻太阴玄光玉女，衣玄黄五色珠衣，长九分。思之亦长三寸，在太素宫中，养真人子丹，稍稍盛大，自与己身等也。子能存之，与之语言，即呼子上谒道君。道君者，一也。乘云气珠玉之车，骖驾九极之马，时乘六龙以御天下。子常思之，以八节之日，及晦朔日，日暮夜半时祝曰：

天灵节荣真人，王甲愿得长生，太玄之一，守某甲身形，五藏君候，愿长安宁。

### 第六神仙

经曰：老君者，天之魂也，自然之君也。常侍道君在左方，故吾等九人，九头君也。吾为上首作王父，余人无所作也。人亦有之，金楼乡，小庐里，姓皮，名子明，字蓝蓝。衣青衣，长九分，把芝草，持青幡，侍道君在左方，从仙人仲成子。思之长三寸，常在己左方，正与己身等也。其妻素女，衣黄衣，长九分，思之亦长三寸。

### 第七神仙

经曰：太和者，天之魄也，自然之君也。常侍道君在右方。人亦有之，乌抬乡，姓角里先生，字<漂寸>々。衣白衣，长九分，持金剑，捧白幡，侍道君在右方，从仙人曲文子。思之亦长三寸。起坐行止，常在已右。其妻青腰玉女，衣青衣，长九分，思之亦长三寸。

### 第八神仙

经曰：泥丸君者，脑神也。乃生于脑，肾根心精之元也。华盖乡，蓬莱里，南极老人泥丸君也，字元先。衣五色珠衣，长九分，正在兆头上脑中，出见于脑户目前。思之长九分，亦长三寸。兆见之言曰：南极老人，使某甲长生，东西南北，入地上天，终不死坏迷惑，上某甲生籍，侍于道君，与天地无极。

### 第九神仙

经曰：南极者，一也，仙人之首出也，上上太一也，天之侯王太尉公也。主诸灾变，国祚吉凶之期。上为荧惑星，下治霍山。人亦有之，在长吴乡，绛宫中元里，姓李，名尚（一名常），字曾子。衣绛衣，长九分，思之亦长三寸，在心中。其妻，玉女也，衣白衣，长九分，思之亦长三寸。常思心中有华盖，下有人赤帻大冠，绛章单衣，名曰天侯，玉带紫绶，金印玄黄。子能见之，彻视八方，千日登仙时。候视脑中，小童子见之是也。

### 第十神仙

经曰：日月者，天之司徒、司空公也。主司天子人君之罪过，使太白辰星，下治华阴恒山。人亦有之，两肾是也。左肾男，衣皂衣；右肾女，衣白衣，长九分，思之亦长三寸。为日月之精，虚无之气，人之根也。在目，故人之目，左为司徒公，右为司空公。两肾各有三人，凡有六人。左为司命，右为司录；左为司隶校尉，右为延尉卿。主记人罪过，上奏皇天上帝太上道君。兆常存之，令削去死籍，著某长生。属太初乡，玄冥里。司录，六丁玉女，字道明，皆在神龟上，乘紫云气之车，骖驾双鲤鱼，字太成子。玄母，道母也。在中央，身之师也。主生养身中诸神，在五色云气华盖之下坐，戴太白明星明月之珠，光曜照一身中。常存以八节之夜，卧祝曰：司命司录，六丁玉女，削去某甲死籍，更著某甲长生玉历。

### 第十一神仙

经曰：中极黄老者，真人之府中斗君也，天之侯王，主皇后素女宫也。人亦有之，黄庭真人，道之父母也，赤子之所生也，己吾身也。皇后者，太阴玄光玉女，道之母也，正在脾上中斗中也。衣五色珠衣，黄云气华盖之下坐，主哺养赤子。常思两乳下有日月，日月中有黄精赤气，来入绛宫，复来入黄庭紫房中，黄精赤气填满太仓中，赤子当胃管中，正南面坐，饮食黄精赤气，即饱矣。百病除去，万灾不干。兆常思存之，上为真人。故曰同出而异名也。有注云：日月同出异名。太素乡，中元里，中黄真人，字黄裳子，主辟谷，令人神明乍小乍大，常以鸡鸣、食时祝曰：

黄裳子，黄裳子，黄庭真人在于已。为我致药酒，松脯，粳粮，黍臠诸可食饮者，令立至。祝讫，瞑目有顷，闭口咽之

二七过，即饱矣。

### 第十二神仙

经曰：吾者，道子之也。人亦有之，非独吾也。正在太仓胃管中，正南面坐珠玉床上，黄云华盖覆之，衣五彩珠衣。母在其右上，抱而养之；父在其左上，教而护之。故父曰陵阳，字子明，母曰太阴，字玄光玉女。己身为元阳，字子丹。真人字仲黄，真吾之师也。常教吾神仙长生之道，常侍吾左右，休舍太仓，在脾中与黄裳子共宿卫吾，给事神所当得，主致行厨。故常思真人子丹正在太仓胃管中，正南面坐，食黄精赤气，饮醴泉。元阳子丹长九分，思之令与己身等也。父母养之，乃得神仙。常自念己身在胃管中童子，服五色彩衣，坐珠玉之床，黄云赤气为账，食黄金玉饵，服神丹芝草，饮醴泉，乘黄云气五色珠玉之车，驾十二飞龙，二十四白虎，三十六朱鸟。思之九年，乘云去世，上谒道君。吾之从官，凡三万六千神，举吾宗族，皆得仙道，白日升天。常以四时祠吾祖先：正月亥日鸡鸣时祠郊庙；二月亥日祠社稷、风伯两师；四月、五月申卯日、七月、八月己午日，十月、十一月卯戌日，四季月不祠。但解滂土公，逐去伏尸耳。郊在头上脑户中，庙在顶后骨之上，社在脾左端，稷在大肠穷，风伯在八门。八门者，在脐旁五城十二楼也。雨师在小肠穷，四渎云气出昆仑，弱水在胞中，诸神食厨在于太仓中。以次呼神名召之，勿忘也。

### 第十三神仙

经曰：璇玑者，北斗君也，天之侯王也。主制万二千神，



持人命籍。人亦有之，在脐中，太一君，人之侯王也。柱天大将军，特进侯也。主身中万二千神。中极乡，璇玑里，姓王，名阳，字灵子。冠三缝之冠，衣绛章单衣，长九分，思之亦长三寸，其大与自身等也。太一君有八使者，八卦神也。太一在中央，主总阅诸神，案比定录，不得逋亡。八使者以八节之日上对太一，故脐中名为太渊都乡之府也。常以秋分之日案比（弄）之。斋戒沐浴，静卧三日勿出。日三呼之，三日九呼之，常如此，诸神不得逋亡，名上仙箓，定为真人。故太一不得妄上白事，不吉则凶，但八使者耳。故以八节日、晦朔弦望日，右手拊脐二七，左手拊心三七，祝曰：

天灵节荣真人，某甲愿得长生，太玄真一守某甲身形，五脏诸君侯愿且安宁。公兆七遍，庶兆二七。明日平旦，复祝曰：

太一北极君，敬守告诸神，常念魂魄安宁，无离某甲身形。此所谓拘魂制魄者也。常以十二月晦日人定时，向月建太一于空室中，再拜，正坐，瞑目，祝曰：

五脏之君，魂魄诸神，某乞长生，无得离身。常与形合，同成为一身。男女各三通。常以八节日于室中，向其王地再拜，瞑目，祝曰：

大道鸿滓鸿滓，天节之日，万兆魂魄皆上诸天。真人身与神合。某甲欲得长生，独在空室之中，不豫死籍数。男女各三遍。常以十二月晦日，宿夜昼朝至平旦，于室中向寅地再拜，祝曰：

鸿滓鸿滓，某受大道之恩，太清玄巅，愿还某甲去岁之年，魂魄保身。男女各三通。

#### 第十四神仙

经曰：脐者，人之命也。一名中极，一名太渊，一名昆仑，一名特枢，一名五城。五城中有五真人。五城者，五帝也。五城之外有八吏者，八卦神也；并太一为九卿。八卦之外有十二楼者，十二太子，十二大夫也；并三焦神合为二十七大夫。四支神为八十一元士。故五城真人主四时上计，八神主八节日上计，十二大夫主十二月以晦日上计，月月不得懈怠。即免计上事，常当存念留之，即长生矣。故太一常以晦朔、八节日夜半时，五城击鼓，集召诸神，校定功德，谋议善恶。有录者延命，众神共举；无录者终亡，司命绝去生籍。故常以晦朔、八节之日夜欲卧时，念上太一、中太一、下太一、五城、十二楼真人，祝曰：

天帝太一君，天帝太一君，敬存诸神，与之相亲。司录司命、六丁玉女，削去某死籍，著某生文，皆当言长生。

### 第十五神仙

经曰：五城真人者，五方五帝之神名也。东方之神名曰句芒子，号曰文始洪崖先生，东方苍帝东海君也。南方之神名曰祝融子，号曰赤精成子，南方赤帝南海君也。西方之神名曰蓐收子，号曰夏里黄公，西方白帝西海君也。北方之神名曰禺强子，号曰玄冥子昌，北方黑帝北海君也。此皆后神也，天地人神等耳。风伯神名吒君，号曰长育。雨师神名冯修，号曰树德。诸神常当存念之，令与司命君、司录君共削去某死籍，既为真人长生矣。不与相知存念之，即为疾风暴雨，雷电霹雳，持子远去，杀子之身，埋子深山，投子深渊；或为毒气所中，众鬼害人。子欲为道，宜致敬之。此神能害人，王者之治，不可不知也。中央之神名曰黄裳子，号曰黄神彭祖，中央黄帝君也。

与中太一并治，度人命，爱养善人，成就人，常侍黄天真人。人亦有之，常侍真人，名曰子丹，给神所得。兆欲志道，常思念之，即不饥渴，长生久视，上为真人，能致行厨，役使鬼神。社稷、河伯之神，名曰冯夷，号曰元梁使者。

### 第十六神仙

经曰：八卦天神下游于人间，宿卫太一，为八方使者，主八节日上计，校定吉凶。乾神字仲尼，号曰伏羲；坎神字大曾子；艮神字照光玉；震神字小曾子；巽神字大夏侯；离神字文昌；坤神字扬翟王，号曰女娲；兑神字一世（注一云字八世）。常以八节之日存念之，其神皆在脐中，令人延年。

### 第十七神仙

经曰：丹田者，人之根也；精神之所藏也；五气之元也；赤子之府，男子以藏精，女子以藏月水；主生子，合和阴阳之门户也。在脐下三寸，附著脊膂，两肾根也。丹田之中，中赤，左青，右黄，上白，下黑，方圆四寸之中。所以在脐下三寸者，言法天、地、人。天一、地二、人三、时四，故曰四寸；法五行，故有五色。清水乡、敖丘里、丹田名藏精宫。神姓孔，名丘，字仲尼，传之为师也。兆常以夜半存心之，赤气上行至绛宫、华盖，各右绕之。太一入黄庭，满太仓，养赤子，复入太渊，忽忽不知所在。复念太一，气还入丹田中止。常念太一玄光道母养真人子丹，正吾身也，自兆名也，勿忘之。

### 第十八神仙

经曰：大肠、小肠为元梁使者，主逐捕邪气。三焦关元为左社右稷，主捕奸贼。上焦元气上入头中为宗庙，兆身与天地等也。天地万物不可犯触也，天地之神则知之矣，而人身体四支，亦不可伤也。有痛痒者，神亦知之。由是言之，昭然明矣。天不可欺，地不可负，修身慎行，勿令懈怠也。兆欲除邪气，治百病，啄齿二七过，祝曰：

左社右稷，元梁使者，逐捕灾殃，急急如律令！五咽一咒，三十咽止。一日一夜三百六十咽，三十日邪气去，六十日小病愈，百日大病愈，三虫皆死，三尸走出，面目生光，与神为友。六祝一止，十二为之一周。

### 第十九神仙

经曰：两肾间名曰大海，一名弱水。中有神龟，呼吸元气，流行作为风雨，通气四支，无不至者。上有九人，三三为位。左有韩众，右有范蠡，中有太城子；左为司徒公，右为司空公，中有太一君；左有青腰玉女，右有白水素女，中有玄光玉女。玄光玉女者，道元气之母也。左有司录，右有司命，风伯雨师，雷电送迎，仙人玉女，宿卫门户，故名曰太渊之宫。先正紫房宫太一玄女赤子，故玄女常戴太白明星，耳著太明之珠，光照一身中，即延年而不死也。

### 第二十神仙

经曰：胃为太仓，三皇五帝之厨府也。房心为天子之宫，诸神皆就太仓中饮食，故胃为太仓，日月三道之所行也。又为大海，中有神龟。神龟上有七星北斗，正在中央。其龟黄色，

状如黄金盘，左右日月照之。故脐下为地中，中有五岳四渎，水泉交通，昆仑弱水，沈沈滢滢，玄冥之渊也。日月之行，故天昼日照于地下，万神皆得其明。人亦法之，昼日下在脐中，照于丹田，脐中万神皆得其明也。夜日在胃中，上照于胸中，万神行游嬉戏，相与言语，故令人有梦也。天不掩人不备，故召其神问善恶吉凶之事，令贤者自慎也。夜月在脐中，下照于万神；昼月在胃中，上照胸中万神。更相上下，无有休息。故胃中神十二人，谏议大夫名曰黄裳子、黄腾子、中黄子，主傅相太子；玄光玉女主取金液、神丹、芝草、玉液、松脯诸可饮食者，立至矣。

### 第二十一神仙

经曰：兆审欲得神仙，当知天地父母赤子处。兆汝为道，不可不知此五神名也，当自苦耳。知之，行之，坚守之，常念之，即神仙矣！《经》中俱有，但当心解耳！既知其神，当须得太一神丹金液，乃得神仙耳。诸神元气，虚无无为，自然为圣人耳，不为俗人所施也。兆不能服神丹金液，劳精思念，当自苦耳！故谓兆汝昼日常念脐中有日，赤黄精气光明照于脐中，胃中有月，白光赤黄精气填满胃中；暮卧念日在胃中，赤黄精气光明照于胸中，月在脐中，赤黄白光精气，照于脐中。以此为常，万世无止。

### 第二十二神仙

经曰：头发神七人，七星精也，神字录之。两目神六人，日月精也，左目字英明，右目字玄光。头上神三人，东王父也。

脑户中神三人，泥丸君也。眉间神三人，南极老人元光天灵君也。两耳神四人，阴阳之精也，字娇女。鼻人中神一人，名太一，字通庐，本天灵也。口旁神二人，厨宰守神也。口中神一人，太一君也，字丹朱。颐下神三人，太阴神也。颈外神二人，玉女君也。两手中神二人，太阳之精也，字魂阴。项中神二人，字上间也。肩背神二人，少阴少阳之精也，字女爵。胸中神二人，虎贲神也。两乳下，日月也；日月中有太神各一人，王父母也。两腋下神二人，魂魄兆神也。小腹中神二人，玉女也。两襠内神二人，亦玉女也，字阴隐。两胫神二人，金木神也，字随孔子。两足神二人，太阴之精也，字柱天力士。头发神字禄之，两耳神字娇女，两目神字英明、玄光，鼻孔中神字通庐，口神字丹朱，肩背神字朱雀，一云字女爵，两手神字魄阴，上元神字威成子，中元神字中黄子，下元神字明光子，一云字命光，阴神字穷英，两襠神字阴隐，两膝神字枢公。兆欲卧，瞑目，从上次三呼之，竟，乃止。其有病痛处，即九呼其神，令治之，百病悉去，即为神仙矣。

### 第二十三神仙

经曰：肺神八人，大和君也，名曰玉真宫，尚书府也。其从官三千六百人，乘白云气之车，骖驾白虎，或乘白龙。心神九人，太尉公也，名曰绛宫，太始南极老人元光也。其从官三千六百人，乘赤云气之车，朱雀为盖，丹蛇为柄，骖驾朱雀或乘赤龙。肝神七人，老子君也，名曰明堂宫兰台府也。其从官三千六百人，乘青云气之车，骖驾青龙或乘白鹿。胆神五人，太一道君也，居紫房宫。乘五彩玄黄紫盖珠玉云气之车，骖驾六飞龙。从官三千六百人。脾神五人，玄光玉女，子丹母也。

乘黄金珠玉云气之车，骖驾凤凰或乘黄龙，从官三千六百人。真人子丹在上，卧胃管中，黄云气为帐，珠玉为床，食黄金玉饵，饮醴泉玉液，服太一神丹，啖玉李芝草，存而养之，九年成真矣！千乘万骑，上谒太上黄道君，东谒王父，西谒王母，南谒老人元光之前，真人得道，与天地合。元阳子丹者，吾也。吾道成乃去，白日升天。或乘黄金云气珠玉之车，骖驾六飞龙，辔无极之马，从官凡万八千人。天师大神使万八千人来下著吾身，合三万六千人，故能白日升天也。胃神十二人，五元之气，谏议大夫也。脐中神五人，太一八人，凡十三人。合二十五人，五行阴阳之神也。神龟之上神三人，玄女、虚无、道母也。肾神六人，司徒、司空、司命、司录、司隶、校尉、廷尉卿也。乘神龟之车，驾六鲤鱼，一云白鱼，玄白云气之盖。丹田神三人，人之根也。三合成德，以应道数也。三焦神六人，左社、右稷、风伯、雨师、雷电、霹雳也。大肠、小肠神二人，为元梁使者。虎贲神二人，为力士，在朱雀阙门，延年益寿为龄，下侍真人凤凰阁。玄谷神五人，大将军司马也。阴神三人，上将军也，万神之精也，男子字穷英，女子字丹城。天之神万八千人，人之神万八千人，都合三万六千人，共举一身升天，即神仙矣！

#### 第二十四神仙

经曰：东方之神女名曰青腰玉女。南方之神女名曰赤圭玉女，中央之神女名曰黄素玉女，西方之神女名曰白素玉女，北方之神女名曰玄光玉女。左为常阳，右为承翼，此皆玉女之名也。五行之道，常以所胜好者为妻。假令今日甲乙木，木胜土，则甲以己为妻。故言甲己，乙庚，丙辛，丁壬，戊癸，此皆夫

妻合会之曰也。言肝、胆木也。木帝以中宫戊己素女为妻。他皆效此。此二神玉女之来，敬而侍之，慎无妻也。妻之杀人，终不得道也。兆欲为道，慎勿淫，淫即死矣。此玉女可使取玉浆，致行厨也。

### 第二十五神仙

经曰：太上神字元光太一君。其欲得太一之神也，非心神也，乃天神南极老人元光也。下在人心中，常以平旦、日中，甲午日，丙午日，呼之曰：南极老人元光太一君，某甲欲愿得太一神丹长生之道。因瞑目念心中太一童子，衣绛章单衣，其色正赤黄如日，九十息顿止。心中神，字光坚，中太一中极君也。在脾中，主养兆身。常以鸡鸣、食时、日西黄昏时、辰戌丑未日，呼之曰：中极光坚太一君，某甲欲得真人神仙黄庭之道。因瞑目默念黄气满太仓胃管中脾上有一黄人，五十息顿止。心下神，字玄谷，北极君也，玄光道母也。常以夜半时，甲子、丙子、戊子、庚子、壬子日，呼之曰：北极君玄谷道母，某甲愿欲得金液醴泉可饮食者。因瞑目念肾间有白气，中有神龟，龟上有玄女，女右有司命，左有司录，见之呼曰：司命司录，六丁玉女，削去某甲死籍，著玉历生录。皆当言长生。故曰能知三神字，可以还命延年。此三神者，乃天地神道君三元君字也，人之先也。常念勿忘也，三元天之贵神是也。

### 第二十六神仙

经曰：子欲为道，当先历藏皆见其神，乃有信。有信之积，神自告之也。先念天灵君，天灵君青身白头，正在眉间，思之



三日，即见其神。念玄膺，状正赤生光。念咽喉中正白如银，环十二重。凡三日，念遍。乃念肺色正白，名曰鸿鸿，七日。念心色正赤，名曰煦煦，九日。念肝色正青，名曰蓝蓝，三日。念胆色正青，名曰护护，三日。念脾色正黄，名曰俾俾，五日。念胃色正黄，名曰旦旦，五日。念肾色正黑，名曰<漂寸>々，三日。念脐中太一色赤，人名曰玉灵子，三日。念大肠正白色，名曰胴胴，一作洞洞，七日。念小肠色正赤，名曰契契，九日。念丹田色正赤，中有赤人，名曰藏精，三日。念玄丈方丈，其中有人到住，七日。念金玉印乾燥完坚，三日。念玄英正黑，润泽有光，三日。念两脾，一作褰，左右脾内各有一玉女，衣绛帔襦、青裙，正立两褰上，三日。念两足下各有一人，正白，三日。念为道竟矣。不出静室，辞庶俗，赴清虚，先斋戒，节饮食，乃依道而思之。

### 第二十七神仙

经曰：子审欲为道，神仙不死，当先去三虫，下伏尸。三日百六十息食气，三十通一止，九十通一休息，日四为之。常以夜半、鸡鸣时祝曰：东方青牙，紫云流霞，饮食青牙，服食朝华。三咽之。南方朱丹，焕耀徘徊，服食朱丹，饮以丹池。三咽之。中央黄气，黄庭高仙，服食黄气，饮之醴泉。三咽之。西方明石，皓灵金质，服食明石，饮以金液。三咽之。北方玄滋，玄珠润滋，服食玄滋，饮以玉飴。三咽之。如此三十日，三虫皆死，伏尸走去，而三神正气自安定，伏尸不敢复还兆身中，即神仙不死，玉字金名，乘云而上升。

## 卷十九 三洞经教部·经十

### 老子中经（下） （一名《珠宫玉历》）

#### 第二十八神仙

经曰：常以六甲之日，平旦时拊心祝曰：

苍林玄龟，流水如河，炎火周身（身，一作宫），安能知他？道来归已，道来归已！因念肝色正青，润泽生光，其上高危，在左方。次念胆色正青圆，中黄外青，润泽清滋，傍生拊心，著肝，肝覆其巅，此道之始也。念之既毕，乃呼其神曰：肉（一本作皮）子蓝蓝，与已为友，留为已使。某欲得太一神丹服食之，令某甲长生，勿去某身，常在紫房宫中，与道合同也。因瞑目念日精青气来下著身，入鼻孔中，念肝色青气与之合于目前，来入口中，咽之三七而止。思行青气周遍一身中，九十息止。至乙日复存其神，呼曰：太一紫宫（一作紫房）素女，与已为友，留为已使。某甲欲得太一华符服之。至甲寅、乙卯之日复存之。

### 第二十九神仙

经曰：常以六丙之日禺中时，拊心祝曰：

朱雀丹液，天海地河；愿求不死，服食天和（天和，一作至和）。因瞑目念心色正赤如日，在肺叶间乃止。念日精赤黄气来在目前，入口中咽之，三九而止。思行赤气周遍一身中，百八十息止。呼其神曰：李尚（李尚，一作李常）、曾子，与己为友，留为己使。某甲愿求太一神丹如金为可饮食者，常在绛宫中，与己合同。至丁日复存其神，呼曰：天皇绛宫玉女，与己为友，留为己使。某甲欲得天皇长生之道。至丙午、丁己之日复存之。

### 第三十神仙

经曰：常以六戊之日鸡鸣时、日西黄昏时，拊心祝曰：

天道天道，愿得不老，寿比中黄，升天常早，愿延某命，与道长久。因瞑目念脾中黄气来上至口中，上念天精黄气来在目前，入口中咽之，三五而止。思行黄气周遍一身中，百五十息止。呼其神曰：玄光玉女、养子赤子、真人子丹、服食元气，饮宴醴泉。故言一身神有父母凡三人。至己日复存之，呼其神曰：真人黄庭玉女，与己为友，留为己使。某甲欲求真人黄庭神仙之道。至戊辰、己未、戊戌、己丑之日复存之。

### 第三十一神仙

经曰：常以六庚之日日晡时，拊心祝曰：

本子本子，白云卒起，雾合万里，愿云来归已，常为我使，

反复仙命，终而复始。因瞑目念肺色正白，令白气来止至口中；念曰，天精白气来下在目前，入口中咽之，三七而止。思行白气周遍一身中，百四十息止。呼其神曰：先生<漂寸>々，与己为友，留为己使，奉持华盖，金液玉英，常在勿出，侍我道君，共合为一身。至辛日复存其神曰：光黄玉堂，青腰玉女，与己为友，留为己使。某甲欲得彭祖长生不死之药服之。至庚申、辛酉之日复存之。

### 第三十二神仙

经曰：常以六壬之日夜半时，拊心祝曰：

愿睹天镜，玄滋玉池；还白使黑，常为婴儿。神来归己，五藏相随。因瞑目念两肾间白气周行一身中十二遍，翕然布散，流行四肢。乃复念两肾巍隗，状如双鲤鱼，右黑左赤，侠脊而居，炫耀光明，相照一身中。乃念青天太清元气，下在目前，入口中咽之，一九而止。思行太清白元气周遍一身，还藏丹田中，呼其神曰：司录、六丁玉女，削去某死籍，使某甲长生，上为真人，十二太一皆当言生。至壬子、癸亥之日复存之。

### 第三十三神仙

经曰：所存念五脏神皆毕，乃更念玄厘、玉英、金液，恒勿忘也。更念玄厘，欲其润泽而起行列也。别念玉英，其中有一人大回倒竖，小童子服饰也。存之欲令坚强，长大自倍也。念金液，欲令其乾燥而缓也，如紫谷盛水银也。念此尽遍，而复存之，法十二周，精神处之，和气自来，百病去除，寿命与天地期，长生无极，安知死时？

### 第三十四神仙

经曰：食日之精，可以长生；缘兹上天，上谒道君。其法常以月一日、二日、五日、七日、九日、十一日、十三日、十五日日初出时，被发向日，瞑目念心中有一小童子，衣绛衣，文彩五色，灼灼正赤；两手掌中亦正赤；以两手掌摩面，下至心止，十二反为之。念天日精正赤黄气来下在目前，存入口中咽之，一九，以手摩送之，拊心祝曰：

景君元阳，与我合德，俱养绛宫中小童子。须臾复念心下至丹田中止，以手摩送之。以日托心，心得日精，已乃神仙矣。

### 第三十五神仙

经曰：食月之精，以养肾根，白发复黑，齿落更生，已乃得神仙。常以夜半时，思肾间白气周行一身中，上至脑户，下至足心。自然之道，易致难行。常以月十五日，向月祝曰：

月君子光，与我合德，养我丹田中小童子。因瞑目念月白黄精气来下在目前，入口中咽之，三七而止。以手摩送之，下至丹田之中。丹田中气正赤，气中有一人，长九分，小童子也。衣朱衣，故丹田中赤外黑，左青右黄上白，五色气已具。但以其月托肾，肾得月精，乃得升沈。丹田中赤者，太阳之精也，心火之气也；其外黑者，太阴之精也，肾水之气也；其左青者，少阳之精也，肝木之气也；其右黄者，中和之精也，脾土之气也；其上白者，如银盘而照覆之者，少阴之精也，肺金之气也。其中有五人，即五脏之太子也，五行之精神也。人须得丹田成，乃为真人。故生子仁者，肝之精也。礼容者，心之精也。义慧

者，肺之精也。和乐者，肾之精也。忠信笃厚者，脾之精也。辩勇者，胆之精也。缓和者，胆之气衰也。盲者，肝之气衰也。懦者，肺之气衰也。癡者，心之气衰也。濡者，肾之气衰也。不肖暗聾者，脾之气衰也。其五脏衰者，皆自见于己也。忧悲不乐则伤肝，伤肝则目瞑头白，当思肾心以养之。淫乐过度即伤肾，伤肾则腰疼痛，身沉重，大小便脓血，思肝肺以养之。恚怒则伤心，伤心则病狂吐血，思肝脾以养之。遭患忧难则伤肺，伤肺则思脾肾以养之。饮食绝饱，酒醉过度则伤脾，伤脾则思心肺以养之。令其子母相养之，即病愈疾除（求神仙之人，恶伤五脏，学士明照之）。

### 第三十六神仙

经曰：食太极之精，乃得长生。常以六戊之日，时加其辰（辰一作神），道士于室中，冠带北向，再拜曰：皇天上帝太上道君，曾孙小兆壬甲好道，愿得长生。暮夜卧，上念北斗太极中央大明星精，正黄气来下，在兆目前，入口中咽之，三五而止。黄精气填满太仓黄庭中，下至丹田中。乃念绛宫有一赤人；紫房宫中有五人：太一君在其中，老子、仙人仲成子在左，太和、曲文子在右；明堂宫中有玄光玉女，左有黄裳子，右有中黄真人，俱宿卫真人子丹也。乃复下念玉堂三公，呼曰：司录、六丁、玉女，削去某甲死籍，令某甲长生。气定，乃复念真人子丹中胃管中，祝曰：

玄光玉女，养我真人子丹，服食元气，饮宴醴泉。以北斗中极托脾，脾得斗极之精，乃为真人。

### 第三十七神仙

经曰：肺为尚书；肝为兰台；心为太尉公；左肾为司徒公，右肾为司空公；脾为皇后、贵人、夫人；胆为天子、大道君；胃为太仓，太子之府也，吾之舍也；大肠、小肠为元梁使者；下元气为大鸿胪；中元气为八十一元士；上元气为高车使者，通神于上皇；故肺为玉堂宫；心为绛宫朱雀阙门；肾为北极幽阙玄武掖门；脾为明堂，侍中省阁也；胃为上海，日月之所宿也；脐为下海，日月更相上下至胃中。故太初者，元气之始也，道也，一也；心上为天。太始者，为万物之始也，山川也，地也，为肾。太素者，人之始也，精也，脾也，土也。上亦有三宫，两目为绛宫，两耳为玉堂宫，鼻口为明堂宫。眉间为郊山。能合三元气以养其真人小童子，则列然彻视矣。

老君曰：万道众多，但存一念子丹耳。一，道也。在紫房宫中者，胆也。子丹者，吾也。吾者，正己身也。道毕此矣。

### 第三十八神仙

经曰：道士练水银，消沙液、珠玉、八石，以作神丹，服一刀圭，飞升天宫。身常食气，乃得长生神仙。存神食丹，乃为真人。真人得道，上佐上皇治。故真人以水土溟溟浩浩，天地溃溃濛濛，不知所存藏。万八千岁乃成天、地、人。故真人以土作人，呼吸饮食，从骑伏使，令土不得独处，人不得独存。故言黄土，本人之先也。真人去之，上升九天；世人无道，下入黄泉。益土三升子（一作子）无骨筋（一本作肋）。故九天丈人有言曰：食于天者，以身报天，上为真人（神仙戏游）；食于地者，以身报地，下为尸鬼；食于人者，以身报人，骨毛弃捐。兆欲为道，勿食飞鸟。天之所生，杀之数数，减子寿年。人畜食之，可以为厨宰六畜也。避六丁神，兽类也勿食。丁卯

兔也，丁丑牛也，丁亥猪也，丁酉鸡也，丁未羊也，丁巳蛇也，此大禁之，六丁神之讳也。乘气服丹入室之时，无令生物，禁食五畜肉。五畜肉者，马、牛、羊、猪、狗也，但得食鸡子、鱼耳。禁食五辛，臭恶自死之物慎勿食，服丹尚可，乘枿禁之。

### 第三十九神仙

经曰：道者，吾也，上上中极君也。兆常以日出时、日中时、酉时、夜半时（一云日申、酉），上念太极中央太黄星，其精气来下在兆额上眉间止，正赤黄白如日状，以意致之下，入口中咽之，令其气下入绛宫紫房黄庭中。咽之三五而止，祝曰：

皇天上帝太上道君，曾孙小光壬甲好道，愿得长生。此吾之气也，吾从此气生。念之万遍，无止也。令兆长生，上为真人，云车下迎，飞升天宫，上谒上帝南极老人元光之前。

老君曰：圣人销珠，肾入水玉。销珠水玉，其道同法。销珠者，服日之精，左目日也。水玉者，食月之精，右目月也。被发，正偃卧，瞑目，常念两目中黄精赤气来下入口中，咽之，三九而止。令人神明，彻视八方。食肺之精，常念肺中白气来上出至咽喉入口中，咽之，三七而止。令人神明，身生光泽，辟邪致神，玉女侍之，即长生辟百鬼矣。常念身中小童子衣绛衣，在中央。中央即神明也。时念心中有紫华盖，下有一人，著赤帻大冠，绛单衣，彳钊箭引弩，愤然而嗔，即能辟兵，役使鬼神矣。

### 第四十神仙



经曰：常思顶中紫云出如车盖，状如火气，文彩五色，上与天连。以意极布之，与天相率下。念胃中黄气如橘，忽长稍大，身形如日。念目下元气、赤人黄人，道气行布四支，登高入日中（登高，一作登台），上至绛宫紫房太一。祝曰：

太一北极，敬告诸神，常令魂魄安宁，无离某甲身。是谓自然无形者也。

#### 第四十一神仙

经曰：鬼箭十二，可以辟兵。常思心中十二芝茎，上与肺连，以意挹之，名曰鬼箭。兆常行之，五兵自辟，凶恶自亡。以击四夷，捐撚电光，但间兵楯刀戟、金银，天神皆助真也，雷公击鼓也。太白扬光，白帝持弩，蚩尤辟兵，青龙守门，武夷在庭，珣蛇玄武，主辟凶殃。白兔捣药，蟾蜍在傍，太一和剂，彭祖先当；服一刀圭，面目生光，身出毛羽，上谒上皇。此道也，使诸神气与子合同，慎之，勿解殆也。

#### 第四十二神仙

经曰：常以庚申之日申时，被发，西南首，申地偃卧，纵体，瞑目，念肺正白，润泽光明，中有芝草，茎大如小指，其中空而明，下与心相连。其中有青赤气，上下交通，出心入肺之中。念之至下晡时止。肺者，人之天也；心者，人之日也；日气上出如赤丹之精，未尝有之时，人须得此气以生耳。失此气者，则死矣。名曰自然之道。道通神灵矣。

#### 第四十三神仙

经曰：常念心中赤气如日，内青外黑，三合成德，以应道数。师曰：常以平旦，念心中正赤如日，日中有人，著大冠赤帻，衣绛单衣。兆见之呼曰：天皇太一君，使某甲长生，上为真人。

#### 第四十四神仙

经曰：还精绛宫之中法：常以月一日、十五日、晦日，以日初出时，被发，东首向日卧，以左手摩两乳间，下至心，九反而止。柑心言曰：神手神还绛宫，无离己身；神乎安，君静处，与己言语。如此三，乃止。师曰：每摩两乳间者，使气上下道也；拊摩其心，存小童子，此名虚无。还精绛宫者，月三日为之也，神仙之道也。

#### 第四十五神仙

经曰：元阳赤人，太一也；元阳道君，中太一也；元阳子丹，己吾身也；元阳玄光玉女，道之母也；元阳皇人，太一王也；元阳丹田，藏精宫也。师曰：元者，气也；阳者，日也。当思心中有日，日有赤人，著赤帻大冠，衣绛单衣。次思胆中有太白明星，三光耀而相照，星上各有一人，衣绛朱衣，冠九德之冠。道君在中央，左有老子、仲成子，右有太和、曲文子，凡五人、是一也。次念脾上正黄，中有日，日中有三人，道母玄光玉女在中央，左有黄裳子，右有中黄直。次念胃管中有真人子丹，坐珠玉之状，上黄金色云气为帐，玉女小童子侍之。次念脐中太一，衣五彩朱衣，冠三绛之冠，左青人，右有白人，前有赤人，后有黑人。次念丹田中有赤气，赤气中有三人，赤

人在中央，左有青人，右有黄人，赤气绕之，内青外黑，上白中黄。念此毕，卧，有所见，神气来语人也。

#### 第四十六神仙

经曰：常念脾中有黄气升上至口中，咽之，三五而止，即饱矣。可以辟谷，坐在立亡。师曰：常思脾中有日，日中有黄金匮，匮中有书，封之以黄玉户，广三寸，字曰威喜。精而思之，则耶自出。兆能见而读之，心开目明，即时神仙矣。

#### 第四十七神仙

经曰：常思念胃中，正自如凝脂，中有黄气，填满太仓，上至口中，咽之即饱。师曰：胃者，太仓也。诸神皆就太仓中饮食。中黄金釜，金甌。玉女小童，主给使之。故呼曰黄裳子，致行厨矣。

#### 第四十八神仙

经曰：肾者，元气之根也。常思肾间白气，上升至头中，下至足心十指之端，周行一身中十二遍而止，手足皆热，可以不饥，不渴，不寒，令人不老，白发复黑。兆常念行之。

#### 第四十九神仙

经曰：常以月朔、望日，思两肾间白气，上顶中，下至足心。神龟五彩为甲，文若总系，上有玄光玉女，二公相对坐，

前有太一，后有玄冥司录、司命，共议死生。人精念之，三十息止。咒曰：司录君、司命君、六丁玉女，削去某死籍，著上生文，此当言长生。神龟呼吸，吐故纳新，恣意所为。白龟之神，元气布行，四友皆温。人须得肾气，神龟呼吸乃生耳。常以甲子日及壬子日存行之，即长生矣。

### 第五十神仙

经曰：常以甲午之日日中时，被发，南首偃卧，瞑目，念脐下三寸丹田中黄，其气正赤，大如手掌，其外黑，次其外青。脐上有白气覆之，肺气也，左有青，右有黄，各大如手掌。此三者，肝气、脾气、肺气。师曰：丹田中赤者，太阳气；其外黑者，太阴气；次外青者，少阳气。三合成德，三气守之，即长生矣。

### 第五十一神仙

经曰：心为虚，肾为元。虚气以青上为天，元气以宁下为地，入于太渊。故虚气生为呼，元气生为噏。心为日，肾为月，脾为斗。心气下，肾气上，合即为一，布行四友不休息。故心为血，肾为气，合即流行，名曰脉。脉者，魂魄，人之容也。魂魄以去，主人寂寂，故伯脉尽即气绝，气绝即死矣。是以为道者不可不存其神，养其根，益其气。兆汝努力努力，将去矣。真人得道，万八千岁一会；道士得道，千岁一会，故作《中经》，以遗后世。本上皇藏之金匱，道人得，千金勿传出也。

### 第五十二神仙

经曰：三元之日会，合于己亥。三元者，太一、太阴、宫气是也。三元俱起己亥。太一左行，岁一辰；害气右行，四孟，岁行一孟；太阴右行，三岁一辰，九年行方。四九三十六年，三元俱合于亥。三合之岁，水旱兵饥，灾害并起。三合之岁，阴阳隔并，感天动地，害气流行，昼行则伤谷，中有人即疾疫，中谷即饥、贵。兆汝居其间，不能自生也。可不努力勉时学道哉？当期之世，水旱蝗虫，五谷饥贵，兵革并起，人民疾疫，道路不通，负老提幼，散流他方，其父母妻子兄弟，哀气内发，摧肝绝肠，略为奴婢，不知县乡。于期乃欲学道，岂不晚哉！岂不晚哉！吾深戒子，存神作丹，早自防。即遭乱世，远去深藏；圣主明世，道可照而行也。故天地之会，四十五岁一小贵，九十岁一小饥；一百八十岁一大贵，三百六十岁一大饥。五百岁，肾者一小聚；千岁，圣人一小聚；三千六百岁圣人大会。万八千岁，真人一小出治；三万六千岁，至极仙人一出治；三百六十万，岁天地一大合，元气溟滓，濛鸿元形，人为万物，不知东西南北，人化为禽兽，禽兽化为人。真人乃在元气之上，仙人乃在绝域无崖之际，道人隐居，可以贵重也。

### 第五十三神仙

经曰：天都京兆，合在勾陈之左端，号曰安德君，主与天太一北君共釭计说诸神，主人魂魄，会于南极。有录者延寿，众神共举之；无录者终矣，司命绝去之人，魂魄会于北极。有功德于人、天地、万物者，子孙富贵，寿考鲜明，身得封侯，复出为人。无德者有三：一曰残贼酷虐、害逆天地四时；二曰咒咀嫉妒淫泆，慢易天地神灵；三曰不忠、盗窃阴贼、推埋杀人。犯此三者，子孙绝灭。人生自有三命，至娶妇嫁女，复定

其一命；移徙葬埋，复定其一命。得吉身者寿考，子孙富贵；得凶者死，子孙贫困屯。汝居世间，当何著于天地？神可畏也。故天置日月、北斗、二十八宿、五星主之；六甲六丁诸神，主行民间。兆汝不知，汝甚可畏之。常复有邪鬼精魅至于家，思不祥、里社、水土公、司命、门户、井灶、清溷、太阴水渎，皆能杀人者。兆汝欲却邪辟鬼，当被符，次服神药。符者，天地之信也；药者，人丹也。益其气力，身轻坚强，即邪气官鬼不能中人也，即成神仙矣。鬼者，神之使也。鬼见天信即去矣。人亦有之，京兆舍中极乡璇玑里夏里黄公，字德皇，正在脐中央，太一是也。一名玉灵子。衣五彩朱衣，总阅黄神。常以八月秋分之日，案比计釭。常先之一日，后之一日，正节之日，凡三日，入室勿出，常以鸡鸣时思之，平旦兆悦之，至日禹中时止，为之三日。被发西北向，偃卧纵体，无令他人见之，豫敕家中人无得有声。先斋戒沐浴，至其日入静室中，安心自定，先祝之曰：鲁孙小兆某甲好道，愿得长生。今日秋分之日，天帝使者夏里黄公来下入吾身中，案比总阅，诸神不得逋亡，皆当来会。从上三呼之，比为之日三呼之，三日九呼之，日中乃止。即言曰：司录、六丁、玉女，削去某死籍，更著某长生神仙玉历，急急如律令！即日有天帝无极君，教自应曰：诺。下床回向再拜，谢天神。一身道毕此矣。

#### 第五十四神仙

经曰：子欲知真人、仙人何类？仙人衣揲衣，生毛羽；真人无影，衣五彩朱衣。其居无常处，东春、南夏、西秋、北冬，浮游名山昆仑、蓬萊、大野九域之上，时上谒。上谒上皇，故真人得道，八千万岁。乘珠玉云气之车，驾元极之马，时乘六

飞龙，佐上皇治。中仙之士，中天而上。乘云往来，历越海江。下仙之士，法当尸解。晦日朝会拜礼，不得解怠，当为神使。道非有所异也，但有尊卑等故耳。故百岁之人黄头发，二百岁之人两颧起，三百岁之人万物耳，四百岁之人面纵理，五百岁之人方瞳子，六百岁之人协助胼，七百岁人骨体填，八百岁之人肠为筋，九百岁之人延耳生，千岁之人飞上天，上谒上皇太一。为仙真人重瞳子，故能彻视八方。食芝服丹即不老。人万八千岁更为童子，男八女七，从此始。

#### 第五十五神仙

经曰：子欲制百邪百鬼及老精魅，常持符、利剑，亭水瓮上，于中视其形影。凡行出入，卒逢非常怪物，于日月光中视其形影，皆可知也。以丹书制百邪符，置于瓮水上。邪鬼见之，皆自然消去矣。诸精鬼魅、龙蛇、虎豹、六畜、狐狸、鱼鳖龟、飞鸟、袴鹿、老木，皆能为精物。犯人者，符刻之斩之，付河伯、社令。常召今日直符使六丁神守之宿卫。左文字，在八十一首玄图六甲宫四十九真中。亦有珠胎、七机、华盖、清观皆能制百邪。此四符者，恶秽人不可服也。当被服威喜、巨胜、左契、右射、太极、太清、太玄、阳章、参天、包元气、太虚，此大道也。可常被服，无所不防，亦无禁忌也。上制文曰：皇天上帝，太上道君，曾孙小兆王甲好道，愿得长生，所愿从心来，自在心也，不多言。上封文曰：皇天上帝太上道君天一太一北斗君、日月阴阳君、司命君、司录君，曾孙小兆王某好道，愿得长生，唯司命司录君削去死籍，更著长生玉历仙籍，定为真人。臣某即日除为太一使者，再拜受命。上皇道君。中黄门子，再拜著契封符传，当清洁先解过，常以西四时除日及八节

日，以酒脯于东流水上解过，南流亦可。神仙玄图曰：玉历五十五章姓名符信，本在上皇金匱玉笈玉笥中，封之九重。兆得之，慎勿妄传。子慎之，勿受钱之。得其人即传之，可得神仙。吾时时自案行此三篇。三篇，上下《中经》也。吾常使司命教鬼守汝，勿妄增减吾文。一字不具，吾即知之，兆汝慎之！慎之！如吾言符与下字以丹青之，此吾之信也。兆汝审欲神仙，当先服还丹金液，存神，即时仙矣，上为真人。兆汝不服神丹金液，当自苦耳。为寒温风鬼所系，司命不救汝也。道神无奈汝何。兆为道，温衣适食，守虚无，为自然，鬼亦不能救杀也，年寿终竟，自死矣。何以言之？以其不坚守神故也。譬犹万物之生，非欲求死，但自然老枯槁腐死，其人亦如此矣。吾以喻汝，努力求师，吾教八十一弟，皆仙。其十人布在民间，游箕谷仙。吾越度秦项不出，为汉出，合于黄世，见吾大吉。



## 卷二十 三洞经教部·经十一

### 太上飞行九神玉经（一名《金简内文》）

太上大道君告北极真公曰：吾昔游于北天，策驾广寒；足践华盖，手排九元；逸景云宫，遨戏北玄；逍遥朔阴之馆，赏于洞毫之门；眇璇玑以召运，促劫会以舞轮；叹万物之凋衰，俯天地而长存；乃觉九星之奇妙，悟斗魁之至灵也。夫九星者，实九天之灵根，日月之明梁，万品之渊宗也。故天有九气，则以九星为其灵纽；地有九州，则以九星为其神主；人有九孔，则以九星为其命府；阴阳九宫，则以九星为其门户；五岳四海，则以九星为其渊府。五九参列，纲维无穷，制御天宿，回转三辰。调理四五，致天地得存，万品之所宗，神仙之所凭。夫天无九星则无以为高清；地无九星则无以为至灵，人无九星则九孔不明；上帝兼之以通真，神仙凭之以得成，五行乘之以致度，万物禀之以得生也。天清地静，则九星焕明；天激地否，则九星翳昏。璇玑召劫度之期，天关运五行之气，轮空洞之大辐，促九天之应会。是以神光转灼，玄监万生；傍行越位，以告灾祥。天地所以有大运之交，百六应符，皆九星纬转数终，所以阴阳勃蚀，二气否激，天翻地覆，九海冥一，金玉化消，毫末不失也。悉九星之所回，璇玑之所促；明天地之用，玄纲之妙

；得其中则有空常，隐步藏景，逃形变化，三辰万物，立成黑点，隐沦二十五名。其趣幽微，秘不下传。上有九辰华君，中有九皇夫人，魂精魄灵，皆九斗之威神，吐焕七曜之光，流映九天之门，洞朗幽虚，无毫不彰也。其星阳芒则为流金火铃，阴芒则为豁落七元，皆高上之灵策，元始之威章也。龙飞尺素之诀，隐讳口口之中，列帛华晨之下。羊雁礼天以招真，则玄光曲照于盟场，九晨下降于灵宇，夫人欢悦于寝席，玄斗记名于隐书。有知此道，存之便足以免大劫之会，度洪灾于甲申也。修之二七年，便得晏鸿翮而腾翔，斥紫霄而升晨也。此玉清之上道，不比上清之中仙也。玉清则上清之高真，上清则太清之高神，太清则飞仙之高灵。凡行玉清之道，出则诸天侍轩，给玉童玉女各三千人；建三七色之节，驾紫云飞辇；十二琼轮前导，凤歌后从；玄钧六师启路，飞龙翼轸。其位准高仙，列图玉清。行上清之道，出则五宿侍卫，给玉童玉女各一千五百人；建紫毛之节，驾飞云丹舆；前吹凤鸾，后奏天钧；玄龙启道，五帝参轩。位准上清左右位卿。行太清之道，出则五帝侍卫，给玉童玉女各八百人；建五色之节，驾龙舆飞烟，前啸九凤，后吹八鸾；白虬启道，太极参轩。故真中有高卑，玄中有阶次也。玉清之道，玄远绝邈，不比中真及飞仙之徒。九星上法玄映之道，吾昔受之于元始，于今七亿万劫，经天地成败，万品衰灭，而其道独存，今犹修之于云景之上，而不能忘之于时节者，意玩此道高妙，爱乐夫人接遇也。况来生始学飞晏之举，而不知幽寻步空之法，何由得披重霄之门，观天地之始终乎？既无此道，与九晨乖域，夫人绝游也。徒有玄名帝录，超卓高腾，正可得策驾云龙，游眇五岳，但不死而已。如此望践斗魁，旋步华晨，腾景玉清，当未有期也。子方当匡御劫运，封掌十天，科简玄录，理判神仙，宜受此法以综万生，今出相付，子

秘而修焉。九晨真人曰：行飞步之道，先一日沐浴斋净。是日于中庭布星图，随斗建也。北向长跪烧香于玄冥星下，叩齿三十六通，闭眼存岁星在左胁，太白星在右胁，荧惑星在头上，辰星在脐下，镇星在心。次覆衣九星，先举左手屈于头上如斗势，存阳明星在左手掌中，阴精星在左肘上，真人星在左乳上，玄冥星当心（故烧香于玄冥星下而启事，因心而应天明也）。

丹元星在右襟上，北极星在右膝头上，天关星在右足胚上，辅星在脐下，弼星在头上，毕，微咒曰：

衣天斗，戴金巾，乘魁纲，入斗门，朝真人，拜华晨，二十八宿，覆络我身，乘空步虚，飞升自然。毕，咽气九过止。次举右手如斗势临头上，存阳明还右手掌中，阴精星右肘上，真人星在右乳上，玄冥星当心上，丹元星在左襟上，北极星在左膝头上，天关星在左足胚上，弼星在左目上，辅星在右目上。毕，微咒曰：

我乘天纲，步九元，履斗魁，行飞仙，得天心，万神欢。隐形藏景，变化万端。敢有干试，收系斗门。扫除不祥，正真明分。左焕火铃，右辉灵幡。威光万里，嘯命立前。玉帝所咒，靡不如言。毕，咽气十六通止。次乘斗旋行斗星之外，步斗魂魄，从天枢星上，对阳明，次登天璇，天机，以次周于隐元，往反三过。毕，于隐元星上歌《三洞飞空章》而登阳明也（便立思夫人，形象如左也）。

第一天枢星，则阳明星之魂神也。天枢星威而不曜，光而不照，潜洞太虚，围九百二十里，对阳明星之西北门。其星则号元斗宫魁精玄上真皇夫人，姓明通，讳袞玄，真名上精。头建飞云华颊之髻，馀发散至腰。衣紫、黄、青三色之袿属，带九铃之绶。口恒吐青气之光，以注于阳明星上，以明星之焕也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，然后咒，则魂神澄正，明星

欢悦，天光洞映，使魂影俱飞登晨也。并足上天枢星上，对阳明星，左手抚心，右手指阳明星，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

天妃九星，凝气结真，七曜缠络，号曰玉晨；上建华盖，下蹑斗魁，身乘天机，飞步琼轩；魂精魄灵，与形合仙，保元日月，天地长存；随运变化，夫人齐连，上升九天，浮景自然。毕，闭气三息。次左足蹑天璇，进右足与左足并，通气。

第二天璇星，则阴精星之魂神也。天璇星景而远映，照而不煊，潜洞太虚，围五百五十里，对阴精星之西门。其星则号玄斗宫虚精上玄皇夫人，姓玄镜，讳郁勃光，真名金归。头建飞云华颊之髻，馀发散至腰。衣飞锦罗裙，凤文锦帔，带灵飞紫绶。口恒吐黑气之光，以注于阴精星上，以明星之晖曜也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天璇星上，对阴精星，左手抚心，右手指阴精星。叩齿九通，咽液九过，闭气九息，而微咒曰：

北玄皇灵，九上开清，玉华潜映，纬络紫庭；今日飞步，万道通明，魂魄澄正，安附我形；无使飞翔，同升北星；上喻玄精，饮以玉泉；变化九微，保命天灵。毕，闭气三息。次进左足蹑天玑星，次右足来并，通气。

第三天玑星，则真人星之魄精也。天玑星猛而不显，晖而不曜，潜洞太虚，围七百七十里，对真人星之东南门也。其星则号上精宫灵妃元皇夫人，姓常明，讳化云，真名流燭。头建晨婴宝冠，衣飞云明光锦襜褕，带六山飞晨之绶。口恒吐黄气之精，以注真人星上，以明星之曜也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天机星上，对真人星，右手抚心，左手指真人星，叩齿九通，咽液九过，闭气十二息，而微咒曰：

灵妃元皇，九星中真，上理玑度，总监诸天；下试群方，

游景紫烟；是日上吉，皇道敷陈；润流九外，曲洒我身；飞行羽步，上入帝晨、与皇同眉，永享劫年。毕，闭气三息。次进左足，蹑天权星，进右足与左足并，通气。

第四天权星，则玄冥星之魄精也。天权星微而隐，隐而同映，潜焕太虚，围八百里，对玄冥星之东门也。其星则号纲极宫上灵神妃华皇夫人，姓开生，讳运明，真名婴关。头建七称之冠，衣绯罗凤文之）祔属，带金真玉光。口恒吐赤气之精，以注玄冥星上，以明星之焕曜也。修习步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天权星上，对玄冥，右手抚心，左手指玄冥，叩齿九通，咽液三过，闭气三息，而微咒曰：

神妃上灵，号曰华皇；安镇华盖，北上之宫；左待玉女，右卫灵童；道引七精，九晖之光；为我致真，飞步天纲；使我魂魄，俱升帝堂。毕，闭气三息。次进左足蹑玉衡，进右足与左足并，通气。

第五玉衡星，则丹元星之魂灵也。玉衡星大而嘿，踊而不焕，潜洞太虚，围七百二十里，对丹元星东北门也。其星则号纪明宫北上金盖中皇夫人，姓元方，讳神武，真名勃。头建紫晨飞华之冠，衣九色之祔属，带神虚玉文。口恒吐白气之光，以注丹元星上，以明星之晖也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上玉衡星上，对丹元星右手抚心，左手指丹元，叩齿三通，咽液三过，便闭气三息，而微咒曰：

皇华中妃，上元所居，九斗吐晖，精焕八嵎；流烟郁勃，散灵朱庐；使我魄灵，天地同符；形魂俱升，驾空策虚；玉光缠络，丹辔紫舆；飞行北上，参受隐书。毕，闭气三息。次进左足蹑闾阳星，进右足与左足并，通气。

第六闾阳星，则北极星之魂灵也。闾阳星朗而潜照，晖而不焕，洞微太虚，围七百七十里，对北极之下开北洞之门也。

其星则号紫极宫安上晨华元皇夫人，姓王元，讳根华，真名冥会。头建玉晨进贤之冠，衣飞青羽袿属，带流金火铃。口恒吐绿气之精，以注北极星上，以明星之曜晖也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上闾阳星上，对北极星，而左手抚心，右手指北极，叩齿三通，咽液五过，闭气五息，而微咒曰：

九天上帝，黄华之宗；运转璇玑，总轮八方；使我飞步，躋纪天纲；反覆交并，三五纵横；通灵八微，羽衣玄黄，龙舆玉景，飞行太空；长享眉寿，天地同功。毕，闭气五息。次左足躋摇光星，进右足并，通气。

第七摇光星，则天关星之魂太明也。摇光星则光转空洞，回旋天关也。潜焕太虚，围九百里，上对天关星之南门，下对北极星也。其星则号运天宫玉华灵皇夫人，姓度元，讳终会，真名启光。头建飞华颓云之髻，馀发散至腰。衣七色夜光云锦之裙，九色锦帔，九天威灵玉策。口恒吐赤气之精，注天关星上，以明星之大光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上摇光星上，对天关星，而左手抚心，右手指天关，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

天地回转，七光大明，旋轮九气，上应玉清；中有夫人，号曰华灵，玄映九外，无毫不生；是日良吉，飞步紫庭；使我魂魄，安附身形；变化空洞，出幽入冥；天地同轮，万劫不倾；保仙上元，九晨齐精。毕，闭气七息。次左足躋洞明星，进右足并，通气。

第八洞明星，则辅星之魂精阳明也。洞明星则光回诸天，总轮上宿，流畅太虚，围九百九十里，上对辅星西南门也。在天关之上梁，北极之阳芒也。其星则号空真宫太明常皇夫人，姓幽升，讳无韵，真名空变。头建飞云华颓之髻，馀发散至腰。衣飞罗文袿属，带九光之绶。口恒吐青气之精，注于辅星之上，

以常阳大光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上洞明星上，对辅星，而右手抚心，左手指辅星，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

三五飞行，天地开张；九元回纲，合纽上京；天真散灵，万道溢昌；夫人曲映，是日吉良；飞步斗魂，旋行玉纲；头戴华盖，足履常阳；游戏三清，变化万方；保仙自然，享寿无穷。毕，闭气十二息。次左足蹑隐元星，进右足并，通气。

第九隐元星，则弼星之魂明空灵也。隐元星则隐息华盖之下，潜光曜于空洞之中，围九百九十里，上对弼星之东南门也。其星则号元宝宫空玄变灵上皇夫人，姓冥通，讳万先，真名常阳。头建飞云七称玉冠，衣青文锦襜褕，带九光夜烛，口恒吐黑气之精，注于弼星之上，以明焕隐洞之光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上隐元星上，对弼星，而左手抚心，右手指弼星，叩齿十二通，咽液一过，闭气一息，而微咒曰：

上步天纲，飞行羽门，出入三生，逃身隐沦，变化形影，千合万分；神安气镇，练度仙魂；举体同飞，衣服锦裙，流铃交落，身佩虎文；啸咤五帝，策驾景云；上造北晨，朝谒皇君。毕，闭气一息止。还并足上天枢星上，单步往反三周，不须复存思咒说也。步斗魂事毕，存咒正初登星一过行之尔。往反三过。毕，还立天枢星上，向阳明星而歌颂《徘徊游行九晨羽章》三篇。毕，便登纲上阳明星上，行飞步也。

### 羽章

云纲落天纪，九斗翠玉虚。紫盖重霄岭，玄精朗八嵎。上

有九晨宾，吟咏隐与书。飞步遨北汉，长龄天地居。

控轡玄羽台，飞行九元所。洞虚深幽邃，云纲乘空举。下有采真士，仰照玉宸府。三周阳明上，九回入洞野。高步登帝尊，长歌龙飞语。

玉霄映北朔，琼条翠隐柯。空生九灵台，焕精曜太遐。天关运重冥，劫会屡经过。乘我羽行驾，飞步织女河。保灵空常化，永忘天地多。

此三章出玉清上宫，诸九阳玉童、九华玉女皆恒歌颂之于华晨之上，以和形魂之交畅，启灵真于幽关也。

凡修飞步七，元行九星之道，无此歌章，皆不得妄上天纲，足躡玄斗也。犯之九星则执子魂魄，闭于斗纲之下也。令人猖狂失性，嗔怒妄兴，不出三年，无不丧身。非道不欲使人得仙，而人不能明道渊源耳。如此岂可不详而行焉？九星则九天之根，玉清之明精；九魂则九星之明灵。人徒知步七星之妙，而不知九星魂魄之至灵也。非七星不欲运人上斗，而人身魂神畏斗星之灵魄，不敢随人而腾空也。欲修飞步之道，宜知斗星之魂魄，九皇夫人内名、空常之隐诀也。而按图修行，岂当不得飞登北元，上谒华晨者哉？但此道高妙，玉清宝秘不行，中仙鲜有得者。知其法则九星内映，夫人降席，斗魂感悦，则共携兆而升入九元之内宫。

阳明星，天之太尉，司政主非。上总九天上真，中监五岳飞仙，下领后学真人，天地神灵功过轻重，莫不隶焉。星围九百二十里，皆琉璃水精。中有玉树、青实，金翅之鸟栖其上，自生青精玉芝，食之一口，寿九万年。星有九门，有四光芒，皆焰照九亿万里中。上有青城玉楼据斗真人，号曰太上宫青城玉楼九晨君，姓上云，讳法婴容，字董洞阳摇天槌。头建九晨玉冠，衣青羽飞裳，手执斗中玄图，坐玉楼之中。有玄名玉录，



当得知九晨君内讳。知者玉晨下映，明星玄降。修其道，飞行太空，升入九门之内也。修飞步之道，当先于阳明星上，右手抚心，左手指天东北，闭气九息，叩齿九通，咽液三过，闭眼思九晨君姓讳形像，留立阳明星上，便微祝曰：

飞天九晨，上据玄魁，威振八焕，司政紕非；今日飞步，万道通开，九真齐景，天转地回；鬼谋截颈，人逆斩摧，三纲所捕，逆者将衰；神灵侍卫，享福巍巍；得天之心，骨化形飞；手攀七纲，足践九扉；云行雨步，上升太微。毕，左转阳明星上，九回，立向鬼门，闭气三息。转左足蹑阴精，进右足并，于阴精星上通气。

阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。诸学道及兆民宿命禄位，莫不隶焉。星围五百五十里，亦皆琉璃水精，中有玉树，黑实，金翅之所栖，自生玄芝玉饴，食之一口，得寿五万年。星有五门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有五色玉楼攀魁真人，号曰中元宫五色玉楼北上晨君，姓育婴，讳玄上笏，字昌阳文激明光。头建玄精玉冠，衣玄羽飞裳，手执五色羽节，坐玉楼之中。若有玄名朱台，当得知上晨君内讳。知者则北上下映，阴精玄降。修行其道，则飞行太空，升入五门之内也。修飞步之道，当先于阴精星上，左手指本命，右手抚心，闭气五息，叩齿五通，咽液五过，闭目思北上晨君讳字形像，留立阴精星上，便微咒曰：

玄晨北灵，五气上精，体隐六纪，心藏景星，日月侠映，三光饬形；今日元吉，步纲紫庭，上开天户，受福朱灵；享祚无极，禄位尊荣；万愿交覆，所向利贞；腾飞华盖，遨翔玉清；上诣北晨，九真齐辔。毕，左转阴精星上，五回，向本命上立，闭气三通。转左足蹑弼星，进右足并，通气。不得蹑真人星，但蹑弼星耳。

真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。真仙之流莫不隶焉。星围七百七十里，亦皆琉璃水精，中有玉树，黄实，金翅之所栖，自生黄精玉芝，食之一口，得寿三千万岁。星有十二门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有黄台玉楼真人，号曰真元宫中黄台玉楼主仙华晨君，姓归并，讳妙阳光，字通度元度凝脂。头建飞晨宝冠，衣青羽飞裳，手执斗中青箬，坐玉楼之中。若有玄名方诸，当得知华晨君内讳。知者则华晨下映，真人玄降。修行其道，则飞行太空，升入十二门之内也。修飞步之道，皆不得蹑真人星也。当并足弼星上，所谓偃息华盖者也。北老真公曰：子欲腾身，勿干真人；子欲飞行，勿枉天纲；子欲神仙，当拜华晨。行道当避真人星，立弼星之上，拜真人，朝华晨，而求飞空也。弼星曰空，辅星曰常。常者，常阳；空者，隐藏。其有讳，不得传于人口，可于华晨之下，羊雁礼天，烈素盟而传。得此秘讳，心存而行之，轻泄，七祖负考风刀也。当于弼星上，右手抚心，左手指西北，闭气九息，叩齿九通，咽夜九过，闭眼思主仙华晨君姓讳形象，留立真人星上，便微咒曰：

太微通真，弼辅华晨，吐焕九精，结气紫烟，飞霞流映，光曜十天；上理元衡，下携神仙；今日飞步，请礼真人，一求空行，二乞隐身，三愿上升北掖，四便龙衣羽服，锦帔青裙，驾乘八景，浮游九玄得入天宿，与帝同轩。毕，左回弼星七过，向真人，闭气三息。转左足蹑玄冥，进右足并，通气。

玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆，伐逆不臣，诸以凶勃莫不隶焉。星围八百里，亦皆琉璃水精，中有玉树，赤实，金翅之所栖，自生丹芝流璆，食之一口，得寿八千万年。星有三门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有朱台玉楼出斗真人，号曰纽幽宫中朱台玉楼玄上

飞盖晨君，姓冥枢，讳定宣觉，字法明度摇天柱。头建三华宝晨冠，衣丹锦飞裳，手执命灵之桔，坐玉楼之中。若有玄名玉格，当得飞盖晨君内讳。知者则飞盖下映，玄冥玄降。修行其道，则飞行太空，上升入三门之内也。修飞步之道，当先于玄冥星上，右手抚心，左手指天，闭气九息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思飞盖君姓讳形像，留立玄冥星上，便微咒曰：

天真行道，步景藏形；七元焕落，九晨齐并；手把天衡，足践飞星，左辅火甲，右御朱兵，威振十天，流焕上清，先戮谋议，后伐妖精，敢有干正，斩以刀刑，三纲所制，莫不伏听；变化往反，适心华庭；乘空飞步，上造帝灵。毕，左回三转，向天闭气三息。转左足践丹元星，进右足并，通气。

丹元星，天之斗君，主命录籍。上总九天谱策，中统鬼神部目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。星围七百二十里，亦皆琉璃水精，中有赤树，白实，金翅之所栖，自生金精冶炼之膏，食之一口，得寿七万年。星有七门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有素台金楼蹠纪真人，号曰纲神宫中素台金楼蹠纪真人金魁七晨君，姓上开，讳冥通光，字朱焕元变五道。头建七宝飞天冠，衣白锦飞裙，手执青元策籍，坐金楼之中。若有玄名昆台，当得知七晨君内讳。知者则七晨下映，丹元玄降。修行其道，则飞行太空，上升入七门之内也。修飞步之道，当先于丹元星上，右手抚心，左手指天关，闭气七息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思七晨君姓讳形像，留立丹元上，便微祝曰：

飞行蹠纪，上步丹元；乘魁落宿，呼命斗魂，削死勒生，青白简分；三合成道，年命长延；亨利眉寿，齐生华晨；肉飞骨轻，驾景乘云；仙衣羽服，流铃纷纷；五色焕耀，升入七门。毕，回星上七转，还向天关，闭气七息。转左足践北极，进右

足并，通气。

北极星，天之太常，主升进。上总九天真，中统五岳飞仙，下领学者之身，凡功勤得道，转轮阶级，悉总之焉。星围七百七十里，亦皆琉璃水精，中有黑树，白子，金翅之所栖，自生玄芝水瑛，食之一口，寿五万年。星有八门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有玄台玉楼步纲真人，号曰纪明宫中玄室主台玉晨飞华君，姓明灵，讳长明化，字渊洞源昌上元。头建飞精华冠，衣紫锦飞裳，手执九斗玉策，坐玉楼之中。若有玄名金台，当得知飞华君内讳。知者则飞华下映，北极玄降。修行其道，则飞行太空，上升八门之内也。修飞步之道，当先于北极星上，右手抚心，左手指金门，闭气八息，叩齿三通，咽液三过，闭目思飞华君姓讳形像，叩齿立北极上，便微咒曰：

天行三五，中元回旋；飞步华盖，御斗乘晨；落纪三命，徘徊游烟；今日元吉，上希神仙；名书玉简，列字紫篇；青襦羽服，丹帔锦裙；八景丹舆，运我升轩，位为仙卿，北上之君，请求所咒，靡不如言。毕，回星上八转，还向西方闭气八过，转左足践天关，进右足并，通气。

天关星，天之上帝，主天地机运。如四时长养，天地否泰，劫会莫不隶焉。星围九百里，亦皆琉璃水精，中有三华之树，五色之实，金翅之所栖，生自然九味芝膏，服之一口，身生九色之光，得寿九万年。星有一门，门有九光芒，总运九天之气，焰照九亿万里中。上有九层玉楼乘龙真人，号曰关会宫九层玉楼总云九元北盖晨君，姓玄枢，讳转光，字会元终明天徒。头建九元宝冠，衣九色锦裳，手执晖神之章，坐玉楼之中。若有玄名九天帝图玉篆，当得知北盖晨君内讳。知者则北盖君下映，天关玄降。修行其道，飞行太虚，升入一门之内也。修飞步之道，当于天关星上，左手抚心，右手指地户，闭气一息，叩齿

三通，咽液三过，闭眼思北盖晨君姓讳形像，留立天关星上，便微咒曰：

天元运关，地纪转维；九灵交度，三五相推；四七幡宿，五帝徘徊；承玄步虚，上躋玉机；衣斗履斗，流铃焕威，顺我者吉，逆我者衰；我行天真，万里廓开；身腾苍辔，魂升形飞；长离劫会，升入太微。毕，回星上一转，还向地户闭气一息。转左足践转星，进右足并，通气。

辅星，天尊玉帝之星也，曰常。常者，常阳。主飞仙。上总九天，领九地。五岳四渎神仙之官，悉由之焉。星围九百九十里，亦皆琉璃水精，中有青华之树，自有九音之字，上有青鸟、三足鸟，生自然琉璃芝瑛，食之一口，得与玉帝同真。星有八门，交通八气。门有四光芒，焰照九天之上。中有紫气玉楼游行三命真人，号曰帝席宫中紫气玉楼帝尊九晨君，姓精常，讳常无瓮，字玄解子空正上开延。头建飞精玉冠，衣九色衣，手执火铃，坐玉楼之中。若有玄名上清，得知帝尊内讳。知者则帝尊下映，辅星玄降。修行其道，飞行太空，升入八门之内也。修飞步之道，当于辅星上，右手抚心，左手指荧惑星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思帝尊姓讳形像，留立辅星上，便微咒曰：

乾坤交覆，三命接灵；上步天宿，飞行九星；左把隐书，右执羽经，拜谒帝尊，受帝之名，得越华盖，腾翔紫庭；今日行道，万庆交并：受福巍巍，永享长生；身变毛羽，飞升玉清。毕，回星上三过，还向南方闭气三息，转左足还践弼星上，进右足并，通气。

弼星，太帝真星也，曰空。空者，恒空隐也，主变化无方。星围九百九十里，亦琉璃水精，中有三华之树，自生九天玉章，上有金口之凤，口衔火铃，中生自然七曜之晖，得食晖一口，

与太帝同真。星有九门，交关九天。门有四光芒，焰照八极之外，无央之中也。中有玉台紫馆徘徊三阳真人，号曰上尊宫中玉楼紫馆帝真元晨君，姓幽空，讳空无先，字隐元觉冥阳晖幽寥元。头建飞天玉冠，衣九天龙衣手，手执帝章，坐紫馆之中。若有玄名九天，得知帝真内讳。知者则能隐形藏身。修行其道，则飞升九门之内也。修飞步之道，当于弼星上，右手抚心，左手指北辰星，闭气五息，叩齿三通，咽液七过，闭眼思帝真元晨君姓讳形像，却立弼星上，便微咒曰：

道合三微，玄虚举真，出常入空，逃形天关，浮翔八极，驾景紫烟，飞步九天，变化亿千。遨戏北盖，啸命句陈，所求所愿，靡不如言；长龄天地，保年华晨。毕，回星上五转，还向北辰星，闭气七息，左转两足，还并立阳明星上。从阳明星单行禹步，周回九星，往反九回，止。皆不须复存咒也。毕，还弼星上，平坐，偃息华盖，存九晨覆衣如初法。闭眼思己身在绛云之内，乘天纲飞空上升九天之门，随纲转轮九过。毕，觉身如落空，还坐星图之上，便以手拭目九过，捻两耳门九过，而行周天大咒，叩齿九通，仰西北而咒曰：

高上九灵，皇上华君；总仰天宿，回度三辰；变化四节，五行成仙；是日行真，普命万神，五岳四渎，及诸灵山，天地水官，悉卫我轩；太阳激电，六阴吐云，猛兽驱除，万精四奔，毒龙食鬼，平灭邪源，谋我者刑，干我者烦，乐我者寿，愿我者仙；我带灵策，体佩七元，流金火铃，焕落我身；头戴华盖，足蹑景云；口衔天精，手握天关；空常变化，千合万分；金木水火，立成自然；飞行禹步，徘徊九门，出入三清，天地长存。毕，又叩齿三通，咽气二七过，都止，九晨之道毕于此也。行九晨之道，当以正月、七月、四月、十月、四孟月同用上旬五、九，唯一日也，平旦；二月、八月、五月、十一月、四仲月同

用中旬十五、十九，正中；三月、九月、六月、十二月，四委月同用下旬二十五、二十九，夜半。此一月六日，旬适取其一，一月三过。行之一年三十六过，以应天关转轮九天之气三百六十度之数也。以其日行道，皆九天书名，得过阳九百六之运，身免洪波大劫之灾。九年乃得晏飞纲而上步，乘空纪而超足也。

《九晨玄图金简文》曰：修飞步九晨之道，亦当依步天纲之日，兼而行之，益求飞天之远，玄斗屡鉴也。若兼修者，当先行九晨，而后行步天纲也。此二法咒，咒为异，原同一法。

### 步天纲

太微帝君昔授皇清洞真君，步天纲，飞地纪；据玄斗，攀星魁；接九真，乘飞龙；游三命，浮二生；固三宝，出六害；隐六阴，入六纪；镇天英，守延期；存元辅，蹶大弼；用流丹房，上升文昌，展转九道，位为九老。行之二十年，受书为上真人。凡人望七星为近，不知步之甚远。道士苟知天纲之可步，而不知魂魄不追其身，非身之不将魂魄也，魂魄畏七星之威，不敢追身而上行也，故三魂不摄，七魄荡散，徒以空尸步纲而神不我从，实徒劳也。子欲步纲，澄心虚静，不思哀忧，不念荣味。于是回行三匝，登星启祝，使魂魄二神俱过灵关，豁然纵体，奄忽自忘，盛洁乃步，恒如蹈空，一年辟非，二年辟兵，三年辟死，四年地仙。千害万邪，众莫敢干。自此以往，福庆无端，致神使灵，骖驾飞龙；太极赐芝，玉帝给童。行二七年，为上真人。步法勿横行干纲也。直画连星之界分曰纲

也。犯横天纲皆伐断天道，大禁也。步纲勿躐真人星，大忌。犯此二者，皆脱巾叩头谢纲象。以布帛为之，长九尺，广六尺，罗列星位于帛上，以青笔为星，丹笔为纲，盛之洁箱。每欲施行，烧香出之。侍书有玉女七人，卫星有玉童七人。妇人步纲用绛帛。太微帝君教授步天纲之经，谨案神真上法，先烧香于行事之所，闭气七回，行斗星之外三匝。始于阴精，匝于阳明。毕，乃通气，始得足躐于七星身上，步于阳明耳。于是向阳明星又闭气，而心祝曰：

阳明大魁，玄极文昌，使某魂魄俱游天纲。祝毕，乃左足躐阳明，又进右足躐阴精，心祝曰：

阴精北极，太上璇玑，使某魂魄，俱过神津。次左足躐北极，心祝曰：

北极天光，回适玄辰，使某魂魄，俱至玄关。次右足躐天关，进左足前与并，乃通息，大祝之，一闭息。不竟纲者，可于丹元星上，通息更闭，微祝曰：

金木水火土，五行相推，七星焕焕，天纲最威；辅星镇盛，弼星却衰；九真太上，太极太微；三府玉帝，三尊辟非，天动地转，魂魄相随；使我飞仙，真光徘徊；名入金房，玉门乃开；乘龙陟空，日月同辉；游行上清，鸣铃翠衣；左躐流电，右御奔雷；地上万邪，伏死敢追，恶心视我，使尔斩摧；帝命玉女，营侍以归；魂真魄神，合形升飞。

### 倒行法

止于天关，倒向北极，微祝曰：



太上元辰，华盖紫灵，北极玉房，藏景化精；太微玄台，九真玉城，愿某飞仙，得行云庭；反步天纲，魂魄俱生；乘龙华宫，得道之英；左佩玉珰，右腰金铃，虎带龙裙，啸摄天兵；乘景三素，飞登上清。祝毕，乃闭气，举左足蹑北极，右足蹑丹元。次举左足蹑玄冥，前右足与左足并，而向真人之星，通息，微祝曰：

太极九精，上皇高真，出登元清，入隐玄阴，育某长某，使某好仙；玉台忽开，金堂八门；乞某佩书，绛龙青裙；上佐紫微，后圣之君；乘十飞龙，玄盖景灵，列名元图，日月同并。祝毕，因又闭气，左足蹑弼星，进右足蹑阴精，又进左足蹑阳明，前右足与左足并，乃通息，微祝曰：

天魁正阳，斗运低昂，前转元机，后动灵纲；制魄以宁，拘魂以康，魂魄与身，俱行天堂；向见金关，高上太皇，右扶仙母，左扶仙公；紫翠飞华，龙袍虎裳，带真巾玉，顶生圆光，手把神铃，腰佩金珰；口咏洞真，七变妙章；先自虚无，生而为王；飞行九道，据斗攀纲；前从太一，后从玄朗；告某口诀，坐在立亡；反行至要，位为仙卿；五藏自生，与天相迎；所愿如念，所求克昌；万邪伏害，易地隐藏；恶我天伐，水灭火丧。

### 反行法

又闭气，右回斗星之外三匝，始于阳明，匝于阳明，通息，祝曰：

高上太真，七耀至尊，反行寻生，上步天元；使某飞仙，得入紫门。因又闭气，左足蹑阳明，右足蹑阴精。先前右足蹑

玄冥，左足蹑丹元。次右足蹑北极，左足蹑天关，右足前与并，乃通息，祝曰：

七变返旋，上行玉宿；六纪辅我，三纲合步；玉帝左眄，高上右顾，教我乘星，腾登玄路；乞赐飞仙，不死之祚；游行上清，乘华三素，金青翠裙，出入九舍，北皇见揖，南真见谢；名书仙台，千变万化；得友圣君，太平辅佐；所愿从心，万事成就；有恶我者，刀刑火墓。顺行、倒行、反行三道都毕。乃又举两足俱上阳明星。以右手抚心，左手指玄冥星，闭气三息，叩齿三七，咽液三九，名曰“据斗”。微祝曰：

阳明太素，立辰黄房，中有大神，左拊上皇，右把高真，龙衔翠衣，飞锦虎文，腰带玉符，首戴莲冠，出无入虚；金真玉光，灵尊巍峨，号曰阳明，足蹑朱烟；口咏洞章，赐某隐书，见教步纲。周行三复，据斗自忘；使某飞仙，超虚浮空，名书上清，乘玄驾龙；意有所之，愿乐皆从；三尊合德，魂魄内通；致给神官，玉女玉童；有恶某者，刑之电风，奸谋断舌，裔之十方。祝毕，存心中忽然忘身，良久而下。据斗之道既毕，又两足俱上阴精星。以左手抚心，以右手指真人星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“攀魁入太微”。微祝曰：

阴精玄素，华阙生门，中有玉帝，北极至尊；凤肃华领，龙翠碧裙，腰虎佩铃，扶芝丹冠；号曰阴精，太上之君；授某隐书，使步七元，攀魁上升，遂游灵关；外拘七魄，内制三魂；魄炼俗累，魂宝胎神；魂魄守身，与之俱仙，飞行上清，还气婴颜；所向如心，万欲无难；有恶某者，形死三官；威摄六天，役使群神。攀魁之道既毕，乃又两足俱上弼星。并足向真人星四拜毕，跪，闭气四息，叩齿四通，咽液四过，名曰“接真”。跪，微咒曰：

太极九精，上元明真，正机把衡，吐纳紫烟，金光玉映，

威照十天；摄御三光，调阳和阴，理元赋气，改易故新；上治中宿，玄关之玄，金室玉户，北掖四便；出驾八景，浮游太元；龙锦凤衣，虎翠飞裙，绛旂绿帔，紫羽七缘，腰带神符，首戴扶冠；上栖九虚，下翔天渊；自号玉皇，九天极真；哀某好道，授某隐篇；躬登粥魁，朝拜灵君；乞愿丹书，为生之缘；治天三五，飞行八玄；五藏自生，上品飞仙；得翼玉帝，后圣之臣；位高大夫，乘云飞轮；所愿皆合，众邪莫干；有恶我者，暴形破门。接真之道既毕，乃又两足俱上玄冥星。以右手抚心，以左手指丹元星，闭气三息，叩齿三七通，咽液三过，名曰“步斗”。微祝曰：

洞天神光，回隐玄冥；气盈太虚，去来无形；隐天藏地，周灌无生；忽登天纲，上步紫庭；北视雷房，南顾电城；眩惑万变，非复故形；恍惚流景，触手立成；欲求藏身，得我姓名；虚无傲兀，九变玄冥；坐起六甲，谒署六丁；赐某隐书，步斗行星；仰见上皇，披丹巾青；手把灵光，腰带玉铃；上乞飞仙，与天俱生，名书太微，浮化上清；下乞变化，藏景录形，万事如愿，所向皆平；有恶我者，戮以神兵。《太极真经金根上文》曰：子登玄冥，步斗隐形；子欲变化，当得我名；回天动地，万物立成。步玄冥时，及欲隐时，当心存此名字。步斗之道既毕，乃又两足俱上丹元星。以左手抚心，以右手指北极星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“躡纪”。微祝曰：

太上九台，丹元玄纪，外管北枢，内正天理；金阙映外，玉庭耀里，中有至尊，号曰赤子，治在丹元，绛房之中；翠云绣华，龙帔虎裳，右执皇篆，左把魁纲，足躡景云，首巾紫冠，右佩流铃，左带玉珰；赐某隐书，躡纪游行；上乞飞仙，乘玄驾龙，书名丹台，太极玉堂；所向所求，福禄来迎；有恶某者，

愿为灭亡；给侍神官，玉女玉童。躡纪之道既毕，乃又两足俱上北极星。以右手抚心，以左手指天关星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“步纲”。微祝曰：

玄上太微，北极紫盖，下有太真，游翔九外；翠华飞裙，金铃青带，腰佩玉光，玄云奄蔼；赐某隐书，上行七气，登清戏烟，真人合会；乞丐飞仙，书名丹室；所向如愿，无灾无害；有恶我者，令彼伤败。步纲之道既毕，乃又两足俱上天关星。以右手抚心，左手指天关，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“乘龙”。微祝曰：

太上太微，紫微绝辰；宝玄金房，外有玉门；周运九宫，调和天关；中有尊神，号曰紫皇；授某隐书，携某乘龙，上游九天，下飞地元；景云丹舆，玄华翠裳，腰佩龙策，头巾虎文；包生万物，教训飞仙；脱某死名，天地长存；乘龙步斗，所向受恩；有恶我者，风刀火然。乘龙之道既毕，乃又两足俱上辅星。闭气一息，叩齿三通，咽液一过，名曰“游行三命，旋步天英”也。微祝曰：

太极辅星，精在紫关；养生育命，宝守神魂；金房再开，奉见辅君；赐某隐书，使某游旋，列名圣皇，飞仙九天；巾金佩真，出入洞门。游行三命既毕，乃回行诣弼星。两足俱上，闭气一息，叩齿三通，咽液一过，名曰“徘徊三阳，出入三生”。微祝曰：

太虚泥丸，紫宫天尊，玄空真纽，为帝之先；在道玉皇，在身泥丸；冯感歆生，气贯霄元；精入明堂，强胎益魂；朱山再开，奉近灵元；左采日华，右掇月根；流火万丈，金罗碧裙；腰带天骨，首戴华冠；赐某隐书，得行天关；乞愿飞仙，役使万神；万向皆会，福德如山。行事时，皆北向执隐书而为之也。亦可案文视星，不必暗诵而作也。春步七星名曰“步三纲”

，夏步七星名曰“躡六纪”，秋步七星名曰“生六害”，冬步七星名曰“登六绝”。

## 卷二十一 天地部一

### 总序天

《三天正法经》曰：九天真王与元始天王俱生始气之先。天光未朗，郁积未澄，溟涬无涯，混沌太虚。浩汗流冥七十馀劫，玄景始分，九气存焉。一气相丢九万九千九百九十岁。清气高澄，浊气下布。九天真王、元始天王禀自然之孕，置于九天之号。九气玄凝，日月星辰于是而明，便有九真之帝。上之三真，生于极上清微之天；次中三真，生于禹馀之天；下有三真，生于大赤之天。

《玉京山经》曰：玉京山冠于八方诸大罗天，列世比地之枢上中央矣。山有七宝城，城有七宝宫，宫有七宝玄台。其山自然生七宝之树。一株乃弥覆一天，八树弥覆八方大罗天矣。即太上无极虚皇大道君之所治也。

《大洞经》曰：大冥在九天之上。盖谓冥气极远，绝乎九玄，惟读《大洞玉经》者可以交接，然后玉帝乘丹霄而启道，太冥披绿霞而朗焕也。《元始经》云：大罗之境，无复真宰，惟大梵之气，包罗诸天。太空之上有自然五霞，其色苍黄，号曰黄天。黄天之上，其色青苍，号曰苍天。苍天之上，其色玄空成青，号曰青天。故颂曰：

三界之上，眇眇大罗，上无色根，云层峨峨。

### 三界宝箓

#### 上四天

《诸天灵书经》曰：飞步入北清者，是三界之上四天帝王北真天也。言此四帝上为三清玉京之巅，应化接引，中为三界四八，御运五气；帝主下降无象通生天，人各为一天，璇玑玉衡、三十六帝，五斗魁主，亦象人脑，四象合成。故《放品经》云：四天王天在玉清之上，九天之巅，恒以八节之日命三界四帝周行天下，开度道学建斋之人也。先师疏云：北清天者，北斗是也。又云：北斗之下昆仑上宫，故人头首上象昆仑。下愚小解将为是误，此去弃贤，既在昆仑山南，望将中斗则为北清，未审中斗已北北方北清别在何处。今依《度人经》说：东斗主算，西斗记名，北斗落死，南斗上生，中斗大魁，总监众灵。此名一天五斗魁主，即明中斗已北而有北斗也。今又按《灵书正经》本文经云，天尊言此四章并是四天帝王度命妙品，四方正土，偏得法音。其《东方品章经》云：九气青天东华宫中，青童大君封以青玉宝函之中，印以元始九气之章。其《南方品章经》云：南方三气丹天朱陵上宫，南极上元君封以赤玉宝函之中，印以太丹三气之章。其《西方品章经》云：西方七气素天西华宫中，西王母封以白玉宝函之中，中以太素七气之章。其《北方品章经》云：北方五气玄天元始北上宫中，玉晨大君封以玄玉宝函之中，印以太玄五气之章。即明东方而称东

华，南方而称南极，西方而称西灵，北方而称北真。上即明北真而处三界之上，最上之天。四天帝主下通一天，四序生化，非是一天五斗之位也。今按《灵书正经》，并是三界之上四天帝主正名正位，未称一天五斗名位。今乃独脱北方，取中为上，不审更上北真天也。比先所错，上下相承，古今疑惑，皆从此起。又寻先师所错，本意者，言三十二天上下重叠，亦为一天。二十八宿，即错将中斗而摄北位，独脱北方，此方以中为上，又中为上亦复是误。言九天初构，上下重叠，亦为一天，比地九宫。言郁单之天上上气上，先立于子而处一宫，即明一宫亦为四梵最上第一天也。若将人身以等于天，头为昆仑，目为日月，上下相合，其义正是。若以身观身、以天下观天下，不及更上头象三界之上，四人四天帝主天也，又乃不及，更上头象三清之上，玉京之山大罗天地，故《大洞隐注经》云：昆仑山上接九气，以为璇玑之轮，在太空之中。中斗既在昆仑山上，即大罗天阙亦在玉京山上也。《生神经》云：飞仙翼于琼阙，四宰辅于明轮。既在三界中斗之上，即大罗天关、玉京琼阙亦在玉京山上也。又明一天三界应位，上下重叠，比地既殊，取上为下，上下失科，四天帝主阙而不述，东华、南极、西灵、北真，境界不论，何处别立？

### 中四天

《三界图》云：三十二天四傍并，分列四方，一重四天，积气相承，扶摇而上，其天独立，亦无八方。未审此由，有何气候？若无八方，则无比地九宫；若无正中，则无中斗。上无



九气，下无八方，三十五分、八景何来？人身之中尚有三一、三元，九宫一体，即是帝一、太一帝君等神，岂云三界而无三元三十六帝？若三界正中既无三一，人身三一从何而来？比先学者唯见《隐注宝诀经》云，玄阶与扶摇台在东北方癸地，名为玄天也，言天阶发起于扶摇台，羊角边周，仍登梵行入三清也。既睹此经，错将三界四天傍并，其扶摇台既在东北方癸地，未审三界总在东北方癸地，如不以此，并是错，误注经也。今言扶摇者，三十六天上下相承，中为天关，皆为中斗璇玑，四方二十八宿渐次升上，故言扶摇，故云玄阶与扶摇台在东北方玄天也。又明上下三十二天皆有七宿璇升，四方亦言四天也。今言四天者，东方有九气青天，南方有三气丹天，西方有七气素天，北方有五气玄天。四方四天，故言四天，非是天外更别四天也。故《度人经》云：旋斗历箕，回度五常，三十五分，总气上元。又明三十六天每一天中皆有七宿三十二帝。其太皇黄曾天位居箕宿，皆在东初；又贾奕天斗宿，皆处北末，故云旋斗历箕，回度五常，则明三界三十六天，皆有中斗璇枢，四方二十八宿，各为一天璇玑、玉衡。此是二十八宿上下扶摇，上通三清，上下天关，非是别天羊角而上，故明三元各主八方。天有九气，上下九宫合中宫位，始名三界也。若三界之内三十二天亦列四方四傍并，上下天关九宫何在？比地九宫亦无次序。故明一天三界有异也。《河图》、《五炼》等经，说一天二十八宿，四七相并，以为三界，二十八天馀有四星，上在中斗，亦将三界四七相并，傍上列位以为玄围，而安三界二十八天，馀上四天上为四人，一处傍比列位，不审一天二十八宿上通三界二十八天，上合四人三十二位，傍并不同，大小有异。今言一天比地四天者，《真人口诀经》云：中斗之中，五斗位者，阳明为东斗，丹元为南斗，阴精为西斗，北极为北斗，天关一

星以为中斗。上及玄冥，真人以为一天三十五分，上及上元天帝，合为一天三十六位也。言上界四人等位者，今按《赤书》及《九天谱》等经云，三十二天上下相去，各有气数，上及四梵合为三界三十六帝，不同一天四方傍并也。

《三清图》云：将以玄、元、始三气，以为三境三天。又以《生神经》九天乃于三天之下，各并著三天。又以四方三十六天而取二十七天，各于九天之下各并著三天，一单三并以为九天。未审九天各生八方，上下应会，何所分立？故《大洞经》云：玄元始三气各生八方，而为二十四帝；九宫各生八方，而为七十二宫。即明《生神》九天无有一单三并，九气天关，上下不应，言三洞生化，故立三光，三乘各三，故立九帝，九气分化，各生三天，故为三境三十六天也。若以九天各于三天之下一单三并，上下重叠，唯有六重之天，天若积阴，亦任六重，天既积阳，即合九重，如何九品二等不同？上下九宫其天何在？故《赤书》经云，天有九分之关，转轮三气，九度明焉。故明三元九天，九重是也。故《道德经》云：道生一。一是元气，一是应化元始天尊也。于此妙一而生三洞。故《灵宝五符经》云，三洞以为天尊三公天也。三生九气，九气以为天尊九卿天也。又此九气各生三天，故立三九二十七位，故此二十七位上为天尊二十七大夫天也。欲此二十七位上合九天三元，各有一十二位，合为三洞三十六天也。此言三清降生三界，各于八方以下而生五亿五万五千五百五十五亿等，比地无极三界各禀三清，皆承此象，上下重立，是其义也。

今言傍并者，别有一义。故《洞真回元九道飞行羽经》云：三清天中而有三万六千天公卿等品，并各有官僚公卿大夫侯伯，置署如一，更相管统，降生三界，遍备天人，皆禀此气，各禀至道妙一之分。三公、九卿、二十七大夫、八十一元士、

百二十郡、千二百县、万二千乡、三万六千亭，同禀此气，或单或并，以为生神万象之主也，非是九天傍次分列也。三界图书相传为错者，言三清九气降为三界一天，气馀九色。又杂也，言三清九气各成一天，降为三界，上禀本气，未经说五色共成，故《灵宝经》云：上从大宝，初降妙一，始生于元，元生于玄，三生万物，莫不相承也。又按《九天生神》及《玄门论》等经云，始生于混沌，为苍色，而成郁单无量天，下生三天上圣三品之位；复次混生于洞，洞为赤色，而成上上禅善天，下生三天中圣三品之位；复次洞生于浩，浩为青色，而成梵监须延天，下生三天下圣三品之位；复次元生于旻，旻为绿色，而成寂然兜术天，下生三天上真三品之位；复次旻生于景，景为黄色，而成不骄乐天，下生三天中真三品之位。复次景生于遁，遁为白色，而成洞元化应声天，下生三天下真三品之位；复次玄生于融，融为紫色，而成灵化梵辅天，下生三天，上仙三品之位；复次融生于炎，炎为碧色，而成高虚清明天，下生三天中仙三品之位；复次炎生于演，演为乌色，而成无想无结无爱天，下生三天下仙三品之位。故此九气，九色光明，上为三境三十六天也。三境降气，三界方生，各于三清八方已下降生三界五亿等天也。故《九天谱经》云：上从梵行太清之天，三境九气降为三界，天各一色，上禀气生，未见五色，一时混杂也。今所错者，亦可知委。故《诸天内音经》云：三十二天皆以五合之气而成，空洞结而成章者，此是五篇真文，生成五方，通为五行，合为五脏，混为二仪，四序生化，此应五方五合所育也，非关九气混为五色，今以五色合为云气，相参盘郁，是其错也。

#### 后四天

旧说四梵名为四民之天，今按《九天谱经》云，三界应化三十二天，上从梵行太清天中，气渐流降，始生于混，混为苍色，而生二万二千气，其色苍，气澄凝而成贾奕天，即明贾奕天是四民最上初天，即明四民非是太清四梵四天王天也。今言帝王者，统领八方，始名帝位，不审太虚无上常融天、太释玉隆腾胜天、龙变梵度天、太极平育贾奕等天，乃是一天，北方五气玄天，光同四方，比地各为小八天也。故明三界三十二天，上下重叠，三元品生，亦为一天，分别四方，各属四正，四九列位，及其分应，上下相临。故东方九气青天，上为三界东华天也；南方三气丹天，上为三界南极天也；西方七气素天，上为三界西灵天也；北方五气玄天，上为三界北真天也。《五符经》云：升为五云，化为五气。又按《灵宝经》云，五篇经文生天立地，普植神灵，上为三境之玄根，标天地以长存，镇五气于灵馆，制劫运于三关。即明五篇经文上为三清之上四天王位；中为三界四天帝主，应为太清梵行四天，而为四八三十二帝八天生主；下为一天二十八宿三十二帝。又为比地各列四方，四九列位。又为一天五方净土。故按《上清经》及《玄门论》等云，三界之上而有八清天名，三清降气下生三界。今按八清天内而有太清天名，重明太清梵行之天而生四民贾奕、龙变、太释、常融等四天也。故《法轮经》云：超度过三罗八难，于是名灭，度如脱胞，旷朗睹八清也。朗明四梵而处三清之下，四民三界之巔，上为八清之天，三界劫周二十八天，已上八清四民等八天终无劫坏，故名三界八清天也。

或云，三界之中从此天上，自有华光，不假日月，自然明朗。此是讹言，妄为大语，各自审明，取证即解。何者言三清三界？凡圣降差，有无不同，动静各异。欲界六天，六欲见生；次上色界一十八天，在下六天舍欲爱色，次中六天渐舍色乐，

又上六天色心随净；次上无色，由四轻尘色声香味出于触体，渐舍心识，有待都忘，升虚入无，出生灭境也。言三清上境妙化难思，九色宝光不假日月，无有昼夜，亦无去来，言三界之内假合成身者，《洞真经》云，天有一气，则五气生焉。五篇真文，附合生体；两半相合，以为生身；以身为宅，心为主人，以神为本，神感应生也。故明神托五气共合为识，又明神合阴阳以为魂魄。若人六识清静，感生六慧；六欲烦浊，耽入六尘。故此生身命终之后，魂阳归天，魄阴归地，自守魄骨以为尸主，生时罪福，并以神当，神更托生，别感诸气，四生六趣，应感俱然，上天下地，清浊有异，应化三界，并感阴阳，既感阴阳，宁无日月？若是仙家道品，自有仙光，不假日月，神通明朗，三界见著，色欲染尘，二景共滋，日月皆有，并具昼夜，三光齐临，二十八宿璇玑不定，宿有时转，天有劫期，上下数交，百六运会。今按《灵宝九天生神经》云，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受生成，则明三界皆有日月也。

又按《玄妙经》云，于此界外，八方世界皆上有罗天，重重别置，日月五星、二十八宿，亦与南天下宛利同，无异也。又按《玄门论》及《大洞经》云，九天真人呼日为“濯曜罗”，三天真人呼日为“圆光蔚”，太素天中呼日为“眇景皇”，上清真人呼日为“九曜生”，泰清天中仙人呼日为“太明”，太极天中呼日为“圆明”，玉贤天中呼日为“微玄”，东华真人呼日为“紫曜明”，亦名“圆珠”，亦谓“始晖”，亦谓“太明”，亦谓日名“郁仪”，亦谓月名“结璘”，亦生人首上为眼目。故《玉京山经》云，俯仰存太上，华景秀丹田，左顾提郁仪，右眄携结璘。普明天人皆有眼目，三界日月亦同人目也。

《三界图》云：其天中心皆有昆仑山，又名“须弥山”也。其山高阔，傍障四方，日月绕山，互为昼夜。日在东方于遯境

界，日正中时光及南方，浮利境界以为日出；日在南方于正中时，耶尼境界以为日出；西方日正中时光及北方，郁单以为日出；日在北方于正中时，东方境界以为日出者，今虽四序合宿，是同冬夏二至昼夜不等，日若绕山，四方合停，出没既异，则无山隔，今以形象难诘，或详日出处即有映体，东方日中，南即渐明，南方初出，日既映山，其日合如立竖半镜，今泰山上而有日观，遥望日初出在于地中，其状形如横出半镜，以望初出非映山也。若其日出之处即是须弥，其山不高，不能映日，即知日出在地中也。故《易证》云：爻也者，效也；效也者，象也。象效于天，以为爻象也。故日在地下，“明夷”之卦为日，处夜阳降阴升也。日出地上，阳升阴降也，故地上有日，“晋”卦是也。故在午后，日祇之丛刊本、四库本、辑要离，不鼓缶而歌，阴生阳降也，言阴阳璇玑，昼夜递兴，日直绕山，证何律吕？日若绕山，璇玑须停，四方度量，何为不等？言二月、八月昼夜各中，馀月长短南北互差。故月建在子冬至之分，日极于南，昼短夜长，日出于巽，日没于坤，从左行而至于巽，历于夜分，西北东方三方天下一十九位，分为五更，皆处于夜，昼以巳午丁未等以为昼日，即明夜统西北东方三方，天下皆处于夜，唯独南方以为昼日，即明日月非隔山也。又月建在午夏至之分，日极于北，夜短昼长，日出于艮，日入于乾，从艮左行而历昼位，东南西方一十九位，三方天下以为昼日，唯独北方亥壬子癸丑等五辰而处于夜，重明日月非隔山也。又明夏至之日出没艮乾，东南西方三方天下一时为昼，冬至之日出没巽坤，西北东方三方天下一时为夜。日既绕山，四方互明，未审此节日映山不？又明夏至之日，日出于艮，日入于乾，其昆仑山合近于子，日既远山，不合更远，何故起难为日映山也？其昆仑山向北百千万里则非东方，日正中时南方卯地以为日出

也。又明月建在子，冬至之日，日出于巽，日没于坤，其昆仑山既是映日，即合移就南方在于午分，其此土人不是南方，即合住在昆仑山北，其山既是天心，不移即明日月非映山也。又明一年四时行焉与日月合宿，以定律吕，故一月建寅，寅与亥合，其神徵明者，徵召万物，而明月建在卯，合宿天魁；月建在辰，合宿从魁；月建在巳，合宿传送；月建在午，合宿小吉；月建在未，合宿胜先；月建在申，合宿太一；月建在酉，合宿天刚；月建在戌，合宿太冲；月建在亥，合宿功曹；月建在子，合宿大吉；月建在丑，合宿神后；十二月建合宿行神，璇玑玉衡，以定四序，四方七宿，日夜互更，即明一天律吕同则南方律吕也。普天既同，四方同天，不合山隔也。后宣八景，三光同兹，五篇真文，二象通应，具在玉京流光品中，问宣经理，答申应用也。

或有胡人摩尼珠，说皆托一物百六数期，三清八景，降气通生，西戎即序，全无分晓。或云言此天是属于地住，或云杂报世界，故近则不入六欲之天，远则不在三界二十八天之数。次上太皇黄曾天上人者，始名欲界，最下天也。下愚小解因述便答，三界之内，三元通生元各十二，共三十六位。一天三界，上象俱然，四梵八清，下通元气。既云地住，别号谁天？杂报世界，何气寄立？次上璇玑，下摄何方？下地杂报，上属何天？夫言天者，在上，巔也。在上广覆，谓之天也，在下厚载，谓之地也。言天上天下，上下咸差，一天之中，上属玄枢，一天之上更属上象。此天即是太皇黄曾天中人也。言三界之内五种感生虽同，一天善恶两种，所感杂报命短无，上品仙家寿九百万岁。五方净土皆定寿年，洞室虚宫上下不等，诚仙棋暂玩，柯烂樵人，或二日逢仙，则经二百馀岁，诸仙人寿具显，后章唯此，下地净秽，两别远明，三清升降元气，下生三界法象，

降成真仙圣位，各备修科，虽居三界，仙道原深。故《消魔经》云：三清上境三十六天，下备三界三十六帝，其三界劫尽，被劫火所烧，其三洞仙家不觉有火也。故明杂报世界善恶同天，善者福寿遐年，恶者浊辱短促。净秽二土，咸备一天。博地下方亦有上道。先标前错一十二条，审而观详，他义总晓，请详图录，入道机要，次后显章，具明前疑。

#### 四梵三界三十二天

太上曰：第一欲界六天：一曰太皇黄曾天，二曰太明玉完天，三曰清明何童天，四曰玄胎平育天，五曰元明文举天，六曰七曜摩夷天。

右欲界六天，有色有欲，交接阴阳，人民胎生。是故举其重，因名为欲界。

第二色界一十八天：七曰虚无越衡天，八曰太极蒙翳天，九曰赤明和阳天，十曰玄明恭华天，十一曰曜明宗飘天，十二曰竺落皇茄天，十三曰虚明堂曜天，十四曰观明端静天，十五曰玄明恭庆天，十六曰太焕极瑶天，十七曰元载孔升天，十八曰太安皇崖天，十九曰显定极风天，二十曰始黄孝芒天，二十一曰太黄翁重天，二十二曰无思江由天，二十三曰上揲阮乐天，二十四曰无极昙誓天。

右色界十八天，云其界有色无情欲，不交阴阳，人民化生。但絳香，无复便止之患，故曰色界。

第三无色界四天：二十五曰皓庭霄度天，二十六曰渊通元洞天，二十七曰翰宠妙成天，二十八曰秀乐禁上天。



右无色界四天，云无复色欲。其界人微妙无色想，乃有形，长数百里而人不自觉，唯有真人能见，故曰无色界。

四梵天元始曰：二十九曰常融天，三十曰玉隆天，三十一曰梵度天，三十二曰贾奕天。

四天之上则为梵行。梵行之上则是上清之天，玉京玄都紫微宫也。乃太上道君所治，真人所登也。自四天之下，二十八天，分为三界，一天则有一帝王治其中。其天人皆是在世受持智慧上品之人，从善功所得，自然衣食，飞行来去，逍遥欢乐。但死生之限不断，犹有寿命，自有长短。下第一天人寿九万岁，以次转增之。

## 卷二十二 天地部二

### 总说天地五方

《外国放品隐元内文经》云：天地五方，皆有制御刚柔之色，使不得落。其地深二十亿万里，得润泽。润泽下二十亿万里，得金粟泽。金粟泽下二十亿万里，得金刚铁泽。金刚铁泽下二十亿万里，得水泽。水泽下八十亿万里，得大风泽。大风泽下五百二十亿万里，乃纲维天地，制使不陷，如今日月星辰，为风所待也。学者不知地下之境润色深浅，即五帝不过兆身于外国之境也。

东方弗于岱，九万里之外，极豪林之墟。其国音铭呵罗提之国。国地形正员，土色如碧脂之鲜，无有山阜，广狭九十万里。其国人形长二丈，寿四百岁。国有六音之铭，是高上始气置于外国胡老之品。高上恒吟歌其音，以化胡老之人，令知外国有不死之教。其国人皆行礼而诵其音，是得四百岁之寿，无有中天之命。上学之士知外国地色，恒吟咏六品之音者，则致胡老仙官卫兆之身。九年，自然得游呵罗提之国，与胡老交言，变化飞空，游行东极之境也。

南方阎浮利，三十万里之外，极洞阳之野。其国音则铭伊沙鹍之国。国地平博，无有高下，土色如丹，广狭八十一万里。

其国人形长二丈四尺，寿三百六十岁。国有六音之铭，是高上置于外国越老之品。高上恒吟歌其音，以化越老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，而诵其音，是得三百六十岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏六品之音者，则致越老仙官卫兆之身。九年，自然得游伊沙鹞之国，与越老交言，变化朱宫，飞行南阳之境也。

西方俱耶尼，七十万里之外，极浩素之垄。其国音则铭尼维罗绿那之国。国地形多高垄，与天西关相接，土色白如玉，广狭六十八万里。其国人形长一丈六尺，寿六百岁。国有六音之铭，是高上置于外国氏老之品。高上恒吟歌其音，以化氏老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，诵咏其音，是得六百岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏修行，则致氏老仙官卫兆之身。九年，自然得游尼维罗绿那之国，与氏老仙官交言，能飞行玄虚，游戏浩素之垄也。

北方郁单，五十万里之外，国极朔阴之庭。其国音则铭旬他罗之国。国地长流平演，土色黑润，广狭五十八万里。其国人形长一丈二尺，寿三百岁。国有六音之铭，是高上置于外国羌老之品。高上恒吟歌其音，以化羌老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，而诵咏其音，是得三百岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏修行，则致羌老仙官卫兆之身。九年，自然得游旬他罗之国，与羌老交言，飞行玄虚，游宴朔阴之庭也。

上方九天之上，清阳虚空之内，无色无象，无形无影，空洞之铭元精青沌自然之国。以青气为世界，上极无穷，四覆诸天，则高上玉皇万圣帝真受生之根元，寿命无量，惟劫为年。其空洞之内亦有六音之铭，则元始置于真皇自然之品。高上吟歌其音，以延群仙，令知玄空有无量之真。其国玉皇万圣帝真

皆行礼，悉吟咏其音，是得无量之寿。学者知空洞之色，吟咏修行，则致三元下降，五帝诣房，授兆灵音。九年，则得乘驾浮云，上造玉清太空之中也。

中国，直下极大风泽，去地五百二十亿万里，纲维地源，制使不落，土色如金之精。中国音则铭太和宝真无量之国。中岳昆仑即据其中央。诸天之别，上有玄圃七宝珠宫，与天交端上真飞仙之馆。中国周回百二十亿万里。其国人形长九尺，皆学导引之术，寿一千二百岁。国有六音之铭，是高上置于中国之品。高上玉皇帝君悉吟咏其音，以化中国伧老之人，令知其国有不死之教。其国人皆修上清之道，行礼诵咏，是得寿一千二百岁，无有横夭之年。学者知中国地色，吟咏修行，则伧老仙官卫兆之身。九年，自然与伧老交言，玄察太空，飞行上清。

### 九地三十六音

诸天内铭、九地三十六音，以元始同存空灵，建号结自然之名，表于九玄，演流外国三十六音。如是天地各有三十六分。天则有三十六天王，以应三十六国；地则有三十六土皇，以应三十六天。天王典真，土皇主仙。为学不知天之内音，则天王不领兆名；不知地下之音，土皇则不灭兆迹，闭不得仙。有见其文，受其诀音，天王玄鉴，七圣刻篇，西龟定录，东华书名，土皇灭尸，落迹九阴，保举上清，五灵敬护，十界扶迎，周流六国，平灭群凶，五兵摧伏，天魔束形。九年，乘空飞行上清。真道高妙，不得妄宣。轻泄宝音，七祖充责，已身殒亡；三涂

五苦，万劫不原。上真之士，慎科而行。

### 朝礼诀法

诸天王恒以八节及月朔之日，游观无崖，历戏云房，逍遥玉清，流眄十方。于明霞之上，恒咏诸天内音飞玄之章，上庆天真，内欢神衿；玉响虚朗，琼韵合音。当北之日，五老浮位，九帝临轩，四司鉴试，五帝卫灵，众真齐唱，万仙礼音；三光停晖，七元焕明；山海静波，诸天肃清；八素散华，四皇拂尘；灵风扬香，绿霞吐津；天元溟滓，玉虚含欣；朗朗高清之馆，渺渺太漠之中，洞虚入微，周览无穷。有得其道，与帝结朋。勤诵其章，位准仙王。德同诸天，寿齐三光。

凡学上仙之道，志登玉清，奉礼帝尊，而不知三十六天之音飞玄之章，则三十六天王不领兆名，徒为精勤。天不降真，四司不敬，五帝不迎，天魔侵真，终不成仙。欲飞行玄虚，游晏五岳，而不知九地三十六土皇内名，则九阴不落兆尸，九地不灭兆迹，徒劳幽山，望飞反沉。欲行此道，每至八节月朔日，沐浴清斋，入室烧香，朝礼诸天。北向叩齿三十六通，微咒曰：兆臣甲乙，志慕神仙；八庆之日，朝礼天尊；上愿腾景，乘空落烟，飞超玉清，洞游诸天；中愿变形，致五神升入月门，仰啜八鸾，石景水母，玉胞飞根，长披朱日，与光同存；下愿四极，授我口言，西华侍卫，役使金晨，携提五老，八景同轩；上庆交合，五愿开陈；得如所愿，体合自然；真灵下降，赐登上仙。毕，便六拜，仰咽六气；次西向六拜，咽六气；次南向六拜，咽六气；次东向六拜，咽六气；次西北六拜，咽六气

；次东南六拜，咽六气；合六方三十六拜，朝三十六天。毕，还北向平坐。咏三十六天飞玄之章一遍，竟，又六拜六咽气，都止也。此高上朝三十六天上法。行之九年，天降云舆，三光诣房，书名玉清，刻简青宫；四司右列，十界敬迎；乘空飞行，上升玉晨。其法高妙，不得妄宣。轻泄宝文，七祖充责，身役鬼官。长闭三徒，万劫不原。

### 高上九玄三十六天内音

第一无上元景无色郁单无量天英勃天王，姓混（讳雾網罗）

。

第二无形清微天化升天王，姓冯（讳堤阿沙）。

第三无精波罗褥天玄黑天王，姓云（讳奎零）。

第四入色水无量亿罗天飞宗天王，姓王（讳阿卫）。

第五无极洞清上上禅善无量寿天云罗天王，姓𠂔升??（讳漾網扑）。

第六玄微自然上虚禹馀天梵咽天王，姓罗（讳彼犁荼）。

第七玄清上无那首约诤天玄那天王，姓梵（讳摩首波）。

第八梵行上清气稽那边净天云携天王，姓騫（讳首苛）。

第九无穷洞虚极上须延天回摩天王，姓泽（讳 芑罗）。

第十玄梵玉虚无精气罗迦净月天云阿天王，姓周（讳阿迦须）。

第十一气玄元达上灵赤天重慕天王，姓丹（讳清净 央）。

第十二大梵玄无气离 行如天世毕天王，姓周（讳分若）。

第十三无极上灵玉虚玄洞寂然天家王天王，姓津（讳漬裏）。

- 。第十四宝梵无色上真气潘罗玄妙天云持天王，姓随（讳黎沐音）。
- 第十五飞梵行真上玄答谩福德天部利天王，姓王（讳惟钵离）。
- 第十六云梵流精中元近匡际淳天世良天王，姓朱（讳梨藹）。
- 。第十七玄上洞极无崖不骄乐天流芬天王，姓凝（讳{ 须}霍{ 持}）。
- 第十八大梵玄青元精答 近际天元深天王，姓阿（讳明秀）。
- 。第十九行梵紫虚上元首带快见天洞干天王，姓刘（讳且扇）。
- 。第二十虚梵上清化灵须麟结爱天飞衣天王，姓彭（讳移那）。
- 。第二十一上极无景洞微化应声天玉携天王，姓辉（讳     ）。
- 。第二十二大梵九玄中元气阿那给道德天天葵天王，姓捷（讳尼姁）。
- 第二十三行梵元清下灵气须达天总几天王，姓周（讳难首）。
- 。第二十四极梵洞微九灵气须带阿那天九曲天王，姓竺（讳明和）。
- 第二十五无名至极洞微梵宝天□□天王，姓精（讳雾云{ 梓}）。
- 第二十六微梵玄天气带扇给道德天□□天王，姓洛（讳须阿摩）。

第二十七虚梵天气蝉然识慧天□□天王，姓云（讳元隋）。

第二十八空梵中天绩元伊檀天□□天王，姓朱（讳仲生）。

第二十九太极无崖紫虚洞幽梵迦摩夷天世罗天王，姓云（讳）。

第三十绿梵自然识慧入天云九天王，姓迦（讳释文罗）。

第三十一玄梵大行无景无所念慧天宗提天王，姓伊（讳檀阿）。

第三十二天云梵上行维先阿檀天正群天王，姓仲（讳云勋勃）。

第三十三无色玄清洞微波梨答 天□□天王，姓王（讳灵檐）。

第三十四洞微玄上梵气阿竭含那天□□天王，姓桓（讳堕世宗）。

第三十五玄上绿梵灭然天□□天王，姓朱（讳鹞云弥）。

第三十六极色上行梵泥维先若那天□□天王，姓袁（讳员珠）。

三十六天内名生于空洞元气之先，文华表见，题于昆仑之山。高上音其玉文，上相集其妙篇。禀受太空自然之章，上标玄图，中统六国三十六音，下总九地三十六土皇。灵篇洞畅，玉慧虚鲜，皆天王之游歌，空玄之宝章。六六韵合，四四齐真，九帝分号，三十六天，万气总隶，普领群仙。上极无崖无色，下极洞源洞渊。诸为上真飞仙，不禀玉音，则不得游观无崖之天。有得其文，天王书名，刻字紫紫，结录玉晨。三十六年，克得上登无色之天，下洞九地之源。上妙之道，不传下仙。轻泄宝音，七祖充责，身负刀山，三徒五苦，万劫不原。



洞渊九地三十六音内铭

- 第一垒色润地正音土皇，姓秦（讳孝景椿）。  
第一垒色润地行音土皇，姓黄（讳昌上文）。  
第一垒色润地游音土皇，姓青（讳玄文基）。  
第一垒色润地梵音土皇，姓蜚（讳忠阵星）。  
第二垒刚色地正音土皇，姓戊（讳坤文光）。  
第二垒刚色地行音土皇，姓郁（讳黄母生）。  
第二垒刚色地游音土皇，姓玄（讳乾德维）。  
第二垒刚色地梵音土皇，姓长（讳皇萌）。  
第三垒石脂色泽地正音土皇，姓张（讳维神保）。  
第三垒石脂色泽地行音土皇，姓周（讳伯上仁）。  
第三垒石脂色泽地游音土皇，姓朱（讳明车子）。  
第三垒石脂色泽地梵音土皇，姓庚（讳文敬士）。  
第四垒润泽地正音土皇，姓贾（讳云子高）。  
第四垒润泽地行音土皇，姓谢（讳伯无元）。  
第四垒润泽地游音土皇，姓已（讳文秦阵）。  
第四垒润泽地梵音土皇，姓行（讳机正方）。  
第五垒金粟泽地正音土皇，姓华（讳延期明）。  
第五垒金粟泽地行音土皇，姓黄（讳龄我容）。  
第五垒金粟泽地游音土皇，姓云（讳探无渊）。  
第五垒金粟泽地梵音土皇，姓蒋（讳通八光）。  
第六垒金刚铁泽地正音土皇，姓李（讳上少君）。  
第六垒金刚铁泽地行音土皇，姓范（讳来力安）。

第六垒金刚铁泽地游音土皇，姓长（讳李季元）。

第六垒金刚铁泽地梵音土皇，姓王（讳驷女容）。

第七垒水制泽地正音土皇，姓唐（讳初生映）。

第七垒水制泽地行音土皇，姓吴（讳正法图）。

第七垒水制泽地游音土皇，姓汉（讳高文彻）。

第七垒水制泽地梵音土皇，姓京（讳仲龙首）。

第八垒大风泽地正音土皇，姓葛（讳玄升先）。

第八垒大风泽地行音土皇，姓华（讳茂云长）。

第八垒大风泽地游音土皇，姓羊（讳真洞玄）。

第八垒大风泽地梵音土皇，姓周（讳尚敬原）。

第九垒洞渊无色刚维地气正音土皇，姓极（讳无上玄）。

第九垒洞渊无色刚维地气行音土皇，姓升（讳虚元浩）。

第九垒洞渊无色刚维地气游音土皇，姓赵（讳上伯玄）。

第九垒洞渊无色刚维地气梵音土皇，姓农（讳勤元伯）。

右九垒之地，极下洞渊洞源，纲维天地，制使不落。上则去第一垒五百二十亿万里，下则无穷无尽，无边无际，皆纲维之气。如是第九垒土皇以三月一日、六月二日、九月三日、十二月四日，一年四过，乘五色云舆，九色飞龙，执中元命神之章，从炁老仙官耀天羽骑万二千人，上诣波梨答天，奏九地学道得仙人名，言于四天之主。

凡学上法，当以其日日入时，入室向太岁，黄书白纸上四土皇内音服之，叩齿十二通，仰存四土皇姓讳，悉著玄黄五色之衣，头戴九元通天宝冠，足著五色师子交交之履，执文身保命之符，乘黄霞飞舆，从五帝玉女三十六人，飞行上升波梨答天。便咒曰：

二象回周，九精洞灵，皇老应符，腾虚入清，四通八达，飞霞紫琼，上登金华，奉对帝灵；记仙元录，青宫刻名，得道

白简，封字七灵；九垒灭尸，东井炼形；三九降真，我道已明；得乘飞景，上登玉庭。毕，心拜九拜，咽气十二通止。行之三十六年，得乘黄霞飞鞚，上升波梨答之天。九地九垒直下九重，合三十六音三十六土皇，上应三十六天，中应三十六国。如是土皇皆位齐玉皇之号，但分气各治，上下之别名耳。土皇三十六年，转号上清之宫，袭三十六天之王。玉司之官于九垒之下，皆举学道得仙之名，上奏九天天王。为学不知九垒地音三十六土皇内讳，九地不灭兆迹，九天丞相不受兆名，五岳不降云舆，五帝不卫兆身，徒明外国之音，故不得緇会而升也。故天、地、人各禀三三之气，三合成真，然后得仙也。

凡知九地之音三十六土皇内讳，则九气丈人恒以四方五色灵官防卫兆身；出入游行，登陟五岳，则仙官侍送，灭魔威试，降致神真。九年飞空，坐在立亡；三十六年上升太清。居世得此文，七玄九祖则为九气命灵，土皇司官，奉卫形骸，抚慰灵魂；蒿里父老，丘丞相掾，皆为驱除；无复拘闭谪役之患。居则在地保安无凶，十二守将营扞八门，通真致神；欲富则富，欲官则官，欲仙则仙，欲神则神。此道秘妙，非可言宣。上相青童禀受高上口诀宝篇，妄泄灵文，七祖充役，万劫不原。

### 登山住止安居审地吉凶法

若欲登山住止及安居宅，审地吉凶，当以戊己之日，黄书九地三十六音文白纸上，置所居中央，以盆覆之，三宿开看。若有黄色润纸，大吉；若有青色，则下有死灵之尸；若有白色，则凶；若有赤色者则惊恐；若有黑色者则主财宝；若有紫色者

得神仙。都不异，则止可三年安，过此必折伤。

### 东方呵罗提国

第一品铭 正音（无夷）。

第二品铭 正音（波泥）。

第三品铭 正音（久难）。

第四品铭 正音（吉罗）。

第五品铭 正音（无思）。

第六品铭 正音（云芝）。

东方去中国九十万里外，名为呵罗提之国，一名日生国。国外有扶桑，在碧海之中。地一面方万里，上有太帝宫，太真王之别治。其上生林如桑，皆数千丈。大者三千围，两两同根而生。有实，赤如桑椹。仙人所啖食，体作金光色。其实皆九千岁一生。又有生洲，在扶桑外，西接蓬莱，地面方二千五百里，去岸二十三万里。上有仙家数万人。地无寒暑，时节温和，多生神仙芝草，食之飞空而行。扶桑东又有祖洲，在东海之中。地方五百里，去岸七万里。上有不死芝草，形状似菰苗，长三四尺，一名养神芝。其叶似菰，生不丛株。食之飞行上清，已死之人，覆之则生。神奇妙药，入其国宜知其名，存胡老仙官采之于祖洲，思其色而服之，三年，面有流光，延寿万年。久久，自然有仙人赍此神物降送于身也。

### 南方伊沙蓐国

第一品铭 正音（盈华）。

第二品铭 正音（玉家）。

第三品铭 正音（握魔）。

第四品铭 正音（耀葩）。

第五品铭 正音（武都）。

第六品铭 正音（飞蒲）。

南方去中国八万一千九百里外，名阎浮黎之外，极洞阳之野，国名伊沙蓐之国，一名火庭天竺之国。国外有长洲，一名青丘，在南海辰巳。地方五千里，去四方之岸二十万里，则生天树，长三千丈，大者二千围。甚多灵药，甘液玉英，无所不有。其上有民，人皆寿三百六十岁。又有灵狐之兽，大者如犬，色如金，叫声响四千里，威制虎豹万禽，得衣其毛，寿同天地。青丘左则有风山，山恒震声，上有紫府宫，天真神仙玉女所游观。又有炎洲，在南海中央，地方二千里，去岸九万里。上有风生兽，似豹，青色，大如狸。积火连天烧之，经月不死，毛亦不然，斫刺不入，以铁锤交锻其头数千下乃死，张口向风，须臾复活。以石上菖蒲塞其鼻即死，取其脑，和菊花服之，寿同天地。又有火林山，山中有火光兽，大如鼠，毛长三四寸，或赤或白。于是夜半望山上林木及此兽，光照如然火。取其兽毛作布，名之火浣布。小污，以火烧之，即鲜白，则伊沙蓐国人所衣。得此毛，仙人降形。学者存其国之音，思越老仙官，三十六年，神人当以此兽及本国神奇之物献送于兆也。

### 西方尼维罗绿那国

第一品铭 音曰（华莲）。

第二品铭 音曰（高轩）。

第三品铭 音曰（明身）。

第四品铭 音曰（土缠）。

第五品铭 音曰（星震）。

第六品铭 音曰（朱天）。

西方去中国六万里外，名俱耶尼之外，极皓素之垄，寒穴之野，则尼维罗绿那之国，一名云胡月支国。国人寿六百岁。国外则有流洲，在西海之南，地方三千里。去东岸十九万里。其上有仙家数万，上有山生昆吾之石。治石成铁作剑，光明照洞如水精，割玉如土。凤麟洲在海中央，地方一千五百里。四面有弱水，鸿毛所不浮。上有仙家数千，凤麟为群。上有吉光之兽，如狸，能作胡语，声如梵音，与其国人通言。兽毛生光奕奕，悉仙人所衣。得衣其毛，寿同天地。学者存其国音、氏老仙官，三十六年，当献送昆吾之剑，吉光之兽于兆也。

### 北方旬他罗国

第一品铭 音曰（玄家）。

第二品铭 音曰（文多）。

第三品铭 音曰（山庐）。

第四品铭 音曰（武都）。

第五品铭 音曰（盈家）。

第六品铭 音曰（玄摩）。

北方去中国五万里外，名郁单，极朔阴钩陈之庭，国名旬他罗之国，一名天镜之国。国人寿三百岁。国外则有玄洲，方七千二百里。四面是海，去岸三十六万里。上有太玄都，仙伯真公所治。有鸞鷟之鸟，如浮气；多丘山，名为风山，与天西北门连界。金堂玉室宫府生金玉紫芝，是三天所治。其外则有元洲，地方三千里，去南岸十万里。上生五芝玄涧，涧水如蜜，饮之与天地同年。中有三万仙家，悉饮此水，得仙不死。学者存其国音，羌老仙官，三十六年，降献玄涧五芝水也。

### 上方元精青沌自然国

第一品铭 正音（重权）。

第二品铭 正音（玉金）。

第三品铭 正音（三林）。

第四品铭 正音（正精）。

第五品铭 正音（吸铃）。

第六品铭 正音（绿婴）。

上方九天之上，清阳恢空之内，无色无象，无形无影，空洞之铭元精青沌自然之国，一名洞澳清衍之国。以青气为世界，上极无穷，四覆诸天惟有玉虚紫馆结空洞之烟，而虚玄青沌之内也。为学存高上之音，则天人授子飞仙之方。

中央太和宝真无量国

第一品铭 正音（山庐）。

第二品铭 正音（世家）。

第三品铭 正音（嵯峨）。

第四品铭 正音（盈华）。

第五品铭 正音（翟葩）。

第六品铭 正音（罗那）。

中国四周百二十亿万里，下极大风泽五百二十亿万里。昆仑处其中央，弱水周匝绕山。山高平地三万六千里，上三角，面方长万里，形似偃盆，中央小狭，上广。其一角正北，千辰星之精，名曰阊风台；一角正西，名曰玄圃台；其一角正东，名曰昆仑宫。一处有积金为天墉城，面方千里。城上安金台五所，玉楼十二。其北户山、承渊山并其支辅。又有墉城金台、玉楼，相似如一。流精之阙，光碧之堂，琼华之室，紫翠丹房；景云烛日，朱霞九光；西王母之所治。上通璇玑，元气流布五常玉衡，普引九天之澳，灌万仙之宗根，天地之纽，万度之柄矣。上生金银之树，琼柯丹宝之林；垂苏瑚以为枝，结玉精以为实；其树悉刻题三十六国音诸天玉文，上栖紫燕凤鸾、白雀朱鸛、鸛鸡灵鸛、赤鸟青鸛；下则飞禽游兽，与昆仑同生；初无死耗，但玄文宝经隐书古字，有千二百亿万言。在玄圃之上，积石之阴，仙人有九万人，皆停散于灵山。学者恒诵诸天内音外国三十六音、地下九垒之音九年，仙人自当降送灵山之神奇；三十六年，得乘五色云舆，上登昆仑之山也。



## 卷二十三 日月星辰部一

### 总叙日月

《黄气阳精三道顺行经》曰：日，阳之精，德之长也。纵广二千三十里。金物、水精晕于内，流光照于外。其中有城郭人民、七宝浴池；池生青黄、赤、白、莲花；人长二丈四尺，衣朱衣之服；其花同衰同盛。日行有五风，故制御日月星宿游行，皆风梵其纲。金门之上，日之通门也。金门之内，有金精冶炼之池，在西关左之分，故立春之节日，更炼魂于金门之内，耀其光于金门之外，四十五日乃止。顺行之洞阳宫，洞阳宫，日之上馆也。立夏之日，止于洞阳宫，吐金冶之精，以灌于东井之中，沐浴于晨晖，收八素之气，归广寒之宫也。月晖之围，纵广二千九百里，白银琉璃水精映其内城郭人民与日宫同有七宝浴池，八骞之林生乎内；人长一丈六尺，衣青色之衣，常以一日至十六日采白银琉璃炼于炎光之冶，故月度盈则光明。比十七日至二十九日，于骞林树下采三气之华，拂日月之光也。秋分之日，月宿东井之地，上广灵之堂，乃沐浴于东井之池，以炼日魂，明八朗之芒，受阳精日晖，吐黄气于玉池。诸天人悉采玉树之华，以拂日月之光。月以黄气灌天人之容，故秋分是天人会月之日也。

《老子历藏中经》云：日、月、者，天地之司徒、司空也。日姓张，名表，字长史；月姓文，名申，字子光。《太丹隐书》云：紫微夫人姓王，讳清娥，字愈音。云是西王母第二十四女。紫微宫在北溟外羽明野玄垄山，山在昆仑之东北。紫微说阿母言曰：欲存日月气者，当知日月景象：日圆形而方景，月方精而圆象；景藏形内，精隐象中；景赤象黄，是为日月之魂。若知其道，乃可以吐纳流霞耳。

### 三奔录

三奔之道，当按奔景之神经。经中节度，晓夕修行，不得传及非人。如怠慢不专，轻泄漏慢之者，身受冥责，一如经戒。

### 奔日

日中赤气上皇真君，讳将车梁，字高骞奕。此位号尊秘，《经》虽无存修之法，而云知者不死。当宜行事之始，心存以知，不得辄呼。月法亦然。

### 奔月

月中黄气上黄神母，讳曜道支，字玉荅条。其奔月斋静存思，具如日法。

### 奔辰

木春王，火夏王，金秋王，水冬王，皆依历以四立日前夜半为王之始。冬七十二日至分、至日前各王十八日，分、至日之前夜夜半为王之始。有星时可出庭中，坐立适意，有五星中相见者。次当修服之时而出庭中，坐胜于立。可于庭坛向星敷席施按，烧香礼拜讫，正坐而为之。若无星之时，天阴之夕，可于寝室中存修之也。星行不必在方面，亦随所在向而修行，谓五星所在而向之，不必依星本方之面，犹如木或在西也。一夕服五星，常令周遍。随王月以王星为先。若静斋道士，亦可通于室中，存五星之真文、方面而并修之。不闲算术，不知星之所在。又久静长斋者，可常于室中，依五星本位之方面而存修之也。

### 太上玉晨郁仪结璘奔日月图

《太上隐书·中篇》曰：子欲为真，当存日君驾龙骖凤，乘天景云，东游希林，遂入帝门。精思乃得，要道不烦。名上清灵，列位真官。乃执《郁仪文》。《太上隐书·中篇》又曰：子欲升天，当存月夫人驾十飞龙，乘我流铃，西到六岭，遂

入帝堂，精思乃见，上朝天皇。乃执《结璘章》。

### 太上玉晨郁仪奔日赤景玉文、结璘奔月黄景玉章

右奔日月隐道，太上、上清、太极、九皇四真人所宝秘，玄灵元君之玉章也。自非有金简玉名及绿字东华，皆不闻见此二章之篇目矣。行之者先清斋百日，绝交人事，乃可为之也。久久行之，上奔日月，得给玉童玉女各五十人。《太上郁仪赤文》、《结璘黄章》，乃太上玉帝君之灵秘篇也。藏之于九天之房，丹瑤之台，非勤心好真，宿有飞玄天仙之骨录者，英得而见闻也。闻其篇目，皆不可妄言称及，犯者受考三官，天地不赦。初令三百年得宣传一人，却后七百年乃复得一人。若神真宣告有宜授者，传之也。传授之法，皆师友相受，以宗玄科也。授非其人，不遵法度，为泄宣天文也。漏慢违誓，死为下鬼，乃七祖受考风刀之罪。自非同气，宁当闭口。西玄山洞台中有此二经，刻以玉简，书以金字。及王屋清虚天皆有而不备具，唯太玄宫高上台及蓬莱府北室金柱玉壁刻文，并备具也。中宫仙人、泰清诸官并不知此书是何事也。

### 峨嵋山北洞中石室户枢刻石书字

“郁仪引日精，结璘致月神；得道处上宫，位称大夫真（一云帝君真）”凡二十字。下仙见之，甚自不解其意义是何等

事也。如此，仙人自有不见其篇目录者多矣。其金液九丹，盖小术也。皆不得飞行上清。欲行此道，不必贤愚，但地上无此文耳。真官玄法启誓乃传。有得而行，位为上真，乃乘八景琼轮，游行九晨，诣太素宫，见太一帝君，俱朝元晨，故秘言曰：子得《郁仪》、《结璘》，乃成上清之真。不修此道，不得见三元君。

### 太上郁仪日中五帝讳字服色

日中青帝，讳圆常无，字昭龙輶。衣青玉锦帔，苍华飞羽裙，建翠芙蓉晨冠。

日中赤帝，讳丹虚峙，字绿虹映。衣绛玉锦帔，丹华飞羽裙，建丹符灵明冠。

日中白帝，讳浩郁将，字回金霞。衣素玉锦帔，白羽飞华裙，建浩灵芙华冠。

日中黑帝，讳澄增停，字玄绿炎。衣玄玉锦帔，黑羽飞华裙，建玄山芙蓉冠。

日中黄帝，讳寿逸阜，字颺晖像。衣黄玉锦帔，黄羽飞华裙，建芙灵紫冠。

右日中五帝君讳字、服色。欲行奔日之道，当祝识名、字，存五帝服色在我之左右前后。

月中夫人魂精内神名暖萧台嫫。

右月魂配五帝，次又存祝之。能知月魂名，终身无灾，万害不伤。太上藏日、月帝君、夫人讳字于太素宫。有知之者神仙。

### 太上结璘月中五帝夫人讳字服色

月中青帝夫人，讳隐娥珠，字芬艳婴。衣青华琼锦帔，翠龙凤文飞羽裙。

月中赤帝夫人，讳逸寥无，字婉筵灵。衣丹蕊玉锦帔，朱华凤落飞羽裙。

月中白帝夫人，讳灵素兰，字郁连华。衣白珠四出龙，锦帔素羽鸾章飞华裙。

月中黑帝夫人，讳结连翘，字淳厉金。衣玄琅九道云，锦帔黑羽龙文飞华裙。

月中黄帝夫人，讳清营襟，字炁定容。衣黄云山文锦，帔绿羽凤华绣裙。

已上五夫人，头并颊云三角髻，发垂之至腰。

右月中五帝夫人讳字、服色。欲行奔月之道，当祝识名字，存夫人服色在己之左右前后。

日中五帝魂精内神名珠景赤童。

右日魂、月魄、五帝、五夫人，次又存祝之。能知日魂名，终身无疾，万灾不犯。太上藏日、月魂名于紫灵玉宫。有知之者，通神使灵。

存奔日月道者，任意所便行尔，不必尽为之也。欲得静室隐止，唯令日月之晖处也。若不绝人事，与外物相干者，不得行此道也。夜半常烧香，存五帝五夫人名字，心祝曰：

愿与帝君，太一五神，合景如一。于是二十四年，亦白日升天。亦不必行奔存之道也。常存在我之左右，并心祝窃诵，

勿令耳闻。

### 太素真人受太帝君日月诀法

太素真人曰：子存日精五帝君，口含《太上郁仪文》。须此道成，乃见日中君。无此徒劳自烦冤。

太素真人曰：子存月精五夫人，口含《太上结璘章》。须此道成，乃见月中夫人。无此徒劳自悼伤。

右二条太素真人受太帝君诀言《太上隐书》云，存时执之，帝君云含之；太素真人教裴君存时含一文，执一文，并行之也。

太素真人传清灵真人裴君二事《太上郁仪》、《结璘之章》，以致日月之精神，上奔日月通天光，飞太空之道也。皆乘云车羽盖，驾命群龙，而上升皇天紫庭也。《内视中方》曰：子欲步空，当存日月王；欲登清灵，当存五星。密室密行，不出宇庭，此之谓也。《素奏丹符》曰：大哉《郁仪》，妙乎《结璘》，非上真不见，非上仙不闻。以日月五精之神，乘龙步空，足蹑景云，遂与五帝上入天门。有人闻之，慎勿妄言！去世可出，誓金乃传。要传弟子有心之人，勿道篇目，玉童上言；泄则被考，身终不仙；玉女玉童去而弗还，书文必失，获刑三官。子其慎言！言为罪源。

### 大方诸宫服日月芒法

常存心中有日象，大如钱，在心中，赤色。又存日有九芒，从心中出喉至齿间，而芒回还胃中。如此良久，临目存自见心胃中分明，乃吐气、漱液、服液三十九过，止。一日三为之，行之十八年，得道，行日中无影。恒存日在心中，月在泥丸宫。夜服月华如服日法，存月十芒，白色从脑中下入喉，芒亦未出齿而回入胃。

### 太上玄真诀服日月法

东卿司命君曰：先师王君，昔见授《太上明堂玄真上经》。清斋休粮，存日月在口中，昼存日，夜存月。令大如钗。日赤色，有紫光九芒；月黄色，有白光十芒。存咽服光芒之液，常密行之无数。若不修存时，令日月还住面明堂中，日居左，月居右，令二景与目瞳气合通也。此道以摄运生精，理魂神，六丁奉侍，天兵卫护，此上真道也。大都口诀正如此。

### 服日子三五七九玄根气法

食玄根之气法，使人体中清朗，神明八聪；身有日映，面有玉泽；眼生明光，齿含紫气；坚肠华藏，长生久视；服吸朝液，悬粮绝粒。道要于金液，事妙于水玉。所谓吐纳自然之太和，御九精之灵气者也。夫道之为用，贵自然也；德之为静，尊恬愉也。摄自然以表真，抱冲漠以不邪者，则横犯不生，非



害自灭。此乃三五七九之气，可谓要道之旨也。

兆卧未起之时，存口中有一白气，大如鸡子黄；鸡黄之外，又有五色气；五色气宛转自生，结溢黄外，须臾乃满心口中，名曰三五七九日子玄根之气也。又存心胃口之中有一女人，如婴儿之形，无衣服也。正立胃管门口，号曰九天玄女。承注魂液，仰噙口中鸡子黄之五色气也。常漱满口中，内外上下，以舌回吸日气五色津液，满口吞之。存使津液下入玄女之口，如此三过。毕，又叩齿三通，微祝曰：

玉清高上九天九灵，治在玄府，下入胃清；金和玉映，先自虚生，名曰淳钅，字曰艳精；炼魂抱魄，心开神明；服食日子，金华充盈。良久都毕，以手拭两目二七，又以两手相拭，极力摩面眉目之间，鬓肤之际小热，使薰薰然也。此太上服三五七九日子玄根之道也。

### 服日月气法

服日气之法，以平旦采日华，以夜半存之，去面前九寸，令方景照我泥丸，下及五藏，洞彻一形。引气入口，光色慰明。良久乃毕，则常得长生矣。

### 又法

夜半生气时，若鸡鸣时，正卧闭目，存左目中出日，右目

中出月，并径九寸，在两耳之上。两耳之上名为六合高窗也。令日月使照一身，内彻泥丸，下照五脏肠胃之中，皆觉见了了，洞彻内外；令一身与日月光合。良久毕，叩齿九通，咽液九过，乃微祝曰：

太上玄一，九皇吐精，三五七变，洞观幽冥；日月垂光，下彻神庭；使照六合，太一黄宁；帝君命简，金书不倾，五老奉符，天地同诚；使我不死，以致真灵；却遏万邪，祸害灭平；上朝天皇，还老反婴；太帝有制，百神敬听。毕，乃开目，名为日月练根，三元校魂，以制御形神，辟诸鬼气之来侵，使兆长生不死，多存之矣。

### 又法

又存左目为日，右目为月，共合神庭之中，却上入于明堂，化生黄英之体，下流口中九咽之，以哺太一，常以生气时存之。毕，微祝曰：

日月上精，黄水月华，太一来饮，神光高罗；使我长生，天地同柯。毕，五日一行之。口中舌上为神庭。存日月既毕，因动舌，觉有黄泉如紫金色，从舌上出，上流却入明堂，为黄英之体也。存思之时，常闭目施念。

### 太一游日服日月法

太一常以甲午、丙午、戊午日日出时，下游绛宫，合形真人及兆身。绛宫真人者，处心中之丹田，中元真人居其心中也。先存思真人忽然与太一合形，又存我入绛宫中，忽然复与太一合形。于是绛宫之中，惟觉有太一之身，身形象服如兆体也。但令形细眇然，似初生孩子之状。又存两鼻孔下左有日，右有月。日中有黄精赤气，月中有赤精黄气。精者，二明之质；色气者，日月之烟也。二气郁郁来入绛宫，绛宫溢满二气，复上入洞房中，洞房中郁满，又下至黄庭中。黄庭中者，脐下三寸、下丹田宫中也。二气既满，又入填溢太仓中。二气洞彻，郁郁积胃管中。存太一上行正当胃管中，南向呼召下元丹田黄庭真人，衣黄衣，巾黄巾，与太一共坐饮食精气，二十七咽。良久毕，存黄庭真人，咒曰：

日月之华，黄赤二精，圆光合气，上发大明。三元饮食，太一受灵。又存太一与中元真人还入绛宫，黄庭真人还下丹田，太一与我合形，还六合宫。

### 求月中丹光夫人法

求仙之道，当以夏至之日夜半，入室南向，眠坐任意，闭眼内思月中丹光夫人姓讳，形长八寸，分头作颧云之髻，著丹锦裙，口衔月光，入兆身心绛宫之中，须臾月光散为黄气，币降一形。夫人在月中央，采空青之林散拂黄气之中，口吐阳精赤气，以灌兆形。从向币外，黄赤二气更相缠绕，洞映一身。夫人以紫书丹字六音授于兆身，便引黄气二十四咽，引阳精十二咽，止，即叩齿二十四通，仰咒曰：

流火万顷，洞阳之精，阳安之馆，三华玉城；金仙内映，八素四明；九曜降气，上仙高灵；夫人焚香，散玉华清，丹书紫字，结音空清，澜池玉润，流丽八溟，朱光流翳，普天鲜荣，回晨曲曜，映监我形；形与朱日，同死同生；乘空驾虚，参御飞骈；玉女弼位，金童辅灵；翠羽轻盖，上造帝庭。毕，咽气二十四过，咽液十二过，止，便服紫书丹字。行此道八年，夫人授兆丹书真文、月中玉珰，令飞升上造洞阳之宫。

### 服日月六气法

夫气者，神明之器，清浊之宗。处玄则天清，在人则身存。夫死生亏盈，盖顺乎摄御之间也。欲服六气，常以向晓寅丑之际，因以天时告方面之时也；太霞部晖，丹阳诞光，灵景启晨，朱精启时之始也。先存日如鸡子在泥丸中，毕，乃吐出一气，存气为黑色，名之尸气；次吐二气，为白色，名之故气；次吐三气，存气为苍色，名之死气。思其气吐亦良久也。凡出三色，合吐六气也。毕，又徐徐引纳黄气四过。毕，辄咽液三过，为之三。毕，乃存泥丸中，日从目中出，当口前，令相去九寸，临目仿佛如见之。覆止，乃起坐，动摇四体，俯仰伸引，令关脉调转。存咽津，佳夜即存月在泥丸中，如存日法。若存月，当以月一日夜至十五日住，从十六日至三十日，是月气衰损，天胎亏缩，不可以夜存也。此法至妙，能行者仙。

### 金仙内法

金仙内法，感降灵瓢，常以月五日夜半子时存日乌从兆口入，住在心中，使光照一心。一心之内，与日同光，共相合会。赫赫炯炯，当觉心暖，霞晖映暖，良久有验，乃密咒曰：

太明育精，内练丹心，光晖体合，神真来寻。毕，咽液九过，叩齿九通，止，到十五日、二十五日、二十九日复作如前。一月之中四度，如上使人开明聪察，百关解通，万神洞彻，面有玉光，体有金泽。行之十五年，太一遣宝车来迎，上登太霄，游宴紫极。行之务数，不必一月四辰也。

### 存思日月法

凡入山，思日在面前，月在脑后。凡暮卧，思日在面上，月在足后；赤气在内，白气在外。凡欲从人，各思日月覆身而往，当无所畏。

### 向日取嚏法

欲得延年，洗面精心（至日更洗漱也）。日出二丈，正面向日，口吐死气（服日后便为之，死气四时吐之也），鼻噓日精，须鼻得嚏便止，是为气通（若不得嚏，以软物通导之，使必得嚏也）。以补精复胎，长生之方也。向日正心。欲得使心正，常以日出三丈（取嚏讫仍为之），错手著两肩上（左手在上，以日当心，开衣出心，令正当之），常能行之佳。

### 双景翼形隐道

鸡鸣时（东方天色才变之时。坐卧任意，闭目握固。），存日月之象在六合之府，日左月右（六合府在两目之上角，即眉后空处是也。入皮一分，仍辟方九分。日色赤，九紫芒；月色黄，十白芒也）。存使光明洞形，令仿佛在位（存令日月合照，光芒交映而洞彻身面也）。闭目极念，无得遗脱。毕，叩齿七通，咽液九过，而微祝曰：

太明灵神，化度郁青，招霞藏晖，灌练五形；宫驾六合，七神调平；使我飞仙，登行上清。行之十五年，玉皇遣三素云迎兆也。

### 食竹笋（鸿脯附）

服日月之精华者欲得常食竹笋者，日华之胎也，一名大明。又欲常食鸿脯者，月胎之羽鸟也，一名月鹭。欲服日月，当食此物气感运之。太虚真人曰：鸿者，羽族之总名也。其鹄、雁、鹅、鸥，皆曰鸿鹭也。古歌曰：

鸿鹭十年鸟，为肴致天真。五帝衔月华，列坐空中宾（此古之渔父歌也）。

## 卷二十四 日月星辰部二

### 总说星

《玄门宝海经》曰：阳精为日，阴精为月。分日月之精为星辰。纲者，连星也。纪者，缀星也。星形正圆如丸，不应似贯珠穿度，又不容作铃鼻相缀理，宜如破箭竿，还相合以成体。天地初成，无子举翹飞上，乃在华盖之下，左有北辰，右有北斗，星辰稍备，东西南北稍正，星辰共以真道要养万二千物，下及六畜、粪土，草木皆被服其秘道要德而生长焉。

北辰星者，众神之本也。凡星各有主掌，皆系于北辰。北辰者，北极不动之星也。其神正坐玄丹宫，名太一君也。极之为言者界也，是五方界俱集于中央，是最尊居中也。中极，一名为天中上极星也，是最居天之中。东方少阳，名为东极星；西方少阴，名为西极星；南方太阳，名为南极星；中央名为中和上极上星，故最高最尊，为众星之主也。北极星，天之太常，其神主升进。上总九天，中统五岳，下领学者。北极星围七百七十里，中有玄台玉楼，真人号飞华君，姓羽灵，讳昌元，著飞精华冠，衣紫锦裳，执玉策。太极君名北辰主帝，制御万神（中央星是）。北极神人坐绿炁之光。北斗星者，太极之紫盖，玄真之灵床，九皇之神席，天尊之偃房。第一太星精名玄枢，

神曰阳明；第二元星名曰北台，神曰阴精；第三真星名曰九极上真，神又曰真人；第四纽星名曰璇根，神曰玄冥；第五纲星名曰太平，神曰丹元；第六纪星名曰命机，神曰北极；第七关星名曰玄阳，神曰天关；第八帝星名曰高上皇，神曰八景虚元君；第九尊星号太微玉帝君，神曰太素七晨元君。斗有魂魄之星回旋在斗外，裹缠于斗，斗在内也。阳明、阴精二星之间，星斗魂魄魁首也，名曰天枢魂神斗；次第二星名曰天璇魂神斗；次行第三星名曰天机魄精斗；次行第四星名曰天权魄精斗；次行第五星名曰玉衡魄灵斗；次行第六星名曰闾阳魄灵斗；次行第七星名曰摇光大明。七星去地四十万里，围七百二十里，皆金精琉璃为其郭，七曜紫晖开其光，号为帝车，运于中央，临制四方，分调阴阳，四时五行，皆禀之焉。

北斗君字君时，一字充。北斗神君本江夏人，姓伯，名大万，挟万二千石。左右神人姓雷，名机，字太阴，主天下诸仙人。又招摇与玉衡为轮，北斗之星精曜九道，光映十天。

北斗九星七见二隐，其第八、第九是帝皇太尊精神也。汉相国霍光家有典衣奴子，名还车，忽见二星在斗中，光明非常，乃拜而还，遂得增年六百。内辅一星在北斗第三星，不可得见，见之长生，成神圣也。外辅一星在北斗第六星下，相去一寸许，若惊恐厌魅，起视之吉。

黄帝曰：以鸡鸣时，想北斗七星，而天神下不死药，益寿不老。又以丁亥之日仰存七星，使焕明于北方，良久，阴祝曰：

召书上清，役使万神，上登玉庭，驾景乘空，与天相倾。

又每立春日，东向存北斗来下却盖头，柄指于前，吉。南斗神君字流时，南斗字君元。南斗君是河东人，姓赵，名赦先，字君迁。南斗君坐左右神人姓戴，名道，字叔生，大道君子也。

东斗主击君，西斗主伐君，中斗伏逆君。紫微宫内神姓柳，



字君明。紫微君字露光，夫人姓王，讳叔华。太微星君字卿元。太微内有三皇，一曰皇君，二曰天皇，三曰皇老，此即三元之气，混沌之真，在太微总领符命也。文昌星神君字先常，天子司命之符也。土官星所主，能致山内果实。旦为猿，昼为猴，暮为死石。璇玑星君字处行，钩陈水星主之，常陈天之虎贲也。五车，天之五岳，能致甘露、麒麟。三台星，天之陞官，旦为龙，昼为蛇，暮为鱼。三神者，三台之灵也。上台神君字显真，上台名虚精，主金玉。中台神君字章明，中台名六淳，主禄位。中台两星小阔，晋张华为司空，死，其星开。下台神君字际生，下台名曲生，主土田。轩辕星，天之后妃土官也。其神旦为羊，昼为蟹，暮为蟹。洞明星，姓幽升，讳幽韵。真人星姓归珩，讳妙光，字度元，天之司空，主五岳灵仙。

五星者，是日月之灵根，天胎之五藏。天地赖以综气，日月系之而明。东方岁星真皇君，名澄澜，字清凝；夫人名宝容，字飞灵。南方荧惑真皇君，姓皓空，讳维淳散融；夫人讳华凝，字玄罗。太白真皇君，姓皓空，名德漂；夫人名颺英，字灵恩。辰星真皇君，名启咍，字积原；夫人名玄华，字龙娥。镇星真皇君，名藏睦，字耽延；夫人名空瑶，字飞贤。二十八宿为籥落也，织女水官星能致神芝，食之寿与天地无极。传舍水官星主天符，南戒星同北戒水官星，旦为马，昼为鹿，暮为獐。天市星，天之仓曹神，能致明月珠，旦为木，昼为兔，暮为貉。平门土官星能致神女倡乐，旦为生木，昼为豕，暮为蜺螭。玄冥星姓冥枢，讳定宣觉，字法开度，真名执，天之游击也，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆。谷土星能致飞鸟，来朱雀，旦为鸡，昼为乌，暮为鸢。积水星能致四方万物，恣其所欲，坐在立亡。狼星能致天帝君百二十神。

夫下有其官，则上有其星；下署置官失，则上星为其乱。

若露慢三光，指斥七曜，呵骂风雨，欺罔玄灵，则致日月薄蚀，星宿流飞。常以十二月四日候天西北水母星，长九丈，大三围，本末正等，见即大水满天下，急走奔高山可逃也。计然，葵丘濮上人也，姓辛，字文子，习星历之数，知所富利之术。

## 二十八宿

甲从官，阳神也，角星神主之。阳神九人。姓宾，名远生，衣绿玄单衣，角星宿主之。乙从官，阴神也，亢星神主之。阴神四人，姓扶，名司马。马头赤身，衣赤缙单衣，带剑，亢星神主之。丙从官，阳神也，氐星神主之。阳神十三人，姓王，名师子。衣青纱单衣，氐星神主之。丁从官，阴神也，房星神主之。阴神八人，姓洪，名寄生。衣绛绯单衣，房星神主之。戊从官，阳神也，心星神主之。心星，火也，为工，故在东方。阳神五人，姓女，名涂祖，牛头人身，衣黄单衣，带剑，心星神主之。己从官，阴神也，尾星神主之。阴神十一人，姓涂，名徐泽。兔头人身，衣青单衣，尾星神主之。庚从官，阳神也，箕星神主之。桑木者，箕星之精也。阳神十一人，姓（元阙），名仲。衣飘飘玉妙单衣，箕星神主之。辛从官，阴神也，南斗星神主之。阴神四人，姓阳，名多，衣青单衣，持矛，南斗星神主之。壬从官，阳神也，牛星神主之。阳神十二人，姓柳，名将生。衣绛玄单衣，牛星神主之。癸从官，阴神也，女星神主之，阴神姓刁，名徐，字郁子。犬头人身，女星神主之，寅从官，孟神也，虚星神主之。槐者，虚星之精也。孟神四人，姓木，名徐他。鼠头人身，衣银黑单衣，带剑，虚星神主之。

卯从官，仲神也，危星神主之。仲神十一人，姓刘，名归生。衣琼纹单衣，带剑，危星神主之。辰从官，季神也，营室星神主之。营室之内，五色杂神，营室天子受命之司，水官星神主之。季神八人，姓吕，名升，衣黄锦单衣，营室星神主之。巳从官，孟神也，东壁星神主之。孟神七人，姓石，名苏和，豕头人身，衣黑单衣，带剑，东壁星神主之。午从官，仲神也，奎星神主之。仲神六人，姓黑，名石胜。衣丹纱单衣，带剑，奎星神主之。未从官，季神也，娄星神主之。季神十三人，姓竺，名远来。衣流荧单衣，娄星神主之。申从官，孟神也，胃星神主之。孟神八人，姓冯，名谢君。衣流黄单衣，带剑，胃星神主之。酉从官，仲神也，昂星神主之。仲神四人，姓张，名弩小。衣绿青单衣，昂星神主之。戌从官，季神也，毕星神主之。季神姓桑，名公孙，带剑，衣白毛单衣，毕星神主之。亥从官，孟神也，觜星神主之。孟神十一人，姓王，名平。衣龙青单衣，觜星神主之。子从官，仲神也，参星神主之。仲神八人，姓铜，名徐舒，衣黄绯单衣，带剑，参星神主之。丑从官，季神也，井星神主之。季神九人，名博阳。衣黄水单衣，带剑，能致凤凰、玄武，东井星神主之。震，乾之长男也，鬼星神主之。长男神五人，姓作，名涂于。蛇头黑身，带剑，衣赤野单衣，鬼星神主之。坎，乾之中子也，柳星神主之。中男神四人，姓角，名石囊，羊头人身，衣黄韦单衣，柳星神主之。艮，乾之少子也，七星神主之。少子神五人，名胜子。衣飞霞单衣，七星神主之。巽，坤之长女也，张星神主之。长女神五人，姓李，名神子。衣赤血单衣，张星神主之。离，坤之中女也，翼星神主之。中女神十人，姓张，名奴子。衣赭黑单衣，带剑，翼星神主之。兑，坤之少女也，轸星神主之。少女五人，姓符离，名苏子。衣流黄单衣。

### 北斗九星职位总主

《黄老经》曰：北斗第一天枢星，则阳明星之魂神也。第二天璇星，则阴精星之魂神也。第三天机星，则真人星之魂精也。第四天权星，则玄冥星之魂精也。第五玉衡星，则丹元星之魂灵也。第六闾阳星，则北极星之魂灵也。第七摇光星，则天关星之魂大明也。第八洞明星，则辅星之魂精阳明也。第九隐元星，则弼星之魂明空灵也。

阳明星，天之太尉，司政主非。上总九天上真，中监五岳飞仙，下领后学真之人。天地神灵、功过轻重，莫不隶焉。

阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。诸以学道及兆民宿命禄位，莫不隶焉。

真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。真仙之官，莫不隶焉。

玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆，伐逆不臣，诸以凶勃，莫不隶焉。

丹元星，天之斗君，主命录籍。上总九天谱录，中统鬼神簿目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。

北极星，天之太常，主升进。上总九天上真，中统五岳飞仙，下领学者之身。凡以功勤得转轮阶级，悉总之焉。

天关星，天之上帝，主天地机运。如四时长短。天地否泰、劫会，莫不隶焉。

辅星，天尊玉帝之星也。曰常者，常阳。主飞仙。上总九天，下领九地。五岳四渎神仙之官，悉由之焉。

弼星，太常真星也。曰空者，常空隐也。主变化无方。

《河图宝录》云：第一阳明星，天之太尉，司正主非。上总九天之真，中监五岳飞仙，下领后学真人，天地神灵，功过轻重。围九百二十里，有青城玉楼，据斗真人号九晨君，姓上灵，讳摇天捶。冠九晨玉冠，衣青羽飞裳，执《斗玄图》，坐玉楼中。知内讳者，玉晨下映，飞行太空。

第二阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。围五百五十五里，有五色玉楼。攀魁真人号北上晨君，姓育婴，讳激明光。冠玄精玉冠，衣玄羽飞裳，执五色羽节。

第三真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。围七百七十里，有黄台玉楼。真人号主仙华神君，姓归珙，讳度众，冠飞晨宝冠，衣青羽飞裳，执斗中青录。

第四玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆。围八百里，有朱台玉楼。步斗真人号玄上飞盖晨君，姓冥枢，讳摇天柱。冠二华宝晨冠，衣丹锦飞裳，执九灵之节。

第五丹元星，天之北斗君，主命箴籍。上总九天诸箴，中统鬼神簿目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。围七百二十里，有素台金楼。躡纪真人号金魁七晨君，姓上开，讳变五道。冠七宝飞天冠，衣白锦飞裳，执青元籍。

第六北极星，天之太常，主升进。上总九天上真，中统五岳飞仙，下领学者阶级。围七百七十里，有玄台玉楼。步刚真人号北晨飞华君，姓明灵，讳昌上元。冠飞精华冠，衣紫锦飞裳，执九斗玉策。

第七天关星，天之上帝，主天地机运，四时长短，否泰劫

会。围九百里，有九层玉楼。乘龙真人号总灵九元北盖晨君，姓玄枢，讳开天徒。冠九元宝冠，衣九色锦裳，执晖神之印。

第八辅星，天尊玉帝之星，曰常阳也。主飞仙。上总九天，下领九地，五岳四渎神仙之官。围九百九十里，有紫炁玉楼。游行三界真人号帝尊九晨君，姓精常，讳空上开正延。冠飞精玉冠，衣九色凤衣，执火铃。

第九弼星，太帝真人星，曰空隐也。主变化无方。围九百九十里，有玉楼紫馆。徘徊三阳真人号帝真元星君，姓幽空，讳冥阳晖幽寥。冠飞天玉冠，衣九天龙衣，执帝章。

兆若诉彼之非，明此之是，过他之恶，申己之善，自责而不怨人，通理而各祈祐，除罪延福，告请天之太尉第一玉皇君。

兆若阴阳学官，干禄求位，告请天之上宰第二玉皇君。

兆若学道期仙，通神达圣，告请天之司空第三玉皇君。

兆若制服鬼神，恶逆诛伐，幽显凶邪，告请天之游击第四玉皇君。

兆若立功建德，益算延年，告请天之斗君第五玉皇君。

兆若屈滞疾厄，乞申希免，告请天之太常第六玉皇君。

兆若天地否激，炁候不调，告请天之上帝第七玉皇君。

兆若攘却众灾，飞上履下，告请天之尊玉帝第八玉皇君。

兆若变化无方，应救一切，告请天之太帝第九玉皇君。

右九皇君、九夫人内姓隐讳，知之延寿千年。常夕夕观之，想见皇君夫人形象威光，忆其姓讳，谛存在心，得见第八、第九星，延寿无穷。

太上大道君曰：空常者，天地之魂魄，阴阳之行用。唯斗君名姓别有，具列于后。诀唯有一诀步罡咒，启乞愿由人临时作辞及口启之。在其二十八宿名星图，具在《流珠正经》，以意详用。

次南斗君及七宿法老君曰：南斗君姓唐，名粗，字宣道，太原人。

次西斗君及七宿法老君曰：西斗君姓刘，名起，字石婴，长安人也。

次北斗君及七宿法老君曰：北斗君姓陈，名奉，字百万，江夏人云云，在《流珠》中。

右四斗君，四人官二十八人，皆受志人配使，并乞愿皆如心手相应，无事切不得妄行，却招祸返损人也。

#### 次司命法

老君曰：左司命一人也。姓韩，名思，字元信，长乐人也。司录，司伐等属焉。左司命有三十六大员官。

右司命姓张，名获，字子良，广阳人也。司录、司非等属焉。右司命亦有三十六大员官。

天师曰：韩、张二司命，皆是汉高帝之臣也。

老君曰：得左、右二司命名，可以六甲日躔地纪步咒，如前二十八宿法。唯诀各随命配为司命诀，捻之，往往行之二年，便获长生；请出灾厄秘妙之法，久久精修，白日升举。

## 卷二十五 日月星辰部三

### 北极七元紫庭秘诀（一名《北帝七元延生真经》）

吴赤乌二年，葛仙公受之于太上。魏朝时，叶先生传之于世，太主虚无北帝真要，上通紫庭。

魁（身）<鬼勺>（禄）<鬼藿>（福德男女）<鬼行>（命）  
魍（官职）<鬼甫>（寿考）魍（妻妾奴婢）。

已上七位，用灯七碗，于道靖内明点，占其明暗，即知本位灾厄。凡醮用晦朔之日。

《七元经》云：此日北帝七元真人下降人间，检句罪福，凡人每醮，求解灾厄，即得吉，无不利。

又云：本命日及禄命合日相生之日，犬鼠不至处，铲削草秽，净地之上，用丑、亥、未时祭之礼，是谓扫地而祭。亦可使白茅藉之。若人能知星名及所食之物，所行之处常得吉胜也。

右件醮时皆须沐浴斋洁，以灯列位，每星下用桌子一只，上安供养物，各以茅香水洗过，并洒扫庭室，乃祀之位，北立一纸钱漂，则候漂上钱动，真乃降矣，必除殃降福也。仍不可驻目视真座。凡人但知本属星名，即得无灾，何况久能醮之？祀讫，即看风从何方来，此是求名之方。仍各减少许星粮，以一囊可方一寸贮之，头戴而行有急难，三呼本命星名，求其救



助。及求馀事，亦呼本命星名。醺用清酒、名茶、净果、油饼，钱财多少，计自于人。用单状一纸，列其真位，并述所求意。

一阳明星（应五七）。

二阴精星（应第四星，第六星，一直也）。

三真人星（位别，亦下步）。

四玄冥星。

五丹元星。

六北极星。

七天关星。

辅星。

弼星。

已上并头戴宝冠，身披霞帔，手执玉简，真人形状。醺时存见，启祝。

第八帝星高上玉皇景光君，见，增三百岁。

第九尊星太微玉帝神君，又云大帝七辰元君，见，增六百岁。

已上帝王装束，并与北斗相近。一云帝在第四星内，尊星在第二星内，皆是帝王天尊之精神。醺时存见，常以每月初三、二十七日夜窃候之，勿令杂人见。诚心久之，无不见者。二星大如七星，光皆紫华，有异常宿，焕然可畏。见皆叩头，请乞长生飞仙，及心告临时。既见之后，二帝君当授子真官矣。

上台星名虚精，求之感帝王之梦及金玉，念名求之，必应。中台星名六淳，求官禄盛兴，念名求之，必得吉遂。下台星名曲生，求妻妾奴婢，念名求之，必遂。

右太微帝君曰：欲得延年长生，富贵高迁，须修此术。若久久步之，乃设醺者能拔七祖罪累，并身灾厄。凡有厄患，求之自灭。若帝王求道，寿齐三光，千变万化，坐在立亡，福如

山岳，为人重爱。修道之者白日升天，三公卿相自感帝王爱梦，官禄兴盛。须是至净人家有此法者，辟一切病患及诸不祥。昔汉刘景被百万贼军围绕，飞矢如雨，士卒失色，唯景安然无怖，散披汗衫，步七星纲，嘿许设醮，即有神人解围，贼皆散走。此犹是常步醮之法，况此秘密真诀，向来皆真仙口传之，按《七元科》，每一百年乃传一人。须有骨录者，不可妄传，殃及九祖。如世人未能步纲，但一月两醮，自当感应。一年辟非横，二年辟非厄，三年辟死灾。四年见真形，千灾万邪，莫能侵害，永无患矣。

一阳明星（子生人属之，食黍米）。

二阴精星（丑、亥生人属之，食粟米）。

三真人星（寅、戌生人属之，食糯米）。

四玄冥星（卯、酉生人属之，食小豆）。

五丹元星（辰、申生人属之，食麻子）。

六北极星（巳、未生人属之，食大豆）。

七天关星（午生人属之，食小豆。）

醮物料：

代人（一十二躯）白米（饮）命绢（一疋）帖体衣（一对）命巾（一丈二尺）金环（一对）玉环（一对）盐（一斗二升）禄米（一石二斗）铜钱（一千二百文）鼓（一斗二升）案表纸（一百二十张）笔（一管）墨（一挺）香炉净水案（一面）镇信彩。

东方（青绢九丈九尺）南方（绯绢三丈三尺）西方（素绢七丈七尺）北方（玄绢五丈五尺）中央（黄绢一十二丈二尺）果子所食：李、栗、桃、杏、枣、梨、胡桃、乾柿。净床（二张）北壁（安一张）。

七元图（安西南）图用青绢两幅，长九尺，画之。

凡醮时，烧香了，下食都毕，退后。良久，凝神执简，躬身相去一丈五尺，微咒曰：

维某年某月某时，弟子具銜。次云命属某星下。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，阳明阴精，光明焕赫；今夜降灵。飨兹薄礼，暂降净庭；赐臣无畏，身魂安宁；除臣死籍，注臣长生；所求皆得，所作皆成；上感帝王，下感人情；众人钦爱，飞升紫庭，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，真人玄冥，降臣净庭，响臣微醮；知臣丹诚，愿升仙都；太阴无名，役使万神，六甲六丁，上感。

天心，下救苍生，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，丹元北极，降臣净域，削臣死名，乞臣道力，寿齐三光，福庆万亿，神人卫身，玉女下直，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，天关大神，照耀臣身，愿臣长生，得为帝宾；颜如日月，四时长春；下界垢秽，速登上真；左盼郁仪，右携结璘；玉童为使，玉女为亲，降临醮席。稽首再拜，次对斗口，谨请上闻：

尊帝二星，北极之灵，人不曾见，见即长生；注臣飞仙，勾臣死名；福庆无穷，与天齐倾；速超仙都，游行上清，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

辅弼真君，一隐一显，至真至神，佐相北极，环绕紫宸；愿施道力，成臣道因；上扶天意，下度迷津，降临醮席。稽首再拜，次对西坐，谨请上闻：

上台虚精，中台六淳，下台曲生；小臣沥恳，再拜奉迎，臣具薄礼，臣意不轻，尽心竭力，知臣丹诚；除臣死籍，注臣长生；位在高迁，列官天庭；心意开廓，耳目聪明，三魂永久，

七魄不倾，上朝金阙，下谒玉京，乘驾云龙，位作仙卿，降临醮席。稽首再拜，都毕，退后，任真飧食。如有心告临时，启闻了，宣读单状，皆不可高声，及杂人知见。其天地水三官，设三位斗杓之下，其土地直日二分，预烧钱供养，使关奏却秽矣。

祭文：

维某年、某月、某日、某时，具州里衔次，敢昭告于

上天神后，北极灵殿，七元真君（事意撰文）。谨奏此章，冒犯北极，轻黷明神，倍深战栗之至，谨奏。又朝夕朝礼，亦心念之，咒曰：

谨请上闻：

七元真君，阳明阴精，真人玄冥，丹元北极，天关之灵，去臣死籍，注臣长生，所求皆得，所作皆成，众人钦爱，飞升紫庭。次念，谨请上闻：

尊帝二星，北极之灵，愿臣早见，见即长生，福庆无穷，与天齐年。次念，谨请上闻：

三台至诚，虚精六淳，曲生之名，愿臣高迁，列官天庭，心意开爽，耳目聪明，三魂永久，七魄不倾。又北斗延生神咒念之，安神延寿，北斗七元，七灵玉名，贪狼巨门，保臣长生，禄存文曲，护臣生魂，廉贞武曲，卫臣生门，破军辅弼，保臣长生，除却灾厄，绝去邪精，落下死籍，注上生名，脱免三灾，技散九横，至真摄鬼，群魔摧倾，学道修真，愿臣早成，七元守卫，身飞紫庭。凡未下床，及临眠时，存礼安神度厄之咒，皆默念一遍，方下足及卧，咒曰：

贪狼之讳，阳明之星，玉皇尊福，亿万众兵，来扶我身；巨门之讳，阴精之星；禄存真人，文曲玄冥；廉贞丹元，武曲之讳；北极之星，破军之讳；天关之星，七星尊神；千千万万，

在吾左右；左有青龙名孟章，右有白虎名监兵，前有朱雀名陵光，后有玄武名执明；建节持幢，负背钲鼓，在吾前后，左右周匝，数千万重，急急如律令！

此法王侯行之，夷夏率服，民人富昌，长生久视，与天同光。道人修之上升，世人之延寿。秘密而保，勿轻易之。

《北帝七元真形图》，带佩之大集福庆。

北斗第一阳明星君 北斗第二阴精星君 北斗第三真人星君  
北斗第四玄冥星君 北斗第五丹元星君 北斗第六北极星君  
北斗第七天关星君

### 七童卧斗法

凡上学之士，服日月之道，当修七曜之妙法。每以人定之后，当于别室，烧香，北首而卧，安身定神，弃绝异念，专心在灵，叩齿二十四通，存思七星焕明北方，己身卧于七星斗中华盖之下，七曜之光，流焕紫景之外，冠覆于己身。在紫景之上七曜之中，内外郁冥，都无所见。良久，豁除七曜之光，化为七童，若在一星之上。第一童子讳枢明，第二童子讳曜灵，第三童子讳北元，第四童子讳宝精，第五童子讳丹婴，第六童子讳灵清，第七童子讳紫映。七童子吐七宝之光，以哺饴兆身。枢明童子吐紫景之光，曜灵童子吐琉璃之光，宝精童子吐白银之光，丹婴童子吐玉精之光，灵清童子吐宝珠之光，紫映童子吐珊瑚之光。七宝之光同入兆身，便引气四十九咽，止，微咒曰：

金精凝化，结元七灵，紫曜焕落，朱景洞明；华盖徘徊，

轮转寒庭，宝光耀耀，七耀缠婴，玄晖吐兰，芳芝流盈；夕寝灵馆，朝登玉清；璇玑运路，紫景翼形，宴饗云轮，策御飞骈，游盼八极，三道合并。咽液七过，止，起以粟米之粉粉身，令匝而卧。如此七年，身生七宝之光，头有紫景华盖，怕冠兆形，得使通灵，玉女七人，降致灵飞云玄舆来迎兆身，上升北辰。此道秘妙，上真所修，不行下世。若有刻简玄名于未生之前，记青录玉文之人，当得此道。得者克成上仙，为万仙之师宗也。轻泄失明形残，七祖充责刀山，食火三涂，万劫不原。学士明慎四极之旨，深宝之焉。此七童子即七宝之内精，化为七曜之上真。知其名则不死，修其法则神仙，泄其讳则失明，晨夕存念，则怕卫兆身。若有灾厄困急之中，叩齿七通，呼七童之名，灾即自消。此道止可独知而已，怀抱珠玉，岂可放于垢尘也。明哲秘之。

### 太上招五辰于洞房飞仙秘道

夜半清静，坐卧任意。安体静心，慢气调神，临目内视（此法夕夕为之，坐则各向其方，卧则首向所在，其星光芒焕耀，乃忽然飞来入在头位）。存西方太白星（白色七光芒见在天，如今所望，既至目前，渐合小圆，径七分，仍入其阙，光芒满方寸之中，余星仿此）。在玉瑯紫阙（在两眉上，直入一寸仍辟方一寸是，夹明堂两边。阳日在左眉上，阴日在右眉上）。次存北方辰星（苍色五芒）在天中帝乡玄宫（从鼻直上，来至发际五分，直入方一寸是。对天庭宫之上下，去眉二寸，星径五分也）。次存东方岁星（青色九芒）在洞阙朱台（在两眉后

一寸，直入一寸，方一寸，接六合府下角，阴日在左，阴日在右，星径九分）。次存南方荧惑星（赤色三芒）在玉阙华房（在两眉间五分，直入方五分，阳日在左，阴日在右，星径三分）。次存中央镇星（黄色四芒，稍向西南，先仰视如见其星，乃平首存之）在金匱黄室长谷（在鼻人中中央直入二分，其星半出外，如缀悬于上。星径四分）。存思都讫，仿佛令星处其位，当觉使五星出光芒，放五色烟贯我一身，洞彻内外，体中如有熏薰星精来入也。乃叩齿五通，咽液二十五过，讫（星各五咽，存其液，依五星色各入其藏，仍依所存次第为之也），微祝曰：

高元紫阙，中有五神，宝曜敷晖，放光冲门；精化积生，变为老人；首巾素冠，绿帔绛裙，右带流铃，左佩虎真，手把天纲，散绛飞辰，足蹑华盖，吐芒炼身；三景保守，令我得真；养魂制魄，乘飚飞仙（欲有祝愿，在意祝后续言之。凝思良久）。毕，又咽液三过，叩齿三通。常行此十五年，五老来迎，一合俱升紫虚。行之勿令不常也，存之勿令不精也。行之者忌履秽，禁杂处，常薰香，数沐浴。违之者凋败，顺之者飞仙。

### 升斗法

常以八节日夜半时，入室正坐，接手定气，闭目内视（亦北向）。乃存一身，冉冉起上飞升北斗魁中（先存天上北斗九星，依时所加之辰，我忽上入魁中，背真人星坐）。良久为之，如觉我形已在斗中也。极念为之，当觉体中热，是真气合德（存斗星紫光灌浹我身，映照内外）。又存九精三大神名字、服色（但心存名字。上元大神名奇细，字灵刚，著紫晨冠，凤羽

紫帔，虎锦丹裳。左带玉佩，右腰金珰，两手握流金火铃，不用呼之。中元大神名旋度，字素康。项负圆光，扶晨冠，绛羽华帔，龙带虎裳。下元大神名抗萌，字流郁。著扶华绿冠，黄凤羽帔，龙衣虎带，佩流金火铃，手把日芒。天斗之神则宜形大，使各长二尺许，我亦同之。恍惚令不复觉有今我床上之质，乃佳）。三神与我对坐。（令背元星坐。上元君左，以次右列之）。我心拜之（各一再拜）。精想仿佛，遗形眇眇，将令恍惚也（存三大神同问我何不速来？稽首答曰，畏六天三官众魔之故。三神共怒，振铃吐气，焕激八方）。又存思忽然斗中玉妃，吐紫烟入我心中（良久，忽见一女子，状如婴儿，在三神前向我坐，衣服如祝中所言。紫烟直去心中，乃心呼曰）。斗中九精阴灵玉清上妃，名密华，字邻倩。乃咽液八十过，叩齿九通，举左手以抚心，微祝曰：

太上丹灵，玄光飚焕，九纬启璇，晖气澄散，紫晨幽烛，七曜蔚粲，二景奏明，阴阳以判，四度运昌，云津回灌，八节启气，上升九元，据斗攀纲，奉见三神，问我稽留，何不升仙？我则稽首，畏鬼以前，帝乃赫庄，口衔日根；左破六天，右蹶酆山；流铃上焕，魔首碎分，逐我七魄，强我三魂；藏斗内晖，九精在心；紫霞洞映，飞光万寻；和魂制魄，六胎修炼，精感变跃，玉妃忽见；坐当我心，俯视仰盼；其名密华，厥字邻倩；吐纳朱气，和平百关；身服锦帔，凤光鸾裙；腰带虎篆，龙章玉文；手执月华，头巾紫冠；腾跃太霄，驾景盖云；书名太素，我得飞仙；起浮崆峒，垂琮太元；上造朱房，役使万神；纪分二度，还反婴颜；北帝激电，南帝火陈；东仓启烛，赫赫雷震；西流双抃，鸣音唱钧；四举起跃，荐我玉真；遂乘八景，遨宴九烟。毕（接手如初）咽液三十过，叩齿九通，又祝如前（又摄而祝）。毕，起向西北再拜，毕，开目。行之四十



年，太上迎以琼轮，超虚蹶空，升登上清，列为真人，反形婴颜，众神侍轩。

### 卧斗

凡暮卧先存斗九星在所卧席上（身于床前北向立，两手抚心，闭气瞑目，存天上北斗并帝尊九星，依当时所加之位，乃见冉冉下来至席，列如图。令天关依月建斗形，长九尺，广六尺，乃烧香于真星之外。若时朔日之夕，即并存晨盖之星俱下，亦列位如图。乃从魁下转至斗口，于尊星外入魁中，正偃卧闭目，存思其星作圆光之象，星紫色，纲赤色，连绕其星，如步图之者耳）。令我头首九极，使真气入于泥丸（令真星正当顶上，存真气紫光通身，入泥丸宫，并溢出混头脑之内，光映洞彻）。足蹶尊星，心念飞仙（小屈左足以蹶之）。令太微制我三魂（尊星中有太微玉帝，请乞制之。心念我得飞仙，魂在三宫中）。足蹶帝星，心念飞仙，（申右足以蹶之）。令高上拘我七魄（帝星中高上玉皇，请乞拘之，心念得飞仙，拘魄在脐命门中）。左手把北台（曲仰左手小举之，把元星下纲，使星形在虎口上。）右手执璇根，（直抵覆右手执纽星纲，使星在虎口上）。阴祝星名（安身如法，讫，乃瞑目闭气，次以存咒九星名）。

第一太星精名玄枢。愿（某名有两字者具称之，馀某仿此）飞仙，乘虚驾浮（存星在左右足指前，小远之）。

第二元星精名北牵上真。愿某飞仙，游行洞牵（存星右手把之）。

第三真星精名九极上真，愿某飞仙，得治三玄（存星在头顶上）。

第四纽星精名璇根。愿某玉名，列为飞仙（存星右手执之，令成魁形）。

第五纲星精名天平，愿某飞仙，登行上清（次纽星右）。

第六纪星精名命机。愿某飞仙，名书太微（次纲星右）。

第七关星精名玄阳。愿某飞仙，得使玉童（次纪星右，令成斗形，悉使在卧席上也）。

第八帝星精名高上玉皇。愿某飞仙，得登后圣之堂（存星在魁中，纲连纽星，令对右足心）。

第九尊星精名太微帝君，愿某飞仙，得入丹阙玉房（更都存九星，一时俱见）。乃叩齿三七通，咽液三七过，阴祝曰：

九星太精，北极真君，益我胎精，强我三魂；左引日华，右拘月津；辰中黄景，元虚黄真；使我飞仙，上登紫晨。神虎玉符，常守生门；万邪伏法，受形斗君（存洞房）。所存所祝都毕，良久，乃存斗星之精，忽然入洞房中（存席上九君并纲一时，分精作促小之形，从气户却入洞房中，偃魄向上，以杓指前，是即席上、头中两处俱有也。洞房魁中左有黄老君魂，玉色，黄绣衣；右有己魄，是第二魂胎光，其形服如我，与黄老对坐，中有泥丸赤子帝君，亦绣衣，向外坐）。光照一身，洞彻五内，三关百节，皆令赤赫，然后阴祝曰：

洞房元精，赤子太尊，斗光华盖，来照泥丸；宝炼骨血，拘魄制魂，使某飞仙，乘云登辰；上朝玉帝，太一元君。都毕（乃闭目息念，忘形安眠）。青童君曰（卧北斗阴精，致仙使灵，洞房致北斗阳精，使五脏自生，遂得乘景游行上清）：

月朔存华辰紫盖，唯月朔一日一存（此夕所存辰盖，止存席上，不分精入洞房也。先存九星竟，即存辰盖，次祝九星名，

以至于毕也)。平旦欲起，常密叩齿二七通，咽液二七过（服久或有反侧，令欲起，当更正安手足，存九星如法。乃叩咽祝之）。阴祝曰：

天元上斗，中有七童，上清紫精，在兆身中；华辰紫盖，太素玄宫；后圣灵气，下入洞房；使我飞仙，得太极金堂（祝毕，存九星然无象，朔夕辰盖亦然。所云平旦起者，谓专行此事，夜中更无他务耳。若夜中须起行诸事，亦宜祝而乃起。若更卧者，能重存为佳，不止一卧一起一祝耳）。行此十八年，必色反婴颜，一旦有星之精变成九老之公，并俱来下，迎兆身，白日登晨。

### 存二十四星法

常以月朔之夕，生气之时，安卧闭目，向上，心存二十四星，星大一寸，如连结之状。又存一星之中辄有一人，合二十四人。人皆如小儿始生之状，无衣服也。于是二十四星直从天上虚空中来下，回绕一身三匝，三匝毕，以次咽入口，凡作二十四咽。咽时辄觉吞一星也。觉从口内径至脐中，脐中名曰受命之宫也。又觉星光照一腹内，洞彻五脏。又存星光化为二十四真人，并吐黄气如烟，以布满腹中，郁郁然洞彻内外也。良久，微咒曰：

二十四真人，回入黄庭，口吐黄气，二十四星，灌我命门；百神受灵，使我骨强，魂魄安宁。五藏受符，天地相倾。毕，名曰真气入守命门，以辟灾祸百鬼之疾，令人长生不死。

### 奔辰飞登五星法

后圣李君奉受《八素真经奔辰隐书》，施行其法，乃致太微天帝下迎，五星同舆，乘玄华三素，北登玉清，受书为上清金阙帝君。

#### 飞登木星之道

岁星员镜，木精玄朗东阳之咳。星中有九门，门中出九锋芒，锋芒光垂九百万丈。一门辄有一青帝备门，奉卫于中央青皇真君。在中央有始阳上真青皇道君，讳澄澜，字清凝。夫人讳宝容，字飞云。治在未星之内，镇守九门，运青光流锋以照上下之真。欲飞登之法，常思见岁星，当正心视星，以右手拊心而礼之，左手掩两目，乃九闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，使目闭于手下，心呼岁星中真皇之君、君夫人名讳字三过毕，曰：愿得与始阳青皇真君、君夫人，共乘八景碧舆，上登太上宫。言毕，乃瞑闭目于手下，向星微咒曰：

天光交和，精流东方，仰望九门，飞霞散锋；始阳碧台，中有青皇；青牙垂晖，映照九方；郁粲夫人，字曰飞云，齐服灵锦，虎帔虎裙。腰带凤符，首巾华冠，出无入虚，遨游太元，前策青帝，后从千神，来见迎接，得为飞真。上登玉清，高上之房。

咒毕，去手，瞑目对星，服星之光二十七吞，存视星九芒，使尽来入喉中也。都毕，又叩齿三通。常行之十四年，木星中

青皇大君奏闻高上玉清宫，刻太微蕊简，定名玉书，位为上清上飞真人。木星有九门，门内有九青帝。其一帝辄备一门，以奉承于中央青皇上真大君也。青皇者，东方之上真，始精之尊神也。出入玉清，与高上为友也。其门内青帝或号青灵之公，或号青真，或号青精，或号青帝君，并受事于中央青皇也。行八素之秘道者，则致青皇来降已；行五灵之外法者，则致青神来授书。是故道有深浅，致有尊卑。天无星之时，天阴之夕，可于寝室中向东存修而咒也。天道微妙，玄纲毫分，不必对星而行之也。有星时可出庭中，坐立适意。所谓上真之道，登东辰之法，不传地仙辈也。

### 飞登火星之道

火星玄镜，丹精映观南轩。星有三门，门中出三锋芒，锋芒光垂三百万丈。一门内辄有一赤帝备门，奉卫于南真上皇真君。星中央有丹火朱阳赤皇上真道君，讳维淳，字散融。夫人讳华瓶，字玄罗。治在火星内，镇守三门，运赤光飞云，以覆天下之真人也。欲飞登之法，思见荧惑星，正心视星，以左手拊心而礼之，右手掩口，乃三闭气，又叩齿二十七通，咽液九通，瞑闭两目，心呼荧惑真皇君、荧惑夫人讳字三过，毕，曰：愿得与丹火赤皇君、君夫人共乘八景丹舆，上登玉清宫。毕，乃向星微咒曰：

玄象流映，丹光南冥；仰望三门，朱云绛城；中有丹皇，名曰维淳；夫人内照，是为华瓶；齐服云霜，凤华龙铃，腰带虎书，首巾飞青；出无入玄，遨翔五城；前导赤帝，后从六丁；来见招延，得真之名，上登玄虚，金书玉清。

咒毕，去手勿复掩口，故瞑目视星，服星之光二十七吞。

存令星三芒尽来入喉中。都毕，又叩齿三通。常行之十四年，荧惑星中赤皇上真道君奏闻三元上皇，帝刻玄圃琼简，定名金书，位为上清上飞真人。荧惑星有三门，门内有三赤帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央赤皇君也。赤皇者，南方之上真，丹宫之贵神。出入玉清，与三元上皇为友也。其星中赤帝君者，或号赤灵之公，或号赤神，或号赤精，或号赤帝，并受事于中央赤皇上真大君也。行八素之隐书，则致赤皇来降已；行五灵之外法，则致赤神来授书。是以道有隐外，文有秘显，尔乃招真有尊卑之差，求神有上下之序。若无星之时，天阴之夕，可于寝室南向存之。有星，可出中庭，坐立任意。此所谓奔南辰之法，不传地仙，传之犯泄漏之罪。地仙自复有《八素经》，论服王炁吐纳之道也。又有《九素经》，论召鬼使精行厨、检魂魄之事。止陆行名山，长生不死而已。《八素经》后有《天钧上曲阳歌九章》，《九素经》后有《凤吹龙啸阴歌八章》，此是地仙之秘书也。今所谓太上奔辰八素，行上清之道，非地仙之八素也。地仙之啸歌，以待上清之行游耳。

### 飞登金星之道

太白星员镜，金精焕耀西辰。太白星中有七门，门中出七锋芒，锋芒光垂七百万丈。一门内各有一白帝，凡有七白帝备门，奉卫于西真上皇道君。星中央有太素少阳白帝上真道君，讳寥凌，字振寻。夫人讳飏英，字灵恩。治在金星之内，镇守七门，运白光飞精，以映上元真人。欲飞登之法，思见太白星，当正心视星，以右手拊心而礼之，左手掩两鼻孔，乃七闭气，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心存太白真皇君、君夫人讳字三通毕，曰：愿得与太素少阳君、君夫人共乘八景素

辇，上登玉清宫。毕，又向星微咒曰：

七炁艳飞，光照西方；仰望七门，灵阙激锋；素晖烛映，德标金宗，中有少阳，号曰白皇；夫人灵恩，治在玉房；齐服皓锦，流铃虎章，首巾扶晨，腰佩金珰；出空入虚，游步玉刚；前导白帝，后从六庚；来下见迎，北登墉宫；名书上清，得为真公。

咒毕，去手勿得掩鼻，故瞑两目视星，服星之光芒二十七吞。存令七芒尽来入喉中，都毕，又叩齿三通。常行之十四年，太白星中少阳白皇上真道君奏闻太帝玉皇宫，刻上清金阙，定名玉简，位为上清左真公，以综太极。太白星有七门，门内有七白帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央白皇道君也。白皇者，西方之上真，太素之尊皇，出入玄清，与皇初道君为友也。其门内白帝君，或号白灵之公，或号白神，或号白精，或号白帝之君，并受事于中央白皇上真大君也。行八素之秘妙，则致白皇来降己；行五灵之外道，则致白神来授书。尊卑玄盼，故道有渊阶矣。若无星之时，天阴之夕，皆于室中寝处，西向存之。有星可出庭中，坐立任意。若静斋道士，亦可通于室中，存五星之真，方面而并修之也。皆上真之道，奔西辰之法，不传地仙。一夕服五星，令常周遍。春服星光，以东方为始；夏服星光，以南方为始；随王月以王星为先口诀也。星行不必在方面，亦随星所在向而修行口诀也。行事时，不欲令人见其所为，当隐辟而为之也。此是太上之隐道，所谓隐书者也。隐而复隐，犹恐鬼神窃看其篇题，何可令世之臭骸轻传授者，闻此缥迹乎？不可以盲瞽愚人殊无所知，而令见其道也。凡人身中亦有七神。七神见之亦为泄漏，不可不深慎也。修隐书之道，而发泄隐书之名目者，既当受考三官，又适足以作祸也。每欲省按，皆先屏左右人及鸡犬之生物，烧香再拜，乃视之也。

## 飞登水星之道

辰星员镜，水精洞映北冥。辰星中有五门，门中出五锋芒，锋芒光垂五百万丈。一门各有一黑帝，凡五黑帝，并备一门，奉卫于北真上皇。星中央有太玄阴元黑皇道君，讳启眇，字精源。夫人讳玄华，字龙娥。治在水星之内，镇守五门之中，运玄光流明之炁，以朗耀北元之庭当为真人者。欲飞登之法，思见水星，正心视星，以两手拊心。拊心毕，举两手以掩两耳，乃五闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心呼辰星真皇道君、君夫人名字三过毕，曰：愿得与阴元黑皇道君、君夫人共乘八景苍舆，上登上清上元宫。毕，又向星微咒曰：

五炁玄飞，光流北方；仰望五门，苍阙郁繁；激芒达观，灵映景云，中有黑皇，厥字精源；龙娥纷蔼，俱理玄关；齐服苍帔，紫锦飞裙，腰佩虎符，首巾莲冠；出凌九虚，入响玉津；前导黑帝，后从六壬；来下见迎，上登紫房，名书太上，得为玉真。

咒毕，去手勿复掩耳，故临目视星，服星之光芒二十七过。存令五芒尽来入喉中，都毕，又三叩齿。常行之十四年，辰星中太玄上皇真君奏闻高上宫，刻琳房玉札，定玉清紫文，位为上清真公。辰星有五门，门内有五黑帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央玄皇君也。玄皇者，北方之上真，太玄之尊君，出入上虚，与紫精道君为友也。其备门黑帝，或号为黑灵之公，或号黑神，或号为黑精，或号为黑帝君，并受事于中央太玄黑真上皇君。行八素之隐道，则致北皇来降己；行五灵之外法，则致黑帝君来授书。尊卑差序，故道有隐显焉。若天阴之夕，及无星见之时，可于室中寝处，常修之。此高上之秘道，奔登北辰之上法也。非地仙陆行所得闻者也。玉清、上清、太极太



清、九宫，并各有官寮，公卿大夫侯伯，署置如一，更相管统，奉属于上皇。宫阙、次第等类相似，但道品有尊贵，德业有升降。

### 飞登土星之道

镇星员镜，土精镇荫黄道。镇星中有四门，门中出四锋芒，锋芒光垂四百万丈。一门各有一黄帝，凡四黄帝备门，奉卫于镇星黄真君也。星中央有中黄真皇道君，讳藏睦，字颺延。夫人讳空瑶，字非贤。治在镇星之内，镇鉴四门，运黄裳流炁，朗映中元，照盼学真者。欲飞登之法，思见镇星，正心视星，以两手拊心。拊心毕，举左手以掩洞房上，乃四闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心呼镇星真皇君、君夫人讳字三过毕，曰：愿得与中央太皇道君，君夫人共乘八景黄舆，上登上清宫。毕，又向星微咒曰：

四炁徘徊，合注中元；仰望九极，傍观四门；黄台紫房，垂锋射芒，灵光郁散，天华落盆；中有黄皇，厥字颺延，夫人潜德，是为非贤；理和命炁，导玄灌元；齐服黄裳，龙锦虎裙；腰佩金符，首巾紫冠；出凌玄空，展光金门；前导黄帝，六已卫轩；来下见迎，上登天关；金书太上，琅简刻名；飞行太空，得为玉卿。

咒毕，去手勿复掩洞房上而瞑两目，服星之光二十七遍。存令四芒尽来入喉中，都毕，又三叩齿。常行之十四年，镇星中黄上真皇奏闻太上宫，刻霄台碧简，定九玄丹文，位为上清真公，下友四极上真人。镇星中有四门，门内有四黄帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央黄真皇君也。中央黄真上皇者，中极之高尊，出入太微，与皇初道君为友也。或号曰黄灵之公，

或号曰黄神，或号黄精，或号黄帝君，并受事于中黄上真之君也。行八素之秘道，则致黄真道君来迎已；行五灵之外法，则致黄帝来授书矣。天阴无星之时，皆于寝室施行，同存五方也。真人云在室内存星，亦不异于见星也。勿谓不见星而当废之也。此太上之隐道，登辰之秘法矣。

吞服星光芒时，当悉存星真上皇、皇夫人乘光中来下入口，咽之，瞑目，仿佛如有其形也。此李君口诀。耽修太上隐法、招存五星之上皇者，五年之内，仿佛形见；七年都见，与之周行；十四年，五星一合来下，共乘玄华之舆，三素紫云，前导五帝，后从万真，五星携之共载，白日登辰，上朝玉清，受书为上清上真矣。

## 卷二十六 十洲三岛部

### 十洲（并序） 东方朔集

汉武帝既闻王母说八方巨海之中有祖洲、瀛洲、玄洲、炎洲、长洲、元洲、流洲、生洲、凤麟洲、聚窟洲等十洲，并是人迹所希绝处。又始知东方朔非世常人，是以延之曲室，而亲问十洲所在方物之名，故书记之。方朔云：臣学仙者耳，非得道之人。以国家盛美，特招延儒墨于文纲之内，抑绝俗之道，摈虚诡之迹，臣故韬隐逸而赴王庭，藏养生而侍朱闕矣。亦由尊上好道，且复欲徜徉威仪也。曾随师之主履行，比至朱陵扶桑之闕，溽海冥液之丘；纯阳之陵，始青之下，月宫之间；内游七丘，中旋十洲；践赤县而遨五岳，行陂泽而息名山。臣自少及今，周流六天，涉历八极于是矣。未若陵灵之子，听真之官，上下九天，洞视百方；北极钩陈而并华盖，南翔太丹而栖火夏；东之通阳之霞，西薄寒穴之野；日月所不逮，星汉所不与；其上无复物，其下无复底。臣之所识，如愧不足以酬广矣。

#### 祖洲

祖洲近在东海之中，地方五百里，去西岸七万里。上有不

死之草，草形如菰苗，长三四尺。人死者以草覆之，皆当时活也。服之令人长生。昔秦始皇苑中多枉死者，横道有鸟如乌状，衔此草覆死人面，当起坐而自活也。有司闻奏，始皇遣使者赍草以问北郭鬼谷先生。鬼谷先生云：臣尝闻东海祖洲上有不死之草，生琼田内，或名为养神芝，其叶似菰苗，丛生，一株可活一人。始皇于是慨然言曰：可采得之不？乃使使者徐福，发童男童女各三百人，率载楼船等入海寻祖洲，遂不返。福，道士也，字君房，后亦得道。

### 瀛洲

瀛洲在东大海中，地方四千里，大抵是对会稽郡，去西岸七十万里，上生神芝仙草，又有玉石，高且千丈，出泉如酒味，名之为玉醴泉，饮之数升辄醉，令人长生。洲上多仙家，风俗似吴中，山川如中国也。

### 玄洲

玄洲在北海之中戌亥之地，地方七千二百里，去南岸三十六万里。有太玄都，仙伯真公所治。多丘山，又有风。山多风，气响雷电。对天西北门，上多太玄仙官，仙官宫室各异。饶金石紫芝，又是三天所治之处。

### 炎洲

炎洲在南海中，地方二千里，去北岸九万里。上有风生兽，似豹，青色，大如狸。张网取之，积薪数车以烧之，薪尽而兽

不燃，灰中而立，毛亦不焦。斫刺不入，打之如皮囊，即以铁追锻其头数千下乃死，而张口向风，须臾复活，以石上菖蒲塞其鼻即死。取其脑和菊花服之，尽十斤得寿五百年。又有火林山，山中有火光兽，大如鼠，毛长三四寸，或赤或白。山可三百里许，晦夜尝见此山林，乃是此兽光照，状如火光相似。取其兽毛以缉为布，时人号为火浣布也。国人衣服之，若有垢污，以灰汁浣之，终不洁净。唯以火烧两食久，振摆之，其垢自落，洁白如雪。亦多仙家居处。

### 长洲

长洲一名青丘，在南海辰巳之地。地方五千里，去岸二十万里。上饶山川，又多大树。树乃有二千围者。一洲之上，专是林木，故一名青丘。天有仙草灵药，甘液玉英，又有风山，山恒震声。有紫府宫，天真仙女游于此地。

### 元洲

元洲在北海中，地方三千里，去南岸十万里。上有五芝玄涧，涧水如蜜浆，饮之长生，与天地相毕。服此五芝，亦得长生不死。上多仙家。

### 流洲

流洲在西海中，地方三千里，去东岸十九万里。上多山川积石，名为昆吾。冶其石成铁作剑，光明洞照，如水精状，割玉如泥。亦多仙家。

## 生洲

生洲在东海丑寅之间，接蓬莱七十万里，地方二千五百里，去西岸二十三万里。上有仙家数万。天气安和，芝草常生，地无寒暑，安养万物。亦多山川、仙草、众芝。一洲之水，味如饴酪。至良洲者也。

## 凤麟洲

凤麟洲在西海之中，地方一千五百里。洲四面弱水绕之，鸿毛不浮，不可越也。洲上多凤麟数万，各各为群。又有山川池泽及神药百种，亦多仙家。煮凤喙及麟角合煎作胶，名之为续弦胶，或名连金泥。此胶能续弓弩已断之弦，连刀剑断折之金，更以胶连续之处，使力士掣之，他处乃断，所续之际终无所损也。天汉三年，帝幸北海祠骊山。四月西国王使至，献灵胶四两及吉光毛裘。武帝受以付外库，不知胶、裘二物之妙用也。以为西国虽远，而上贡者不奇，稽留使者未遣。久之，武帝幸华林园，射虎而弩弦断，使者从驾，又上胶一分，使口濡以续弩弦。帝惊曰，异物也。乃使武士数人，共对掣引，终日不脱，如未续时。其胶色青如碧玉，吉光毛裘黄色，盖神马之类也。裘入水数日不濡，入火不焦。帝于是乃悟，厚谢使者而遣去。又益思方朔之远见。周穆王时，西胡献昆吾刀及夜光常满杯。刀长一尺，杯受三升。刀切玉如切泥，杯是白玉之精，光明照夜。冥夕出杯于中庭以向天，比明而水以满杯中，汁甘而香美，斯实灵人之器。秦始至时，西胡献切玉刀，无复常满杯耳。如此胶之所出，从凤麟洲来；剑之所出，从流洲来，并

是西海中所有也。

### 聚窟洲（沧海岛附）

聚窟洲在西海中申未地，地方三千里，北接昆仑二十六万里，去东岸二十四万里。上多神仙灵官，宫第比门，不可胜数。及有狮子、辟邪、凿齿、天鹿、长牙铜头铁额之兽。洲上有大山，形似人鸟之象，因名之为人鸟山。山专多大树，与枫木相类，而林芳叶香，闻数百里。此为反魂树，亦能自作声，如群牛吼，闻之者皆心振神骇。伐其木根，置于玉釜中煮取汁，更微火煎如黑饴状，令可丸之，名曰惊精香，或名之为振灵丸，或名之为返生香，或名之为振檀香，或名之为人鸟精，或名之为却死香。一种六名，斯灵物也。香气闻数百里。死者在地闻香气，乃却活，不复亡也。以香薰死人，更加神验。如此之后延和三年，武帝幸安定。西胡月支国王遣使献香四两，大如雀卵，黑如桑椹。帝以其非中国所有，以付外库。又献猛兽一头，形如五六十日犬子，大似狸而色黄，命国使以呈帝，帝见使者抱之，其以羸细秃悴，怪其贡之非也。问使者：此小物可弄，何谓猛兽？使者对曰：夫威加于百禽者，不必计之以大小。是以神麟故为巨象之王，鸾凤必为大鹏之宗，百足之虫制于珣，亦不在于巨细也。臣国去此三十万里。国有常占东风入律，百旬不休青云干吕，连月不散者，当知中国将有好道之君。我王固将贱儒墨而贵道德，薄金玉而厚灵物也。故搜奇蕴贡神香，步天林而请猛兽，乘毳车而济弱渊，策驥足以度飞沙。契阔途遥，辛苦蹊路于今，已十三年矣。香神起妖残之死疾，猛兽却百邪之魅鬼。夫此二物，实是养生之要，助政平化。岂图陛下反不知真乎？是臣国占风之谬矣！今日仰鉴天姿，亦乃非有道

之君也。眼多视则淫色，口多言则犯难，身多动则淫贼，心多饰则奢侈。未有用此四者而成天下之治也。武帝忿然不平，又问使者：猛兽何方而伏百禽？食啖何物？膂力何比？其所生何乡耶？使者曰：猛兽所出，或出昆仑，或生玄圃，或生聚窟，或生天露，其寿不赀，食气饮露，解人言语，仁惠忠恕，当其仁也；爱护蠢动，不犯虎豹以下，当其威也；一声叫发，千人伏息，牛马恐骇，惊断絙系，武士奄忽，失其势力，当其神也；立兴风云，吐嗽雨露，百邪迸走，蛟龙腾蛇，附处于太上之厩，役御狮子，名曰猛兽。盖神化无常，能为大禽之宗主，乃攬天之元王，辟邪之长兽者也。灵香即虽少，斯更生之神物也。疫病灾死者，将能起之，乃闻香气者即活也。芳又特甚，故难歇也。于是帝使使者令猛兽发声试听之。使者乃指兽，命发一声。兽舐唇良久，忽叫如天大雷声霹雳，又两目顾谭交光，精气冲天，良久方止。帝登时颠蹶，掩耳振动，不能自止。时卫者武士虎贲，俱失仗伏地，诸内外牛马犬豕之属，皆绝绊离系，惊骇放荡，久许而定。帝忌之，因以此兽付上林苑，令虎食之。于是虎闻兽来，乃相屈聚积，如死虎伏。兽入苑，径上虎头溺虎口，去十步已来，顾视虎，虎辄闭目。帝恨使者言不逊，欲收之。明日，失使者及猛兽所在。遣四出寻讨，不知所止。到后元封元年，长安城内病者数千百，亡者太半。帝试取月支神香烧之于城内，共死未三日者皆活，芳气经三月不歇。于是信知其神物也。乃更秘录者，复一旦又失之，检函封印如初，无复香也。帝逾懊恨不礼待于使者，益贵方朔之遗语。自愧求李少君之不勤，惭卫叔卿之复去。向使厚待使者，必有所益也。

沧海岛在北海中，地方三千里，海四面绕岛，各五千里。水皆沧色，仙人谓之沧海者也。岛上专是大山积石，有名石象，八石：石脑、石柱英、流月、黄子、石胆之辈百馀种，皆生于



岛，服之神仙。外别有圆海绕山，圆水色正黑，谓之溟海。无风而洪波百丈，不可得往。上有九老丈人九天真王，盖太上真人之所居，唯飞仙能到其处耳。

### 三岛

#### 昆仑

昆仑，一号曰昆仑。在西海戍地，北海之亥地。地方一万里，去岸十三万里。又有弱水周回绕匝。山东南接积石圉，西北接北户之室，东北临大活之井，西南至承渊之谷，此四角大山实昆仑之支辅也。积石圉南头是王母宫。王母告周穆王云：山去咸阳三十六万里，山高平地三万六千里，上有三角山，方广万里，形如偃盆，下狭上广，故曰昆仑山三角。其一角干辰之辉，名曰阊风巅；其一角正西，名玄圃堂；其一角正东，名昆仑宫。其一角有积金为天墉城，面方千里。城上安金台五所，玉楼十二所。其北户山、承渊山入有墉城，金台玉楼相映，如流精之阙，光碧之堂，琼华之室，紫翠丹房。景云烛日，朱霞九光，西王母之所治也，真官仙灵之所宗。上通璇玑，元气流布五常玉衡，理九天而调阴阳，品物群生，希奇特出，皆在于此。天人济济，不可具记。此乃天地之根纽，万度之纲柄矣。是以太上名山鼎于五方，镇地理也；号天柱于珉城，象纲轮也。诸百川极深，水灵居之，其阴难到，故治无常处。非如丘陵而可得论尔。乃天地设位，物象之宜，上圣观方，缘形而著尔。乃处玄风于西极，坐王母于坤乡。昆吾镇在于流泽，扶桑植于

碧津。离合火精，而光兽生于炎野；坎总众阴，是以仙都宅于海岛。艮位名山，蓬山镇于寅丑；巽体元女，养巨木于长洲。高风鼓于群龙之位，畅灵符于瑕丘。至妙玄深，幽神难尽测。真人隐宅，灵仙所在，六合之内，岂唯数处而已哉！此盖举其标末耳。臣朔所见不博，未能宣通王母及上元夫人圣旨。昔曾闻之于得道者，说此十洲大丘灵阜，皆是真仙隩墟，神官所治。其余山川万端，并无睹者矣。其北海外又有锺山，在北海之子地，隔弱水之北一万九千里，高一万三千里，上方七千里，周旋三万里。自生千芝及神草四十余种。上有金台玉阙，亦元气之所舍，天帝君治处也。锺山之南有平邪山，北有蛟龙山，西有郢草山，东有东木山。四山，锺山之枝干也。四山高锺山三万里，宫城五所。如一登四面山，下望见锺山耳。四面山，帝君之城域也。又仙人出入道径，自一路从平邪山东南入穴中，乃至内长生岛中紫石室宫，九老仙都治处，仙官数万众。记之。

#### 方丈（扶桑附）

方丈洲在东海中心西南东北岸正等。方丈面各五千里。上专是面龙所聚者。金玉琉璃之宫，三天司命所治之处。群仙若欲升天者，往来此洲，受太上玄生策。仙家数十万，琼田芝草课计顷亩，如种稻状。亦有石泉，上有九原丈人宫主，领天下水神及龙蛇巨鲸阴精水兽之辈。

扶桑在东海之东岸一万里，复得碧海。海广狭浩汗，与合东海等大，碧水既不咸苦，正作碧色，甘香味美。扶桑在碧海之中，地方万里。上有太上帝太真王父所治处。地多林木，叶皆如桑，又有椹子。树长者数千丈，径三千馀围。树两两同根偶生，更相依倚，是以名扶桑。仙人食其椹而一体皆作金色，

飞翔玄虚。其树虽大，其叶及椹如中夏桑也。但椹希而赤，九千岁一生实耳，味绝甘香。地生紫金丸玉，如诸夏之瓦石。真仙官变化万端，盖无形，有分形为百身十丈者。

### 蓬丘

蓬丘，蓬莱山是也。对东海之东北岸，周回五千里。北到锺山北阿门外，乃天帝君总九天之维，贵无比焉。山源周回，具有四城，其中高山当心，有似于昆仑也。昔禹治洪水既毕，乃乘桴车度弱水而到此山，祠上帝于北阿，归大功于九天。又禹经诸五岳，使工刻石识其里数高下，其字科斗书，非汉人所晓。今丈尺里数皆禹时书也。不但刻劖五岳，诸名山亦然。其所刻之处独高耳。今书是臣朔所具见。其王母所道诸灵藪，禹所不履，唯书中夏之名山耳。臣先师谷希子者，太上真官也。昔授臣昆仑、锺山、蓬莱山及神洲真形图，昔来入汉，留以寄所知故人。此书又尤重于五岳真形图矣。昔也传受年限正同耳。陛下好道思微，甄心内向，天尊下降，并受传宝秘。臣朔区区，亦何嫌惜而不上所有哉？然术家幽事，道法隐秘。某师云，师术泄则事多疑，师显则妙理散，愿且勿宣臣之言意也。武帝欣闻至说，明年，遂复从受诸真形图。常带之，则候八节常朝拜灵书，求脱屣焉。朔谓滑稽，都虚其心，故弄万乘，傲公侯，不可得而师友，不可得而喜怒，故武帝不能尽至理于此人矣。

## 卷二十七 洞天福地部

天地宫府图（并叙）      银青光禄大夫真一先生司  
马紫微集

夫道本虚无，因恍惚而有物气，元冲始，乘运化而分形。精象玄著，列宫阙于清景；幽质潜凝，开洞府于名山。元皇先乎象帝，独化卓然，真宰湛尔，冥寂感而通焉，故得琼简紫文，方传代学；琅函丹诀，下济浮生。诚志攸勤，则神仙应而可接；修炼克著，则龙鹤升而有期。至于天洞区畛，高卑乃异；真灵班级，上下不同。又日月星斗，各有诸帝，并悬景位，式辨奔翔，所以披纂经文，据立图象，方知兆朕，庶覩希夷，则临目内思，驰心有诣，端形外谒，望景无差。乃名曰《天地宫府图》。其天元重叠，气象参差，山洞崇幽，风烟迅远，以兹缣素，难具丹青，各书之于文，撰《图经》二卷。真经所载者，此之略备；仙官不言者，盖阙而未详。

### 十大洞天

太上曰：十大洞天者，处大地名山之间，是上天遣群仙统治之所。

第一王屋山洞

周回万里，号曰小有清虚之天。在洛阳、河阳两界，去王屋县六十里，属西城王君治之。

第二委羽山洞

周回万里，号曰大有空明之天。在台州黄严县，去县三十里，青童君治之。

第三西城山洞

周回三千里，号曰太玄总真之天。未详在所，《登真隐诀》云，疑终南太一山是，属上宰王君治之。

第四西玄山洞

周回三千里，号三元极真洞天。恐非人迹所及，莫知所在。

第五青城山洞

周回二千里，名曰宝仙九室之洞天。在蜀州青城县，属青城丈人治之。

第六赤城山洞

周回三百里，名曰上清玉平之洞天。在台州唐兴县，属玄洲仙伯治之。

第七罗浮山洞

周回五百里，名曰朱明辉真之洞天。在循州博罗县，属青精先生治之。

第八句曲山洞

周回一百五十里，名曰金坛华阳之洞天。润州句容县，属紫阳真人治之。

第九林屋山洞

周回四百里，号曰尤神幽虚之洞天。在洞庭湖口，属北岳真人治之。

第十括苍山洞

周回三百里，号曰成德隐玄之洞天。在处州乐安县，属北海公涓子治之。

### 三十六小洞天

太上曰：其次三十六小洞天。在诸名山之中，亦上仙所统治之处也。

第一霍桐山洞

周回三千里，名霍林洞天。在福州长溪县，属仙人王纬玄治之。

第二东岳太山洞

周回一千里，名曰蓬玄洞天。在兖州乾封县，属山图公子治之。

第三南岳衡山洞

周回七百里，名曰朱陵洞天。在衡州衡山县，仙人石长生治之。

第四西岳华山洞

周回三百里，名曰总仙洞天。在华州华阴县，真人惠车子主之。

第五北岳常山洞

周回三千里，号曰总玄洞天。在虢州常山曲阳县，真人郑子真治之。

第六中岳嵩山洞

周回三千里，名曰司马洞天。在东都登封县，仙人郑云山治之。

第七峨嵋山洞

周回三百里，名曰虚陵洞天。在嘉州峨嵋县，真人唐览治之。

第八庐山洞

周回一百八十里，名曰洞灵真天。在江州德安县，真人周正时治之。

第九四明山洞

周回一百八十里，名曰丹山赤水天。在越州上虞县，真人刁道林治之。

第十会稽山洞

周回三百五十里，名曰极玄大元天。在越州山阴县镜湖中，仙人郭华治之。

第十一太白山洞

周回五百里，名曰玄德洞天。在京兆府长安县，连终南山，仙人张季连治之。

第十二西山洞

周回三百里，名曰天柱宝极玄天。在洪州南昌县，真人唐公成治之。

第十三小沔山洞

周回三百里，名曰好生玄上天。在潭州澧陵县，仙人花丘林治之。

第十四灊山洞

周回八十里，名曰天柱司玄天。在舒州怀宁县，仙人稷丘子治之。

第十五鬼谷山洞

周回七十里，名曰贵玄司真天。在信州贵溪县，真人崔文子治之。

第十六武夷山洞

周回一百二十里，名曰真升化玄天。在建州建阳县，真人刘少公治之。

第十七玉笥山洞

周回一百二十里，名曰太玄法乐天。在吉州永新县，真人梁伯鸾主之。

第十八华盖山洞

周回四十里，名曰容成大玉天。在温州永嘉县，仙人羊公修治之。

第十九盖竹山洞

周回八十里，名曰长耀宝光天。在台州黄严县，属仙人商丘子治之。

第二十都峽山洞

周回一百八十里，名曰宝玄洞天。在容州普宁县，仙人刘根治之。

第二十一白石山洞

周回七十里，名曰秀乐长真天。在郁林州南海之南也，又云和州含山县，是白真人治之。

第二十二岫脊山洞

周回四十里，名曰玉阙宝圭天。在容州北流县，属仙人钱真人治之。

第二十三九疑山洞

周回三千里，名曰朝真太虚天。在道州延唐县，仙人严真青治之。



第二十四洞阳山洞

周回一百五十里，名曰洞阳隐观天。在潭州长沙县，刘真人治之。

第二十五幕阜山洞

周回一百八十里，名曰玄真太元天。在鄂州唐年县，属陈真人治之。

第二十六大酉山洞

周回一百里，名曰大酉华妙天。去辰州七十里，尹真人治之。

第二十七金庭山洞

周回三百里，名曰金庭崇妙天。在越州剡县，属赵仙伯治之。

第二十八麻姑山洞

周回一百五十里，名曰丹霞天。在抚州南城县，属王真人治之。

第二十九仙都山洞

周回三百里，名曰仙都祈仙天。在处州缙云县，属赵真人治之。

第三十青田山洞

周回四十五里，名曰青田大鹤天。在处州青田县，属傅真人治之。

第三十一锺山洞

周回一百里，名曰朱日太生天。在润州上元县，属龚真人治之。

第三十二良常山洞

周回三十里，名良常放命洞天。在润州句容县，属李真人治之。

第三十三紫盖山洞

周回八十里，名紫玄洞照天。在荊州常阳县，属公羽真人治之。

第三十四天目山洞

周回一百里，名曰天盖涤玄天。在杭州馮杭县，属姜真人治之。

第三十五桃源山洞

周回七十里，名曰白马玄光天。在玄洲武陵县，属谢真人治之。

第三十六金华山洞

周回五十里，名曰金华洞元天。在婺州金华县，属戴真人治之。

七十二福地

太上曰：其次七十二福地，在大地名山之间。上帝命真人治之，其间多得道之所。

第一地肺山

在江宁府句容县界，昔陶隐居幽栖之处，真人谢允治之。

第二盖竹山

在衢州仙都县，真人施存治之。

第三仙磕山

在温州梁城县十五里，近白溪草市，真人张重华治之。

第四东仙源

在台州黄岩县，属地仙刘奉林治之。

第五西仙源

亦在台州黄岩县峤岭一百二十里，属地仙张兆期治之。

第六南田山

在东海东，舟船往来可到，属刘真人治之。

第七玉溜山

在东海近蓬莱岛上，多真仙居之，属地仙许迈治之。

第八清屿山

在东海之西，与扶桑相接，真人刘子光治之。

第九郁木洞

在玉笥山南，是萧子云侍郎隐处。至今阴雨犹闻丝竹之音，往往樵人遇之，属地仙赤鲁班主之。

第十丹霞洞

在麻姑山是蔡经真人得道之处。至今雨夜多闻钟磬之声。属蔡真人治之。

第十一君山

在洞庭青草湖中，属地仙侯生所治。

第十二大若岩

在温州永嘉县东一百二十里，属地仙李方回治之。

第十三焦源

在建州建阳县北，是尹真人隐处。

第十四灵墟

在台州唐兴县北，是白云先生隐处。

第十五沃州

在越州剡县南，属真人方明所治之。

第十六天姥岑

在剡县南，属真人魏显仁治之。

第十七若耶溪

在越州会稽县南，属真人山世远所治之。

第十八金庭山

在庐州巢县，别名紫微山属马仙人治之。

第十九清远山

在广州清远县，属阴真人治之。

第二十安山

在交州北，安期先生隐处，属先生治之。

第二十一马岭山

在郴州郭内水东苏耽隐处，属真人力牧主之。

第二十二鹅羊山

在潭州长沙县，姜驾先生所隐处。

第二十三洞真墟

在潭州长沙县，西岳真人韩终所治之处。

第二十四青玉坛

在南岳祝融峰，西青鸟公治之。

第二十五光天坛

在衡岳西源头，凤真人所治之处。

第二十六洞灵源

在南岳招仙观，观西邓先生所隐地也。

第二十七洞宫山

在建州关隶镇五岭里，黄山公主之。

第二十八陶山

在温州安国县，陶先生曾隐居此处。

第二十九三皇井，

在温州横阳县，真人鲍察所治处。

第三十烂柯山

在衢州信安县，王质先生隐处。

第三十一勒溪

在建州建阳县东，是孔子遗砚之所。

第三十二龙虎山

在信州贵溪县，仙人张巨君主之。

第三十三灵山

在信州上饶县北，墨真人治之。

第三十四泉源

在罗浮山中，仙人华子期治之。

第三十五金精山

在虔州虔化县，仇季子治之。

第三十六閤皂山

在吉州新淦县，郭真人所治处。

第三十七始丰山

在洪州丰城县，尹真人所治之地。

第三十八逍遥山

在洪州南昌县，徐真人治之地。

第三十九东白源

在洪州新吴县东，刘仙人所治之地。

第四十钵池山

在楚州王乔得道之处。

第四十一论山

在润州丹徒县，是终真人治之。

第四十二毛公坛

在苏州长洲县，属庄仙人修道之所。

第四十三鸡笼山

在和州历阳县，属郭真人治之。

第四十四桐柏山

在唐州桐柏县，属李仙君所治之处。

第四十五平都山

在忠州，是阴真君上升之处。

第四十六绿萝山

在朗州武陵县，接桃源界。

第四十七虎溪山

在江州南彭泽县，是五柳先生隐处。

第四十八彰龙山

在潭州澧陵县北，属臧先生治之。

第四十九抱福山

在连州连山县，属范真人所治处。

第五十大面山

在益州成都县，属仙人柏成子治之。

第五十一元晨山

在江州都昌县，孙真人安期生治之。

第五十二马蹄山

在饶州鄱阳县，真人子州所治之处。

第五十三德山

在朗州武陵县，仙人张巨君治之。

第五十四高溪蓝水山

在雍州蓝田县，并太上所游处。

第五十五蓝水

在西都蓝田县，属地仙张兆期所治之处。

第五十六玉峰

在西都京兆县，属仙人柏户治之。

第五十七天柱山

在杭州于潜县，属地仙王伯元治之。

第五十八商谷山

在商州，是四皓仙人隐处。

第五十九张公洞

在常州宜兴县，真人康桑治之。

第六十司马悔山

在台州天台山北，是李明仙人所治处。

第六十一长在山

在齐州长山县，是毛真人治之。

第六十二中条山

在河中府虞乡县管，是赵仙人治处。

第六十三茭湖鱼澄洞

在西古姚州，始皇先生曾隐此处。

第六十四绵竹山

在汉州绵竹县，是琼华夫人治之。

第六十五沪水，

在西梁州，是仙人安公治之。

第六十六甘山

在黔南，是宁真人治处。

第六十七 晃山

在汉州，是赤须先生治之。

第六十八金城山

在古限戍，又云石戍，是石真人所治之处。

第六十九云山

在邵州武刚县，属仙人卢生治之。

第七十北邙山

在东都洛阳县，属魏真人治之。

第七十一庐山

在福州连江县，属谢真人治之。

第七十二东海山

在海州东二十五里，属王真人治之。



## 卷二十八 二十八治部

### 二十四治（并序）

谨按《张天师二十治图》云：太上以汉安二年正月七日中时下二十四治：上八治、中八治、下八治。应天二十四气，合二十八宿，付天师张道陵奉行布化。张天师，沛国丰县人也，讳道陵，字辅汉。禀性严直，经明行修，学道有方。永平二年，汉帝诏书，就拜巴郡江州令。以延和元年三月十日辛丑，诏书拜为司空，封食冀县侯。以芝草、图经、历神仙为事，任采延年药饵金液丹。以汉安元年丁丑，诏书迁改，不拜。遂解官入益州部界。以其年于蜀郡临邛县渠亭山赤石城中，静思精至，五月一日夜半时，有千乘万骑来下至赤石城前，金车羽盖，步从龙虎鬼兵，不可称数。有五人，一人自言，吾是周时柱下史也；一人自言，吾是新出太上老君也；一人云，吾是太上高皇帝中黄真君也；一人言，吾是汉师张良子房也；一人言，吾是佐汉子渊天师外祖也。子骨法合道，当承老君忠臣之后。今授子鬼号，传世子孙为国师，抚民无期。于是道陵方亲受太上质敕，当步纲躋纪，统承三天，佐国扶命，养育群生，整理鬼气，传为国师。依其度数，开立二十四治、十九静庐，授以正一盟威之道，伐诛邪伪，与天下万神，分付为盟。悉承正一之道也。

上皇元年七月七日，无上大道老君所立上品治八品诀要掌中，伏弓造天地五龙，布山岳，老君立位治，以用化流愚俗，学者不得贪竞，欲仙道克成，可传之与质朴也。

### 第一阳平治

治在蜀郡彭州九陇县。去成都一百八十里。道由罗江水两岐山口入，水路四十里。治道东有龙门，拒守神水，二柏生其上。西南有大泉，决水归东。治应角宿，贵人发之，治王始终。嗣师天师子也，讳衡，字灵真。为人广智，志节高亮，隐习仙业。汉孝灵帝徵为郎中，不就。以光和二年正月十五日巳己于山升仙。立治碑一双在门，名曰嗣师治也。

阳平谪仙妻，不知其姓名。九陇居人张守珪，家甚富，有茶园，在阳平化仙居内，每岁召采茶人力百馀辈，男女佣工杂之，园中有一少年，赁为摘茶。自言无亲族，性甚了慧勤愿。守珪怜之，以为义儿。又一女子二十馀，亦无亲族，愿为义儿之妇，孝义端恪，守珪甚善之。一旦山水泛滥，市井路绝，盐酪既阙，守珪甚忧。新妇曰：此可买耳。取钱出门十数步，置钱树下，以杖扣树，得盐酪而归。后或有所要，但令扣树取之，无不得者。其夫术亦如此。因与邻妇十数人，于棚口市相遇，为买酒一碗与众妇饮之，皆醉，而碗中酒不减。远近传说，人皆异之。守珪请问其术受于何人？少年曰：我阳平洞中仙人耳。因有小过，谪于人间，不久当去。守珪曰：洞府大小与人间城阙相类否？答曰：二十四化各有一大洞，或方千里、五百、三百里。其中皆有日月飞精，谓之伏神之根，下照洞中，与世间无异。其中皆有仙王、仙官、仙卿辅相佐之，如世之职司。有得道之人及积功迁神反生之者，皆居其中，以为民庶。每年三

元大节，诸天有上真下游洞天，以观其所理善恶。人世死生、兴废、水旱、风雨，预关于洞中焉。其龙神、祠庙、血食之司，皆为洞府所统也。二十四化之外，其青城、峨嵋、益登、慈母、繁阳、蟠冢，亦各有洞天，不在十大洞天、三十六小洞天之数。洞之仙曹，如人间郡县聚落耳。不可一一详记之也。旬日之间，忽然夫妇俱去。

右阳平治山。山中有主簿治、嗣师治、系师治。

### 第二鹿堂山治

治在汉州绵竹县界北乡，去成都三百里。上有仙室、仙台，古人度世之处。昔永寿元年，太上老君将张天师于此治上，与四镇太岁大将军、川庙百鬼共折石为要，皆从正一盟威之道。山有松柏、五龙仙穴，能通船渡，持火入穴，三日不尽。治应亢宿，号长发之，治王八十年。

### 第三鹤鸣神山上治

治在其上，山与青城天国山相连，去成都二百里。在蜀郡临邛县界，径道三百里，世人不知之。马底子、何丹阳得道处。治前三水共成一带，神龙居之。有四金钉、二石金银，蚕三斛，亦言尹喜主之。治应氐宿，贱人发之，治王六十年。《神仙传》云：张天师遇中国纷乱，乃入蜀鹤鸣山学道也。

### 第四漓沅山治

治在彭州九陇县界，与鹿堂山治相连。其间八十里，去成

都二百五十里。有果松神草，服之升仙。又有四龙起骑之门，范蠡主之。治应房宿，庶人发之，治王二十年。

### 第五葛瓚山治

治在彭州九陇县界，与漓沱山相连。去成都县二百三十里，去阳平治水口四十八里。昔贤于此得道。上有松栗山，高六百丈。治应心宿，道人发之，治王九十年。南康王太尉中书令韦公皋为成都尹，相国张公之爱婿，而量深器大，举止简傲，不狎于俗。张公奕世相家，德望清贵，举族皆轻侮于韦，以此见薄，亦未之悟也。忽梦二神人谓之曰：天下诸化，领世人名籍。吾子名系葛瓚，禄食全蜀，富贵将及，何自滞耶？勉哉行矣！异日当富贵，无以葛瓚为忘也。由是韦有干禄之志，谋于其室家，复勉励之，以收奩数十万金，资其行计。既达秦川，属岁饥久雨，因知友所聘，署陇州军事判官。俄而驾出奉天，郡守奔难行在。皋率土客甲士，馈挽军储，以申扈卫，以功就拜防御使。复请赴觐行朝，德宗望而器之。既平寇难，大驾还京。以功检校右仆射、凤翔节度使。恳让乞改西川，乃授西川节度，与张公交代焉。拥师赴任，张假道归阙以避其锋。既而累年蜀境大穰，金帛丰积，南诏内附，乞为臣妾。威名益重而贡赋不亏，朝廷倚注，戎蛮慑伏。由是请许南诏置习读院，入质子、学生习《诗》、《书》、《礼》、《乐》。公文翰之美，冠于一时。南诏得其手笔，刻石以荣其国，而葛瓚之事久已忘矣。又梦二神人曰：富贵而忘所因，其何甚耶！公梦觉流汗，惊骇久之，乃躬诣云林，炷香祈福，遂命工度木，揆日修崇作南宫飞阁四十间。巨殿修廊，重门邃宇，范金刻石，知无不为。支九陇租赋于山下阿屯输贮，糗粮山积，匠石云起，自制碑刊于

洞门之侧，上构层楼，拣选僮七十人以供洒扫，良田五百亩以贍斋储。在镇二十余年，封至王爵矣。即本命丁卯，属葛瓚化也。

### 第六庚除治

山去平地三百九十丈，在广汉郡绵竹县西，去县五里，去成都二百八十里。上常有仙人来往，可以度厄养性。昔张力得道之处，山有二石室，三龙头，淮水绕之。治应尾宿，当道士发之，治王始终。

### 第七秦中治

主神仙在广汉郡德阳县东九里，去成都二百里。其山浮，昔韩众于其上得仙。前有大水，东有道径于汉洛。治面有大石铜为志。治应箕宿，癩人发之，治王始终。

### 第八真多治

山在怀安军金堂县，去成都一百五十里。山有芝草神药，得服之令人寿千岁。山高二百八十丈，前有池水，水中神鱼五头。昔王方平于此与太上老君相见。治应斗宿，女人发之，治王七十年。

无极元年十月五日，真正无极太上立治中八品气要诀在掌中。

### 第一昌利治

山在怀安军金堂县东四十里，去成都一百五十里，昔蜀郡李八伯初学道处。八伯，唐公房之师也。游行蜀中诸名山，常自出戏于成都市，暮宿于青城山上，故号为八伯也。其山南有一石室，容八十人，前有三龙门为志。治应牛宿，狂惑人发之，治王五百年。

### 第二隶上治

山季子先生学道飞仙。治在广汉郡德阳县东二十里。山有二石室，有一神井。白鹿、白鹤、白鸠时来饮之。有石在治前，与绵母治相连。西有赤石溪，上有三松为志。山去平地二千九百丈。昔中山卫叔卿于此得道。治应女宿，贫贱人发之治。王百年。

### 第三涌泉山神治

昔广汉马明生学道得仙，太上老君至此化形住此。治在遂宁郡小溪县界，上有泉水，治万民病，饮之无不差愈，传世为祝水。治去成都二百里，有悬崖百丈，近绵水，猴猿百鸟来在其间。治应虚宿，野人发之，治王三十年。其山小而高，四向有游道。

### 第四稠粳治

在犍为郡新津县，去成都一百一十里，汶山江水经焉。山高去平地一千七百丈，昔轩辕学道之处也。治左右有连罔相续，西北有味江水。山亦有芝草仙药，可养性命。治应危宿，贵人

发之，治王五十年。

### 第五北平治

在眉州彭山县，去成都一百四十里。山上有池水，纵广二百步，中有神芝药草，食之与天相久，昔越人王子乔得仙。治应室宿，道师发之，治王四十年。一名 斗山治。

### 第六本竹治

山在蜀州新津县，去成都一百二十五里。山高一千三百丈，上有一水，有香林在治陌，北有龙穴地道通峨嵋山，上有松，昔郭子声得道之处也。后有林竹，西去十五里通鹤鸣山。前水中常有神龙游戏。治应壁宿，龙门吏人发之，治王五百年。

### 第七蒙秦治

山在越巂郡台登县西，去城二十里，去成都一千四百二十里。治与越巂郡隔河水，前有小山，后有大山，高一千丈。昔伊尹于此山学道。上有芝英金液草，服之得度世。后有汉中郡赵升得道于此。治应奎宿，凡人发之，治王九十年。

### 第八平盖治

山在蜀州新津县，去成都八十里。前山下有玉人，身長一丈三尺。昔吴郡崔孝通于此山学道得飞仙。山西有大江，南有长山，北有平川，中有龙门。治应娄宿，阴人发之，治王千年。

无上二年正月七日，无为大道玄真立下八品治气要诀在掌中。

### 第一云台山治

在巴西郡阆州苍溪县东二十里，上山十八里方得，山足去成都一千三百七十里。张天师将弟子三百七十人住治上教化，二年白日升天。其后一年，天师夫人复升天。后三十年，赵升、王长复得白日升天。治前有巴西大水，山有一树桃，三年一花，五年一实，悬树高七十丈，下无底之谷。唯赵升乃自掷取得桃子，馀者无能取之。治应胃宿，有人形师人发之，治王五十年。又云云台治山中有玉女乘白鹤，仙人乘白鹿，又有仙师来迎天师白日升天，万民尽见之。一云此天柱山也。在云台治前有立碑处。

《云台治中录》曰：施存，鲁人，夫子弟子。学大丹之道，三百年十炼不成，唯得变化之术。后遇张申为云台治官，常悬一壶如五升器大，变化为天地，中有日月如世间；夜宿其内，自号壶天，人谓曰壶公，因之得道在治中。

### 第二涪口治

山在汉中郡江阳县，去成都二千九百二十里。陈安世于此山上学道得仙。安世，京兆人也。汉中水过其前山，一名平元山，西有长山，东有流海，帝王所住，有青龙门。治应昴宿，俗人发之，治王五百年。

### 第三后城山治



在汉州什邡县，昔爰子然于此山上学仙得道。左有大水，后有重山。山有神芝，服之寿千岁。一名黄陵山，南有长山，北有青龙，东有松柏为志。治应毕宿，凡人发之治。王八十年。

#### 第四公墓治

在汉州什邡县，去治一百里，昔苏子于此山学道得仙。一名北逢仙山，南有石坎，北有悬流水。治应觜宿，病人发之，治王七十年。

#### 第五平罔治

山在蜀州新津县，去成都一百里，昔蜀郡人李阿于此山学道得仙，白日升天。治应参宿，道士发之，治王二十年。北有三重曹溪，南有特山为志。

#### 第六主簿山治

在邛州蒲江县界，去成都一百五十里。蜀郡人王兴于此学道得仙。一名秋长山，南有石室玉堂，松柏生其前。治应井宿，彻人发之，治王八十年。

#### 第七玉局治

在成都南门内。以汉永寿元年正月七日，太上老君乘白鹿、张天师乘白鹤，来至此坐局脚玉寐，即名玉局治也。治应鬼宿，千丈大人发之，治王三世。

### 第八北邙山治

在东都洛阳县，梁水在治左，务成子于此得道。大黄出东，亢泉南流。治应柳宿，仙圣发之，治王六十年。

《玄都律》第十六云：治者，性命魂之所属也。《五岳名山图》云：阳平治（属金，属角星）。鹿堂治（金，亢星）。鹤鸣治（木，氐星）。治沅治（土，房星）。葛瓚治（火，心星）。庚除治（火，尾星）。秦中治（水，箕星）。真多治（金，斗星）。

右八治是上品，并是后汉汉安元年太上老君所立。

昌利治（土，牛星）。隶上治（火，女星）。涌泉治（木，虚星）。稠粳治（火，危星）。北平治（金，室星）。本竹治（木，壁星）。蒙秦治（火，奎星）。平盖治（土，娄星）。

右八治是中品，置如前云。

云台治（木，胃星）。涇口治（木，昂星）。后城治（土，毕星）。公慕治（金，觜星）。平罔治（水，参星）。主簿治（金，井星）。玉局治（水，鬼星）。北邙治（土，柳星）。

右八治是下品，置如前云。

冈氏治（水，星星）。白石治（金，张星）。鍾茂治（水，翼星）。具山治（土，轸星）。《地图》云：此四治在京师东北。

右此四治是张天师所加。充前二十四治，合成二十八治，上应二十八宿。

平公治（属水，配涌泉治）。公慕治（属土，配稠粳治）。天台治（属土，配本竹治）。濂乡治属金，配昌利治。樽领治（属金，配云台治）。代元治（属金，配云台治）。和里治（属火，配隶上治）。漓沅治（属金，配昌利治）。

右是天师更加此八治，以配八品，周布四海，镇国化人也。

《太真科》下卷所说云：第一别治有四者：

第一具山治，第二锤茂治，第三白石治，第四冈氏治。

右四品，在外名别治，于内名备治。备治足二十八也，则与三八别也。

第二游治有八者：

第一吉阳治，第二平都治，第三河逢治，第四慈母治，第五黄金治，第六太华治，第七青城治（《五符经》作青城山），第八峨嵋治。

右八品是游治也。

第三配治有八者：

第一代元治，第二樽领治，第三濂乡治，第四天台治，第五八慕治，第六平公治，第七利里治，第八漓沅治。

右八品是配治也。

第四正治二十有四者：

第一北邙治，第二玉局治，第三主簿治，第四平罔治，第五公慕治，第六后城治，第七涇口治，第八云台治。

右是下品八治也。

第一平盖治，第二蒙秦治，第三本竹治，第四稠粳治，第五北平治，第六涌泉治，第七隶上治，第八昌利治。

右是中品八治也。

第一真多治，第二秦中治，第三庚除治，第四葛瓚治，第五漓沅治，第六鹤鸣治，第七鹿堂治，第八阳平治。

右是上品八治也。

第五星宿治二十有八，名上治，一名内治，又名大治，又名正治，是上皇元年七月七日，无上玄老太上大道君所立上、中、下品。

二十八宿要诀

第一角宿，上治无极虚无形，下治阳平山。

第二亢宿，上治无极虚无自然，下治鹿堂山。

第三氏宿，上治无极玄元无为，下治鹤鸣山（此三治主辰生）。

第四房宿，上治虚白，下治漓沅山。

第五心宿，上治洞白，下治葛瓚山（此二治主卯生）。

第六尾宿，上治三一，下治庚除山。

第七箕宿，上治三元，下治秦中山（此二治主寅生）。

第八斗宿，上治三五，下治真多山（此一治主丑生）。

右上八品无上治。

第九牛宿，上治九天，下治昌利山。

第十女宿，上治五城，下治隶上山（此合前三治主丑生）。

第十一虚宿，上治元神，下治涌泉山。

第十二危宿，上治丹田，下治稠粳山（此二治主子生）。

第十三室宿，上治常先，下治北平山。

第十四璧宿，上治金梁，下治本竹山（此二治主亥生）。

第十五奎宿，上治六府，下治蒙秦山。

第十六娄宿，上治太一君，下治平盖山。

右中八品玄老治之。

第十七胃宿，上治五龙，下治云台山（此合前三治主戌生）。

。

第十八昴宿，上治随天，下治湔口山。

第十九毕宿，上治六丁，下治后城山（此二治主酉生）。

第二十觜宿，上治十二辰，下治公募山。

第二十一参宿，上治还身，下治平冈山（此二治主申生）。

第二十二井宿，上治拘神，下治主簿山。

第二十三鬼宿，上治无形，下治玉局山（此非人所生）。

第二十四柳宿，上治聚元，下治北邙山（此三治主未生）。

右下八品太上治之。

太上汉安二年正月七月中时，二十四治上八、中八、下八以应二十四气，付天师张道陵。

第二十五星宿，上治别形，下治冈氏山。

第二十六张宿，上治保气，下治白石山（此二治主午生）。

第二十七翼宿，上治五玉，下治锺茂山。

第二十八轸宿，上治金堂，下治具山（此二治主未生）。

### 天师所立四治

天师以建安元年正月七日出下四治，名备治，合前二十八宿也。星宿治随天立，历运设教，劫劫有受命为天师者，各各申明，济世度人，以至太平。太平君出，更加有司随其才德，进位神仙。

天师以汉安元年七月七日立四治，付嗣师以备二十八宿。

第一冈氏治，在兰武山，应星宿。

第二白石治，在玄极山，应张宿。

第三具山治，在饭阳山，应翼宿。

第四锺茂治，在元东山，应轸宿（此四治说与前大同小异）。

。

系师以太元二年正月七日立八品游治。峨嵋治（在蜀郡界）。青城治（在蜀郡界）。黄金治（在蜀郡界）。太华治（在京兆郡界）。慈母治（在城市山界）。河逢治（在上党郡界）。

平都治（在巴郡界）。吉阳治（在蜀郡界）。

系师者，嗣师子也，讳鲁；于阳平山得尸解仙道。又立一治名系师治。但嗣师治并主簿是天师门下也，又立一治。今按《玄都职治律》第九云：代元治、平都治是巡游治也。是知峨嵋治等亦是游治。

## 卷二十九 禀生受命部一

### 禀受章

《混元述禀篇》曰：夫人生于天地之间，禀二气之和，冠万物之首，居最灵之位，总五行之英，参于三才，与天地并德，岂不贵乎？

《内观经》云：天地构精，阴阳布化，人受其生。一月为胞，精血凝也；二月为胎，形兆胚也；三月阳神为三魂，动以生也；四月阴灵为七魄，静镇形也；五月五行分五藏，以安神也；六月六律定六府，用滋灵也；七月七精开窍，通光明也；八月八景神具，降真灵也；九月宫室罗布，以定精也；十月气足，万象成也。元和哺饲，时不停也；太一居脑，总众神也；司命处心，纳生气也；桃康住脐，保精根也；无英居左，制三魂也；白元居右，拘七魄也；所以周身，神不空也。《易·系辞》曰“乾道成男，坤道成女”是也。

《因缘经》曰：人始受身，从虚无中来，回黄转白，构气凝精，承天顺地，合化阴阳。一月为胞，郁单天气下浹身中；

二月为胎，无量寿天气下浹身中；三月魄具，须延天气下浹身中；四月魄成，寂然天气下浹身中；五月生藏，不骄乐天气下浹身中；六月具六府，化应声天气下浹身中；七月明窍，梵辅天气下浹身中；八月景附，清明天气下浹身中；九月神降，无爱天气下浹身中；天神一万八千，身神一万八千，共三万六千。神气具足，十月而生。在胞之时，三元养育，九气布化，岁星为肝，太白为肺，镇星为脾，荧惑为心，辰星为肾，北斗七星开其七窍。七星降七童子，以卫其身。七星之气结为一星，在人头上，去顶三尺。人为善者，其星光大而明；为恶者，其星暗冥而小。善积则福至，恶积则灾生，星光坠灭，其身死矣。

《生神章经》曰：人之受生，于胞胎之中，三元育养，九气结形。九月神布，气满能声。十月神具，九天称庆。太一执符，帝君品命，主录勒籍，司命定算，五帝监生，圣母卫房，天地神祇，三界备守，九天司马在庭，东向读《生神宝章》九过，男则万神唱恭，女则万神唱奉；男则司命敬诺，女则司命敬顺，于是而生。九天司马不下命章，万神不唱恭诺，终不生也。人得还生人道，濯形太阳，惊天骇地，贵亦难称。天真地祇，三界齐临，亦不轻也。当生之时，亦不为陋也。若能爱其形，保其神，贵其气，固其根，终不死坏，而得神仙，骨肉同飞，上登三清，与三气合德，九气齐并。反于此者，自取死坏耳，可不哀乎？

《真文经》曰：人之生也，头圆象天，足方法地，发为星辰，目为日月，眉为北斗，耳为社稷，口为江河，齿为玉石，四肢为四时，五脏法五行。与天地合其体，与道德齐其生，大矣！贵矣！善保之焉。昔天真皇人于峨嵋山中告黄帝曰：一人之身，一国之象也。胸腹之位，犹宫室也；四肢之列，犹郊境也；骨节之分，犹百官也；神犹君也；血犹民也。能知治身，



则知治国矣。夫爱其民，所以安其国；踵其气，所以全其身，民散则国亡，气竭则身死。亡不可复存，死不可复生。至人消未生之患，治未病之疾，坚守之于无事之前，不追之于既逝之后。民难养而易散，气难保而易失。审威德者，保其理；割嗜欲者，保其炁。得不勤哉！得不成哉！

### 太上九丹上化胎精中记

九丹上化之文，太微帝君受于三天玉童，乃上化九转，回精凝神，解散紫胞结节之根，还精补胎，灵镇穷肠，内充外逸，九窍鲜明，炼髓易骨，节节纳真，其法高妙，秘于九天金房玉室灵都之宫，依《四极明科》，万劫一传，自无玄名，紫简绿字，上清不得参闻，有犯灵禁，伐以神兵。密修其道，白日飞仙。九天丈人告三天玉童曰：天地交运，二象含真。阴阳降炁，上应九玄。流丹九转，结炁为精。精化成神，神变成人。故人象天地，气法自然。自然之气，皆九天之精，化为人身，舍胎养育，九月气盈，九天气普，十月乃生。其结胎受炁，有吉有凶，有寿有天，有短有长，皆稟宿根。结气不纯，藏胃积滞，六府败伤，形神不固，体不受灵，死气入窍，何由得存？徒知修学，不识此源，今以相告：一形之真，随生解结，哺养百神，体自生光，内府鲜明，神安宫宅，万炁并仙，子其秘之，慎勿轻宣！

凡人受生结九丹，上化于胞胎之中，法九天之气，气满神具，便于胞囊之内，自识其宿命，知有本根，转轮因缘，九天之气化成其身。既睹阳道，开广三光，而自忘其所生所由之因

尔者，皆由胞根结滞，盘固三关，五府不理，死气塞门，致灵关不发，而忘其因缘也。若灵真托化，含炼琼胎，暂经紫户，运履人道，挺秀自然，曜景睹灵，便腾身九天，非复结精受气而为人也。

凡人生禀九天之气，气凝为精，精化成丹，丹变成人，结胎含秀，法则自然。假令七月生，则十月胎受波罗答天之气；十一月生，则受梵迦摩夷天之气；十二月生，则受梵辅天之气；正月生，则受化应声天之气；二月生，则受不骄乐天之气；三月生，则受寂然天之气；四月生，则受须延天之气；五月生，则受上上禅善无量寿天之气；六月生，则受郁单无量天之气。

凡人从十月结胎，至于六月，则受九天之气已满，至七月合十月，则天地气盈，受太阳之运而生也。

凡修学之家，仰希神仙，当知炼身于九丹，解结于五神，引气于本生，灭根于三关，九炼十变，百节开明，断绝胞结，乃知本真。既知本真，便成上仙。学无此法，三宫不聪，死气不灭，胃不受灵，气离神游，赤子不欢，宫宅空废，邪魔入身，所以百病从此而生，死不尽命，痛乎何言？凡阳气赤，名曰玄丹；阴气黄，名曰黄精。阴阳交接，二气降精，化神结胎，上应九天。九天之气，下布丹田，与精合凝，结会命门。要须九过，是为九丹，上化下凝，以成于人。一月受气，二月受灵，三月含变，四月凝精，五月体首具，六月化成形，七月神位布，八月九孔明，九月天气普，乃有音声，十月司命勒籍，受命而生。故人禀九天之气，降阴阳之精，名曰九丹，合成人身。既得为人，便应返其本真，通理五藏，解散胞根，断灭死气，自然成仙也。

## 解胎十二结法

凡人生在胞胎之中，皆禀九天之气，凝精以自成人也。既生而胞中有十二结节，盘固五内。五内滞拥，结不可解，节不可灭。故人之病，由于节滞也。人之命绝，由于结固也。兆能解结于胞中十二结节，则求死亦不得也。

胞上部有四结：一结在泥丸中，二结在口中，三结在颊中，四结在目中。欲解上部四结，当以本命日平旦入室，烧香，向西北九拜，朝九天元父叩齿九通，三呼元父讳。讫，回向东南三拜，三呼九天玄母讳。还向本命，平坐，闭眼思元父，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞輿，从十二飞龙、二十四仙人，从西北来，下入我身中泥丸之境。

次思玄母，身長六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九炁无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南来，下入甲身中，治面洞房之内。思父母化为青黄二气，宛转相沓，竟于头面之上。毕，叩齿九通，微咒曰：

甲受九灵之化，结气不纯，节滞盘固，镇塞灵门，谨以本命上告高晨元父玄母，下映我身，八景齐晖，九天同真，共解上部，四结胞根，回灵镇户，九孔结仙，内胎炼化，九丹凝神，变青为赤，二气缠绵，寿同三光，永享亿年。毕，咽气八十一过止。

又思郁单无量天王，姓混讳緇緇，衣九色无缝自然斑文

之裘，头戴耀精日圆，治天无央玄台紫户之内，乘九麟琼轮，侍玉仙二十四人。

次思上上禅善无量寿天王，姓楔讳裡網旃，衣九色云文之裘，头戴晖精月，光治天王国朱林七宝琼台，乘十二玄龟飞青羽盖，从上官太仙玉童三十二人。

次思须延天，王姓滓讳 芄瑀，衣九色三法云文之裘，头戴天元玉宝明冠，治天玉京灵都宫，乘九色飞鸿三素飞云，从素灵玉女一十四人。

次思三天真王，共下我身头面之上，化为青紫黄三气，混沌如云之沓，从口耳鼻孔之中而入，直两币一面，便仰祝曰：

三天天王，九玄灵仙，为我上解头面之关结，化九丹，自然降精金门之上，交合三真之云，降流我身，以成我神，荡去死气，灭绝胞根，灵景镇固，弃诸凶患，结结得解，节节纳真，玄光流布，洞灌幽泉，言名九天，反胎化仙，内弃外盈，表里成神。毕，仰咽气九过止。

又思上部八景神童，闭眼存脑神名觉元子、字道都，形长一寸一分，著白锦之衣，头戴三梁宝冠；发神名玄文华、字道衡，形长二寸一分，衣玄云锦衣，头戴无极进贤之冠；皮肤神名通众仲、字道连，形长一寸五分，衣黄锦飞裙，头戴三气宝天冠；目神名虚监生、字道童，形长三寸六分，衣五色章衣，头戴通天之冠；顶髓神名灵谟盖、字道周，形长五寸，衣白锦素裙，头戴三梁宝冠；旅神名益历辅、字道柱、形长三寸五分，衣白玉柔衣，头戴玄元宝冠；鼻神名冲龙玉、字道微，形长二寸五分，衣青黄素锦飞裙，头戴远游之冠；舌神名始梁峙、字道岐，形长七寸，著绛锦飞裙，头戴进贤之冠。八景都竟，并如婴儿之形，一合在面部之上，各安其所。乃叩齿八通，微祝曰：

上景一部，八神合真，结气九丹，化成我身。千乘万骑，如云散烟，降匝头面，施灵布神。上解结节，中灭胞根，下除固滞，通理三关。八景翼体，与灵同年。帝君玄母，曲回高晨，降我玉华，停我落鲜。返容朱颜，面化金仙，变景逐电，迺造日门。仰咽八气都止，便服上化九丹阳灵之符。

胞中部有四结：一结在五脏中，二结在太仓中，三结在大肠中，四结在小肠中。兆欲解中部四结，以本命之日正午时入室，烧香，向西北九拜，朝元父三呼元父讳，转东南三拜，朝玄母三呼玄母讳，还向行年上，平坐，叩齿九通，闭目思元父，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞舆，从十二飞龙二十四仙人，从西北来，下入某身中五藏之内。

次又思玄母，身長六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九气无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南下来，入我五脏之中。思父母化为青黄二气，混沌如日之圆，映照五脏，光耀内外。便仰祝曰：

父灵母精，二气齐并。九丹凝化，结胎紫琼。禀景太微，命统九灵。帝君敷神，流真灌生。五藏结络，六府洞清。胃管开聪，九窍朗明。宿节散灭，新胎更荣。变景炼髓，冠带九星。三晖翼部，飞入帝庭。毕，咽四十五气止。

又思寂然天王，姓津讳湊，衣七色龙文通光之裘，头戴阴精夜光，治天朱宫琼台之上，乘八景飞轮，从玉仙十二人。

次思不骄乐天王，姓凝讳穀，衣九色飞霜云文斑裘，头戴青华岁星玄精，治天元宫映丹之房九层玉台，乘白鹿丹霞之舆，从上宫玉仙三十六人。

次思化应声天王，姓耀讳惇牴，衣九色流光耀云锦裘，头戴白光太白精，治天琼林上宫朱映之房，乘飞凤游霄紫轮，从太真玉仙三十六人。思三天真王共下，入我身五藏之内，化为赤白皂三色之炁，混沌如云之烟，从心孔而入，直匝五内。便微祝曰：

九丹凝灵，三气结缠。玄真充降，内外明鲜。太仓开通，肠胃结仙。断灭节茎，散除宿根。三合成契，九化凝神。回精玉胞，以成我身。九色玄黄，流精灌津。荡洗积滞，内无滓尘。华条合秀，种植灵根。孔孔洞朗，节节泠然。骨化景飞，上升紫天。毕，仰咽九气止。

又思中部八景神童：闭目存呼喉神名百流放、字道通，形长八寸八分，著九色章衣，戴平天紫晨之冠；肺神名素灵生、字道平，形长八寸一分，著白锦飞云之衣，头戴九元宝冠；心神名焕阳昌、字道名，形长九寸，著绛章单衣，头戴玉晨宝天冠；肝神名开君童、字道青，形长七寸，衣飞青羽裙，头戴三梁之冠；胆神名龙德拘、字道放，形长三寸六分，衣青黄绿三色之裙，头戴无极进贤之冠；左肾神名春元真，字道卿，形长三寸七分，著五色变光之裙，头戴远游之冠；右肾神名象地无，字道生，形长三寸五分，衣白锦单衣，头戴三气宝光之冠；脾神名宝元全，字道骞，形长七寸三分，著黄锦飞裙，头戴紫晨之冠。八景都竟，并如婴儿之形，一合在五脏之内，各安其所。仍叩齿八通，仰祝曰：

中部八景，上变九回。化精玉胞，结气紫微。炼魂固魄，万神总归。帝君解结，九孔散开。玄母降灵，节节纳晖。内充外盈，华光无衰。得与八景，合辇同飞。本命告使，如兆所回。运我上升，披观灵扉。毕，仰咽八气止。便服胎精练神之符。

胞下部有四结：一结在膀胱中，二结在阴中，三结在后门

中，四结在两足中。兆欲解下部四结，以本命日夜半子时生气始入室，烧香，向西北九拜，朝元父三呼元父讳，转向东南三拜，朝玄母三呼玄母讳。还向太岁上，平坐，叩齿九通，闭目思元父，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帟、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞輿，从十二飞龙、二十四仙人，从西北来，下入某身中五藏膀胱之内。

次思玄母，身長六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九炁无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南来，入我膀胱之内，下至两脚。即思父母化为青黄二炁，混沌如日圆，映照一身，光耀内外。便仰祝曰：

阴阳交泰，二炁洞明。上化玄丹，下转黄精。含胎变化，体无常形。帝君监映，九孔纳灵。十二部结，散灭黄庭。八景经络，胃结紫琼。三魂被炼，七魄安宁。万神保镇，内外齐平。三部八景，与我俱生。运我飞升，上造玉清。毕，咽二十四炁止。

又思梵辅天王，姓精讳雾云霭，衣九色流云飞晨之裘，头戴流丹绛宝荧星玄精，治天南上七映之宫，乘流霞丹霄琼輿羽盖，从上宫玉仙十二人。

次思梵摩迦夷天王，姓玄讳（凝）（泓），衣九色元凤飞云之裘，头戴玄晨辰星流精，治天九玄凤城紫琼玉台，乘白麟素云飞轮，从太华仙童三十二人。

次思波梨答天王，姓王讳灵檐，衣九色无缝玄云宝裘，头戴无极流黄镇星飞精，治天陵曾玉京大有妙宫九曲之房，乘五色云輿，从太玄玉童十二人。思三天真王，共下降我身，治膀胱之中，下至两足，化为紫绿碧三色之炁，混沌如云雾，从

阴中而入，流布膀胱、后门、两足之中，内外映照。便祝曰：

三天育胎，九气结神。上化玄丹，下转变仙。二象交降，以成我身。六胃琼秀，九府纳真。十二结节，各各绝根，荡除秽炁，五灵敷陈。玄母吐精，炼化光鲜。金仙翼灵，玉华结篇。记名青宫，长保帝晨。毕，仰咽九炁止。

又思下部八景神童：闭目存呼胃神，名同朱育、字道展，形长七寸，衣黄锦飞裙，头戴平天紫晨之冠；穷肠中神名兆滕康、字道还，形长二寸四分，衣绛章单衣，头戴三梁之冠；大小肠中神名蓬送留、字道厨，形长二寸一分，衣黄绛飞裙，头戴玉晨宝天冠；胴中神名受亨勃、字道灵，形长九寸一分，衣九色章衣，头戴飞晨玉冠；胸膈中神名广瑛宅、字道仲，形长五寸，衣白锦飞裙，头戴无极进贤之冠；两肋神名辟假马、字道成，形长四寸一分，衣赤白二色之裙，头戴九元宝冠；左阴右阳中神名扶流起、字道圭，形长二寸三分，衣青黄白三色之裙，头戴远游之冠；右阴左阳中神名苞表明、字道生，形长二寸三分，衣青黄白三色之裙，头戴三染之冠。存八景都毕，并如婴儿之状，各安所在，千乘万骑，匝布在我阴中、膀胱、后门、两足之中。仍叩齿八通，仰祝曰：

下部八景，散神飞仙。含元育炁，炼胎紫烟。太一元父，玄母交缠。二精流灌，含养内真。帝君定籍，司命改年。节结已散，九孔已鲜。魂魄保固，总摄万神。与我同升，俱造玉晨。毕，仰咽液八过止。

又思道一内神，名逮无马、字道极生，形长二寸五分，衣紫文明光锦裙，头戴无极进贤之冠，在兆脐下丹田之中，总统三部二十四真，叩齿三十六通，微祝曰：

玄上大神，总领无外。安镇幽谷，流精紫盖。众真侍灵，三部交卫。帝君映席，玄母欢泰。九元同符，司命延迈。三晨



齐晖，与真结带。毕，仰咽二十四炁都止，便服三关十二结胞胎内符。符在本经。

上部四结，固人泥丸，落人华容，天人生魂。中部四结，合凶为群，盘固太仓，迅人游魂，来妖通奸，景梦不专。下部四结，结人后门，遏人九孔，断人命根。帝君告灵，九天玉文，消解结节，灭诸根源。

## 卷三十 禀生受命部二

### 帝一混合三五立成法

夫人者受生于天魂，经成于元灵，转轮九炁，挺生太一，开丝二道，积神幽宫。所以玄液七缠，流津敷泽，日月映其六虚，口目运其神气，云行雨施，德拟天地，胞胎内匠，五因来具，立人之道，其如此也。五因者，是五神也；三道者，是三真也。夫五神，天之魂；三真，道之炁。九天之胎，太一之源。日月天之道，玄液天之润，六虚天之光，幽宫天之府，神气天之化，元灵帝之变。凡此言九天者，乃混合帝君之变。变而化之，是谓九宫。九宫混变而同一矣。若兆欲修己来生，当从所生之宗。所生之宗，谓元父、玄母也。元父主炁，化理帝先；玄母主精，变结胞胎。精气相成，如阴阳相生，云行雨施，兆已道合，无名数起，三五兆始，禀形七九，既匝兆体，乃成和合。三五七九，洞真帝象之先，当须营天皇之功，九变为灵，功成人体。体与神并，神去则死，神守则生。是以三元为道之始，帝君为道之根，太一为道之变，九天为道之神，九宫为道

之宅，玄液为道之津。可以照镜三田，以致神仙，朝适六合，夕守泥丸，坚执胎精，心中常欢。学道之子，须此为缘，见是经者，始可与言。存念太一，混合帝先，雄雌守神，灌流浩清，常使九天元炁则合九成也。夫洞其要也，则一体常存，津血自生，雄镇命户，雌守神室，太一无离，与天同时。故《太上隐符》曰：存其雄，守其雌，乃天地不能殄也。既存之焉，则五神守宅，五脏生华，灵栖绛宫，帝镇泥丸，百神坚固，胎塞命门。久则三一之神夕见，太一帝先晨降，并见形于子之寝处也。子当清洁斋戒，断绝外事，杜塞邪径，节诸人物，罕为循诣，精心在一，晨夕循道，孜孜不替，沐浴五香，别静一室，烧香左右，以期真炁。太一之道尤忌血腥臭臊殄秽之气。若泣泪坠落，则帝君悲扰；哭声发口，则太一凝结。故九气止而不变，三一悲而不摄。九炁不变，则三一亦结。结滞日积，生气泄出，而故炁运入。故炁运入，将病将死之始也。是以真人谓哭音为死绝之声，谓泣涕为漏精之津，可不慎避之哉！若一见死尸及积日哀哭者，则帝君获罪，谪于太上太一，受考谴于玄虚也，将来三年子将亡矣。诸不受太一之道者，自不得同之于学生也。所以至忌尸哭腌秽忧泪之感，以为太一帝君之精思也。又不得见死尸，自受书之后，若见四十九尸者，皆不得长生，必中道绝命也。若见二十四尸者，则当暂过太阴，然后超仙。以为死尸之形既眇于两眼，尸秽之气亦滞缠于人思，所存记于绛宫。绛宫所识，虽忌犹存。宜暂归身显尸塞思，记之眼故也。子厚慎之哉！见血、尸丧、殄秽、哀哭、泣涕，皆太一之至忌也。若恒斋戒则存，易感精诚，立会太一，镇命欢欣，混合行之一十八年，白日升晨，此真人回老反婴之道也。

存三一，守太一精洞房会帝君，则化生九灵于子形中，辅子之神明，成子之真仙，保子之长生，固子之胎魂也。白元、

无英、桃君、司命、太一，混合五神，捧籍列符。五神各有所主，混合九变，三五洞化。于是三宫镇真，百节受灵，帝群宝籍，宿命无倾，周旋虚烟，启通玄精，二十四真忽然化生。上开上元，下开八冥，左朝六甲，右使六丁，玉华引日，太一并形，千乘万骑，举身登晨，白日升天。真人修是太一之道者，皆得三天之举，故曰举身登晨，白日升天。以鸡鸣时，晨登空无眚之中，到于三天之上。日之正中为白日，鸡之始鸣为登晨。是以存太一混合，多用鸡鸣及生气时也。九天九宫，中有九神，是谓天皇。九魂变成九气，化为九神，各治一宫，故曰九宫。太清中有太素、太和，洞房中有明堂、绛宫，是曰六府。上曰天府，下曰洞台。三五之号，其位不同。一曰太清之中，则三五帝君；二曰三一丹田神。又五者符籍之神，太一公子、白元、司命、桃康君是也，合而名为三五。三五各有宫室。若三真安在其宫，五神上见帝君。帝君左有元老丈人，右有玄一老君。此则无极之中所谓九君。上一则真一也。九君所谓天之魂，自然成真之子也。知精存九君，深思三真，必能以兆一体周旋三五之中，反覆七九之里，使天帝之灵魂常治在兆已，五神奉籍，周而复始，必将白日登度，何但不死而已。

《高上神霄经》曰：魂生无中，布在九宫。道出八极，常游绛宫。三宫合化，是为紫房。紫房所在，先由明堂。兆能知之，当开金门。金门，洞房内也。又曰：混而合之，出入帝方。三五合一，必成仙王。此谓洞合之时，三真五神之道也。帝方，太清域也。故《大洞真经》中篇曰：二老在左右方，帝魂不可不分，三九变其上下，太一立其中根，五神奉我生籍，司命塞我死门，九宫合而为一，六合壅总而内真也。此言谓分别其宫室，混合其变化。此道是太上宝行长生根本，立人之帝先，为道之元始，生府之仙宗，帝籍之秘章，洞真之奇妙，九宫之要

经也。

### 九真中经天上飞文

太上曰：夫人生结精积气，受胎敛血，所以凝骨吐津，散布流液，忽尔而立，悦尔而成，罔尔而具，脱尔而生。于是乃九神来入，五脏玄生。父母唯知生育之始，而不觉神适其间也。人体有尊神，其居无常，展转荣输，流注元津。此神外来内结，以立一身，非如三魂七魄，是积灵受气，生于父母者也。尊神有九宫，名号曰九真君，分化上下，转形万道。子能修之，则出水入火，五藏自生，长斋隐栖，以存其真。此文一名《九真中经》，一名《天上飞文》，一名《外国放品》，一名《神州灵章》，虽有四号，故书一耳。

#### 第一真法

平旦，大神在心内，号曰天精君。平旦，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存天精君，坐在心中，使大神口出紫气，以绕心外九重。毕，因叩齿九下，咽液九过。祝曰：天精大君，来见心中。身披朱衣，头巾丹冠。左佩神书，右带虎文。口吐紫华，养心凝魂。赤藏自生，得为飞仙。

#### 第二真法

辰时，大神分形尽百骨中，号曰坚玉君。辰时，接手两膝上，闭气瞑目，内视存坚玉君，入坐一身诸百骨中，使口出白炁，吐以绕骨九重。毕，因叩齿九下，咽液九过。祝曰：坚玉

大君，来入骨中，身披素衣，头巾白冠。左佩龙书，右带金真。口吐白炁，固骨凝苏，白骨不朽，筋亦不泯。百节生华，使我飞仙。

### 第三真法

巳时，大神分形尽流入诸精血中，号曰元生君。巳时，接手两膝上，闭气瞑目，内视存元生君，周游一身血脉精液之中，使口吐黄气，以缠孔脉外九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：元生大君，周灌血躯，身披黄衣，头巾紫元。左佩虎篆，右带龙书，口吐黄津，固血填虚。精盈液溢，九灵俱居，使我飞仙，天地同符。

### 第四真法

午时，大神在肝中，号曰青明君。午时，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存青明大君，入坐肝内，使口吐青炁，以绕肝九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：青明大君，来入我肝。身披青衣，头巾翠冠。左佩虎章，右带龙文。口吐青气，养肝导神。青藏自生，上为天仙。太一护精，抱魄检魂。

### 第五真法

未时，大神在脾中，号曰养光君。未时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存养光君，入坐脾中，使口吐绿炁，以绕脾九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：养光大神，来入脾中，身披绿衣，头巾莲冠。左佩玉铃，右带威神。口吐绿华，养脾灌魂。黄藏自生，上为真人。

### 第六真法

申时，大神在肺中，号曰白元君。申时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存白元君，入坐肺中，使口吐五色炁，以绕肺九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：白元大君，来坐肺中。身披龙衣，黄晨华冠。左把皇籍，右执灵篇，左佩玄书，右带

虎文，口吐五气，理肺和津，白藏自生，飞仙紫门。

#### 第七真法

酉时，大神分坐，散形在两肾中，号曰玄阳君。酉时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存玄阳君，入形并坐两肾中，使口吐苍气，以绕肾九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：玄阳大君，入坐肾中。身披紫衣，头巾扶晨。左佩龙符，右带凤文。口吐苍华，灌肾灵根。黑藏自生，身为飞仙。北登玄阙，游行天关。

#### 第八真法

戌、亥时，大神在胆中，号曰含景君。戌、亥时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视含景君，入坐于胆中，使口吐五色炁，绕胆九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：含景大神，来坐胆中。身披锦衣，头戴紫冠。左佩神光，右带玉真。口吐五气，养胆强魂。和精宝血，理液固身。使我上升，得为飞仙。

#### 第九真法

子时，大神在头洞房之中，号曰无英公。子时，平坐，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存无英君，坐在明堂之内洞房之中，使口吐紫气，绕头九重。毕，又使吐紫气绕两目内外九重。毕，又吐紫气，绕舌九重。毕，又使吐紫气绕齿九重。毕，凡四九三十六绕气，使都毕，叩齿三十六下，咽液三十六过。祝曰：无英大君，三元上神。镇守洞房，宫在泥丸。黄阙金室，化为九真。龙衣凤帔，紫翠青裙。手把真精，头巾华冠。左佩玉映，右带虎文。下坐日月，口吐紫烟。周气齿舌，朝溉明辰。出丹入虚，呼魄召魂。凝精坚胎，六合长欢。上登太微，得补真官。

右九真之道毕矣，则泥丸镇塞，目童长存，五脏自生，血脉保津。若暂入太阴身经三官者，则九真召魂，太一守骸，三

元护炁，太上摄魂，骨肉不朽，五脏不殒，能死能生，能阴能阳，出虚入无，天地俱生，是道士精静营形，感致九真之气应也。三元飞精以盈虚，太一抱我尸而反质。微乎！微乎！深哉！深哉！闭气使极，吐气使微妙，出虚入无，令其绵绵不自觉也。

### 大洞回风混合帝一之法

此法当六十日一行之耳，皆须本命日用未中已前、夜半已后二时，随意闭房自静，精心内观，凝神夷气，默然忘身，存思念读神名一周，令守死关，烧香左右，令气弥满房室，然后施行。若身有病痛处，皆当指呼其处神，使治之也。

回风混合，为帝一之道，以本命之日，若不知本命，当用甲子日也。坐卧任意，在所便安，心密读神名曰：太微小童千景精，字会元子，一名三衿交，一名封帝真。恒守我舌本之下血液之府。小童口出赤气，绕我一身。舌本是死气之门，童子严固守之，使生血液，上凝泥丸。泥丸坚明，百神方正。

太一尊神号务犹收，字归会昌，一名解明，一名寄频。恒守我玉枕之下，泥丸后户是死气之门，太一严固守之，使泥丸入于真气，七世父母受仰，玄之更生，上籍玉皇，重华万宁。

帝君延凌梵，字履昌灵，一名七神，一名神丈人。恒守我两眉中间紫户之外宫。紫户之外宫是死气之门，帝君严固守之，使华盖入眉间，升紫房，七世父母罪解而福冲，上登帝宫。

左无英公子玄元叔，字合符子，一名元素君，一名神公子。恒守我左腋之下肝之后户。肝之后户是死气之门，神公子严固



守之，使左腋有玉光，引神明入眼睛。

右白元洞阳君郁灵标，字玄夷绝，一名朱精，一名启成。恒守我右腋之下肺之后户。肺之后户是死气之门，白元君严固守之，使右腑有金光，引神明入六气之宫。七世反胎生一身，登玉房。

中央司命丈人君理明初，字玄度卿，一名神宗，一名神灵华，恒守我绛宫心房之中四孔之户。四孔之户是死气之门，司命丈人君严固守之，使心中得其真理，绛宫生五色华，司命丈人口吐紫云气，洞溢我五脏内。

命门挑君孩道康，字合精延，一名命王，一名命胞根。恒守我脐中之关命门外宫。命门外宫是死气之门，桃君孩道康严固守之，使脐中徘徊，黄云盈溢，三命生根，胞结解泄，令我七祖父母无阂，累殃宿罪无滞，世世度脱，上生天帝宫。

泥丸天帝君上一赤子玄凝天，字三元先，一名伯无上，一名伯史华。恒守我泥丸中九孔之户。九孔之户是死炁之门，上一天帝君严固守之，使泥丸玉坚，金曜映真，体生宝光，九孔受灵，令我七祖父母世世安宁，解脱宿罪，共登上清。

绛宫心丹田宫中一元丹皇君神运珠，字子南丹，一名生上伯，一名央云拘。恒守我项中之大椎骨首之户。骨首之户是死炁之门，中一丹皇君神运珠严固守之，使百骨受真气，大椎有日光，七祖父母获自然之生道，登仙南极宫。

命门下一黄庭元王始明精，字元阳昌。一名婴儿胎，一名伯史原。恒守我两莞间车轴下户。车轴下户是死炁之门，黄庭元王严固守之，使百血结凝，神气不散，拔出地户，超度八难。

泥丸九真，名帝昌上皇，字先灵元宗。恒守我口之四际。口之四际是死炁之门，帝昌上皇严固守之，使精气入，故气出，神光随身，放光万丈。七世父母罪脱祸除，生帝君玉房中。

胆中八真，名含景君，字北台玄精。恒守我背之中骨之下节。中骨之下节是死炁之门，含景君严固守之，使背骨受生气，下节孔常闭，邪气不干，真光映形。

两肾七真，名玄阳君，字冥光先生。恒守我背穷骨地户。穷骨地户是死炁之门，玄阳君严固守之，使地户伏生气，穷骨受神液，六津调满，生根深密。

肺中六真，名上元素玉君，字梁南中童子。恒守我颈外十二关之梁。十二关之梁是死炁之门，上元素玉君严固守之，使上帝玉华映神间之下，玉晨之气入丹元之宫，七世父母解散结滞，受生太上之乡。

脾中五真，名养光君，字太昌子。恒守我喉内极根之户。喉内极根之户是死炁之门，养光君严固守之，使玉光金真照洞喉根，太帝神气来往三宫之中。

肝中四真，名青明君，字明轮童子。恒守我胃管之户膏膜之下。膏膜之下是死炁之门，青明君严固守之，使三素之气生华，五停之神侍卫出入，玉液之津灌泽胃管。

精血三真，名元生君，字黄宁子玄。恒守我鼻两孔之下源。两孔之下源是死炁之门，元生君严固守之，使精神宣畅于百节，血液盈满于千关，万灵之气辅护，太一之魂保身。

骨节二真，名坚玉君，字凝羽珠。恒守我太仓之府五肠之口。五肠之口是死炁之门，坚玉君严固守之，使黄庭香洁，三尸灭绝，中元之炁常满，帝皇之光郁郁，上冲泥丸，敷散筋骨。

心中一真，名天精液君，字飞生上英。恒守我胸中四极之口，四极之口是死炁之门，天精液君严固守之，使五脏生华，四关受真，紫液流于胸中，绛炁结于百神，上升玉天，羽衣虎裙。

九元之真男，名拘制，字三阳。恒守我左耳之下伏晨之户。

伏晨之户是死炁之门，拘制三阳严固守之，使天聪发彻，幽谷鲜明，真炁云行，往来泥丸。

皇一之魂女，名上归，字帝子，恒守我右耳之下伏晨之户。伏晨之户是死炁之门，上归帝子严固守之，使幽明之光上朗泥丸，太无之音独乐一身，玄金云钩，流彻太和。

紫素左元君，名翳郁无刃，字安来上。恒守我头面之境，使万邪不侵，千精灭亡，又使紫云冲于泥丸，太素填于鼻孔，景云被于口齿，玉林聚于发肤，散七世之积尸，解七祖之罪仇，上生天帝堂，反真更受胎。

黄素中元君，名圆华黄刃，字太张上。恒守我胸腹之境，使鬼魔伏制，三尸灭形，又使黄云散于支体，金液充于太仓，晨景之晖上华，太真之炁运光，七世父母罪解，受胎更生南宫。

白素右元君，名启明萧刃，字金门上。恒守我下关之境，从小腹至脚底，使三积宿秽无滞，地尸土鬼沉灭，又使明玉之液上陶于阴极，神素金炁逆充于两莞，脾受九灵之润，脚生玄重之云，累祖解于冥罪，七世散于祸根，更生入南宫，上晏入帝轩。

日中司命君，名接生，守我左手月中。桃君名方盈，守我右手。左目童子名飞云，右目童子名晨婴，肺部童子名素明，皆各守我两目之童子，备华盖之上精，五神固于五关，晖光充于太阳，魔气不入，百会受灵。

胎中一元白炁君，名务玄子，字育尚生。太一精魂，名玄归子，字盛昌。凡二神，共守我五脏之上结喉之本户。结喉之本户是死炁之门，二神固密守之，使三华之气入帝一之府，九明之津生六胎之下，七玄散祸，七祖解结，身登真堂，并列太一。

结中青炁君，名案延昌，字合和婴。元君精魂，名保谷童，

字明天。凡二神，共守我五脏之下大胃之上口。大胃之上口是死炁之门，二神固密守之，使金液流匝，玉华映魂，神飴溢于穷肠，帝炁充于九关，七祖披释于玄忧，受更胎于玄仙，上业结解，下脱胞根。

节中黑炁君，名斌来生，字精上门。帝真精魂，名幽台生，字灌上生。凡二神，共守我九肠之口伏源之下。伏源之下是死炁之门，二神固密守之，使太上之炁布散腹内，太一之神回行百骨，体有玉光，面保金泽，七祖父母得解冥罪，累业之先，世世解结，上生帝房，入保阍室。

胞中黄炁君，名祖明车，字神无极。天帝精魂，名理维藏，字法珠。凡二神，共守我小腹之内二孔之本。二孔之本是死炁之门，二神固密守之，使日月之根生于二户之下，五帝之炁充于极阴之室，精华盈满，五液填溢，七祖父母反胎，宿封之殃解结，上生南宫，神仙受炁。

血中赤炁君，名混离子，字叔火坚。司命精魂，名发细子，字庆玄。凡二神，共守我百关之血绝节之下。绝节之下是死炁之门，二神固密守之，使五常之液盈于六腑，灵润玉泽充于血肉，绝节不空，地门填塞，七祖结散，更生南极，我得玉仙，合道保德。

上玄元父君，名高同生，字左回明。下玄玄母，名叔火王，字右回光。帝皇太一，名重冥空，字幽寥无。九帝尊神，名曰明真，字众帝生。太常精魂，名杨堂王，字八灵。天帝九关魂，名录回道，字绝冥。天纪帝魂，名照无阿，字广神。凡七神，守我本命之根。本命之根，胞胎大结。常令胞囊玉清开明，七祖反胎，我命恒生，三天同符，上与日并。

右我之死门三十九处，太上尊神皆已守备之，使口衔日光，手执月明，照我死门，使我长生，我体常生，读《大洞真经》，

金音仰充，上入太无庭，解结散祸，拔脱七祖灵，反胎会南宫，世世有玉名，三涂灭根，轮转上清。三素老君，名牢张上，字神生道。正一左仙仲成子，一名帝宾，字四华。正一右仙曲文子，一名光坚，字灵和。守我鼻下人中。

中央玄一老子，林灵天，字灵时道，守我阴茎之端。北方黑帝，保成曷，字北代，守我膀胱中。西方白帝，彰安幸，字西华，守我阴囊中。南方赤帝，长来觉，字南和，守我口舌中。东方青帝，雕梁际，字清平，守我五脏外。凡五帝、二老、左右仙，备卫本命，守我身，祖宗解考，福祚七玄，世世解结，散除胞根，胎精血光，金液玉泉，上生南宫，以为帝宾，我入八景，回驾琼轮，仰升九天，白日飞仙。

帝卿名肇勒精，字中玄生，一名起非，一名常扶。绛宫中一名卿中光坚，字四化灵，一名幽车伯，一名董史华。黄庭下弼卿名缘上明，字谷下玄，一名奉申伯，一名奉光生。凡三帝卿神，卫我入帝一室，保我本命，于九天录存。祝名都毕，更闭两目，存此百神，变成白炁，如白烟之状，从玄虎中来，入我口中，郁郁良久，觉见白炁下从下部孔中出，又从玉茎孔中出，又觉白炁从两脚底、两手心中并出，并冠绕一躯，上下手足混合，一身与白同烟，上下不相见。良久，白炁忽复变色成紫云，郁郁，又从我口中入头中，及至五脏之间，充满腹内。良久，紫云又从两足底、两掌心大孔，玉茎孔中出，冠绕一躯，郁气上下与紫云相合，不相见也。须臾，存紫云之炁，充满左右及一室之内；又存见口中出风气之扇、紫云之烟。紫云之烟，乃回转更缠绕，忽成一真人，男形也，如始生之状，长四寸，号曰大洞帝一尊君，名父宁在，字合母精，是守死关之众神徊风混化共成此帝一之尊君也。又存此尊君来入我口中舌下，又从舌下径上升紫房六合宫，平坐，外向。尊君左手把兆五符，

右手把兆五籍。尊君口之左边有日光，径九分；尊君口之右边有月光，径一寸。尊君口吐回风之炁，吹此日月之光，日月之光郁郁然，或白色，或黄色。令光炁下入兆五脏六腑、百节一身之内，洞彻朗然，内外如白日之状。良久，忘身忽然，事讫，乃心祝曰：

大洞帝一，太素尊灵。父宁母精，二合双成。百真一混，一徊始生。身结八烟，变胎元婴。日月宝光，洞我躯形。太一在上，上与帝并。泥丸保玉，五脏华明。长合日月，手执洞经。位为仙公，晨升上清，三十九章，金符羽庭。毕，此是回风混合帝一之道也，万变百化，洞真太一之法，极尽于此矣。

夕夕常存大洞帝一尊君，在兆鼻下人中中央，白日常存令在口内上齿之外、鼻人中皮内、上（庇月）之里、上齿之外，尊神形皆当向外坐立，起居在意存之。存尊君口中衔日光，径九分，照明万丈，洞明兆身。夫一者，帝之真一也。一之所变，归一者也。读《洞经》时，亦存帝一尊君在兆面前，以尊神口对兆之口间，令相向听我读《洞经》之音，以散七世之结焉。

帝一尊君，名父宁在，字合母精。日夕常忆之，勿忘，辟万试，灭千患，除恶魔，致神仙也。若兆体中有疾痛不宁处，急存帝一尊君，令口吐日光白炁，薰我痛疾即愈。帝一尊君形如始生之男，不著衣服，身长四寸耳。所谓大洞胎始，形之真也。

本命日常当读《大洞真经》三十九章一过，能恒诵习之，大吉也。须得万遍。大限充毕，乃得驾自然之云，乘八光之龙，千乘万骑，白日升仙矣。万遍既毕，然后一岁一读之耳。上帝云龙脱未来，迎者不过七百日中，忽在人间卒至，便升天矣。兆当坚守雌一，混合五神，精心回风，大会帝尊，诵习《洞经》三十九章，于是真仙之道毕矣，云龙之会审矣，罪结之根散

云筮七签

· 417 ·

矣，上祖获福命矣，兆勤之矣。

# 云笈七签

第二部

（宋）张君房 著



## 卷三十一 禀生受命部三

### 太微帝君太一造形紫元内二十四神回元经

太微帝君、太一造形、紫元内神、二十四真人，混气变生，主仙上精，散解胞结，释滞关元，二十四神所命乃得除脱也。兆能修存名字者，则治镇一身，保守元精。欲解节结之法，当先祝之，乃得开关耳。此灵并是结气之玄宗，成体之具神，连道云雾，带生烟絮，能致玉辇龙骑，千万列行，同与一体，白日登天。此太一真人、二十四神，存玄元帝君上清乘飚欵之道也。常当安身静心，正气夷形，闭目内视，忘体念神，烧香盥练，存神守真，仿佛三八，蔼晖玄英，行之十八年，太上命太微帝君、太一五神、化生混灵道君，从二十四真人，千乘万骑，骋风摄云，呼吸流升，白日造天。存神之道，勿交非类，深室避事，栖精蹑空，心存目想，微妙守冲，静魂安形，则万害不伤，百鬼避窜，千妖不行，消灾散祸，神庆不可胜纪。先叩齿二十四通毕，乃存思。

脑神，名觉元子，字道都，形长一寸一分，色正白。

发神，名玄文华，字道衡，形长二寸一分，色玄。

皮肤神，名通众仲，字道连，形长一寸五分，色黄。

目神，名虚监生，字道童，形长三寸六分，衣五色。

项髓神，名灵谟盖，字道周，形长五寸，色白素衣。

臂神，名益历辅，字道柱，形长三寸，半白玉素衣。

鼻神，名冲龙玉，字道微，形长二寸五分，青白黄色衣。

舌神，名始梁峙，字道歧，形长七寸，正赤色。

右一身上部八景神童名字，先存之并如婴儿之形，仿佛在身，各安其所。讫，乃叩齿八通，咽液八过，而微祝曰：

上景八神，一合入身。帝君玄母，五神各陈。举形遁化，流变适真。千乘万骑，俱升帝晨。白元无英，道养太宾。八灵翼体，玉华衔烟。恍惚十周，经造日门。

初存思之始，先三呼神名字。祝讫，又三呼神名字，令声则出口，三部同尔。

平旦、日中、夜半三时，恒存二十四神，以次念之，祝呼如上法。《高上宝神明科经说》曰：叩齿之法，左左相叩，名曰扣天钟；右右相叩，名曰捶天磬；中央上下相对相叩，名曰鸣天鼓。若卒遇凶恶不祥，当扣天钟三十过。若经山辟邪，威神大祝，当捶天磬。若存思念道，致真招灵，当鸣天鼓。叩齿虽一，其实有左右上下也。故凶恶而畏天钟之响，山神而慑天磬之动，招神而肃天鼓之震矣。玄音有节，希微内感，不可以一（既木）而求，不可以偶然而合也。千章万事，皆当如此。叩齿之道演矣，钟鼓之音别矣。是以道数不可乖错，法术不可杂乱。乖错则有暗昧之败，杂乱则有器毁之祸。非冥冥之无贯也，行冥贯之无序则道之不可成，事之不可验，良由求真之途不得也。履迹蹑之造，而多愆于世俗矣。扣天钟三十过谓无他祝孤行此以除不祥耳。若有所案行，随本法叩齿之多少，不必须扣三十过也。

喉神，名百流放，字道通，形长八寸八分，九色衣。

肺神，名素灵生，字道平，形长八寸一分，纯白。

心神，名焕阳昌，字道明，形长九寸，色赤。

肝神，名开君童，字道青，形长六寸，色青黄。

胆神，名龙德拘，字道放，形长三寸六分，色青黄绿。

左肾神，名春元真，字道卿，形长三寸七分，数变白赤青五色无常。

右肾神，名象地无，字道生，形长三寸五分，色白或黑。

脾神，名宝元全，字道骞，形长七寸三分，色正黄。

右一身中部八景神童名字，次存之并如婴儿之形，仿佛在身，各安其所。讫，叩齿八通，咽液八过，而微咒曰：

中景八神，四变九飞。练魂正身，明景同晖。帝君解结，胎练四归。上通玄母，散灵步威。得与八神合辇齐扉，千乘万骑上登太微。

胃神，名同来育，字道展，形长七寸，色黄。

穷肠中神，名兆滕康，字道还，形长二寸四分，黄赤色。

大小肠中神，名蓬送留，字道厨，形长二寸一分，色赤黄。

胴中神，名受厚勃，字道虚，形长九寸一分，九色衣。

胸膈神，名广瑛宅，字道仲，形长五寸，色白。

两胁神，名辟假马，字道成，形长四寸一分，赤白色。

左阴左阳神，名扶流起，字道圭，形长二寸三分，青黄白色，在男存为左阳，在女存为左阴。

右阴右阳神，名苞表明，字道生，形长二寸三分，青黄白色，在男存为右阳，在女存为右阴。

右一身下部八景神童名字，后存之并如婴儿之形，仿佛在身，各安其所。讫，乃叩齿八通，咽液八过，而微祝曰：

下景八神，散形化灵。紫烟郁生，含元守精。太一元父，帝君挺生。七爽免籍，司命记生。魂魄以安，五华育明。千乘万骑，与我同并。先造太素，北揖上清。

道一内神，名逮无马，字道极生，形长一寸二分，紫色，男存曰道一内神，女存曰真元中灵。

右一神极根之幽神，守中之上灵也。次又存之如婴儿之状，安坐其所。讫，乃叩齿二十四通，咽液二十四过，而微祝曰：

玄上内真，养形侍晨，总纽摄纲，九度八旋。斗星内朗，宫馆九陈。帝君合昌，九道七咽。出液内精，和灌众神。五藏生华，反老童颜。千乘万骑，与我升天。上朝太陛，高揖玉晨。

右一身宝，名内，字化，生之精神也。不知此名，则仙道不成矣。若解结之日，不先祝此者，则结节不解也。结节不解，必三魂失适，上元内丧，五老失明，帝君乖疏也。男存为童子之神，女存为女子之神，俱同一名字也。

存二十四神，当以夜半去枕平卧，握固放体，气调而微微，存思其身神，安念帝君，令仿佛居位，闭目内视之，如有不具，便当烧香平坐，闭目，握固两膝上，精存众神，祝行如法。其平旦、日中时，存神，自平坐而行之，勿令有见之者矣。皆内视临闭目而存也。

月一日夜半存神讫，又存两目中有白无如鸡子大，在面目前，须臾变成两明镜，径九寸，以前后照我一体上，二十四神使洞鉴分明。良久，乃心祝曰：

大明宝镜，分形散花。鉴朗元神，制却万魔。飞行上清，披云巾罗，役使千灵，封山召河。毕，五日一行之，所谓覆校内精，检敛五神者也。常能行之，灾害不生，而位登高仙。

拂童之道，使彻见帝君、五神之法，常以甲子之旬庚午日日中时，取清水一升，以一铢真丹投水中，搅之左行三七过，祝曰：

玄流朱精，生光八明。身神众列，并来见形。彻视万里，中达九灵。帝君映童，使我上清。祝毕，东向以洗目二七过。

恒行之者，彻视万神。祝当微言，以水向月建洗目，不常东向也。

### 济众经

太上道君告普光真人曰：五种烟絜，聚而成体，会其宿业，因而受识，轮转其神，有其生也。因识受染，流入恶缘。处在昏衢，居于暗界，荫蔽垢浊，魔狱禁形，长劫艰辛，失于明性，由是展转迷波苦海中，未有一人求出离者。

普光又问：烟絜之理，何处流来？暗界明性，是谁为主？神之与识，何处禀形？识神是一，为复二耶？是一不合二名，是二各明何事？为善作恶，不审是谁？若神之所为，则神妙无方。既曰无方，则无过恶。识为恶者，识当异神。彼此罪罚，何容累及？何以扶我？闻神尊所说道品中善恶两业必由于神，以是言之，识有何罪？臣之愚蒙，实所不了，伏惟哀愍，有以教之，则万劫因縁，一切咸荷！

太上道君告普光曰：五无相结，乃有烟絜。触业生形，因形能化，性理和合，是以为物。从识生变，神乃为用。识之与神，不一不异。何以故？法同源故。体则是识，五性相和；用则为神，照于境智。神若无识，何所用智？识若无神，不能为理。譬犹苡菜而为和羹，五味相和，何曾列异？无菜则味不独擅，无神则识不为用。是以用神为智，味菜为羹。以此论之，何曾有暗？众生执著，是故无明。悟则是明，明无定处；迷则为暗，暗岂殊方？深爱为狱，形乃被拘；无爱无受，亦无所有。譬如野外无人之乡，十二时神何曾有地？墙垣既至，屋宇斯成，

四方之神以效灵变。故其屋宇诸神尽在。众生暗狱，亦复如是。神之来也，不知所从？神之去也，不知所往？恶业若成，狱则为业；罪咎君尽，亦不知无。且智有大小，神有尊卑，见神则曰无方，一切人应皆圣。何以故？同不同故。普光真人，汝今当知明暗神识尽于此也。

### 说真父母

天尊言曰：气气相续，种种生缘，善恶祸福，各有命根，非天、非地、亦又非人，正由心也，心由神也。形非我有，所以得生者，从虚无自然中来，因缘寄胎，受化而生。我受胎父母，亦非我始主父母也。真父母不在，此父母贵重尊高无上。今所生父母，我寄备因缘，禀受养育之恩，故以礼报而称为父母焉。故我受形亦非我形也，寄之为屋宅，因之为营构，以舍我也。附之以为形，示之以有无，故得道者无复有形也。及无身神也，一身神并一，则为真身，归于始生父母而成道也。

### 九真帝君九阴混合纵景万化隐天诀

《帝君九阴经》曰：欲变化分形，隐沦八方，匿躯藏影，入室造冥，来致万物，招制邪魅者，当常斋修帝君九阴之精思也。

北斗第一星中名太上宫，宫中有帝君变隐逃元。内妃名太

一法恒，字幸正扶，著黄锦帔丹青飞裙，颓云髻。

第二星中名中元宫，宫中有帝君保胎化形。内嫔名太一三瓮，字罗朱婴，著赤锦帔绿羽飞裙，颓云髻。

第三星中名真元宫，宫中有帝君六遁七隐。上元丹母名太一虚夷，字仲双兆，著青锦帔绣羽华飞裙，颓云髻。

第四星中名纽幽宫，宫中有帝君匿景藏光。中元内妃名太一七烈，字横单槃，著紫锦帔黄华羽裙，颓云髻。

第五星中名纲神宫，宫中有帝君变体易景。斗中大女名太一郁书，字畴丘兰。著朱锦帔紫青飞裙，颓云髻。

第六星中名纪明宫，宫中有帝君隐迹散众，斗中中女名太一气精，字抱定陵。著朱锦帔青绣飞裙，颓云髻。

第七星中名关会宫，宫中有帝君分景万形。斗中少女名太一郁墨，字天凡，著朱锦帔青华明羽裙，颓云髻。

第八星中名帝席宫，宫中有帝君化日月水火。斗中高皇左夫人名太一石启珠，字落茂华，著紫锦帔绣羽飞丹裙，颓云髻。

第九星中名上尊宫，宫中有帝君化金石山河，斗中高皇右夫人名太一条，字云育玄，著绿锦帔翠羽华裙，颓云髻。

右九帝君、九星斗中宫，隐妃九阴名字，若祝说之时，但说位号名字耳，勿道著衣帔及头髻下也。子能知帝君九阴者，升晨上天，位为上真人，兆在世终身不受哭泣灾殃，太阴之神卫从，万灵之精拜谒，分形散变，混合天地。此太阴九妃者，乃帝君之阴宫神也。兆行道解结，奉符上籍，安魂制魄，化生体神，道炁延精，以求长生。而不知帝妃之名字，行九阴以混合者，亦万不得仙也。两眉间却入一寸为明堂，明堂正方一寸，帝君、太阴九妃常居其中，恒以月之偶日斋，用生炁时烧香，入别室，坐卧任意，瞑目，良久，存帝君安坐在太极紫房中；又存太一五神在六合中；又存北斗九星在心中；又存太阴九妃

在明堂中；又存太微童子干景精对立帝君前，童子左手把五符，右手把五籍；又存兆之形立童子后；又存太阴九妃从明堂中上入太极紫房中，以次横列立兆后；又存太一五神从六合中上入太极紫房中，以次横列立太阴九妃后。都毕，于是帝君众神倏欬一合大变，共为一人。一人如婴儿始生之状，名曰无常童子，字变化。左手把九星，头戴日，口衔月。童子以日月九星之光，映熏兆一身，内外洞彻，自觉兆一身通赤如火之炎，无复表里，表里皆炯炯然也。此为帝君、太一九阴混合变化万形也。良久，毕，叩齿二十四通，咽液九过，乃微祝曰：

洞天神光，回曜紫清。玄阴九晨，隐沦绝冥。斗中夫人，三女散形。神妃内化，万物立成。电光雷激，云雾流零。九变十化，生丹起青。太一九女，合化混停。无常纵遁，沦虚馆冥。锦帔华袂，紫羽飞裙。左佩隐符，右带虎文。衔火戴斗，手把绝幡。傍麾八风，四掣景云。逍遥天纲，化荡七元。蔽伏山河，巔回五辰。日月塞晖，列宿失真。分形作百，化躯入千。在火为火，入林为林。居水为水，入山为山。所求忽至，所召已前，倏欬适心，盼目立臻。千种万物，随心所言。帝君在形，太上玉晨。无英同景，四文白元。永生天地，保养我身。口有所道，随意化迁。玉童奉待，玉华执巾。神妃献香，四真同轩。事事物物，皆如我言。毕。



## 卷三十二 杂修摄部一

### 养性延命录（并序）

夫禀气含灵，惟人为贵。人所贵者，盖贵于生。生者神之本，形者神之具。神大用则竭，形大劳则毙。若能游心虚静，息虑无为，候元气于子后时，导引于闲室，摄养无亏，兼饵良药，则百年耆寿是常分也。如恣意以耽声色，役智而图富贵，得丧萦于怀抱，躁挠未能自遣，不拘礼度，饮食无节，如斯之流，宁免夭伤之患也？余因止观微暇，聊复披览《养生要集》。其集乃前彦张湛道林之徒，翟平黄山之辈，咸是好事英奇，志在宝育，或鸠集仙经真人寿考之规，或采摭彭祖、李聃长龄之术，上自农黄已来，下及魏晋之际，但有益于养生乃无损于后患。诸本先皆记录，今略取要法，删弃繁芜，类聚篇题，号为《养性延命录》。庶补助于有缘，冀凭以济物耳。

《神农经》曰：食谷者智慧聪明，食石者肥泽不老（谓炼五石也），食芝者延年不死，食元气者地不能埋，天不能杀。是故食药者，与天地相弊，日月并列。

《老君死》（河上公曰：谷，养也，能养神不死。神为五脏之神，肝藏魂，肺藏魄，心藏神，肾藏精，脾藏志。五藏尽伤，则五神去矣），是谓玄牝（言不死之道，在于玄牝。玄，天也，

天于人为鼻；牝、地也，地于人为口。天食人以五气，从鼻入，藏于心。五气清，为精神、聪明、音声、五性。其鬼曰魂，魂者，雄也。出入人鼻，与天通，故鼻为玄也。地食人以五味，从口入，藏于胃。五味浊，为形骸、骨肉、血脉、六情。其鬼曰魄，魄者，雌也。出入于口，与地通，故口与地通，故口为牝也。玄牝之门，是谓天地根（根、元也。言鼻口之门，乃是天地之元气所从往来也）。绵绵若存（鼻口呼吸喘息，当绵绵微妙，若可存，复若无有也），用之不勤（用气当宽舒，不当急疾勤劳）。

《老君德经》曰：出生（谓情欲出于五内，魂定魄静故生也）入死（谓情欲入于胸臆，精散神惑故死也），生之徒十有三，死之徒十有三（言生死之类各十有三，谓九窍四关也。其生也，目不妄视，耳不妄听，鼻不妄嗅，口不妄言，手不妄持，足不妄行，精不妄施。其死也，反是），人之生，动之死地亦十有三（人欲求生，动作反之，十三之死地也）。夫何故？以其求生之厚（所以动之死地者，以其求生活之太厚也。远道反天，妄行失纪）。盖闻善摄生者，陆行不遇兕虎，入军不被甲兵，兕无所投其角，虎无所措其爪，兵无所容其刃。夫何故？以其无死地焉（以其不犯上十三之死地也）。

《庄子·养生篇》曰：吾生也有涯（向秀曰：生之所禀，各有涯也），而智也无涯（嵇康曰：夫不虑而欲，性之动也；识而发感，智之用也。性动者，遇物而当足，则无余智；从感而求，倦而不已。故世之所患，常在于智用，不在性动也）。以有涯随无涯，殆已（郭象曰：以有根之性，寻无穷之智，安得而不困哉）。已而为智者，殆而已矣（向秀曰：已困于矣，又为以攻之者，又殆矣）。

《庄子》曰：达生之情者，不务生之所无以为（向秀曰：

生之所无以为者，性表之事也。张湛曰：生理自全，为分外所为，此是以有涯随无涯也；达命之情者，不务智之所无奈何（向秀曰：命尽而死者是。张湛曰：秉生顺之理，穷所禀之分，岂智所奈何）。

《列子》曰：少不勤行，庄不竞时，长而安贫，老而寡欲，闲心劳形，养生之方也。

《列子》曰：一体之盈虚消息，皆通于天地，应于万类（张湛曰：人与阴阳通气）。和之于始，和之于终，静神灭想，生之道也（始终和则神志不散）。

《老君妙真经》曰：人常失道，非道失人；人常去生，非生去人。故养生者，慎勿失道；为道者，慎勿失生。使道与生相守，生与道相保。

《黄老经玄示》曰：天道施化，与万物无穷；人道施化，形神消亡。转神施精，精竭故衰。形本生精，精生于神。不以精施，故能与天合德；不与神化，故能与道同式。《玄示》曰：以形化者，尸解之类。神与形离，二者不俱，遂象飞鸟入海为蛤，而随季秋阴阳之气。以气化者，生可异也；以形化者，甚可畏也。

严君平《老君指归》曰：游心于虚静，结志于微妙，委虑于无欲，归指于无为，故能达生延命，与道为久。

《大有经》曰：或疑者云：始同起于无外，终受气于阴阳，载形魄于天地，资生长于食息，而有愚有智，有强有弱，有寿有夭，天耶？人耶？解者曰：夫形生愚智，天也；强弱寿夭，人也。天道自然，人道自己。始而胎气充实，生而乳食有馀，长而滋味不足，壮而声色有节者，强而寿；始而胎气虚耗，生而乳食不足，长而滋味有馀，壮而声色自放者，弱而夭。生长全足，加之导养，年未可量。

《道机》曰：人生而命有长短者，非自然也。皆由将身不谨，饮食过差，淫佚无度，忤逆阴阳，魂神不守，精竭命衰，百病萌生，故不终其寿。

《河图帝视萌》曰：侮天时者凶，顺天时者吉。春夏乐山高处，秋冬居卑深藏，吉利多福，寿考无穷。

《洛书宝命》曰：“古人治病之方，和以体泉，润以元气，药不辛不苦，甘甜多味，常能服之，津流五脏，系之在肺，终身无患。

《孔子家语》曰：食肉者，勇敢而悍（虎狼之类）；食气者，神明而寿（仙人、灵龟是）；食谷者，智慧而夭（人也）；不食者，不死而神（直任喘息而无思虑）。

《传》曰：杂食者，百病妖邪鍾。所食愈少，心愈开，年愈益；所食愈多，心愈塞，年愈损焉。

太史公司马谈曰：夫神者，生之本；形者，生之具也。神大用则竭，形大劳则毙。神形早衰，欲与天地长久，非所闻也。故人所以生者，神也；神之所托者，形也。神形离别则死，死者不可复生，离者不可复返，故乃圣人重之。夫养生之道，有都领大归，未能具其会者，但思每与俗反，则暗践胜辙，获过半之功矣。有心之徒，可不察欤？

《小有经》曰：少思、少念、少欲、少事、少语、少笑、少愁、少乐、少喜、少怒、少好、少恶，此十二少，乃养生之都契也。多思则神怠，多念则志散，多欲则损智，多事则形疲，多语则气争，多笑则伤藏，多愁则心悞，多乐则意溢，多喜则忘错昏乱，多怒则百脉不定，多好则专迷不治，多恶则焦煎无欢。此十二多不除，丧生之本也。无多者，几乎真人大计。奢懒者寿，慳靳者夭，放散劬劳之异也。田夫寿，膏粱夭，嗜欲多少之验也。处士少疾，游子多患，事务繁简之殊也。故俗人

竞利，道士罕营。胡昭曰：目不欲视不正之色，耳不欲听丑秽之言，鼻不欲向膻腥之气，口不欲尝毒辣之味，心不欲谋欺诈之事，此辱神损寿。又居常而叹息，晨夜而吟啸不止，来邪也。夫常人不得无欲，又复不得无事，但当和心少念，静虑，先去乱神犯性之事，此则畜神之一术也。

《黄庭经》曰：玉池清水灌灵根，审能修之可长存。名曰饮食自然。自然者，则是华池。华池者，口中唾也。呼吸如法，咽之则不饥也。

《老君尹氏内解》曰：唾者，漱为体泉，聚为玉浆，流为华池，散为精洿，降为甘露。故口为华池，中有体泉，漱而咽之，溉藏润身，流利百脉，化养万神，肢节毛发宗之而生也。

《中经》曰：静者寿，躁者夭。静而不能养减寿，躁而能养延年。然静易御，躁难持，尽顺养之宜者，则静亦可养，躁亦可养。

韩融元长曰：酒者，五谷之华，味之至也，亦能损人。然美物难将而易过，养性所宜慎之。

邵仲堪曰：五谷充肌体而不能益寿，百药疗疾延年而不能甘口。充肌甘口者，俗人之所珍。苦口延年者，道士之所宝。

《素问》曰：黄帝问岐伯曰：余闻上古之人，春秋皆百岁而动作不衰（谓血气犹盛也）；今时之人，年所始半百动作皆衰者，时世异耶？将人之失耶？岐伯曰：上古之人，其知道者，法则阴阳，和于术数（房中交接之法），饮食有节，起居有度，不妄动作，故能形与神俱，尽终其天命，寿过百岁；今时之人则不然，以酒为浆，以妄为常，醉以入房，以（欲心）竭其精，以好散其真，不知持满，不时御神，务快其心，逆于阴阳，治生起居无节无度，故半百而衰也。

《老子》曰：人生大期，百年为限，节护之者，可至千岁。

如膏之用，小炷与大耳。众人大言而我小语，众人多烦而我少记，众人悸暴而我不怒，不以人事累意，不修君臣之义，淡然无为，神气自满，以为不死之药，天下莫我知也。无谓幽冥，天和人情，无谓暗昧，神见人形。心言小语，鬼闻人声；犯禁满千，地收人形。人为阳善，正人报之；人为阴善，鬼神报之。人为阳恶，正人治之；人为阴恶，鬼神治之。故天不欺人依以影，地不欺人依以响。

老君曰：人修善积德而遇其凶祸者，受先人之馀殃也；犯禁为恶而遇其福者，蒙先人之馀福也。

《名医叙病论》曰：世人不终耆寿，咸多天殁者，皆由不自爱惜，忿争尽意，邀名射利，聚毒攻神，内伤骨体，外乏筋肉，血气将无，经脉便壅，内里空疏，惟招众疾，正气日衰，邪气日盛矣。不异举沧波以注燭火，颓华岳而断涓流，语其易也，甚于兹矣。

彭祖曰：道不在烦，但能不思衣，不思食，不思声，不思色，不思胜，不思负，不思失，不思得，不思荣，不思辱，心不劳，形不极，常导引、内气、胎息尔，可得千岁，欲长生无限者，当服上药。

仲长统曰：荡六情五性，有心而不以之思，有口而不以之言，有体而不以之安。安之而能迁，乐之而不爱。以之图之，不知日之益也，不知物之易也，彭祖、老聃庶几，不然彼何为与人者同类，而与人者异寿？

陈纪元方曰：百病横夭，多由饮食。饮食之患，过于声色。声色可绝之逾年，饮食不可废之一日。为益亦多，为患亦切（多则切伤，少则增益）。

张湛云：凡贵权势者，虽不中邪，精神内伤，身心死亡（非妖邪外侵，直由冰炭内煎，则自崩伤中呕血）；始富后贫，

虽不中邪，皮焦筋出，委痹为挛（贫富之于人，利害犹于权势，故疴疹损于形骸）。动胜寒，静胜热，能动能静，所以长生。精报清净，乃与道合。

《庄子》曰：真人其寝不梦。

《慎子》云：昼无事者夜不梦。

张道人年百数十，甚翹壮也，云：养性之道，莫久行、久坐、久卧、久听，莫强食饮，莫大醉，莫大忧愁，莫大哀思，此所谓能中和。能中和者，必久寿也。

《仙经》曰：我命在我不在于天，但愚人不能知此，道为生命之要。所以致百病风邪者，皆由恣意极情，不知自惜，故虚损生也。譬如枯朽之木，遇风即折；将崩之岸，值水先颓。今若不能服药，但知爱精节情，亦得一二百年寿也。

张湛《养生集叙》曰：养生大要：一曰啬神，二曰爱气，三曰养形，四曰导引，五曰言语，六曰饮食，七曰房室，八曰反俗，九曰医药，十曰禁忌。过此以往，义可略焉。

青牛道士言：人不欲使乐，乐人不寿，但当莫强为力所不任，举重引强，掘地苦作，倦而不息，以致筋骨疲竭耳。然劳苦胜于逸乐也。能从朝至暮常有所为，使之不息乃快，但觉极当息，息复为之。此与导引无异也。夫流水不腐，户枢不朽者，以其劳动数故也。饱食不用坐与卧，欲得行步务作以散之。不尔，使人得积聚不消之疾，及手足痺蹇，面目黧皱，必损年寿也。

皇甫隆问青牛道士（青牛道士姓封，字君达，其养性法则可施用），大略云：体欲常劳，食欲常少，劳无过极，少无过虚。去肥浓，节咸酸，减思虑，损喜怒，除驰逐，慎房室。武帝行之有效。

彭祖曰：人受气虽不知方术，但养之得理，常寿一百二十

岁。不得此者，皆伤之也。少复晓道，可得二百四十岁。复微加药物，可得四百八十岁（嵇康亦云：道养得理，上可寿千岁，下可寿百岁）。

彭祖曰：养寿之法，但莫伤之而已。夫冬温夏凉，不失四时之和，所以适身也。重衣厚褥，体不堪苦，以致风寒之疾；厚味脯腊，醉饱厌饫，以致聚结之疾；美色妖丽，嫫媿盈房，以致虚损之祸；淫声哀音，怡心悦耳，以致荒耽之惑；驰骋游观，弋猎原野，以致荒狂之失；谋得战胜，兼弱取乱，以致骄逸之败。盖圣贤或失其理也。然养生之具，譬犹水火，不可失适，反为害耳。

彭祖曰：人不知道，经服药损伤，血气不足，内理空疏，髓脑不实，内已先病，故为外物所犯，风寒酒色以发之耳。若本充实，岂有病乎？

仙人曰：罪莫大于淫，祸莫大于贪，咎莫大于谗。此三者祸之车，小则危身，大则危家。若欲延年少病者，诚勿施精，施精命夭残。勿大温消骨髓，勿大寒伤肌肉，勿咳唾失肌汁，勿卒呼惊魂魄，勿久泣神悲蹙，勿恚怒，神不乐，勿念内志恍惚，能行此道，可以长生。

### 杂戒忌禳灾祈善

久视伤血，久卧伤气，久立伤骨，久行伤筋，久坐伤肉。远思强健伤人，忧恚悲哀伤人，喜乐过差伤人，忿怒不解伤人，汲汲所愿伤人，戚戚所患伤人，寒暖失节伤人，阴阳不交伤人。凡交，须依导引诸术。若能避众伤人事，而复晓阴阳之术，则



是不死之道。大乐气飞扬，大愁气不通。用精令人气力乏，多睡令人目盲，多唾令人心烦，贪美食令人泄痢。俗人但知贪于五味，不知有元气可饮。圣人知五味之毒焉，故不贪，知元气可服，故闭口不言，精气息应也。唾不咽则气海不润，气海不润则津液乏，是以服元气、饮醴泉，乃延年之本也。

沐浴无常不吉，夫妇同浴不吉。新沐浴及醉饱、远行归还大疲倦，并不可行房室之事，生病，切慎之。丈夫勿头北向卧，令人神不安，多愁忘。勿跂井，今古大忌。若见十步地墙，勿顺墙坐卧，被风吹发癰病疾。勿怒目久视日月，使目睛失明。凡大汗勿脱衣，不慎多患偏风半身不遂。新沐浴讫，不得露头当风，不幸得大风刺风疾。触寒来勿面临火上，成病，起风眩头痛。勿跂床悬脚，久成血卑，足重腰疼。凡脚汗勿入水，作骨痹，亦作遁疾。久忍小便，脉冷，兼成冷痹。凡食热物汗出勿荡风，发疮头痛，令人目涩饶睡。凡欲眠勿歌咏，不祥。眠起勿大语，损人气。凡飞鸟投人不可食，鸟若开口及毛下有疮，并不可食之。凡热泔洗头，冷水濯，成头风。凡人卧头边勿安火炉，令人六神不安。冬日温足冻脑，春秋脑足俱冻，此乃圣人之常法也。凡新哭泣讫便食，即成气病。夜卧勿覆头，妇人勿跂灶坐，大忌。凡唾不用远，远即成肺病，令人手重、背疼、咳嗽。凡人魇，勿点灯照定，魇死暗唤之，即吉，亦不可近前及急唤。凡人卧勿开口，久成病渴，并失血色。凡旦起勿以冷水开目洗面，令人目涩、失明、饶泪。凡行途中触热，逢河勿洗面，生鸟<黑干>。人睡讫忽觉，勿饮水更卧，成水痹。凡时病新汗解，勿饮冷水，损人心腹，不平复。凡空腹不可见闻臭尸气，入鼻令人成病。凡欲见死尸，皆须先饮酒及咬蒜，辟毒气。凡小儿不用令指月，两耳后生疮欲断，名月会疮，捣 毳麻末傅令产妇著肿。凡人卧不用隐膊下，令人六神不安。凡

卧，春夏欲得头向东，秋冬头向西，有所利益。凡丈夫，饥欲得坐小便，饱则立小便，令人无病。凡人睡欲得屈膝侧卧，益人气力，凡卧欲得数转侧，语笑欲令至少，莫令声高大。春欲得瞑卧早起，夏秋欲得侵夜卧早起，冬欲得早卧晏起，皆有所益。虽云早起，莫在鸡鸣前，晏起莫在日出后。冬日天地闭，阳气藏，人不欲作劳出汗，发泄阳气，损人。新沐浴讫，勿当风、结髻，勿以湿髻卧，使人患头风，眩闷、发秃、面肿、齿痛、耳聋。湿衣及汗衣皆不可著久，令发疮及患风。

老君曰：正月旦，中庭向寅地再拜，咒曰：“（某甲）年年受大道之恩，太清玄门愿还（某甲）去岁之年。男女皆三通自咒，常行此道延年（玄女有清神之法，淮南有祠灶之规，咸欲体合真灵，护生者也）。仙经秘要，常存念心中，有气大如鸡子，内赤外黄，辟众邪延年也。欲却众邪百鬼，常存念为炎火如斗，煌煌光明，则百邪不敢干人，可入瘟疫之中。暮卧常存作赤气在外，白气在内，以覆身辟众邪鬼魅。

老君曰：凡人求道，勿犯五逆六不祥，有犯者凶。大小便向西一逆，向北二逆，向日三逆，向月四逆，仰视天及星辰五逆。夜起裸形一不祥，旦起嗔恚二不祥，向灶骂詈三不祥；以足向火四不祥，夫妻画合五不祥，怨恚师父六不祥。凡人旦起常言善事，天与之福。凡言奈何歌啸，名曰请祸。慎勿上床卧歌，凶。始卧伏卧床，凶。饮食伏床，凶。以匙筋击盘上，凶。司阴之神在人口左，人有阴祸，司阴白之于天，天则考人魂魄。司杀之神在人口右，人有恶言，司杀白之于司命，司命记之，罪满即杀。二神监口，惟向人求非，安可不慎言？舌者，身之兵革，善恶由之而生，故道家所忌。饮玉泉者，令人延年除百病。玉泉者，口中唾也。鸡鸣、平旦、日中、晡时、黄昏、夜半，一日一夕，凡七漱玉泉饮之，每饮辄满口，咽之延年。发

血之穷，齿骨之穷，爪筋之穷，千过梳发发不白，朝夕啄齿齿不齩，爪不数截筋不替。人常数欲照镜，谓之存形，形与神相存，此其意也。若矜容颜色自爱玩，不如勿照。凡人常以正月一日、二月二日、三月三日、四月八日、五月一日、六月二十七日、七月十一日、八月八日、九月二十一日、十月十四日、十一月十一日、十二月三十日，但常以此日取枸杞菜煮作汤沐浴，令人光泽，不病不老。月蚀宜救。人除殃，活万人，与天同功（天不好杀，圣人则之。知不好之者，是助天地长养，故招胜福）。善梦可说，恶梦默之，则使之延命使之延命：道藏本作“养性延年”。

### 服气疗病

《元阳经》曰：常以鼻内气，含而漱，满舌料唇齿咽之，一日一夜得千咽，甚佳。当少饮食，多则气逆，百脉闭。百脉闭则气不行，气水行则生病。

《玄示》曰：志者，气之帅也；气者，体之充也。善者遂其生，恶者丧其形。故行气之法，少食自节，动其形，和其气，志意专一，固守中外，上下俱闭，神周形骸调畅，四溢修守，关元满而足实，因之而众邪自出。

彭祖曰：常闭气内息，从平旦至日中，乃跪坐拭目，摩搦身体，舐唇咽唾，服气数十，乃起行言笑。其偶有疲倦不安，便导引闭气，以攻所患，必存其身头面、九窍、五脏、四肢，至于发端，皆令所在觉其气云行体中，起于鼻口，下达十指末，则澄和真神，不须针药灸刺。凡行气欲除百病，随所在作念之。

头痛念头，足痛念足，和气往攻之，从时至时，便自消矣。时气中冷可闭气以取汗，汗出周身则解矣。行气闭气，虽是治身之要，然当先达解其理趣。又宜空虚，不可饱满。若气有结滞，不得空流，或致疮节，譬如泉源不可壅遏。若食生鱼、生菜、肥肉，及喜怒忧恚不除，而以行气，令人发上气。凡欲学行气，皆当以渐。

刘安曰：食生吐死，可以长存。谓鼻内气为生也。凡人不能服气，从朝至暮常习不息，徐而舒之，但令鼻内口吐，所谓吐故纳新也。

《服气经》曰：道者，气也。保气则得道，得道则长存。神者，精也。保精则神明，神明则长生。精者，血脉之川流，守骨之灵神也。精去则骨枯，骨枯则死矣。是以为道务宝其精。从夜半到日中为生气，从日中后至夜半为死气，当以生气时正偃卧，瞑目握固（握固者，如婴儿）扞卷手以四指押大母指也），闭气不息，于心中数至二百，乃口吐气出之。日增息，如此身神具，五脏安。能闭气至二百五十息，华盖明。华盖明则耳目聪明，举身无病，邪不忤人也。凡行气，以鼻内气，以口吐气，微而引之，名曰长息。内气有一，吐气有六。内气一者，谓吸也；吐气六者，谓吹、呼、唏、呵、嘘、咽，皆出气也。凡人之息，一呼一吸，元有此数。欲为长息吐气之法，时寒可吹，温可呼，委曲治病，吹以去热，呼以去风，唏以去烦，呵以下气，嘘以散滞，咽以解极。凡人极者，则多嘘咽。道家行气，多不欲嘘咽。嘘咽者长息之心也。此男女俱存法，法出于仙经。行气者，先除鼻中毛，所谓通神之路。若天恶风猛、大寒大热时，勿取气。

《明医论》云：疾之所起，自生五劳，五劳既用，二藏先损，心肾受邪，腑脏俱病。五劳者：一曰志劳，二曰思劳，三

曰心劳，四曰忧劳，五曰疲劳。五劳则生六极：一曰气极，二曰血极，三曰筋极，四曰骨极，五曰精极，六曰髓极。六极即为七伤，七伤故变为七痛，七痛为病，令人邪气多正气少，忽忽喜怒悲伤，不乐饮食，不生肌肤，颜色无泽，发白枯槁，甚者令人得大风偏枯筋缩，四肢拘急挛缩，百关隔塞，羸瘦短气，腰脚疼痛。此由早娶，用精过差，血气不足，极劳之所致也。凡病之来，不离于五脏，事须识相。若不识者，勿为之耳。心藏病者，体有冷热，呼吸二气出之；肺藏病者，胸膈胀满，嘘出之；脾藏病者，体上游风< 风>々，身痒疼闷，唏气出之。肝藏病者，眼疼，愁忧不乐，呵气出之。已上十二种调气法，但常以鼻引气，口中吐气，当令气声逐字吹呼嘘呵唏咽吐之。若患者依此法，皆须恭敬用心为之，无有不差，此即愈病长生要术也。

### 导引按摩

《导引经》云：清旦未起，啄齿二七，闭目握固，漱满唾，三咽气。寻闭而不息，自极，极乃徐徐出气，满三止。便起，狼踞鸱顾，左右自摇曳，不息，自极复三，便起下床，握固不息，顿踵三还，上一手，下一手，亦不息，自极三。又叉手项上，左右自了戾，不息，复三。又伸两足及叉手前却，自极复三。皆当朝暮为之，能数尤善。平旦以两掌相摩令热，熨眼三过；次又以指按目四（此目），令人目明。按经云：拘魂门，制魄户，名曰握固，与魂魄安门户也。此固精明目，留年还魄之法，若能终日握之，邪气百毒不得入（握固法：屈大拇指于

四小指下，扞已之，积习不止，即眼中亦不复开。一说云：令人不遭魔魅）。

《内解》云：一曰精，二曰唾，三曰泪，四曰涕，五曰汗，六曰溺，皆所以损人也，但为损者，有轻重耳。人能终日不涕唾，随有漱满咽之，若恒含枣核咽之，令人爱气生津液，此大要也（谓取津液，非咽核也）。常每旦啄齿三十六通，能至三百弥佳，令人齿坚不痛。次则以舌漱漏满口中津液，咽之，三过止。次摩指少阳令热，以熨目，满二七止，令人目明。每旦初起，以两手掩两耳极，上下热授之，二七止，令人耳不聩。次又啄齿漱玉泉三咽，缩鼻闭气，右手从头上引左耳二七，复以左手从头上引右耳二七止，令人延年不聩。次又引两鬓发举之一七，则总取发两手向上，极势抬上一七，令人血气通，头不白。又法摩手令热，以摩面，从上至下，去邪气，令人面上有光彩。又法摩手令热，摩身体，从上至下，名曰乾浴，令人胜风寒、时气热、头痛、百病皆除。夜欲卧时，常以两手揩摩身体，名曰乾浴，辟风邪。峻坐，以左手托头，仰，右手向上尽势托，以身并手振动三，右手托头振动亦三，除人睡闷。平旦日未出前，面向南峻坐，两手托襪，尽势振动三，令人面有光泽生。平旦起，未梳洗前，峻坐，以左手握右手于左襪上，前却尽热授左襪三；又以右手握左手于右襪上，前却授右襪亦三；次又两手向前，尽势推三；次又叉两手向胸前，以两肘向前，尽势三次；直引左臂，卷曲右臂，如挽一斛五斗弓势，尽力为之，右手挽弓势，亦然。次以右手托地，左手仰托天，尽势，右亦然；次卷两手，向前筑各三七；次卷左手尽势向背上，握指三，右手亦如之；疗背膊臂肘劳气。数为之，弥佳。平旦便转讫，以一长拄杖策腋，垂左脚于床前，徐峻，尽势掣左脚五七回，右亦如之，疗脚气疼闷，腰肾冷气、冷痹及膝冷，并

主之。日夕三掣，弥佳。勿大饱及忍小便，掣如不用拄杖，但遣所掣，脚不着地，手扶一物亦得。晨夕梳头满一千梳，大去头风，令人发不白。梳讫，以盐花及生麻油搓头顶上，弥佳。如有神明膏搓之，甚佳。旦欲梳洗时，叩齿一百六十，随有津液便咽之。讫，以水漱口，又更以盐末揩齿，即含取微酢清浆半小合许，熟漱。取盐汤吐洗两目，讫，以冷水洗面，不得遣冷水入眼中。此法齿得坚净，目明无泪，永无齧齿。平旦洗面时漱口讫，咽一两咽冷水，令人心明净，去胸臆中热。

谯国华佗善养性，弟子广陵吴普、彭城樊阿授术于佗。佗尝语普曰：人体欲得劳动，但不当使极耳。人身常摇动，则谷气消，血脉流通，病不生。譬犹户枢不朽是也。古之仙者，及汉时有道士君倩者，为导引之术，作猿经鸱顾，引挽腰体，动诸关节，以求难老也。吾有一术，名曰五禽戏：一曰虎，二曰鹿，三曰熊，四曰猿，五曰鸟；亦以除疾，兼利手足，以常导引。体中不快，因起作一禽之戏，遣微汗出即止，以粉涂身，即身体轻便，腹中思食。吴普行之，年九十馀，耳目聪明，牙齿坚完，契食如少壮也。虎戏者，四肢距地，前三擗，却二擗，长引腰，乍却仰天，即返距行，前、却各七过也。鹿戏者，四肢距地，引项反顾，左三右二，左右伸脚，伸缩亦三亦二也。熊戏者，正仰，以两手抱膝下，举头，左僻地七，右亦七，蹲地，以手左右托地。猿戏者，攀物自悬，伸缩身体，上下一七，以脚拘物自悬，左右七，手钩却立，按头各七。鸟戏者，双立手，翘一足，伸两臂，扬眉鼓力，右二七，坐伸脚，手挽足距各七，伸缩二臂各七也。夫五禽戏法，任力为之，以汗出为度，有汗以粉涂身，消谷食益，除百病，能存行之者，必得延年。

又有法：安坐，未食前自按摩，以两手相叉，伸臂股，导引诸脉，胜于汤药。正坐，仰天呼出，饮食醉饱之气立消。夏

云笈七签

· 441 ·

天为之，令人凉矣。



## 卷三十三 杂修摄部二

摄养枕中方      太白山处士孙思邈撰

夫养生缮性，其方存于卷者甚众。其或幽微秘密，疑未悟之心。至于澄神内观，游玄采真，故非小智所及。常思所寻设能及之，而志不能守之，事不从心，术即不验。诚由前之误交切而难遣，摄卫之道赊远而易违，是以混然同域，绝而不思者也。稽叔夜悟之大得，论之未备，所以将来志士览而惧焉。今所撰录，并在要典。事虽隐秘，皆易知易为，以补斯阙。其学者不违情欲之性，而俯仰可从；不弃耳目之玩，而顾盼可法。旨约而用广，业少而功多。余研核方书，盖亦久矣。搜求秘道，略无遗馀。自非至妙至神，不入兹录；诚信诚效，始冠于篇。取其弘益，以贻后代。苟非其道，慎勿虚传；传非其人，殃及三世。凡著五章为一卷，与我同志者宝而行之云尔。

### 自慎

夫天道盈缺，人事多屯。居处屯危，不能自慎而能克济者，

天下无之。故养性之士，不知自慎之方，未足与论养生之道也，故以自慎为首焉。

夫圣人安不忘危，恒以忧畏为本。营无所畏忌，则庶事隳坏。《经》曰：人不畏威，则大威至矣。故以治身者，不以忧畏，朋友远之；治家者，不以忧畏，奴仆侮之；治国者，不以忧畏，邻境侵之；治天下者，不以忧畏，道德去之。故忧畏者，生死之门，礼教之主，存亡之由，祸福之本，吉凶之元也。是故仕无忧畏，则身名不立；农无忧畏，则稼穡不滋；工无忧畏，则规矩不设；商无忧畏，则货殖不广；子无忧畏，则孝敬不笃；父无忧畏，则慈爱不著；臣无忧畏，则勋庸不建；君无忧畏，则社稷不安。养性者，失其忧畏，则心乱而不治，形躁而不宁，神散而气越，志荡而意昏，应生者死，应死者亡，应成者败，应吉者凶。其忧畏者，其犹水火不可暂忘也。人无忧畏，子弟为勍敌，妻妾为寇仇。是以太上畏道，其次畏物，其次畏人，其次畏身。故忧于身者不拘于人，畏于己者不制于彼，慎于小者不惧于大，戒于近者不悔于远。能知此者，水行蛟龙不得害，陆行虎凶兕不能伤，处世谤讟不能加。善知此者，万事毕矣。

夫万病横生，年命横夭，多由饮食之患。饮食之患，过于声色。声色可绝之逾年，饮食不可废于一日，为益既广，为患亦深。且滋味百品，或气势相伐，触其禁忌，更成沉毒。缓者积年而成病，急者灾患而卒至也。

凡夏至后迄秋分，勿食肥膩饼臠之属。此与酒浆果瓜相妨。或当时不觉即病，入秋节变生多诸暴下，皆由涉夏取冷太过，饮食不节故也。而或者以病至之日便为得病之初，不知其所由来者渐矣。欲知自慎者，当去之于微也。

夫养性者，当少思、少念、少欲、少事、少语、少笑、少愁、少乐、少喜、少怒、少好、少恶，行此十二少者，养生之

都契也。多思则神殆，多念则志散，多欲则损智，多事则形劳，多语则气争，多笑则伤藏，多愁则心慑，多乐则意溢，多喜则忘错昏乱，多怒则百脉不定，多好则专迷不理，多恶则憔悴无欢。此十二多不除，丧生之本也。唯无多无少，几乎道也。故处士少疾，游子多患，繁简之殊也。是故田夫寿，膏粱夭，嗜欲多少之验也。故俗人竞利，道士罕营。夫常人不可无欲，又复不可无事，但约私心，约狂念，靖躬损思，则渐渐自息耳。

封君达云：体欲常劳，食欲常少；劳勿过极，少勿过虚。恒去肥浓，节咸酸，减思虑，捐喜怒，除驰逐，慎房室，春夏施泻，秋冬闭藏。又鱼脍生肉，诸腥冷之物，此多损人，速宜断之，弥大善也。心常念善，不欲谋欺诈恶事，此大辱神损寿也。

彭祖曰：重衣厚褥，体不堪苦，以致风寒之疾；甘味脯腊，醉饱饕餮，以致疝结之病；美色妖丽，以致虚损之祸；淫声哀音，怡心悦耳，以致荒耽之惑；驰骋游观，弋猎原野，以致发狂之迷；谋得战胜，取乱兼弱，以致骄逸之败。斯盖圣人戒其失理，可不思以自勸也？

夫养性之道，勿久行、久坐、久听、久视，不强食，不强饮，亦不可忧思愁哀。饥乃食，渴乃饮。食止，行数百步，大益人。夜勿食，若食即行约五里，无病损。日夕有所营为，不住为佳，不可至疲极，不得大安无所为也。故曰：流水不腐，户枢不蠹。以其劳动不息也。

想尔曰（想尔盖仙人名）：勿与人争曲直，当减人算寿。若身不宁，反舌塞喉，嗽漏，咽液无数，须臾即愈。道人疾，闭目内视，使心生火，以火烧身，烧身令尽，存之，使精神如仿佛，疾即愈。若有痛处，皆存其火烧之，秘验。

### 仙经禁忌

凡甲寅日，是尸鬼竞乱，精神躁秽之日，不得与夫妻同席、言语、面会，必当清净，沐浴不寝，警备也。

凡服药物，不欲食蒜、石榴、猪肝、犬肉。

凡服药，勿向北方，大忌。

凡亥子日，不可唾，减损年寿。

凡入山之日，未至百步，先却百步，足反登山，山精不敢犯人。

凡求仙，必不用见尸。

又忌三月一日不得与女人同处。

### 仙道忌十败

一勿好淫，二勿为阴贼凶恶，三勿酒醉，四勿秽慢不净，五勿食父命本命肉，六勿食己本命肉，七勿食一切肉，八勿食生五辛，九勿杀一切昆虫众生，十勿向北大小便，仰视三光。

### 仙道十戒

勿以八节日行威刑，勿以晦朔日怒，勿以六甲日食鳞甲之物，勿以三月三日食五脏肉、百草心，勿以四月八日杀伐树木，勿以五月五日见血，勿以六月六日起土，勿以八月四日市附足之物，勿以九月九日起床席，勿以八节日杂处。

### 学仙杂忌

若有崇奉六天、及事山川魔神者，勿居其室，勿飧其饌。

右已上忌法，天人大戒。或令三魂相嫉，七魄流竞；或胎神所憎，三官受恶之时也。若能奉修则为仙材，不奉修失禁，则为伤败。

夫阴丹内御房中之术，七九朝精吐纳之要，六一回丹雄雌之法，虽获仙名，而上清不以比德；虽均至化，而太上不以为高。未弘至道，岂睹玄闕？勿亲经孕妇女，时醕华池，酣鬯自乐，全真独卧。古之养生，尤须适意，不知秘术，讵可怡乎？勿抱婴儿，仙家大忌。

夫建志内学，养神求仙者，常沐浴，以致灵气。如学道者，每事须令密。泄一言一事，趣减一算。一算，三日也。

凡咽液者，常闭目内视。学道者，常当别处一室，勿与人杂居，著净衣烧香。

凡书符当北向，勿杂用笔砚。

凡耳中忽闻啼呼及雷声、鼓鸣，若鼻中闻臭气血腥者，并凶兆也。即烧香、沐浴斋戒，守三元帝君，求乞救护。行阴德，为人所不能为，行人所不能行，则自安矣。

夫喜怒损志，哀乐害性，荣华惑德，阴阳竭精，皆学道之人大忌，仙法之所疾也。

夫习真者，都无情欲之感，男女之想也。若丹白存于胸中，则真感不应，灵女上尊不降。阴气所接，永不可以修至道。吾常恨此，赖改之速耳。所以真道不可以对求，要言不可以偶听慎之哉！

### 导引

常以两手摩拭一面上，令人有光泽，斑皱不生。行之五年，色如少女。摩之令二七而止。卧起，平气正坐，先叉手掩项，目向南视，上使项与手争，为之三四。使人精和，血脉流通，风气不入，行之不病。又屈动身体，四极反张侧掣，宣摇百关，为之各三。

又卧起，先以手内著厚帛，拭项中四面及耳后周匝，热，温温如也。顺发摩顶良久，摩两手以治面目，久久令人目自明，邪气不干。都毕，咽液三十过，导内液咽之。又欲数按耳左右，令无数，令耳不聾，鼻不塞。

常以生气时咽液二七过，按体所痛处。每坐常闭目内视，存见五藏六腑，久久自得分明了了。

常以手中指按目近鼻两眦（两眦，目睛明也），闭气为之，气通乃止。周而复始行之，周视万里。

常以手按两眉后小穴中（此处，目之通气者也），三九过。又以手心及指摩两目及颞上，又以手旋耳各三十过，皆无数时节也。毕，以手逆乘额上三九过，从眉中始，乃上行入发际中。

常行之，勿语其状，久而上仙。修之时，皆勿犯华盖（华盖，眉也）。

### 行气

凡欲求仙，大法有三：保精，引气，服饵。凡此三事，亦阶浅至深，不遇至人，不涉勤苦，亦不可卒知之也。然保精之术，列叙百数；服饵之方，略有千种，皆以勤劳不强为务。故行气可以治百病，可以去瘟疫，可以禁蛇兽，可以止疮血，可以居水中，可以辟饥渴，可以延年命。其大要者，胎息而已。胎息者，不复以口鼻嘘吸，如在胞胎之中，则道成矣。

夫善用气者，嘘水，水为逆流；嘘火，火为灭炎；嘘虎豹，虎豹为之伏匿；嘘疮血，疮血则止。闻有毒虫所中，虽不见其人，便遥为嘘咒我手，男左女右，彼虽百里之外，皆愈矣。又中毒卒病，但吞三九。九当作九之气，亦登时善也。但人性多躁，少能安静，所以修道难成。

凡行气之道，其法当在密室闭户，安床暖席，枕高二寸半。正身偃卧，瞑目闭气，自止于胸膈，以鸿毛著鼻上，毛不动，经三百息，耳无所闻，目无所见，心无所思，当以渐除之耳。若食生冷、五辛、鱼肉及喜怒忧恚而引气者，非止无益，更增气病，上气放逆也。不能闭之，即稍学之。初起三息、五息、七息、九息而一舒气，更喻之。能十二息气，是小通也。百二十息不舒气，是大通也。此治身之大要也。常以夜半之后生气时闭气，以心中数数，令耳不闻，恐有误乱，以手下寿，能至于千，即去仙不远矣。

凡吐气，令人多出少，入恒以鼻入口吐。若天大雾、恶风、猛寒，勿行气，但闭之，为要妙也。

彭祖曰：至道不烦，但不思念一切，则心常不劳。又复导引、行气、胎息，真尔可得千岁。更服金丹大药，可以毕天不朽。清斋休粮，存日月在口中，昼存日，夜存月，令大如环，日赤色，有紫光九芒，月黄色，有白光十芒，存咽服光芒之液，常密行之无数。若修存之时，恒令日月还面明堂中，日在左，月在右，令二景与目瞳合，气相通也。所以倚运生精，理利魂神，六丁奉侍，天兵卫护，此真道也。凡夜行及眠卧心有恐者，存日月还入明堂中，须臾百邪自灭，山居恒尔。凡月五日夜半，存日象在心中，日从口入，使照一身之内，与日共光相合会。当觉心腹霞光映照。毕，咽液九遍。到十五日、二十五日，亦如是。自得百关通畅，面有玉光。又男服日象，女服月象，一日勿废，使人聪明朗彻，五脏生华。

### 守一

夫守一之道，眉中却行一寸为明堂，二寸为洞房，三寸为上丹田。中丹田者，心也。下丹田者，脐下一寸二分是也。一一有服色姓名（出《黄庭经》中），男子长九分，女子长六分。

昔黄帝到峨嵋山，见皇人于玉堂中。帝请问真一之道，皇人曰：长生飞仙，则唯金丹；守形却老，则独真一。故仙重焉。凡诸思存，乃有千数，以自卫率多，烦杂劳人，若知守一之道，则一切不须也。

仙师曰：凡服金丹大药，虽未去世，百邪不敢近人。若服



草木小药，饵八石，适可除病延年，不足以禳外祸，或为百鬼所枉，或为太山横召，或为山神所轻，或为精魅所侵。唯有真一，可以一切不畏也（守一法，具在《皇人守一经》中）。

### 太清存神炼气五时七候诀

夫身为神气，为窟宅。神气若存，身康力健；神气若散，身乃谢焉。若欲存身，先安神气。即气为神母，神为气子。神气若具，长生不死。若欲安神，须炼元气。气在身内，神安气海；气海充盈，心安神定。若神气不散，身心凝静，静至定俱，身存年永，常住道元，自然成圣。气通神境，神通性慧，命注身存，合于真性。日月斋龄，道成究竟。依铭炼气，欲学此术，先须绝粒，安心气海，存神丹田，摄心净虑。气海若俱，自然饱矣。专心修者，百日小成，三年大成。初入五时，后通七候，神灵变化，出没自存，峭壁千里，去住无碍，炁若不散，即气海充盈，神静丹田，身心永固，自然回颜驻色，变体成仙，隐显自由，通灵百变，名曰度世，号曰真人，天地齐年，日月同寿。此法不服气，不咽津，不辛苦，要吃但吃，须休即休，自在自由，无碍五时七候，入胎定观耳。

### 五时

第一时，心动多静少，思缘万境，取舍无常，念虑度量，

犹如野马，常人心也。

第二时，心静少动多，摄动入心，而心散逸，难可制伏，摄之动策，进道之始。

第三时，心动静相半，心静似摄，未能常静，静散相半，用心勤策，渐见调熟。

第四时，心静多动少，摄心渐熟，动即摄之，专注一境，失而遽得。

第五时，心一向纯静，有事触亦不动，由摄心熟，坚固准定矣。

从此已后，处显而入七候，任运自得，非关作矣。

## 七候

第一候，宿疾并销，身轻心畅，停心在内，神静气安，四大适然，六情沉寂，心安玄竟，抱一守中，喜悦日新，名为得道。

第二候，超过常限，色返童颜，形悦心安，通灵彻视。移居别郡，拣地而安，邻里之人，勿令旧识。

第三候，延年千载，名曰仙人。游诸名山，飞行自在，青童侍卫，玉女歌扬，腾蹑烟霞，采云捧足。

第四候，炼身成气，气绕身光，名曰真人。存亡自在，光明自照，昼夜常明，游诸洞宫，诸仙侍立。

第五候，炼气为神，名曰神人。变通自在，作用无穷，力动乾坤，移山竭海。

第六候，炼神合色，名曰至人。神既通灵，色形不定，对

机施化，应物现形。

第七候，高超物外，迥出常伦，大道玉皇，共居灵境，贤圣集会，弘演至真，造化通灵，物无不达。修行至此，方到道源，万行休停，名曰究竟。

今时之人，学道日浅，曾无一候，何得通灵？但守愚情，保持秽质，四时迁运，形委色衰，体谢归空，称为得道，谬矣！此胎息定观，乃是留神驻形，真元祖师相传至此。最初真人传此术，术在口诀，凡书在文，有德志人方遇此法，细详留意，必获无疑，贤智之人，逢斯圣文矣。

## 卷三十四 杂修摄部三

### 太清导引养生经（凡十二事）

赤松子者，神农时雨师，能随风上下，至高辛氏时犹存。  
导引术云：导引除百病，延年益寿。

朝起布席东向为之，息极乃止。不能息极，五通止。此自  
当日日习之，久久知益。

常以两手叉头上，挽至地，五噏五息，止胀气。

又侧卧，左肘肘地，极，掩左手脑，复以右手肘肘地，极，  
掩右手脑，五息止，引筋骨。

以两手据右膝上，至腰胯，起头，五息止，引腰气。右手  
据腰左膝、右手极上引，复以左手据腰右膝，左手极上引，皆  
五息止，引心腹气。

左手据腰，右手极上引，复以右手据腰，左手极上引，五  
息止，引腹中气。

叉手胸前，左右摇头不息，自极止，引面耳，邪气不复  
得入。

两手支腰下，左右自摇，自极止，通血脉。

两手相叉，极左右，引肩中气。

两手相叉，反于头上，左右自调，引肺、肝中气。

两手叉胸前，左右极，引除皮肤中烦气。

两手相叉，左右举肩，引皮肤气。

正立，左右摇两襜，引脚气。

### 宁先生导引养生法（跋蟄龟鳖等气法附）

宁先生者，黄帝时人也。为陶正，能积火自烧，而随烟上下，衣裳不灼。

先生曰：夫欲导引行气，以除百病，令年不老，常心念一，以还丹田。夫生人者丹，救人者还。全则延年，丹去尸存乃夭。所以导引者，令人肢体骨节中诸邪气皆去，正气存处。有能精诚勤习理行之，动作言语之间，昼夜行之，骨节坚强，以愈百病。若卒得中风，病固，鼈鼈不随，耳聋不闻，头眩癱疾，咳逆上气，腰脊苦痛，皆可按图视像，于其疾所在，行气导引，以意排除去之。行气者则可补于中，导引者则可治于四肢，自然之道。但能勤行，与天地相保。

鲜发东向，握固不息一通，举手左右导引，手掩两耳，令发黑不白。

东向坐，不息再通，以两手中指口唾之，二七相摩，拭目，令人目明。

东向坐，不息三通，手捻鼻两孔，治鼻宿息肉，愈。

东向坐，不息四通，琢齿无数；伏前侧坐，不息六通，愈耳聋目眩。还坐，不息七通，愈胸中痛咳。

抱两膝，自企于地，不息八通，愈胸以上至头耳目咽鼻疾。

去枕，握固不息，企于地，不息九通，东首，令人气，上

下通彻。鼻内气，愈羸弱，不能从阴阳法，大阴雾勿行之。

### 虾蟆行气法

正坐，自动摇臂，不息十二通，愈劳及水气。

左右侧卧，不息十二通，治痰饮不消。右有饮病，右侧卧；左有饮病，左侧卧。有不消者，以气排之。日初出、日中、日入时，向日正立，不息九通，仰头吸日精光，九咽之，益精百倍。若入火，垂两臂，不息，即不伤。

又法，面南方蹲踞，以两手从膝中入，掌、足五指令内曲，利腰尻完，治淋遗溺愈。

箕踞，交两脚，手内并脚中，又叉两手，极引之，愈寐中精气不泄矣。两手交叉顺下，自极，致肺气，治暴气咳。

举右手，展左手，坐，以右脚上掩左脚，愈尻完痛。

举手交颈上，相握自极，治胁下痛。

舒左手，以右手在下握左手拇指，自极；舒右手，以左手在下握右手拇指，自极，皆治骨节酸疼。

掩两脚，两手指著足五指上，愈腰折不能低。若血久瘀，为之愈佳。竖足五指，愈腰胸痛，不能反顾颈痛。

以右手从头上下来下，又挽下手，愈颈不能反顾视。

坐地，掩左手，以右手手指搭肩挽之，倾侧，愈腰膝及小便不通。

### 龟鳖等气法

龟鳖行气，以衣覆口鼻，不息九通，正卧，微微鼻出内气，愈塞不通。反两手据膝上，仰头像鳖取气，致元气至丹田，治腰脊不知痛。手大拇指急捻鼻孔，不息，即气上行，致泥丸脑中，令阴阳从，数至不倦。以左手急促发，右手还项中，所谓血脉气各流其根，闭巨阳之气，使阴不溢，信明皆利阴阳之道也。

正坐，以两手交背后，名曰带缚，愈不能大便，利腹，愈虚羸。

坐地，以两手交叉，又其下，愈阴满。

以两手捉绳，轱辘倒悬，令脚反在其上，愈头眩风癫。

以两手牵，反著背上，挽绳自悬中，愈不专精，食不得下。

以一手上牵绳，下手自持脚，愈尻久痔。

坐地，直舒两脚，以两手叉挽两足，自极，愈肠不能受食，吐逆。

东向坐，仰头，不息，五息五通，以舌撩口中沫满二七，咽，愈口乾苦。

雁行气，低头，倚臂，不息十二通，以意排留饮宿食，从下部出，息愈。

龙行气，低头下视，不息十二通，愈风疥恶疮热，不能入咽。可候病者以向阳明仰卧，以手摩腹至足，以手持引足，低臂十二，不息十二通，愈脚足温痺不任行，腰脊痛。

以两手著项相叉，治毒不愈，腹中大气即吐之。

### 喻月精法

喻月精，凡月初出时、月中时、月入时，向月正立，不息八通，仰头喻月精八咽之，令阴气长，妇人喻之，阴精益盛，子道通。

凡入水，举两手臂，不息，没。

面向北方，箕踞，以手挽足五指，愈伏兔痿、尻筋急。

箕踞，以两手从曲脚入据地，曲脚加其手，举尻，其可行气，愈淋漓乳痛。

举脚，交叉项，以两手据地，举尻，持任息极，交脚项上，愈腹中愁满，去三虫，利五脏。

蹲踞，以两手举足蹲极横，治气冲、肿痛、寒疾。

致肾气法：蹲踞，以两手举足五指，低头自极，则五脏气总至，治耳不闻、目不明，久为之，则令人发白复黑。

### 彭祖导引法（凡十事）

彭祖者，殷大夫，历夏至商，比年七百，常食桂得道。导引法云：导引除百病，延年益寿要术也。

凡十节，五十息；五通，二百五十息。欲为之，常于夜半至鸡鸣，平旦为之。禁饱食沐浴。

一、凡解衣被，卧，伸腰，瞑少时，五息止，引肾气，去



<广肖>渴，利阴阳。

二、挽两足指，五息止。引腹中气，去疝瘕，利九窍。

三、仰两足指，五息止。引腹脊痹、偏枯，令人耳聪。

四、两足相向，五息止。引心肺，去咳逆上气。

五、踵内相向，五息止。除五络之气，利肠胃，去邪气。

六、掩左胫，屈右膝内厌之，五息止。引肺气，去风虚，令人目明。

七、张脚两足指，五息止。令人不转筋。

八、仰卧，两手牵膝置心上，五息止。愈腰痛。

九、外转两足，十通止。治诸劳。

十、解发东向坐，握固，不息一通，举手左右导引，以手掩两耳，以指掐两脉边五通，令人目明、发黑不白，治头风。

### 王子乔导引法（凡三十四事）

王子乔八神导引法，延年益寿除百病。导引法曰：枕当高四寸，足相去各五寸半，去身各三寸。解衣披发，正偃卧，勿有所念，定意，乃以鼻徐内气，以口出之，各致其藏所，竟而复始。欲休，先极之而止。勿强长息，久习乃自长矣。气之往来，勿令耳闻，鼻无知。微而专之，长遂推之，伏兔股肱，以省为贵。若存若亡，为之百动，腹鸣气，有外声，足则温，成功之士何疾而已。喉咙如白银环一，十重，系膺，下去得肺。肺色白泽，前两叶高，后两叶卑。心系其下，上大下锐，大率赤如茄华未拆，倒悬著肺下也。肝又系其下，色正青，如鳧翁头也，六叶抱胃，前两叶高，后四叶卑。胆系其下，如绿绋囊。

脾在中央，亦抱胃，正黄如金铄也。肾如两伏鼠，挟脊，直齐肘而居，欲得其居高也，其色正黑，肥肪络之，白黑昭然。胃如素囊，念其屈折右曲，无污秽之患。肝藏魂肺藏魄，心藏神，脾藏意，肾藏志，此名曰神舍。神舍修则百脉调，邪病无所居矣。小肠者，长九尺，法九州。（一云九土。小肠者长二丈四尺。）

诸欲导引，虚者闭目，实者开目，以所苦行气不用，第七息止，徐徐往来，度二百步所，却坐，小咽气五六。不差复如法引，以愈为效。诸有所苦，正偃卧，被发如法，徐以口内气填腹，自极，息欲绝，徐以鼻出气数十所。虚者补之，实者泻之。闭口温气，咽之三十过，候腹中转鸣乃止。往来二百步，不愈复为之。病在喉中、胸中者，枕高七寸；病在心下者，枕高四寸；病在脐下者，去枕。以口出气，鼻内气者，名曰补，闭口温炁咽之者，名曰泻。闭气治诸病法，欲引头病者，仰头；欲引腰脚病者，仰足十指；欲引胸中病，者挽足十指；引臂病者，掩臂；欲去腹中寒热诸所不快，若中寒身热，皆闭气张腹，欲息者，徐以鼻息，已复为，至愈乃止。

一、平坐，生腰脚，两臂覆手据地，口徐吐气，以鼻内之，除胸中、肺中痛，咽气令温，闭目也。

二、端坐，生腰，以鼻内气，闭之，自前后摇头各三十。除头虚空耗。转地，闭目摇之。

三、左胁侧卧，以口吐气，以鼻内之。除积聚、心下不便。

四、端坐，生腰，徐以鼻内炁，以右手持鼻。除目昏、泪若出，去鼻中息肉，耳聋亦除。伤寒头痛洗洗，皆当以汗出为度。

五、正偃卧，以口徐出气，以鼻内之，除里急。饱食后小咽，咽气数十令温。若气寒者，使人乾呕腹痛，从鼻内气七十

咽，即大填腹内。

六、右胁侧卧，以鼻内气，以口小吐气数十，两手相摩热以摩腹，令其气下出之，除胁皮肤痛。七息止。

七、端坐，生腰，直上展两臂，仰两手掌，以鼻内气，闭之自极，七息，名曰蜀王台。除胁下积聚。

八、覆卧，去枕，立两足，以鼻内气四四所，复以鼻出之，极，令微气入鼻中，勿令鼻知。除身中热背痛。

九、端坐，生腰，举左手，仰其掌，却右手，除两臂背痛结气。

十、端坐，两手相叉，抱膝，闭气，鼓腹二七或三七，气满即吐，候气皆通畅，行之十年，老有少容。

十一、端坐，生腰，左右倾侧，闭目，以鼻内气，除头风，自极，七息止。

十二、若腹中满，饮食饱，坐，生腰，以鼻内气数十，以便为故，不便复为之，有寒气，腹中不安，亦行之。

十三、端坐，使两手如张弓满射。可治四肢烦闷、背急，每日或时为之佳。

十四、端坐，生腰，举右手，仰掌，以左手承左胁，以鼻内气，自极，七息。除胃寒食不变，则愈。

十五、端坐，生腰，举左手，仰掌，以右手承右胁，以鼻内气，自极，七息。除瘀血、结气等。

十六、两手却据，仰头，自以鼻内气，因而咽之数十。除热、身中伤死肌肉等。

十七、正偃卧，端展足臂，以鼻内气，自极，七息，摇足三十而止，除胸足中寒、周身痹、厥逆、嗽。

十八、偃卧，屈膝，令两膝头内向相对，手翻两足，生腰，以鼻内气，自极七息，除痹疼、热痛、两襠不随。

十九、觉身体昏沈不通畅，即导引。两手抱头，宛转上下，名为开胁。

二十、踞伸右脚，两手抱左膝头，生腰，以鼻内气自极，七息。除难屈伸拜起，襠中痛。一本云，除风目晦耳聋。

二十一、踞伸左足，两手抱右膝生腰，以鼻内气自极七息，展左足著外，除难屈伸拜起襠中疼。

二十二、正偃卧，直两足，两手捻胞所在，令赤如油囊里丹，除阴下湿，小便难颓，小腹重，不便。腹中热，但口出气，鼻内之，数十，不须小咽气。即腹中不热者，七息已，温气，咽之十所。

二十三、踞，两手抱两膝头，以鼻内气，自极，七息。除腰痹、背疼。

二十四、覆卧，傍视两踵，生腰，以鼻内气，自极，七息。除脚中弦痛、转筋、脚酸疼。

二十五段阙。

二十六、偃卧，展两襠两手两踵相向，亦鼻内气，自极，七息。除死肌不仁足襠寒。

二十七、偃卧，展两手，两襠、左膀（一本作停字）两足踵，以鼻内气，自极，七息。除胃中食若呕。

二十八、踞，生腰，以两手引两踵，以鼻内气，自极，七息，布两膝头，除痹，呕逆。

二十九、偃卧，展两脚，两手，仰足指，以鼻内气，自极，七息。除腹中弦急切痛。

三十、偃卧，左足踵拘右足拇指，以鼻内气，自极，七息。除厥疾。人脚错踵，不拘拇指，依文用之。

三十一、偃卧，以右足踵拘左足拇指，以鼻内气，自极，七息。除周身痹。

三十二、病在左，端坐，生腰，右视目，以鼻徐内气，极而吐之，数十一止，所闭目，目上入。

三十三、病在心下若积聚，端坐，生腰，向日仰头，徐以鼻内气，因而咽之，三十所而止，开目作。

三十四、病在右，端坐，生腰，右视目，以鼻徐内气而咽之，数十止。

### 导引杂说

《文选·江赋》云：喻翠霞。此谓导引服气，稍与枕中相类，俱用之。两手相捉，细掇，如洗手法。两手相叉，翻覆向胸前，如挽三石弓力，左右同。两手相重，共按脾，徐徐掇身，以返捶背上十度，作拳向后筑十度，大坐偏倚，如排山，如托千斤石，上下数度。两手抱头，宛转褰上。两手据地，缩身曲脊三度。两手相叉，以脚踏中立地，反拗三举，起立，以脚前后踏空，大坐，伸脚，以手勾脚指。

右导引之法，深能益人延年，与调气相须，令血脉通，除百病，宜好将息，勿令至大汗，能通伏气，行之甚佳。

又导引法在枕中卷，与此导引消息，并宜相参作之，大佳。

诸服气要法并忌触杂录，如能服之，便成真人。忌阴寒雨雾热等邪气，不可辄服也。危执闭破除此等日，亦不可服。

凡日午已后，夜半已前，名为死气，不可服也。唯酉时气可服，为日近明净，不为死气，加可服耳。

凡服气，取子午卯酉时服是也。如冬月子时，气不可服也，为寒；如夏月午时，气不可服，为热。仍须以意消息，大略若

是。如腹中大冷，取近日气及日午气是。如腹中大热，服夜半气及平旦气。如冬寒，即于一小净室中生炭火暖之，服即腹中和，如夏极热时，取月中气服，即凉大冷。

每欲服气，常取体中安隐，消息得所。如安隐时，不住消息耳。消息住，先舒手展足，按捺支节，举脚跟向上，左右展足，长出气三两度，心念病处，随气出，病遂尽矣。如服气之时胸中闷，微微细吐之，闷定则掩口，勿尽，尽则复吸入，凡服气，入及出吐，皆须微微，吹绵不动，是其常候也。如入气太急，勿令自耳闻，则惊五神，招其损也。如出气太急，令自耳闻，亦然。如后腹内热及时节热，出入气太急，转转增热则盛也。如服冷及时寒，出入太急，令自耳闻，亦增冷甚也。

初入气之时，善将息，以饱为度。若饱后，即左右拓，更开托，左右捩及蹴空各三度，然后咳嗽耳。拔发，摩面，转腰，令四肢节、皮肉、骨髓、头面贯彻，腹中即空。如前服之取饱，更不须动作耳，自然安泰也。

### 神炁养形说

混元既分，天地得位。人与万物，各分一气而成形。动者禀乎天，静者法乎地。天地之间，最灵者人。能养人之形者，唯气与神。神者，妙万物而为言；气者，借冲虚以为用。至人之言，莫先乎气；至人之用，莫妙乎神。我先生得至人之道，见生死之机，常味于无味，用于无用，为于无为，事于无事。知神气可以留形，故守虚无以养神气；知窈冥可以致信，故入窈冥而观至精。则天地之间，其犹橐籥乎！至人之不死，其犹

谷神乎！先生曰：虚无之中，有物谓之神，窈冥之中，有物谓之气。气者，结虚无以成妙。故大洞真人曰：三月内视，注心一神，则灵光化生，缠绵五脏，其理明矣！且气者，神之母；神者，气之子。欲致其子，先修其母。若神不受味于气，则气无以通灵。子不求食于母，则母无以致和。《道经》曰：“既得其母，以知其子；既知其子，复守其母。”《东华玉书》云：“母繁子长，流心安宁。”此皆谓修真之要言也。加以耳目者，神之户。《道经》曰：“专气致柔，能如婴儿乎？”《黄庭经》曰：“仙人道士非有神，积精所致和专仁。”正谓此也。后来学者，或纳四时五芽之气，或服引七宿二景之精，握固以象胎形，闭气以为胎息，殊乖真人之妙旨，盖是古来之末事。如此之徒，浊乱元气，尤损于形神。夫至人以心游于恬淡，饮漱于玄泉，胎息于无味，则神光内照，五气生灵，自然有紫烟上浮，玉彩交映。敬传先生之旨，化白为朱，积精成形，口衔灵芝，降于形中，是谓真仙之术，守中抱一，抱一勿失，与天地齐毕矣。

### 将摄保命篇

夫人禀二仪之气，成四大之形，愚智贵贱则别，好养贪生不异。贫迫者，力微而不达；富贵者，侮傲而难持；性愚者，未悟于全生；识智者，或先于名利；自非至真之士，何能保养生之理哉！其有轻薄之伦，亦有矫情营俗，口诵其事，行已违之。设能行者，不喻晦朔，即希长寿，此亦难矣。是以达人知富贵之骄傲，故屈迹而下人；知名利之败身，故割情而去欲；

知酒色之伤命，故量事而撙节；知喜怒之损性，故豁情以宽心；知思虑之销神，故损情而内守；知语烦之侵气，故闭口而忘言；知哀乐之损寿，故抑之而不有；知情欲之窃命，故忍之而不为。若加之寒温适时，起居有节，滋味无爽，调息有方，积气补于泥丸，魂魄守藏，和神保气，吐故纳新，嗜欲无以干其心，邪淫不能惑其性，此则持身之上品，安有不延年者哉！



## 卷三十五 杂修摄部四

### 明补

凡质气碍，皆是妄想而所为，并由想效也。想成即变化无常，舍想则庶事空寂。以其取炼力，毛孔开流，所以须随而补之。其补之法，还舒脚手而卧息，想项上有酥园，融流注心，周遍四肢；又想身卧酥乳池中，心以澡沐，久为令人皮肤光泽。既取气炼补讫，欲起出行，体上有汗，当须少米粉摩，令汗解燥，然后始得见风日，不然伤人。凡数章，是一时间所作法耳，恐后难晓，是以依序别勒成章焉。

### 禁忌

夫盐能益肾，欲能伤肺，故须忌之。嗜之取味，欲令人衰，故须禁之。夫因欲以生，因欲以死，譬于桃蹊李迳，紫带红葩，遇风而开，遇风而落。但人以身为国也，神为君也，精为臣也，气为民也。当须众戴元后，本固邦宁，君臣康强，所以治也。夫气化为精，精化为神，神化为婴儿，故男女构精，所以化生

人形。若能蓄精，便得自育。夫育精为血脉之泉源，骨髓之灵冲，五脏伤而筋骨枯，即魂魄不守矣，特宜慎焉。犹恐欲性炽隆，陶染难割，虽自强抑，尚恐梦交，当须修习静观，以防遏之，是谓不死之道，还精补脑，延龄能益，名上仙籍，王母内传，若能终竟不唾泪者，亦可含一枣，啜咽津液也。

### 方便

凡人之心，或迷不悟，故须方便，示以理矣。假令童子既获妙术，乃趋而出，遇搏公子，因而问之曰：子免于八难乎？何以学道？对曰：何谓八难？曰：不废道心，一难；不就明师，二难；不托闲居，三难；不舍世务，四难；不割恩爱，五难；不弃利欲，六难；不除喜怒，七难；不断色欲，八难。童子曰：仆无此累矣！公子曰：凡人所患，皆多以气为主。或有背气、脚气、疰癖等，皆以气为根。今子乃咽气于腹中，能不为病乎？童子曰：鄙哉，言乎！良可哀耳。夫气起于太极，超乎万象之外，应清明以出入，伫神机以卷舒，澄浅碧于高天，淡轻红于落日。不干云雨，不犯尘埃，沉清汉而净漪澜，度危弦而蓄哀韵。呼吸玄牝之门，澡雪希夷之域，载营魄，修谷神，去三尸，消百病者，此乃清冷调和有道之气，故能生成灵命焉。至如起于空隙之间，因于燥湿之处，随腥臊之秽馊，逐徭役之奔喘，伺宴息之失序，俟剂和之乖宜，结澳；忍而不敬，积勃郁而遂留，时结蓄于胸鬲，或烦疼于骨髓，久而不消，将倾大渐，所谓垢浊沉溺之死气也。

公子曰：夫人身匪瓠瓜，焉能不食？是身即病，未或可除。

故知食为养身之资，身乃有病之聚。今子乃去食养身，留身除病，岂不惑哉？童子笑而应之曰：善哉！或但疑者，常抱此疑；不疑者，因兹而得也。故天地因乎而生，天地灭而非灭，其疑者，迷而不悟也，但不知耳。又不闻乎，甘肥者，贪欲之本，即为得病之源也。调气澄心，离二入道者，斯仙之常也。真教不二，但至仁齐物，理合捐躯，非谓贤圣系之名实。夫百篇之义，一乘之典，或务理国之伦，或究虚寂之相，诂返入流之始，岂暇汾水之游哉！避于哉？公子既闻此言已，童子冷然乘风而去，莫知所之也。

### 化身坐忘法

每夜人定后，偃卧闭目；然后安神定魄忘想，长出气三两度，仍须左右捩之，便起拗腰如前法，摄心入脐下，作影人，长三四寸；然后遣影人分身百亿，耸头而出屋，钻房而上，上至天，满法界皆是我身，便相中明，即自见之；既见之，便令影人入脐下，便大饱。其化身到来，亦战身动，大况似行气法。仍须正念，凝情于身，但用心无不动也。故老君曰：道以心得之。

### 胎息法

老君曰：人之不死，在于胎息矣。夜半时，日中前，自舒

展脚，手拗脚，咳嗽，长出气三两度，即坐握固，摄心脐下，作影人，长三二寸，以鼻长吸引，来入口中，即闭，闭定勿咽之，亦勿令出口。即于脐下合气作小点子，下之米大。如下数已尽，却还吸引如前。初可数得三二十点子，渐可数百及二百，后五百，若能至数放千点子，此小胎息长生却老之术。

### 影人

分身作影人，长三四寸许。立影人鼻上，令影人取天边元空太和之气，从天而下，穿屋及头，直入四肢百脉，无处不彻。其气到来，觉身战动，每一度为一通，须臾即数十通，便大饱矣。人有大病，作之十日，万病俱差。当下气之时，作念之：我身本空，我神本通。心既无碍，万物以无障碍。何以故？得神通故。凡一切作法，一种即须下之。吐气法，皆须作蛇喙，莫动上颌。其吸气之时，微叩齿令热。

### 服紫霄法

坐忘握固，游神耸头而出，钻屋直上，到彼天边，引紫霄而来，直下穿屋，而从头上入内于腹中，常含紫气，随神而来，向作解心：我本未悟之时，不知道体，今既觉悟，法本由来，不从他得。我知今来得自在者，更无别法，直作定心，心决定故。即得作意，见此气众多而来，并聚稠密，如赤云拯神上

天。但作解脱，直以心往天上取亦得，即下方万物皆空，屋亦空，人性与道同，此神通久视也。

### 至言总养生篇

老君《西升经》曰：伪道养形，真道养神。通此道者，能亡能存。神能飞形，并能移山，形为灰土，其何识焉？又曰：凡人之哀人不如哀身，哀身不如爱神，爱神不如含神，含神不如守身，守身长久长存也。故神生于形，形成于神。形不得神，不能自生；神不得形，不能自成；形神合同，更相生，更相成。神常爱人，人不爱神。故绝圣弃智，归无为也。

《杂书·宝予命》曰：古人治病之方，和以醴泉，润以气药，不辛不苦，甘甜多味。常能服之，津流五藏，系在心肺，终身无患。

《大有经》曰：或疑者云，始同起于无物，终受气于阴阳，载形魂于天地，资生长于食息，而有愚有智，有强有弱，有寿有夭，天耶？解耶？解者曰：形生愚智，天也；强弱寿夭，人也。天道自然，人道自己。始而胎气充实，生而乳哺有馀，长而滋味不足，壮而声色有节者，强而寿；始而胎气虚耗，生而乳哺不足，长而滋味有馀，壮而声色自放者，弱而夭。行长而合度，加之以道养，年未可量也。

颍川胡昭，字孔明，曰：常人不得无欲，又复不得无事，但当和心约念，静身损物，先去乱神犯性者，此啬神之一术耳。

《黄帝中经》曰：夫禀五常之气，有静有躁，刚柔之性，不可易也。静者不可令躁，躁者不可令静。静者躁者，各有其

性，违之则失其分，恣之则害其生。故静之弊在不开通，躁之弊在不精密。治生之道，慎其性分。因使抑引随宜，损益以渐，则各得适矣。然静者寿，躁者夭，静而不能养，减寿；躁而能养，延年。然静易御，躁难持，尽慎养之宜者，静亦可养，躁宜可养也。

凡贵权势者，虽不中邪，精神内伤，身必死亡（非妖祸外至，直冰炭内结，则伤崩中呕血而已）。始富后贫，虽不伤邪，皮焦筋出，委辟内挛为病（贫富之于人，利害犹轻于权势，故疾病止于形骸而已矣。）夫养性者，欲使习以成性，性自为善，不习而无不和也。性既自善，而外百病皆悉不生，祸乱不作，此养性之大经也。善养性者，则治未病之病。故养性者，不但饵药饘霞，其在于五常俱全，百行周备，虽绝药饵，足以遐年。德行不充，纵玉酒金丹，未能延寿。故老君曰：陆行不避虎兕者，此则道德之佑也，岂假服饵而祈遐年哉！圣人所以和药者，以救无知之人也。故不遇道者，抱病历年而不修一行，缠痼没齿终无悔心。此其所以岐和长游，彭附永归，良有以也。

嵇康曰：养生有五难：名利不去为一难，喜怒不除为二难，声色不去为三难，滋味不绝为四难，神虑精散为五难。五者不去，虽心希难老，口诵至言，咀嚼英华，呼吸太阳，不能回其操，不免夭其年。五者无于胸中，则信顺日济，道德日全，不祈喜而有神，不求寿而延年，此亦养生之大经也。然或服膺仁义，无甚泰之累者，抑亦亚乎！

岐伯曰：人年四十而养，阴气自半也，起居衰矣。年五十体重，耳目不聪明。年六十阴痿，气大衰，九窍不利，下虚上实，涕泣俱出。故曰：知之则强，不知之则老。又曰：同出而异名。智者察其同，愚者察其愚。愚者不足，智者有馀，则耳目聪明，身体轻强，年老复壮，壮者益理。是以圣人为无为，

事无事，乐恬淡，无纵欲快志，得虚无之守，故寿命无穷，与天地终。此圣人之理身也。

真人曰：虽当服饵而不知养性之术，亦难以长生也。养性之道，不欲饱食便卧，及终日久坐，皆损寿也。人欲少劳，但莫大疲，及强所不堪耳。人食毕行步，踣蹰有所循为快也。故流水不腐，户枢不蠹，其劳动故也。人不可夜食，食毕但当行步，计使十数里往来，饱食即卧，生百病也。

夫欲快意任怀，自谓达识知命，不泥异正，极情肆力，不营待久者，闻此言虽风之过耳，电之经目，不足喻也。故身枯于流连之中，气绝于绮紈之间而甘心焉，亦安可告之以养性哉！匪惟不纳，反谓妖讹也。而望彼信之，所谓明镜给于矇瞽，丝竹娱于聋夫者也。

《抱朴子》曰：一人之身，一国之象也。胸腹之位，犹宫室也；四肢之列，犹郊境也；骨节之分，犹百官也；神，犹君也；血，犹臣也；气，犹民也。故能治民，则治国也。夫爱其民；所以安其国；爱其气；所以全其身。民散国亡，气竭人死。死者不可生也，亡者不可存也。是以至人消未起之患，治未病之病，医之于无事之前，不追之于既逝之后。民难养而易危，气难清而易浊，故审威德所以保社稷，割嗜欲所以固血气，然后真一存焉，三七守焉，百害即焉，年寿延焉。人年五十至于一百，美药勿离手，善言勿离口，乱想勿轻心。常以深心至诚，恭敬于物。慎勿诈善，以悦于人。

### 禁忌篇

玉珉山人《养生方论》云：病由口入，节宣方也；生劳败静，养道性也；酸咸以时，礼医具也；补泻以性，草经明也。性调乎食，命延乎药，断可知也。搃蓼害筋，蒜韭伤血，生葷损气，葱臊炙神，理生之炯戒也。白蒿芩（音下），苗（地黄苗也），恶实牛蒡，苜蓿四物，济身之要也。退与不退，寡之于思虑；进与不迫，在康之常志。凡一切五辛皆害于药力，又薰人神气。凡桃李芸苔蒜韭等，不宜丈夫，妇人亦宜少食渐断。

凡人年四十已下，不宜全食补丸散，为阴气尚未足，阳气尚盛之后也，特宜慎之，就补中有延缓和通者可矣。酉后不饮食，若冬月夜长及性热，少食温软物，食讫，摇动令消，不尔成脚气。入春不宜晚脱绵衣，令人伤寒霍乱，饮食不消，头痛。冲热汗出，不宜洗身漱口，令人五藏乾，少津液。卧不用著灯及被覆面，掄不用开口。冬夏不用枕冷物铁石等，令人眼暗。

《抱朴子》曰：或问所谓伤之者，色欲之间乎？答曰：亦可独斯哉？然长生之要，其在房中。上士知之，可以延年除病；其次不以自伐。若年尚少壮，而知还阴丹以补脑，采七益于长谷者，不能服药物，不失一二百岁，但不得仙耳。不知其术者，古人方之于凌坏之拒盛阳，羽堂之中畜火者也。又思所以不逮而强思之，伤也；力所以不胜而强举之，伤也；深忧重患，伤也；悲哀焦悴，伤也；喜乐过差，伤也；汲汲所欲，伤也；戚戚所患，伤也；久谈言笑，伤也；寢息失时，伤也；挽强弓弩，伤也；沉醉呕吐，伤也；饱食即卧，伤也；跳走乏气，伤也；欢呼哭泣，伤也；阴阳不交，伤也；积伤至尽，尽亡非道也。是以养性之方，睡不至远，行不疾步，耳不极听，目不极视，坐不至疲，卧不至懽（懽居致切，强也，直也）。先寒而衣，先热而解，不欲极饥而食，不欲极渴而饮。食不过多，凡食过多，即结积聚，饮过多则成痰癖。不欲甚劳，不欲甚逸，



不欲甚流汗，不欲多睡，不欲奔车走马，不欲极目远望，不欲多啖生冷，不欲饮酒当风卧，不欲数沐浴，不欲广志远求，不欲规造异巧，冬不欲极温，夏不欲极凉，不欲露星下，不欲卧中见肩。大寒、大热、大风、大露，皆不欲冒之。五味不欲偏多，故酸多则伤脾，苦多则伤肺，辛多即伤肝，咸多则伤心，甜多则伤肾，此五行自然之理。凡言伤者，亦不便觉，谓久则损寿耳。是以善摄生者，卧起有四时之早晚，兴居而有至和之常制，筋骨有偃仰之方，闲邪有吞吐之术，流行营卫有补泻之法，节宣劳逸有与夺之要。忍怒以养阴气，抑喜以养阳气。然后先将草木以救亏缺，服金丹以定不穷，养性之道，尽于此矣。

黄帝曰：一日之忌，夜莫饱食；一月之忌，暮莫大醉；一岁之忌，暮莫远行；终身之忌，卧莫燃烛；行房勿得起恨于人，当以自怨仇也。一切温食及酒浆，临上看不见物形者，勿食，成卒病。若已食腹胀者，急以药下之。诸热食咸物竟，不得饮冷水、酢浆水等，令人善失声也。

凡人不得北首而卧，卧之勿留灯，令魂魄六神不安，多愁恐。亦不可北向吃食，北向尿，北向久坐思惟，不祥起。勿北向唾骂，犯魁罔神。勿北向冠带，勿怒目视日月光，令人失明。

凡大汗勿脱衣，得偏风半身不遂。

冬日温足冻脑，春秋足脑俱冻，此圣人之常道。旦起勿嗔恚，旦下床勿叱呼，勿恶言，勿举足向火对灶骂，勿咨嗟呼奈何声，此名请祸，特忌之。勿竖膝坐而交臂膝上，勿令发覆面，皆不祥。清旦作善事，闻恶事即于所来方唾之，吉。恶梦，旦不用说，以含水向东方嚥之，云：“恶梦著草水，好梦成宝玉。”即无咎矣。

凡上床先脱左足履，或远行乘车马，不用回顾，顾则神去人。凡一切翺飞蠢动，不可故杀伤损。至于龟、蛇，此二物有

灵，异于他族，或杀他有灵者，或阴精害人，深宜慎之。勿阴雾中远行。

凡行来坐卧，常存北斗魁同星在人头上，所向皆吉。勿食父母兄弟及自本命肉等，令人魂魄飞扬，家出不孝悌子置。

凡旦起著衣，误翻著者，云吉利。便著无苦也。衣有光当三振之，云：殃去，殃去！则无害。勿塞井及水沟渎，令人目盲。向午后阴气起，不可沐发，令人心虚饶汗，多梦及头风也。

## 卷三十六 杂修摄部五

### 玄鉴导引法

《抱朴子》曰：道以为流水不腐、户枢不蠹，以其劳动故也。若夫绝坑停水，则秽臭滋积；委木在野，则虫蝎太半。真人远取之于物，近取之于身。故上天行健而无穷，七曜运动而能久。小人习劳而湛若，君子优游而易伤。马不行而脚直，车不驾而自朽。导引之道，务于详和，俛仰安徐，屈伸有节。导引秘经，千有馀条。或以逆却未生之众病，或以攻治已结之笃疾。行之有效，非空言也。今以易见之事，若令食而即卧，或有不消之疾，其剧者发寒热症坚矣。饱满之后，以之行步，小小作务，役摇肢体，及令人按摩，然后以卧，即无斯患。古语有“三疾”之言，暮食太饱，居其一焉。暮食既饱，便以寝息，希不生疾，故无寿也。诸风痼疾，鲜不在卧中得之。卧则百节不动，故受邪炁，此皆病然可见。近魏华佗以五禽之戏教樊阿，以代导引，食毕行之，汗出而已，消谷除病。阿行之，寿百馀岁。但不知馀术，故不得大延年。一则以调营卫，二则以消谷水，三则排却风邪，四则以长进血炁。故老君曰：天地之间，其犹橐籥乎？虚而不屈，动而愈出。言人导引摇动，而人之精神益盛也。导引于外，而病愈于内，亦如针艾攻其荣俞之源，

而众患自除于流末也。导引一十三条如后：

第一、治短炁。结跏趺坐，两手相叉，置玉枕上，以掌向头，以额著地，五息止。

第二、治大肠中恶气。左手按右手指，五息；右手按左手指，亦如之。

第三、治肠中水癖。以左手指向天，五息；以右手指拄地，左足伸，右足展，极伸，五息止。

第四、治小肠中恶气炁。先以左手叉腰，右手指指天极，五息止；右手亦如之。

第五、治腰脊间闷。结跏趺坐，以掌相按置左膝上，低头至颊右，五息。外左回左膝上，还右膝而转，至五匝止。右亦如之，谓之腰柱。

第六、治肩中恶炁。以两手相叉，拊左胁，举右手肘，从乳至头，向右转，振摘之，从右抽上，右振五过止。

第七、治头恶炁。反手置玉枕上，左右摇之，极，五息止。

第八、治腰脊病。两手叉腰，左右摇肩，至极，五息止。

第九、治胸中。以两手叉腰，左右曲身，极，五息止。

第十、治肩中劳疾。两手相叉，左右擗之，低头至膝，极，五息止。

第十一、治皮肤烦。以左右手上振两肩，极，五息止。

第十二、治肩脾恶注。左右如挽弓，各五息止。

第十三、治膊中注炁冷痺。起立，一足踢高，一足稍下，向前后掣之，更为之各二七。无病亦常为之，万疾不生。

### 按摩法

按摩日三遍，一月后百病并除，行及奔马，此是养身之法。两手相捉纽索，如洗手法。两手浅相叉，翻覆向胸。两手相叉，共按襞（左右同）。两手相重按襞，徐徐捩身，如挽五石弓（左右同）。两手拳，向前筑（左右同）。又如拓石（左右皆同）。以拳却顿，此是开胸法（左右同）。大坐，斜身，偏拓如排山（左右同）。两手抱头宛转襞上。此是抽脑法。两手据地，缩身曲脊，向上三举，以手杖槌脊上（左右同）。大坐伸脚三，用手掣向后（左右同），立地反拗三举，两手拒地回顾，此乃虎视法（左右同）。两手急相叉，以脚踏地（左右同）。起立，以脚前后踏（左右同）。大坐，伸脚，当手相勾，所伸脚著膝上，以手按之（左右同）。凡一十八势。但老人日能行之三遍者，常补益延年续命，百病皆除，进食，眼明，轻健，不复疲也。

### 食气法

养生之家，有食炁之道。夫根植华长之类，蛟行蠕动之属，莫不仰炁以然。何为能使人饱乎？但食之有法，道家秘之，须其人乃传，俗人无缘得之知。苟得其道，所甚易也。非唯绝谷，抑亦辟百毒，却千邪，百姓日用而不知。《仙经》云：食炁法，

从夜半至日中六时为生炁，从日中至夜半六时为死气，唯食生而吐死，所谓真人服六炁也。

### 食气绝谷法

向六旬六戊，从九九至八八、七七、六六、五五而饱，或念天苍，或思黄帝，或春引岁星之炁，以肝受之（其余四方皆然）。初为之，颇有小瘦，行四旬已上，颜色转悦，体力渐壮，白发更黑，落齿更生，负重履嶮，胜于食谷时。余见十余人，为之皆七八十岁，丁健体轻而耐寒暑，有真验，非虚传也。善其术者，可以攻遣百病，消逐邪风。及中恶卒急，尸注所忤，心腹切痛，瘟虐溪毒，引炁驱之，不过五六十通，无不即除。又行炁久多而断谷最易，唯有胎息之法独难。所谓胎息者，如人未生在胎之中时，炁久息也。习则能息鼻口炁，如已息鼻口炁，则可居水底积日矣。

又治金疮，以炁吹之，血断痛止。

又蛇虺毒虫中人，皆禁之即愈。或十数里便遥治之，呼其姓名而咒之，男呼我左，女呼我右，皆愈。此所共知。

孙先生曰：旦夕者，是阴阳转换之时。日旦五更初，阳炁阴至，频伸眼开，是上生炁，名曰阳息而阴消；暮日入后，阴炁至，凜然，时坐睡倒时，是下生炁至，名曰阳消阴息。暮日入后，天地、日月，山川、江海，人畜、草木，一切万物，体中代谢往来，一时休息，一进一退，如昼夜之更始，又如海水之朝夕，是天地之道耳。面向午，展两手于膝上，徐按捺肢节，口吐浊气，鼻引清气。凡吐者，去故炁，引生炁也。

《经》云：玄牝门，天地根，绵绵若存，用之不勤。言鼻是天之门户，可以出纳阴阳生死之炁也。良久，徐徐乃以手左拓右拓，上拓下拓，前拓后拓，瞋目张口，叩齿摩眼，抱头拔耳，挽须挽腰，咳嗽发阳振动也。双作只作，反手为之，然掣足仰展八十九十而止，仰下徐徐定心，作止息之法，见空中元和炁，下入鸠尾际，渐渐顷如雨，晴云入山，自皮肉至骨至脑，渐渐入腹中，四肢、五脏皆受其润，如流水渗入地，地彻即觉达于涌泉。腹中有声、汨汨然、意每存之，不得外缘，即便觉无炁若彻，即手体振动，两脚膝帘屈，亦令床有声拉拉然，则名一通两通，乃至日别得三通，觉身体悦怿，肤色滋润，耳目精明，令人养美力健，百病皆去。行之五年、十年，长存不忘，得满千万通，去仙不远也。

摄生月令 朝请大夫捡校太子左赞善大夫上柱国

姚称集

夫摄生大体，略有三条：所为吐纳练藏，胎津驻容；其次饵芝术，飞伏丹英；其三次五谷资众味。终古不易者，生生性命，必系于兹也。气之与药，具撰别卷。今所撰集，用食延生，顺时省味者也。

按《扁鹊论》曰：食能排邪而安藏腑，神能爽志以资血气。摄生者气正则味顺，味顺则神气清，神气清则合真之灵全，灵全则五邪百病不能干也。故曰水浊鱼瘦，气昏人病。夫神者，生之本；本者，生之真。大用则神劳，大劳则形疲也。

按彭祖《摄生论》曰：目不视不正之色，耳不听不正之声，

口不尝毒粝之味，心不起欺诈之谋，此之数种，乃亡魂丧精，减折筹寿者也。”

按《枕中传》曰：五味者，五行之气也，应感而成，人即因五味而生，亦因五味而消。

按《黄帝内传》曰：食风者灵而延寿，食谷者多智而劳神，食草者愚痴而足力，食肉者鄙勇而多嗔，服气者长存而得道。

《孙氏传》曰：五味顺之则相生，逆之则相反。夫人食，慎勿愠怒，勿临食上说不祥之事，勿吞咽忽逐，必须调理安详而后食。

《黄帝内传》曰：春宜食甘，甘走肉，多食甘则痰溢，皮肤粟起。夏宜食辛，辛走气，多食辛则气躁好踰。秋宜食酸，酸走骨，多食酸则筋缩、骨中疼。冬宜食咸，咸走血，多食咸则血涩、口乾。多食苦则呕逆而齿疏。

《养生传》曰：凡人虽常服饵，不知养生之道，必不全其真也。

《小有经》曰：才所不胜而强思之，伤也；力所不任而强举之，伤也；深忧重喜，皆有伤也。

《抱朴子》曰：一人之身，一国之象；胸腹之位，犹宫室也；四肢之列，犹郊境也；骨节之分，犹百官也；神犹君也，血犹民也。

《养生传》曰：一日之忌，暮勿饱食；一月之忌，暮勿大醉；一岁之忌，慎勿远行；永久之忌，勿向西、北二方大小便，露赤也。

孟春 泰（斗建寅，日在虚，律中太簇，五将东方，月德丙，月合辛，生气子，天利卯，五富亥，月杀丑，月厌戌，九空辰，死气午归忌丑，往亡寅，大败甲寅，血忌丑）

孟春，是月也，天地俱生，谓之发阳，天地资始，万物化



生。夜卧早起，以缓其形，使志生，生而勿杀，予而勿夺，君子固密，无泄真气。其藏肝木，位在东方。其星岁，正月、二月、三月，其卦震，其地青州，其书《诗》，其乐瑟，其帝灵威仰，其神勾芒，青龙为九天，白虎为九地，其虫鱼，其畜犬，其谷麦，其果梅，其菜韭，其味酸，其臭腥，其色青，其声怒，其液泣。立春木相，春分木王，立夏木休，夏至木废，立秋木囚，秋分木死，立冬木没，冬至水胎。

仲春 大壮（斗建卯，日在室，律中夹钟，五将北方，月德甲，月合己，生气丑，天利辰，五富寅，月杀戊，月厌酉，九空丑，死气未，归忌寅，往亡己，大败甲午，血忌未）

仲春，是月也，号厌于，日和其志，平其心，勿极寒，勿极热，安静神气，以法生成。勿食黄花菜及陈蒻，发宿疾，动痼气。勿食大蒜，令人气壅，关隔不通。勿食蓼子及鸡子，滞人气。勿食小蒜，伤人志性。勿食兔肉，令人神魂不安。勿食狐猪肉，伤人神。是月肾藏气微，肝藏正王，宜净膈去痰，宜泄皮肤，令得微汗，以散去冬温伏之气。是月六日、八日，宜沐浴斋戒，天佑其福。十四日忌远行，水陆亦不可往。九日忌食一切鱼鳖。二十日宜修真道。

季春 夬（斗建辰，日在娄，律中姑洗，五将西方，月德壬，月合丁，生气寅，天利己，五富亥，月杀未，月厌申，九空戌，归忌子，往亡申，大败甲戌，斗阳，血忌寅）

季春，是月也，万物发陈，天地俱生，阳炽阴伏。卧起俱早，勿发泄大汗，以养藏气。勿食（++韭），发痼疾，损神伤气。勿食马肉，令人神魂不安。勿食獐鹿肉等，损气损志。是月肝藏气伏，心当向王，宜益肝补肾，以顺其时。是月五日，忌见一切生血物，宜斋戒静念真籍，不营俗务。十六日忌远行，水陆俱不可往。二十七日宜沐浴。是月火相水死，勿犯西北风。

勿久处湿地，必招邪毒。勿大汗当风，勿露体星宿下，以招不祥之事。

孟夏 乾（斗建巳，日在昴，律中仲吕，五将南方，月德庚，月合乙，生气卯，天利午，五富申，月杀辰，月厌未，九空未，死气酉，归忌丑，往亡亥，大败丁巳，斗阳，血忌申）

孟夏，谓之播秀，天地始交，万物并实。夜卧早起，思无怒，勿泄大汗。夏者，火也。位在南方，其藏心，其星荧惑，时四月、五月、六月。其六月属土，大王于此月，其地杨州，其书《礼》，其乐竽，其帝赤 票弩，其神祝融。朱雀为九天，玄武为九地。其虫凤，其畜羊，其谷麻，其果杏，其菜薤，其味苦，其臭焦，其色赤，其声呼，其液汗。立夏火王，夏至火相，立秋火休，秋分火废，立冬火囚，冬至火死，立春火没，春分火胎。

仲夏 遯（斗建午，日在参，律中蕤宾，五将东方，月德丙，月合辛，生气辰，天利未，五富亥，月杀丑，月厌午，九空卯，死气戌，归忌寅，往亡卯，大败丁酉，血忌卯，斗阳

仲夏，是月也，万物以成，天地化生。勿以极热，勿大汗当风，勿曝露星宿，皆成恶疾。勿食鸡肉，生痈疽、漏疮。勿食蛇蟾等肉，食则令人折算寿，神气不安。慎勿杀生。是月肝脏以病，神气不行，火气渐壮，水力衰弱，宜补肾助肺，调理胃气，以助其时。是月八日，忌远行涉，水陆并不可往，宜安心静虑，沐浴斋戒，必得福庆之事。是月切忌西北不时之风，此是邪气，犯之令人四肢不通，致百关无力。

季夏 遁（斗建未，日在东井，律中林钟，五将北方，月德甲，月合巳，生气巳，天利申，五富寅，月杀戌，月厌巳，九空子，死气亥，归忌子，往亡午，大败丁丑，血忌酉）

季夏，是月也，法土重浊，主养四时，万物生荣。增咸减

甘，以资肾藏。勿食羊血，损人神魂，少志健忘。勿食生葵，必成水癖。是月肾藏气微，脾脏独王，宜减肥浓之物，宜助肾气，益固筋骨，切慎贼邪之气。六日沐浴斋戒，绝其营俗。二十四日忌远行，水陆俱不可往。是月不宜起土功，威令不行，宜避温气。勿以沐浴后当风。勿专用冷水浸手足，慎东来邪风，犯之令人手瘫痪，体重气短，四肢无力。

孟秋 否（斗建申，日在张，律中夷则，五将北方，月德壬，月合丁，生气午，天利酉，五富己，月杀未，月厌辰，九空酉，死气子。归忌丑，往亡酉，大败庚申，血忌辰）

孟秋，谓之审，天地之气以急正气，早起早卧，与鸡俱兴，使志安宁，以缓形，收敛神气。秋者，金也。位在西方，其星太白，时七月、八月、九月，其卦兑，其地蔡州，其书《春秋》，其乐磬，其帝少昊，其神蓐收，白虎为九天，青龙为九地，其虫虎，其畜鸡，其谷黍，其果桃，其菜葱，其味辛，其死膻，其色白，其声哭，其液唾。立秋金相，秋分金王，立冬金休，冬至金废，立春金囚，春分金死，立夏金没，夏至金胎。

仲秋 观（斗建酉，日在翼，律中南吕，五将南方，月德庚，月合乙，生气未，天利戌，五富己，月杀辰，月厌卯，九空酉，死气丑，归忌寅，往亡子，大败庚子，血忌戌）

仲秋，是月也，大利平肃，安宁志性，收敛神气，宜增酸减辛，以养肝气。无令极饱，令人壅。勿食生蜜，多作霍乱。勿食鸡肉，损人神气。勿食生果子，令人多疮。是月肝藏少气，肺藏独王，宜助肝气，补筋养脾胃。是月七日宜屏绝外虑，沐浴斋戒，吉。二十九日忌远行，水陆并不可往。起居以时，勿犯贼邪之风，勿增肥腥物，令人霍乱。其正毒之气，最不可犯。是月祈谢求福，以除宿褻。

季秋 剥（斗建戌，日在南斗，律中无射，五将东方，

月德丙，月合辛，生气申，天利亥，五富亥，月杀丑，月厌丑，九空寅，死气寅，归忌子，往亡辰，大败庚辰，斗阳，血忌巳）

季秋，是月也，草木凋落，众物伏蛰，气清，风暴为朗，无犯朗风，节约生冷，以防厉疾。勿食诸鼻，食之居痼疾。勿食小蒜，伤神损寿，魂魄不安。勿食蓼子，损人志气。勿以猪肝和饴同食，至冬成嗽病，经年不差。是月肝藏气微，肺金用事，宜减辛增酸，以益肝气，助筋补血，以及其时。勿食蝼蛄等肉，损人神气。勿食鸡肉，令人魂不安，魄惊散。十八日忌远行，不达其所。二十日宜斋戒，沐浴净念，必得吉事，天佑人福。

孟冬 坤（斗建亥，日在房，律中应钟，五将北方，月德甲，月合巳，生气酉，天利子，五富巳，月杀戌，月厌辰，九空亥，死气卯，归忌丑，往亡未，大败癸亥，斗阳，血忌亥）

孟冬，谓之闭藏，水冻地坼，早卧晚起，必候天晓，使至温畅，无泄大汗，勿犯冰冻，温养神气，无令邪烝外至。冬者，水也。位在北方，其星辰，其时十月、十一月、十二月，其卦坎，其地分冀州，其书《周易》，其乐箫，其帝叶光纪，其神玄冥，玄武为九天，朱雀为九地，其虫龟，其畜豕屯，其谷大豆，其果栗，其菜藿，其味咸，其臭腐，其色黑，其声沉，其液唾。立冬水相，冬至水王，立春水休，春分水废，立夏水囚，夏至水死，立秋水没，秋分水胎。

仲冬 复（斗建子，日在箕，律中黄钟，五将北方，月德丁，月合壬，生气戌，天利丑，五富巳，月杀申，月厌子，九空申，归忌寅，往亡戌，大败癸卯，血忌午）

仲冬，是月也，寒气方盛，勿伤冰冻，勿以炎火炙腹背，无食焙肉，宜减咸增苦，以助其神气。无发蛰藏，顺天之道。勿食獐肉，伤人神魂。勿食螺、蚌、蟹、鳖等物，损人志气，

长尸蛊。勿食经夏黍米中脯腊，食之成水癖疾。是月肾藏正王，心肺衰，宜助肺安神，补理脾胃，无乖其时。是月三日，宜斋戒净念，以全神志。二十日不宜远行，勿暴温暖，切慎东南贼邪之风，犯之令人多汗面肿，腰脊强痛，四肢不通。

季冬 临（斗建丑，日在南斗，律中大吕，五将南方，月德庚，月合乙，生气亥，天利寅，五富申，月杀辰，月厌巳，九空巳，死气巳，归忌子，往亡丑，大败癸未，血忌子）

季冬，是月也，天地闭塞，阳潜阴施，万物伏藏，去冻就温。勿泄皮肤大汗，以助胃气。勿甚温暖。勿犯大雪。勿食猪炖肉，伤人神气。勿食霜死之果菜，天人颜色。勿食生薤，增痰饮疾。勿食熊羆肉，伤人神魂。勿食生椒，伤人血脉。七日忌远行，水陆并不吉。一日宜沐浴。是月时藏气微，肾藏方王，可减咸增苦，以养其神。宜小宣，不欲全补。是月众阳俱息，水气独行。慎邪风，勿伤筋骨，勿妄针刺，以其血涩，津液不行。

## 卷三十七 斋戒部

### 斋戒叙

夫入靖修真，要资斋戒。检口慎过，其道渐阶。《南华真经》云：颜回问道于孔子。孔子曰：汝斋戒，吾将语汝。颜回曰：回居贫，唯不饮酒，不茹荤久矣。孔子曰：是祭祀之斋，非心斋也。汝一志，无以耳听，而以心听，无以心听，而以气听，疏瀹汝心志，澡雪汝精神，掊击汝智虑，我将语汝。夫道冥然，难言哉！将为汝试言其约略尔。《混元皇帝圣纪》云：按诸经斋法，略有三种。一者设供斋，以积德解愆。二者节食斋，可以和神保寿。斯谓祭祀之斋，中士所行也。三者心斋，谓疏瀹其心，除嗜欲也；澡雪精神，去秽累也；掊击其智，绝思虑也。夫无思无虑则专道，无嗜无欲则乐道，无秽无累则合道。既心无二想，故曰一志焉，盖上士所行也。夫斋者，齐也，齐整三业，乃为齐矣。若空守节食，既心识未齐。又唯存一志，则口无贪味。谓兹二法，表里相资。《大戒经》云：夷心静然，专想不二，过中不味，内外清虚是也。子虽薄闲节食，未解调心。故示斋法，令其受道，而末学之徒，孰能虚心一志哉！夫鄙乎祭祀之教，自谓得心斋之理，盖喷噉怠慢之夫矣。虽口谈空寂，无解其因，是自矜也。

### 洞玄灵宝六斋十直

道教五戒：一者不得杀生，二者不得嗜酒，三者不得口是心非，四者不得偷盗，五者不得淫色。十善：一念孝顺父母；二念忠事君师；三念慈心万物；四念忍性容非；五念谏诤蠲恶；六念损己救穷；七念放生养物、种诸果林；八念道边舍井种树立桥；九念为人兴利除害，教化未悟；十念读三宝经律，恒奉香花供养之具。凡人常行此五戒、十善，恒有天人善神卫之，永灭灾殃，长臻福祐，唯在坚志。

### 年六斋

正月、三月、五月、七月、九月、十一月。

### 月十斋

一日（北斗下），八日（北斗司杀君下），十四日（太一使者下），十五日（天帝及三官俱下），十八日（太一下），二十三日（太一八神使者下），二十四日（北辰下），二十八日（下太一下），二十九日（中太一下），三十日（上太一下）

。

自下、中上、三太一下日，皆天地水三官一切尊神俱下，周行天下，伺人善恶。

甲子日（太一简阅神祇），庚申日（伏尸言人罪过），本命日（计人功行），八节日（有八神记人善恶），三元日（天地水官校人之罪福）。

### 六种斋

第一、《道门大论》云：上清斋有二法：

一、绝群独宴，静气遗形。清坛肃侣，依太真仪格。

一、心斋，谓疏瀹其心，澡雪精神。

第二、灵宝斋有六法：

第一、金篆斋，救度国王。

第二、黄篆斋，救世祖宗。

第三、明真斋，忏悔九幽。

第四、三元斋，首谢违犯科戒。

第五、八节斋，忏悔宿新之过。

第六、自然斋，为百姓祈福。

第三、洞神斋，精简为上，绝尘期灵。

第四、太一斋，以恭肃为首。

第五、指教斋，以清素为贵。

第六、涂炭斋，以勤苦为功。

已上诸斋，自古及今，登坛告盟，启誓玄圣，或三日、七日、九日、十五日，皆昼夜六时行道，转经礼忏，仪格甚重。



除上清绝群独宴，静气遗形心斋之外，自余皆是为国王民人，学真道士拔度先祖，已躬谢过，禳灾致福之斋。此时移代同异，不无详略。于灵宝斋中为半景之斋，既无宿请，亦无言功，唯只一时或两时忏悔，亦不三时上香，步虚礼经并阙。或小小斋中，三礼叹愿，随时去取，逐便制仪，既非大集，心达而已。

## 二种斋

《本相经》曰：斋有二种：一则拯道，二则济度。拯道者，谓发心学道，从初至终，念念持斋，心心不退。复有二门：一谓志心，二谓灭心。志心者，始终运意，行坐动形，寂若死灰，同于枯木，灭诸想念，唯一而已。灭心者，随念随忘，神行不系，归心于寂，直至道场。济度者，谓回心至道，翘想玄真，愿福降无穷，灾消未兆。又云：虔心者，唯罄一心，丹诚十极，烧香礼拜，唯求于道。舍财者，市诸香油、八珍、百味、营饌供具，屈请道士，及以凡器归心启告，委命至真，内泯六尘，外齐万境，冥心静虑，归神于道。克成道果，永契无为，救济存亡，拔度灾苦，随其分力，福降不羈，功德轻重，各在时矣。

## 十二斋

《玄门大论》：

一者金篆斋，上消天灾，保镇帝王。简文亦云，兼为师友。

二者玉策斋，宗云正为人民，今此本未行于世。  
三者黄策斋，拯拔地狱罪根，开度九幽七祖。  
四者上清斋，求仙念真，练形隐景。  
五者明真斋，学士自拔亿曾万祖长夜之魂。  
六者指教斋，请福谢罪，禳灾救疾。  
七者涂炭斋，拔罪谢殃，请福度命。  
八者三元斋，学士己身悔罪。  
九者八节斋，学士谢过求仙。  
十者三皇子午斋，辅助帝王，保安国界。  
十一者靖斋，如千日、百日、三日、七日修真之用。  
十二者自然斋，救度一切存亡，自然之中修行时节。

### 八节斋

凡八节之日，是上天八会大庆之日也。其日诸天大圣尊神，上会灵宝玄都、玉京上宫，朝庆天真，奉戒持斋，游行诵经。此日修斋持戒，宗奉天文者，皆为五帝所举，书名玉历。

### 心斋

《南华真经》曰：颜渊问道于孔子。孔子曰：汝斋戒，吾将告汝。颜渊曰：回贫，唯不饮酒、不茹荤久矣。孔子曰：是祭祀之斋，非心斋也。汝一志，无以耳听而以心听，无以心听，

而以气听。疏滌汝心，除嗜欲也；澡雪汝精神，去秽累也；掊击其智，绝思虑也。夫无思无虑则专道，无嗜无欲则乐道，无秽无累则合道。既心无二想，故曰一志。

### 斋直

《三天内解经》曰：夫为学道，莫先乎斋。外则不染尘垢，内则五藏清虚，降真致神，与道合居。能修长斋者，则道合真，不犯禁戒也。故天师遗教，为学不修斋直，冥如夜行不持火烛，此斋直应是学道之首。夫欲启灵告冥、建立斋直者，宜先散斋。不使宿秽，臭腥消除，肌体清洁，无有玷污，然后可得入斋。不尔，徒加洗沐，臭秽在肌肤之内，汤水亦不能除。

《三元斋品》曰：建斋之日，当输金真玉光九天之信，置于五帝，以招神致灵。

《三元斋品》曰：学法未备，即俯仰之格，多不合仪。

《金锁流珠经》曰：古来呼斋曰社会，今改为斋会。

《太上太真科经》曰：消遣世务，三业为修斋。存三守一，斋为本基。斋者，齐也、洁也、净也。不必六时行道，三时讲经，昼夜存念，忏悔请福，干造玄虚，更失万一。能得一者，心摄三业。能摄身者，端拱不扰；能摄口者，默识密明；能摄心者，神与道合。如斯为主，成圣真仙。未合此者，摄身朝礼，离杀盗淫，摄口诵经，免妄言绮语，两舌骂詈，摄心存神，脱贪恚痴。十恶既去，十善自来。去来至极，与道合真。

### 释斋有九食法

《玄门大论》云：斋法大略有九：一者粗食，二者蔬食，三者节食，四者服精，五者服牙，六者服光，七者服气，八者服元气，九者胎食。粗食者，麻麦也；蔬食者，菜茹也；节食者，中食也；服精者，符水及丹英也；服牙者，五方云芽也；服光者，日月七元三光也；服气者，六觉之气，太和四方之妙气也；服元气者，一切所禀三元之气，太和之精，在乎太虚也；胎食者，我自所得元精之和，为胞胎之元，即清虚降，四体之气，不复关外也。粗食，止诸耽嗜；蔬食，弃诸肥腴；节食，除烦浊服精其，身神体成英带；服牙，变为牙；服光，化为光；服六气，化为六气，游乎十方；服元气，化为元气，与天地合为体；服胎气，久为婴童，与道混合为一也。此之变化，运运改易，不复待舍身而更受身，往来死生也。今意方法，未必止是食事，其或是方药，或按摩等事，可寻也。

### 说杂斋法

《三元品戒经》云：正月七日，天地水三官检校之日，可修斋。

《圣纪》云：正月七日，名举迁赏会斋。七月七日，名庆生中会斋。十月五日，名建生大会斋。三官考核功过，依日斋

戒，呈章赏会，可祈景福。”

明真科云：正月、三月、五月、七月、九月、十一月，一岁六斋月，能修斋上三天帝，令太一使者除人十苦。

《八道秘言》云：正月、三月、四月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月，此九真斋月。一日、十五日、二十九日，此月中三斋日。正月一日名天腊，五月五日名地腊，七月七日名道德腊，十月一日名民岁腊，十二月节日名侯王腊，此五腊日，并宜修斋，并祭祀先祖。

《明真科》云：月一日、初八日、十四日、十五日、十八日、二十三日、二十四日、二十八日、二十九日、三十日，已上为十直斋日。庚申、甲子八节，太一八神下，司察人过咎，修斋，太一欢悦。庚申日，人身中伏尸，上天言人罪过。本命日，受法人身神吏兵上天计人功过。

《三洞奉道科》云：正旦为献寿斋，七日为延神斋，二月八日为芳春斋，四月八日为启夏斋，五月五日为续命斋，六月六日为清暑斋，七月七日为迎秋斋，八月一日为逐邪斋，九月九日为延算斋，十月一日为成福斋，十一月十五日为启福斋，十二月腊日为百福斋，二十八日为近新斋，立春为建善斋，春分为延福斋，立夏为长善斋，夏至为朱明斋，立秋为遐龄斋，秋分为谢罪斋，立冬为遵善斋，冬至为广庆斋。如此等斋，各具本经仪格。故学道不修斋戒，徒劳山林矣！

夫斋者，正以清虚恬静，谦卑恭敬，战战兢兢，如履冰谷，若对严君，丹诚谦若，必祈灵应。检敕内外，无使喧杂。行斋之人，特忌斩衰孝子，新产妇人，月信未断，及痲虐疮疥废疾等，并不得升斋堂庭坛驱使，如愿苦求预斋，乞解过咎者，任投辞为其陈忏悔谢，不得杂登堂宇，应行法事等，仍迁令别坐，兼忌六畜（盖此等人秽触真灵，贤圣不降，乃修斋无功也）。

凡修斋主虔诚，斋官整肃。至如香灯不备，亦曰疏遗。启圣祈真，莫先于此。香贵在沉水旃檀，依上清香珠丸合和，不得用甲麝。招真致灵，务存精志。如寒栖学真，道士修斋，单贫不可致者，亦宜以少为信，无令顿阙。若纯以乳头，非道家所用也。

初登斋，靖看焚香，气向东南西北直上者，五帝依向而至。《登真隐诀》云：香者，天真用兹以通感，地祇缘斯以达信，非论斋洁、祈念、存思，必烧香。左右侍香金童，必为招真达意。《登真隐诀》云：“真人摄日晖以通照，役月精以朗幽，故然九光之微灯，晃八方之尽夜。

《四极明科》云：“立春、春分，然九灯于庭；立夏、夏至，然八灯；立秋、秋分，然六灯；立冬、冬至，然五灯，本命日，十二灯，自此陈乞谢过祈恩。用灯于庭。法与修诸斋，自有灯数于庭。讫，依记四时向王，唯本命向太岁叩齿二十四通，咒曰：高上太真万圣帝皇五帝玉司总仙监真，今日吉辰，八节开陈。阳罪阴考，绝灭九阴。于今永始，拔释七玄。免脱火乡，永离刀山。三涂五苦，不累我身。得同天地，长保帝晨。五愿八会，靡不如言。咒毕，解巾叩头百二十过，当令额向地而已，勿令痛。竟复巾，仰天，心念：我身今日，上享天恩，赐反形骸，受生飞仙。毕，仰咽二十四气止。如此三年，宿褻除，身与真同。

案诸经斋法，略有三种。一者设供斋，可以积德解愆。二者节食斋，可以和神保寿，斯谓祭祀之斋，中士所行也。三者心斋，谓疏瀹其心，除嗜欲也；澡雪精神，去秽累也，培击其智，绝思虑也。夫无思无虑则专道，无嗜无欲则乐道，无秽无累则合道。既心无二想，故曰一志焉。盖上士所行也，详矣。斋者，齐也。要以齐整三业，乃为斋矣。若空守节食，既心识

未齐，又唯在一志，则口无贪味之谓也。二法表里相资，故《大戒经》云：夷心静嘿，专想不二，过中不味，内外清虚是也。子虽薄闲节食，未解调心，故示兹斋法，令其受道。而末学之徒，孰能虚心一志哉？夫鄙乎祭祀之教，自谓得心斋之理，盖怠慢之夫矣！虽口谈寂，无解其因，是自矜焉。《易》云，圣人以此斋戒。

### 斋科

道士王纂，金坛人也。居马迹山，常以阴功救物，仁逮蠢动。值晋之末，中原乱罹，饥馑既臻，疫疠仍作，时有毒瘴，损毙者多，闾里凋荒，死亡枕籍。纂于静室，飞章告玄，三夕之中，继之以泣。至三夜，有光如昼，照其家庭，即有祥风景云，纷郁空际。俄而，异香天乐下集庭中，介金执锐之士三十余人，罗列如有所候。顷之，珠幢宝盖，霓旆羽节，红旗锦旂，各二人相对前行。即最后又有四青童执花捧香，侍女捧桡，地铺锦席，前立巨屏，左右龙虎将军，侍从官将兵士二千许人，立两面，若有备卫焉。复有金甲大将军二十六人，神王十人，次龙虎二君之外，班列肃如也。须臾，笙箫骇空，自西北而至，五色奇光，灼烁艳逸，一人佩剑持版而前，告纂曰：太上道君至矣。于是百宝大座自空而下，太上道君侍二真人、二天帝在座之左右。道君坐五色莲花，二真、二帝立侍焉。纂拜首迎谒，跪伏于地。道君曰：子（敏心）念生民，形于章醮，剖心拔血，感动幽明，地司列名。盖化育万物，而五行为之用，五行互有相胜，各有兴衰，代谢推迁，间不容息。是以生之不停，气气

相续，亿劫已来，未暂辍也。得其生者，合于纯阳，升天而为仙；得其死者，沦于至阴，在地而为鬼。鬼物之中，自有优劣、强弱、刚柔、善恶，与人世无异。玉皇天尊虑鬼神之肆横害于人也，常命五帝三官，检制部御之律令刑章，罔不明备。而季世之民，浇伪者众，淳源既散，妖诈萌生，不忠于君，不孝于家，废三纲五常之教，自投死地。由是六天故气魔鬼之徒，与历代已来败军死将，聚结为党，伐害生民，驾雨乘风，因衰伺隙，为种种病，中伤甚多，亦有不终天年，罹其夭枉者。寻于杜阳宫出《神咒经》，授真人唐平，使其流布，以救于物，民间有之。世人见王翦、白起名，谓为虚诞。此盖从来将领，生为兵统，死为鬼帅。有功者，迁为阴官；残害者，犹居魔属，乘五行败气，为瘵为瘥。然以阳威惮之，神咒服之，自当弥戢矣。今以《神化》、《神咒》二经；复授于子，按而行之，以拯护万民兆庶也。即命侍童披九光之韞，以《神化经》及《三五大斋诀》授之于纂曰：勉而勤之，阴功克充，真阶可冀也。言讫，千乘万骑，西北而举，升还上清矣。纂案经品斋科行于江表，疫毒铺弭，生灵又康。自晋及兹，普蒙其福者，不可胜纪焉。

### 持斋

《无上秘要》云：昔有道士，持斋诵经。有一凡人，为赁作治厨斋堂。道士见其用意，至日中持斋，因唤与同食。食竟，为其说法，语此赁人，今随吾持斋，功德甚大，可至明日中时复食，勿坏尔斋，徒劳无益。能如此者，将可得免见世穷厄。



此人稽首受戒而去，暮还家。其妇一日待婿，具以道士戒言喻妇。妇甚不解，遂致嗔怒，赁人不能免其妇意，遂坏其斋，与妇共食。其后命过天，使其人主蜀山千岁树精，恒给其中食。其树茂盛，暑夏之月，有精进贤者三人经过，依树而息。贤者叹曰：此树虽凉，日已向中，何由得食？此人于树中曰：当为贤者供设中食，无所为忧。须臾食至，贤者共食。食竟，言曰：我觅道，道在何所？此自然，非道也。因问树曰：不审大神可得暂降形见与某相面否？此人于树空中答曰：我非能使人得道者也。具记姓字处所，昔常为道士劝使持斋，为妇人所坏，功德不全，致令使我守此树精，不能得出。天以我昔经斋中食，令每至中给我斋食，口不暇食，又无缘得迁。欲屈贤者为至我舍，道我如此，能为我建三日斋戒，我身便得升天。贤者感此人意，为寻其家，具以其言语家人如此。家人即为建斋，请诸道士烧香诵经三日谢过，此人即得飞行，升入云中，于景霄之上，受书为散仙人。故斋之功德甚重，不可不修。此人半日持斋，死经一日，即时出身，不拘一年，而得为仙。故天计功过，明之不亏也。夫为学者，可勤持斋戒，以期冥感，能修之者，必获升腾之举。

### 阴阳杂斋日

三会日：正月七日（举迁赏会斋）、七月七日（庆生中会斋）、十月五日（建生大会斋）、三会日，三官考策功过，宜受符策，斋戒呈章，以祈景福。

五腊日：正月一日（名天腊斋）、五月五日（名地腊斋）、

七月七日（名道德腊斋）、十月一日（名民岁腊斋）、十二月节日（名侯王腊斋）。

五腊日，常当祠献先亡，名为孝子，得福无量。余日皆是淫祀，通前三元日，为人解日，皆可设净供求福焉！

《明真科》云：甲子日夜半时、甲戌日黄昏时，已上天皇真官下日。甲申日晡时，甲午日日中时，已上地皇真官下日；甲辰日食时，甲寅日平旦时，已上人皇真官下日。

右其日修斋，五岳四渎神君，各依方位，纠察善恶，无不上闻。

又丁卯日日出时，丁丑日鸡鸣时，已上天皇真官下日。又丁酉日日入时，丁亥日人定时，已上地皇真官下日；又丁未日日昃时，丁巳日禺中时，已上人皇真官下日。

其日修斋，五岳真人，各遣五神营卫，记名仙篆。

## 卷三十八 说戒部一

### 说十戒

《玉清经·本起品》云：道言：昔元始天尊与诸贤圣亿亿万众，处处周旋，最后下观弃贤世界，有一国王，名曰德正直，利根辩慧，为众生故，而为导首。遍告国内臣民男女，言：今得太平，天下无事，火灾消灭，兵刃不起，百谷成熟，皆由道恩，非自然也。何以报道罔极之恩？唯当倾心尽意，恭敬供养，造立宫观，香花灯烛，晨夕礼诵，斋戒悔过，以求福祐。于是天尊命巨灵仙人而告王曰：子为一国之主，天下所推，凡间之贵不先于此，但以正法治化，不枉人民，亦足功感上天，何烦秘要？秘要之道，卒难可闻。然秘要之阶，不过慈善。慈善之法，不违科戒。戒有多种，人亦多品。上品之人，身先无犯，亦无所持。中品之人，心有上下，观境即变，以戒自制，不令放逸。如此之人，或受十戒、五戒，以自防护。下品之人，恶心万般，难可禁制。下品之中，复有二品。上品者，身欲奉戒，或受一百九十九戒，或受观身三百大戒，或受千二百威仪之戒，以自防保，令无越逸。下品者，身同禽兽，虽有人形而无人心，纵受其戒，终无所益。今且受第二中戒十种科禁入道初门。诸人闻说，欢喜扑蹈，悉皆俯伏，而奉戒言，天尊告曰：

第一戒者，不得违戾父母师长，反逆不孝。  
第二戒者，不得杀生屠宰，割截物命。  
第三戒者，不得叛逆君主，谋害家国。  
第四戒者，不得淫乱骨肉姑姨姊妹及佗妇女。  
第五戒者，不得毁谤道法，轻泄经文。  
第六戒者，不得汙漫静坛，单衣裸露。  
第七戒者，不得欺凌孤贫，夺人财物。  
第八戒者，不得裸露三光，厌弃老病。  
第九戒者，不得耽酒任性，两舌恶口。  
第十戒者，不得凶豪自任，自作威利。  
右此十戒，当终身奉持。

### 大戒上品（并叙）

#### 太上洞玄灵宝消魔宝真安志智慧本愿大戒

《上经》云：太极仙公于天台山静斋念道，稽首礼拜，请问太极法师徐来勒曰：弟子有幸得侍对天尊，自闻微言，弥纶万劫，洞观道源，过泰之欢，莫有谕也。顾玄少好神仙白日飞腾之道，必想上圣，恒以仿佛，大经微远，妙蹟难通，将禀口诀，释我冥津，洞畅闕漠，有无都尽矣。近而未究人生宿世因缘本行之由，今愿天尊觉所未悟。是时太上玄高真人啸咏步虚洞章，欢然含豫辉金颜而言曰：子以累劫念道，致太极玉名，寄慧人中、将独步玉京，超逸三界，巍巍乎太上仙公之任矣。故慈心于天人，念度于后学也，常以外身济物，有德而弗名，

玄都所诔，谅不虚矣！而谓太极真人曰：卿受太上虚皇道君之教，为其师保，亦必尽教以高上大洞之渊赜也，岂俟彼多陈乎？吾受任忝为都教之法师，至于执卷，由子矣。太极真人答曰：此童真之人，名刊金简，才质清远，景秀太上玄微洞虚，故当为仙公之任，弘道大度者也。吾忝受教化，愧不足为彼宗匠，太上有命，何敢不倾辔哉！众妙之统，仰赖于法师矣。太极真人又曰：夫道，无也。弥纶无穷。子欲寻之，近在我身，乃复有也。因有以入无，积念以得妙，万物芸芸，譬于幻耳，皆当归空。人身亦然。身死神逝，喻之如屋，屋坏则人不立，身败则神不居，当制念以定志，静身以安神，宝气以存精，思虑兼忘，冥想内视，则身神并一。身神并一，近为真身也。此实由宿世本行，积念累感，功济一切，德阴万物，因缘轮转，罪福相对，生死相灭，贵贱相使，贤愚相倾，贫富相欺，善恶相显，其苦无量，皆人行愿所得也。非道、非天、非地、非人万物所为矣，正由心耳。此对既讵，亦难脱也。弱丧之徒，信道者少，宿命者多；不积善定念，修德理身，而欲忽德忘身，强求外物，其可得哉！既已不克，莫不伤身矣。故有道之士，取诸我身，无求乎人。道言：“修身，其德乃真。”斯之谓也。夫学道不受大智慧道，行本愿上品大戒，无缘上仙也。子有宿命，是以见此经，其文隐秘，立信效心，然后而传，不可妄示。不信，必发异念。异念既生，彼此获罪。是故藏之于无，待有应为仙王者乃告焉。是时云龙踊跃，诸天散华，飞香奏烟，山海静波，触类窅默，鬼魅消亡，神魔降伏，五苦俱解，长离地狱，恶者返善，信顺受福尔。乃命太极侍经仙人刘文静披云韞而授经也。太极真人曰：宿世礼奉经师，口诵身行，布施厄困，愿乐三宝，君亲忠孝，远慕山水，栖憩贤儒，虚心有道，烧香散华，护度一切，修道补过，信顺宿命，静思忍情。其行也，上可升仙度

世，下可轮转富贵，生为人尊，容貌伟秀，才智清远，为人之道，莫不具足。夫居世富贵，笑于贫贱，今报以贫贱。居世好杀，今报以伤杀，居世轻易，笑于丑陋，今报以丑陋。居世聪明，不教于人，今报以顽塞。居世常康，笑于困病，今报以滞疾。居世不信道，笑于经教，今报以下愚，长与道隔。女人居世，夺人婿者，今报以少寡。男子居世，诱人妇女，今报以鰥独。居世发心为夫妻，而后世不得俱生人道。死为鬼魅，今报以本念，成于邪病，自非大法，莫有解其宿缠，而消此邪病矣。夫为父母、兄弟、姊妹、夫妻、君臣、师保、朋友，皆先世所念，愿为因缘，展转相生，莫不有对者哉。故曰倚伏难穷矣。唯学仙道士当兼忘因缘，绝灭生死，同归乎玄，以入妙门。能知是者，始可与言学道之本也。

若见居家妻子，当愿一切，早出爱狱，摄意奉戒。若见饮酒，当愿一切，制于命门，以远祸乱。若见彩女，当愿一切，守情忍色，志慕贤贞。若见淫人，当愿一切，除弃邪念，翹心禁戒。若见妇人，当愿一切，忍割浮华，乐道自娱。若见贞人，当愿一切，履信正化，日入法门。若见众人，当愿一切，推仁无争，怀道安世。若见善人，当愿一切，时刻存念，仰 丸真道。或见恶人，当愿一切，弃凶即吉，不犯王法。若见贫人，当愿一切，损身施惠，后受大福。若见富人，当愿一切，救济万物，世世受禄。若见贵人，当愿一切，承其教旨，悉令典训。若见贱人，当愿一切，勤修匪懈，各得所为。若见帝王，当愿一切，奉仰王道，孝如父母。若见主相，当愿一切，受其教制，四方归仁。若见兵甲，当愿一切，各念仁心，天下让贤。若见王子，当愿一切，日歌太平，系国承家。若见贤人，当愿一切，履行其德，道为世宗。若见法师，当愿一切，明解法度，得道无为。若见栖山道士，当愿一切，悉见法门，速得升仙。若见

教化，当愿一切，亲受圣教，皆为渊博。若见圣人，当愿一切，尊礼侍见，诸国并瞻。若见仙人，当愿一切，真道悉成，飞升天堂。若见城郭，当愿一切，严整修饰，以道为基。若见大国，当愿一切，归宗慕德，若水注海。若见小国，当愿一切，知止虚冲，安其所居。若见市朝，当愿一切，群贤云萃，悉弘正道。若见静观，当愿一切，功德巍巍，天人得道。若见斋戒、行香，当愿一切，道德日新，庠序雅正。若见诵经，当愿一切，尽上高座，咸闻圣音。若见经教，当愿一切，各各受读礼习，普行教化。若见楼观，当愿一切，洞观十方，无所隐藏。若见高山，当愿一切，智思无量，辅成家国。若见栖憩茂林，当愿一切，安居自在，阴庇舍识。若见好学，当愿一切，得成师宗，养徒敷教。或见净手，当愿一切，常执经书，无时暂辍。若见善口，当愿一切，耽味洞经，日新不厌。若见动足，当愿一切，超步三界，飞行上清。若见静止，当愿一切，灭景停真，安闲空寂。若见饮食，当愿一切，弃累入净，存得道味。若见大藏，当愿一切，除其灾害，施为福田。若见疾病，当愿一切，以道自安，免此苦厄。若见死丧，当愿一切，学道常存，济度三徒。若见畋猎，当愿一切，不为始终，入为无罪。若见夷狄，当愿一切，得生中国，不生边地。若见少年，当愿一切，及时学问，遂成学名。若见老病，当愿一切，以道摄生，不更衰老。若见三光，当愿一切，普明灵曜，暗冥即消。若见云雨，当愿一切，惠泽盈溢，无所不宜。若见素雪，当愿一切，常居洁白，逍遥自在。若见灵风，当愿一切，韞怀披散，德流遐迩。若见净水，当愿一切，洗垢清虚，平等其心。若见名香，当愿一切，受兹芳净，众秽肃然。若见好华，当愿一切，乐散诸圣，相好具足。若见车马，当愿一切，得道无为，乘风驾龙。若见弦歌，当愿一切，玩经叹法，以道娱乐。若见福食，当愿一切，无不饱满，世享

天厨。德流后人，如水归海，宗庙裔长，常居贵盛。世与四辇，俱生王家。若见散施，当愿一切，祸灭九阴，福起十方，德如山海，莫不兴隆；七祖生天，子孙贤忠，富贵巍巍，所欲皆从。学道飞仙，驾云乘龙。道士坐卧，常愿我等，四大合德，同体道真，长存玄都，师友自然。济度十方，天下受恩，逍遥无为，洞观妙门。

### 礼经祝三首

（《真人口诀》云：侍经仙童玉女闻此祝，皆欢喜而祐兆身也。是大经悉用此祝而礼拜矣。若冥心礼经者，亦心祝其文，乃上仙之秘祝也）

#### 第一首

乐法以为妻，爱经如珠玉。持戒制六情，念道遣所欲。淡泊正气停，萧然神静嘿。天魔并敬护，世世受大福。

#### 第二首

郁郁家国盛，济济经道兴。天人同其愿，缥缈入大乘。因心立福田，靡靡法轮升。七祖生天堂，我身白日腾。

#### 第三首

大道洞玄虚，有念无不启。炼质入仙真，遂成金刚体。超度三界难，地狱五苦解。悉归太上经，静念稽首礼。

太极真人曰：学升仙之道，当立千二百善功，终不受报。立功三千，白日登天，皆济人应死之难也。施惠其人，尤善矣。学道当令众行合法，广建福田。发大慈之心，动静常起道意。能如是也，吐纳，服药，佩符，读经，精进终身不倦，岂有不



得仙乎？人无此德，虽服药，佩符，读经，斋戒，故终命而不验矣。学士明思要言。

太极真人曰：立三百善功，可得长存地仙。若一切不全，则更从一始，而都失前功矣。常有其念，在于心膂者，则是也。若导人作善，即为善功也。

太极真人曰：常念啸咏洞经，修行大慈，先人后身，扬善化恶，断绝众缘，灭念守虚，心如太玄，为道是求，始谓能言神仙之道也。

太极真人曰：吾昔受太极智慧十善劝助德戒于高上大道虚皇，世世宗奉修行大法，度人甚易，此自然之福也。太上以普教天人，令各得本愿，始入法门，长存无为，不受十苦八难罪对，罢散地狱，休息三官，日日宁闲，世世荣乐。咸脱罗纲，后生安泰，天性恬然，所愿随得。其戒如上，以传贤信。

《十善劝戒》曰：劝助礼敬三宝，供养法师。令人世为君子，贤孝高才，荣贵巍巍，生为人尊，门族昌炽（三宝者，谓道经师也。能养生，教善行，为人范，是名法师也）。

戒曰：劝助治写经书，令人世世聪明，博闻妙蹟，恒值圣世，见诸经教，能诵章句。

戒曰：劝助建斋净治，令人世世门户高贵，身登天堂，饮食自然，常居无为。

戒曰：劝助香油众供，令人世世芳盛，香洁光明，容貌绝伟，天姿高秀。

戒曰：劝助法师法服，令人世世闲雅，逍遥中国，不坠边夷，男女端正，冠冕玉佩，称诸身饰。

戒曰：劝助国王父母，子民忠孝，令人世世多嗣，男女贤儒，不受诸苦。

戒曰：劝助斋靖读经，令人世世不堕地狱，即升天堂，礼

见众圣，速得返形，化生王家，在意所欲，玩好备足，七祖同欢，善缘悉备，终始荣乐，道法转至，将得仙道。

戒曰：劝助众人学经，令人世世才智洞达，动静威仪，常为人师。

戒曰：劝助一切布施，谏诤善事，令人世世寿考富乐，常无怨恼。

戒曰：劝助一切民人，除嫉去欲，履行众善，令人世世安乐，祸乱不生，病者自愈，仕宦高迁，为众所仰，莫不吉祐。门户清贵，天人爱育，神魔恒护，常生福地。

太极真人曰：人之行恶，莫大于嫉、杀、贪、奢、骄、淫也。若此一在心，伐尔年命矣。挟之以学神仙者，不亦悲乎？

### 太霄琅书十善十恶

十善既行，十恶自息。息恶行善，大慈德成。是以《上品戒》云：恤死度生，救疾治病，施惠穷困，割己济物，奉侍师生，营建静舍，书经校定，修斋念道，退身让义，不争功名，宣化愚俗，谏诤解恶，边道立井，植种果林，教化童蒙，劝人作善，施为可法，动静可观，教制可 丸，行常使然，十善遍行，谓之道士。不修善功，徒劳山林，能信斯旨，勤寻诸戒。戒部甚多，随缘所得。无数诸戒，无央科律，皆辅一神，摄于三业。三业者口、身、心也。运动造作，善恶无量。无量善恶，十为恶端。一者妄言，二者绮语，三者两舌，四者骂詈，此四口恶，返之则善。五者贪爱，六者窃盗，七者奸淫，此三者属身。八者嫉妒，九者恚瞋，十者邪痴，此三者属心。心业最重，为十恶根。断绝十恶，修十善本。实言直语，通和讲诵。谦让舍财，内外贞洁。庆赞欢喜，敬信三尊。备此十善，十恶永除。

## 思微定志经十戒

一者不杀，当念众生。二者不淫，犯人妇女。三者不盗，取非义财。四者不欺，善恶反论。五者不醉，常思净行。六者宗亲和睦，无有非亲。七者见人善事，心助欢喜。八者见人有忧，助为作福。九者彼来加我，志在不报。十者一切未得道，我有不吝。经云：时有十二年少，处世间乐，日日相就，共作好食，酣饮嬉戏，或复论议持戒之难易。天尊以道眼遥见此人，前世曾为人师，而秘吝经典，逮诸弟子，于道之心，亦复犹豫。因此微缘，犹可度耳。于是天尊化作凡人，从会中过，托之乞食，因悉共语。诸年少辈，复论如初，中一人曰：我数随兄至安乐山，见诸道士悉持十戒，肃肃甚佳，洎至于死，魂神所在，亦当不虚。但其十戒，人持难悉从耳！化人曰：持此甚易，违此甚难。诸人问化人曰：云何持戒则易，不持反难？化人曰：立身如戒，上不畏天子，亦不畏鬼神，何谓之难？违戒之者，悉畏之，是难也。其中一人曰：余戒可持，惟酒难断，所以者何？我先服散，散者发之日，非酒不解，是故难耳。化人曰：散发所须，此乃是药。将养四大，药通可通，但勿过量耳。一人曰：余事即可，妄语其难。所以者何？若有密事，在尊长前应为隐讳，而人见问，不得欺，欺即犯戒，是故为难。化人曰：事有隐讳而人见问，不得欺，欺即犯戒，是故为难。化人曰：事有隐讳，理有方便，此亦可通。但勿善恶返论，说其长短耳！一人曰：余戒即可，唯盗戒难。小小之间，以挂犯目。化人曰：大事实难，小小之间益可慎之。而说偈曰：

何不受盗戒？不受盗亦难。孰云暗昧中？中有记盗官。取一年年倍，倍倍殊不宽。以手捧熔铜，烧口煮心肝。一朝言此苦，终年犹心酸。何不受此戒？保持必令完。我信彼亦信，在在无不安。安坐招灵人，永享长年欢。

一人曰：馀戒悉易，淫最难断。所以尔者，我曾履斯事，数随兄中食。当中食时自云：一日精进，无不过理，亦谓身后当得此斋戒之福。至是夕夜，是我所愍，辄来狡狴，虽苦加抑迮，不觉已尔。每每如此，是知最难。化人曰：色者是想尔，想悉是空，何有色邪？但先自观身，知身无寄，便知无色。何可不忍！且淫欲颇恣，如饮咸水，饮多渴多，唯死而已。何有厌足？而说偈曰：

色欲剧于渴，小忍差可度。何为进咸水，水咸益渴故。子能善解渴，当饮天甘露。甘露香且熏，通体皆流布。天人寻香降，玄趣自然悟。熙熙永无为，长保九天祚。一人曰：馀悉可从，唯煞难戒。所以者何？我好一敢鸡，一食无鸡，了自无味，数日便瘦。化人曰：贤者肥为人患，瘦即体轻，用肥何为？即说偈曰：

贤贤戒其煞，亦无怀煞想。众生虽微微，亦悉乐生长。如何害彼命？而用以自养。自养今一时，累汝自然爽。长沦三涂中，辛苦还复往。善恶各有缘，譬如呼有响。何不改此行？慈心以自奖。真人携手游，逍遥云景上。

说此偈已，化人见大威变，极道之姿。侍从僚属，钧天大乐，非可目名，返于上方。诸人悉见，喜惧交集，并闻要说，意解开悟，俱登道果。

妙林经二十七戒

元始天尊告诸四众，一切众生，贪着有为，欣生恶死，意虽求生，由造死业，不持戒行，假使长寿，犹如老树，有何殊别？若持戒行，死补天官，升仙自在。人虽有王公之位，上至帝皇，死皆重罪，无益鬼神，受苦不可堪忍。善男子，汝等思惟，明奉戒行，直心行道，吾为汝说：天下万物，无有长存，有死有生，有成有败，日出则没，月满则亏，从古至今谁能违返？若有道德不生、不灭修善者，今月亦善，今日亦善，今时亦善。善善积德，诸行修足，善念护持，令入法宝。戒曰：

不得盗窃人物，不得妄取人财，不得妄言绮语，不得因恨杀人，

不得贪嗔痴狠，不得慢老欺人，不得咒诅毒心，不得骂詈高声，

不得訛毁谤人，不得两舌邪佞，不得评人长短，不得好言人恶，

不得毁善自誉，不得自骄我慢，不得畜毒药人，不得投书谮善，

不得轻慢经教，不得毁谤圣文，不得恃威凌物，不得贪淫好色，

不得好杀物命，不得耽酒迷狂，不得杀生淫祀，不得烧野山林，

不得评论师长，不得贪惜财贿，不得言人阴事。

### 老君二十七戒

行无为，行柔弱，行守雌，勿先动。此上最三行。

行无名，行清静，行诸善，此中最三行。

行忠孝，行知足，行推让，此下最三行。

右九行，二篇八十一章集合为道舍，尊卑同科。九行备者神仙，六行备者寿，三行备者增年。

戒勿费用精神，戒勿食含血之物，乐其美色。戒勿伤王气。戒勿贪宝货。戒勿忘道。戒勿为妄动。戒勿枝形名道。戒勿杀生。戒贪功名。此上九戒。

戒勿为耳目鼻口所娱，戒常当谦让。戒举百事详心，勿惚恫。戒勿学邪文，戒勿资身好衣美食。戒厌求名誉。戒勿贪高荣强求。戒勿轻躁。戒勿盈溢。此中九戒。

戒勿与人诤曲直得失，避之。戒勿为诸恶。戒勿厌贫贱，强求富贵。戒勿多忌讳。戒勿称圣人大名。戒勿强梁。戒勿祷祠鬼神。戒勿自是。戒勿乐兵。此下九戒。

右二十七戒，二篇共合为道渊，尊卑同行，上备者神仙。持十八戒备者，寿，持九戒备者，增年，不横夭矣。

## 卷三十九 说戒部二

### 老君说一百八十戒（并叙）

昔周之末，赧王之时，始出太平之道、太清之教。老君至琅琊，授道与干君。干君受道法，遂以得道，拜为真人。又传《太平经》一百七十卷，《甲子》十部。后帛君笃病，从干君授道护病，病得除差，遂复得道，拜为真人。今琅琊有木兰树，干、帛二君所治处也。幽王时，老君教胡还当入汉中，过琅琊，干君得见老君。老君谓干君曰：吾前授汝，助人救命，忧念万民，拜署男女祭酒，广化愚人，分布弟子，使上感天心，下动地祇，当令王者欢心。而自顷以来，吾遥从千万亿里观之，诸男女祭酒，托老君尊位，贪财好色，擅色自用，更相是非，各谓我心正，言彼非真，利于供养，欲人奉已，憎恶同道，妒贤嫉才，骄恣自大，禁止百姓，当来从我，我道最正，彼非真也。皆不当尔，故来相语。干吉稽首，再拜伏地，叩头百下，唯唯告曰：太上从今日已去，不知当何由去？诸男女祭酒之重罪，令祭酒辈空活，既蒙道祐，可得升仙，寿终之后，不入九地下牢之苦。非但祭酒，复其万民。万民无知法则，祭酒之罪，臣之过咎，实在于己也。唯愿太上赦既往之失，署臣修将来之善耳。臣干吉死罪，死罪。老君曰：可正安意定，坐。吾恐大道

浇季，万民丧命。一二祭酒，死入九幽之下，不足痛也。吾但念万民痛耳。汝当善听，记录心中，当为后世作法则，敕诸男女祭酒，令改往行，从今之善。老君曰：人生虽有寿万年者，若不持戒律，与老树朽石何异？宁一日持戒为道德之人，而死补天官，尸解升仙。世人死有重罪，无益魂神。魂神受罪耳。祭酒明奉行之。乃曰，诸祭酒各明听，天下万民，无有长存。人生有死，物成有败。日出则没，月满则缺。从古至今，谁能长存者？唯道德可久耳！今月亦善，今日亦善，今时亦善，诸贤亦善，师甲亦善，弟子亦善，万神备具，吏兵皆到，今吾以诸贤故，念万民之命，故授王甲禁戒重律。当三遍读之，然后说戒曰：

第一戒，不得多畜仆妾。

第二戒，不得淫他妇人。

第三戒，不得盗窃人物。

第四戒，不得杀伤一切物命。

第五戒，不得妄取人一钱已上物。

第六戒，不得妄烧败人一钱已上物。

第七戒，不得以食物掷火中。

第八戒，不得畜猪羊。

第九戒，不得邪求一切人物。

第十戒，不得食大蒜及五辛。

第十一戒，不得作草书与人。

第十二戒，不得多以书相闻。

第十三戒，不得以药落去子。

第十四戒，不得烧野田山林。

第十五戒，不得以金银器食用。

第十六戒，不得求知军国事及占吉凶。



- 第十七戒，不得妄与兵贼为亲。  
第十八戒，不得妄伐树木。  
第十九戒，不得妄摘草花。  
第二十戒，不得数见天子官人，妄结姻亲。  
第二十一戒，不得轻慢弟子，邪宠以乱真。  
第二十二戒，不得贪惜财物。  
第二十三戒，不得妄言绮语，隔戾嫉妒。  
第二十四戒，不得饮酒食肉。  
第二十五戒，不得多积财物，侮蔑孤贫。  
第二十六戒，不得独食。  
第二十七戒，不得贩卖奴婢。  
第二十八戒，不得破人婚姻事。  
第二十九戒，不得持人长短，更相嫌恨。  
第三十戒，不得自习妓乐。  
第三十一戒，不得言人恶事，猜疑百端。  
第三十二戒，不得言人阴私。  
第三十三戒，不得说人父母本末善恶。  
第三十四戒，不得面誉人，屏处论人恶。  
第三十五戒，不得以秽污之物调戏人。  
第三十六戒，不得以毒药投渊池江海中。  
第三十七戒，不得独与宗族为亲。  
第三十八戒，不得轻疏佗人之尊长。  
第三十九戒，不得自杀。  
第四十戒，不得劝人杀。  
第四十一戒，不得别离他人家口。  
第四十二戒，不得因恨杀人。  
第四十三戒，不得投书譖人。

- 第四十四戒，不得自用。
- 第四十五戒，不得自贵。
- 第四十六戒，不得自骄。
- 第四十七戒，不得妄凿地，毁山川。
- 第四十八戒，不得恶言骂詈。
- 第四十九戒，不得以足踏六畜。
- 第五十戒，不得掩人目。
- 第五十一戒，不得以厌治病。
- 第五十二戒，不得希望人物。
- 第五十三戒，不得竭水泽。
- 第五十四戒，不得评论师长。
- 第五十五戒，不得裸形露浴。
- 第五十六戒，不得轻慢经教。
- 第五十七戒，不得慢老人。
- 第五十八戒，不得观六畜交阴阳。
- 第五十九戒，不得调戏于人。
- 第六十戒，不得持威势凌人。
- 第六十一戒，不得阿党所亲。
- 第六十二戒，不得带刀杖（若军中，不从此律）。
- 第六十三戒，不得多作门户，别离居处。
- 第六十四戒，不得起瞋恚。
- 第六十五戒，不得骂人作奴婢。
- 第六十六戒，不得立小便。
- 第六十七戒，不得黥奴婢面。
- 第六十八戒，不得咒人命死败亡。
- 第六十九戒，不得快人死败。
- 第七十戒，不得乱纵行游。

- 第七十一戒，不得张目视人。
- 第七十二戒，不得舌吐向天。
- 第七十三戒，不得横求人物。
- 第七十四戒，不得强乞，扰乱百姓。
- 第七十五戒，不得为世俗人赋敛。
- 第七十六戒，不得为世俗人作礼头主。
- 第七十七戒，不得为人图山立冢宅起屋。
- 第七十八戒，不得上知星文，卜相天时。
- 第七十九戒，不得渔猎，伤煞众生。
- 第八十戒，不得淫佚佗妇，别离夫妻。
- 第八十一戒，不得视弟子偏颇，视弟子当如其子。
- 第八十二戒，不得夺人眼中火。
- 第八十三戒，不得驰骋世俗，吊问死丧宜密哀恤之。
- 第八十四戒，不得与俗人共相群党，更相嘲毁。
- 第八十五戒，不得败人成功，言是己德。
- 第八十六戒，不得择好室舍好床卧息。
- 第八十七戒，不得訾毁人物，以为恶。
- 第八十八戒，不得自举己物以为好。
- 第八十九戒，不得令惊怕，令人恐悸。
- 第九十戒，不得择人饮食，为好恶说。
- 第九十一戒，不得为人往来恶言。
- 第九十二戒，不得以县官中伤人民。
- 第九十三戒，不得预人间论议曲直事。
- 第九十四戒，不得强取人物，以为恩重。
- 第九十五戒，不得冬天发掘地中蛰藏虫物。
- 第九十六戒，不得轻行妄游，日月驰骋。
- 第九十七戒，不得妄上树探巢破卵。

第九十八戒，不得笼罩鸟兽。

第九十九戒，不得穿人家壁，窥看人家内妇女。

第一百戒，不得以秽污之物投井中。

第一百一戒，不得塞池井。

第一百二戒，不得欺诬老人。

第一百三戒，不得妄发读人书。

第一百四戒，不得诱枉良人为奴婢。

第一百五戒，不得积聚财宝，以招凶祸。

第一百六戒，不得贪恋居家。

第一百七戒，不得藏埋器物。

第一百八戒，不得破坏见钱。

第一百九戒，不得在平地然火。

第一百十戒，不得施枪棘著道中。

第一百十一戒，不得多言弄口舌。

第一百十二戒，不得以书字之物自投埋于厕前。

第一百十三戒，不得向佗神鬼礼拜。

第一百十四戒，不得多畜世俗占事之书及八神图，皆不得习。

第一百十五戒，不得与兵人为侣。

第一百十六戒，不得便溺生草上及人所食之水中。

第一百十七戒，不得与寡妇亲爱。

第一百十八戒，不得祠祀鬼神，以求侥幸。

第一百十九戒，不得为人多作忌讳。

第一百二十戒，不得自多忌讳。

第一百二十一戒，不得妄轻入江河中浴。

第一百二十二戒，不得妄假举人物，以为礼赂。

第一百二十三戒，不得为人保任券契、买卖田宅、奴婢之

事。

第一百二十四戒，不得与淫佚之家更相往来。

第一百二十五戒，不得炼毒药著器中。

第一百二十六戒，不得作恶厉声，常当喜笑。

第一百二十七戒，不得为人作辞讼，知人官事。

第一百二十八戒，不得求密谋之书读之。

第一百二十九戒，不得妄鞭打六畜群众。

第一百三十戒，不得无故走马驰车。

第一百三十一戒，不得以手团食，残啗众肴。

第一百三十二戒，不得惊鸟兽。

第一百三十三戒，不得向弟子评论人家食饮善恶。

第一百三十四戒，不得妄开决陂湖。

第一百三十五戒，不得自炫治病，病家自当来请求乃可往之。

第一百三十六戒，不得独行，行与人俱。

第一百三十七戒，不得为人谋合私利。

第一百三十八戒，不得广求宝物。

第一百三十九戒，不得带女人入山，皆应别歧异室。

第一百四十戒，不得叛本逐末。

第一百四十一戒，常当设供养，勿作难易。

第一百四十二戒，常当念清俭法，慕清贤鹿食牛饮。

第一百四十三戒，常当慎所投止，先行视之，勿所惊触。

第一百四十四戒，常当回向正一，不得俗事。

第一百四十五戒，常当立大意秉志，不得杂犯负违三尊教命。

第一百四十六戒，常当勤避嫌疑，不得欺父母，罔君师。

第一百四十七戒，常当勤求长生，昼夜勿常，不得懈慢。

第一百四十八戒，常当勤避恶处，勿贪禄苟荣利。

第一百四十九戒，常当勤服气断穀食，为不死道，不得贪于饮食。

第一百五十戒，常当勤避凶人，不得弃背朋友。

第一百五十一戒，不得每饮食从一边起，及叹吒言其美恶。

第一百五十二戒，每烧香当为万姓请愿，令天下太平，不得为已。

第一百五十三戒，凡人呼汝为祭酒，汝勿顾畏人，自作轻躁为百姓所不足。

第一百五十四戒，每得人食，常当祝愿，令主人得福，一切饱满。

第一百五十五戒，常时无事，不得多聚会人众，饮食狼藉。

第一百五十六戒，常时无事，不得妄受人礼敬。

第一百五十七戒，若入他处，必先问贤人善士，当亲依之，不得自负。

第一百五十八戒，若入他处，必先问其国所禁忌。

第一百五十九戒，凡入人家，必先问人家尊亲名讳。

第一百六十戒，凡至人家，不得希望主人饮食。

第一百六十一戒，不得与女人同行。

第一百六十二戒，不得与男女冥室中共语。

第一百六十三戒，凡衣物不得过畜三通。

第一百六十四戒，凡男女不得共坐食饮，交手授受。

第一百六十五戒，凡天时灾变，水旱不调，不得患厌及其评议。

第一百六十六戒，凡居世人并恶多善少，不得悒悒，道自护法。

第一百六十七戒，若人有骂汝，汝但听服，不得应答。

第一百六十八戒，若人侵谤汝，汝但当自启白大道，不得忧怖，以损精神。

第一百六十九戒，若人以恶向汝，汝重以善往报之，不得怨尤。

第一百七十戒，若人有持物与甲，而乙不得，不得便恨人不与己。

第一百七十一戒，若人为己声誉勿喜，为己毁辱亦不得嗔怒。

第一百七十二戒，若人为己杀鸟兽鱼等，皆不得食。

第一百七十三戒，若见杀禽畜命者，不得食。

第一百七十四戒，凡食物见膾败，不得食。

第一百七十五戒，凡不知所从来物，不得食。

第一百七十六戒，不得绝断众生六畜之命。

第一百七十七戒，若能食菜最佳，而不得食向王者。

第一百七十八戒，不得言己能，崇贤重圣，吾当度汝，汝遇真仙。

第一百七十九戒，若行无居家可投，便止宿树木岩石间，讽诵一百八十戒文，神自营卫汝三重，兵贼鬼虎不敢近汝，不得少有怠慢。

第一百八十戒，若行戒不犯，犯即能悔，改往修来，劝人奉受，念戒不念恶，广度一切，五拜神真，成汝清志，不得转退。

老君告弟子曰：“往昔诸贤仙圣皆从《一百八十戒》得道。道本无形，从师得成。道可师度，师不可轻。”弟子稽首再拜，受命而退。

### 老君说五戒

老君曰：是五戒者，持身法之根。善男子善女人，愿乐善法，受持终身不犯，是为清信，得经得法，永成道真。于是尹喜闻受既已，再拜而问：何故有五？

老君曰：五者摄一切恶，犹天有五精，以摄万灵；地有五行，以摄群生；人有五藏，以摄神明。戒者防也，防其失也。失而不防，则三涂盈逸，天人虚空，是故五也。尹喜曰：大乎戒也，何故失也？

老君曰：本得无失，而得，亦无所失（“本得无失”为前身过去已得此戒，故于今身而无失也。而今身有失者，前身为无戒，或有而违犯，故有失耳！虽有失而于今得受持者，则见生无失，后身复善。故“既失而得，亦无所失。”前颂云：世世受大福，即此义也。尹喜所问一失，而并举二失答之，是对其后问，顿显前身此生后身也。明人禀道，本自无失，义见经中）。

老君曰：五戒者，在天为五纬，天道失戒，则见灾祥；在地为五岳，地道失戒，则百谷不成；在数为五行，五数失戒则水火相薄，金木相伤；在治为五帝，五帝失戒，则祚夭身亡；在人为五脏，五脏失戒，则性发狂。

老君曰：是五，戒于此而顺于彼。故煞戒者，东方木也，受生气，尚于长养，而人犯煞，则肝受其害。盗戒者，北方水也，太阴之精，主于闭藏，而人为盗，则肾受其殃。淫戒者，西方金也，少阴之质，男女贞固，而人好淫，则肺受其疹。酒



戒者，南方火也，太阴之气，物以之成，而人好酒，则心受其毒。妄语戒者，中夹土德，而人妄语，则脾受其辱。五德相资，不可亏缺。

老君曰：此五失一，则命不成。是故不煞者乃至无有煞心，不盗者乃至无有邪取，不淫者乃至无有邪念，不饮酒者乃至无有势立，不妄语者乃至无有漏泄，如是可谓成也。

老君曰：戒中淫酒，能生五恶。戒者，戒恶也。世之男女欢淫，罹于骨肉。上慢下暴，毁灭天德，沉醉争讼，祸命辱身。妄诈欺诳，罔有所由。六亲相盗，非但于他。煞害众生，利养身口。如此等辈，见生受业，永坠诸苦，备加五恶，无有休限。如有出者，当在边夷，短命伤残，夫妇丑恶，及不贞廉，贫穷冻露，在处不安。如有财畜，为人所夺。言说不信，人所不亲。意虑愠塞，众所慢轻。

### 化胡经十二戒

老君曰：戒之不饮酒，常当莫念醉。五声味相和，混沌乱正气。

戒之不食肉，心当莫念煞，含血有形类，元气所养活。  
戒之勿骂詈，言当禁咒舌。骂人为自骂，咒人为自杀。  
戒之勿欺诈，言当有成契，欺人为自欺，华词为负誓。  
戒之勿为盗，见利当莫取。所利为赃罪，贪利更相害。  
戒之勿淫佚，常当与色绝。阴形相感动，子命为夭折。  
戒之勿慳吝，有物无过惜。富饶当施惠，慳贪后受厄。  
戒之勿刚强，当可自屈折，强者必先摧，刚者必先缺。

戒之勿视听，耳目当常闭，远视令精散，极听神溃乱。  
戒之勿言语，其口常当吸，语烦则费炁，多言则有失。  
戒之勿恚怒，心对当莫发，金木水火土，五行更相伐。  
戒之勿淫祀，邪鬼能乱真，但当存正念，道气自扶身。

### 修斋求道当奉十戒

- 第一戒者，心不恶妒，无生阴贼，检口慎过，想念在法。  
第二戒者，守仁不煞，愍济群生，慈爱广救，润及一切。  
第三戒者，守真让义，不淫不盗，常行善念，损已济物。  
第四戒者，不色不欲，心无放荡，真洁守慎，行无玷污。  
第五戒者，口无恶言，言不华绮，内外忠直，不犯口过。  
第六戒者，断酒节行，调和气性，神不损伤，无犯众恶。  
第七戒者，不得自人胜已，争竞功名，每事逊让，退身度人。  
第八戒者，不得评论经教，訾毁圣文，恭心承法，恒如对神。  
第九戒者，不得关乱口舌，评详四辈，天人咎恨，损伤神气。  
第十戒者，举动施为，平等一心，人和神穆，行常使然。

### 说戒喻

《海空智藏经》曰：“譬如有人持漆槃欲渡大海，尔时海中有一魔贼，即从此人乞索漆槃。其人听已，思惟念言：‘我今若与，必定没死。’于是答言：‘今者魔贼，汝宁煞我，漆槃叵得。’魔贼复言：‘汝若不能全与我者，恩惠其半。’是人犹故，心存不与。魔贼又言：‘汝若不能惠我半者，请愿与我三分之一。’是人又言：‘宁当俱死，终不与槃。’魔贼又言：‘唯愿大慈，哀愍我等，施我手宝。’是人思惟，即自念言：‘是我宝者，终不与汝。’魔贼又言：‘若复不能与我宝者，我今饥穷，众苦所逼，愿当济我，如微尘许。’是人复言：‘然我今日，方当渡海，不知东西近远云何？若当与汝，我今身者，大海之难，何由得往？又恐中路没水而死，恨复何及？’善男子、真人、童子，护持禁戒，亦如彼人护惜漆槃，不与魔贼。善男子、真人、童子，如是守护，微妙净戒，亦复如是。魔贼又言：‘汝当信我，终不相欺，但舍漆槃，护持馀槃，以是因缘，令汝安稳，得至彼岸。’其人尔时应自念言：‘我今宁没海中，终不毁槃。’魔贼又言：‘汝若不能毁漆槃者，可欲汝毁手上宝珍？以是因缘，令汝安稳，得至彼岸。’如是其人亦复不毁。魔贼又言：‘汝若不能舍手宝，亦可舍汝明珠，以是因缘，令汝安稳，得至彼岸。’尔时其人亦复不舍。尔时魔贼思惟良久，反面而退。于是其人乘漆槃行，得到彼岸。思惟念言：‘我今行者，魔贼来难。我执漆槃，坚固不舍，得到彼岸，当由我心牢固不舍。如是漆槃、手宝、明珠、足下金钁，护持坚固，起造成库，安者宝槃。善男子海空智藏，若有众生护持海空微妙净戒，坚持牢固，亦如其人护持宝槃，亦复如是矣。”

## 卷四十 说戒部三

### 说百病

老君曰：救灾解难，不如防之为易；疗疾治病，不如备之为吉。今人见背，不务防之而务救之，不务备之而务药之。故有君者不能保社稷，有身者不能全寿命。是以圣人求福于未兆，绝祸于未有。盖灾生于稍稍，病起于微微。人以小善为无益，故不肯为；以小恶为无损，故不肯改。小善不积，大德不成；小恶不止，以成大罪。故摘出其要，使知其所生焉，乃百病者也。

喜怒无常是一病。忘义取利是一病。  
好色坏德是一病。专心系爱是一病。  
憎欲令死是一病。纵贪蔽过是一病。  
毁人自誉是一病。擅变自可是一病。  
轻口喜言是一病。快意逐非是一病。  
以智轻人是一病。乘权纵横是一病。  
非人自是是一病。侮易孤弱是一病。  
以力胜人是一病。威势自↑胁是一病。  
语欲胜人是一病。贷不念偿是一病。  
曲人自直是一病。以直伤人是一病。

恶人自喜是一病。喜怒自伐是一病。  
愚人自贤是一病。以功自与是一病。  
名人有非是一病。以劳自怨是一病。  
以虚为实是一病。喜说人过是一病。  
以富骄人是一病。以贵轻人是一病。  
以贫妒富是一病。以贱讪贵是一病。  
谗人求媚是一病。以德自显是一病。  
败人成功是一病。以私乱公是一病。  
好自掩意是一病。危人自安是一病。  
阴阳嫉妒是一病。激厉旁悖是一病。  
多憎少爱是一病。评论是非是一病。  
推负著人是一病。文拒钩锡是一病。  
持人长短是一病。假人自信是一病。  
施人望报是一病。无施责人是一病。  
与人追悔是一病。好自怨诤是一病。  
骂詈虫畜是一病。蛊道厌人是一病。  
毁誉高才是一病。憎人胜己是一病。  
毒药鸩饮是一病。心不平等是一病。  
以贤喷噀是一病。追念旧恶是一病。  
不受谏喻是一病。内疏外亲是一病。  
投书败人是一病。谈愚痴人是一病。  
烦苛轻躁是一病。摘捶无理是一病。  
好自作正是一病。多疑少信是一病。  
笑颠狂人是一病。蹲踞无礼是一病。  
丑言恶语是一病。轻易老少是一病。  
恶态丑对是一病。了戾自用是一病。  
好喜嗜笑是一病。喜禁固人是一病。

诡譎谀谄是一病。嗜得怀诈是一病。  
两舌无信是一病。乘酒歌横是一病。  
骂詈风雨是一病。恶言好杀是一病。  
教人堕胎是一病。干预人事是一病。  
孔穴窥视是一病。借不念还是一病。  
负债逃窃是一病。背向异辞是一病。  
喜抵捍戾是一病。调戏必固是一病。  
故迷误人是一病。探巢破卵是一病。  
刳胎剖形是一病。水火败伤是一病。  
笑盲聋暗是一病。教人嫁娶是一病。  
教人撻捶是一病。教人作恶是一病。  
含祸离爱是一病。唱祸道非是一病。  
见便欲得是一病。强夺人物是一病。

老君曰：能念除此百病，则无灾累，痛疾自愈，济度苦厄，子孙蒙佑矣。

### 崇百药

老君曰：古之圣人，其于善也，无小而不得；其于恶也，无微而不改。而能行之，可谓饵药焉。所谓百药者：

体弱性柔是一药。行宽心和是一药。  
动静有礼是一药。起居有度是一药。  
近德远色是一药。除去欲心是一药。  
推分引义是一药。不取非分是一药。  
虽憎犹爱是一药。好相申用是一药。

为人愿福是一药。救祸济难是一药。  
教化愚蔽是一药。谏正邪乱是一药。  
戒敕童蒙是一药。开导迷误是一药。  
扶接老弱是一药。以力助人是一药。  
与穷恤寡是一药。矜贫救厄是一药。  
位高下士是一药。语言谦逊是一药。  
恭敬卑微是一药。不负宿债是一药。  
愍慰笃信是一药。质言端悫是一药。  
推直引曲是一药。不争是非是一药。  
逢侵不鄙是一药。受辱不怨是一药。  
推善隐恶是一药。推好取丑是一药。  
推多取少是一药。称叹贤良是一药。  
见贤自省是一药。不自彰显是一药。  
推功引苦是一药。不自伐善是一药。  
不掩人功是一药。劳苦不恨是一药。  
怀实信厚是一药。覆蔽阴恶是一药。  
富有假乞是一药。崇进胜己是一药。  
安贫不怨是一药。不自尊大是一药。  
好成人功是一药。不好阴私是一药。  
得失自观是一药。阴德树恩是一药。  
生不骂詈是一药。不评论人是一药。  
好言善语是一药。灾病自咎是一药。  
苦不假推是一药。施不望报是一药。  
不骂畜生是一药。为人祝愿是一药。  
心平意等是一药。心静意定是一药。  
不念旧恶是一药。匡邪弼恶是一药。  
听谏受化是一药。不干预人是一药。

忿怒自制是一药。解散思虑是一药。  
尊奉老者是一药。闭门恭肃是一药。  
内修孝悌是一药。蔽恶扬善是一药。  
清廉守分是一药。好饮食人是一药。  
助人执忠是一药。救日月蚀是一药。  
远嫌避疑是一药。恬憺宽舒是一药。  
尊奉圣文是一药。思神念道是一药。  
宣扬圣化是一药。立功不倦是一药。  
尊天敬地是一药。拜谒三光是一药。  
恬憺无欲是一药。仁顺谦让是一药。  
好生恶杀是一药。不多聚财是一药。  
不犯禁忌是一药。廉洁忠信是一药。  
不多贪财是一药。不烧山木是一药。  
空车助载是一药。直谏忠信是一药。  
喜人有德是一药。赴与穷乏是一药。  
代老负担是一药。除情去爱是一药。  
慈心愍念是一药。好称人善是一药。  
因富而施是一药。因贵为惠是一药。

老君曰：此为百药也。人有疾病。皆有过恶。阴掩不见，故应以疾病。因缘饮食、风寒、温气而起。由其人犯违于神，致魂逝魄丧，不在形中，体肌空虚，精炁不守，故风寒恶炁得中之。是以圣人虽处幽暗，不敢为非；虽居荣禄，不敢为利。度形而衣，量分而食。虽富且贵，不敢恣欲；虽贫且贱，不敢犯非。是以外无残暴，内无疾痛，可不慎之焉！



### 初真十戒

天真言：出家超俗，皆宿有良契，故能独拔常伦。若慎终如始，精至修练，当福延七祖，庆流一门。所谓九层之台，起于累土，千里之行，始于足下，乃至功成德就，白日升天。于是乎，开度之时，宜受初真之戒。其戒有十尔，当受之。

第一戒者，不得阴贼潜谋，害物利己，当行阴德，广济群生。

第二戒者，不得杀害含生，以充滋味，当行慈惠，以及昆虫。

第三戒者，不得淫邪败真，秽慢灵气，当守贞操，使无缺犯。

第四戒者，不得败人成功，离人骨肉，当以道助物，令九族雍和。

第五戒者，不得谗毁贤良，露才扬己，当称人之美善，不自伐其功能。

第六戒者，不得饮酒过差，食肉违禁，当调和气性，专务清虚。

第七戒者，不得贪求无厌，积财不散，当行节俭，惠恤贫穷。

第八戒者，不得交游非贤，居处秽杂，当慕胜己，栖集清虚。

第九戒者，不得不忠不孝，不仁不信，当尽节君亲，推诚万物。

第十戒者，不得轻忽言笑，举动非真，当持重寡词，以道德为务。

能保此十戒，始终无亏，则天道佑之，神明辅之，欲求凶横，不可得也。若朝为夕替，泄慢正真，自贻其殃，无怨咎于高灵也。凡初入道之子，可不勸之。

### 清戒

太玄部卷第八老君传授经戒仪注诀云：凡受戒及经毕后，月晦日半夜，不可不斋。斋则清戒。清戒竟夜，诵之百遍千遍，限外无数。未堪如此者，不可减九遍。他日斋静行来，出入得诵，更不必斋。时宜谘师访友，思而行之，不须高声，心口相知，在人众中，勿发于口，审能感通上圣。

《正一法文》下卷云：凡为道民，便受护身符及三戒，进受五戒、八戒，然后受箓。从前未受戒者，受箓之后，依次受之，诵习通利，恒存思行持意不谬忘，则不犯科。未受录之时，无所呼召。受录已后，动静呼神。不行戒者，呼之不至。破戒之人，吏兵远身。还上天曹，考官便逮。致诸厄疾，公私灾横，轹轳衰否，所作不成。成功立德，舍暗入明，施善褫恶，以吉除凶，要在行戒，神即佑之。戒有别文，精详修习。或有不解，或有遗忘，或有谬误，或冒禁故，或尊上逼迫，或畏死犯之，皆是招愆，悉名破戒，即应忏悔，首谢自新也。凡违戒者，背负鞠言，协道信邪，杂事佛俗，此为不专，中心怀贰，愚迷犹豫，惑障缠深。师三诲之，必能改革，守一不回，召神有效。三诲不悛，是为叛道。乖逆师尊，法应夺箓。入佛奉俗，及元

所事，师慈愍之，不追咎责。怨怼事他，弃本逐末，虽名奉道，实犯正科，诸官不得容受，积久知悔，更立功乞还，许依听升迁矣！

### 太玄都中宫女青律戒

凡修上清之法，不得北向及本命之上二处便溺，触忤玉晨，秽慢本真。五犯不得入仙也，十犯被考左官，死入地狱三涂之中，万劫还生不人之道。

凡上学之士，受三天正法，四明之科，佩带真文，出入三光，及宜卧息不得露头，不著巾帽，及脱衣露形，毁慢身神，耻辱真文，令真灵远逝，空尸独在。三犯不得入仙也，五犯死入地狱，万劫还生不人之道。

凡上学之士，受三天正法，四极明科，妄入殄秽，哭泣悲泪，吊问死丧。五犯伐功断事，不得入仙也。十犯死入地狱，万劫还生不人之道。

### 太上黄素四十四方经戒

凡道士存思上法，及修学太一事，皆禁见死尸血秽之物。当以真朱一铢，散入水中，因以洗目漱口，并洗手足，微咒曰：

三元上道，太一护形。司命公子，五神黄宁。血尸散灭，

凶秽沉零，七液缠注，五脏华生。令我仙度，长身利贞。

凡道士受学长生法，不得称死事。称死事者，则生气变动，不居常宅；故炁运入，魂神离弃。是以恶炁游尸陈，其间孔矣。持病将死之渐也。

《真一条检经》云：夫立功德者，不得触禁犯忌，当与身神相和，不可更相克贼。更相克贼，则生灾起祸也。夫消灾散祸，不得用本命行年，如用本命行年，贼害汝身。

### 金书仙志戒

夫学仙之人，勿北向便曲，仰视三光。勿北向理发，解脱衣裳。勿北向唾骂，犯破毁王。破谓岁下辰也，王谓王炁之所在也。勿怒见日月星辰，勿以八节日行威刑，勿以月朔日怒恚，勿以三月三日食百草心，勿以四月八日杀草伐树，勿以五月五日见血物，勿以六月六日起土，勿以七月七日思存恶事，勿以八月四日市履屐附足之物，勿以九月九日起床席，勿以十月五日罚责人也，勿以十一月十一日不沐浴，勿以十二月三日不斋烧香念仙也。诸如此忌，天人大禁，三官告察，以是为重罪矣。或令人三魂七魄流竟，或胎神所憎，三官受恶之时也。是以恶梦交于丹心，妖魅乘其朱阙，精液触犯神真，烦恼流变多禁，莫识其术。子能奉修，则为仙才，不奉天禁，则为伤败。

受法之身，不入产妇之户及不见尸者，谓异处断隔于来往，则乃朝礼无废，不拘日数之限。若家无隔异者，四十五日外，方得朝礼。

《正一法文》下卷云：协道信邪，此为不专，中心怀贰，

愚迷犹豫，是为叛道。乖逆师尊，法应夺算。

《太上黄素四十四方经》云：凡修太一之事及行上法存神之道，慎不可见尸及血秽之物。见一尸则一年不得行事，又却倾一年之功。然此帝一之科常，却罚于既往，又进塞于将来。若一年三见尸者，则罚功断事各三年也。若过见二十四尸者，皆不得复行太一，以求仙也。

凡修受上法及雌一太一之事者，兆身中三魂五神之炁，常熏于巾服之中；七魄九灵馀精，常栖于履屐之下。是以道士学长生不死，不得杂席而寝；故衣褐之服，不借非已之炁，履屐之物，常恶土秽之粪，亦不故使杂人犯触，以惊三魂。

凡道士吐纳和炁，存神服霞，修求长生之事，慎不可食五荤之菜，及为酒色之病败也。是故古之神人云：五荤为伐藏之斧斤，酒色为丧身之棺廓。夫能断斧斤之所伤，塞棺廓之死宅者，然后可以陟长生之途径，渐神仙之蹊路乎！

凡存修太一之事，欲有所礼愿，慎不可叩头。叩头者，则倾九天，动千真，神官回覆，泥丸倒悬，天帝号于上府，太一泣于中田。数如此者，则存念无益，三真弃宫，七神漂散，玄宅纳凶，是为太一五神之至忌也。故古之真人，但心存叩头，运精感而行事，不因顛顛以祈灵也。

凡修行太一之事，真人之道，不得有所礼拜。礼拜亦帝君、五神之所忌也。若有所精思行礼愿之时，但心拜而已，不形屈也。

### 上清大洞戒

凡修雌一之法，不得哀哭。哀哭感则五神号于上府，太一泣于中田，神丧精亡，灵真去身，空尸独立，复何仙冀哉？不得见尸，一年不得行事，却倾一年之功。若一年见三尸者，则三年不得行事，亦却三年之功。见二十四尸，子失道矣。前文太素亦与此大同小异矣。亦不得言称死事，恚怒愿己之死，言满四十，不得为真人，以为弃生之罪，三年身亡灭矣。不得衣五色衣裳，敷华好服则真灵去身，淫邪内发驰心，猖獗潜逸，赤子飞飚，长离玄宫，破形解骸，身死名灭。若衣服，勿杂色兰布之服，可以终日咏诵洞章，奚求不得乘云驾龙，逍遥太极。

### 灵宝戒

《真仙内科》云：玄功之人，常布衣草履，不得荣华之服，犯者失道。祖父母、己父母、同法可拜，不同法不得拜，叔伯以下，不同法亦不得拜，犯者身亡。父母吉会，不得预坐。父母兄弟妻子同契，虽有骨肉之亲，皆不得同床而坐，同盘而食。其法不同，皆为尸秽，犯者失道。夫妻不得同室而寝，若邪念在心，长失道矣。自非同盟，不得同室而寝。自非同契，不得同床而坐，同盘而食，同衣而服，犯者失道。

凡身荷仙官灵篆，不得妄拜妄哀，不得妄哭。凡于父母、国君、官长二千石刺史三，公皆设敬，不得即误礼拜。

### 受持八戒斋文

刘宋朝陆先生修静上启：

元始天尊，无极大道，感应灵圣，一切神明。今有善男子、善女人等，求欲受持八戒清斋一日一夜，用以检御身心，灭诸三业罪恼者。故《洞神经》第十二云：夫斋以齐整身心为急。身心齐整，保无乱败。起发多端，大略有八：

一者，不得杀生以自活。

二者，不得淫欲以为悦。

三者，不得盗他物以自供给。

四者，不得妄语以为能。

五者，不得醉酒以恣意。

六者，不得杂卧高广大床。

七者，不得普习香油，以为华饰。

八者，不得耽著歌舞，以作倡伎。

今日善男子、善女人等人，若能不犯此之八事，则八败无从以起，则八成自然而立。立久不失，则延年保命，神通洞达。是故斋者，受持八戒，思真行道，通而无穷，显验必速，皆如所期也。今请受既毕，再拜起，奉戒而退。

## 卷四十一 杂法部

### 沐浴

《太上素灵经》云：太上曰：兆之为道，存思《大洞真经》，每先自清斋，沐浴兰汤。

《太上灵宝无量度人上品妙经》云：道言，行道之日，皆当香汤沐浴。

《黄篆简文经》云：奉经威仪，登斋诵经，当沐浴以精进。若神气不清，则魂爽奔落。

《紫虚元君内传》云：夫建志内学，养神求仙者，常当数沐浴以致灵气，玉女降祥，不沐浴者，故气前来，三宫秽汗。

《仙公请问经》云：经湾不以香水洗沐，则魂魄奔落，为他鬼所拘录。

《三元品戒》曰：常以正月十五日、七月十五日、十月十五日、平旦、中夜沐浴，东向以杓回香汤，左转三十二遍，闭目思日光在左目上，月光在右目上，五星缠络头上，五云盖体，四灵侍卫。讫，便叩齿三十二通，祝曰：

天澄气清，五色高明。日月吐晖，灌我身形。神津内澳，香汤炼形，光景洞曜，焕映上清。气不受尘，五府纳灵。罪灭三涂，祸消九冥，恶根断绝，福庆自生。今日大愿，一切告盟。



身受开度，升入帝庭。毕，仰咽液三十二通止，便洗沐。毕，冠带衣服，又叩齿十二通，祝曰：

五浊以清，八景以明，今日受秬，罪灭福生。长与五帝，齐参上灵。祝毕，便出户入室，依法行道。夫每经一殄，皆须沐浴，修真致灵，特宜清静，不则多病。经真官，计人罪过。沐浴香汤。用竹叶、桃枝、柏叶、兰香等分内水中，煮十数沸，布囊滤之去滓，加五香，用之最精。

《太丹隐书洞真玄经》云：五香沐浴者，青木香也。青木华叶五节，五五相结，故辟恶气，检魂魄，制鬼烟，致灵迹。以其有五五之节，所以为益于人耶。此香多生沧浪之东，故东方之神人，名之为青水之香焉。又云：烧青木、薰陆、安息胶于寝室头首之际者，以开通五浊之臭，绝止魔邪之炁，直上冲天四十里。此香之烟也，破浊臭之炁，开邪秽之雾。故天人玉女，太一帝皇，随香炁而来，下憩子之面目间焉。烧香夜，特亦常存而为之。

《黄气阳精三道顺行经》云：上学之士，服日月皇华金精飞根黄气之道，当以立春之日清朝、煮白芷、桃皮、青木香三种，东向沐浴。

《西王母宝神起居玉经》云：数澡浴，要至甲子当沐浴，不尔，当以几（音羈）月日旦，使人通灵浴。不患数，患人不能耳。荡练尸臭，而真气来入。

又云：太上九变十化。

《易新经》曰：若履殄秽及诸不净处，当洗澡浴，盥解形以除之。其法用竹叶十两、桃皮削取白四两，以清水一斛二斗于釜中煮之，令一沸出，适寒温，以浴形，即万殄消除也。既以除殄，又辟湿痹、疮痒之疾。且竹虚素而内白，桃即却邪而折秽，故用此二物以消形中之滓浊也。天人下游既返，未尝不

用此水以自荡也。至于世间符水，祝漱外舍之，近术皆莫比于此方也。若浴者盖佳。但不用此水以沐耳。

《三皇经》云：凡斋戒沐浴，皆当盥汰五香汤。五香汤法，用兰香一斤，荆花一斤，零陵香一斤，青木香一斤，白檀一斤。凡五物切之，以水二斛五斗煮取一斛二斗，以自洗浴也。此汤辟恶，除不祥炁，降神灵，用之以沐，并治头风。

《太上七晨素经》云：每以月一日、十五日、二十三日，一月三取三川之水一斛（一经云，三川水取三江口水。一经云，取三井水亦佳），鸡舌、青木香、零陵香、薰陆香、沉香五种合一两，捣内水中煮之，水沸便出，盛器之中，安著床上，书通明符著中以浴，未解衣，先东向叩齿二十四通，思头上有七星华盖，紫云覆满一室，神童散香在左，玉女执巾在右。毕，取水含仰漱左右三通，祝曰：

三光朗照，五神澄清。天无浮翳，地无飞尘。沐浴东井，受胎返形。三练九戒，内外齐精。玉女执巾，玉童散灵。体香骨芳，上造玉庭。长保元吉，天地俱并。毕，脱衣东向，先漱口三过，次洗手面，然后而浴也。浴毕，转西向阴祝曰：

浣浊除尘，洗秽返新。改易故胎，永受太真。事讫，取符沉著井中。

天帝君沐浴上法，受之元始天王。按法修行，体香骨芳，得为帝皇。传付天帝君修行，得流精紫光，覆冠帝身。天帝君传南极上元君。上元君修行，得流芳上彻，香闻三清。传付太微天帝君修行，五方自生神芝，来会帝房。传付上圣金阙君，金阙君修行，面生玉泽，体发奇光。传付上相青童君，青童君修行，香充三清，光映十方。此之妙道，非世所行，秘在南极紫房之内。有分应仙，当得此经，按文修行三元紫房，体生玉泽，面发奇光，神聪奇朗，究彻无穷，能行其道，白日登晨。

《外国放品经》云：沐浴金门，冠带神辉，学同天人，寿极二仪。高上合欢，万仙总归，正虚结符，永无倾危。

### 沐浴七事获七福

《沐浴身心经》云：沐浴内净者，虚心无垢；外净者，身垢尽除。存念真一，离诸色染，证入无为，进品圣阶，诸天纪善，调汤之人功德无量。天真皇人复白。

天尊未审五种香汤，获七福因，何者为是？何所修行？有何胜业？愿更开晓。天尊答曰：五香者，一者白芷，能去三尸；二者桃皮，能辟邪气；三者柏叶，能降真仙；四者零陵，能集灵圣；五者青木香，能消秽召真。此之五香，有斯五德。七福因者，一者上善水，二者火薪，三者香药，四者浴衣，五者澡豆，六者净巾，七者蜜汤。此七福因，能成七果：一者常生中国，为男子身；二者身相具足；三者身体光明，眼瞳彻视，四者髭发紺青，圆光映项；五者唇朱口香，四十二齿；六者两手过膝；七者心聪意慧，通了三洞经法。

### 沐浴吉日

正月十日，沐浴，令人齿坚。

二月八日，沐浴，令人轻健。

三月六日，沐浴，令人无厄。

四月四日，沐浴，令人无讼。

五月一日，沐浴，令人身光。

六月二十七日，沐浴，令人轻健。

七月二十五日，沐浴，令人进道。

八月二十二日，沐浴，令人无非祸。

九月二十日，沐浴，令人辟兵。

十月十八日，沐浴，令人长寿。

十一月十五日，沐浴，令人不忧畏。

十二月十三日，沐浴，得玉女侍房。

《洞玄真一五称符上经》云：黄帝曰：天老以小兆未知天炁，故受兆《灵宝五称符经》。按东井壬子清洁吉日，沐浴斋净，受灵宝符。

正月十日人定时。

二月八日黄昏时。

三月六日日入时。

四月四日日昃时。

五月一日日中时，二十九日巳时。

六月二十七日食时。

七月二十五日朝食时。

八月二十二日日出时。

九月二十日鸡三鸣时。

十月十八日鸡初鸣时。

十一月十五日过夜半时。

十二月十三日夜半时。此皆当天炁月宿东井时，与神仙合会，此日兰汤沐浴已也。

《老君河图修身戒》云：

正月十日人定时沐浴，除过无极。

二月八日黄昏时沐浴，除过二千。

三月六日日入时沐浴，除过三百。

四月十三日夜半时沐浴，除过二十。

五月一日日昃时沐浴，除过二十。

六月二十七日日中时沐浴，除过六百六十。

七月七日日中时沐浴，除过七百三十。

八月二十五日人定时沐浴，除过七十。

九月二十日日出时沐浴，除过九百六十。

十月二十八日平旦时沐浴，头白返黑，寿同仙人，除过无极。

十一月四日鸡鸣时沐浴，除过二十三。

十二月三十日夜半时沐浴，除过三千。

《洞玄二十四生图经》云：天河灌东井，石景水母精，圆光拂灵曜，玄晖莹高明。元始披重夜，天人逐月生。沐浴澜池上，龙负长更瓶。金童丽香华，玉女流五星。冠带濯玉津，炼度五仙形。体香万神降，乘景登高清。

《洞真太上黄素四十四方经》云：凡存念上道，兄除三尸之时，常当采取白芷草根及青水香，合以东流水，煮取其汁，以沐浴于身，辟诸血尸恶炁。可和香烧之，以致神明。若无青木香者，亦可单用白芷。

清虚真人曰：每至甲子，必当沐浴。

紫微夫人曰：沐浴不欲数者，魄之性也。性违魄返，是炼其浊秽，魄自亡矣。

《真诰》云：南岳夫人曰：浴不厌数，患人不能耳，数则荡炼尸臭，而真炁来入。

《金房度命上经》云：修度命回年之道，每以六癸之日，取北泉之水一斛，就本命日取白芷、桃皮、柏叶各一斤，合煮

令沸，正中而浴。临浴之时，向本命叩齿九通，思玉童三人执巾在左，玉女二人擎香在右，紫云华盖覆到前後，微祝曰：

天地洞清，洗秽除尘。炼化九道，返形太真。百关纳灵，节节受新。清虚监映，内外敷陈。日吉时良，度命回年。玉童玉女，为我执巾。玄灵紫盖，冠带我身。使我长生，天地同根。毕，便浴。浴讫，还入室，东首而卧。取粉自饰，通身令币，仍摩两掌令热，拭面二七，又微祝曰：

天朗炁清，我身已精。尘秽消除，九孔受灵。使我变易，还反童形。引骨更生，体映玉光，面发金容。

《洞神经》第十二云：上元斋者，用云水三斛，青木香四两，真檀七两，玄参二两，四种合煮，一沸，清澄适寒温，先沐後浴。此难办者，用桃皮、竹叶剉之，水一二斛随多少，煮一沸，令有香气，人人作浴，内外同用之，辟恶，除不祥。沐浴室令香净，勿近圉溷，勿逼井灶，勿侵堂坛，勿用秽地，故厕牢狱，尸枢、堂居，皆不可用。

### 栴沐浴

道书云：凡道士理发将髻及沐头将散发之时，先叩齿七通，乃祝曰：

太帝散华，玄归大神。今日元吉，理发沐尘。辟恶除患，长生神仙。毕，乃髻之。竟，又叩齿七通，都毕。此名为太帝散华理发内法。令人终年不病，耳目聪明，头脑不痛。

凡道士浴身及洗手面之时，先临水叩齿三通，乃祝曰：

四大开朗，天地为常。玄水澡秽，辟除不祥。双童守门，

七灵安房。云津炼灌，万炁混康。内外利贞，保兹黄裳。祝毕，又叩齿三通，乃洗手面。此名为澡秽除凶七房祝法。常能行之者，使人神明血净，辟诸凶气。

### 解秽（并叙）

夫神气清虚，真灵所守。身心混浊，邪气害人。入靖思真，要须清洁。不履众恶，吉祥止焉。道士女官，受法已後，特忌殄秽。诸不宜者，不在履限。

《玄都律》曰：民家殄污，不过晦甌不得入，治哭亦三日秽。三年之丧，未滿百日，并不得书符奏章，朝真入靖。违者，夺箒一纪。

太极法师曰：道士女官，先无殄秽，哭亦不殄，唯须佩箒者身。或被县官系闭出后，香汤沐浴解殄秽。三日已后，始得入靖。夫殄忌临尸，入产妇室及丧家斋食。产家三日并满月及见丧车、灵堂、六畜、生产、抱婴儿、胎秽、哭泣，不得言死亡事及不祥事。午前忌之，不得见血肉、死禽兽。寝卧栲发、饮食、便曲，并不得向北，便曲不得视三光。餐十二辰肉、鱼臊、五辛、并忌。若妇人有经通，不得近亦不得与同房寝卧，并造醢食及近道场。如梦泄亦须解秽。若见死枢丧车，速存火从自己心中直出，往烧之赫然，死枢丧车并为灰烬，便想烈风吹之。又闭目内视，令火自焚，举体洁白，见秽气消灭即解矣。又存一真人头戴箒中九凤真冠，口中含水喷洒，秽亦消解。乃朱书解秽符（在符本经）。书时三叩齿，称合明天帝曰，闭气书之。置水中，以刀子左搅水三币，想见北斗星在水中，祝曰

:

百殄之鬼，速走万里，不走斩死。西方白童子，急急如律令。则含水喷洒，秽气都散。岁除日不浴，元日不沐，寻常五日一浴，十日一沐（皆用桃竹）。

### 朝礼

《朝真仪》云：每月一日、十五日、三元日、庚申、甲寅、甲子、八节、三会、本命等日，并须朝礼。若与戊辰、戊戌、天父、天母杀害日，常日杀同者，即不可为之。凡朝礼先一日，以桃汤澡浴如法（在解秽篇），并不得食葱、薤、韭、蒜、乳酪等。至其日，更洁衣服，执香炉，至靖户外，叩齿三通，微祝曰：

守靖玉女，四明功曹。今欲朝礼，愿通达上闻。便开门先进左足，至香案前置炉案上，执简平立，临目叩齿三通，存思玉童玉女在香案左右，即长跪三，捻香。讫，起，平立，又微偻身发炉，祝曰：

太上玄元五灵老君，当召功曹使者，左右龙虎君，捧香使者，三气正神，急上关启三天太上玄元道君。臣今正尔烧香朝真，愿得九天正真生气降臣身中，令臣所启，速达迳御太清紫微宫真玄元大道君（凡前）。毕起，存心若至金阙前，再拜讫。又长跪，叩齿二十四通，祝曰：

正一盟威，弟子某甲稽首，归身，归神，归命。太清玄元无极大道太上老君、太上丈人、天帝君、天帝丈人、九老仙都君、九炁丈人、百千万重道炁，千二百官君，太清玉陛下，臣



幸资夙庆，得奉道真，窃不自揆，辄希长生，誓已立功修德，乞愿赦臣积生已来至于今日所犯元恶重罪，咸赐荡除，许臣自新，补复前咎，令九祖父母幽魂苦爽皆下拔九幽，上升天衢，令臣修道，克合诚精，削除死籍，注上玄策。阖门之内，共保元吉，生成之惠，实在于此。臣某叩头（便以简即叩头）谨启（若更有他事任随意言之，但不得繁矣）。讫，又再拜，便于礼处伏地，以简叩头搏颊。讫，复炉祝曰：

香官使者，左右龙虎君，捧香使者，三气正神，当令朝真之所，自然降金丹玉芝之英，百灵众真交会在香案前，令臣修道，克合至真，阖门受福，天下蒙恩，仙童玉女，侍卫香烟，传奏所启，径御

至真帝前（烧香时勿反顾，顾则忤真气致哀应，又勿器喧，使至平明须了矣）。

### 太素真人隐朝礼愿上仙法

受大洞上诀，施行雌一，读《太丹隐玄五晨金华经》者，常月密朝太素三元君，以正月十日、二月九日、三月八日、四月七日、五月六日、六月五日、七月四日、八月三日、九月二日、十月十一日、十一月十二日、十二月十三日夜，于寝静之室，烧香北向，心存三君，再拜。讫，坐卧任意，稽首心祝曰：

谨启太上大道高虚玉晨太素紫宫三元帝君，中央黄老、无英、白元、玉皇大帝、五老高真、太极皇精玄皇玉君，（某是）大洞三景弟子，谨以吉日之夜，天关九开之间，上闻太上、太

素、三元、玉皇真君前，乞得长生世上，寿无亿年，时乘黄晨绿盖龙辇，上诣紫庭，役使万神，侍卫四明太素帝君。毕，常当行之，勿令人知也。此太极真人隐朝三元夜礼愿之道也。昔常安季仲子不知他道，又亦不施行太丹之事，三元之法，唯偶得此隐朝之道，按行之三十年，得乘云驾欵，升入玄洲。仙人王履冰、赵双成、范叔友、管平阿、李明延、安生之辈，皆得此道而升昆仑之房，或在神洲，或在三玄宫也。

### 朝极

旨曰：月用一日（一年有四日，不同常步日及上生日。不同者及同者并依常法竟，各依时王朝。若甲子日、八节日、与四时同者，亦止一步而为二朝，以王星为始。若欲各步各朝，以午时朝极，子时朝中元）。旨曰：春（正月一日、二月二十日、三月二十七日）。旨曰：步纲毕，正身入斗魁中，东向，视岁星，象在肝中（步毕，仍于纲上左回身，左足先下，入魁中，对天枢下阴精弼星之间，东向，右足并立，闭气临目，存岁星精象，圆如珠，青光照洞，从天来下，飞入我口，小开口受而吞之，迺在肝中，内外合映，良久乃通气开目。馀星皆仿此，各依本色及所生之藏）。旨曰：再拜（好安处两足拜跪，勿令犯诸星纲。跪长极，并当以膝纲上，不尔不得也）。旨曰：心祝曰：

太岁元神，木公九元，阳华玄气，尽来入身。旨曰：祝毕，叩齿九通（毕起左回登天枢而出，若值六甲日，仍左行步三台。非六甲日，左行诣五星纲口，馀四朝仿此）。旨曰：夏（四月

八日、五月六日、六月十八日)。旨曰：正身入斗魁中，南向视荧惑星，象在心中，再拜跪，心祝曰：

南上元神，火阳四光，仲离丹水，来入丹房。旨曰：祝毕，叩齿九通。毕（起出）。旨曰：秋（七月七日、八月二十日、九月九日）。旨曰：正身入斗魁中，西向，视太白星，象在肺中，再拜跪，心祝曰：西上太玄，金精七通，玉元二帝，气回胎脑。旨曰：祝毕，叩齿九通。毕（起出）。旨曰：冬（十月五日、十一月三日、十二月六日）。旨曰：正身入斗魁中，北向，视辰星，象在肾中（十月、十一月在左肾，十二月在右肾），再拜跪，心祝曰：

北玄紫辰，金车水元，龙胎化灵，来入一身。旨曰：祝毕，叩齿九通毕（起出，甲子日、八节日，正身入斗魁中弼星，後入阴精弼星中间，对向真人星，令得拜跪）。旨曰：向真人星，存镇星，象在脾中，再拜跪，心祝曰：

太极九真，流康阴根，飞一却盖，来入泥丸。旨曰：祝毕，叩齿九通。毕（起出。若值六甲日，即步三台。非六甲日，乃便步五星）。行之十四年，七星之精下化成神人，并乘流零八景，丹玄斑云，俱来诣子，拜子仙官，授子真符，道成皆登上清，升太微宫（注云：五岳君、四极真人、太极真人，各有献送，具在经文）。

### 朝玉晨君

正月四日、二月八日、三月十五日、四月八日、五月九日、六月六日、七月七日、八月八日、九月九日、十月五日、十一

月三日、十二月十二日。

太上大道玉晨君常以此日中登玉霄琳房，四眇天下，有志节远游之心者，子至其日平旦日出时，北向再拜，亦可于中静（出庭坛，烧香北望，乃拜雨雪于静室中），自陈本怀所愿曰：粪土小兆男某谨上启：

太上玉晨玄皇大道君，某以思真愿仙，归心奉朝，伏希眇鉴，矜允诚请，原赦某历劫之殃考，一生之罪咎，学道修身，克蒙感遂，长生度世，登侍霄房。毕，咽液三十过（伏席叩转，使心形慊极，良久，起跪，咽液也）。

### 朝青童君

东海青童君，常以丁卯日登方诸东华台四望，子以此日常可向日再拜，日出行之（至其日时，出于庭坛，施香案，如法乃拜。若所居不早见日者，当视东方昕昕然，即可为之。其方诸山既在会稽东小近南。若夏月，日出东北，乃不可每正向日出，要当向山所在为之。值雨雪则于静室中存而朝之）。长跪曰：

粪土小兆男生姓名谨上启：

九微太真玉明青保王金阙上相大司命高晨师东海玉明青华小童道君，某以尘浊罪秽，愿乐清虚，乞沾所望，仰蒙济拔。所以幽明考谴，并希赦荡业，预仙阶，侍谒灵景（因伏席叩转，使心形慊极，又再拜），可因此以服日精（九月巳后，正月巳前，日出同在其方。非其月则拜毕转身正对日，行诸服飞华、水母、奔日、五帝等法，亦可正尔吸日精霞，九咽之）。

### 隐朝胎元法

学生之法，不可泣泪及多唾泄，此皆为损液漏津，使喉脑大竭。是以真人道士常吐纳咽沫，以和六液。常以本命之日向其方面叩齿三通，心存再拜，而微祝曰：

太一镇生，三炁合真。室胎上景，母玄父元。生我五藏，摄我精神，下灌玉液，上朝泥丸。夕炼七魄，朝和三魂，右命玉华，左啸金晨。令我神仙，役灵使神，常保利津，飞行十天。祝毕，又心拜四方，叩齿三通。此名为太山上咒生隐朝胎元之道。常能行之，令人魂魄保守，长生神仙。

### 朝礼九天魂魄帝君求仙上法

常以月三日、九日、十六日平旦，向日九拜九揖，亦可心拜，仰头，叩齿二十四通，微祝曰：

天魂九缠，上帝尊神。太阳日精，金门变仙。小兆壬甲敢奏微言，今日上告，八愿开陈，请施礼愿，仰希玄恩。苍龙朱凤，策辔紫轩。五云交阴，六炁扇尘，高上曲眄，三元降真。二景缠络，我道欣欣，心朗耳聪，目明色鲜。体轻骨升，面发华颜，羽服生形，飞造帝晨。毕，仰天引日精四十五咽止。行此三年，目明彻视，洞睹无穷，面有金容，体生玉津。九年能行，身外无影，飞空玄虚也。若天阴无日，于密室心存行之，

亦感于自然也。

又以月五日、十五日、二十五日，此三日皆以人定时向，月九拜九揖，亦可心拜，仰头向月，叩齿十六通，祝曰：

魂精魄灵，九天同生，石景水母，太阴朗明。徘徊月宫，冶炼金庭，二景合原，上吉时清。八会交带，我愿克成，愿光愿容，愿鲜愿荣，愿神愿仙，飞行上清。毕，仰引月精四十五咽止。

魂精帝君，即九天司命，部九天之魂精，下统後学箒命也。帝君镇在日门金庭之内。魄灵帝君即九天丞相，主九天之魂灵，下统后学之录籍也，镇在月宫琳琅之都。

凡修上道，旦夕坐起卧息，常当存念，日在头上，月在口中，魂精帝君在泥丸，魄灵帝君在明堂。心存目想，常使彷彿，将其逾年，真形见也，青白分也。九年能乘空飞行，上登晨灯之馆，游宴虹映之山也。

朝太素三元君（受行先进洞房之事者依此朝。若未修其道者则不得为之）

正月九日、二月八日、三月七日、四月六日、五月五日、六月四日、七月三日、八月二日、九月一日、十月十日、十一月十一日、十二月十二日夜，用子时左右，于寝静北向，六再拜，讫，起跪（施香案，具冠服，再拜，讫，更一拜，便长跪曰）。

谨启：

太上大道高圣玉晨太素紫宫八灵三元君，中央黄老君、无

英、白元太帝、五老高真上仙、太极皇精三皇玉君、大洞三景弟子某谨以吉日之夜，天关九开之门，上闻太上玉皇真君，乞得长生世上，寿无亿年，时乘黄晨龙辇，上诣紫庭，役使万神，侍卫四明。毕，勿令人知。太素三元君，女子也。德凝虚无，神高太上，教制天真，领理万炁。三元君乃一女子耳。积感琼琅，虚生霄晨，结烟散景，道陵玉真。夫三元君之出游也，则日月倾曜，烈烛拔根，八风扬波，飏荡幽源，连晖九万，高霄僊晨，绛霞郁敷，黄云九缠。于是五老启途，太帝扶轩，西皇秉节，东华扬幡，九天为之颠徊，太无为之起烟。幽炁隐蔼，八景连尘，顾眄罗于无上，俯仰周于百圆。大哉！高皇。是曰太素三元君。夜在密室，常存三元君来在室中，心拜心语，如是不替，则所向如愿，万事克和，此为真人致神仙之要法也。

太素三元君服紫炁浮云，锦帔九色。龙锦羽裙，建宝琅扶晨羽冠，腰流金火铃，虎符龙书，而坐空中焉。膝下常有绿丹青三素之云炁，郁然冠其形也。太素三元君常咏曰：太无连玉清，三曜洞高明。八素回晨风，散云蔼飞灵。圆轮掷崆峒，金映冠天精。玉华结五老，紫烟运霄辔。乘炁荡玄房，委顺扶所经，金姿曜九暇，玉质跃寒庭。幽童回孩眄，老艾还返婴。帝一固泥丸，九真保黄宁。视眄万劫外，齐此九天倾。若存念之时当讽此咏之作，云是玉清上宫之唱，以和于形魂之炁也。若存三元君者，首作髻云三角髻，馀鬋散垂至腰中，髻上乃冠扶晨冠耳。子存感致若亦将见之于紫房及左右也。此者之间，当有太素玉女三宝真人来降于子矣。欲行此道，常当别寝独处，不杂他人。每事亦尔，非唯此一事而已。

## 卷四十二 存思部一

存《大洞真经》三十九真法（出《三十九章经》）

### 太微小童

读《高上虚皇君道经》，当思太微小童干景精，真气赤色焕焕，从兆泥丸中入，下布兆身舌本之下，血液之府。毕，微祝曰：

真气下流充幽关，镇神固精塞死源，玉经慧朗通万神，为我致真命长存，拔度七祖返胎仙。毕，引赤气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

天有大隐生之灵宝，称曰明梁上之气，守我绝塞之下户，更受生牢门之外，乃又召益元之羽童，列于绿室之轩，使解七祖百结，随风离根，配天迁基，达变入玄。《玉清隐文》又祝曰：元气非本生，五涂承灵出。雌雄寄神化，森罗邃幽郁。玉音响太和，万唱元中发。仙庭回九变，百混同得一。易有合虚中，俱入帝堂室。毕，此高上祝秘文，泄之七祖充责。

### 太一尊神

读《上皇玉虚君道经》，当思太一尊神务犹收，真气紫色



焰焰，从兆泥丸中入，下布兆玉枕之下，泥丸之後户。毕，微祝曰：

太一保命，固神定生。为我上招帝真之气，下布紫户之庭。玉经仰彻，九元朗明。七祖同欢，俱升上清。毕，引紫气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

兆身常死关，结胎害百神。百神解胎结，披散胞内根。七世入帝室，一体合神仙。神仙会玉堂，七祖生南宫。并带理明初，同席孩道康。万真守身形，是日藏初明。帝一回雌雄，保镇百神门，闭塞万邪户，受事九宫间。典禁召司命，三日朝泥丸。”

### 帝君

读《皇上玉帝君道经》，当思帝君延陵梵真气紫光郁郁，从兆泥丸中入，下布两眉中间，紫户之外宫。毕，微祝曰：

帝君度符籍，正气召万神，上招玉真充，气布两眉间，混一生帝景，三素成我仙。飚粲乘龙盖，迳升高上轩。毕，引紫气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

扶晨始晖生，紫云映玄阿，焕洞园光蔚，晃朗濯耀罗，眇眇灵景元，森洒空清华，九天馆玉宾，金房唱霄歌。贤哉对帝宾，役召伯幽车。七祖解胞根，世世为仙家。”《玉清隐文》又祝曰：

丹皇运珠，守镇死门，上一赤子玄帝凝天，一名伯无上亦为三元先。扶我养我，使我登云轮，常坐上清轩，七玄为仙君。

### 无英公子

读《上皇先生紫晨君道经》，当思左无英公子玄元叔，真气玉光奕奕，从兆泥丸中入，下布兆左腋之下，肝之後户。毕，微祝曰：

无英神真生紫皇，三气混合成宫商，招引真气镇膀胱，运流三丹会洞房，为我致仙变丹容，飞升云馆入金墉。毕，引玉光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

神安气洞，上与天通，越出地户，过度天门。隐息四维，七星散分，飞行阴房，日月植根。守金藏玉，制御万神，仙王何人？我已成真。隐存雌雄，玄洞四乡。结中青气，号为延昌。字曰和婴，理命年长。玄归固内，庆玄牢张。我日成真，飞仙云京。

### 白元洞阳君

读《太微天帝君道经》，当思右白元洞阳君，真气金光耀耀，从兆泥丸中入，下布兆右腋之下，肺之後户。毕，微祝曰：

洞阳郁灵标魂生，金光焕焕气中精，招真固神令长生，拔出幽根返胎婴，骖晨御气升玉清。毕，引金光三咽止，便读《玉经》。毕，又微祝曰：

洞阳郁灵标，守体死门开，户出三尸虫，受入九真源，解胞散滞血，百节生正神，七祖灭尸祸，拔殖后叶患。黑气斌来生，斫断胞死根，世世受道德，后获帝仙卿，帝仙是何人？明明七叶孙。乃祖入丹都，并坐精上门。

### 司命丈人

读《三元紫精君道经》，当思中央司命丈人君，真气紫云之色熠熠，从兆泥丸中入，下布兆绛宫心房之中。毕，微祝曰：

司命定年，丈人保仙，度名于南宫，上奏帝君前，世世为仙王，拔出七叶根。福报无穷已，皆著《玉经》言。毕，引紫云气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

会元三襟交，携领回胎婴，承光守下关，务玄待月明，于是混离固，翕明车受成。福延七世，祸散玄生，守景六合，陵梵七灵，共生亿千，歛升玉庭。婴儿徘徊，羽衣命仙，吉济万万，福布千千，骨有玉映，血承琼泉，生乐天地，日月同年。

《玉清隐文》又祝曰：

福布七玄前，罪灭三涂中，灵吹九晨秒，纳气大帝宫。五仙携太一，并位重冥空，遂隐上清室，羽明帝一房。

### 桃孩君

读《真阳元老玄一君道经》，当思命门桃孩君道康，真气黄云之色，从兆泥丸中入，下布兆脐中命门之外。毕，祝曰：

真灵正神，号曰桃君。混合生宫，守护命门。通仙致气，齐景宝云。七祖同生，受福高晨。毕，引黄云之气三咽止，便读《玉经》。毕，又微祝曰：

五岳真人，定录四宾，司录促到，护籍理民。起非握节，云拘执幡，香风八披，恶魔绝烟。并来对帝，万万称臣。度我生籍，名迁玉门，扶翼五老，慎护披尘。《玉清隐文》又祝曰：

太上时非子，一曰合精延，是为命门王，可以召万神。万神即时到，合会琼羽门。使令散祸，祸绝福连，上寝玉堂，世

受名仙。

### 上一赤子

读《上元太素三元君道经》，当思泥丸天帝上一赤子，真气如宝光，从兆泥丸中入，下布泥丸九孔之户。毕，微祝曰：

上元赤子号上真，飞云羽衣耀紫烟，上招明景对帝宾，宝光奕奕映我身，身生毛羽升九天。毕，引宝光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

童子景精，有神有威，合象三形，九道相推。衣服朱丹，步正参差，出入上元，太极内阶。知我者长生，存我者不衰。人无哭兆，恃赖辟非。欲知吾处，密问太微。太微玉帝，三圣徘徊，挟我左右，一合俱飞，混洞六府，日月齐晖。《玉清隐文》又祝曰：

九道转对，五老各宁，洞阳街籍，号曰郁灵。七世父母，反胎更生。累业积罪，罪灭福生。上入帝堂，受书丹明。常与伯史原，徘徊三界庭。巾金佩羽，宝曜圆形，玉轮北回，役御朱兵。

### 中一丹皇君

读《上清紫真精三素君道经》，当思绛宫中一元丹皇君，真气日光之色，从兆泥丸中入，下布项中大椎骨首之户。毕，微祝曰：

中一真君，号曰运珠。上招日光，灌我形躯。三真宝曜，固命玉符，寿亿万年，永无终休。身生羽服，飞升天衢。毕，引日光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

天有九魂，不可不分；道有三真，不可去身。帝一变景，万化以臻，流珠停晖，紫霞踊烟。七度回路，三光映真，太一精符，相与为亲。司命衔月，嘘我重唇。五老衔日，吸我三便。太上道君，与我缠绵，上造天阶，携把太真。

### 黄庭元王

读《青灵阳安元君道经》，当思命门下一黄庭元王，真气月光之色，从我泥丸中入，下布两莞间，车轴下户。毕，微祝曰：

下一真元王，号曰始明精，三皇把符命，金契度仙庭。上招景中气，气布冠我形，羽车曜云罗，令我飞上清。毕，引月光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

五脏百结，生此万疾。玄一林虚，开关解结。结绝病散，精神盈溢。福气充明，祸翳倾竭。仙心日臻，死道月绝。混化九君，合符帝一。七神奉符，公子入室。

### 九真帝昌君

读《皇清洞真道君道经》，当思泥丸九真帝昌君上皇，真气青光万丈，从兆泥丸中入，下布口之四际。毕，微祝曰：

九真始生，生于上元，号为先灵，三景各分。上招玄晖，布流四门，镇神保仙，拔度七玄，骖景乘浮，朝拜三元。毕，引青气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

七气离罢，太混黄宁；六甲辅魂，内注六丁；三真入胃，液流大明；五符上皇，泥丸常生。九星下映，日同母蜺。游眄八极，回盖双婴，上到紫房，被巾羽青，七祖父母，各得返生。

### 八真含景君

读《高上太素君道经》，当思胆中八真含景君，真气黄云之色，从兆泥丸中入，下布兆背中骨节之府。毕，微祝曰：

八真结神，神生九天，号曰北台君，常在三合间，招真洞明气，下流布我身。身生紫晖，与帝结亲，携契五老，太仙缠绵。毕，引黄气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

生生得帝心，各会重户内，紫房混五神，魂魄恒宝贵，七关受仙辉，五脏充玉气，俱过水火天，披建四和蔚。上归皇一子，与兆魂相对。

### 七真玄阳君

读《皇上四老道中君道经》，当思左肾七真玄阳君，右肾七真玄阴君。真气黑云之色，从兆泥丸中入，下布兆背穷骨地户中。毕，微祝曰：

七真生帝景，八气运常宁，上招日中童，圆珠映我形。回风混幽府，归妙《大洞经》，拔出地户难，超凌逸九天。毕，引黑气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太一郁书，上登洞房，六合三宾，司命神公，手执录籍，驾景乘龙，左回灵曜，右扇神风。峨峨隐珠，芬艳婴蒙，浩观太无，濯练五通，澄魂羽幽，练魄空洞，招兆百神，月帝之功。七祖顺生，景福昌隆，回我老艾，还复玄童，上对神霄，金光十方，飞飏玉轮，弹金鸣钟。

### 六真元素君

读《玉晨太上大道君道经》，当思肺中六真上元素玉君，真气白云之色，从兆泥丸中入，下布兆颈外，十二关梁之中。毕，微祝曰：

六真奕奕，白光央央，回帝之景，上入丹乡。招真下流，灌我玉霜，羽裙纷纷，衣我仙裳。越过水火，飞登神京。毕，引白气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

九合三离，紫房散分。五老正严，帝一保神，司命奏籍，奉行三元，胞树断落，血尸绝根，返胎朱火，回气泥丸。我合九清，大混百神，身登玉房，同辔金仙，逍遥太素，徘徊三天，重华列简，累支流玄，世为道伯，大福缠绵。上寝玉清，下息命门，五脏秀华，顶负日魂，长保劫龄，后天常全。

### 五真养光君

读《太清大道君道经》，当思脾中五真养光君，真气如玉光金真之色，从兆泥丸中入，下布兆喉内极根之户。毕，微祝曰：

五真散灵，布气九玄，金光曜晖，玉气吐津，万神并畅，熙怡我身。圆光奏命籍，太一勒九天，降致八景舆，策龙驾紫烟，混合三帝室，保我亿劫年。毕，引玉光金真之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

晨登九景台，夕入神霄门，太一神夫子，或曰三来瓮，左执兆符籍，右携洞阳君，定生会紫房，五神更混分。混分逸帝堂，七祖绝死根，五毒气零灭，繫津无浮连，令我尸血化，帝房出金元。三涂绝苦树，世世获天仙，常与景中王，积劫保元元。

#### 四真清明君

读《太极大道元景君道经》，当思肝中四真清明君真气青云之色，从兆泥丸之中入，下布兆胃脘之户，膏膜之下。毕，微祝曰：

四真常生，青光华精。徘徊秀朗垣，沈珍玉景庭，携提高上元，俯仰要五灵，拔解七叶根，与我保华婴。毕，引青炁三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

帝室混身，一道万分，是曰帝一，白帝皓灵，金霞回日，重冥幽寥，藏神化密，把兆五符，与天相毕，玉晖覆盖，无死无疾。七祖父母，超登丹室，胞根八解，死符绝灭，帝得五元，我回三七，六府焕爽，金书羽札，世为仙真，宝录玄别，华繁曾玄，世无曲折。

#### 三真元生君

读《皇初紫虚元君道经》，当思精血中三真元生君，真气赤云之色，从兆泥丸中入，下布兆鼻两孔下源之中。毕，微祝曰：

三真焕光，流丹徘徊，玄合九景，三洞金扉。上招朱童，五苦廊开，死根断落，日魂同飞。超逸十界，上升玉阶。毕，引赤气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

七气混合，帝一回元，结滞日散，兆命长迁，死道闭灭，断绝胞根。五脏生华，六腑金鲜，帝一保形，司命保神，五符启扉，五籍登仙，世为道王，帝师缠绵，散香龙窗，返华扬烟。七携无上，八晖九陈，流源回液，领会六渊，名书上清，气积寂轩。回风脱死，帝一相连，五通七合，俱生上元。



### 二真坚玉君

读《无英中真上老君道经》，当思骨节二真坚玉君。真气碧云之色，从兆泥丸中入，下布兆太仓五肠之口。毕，微祝曰：

二真固神，郁勃三关，回金合玉，坚备泥丸，上通帝气，布流金门，混化启明，合我仙魂，七祖同飞，灭绝胞根，世保道德，永享欣欣。毕，引碧云之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

魂生无中，布在九重；道出三极，常游绛宫。三宫合化，是为紫房。紫房所在，先由明堂，明堂之内，守神桃康，风云郁郁，既清且凉。塞闭欲孔，割破恋根。其圣曰鍼，其真曰皦。兆能知之，乃开金门，金门左右，忽见高贤，左曰父宁，右曰精延。此是景中伯，与尔登玉晨。父宁母精，世世为仙，万条重华，皆受帝恩。

### 一真天精君

读《中央黄老君道经》，当思心中一真天精君。真气绛云之色，从兆泥丸中入，下布兆胸中四极之口。毕，微祝曰：

一真镇心，总领百神，百神常生，会我绛轩。上招玉气，六液沈珍，赤景启灵，拔我七根，超逸三涂，上升南仙。毕，引绛气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

帝一回风，化合桃康，流生起福，上溢玉堂，混而合之，出入帝房，三五合一，必成仙君。七玄父母，灭尸散怨，万劫千年，皆登上仙，曲节伏扈，广敷郁申。守我形者，司命丈人，帝君公子，深固泥丸，太微玉华，羽服扬幡。魂魄长相抱，百骨皆满神，神王生津上，超越度死门，遂友高仙子，把持玉清

宾。

### 九元之真

读《青精上真内景君道经》，当思九元之真拘制。真气五色云气，从兆泥丸中入，下布兆左耳之下伏晨之户。毕，微祝曰：

九天之精，天关开窗，八景合气，上通金房，三元帝室，返老生翁，玉华灌溉，练改艾容，飞霄紫舆，运我升空。毕，引五色云气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太微小童，常在帝前，其名景精，其姓曰干，合形太一，被服朱丹，五符命籍，把持玉案，帝君所临，主通诸神。混合太一，司命丈人，固保灵户，五脏会分，帝仙守宅，凶种灭根，三气郁敷，八回五烟，我得升霄，驾龙明轩。

### 皇一之魂

读《太阳九气玉贤元君道经》，当思皇一之魂上归。真气玄云之色，从兆泥丸中入，下布兆右耳之下伏晨之户。微祝曰：

皇一上真，洞生丹房，朱映兰曜，发溢明光。太元之音，朗彻九空，玄金独落，振响琅琅。上招玉景，协我神堂，策虚升飞，游宴玉京。毕，引玄云之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

九宫一合，化形帝晨，上升紫房，命真召仙。会济魂魄，领括百神，七玄康乐，拔苦破根。死烟灭气，福禄充轩，兆登太霄，驾景控云。月中五帝，挟日精轮，郁将逸阜，飚景同迁。

### 紫素左元君

读《太初九素金华景元君道经》，当思紫素左元君翳郁无刃。真气景云之色，从兆泥丸中入，下布兆头面之境。毕，微祝曰：

翳郁生真，真景生空，灵光昱昱，紫气融融，上致流津，下布我宫。身生水火，体变玉光，飞仙羽盖，升入神公，受书玉经，成我仙宗。毕，引景云之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

庆元吉津，流汨西田。太帝携手，命召高仙，拔散浊秽，断绝死根。上一天帝，号玄凝天，曜明六合，净寂泥丸，是为百无上，使兆保长安，列图玉皇，并襟帝晨，五府生华，六液龙源，渊清太素，郁霞金津，万仙来朝，五岳启陈，玄愆沈散，天福奏烟。彫梁守命户，长来护死门。上生玉房，受位金仙。天之玉堂，常接帝贤，九天之中，宴眇劫年。

### 黄素中元君

读《九皇上真司命君道经》，当思黄素中元君圆华黄刃，真气晨景之晖上华，从兆泥丸中入，下布兆胸腹之境。毕，微祝曰：

九天上景，化生华晖，晃晔太空，曜真紫微，上致中黄，百神降回。散根离苦，八难豁开，七祖同升，福庆巍巍，使我神仙，八景齐飞。毕，引景晖之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太帝精魂，阳堂八灵，披散死气，混合众生。帝一承图，

三元会明，九真安安，七神宁宁。超越滞节，过度鬼兵。上升帝晨，眇乐玉庭。玄母定录，五府开清，胞根没种，血污殄平。七祖父母，起福三清。无英明夫，掌我仙经。广神安气，绿回绝冥，闭藏死关，太混一生。长寝羽台上，固神五老室，受录上清阙，保德七元日。上上登玉霄，下下合帝一。

### 白素右元君

读《天皇上真玉华三元君道经》，当思白素右元君启明萧刃。真气月中之华，从兆泥丸中入，下布兆下关小腹至脚。毕，微祝曰：

白素启明，九天同生，高虚素辔，浮景玉清。回真典仙，流洒八溟，通幽达微，朗曜华精。使我内彻，五孔开明，神公来游，我道克成。毕，引月华之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

魂生九气，气变成神，五老缠会，太一化仙。二十四真，回形帝先，九曲下户，镇生白云。黄庭六府，含养命根。胎结胞树，栽种死山，一得拘制，永断灭源，符籍清明，金映玉轩，长为德伯，世得道恩，升登日月，遂友帝仙。

### 日中司命

读《太一上元禁君道经》，当思日中司命接生。真气三华之气，从兆泥丸中入，下布兆左手之户。毕，微祝曰：

四大乘天，天元来归，三华吐曜，司命景飞，为我招仙，七祖散开，上登太虚，日月同晖。毕，引三华之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太一务犹收，传司北帝司。玄一老子，握节往来，元素把符，白元守雌。焕然神光明，披霞升帝壖，列坐震灵席，混合五日房，白气育上生，青君案延昌，左携精上门，右抱合和婴。我生日月华，友宾赤气王。八景照泥丸，朗然洞房中，婴儿为赤子，混离生玉容，五道秀金华，位为上清公。七祖断玄滞，身得乘神风。徘徊三清上，和乐返婴童。

### 月中桃君

读《元虚黄房真晨君道经》，当思月中桃君方盈。真气月晖之色，从兆泥丸中入，下布兆右手之户。毕，微祝曰：

元虚黄房内，月中号方盈，左宴朱颜台，右携仙皇庭，宴景三秀房，结我神始生，同飞入玄玄，七祖返华婴。毕，引月晖之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

九元镇真，五帝缠绵，日月中王，与兆为亲。大混三五，离落魄魂，百节金映，玉液回神。五府生华，白气运烟，充溢三清，紫房宝津，上开仙户，下塞死门，令我羽简，玉帝之前，七祖父母，返生南轩，虎符摄魔，龙旌命神。太一金书，招束三官，除灭死籍，刊名玉真，保生太上，日月同年。

### 左目童子

读《太极主四真人元君道经》，当思左目童子飞云。真气日之华光，从兆泥丸中入，下布兆左目之中。毕，微祝曰：

四极太灵，元君精映，日华充溢，童明光光，二景相照，通我明梁，三丹启真，我道开张，毛羽罗裙，飞上玉京。毕，引华光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

我乘混合气，缠固九真丘，养光太昌子，骈罗凝羽珠。九尊众帝生，洞景回须臾，七祖结解散，秽积忽已除，世世生福昌，玄祖获仙书。身升太霞宫，控龙宴玉虚，上朝上清皇，见侍幸正扶。

### 右目童子

读《四斗中真人七晨散华君道经》，当思右目童子晨婴。真气月之华光，从兆泥丸中入，下布兆右目之中。毕，微祝曰：

七晨飞华，华散三元，混合成真，上招月魂，为我降灵，启我仙门，七祖同飞，上朝帝君。毕，引月之华光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

三素牢张上，老君神生道，固我魄逸游，保兆六合脑，忧苦没曲门，死气闭地下，身为帝一君，并襟乐六府，镜心丹玄房，熙气泥丸野。体曜金晖，羽录召真，白气重郁，百神死鲜，长与日月，符籍缠绵，世保道德，永为天仙，寂寂内注，遂升帝晨。

### 肺部童子

读《辰中黄景元君道经》，当思肺部童子素明。真气五关晖光，从兆泥丸中入，下布兆肺部华盖之门，上通两目之童。毕，微祝曰：

童子素明，黄云九缠，沧台飞轮，三神协真，号曰玄上景，列位高皇宾，睟摄命百神，携我入紫烟。毕，引晖光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

二老在左右，帝魂不可分。三九变其上下，太一立其中根，五神奉我生籍，司命塞我死门，九宫合而为一，六合睟而内真。世获仙书，福庆缠绵，五老对席，日月为亲，太一来迎，上升帝晨。七祖滞血，皆为拔根，返胎南宫，受生帝轩，兆宴玉堂，同襟帝轮。世世列图，羽服扬幡，子孙保昌，庆及后玄，长为仙伯，役使万神。

### 胎中白气君

读《金阙后圣太平李真天帝上景君道经》，当思胎中一元白气君务玄子、太一精魂玄归子二神。真气三华之色，从兆泥丸中入，下布兆五脏结喉之本。讫，微祝曰：

金阙焕玉清，白气映丹霞，明光郁金铃，五色吐三华，流津宴寝堂，结我始生牙。玉符召百神，金威徵万魔，保此亿劫年，仙道明凶邪。毕，引三华之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

天生八气，回合帝乡，五神奉符，司命扶将。拔断死籍，荡秽幽冥，七世解结，福延玉庭，血积沈没，三素焕清。兆升天堂，与帝合灵，世得仙契，所愿必成。种年日中，植命月庭，返胎童蒙，回为孩婴。生与天同，寿与日并。

### 结中青气君

读《太虚后圣元景彭室真君道经》，当思结中青气君案延昌、元君精魂保谷童二神，真气气如玉华，从兆泥丸中入，下布兆五脏大胃上口。毕，微祝曰：

离合九灵，二真幽密，太虚重天，上携太一，雌雄混合，

同仙妙室。上变九仙，下解胎结，七祖庆欣，五苦解脱，使我飞腾，灵化本质。毕，引玉华三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

种福九天外，拔尸地门下，七玄解滞积，断树除忧苦。返胎朱火宫，更生九玄户，真气日日臻，祸害日日除。兆升三清室，乘飚上景庭，命与月母俱，年随日帝生。累玄保仙籍，回老更童婴，福升六合内，受图永常生。

### 节中黑气君

读《太玄都九气丈人主仙君道经》，当思节中黑气君赋来生、帝真精魂幽台生二神。真气玉光之色，从兆泥丸中入，下布兆九肠之口，伏源之下。毕，微祝曰：

太玄何寥寥，黑气生上灵，帝真洞明景，九气合神庐。变化十方领，倏炊肇明初，万真练我仙，百关自清居。七玄断胞树，九曾升福堂，上招景中子，与我登飞舆。毕，引玉光三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

帝魂照无阿，常镇兆生门。伏尸灭落，保魂宁神，玄母回光，奉帝玉仙，右命太一，乃及兆身。北宴上清，列为玉宾，颜生日华，年合月烟。长跻金房，晨景为邻。除忧伏胃门，拔苦三涂中，福积丹玄内，庆充泥丸房，百神混帝一，大变流回风，返兆朽艾形，改貌为婴童。世世入仙堂，玄玄登羽宫，大劫虽屡倾，与日方增崇。

### 胎胞中黄气君

读《上清八景老君道经》，当思胞中黄气君祖明车、天帝



精魂理维藏二神。真气黄云之色，从兆泥丸中入，下布兆小肠二孔之本。毕，微祝曰：

上清曜玄台，八景乘天纪，黄气协神真，精魂对帝子，太一度命籍，五符固不死，携仙带晨晖，回风返形始。拔苦出七祖，同欢九玄里。”毕，引黄云三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

白云合神景，乘素会太微，上朝帝一室，解带皇一阶，启明金门中，三阳召上归，升我身内神，覆盖大明威。大宝九华，光映兆形，招云混真，散香要灵。含景月中，返胎受生，年停曜景，命遂无倾，身为仙王，保此上清，世受真书，玄华玉庭。

### 血中赤气君

读《东华方诸宫高晨师玉保王青童君道经》，当思血中赤气君混离子、司命精魂发纽子二神，真气如赤云之色，从兆泥丸中入，下布兆百关绝节之下。毕，微祝曰：

晨晖焕东霞，丹景映高清，二真协神宗，落落七华生。五老飞帝席，太一保童婴，锦云曜幽夜，朗朗开重冥。七祖勒符籍，南极受胎灵，高晨眇云舆，运我升飞鞚，拔解亿世基，欢我万劫程。毕，引赤云气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

五道混回，七门始分，南和建节，白帝彰形，灵标理魄，会昌护神，奉符登霄，寢息玉轩。定录琼札，世为天仙，三涂塞绝，除伐胞根，死气沈零，祸轮无连，福臻重枝，庆会华玄。名书玉堂内，世为道德门。

### 上玄元父玄母

读《扶桑大帝九老仙皇君道经》，当思上玄元父高同生、下玄玄母叔火王、帝皇太一重冥空、九帝尊神日明真、太帝精魂阳堂玉、天帝九关魂录回道、天纪帝魂照元阿七神。真气混合莲花之形，从兆泥丸中入，下布兆本命之根，胞胎大结之中。毕，微祝曰：

元父玄母，七真齐气，神公大帝，九老并位，为我固生，拔度十界，日月同符，九帝合契，坐命天魔，万灵来拜。浮景三举上，震杖保亿世。毕，引莲花之气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太玄聚晖，映冠扶晨，大帝变景，须臾混分，入兆五府，坚我玉根，双辔太一，合羽扬轮。与兆上升，回转金门，年日德昌，体宝金仙，世世昌盛，真符流连，玄玄累叶，名书灵轩。羽籍紫庭，飞香奏烟，福逮百枝，庆溢帝门。

### 三素老君

读《小有玉真万华先生主图玉君道经》，当思三素老君牢张上、正一左仙仲成子、正一右仙曲文子三神，真气混合黄、白、玄三色之云，从兆泥丸中入，下布兆鼻下人中。毕，微祝曰：

玉真生帝景，万华乘云发，三老辅二仙，共镇死户窟。神映七华生，朽骨蒙更蜕，起逸三界庭，五苦咸解脱，得入九天表，上朗高朱日。毕，引三色之炁三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

命门合精，六混七分，太一把籍，司命理神，帝一固形，无英守魂。太回紫房，奉符帝君，胞树伐灭，断绝血根，七玄更起，沈景生烟，兆得上升，化合帝晨，身映日月，命与天连，

重华累晖，咸会上尊。世书灵羽，紫录内宣，乘景三素，北宴高元，号曰仙王，上真人。

### 中央玄一老子

读《玄洲二十九真伯上帝司禁君道经》，当思中央玄一老子林灵，天真气黄云之色，布兆阴茎之端；北方黑帝保成曷真气玄云之色，布兆膀胱之中；西方白帝彰安幸，真气素云之色，布兆阴囊之中；南方赤帝长来觉，真气绛云之色，布兆口舌之中；东方青帝雕梁际，真气青云之色，布兆五脏内。五帝真气从兆泥丸中入，下布兆一身。毕，微祝曰：

五帝明真，辅仙玄伯，上帝景晖，吐灵敷席，翳翳神曜，徘徊重冥，羽景保录，太一命籍，五气总魂，三精固魄，金仙练容，停年返白，拔出幽根，日月同宅。毕，引五色气五咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

上宝月九真，日羲变玉室。呼吸紫微，大混帝一，八烟丛生，百灵明威，九魂离合，三光同晖。天皇在元，紫烟霏霏，五神奉图，始命不亏。变入九宫，被服朱衣，腰佩虎章，流云绣帔，帷帐玕玕，五色徘徊，日月照察，挟以东西，神庭内醴，以除渴饥。三五复反。转藏营机，周流太一，生均两仪。《玉清隐文》又祝曰：

太一变六合，五神哺泥丸。七积灭三涂，血尸塞下关，三衿对五真，拔斫胞树根。丈人号神宗，同心元素君，天皇入太清，五老奉符文，世世登羽宫，重华日中轩。元王始明精，固我本命门，保弼运录气，归上谷下玄，冥景映形神，朝跻太上轮。日月并玉铃，年随二景分，丹书玉堂内，位为天上君，左携羽台子，右提金颜仙。

### 帝卿

读《太元晨中君刊峨眉山中洞宫玉户太素君道经》，当思帝卿肇勒精、绛宫中一辅卿中光坚、黄庭下弼卿归上明。三真之气，混合青、白、黄三色之云，从兆泥丸中入，下布兆身三宫本命帝室。毕，微祝曰：

三真生太无，玉户映晨霞，太素洞元虚，丹灵森朱阿，回神九重府，内唱发琼华，关纳百津液，停年三秀柯。我身腾玉清，七祖离幽都，长保不终劫，万一承仙家。毕，引三色云气三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

帝一混九玄，太素五华精，宝羽宴玉堂，八风扇太明，高上乘元景，凌梵履昌灵。七化紫房下，九混五帝清，体生六色曜，金映流神形，感濯元气内，金书玉皇庭。《玉清隐文》又祝曰：

灵云始分，白气郁素，混会九玄，三五流布。帝一解形，起登霄路，太一呼吸，五华坚固。司命主日中，白元司日暮。日中静心，心中妙悟；夕隐泥丸，百神宣布。二宫可以长生，心脑可以长度。

### 帝一真君

读《西元龟山九灵真仙母青金丹皇道君道经》，当思大洞帝一尊君父宁在。真气五色紫云之烟，从兆泥丸中入，下布一形之内，散气九孔之中。毕，微祝曰：

九灵通妙化，金仙混扶桑。帝一变百神，合灵西丹皇，上为胎仙母，下号称神宗，曜景绝云杪，萧萧紫微宫。为我执命籍，保真三素房，妙景空中降，练我返婴蒙，七根绝苦哀，逸

起九福堂。毕，引紫云三咽止，便读《玉经》。毕，又祝曰：

太上洞明，飞景九天，结精凝气，化气变神、司命混合，散形亿分，千乘火甲，万骑扬幡，俱与太一。上造帝庭仙，伯元起徘徊。仲成曲文，一合我气，再合我神，三合我魄，四合我魂，五合我精，六合我身。我身六合，洞灵启真，八景灵驾，三素浮轮，我与帝一，俱升玉晨。重华累枝，混合天仙，身有道籍，世有生根，金简羽符，名刊日轩。所愿即从，天禄诜诜。所向如心，万福盈门。常存太上，帝一泥丸，雌雄混化，百灵缠绵，读经万遍，云驾来迎，携宴五帝，日月九君，号为仙公，上清真人。

#### 大洞消魔神慧内祝隐文存诸真法

九天上文，出自《高上口诀，解滞散原。大洞真经三十九章》，理极于此。上则引致高灵之霞映，下则灭于万魔之凶。诵之一遍，开明幽关，三十九户，纳受玉津，死气沉塞，百神内欢。百神既畅，则声达九玄，气朗紫霄，响叩玉晨，五帝束带，万灵朝轩，生生来归，七祖升迁，身致羽童，驾景乘云，飞行玉清，位齐紫宾。此高玄之妙道，玉清之秘篇，皆授金名玉字，高仙真人。七百年中，有合此质，听得一传。

后圣曰：得受《大洞真经三十九章》，修行之日，当先行大洞之仪格，诵《玉清隐祝》之文；又存百神内名。外则遏于万试，内则塞于死关。如此一遍，便得一日一夜，单诵三十九章，不烦遍遍依旧行其仪轨也。若是日又登斋诵经者，当便按旧过行之。

## 卷四十三 存思部二

### 存思三洞法

常以旦思洞天，日中思洞地，夜半思洞渊，亦可日中顿思三真。存思之法：

次入室东向，叩齿三十二通，先瞑目，思素灵宫清微府中青气、赤气相沓郁郁来，下入兆身中泥丸上宫，便咽九气；次思兰台府中赤、黄二气相沓如先来，下入兆身脐下丹田绛宫中，便咽九气。咽三洞气毕，便仰祝曰：

天地混沌，渊源三精。元始结化，五气混生。变化玄元，灌注身形。服御流霞，升入紫庭。北帝落死，东华记名。洞达幽微，与帝合并。

毕，又叩齿九通，思元洞元明元曜延灵耀元君玄混，以阳霞朱明之符，授与我身；次思洞天生官，衣服讳字如上法，并从素灵宫清微府中下，以次入兆泥丸宫中。毕，仰祝曰：

洞天上元，监御九玄，总统三炁，混生丹田，披洞幽关，出入无间。魂魄宝耀，缠络华鲜，飞云降室，游宴紫天，齐保天地，长享亿年。

思洞天毕，转向南，思洞地洞真大荧惑星大洞元生太灵机皇君景化，以通明四洞九元之符，以授我身；次思洞地生官，

衣服讳字如上法，并从素灵宫兰台府下，入兆身绛宫中。便仰祝曰：

洞地中元，总领飞仙，华冠宝耀，腰青建巾，授我灵符，通真致神，洞思幽微，受帝秘言，解胞散结，九孔朗然，七祖咸脱，上升南轩，云舆下降，白日升晨。

思洞地毕，转向北，思洞渊洞玄太白子留金城耀耀元精元导太仙君，讳浩田，以启通明天宝符，以授兆身；次思洞渊生官，衣服讳字如上法，并从素灵宫皇堂府下，入兆身脐下丹田宫中。便仰咒曰：

洞渊幽关，上参三元，玄气郁勃，飞霞紫云，流黄五色，华晨宝符，服御启明，与天长存，乘空驾灵，游宴玉晨，携堤景皇，结友真仙。

思洞渊毕，还东向，叩齿九通，咽气九过，三洞毕矣。子能行之，真神见形，玉女可使，玉童见灵，三元下降，以丹舆绿辇，来迎兆身，上升太清。惟在宝秘，慎勿轻传。

### 老君存思图十八篇（并叙）

师曰：修身济物，要在存思。存思不精，漫澜无感。感应由精，精必有见。见妙如图，识解超进，神气坚明，业行无倦，兼济可期，期于有证，证之显验，逆知吉凶，以善消恶。一切所观，观其妙色，色相为先，都境山林，城宫台殿，尊卑君臣，神仙次第，得道圣众，自然玉姿，英伟奇特，与我为俦，圆光如日，有炎如烟，围绕我体，如同金刚。文不尽意，犹待诀言，言妙罕传，文精希现。现传果验，劫载一人。一人明难，非为

无果。勿谓不易，而息遵求。求之能笃，随渐升登。虽未具足，徵涉便到胜途，出俗居道。居道化俗，涅而不缁，故号居士，一曰道士。士，即事也。习事超伦，谓之大觉。觉者，取微昧图证验，得鸟之罗在其一目如左（本文内所说形图画像元阙）。

### 存道宝第一

师曰：宝者，自然元一，无祖无先，常存无灭，济度无穷，应感为三，终始一也。不一由人，人有亿兆，心兆亿行，大品有三：上、中、下才，悟或迟速。速之与迟，必宗三宝：一曰道宝；二曰经宝；三曰师宝；师宝者，得道人，为我师也；经宝者，自然妙文，师所传也；道宝者，无形之形，即太上是。窅冥中精应感缘时成数，分形散体，不可思议。议而思之，得不可得。得不可得，竟何所得？得道真也。真也者，得之不死不生，生死应化，不损不劳，保此贵重，故号道宝。存思之时，皆应临目，常见太上在高座上，老子在左，元君在右；又见经在西方，师在东面；次见十天光仪、侍卫文武、伎乐各从方来，朝礼太上。先存见斋堂，为太玄都，玉京山七宝城宫台宝盖师子之座，座上莲花以为茵籍，床前师子蹲踞相向，香官伎乐参然罗列。

### 存经宝第二

见道宝竟，仍存玄台之里，在于太上之西，有七宝庄严，光明帐座，座有玉案，案有宝经。绛销之巾，火铃之室，宛籍缦函，镇履经上。玉童玉女，侍卫香灯。三十六部，道德为宗。太玄侍官，其形如左。



### 存师宝第三

见经宝竟，仍存玄台之里，在于太上之东，有七宝庄严，明光帐座，座上有玄中大法师，即是高上老君，妙相不可具图，应感变化无定。无定之定，定在心得；心得有由，由阶渐悟；悟发之初，先睹玉貌。素发玄冠，黄裳皂帔。凭几振拂，为物祛尘，凝神释滞，以正治邪。仙真侍侧，左右肃然，人天相交，其形如左。

### 存十方天尊第四

见三尊竟，仍存十方天尊相随以次，同诣玄台，朝礼太上，严整威仪，为一切轨则。

北方，无极太上道德天尊（服色黑，羽仪多玄）；

东方，无极太上道德天尊（服色青，羽仪多碧）；

南方，无极太上道德天尊（服色赤，羽仪多丹）；

西方，无极太上道德天尊（服色白，羽仪多素）；

东北，方无极太上道德天尊（服色青黑又多黄）；

东南方，无极太上道德天尊（服色青赤又多黄）；

西南方，无极太上道德天尊（服色赤白又多黄）；

西北方，无极太上道德天尊（服色白黑又多黄）；

上方，无极太上道德天尊（服色玄紫又多苍）；

下方，无极太上道德天尊（服色黄红又多绿）。

右十人其形如左（天尊云驾同到玉京，伞扇羽仪不可悉备，伎乐侍从亦回具陈。举一反三，闻一知十耳）。

### 授《道德经》存三宫第五

授《道德经》，师北向，置经于案上，弟子伏左，师执经，弟子擎法，信师叩齿三十六通。心存三宫：泥丸（上元宫也）、绛宫（中元宫也）、丹田（下元宫也）。三一出千乘万骑，营卫于经，其形如左。

#### 朝朝于户外存四明等第六

朝朝于户外咒，存见四明功曹一人、通真使者一人、传言玉童二人、侍静玉女二人。

右六人其形如左。

凡神官位号，各以明义。虽皆道应感化不同，前后高卑，各随才识，识悟缘渐，故诸官互陈，或申通宣传，或侍卫开导，学者所求，各从其愿。三元妙气，气妙本一，一本居宗，三元化接，三之宗一，四主冥明。明之者知道；知道者见妙。见妙由明，资于神识。职有典掌，总名为曹，曹有绩效，皆名为功。功曹接导，开闢睹明，故曰四明。凡夫蒙愚，凭道乞照，修行法事，先关功曹，次及通真使者、玉童玉女，达道正神能致生气。生气即妙一之本，入身则延年不死，超三界之上，居三元宫中，正一合德，八方和明，功职所关，故号四上。右虎左龙，仁义严明，仁以辅善，义以止恶。恶消善积，由于知真，真无复杂，杂弗能变，故称素女。洁白靡污，夜暗无明，兼须童朗。上玄少女，演元始之气同。学者入黄宫之中，中极正宗，高尊所处。信诚感通，所启必允，黄房八窗，义依此例。

#### 夕入于户存四上等第七

夕入常于户外咒，存见四上功曹一人、龙虎使者二人、侍

静素女一人、开明童子一人、上玄少女一人。  
右六人其形如左。

### 入堂存三师第八

入堂先思见经师；次思见籍师；次思见度师。  
右三条各见所在之方也。

### 存五脏五岳五星五帝金映五色圆光第九

存三师竟，次思见五脏、五岳、五星、五帝。

右四条备卫身中（身中变化，无所不容。至于画图无由，  
备受之于外，标名方位得之，言前功拘迹致谬耳）。

金映盖一体，体作五色，从肺后出，项有圆光如日象。

右三条在身中照明十方。

凡存思之时，皆闭目内视，人体多神，必以五脏为主。主  
各料其事，事各得其成，成正则一而不二，不二则隐显无邪，  
无邪则众如可见，见则与圣符同，同圣即可弘，积学自然感会，  
是以朝夕存思，不可懈怠。存者何也？敦也、轮也。思者何也？  
司也、嗣也。勿以轻躁失本，学以重厚得宗，得宗则轮转无  
滞，轮转无滞则存而不亡。不亡由于司察善恶，善恶在乎嗜欲  
偏颇。嗜欲偏颇者，爱憎回遑，往返生死，劳苦未停。未停之  
停，停善不著善之善，归宗未能至至宗。无者资于念，念相续  
继，念嗣存无，有入于无间，无为而无不为，号曰微妙玄通。  
和光挫锐，济度无穷，是故为学之基，以存思为首。存思之功，  
以五脏为盛。脏者何也？藏也。潜神隐智，不炫耀也。智显欲  
动，动欲日耀，耀之则败，隐之则成。光而不耀，智静神凝，

除欲中净，如玉山内明，得斯时理，久视长生也。

第一见肺，红白色，七叶，四长三短，接喉咙下（肺者何也？脑也、伐也。善恶之初，兆而未明，明则伐善，善废恶兴，伐人命根，根断不断，由于此藏。此藏藏魄。魄者何也？粕也、著也。人之炫耀，莫不关欲。欲著曰恶，恶如糟粕。愚俗滞之，不识精本，今愿舍著存而见之，魄则肃然，不得为恶。恶急宜改，先存之火，与金合成则未分，其色红白，叶数纳言，取其和成德。德始于肺，终于脾。脾一又二，兼济也。兼济者，信也）。

第二见心，如芙蕖未开，又似悬赤油囊，长三寸在前（心者何也？深也，斟也。是非未辩，斟酌优量，败则灭身，成则得道，祸福之深，由于此藏。此藏藏神，神者何也？申也，真也。智慧之主，使屈能伸。存而见之，神则凝然，识定入真，不可深厚也）。

第三见肝，苍紫色，五叶，三长二短，九寸，在心下（肝者何也？干也、还也。悟恶气能改，决定无疑，行善建功，干事不怠，审正还宗，由于此藏。此藏藏魂，魂者何也？纷也，回也。纷纭俗海，回向道门。存而见之，魂则欣然欢进，勤立克隆，善业也）。

第四见肾，苍色，如覆双漆杯，长五寸，侠肋两臂著脊（肾者何也？紧也。津习善紧，紧不及慢，津润无穷，济度无极，通道祛俗，由于此藏。此藏藏精。精者何也？清也、灵也。动以徐清，化变无碍，神灵往还，提携空极。存而见之，精则澄然不散泄也）。

第五见脾，黄苍色，长一尺二寸（中有一尺，曲），主翕太仓胃上（脾者何也？裨也、移也。清凝潜润，补益一切，能安能移，而不匮既成，由于此藏。此藏藏志。志者何也？至也、

异也。潜润密化顽鄙异人，存而见之，信验治志，则湛然至道乎）。

### 坐朝存思第十

坐朝者，端坐而修礼也。凡有公事私碍，或在非类之间，不得束躬，止当展敬，但自安坐，不使人知，香火非嫌乃可为之。人见致笑，亦不可阙，将护彼意，勿增他愆。初夕、向晓，依时修之，白日启请亦宜平坐。坐则如常，勿革形色，惟令异人，不能觉知，人觉而喜，乃可化之，觉而嗤鄙，訾毁正真，设其招殃，又坏子业。古之学道为己，今之学道为人。为人苟以悦人，不顾心非。为己者，存心是则不顾迹违，违亦申心。致感迷速，强欲伏众，有迹无心。非惟徒劳，乃更获罪。学真之士，各加思宜，宜贵会时，时贵善合，合而非善，此时勿会。会必兼济，济物及身，善善相得，舍恶升仙，乃谓为会。会恶致败，名滥殊若。出处所遭，遭时二病：一者滞心，二者执迹。执迹者，宜以心法化之；滞心者，宜以迹法引导。导迹弗偏，化心遣执，二病豁除，上圣之道就矣。凡行经山水，积日舟车，舟车之中，山水之际，步涉登陟，舍住相须，疲倦止息，皆依时存礼。隐显随宜，存思精审，自然忘劳，魔邪恶人，不敢挠近。当诵经行戒，以善兴居。兴居无善，破戒违经，虽复存礼，终不睹真，嫉鬼妒神，凶人恶物，更相冲犯，烦恼生灾，坐卧无宁。急存久行，行之检身，心存口诵，解了无疑，以定三业。三业既定，众灾自消，人鬼敬伏，拥护去来，出入动静，必保贞吉。凡行者，亦存《想尔注》，三业在《盟威经》后，凡存思者，急宜忆之，故标出如左。

上最三行：

行无为；行柔弱；行守雌，勿先动。

中最三行：

行无名；行清静；行诸善。

下最三行：

行无欲；行知止足；行推让。

一者不杀；二者不盗；三者不淫（此三事，属身业）。

一者不妄言；二者不绮语；三者不两舌；四者不恶口（此四事，属口业）。

一者不嫉妒。二者不真恚。三者不邪疑（此三事，属心业）。

右九行三业、十事存念。惊恐人思相干，皆速思之，危即安也。

#### 卧朝存思第十一

卧之为法，勿正仰如尸，当侧傍检体，莫恣纵四肢。不可高枕，三寸许耳。香药为枕，无用恶木，冷溼秽臭冲犯泥丸，虽行途权假，常宜防之。卧起咒愿，善念存心，心存朝礼，时不可阙。阙碍公私，后皆忏悔也。

#### 朝出户存玉女第十二

玉女者，是自然妙气应感成形。形质明净，清皎如玉，隐而有润，显又无邪。学者存真，阶渐升进，进退在形，出入在道。道气玄妙，纤毫必应，应引以次，从卑至尊。故白日则玉女守宫；夕夜则少女通事，济度危难，登道场也。

## 夕出户存少女第十三

夕出户咒曰：少女通灵（学未升玄，不得无业，业有优劣，皆必须因，因精果妙，乃一其神。神而未一，由学未止，诣之以渐，引阴济阳。人生阳境，动静归阴，阴为道几，应感最妙。妙应之初，有兹少女，秉正治邪，和释隔戾，罚恶佑善，阴德济阳，显称玉明，其可坚贞。咒而存之，成真则速矣）。

右一人其形如左。

## 斋存云气兵马第十四

朝夕出入，存神礼师，志与朝仪同。凡行道时所存。清旦先思青云之气，匝满斋堂中，青龙、师子备守前后（次思青气从师肝中出，如云之升，青龙、师子在青气中往覆，弟子家合宅大小之身、仙童、玉女、天仙、飞仙、日月星宿、五帝兵马九亿万骑、监斋直事、三界官属，罗列左右耳）；正中思赤云之气，匝满斋堂，朱雀、凤凰悲鸣左右（次思赤气从师心中出，如云之升，凤凰、朱雀在赤气中往覆，弟子家合宅大小之身、仙童、玉女、天仙、飞仙、日月星宿、五帝兵马九亿万骑、监斋直事、三界官属，罗列左右）；日入思黄云之气，匝满斋堂，黄龙、黄麟备守四方（次思黄气从师脾中出，如云之升，黄龙、黄麟在黄气之中往覆，弟子合家大小之身、仙童、玉女、天仙、地仙、飞仙、日月星宿、五帝兵马九亿万骑、监斋直事、三界官属，罗列左右。此三时行道，六时依如後科）；人定思白云之气，匝满斋堂，白虎、骐驎备守内外（次思白气从师肺中不须存骐驎，宜存白虎。若存翊，思白麟在白气中往覆，弟子合家大小之身仙童、玉女、兵马、日月、悉如前法。黄箓大斋三

时，行道宜用日入。常斋三时，可取人定，人定而用日入存思。又六时更从青始，次赤周白，此皆失法，青、白别有，皆非五脏六腑之仪也。夜半思玄云之气，匝满斋堂，灵龟、珣蛇备守上下（次思黑气从师肾中出，如云之升，灵龟、襍蛇在黑气中，仙童、玉女、日月兵马，悉如前法也）；向晓思紫云之气，匝满斋堂，辟邪师子，备守隐显（次思紫气从师胆中出，余如前法）。其形如左。

凡师思云气，各从方来。青云出上。见从其方稍出，渐成蓊郁，氤氲充溢堂宇。然后思己身中藏气又出，与云色采合气同，明净香洁，覆庇家门，宫城山水，小大毕周。神官灵兽，齐整参罗，前后左右，四方内外，上下隐显，六时转隆，神灵普遍也。

#### 上讲座存三色三一魂魄第十五

上讲时，先存三色；次存三一。行道有六时，上讲但三时，食后、上晡、人定。三时入斋堂，捻香礼三拜，巡回依坐。竟，有众者，法师以板击席，仍放板膝前，同临目握固，存头气青；两手气赤；两足气白，三气绕身。其形如左。

#### 初登高座先存礼三尊第十六

讲义及读经，先静，竟，登起向太上座，三过上香，却后数尺，礼三尊三拜。又仍存经师、籍师、度师，各礼一拜，合六拜，乃登高座，其形如左（三尊者，道尊、经尊、真人尊。三尊通乎人身，人身欲与三尊同者，清斋、精思、礼拜、存之日一过，如此初下六拜，后重不须礼。一则二拜，叩搏愿念如



法。羸者，心拜之）。

### 登高座侍卫第十七

登高座，安坐（安坐者，大坐也），金板当心，鸣鼓三十通，咽液三十六过。临目见左青龙、右白虎、前朱雀、后玄武、足下八卦神龟、三十六师子伏前，头巾七星，五脏生五气，罗文覆身上。三一侍经，各千乘万骑，仙童玉女卫之。其形如左。

### 万遍竟云驾至第十八

能读五千文万遍，太上云驾下迎。万遍毕，未去者，一月三读之，须云驾至便升仙。其形如左（修行万遍之道，又存五云之星，转经之后，夜半至生气之时，饱服五牙之气，坐向月建之方，叩齿九通，咽液三十六过。临目存五星辰在头，岁在左肘，太白在右肘，荧惑在两膝间，镇在心中，久久乃止。行入常思不忘，千灾自然绝，万祸不能干。后当身上出水，身下出火，智慧六通，奄见五老，是五星精神，见之则变化自在，同升乎天也）。

### 思修九宫法

守寸在两眉头入三分（左黄阙紫户，右绛台青房），天庭宫（左明堂上，雌宫），明堂宫（两眉中却入一寸，是雄宫），

极真宫（左洞房宫上，雌宫），洞房宫（两眉间却入二寸，是雄宫），玄丹宫（在丹田泥丸宫上，雄宫），丹田泥丸宫（两眉间却入三寸，是雄宫），太皇宫（在流珠宫上，雌宫），流珠宫（在泥丸宫后一寸，是雄宫），玉帝宫（在流珠宫后一寸，是雌宫）。

守寸紫户大神，名平静，字法王。青房大神，名正心，字初方。三呼其名字，祝曰：

紫户青房，有二大神，手把流铃，身生风云，侠卫真道，不听外前，使我思感，通利灵关，出入贞利，上登九门，即见九真，太上之尊。

明堂宫，左有明童真君，讳玄阳，字少青；右有明女真官，讳微音，字少元；中有明镜君，讳照精，字四明。三君共治明堂宫，并著绿锦衣，腰带四玉铃，口衔玉镜，镜铃并赤玉，并如婴儿之状。三呼三君名字，叩齿九通，则千妖伏息。

洞房宫，左有无英公子，右有白元君；中有黄老魂。三真共治洞房宫中。此飞真之道，在《金华经》中。

丹田泥丸宫，左上元赤子，名玄凝天，字三元先；右帝卿君，名肇勒精，字中玄生。二人共治丹田宫。此守三元真一，地真之要路，升空乘龙车之道也。

流珠宫，有流珠真神居之，又有日月中女子，名缠旋，字密真。别有《流珠经》，此太极公卿司命之道。

玉帝宫，有玉精神母居之，又有紫素、黄素、白素三素元君居之。上清神母姓廉，名衍，字荒彦；长九寸九分，著黄衣素灵之绶，头戴七称珠玉之髻，冠无极进贤冠，居无上之上，太极珠宫中七宫府，五灵乡，玄元里，下治兆身玉帝宫中。

天庭宫，有上清真女居之。真女姓厥，名回，字粥类。长六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴玉宝飞云之髻，

冠玄黄进贤之冠，居无上之上，太上昆仑太幽宫中明堂府，九光乡，大化里，下治兆身天庭宫中。

极真宫，有太极帝妃居之。太极帝妃姓玄，名灵生，字伯元。长七寸七分，著玄罗五色凤文之绶，头戴七宝玄云之髻，冠无极进贤之冠，居无景之上，太清极玄宫中玉房府，三丹乡，丹元里，下治兆身极真宫中。

太皇宫，有太上君后居之。太上君后姓迁，名含孩，字合延生。长三寸三分，著七宝飞精玄光云锦霜罗九色之绶，头戴九玄玉精颓云之髻，冠玄黄无极三宝玉冠，居太清九玄之洞，无极真宫中丹精府，灵光乡，玄玄里，下治兆身太皇宫中。

四宫雌真一之道，高于雄真一。素灵所秘，是天元始生之阴，宫号帝妃也。叩齿十六通，祝曰：

太清阴神，号曰女灵。变景九玄，乘真隐冥。日吉天朗，告斋上清。心念目瞩，洞鉴神形。还守宫宅，玉华芳盈。五色变化，流黄紫青。运致飞霞，上造帝庭。毕，叩齿三十六过止。

玄丹宫，有中黄太一真君居之。太一真君厥讳规英，字化玄。貌如婴孩，坐在金床玉帐之中，著紫绿锦衣，腰带流火之铃，铃赤色，光声闻于十万里。左手把北斗七星之柄，右手把北辰之纲。乃存北极辰星，中有紫气满宫，溢出身外，身与紫气混合为一；又存日从天上下，入玄丹宫紫气中央；次存中黄太一真君，从北极紫气中下，入兆玄丹宫日中央坐，口吐紫气满玄丹宫中；又存己身，上入玄丹宫中，对中黄太一真君坐。因心起再拜膝前问道，求神仙长生之意，因存口吞紫气四十过。又存北斗七星，中有一赤气大如弦，下入己玄丹宫中；又存太一真君，与兆俱乘日入赤气道中，上诣北斗魁中，寝卧良久。行之十八年后，使玉童玉女。祝曰：

太上真皇中黄紫君，厥讳规英，字曰化玄。金床玉帐，紫

绣锦裙，腰带火铃，斩邪灭奸。手把星晶，顶生日真，正坐吐气，使我咽吞。与我共语，同晏玄丹，拒灌七魄，和柔三魂。神灵奉卫，使我飞仙。五脏自生，还白童颜。受书上清，司命帝官，所愿所欲，百福惟新。

头中诸真神，上治九天之上，下治头中泥丸。人身中百神，皆与天灵通同。久存呼之，则载人升天也（其文在前）。

帝君讳逢陵梵，字履昌灵，一名七灵，一名神丈人，居太极紫房中，为身中百神之主。帝君上治玉清天紫房宫，下治人头紫房宫中。太一名务猷收，字归会昌，一名鲜明，一名寄频。左无英公子，名玄充叔，字合符子，一名元素君，一名神公子（洞房宫）。右白元洞阳君，名郁灵标，字玄夷绝，一名朱精，一名启成（在六合洞房宫）。中央司命丈人君，名理明初，字玄度卿，一名神宗，一名灵华（六合洞房宫）。司命桃君，名孩道康，字合精延，一名命王，一名胞根（六合洞房宫）。帝君主变，太一主生，司命无英主精，白元主魂魄，桃康主神灵。人有五籍五符，禀之帝君，五神执之，各主其一，间关本命除死籍，上生名。常存五神，各捧一青玉案，上有我五符五籍。符长一寸，广五分；籍长五分，广一寸。存司命君左手把白玉简，右手执曾青笔，为我削除死录白简黑书，为我上生录白简青书。存符籍上有我州县、乡里、姓名、年如干，青文绿字，分明了了。五神各捧案、擎符籍，从六合宫中上入紫房宫中，对帝君前以呈帝君。帝君即命左玄一老子，名林虚夫；右三素老君牢张上；正一左仙人仲成子；正一右仙人曲文子，赉兆（兆己）符籍，上诣玉清太素、太上三元、上清高玄诸君、九天宫（太素三元高玄并太上仙宫也）。

### 思九宫五神法

九天九宫，中有九神，谓天皇九魂，变成九气，化为九神，各治一宫，故曰九宫。太清中有太素、太和；洞房中有明堂绛宫，是曰六府。上曰天府，下曰洞台。三五之号，其位不同。一曰太清之中，则三五帝君。二曰三一丹田，神又五者，符籍之神太一、公子白元、司命、桃君是也，合而名为三五。三五各有宫室，若三真各安在其宫，五神上见帝君，帝君左有元老丈人，右有玄一老君，此则无极之中、所谓九宫上一则真一也。九君所谓天之魂，自然成真子也，以为兆神者也。若兆知精存九君，深思三真，必能以兆一体周旋三五之中，反覆七九之里，使天帝之灵魂常治兆己，五神奉籍，周而复始，必将白日登度，何但不死而已哉！

### 存元成皇老法

以月二日，三日夜半安卧，闭目，存思太极中皇帝君，次思左有元成老子，衣青衣，冠五华白冠，左手持金液浆，右手持白幡，并在太极之中。有九名：一曰太清，二曰太极，三曰太微，四曰紫房，五曰玄台，六曰帝堂，七曰天府，八曰黄宫，九曰玉京玄都。要而言之，从人顶上直下一寸为太极宫，太极宫方一寸耳，在六合宫之上。六合太一之神居焉。从两眉间却

入一寸为明堂；却入二寸为洞房；却入三寸为丹田。其明堂之北，洞房之南，两眉间之上，一寸为六合宫，宫方一寸。存三真毕，又存我魂一人如我之状，上入太极宫。二老因授青芝金液浆见与，以次存食芝而饮浆，青芝似莲华，浆似美酒耳。饮食都毕已，乃再拜帝君之前，而言曰：今日清吉，帝君在庭，赐以神芝，金液玉浆，二老度籍，太一奉章，长生久视，寿命未央。又存帝君答曰：幸哉奉时，月二日、三日复来。毕，因以取服，名受帝之药。存思太极之时，皆当从两眉间入焉。两眉间为泥丸之玉门，名曰守寸黄阙紫房矣。

### 存帝君法

常以本命日，或正月一日，或以六戊日，正中时冠带入室，北向，再拜，咒曰：

高皇帝君，太上玉晨，皇天元老，无上大道，曾孙某甲，愿帝君长安兆身紫房宫中。其夜人定时，入密室正卧，冥目上向，存念北斗太极中央大明星，精耀正黄，光气来下在兆目前，引入口中，咽三十七过止。存使黄精和气，填满太仓、黄庭、中下丹田，下至阴室地户，周行匝体，悉令毕至。乃又念紫房宫中有五人，炊象成五帝，天皇帝君正在中央，太一来上当跪帝前，奉兆命籍、司命立后，除兆死录，存削去死录。死录，黑简白书也；生录，白简青书也。存见白玉之简，曾青之笔，司命进授此白简青笔于帝君，帝君伏南向而书之曰：某郡某乡里、其甲字、乞玉简记年，长生上玄，所向如愿，为真为仙，天下见者，皆曰真人。太一司命，保护甲身。永养日月，寿百

万年。又心存籍简一枚，令长一寸，阔五分耳。思念书字，极令了了。又次存太一、公子、白元、司命、桃君五人，从六合宫上入紫房中，各奉书玉案，案上各有一符，符各有青绿色，以呈帝君。帝君以次取符，付向者共化之四帝。其一帝名曰凋梁际，字青平；其一帝名曰长来觉，字南和；其一帝名曰彰安辛，字西华；其一帝名曰保成曷，字北伐。存此四帝并共读五符，读五符毕，因授与兆。兆得符即跪帝君前，以次服之。毕，又存思四帝从虚空中上升三天，临去各告兆曰：子能常存我名字者，则辟万害，长生不死。我太上之子，三元之内真，度汝命籍，五符入形，故以永存天地，以致仙灵也。若春月则存青平帝，以青液之醴，盛以青玉碗一升见与，服之。服之毕，四帝俱上升天也。夏月存南和帝，四时仿此也。

### 存玄一老子法

又存帝君之左，有玄一老子，服紫衣，建龙冠；又存帝君之右，有三素老君，服锦衣，建虎冠。夫龙虎冠，象如世间远游冠，而有龙虎之文章也。玄一老子，名林虚夫，字灵时道；三素老君名牢张上，字神生道。二老并从，正一仙人在后，其左仙人仲成子，一名帝宾，字四华；其右仙人曲文子，一名光坚，字灵和。服色衣冠，亦如二老之状。

### 存司命法

又存司命，下至六合中，诣太一宫，司命合形太一。太一复上请帝君，度兆符籍。太一启帝君曰：符籍已度，司命合形，四帝赐醴，高上记生，乞得书名出录，以付二老君。于是帝君，忽于怀中出兆命籍，付左老子；又于怀中，出兆五符，付右老君。二老授符籍，而言于帝君曰：某甲生录已定，长存世上，帝符五行，上记太素宫。于是二老命二正一仙人仲成子、曲文子、赍某甲命籍、五符，上诣玉清、太素、太上、三元、上清、高玄诸君，九天宫宣令：帝度某甲生籍，使得神仙，号曰真贤。二老有命，皆使记焉。于是二人赍兆符籍，宣于九天，良久，都毕。又存司命、太一分形，各为一人，共游行太清，检御一体、百神上下既匝，各还其宫。名此为百神混合本命帝君大变之道。五帝定录之时，二老定生之会也。



## 卷四十四 存思部三

### 太一帝君太丹隐书（一名《太一别诀》）

夫学道而无太一，犹视瞻之无两眼；存念而无太一，犹胸腹之失五脏；御神而无太一，犹起行之无四支；立身而无太一，犹尸僵而无气矣。是为此经。开通万神，生成魂津，千涂百径，太一而立人焉。若学无师者，徒自烦劳也。今别复撰此经之波流，钞出其外际，未陈幽妙，靡该秘唱者，名为太一别诀。

如有可寻，以悟始涉未，令顿开深源者也，自使别诀微行，于学者涉粗迹以自觉焉。至于幽玄内构，合奇万津，流会真神，混合灵府，炜烨于神景之变，发曜于造化之外，焕如圆曜，寂如太无，郁起而空洞结云，凝思而千年继夜，可谓微乎深哉！太一之变也，皆理竭于此经，事悉于洞玄者矣。

夫人者，受生于天魂，结成于元灵，转轮九气，挺命太一，开关三道，积神幽宫，所以玄液七缠，流津敷泽，日月映其六虚，口目运其神器，云行雨施，德拟天地。胞胎内一，五因来具，立人之道，其如此也。故五因者，是五神也；故三道，是三真也；夫五神，天之魂也；三真，天之道也；九气，天之胎；太一，天之源；日月，天之眼；玄液，天之润；六虚，天之光；幽宫，天之府；神器，天之化；元灵，帝之变。凡此言九

气者，乃混合帝君之变，变而化九，是谓九宫，九宫混变而同一矣。兆欲修己求生，当从所生之宗，所生之宗，谓元父、玄母也。元父主气，化理帝先；玄母主精，变结胞胎。精气相成，如阴阳相生，云行雨施，兆已道合。无名数起三五，兆始禀形七九，既匝兆体乃成和合，三五七九，洞冥象帝之先，当须帝营天皇之功，九变为灵，功成人体，体与神并，神去则死，神守则生。是以三元为道之始；帝君为道之根；太一为道之变；九天为道之神；九宫为道之宅；玄液为道之津。修之三年，可以照镜三田以致神仙。朝适六合，夕守泥丸，坚执胎精，使心常勤。后学之子，须此为缘。见是经者，始可与言，九气陶注，太一运神矣。既得为人，人亦象矣。自无太一灵简，三元金名，司命隐符，五老紫籍，虽受天气而生，皆不得闻见至道矣。子又无玄宫紫札，上皇宝名、太一玉策、东华隐图、三元铭神、大帝参魂者，虽受天之性，既得暂闻至道矣，亦不能修为，为不能久，久而不固，固而不专，专而不能洞也。适可隐存五岳，登行常生之涂耳，不得八景超霄，浮烟控晖，飞腾虚羽，踊跃太无矣。子又无琼台羽札、流云五校、太一金阁、五皇隐策、后圣七符、空山石函、丹台素章、玄皇玉行、天母胞图、太上圆名、保真秀景、光练神驱之录者，皆不得见《洞真玄经》，睹帝一之变，又不得闻《消魔神智慧》之咏，又不得闻《太上隐书》八素之辞，又不得闻《大洞真经三十九章》金真玉光豁落七元也。存三守一，精思洞房会帝君，则化生九灵于子形中，辅子之神明，成子之仙真，保子之长生，固子之胎魂也。白元、无英、桃康、司命、太一混合五神，捧籍列符，五神各有所主，混合九变，三五化形，于是三宫镇真，百节受灵，帝君宝籍，宿命无倾。

九天九宫，中有九神。是谓天皇九魂，变成九气，化为九

神，各治一宫，故曰九宫。太清中有太素、太和；洞房中有明堂、绛宫，是曰六府。上曰天府，下曰洞台。三五之号，其位不同。一曰太清之中，则三五帝君。二曰，三一丹田；神又五者，符籍之神、太一、公子、白元、司命、桃康君是也，合而名为三五。三五各有宫室，若三真各安其宫，五神上见帝君，左有元老丈人；右有玄一老君，此则无极之中所谓九君。上一则真一也。九君所谓天之魂，自然成真子也，以为兆神者也。若兆之精存九君，深思三真，必能以兆一体，周旋三五之中，返覆七九之里，使天帝之灵魂常治在兆己，五神奉籍，周而复始，必将白日登晨，何但不死而已哉！

帝君混化周旋三五，太一万结成七九，其数合二十四也。天有二十四气，气之上，化也，变而则成真人，真人亦禀之，故体有二十四神，神有千乘万骑，云行八极之中。子若思存，念之慎勿忘，可以辟死求生，上超十方。于是神安气洞，上与天通，越出地户，过度天门，隐息四维，七星散分，飞行云房，日月殖根，守金藏玉，制御万神。仙王何人？我已成其真矣。此隐存之道也，并有经诀在《上皇中极宝景篇》中，子既有之，不得妄传，必须歃誓，审人乃宣。

夜半生气之时，若鸡鸣时，正卧，闭目微气，存左目中出日，右目中出月，并径九寸，在两目耳之上，名为六合高窗也。日月使照一身，内彻泥丸，下照五脏肠胃之中，皆觉见了了，洞彻内外，令一身与日月光共合。良久，毕。叩齿九通，咽液九过，乃微祝曰：

太上玄一，九星吐精，三五七变，洞观幽冥。日月神光，下彻神庭，侠照六合，太一黄宁。帝君命简，金书不倾；五老奉符，天地同诚。使我不死，以致真灵；却遏万邪，祸灭消平。上朝天皇，还老返婴；太帝有制，百鬼敬听。

咒毕，乃开目，名为日月练根，三光校魂，以制御百神，辟诸鬼气之来侵，使兆长生不死，夕夕存之矣。

又存左目为日，右目为月，共合神庭之中，却上入明堂之中，化生黄英之体，下流口中，九咽之以哺太一，常以生气时存之。毕，微祝曰：

日月上精，黄水月华，太一来饮，神光高罗。使我长生，天地同柯。毕，五日一行之。

口中舌上为神庭。存日月既毕，因动舌，觉有黄泉如紫色，从舌上出，上流却入明堂之中，名为黄英之醴也。存思之时，当闭目绝念，常以月朔之夕生气之时，安卧，闭目向上，心存二十四星，星大一寸，如相连结之状。又存一星中辄有一人，合二十四人，如小儿始生之状，无衣服也。于是二十四星，直从天上虚空中来，下回绕一身外三匝。毕，次以咽之入口中，凡作二十四咽，咽时辄觉吞一星也，觉从口中径至脐中，名曰受命之宫也。又觉星光照一腹内，洞彻五脏。又存星光化为二十四真人，并吐黄气如烟，以布满脐中，郁郁然洞彻内外也。良久，微咒曰：

二十四真，回入黄庭，口吐黄气，二十四星，灌我命门，百神受灵，使我骨强，魂魄安宁，五脏受符，天地相倾。毕，名曰真气，入守命门，以辟灾祸百鬼之疾，令人长生不死。

太元混合以象一灵，虚生之子以为上帝君。又居泥丸之帝，以为三一之尊帝。尊帝者，是虚生之子也，是谓三帝焉。太一受生于空洞，变化乎八方，立景于三帝之间，流会乎万神之领。天地之尊，皆须太一而自运也。灵帝无太一，则玄灵不回气；尊帝无太一，则三一不居其宫域。故太一之神，并五神以通用，上合体于二帝。帝之为高，犹天皇帝君者也。尊形九魂，魄生三五，合会结成帝君将帝生也，受玄中上气，三五离合之所挺

焉。是以帝生于无极之表，空成之中是于太清之域，治在玉清气紫微宫。光耀五色，华盖九重，前洞泥丸，后开幽门，下临六合，上连紫云，百灵宿卫，飞阁交通，玉殿朱陛，内有金房，中有太真，号曰天皇。凭虚而生，处无极之中，衣五色珠衣，冠九德晨冠。制御天地，时乘飞龙，六轡超虚，九道自通。此自然之精气，众真之帝君。兆常思而诵之，可以为仙王。

太极之中有九名：一曰太清，二曰太极，三曰太微，四曰紫房，五曰玄台，六曰帝堂，七曰天府，八曰黄宫，九曰玉京玄都。要而言之，从人顶上直下一寸，为太极宫，宫方一寸耳，在六合宫之上。六合宫，太一之神居焉。六合宫在明堂之北，洞房之南，两眉之间上一寸也。帝君主变，太一主生，司命主命，无英主精，白元主魂魄，桃康主神灵。人有五籍五符，禀之帝君，五神执之，各主其一，间关本命，除死上生，而无太一之事者，万不生也。

太一者，胞胎之精，变化之主。魂魄生于胎神，命气出于胞府。变合帝君，混化为人。故太一之神，生之神、生之母，帝君之尊，生之父。太一名务犹收，字归会昌，又名解明，一名寄频。此《三元洞玄内宝经》之真名字，《外诀》、《杂钞》云云之名，皆非实非真也，今此名字，甚不可告人。自知之者，长生不死，辟却万祸，能致神灵，玉女来降已矣。夕夕当存太一在己身中六合宫，或存太一在兆左右，座卧背向无所不在也。皆以生气时存之。毕，咒曰：

太一之精，起于太清，魂魄受化，形影为灵，摄御百神，拘制三阳。帝君玄烟，合真会昌，内安精气，外攘灾殃，却除死籍，延命永长。衣服老少，变易无常，治在六合，周旋绛宫，下达洞门，上到玄乡。混合三五，游息天京，呼引日月，变化雄雌，摄兆符籍，胞胎之囊，死生之命，太一扶将。

存太一与兆形正同，衣服亦同也。是以兆之身，常当斋洁而修盛，以求会景于太一也。衣服中物，一不得假借于不同气者，诸如此类，皆当慎之。子既不能服食去谷，精思研真矣，当节诸臊秽腥血杂食，荤辛之菜一为禁绝。若能如是以愈矣，可以庶生命之长矣。

右无英公子者，结精固神之主，三元上气之神，结精由于天精，精生归于三气矣。故无英公子，常摄精神之符命也，名玄充叔，字合符子，又名元素君，一名神公子，常在玉房上清之内。夕夕存思之，毕，咒曰：

太上玉真，皇精相连，三元英气，太玄紫宸，九霄挺明，五华生烟，黄阙金室，中有大神。握固流铃，首建华冠，紫盖回飚，龙衣虎文，貌状婴儿，四灵洞均，出丹入虚，合形帝君，呼阴召阳，天道有真，名曰玄元叔，号为无英君，周流九道，散化五常，摄精生我，与道长存。

右白元君者，或曰洞房君也，主摄魂魄之气，捡御灵液之神，故魂魄生于九灵之宫，神液运于三气之真，是以御之者，号曰白元洞阳君，摄持魂魄之符命焉。白元君，名郁灵标，字玄夷绝，又名朱精，一名启成，治在玉堂上清之内。夕夕存思毕，咒曰：

太上神精，高清九宫，三气结变，正当神门。龙衣虎带，扶命还魂，腰佩玉书，黄晨华冠。把籍持符，呼吸混分，名曰郁灵，号曰白元。与我俱游，上到阳关，周旋九清六合之中。固养精液，泥丸上元，百神扶将，各镇宝宫。检御既毕，还安黄房。

中央司命君者，或曰制命丈人，主生年之本命；摄寿夭之简札。太一变魂而符列；司命混合而对魂。帝君司命之神，主典年寿魁柄长短之期，是以混合太一，以符籍而由之，故称丈

人焉。名理明初，字玄度卿，一名神宗，一名灵华。白日治幽极宫，通御阴房，出入神庐两门中；夕治在玄室地户之中，幽宫之下，六合宫之上一界中耳。阴房者，是鼻之两孔中也。司命出入，当由鼻孔，不两眉间也。夕在玄室，为玉茎之中，地户亦为阴囊中也。若女子存之，令在阴门之内，北极中。夕夕存思焉，存毕，咒曰：

皇一之魂，化成九名，混合三真，变景帝庭。幽极玄户，中有天灵，周旋七运，百神合成。摄筹把算，司命之精，龙衣虎裙，冠巾七星。常在我己，安存我形，号为丈人，名曰理明。上通符命，使我长生，三元六府，万关条平。摄御灵气，与兆合并，龙轮徘徊，共登太清。齐光日月，幽幽冥冥，刻命青绿，天地俱倾。

命门桃君者，摄稟气之命，此始气之君也。还精归神，变白化青，合规挺矩，生立肇冥，天地之资元，阴阳之灵宗，金门玉关，房户之宝，并制命于桃君之气也。故太一还景，帝君合魂。还景者，俱混洞以万变；合魂者，化精液而生也。精变之始，由桃君而唱，以别男女之兆焉。桃君名孩道康，字合精延，一名命王，一名胞根。白日治在金门五城中，是为脐中命门。下丹田之宫也，夕治在六合中，太一之右焉。夕夕存思。毕，乃咒曰：

玄元结精，虚气合烟，胞胎之结，阴阳之亲。太上三气，下入兆身，百节受灵，万神各陈，混沌为一，名为桃君，形如始生，晖晖冲天。衣服五色，华彩凤文，手执神符，合帝之魂。腰带虎书，赤巾丹冠，金床玉榻，正当命门。口吸精气，强我骨筋，右有神女，手把朱幡；左有玉童，书记帝言。阳气左行，混变未分；阴气右回，流形七旋。上诣泥丸，常游九宫，出入幽门，摄练魂魄，六府之间，领录万神，与我俱仙。

右三五浑合，化生五神之法。此五神者，禀五气之大灵，符玄命之宗也。上生虚无，下结一身，身中之生，须五神以起居焉。兆当夕夕存思而祝之焉。若不能闇讽，可白日按文而吟之，不必夜半要生气时耳。夫三魂生于五神；三真出于五灵，谓此道为混合三五之法焉。行之者，长生不死，名此道曰察明堂历神紫宫，生化三五，朝胎上元者也。虽已得仙者亦当行之者，长生也。存思之时，坐卧任意。若座者，得向本命为佳。若不能顿思五神者，可以先存二神，后存三神，周匝复始，先后太一始也。

### 镇神养生内思飞仙上法

太微天帝君，镇神内思，解脱散结，固魂凝魄，混合化玄，修真之道，开通六府，五宫受灵，咽气思真，芝芳自生，胃管结络，神澄体清，玉辇立至，白日登晨。常当清斋，沐浴烧香，入室夷心，弃累遗尘，豁然无滞，注念不眠，然後真形可睹，游神可还。每以平旦东向，平座临目，内存形色朗然，呼其正讳，还镇本宫，叩齿三十六通，乃存：

发神，名苍华，字太元，形长二寸一分；

脑神，名精根，字泥丸，形长一寸一分；

眼神，名明上，字英玄，形长三寸；

鼻神，名玉垄，字灵坚，形长二寸五分；

耳神，名空闲，字幽田，形长三寸一分；

舌神，名通命，字正伦，形长七寸；

齿神，名嵒锋，字罗千，形长一寸五分。面部七神，同衣



飞罗裙，并婴儿之形。存之审正，罗列一面，各镇其宫。毕，便叩齿二十四通，咽气十二过祝曰：

灵源散气，结气成神，分别前后，总统泥丸。上下相扶，七神敷陈，流形遁变，变养华元。导引八灵，上冲洞门，卫躯摄景，上升帝晨。毕，次思：

心神，名丹元，字守灵，形长九寸；

肺神，名皓华，字虚成，形长八寸；

肝神，名龙烟，字舍明，形长七寸；

肾神，名玄冥，字育婴，形长三寸六分；

脾神，名常在，字魂庭，形长七寸三分；

胆神，名龙曜，字威明，形长三寸六分。六府真神，同著丹锦飞裙，处五脏之内，六府之宫，形若婴儿，色如华童。存之审正，罗列一形，从朝至暮，思念勿忘，叩齿二十四过，祝曰：

五脏六腑，真神同归，总御绛宫，上下相随。金房赤子，对处四扉，幽房玄阙，神堂纽机。混化生神，真气精微，保炼丹田，与日齐晖。得与八景，合形升飞。毕，次思：

精血三真，名无生君，字黄宁子玄，镇我两乳之下源。

骨节二真，名坚玉君，字凝羽珠，镇我太仓之府五肠之口。

心中一真，名天精液君，字飞生上英，镇我胸中四极之口。

九元之真，男，名拘制，字三阳，镇我左耳伏晨之户。

皇一之魂，女，名上归，字帝子，镇我右耳伏晨之户。

紫素左元君，名翳郁无刃，字安来上，镇我头面之境。

黄素中元君，名圆华黄，字太张上，镇我胸胁之境。

白素右元君，名启明萧刃，字金门上，镇我下关之境。

日中司命，名接生，镇我左手中。

月中桃君，名方盈，镇我右手中。

胎中一元白气君，名务玄子，字育尚生。

太一精魂，名玄归子，字盛昌，二神镇我五脏之上，结喉之本。

结中青气君，名案延昌，字合和婴儿。

元君精魂，名保谷童，字明夫。二神镇我五脏之下，大胃之上。

节中黑气君，名斌来生，字精上门。

帝真精魂，名幽台生，字灌上生。二神镇我九肠之口，伏源之下。

胞中黄气君，名祖明车，字神无极。

天帝精魂，名理维藏，字法珠。二神镇我小腹之内，二孔之本。

血中赤气君，名混杂子，字叔保坚。

司命精魂，名发纽子，字庆玄。二神镇我百关之血，绝节之下。

上玄元父君，名高同生，字左回明。

下玄元母，名叔火王，字右回光。

帝皇太一，名重冥空，字幽寥无。

九帝尊，名日明真，字众帝生。

太帝精魂，名阳堂王，字八灵君。

九关魂，名绿回道，字绝冥。

天纪帝魂，名照无阿，字广神。七神镇我本命之根，塞我死路之门。存祝众真，从头至脐，无不朗然，便使金液流匝，玉华映魂，灵台溢于穷肠，帝气充于九关，七祖披释于三涂，受更胎于南宫，镇存神于一身，布真气以固年。毕，叩齿三十九通。祝曰：气生于无，结生阳神，阳气外贡，阴气内成，二象番错，交结元灵。内真镇卫，九孔受生，保魂固魄，万神安

停，保我三关，华芝充盈，与我同升，俱造玉清。毕，咽气三十九过，以镇三十九户，气泽匝润，流布一身。若能弃累，不拘世尘，静心夷意，朗睹虚房。眇想内视，镇神固魂，绝死气于九户，镇生宫于上关。回匝存祝，如面共言，昼夜三年，真神见形，皓华反根，朽齿牙生，五脏结络，内补充盈，役召六甲，驱策六丁，室致九霄之宾，神降二素之辔，神飞形举，白日登晨。

右上真之神，宝名内字，而镇在人身之内，运于九天之气，固人六府机关。万积化生，皆由于神，神镇则生，神游则亡。勤心积感，则能举人身形，上升玄宫。求仙之道，不知形神内名，又不知填死户，长生岂可冀乎？夫修此道，不得冒履淹秽，食五辛酒肉之属，触忤正气，神则去矣。人知丰肴以甘口，爵禄以荣身，而不知甘口之食，是伤神命之斧，奢丽是消真之源，故神人爱幽寂而栖身，不显形于风尘者也。修生之家，且可慎乎！

### 三九素语玉精真诀存思法

诀文曰：九天丈人，三天玉童，同时传太帝君、天帝君，天帝君传太微天帝君，太帝君以传南极上元君、天帝君以传西王母，太微天帝君以传金阙圣君金阙圣君以传上相青童君，青童君传西城王君，使付后学应为真人者，承真相统，气系皇篇，至王君已经七千馀劫。王君后封灵文于王屋山西穴玉室之内，有素灵之官侍香典文，其道秘妙，不行于世。若有玄名得遇此文，万仙来朝，天官卫身。勤行苦思，白日升晨。凡受上

清道经三宝妙章、步虚升玄之道，而不先释五脏开理幽关，万气不固，真灵不欣，徒劳勤事，万不得仙。今撰玉诀，上帝妙言，以传后学，秘而奉真，慎勿轻传，殃灭子身。

每至本命之日，沐浴入室，东向叩齿九通，冥目，思东方青帝，少阳九灵真人，讳拘上生，身長九寸，头戴九元之冠，衣单青飞裙，手执青精玉板，乘青云飞舆，从青桂玉女十二人，从天清阳宫中来下，以青云冠覆我身。思九灵真人乘云气入我身中，安镇肝内，便三呼少阳九灵真人拘上生，赍青芝玉精，补养我身，便三味口三咽止。仰咒曰：

苍元浩灵，少阳先生，九气还肝，使我魂宁。幽府结华，藏内鲜明，练容固体，返白为青。化内发景，登升紫庭。敢有犯试，摧以流铃。上帝玉录，太清记名。毕，引气九咽止。

正南向，冥目，叩齿三通，思南方赤帝，太阳南极真人，讳融上生，身長三寸，头戴进贤之冠，衣绛章之衣，手执朱玉之板，乘赤云飞舆，从赤桂玉女十二人，从天兰台宫中来下，以丹云冠覆我身。思太阳南极真人，乘云气入我身中，安镇心内，便三呼太阳南极真人融上生，赍丹芝、玉精，补养我身，便三味口三咽止。仰咒曰：

赤庭绛云，上有高真。三气归心，是我丹元。腾我净躬，遥奏以闻。心固神静，九灵闭关。金真内映，紫烟结云。太微绿字，书名神仙。飞行上清，朝谒帝庭。毕，引气三咽止。

正西向，冥目，叩齿七通。思西方白帝，少阴素灵真人，讳辱明子，身長七寸，头戴玉宝玄冠，衣素锦之衣，手执素玉之板，乘白云飞舆，从素灵玉女十二人，从天皇宫来下，以素云冠覆我身。思素灵真人，乘云气入我身中，安镇肺内，便三呼少阴素灵真人辱明子，赍白芝、玉精，补养我身，便三味口三咽止。仰咒曰：

素元洞虚，天真神庐。七气守肺，与神同居。保练玉藏，含华玉芝。澄诚明石，游御玄虚。白玉金字，九帝真书。使我飞仙，死名落除。游洞三清，适意所如。毕，引气七咽止。

正北向，冥目，叩齿五通。思北方黑帝，太阴玄灵真人，讳冥玄默，身長五寸，头戴玄冠，衣玄云之衣，手执玄精玉版，乘玄云飞舆，从太玄玉女十二人，从天玄阴玉虚宫中下，以玄云冠覆我身。思太阴玄灵真人，乘云气入我身中，安镇肾内，便三呼太阴玄灵真人冥玄默，赍玄芝、玉精，补养我身，便三味口三咽止，仰咒曰：

玄元北极，太上灵玃，五气卫肾，龟玉参差。宝华结络，胃藏朗开，神名玉台，年同二仪。上皇大帝，峙然不迷，役使六甲，以致八威。参龙驾浮，超然升飞，吐纳神芝，历劫不衰。毕，引气五咽止。

正向本命之上，冥目，叩齿十二通。思中央黄帝总元三灵真人，讳原华，身長一寸二分，头戴黄晨玉冠，衣黄锦飞裙，手执黄精玉版，乘黄霞飞舆，从中央黄帝玉女十二人，从天玉房宫中下，以黄云冠覆我身。思三灵真人，乘黄云入我身中，安镇脾内，便三呼总元三灵真人原华，赍黄精、玉芝，补养我身，便三味口三咽止。仰咒曰：

黄元中帝，本命之神。一气侍脾，使我得真。五脏生华，结络紫晨。变景练容，保命长延。后物而倾，千神来臣。老君玄录，名书神仙。长生久视，与天同存。毕，引气十二咽止。

还东向，冥目，叩齿三十六通。思五气玉清高皇上宝真人，讳太虚，身長三寸，头戴玉晨之冠，衣五色无缝单衣，左手捧日精，右手执月光，镇我上府泥丸宫中，呼上宝真人太虚，赍五气流精陶灌我身，便五味口五咽止。仰咒曰：

高上真皇，五帝太灵，保我泥丸，玄映五形。三光朗耀，

日月洞明，飞云流霞，陶注玉精。练容保魄，神魂自生，千变万化，升入紫庭。毕，引气五咽止。

五方命咒毕，摩两掌拭面目。如此五年，面发金容，五内华生，五脏保气，神仙道成。三宫感畅，真灵见形，乘空驾虚，白日升天。惟在密修，慎勿轻传。

### 紫书存思元父玄母诀

《紫书诀》言，修行上真之道，当以三月、九月、十二月三日，十五日、二十五日，一年三月，月有三日，三过行之。此月是九天元父受化之月，日是游宴九天上宫值合之时也。每至其日，沐浴清斋，于隐寂之地，不关人事，正中时向东北之上，仰天思九天元父姓名，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻，冠无极进肾之冠，居九天之上，太极琼宫玉宝之府，丹灵乡洞元里中。时乘碧云飞舆，从十二飞龙、二十四仙人，白鹄侍轮，游于虚玄之上。存思分明，令如对颜，便九拜于元父三过，阴唤元父，甲今有言，乞与上升，奉侍帝灵。辄叩齿九通。仰祝曰：

高上帝尊，元始大神，含真胤气，形秀紫天。乘云驾浮，落景八烟，回轮曲降，道荫我身。得乘霄景，奉侍灵轺，今日八会，上愿开陈。所向所启，莫不如言，长享元吉，与帝同存。毕，仰咽九气止。如此元父感悦，帝尊欣喜，即命领仙，注子金名。九年精思，克遣琼舆，下迎子身，白日飞升，上造帝庭。此道高妙，非下世凡学所可参闻，自无金名玄图录字，上清莫得知见。若于机会遇得宝篇，皆宿挺合仙，但当宝录，密而奉

行。轻说非真，罪延七祖父母，长闭地狱，万劫不原，身没鬼宫，万不得仙。

《紫书诀》言，凡修上真之道，当以二月、七月、十月五日、十六日、二十九日，一年三月，月有三日。此月是九天玄母合化始生之月，日是天元合庆变雌天德之日也。至其日，沐浴清斋，别室寂处，不关人事，夜半露出中庭，西南向，仰天思九天玄母姓名，身长六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九气无极之上，琼林七映之宫，玉宝洞元之府，九光乡上清里中。时乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，白凤侍轮，游于太清之上，无崖之中。存思分明，朗然对前，便九拜于玄母三过，阴唤玄母，甲稊质贪真，仰慕上清，乞与眇接，得侍玉灵。叩齿九通。仰祝曰：

三合五离，混化二元。气凝成神，神变合魂。胎养九天，保固生门。阴精玄降，陶灌形源。练质染气，受化自然。今日何日？玄母开陈。八愿九会，上获天真。景向参微，得启玉晨。骨腾肉飞，乘虚络烟。上造紫轡，长辅帝臣。毕，仰咽气九过止。如此，玄母含畅，帝妃喜欢，天真下降，得见灵颜，即命青宫注上玉名。九年精思，帝遣玉女，乘云下迎，上升玉清，侍卫玄宫。此道高妙，非世所闻。若有金名，标侍帝简，得见此文，皆宿挺合仙，克得飞升，游宴九天也。慎勿轻泄，身没三官，七祖被考，长闭河源。

凡行此道，当精心苦念，目瞻灵颜，仰希玄降，以要飞仙，不得污秽。上干太真，身被禁闭，万不得仙。若天阴无日，亦可于静室行事，但使心目相应，口向相和，神无不感，道无不降，学无不成，道降神附，飞行太空也。

### 紫书存思九天真女法

《紫书诀》言，凡修上真之道，常以九月九日、七月七日、三月三日，此日是九天真女合庆玉宫，游宴霄庭，敷陈纳灵之日。至其日，五香沐浴，清斋，隐处别室，不交人事，夜半露出，烧香北向。仰思九天真女，讳字，身長七寸七分，著七色耀玄罗袿、明光九色紫锦飞裙，头戴玄黄七称进贤之冠，居上上紫琼宫，玉景台七映府，金光乡无为里中。时乘紫霞飞盖、绿辇丹举，从上宫玉女三十六人，手把神芝五色华幡，御飞凤白鸾，游于九玄之上，青天之崖。思毕，心拜真女四拜，叩齿二十四通。仰祝曰：

天真回庆，游宴紫天。敷陈纳灵，合运无间。上御玉宫，下眇兆臣。八会开张，九愿同缠。思微立感，上窥神真。流精陶注，玉华降身。万庆无量，长种福田。毕，仰引气二十四咽止。如此，真女感悦，神妃含欢。上列玉帝，奉兆玉名，记书东华，参篇玉清也。修之九年，面发金容，体映玉光，神妃交接，身对灵真，克乘飞盖，游宴紫庭。此法高妙，世所不行。若有金名，书字紫简，得见秘文，骨挺应仙。宝而密修，计日成仙。轻泄非真，罚以神兵，长役幽泉，七祖受累，万劫不原。



## 卷四十五 秘要诀法部一

### 修真旨要

#### 序事第一

道者，虚无之至真也；术者，变化之玄伎也。道无形，因术以济人；人有灵，因修而会道。人能学道，则变化自然。道之要者，深简而易知也；术之秘者，唯符与气、药也。符者，三光之灵文，天真之信也；气者，阴阳之太和，万物之灵爽也；药者，五行之华英，天地之精液也。妙于一事，则无不应矣。

#### 性情第二

夫生我者道，稟我者神，而寿夭去留不由于已，何也？以性动而为情，情反于道，故为化机所运，不能自持也。将超迹存亡之域，栖心自得之乡者，道可以为师，神可以为友。何谓其然乎？夫道与神，无为而气自化；无虑而物自成；入于品汇之中；出于生死之表。故君子黜嗜欲，隳聪明，视无色，听无声，恬淡纯粹，体和神清，希夷忘身，乃合至真，所谓返我之宗，复与道同。与道同者，造化不能移，鬼神不能知，而况于

人乎！盖传受之者，多不能叩师旨、晓玄奥，滥参经法，不会修行之由，不知避忌、动静、进退、取舍之端，致于俯仰触于正真，虽然立功，功不足以补过。学仙之士，须探幽赜玄，制遏情性，性常静之，情无挠之，情性平和，方可以学道矣。

### 明正一箬第三

箬者，戒录情性，止塞愆非，制断恶根，发生道业，从凡入圣，自始及终，先从戒箬，然后登真。夫事悉两存，则理无不通。箬者，亦云箬三天妙气、十方神仙、灵官名号，与奉道之人。《修行经》云：生无道位，死为下鬼。若高人俗士，有希道之心，未能舍荣录，初门不可顿受，可受三五阶。若修奉有功，然更迁受《上古真人寻按经箬》，唯受一二阶，修行便登上真。多受不会至理，师又不明修行之由，于身未能有益。道在用心真而又正，修行契合于道，其应如神也。《正一箬》流传总二十四阶，今略云一二阶，以明正一之由。正一三五，百五十将军，箬有两阶，每一阶分为七十五将军。上阶云上仙，下阶云上灵，是人身中二仪正神也。正一三五，混沌元命，真人箬正一法中王也。正则不邪，一则不二，制伏邪伪，悉归正道。混沌者，我初生亦如天地混沌之初也；元命者，有身之元命也。知道修其元命，可为真人也。此元命之理稍长，事难具载，临坛受度，师合明示弟子，令识元命之由矣。万法悉有内外及两存，外以天中指事者，正一盟威，处乎星汉斗宫之中；若内以指事者，以身中三丹田为三气，正神变化，有千二百形影，万二千精光。经云：得三气之所生，能知六数之所因。即阳气化为龙车，阴气化为玉女，腾转无方，轮舞空玄之上。又气之所在，随神所生焉，神在则气盛，神去则气迁。气者，则

二十四神之正气，气亦成神，神亦成气。散之为云雾，合之为形影，出为乱，入为真，上结三元，下生万物，静用为我身，动用为我神，故知道成动用悉在我身。修炼之人，阴气日消，阳气日隆，既无阴气，自然上升。吴天师曰：九天之上无阴也；九地之下无阳也。

#### 避忌第四

《正一策》云：弟子遇大风雨时，皆不可朝真醮请，当默坐烧香，为真灵不降，候晴为之。

受道之家或遭疾病，唯思愆悔过，不得怨咎神明。可晨夕虔心焚香礼念，陈列章表，乞赎过尤，无不应也。

道士行法，为人治病，所受信物，分于寒栖之人，次充功德之用，若私用非道，则治病不验，罪考难解，殃流子孙。

凡人诣师受道，入靖启事，弟子皆应三叩头，转颊再拜，受讫，三日谢恩。若师在远处，入靖室面向师所在方，至心再拜，焚修香火，不得用灶中灰火。

天师门下科令云：灶灰火，为伏龙屎，故宜忌耳。

经大丧一年，殓期丧四十日，殓限内不得入靖朝真，限满沐浴，然可朝真。犯者考病十日。

凡人入靖朝礼，启事言词章表，欲得质而不繁，约而不华，上真圣聪不在繁词。

凡欲入靖朝真，具衣褐，执简当心，定神存思，然后闭气入靖。经云：闭口入靖，百神畏惮，功曹使者、龙虎君，各可见与语，谓能精心，久久行之。

《登真戒忌》云：未见无功受赏而保安，有罪不罚而永全，兆心自然之感，犹影响之相应。

又曰：夫学道者，第一欲得广行阴德，慈向万物，救人危难，度人苦厄，轻财重道，施恩布德，最为上善。遵戒避忌，第一戒贪，第二戒杀，第三戒欲。守此，实学者之坚梯，登真之枢要。苟不依承，是求没溺之渐矣。

又云：淫为十败之首。可不慎乎！

### 殓秽忌第五

科曰：忌临尸、产妇、丧家斋醮食。栴沐、饭食、便曲、不欲向北，及不得见三光。妇人月经不得造斋食，近道场，不得见诸畜产、丧车、灵堂等。

### 解秽汤方第六（出《真诰》）

竹叶十两 桃白皮四两

右以水二斗，煎取一两沸，适寒温，先饮一盞，次澡浴，兼以水摩发，秽自散也。

《真诰》曰：既除殓秽，又避湿痹疮。且竹清素而内虚，桃即折邪而避秽，故用此二物，以消形中之滓浊。见尸及丧车，速存火从己心中出往烧之，令火赫然，与尸柩等并为灰烬，便想烈风吹之；又闭目内视，令火自焚，举体洁白，见秽气自灭。忽于街衢道中见诸秽，尤要此法也。

凡书符，叩齿三通，三度，称合明。天帝曰，闭口、闭气书之。置水碗中，以刀子左搅水三匝，想北斗七星在水中，咒曰：

北斗七星之精，降临此水中，百殓之鬼，速去万里，如不去者，斩死！付西方白童子，急急如律令。咒讫，即含水喷洒，

秽气都散。当喷之时，存正一真官，朱衣，头戴策中九凤之冠，口中含水喷洒，秽亦自解。

沐浴洗面，常用此咒，三呵水，即咒曰：

四大开明，天地为常，玄水澡秽，辟除不祥。双童守门，七灵安房，云津炼濯，万气混康。内外利贞，保滋黄裳。急急如律令。

### 旦夕烧香第七

每日卯、酉二时烧香，三捻香，三叩齿，若不执简，即拱手微退，冥目视香烟，微祝曰：

玉华散景，九炁含烟。香云密罗，上冲九天。侍香金童，传言玉女，上闻帝前，令某长生，世为神仙。所向所启，咸乞如言。毕，叩齿；心礼四拜，亦云真礼四拜。

### 旦夕卫灵神咒第八

每朝及临卧之际，焚香向王长跪，叩齿三十二通，诵卫灵神咒一遍。其咒在别卷。

### 朝真仪第九

每月一日、十五日、三元日（正月十五日、七月十五日、十月十五日）、庚申日、甲子日、本命日、三会日（正月七日、七月七日、十月五日）、八节日（立春、春分、立夏、夏至、立秋、秋分、立冬、冬至），右此日，并须朝礼。若其日遇值戊辰、戊戌、戊寅，即不须朝真，道家忌此日辰。凡入靖朝礼，

预先一日不食五辛、酥、乳酪，能常断尤佳。若未能常断，但修行日慎勿食之。可以桃竹汤沐浴。至其日五更，以洁净衣服，执简、香炉、至靖户，叩齿三通，微祝曰：

四明功曹、通真使者，传言玉女、侍靖玉女，为我通达，道室正神，上元生炁，入臣身中。今日朝真，愿为通达，皆使上闻。

讫，便开门，先进右足，次进左足，至香案前，置炉案上，执简临目，叩齿三通。存思玉女童在香案左右，即上香。讫，起，执简当心平立，微倭身，发炉咒曰：

太上玄元五灵老君，当召功曹使者、左右龙虎使者、捧香使者、三气正神，急上关启三天玄元无上道君，臣今正尔入靖，烧香朝真，愿得九天正真生气，降入臣身中，令臣所启速达，迺御太清紫微君、玄元大道君（几前，毕），再拜长跪。存思太上道君，著九色云霞之帔，戴九德之冠；左玄真人在左，右玄真人在右；龙虎君、玉童玉女并在左右；天师在西位，四面功曹使者，青云之气满堂。所存并坐紫云座，座如云之升。

毕，退身再拜，又长跪，叩齿二十四通，启曰：

正一盟威，弟子某稽首，归身、归神、归命。太清玄元，无上三天，无极大道太上老君、太上丈人天帝君、天帝丈人九老仙都君、九气丈人，百千万重道炁，千二百官君，太清玉陛下，臣某幸资宿庆，得奉道真，窃不自揆，辄希长生，誓将克已立功，改过修德，伏乞原赦臣，积生已来，至于今日所犯元恶重罪，咸赐荡除，许臣自新，补复前咎。令九祖父母幽魂苦爽皆拔九幽，上升天衢；令臣修道，允合至诚；请削臣死籍，注上玄策，阖门之内共保元吉。生成之惠，实在于此。臣某叩头，谨启再拜。

又长跪曰：臣某蒙师资受道，荷佩法策。虽未明真理，志

愿神仙，长生度世，自顷已来，輶轲病疾，注连沈滞，即日上请虚素天精君一人、赤衣兵士十万人，在天柱宫以制鬼灭祸，遏却六天之气，令臣某百病除愈，仰荷大道生育之恩，某稽首再拜叩头。

又长跪曰：“臣某自顷已来，輶轲不宁，梦想不真，魂魄不守，上请收神上明君一人、官将一百二十人，主为臣某治之，令臣心安神定，与道合同，再拜。

又长跪曰：臣某身常有疾，病四大昏沉，有疾言之，虑恐一旦沉没泉壤，上请天官阳秩君一人、官将百二十人、左右吏兵一百二十人，为某治之，开生门，益寿命。当请南上君一人、官将一百二十人，在仓廩宫为臣某延年，长生不死。仰荷大道生成之恩，臣某诚惶诚恐，稽首再拜。

又长跪曰：“臣某自居止此已来，梦想不安，及有凶强故气之鬼不忘太上道法，每来逼近身中，若不早请天官将吏消除，日月深远，恐为灾祸。臣今谨上请召仙君一人、官将一百二十人，乞制灭凶危故气之鬼，使真气降流，室宇清静，妖邪斥却，耳目聪明。仰荷大道罔极之恩，臣某诚惶诚恐，稽道再拜（便于彼处地上，伏地以简叩头，转颊讫，起立）。复垆咒曰：

香官使者、左右龙虎君、捧香使者、三气正神，当令朝真之所，自然生金液丹碧芝英，百灵众真，交会在，香火案前，令臣修道，克合至真，阖门受福，天下蒙恩。仙童玉女，侍卫香烟，传臣所奏，径至帝前。再拜便出，勿回顾。入靖预约家人，勿令器喧，毕须寂然。

已上五等朝仪，及魏夫人传嵩岳吴天师，亦常用此仪也。

### 入靖法第十

《真诰》云，上清真人冯延寿诀曰：凡人入靖烧香，皆当对席心拜，叩齿阴祝，随意所陈，唯使精专，必获灵感。正心平气，故使人陈启通达上闻也。烧香时勿反顾，顾则忤真，致邪外应。又清虚真人曰：每入靖，当以水漱口，洗秽气；出靖漱口，以闭三宫故气。出靖户之时，亦不得反顾，顾则忤真，克致不诚。入靖户不得与外人言语，及不得脚踏门限，敕禁至重。

#### 烧香法第十一

太上教曰：夫烧香，不得以口啮香，灵禁至重。《登真隐诀》曰：夫朝奏之时，先烈火丰香，使一举便到了，不宜绵绵翳翳。

#### 存思诀第十二

天师烧香仪曰：入靖烧香，常存左青龙、右白虎、前朱雀、后玄武。陆先生思神诀曰：常存垆左金童、右玉女侍香烟也。李氏仪曰：存香火中有五色烟也。玄都入治律曰：呈章朝真，存五方气，及功曹使者、吏兵、左右分位森然，如相临对，侍左右前後。天师墨教篇曰：入靖烧香，皆目想仿佛若见形仪，不可以空静寥然，无音响趋拜而退也。

#### 叩齿诀第十三

《九真高上宝书神明经》曰：叩齿之法，左相叩，名曰打天钟；右相叩，名曰捶天磬；中央上下相叩，名曰鸣天鼓。若



卒遇凶恶不祥，当打天钟三十六遍；若经凶恶辟邪威神大咒，当捶天磬三十六遍，若存思念道，致真招灵，当鸣天鼓。当以正中四齿相叩，闭口缓颊，使声虚而深响也。

#### 临目诀第十四

临目，目欲闭而不闭，欲开而不开，令幽显相关，存注审谛。今人入靖及呈章，可依此法。

#### 稽首诀第十五

《登真隐诀》曰：稽首者，先一拜额至地，乃再拜。按先一拜而世相承不见，至于再拜犹不肯全，何况能先别一拜以行稽首？今或因坐仍额至地，稽首首至地，如因坐地，非稽首也。

#### 再拜诀第十六

夫再拜者，两拜是也，别起更坐，勿因拜便坐也。拜、坐，止一拜全，非再拜也。

#### 诚惶诚恐诀第十七

夫诚惶诚恐者，即握简低身，戢地两过，捧简长跪当心，少时复下戢地又两过止。若言顿首者，便以头顿也。陶隐居曰：道虽心存，亦须形恭，口宣词列，进退足蹈。并使应机赴会，动静得宜，内以冲神，外以协礼。

已上出《登真隐诀》

### 明二人同奉第十八

太玄都云：高人俗士，居家或有妻室，志有希道之心，心游道德之乡者，宜夫妻同修。若不同修，皆相贼害，以一人不知，故见一人修行，心有相阻，遂成相贼。可同奉朝修，入靖之日，男官立左，女官立右，一人启奏，二人虔心，同时再拜。女人至朝真日身有秽，亦宜止之，但有同奉心，即可合于玄感耳。

### 本命日第十九

夫本命日，可转度人，经一两过，即魂神澄正，万气长存，不经苦恼，身有光明，三界侍卫，五帝司迎，功满德就，名书上清。本命日早朝，焚香向本命位，叩齿三通，心存再拜，而微祝曰：太一镇生，三气合真，室胎上景，母玄父元，生我五藏，摄我精神，下灌玉液，上朝泥丸。夕练七魄，朝和三魂，右命玉华，左啸金晨。令我神仙，役灵使神，常保利贞，飞行十天。毕，叩齿三通，咽液三过，心礼四拜，此名太上祝生隐朝胎元之道。常能行之，令人魂魄保守，长生神仙。此法不用入靖室，可坐所，但少静无人即为之（出《真诰》第三）。

### 入室对席第二十

凡人入室焚香，皆当对席心礼，叩齿阴祝，适意所陈。唯使专精，必获灵感。

### 制三尸日第二十一

凡甲寅、庚申之日，是三尸鬼竞乱精神之日也，不可与夫妻同室，寝食可慎之。甲寅日可割指甲，甲午日可割脚甲，此日三尸游处，故以割除，以制尸魄也。

### 常存识己形第二十二

凡人常存识己之形，极使仿佛对我前，存我面上常有日月，洞照一形。使日在左，月在右，去面九寸。日，紫色，光芒赤光九芒也；月，黄色，光芒白光十芒也。存了，叩齿三通，微祝曰：

元胎上真，双景二玄。右抱七魄，左拘三魂。令我神明，与形常存。毕，叩齿三通，咽液七过，名为帝君录形拘魂制魄之道。《黄庭经》云：摄魂还魄，永无倾也。

《真诰》曰：夫得道者，常恨不早闻道；失道者，常恨不早精勤。何谓精耶？专笃其事。何谓勤耶？恭缮其业。既加之以检，慎守之以取感者，则去真近矣。尔其营之勿怠也。

《真诰》曰：性躁暴者，一身之贼病；心闲逸者，求道之坚梯也。遂之者，真去；改之者，道来。每事触类，当柔迟而尽精洁之理。如此，几乎道近也。

紫阳真人言，沐浴不数，魄之性也。违魄反是，炼真浊秽，尸魄自去也。

### 寝卧时祝第二十三

凡人卧床，常令高则地气不及，鬼吹不干，鬼气侵人，常因地气而逆上耳。人卧室宇，当令洁盛，洁盛则受灵气，不盛则受故气。故气之乱人室宇者，所为不成，所依不立。一身亦

尔，当数沐浴洁净。

《真诰》云：世人有知酆都六天宫名者，则百鬼不敢害，欲卧时，常先向北祝之三遍，微其音也。祝曰：

吾是太上弟子，下统六天。六天之宫，是吾所部，不但所部，乃太上之所主。吾知六天门名，是故长生。敢有犯者，太上斩汝形。

第一宫，名纣绝阴天宫，以次东行；

第二宫，名泰杀谅事宗天宫；

第三宫，名明辰耐犯武城天宫；

第四宫，名恬照罪炁天宫；

第五宫，名宗灵七非天宫；

第六宫，名敢司连宛屡天宫。

毕，叩齿六下仍卧，辟诸鬼邪之气。如此凡三过也。此法亦出酆都记。

北帝祝法：北帝神祝之法，若非制鬼神，常持者，可微微而诵，自然除秽恶、灭三尸、消故气，鬼魅邪精永不敢近。久久持之，北帝每差天丁待卫。若制伏用事，乃可高声诵，持法面北，叩齿三十六通，存五神，诵持四言一叩齿。祝曰：

天蓬天蓬，九元杀童，五丁都司，高刁北公，七政八灵，太上浩凶。长颅巨兽，手把帝锤。素臬二神，严驾夔龙，威剑神王，斩邪灭踪。紫气乘天，丹霞赫冲，吞魔食鬼，横身饮风，苍舌绿齿，四目老翁。天丁力士，威南御凶，天驹激戾，威北衔锋。三十万兵，卫我九重，辟尸千里，去却不祥，敢有小鬼，欲来见状，钺天大斧，斩鬼五形。炎帝烈血，北斗然骨，四明破骸，天猷灭类，神刀一下，万鬼自溃。急急如太上帝君律令。毕。皆四言一叩齿，以为节也。若冥夜、白日得祝，为常祝也。鬼有三被此祝者，眼睛盲烂而身灭矣。此上神祝，皆斩鬼之司

名，北帝秘其道。若世人得此法，常能行之，乃不死之道也。男女大小皆得行之，此所谓北帝神咒杀鬼之法。鬼常畏闻，困病行之，立愈。叩齿，当临目，存见五脏，五脏具五神，自然在身。酆都中秘此咒法，令密耳不可泄非其人也。此咒出上清部，《登真隐诀》、《真诰》中并有，正一部中及《法事要诀》，皆有其文，《道教灵验记》亦录，上古及近世修持有效者甚多，略而言之。

#### 服日月光芒第二十四

服日月光芒：大方诸宫，青童君常治处，其上人皆天仙高真、太极公卿、司命在所也。有服日月光芒法，虽以得道为真，犹故服之。凡存心中有日象，大如钱，在心中，赤色，有光芒从心中上出喉，至齿间即不出，却回还胃中，如此良久，临目，存见心中、胃中分明，乃吐气，讫，咽液三十九过止。一日三为之，日出时，食时，日中时。行之一年，除疾；五年，身有光彩；十八年，得道。日中行无影，辟百邪千灾之气。常存日在心；月在泥丸中。昼服日，夜服月。

服月法：存月十芒，白色，从脑中下入喉，芒亦至齿而咽入胃。一云：常存月，一日至十五日已前服，十五日已後不服，月减光芒，损天炁，故言止也。又此方诸真人法，出《大智慧经·中篇》。常能用之，保见太平。南极夫人所告，行此日在心、月在泥丸之道，谓省易得旨，须勤行，无令废绝也，除身中三尸、百疾千恶，乃炼魂制魄之道也。日月常照形，即鬼无藏形。青童君云：故常行之，吾即其人也。今告子，子脱可密示有心者耳。行此道亦不妨行宝书，所以服日月法兼行有益也。仙人一日一夕，行千事不觉劳倦，勤道之至，生不可失（出《

真诰》第三)。

右出西城王君告

### 孟先生诀第二十五

山世远受孟先生法：暮卧，先读《黄庭内景经》一过乃眠，使人魂魄自然制炼。常行此法，二十八年亦仙矣，是合万遍，夕得三四过乃佳。北岳蒋夫人云：读此经年限未滿，亦且使人无病，是不死之道也。

已上出《真诰》第三。

### 恶梦吉梦祝第二十六

太素真人，教始学者辟恶梦法。若数遇恶梦者，一曰魄妖；二曰心试；三曰尸贼。此乃厌消之方也。若梦觉，以左手捻人中二七过，叩齿二七通，微祝曰：

太洞真玄，长练三魂。第一魂速守七魄；第二魂速守泥丸；第三魂受心节度，速启太素三元君。向遇不祥之梦，是七魄游尸来协邪源，急召桃康、护命上告帝君，五老九真，各守体门，黄阙神师，紫户将军，把钺握铃，消灭恶精。返凶成吉，生死无缘。毕，若又卧，必获吉应，而造为恶梦之气，则受闭于三关之下也。三年之後，唯神感应乃有梦者，皆有将来之明审也，无复恶梦不祥之想。若夜有善梦，吉应如梦，而心中自以为佳，则吉感也。卧觉当摩目二七过而祝曰：

太上高精，三帝丹灵。绛宫明彻，吉感告情。三元柔魄，天皇受经。所向谐合，飞仙上清。常与玉真，俱会紫庭。

已上出太丹隐书。

山源者，是鼻下人中之左侧，在鼻下尖谷中也。暮常咽液三九过，急以左手第二、第三指按三九下。常为之，令人致灵彻视，杜遏万邪之道也。旦亦宜为之，按了，密咒曰：

开通天庭，使我长生。彻视万里，魂魄返婴。灭鬼却魔，来致千灵。上升太上，与日合并。得补真人，列象玄名。

### 明耳目诀第二十七

《真诰》曰：求道要先令目明耳聪，为事主也。且耳，目是寻真之梯级，综灵之门户，得失系之而立，存亡须之而辩也。今抄经相示可施用之道。日常以手按两眉后小穴中三九过，又以手心及指摩两目颧上，以手旋耳行三十过，唯令数，无时节也。毕，辄以手逆乘额三九过，从眉中始，乃以入发际中，乃须咽液，多少无数，如此常行，耳目清明，二年可夜书。眉後小穴，为上元六合之府，化生眼晖，和莹精光，长映彻瞳，保炼目神，是真人坐起之上道也。

### 青牛道士存日月诀第二十八

青牛道士口诀：暮卧存日在额上，月在脐下，上辟千鬼万邪，致玉童玉女来降，万祸伏走，甚秘验。此即封君达也。沈羲曰：服神药，勿向北方；大忌亥子曰；不得唾，损精失气，减折年命也。

### 栾巴口诀第二十九

栾巴口诀：行经山野，及诸灵庙恶神之门，存口中有真人，

字赤灵丈人，侍以玉女二人，一女名华正，一女名摄精，丈人著赤罗袍，玉女二人上下黄衣。所存毕，乃叱咤曰：

庙中鬼神，速来使百邪诣赤灵丈人，受斩死，众邪却走千里。此是三天前驱使者赤灵丈人捕鬼之法也。

### 服食忌第三十

女仙，程伟妻曰：服食灵药，勿食血物，使三尸不得去，乾肉可耳。《凤纲诀》曰：道士有疾，内视心，使生火以烧身及疾处。存之要精，如彷彿疾即愈。凡痛处加其火，必验也。



## 卷四十六 秘要诀法部二

### 修真旨要

#### 黄素内法第一

凡精诚密向，耽味玄真，清斋苦志，感慕神仙，忽自遇此三品之经，而不师受者，其人皆玄会宿感，列籍帝乡，真人密授应得此经，其人异挺以标世功，依《太上黄素四十四方》，听得隐盟玄誓神科也。当以甲子之日，清斋入室，夜半生气之时，眠坐任意，临目仿佛，叩齿二十四通，心拜四方。毕而微祝曰：

太上九灵，三素元精，仙都大神，四极三清。昔奉法化，遇会上经。玄师冥远，靡览真形。乞山隐盟，誓以神明，玉童侍卫，玉华扶生。八愿九合，妙慧通灵，愿神愿仙，飞行上清。祝毕，又叩齿二十四通，咽液十过，心拜经前，因此而寝。亦可起坐诵经，必有吉感。常能行之，三年之中，得为经师，成其真人大夫之任矣。此是黄素内法，不烦复经营师及歃血之盟也。真人虽已受经，亦常行之。

#### 八朝三元内礼隐法第二

凡为道士，受三真品经雌一、洞玄、隐玄羽章者，当勤慕上契，感会神明，精心斋净，专道固生，孜孜不替，味景玄清。若此人者，必获上仙。依《太上黄素四十四方》，得行八朝三元内礼隐法，当以甲寅、丙寅、戊申、庚申、丁巳、己巳、癸亥、乙亥之日，平旦入室，烧香左右，临目仿佛，叩齿二十四通，心拜四方。微祝曰：

太上太灵，三素元精，谨以吉日，内朝真经。神童玉女，散香虚庭，使我神仙，天地相倾。祝毕，疾闭两目，使内外冥合，不相闻见。又叩齿三七通，燕咽三过，开目，都毕也，此名为八朝三元内礼隐法。常能行之，令人通灵彻视，精应三元真会，妙感陟降太玄。侍经玉女，奏子求生，神仙不死，天地相倾。诸未受经者，行之三年，得为经师，灵瑞吉祥。

### 内除罪籍第三

凡修受《大洞真经》雌一奇文者，皆当别寝一室，不交人物，常置经于杌格洁净之处，旦夕烧香礼拜，陈愿人间，内除罪籍。常以月三日、七日、二十一日，侍经玉女乃奏人罪过于三元与太一帝君，共详子之云为，是其日也，当入室烧香，叩齿三七通，冥目，微祝曰：

太上神方，《大洞真经》，昔以有幸，遭遇神明，启荫七图，受会三清。若有阴罪，帝君散灵，二象开明，上帝合形，令我飞仙，神真长生。祝毕，又叩齿二七通，心拜四方，开目，都毕。常当行之者，则三元密感，帝君赦过，诸有奏子之罪者，皆不见用也。

### 三元隐谢解秽内法第四

凡道士存思上法，及修学太一之事，皆禁见死尸血秽之物。若兆见之者，得听三元隐谢解秽内法，当以朱砂一铢散内水中，因以洗目、漱口，并洗手足。毕，入室正寝，交手心上，叩齿二七通，心拜四方，乃微祝曰：

三元上道，太一护形，司命公子，五神黄宁，血尸散灭，凶秽沈零，七液灌注，五藏华生，令我神仙，长亨利贞。祝毕，因疾闭两目，并气自持，使内外冥合，不相闻见。良久，觉身中小热为候。竟又叩齿七下，咽液三过。都毕，诵此三元隐谢解秽之内法也。

#### 大帝开结经法第五

凡道士修受上法，欲有所看省，诵读经文发篋之时，皆当烧香左右，心拜经前，叩齿三通，乃微祝曰：

玉帝上法，上闻三清，吉日斋戒，敢开神经，万试隐伏，所向皆成。玉童侍卫，玉华散馨，上告三元，与我长生。祝毕，开经，然后乃得诵读之。此名为大帝开经之法。令玉女、玉童、侍守烧香，启降神灵，上闻九天。

#### 祝太一帝君法第六

凡道士受学《洞经》，修行太一之事，不得宣泄太一帝君之名字，以语于不同志之人。泄则犯太玄阴考，兆三犯之者，则五神废宅，不得复为仙矣。过三以往，死为下鬼，已无仙冀。

凡道士受经以后，常晨夕存祝太一帝君之名字，先叩齿三通，微祝曰：

凌梵履昌，七灵丈人，太一务猷，五神黄宁，上升九天，

与帝共并。乞愿飞仙，七祖胎婴，解愆释罪，上登玉清。毕，又啄齿七通，咽液三过，此为存神释罪，请帝求仙也。行之七年，则神明感会，帝君喜欢，玄母注生，五神常存，七祖罪释，受胎南仙，长生不死，白日升晨。

### 慎忌法第七

凡修太一之事，及行上法，存神之道，慎不可见尸及血秽之物，见一死尸，则一年不得行事，又却倾一年之功。然此帝一之科，常却罚于既往，又进塞于将来。苦一年三见尸者，则罚功断事各三年也；若遇见二十四尸者，皆不得复修太一求仙也。

### 帝君捕神祝第八

凡道士独宿山林，而多为山精恶鬼所犯试者，当叩齿二七通，闭气咒曰：

吾昨被帝君召，摄领真元，令我封掌此五岳，摧割酆山山精。万灵受事，俱会帝前，七神所引，三元司真，若有小妖，即时梟残。山精泽尉，速来奉迎，神师口命，上闻三清。一如大洞之法，不得稽停。咒毕，又叩齿三七通，此为帝君捕神祝伐山精百鬼法。诸山神地祇，房祠正气之神，闻此之咒，皆来执鞭奉迎，神兵侍卫，若与万人同宿矣！”

### 遏邪大祝第九

《大洞真经高上内章遏邪大祝上法》曰：“每当经危险之

路、鬼庙之间，意有疑难之处，心有微忌者，乃当返舌内向喉，咽液三过。毕，以左手第二、第三指，捻两鼻孔下人中之本，鼻中鬲孔之内际也三十六过，即手急按，勿举指计数也。鼻中鬲之际，名曰山源，一名鬼井，一名神池，一名邪根，一名魂台也。捻毕，因叩齿七通，毕。又进左手心以掩鼻，于是临目，乃咒曰：

朱鸟凌天，神威内张，山源四镇，鬼井逃亡，神池吐气，邪根伏藏，魂台四明，琼房玲琅，玉真巍峨，坐镇明堂，手挥紫霞，头建晨光。执咏《洞经三十九章》，中有辟邪龙虎，截岳斩岗；猛狩奔牛，翮刀吞枪；揭山攫天，神雀毒龙；六头吐火，啖鬼之王；电猪雷父，掣星流横；梟嗑蛟灼，逆风横行；天禽罗阵，皆在我傍，吐火万丈，以除不祥，群精启道，封落山乡，千神百灵，并首叩颡，泽尉捧垆，为我烧香，所在所经，万神奉迎。毕，又叩齿三通，乃开目，徐去左手。手按山源，则鬼井闭门；手薄神池，则邪根散发；手临魂台，则真神守阙。于是感激灵根，天兽来卫，千精震伏，莫干我真。此自然之理，忽尔而然也。鼻下山源，是我一身之灵津，真邪之通府。背真者所以生邪气，为真者所以遏万邪，在我运摄之尔，故吉凶兆焉。

### 三天正法祝魔神第十

凡道士隐迹山林，精思感灵，或读《洞经》发响之时，多为北帝大魔王来试败兆。每至昏夜，当叩齿三十六通。毕，乃咒曰：

北帝大魔王，受事帝君前。泉曲之鬼，四明酆山，千祆混形，九首同身。神虎放毒，馘灭雷霆，神公吐咒，所戮无亲。

太微有命，摄录山川，鸣铃交掷，流焕九天。风火征伐，神锋十陈，凶试伏灭，万精梟残。妖毒敢起，受闭三关，请依洞法，莫不如言。咒毕，又叩齿三十六通，此名为三天正法咒魔神方。常能行之，则神兵侍卫，山川摄精，千妖受闭，万试不干。

### 思三台翊恶法第十一

上台（虚精）、中台（六淳，又作主停）、下台（曲生）。

右三台内讳知者，众恶悉除，诸善备至。凡于静房端坐，思三台覆头；次思两肾气，从胸中出，与三台相连。久久思毕，二七啄齿，二鼻微微内气，闭口满便咽之。咽毕，乃咒曰：节节荣荣，愿乞长生，太玄三台，常覆我形。出入行来，万神携营。步之五年，仙骨自成；步之七年，令药皆精；步之十年，上升天庭。急急如律令。

步台日：

正月三日，二月二日，五月五日，九月九日，十月二十六日（法在本经）。

### 帝一烧香祝第十二

凡修行洞法，及太一，帝一之事者，常至黄昏时入室烧香，心拜经前，因叩齿二七通，乃微咒曰：

太一帝尊，帝一玄经，五云散景，郁彻三清。玉童玉女，烧香侍灵，上愿开陈，与我合形，使我神仙，长亨利贞。咒毕，又叩齿二七通，此名为帝一烧香，开陈上愿，与灵合形之道也。常能尔者，则玉华侍卫，神灵辅真，郁散香云，上彻九天。将来三年，则玉童玉女，都见于子矣。

### 魂胎受馨祝第十三

凡道士入室斋戒之时，临食当以左手持筋，琢料三过，乃微咒曰：

二玄上道，四极清冷，太一帝君，百神黄宁。受粮三宫，灌溉脾灵，上飧太和，餐味五馨。魂胎之命，七液流停，百关通和，五脏华朝。双星合景，飞行上清。食毕，又啄齿三通，此名为魂胎受馨，百神飧粮之道。常能行之，令人神明气和，魂魄安宁，群恶除试，常保利津。

### 理发祝第十四

凡道士理发及沐头，将散发之时，先啄齿七通，乃微咒曰：

太帝散华，玄归大神，今日吉日，理发沐尘，辟恶除病，长生神仙。咒毕，乃髻髻竟，叩齿一通，都毕。此名为太帝散华理发内法。令人终年不病，耳目聪明，头脑不痛。理发常向本命，既栉发之始而阴咒曰：

太帝散灵，五老返神，泥丸玄华，保精长存。左拘隐月，右引日根，六合清炼，百神受恩。”毕。行之使人头脑不痛。

《太极绿华经》曰：理发欲向土地，既栉之始而微咒曰：泥丸玄华，保精长存，左为隐月，右为日根。六合清炼，百神受恩。毕，咽液三过。能行之，使发不落而日生。当数易栉，栉之取多而不使痛。亦可令侍者栉，取多也，于是血脉不滞，发根常坚。

### 大帝隐祝第十五

凡道士入室烧香，有所修愿，皆先啄齿三通，乃微咒曰：玉华散景，九炁含烟，香云密罗，径冲九天。侍香玉女，上闻帝前，令我长生，世为神仙。所向所愿，莫不如言。祝毕，心拜精念，亦适意所陈矣，此名大帝隐祝。散香九天，降灵寢室，愿会神仙也。

#### 翫恶梦咒第十六

若人梦寢不真，魄协百气以校其心，欲伺我神之间伏也。每遇恶梦，但北向启：

太上大道君，具言其状，不过四五，则自消绝也。青童君口诀曰：夜遇恶梦非好，觉当即返枕而咒曰：

太灵玉女，侍真卫魂，六宫金童，来守生门，化恶返善，上书三元，使我长生，乘景驾云。毕，咽液七过，叩齿七通而更卧，如此四五，亦自都绝也。此咒亦返恶梦而更吉祥也。

#### 挥神内咒第十七

凡道士行来独宿山林庙座之间，或有魔精、恶鬼之地，当先啄齿三十六通，闭气微咒曰：

太帝阳元，四罗幽关，千妖万毒，敢当吾前，巨兽重吻，剖腹屠肝，神公使者，守卫营蕃。黄衣帅兵，斩伐妖魂，馘灭千魔，摧落凶奸。绝种灭类，取令梟残，玉帝上命，清荡三元。咒毕，又叩齿三十六通，此名为太帝挥神内咒塞灭万魔之法。常能诵之，则神兵见卫，万鬼受事，千妖死伏。

#### 太帝寢神灭鬼除凶咒第十八



凡道士临眠解衣之时，先啄齿三通，立而咒曰：

受命太帝，上升九宫，百神安位，列侍神公。魂魄和炼，五藏华丰，百醴玄注，七液虚充。火铃交换，灭鬼除凶，上愿神仙，常生无穷。咒毕，又叩齿三通，脱衣而卧，此名为太帝寝神灭鬼除凶之法。令人精明不病，魂魄常存，数有吉感。

#### 又灭鬼除恶咒第十九

本命之日，及有心震之地，闭关精思，叩齿三通，安气呼吸，正身北向，而心存微祝曰：

罗勒那朝，方奈阙炼，班目勃队，憚汉巨蛇，赫察白鼠，丹利大魔，真馥广敷，虚灵峙霄。总揽吉凶，发洞畅幽，儻眇众品，领括繁条，百方千涂，莫不豁寥，天地齐度，孰云能雕。

#### 澡秽除凶七房祝法第二十

凡道士沐身，及洗手之时，先临水，啄齿三通，乃微祝曰：

四大开朗，天地为常。玄水澡秽，辟除不祥。双皇守门，七灵安房。云津炼灌，万气混康。内外利贞，保兹黄裳。咒毕，又叩齿三通，乃洗沐手面，此名为澡秽除凶七房咒法。常能行之者，使人神明血净，解诸凶禬。

#### 除六天隐咒第二十一

凡道士夜行之时，及有所畏恐震之地，叩齿二七通，乃咒曰：

吾是小有真王，三天师君，昔受太上神方，杀邪之文。夜行游尸，七恶妖魂，九鬼共贼，千魔成群。赫柏图兵，巨兽罗千，挥割万妖，当我者残。龙烽七炷，逐邪无间，玉帝神咒，挥剑东西，灭凶除邪，万鬼即悬，三天正法，皆如我言。咒毕，又叩齿三七通，此名为三天正法除六天之隐咒也。鬼有被此咒者，皆目盲脚残，自然死灭矣。凡行来有恐之处，但按如此，不必须夜行事也。常能诵之，则万魔伏试，千妖灭形。

### 太帝制魂伐尸神咒第二十二

凡道士祝灭三尸之法，常以月晦、朔之日，及甲寅、庚寅、庚申之日，兆身中七魄游尸、诸血尸之鬼，上天白人罪过，自还中伤于身，或游走他乡，招呼外鬼，协进为妖贼，是以恶梦交于寝魂，疴眚缠于神室。人所以恶梦疾病者，皆七魄游尸之所为也。至其日，常当沐浴净服，烧香入室，精思勤恳，不营他事，以夜半生炁时，或黄昏时，正寝东首，按手心上，先叩齿三七通，乃微咒曰：

七灵八神，八愿四陈，上告灵命，中皇双真，录魂炼魄，塞灭邪精，血鬼游尸，秽滞长泯，利我生关，闭我死门。若有真命，听对帝前，使我长生，劫龄常存，太帝之法，敢告三元。毕，又叩齿三七通，咽液十过，都毕。此名为太帝制魂伐尸神咒之法也。血尸七恶，被此咒者，皆得灭于死尸之下。魂明魄柔，受化于三宫之中，辟恶除病，令人神明不死。常能诵之，则终身不被魔昧。凡存念上道咒，除三尸之时，常当采取白芷草根及青木香，合以东流水，煮取其汁，以沐浴于身，辟诸血尸恶气，亦常可和香烧之，以致神明。若无青木香，亦可单用白芷。凡庚申、甲寅之日，是血鬼游尸直合之日也。天炁交

合，七魄竞乱，淫秽混真，邪津流焕，明法动精，七神飏散。每至其日，当清斋别处，不杂他席，慎不可与夫妻相见，及同床而寝，又不可争竞财色，所行非道之方也。每当烧香感炁修行之时，消咒之法，亦可诵经混神。若思洞房帝一之事，唯使精真以为意也。

### 太帝辟梦神咒第二十三

凡道士忽得不祥之梦，或梦与人斗争，或相收录者，此亦七魄游尸所为也，或导将外鬼来入本宅；或三魂散翳，五神战勃；或被束缚不得来还。故使恶梦非祥，将有祸败之渐也。卧觉之时，即正寝上向，接手心上，叩齿三七通。毕，微咒曰：

九天上帝，四门八灵，七房二玄，三素元精，太一桃康，上诣三清，速告帝君，摄命黄宁，速召七魄，校实神庭。若有不祥，七尸鬼兵。从呼双真，流烛炼形，太微大神，斩伐邪精，三魂和柔，血尸沈零，神归绝宅，触向利贞，使我神仙，长保劫龄。咒毕，又啄齿二七通，咽液十过。此名为太帝神咒辟梦除凶之法。能行之者，则三魂和炼，七魄受制，神明气正，尸秽散灭，而向所咒之鬼，即已受考于地狱矣。经三咒之后，自非灵感吉应，不复梦于非常也。

### 三元八节朝隐祝第二十四

凡道士礼愿神明，精思上法，行诸隐咒之时，皆当烧香，心拜密咒而已，勿使得耳闻之也。若欲咒伐六天灭诸凶鬼者，乃可小发声耳，亦不得绝大高响，使傍人闻解之也。若读诵之时，乃任意耳。凡八节之日，皆三天仙灵，朝宴礼会之日也。

兆修行礼愿，朝礼之时，皆当斋用此日。至于朔、望朝礼，非上法也。凡是其日，欲行礼愿陈祝之时，当先叩齿七通，心拜四方，乃微祝曰：

上清玉帝，三素元君，太上高灵，仙都大神，今日吉日，八愿开陈。上愿飞霄，长生神仙；中愿天地，合景风云；下愿五藏，与我长存；次愿七祖，释罪脱愆；又愿帝君，斫伐胞根；六愿世世，智慧开全；七愿灭鬼，馘斩六天；八愿降灵，彻听东西。上愿一合，莫不如言，愿神愿仙，上朝三元。祝毕，又拜如初，亦适意所陈，求解脱七祖之愆，及首已之罪状，一续于行事之後也。此名为三元八节朝隐祝上愿神仙之要法也。行之三年，七祖父母及已之罪都解释矣。然後，玉华降卫，感会神明，八愿开陈，必获灵仙之要契。

### 杂法第二十五

凡行来畏恐，常鸣天锤，于左齿三十六通。先闭气，左嘘之，叱叱五通。常行之，辟精邪恶物、不祥之气。常夜寝临欲眠时，以手抚心，叩齿三通，闭目，微咒曰：

太灵九宫，太一守房，百神参位，魂魄和同，长生不死，塞灭邪凶。咒毕而寝。此名为九宫隐咒寝魂之法。常能行之，使人魂魄安宁，常保吉祥。

凡传授上法之时，有经之师，当先求感应，然後传之。乃入室烧香，密愿神明，即心拜经前，微咒曰：

太上元君，仙都大神，今日吉日，八愿开陈，欲传某上法，敢告灵元，未知可否？须应乃宣。祝毕便寝，必获灵应。子自知其善否之心，审可授之方也。

凡经师授经之法，先心拜四方，以感神明为宗师之主，馀

乃执经起立，仰天而祝告，誓神灵以为玄科之约。当说受经者之姓名，并启天神，陈受经之品目为之科条，名策告誓，合丽文传，讳而陈之。祝毕，弟子再拜跪，受毕，又再拜。此真人告神之盟内法，不必尽存割血为敢漏之约也。

凡经师传授之时，皆当依如上法，清斋别处，不交人事，先启告神明，求请密感，即乃传之。若真应横错，所感非祥者，此皆天灵显报不使传也。若弟子不顺神明，违而传之，依黄素之科，受子冥考，七祖魂魄，长闭地狱，身亦将亡，仙安所冀？

凡存修太一之事，欲有所礼愿，不可叩头。叩头者，则倾九天，动千真，神官回覆，泥丸倒悬，天帝号于上府，太一泣于中田。数如此者，则存念无益，三真弃宫，七神漂散，玄宅纳凶，是为太上五神之至忌也。故古之真人，但心存叩头，运精感而行事，不因顛顛以祈灵也。

凡修行太一之事，真人道士，不得有所礼拜，亦帝君五神之所忌也。若有所精思，行礼愿之时，但心拜而已，不形屈也。自不修受上法者，不得同于外学之夫矣。

凡道士登斋入室，忽有灵感妙应，当有吉祥之梦，皆道之欲成，兆当勤修苦志，感慕上会，如是不替，则真灵玉女将憩子之寝矣。卧觉之时，当正身上向，叩齿三七通，闭目，微咒曰：

上一赤子，丹皇运珠，太一帝尊，凝天伯无，七灵上感，五神归游，灵童玉女，豁落双符。七星同升，上登晨丘。咒毕，又叩齿三七通，咽液三过，开目，都毕。此名为太一留神感会仙贤之咒也。如此者三年，则九天诸神，及太玄玉女将降卫于兆身。

凡道士入室斋戒，有存修而数有不祥之物，及奇怪血光，

诸鬼精恶气，来恐试人者，兆当行北帝咒鬼杀邪神方。先叩齿三十六通，乃咒之曰：

二象回倾，玄一之旌，七灵护命，上诣三清。双皇驱除，赫柏罗兵；三十万人，侍卫神营；巨兽百丈，吐威摄精；挥剑逐邪，馘落魔灵；神伯所咒，千妖灭形。咒毕，又叩齿三十六通，此名为北帝咒鬼杀邪神方。诸神灵、正气，闻此之咒，皆来奉卫于子，而向不祥之气，得即死灭矣。

## 卷四十七 秘要诀法部三

### 安魂魄咒（出《北帝经》）

纣绝标帝晨，谅事构重阿，炎如霄中烟，赳若景耀华。武城带神锋，恬照吞青阿，闾阖临丹井，云门郁嵯峨。七非通奇盖，连宛亦敷魔，六天横北道，此是鬼神家。急急如律令。

### 著衣咒

旦起，叩齿，著衣咒曰：

左青童玄灵，右青童玉英，冠带我身，辅佑我形，百邪奔散，鬼贼摧精，敢有犯我，天地灭形。急急如律令。

### 栲发咒

凡欲栲发先叩齿三通咒曰：

上清朱雀，不得动作，勿离吾身，勿受邪恶。六丁七星，邪魔分形，敢有当我，北帝不停。急急如律令。毕，闭目，存想发神苍华，字太元，如婴儿之形，在己发上。然后解栉之，当令三五百遍为佳，然经中唯须一千五百遍。毕，成髻。两手握固於膝上，闭目，微咒曰：

泥丸玄华，保精长存，左为隐月，右为日根，六合清练，百神受恩，急急如律令。

《三洞奉道科》曰：凡梳头，先洗手、面，然后梳之，皆不得使人见，增寿八百二十。

又凡梳头发及爪皆埋之，勿投水火，正尔抛掷。一则敬父母之遗体；二则有鸟曰付鵲，夜入人家取其爪、发，则伤魂。若能勤行，增算六百二十。讫，即入靖或殿堂朝礼，便於寢卧之处焚香左右，叩齿二十四通，存思如图。下床蹑履之际，三称大吉，得所愿微言，言不可使人闻却。当存斗星在头上，斗合於顶，指於前，闲和其心，使虚静恬然。心动，必思立功济物也。

将卧之际，焚香东面，长跪，叩齿三十六通。诵卫灵神咒曰：

东方九气青天，明星大神，焕照东方，洞映九门，转烛扬光，扫秽除氛。开明童子，备卫我轩，收魔束妖，上对帝君，奉承正道，赤书玉文，九天符命，摄龙驿传，普天安镇，我得飞仙。

南方丹天，三气流光，荧星转烛，洞照太阳。上有赤精，开明灵童，总御火兵，备守三宫，斩邪束妖，剪截魔王，北帝所承，风火入冲，流铃交换，靡有不从。正道流行，我享上功，保天长存，亿劫无终。

西方七炁之天，太白流精，光耀金门，洞朗太冥。中有素



皇，号曰帝灵，保神安镇，卫我身形，断绝邪源，王道正明，宫殿整肃，三景齐并。道合自然，飞升紫庭，灵宝符命，普惠万生，功加一切，天地咸宁。

北方玄天，五气徘徊，辰星灿烂，光耀太微。黑灵尊神，飞玄羽衣，备卫五门，检精捕非，敢有干试，豁落斩摧。玉符所告，神真八威，邪门闭塞，正道明开。映照我身，三光同辉，策空驾浮，举形仙飞。

中央黄中理气，总统玄真，镇星吐辉，流焕九天。开光童子，一十二人，元气阳精，焰上朱烟，洞照天下，及得我身，百邪摧落，杀鬼万千。中山神咒，普天使然，五灵安镇，身飞上仙。

此咒摄五方、五星真气，入人五脏中。每经恐惧之处，及欲卧时，面向东，正立拱手，叩齿三十六通，诵之一遍。欲卧时，又存斗星，依前横在头。

### 洗手面神咒

凡道士浴身及洗手、面时，先临水叩齿三通。咒曰：

四大开朗，天地为常，玄水澡秽，辟除不祥，双皇守门，七真卫房，灵津灌练，万气混康，内外利贞，保兹黄裳。毕，又叩齿三通，乃洗手、面，浴身。此名澡秽除凶七房咒法。常能行之，目明血净，辟诸凶气。

### 耳鸣祝

道士闻耳鸣祝（出《大有妙经·中卷》）。凡闻耳鸣者，错手掩耳，祝曰：

赤子在宫，九真在房，请听神命，示察不祥，太一流光，以灭万凶。以手指捻耳门一七过。毕，当觉面热，即佳候也。若觉头颈间索索寒者，恶气入也。当急卧，临目，存玄丹宫太一真人，以流火之铃，煥而掷之，令恶气即出身外，光亦随之在后，炯炯然以照己身，良久，平复矣。

### 审耳鸣吉凶法

凡耳中忽闻滩水、雷电、鼓鸣声者，是身中劳损心藏极，不能味真注生，而淫放丧乱，使六府失摄，魂哀魄号，盖将结疾，致死亡之兆矣。是以泥丸流纵，九宫失常，悲忧错乱，鸣鼓乱行，将欲写其居馆，以弃一身也。闻之者，当精念不怠，还专其心；若罪未深者，自听改也。所以耳鸣者，神亡之故也。耳中忽闻金声玉音者，真气入，道欲成也；忽闻弦歌之声者，六丁玉女，来卫子道也。当隐静专修，所行勤至之，心愈弥强也。真人因是，遂有形见之渐也。自非尔师，且勿言於他人也。耳中闻箫角之音，吉贵象至也；闻号呼之声者，凶败之象也；闻恶气者，必有殄穉之事，急更沐浴烧香，扫除寢室，此是帝君戒劝於人也。若闻血气者，及无故见聚血者，兵凶也，急遁人间，急守三元，帝君求救，自藏斋三月，祸方止也。此皆是帝君先告人吉凶，以令惧畏，戒其祸耳。

夫见凶恶，当行阴德，营施惠救，为人所不能为，免乎必死之兆也。子勸之勿犯，守常而已。修道得真，天差玉女来护

也，於人有记，记即道者，鼻头以玉为记也，其鼻上如黍米一颗，白如玉也。

### 未食咒

凡道士临於盛饌，皆正心存一，目想一，先饮食，然后兆乃食，食之毕，心微咒曰：

百谷入胃，与神合气，填补血液，尸邪亡坠，飞登金阙，长生天地，役使六丁，灵童奉卫，真气来前，邪气远退。

### 道士三时食饭咒（出《北帝经》）

琼浆玉液，北帝降来，王母亲示，玉童捧杯。五脏受正真之气，双眸朗耀，一顾百神，变作尘埃，敢有当我，太上灭摧。急急如律令。

### 斋见不祥之物解法（出《四十四方经》）

道士斋，入室有不祥之物者，常行北帝咒，南向，叩齿三十六下。咒曰：

二象回倾，玄一之精，七灵护命，上诣三清。双皇驱除，

赫奕罗兵；三十万人，侍卫神营；巨兽百万，威摄千精；挥剑逐邪，馘落魔灵，神伯所咒，千祆灭形。毕，又叩齿三十六通。

### 行道见死尸法（出《精要经》）

《紫书诀》云：凡上学之士，游行忽见死尸、秽物气干身者，兆当行二十四步止，北向，叩齿九通。男尸，思玉童三人，女尸，思玉女七人，来请兆身玉谷之中，皇芝素水以灌死尸之上，斯须存死人尸化成生人，便阴咒曰：

已枯复荣，已灭复生，得生上天，更禀太灵，九天之劫，反复胎婴，秽累荡灭，白尸返生。以手拭目二七过，止。如此，秽气即解，死人更受化，后为灵人。兆遇二十四过，行炼咒毕，功满得加，名标上清，二十四年，克升素虚轮，飞行九玄也。

### 道士既见死尸上经解秽法（出《四十四方经》）

凡道士见死尸、血秽之物，当以朱砂一铢，散内水中，以洗目、漱口、洗手足。毕，入室正寝，交手心上，叩齿二十四通。咒曰：

三元上道，太一护形，司命公子，五神黄宁，血尸散灭，秽炁流零，七液缠注，五脏华生，令我神仙，长亨利贞。毕，闭目，逆气。良久，觉热为候。竟，又叩齿二七通，咽液三七过。此三元解秽内法。

### 练祝死尸法（出《青要紫书金根众经》）

《紫书诀》云：凡修上清之道，兆身父母、伯叔、兄弟於世上死亡，兆身未得绝迹，故在人中身履死殄者，三日当取清水一盆，真朱一两投水中，兆於中庭，南向，临水上，叩齿九通。咒曰：

气化成神，尸变入玄，三化五练，升入九天。九天之劫，更度甲身，甲身更化，得为真人。男尸，思玉童三人；女尸，思玉女七人，盆盛水以灌死人，取水自洗手、面，仰天喷噀，又阴咒曰：

天气已清，人化已生，得生上天，九变受形，五苦三涂，断落死名，超度穷魂，还向帝庭。如此亡人更受化，生於九天之上，九年得升玉清之宫。其法妙於大洞度七祖之法。玉帝所秘，不传非真，有金名帝图，录字紫文者，得见此文。勿轻施用，妄传於人，七祖父母，长闭鬼官，三途五苦，万劫不原。四极明科，七百年有真者听传。

### 修行咒诅诀

夫身者神之宅，神者身之器。若不安宅以全道，修身以养神，则精气为物，游魂为变，以成万类，宜常拘咒矣。故须存乎守一神器，研精道心，则众神备矣！邪气去矣！《太上宝神

经》曰：每日早起（早起，每至鸡鸣时也）。平坐，东向王，或春夏东南、秋冬西北，任所宜。先以两手摩拭面目；次将两手第二、第三指，於眼下横手摩三七遍；次将左手中，指从眉逆拓上至发际，三七遍，此名为手朝三元；次将两手二、指三指，各摩眼後靨中，三七遍，此名为真人荣莹府；又将左手第二、第三指，入鼻孔，中摩三七过，名为开山源；又将两手捋耳。毕，叩齿三十六通微祝曰：

太上四明，九门发精，耳目玄彻，通真达灵。天中之台，流气调平，骄女云仪，眼瞳英明。华聪晃朗，百度眇清，保和上元，徘徊九成。五脏植根，耳目自生，天台郁素，梁柱不倾。七魄澡炼，三魂安宁，赤子携景，遥与我并。有敢掩我耳目，太上当摧以流铃，万凶消灭，所愿必成，日月守门，心藏五星，真皇所咒，群向敬听。”（此名真人常居之道。故《真诰》曰：子欲夜写书，先当修常居也）。修天真，旦、暮咽液三九过，以手举，急按天真（天真，在眉内角者也）、山源（在鼻下人中入谷里也）、华庭（在两眉下，凹中是也）。各三九过。按而咒曰：

开通天庭，使我长生，彻视万里，魂魄返婴，灭鬼却魔，来致千灵，上升太上，与日合并，得补真人，列象玄名。此道令人致灵彻视，杜遏万邪。如此亦可以次按，亦可一时俱按行咒之。

### 道士被天魔所试即诵拂魔咒（出《消魔经》）

先存思头上圆光如日，左朱凤，右玄武，紫霞之盖，光明

身形，仙童玉女，执五色之节，从三界万神，前啸九凤，后鸣八鸾，白帝启道，太极参轩。叩左齿三十六通，叩右齿二十四通，叩天鼓十二通。微咒曰：

罗天毒兽，备巨四门，吞流割胆，山丑万群，张喉攫天，猛卫高声。毒龙奋爪，金头横吞，威兵巨万，受符接山。六天不恂，合玉成群。妖魔波洋，秽气纷纷，谣歌空洞，礼帝障云，水鬼贾形，当人生门。神王所告，无幽不闻，上摄六气，下检河源，五岳四渎，善恶速分。万万千千，来对我前，五帝校录，有功者原。凶魔千群，束形帝君，敢不从命，所诛无蠲，屠割剖腹，斩首灭根。北钁渍汤，南陵火焚。金真录气，流铃捕魂，妖爽无遗，极尽形元。身佩天书，宣行正文，涤荡九气，清明三元，玄举天真，上合自然，莫有干试，改动上闻。引气十二咽，止。

### 玉帝卫灵咒鬼上法（出《消魔经》）

玉帝咒曰：

九天有命，上告玉清，促召千真，俱会帝庭，太一下观，双皇翼形，监察万邪，理气摄生。若有不祥，干试神明，清帝之道，整敕神兵，七神秉钺，天锋右征，挥剑前驱，焕掷火铃，檄命甲骑，武卒天丁，风火齐战，伐邪狡精，上威六天，下摄魔灵，既威既摄，万凶灭形，神戈电扫，奸祲无生，仙皇秉节，有命敢停，拒节违令，是诛汝形。各惊各慎，保兹皇宁，九天告命，万神敬听。急急如律令。

若夜恐怖，梦想魔鬼试人，干犯真气欲病者，急念此咒，

心存至道，求请於帝。乃向北，叩齿三十六通，闭气，密念前咒。咒毕，又叩齿三十六通，咽液十过。於是百恶魔邪伏灭，七神缠绵，太一监摄，万灵卫真。亦可日日诵，卧寝念之，以塞百邪也。

### 治急病法

凡受三五法，在存识三天真名、三师真名，有急灾困病，三大唤天名，密呼三师名，即灾病皆消。

上清微天真名（防中）；

中禹馀天真名（元）；

下大赤天真名（德丘）。

右三天真名也

左无上真名 。

右玄老真名众；

中央太上真名闍。

右三师名

### 反舌塞喉法

凡守一者，身神常安。若体中不宁，当反舌塞喉，嗽漏醴泉，满口，咽之。讫，又如前，咽液无数，觉宁乃止。止而未宁，重复为之，须臾之间，不宁之疴，即应廓散，自然除也。



当时有效，觉体中宽软，都平便以逍遥复常。太极众真、太虚真人，南岳赤君、妙行真人，莫不修此，以成圣真矣。

### 金仙内法

金仙内法，感降灵輿，常以月五日，夜半子时，存日鸟从兆口入，住在心中，使光照一心，一心之内，与日同光，共相合会，赫赫炯炯，当觉心暖，霞晖映暖。良久有验。乃密祝曰：

大明育精，内练丹心，光晖合映，神真来寻。毕，咽液九过，叩齿九通，止。到十五日、二十五日、二十九日，复作如前。一月之中，四度如上，使人开明聪察，百关解通，万神洞彻，面有玉光，体有金泽。行之十五年，太一遣宝车来迎，上登太霄，游宴紫极。行之务欲数，不必一月四辰也。

## 卷四十八 秘要诀法部四

### 老君明照法叙事（誓法附）

老君曰：金水内景，以阴发阳。能为此道，分身散形，以一为万，立成六军，千亿里外，呼吸往还，乘云履水，出入无间，天神地祇，邪鬼老魅，隐蔽之类，皆可见也。审其精思，逆见方来，子能守之，为仙王也。

老君曰：欲行明镜，勿入丧家、产乳之中，精澄万虑，沐浴五香，当饮兰桂之液，无食荤辛之物，绝弃腥臊，无近妇人，于密靖之地，幽室之中，不闻车马之声、金鼓之音、鸟兽嚙噪，乃可为之。此道之忌，莫甚于惊，一往不复反，一败不复成也。当其时，心不欲复有所存；耳不欲复有所听，注心正目，彷彿想念，至精不怠，乃可成矣。

老君曰：当得明镜九寸，无令面有偏缺、毁渍、疵瑕，务欲清明周正，不失人容色者善。昔我先师，以尺二寸镜，前后左右一焉，名曰四规。行此道者，甚难速成，易得惊败，惊则有大殃，少能成也。又容成皆以一尺镜一枚，正置其前，亦见以神，而不能长生也。商子云：以九寸镜各一枚，挟其左右，名曰日月，亦以延年矣。若欲分身散形，坐在立亡，上升黄庭，长生不死，役使百灵。入水、入火、入金、入石、入木、入土，

飞行在意者，当用吾四规之道。若但欲逆知吉凶日月，即用此矣。

老君曰：立规之法，皆去己一尺五寸，令与眉齐，各垂紫青线，下有华水，务令平也。昼夜不闭目，以得为效。不可闭目者，恐当闭目之时，神明忽见，而不即见之，或失神以去，或卒开目，见之不渐，致惊惧而败也。

老君曰：四规之道，必见尊神，非上士至真，勿以此示之。吾道至密，世无其人，宁见道门！

老君曰：欲行四规者，皆令去己一尺五寸，高三尺。

老君曰：东规当见仙二人，冠丹纁之冠，面貌狭小，耳高，其头身皆生黑毛。见之勿惊。

老君曰：西规当见西王母，玉女侍之。

老君曰：南规当见中和无极元君，一身十一头，冠自然之冠，衣赤色。

老君曰：北规当见天皇君，十三头，衣冠之色，如其时也。

老君曰：或见一人，衣黄衣，冠黄冠。白发者，即延寿君也；少者，受命君也。

老君曰：或见一人，赤衣赤帻。年少者，禀命君也；老者，司命君也。

老君曰：或见二人，羽衣黄色，玄冠，察行君也。

老君曰：或见三人，羽衣赤色，青冠，听响君也。

老君曰：或见一人，大冠朱衣，执笔札者，司过君也。

老君曰：或见一人，黄衣冠，掩面者，增年君也。

老君曰：或见二人，赤裳者，视形君也。

老君曰：或见玉女，青衣者，名曰惠精玉女。

老君曰：或见玉女，黑衣者，名曰太玄玉女。

老君曰：或见玉女，赤衣者，名曰赤圭玉女。

老君曰：或见玉女，黄衣者，名曰常阳玉女。

老君曰：或见童子三人，青衣紫下裳，俱来者，一名常在；一名绝洞；一名五德。

老君曰：或见九玉女，衣服五彩，俱来者，一名上；一名虎；一名扶；一名灵阙；一名孔林；一名凭；一名住；一名多；一名元。

老君曰：或见一人，目下径三寸，黄衣，青下裳者，同目君也。

老君曰：或见婴儿，长二三尺，向人笑者，是九都童子也。

老君曰：或见童子，长五六尺，立而笑，其左上有自然盖者，日中童子也；右上有自然盖者，月中童子也。

老君曰：或见人头鸟身，五色玄黄者，上上太一君道父也。

老君曰：或见九人，皆衣青而白首者，无极太元君也。

老君曰：或见一人，长六尺五寸，冠角冠，白衣赤领，或虎文凤章者，姓李，名耳，字伯阳。见之常以平旦。

老君曰：或见一人，长六尺七寸，冠重华冠，白衣青禄者，名李谿字伯阳。见之常以日出时。

老君曰：或见一人，长六尺九寸，冠重华冠，五色衣者，名李 ，字伯光，见之常以食时。

老君曰：或见一人，长七尺二寸，冠辟邪冠，衣罗襪圭，形像龙蛇者，名李石，字孟公。见之常在禺中。

老君曰：或见一人，长七尺三寸，冠飞龙冠，衣朱衣者，名李重泉，字子文。见之常以日中。

老君曰：或见一人，长七尺五寸，冠三杰冠，朱玉衣者，名李定，字元阳，见之常以日昃。

老君曰：或见一人，长八尺，冠皮毛冠，衣黑衣者，名李元，字伯始。见之常以日晡。

老君曰：或见一人，长一尺五寸，冠自然冠，衣龙蛇者，名李愿，字元生。见之常以日入。

老君曰：或见一人，长九尺五寸，冠自然冠，衣青紫者，名李德，字伯文。见之常以黄昏。

老君曰：凡为明镜之道，上士为之七日；中士一旬；下士一月，成矣。

老君曰：紫青为里，合之九寸规者，一尺二寸镜也。

老君曰：上士为之，先见已形；次见宅中鬼神；次见天神也。

老君曰：见神，或见有一身，不能见之多，不过六神、七神来也。但熟视规中物，熟所见，即见神也。亦勿语，亦勿拜，急自定，无惊恐。

老君曰：为此道者，春无伐木；夏无水灌灭火；四季之月，无握土；秋无铄金；冬无遏水抒井。

老君曰：为此道者，春无食肝；夏无食心；四季之月，无食脾；秋无食肺；冬无食肾。五脏神怒，则令人不明不寿。

老君曰：为此道者，长不怠。七日得者，七十日一施之，必如初日见也。

老君曰：此道可以还年却老也。

老君曰：见神之后，更施之，可问以长生之要，则具以告人耳。

老君曰：为此四规之道既成，可握一规之道施之，不复用四也。

老君曰：幽阙二童，齐著绿帟，上入北极，下入玄宫，以镜其事。

老君曰：为此道，常当上朱鸟，高三尺；下玄武，高五尺；左青龙，高九尺；右白虎，高七尺。又当履日月耳。

老君曰：不唯已也。又当令朱鸟衔九寸镜；玄武背员尺二镜；青龙衔日；白虎衔月。已形象龙蛇，须能分形，坐见四海之外乃止者，真物来也。

老君曰：夜则以烛灯，麻油为火，大善。

老君曰：欲理病人及入大山，恐山神及百鬼试人者，以一规著户上，一器盛华水著户下，用刀剑横水上，以刃外向，百鬼不敢前，老晶直入户者亦不得过水，即死，血在水中。秘之勿示俗人。

老君曰：欲辟五兵百邪者，以三寸规一枚，铸圆天符著其背，怀之，阴日右，阳日左。入大众所以为胜人，人皆畏之，吾道秘矣。

### 誓法

某州、某县、某乡、某里、某宫观、道士某，以老君四规明镜要诀，授学者某州、某县、某乡、某里、某人，以白绢四十尺、米一斗、薪一束、盐五升，为盟：某不得不告要言，兆若不奉行，身入黄泉。一同先师科律盟誓，专勤一志，某与兆共画一为信，三年有功乃得传，不得传非其人，身谢天、地、水三官，永不得仙，及不得有背本之言。

### 明照法

照镜欲见形之法，当小开户，居暗向明，暂闭目思，想见面形，初时若殊无所见，中宿之后渐渐洞远，自见面目、巾帻，心中了然开明。平旦及日入，此时最好。若日盛明，当小开户，在灼灼中窥镜，无所见也。若火下照镜，当以火自远，勿得逼近火。欲开目照镜，自视形体，当在灼灼明中，无若若。欲闭目思见面形，当居暗向明，然后形耳。照镜大要，当安卧，思想精诚，未卧之间使身体条条，须臾之顷，当有赤黄从额上出，照耀一室中，于是仿佛恍恍，如觉如卧，便自见面形，在光中对共相视，如顷，即便消灭，卧觉之后，辄复照镜。欲卧，思之如前法，当夕夕自见也。或卧觉两面对见；或己形两人相并坐；或卧寐之间，见好神童玉女，年十五六，好衣服，头额正见，辄再拜；或耳边闻语声，天下吉凶、万事皆预知之；或在壁东见壁西；或暮卧梦照镜；或还光内视五脏。当以申始。

明镜君官属将吏百二十人，住开阳宫，主人两目童子。童子精光相视，见景知吉凶。明镜有三童、九女侍之。三童长六尺，九女长五尺。

三童

九女：

青腰青衣、当闻紫衣、内子青衣、素女白衣、皇女黄衣、帐上衣绀、道女黄衣、女婴衣红、曾女衣绛。

### 宝照法

夜半存神讫（存道一竟，仍起坐为之，未可别行馀一事。起向王，平坐，握固，临目），又存两目中有白气，如鸡子大，

在面目前（存目中忽出白气，悬在目前，乃如鸡子大），须臾变成两明镜，径九寸，以前后照我一体上二十四神，使洞鉴分明。良久（镜形既成，仍存左镜当前照，见神前面；右镜当后照，见神后。其鉴二十四神，各安其所，虽不呼名，而存形色、长短，历然示于镜中），乃心祝曰：

大明宝镜，分形散化，鉴朗元神，制御万魔，飞行上清，披云巾罗，役使千灵，封山召河。毕（镜忽然光变小，还入眉目中，奄然而灭。仍以卧之），常能行之，灾害不生，而位登仙。

### 摩照法

昔有摩镜道士，游行民间，赁为百姓摩镜，镜无大小，财责六七钱耳。不以他物摩也，唯以药涂而拭之，而镜光明不常。有好事袁仲阳者，知其有道，乃要留使宿，为好设主人礼，乃拜而请问之，道士告仲阳曰：明镜之道，可以分形变化，以一为万；又能令人聪明，逆知方来之事；又令人与天上诸真相见。行其道德法，则天上诸神仙皆来至，道士自见己身，则长生不老，远成少童。又道士入山，山精老魅多来试之，或作人形，故道士在石室之中，常当悬明镜九寸于背后，以辟众恶。又百鬼老物，虽能变形，而不能使镜中形影变也，见其形在镜中，则便消亡退走，不敢为害也。是以道士有摩镜之药，药方出于帛子方，用锡四两，烧釜猛下火，令釜正赤与火同色，乃内锡末，又胡粉三两，合内其中。以生白杨刻作人，令长一尺，广二寸，厚一寸，其后柄长短在人耳。以此搅之，手无消息，尽



此人七寸，又复内真丹四两，胡粉一两，复搅之，人馀二寸，内摩照锡四两，搅令相得。欲用时，末如胡豆，以唾和之，得胭脂为善。又以如米大者，于前齿上噓之，复以唾傅拂其上，以自拂之，即明如日月。欲作药，先斋戒七日，乃为之作清静密室，勿令人见之也；其火欲猛。秘之，勿妄传非其人。

### 拂童法

拂童之道，彻见二十四神之法，常以甲子旬、庚午日，日中时，取清水一升（东流水为佳，亦用古井），以一铢真丹（极精、未细者），投水中，搅之，左行三七过（当以上物向月建，左旋搅一周，为过也）。微祝曰：

玄元水精，生光八明，身神众列，并来见形，彻视万里，中达九灵。祝毕，向东，以左手洒目二七过（祝则随月建，洒目常东向，流余水，仍留以洒目，不复更祝也）。

### 神枕法（并叙）

叙曰：昔太山下老翁者，失其名字。汉武东巡，见老翁锄于道，背上有白光，高数尺。帝怪而问之有道术否？老翁对曰：臣昔年八十五时，衰老垂死，头白齿落。有道士者教臣，服枣饮水绝谷，并作神枕法，中有三十二物。其三十二物中，二十四物善，以当二十四气；其八物毒，以应八风。臣行之，转

少，白发返黑，堕齿复生，日行三百里。臣今年一百八十矣，不能弃世入山，顾恋孙子，复还食谷，又已二十余年，犹得神枕之力，往不复老。武帝视老翁颜状，当如五十许人，验问其邻，皆云信然，帝乃从受其方作枕，而不能随其绝谷饮水也。

方用：五月五日、七月七日，取山林柏以为枕，长一尺二寸、高四寸，空中容一斗二升，以柏心赤者为盖，厚二分，盖致之令密，又当使可开闭也。又钻盖上为三行，行四十孔，凡一百二十孔，令容粟米大。其用药：

芎藭 当归 白芷 辛黄 杜衡 白术 藁本 木兰 蜀椒 桂 干姜 防风 人参 桔梗 白薇 荆实（一云壮） 荆实 肉苁蓉 飞廉 柏实 薏苡子 款冬花 白蘅 秦椒 麝香（凡二十四物，以应二十四气，加毒者八物，以应八风）乌头 附子 藜芦 皂荚 茵草 礞石 半夏 细辛

右三十二物各一两，皆蛭咀，以毒药上安之满枕，中用布囊以衣。枕百日，面有光泽；一年，体中所疾及有风疾一一皆愈，差而身尽香；四年，白发变黑，齿落更生，耳目聪明。神方验秘，不传非其人也。藁本是老芎藭母也。武帝以问东方朔，答云：昔女廉，以此方传玉青，玉青以传广成子，广成子以传黄帝。近者，谷城道士淳于公，枕此药枕耳，百馀岁而头发不白。夫病之来，皆从阳脉起，今枕药枕，风邪不得侵人矣。又虽以布囊衣枕，犹当复以帛囊重包之，须欲卧枕时，乃脱去之耳。诏赐老翁帛，老翁不受曰：臣之于君，犹子之于父也。子知道，以上之于父，义不受赏；又臣非卖道者，以陛下好善，故进此耳。帝止而更赐以诸药。

### 神杖法

神杖用九节向阳竹，取择具别有法。凡用之，斋戒沐浴，焚香再拜，讫，叩齿三十六通，思五帝，直符吏各一人，衣随方色，有五色之光，流焕杖上，五帝、玉女各一人，合卫杖左右。微祝曰：

太上之仙，元始上精，开天张地，甘竹通灵。直符守吏，部御神兵，五色流焕，朱衣金铃，辅翼上真，出幽入冥。招天天恭，摄地地迎，指鬼鬼灭，祛魔束形，灵符神杖，威制百方，与我俱灭，与我俱生，万劫之后，以代我形。景为吾解，神升上清，承符告命，靡不敬听。毕，引五方气二十咽，止。以杖指天，天神神礼；以杖指地，地祇司迎；以杖指东北，万鬼束形。

### 帝君明灯内观求仙上法

南极上元君，授于帝君。帝君居朗玄之宫，金房紫户之内，明玄灯以自映，通霞光于照窗，念太真于五形，披三愿于帝房，灵上降以紫盖，元皇给以金童，自然号我位，总掌于玄宫。太品生乎始，妙道在微芒，今以相告，子勤奉焉。告南极上元君曰：子学神真之道，处灵宫之上，琼房之内，而不知明灯以自映，通玄光于五脏，五脏之内罔得明矣，形体之神罔得归也。子若能暮明灯于本命，朝明灯于行年，常明灯于太岁上，三处愿念，即体澄气真，光明内照，万神朗清。元君奉受法度，施行三年，即致夜光童子二十四人，玄光自然而明，不须明灯而通光也。然此上真之妙法，亦不传于下世。若其金名玉字玄格者，得吾此道，行之九年，身体光明，彻视万里，朗观自然。

夜光童子，降子之房，授以真书，白日登晨。

法曰：常明灯于所住静室，本命之上，暮入室向灯长跪，叩齿十二通。祝曰：

玄光映太阴，八达且朗明，澄神曲室里，仰彻曜上清，五晖发朗台，玉芝自然生，洞照通太真，万神监我形，削灭九阴气，记上东华名，保我无终劫，体与日月并，拔度七玄荣，明光启玉皇，上受内观经，天降飞霄辇，腾空御绿辇，得谒太皇馆，进拜玉皇庭。毕，再拜向本命，仰头，咽液七过，止。

又常明灯于行年之上，朝灯，叩齿十二通，咒曰：

明灯照行年，散光焕八方，婴婴色象澄，内观朗空洞，披释朗神衿，子与玉真通。仰高宗上道，渺邈无行踪，思得玄云降，整辔御飞龙，却我百年期，还返婴儿容。赐我西华女，给我金晨童，侍香履年命，稽首玉帝房，神泰道亦畅，欢适香烟中。整心注太玄，精感洞虚无，室招神霄降，冥目瞩仙公，拔过七祖难，度形还南宫。毕，再拜，向灯咽气二七过，止。

常于太岁上，明灯以通神，礼愿以求真。满三年，则玄光内映，神真下降，授子不死之方。当时，自有感应也。当朝夕烧香，叩齿十二通，向灯祝曰：

灯火映太真，明光彻玄虚，披朗无上道，心注玉帝庐，洞达空洞内，神睹形自舒。积感致灵降，心恬理潜居，朝礼太帝堂，夕诵金真书，逍遥玄都里，万岁返婴孩。天符紫霄霞，帝给玄琼舆，浮游五岳巅，适一得所如，七祖免三途，福庆有盈馀。毕，再拜，咽液二七过，止。

若能常于三处，明灯不灭，七玄九祖，即得去离十苦，上升南仙。一身神明澄正，目视万里，耳聪远听，心智逆知未然，神真来降，夜光童子当教子求仙之道。九年如此，灵光自表通于里也。

### 按天庭法

天庭，是两眉之间，眉之角也（眉内角，两头骨凹处）。山源，是鼻下人中之本侧，在鼻下小入谷中也（鼻中隔之中内际，宛凹处）。华庭，在两眉之下（眉下虚骨凹处）。旦、中、暮，向其方平坐，临目，咽液三九，急以手阴按之三九（以两手中指，急按其处。急，谓痛按之，非急速之急也）。按而祝曰：

开通天庭，使我长生，彻视万里，魂魄返婴，灭鬼却魔，来致千灵，上升太上，与日合并，得补真人，列象玄名。此为常人致灵彻视，杜遏万邪之道也。

### 服雾法

常以平旦，于寝静之中，坐卧任己，先闭目内视，仿佛如见五脏。毕，因口呼出气二十四过，临目为之。使目见五色之气相绕缠，在面上郁然，因又口内此五色气五十过。毕，咽唾六十过。乃微祝曰：

太霞发晖，灵霞四迁，结气宛屈，五色洞天，神烟合启，金石华真，蔼郁紫空，炼形保全。出景藏幽，五灵化分，合明扇虚，时乘六云，和摄我身，上升九天。毕，又叩齿七通，咽液七过，乃开目，事讫。此道神妙。又神洲玄都，多有得此术

者，尔可行此法耶，久行之，常乘云雾而游。

## 卷四十九 秘要诀法部五

### 守一（一在人心，镇定三处）

《太上智慧消魔真经》云：一无形象，无欲无为，求之难得，守之易失。失由识暗，不能进明；贪欲滞心，致招衰老。得喜失嗔，致招疾病；迷著不改，致招死殁。衰惠及老，三一所延，治救保全，惟先守一，非一不救，非一不成。守一恬淡，夷心寂寞，损欲折嗔，返迷入正，廓然无为，与一为一，此乃上上之人，先身积德所致也。中中已上，先善未积，积而未极，皆由渐升。当存三元，谛识神炁状貌，出入有无，生镇三宫，三尸必落，尸毒既去，炼暗成明，智慧神通，长生不死，真圣神仙，随因受果。

《太平经》云：何以为初思守一也？一者，数之始也；一者道之生也、元气所起也、天之纲经纪也。又《五符经》云：知一者，无一之不知也；不知一者，无一能知也。一者，至贵无偶之号也。

《上清三天君列纪经》云：柏成欽生，请问云房之道、三真之诀？二玉皇曰：三真者，兆一身之帝君、百神之内始真也。若使辅弼审正，三皇内宁，太一保胎，五老扶精。一居丹田，司命护生；一居绛宫，紫气灌形；一居洞房，三炁合明。于是

变化离合，与真洞灵。明堂云宫，紫户玉门、黄阙金室、丹城朱窗，皆帝一之内宅，三真之宝室也。于是云房一景，混合神人，上通昆仑，下临清渊，云盖嵯峨，竹林葱茜，七灵迴转，五色缠绵，层楼万重，三气成烟，玉阙虚静，七门幽深，金扉玉柜，符籍五篇。公子内伏，外牵白元，浑一成形，呼阳招阴，上帝司命，各保所生。微哉难言，非仙不传。

### 三一诀

《升玄经》曰：仙人襄子明问云，向闻法师咨请真一、太一，未闻三一之诀，当复云何？既为一而复言三，为一有三耶？为三有一耶？昔虽奉行，未能晓了，愿为究尽，使后来末学得真要。法师曰：三一者，正一而已，三处授名，故名三一。所以一名三一者，一此而三彼也，虽三常一，故名三一。三一者，向道初门，未入真境，得见一分，未能舍三，全一是未离三，虽未离三，少能见一，故名三一。分言三不离一，故名三一。子明曰：此一者，何所有也？答曰：无所有而有。问曰：无所有而有，何名为有？答曰：以无为有。又问：无何而有？答曰：得无为有。又问：得而无为者何所义？答曰：形声虚伪故。又问：何为虚伪？答曰：不住故。又问：云何不住？答曰：速变异故。又问：虽速变异，非无所有，既云变异，果是有物可变，安得云无邪？答曰：向曰变异者，亦不言都无，如虚空故，但言一切皆有伪非真。生者必死，有者必无，成者必坏，盛者必衰，少者必老，向有今无，寒暑推变，恍惚无常也。



### 玄门大论三一诀（并叙）

夫三一者，盖乃智照无方，神功不测，恍兮为像，金容玉质之姿，窈兮有精，混一会三之致。因为观境，则开众妙之门，果用成德，乃极重玄之道。《道经》云：三者不可致诘，故混而为一。《洞神经三环诀》云：精、神、气也。

《释名》云：三一者，精、神、炁，混三为一也。精者，虚妙智照之功；神者，无方绝累之用；气者，方所形相之法也。亦曰希、微、夷。希，疏也；微，细也；夷，平也。夷即是精，希即是神，微即是气。精言夷者，以知万境，均为一照也；神言希者，以神于无方，虽遍得之，甚疏也；气言微者，以气于妙本，义有非粗也。精对眼者，眼故见明，义同也；耳对神者，耳空故闻无，义同也；鼻对气，触于体，义相扶也。

孟法师云：言三言一，不四不二者，以言言一即成三也。今谓明义，各自有宜，少多非为定准，如六通四达，岂止三耶！若教之所兴，无乖此说。然三义虽异，不可定分，亦一体虽同，不容定混。混亦不混，故义别成三，分不定分，故体混为一。混三为一，三则不三；分一为三，一则不一。不三而三，不一而一，斯则三是不三之三，一是不一之一。不三之三，非直非三，亦非非三；不一之一，非止非一，亦非非一，此合重玄之致也。

出体之义，略有四家：

一者大孟法师解云：三一之法，以妙有为体，有而未形，故谓为妙，在理以动，故言为一。引经言：“道生一。”又云

：布气生长，裁成靡素，兼三为用，即一为本。今不同此，果法若起，故非未形之妙。经云：生，岂是常在之本！

二者宋法师解云：有总有别，总体三一，即精、神、气也；别体者，精有三智，谓道、实、权；神有三宫，谓上、中、下；气有三别，谓玄、元、始。今谓此判三一之殊，非定三一之体。

三者徐素法师云：是妙极之理，大智慧源，圆神不测，布气生长，裁成靡素，兼三为义，即一为体。此解虽胜，语犹混通，未的示体，如极理之与大智，此即是境智之名；慧源之与裁成，即是本迹之目。故未尽为定也。

四者玄靖法师解云：夫妙一之本，绝乎言相，非质非空，且应且寂。今观此释，则以圆智为体，以圆智非本非迹，能本能迹，不质不空，而质而空故也。今依此解，更详斯意者，既非本非迹，非一非三，而一而三，非一之一。三一既圆，亦非本之本，非迹之迹。迹圆者，明迹不离本，故虽迹而本；本不离迹，故虽本而迹。虽本而迹，故非迹不迹；虽迹而本，故非本不本。本迹皆圆，故同以三一为体也。三一圆者，非直精圆，神气亦圆。何者？精之绝累即是神；精之妙体，即是气；神之智，即是精；气之智，即是精；气之绝累，即是神也。斯则体用圆一，义共圆三。圆三之三，三不乖一；圆一之一，一不离三。一不离三，故虽一而三；三不乖一，故虽三而一。虽三而一，故非一不一，亦虽一而三，故非三不三。三一既圆，故同以精智为体，三义并圆，而取精者，名殊胜也。

义有九条，用有五迹。义九条者，三一各三，合成九义：精有三，正、实、权也；神有三，空、洞、无也；气有三，始、元、玄也。精三者，具如境智科解；神三者，无是豁然之名；洞是通同之目；空是虚容之理也。气三者，《正一经》云：太

无变化，三气明焉。黄气为玄，白气为元；青气为始也。论其相生者，正智生实智，实智生权智，无生于洞，洞生于空，空生于始，始生于元，元生于玄也。然自一之三，从三至九，千应万变，同归本一，不殊而殊，殊而不殊也。用五迹者，《洞神经》云：大道无极，极乎自然，变化无极，其中要妙，三五八九。三者，精、神、气也。五者，精有二君，精、气也；神有二君，神、气也；精有二君，赤气名曰太阳，化为元阳子丹，变为道君，是二君也；神有二君，赤气变黄，名曰中和，变为老子，又为黄神，是二君也；气有一君，黄气变白，名曰太阳，变为太和，是一君也。以五当法，体义不分，二分三一之变，有此五君。以三就五为八，三内有一成九也。斯亦一途应用，示此五身，然化迹多端，尘沙莫辩。

孟法师云：用则分三，本则常一。今解论其正意，体一义三，本迹而言四句变九。四句者，一者本一迹三；二者本三迹一；三者本迹俱三；四者本迹俱一。本一迹三者，妙本圆一，分应开三；迹一本三者，应气为一，本体俱三。第三、第四两句者，望前两句不知本迹不殊，故同三同一，其义具显前章也。九变者，三一之化，号精、神、气。精、神、气中，又各相生，三三相续，遂为九变。故从一之九，从九反一。《上元真书》云：一曰源一；二曰元一；三曰太一；四曰玄一；五曰真一；六曰雌一；七曰雄一；八曰三一；九曰正一。源者，至道之根，众妙之本；元者，众善之长，万法之先也；太者，极大之名，包含为德；玄者，不滞为用，妙绝高虚也；真者，去假除惑，即色皆空也；雌者，安静柔和，观空照实也；雄者，刚动能化，方便善权也；三者，精、神、气也；正者，治邪灭恶，去暗就明也。此明至道垂迹，有此九条，摄会归本，同为一致。故《三天正法》云：从九返一，乃入道真。《辩教》曰，第一出众

经不同。

孟法师云：涉学所宗，三一为本。故七部九结，皆有图术，今列如左：

第一、洞真三一（上元泥九宫，天帝、帝卿；中元绛宫，丹皇君、辅皇卿，下元丹田宫，黄庭元王、保镇弼卿。出《三元真一经》）；

第二、洞玄三一（治三丹田，元先、子丹、元阳子也。出《太上真一经》）；

第三、洞神三一（南极老人，中极道元，北极玄妙。出《洞神太上三一经》）；

第四、皇人三一（始青、元白、玄黄。出《皇人秘旨》）；

第五、太清三一（赤子、真人、婴儿。出《太清上中经·上卷》）；

第六、太平三一（意神、志神、念神。出第一卷自占盛衰法）；

第七、太玄三一（夷、希、微。出《太存图》及《道德经》）；

第八、正一三一（蕤、 、粉。即治三元）；

第九、自然三一（虚赤光、元黄光、空白光）。

合有九经，所明三一，并治三宫，其条守体仪，具如彼经所辩。然洞神所出三一之变，亦云精、神、气、虚、无、空等，具如彼经第十三卷所明也。今三一者，神、气、精；希、微、夷；虚、无、空。所以知此为三一者，以其明义圆极故也。昔正一、三一等，是以其明义浅迹故也。

《升玄经》太上告道陵云：汝昔所行，名为真一道者，是则阴阳之妙道，服御之至术耳，非吾所问真一，此昔教也。下

文云：汝以堪受吾至真平等要诀无上妙经，乃至第四辩不一之一，此之教也。其外六经所辩三一，既不彰言辩空，而但为气观之境，可属于昔。故涓子修上清，仅得地仙而已。若言三气三色，并是界外之事。三洞三一，本意皆为入空，此则摄属于今也。能伦圣教，本不有无，何曾今昔！故可九经所辩，皆不有无，并非今昔，但逐物情，不了滞教，为昔物情，若悟晓教成今也。更二义往分今昔，一就大小乘分，二就因果义分。大小乘分凡有三义：一约定有分；二约偏并分；三约待绝分。定有者，昔小乘以三一为定境，义极于有；今大乘，以三一为智慧，义在于空。何者？昔小乘，入定则舍于有，故在空之时无复三一也；今大乘，为观群色是空，故虽于空，不失三一也。故《洞神经》释守三一云：知守虚无空者为大乘也，守神炼形为中乘；守气含和为小乘也。二偏并者，昔小乘学偏，今大乘能并。小乘舍色入空，故不能并；大乘即色辩空，故能并也。三待绝者，昔因三一以入于无，得无之时，谓为真一，此之无一，犹对于有之无，是为挟二，故为待也；今之三一，即体非有，亦复非无，非有非无，故无所挟，既无所挟，故为绝也。二就因果义分，亦有三义：一约近远别，二约方便究竟别，三约常无常别。一约近远者，昔以三为气，观果则近极三有，今以一为神，观果则远极道场，故极果圆智成，今三一义如前也。二约方便究竟者，昔开方便，果极三界，今开究竟，故果极常一，故《升玄经》云，是为究竟。究竟者，功业成，罪行毕，则常一也。三约常无常者，昔三有之果，为灾所成，故是无常；今一常之果，巍然不动，故为常也。

### 金阙帝君五斗三元真一经口诀

涓子受之东海青童君。至春分日夜半时，起坐东向，冥目，存身中三宫、三一、三卿及我合七人，我在中央也，俱乘紫气之烟，共登北斗阳明星。阳明星者，北斗之东神也。于是存入星中共坐，吞紫气三十过，行之久久，自见阳明星东元太上宫，宫中有青玄小童，授子真光也（先当存北斗星，紫炁大如弦，从上直流我前，然后乃存三一也）。

周君口诀云：存七真人并北斗七星，而共登阳明雁行，我居中央也。巾七星者，以魁覆头，杓柄前指也，我存吞紫气三十过而咽之也；又思三一、三卿并同吞之也。吞毕，更存七真人缘向从紫气空中来下，还兆三宫中。良久心祝曰：

三尊上真，太玄高神。阳明主春，万童开门；丹元主夏，朱紫含烟；阴精主秋，天威六陈；北极主冬，万邪塞奸。五土乘王，戊己天关，所指皆灭，所向莫干。炼我七魄，和我三魂，生我五藏，使我得真，登飞上清，浮景七元，长生顺往，啸吟千神。毕，亦可眠存之，四节共此一咒尔。

夏至之日夜半时，起坐南向，冥目，存我身中三宫、三一、三卿及我合七人，我在中央也，俱乘紫气之烟，共登北斗丹元星。丹元星者，北斗之南神也。于是存入星中共坐，吞紫炁三十过，行之久久，自见丹元星南极太上宫，宫中有朱阳灵妃，授子绛书、宝衣也。

秋分日夜半时，起坐西向，冥目，存我身中三宫、三一、三卿及我合七人，我在中央也，俱乘紫炁之烟，共登北斗阴精

星。阴精星者，北斗之西神也。于是存入星中共坐，吞紫炁三十过，行之久久，自见阴精星西元太上宫，宫中有白素少女，授子玉章虎书也。

冬至之日夜半时，起坐北向，冥目，存我身中三宫、三一、三卿及我合七人，我在中央也，俱乘紫炁之烟，共登北斗北极星。北极星者，北斗之北神也。于是存入星中共坐，吞紫炁三十过，行之久久，自见北极元星北元太上宫，宫中有玄精真人，授子金书秘字，三五顺行。

六月一日或十五日，令与秋分、夏至日相避也，夜半时，坐西南向，冥目，存身中三宫、三一、三卿及我合七人，我居中央也，俱乘绛、紫、青、黄、四炁之烟，共登北斗天关星。天关星者，北斗之中神也。于是存入星中共坐，并临目，各吞四色气各十过，先吞绛气，以次行之。久久自见天关星中元太上宫，宫中有太上威真，人授子灭魔符、钺邪钺、黄衣兵策。

八节日各守八日耳，以节日夜半为始，馀唯存在三宫中安坐而已。极精想，使有至仿佛耳。

### 守五斗真一经口诀

道士志学，山林隐静，久遁岫室，远迹人间，为之者益精，而神速至也。或多不知推算度分数，作历日也。如不知历日之道，则二十四气、八节之日，不可得知；又复不能年年出入世间，寻问求写，亦是学人之疑也。今谨按北帝自然之经云：法用正月三日，当立春；二月十五日，当春分；四月一日，当立夏；五月十六日，当夏至；七月七日，当立秋；八月二十二日，

当秋分；十月五日，当立冬；十一月十一日，当冬至节。山林道士，当用此法。若晓外历日之八节，自宜按之。历八节，盖璇玑之正度，万真灵仙神明朝宴之日也；北帝自然发月数之中日；二景气相随之日，亦大吉时也，宜以修道建思，并而论之，吾从唯一。

外国以月一日为建，二日为除，以次数之。今穷山无历日，此乃可用。

匈奴国以正月一日为甲寅，朔六甲周而复始。正月小，二月大，三月小，四月大，五月小，六月大，七月小，八月大，九月小，十月大，十一月小，十二月大。若穷景深林，外迹名绝者，亦当按此可也。

每至建日，或月一日平旦，存三一从己三宫中出，坐己前，乃心起再拜，若如见之，仿佛在目，心咒曰：

天尊三帝，守我命门，出游虚中，六气互分，养我五神，正我三魂，五藏自生，长生飞仙。毕，又存从虚中还三宫。良久，咽液三十过，十过为良。夜当见三一及三卿也，或梦见白鸟、白鹄、白虎、金玉之物，皆三一之化景示象也。如此守之勿殆，则相见之象也，对面之渐也。每至除日夜半时，密起北向，仰视北斗七星之内象，见三一从辅星中下来，入己三宫中。毕，还寝，精思存之，仿佛似见，乃微咒曰：

太上天辅，三帝所游，三卿扶持，与真合俱。下入我身，安寂坐无，吐精灌形，魂魄和濡，使我飞仙，云车行浮。毕，咽液二十七过，月取一除日尔。

每至开日夜半时，起坐东向，去巾亦可散发，更梳栳结之结令通，良久，毕，祝曰：

上元三真，真中婴儿，散发开烟，上通天台，泥丸坚凝，与天同时，使我飞仙，交行洞台。毕，咽液十九过，毕，乃巾



而寝，精思存三一、三卿，各安其宫，帝与卿相对而坐；存三一呼气宫中三十过，已存时亦自呼气三十过也。呼者，开口吐气之谓也。其时亦当觉一体热，则和神凝魂之验也。存三一，皆当临两目，内视神宫也。

存一之道，使太上三素气见三宫中。三素者，紫、青、绛三沓色炁也。紫在上也，则存守三一在其中，目想见北极紫房、玉宫，使天官序列，思我将在帝前对坐，所乞所求，乃心拜焉。太上，是上清之帝，极贵者也；北极紫房，帝之房耳。亦存己三一，与帝谕；飞真生生之道。

凡临盛饌，皆正心存一，目想一先饮食，然后兆乃食之也。常如此，则邪气远退，真气来前。饮食毕，心祝曰：

百谷入胃，与神合气，填补血液，尸邪亡坠，长生天地，飞登金阙，役使六丁，灵童奉卫。

守一之法，以甲午、甲辰、甲寅日夜半，扫除静寝之庭，方圆一丈，布席烧香，北向再拜，亦可心拜而已。因仰视北斗七星，使紫炁从斗中出入兆身中三宫之内，北向接手两膝上，心存三一、三卿、与兆俱乘紫气上登太极。太极，北极星也。存令忘身失体，恍焉如升天之状。如此，则仙道近矣。仙人谓之大静也。阴雨可于寝床上为之，亦可预作坛于盛处，使方圆一丈，篱四面，使高数尺，至日常当修之，此大静之道也。

守一之法，道当伺月初出时，向月再拜，毕，心祝曰：

太阴玄精，明月夫人，初生流光，照我三宫，神仙上飞，高游八方，所向所愿，皆与福会。

守一之道，常存七星覆头上，柄指前。如此，百邪之不干，凶气之灭亡，要诀也。

守一人忌食五辛、猪犬肉、履产妇家、甲子日。思存又忌大醉及诸秽臭，皆避而慎之，遣之勿疑矣。又勿抱婴儿，大不

可耳；不与人共衣履、同床席、而存一也，思真静神，念道招灵，皆欲别处，非徒此事而已。

后圣金阙帝君，昔受《三元真一经》、《太极帝君真符》、《五斗真一经》、《太一帝君宝章》，凡此四诀，以传仙人涓子，涓子钓河川获鲤鱼，剖得青玉函，发视获二符、二经法是也。此太上内隐法，地真之上道，亦得朝宴上清，游盼太极，飞遨崆峒，寢息昆仑矣。

## 卷五十 秘要诀法部六

### 三一九宫法

夫三一者，乃一身之灵宗，百神之命根，津液之山源，魂精之玉室。是以胃池体方以受物，脑宫员虚而适真。万毛植立，千孔生烟，德备天地，混同太玄，故名曰泥丸。泥丸者，形躯之上，神所居也。兆唯知吞炁咽津，鸣齿纳液，不知此所因者，乃泥丸之末流，脑家之边枝尔。

今将告子三一之诀，上真之妙法也，闭口奉修，慎勿宣传，负违盟誓，身没鬼宫，考延七祖，长闭河源。两眉间却入一寸，为明堂宫；却入二寸，为洞房；却入三寸，为丹田；丹田直上辟方一寸，为玄丹脑精泥丸魂宫也。

明堂宫左有明童真君，右有明女真官，中有明镜神君。明童真君，讳玄阳，字少青；明女真官，讳微阴，字少元；明镜神君，讳招精，字四明。此三君共治明堂宫，并著绿锦衣，腰锦裙，带四玉铃，口衔玉镜，镜铃并如赤玉也，头如婴儿形，亦如之对坐俱向外面，或相向也。此明堂之道也。若道士恐惧，存三神使鸣玉铃，声闻太极，使口吐玉镜，赤光令万丈。存之俱毕，因三呼三君名字，叩齿九通，则千妖伏息，万鬼灭形也。若道士饥渴，亦存三君，并口吐赤炁使灌己口中，因吸而咽之，

须臾而饱也。若道士夜行，暗不见路，又存三君，使口出火光，照前，须臾路自朗明也。若行凶处，厄难之中，有刀兵之地，急存三君，使鸣玉铃，精而想之，敌人自然心骇意慑，不复生害心也。若道士欲求延年不死，及疾病临困求救而生者，当正心安寝，存明堂三君，并向外长跪，口吐赤炁，使光贯我身，令匝我口傍，咽赤炁无数，当闭目微咽之也。须臾，赤炁绕身，都变成火，火因烧身，与火共作一体，内外洞光，良久乃止，名曰日月炼形，死而更生者也。又暮卧常当为之，则必长生不死也。又数存咽赤炁，使人颜色返少，色如童女，此不死之道，明堂之要诀，毕也。旦起皆咽唾三十过，以手拭面摩目以为常，存唾色作赤津液。

洞房中有三真，左为无英公子，右为白元君，中为黄老君，三人共治洞房中，此为飞真之道，别自有经，事在《金华经》中。

丹田宫有上元真一帝君、帝君之卿合三人，共治丹田宫，守三元真一之道是也。此真地之要路，控乘龙车之经也。天真多官位，乐欲为地真人，地真人隐遁于官位，不劳损于朝宴，故从容任适，随时而游，坐七舆以造步四炁也。至于天真，虽差阶小异，俱一真矣。地真人亦各安其所之，不愿为云中官也。

流珠宫有泥丸太一真人，在丹田后却入一寸为流珠宫，流珠真神自别有经，司命之所行也，其道妙大，发誓用珠帛结盟，乃能付之。此经三百年一传，满五授止，不得复出。此太极公卿司命之道也。

玄丹宫在丹田之上，正方一寸，紫房绿室，朱烟满内，其中有泥丸太一真君，治玄丹之宫。太一真君，貌如婴儿始生之状，坐在金床玉帐之中；著紫绣锦衣，腰带流火之铃，流火之铃者，无质而赤光，动之声闻十万里，盖上清中太一真人之宝

铃也；左手把北斗七星之柄；右手把北辰之纲，北辰者，北极不动之星，谓之为辰纲也；正坐玄丹宫向外，左右无侍者，所以名之为太一真君也。旦夕守诸三一，讫，独后乃未存之，未存之者，先造其轻，后行其重也。

夫头有九宫，请先说之。两眉间上，其（重衣）有黄阙紫户、绛台青房，共构立守寸之中，左右耳守寸。左面有绛台，右面有黄阙。其九宫真人出入，皆从黄阙、绛台中间为道，故以道之左右置台阙者，以伺非常之炁，伺迎真人往来也。紫户大神，名平静，字法王；青房大神，名正心，字初方，形并如婴孩，各服衣如其方。房户之神，手执流金火铃。守寸者，却入三分，名为守寸也。暮卧及旦存思之时，先存二大神，仿佛存见，仍呼其神名字。毕，微咒曰：

紫户青房，有二大神，手把流铃，身生风云，侠卫真道，不听外前，使我思感，达利灵关，出入利贞，上登九门，即见九真，太上之尊。祝毕，乃可存思三一洞房，九真诸要道也。守寸二大神，唯听九宫中真官，在九宫内者。出入耳目上帝信命及玉童灵真，往来诸帝轩，二大神听以进，其余非真，此二大神皆不听进也。此中黄太一法度也。于是赤子帝君，乃命两耳神娇女、云仪使引进之，故人觉耳鸣者，外使入也。云仪时扣磬钟，以闻九宫，使知外人来入，令警备也。磬钟者，是今耳鸣之声音也。其闻之者，错手掩耳而祝曰：

赤子在宫，九真在房，请听神命，永察不祥，太一流铃，以灭万殃。祝毕，以手拍耳门二七遍，毕，当觉面热，即佳候也。若觉头顶颈间索索寒者，恶气入也。当急卧，临目，内存玄丹宫太一真君，以流火之铃，煖而掷之，恶气即出身外，火光亦随之在后，炯炯然以照己一身。良久，平复也。其明堂、洞房、丹田、流珠四宫之经，皆神仙为真人之道传于世。其玄

丹宫经，亦真仙司命之要言，四宫之领宗矣。此一经，须太极帝君告可与乃与之也，亦时出授耳。

凡合五宫之道，行乎世上，有真名者，遭值之矣，自非骨相挺命，不闻此言也。又有玉帝宫，王清神母居之；又有天庭宫，上清真女居之；又有极真宫，太极帝妃居之；又有太皇宫，太上君后居之。此四宫；皆雌真一也，道高于雄真一也。并有宝经，以传已成真人者，未得成真，非所闻也，雌真一之要，亦自不授之矣。太上所以出极八景，入骖琼轩，玉女三千，侍真扶辇，灵妃侠唱，神后执巾者，实守雌一之道，用以高会玄晨也。此太上之宗根，虚皇之所传也。此四宫，人皆有之，但不修此道者，宫中空耳。夫不尽修于九宫，九宫者宫中亦空尔，非但雌家而已。至于丹田宫中，常有帝君，守寸常有大神，不复问之，须修乃见在宫中尔。修之者神仙，不修者以寿死矣。雌雄一神者，男女并可兼修之，无不在也，唯决精苦之至，乃获益矣。

守玄丹太一真君之道，暮夕静寝，去诸思念，卧坐任意。先存北极辰星，紫炁来入己玄丹宫中，须臾满宫，溢出耳外，使匝身通洞内外，与紫炁合体。毕，又存日来，入玄丹宫中，日满宫内，在紫炁中央，望视如暗中视火珠之状。毕，乃存上清中黄太一真君，从北极紫炁中来，下入玄丹宫日中坐，君讳规英，字化玄，衣貌色服如上。又存己一身，忽然升上入玄丹宫日中，在太一真君前对坐，服色任意，因心起再拜。稽首膝前，问道求神仙长生，随意言之。因存乃吞紫炁三十过，次咽液三十过。毕，又存北斗七星，内有一赤炁大如弦，径下直入玄丹宫中，于是太一真君，及己俱乘日入行赤炁道中，直上诣北斗魁中，寢息良久，自因此寢也，亦即有真应。十四年行之，则与太一同游，俱到七元纲也；十八年诣上清宫，受书佩符，

役使玉童、玉女各十八人。一夕一存之，唯数而已，勿令脱夕。亦可专修此道，不必须守三一也，兼之益精，致感速尔。月一日、三日、七日、十一日、十五日夜半之时，存玄丹宫太一真君，正坐向外，口吐青炁，下入我口中，我随咽之，凡五十过。毕，乃咽液五十过。毕，微祝曰：

太一真皇，中皇紫君，厥讳规英，字曰化玄。金床玉帐，绣帔锦裙，腰带火铃，斩邪灭奸，手把星精，项生日真，正坐吐炁，使我咽吞，与我共语，同宴玄丹，炼灌七魄，和柔三魂，神灵奉卫，使我飞仙，五脏自生，还白童颜，受书上清，司命帝君，所愿所欲，百福唯新。又存己上入宫中，在太一前寝息，因以取眠，亦当梦感妙应矣。日为此而数精至，即相见之阶渐也。

#### 四宫雌一内神宝名玉诀

凡学上真之道，而不知雌真之一内名，亦万不得仙也。学者受师口诀，然后奉行，每以正旦月朔，太岁本生之日，入室东向思存：

玉清圣母，姓廉名衍，字荒彦。长九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之髻，冠无极进贤之冠，居无上之上，太极珠宫，七宝府，五灵乡，玄元里，下治兆身玉帝宫中。

上清真女，姓厥名迥，字粥类。长六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴玉宝飞云之髻，冠玄黄进贤之冠，居无上之上，昆仑太幽中宫，明堂府、九光乡、大化里，下治兆身天庭宫中。

太极帝妃，姓玄名虚生，字伯无。长七寸七分，著玄罗流光五色凤文之绶，头戴七宝玄云之髻，冠无极进贤之冠，居元景之上，太清极玄宫中，玉房府，三丹乡，丹元里，下治兆身极真宫中。

太上君后，姓迁名含孩，字合延生。长三寸三分，著七宝飞精玄光云锦霜罗九色之绶，头戴九玄玉精颓云之髻，冠玄黄无极三宝玉冠，居太清九玄之洞，无极真宫，丹精府，云光乡，玄玄里，下治兆身太皇宫中。

行玄丹之道，守三一之诀，当常存四宫雌真一之神，衣服、形影、名讳、乡居所在，此宝经之上篇以传见真人者。始学不得参问其要，素灵所秘，不行于世。凡受上真之法，《三宝神经》虽通灵究幽，不知雌真一之法，亦万无成矣。故太上标其重禁，格于轻泄，不载于纸墨。有者宜审实内心，然后受焉。每以正旦月朔，及太岁本生日，沐浴清斋烧香，入室东向，存思四宫雌真一之神，乡居、姓名、服色、长短，如上法。毕，当叩齿十六通，祝曰：

太阴真神，号曰女灵，含景九玄，乘真隐冥，日吉天朗，告斋上清，心念目瞩，洞鉴神形。还守宫宅，玉华芳盈，五色变化，流黄紫青，运致飞霞，上造帝庭。毕，咽气三十六过，止。如此，则九年面生玉华，金真映光，神见躯形，与兆共言。子既见神，心知而已，慎勿妄传也。

此四宫雌真一之神，是天元始生之阴官，受号帝妃也。始其元气未立，五政未开，光景未通，气极虚无，无上无下，无外无内，无左无右，无前无后，太上之元精，玄始之妙真，虚极之先，结气而凝，混化万物，天地得存，皆由于四真也。能有至心存思者，千龄不知老，九天之中，万神同寿也。



## 金阙帝君三元真一经诀

涓子受之东海青童君。太上曰：真人所以贵一为真者，上一而已。一之所契，太无感化；一之变通，天地冥合。是以上一为一身之天帝；中一为绛宫之丹皇；下一为黄庭之元王，并监统身中二十四炁。炁以受生，生立一身，上应太微二十四真，真炁徊和，品汇成形，玄神混分，紫房杳冥。

夫气者，结虚烟而成神也；神者，托三一以自生也。变化者，三一之所造，得化者，皆由神之自隐，混黄相成，得玄之极，故三一元君，各有真炁。真炁结成，自为千乘万骑，云车羽盖，常以内入紫宫，以登玉清，列录元图，化胞保胎，三一养身，得为真人，飞行九霄，受事高上。所以，一之所济者，乃生乎天地，非但行飞蠕、动小事而已。子若能守之弥固，则精应感畅，精应感畅则三元可见，三元可见则白气郁变，白气郁变则混分自生，混分自生则千乘万骑，忽然至矣。于是羽盖可御，云车可乘，白日升天，上造太微，实三一之玄功，精感之所会也。太微中有二十四气，混黄杂聚，结炁变化，有时忽尔而分，觉然而生也。化炁中有二十四真人，结虚生成，不由胞胎，皆三一帝皇之神炁，所以致分道变化，托玄立景矣。既能守身中三一，则天上太微中三一帝皇之真君，而降见于外，与子面言矣。身中复有二十四真人，亦身精光爽炁，所分化而变万，化若云车来迎。合炁晨景，以登太微，二十四真人俱与身中神明，合宴于混黄之中，共景于紫房之内，托形炁于千涂，回老艾以返婴，改死籍于北酆，寿长存乎帝乡，出入玉清，寝

止太微。又兼行帝一、太一、五神，及三五七九之事，兼行之者，一神之感易致也。紫房须守一为根本，守一须守紫房为华盖。故三一、三素相须也；而紫房、六合相待也。虽其居不同，而致一之用俱济也。子善思而存之，则三一之事毕矣。若单得受一道者，则三元不备。但注心于一，亦可长生不死，得入太清而已，不得游宴太极，北登上清之宫也。上一，真帝之极也；中一，真皇之至也；下一，真王之妙也。天皇得极，故上成皇极；地皇得至，故上成正一；人皇得妙，故上成众妙之君。三皇体真以守一，故一无藏形；仙人寻真以求一，故三一俱明，一无藏形，其真极也。三一俱明，得一而明已。其真既极，三一既明，得一而生也。夫真守一者，当令心寂神凝，体专求感，所以百念不寻，精意不散，但三月内视，注心一神，则灵光化生，缠绵五脏。若其注念不散，专炁致和，由朴之至也，得一之速也。若华伪僭起，竞心乱生，故一不卒见，神不即应，非不卒见，即应由存之者，不专思之者，不审是故，积年之功，罔有仿佛也。若能心济远感，纵心无劳，亦必三月之精思，与一混合者也。

太上告曰：三元者，九天之玉真，太上之正道也，胎根之所生，六合之所存。故正一大道，以出真帝，正道玄真，以生大神，离合五化，万化忽成，三元解变，则一之所生也。故变气布结，神得以灵，众真归一而玄功成焉。此正道之宗祖，元气之根始也。散之于无，则白气杳合；养之于形，则长生永久。夫三一之法，观道备于三元。其道奇妙，总括灵篇，天人仙皇，握宝神经。第一之诀《大洞真经三十九章》，第二之诀《雌一合变大有妙经》，第三之诀《洞真玄经》，三五七九，号太上素灵。是故上一帝君宝《洞真经》，中一丹皇宝《雌一大有妙经》，下元一王宝《太上素灵洞玄大有妙经》，此之三文，真

道之至精，一神之玉章，并是天真之禁诀也，高上之秘篇。兆守三一，得吾三经，即能乘云，上升太清，洞观无穷，游宴紫庭，微哉深矣！难可文宣。守一所生，三一见矣。既见三一，可求此经，当必授守三一之法，皇天上清，金阙帝君，真书之首篇，众真之妙诀。子而守一，一亦守子，子而见一，一亦见子。一须身而立，身须一而生，子身进退，千端万事，常当念一。饮食念一、喜乐念一、哀戚念一、疾病念一、危难念一、履水火念一、乘车马念一、有急念一、人之念一、举止瞩目念一亦多矣。思念必专，不专无冀矣。患人有志不固，固不能久；知一名字而不能守，守不能坚志，志不能苦。思念无极，多有訑心，不能常守，故三一去则正气离失，失正气者故气前，故气前死日近也。俗人学道，多寻浮华，不信真一为贵，初有其志，后必变败。由用志不一，邪气来入故也。守一之戒，戒于不专，专复不久，久不能精，精不能固，固而不常，则三一去矣，为空宅尔，空宅无主，其身安久矣。

太上告曰：气结为精，精感为神，神化为婴儿，婴儿上为真人，真人升为赤子，此一真之旨也。天有三玄，谓日、月、星也，亦为三精，是用长生；人有三宝，三丹田也，亦为三真，是用永存。《灵宝经》曰：“天精、地真，六宝常存，此之谓也。两眉间上，却入一寸为明堂、却入二寸为洞房、却入三寸为丹田泥丸宫。却入者，却就项后之背向也。丹田泥丸宫，正四方，面各一寸，紫气冲天，外映照九万里，北斗七星以魁为盖，以杓柄前指，外向也，变化大小，飞形恍惚，在意存之。上元赤子居中，在斗盖之下，赤子讳凝天，字元先，位为泥丸天帝君，其右有帝卿一人，坐相对，是齿舌脑之精神化而生也。上入为帝卿君，讳肇精，字玄生，此二人共治泥丸中，并著赤绣华衣，貌如婴孩始生之形。天帝君执上清神虎符，帝卿执《

大洞真经》，坐俱外向或相向也。内以镇守泥丸、面目、齿舌、两耳、鼻、发之境，外以振威六天万鬼凶恶魔也。三魂七魄五日一来，朝而受事焉。心为中丹田，号为绛宫，镇心之中央，正四方，面各一寸，朱烟参天，外映照三万里，变化恍惚，在意存之。中元真人居其中，讳神珠，字子丹，位为绛宫丹皇君，其右辅皇卿一人，是五脏精神之结化也。入绛宫为辅卿，讳光坚，字四灵，此二人共治绛宫中，并著朱锦衣，貌如婴儿始生之形。丹皇君左手把《太清经》，辅卿君执《大有妙经八景章》，坐俱外向或相向也。内则镇守筋骨、五脏、血肉之境，外以震折万邪之不祥，养炁安神，长生久视，飞仙太霄。三魂七魄三日一来，朝而受事焉。脐下三寸，号命门丹田宫，下元婴儿居其宫，四方各一寸，白气冲天，外映照七万里，变化大小，飞形恍惚，在意存之。下元婴儿，讳胎精，字元阳，位为黄庭元王，其右有宝镇弼卿一人，是津气津液之神，结炁升华也，入在丹田宫。弼卿讳归明，字谷玄，此二人共治丹田下元宫，并著黄绣罗衣，貌如婴孩始生之状。黄庭元王左手把太白星，右手执《玉晨金真经》，弼卿执《太上素灵经》、九庭生景符，坐俱向外或相向也。内以镇守四胎、津血、肠胃、膀胱之府，外以消灾散祸、辟却万邪。三魂七魄一日三来，朝而受拭于王矣。

守一之法，立春之日夜半之时，正坐东向，服气九过，咽液三十五过，毕，乃存北斗七星冉冉来下我顶上，却向天以杓柄正向，前指东也。存阴精，真人二星，亲泊头顶上，阳明、玄冥、二星，却在上也；阳明、阴精二星，在后面；玄冥、真人在前面。于是仿佛存念位定。又思三一之尊君，忽见变生，共出在斗魁之中；须臾，三卿君复坐如三尊，须臾，见六人俱登玄冥，纲行东去，达天关而止，俱向我口。又存见上元手扶

上卿；中元手扶中卿，下元手扶下卿也。我乃咽气一通，良久，上元二人从气中来，入我口，上升还泥丸宫。次咽气一通，良久，中元二人从气中来，入我口中，归绛宫；次咽气一通，良久，下元二人从气中来，入我口中，归绛宫。次咽气一通，良久，下元二人从气中来，入我口中，咽入下丹田中。存天关星，令去口七尺，星在口前，三元入我三宫中。都毕，乃精念真一，各安所在，坐卧思之在心，心有所愿，事事心启之。所求者，亦心启求之。存思唯令静寂，若寝室内，昼日亦可存思。

立春存三一，东向，如立冬精思；

立夏存三一，南向，如立春精思；

立秋存三一，西向，如立夏精思；

立冬存三一，北向，如立秋精思。

存思三一，各安其宫。毕，乃微祝曰：

五方命斗，神致七星，三尊凝化，上招紫灵，六神徘徊，三宫丹城，玄通大帝，下洞黄宁，天真保卫，召引六丁，神仙同浮，乘烟三清，四体坚炼，五脏自生。

## 卷五十一 秘要诀法部七

### 八道命籍

《八道命籍》，一名《八间》，一名《八达》，又名《八解缠绵释结谢罪延福妙经》。太素三元君受于自然之章，封于太上灵都紫房之内，金章玉华三百人侍卫典香，东海小童、四极真人、西城王君封于峨嵋之山西室之中，万劫一传。有玄名帝简紫、字青宫玉藏之人，千年之内听得三传。上学之子不得此文，虚困山林，终不得道。所谓八道者，日月四时八节所行也。日行赤道，月行黄道，黄赤二道，阴阳之所恒行。至于立春、春分日，日月行青道二；（出黄道东）立夏、夏至，日月行赤道二；（出黄道南）立秋、秋分，日月行白道二；（出黄道西）立冬、冬至，日月行黑道二，（出黄道北）此八道也。日月行八道之日，各有变化。翺飞蠕动，含炁之流，草木飞沉，随缘感应，改故易新，轻者或更重，重者或更轻，善恶回换，炁象之运，自然而然。上学真人，因变行化，习吉除凶，进善黜恶，申明弃暗，入正治邪，练伪成真，厉思登圣。其法高妙，兹道玄通，故曰八达，至极无穷矣。

一道命籍，立春清朝北望，有紫绿白云者是太上三元君三素飞云也。正存之，叩头搏颊各九，心礼四拜，再密咒曰：

曾孙名今日幸遇三元君出行，愿得长生，侍给轮轂。馀所言随人意也。某病乞差，某厄乞度，某灾乞消，某事乞果，三见云輦白日升仙，不须复存思千百所施为，行此必有仙录，是故谓之八道命籍也。

二道命籍，春分夜半子时东北望，有玄青黄云是太微天帝君三素云也，存思密咒皆如上法。

三道命籍，立夏清旦北望，有紫青黄云者是太极上真君三元内宫真人三素云也，存思密咒皆如上法。

四道命籍，夏至清旦南望，有赤白青云者是扶桑大帝君三素云也，存礼密咒皆如上法。

五道命籍，立秋清旦正西望，有白赤紫云者是太素真人天皇白帝君三素云也，存礼密咒皆如上法。

六道命籍，秋分清旦南望，有素赤黄云者是南极真人上皇赤帝三素云也，存礼密咒皆如上法。

七道命籍，立冬清旦西南望，有绿紫青云者是上清真人帝君皇祖三素云也，存礼密咒皆如上法。

八道命籍，冬至清旦正东望，有朱碧黄云者是太霄玉妃太虚上真人三素云也，存礼密咒皆如上法。

右八道命籍之日月未至一二日，先沐浴烧香以待至日，依时出望，一食顷还室，阴雨则不望。非其日忽见此云，礼咒如上三倍，胜于其日也。凡先身今身、前世今世，罪结不除，谩谢不的，原恕赊迟，功行难进，魔试不知，多致退落，衰老易至，求升难期，一去长夜，幽苦未央。上学之士，悟此惊心，誓志仰慕，感玄彻灵，能得命籍，的断罪根，解释恶结，滋长善源，群邪不敢干，得真必速。谛念密修，即有验矣。

## 八道秘言

闲心静室，寥朗虚真，逸想妙观，腾跃玄人。苟诚感上会，精悟辉晨，亦将得见丹景之炁，三素飞云，八舆朱辇，紫霞琼轮，上清净眇，徊轡三元，高皇秉节，灵童攀轡，太素拥盖，南极临轩。于是冥光外映，濛蔚龙颜，象烛太虚，流逸七观也。子能见之，则白日升晨，不烦凝霜濯华，玄映金丹也。

一道秘言曰：以八节日清朝北望，有紫绿白云者是为三元君三素飞云也，其时三元君乘八轮之輦，上诣天帝。子候见之，当再拜，自陈，乞得侍给轮轂之祝矣。三见元君辇者则白日升仙。

二道秘言曰：以八节日夜半东北望，有玄青黄云者是为太微天帝君三素云也，其时太微天帝君乘八景之輦，上诣高上玉皇也。四见天帝之輦者，则白日有龙輦见迎而升天也。

三道秘言曰：以甲子上旬戊辰、己巳之日清旦西北望，有紫青黄云者是为太极真君真人三素云也，其时太极真君太极真人乘玄景绿輦，上诣紫微宫。九见太极輦者，则白日升仙。

四道秘言曰：以甲戌上旬戊寅、己卯之日清旦东北望，有赤白青云者是为扶桑大帝君三素云也，其时扶桑公大帝君乘光明八道之辇，上诣太微宫。七见之者，则白日有云龙见迎而升天也。

五道秘言曰：以甲申上旬戊子、己丑之日清旦正西望，见白赤紫云者是为太素上真白帝君三素云也，其时太素上真人白帝君三素云也，其时太素上真人白帝君乘脩条玉辇，上诣玉天



玄皇高真也。十四过见之，则白日升仙。

六道秘言曰：以甲午上旬戊戌、己亥之日清旦正南望，有素赤黄云者是为南极上真赤帝君三素云也，是时南极上真赤帝君乘绛琳碧辇，上诣阊风台。十过见之，则白日升仙。

七道秘言曰：以甲辰上旬戊申、己酉之日清旦西南望，见绿紫青云者是为上真人三素云也，其时上真人乘玄景八光丹辇，上诣高上九天帝君。四见之者，则太一来迎，白日升仙。

八道秘言曰：以甲寅上旬戊午、己未之日清旦正东望，有朱碧黄云者是为太虚上真人三素云也，其时太虚上真人乘徘徊玉辇，上诣太微天帝君。十五见之者，则白日升仙。

右八道秘言，见者当再拜自陈如上法。三素云各自有色，色气上下相沓积，如所次说也。假令八节日见三元三素云者，则紫云在上，绿云次之，白云在下，共相沓也，子谨视之。上旬者，谓甲子之日初入月上十日之内有甲子日是也。非其时日而见此云者，亦当拜祝，则三倍于其日见也，他日效于甲子矣。行九真司八道之事者，则天人卫护，真皇守其命骨矣。夫非有仙名玉籍者，亦不能遇此经。见之者，皆玄书宿名，应为仙人，故也七百年内听得三传。施行此道者，勿令人犯其履屐，弄其巾褐也，七魄变成龙虎，守人地关，伏于履屐之下；三魂化成灵光之云，映其巾中。若有犯之者，则心震意惕，惕然自失，所以神亏魂散，精光翳滞也。常慎之侍书，有玉童玉女各七人，言白有经者之功过，摄万邪之不祥。若子视文，皆烧香于左右面也。传授之时，对斋四日，立誓委盟，为不漏不宣之约，须得其人，然后乃可付耳。违科负盟，七祖父母受拷于玄都地狱，身死下鬼，如四极明科。太虚真人南岳赤松子曰：此经或名《九素上书》，或名《太极中真玉文》，或名《八道金策》。按四极明科受书，皆立誓约盟不传泄，以代歃血割发之信验也。

其受九真太上真文<贝危>白素九十尺；其受八道秘言黄老隐法，<贝危>素丝八两；其受太上镇生五藏云腴之法，<贝危>金纵容珠二枚，以为闭密藏之誓。若有违盟泄露，如神州四极法。晋永和七年岁在辛亥十月四日丁巳夜，受刘君九真中经八道秘言，斋盟如法。

太上曲素五行秘符      太极左仙公撰

太上告后圣金阙帝君曰：元气分判，天地开张，阴阳贯位，三五成官，玄置六甲，化生五行，金木水火土，总御中元，以炁相生，混合成真。后学求仙，不知道源，徒劳存思，损疲形神，积涉无感，望道泯泯。夫欲寻本，当归其根，失根求生，万不得全。今欲抄集上皇玉文，出以相告，子择贤而传。其法宝秘，望不在言，可依明科承而奉焉。

太上五行秘文，与天地同生，混仙万真，总御神灵。天无五行，则三光不明；地无五行，则山崩岳倾；人无五行，则身朽零。故五行混合，相须而生，若有志心，当寻真名。既受其法，天地同根，呼魂招魄，保命役神，修之九年，克登上仙。夫受曲素诀辞，学上真之道，当知五行父母，真君内讳，存以招魂，召以制魄，魂魄长存，真神总归宫宅，备守形身，便得反于自知。若此，克遂游宴玉清，与炁合真矣。

凡修此道，当以甲乙之日入室烧香，东向存思甲父乙母二真之神。父讳青婴，冠九玄碧宝玄冠，衣翠羽章衣，手执青精保命秘符；母讳浩先，头作颓云之髻，著飞青锦裙，手执化生丹霞符。二人以玄符授我身，便叩齿九通，咒曰：

真君父母，化生二灵，三五反真，与元合冥，外摄游魂，内固魄精，长居宫宅，无离我形，长与三元，同保玉清。毕，服符。又叩齿九通，咽液三过止。修此九年，洞睹无穷，彻视远闻，逆知吉凶。

丙丁之日入室烧香，南向存思丙父丁母二真之神。父讳枢户，冠朱阳通天宝冠，衣绛章之衣，手执朱明保身长存秘符；母讳纳灵，头作飞云之髻，衣丹罗飞裙，手执中原黄精秘符。来授我身，便三呼二真内讳，咒曰：

阴阳变化，二景生真，玉灵反魂，拘魄镇神，三五混合，无离我身，得保日月，三景齐晨。毕，服符。又叩齿九通，咽液三过止。修此八年，真灵降见，云輦来迎。

戊己之日入室烧香，向西南存思戊父己母二真之神。父讳长御，冠黄华三宝玄冠，衣黄章单衣，手执中元度命秘符；母讳来生，头生二角颊云髻，著黄锦飞裙，手执金咒自然秘符，来授我身，便三呼二真内讳，咒曰：

中元玄纪，摄御四方，化生五炁，混合帝房，拘魂御魄，与形合同，长保天地，历劫无穷。服符毕，又叩齿九通，咽液三过。止修此十二年，彻见八方，身化金光，乘虚太空。

庚辛之日入室烧香，西向存思庚父辛母二真之神。父讳启明，冠九元碧宝玄冠，衣素羽衣，手执素灵召神保命秘符；母讳德神，头作飞云之髻，衣素锦飞裙，手执玄阴生形上化秘符。来授我身，便三呼二真内讳，咒曰：

金精玄注，结炁九灵，流真混合，灌养身形，使我魂魄，安镇黄宁。饥食三元，渴饮玉精，乘虚驾浮，游宴紫庭。仍服符毕，又叩齿九通，咽液三过止。修此六年，得驾景霄晨，出入紫房。

壬癸之日入室烧香，北向存思，壬父癸母二真之神。父讳

朔灵，冠玄晨之冠，衣皂纨单衣，手执通灵长命秘符；母讳法劳，头作颓云髻，衣玄锦飞裙，手执飞仙腾化秘符。来授我身，便三呼二真内讳，祝曰：

上有九元，化生阴阳，五行参差，金刚反强，三晨宝耀，冠我衣裳，五色流黄，天关开张，上升玉清，出入帝房。乃服符毕，又叩齿九通，咽炁九过止。修行五年，洞视无涯，逆知吉凶，乘虚驾浮，上升霄晨。

### 玉珮金铛（黄衣童附）

上灵元年正月一日，六元合庆，甲子直辰，元始天王与太帝君共乘碧霞流飏紫辇，上登九玄之崖无色之端，徘徊洞天，逍遥极元，流眄纵体，适意浮轮。有青鸟来翔，口衔紫书，集于玉轩。奉受记文曰：玉珮金铛，大极金书，玄真洞飞，二景宝经。二君以金青盟天，禀受上真。铸金为简，刻书灵文，使龟母按笔，太一拂筵，盛以云锦之囊，秘于郁森之笈，封以玉清三元之章，付仙都老公侍仙羽郎，藏太素瑶台玄云羽室。

玉珮者，九天魂精，九天之上名晨灯，一曰《太上隐玄洞飞宝章》，处于玉清之馆太霄之中，结青阳之炁，灵照九天，青光沌沌，洞照三元之台，色如青玉，形如月圆，内有空玄玉台紫殿，则魂精帝君处在中央。《太霄隐书》云：玉珮，玄台南轩之文。经曰：欲求长生，宜先取诸身。月华月精，日霞日精，左回玉珮，右把金铛，二景缠绵，双神安康，上行太极，下造十方，坚存玄真，宝固灵根，玄谷华婴，灌映沉珍，漱月咀日，以入天门。金铛仰注，玉珮执关，青白分明，适我泥丸，

宝液闭精，炼柔身形，三君备卫，丹绛之裙，珠绣华帔，飞锦青裙，带月衔日，首建紫冠，安坐明堂，阴以七元，黄庭戊己，塞镇邪源，恭司二子，无英、白元，桃康三老，当我生门，通彻五府十二之纶，吐纳六宫，魂魄欢欣。却此百痼，辟热除寒。二景缠络，万神内欢，有明其文，飞升南轩。把金铛玉珮，八景玄光，九天同灵，玄母齐房，阴哺阳导，明色鲜容，位刻丹室，名题帝宫，三周九度，与运混同。此玉珮宝文，太极玄真之经也。能修之者，皆飞行太虚，逸放九清，白简结录，东华书名。西王母令刻书此于昆仑之山玄圃之室，自非清虚之质，不得窥参。

夫欲腾九清、宴南轩，回玉珮于明堂，引金铛于泥丸，降魂真于晨灯，招飞景于帝君。凡行此道，常以暮卧，两手抚心，闭目在景，存玉珮青阳之气，光色沌沌，如月之圆，灵映兆身，洞达一形。魂精帝君姓开明，形长九寸，头建紫冠，披珠绣华披，衣飞锦青裙，带月衔日，乘御青鸟，在青光之中下降兆身，安镇泥丸。兆当叩齿九通，咽液二十七过，阴咒曰：

玄元太灵，九天魂精，晨灯朗映，结炁光青，号曰玉珮，洞耀太明，带月衔日，建符执铃，华光流焕，普天郁冥，乘空控翮，丹轸紫辔，先晏三元，回降我形，镇在泥丸，下流黄庭，检魂束魄，万鬼安宁，五藏结络，九穴华荣，八景腾飞，升入玉清。毕，以手相摩令热，拭目二七过，咽炁三过止，便卧。如此则魂安魄宁，万神镇宫，内固灵气，外塞邪源，八景变化，炼真变仙。行之九年，克能洞睹幽冥，逆究未然，坐在立亡，与神对颜；一十八年道成真降，飞行上清。学无此法，则三魂不守，七魄不宁，三尸飞翔，九虫奔惊，攻伐形内，来邪通精，神炁散游，体不洁清。徒劳咽液，损炁丧灵。有得此道，克成长生，宝慎密修，命胡可倾？

金铛者，九天魄灵，九天之上名曰虹映，一曰上清华盖阴景之内真，处上清之馆太霄之中，结白烟之炁，灵映九天，白光奕奕，洞观上清，色如白云，形如玉山。上有琼林之宫，则魄灵帝君所处。《太霄隐书》云：金铛之经，于玄台北轩之内。文曰：欲求飞仙，当炼魄灵。魄灵魂精，九天俱生，二景缠绵，双神洞明，右回金铛，左旋玉铃，流光紫虚，耀真上清，飞行太极，下造八冥，坚存玄真，保固华婴，日月交溉，玄谷益盈。玉珮金铛，青白分明，镇我明堂，魂安魄宁，是谓华盖。九天帝灵，紫绣珠帔，飞罗丹裙，带日衔月，首建华精，安坐明堂，阴以七星，上降陵梵，务猷、黄宁三老帝尊，固我长生，通彻胃管六府五庭，虹映缠络，万神卫形。有得其文，飞升上清。此金铛宝文，上清阴景之内真，能修之者，皆上步霄霞，遨游太极，寝宴九空，游行紫虚也。西王母令刻书此文于昆仑山积石之阴，自无玄图帝简、录字丹台，此文不可得而披也。夫欲腾景九霞之上，运身上清之中，回金铛于泥丸，引玉珮于明堂，降华盖于虹映，招飞景于帝君者，常以鸡鸣天光未分之时，叩齿二十四通，思金铛白云之气，光色奕奕如玉山，映灵兆身，洞达一形。魄灵帝君姓晖，讳鞬元，形长九寸，头建华冠，披紫绣珠帔，飞罗丹裙，带日衔月，乘白翮之鸾，在白光之中下降兆身，入明堂之中。便引炁二十四咽，阴咒曰：

九天魄灵，元始上真，虹映峨峨，白光玉山，号曰金铛，天帝之神。带日衔月，迅辔白鸾，上宴玉清，出入三元，回降我形，安镇灵关，拘魂御魄，万神自欢，五内生华，灵秀玉颜，策云飞行，上升帝晨。毕，摩两掌令热，拭额二七过，捻两目后二七过，咽液二七过止。此则金铛下映，帝君安镇，万神总归，身生光明，行之九年之内，飞行上清矣。

又当以月一日及甲子太岁本命之日，清斋入室，白书九天

魄灵太霄阴符于青纸上，夜半向东方，叩齿二十四通，诵金铛之经一遍，存金铛白气之光，当奕奕洞明如玉山，灵映兆身，洞匝一形。兆引白光二十四咽止，服太霄阴符，微咒曰：

玄阴七云，九天魄精，玉山奕奕，虹映上清，金铛玉珮，与天同生，二景缠绵，下降我形，列奏丹台，刻书紫名，得乘飞舆，流黄郁冥，飞空腾虚，升入洞庭，上享无极，与天齐灵。毕，摩两掌，拭额三九过，手接目外皆一七过，又咽气三七过止。

### 黄衣童

《华阳诸洞记》曰：黄衣童者，即玉珮金铛之官耳，凡坐上常有一人共坐昉晡者，即太极真人也，时或往来。盖受行玉珮金铛经者，自然致太极真人耳。晡云：“服九灵日月之华，得降我太极之家”，此之谓也。凡修太霄之道，存回金铛玉珮之法，当兼日月之精，以炼五胎之神，招日中五帝，月中五夫人，二景玄映，下降我形，使面有玉泽，体发奇光，内外洞朗，心聪目明，于是玉珮可挹，金铛可旋也。魂魄帝尊将憩子之房，晨灯虹映之光将可立升也。

### 流金火铃（振威大祝附）

流金火铃，以太上大道君游宴之圆光，上激九天之威，下

灭六天之凶，玄光灵映道君之项，流照八极四十万里，三天立正之初，罢除六天之始，以传太微天帝君神文，藏于琼宫玉房之内，灵光自明，焕赫上清，飞龙毒兽翼其侧，紫云玄晖盖其巅，玉华之女、金真之童各三百人典卫灵文，散香虚庭，积七千年化生五符，光彻八方，因有五方营卫之官。太微天帝君以传金阙后圣道君，后圣君以付上相青童君，使授诸为真人者，佩游上清。学真之夫，而无流金火铃项生圆光。皆不得上登三光。若有金骨玉质，玄名青宫，得受此文，佩之而行，诸天诸地、四海五岳，率天众圣仙官，莫不稽首来迎，净光骇动，所制不轻，三元立遣玉女玉童三十六人侍卫其身。佩之九年，得乘八景玉輦，飞行太空。流金火铃者，九星之精，一名圆光太上之威幸，生于九天之先，结气成文，光明焕赫，彻照十方，悬精垂映太上之项，积七千年化生五铃神符，玄降太微天帝君，威摄八极天之魔神，布之霞庭，率天以下莫不总统。太上大道君宝秘此道，告下普天主司真仙纠察轻泄。有真仙之才得佩此符。不依玄科而轻付非真，秽慢灵文，皆七祖受殃考，及先师同充鬼官。以紫绶二尺二寸，朱书戴之头上。若有金名玉骨，得佩此文，皆宿命应仙。佩符之身，出入游行，恒当存想己身项上有圆光，映照四十万里之外，九年之中动心念真，清斋笃志，克得真灵下降，圆光自明，乘空而行，坐在立亡。

### 五铃登空虚保仙上符（在本经）

流金火铃内存振威大祝

修佩流金火铃，出入远近，经履危险，冠病之中，庀害之



下，当存真光以自卫，开道万里之路，发行之始，正向其方，叩左齿二七通，咽炁三十六过，思所在之处形象，山林、草木、人民、禽兽、神灵，分明朗然，皆来朝拜我身；思北斗七星覆我头上，仍存我左目为奔星，右目为闪电，其光焕赫，奔星九万里外所见之道路随光开通，山林、草木、人民、屋宅、兵寇、鬼炁尽令消灭，无复子遗，四道豁然。因祝曰：

前开后闭，天平地昂，神公出游，四道开张。当令天地，通我桥梁，前后左右，洞达八方，我左掷奔星，右闪电光，流火万里，何妖敢当？太一将送，万神来迎，有所之向，靡不吉良。乘云驾虚，上升太空。毕，引二目之精，各还其宫，左取七炁，右取七炁，咽之，毕。如此可以冒险涉艰，攻鬼伐兵，炁无不应，应响荡然，其法至妙，不得妄传，口口相授而已，明慎之焉。

五帝流铃五符，威制极天之魔，召摄五方神灵，上应五晨参落七元，下应人身九孔七明，周天竟地，靡有不关，无幽不测，无细不鉴。有符则光见，掷符则振威。子若佩之，口受师言，若在人间遇恶鬼之地，当作振威大祝。北向闭炁十二息，思五方炁覆冠一身内外，睭冥睹无所见，因叩齿三十六通，咽五方炁，方各三咽，炁徐尽入兆身，存我两目童子，光如流星，焕落五方。便祝曰：

天元七精，五帝流铃，焕掷电光，如天奔星，光耀十方，照鬼真形，有何小妖，当我生门；太上有命，诛戮无亲，屠肝剖腹，绝鬼灭精。千千皆摧，万万皆倾。神威吐祝，摄录不停。便咽炁三十六过止。如此一祝，则五方神官皆保甲命，卒摄录所在有灵之炁，束缚诣庭。三祝，则鬼王灭种。若入五岳，周游山川，冒险履峻，皆当未及其处五步，叩左齿三十六通。若之东岳，便存东方青帝希林珠官属九千人，卫我前后左右，以

青霞之炁覆冠我身；若之南岳，当存赤帝丹玄子宫属八千人，卫我前后，以绛云之炁覆冠我身；若之西岳，当存西方白帝少皓灵官属六千人，卫我前后，以素霞之炁覆冠我身；若之北岳，当存黑帝玄冥皓官属五千人，卫我前后，以皂云之炁覆冠我身；若之中岳，当思黄帝执中元官属万二千人，卫我前后，以黄云之炁覆冠我身。毕，祝曰：

乾元耀灵，七星玄精，五斗华盖，绕络我形，五色飞霞，混合交并，身佩七元，流金火铃，焕掷无方，极天郁冥，五帝神官，驱策天兵，为我摄制，山川土地，千鬼万灵，皆来束首，自送真形，前诛后戮，所捕无停。毕。如此一祝，天魔灭迹，万鬼来朝，游行五岳，履涉山川，无复试观之患，五岳仙官自奉送五芝玉英来给予身。若在军寇之中，悬白之下、厄难之处，当叩右齿十二通，存七星覆我，玄光洞映，周匝一体，存肝为木星出在左，肺为太白星出在右，心为荧惑星出在前，肾为辰星出在后，脾为镇星出在胸，上令五星精炁，缠绕前后，我身居斗魁之中、五星之下。又思五帝神官卫我左右。祝曰：

天为我屋，地为我床，五岳山河，为我桥梁，玄斗元精，为我衣裳。藏身七元之内、流火之乡，度我者太一务猷，过我者白元无英，灾不能干，兵不能伤，当令我身上诣金阙九老之京。毕。如此在屈厄之中，垂终之命，便得解脱矣！

## 卷五十二 杂要图诀法部

### 九真行事诀

三月三日、五月五日，以东流水沐浴、烧香于左右。毕，向王气再拜，心祝曰：

太上高真，九灵之精，使某飞仙，登于紫庭，沐浴华池，身神澄清，精通太虚，五脏自生。

第一真法：平旦按手两膝上，闭气瞑目内视，存天精君著朱衣、巾丹冠，坐在心中，口出紫炁，以绕心外九重。因叩齿九通，咽液九过，祝曰：

天精大君来见心中，身披朱衣，头巾丹冠，左佩神符，右带虎文，口吐紫华，养心凝神，赤藏自生，得为飞仙。

第二真：辰时按手如法，存坚玉君著素衣、巾白冠，入坐诸骨中（恍惚兮形存之，无的所行也）口出白气，以绕骨九重。乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

坚玉大君来入骨中，身披素衣，头巾白冠，左佩龙书，右带金真，口吐白气，固骨凝筋，白骨不朽，筋亦不泯，百节生华，使我飞仙。

第三真：巳时按手如法，存元生君著黄衣、巾紫冠，周旋血脉，津液之中，口吐黄气，缠薰孔脉之外九重。乃叩齿九通，

咽液九过，祝曰：

元生大君周灌血枢，身披黄衣，头巾紫芙，左佩虎篆，右带龙书，口吐黄津，固血填虚，精盈液溢，九灵俱居，使我飞仙，天地同符。

第四真：午时按手如法，存青明君著青衣、巾翠冠，坐肝内，口吐青气，绕肝九重。乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

青明大君，来入我肝，身披青衣，头巾翠冠，左佩虎章，右带龙文，口吐青气，养肝导神，青藏自生，上为天仙，太一护精，抱魄捡魂。

第五真：未时按手如法，存养光君著绿衣、巾莲冠，坐脾中，口吐绿气，绕脾九重。乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

养光大神来入脾中，身披绿衣，头巾莲冠，左佩玉铃，右带威神，口吐绿华，养脾灌魂，薰藏自生，上为真人。”

第六真：申时按手如法，存白元君著龙衣、巾黄晨华冠，坐肺中，口吐五色气，绕肺九重，乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

白元大君，来坐肺中，身披龙衣，黄晨华冠，左佩玄书，右带虎文，口吐五气，理肺和津。白藏自生，飞仙紫门。

第七真：酉时按手如法，存玄阳君著紫衣、巾芙蓉冠，化形并入两肾中，口吐苍气，绕肾九重。乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

玄阳大君入坐肾中，身披紫衣，头巾芙晨，左佩龙符，右带凤文，口吐苍华，灌肾灵根，黑藏自生，身为飞仙，北登玄阙，游行大关。

第八真：戌亥时按手如法，存含景君著锦衣，巾紫冠，坐胆中，口吐五色气，绕胆九重，乃叩齿九通，咽液九过，祝曰：

含景大神来坐胆中，身披锦衣，头戴紫冠，左佩神光，右带玉真，口吐五气，养胆强魂，和精实血，理液固身，使我上升，得为飞仙。

第九真：子时按手如法，存无英君著龙凤衣、巾紫华冠，坐洞房中，口吐紫色气，绕头九重，又吐紫气，绕两目内外九重，又吐紫气，绕舌九重，又吐紫气，绕齿九重。（凡四过，炁各各绕合）乃叩齿三十六通，咽液三十六过，祝曰：

天昌祖君、帝皇元神，镇守紫房，宫在泥丸，黄阙金室，混为九真，龙衣凤帔，紫华青缘，手把黄符，头巾华冠，左佩金瑛，右带虎文，下坐日月，口吐紫烟，周气齿舌，朝溉眼辰，出丹入灵，呼魄召魂，凝精坚胎，六合长欢，上登太微，列补仙官。

凡行九真之道四十年，五脏自生，上登上清。若长静山林，可日日行之也。

### 升玄行事诀

一日、三日、五日禺中，若夜半入室，北向正坐，按手定气，临目存北斗九星（星紫色，纲赤色，形大小随意）忽来入头泥丸中，偃魁向上，杓指前，魁中有鬼神，名奇剑字灵纲，著紫羽帔丹锦裳，巾芙蓉冠，手把流铃，坐向外。良久乃咽液五十过，叩齿九通，以左手第三指捻两眉中央，微祝曰：

太上紫晖九通之尊，华盖七落，回曜万晨，动御高灵，静和景云，阴阳流灌，三气中分，游济无外，焕朗众天，令月启辰，来登泥丸，元精结感，化为大神，名曰奇剑，厥字灵纲，

正坐斗中，游我明堂，凤羽紫帔，虎锦丹裳，左带玉佩，右腰金铛，手把流铃，头巾神光，吐气溉精，泥丸以康，魂魄凝和，植华柱梁，使我飞仙，超虚蹑空，上造上清，策虎命龙，北朝玉帝琼林上官，西谒太素。更按手，咽液三十过，叩齿九通，又祝，乃起，北向再拜，次西向，再拜。

七日、九日、十三日禺中，若夜半入室，北向正坐，按手定气，临目存北斗七星，来下入心绛宫中，魁在下向外，杓指上，魁中有神名旋度，字素康，著绛羽帔，龙带虎裳，巾芙蓉冠，项有圆光，坐向外。良久乃咽液五十过，叩齿九通，以右手第二指微捻，心祝曰：

太上紫真九气中灵，包括万度，璇玑焕明，飞霞流曜，晖烛玉清，玄盖众辰，阴阳判成，四和交降，七纬顺生，肇月吉辰，来映心庭，飞光落景，中元充盈，六府启开，华液混平，魂魄制炼，得真之精，感至触变，亿化立成。忽见大神，正坐安房，整气朝津，百节开通，攀斗据魁，眇邈百方，其名旋度，厥字素康，绛羽华帔，龙带虎裳，身充宝曜，项负圆光，首巾飞晨芙蓉冠低昂，使我飞仙，超浮太空，上造紫阙，北朝玉皇，役使万神，众灵奉迎，心上生华，庆云永昌，凤箫冷冷，鸾吹锵锵。更按手，咽液三十过，叩齿九通，又祝，乃起，南面再拜。

十五日、十九日、二十三日禺中，若夜半入室，北向正坐，按手定气，临目，存北斗九星，来入脐下丹田中，魁在下向外，杓指上，魁中有神名抗萌，字流郁，著黄羽帽，龙衣虎带，巾绿芜冠，坐向外。良久乃咽液六十过，叩齿九通，以左手第三指捻鼻人中，祝曰：

太上紫皇，焕朗中枢，九玮炳霭，光透太霞，万灵仰镇，千神植牙，七度用明，九烟芬葩，制阳表顺，执阴以和，其晖

启阵，玄根物罗，肇月惟吉，观映脐内，紫气发霄，飞光纵坠，炼我魂魄，华精萦蔚。忽见大神，上宫灵贵，名曰抗萌，厥字流郁。正坐脐中，乘斗九气，吐纳云液，平血理胃，黄凤羽帔，龙衣虎带，手启日根，头巾绿芙，腰流火铃，焕电映无，使我飞仙，超空蹶浮，上造玉房，携带霄虚，役使万神，天地同休。更按手，咽液三十过，叩齿九通，又祝，乃起，向本命再拜。

八节日，夜半入室，北向正坐，按手定气，闭目内视，存身冉冉起上，飞升斗魁中（思念良久，如觉我身已在斗魁中也）。又存向三神名字服色貌如婴儿，并与我同坐，我心拜之。又存斗中玉妃，名密华，字璘蓓，披锦帔，凤光鸾裙，巾紫芙蓉冠，在我前坐，口吐紫烟，入我心中。良久咽液八十过，叩齿九通，左手抚心，微祝曰：

太上丹灵，玄光飚焕，九绛启璇，晖气澄散，晨幽朗烛，七曜蔚灿，二景奏明，阴阳以判，四度用昌，云津回灌，八节气启，上升九元，据斗攀纲，奉见三晨，问我稽留，何不升仙？我即稽首，畏思已前，帝乃赫庄，口衔日根，左破六天，右蹙酆山，流铃上焕，万魔碎分。遂和我魄，强我三魂，藏斗内曜，九精在心，紫霞洞映，飞光万寻。和魄制魂，六胎调炼，感精变跃，玉妃忽见，坐当我心，俯视仰眄，其名密华，厥字璘蓓，吐纳朱气，和平百关，身服锦帔，凤光鸾裙，腰带虎录，龙章玉文，手执月华，头巾紫冠，腾跃太霄，驾景盖天，书名太素，我得飞仙，超浮崆峒，乘琼太元，上造朱房，役使万神，纪均二度，遂返婴颜，北帝溉电，南帝火陈，东苍启烛，赫赫雷震，西流双杼，鸣音唱钧，四举超跃，荐我玉真，遂乘八景，遨宴九烟。”更按手，咽液三十过，叩齿九通，更祝，乃起，向西北再拜毕（行此九真升玄存九皇之道一十四年，超浮虚无，上登上清）。若长静山林，可日日行之。

### 方诸洞房行事诀

暮卧，平枕偃卧，小举左手，垂右手，正心，阴祝曰：

第一太星精，名玄枢，愿某飞仙，乘虚驾浮（存下一室，著左足前小远安之）。

第二元星精，名北胎，愿某飞仙，游行洞台（次下，著左手前把之）。

第三真星精，名极上真，愿某飞仙，得治三玄（次下，当头下）。

第四纽星精，名璇根，愿某飞仙，列为玉名（次下，著右手前执之，令成魁形）。

第五纲星精，名天平，愿某飞仙，登行上清（次纽星右）。

第六纪星精，名命机，愿某飞仙，名书太微（次纲星右）。

第七关星精，名玄阳，愿某飞仙，得使玉童（次纪星右）。

第八帝星精，名高上玉皇，愿某飞仙，登后圣之堂（次下还魁中，当右足前，纲连纽星）。

第九尊星精，名太微帝君，愿某飞仙，得入丹瑶玉房（次下，当左足前，太星内纲连帝星）。九祝毕，更分明审，存如斗形（令一五七、二四六皆相应也），安卧其中，乃叩齿三七通，阴祝曰：

九星太精，北极真君，益我精胎，强我三魂，左引日华，右拘月精。辰中黄景，元虚黄真，使我飞仙，上登紫烟。神气玉符，当守生门，万邪伏法，受形斗君。

又存斗星，分精别为小斗形，从斗户入洞房中，杓左右，



魁中有黄老君魂，衣黄华绣衣，坐在中央，己魂如己服色坐在右，相对赤子衣赤绣华衣坐在左（黄赤子并如婴儿之色）。使斗星精光照彻，五内百节皆令赤光赫然。祝曰：

洞房元精，赤子太尊，斗光华盖，来照泥丸，宝炼骨血，制魄拘魂，使某飞仙，乘云登晨，上朝玉帝太上元君。

若月旦存之者，当兼思北辰六星，起真纽星间右列；又思华盖二十二星，以十一星为纲连，真星右列，小曲；起以十一星为盖，前近关星，曲阴后对纲星。旦欲起，先叩齿二七通，咽液二七过，阴祝曰：

天元上一斗中七童，上清紫精，在兆身中，华衣紫盖，太素玄宫，后圣灵气，下入洞房，使我飞仙，行太极金堂。

凡行洞房道七年，除死籍，上生名，刻方诸府；十八年，九精来下，云车见迎，白日登晨。常以月三日、二十七日夜，窃候北斗魁中第八帝星高上玉皇神、八景灵元君，第九尊星太微玉帝君神、太素七晨元君，此星紫光焕焕，甚大见者。各随见之名呼之，再拜，叩头请乞（见一星增年三百，见二星增年六百）。慎勿传之，道之所秘也。

### 五神行事诀

鸡鸣时，向东平坐，临目，存青炁从日中来，忽入头泥丸中。泥丸中有两青烟，复各从目中出，变成二童子如婴儿，上下青衣，左目名飞灵在我左，右目名晨婴在我右，各吐青炁灌绕我身，洞彻内外。极念良久，叩齿九通，咽液九过，微祝曰：

东方上灵，日炁焕青，旦入泥丸，炼脑保形，左变右化，得道之名，使我上朝太素紫清。

午时向日平坐，临目，握固，存日中有两赤气来，各入手掩中，变成赤童如婴儿，上下赤衣，左手名按生在我左手中，右手名方盈在我右手中，各吐赤炁灌入我口中。极念良久，叩齿咽液各九过，微祝曰：

太阳正真，赤云运烟，玉灵化生，与我相亲，按生方盈，日中之神，理仙护形，延命亿千，举体合景，升为高仙。

晡时向日平坐，临目，存日中有两白气来，入两足蹠心中，变成二白龙，一名飚精在我左，二名欬亭在我右，各吐白烟，入我两鼻孔中，遥达腴。腴中有一童子如婴儿，上下白衣，名素明子，从鼻孔中出，在我右立，口吐白烟，郁我面上。极念良久，叩齿咽液各七过，微祝曰：

玉皇飚欬，二龙降晨，入我两足，化生一身，素明童子，左回右旋，和摄真气，养育五神，负我上奔太素宝仙。

## 二十四神行事诀

平旦平坐，闭目内视，握固两膝上，叩齿二十四通，存乎脑神觉元子，字道都（形长一寸一分，白衣），发神玄文华，字道衡（长二寸一分，玄衣），皮肤神通众仲，字道连（长一寸一分，黄衣）目神监生，字道童（长三寸五分，青衣），项神灵谟盖，字道周（长五寸，白衣），臂神冲益历辅，字道柱（长三寸五分，白玉素衣），鼻神冲龙玉，字道微（长二寸五分，青黄白色衣），耳神名梁峙，字道岐（长七寸，衣赤衣）凡五

过，存呼各安其所，乃叩齿八通，咽液八过，微祝曰：

上景八神，一合入身，举形遁化，流变适真，千乘万骑，俱升帝晨，八灵翼体，玉华卫身，恍惚十周，迺造日门。又存呼神三过止。

次存呼喉神百流放，字道通（长八寸，九色衣），肺神素灵生，字道平（长八寸一分，白衣），心神焕阳昌，字道明（长九寸，赤衣），肝神开君童、字道清（长六寸，青衣），胆神龙德拘，字道放，（长二寸六分，青黄绿衣），左肾神春元直，字道卿（长三寸七分，玄白色衣，五色无常），右肾神象他无，字道玉（长三寸五分，衣白或黑衣）脾神名宝元全，字道騫（形长七寸三分，色正黄），凡三过，各安其所。乃叩齿九通，咽液八过。微祝曰：

中景八神，九变九飞，炼魂正身，明景同晖，得与八神合辇齐威，千乘万骑，上登太微。又存呼神三过止。

次存呼胃神同来育，字道展（长七寸，衣黄衣），穷肠中神兆滕康，字道还（长二寸四分，黄赤衣），大小肠中神蓬送留，字道厨（长二寸一分，衣黄衣），胴中神受厚勃，字道虚（长七寸一分，九色衣），胸膈神广英宅，字道仲（长五寸，衣白衣），两胁神臂假马，字道成（长四寸一分，赤白衣。），阴左卵神扶流起，字道圭（长二寸三分，青黄白衣），阴右卵神苞表明，字道生（长二寸三分，青黄白衣），凡三过，各安其所。乃叩齿八通，咽液八过，微祝曰：

下景八神，散景化灵，紫烟郁生，含元守精，魂魄以安，真气以宁，千乘万骑，与我同并，先造太素，北揖上清。又存呼神三过止。

次存呼道一内神遁无马，字道极生（长二寸三分，紫色衣）。凡三过，令安坐心中，乃叩齿三十通，咽液二十四过，微祝

曰：

玄上内真 - 养形侍晨，总纽摄纲，九度八旋，出液内精，和灌众神，五脏生华，返老童颜，千乘万骑，与我升天，上朝太阶，高揖玉神。又存呼神三过止。

日中、夜半，亦更存如上法（若人多事难专者，日中可存中景，夜半存下景，亦佳也）。夜半存者，当去枕、平卧、握固、放体而存之。若月一日、六日、十一日、十六日、二十一日、二十六日夜半，存神讫，又存两目中，有白气如鸡子在目前，须臾变成两明镜，径九寸，以前后照我一体，并上二十四神，洞鉴分明。良久，心祝曰：

大明宝镜，分形散化，鉴朗元神，制御万魔，飞行上清，帔云巾罗，役使千灵，封山召河（毕，可以开眼也）。

常以庚午日日中，取清水一斗，真丹一铢，投水中，向月建左行三七过，搅之，祝曰：

玄流朱精，生光八明，身神众列，并来见形，彻视万里，中达九灵。东向洗目二七过，久行之，得见二十四神（行五神、二十四神法十八年，千乘万骑来迎召，上造紫清）。

## 五辰行事诀

夜半清静，坐卧任意，临目，视存太白星在玉珰紫阙（在眉上一寸，直入一寸，阳日在左，阴日在右），次存辰星在天中帝卿玄宫，（在眉间直上，来至发际五分，直入一寸），次存荧惑星在玉门华房（在目内眦际五分，直入五分，阳日在左，阴日在右），次存岁星在洞阙朱台（在目后一寸，直入一寸，

阳日在左，阴日在右），次存镇星在金匱黄室长谷。（在鼻人中中央，直入二分，星缀悬于上），良久，令五星出光芒，五色烟薰绕一身，洞彻内外（五色各随其星之色）。乃叩齿五通，咽液二十五过，微祝曰：

高元紫阙，中有五神，宝曜敷晖，放光衡门，精化积生，变为老人，首巾紫容，绿帔绛裙，右带流铃，左佩虎真，手把天纲，散绛飞晨，足蹑华盖，吐芒练身，三景保守，令我得真，养魂制魄，乘飚飞仙。咽液三过，叩齿三通（若别有所愿，于祝后续言之）。

凡此五处，各方一寸，星如弹丸居中，照洞面体。鸡鸣时，存日月象在六合府中，日在左，月在右，光明洞形（此在两目上角，小仰高空中接之，叩齿闻有四动在其中是也，直入一寸方九分）。叩齿七通，咽液九过，祝曰：

大明灵神，九度郁青，招霞藏晖，灌练五形，宫驾六合，七神调平，使我飞仙，登行上清。

右一条，南极夫人受于太上高真，名双景，翼形隐道（行此五辰双景法十五年，五方老人俱下来迎，俱升紫庭）。

右五辰二十四神事，凡五诀。

### 回元行事诀

丁卯日夜半，于寝床平坐北向，按手，临目，叩齿七通，乃仰存七星，焕明北方。良久，微祝曰：

第一太星，玄枢阳明天枢魂神上玄君（七过）。愿得除某七世以来下逮某身阳罪阴过，皆令消除，所向如愿，万事合心，

飞步七星，与天相倾，名刊斗晨，延纪亿千。

存阳明星，从斗飞入口，光芒回散，径在心中，内外光彻（当存觉七星缺阳明星，馀故悬于天地效也）。

丁丑日夜半（如上法），微祝曰：

第二元星，北极阴精天旋魂神上玉君（七过），愿得除某七世以来下逮某身，阴罪阳过，皆令消除，六气盈满，四神用虚，飞行七元，名刊玉书，上登紫清，乘玄驾无，出入利正，与天同符。

存阴精星，从斗来飞入口，径在肺中，鉴洞内外。

丁亥日夜半（如上法），微祝曰：

第三真星，北极上真人天机魄精上素君（七过），愿得除某七祖以来下逮某身生罪死过，积恶私匿、犯违天地三官者，皆得消灭，目明彻视，鉴洞幽无，飞行七元，名书上清，役使万神，上登玉庭，驾景乘空，与天相倾。

存真人星，来飞入口，径在肝中，乃北向再拜，咽液九过（亦可心拜）。

丁酉日夜半（如上法），微祝曰：

第四纽星，璇根玄冥，天权魄精上虚君（七过），愿得除某七世以来下逮某身，无恩无德、不仁不孝、阴恶之罪数千万计，皆令消灭，服食纳精，日以进益，飞登七元，录刊太玄，上列玉皇，乘欸九天，役使神灵，日月同新。

存玄冥星，飞来入口，径在脾中。咽液二七过。

丁未日夜半（如上法），微祝曰：

第五纲星，天平丹元玉衡魄灵上君玄皇（七过），愿得除某七世以来下逮某身内外秽罪、表里沈过数千万亿、记在幽关者，皆令消除，当令体充气盈，黄镇胃庭中，上刻太素景紫宫，右侍玉女，左侍玉童，日月同晖，位为真王。存丹元星，来飞

入口，径在胃中。咽液二九过。

丁巳日夜半（如上法），微祝曰：

第六纪星，命机北极闾阳魂灵上丹皇虚君（七过），愿得除某七世以来下逮某身所犯所行贼恶罪过，奸逆乱妄，列记帝宫，皆令消灭，百病康愈，体气利正，名书仙台，刻金上清，役使万神，飞行大明。

存北极星，来飞入口，径在肾中（阳日在左肾，阴日在右肾）。咽液二七过。

月晦日夜半后，未鸡鸣，于寝床东向，平坐按手，叩齿七通，仰存七星，焕明于北方。良久，微祝曰：

第七关星，玄阳天关瑶光太明上皇道君（七过），愿得除某七世以来暗昧匿罪，五罪五形身中之神数千万亿，纪在北帝鬼官者，皆令消灭，当令其神精八达，坐在立亡，耳听绝音，目生紫光，刊玉太素，洞览鬼形，名书帝轩，命均二明，飞行七元，寝宴紫庭。

存天关星，来飞入目瞳中（阳日在左，阴日在右），通映两眼，内外自照，存见五藏分明。

六甲夜半于寝床坐卧，首向任意，握固闭气定神。良久，叩齿九通，存北斗九星，焕明于顶上，令光芒相映，祝曰：

第八帝星，高上玉皇神八景灵元君，第九尊星太微玉帝君神太素七神元君（九过），愿得除某九世祖父母以来下逮某身诸丘山水源大小罪过、名上死籍者，阴匿贼恶、伏奸藏欺事有亿万，列在鬼帝酆山上死罪条列之愆，记在北上九元太极真人黑簿者，乞九天元太上帝尊王玄君皆令罪事消除，飞行七道，上登玉清，洞游太无，乘景晨生，北宴八素，与日相倾，总朝真妃，摄御万灵。

存帝尊二星，来飞入泥丸中，洞照五脏，内外通生紫光。

咽液三九过（若六甲、六丁日，与月晦日同者，重行之）。  
右回元事凡八诀。

### 五帝杂修行乘龙图

五脏神名：

肝东方青，其人姓为姜氏，字君明，衣青衣。

心南方赤，其人姓为张氏，字巨明，衣赤衣。

肺西方白，其人姓为文氏，字元明，衣白衣。

肾北方黑，其人姓为玄氏，字子真，衣黑衣。

脾为中央戊己土黄，其人姓为己氏，字元己，衣黄衣。知吾者生，不知吾者死（知五脏神名字，与天地适等。晨暮有常呼之，与言语，有痛处，自令其神治之，即差也。不与相知、不与言语，则死矣。出黄书西方兵法）。

肝神名为青龙，字夔龙子方。

心神名为豪丘，字陵阳子明。

肺神名为方长宜，字子元。

肾神名为双以，字林子。

脾神名为黄庭，字飞黄子。

肝痛，思东方青帝君治之。不差，思身中所出将军悉治之。

心痛，思南方赤帝君治之。

肺痛，思西方白帝君治之。

肾痛，思北方黑帝君治之。

脾痛，思中央黄帝君治之。

东方甲乙者，木气，起于肝，其气青。中有神人，姓为姜



氏，字君明，衣羽衣，戴绣冠帻。

南方丙丁者，火气，起于心，其气赤。中有神人，姓为张氏，字巨明，衣绛衣，戴绣冠帻，带龙头纽模铍刃，常治太清之中，腰带紫绶，能与天皇语。

西方庚辛者，金气，起于肺，其气白。中有神人，姓为文氏，字元明，衣白衣，戴绣冠帻。

北方壬癸者，水气，起于肾，其气黑。中有神人，姓为玄氏，字子真，衣黑衣，戴绣冠帻。

中央戊己者，土气，起于脾，其气黄。中有神人，姓为己氏，字元己，衣黄衣，戴绣冠帻。

胆为长命宫，中有神人姓为吴氏，字元仙，衣黄衣，持北斗。此五内之神四面供养之，拘魂录魄，来附小臣某甲身。

右此五脏神，先当静思之，次以上静文，吏兵守宅次之。

## 卷五十三 杂秘要诀法部

### 太上隐书八景飞经八法（并序）

九天丈人受太空灵都金真玉光，元始天王名之《八景飞经》，广生太素名之《八素上经》，青真小童名之《豁落七元》，九天太上大道君名曰《素书玉诀金章》，同出于九玄之先。目其上篇，而四时名焉，其道高妙，众经之尊。凡行此道，不得冒殄入秽，触死生之污，犯此之禁，真灵高逝，返止上宫，施召不至，返误兆身。子得此法，慎此为先。法曰：

立春之日，三素元君上诣天皇大帝游宴之时，元景行道受仙之日也。兆修《金真玉光八景飞经》之法，当以其日沐浴、斋戒，清朝入室，烧香行礼，施按招灵，致其摄魔之符，置于四方，兆于中央东北向，叩齿十二通，仰思紫绿白三色之云东北而回，便心念微言：三素元君，乞回神驾，下降我身，右列我名，赐我神仙。毕，还思东方青微上府始阳宫中元景司空司录道君，姓葛，讳太兕猷，形长七寸八分，身著玄黄之绶，头冠七色曜天玉冠，足蹑五色之履，手执威神之策，乘八舆之轮、飞龟玄云之车，骖驾青龙，从太和仙童二十三人，下治兆身泥丸宫中，乃微祝曰：

元景大神，玄道回精，上节告始，万炁混生，九微上化，

回降我形，保固元宫，监总帝灵，招真制魔，我道威明，上致太和，玉芝充盈，通神彻视，洞睹三清，得乘飞景，俱升帝庭。毕，仰咽八炁止。此元景之道，行之八年，则三素之云八舆飞轮迎兆之身，上升帝晨。所谓八道元景招灵秘言，不传非仙之士。

春分之日，太微天帝君上诣高上玉皇游宴之时，始景行道受仙之日也。至其日，如上法，夜半东向，叩齿九通，仰思玄青黄三色之云东北而回，便心念微言：太微天帝君，乞回神驾，下降我身，上我帝简，赐我神仙。毕，还思东方青阳上府玄微宫中始景老子大道君，姓某，讳幽宛，形长九寸，身著紫青之绶，头戴九色通天宝冠，足躡九色之履，手执命神之章，从太阳仙童三十六人，乘八景之舆、青云之车，骖驾苍龙，下治兆身明堂宫中。乃微祝曰：

始景上元，招灵致真，承气命节，法典帝先，回精玄盖，上宴玉晨，回灵下降，镇固我身，保精炼气，五华结鲜，紫气流映，洞得御神，骖乘飞景，上宴琼轩。毕，仰咽九炁止。此始景之道，行之八年，则玄景飞轮来迎兆身，上升太清。八道始景秘言，勿传非仙之人。

立夏之日，太极上真三元真人上诣紫微宫游宴之时，玄景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦东南向，叩齿九通，仰思紫青黄三色之云西北回，便心念微言：太极上真三元真人，乞回神驾，下降我房，书我玉名，使我神仙。毕，还思东南少阳上府太微宫玄景玉光无极道君，姓王，讳无英，形长八寸八分，身著丹锦之绶，头戴无极进贤玉冠，足躡九色之履，手执招灵之章，乘玄景绿舆、五色云车，骖驾凤凰，从灵飞仙童三十九人，下治兆身洞房宫中。乃微祝曰：

玄景上灵，骖宴八气，造宴九玄，翱翔无外，回真下降，

解我宿滞，荫以飞云，覆以紫盖，得乘八景，上升霄际。毕，仰咽八气止。此玄景之道，行之八年，则紫青黄三色之云玄景绿舆来迎兆身，上升太清。玄景八道秘言，勿传非仙之人。

夏至之日，扶桑公太帝君上诣太微宫游宴之时，灵景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦南向，叩齿八通，仰思赤白青三色之云东南而回。便心念微言：扶桑大帝君，乞回神光，下降兆身，记名东华，得乘飞烟。毕，还南向思太阳上府紫微宫中灵景太尉元先道君，姓玄，讳伯史，形长八寸八分，身著绛锦丹绶，头戴平天耀精玉冠，足躡九色之履，手执制魔之章，乘光明八道之舆、赤云气之车，骖驾凤凰，从丹灵上宫玉童三十六人，下治兆身中元丹田宫中。乃微祝曰：

灵景启灵，乘气旋回，迅驾八道，光明吐威，下降我房，映我丹辉，摄魔御神，万灵悉摧，使我洞幽，与景齐飞。毕，仰咽八气止。此灵景之道，行之八年，则致光明八道之舆来迎兆身，上升太清。灵景八道秘言，勿传非仙之人。

立秋之日，太素上真，白帝君上诣玉天玄皇高真，游宴之时，元景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦西南向，叩齿十二通，仰思赤白紫三色之云正西而回，便心念微言：太素真人，乞回神光，下降我身，奏名玉天，得为真人。毕，思西南少阴上府灵微阳宫之中元景太淡天道君，姓黄，讳运珠，形长七寸八分，著玄黄素绶，头戴七宝进贤之冠，足躡九色之履，手执命神之策，乘脩条玉辇、五彩朱盖紫云之车，骖驾六龙，从黄素上宫仙童二十四人，下治兆身丹田宫中。乃微祝曰：

元景上真，八道玄景，上治黄母，下治兆身，徘徊神辇，流映紫清，历运御气，三元焕明，制神摄魔，我道洞精，长保上景，飞仙长生。毕，仰咽七气止。此元景之道，行之八年，则致脩条玉辇来迎兆身，上升太清。元景八道秘言，勿传非仙

之人。

秋分之日，南极上真赤帝君上诣阊风台九灵夫人游宴之时，明景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦西向，叩齿十二通，仰思青黄赤三色之云西南而回，便心念微言：南极上真上皇赤帝君，乞回神光，下眄我房，赐书玉简，上奏九灵，得乘飞景，升入无形。毕，思正西太阴上府精思允宫中明晨太和道君，姓浩，讳仁义，形长六寸八分，身著白文素灵之绶，头戴无极玉宝天冠，足蹠九色之履，手执度命保生玉章，乘绛琳碧辇、白云之车，骖驾白虎，从素灵上宫玉童二十四人，下治兆身华盖宫中。乃微祝曰：

明景道宗，总统九天，匡络紫霄，迅御八烟，回停玉辇，下降兆身，启以光明，授以金真，豁落招灵，身无稽延，得乘飞景，上宴霄晨。毕，仰咽七气止。此明景之道，行之八年，则致绛琳碧辇来迎兆身，上升太清。明景八道秘言，勿传非仙之人。

立冬之日，上真人帝君皇祖上诣高上九天玉帝子游宴之时，洞景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦西北向，叩齿九通，仰思绿紫青三色之云西南而回，便心念微言：上真人帝君皇祖，乞回神驾，下降兆房，赐书玉名，上奏上清，得乘飞景，升入无形。毕，思西北阴晖上府清微宫中洞景司录太阳道君，姓某，讳元辅，形长五寸八分，身著玄黄之绶，头戴九玄飞景玉冠，足蹠五色之履，手执摄杀之律，乘玄景八光丹辇、紫云之车，骖驾玄武，从太玄仙童二十四人，下治兆身仓命宫中。乃微祝曰：

洞景帝尊，玄灵阴神，乘霞御龙，骖驾飞烟，上游玉清，下治太玄，回降紫辇，来入我身，得乘八景，位同真人。毕，仰咽五气止。此洞景之道，行之八年，则致玄景八光丹辇下迎

兆身，上升太清。洞景八道秘言，勿传非仙之士。

冬至之日，太霄玉妃太灵上真人诣太皇宫太微天帝君，游宴之时，清景行道受仙之日也。至其日，如上法，清旦正北向，叩齿十二通，仰思朱碧黄三色之云东北而回，便心念微言：太霄玉妃、太灵真人，乞回神驾，下降我房，赐书玉名，奏上太霄，得为真人，游宴上宫。毕，思北方阴精上府道微宫中谏议玄和道君，姓王，讳阴精，形长五寸八分，身著玄云五色之绶，头戴玄晨宝冠，足蹠五色师子之履，手执招灵之策，乘徘徊玉辇、锦云珠玉之车，骖驾玄凤黑翮，从太玄上宫仙童二十六人，下治兆身玄谷宫中。乃微祝曰：

清景素真，元始洞灵，受化九元，含气朱婴，徘徊玉辇，逍遥紫清，转轮八节，纬度天经，削我死录，保命南生，得乘飞景，接轡绿輶。毕，仰咽五气止。此清景之道，行之八年，致徘徊玉辇下迎兆身，上升太清。清景八道秘言，勿传非仙之人。

行《八景飞经八道秘诀》，上皇玉帝告命诸天，十方众圣、五岳灵仙敬护兆身，降致玄舆飞辇，得与真人同升上清。真皇守兆之命，太一防兆之身，出入游行，无有凶横之祸。若有仙名玉籍，列图紫宫，幽冥亦不以此经启悟兆心。兆得此经，即东华注簿，位同真人。唯保唯秘，不可轻宣，妄泄秘言，死灭兆门。

### 太上丹景道精隐地八术（一名紫霄飞灵八变玉符）

隐地八化玄真之术，一曰藏形匿影，二曰乘虚御空，三曰

隐沦飞霄，四日出有入无，五曰飞灵八方，六曰解形遁变，七曰回晨转玄，八曰隐景僊天，此乃上清金台玉室秘房妙术，藏之玉笈，封以金章，侍以玉童，卫以玉女，各八百人，太上玉晨高圣君受之于九玄，七千年乃传太极真人、东华大神方诸青童扶桑暘谷神王、清虚真人，告盟于上清，裂金以誓，身有其文者则隐沦八方，有修其术则乘虚驾空。口口相授，不得妄传，子不示父，臣不奉君，唯在刻字金简，书名玉篇，轻泄秘文，殃及七玄，身为下鬼，充塞河源。按如神真秘而奉焉。

第一藏形匿影之术，当以立春之日，平旦入室，向东北角上坐，思紫云郁郁从东北角上艮宫中下，覆满一室，晦冥内外，良久，紫云化为九色之兽如麟之状，在我眼前。因叩齿三十六通，而微祝曰：

回元变影，晚晖幽兰，覆我紫墙，藏我金城，与气混合，莫显我形。毕，便九咽止。闭目，云气豁除，便服灵飞玉符。修之一年，形常隐空。有难之日，立艮宫之上，取本命上土，撮以自障，按如立春之日祝思之，气自覆，人不见焉。

第二乘虚御空之术，当以春分之日，正中入室，东向冥目、思碧色之云郁郁如飞轮，从东方震宫中下，覆满一室，内外晦冥。良久，青气化为苍龙，在我左耳一缠绕我身。因叩齿三十六通，而微祝曰：

腾玄御气，轮转八宫，坐则同人，起则入室，覆我碧霄，卫我神龙，映显我形，通幽洞冥。吞咽九灵，永得无穷。毕，便九咽气止，开目，服符。修之二年，乘虚驾空。有难之日，立于震宫上，取行年上土，撮以自障，按如春分之祝思，气自覆，人视如气。

第三隐沦飞霄之术，当以立夏之日，正中入室，东南向冥目，思赤云如烟之状，从东南巽宫中来，覆满一室，内外晦冥。

良久，赤气化为玄兔，在兆胸腹之上。因叩齿三十六通，而微祝曰：

玄兔灵飞，启告三晨。披除器翳，通我清津，景登云举，气降紫烟，万灵稽首，皆伏我前。毕，便九咽气止，开目，服符。修之三年，隐沦飞霄。有难之日，立于巽宫，左取十四气以自覆，则与气同行。

第四出有入无之术，当以夏至之日，正中入室，南向冥目，思赤气蓊郁郁从南方离宫中来，覆满一室，内外晦冥。良久，赤云化为凤凰，在我头上。因叩齿三十六通，而微祝曰：

赤霞映玄，气液流通，九道之变，化为凤凰，授我真符，赐我玉浆，出自天门，入自离宫，招致云輶，驾虚乘光。毕，便九咽气止，开目，服符。修之四年，能出入无穷。有难之日，立于离宫，左取九气毕，便开目服符；又九咽气止，撮取月建上土以自障，按如立夏之祝思，赤气自覆，则身为火光。

第五飞灵八方之术，当以立秋之日，晡时入室，西南向冥目，内思白气郁郁如天之雾，从西南上坤宫中来，覆满一室，内外晦冥。良久，白气化为麒麟，对在我前。因叩齿三十六通，而微祝曰：

仰注玄精，吞咽黄华，身生飞羽，轻举登霞，游宴八宫，万万不俎。毕，便九咽气止，开目，服符。修之五年，能升八方。有难之日，立于坤宫上，仰咽三十六气，左取今日辰上土以自障，按如立秋之祝思，白气以自覆，则身化为雾露，人不见也。

第六解形遁变之法，当以秋分之日，晡时入室，西向冥目，内思白云从西方兑宫中来，覆满一室，内外晦冥。良久，白气化为白虎，常在我右边。因叩齿三十六通，而微祝曰：

解形遁变，追飞蹶浮，先谒玉皇，退之八嵎，分身为万，



适意如求，俄顷之变，八宫已周。毕，便九咽气止，开目，服符。修之六年，形化影变，纵横八方，任意所之。有难之日，当立兑宫之中，思火气来烧我身，仰咽气九过，取丙上土以自障，祝如上法，则人莫之见也。

第七回晨转玄之术，当以立冬之日，子时入室，西北向冥目，内思黑云从西北方上乾宫中来，覆满一室，内外晦冥。良久，黑云化为雾蛇，在我左足下。因叩齿三十六通，而微祝曰：

太微九玄，化为雾蛇。回轮五星，运转七机，上宴玄宫，八景同晖，吞精咽气，永无终衰。毕，便九咽气止，开目，服符。修之七年，能回转五晨，出入无间。有难之日，当立乾宫之中，思黑云来覆我身，仰咽三十五气，取天门上土以自障其身，祝如立冬之日，则人不见之。

第八隐景僊天之术：当以冬至之日，子时入室，北向，内思黑气叠沓相覆，从北方坎宫中来下，覆满一室，内外暗冥。良久，黑气化为玄龟，在我右足下，因叩齿三十六通，而微祝曰：

八道隐方，藏地僊天，逃以六阴，显身玉轮，骖龙御烟，上造帝晨。毕，便九咽气止，开目，服符。修之八年，则登玉清宫。有难之日，立在坎宫之上，思黑云覆身，仰咽三十五气，取地户上土以自障，祝如冬至之文，则人不见逃也。

### 太清玉霞紫映观上法

常以本生上旬之日，沐浴、清斋、净服，平旦入室，以内

观开明玉符，清华之水便向洗眼，并漱荡口腹，令内外清虚，口无馀味，腹无馀熏，眼无馀视，体无馀尘，恬淡静默，唯道是身。然后还南向，平坐瞑目，内思紫气出兆头顶之上，勃勃冲天，气冠己身内外，郁冥。便引紫气，仰咽三十九过，觉气咽三十九过，气咽入兆口腹之中。咽讫，开眼，朗然豁除。便叩齿三通，仰祝曰：

上清流霞，晖真吉旦，紫云映灵，扬精交换，内住金门，玉户受观，宝神和藏，魂魄无散，明皇九真，八道流羨，攀云招灵，灵降乐汉，洞彻幽元，三晨齐宴，游腾玉堂，上拜帝馆。毕，仰咽三过止。本生上旬之日，若甲子旬，生以甲寅日为上旬，他皆仿此也。

《紫书诀》云：修上清玉霞紫映内观之道，常以月生一日，取西流水三升，盛之以铜器亦佳，以真珠一两，内著水中，名曰金精石景水母玉胎之瑛，露于中庭，至月十五日正中，日精玄映于石景水母，日象焕明水母之中，东向流霞，开明洞观，玉符投内石景水母中。转南向、叩齿十六通，仰呼曰：日魂珠景，照韬绿映，丹霞赤童，玄炎飚象。凡十六字毕，闭眼思日中，五色流霞，下冠兆身，洞焕一形，存见日中有一仙人，形长八寸，头戴朱阳赤冠，衣绛锦丹裙，下在兆身头顶之上，口引日中赤丹金精石景水母之瑛，以灌溉兆形，便临所盛水中映日光，而微祝曰：

耀罗丹阳，元景敷陈，赤炉大明，九气齐真，三五运精，二象交缠，玉胞石体，炼故返新，流霞玄注，水母凝神，和魂柔魄，内外同烟，仰餐丹华，口掇日根，灵芝盈溢，面发金仙，与气同躯，与日同存，乘景飞空，上造帝晨。毕，仰向日十六咽止。取石景水母之瑛，向日洗目，并沐浴形躯，馀水放之西流。行此九年，面有金容，内外洞彻，与日同光，飞行玄虚，

上造日间。此道高妙，不传下世，轻泄宝文，罚以鬼兵，身役鬼官，七祖获殃。

### 存玄白法

胎精中景黑白内法，常以旦旦坐卧任意，在泥丸中有黑气存，心中有白气存，脐中有黄气，三气俱生如云以覆身。初存气如小豆，渐大冲天，三气缠绕身，共成一混。因变成火，火又绕身，通明洞彻，内外如一（内通外彻，支体共火一色）。旦行之，至日中乃止。于是服气一百二十，都毕。行之三十年，遁形隐身，日行五百里。

### 三素云法

夜卧（谓子后睡觉起时）。又云：坐起可行之，不必夜也，要当以生气时（如此，则子后午前皆可为之，然宜以丑后卯前为为佳矣）。先闭目东向（当东向平坐），以手大指后掌左右按拭目就耳门，使两手俱交会于项后，三九过，存目中各有紫青绛三色，并出目前，此是内按三素云以灌目童子也（先存两目中，各有此三色云，仍各出目前凝郁，良久，按拭之。于按中每觉目外之云，还入目童子中，晖光莹彻。手过又出，拭之又入，以至数毕）。而阴祝曰：

眼童三云，两目真君，英明注精，开通精神，大玄云仪，

灵验篇篇，保我双关，启彻九门，百节晌响，朝液泥丸，身升玉宫，列为真君。毕，因咽液五十过（存液入肝中）。行之一年，则耳聪目明；久为之，彻视千里，罗映神灵，听之于绝响也。

又法，《返胎按摩经》云：常以阳日，月一日为阳，每阳日之旦，夜之卧觉，旦将起，急闭目，向本命之方，以两手掌相摩，切令小热，各左右拭按两目笼耳门，令两掌交会于项中，九过，又存两目中各有紫赤黄三色云炁各下入两耳中。良久，阴祝曰：

眼童三云，明目真君，映明注精，开通帝神，太玄云仪，玉灵敷篇，保我双关，启彻九门，百节应响，回液泥丸，身升玉宫，列为上真。祝毕，咽液三过。毕，乃开目坐起。常行之，不如旦暮也。行之三年，耳目聪明。

## 卷五十四 魂神部一

### 说魂魄

正一真人居鹤鸣山洞，告赵升曰：夫人身有三魂，一名胎光，太清阳和之气也；一名爽灵，阴气之变也；一名幽精，阴气之杂也。若阴气制阳，则人心不清净；阴杂之气，则人心昏暗，神气阙少，肾气不续，脾胃五脉不通，四大疾病系体，大期至焉。旦夕常为，尸卧之形将奄忽而谢，得不伤哉？夫人常欲得清阳气，不为三魂所制，则神气清爽，五行不拘，百邪不侵，疾病不萦，长生可学。

赵升稽首、再拜、叩头，伏问：何以制御得阴杂之气，使清和之气降矣？升欲谨敬行之，导接生灵牢固，朽败之徒，免幽魂所侵逼矣。

真人曰：复坐告汝。夫人身最贵天地，委形三元真气之所戴，若合三气百神，而不至于死。夫三魂者。第一魂胎光，属之于天，常欲得人清静，欲与生人，延益寿算，绝秽乱之想，久居人身中，则生道备矣；第二魂爽灵，属之于五行，常欲人机谋万物，摇役百神，多生祸福灾衰刑害之事；第三魂幽精，属之于地，常欲人好色、嗜欲、秽乱昏暗、耽著睡眠。爽灵欲人生机，生机则心劳，心劳则役百神，役百神则气散，气散则

太清一气不居，人将丧矣；幽精欲人合杂，合杂则厚于色欲，厚于色欲则精华竭，精华竭则名生黑簿鬼录，罪著，死将至矣。夫人重色欲，必昏邪秽乱，不避三光、四明、雷霆、神察，为四司所录，五帝所责，延累九玄七祖、父母长居幽途，荣禄长生不可睹矣。

赵升惊起，请始其源状，则得尸败之徒见乎全生之道。

正一真人曰：胎光本生始青元君圣母之宫，每降正月七日；爽灵本生于太一之宫，降于七月七日；幽精生于太极阴宫，降于十月五日。皆以本降之日，上诣本宫受事，送人善恶，谓之三魂会日。此日，是本会之日，亦更小攒会三日。胎光以甲子日上，爽灵以庚申日上，幽精以本命日上，言人善恶灾难非祸。若三魂不相制御，归本宫，各言人清静不生恶状，则魂常不离人左右，神气雄壮，百神随从，所为无不从其善愿，幽藹绝对，四司莫能书其罪状，灾害、阴邪、疾病不敢辄近其形体，吾为汝备述，谨而行之，真道立见。

正一真人曰：夫修道摄生，常以清旦日未出时，叩齿，三呼三魂三遍，夜欲卧，亦三呼，咒曰：

胎光延生，爽灵益禄，幽精绝死，急急如律令。每日如此，魂不离人左右，飞灾横祸、恶鬼凶神不能为害，游梦变怪杜绝房寝。每于此前三日、下三日，隔宿洁净恭肃，清斋三日，沐浴拜章，言功谢罪著善，即爽灵幽精不能强制真一元气，道可易求。

正一真人告约赵升曰：行之勿得不常，存之勿得不精，常精者，道人之志也。

正一真人告赵升曰：夫人身有三魂，谓之三命。一主命，一主财禄，一主灾衰；一常居本属宫宿，一居地府五岳中，一居水府。以本命之日，一魂归降，人身唯七魄常居不散。若至

本命日，一魂归降，检行生人，与魄合察衰败壮健。若三魂循环不绝，则生人安稳无病。其日可清净身心，不酒，不色，著新衣，焚香习善。至本命日，若欲睡则睡少时，魂与魄合即去。若其日淫醉昏乱，魂归，去身三步取合不得，秽气冲射，魂遂去而不归。如三度魂归不合，魄即去身，神拏矣。魄者阴也，常欲得魂不归；魂若不归，魄即与鬼通连。魂欲人生，魄欲人死。魂悲魄笑，曰：归无我舍，五鬼侵室。三魂绝而不归，即魄与五鬼为徒，令人游梦怪恶，谓之游魂；身无主矣，令人行事昏乱，耽睡好眠，灾患折磨，求添续不可得也。一年六旬，魂六度归身中，制御阴魄，令不与阴邪通好，百神交会，形体灾难不侵；若六旬不返，魄得其便，与阴鬼谋，人将亡矣。每本命日，一魂从本宿降下，二魂虽非巡次、其日亦随从母魂，有本司官吏四人，都十二人。其日本生父母亦与魂降。当须以钱财酒脯一十二分，取本命时，祭之。后，本司不与魄为留难，及时降下，福莫能尽。常为之，长生之门。

王真人曰：吾闻先师真人之言，夫混沌元始，本一气化散，三万六千神气者皆流约为其数。夫天地神气，新旧交续，岂有数而限之？百川因气而不绝，天地因气而长久，维斗得之而不穷，绵绵接续而生焉。圣人指一气为归，交接降约，令人不死；而凡约者不知，苟取其死。天地昼夜一周三万六千炁候，交接不愆，则日月贞明，风云不昧，泽及四时，万物资生；若气候愆时，不相接续，数有阙少，上下不应，即雷霆震怒，日月失道，星宿失位，愆阳水滂，万物失生。人身法天象地，每日一周时，肾气上至脾胃，昼夜三万六千喘息不绝，上下相应，通流经络，传溉五脏，滋泽荣卫，即人轻健、精明、强记、无病，学道易成。若三炁、五炁、十炁不续，即人病传于经络，令人壮热，饮食不下，魂魄惊怖，神气错乱，一藏容受，即病

得其土地分野，疗之不及，则人困矣。是以修真之人，采新安故，添续不绝，即神气常坚，精华不散，则人不衰不老，病疾不侵，鬼神畏惧，五灵镇守，精气充塞，外制百邪阴毒之气。气既精锐，禁无不伏，言其神气壮锐，摧伏五兵，如猛大将军，故以神气为将军也。

### 拘三魂法

月三日、十三日、二十三日夕，是此时也，三魂不定，爽灵浮游，胎光放形，幽精扰唤。其爽灵、胎光、幽精三君，是三魂之神名也。其夕，皆弃身游遨，飏逝本室。或为他魂外鬼所见留制，或为魅物所得收录，或不得还返，离形放质，或犯于外魂、二气共战，皆躁竞赤子，使为他念，去来无形，心悲意闷，道士皆当拘而制之，使无游逸矣。拘留之法：当安眠向上，下枕，伸足交手，仰上，冥目，闭气三息，叩齿三通，存身中赤气如鸡子，从内仰上出于目中，出外赤气转火烧身，使匝一身，令其内外洞彻，有如燃炭之状。都毕矣，其时当觉身中小热，乃叩齿三通。毕，即存三魂名字，胎光、爽灵、幽精三神急住，因微祝曰：

太微玄宫，幽黄始青，内炼三魂，胎光安宁，神宝玉室，与我俱生，不得妄动，鉴者太灵。若欲飞行，唯得诣太极上清；若欲饥渴，唯得饮徊水玉精。



### 制七魄法

月朔、月望、月晦之夕，是此时也，七魄流荡，游走秽浊，或交通血食，往鬼来魅，或与死尸相关入，或淫惑赤子、聚奸伐宅，或言人之罪、请三官河伯，或变为魍魉，使人魇魅，或将鬼入、呼邪杀质、诸残病生人，皆魄之罪；乐人之死，皆魄之性；欲人之败，皆魄之病。道士当制而厉之，陈而变之，御而正之，摄而威之。

其第一魄名尸狗，其第二魄名伏矢，其第三魄名雀阴，其第四魄名吞贼，其第五魄名非毒，其第六魄名除秽，其第七魄名臭肺。

此皆七魄之名也，身中之浊鬼也。制检之法：当正卧、去枕、伸足，两手搓掌心，次掩两耳，指端相接，交于顶中，闭息七通。存鼻端有白气如小豆，须臾渐大以冠身九重，下至两足，上至头上。既毕，于是白气忽又变成天兽，使两青龙在两目中，两白虎在两鼻孔中，皆向外，在心上向人口；苍龟在左足下，灵蛇在右足下；两耳中有玉女著玄锦衣，当耳门，两手各把火光，良久，都毕。又咽液七过，叩齿七通，呼七魄名，毕，乃祝曰：

素气九回，制魄邪奸，天兽守门，娇女执关，七魄和柔，与我相安，不得妄动，看察形源。若汝饥渴，听饮月黄日丹。于是七魄内闭，相守受制。若常行之，则魄浊下消，返善合形，上和三宫，与元合景一。人身有三元宫神，命门有玄关大君，及三魂之神，合有七神，皆在形中，欲令人长生，仁慈大吉之

君也。此七魄亦受生于一身，而与身为攻伐之贼，故当制之。道士徒知求仙之方，而不知制魄之道，亦不免于徒劳也。

其三元宫所在，其上元宫，泥丸中也，其神赤子，字元先，一名帝卿；其中元宫，绛房中，心是也，其神真人，字子丹，一名光坚；其下元，丹田宫，脐下三寸是也，其神婴儿，字元阳子，一名谷玄。

此三一之神矣。欲拘制魂魄之时，皆先阴呼其名，存三神皆玉色金光，存婴儿之貌，中上二元皆赤衣，下元衣黄，头如婴儿始生之状也。

### 对日存三魂法

太虚真人曰：先师教以五达之日，日出三四丈许，正立，以心对日，存三魂神与日光俱入心中。良久，闭气三息，咽液三过，祝曰：

太阳散晖，垂光紫青。来入我魂，照我五形。却鬼试心，使心平正，内彻九气，外通胎命，飞仙上清，玉篆以定。咒毕，以手拭目二七，叩齿二七，都毕。此法使人三魂凝明，丹心方正，万邪藏术，心试不行，真要道也。常当行之者，以五建日向日，辄令嚏，若不得嚏，以软物向日引导鼻中，亦可嚏也。嚏，即祝曰：

天光来进，六胎上通。三魂守神，七魄不亡，承日鸣嚏，与日神同，飞仙上清，位为真公。祝毕，拭目二七。是内精上交日光，三魂发明于内，使人心开神解，百精流转于内府也。若非五建日，可不须尔也。以五建之日北向，五再拜，心呼上

真皇君夫人名字三过，毕，叩齿五通。毕，解巾，长跪，谨启：

五星日月上皇高皇道君夫人，玉清太上上清上皇上帝，大道圣君，几前因自陈七祖父母以下及一身千罪万过，上世以来，乞愿得解脱三官，告下天帝，使罪名离释，削除黑籍，乞愿得与五星之真俱奔华晨，上登上清，交行玉门。

### 朝礼九天魂魄求仙上法

常以月三日、九日、十六日，平坦向日，九拜九揖，亦可心拜，仰头叩齿二十四通，祝曰：

天魂九缠，上帝尊神，太阳日精，金门变仙，小兆某甲敢奏微言，今日上吉，八愿开陈，请施礼愿，仰希玄恩，苍龙朱凤，策辔紫轩，五云交荫，六气扇尘，高上曲眄，三光降真，二景缠络。我道欣欣，心朗耳聪，目明色鲜，体轻骨升，面发华颜，羽服生形，飞造帝晨。祝毕，仰天引日精四十五咽止。行此三年，目明彻视，洞睹无穷，面有金容，体生玉津；九年，能行身外无影，飞空玄灵也。若天阴无日，于密室心存心行，亦感于自然也。又以月五日、十五日、二十五日，此三日皆人定向月，九拜九揖，亦可心拜，仰向月叩齿十六通，祝曰：

魂精魄灵，九天同生，石景水母，太阴朗明，徘徊月宫，冶炼金庭，二景合原，上吉时清，八会交带，我愿克成，愿光愿容，愿鲜愿荣，愿神愿仙，飞行上清。祝毕，仰引月精四十五咽止。

### 魂精法

魂精帝君，即九天司命，部九天之魂，下统后学算命也，帝君镇在日门金庭之内。魄灵帝君，即九天丞相，九天之魂灵下统后学之录籍也，镇在月宫琳琅之都。凡修上道，旦夕坐起卧息，堂当存念日在头上、月在口中、魂精帝君在泥丸、魄灵帝君在明堂，心存目想，常使彷彿然。行之逾年，真形见矣，青白分也；九年能乘空飞行，上登晨灯之馆，游宴虹映之山也。

### 上清飞步七星魂魄法

太素真人口诀曰：北斗第一星天枢魂神，第二星天璇魄神，第三星天机魂精，第四星天权魄精，第五星玉衡魄灵，第六星闾阳魄精，第七星瑶光大明。

右七星，魂魄之名，号曰七元之灵明，步星魂魄行星之上，皆心存之，此名曰飞仙，飞仙步斗，魂魄三匝。毕，于是向阳明星上，又闭气，而心祝曰：

阳明大魁，祝毕。第一左足蹑阳明星，第二又进右足蹑阴精星；祝毕，第三次左足蹑玄冥星；祝毕，第四次右足蹑丹元星；祝毕，第五次左足蹑北极星；祝毕，第六次右足并蹑闾阳星；祝毕，次左足并蹑瑶光星。乃通息，大祝曰：金木水火土，五行相推，七星焕焕，天纲最威，辅星镇盛，弼星扶衰。九真

太上、太极、太微三府，玉帝三尊辟非，天动地转，魂魄相随，使我飞仙，真光徘徊，名入金房，玉门乃开，乘龙陟空，日月同辉，游行太清，鸣铃翠衣，左蹶流电，右御奔星，地上万邪伏死，敢追恶心视我，使尔斩摧。帝命玉女劳侍以归，魂真魄神合形升飞，毕。

## 卷五十五 魂神部二

### 思神诀

夫道者，有形之父母也，寂然不动，至虚无也；感而遂通，至神明也；视之不见，无形容也；听之不闻，无音声也。故无形无名，言象莫能得也；有情有信，变化有以生也。生之来神，气聚也；身之有阴，阳结也。两仪以分，万象以成也；天地回薄，日月以明也。莫不由至道神用，而元一以灵。且人为物灵，貌为事真，智虑纯白，耳目澄清，外周六气，内运五行，形自寂寞，神生窅冥。然则至道无形，应生元气，谓之一也；一之所剖，分为三也。三者，清、浊、和，结为天、地、人也曰三元，上、中、下也；在天为三光，日、月、星也；在地为三宝，金、玉、珠也；在人为三生，耳、目、心也；在道为三气；玄、元、始也；又为三天，清微、禹馀、大赤也；复为三境，玉清、上清、太清也。又曰：清气上浮为天，浊气下凝为地，和气中结为人。夫天阳地阴，阴阳变化而成五行，谓木、火、金、水、土也；亦曰五气，谓九、三、七、五、一也；在天为五星，谓岁、荧、白、辰、镇也；在地为五岳，谓岱、衡、华、恒、嵩也；在人为五脏，谓肝、心、肺、肾、脾也；又为五色，青、赤、白、黑、黄也；又为五音，角、徵、商、羽、宫也；又为

五味，酸、苦、辛、咸、甘也；又为五德，仁、义、礼、智、信也。总之为三五，行导布化，生成万物也。各有神明，即天地之至用也，而天以之动，地以之静，人以之生，皆赖其神明也。天有五亿五万五千五百五十五重天，天皆有天尊、太上、天帝、天师也；地有三十六重地，地皆有土皇、将军、金刚、神王、灵官也；人有三宫、五神、三魂、七魄也。天地各有神仙吏兵不可称计，且神明变化皎在目前，愚者莫知。隐显无方，运转难识，辅物立象，灵用在焉。故“天得一以清，地得一以宁，神得一以灵，谷得一以盈”是也。日者天之魂，月者地之魄，谓之神明。人则左目为日，右目为月，目者神明之堂也。故神明所托，依于日月，隐于阴阳。且日出于卯，阳也；月出于酉，阴也；三变成德。日初变于卯，其数六，以五乘之，五六三十也；中变于辰，其数五，五五二十五；终变于巳，其数四，四五二十也，故上仙七十五将军阳神也。月初变于酉，其数六，五六三十也；中变于戌，其数五，五五二十五也；后变于亥，其数四，四五二十也。故上灵七十五将军阴神也。三元五德，合数为八，各有上仙上灵阴阳二官，合为一千二百也；三元各八，为三千六百也；而阴阳皆五，合为三万六千也。其万八千阳，阳为外景、为外神也；其万八千阴，阴为内景、为内神也。而内由外发，阴以阳明，所以一身有一万八千神曰本分神也，一万八千神曰影照神也。无阳也，阴不能成；无阴也，阳不能生。是以阴以阳成，阳以阴生，亦内由外明，外由内清，清明相得，而后生成也。所谓神明者，由神故明也。故三光在天而万物彰，百神在己而五气昌，其耳目适用，气力体康，是其神也。天宝之以致浮，地秘之以致安，五岳享之而安镇，一人则之而太平。人身上部八景，以应于天；下部八景，以应于地；中部八景，以应于空。三部八景七十二神，景皆有五，三

万六千，与天地合，有一十万八千。自此以往，虽神不极，由斯数矣。则三洞诸经神仙，将吏侍奉灵官，高下品格，未有不因兹始也。既知其数，当识其方，既识其方，须知表里，表里既见，阴阳审焉。内外不同，左右亦别，而象分五色，位列四方，男女可以阴阳求，文武可以刚柔取。凡诸存念，身为之主，身有三魂、七魄、三元、五真、一神、百神、三万六千神，皆在于心也。心正则神正，心邪则神邪，邪之与正，由悟不悟，悟则入正，迷则归邪，悟者由得其门，迷者由失其路，则沉沦黑夜，处至暗冥室。学道之士宜详究之，始乎数息历藏，终乎常住湛寂，诚在尔心矣。

### 存身神法

面东坐，叩齿三十六通，每九下一咽液。而祝曰：

玉清高上，九天九灵，化为玄玄，下入胃清，金和玉映，心开神明，服食日精，金华充盈。便咽液，想喉中有赤身童子，仰头开口承液，下入胃中。

毕，又存四神：想肺中童子著白衣冠，口吐白气于右，变作白虎；次想肝中童子著青衣冠，口吐赤气于左，变作青龙；次想心中童子著赤衣冠，口吐赤气于前，化为朱雀；次想肾中童子著黑衣冠，口吐黑气于后，化为玄武。祝曰：

青龙孟章甲寅，白虎监兵甲申，朱雀陵光甲午，玄武执明甲子，四曾前后围绕，勿令外邪来干。急急如律令。

次存心肺气作圆光宝盖盖头，讫，次握固冥目，念敕身祝曰：



谨敕身中五体真官、五脏六腑、九宫、十二宫室，四肢五体、筋骨髓脑、肌肤血脉、孔窍荣卫、一百八十关房、三百六十骨节、一千二百形影、一万二千精光、三万六千神气，左三魂幽精、爽灵、胎光，各守本宫，右七魄卫从尸狗、伏矢、雀阴、吞贼、非毒、除秽、臭肺，青龙扶迎，白虎扶送，朱雀导前持幡幢，玄武从后司钟鼓。臣身不受邪，肝不受病，肺不受奸，肾不受甘，脾不受化，胆不受怖，胃不受秽，心不受触，神气汾溢，吏兵神将侍卫侧立。急急如律令！”

次叩齿五通，念五脏神名。先存肺神，著白衣冠，在肺，肺神皓华，字虚成（三呼）；次存心神，著赤衣冠，在心中，心神丹元，字守灵（三呼）；次存肝神，著青衣冠，在肝中，肝神龙烟，字含明；次存胆神龙曜，字威明；次存脾神常在，字魂庭；次存肾神玄冥，字育婴。又瞑目内视，五脏分明，了见肝中童子著青衣冠，口吐青气，从左胁出，化为青龙；次存肺中童子著白衣冠，口吐白气，从右胁出，化为白虎；次存心中童子著朱衣冠，口吐赤气，从心中出，化为朱雀；次存两肾中童子著黑衣冠，坐两肾上，口吐黑气，从肾中出，化为玄武；次存头巾七星，下坐青黄白三色云上，七星在头，下有金光盖顶，一身并作黄金色，面是金容；次存肺中白气，右出绕顶，有圆光。左右日月在眼前，洞焕一室，吏兵玉女，执节持幢，捧香献花，遍满前后。心常念飞仙，同升金阙帝前，永为帝臣。

### 受生天魂法

夫人受生于天魂，经成于元灵，转轮于九气，挺命于太一，

阙开三道，积神幽宫，所生玄液七缠，流津敷泽，日月映其六虚，口耳运其神气，云行雨施，德拟天地。胞胎内匝，五因来具，立人之道，其如此也。故五因者，是五神也；三道者，是三真也。

天尊言曰：气气相续，种种生绿，善恶祸福，各有命根，非天非地，亦又非人，正由心也。心则神也，形非我有。我所以得生者，从虚无自然中来，因缘寄胎，受化而生。我受胎父母，亦非始生主父母也。真父母贵重尊高无上，今所生父母以我寄备因缘，禀受育养之恩，故以礼报而称为父母焉。故我受形，亦非我形也，寄之为屋宅，因之为营，以舍我也。附之以以为形，示之以有无，故得道者无复有形也。及无身，神一也，身并一则为真身，归于始生父母而成道也。凡人不知存神，动止任意，意愚事僻，神散形枯；仙真圣人守神无替，常存自身，名在左契。志学之士当知人身之中自有三万六千神，左三魂右七魄，阴阳配合，共辅护识神、五行相王之君，周卫体内一千二百形影、一万二千精光，备守体外，日日存之，时时相续，念念不忘，长生不死。不能常存，八节勿替，念身神，康强无病。病，三呼之，常卫子身。欲卧之时，左手抚心，右手抚脐，各二七，阴祝曰：

欲具身神，从头起，经历四肢，至踝子，祝竟，存之。委悉乃眠，必得吉梦，彷彿见神。若有罪过，应致灾厄，神来语人，或示形象，寄托物类，使人思惟，自解意趣，吉凶善恶，了然知之，避祸就福，所向谐也。

三魂：

第一胎光

第二爽灵

第三幽精

## 精神

精神者，君臣也（《玉清秘录》云：夫神者君也，气者人也，心神动则精摇，精摇则使形不安，若三事各令清净无为，则万事自安也。又曰：夫修身之道，乃国之宝也。然一身之根有三：一为神，二为精，三为气。此三者，本天地人之气也，神者受于天精，天精者受于地气，地气者受于中和，相为共成一道也。故神者乃乘气而行，气者神之也，精者居其中也，三者相助为理。故人欲寿者，乃当爱气、尊神、重精也）。精转为神，神生于明（夫气生于精，精生于神，神生于明，故人生本于阴阳之气，气转为精，精转为神，神转于明。是故不欲老者，当念守其气，含精神也，令不出其形，合而为一也。即繚繚自见，身益轻，意益精也，此神光欲生也，心中大安，欣然若喜也。但宜闭目而卧，著志意于身内，身意不出，则身炼形变也。如此，则理身已得也，太平自应矣。神哉，此道也。内已致寿，外以安理，不用筋力，自然致也）。神智之泉（夫神智之泉也，神清则智明。智者，心之府也，智公，即心平。人莫鉴于流水，而鉴于止水，水性欲清，沙尘秽之，人心欲清，嗜欲则生，岂能善之？故鉴明则尘垢弗集，神清则嗜欲不入。是以圣人轻天下，即神不累；细万物，即心不惑；齐死生，则意不慑；同变化，即明不眩）。

## 入室思赤子法

老子曰：吾道生于惚恍而无形，视之不可见，听之不可闻，随之不见其后，迎之不见其首。包含于天地之表，还入于毫毛之里，分之为日月阴阳，含之为夫妇。演布于八卦，乾坤为头首。胞胎转相生，变化有前后。处任为十月，结定神备有，虚无把录籍，司命往奉寿。阳精为室宅，包形立相待，阴阳相感溉，开闭藏其里，清转上为头，精凝成童子，璇玑与玉衡，鼻为其梁柱。合观于八极，两半共为友；合精于子午，藏形于卯酉。明堂开四仲，洞房在其后，丹田著后宫，自口王父母。丙午拜真人，丁巳伏命受，戊寅衔丹录，光曜所藏止。精明合且离，出规还入矩，钧明照神后，往来有配偶。皇制有其阶，自然如云雨，阳出真人阴。学之为师父，栖宿有常处，正在洞房里，三五运返覆。甲癸邀辰巳。子午都集会，吾道自索子，邀之于南极。真人自告子，安之令审谛，枯木不烦扰，乙壬于寅卯，午申亦相须，丙辛于亥酉，未戌邀中野，吾道已见矣，忽然无所有，丁庚子与午，戊己卯与酉，失候不相睹，吾道去万里，周旋天地间，伤命还害子，观吾阴与阳，交精相哺乳。此谓养赤子，勿失其时矣。甲癸邀辰巳，注云：子丑者谓甲癸日也，时加于辰、加巳、加子、加丑也，到此时道未养己，常当念之矣；乙壬之日时，加寅、加卯、加午、加申也，当复俟之，勿失其候矣；丙辛之日时，加亥、加酉、加未、加戌也，为老公见之勿惊也，道之化见矣；丁庚之日时，加子、加午也；戊己之日时，加卯、加酉也。失此四仲之日候，而不相睹，吾道

去万里。慎之。

老子曰：为吾道者，当先安牝牡。牝牡者，肾也，肾门元气也，元气常下行，元常上升。元者赤，气者白，元上到心中，心中当动，动即元下矣。

老子曰：元者，安雌雄。雌雄者，心也，一名明堂，得元因共养，合成赤子；赤子，自然也，念令上升，升于真人；真人者，宿卫之臣。赤子到，则因安心定意，泊然安意洞房中矣。

老子曰：赤子到，因还意于洞房。洞房者，两目间，有真人不衣而到，住下视赤子，赤子到，真人乃立。真人所以到住，何也？欲令赤子得升耳。赤子升，真人复；赤子不升，真人不复，不复早已。

老子曰：夫赤子初欲升时也，形似丹蛇，其光照人，忽然而到著人面，若炬火声矣。此即赤子到矣。

老子曰：夫赤子之欲升时，形似丹蛇，安意如故，须臾当忽然不见矣。

老子曰：丹蛇者，日之精也，日精作火形来著人。欲来著人，人心动；人心动，即赤子不得升，遂令后难致，难致则冥冥绝矣。

老子曰：丹蛇来到、心不惊不恐者，当与真人共语。时目中忽然见正黄浩浩而无形，兆身体因变化，见西王母乘凤凰之车，后驾六赤龙，车前三朱雀。见之，忽惊也，有顷，忽然去矣。

老子曰：当见西王母到时，但恍惚而已，虽乘凤凰之车者，忽然而去矣，前三朱雀，后六赤龙亦然也。

老子曰：当见西王母之时，与人语，慎勿答也。不答，当复有所告问于人，慎勿答。不答，恚怒，勿恐怖也，恚不止，真人自代子与语，毕，自去矣。

老子曰：西王母去后，大道来见矣。当大道见时，身形乃旷然，昭浩而无形兆，上见日月星宿，若有若无。当有天师与真人来见，倡乐万端慎勿视也，仙人玉女慎勿观也，龙虎禽兽慎勿惊也。

老子曰：此倡乐、天师、仙人、玉女、禽兽，皆非真也，但自子形中五脏六腑都精神耳，非真道也。

老子曰：天师真人来见子之时，安心定意，善与人语言。吾见子信，告子道，张罗其纲，具见子矣！

老子曰：参乘戊子入室，百日神明相睹乃止。精神通洞，举足万里。精之毕熟，少食，为有斋戒，洗心沐浴，往来急疾，状若风雨。

老子曰：人头者，道之所往来解止处也，号阴阳。阴阳者，两目也；阴阳者，道一之臣人也，道之所尊器也，主调御两目精光者，故曰两半成一也。一正在明堂中、两半所处也，阳精光于子午，收明于卯酉。子午者洞房也，卯酉者明堂也，亦方圆一寸，正在两眉间；明堂却入一寸，名洞房，亦方圆一寸；又却入一寸，名丹田，此三者，道之往来变化常处也。

## 卷五十六 诸家气法部一

### 元气论（并序）

混沌之先，太无空焉；混沌之始，太和寄焉。寂兮寥兮，无适无莫。三一合元，六一合气，都无形象，窈窈冥冥，是为太易，元气未形；渐谓太初，元气始萌；次谓太始，形气始端；又谓太素，形气有质；复谓太极，质变有气；气未分形，结胚象卵，气圆形备，谓之太一。元气先清，升上为天，元气后浊，降下为地，太无虚空之道已生焉。道既无生，自然之本，不可名宣，乃知自然者，道之父母，气之根本也。夫自然本一，大道本一，元气本一。一者，真正至元，纯阳一气，与太无合体，与大道同心，与自然同性，则可以无始无终，无形无象，清浊一体，混沌之未质，故莫可纪其穷极。洎乎元气蒙鸿，萌芽兹始，遂分天地，肇立乾坤，启阴感阳，分布元气，乃孕中和，是为人矣。首生盘古，垂死化身，气成风云，声为雷霆，左眼为日，右眼为月，四肢五体为四极五岳，血液为江河，筋脉为地里，肌肉为田土，发髭为星辰，皮毛为草木，齿骨为金石，精髓为珠玉，汗流为雨泽。身之诸虫，因风所感，化为黎甿。以天之所生，称曰苍生；以其首黑，谓之黔首，亦曰黔黎。其下品者，名为苍头。今人自名称黑头虫也，或为裸虫，盖盘

古之后，三皇之前，皆裸形焉。三王之代，然乃裁革结莎，巢橰营窟，多食草木之实，啖鸟兽之肉，饮血茹毛，蠢然无闷。既兴燔黍捭豚，坏饮窳樽，蕢桴土鼓，火化之利，丝麻之益，范金合土，大壮宫室，重门击柝，户牖庖厨，以炮以烹，以煮以炙，养生送死，以事鬼神。自太无太古，至于是世，不可备纪。爰从伏羲，迄于今日，凡四千馀载，其中生死变化，才成人伦，为君为臣，为父为子，兴亡损益，进退成败，前儒志之，后儒承之，结结纷纷，不可一时殚论也。且天地溟滓之后，人起出盘古遗体，散为天经地纬，天文地理，五罗二曜，黄赤交道，五岳百川，白黑昼夜，产生万物，亭育万汇，其为羽毛鳞介，各三百六十之数，凡一千八百类。人为甦虫之长，预其一焉。人与物类，皆禀一元之气，而得生成。生成长养，最尊最贵者，莫过人之气也。澡叨预一甦，忝窃三才，渔猎百家，披寻万古，备论元气，尽述本根，委质自然，归心大道，求诸精义，纂集玄谭，记诸真经，永传来哲。达士遇者，慎勿轻生，以日以时，勤炼勤行，鹤栖华发，无至噬脐。同好受之，常为宝耳。

论曰：元气无号，化生有名；元气同包，化生异类。同包无象，乃一气而称元；异居有形，立万名而认表。故无名天地之始，有名万物之母，常无欲以观其妙，常有欲以观其徼。徼为表，妙为里。里乃基也，表乃始也。始可名父，妙可名母，此则道也，名可名也，两者同出而异名。同谓之道，异谓之玄，玄之又玄，众妙之门。又曰：有物混成，先天地生，寂兮寥兮。独立不改，周行不殆，可以为天下母，吾不知其名，字之曰道。乃自然所生。既有大道，道生阴阳，阴阳生天地，天地生父母，父母生我身。

夫情性形命，禀自元气。性则同包，命则异类。性不可离



于元气，命随类而化生。是知道、德、仁、义、礼，此五者不可斯须暂离，可离者非道、德、仁、义、礼也。道则信也，故尊于中宫，曰黄帝之道；德则智也，故尊于北方，曰黑帝之德；仁则人也，故尊于东方，曰青帝之仁；义则时也，故尊于西方，曰白帝之义；礼则法也，故尊于南方，曰赤帝之礼。然三皇称曰大道，五帝称曰常道，此两者同出异名。

元气本一，化生有万。万须得一，乃遂生成。万若失一，立归死地，故一不可失也。一谓太一，太一分而为天地，天地谓二仪，二仪分而立三才，三才谓人也，故曰才成人备。人分四时，四时分五行，五行分六律，六律分七政，七政分八风，八风分九气。从一至九，阳之数也；从二至八，阴之数也。九九八十一，阳九太终之极数；八八六十四，阴六太终之极数也。

一含五气，是为同包；一化万物，是谓异类也。既分而为三为万，然不可暂离一气。五气者，随命成性，逐物意移，染风习俗，所以变化无穷，不唯万数，故曰游魂为变。只如武都耆男化为女，江氏祖母化为鼃，黑胎氏猪而变人，蒯武安人而变虎，斯游魂之验也。

夫一含五气，软气为水，水数一也；温气为火，火数二也；柔气为木，木数三也；刚气为金，金数四也；风气为土，土数五也。五气未形，三才未分，二仪未立，谓之混沌，亦谓混元，亦谓元块如卵。五气混一，一既分元，列为五气，气出有象，故曰气象。

张衡《灵宪浑天仪》云：夫覆载之根，莫先于元气；灵曜之本，分气成元象。昔者先王步天路，用定灵轨，寻诸本元，先准之于浑体，是为正仪，是为立度，而后皇极有所建也，旋运有所稽也。是为经天纬地之根本也。

圣人本无心，因兹以生心。心生于物，死于物。机在心目，

天地万机、成败兴亡、得失去留，莫不由于心目也。死者阴也，生者阳也，阴阳之中，生道之术，而不知修行之路，常游生死之途，故墨翟悲丝、杨朱泣岐，盖以此也。夫太素之前，幽清玄静，寂寞冥默，不可为象，厥中惟虚，厥外惟无，如是者永久焉，斯谓溟滓，盖乃道之根。既建方有，太素始萌，萌而未兆，一气同色，混沌不分，故曰有物混成。然虽成其气，未可得而形也。其迟速之数，未可得而化也，如是者又永久焉，斯谓庞鸿，盖乃道之干也。于是元气剖判，刚柔始分，阴阳构精，清浊异位，天成于外，地定于内。天体于阳也，象乎道干，以有物成体，以圆规覆育，以动而始生；地体于阴也，象乎道根，以无名成质，以方矩载诞，以静而终死，所谓天成地平矣。既动以行施，静以含化，郁气构精，时育庶类，斯谓天元，盖乃道之实也。

夫在天成象，在地成形，天有九位，地有九域，天有三辰，地有山川，有象可效，有形可度，情性万殊，旁通感著，自然相生，莫之能纪。纪纲经纬，今略言之。四方八极，地之维也，径二亿三万二千五百一十七里，南北则知减千里，东西则广增千里。自地至天半于人极，地中深亦如之（半之极，径围之数一半是也。计天地相去一亿一万二百五十八里半也），通四度之，乃是混元之大数也。天道左行，有反于物，则天人气左盈右缩，天以阳而回转，地以阴而停轮，是以天致其动，禀气舒光，地致其静，永施候明。天以顺动，不失其光，则四序顺节，寒暑不忒；地以顺静，不失其体，则万物荣华，生死有礼。故品物成形，天地用顺。夫至大莫若天，至厚莫若地，至多莫若水，至空莫若土，至华莫若木，至实莫若金，至无莫若火，至明莫若于日月，至昏莫若于暗虚（日月至明，遇暗虚犹薄蚀昏黑，岂况于人乎哉）。夫地有山岳川谷、井泉江河、洞湖池沼、

陂泽沟壑，以宣吐其气也；天有列宿星辰三百四十八座，亦天之精气所结成，凝莹以为星也。星者，体生于地，精成于天，列居错峙，各有所属，斯谓悬象矣（或云玄象，亦可两存）。夫日月经周七百里三十六分之一，其中地广二百里三十二分之一。日者，阳精之宗，积精成象，象成为禽，金鸡、火鸟也，皆曰三足，表阳之类，其数奇；月者，阴精之宗，积精而成象，象成为兽，玉兔、蟾蜍也，皆四足，表阴之类，其数偶。是故奇偶之数，阴阳之气，不失光明，实由元气之所生也。

夫人之受天地元气，始因父精母血，阴阳会合，上下和顺，分神减气，忘身遗体，然后我性随降，我命记生，绵绵十月之中（人皆十月处于胞胎，解在卷末也），蠢蠢三时之内（人虽十月胞胎，其实受孕三十八腊。一腊谓一七。日一变，凡三十八变），然后解胎求生。求生之时，四日之中，善慧聪明者，如在王室，受诸快乐，释然而生，如从天降下，子母平善，无诸痛苦，亲属欢喜，邻里相庆；凶恶悖戾者，如在狴牢，受诸苦毒，二命各争，痛苦难忍，亲族忧惶，邻里惊惧。凡在世人受孕日数，数则一定，善恶两分，为人子者，安可悖乱五逆哉！今生子满三十日，即相庆贺，谓之满月，皆以此而习为俗矣。气足形圆，百神俱备，如二仪分三才，体地法天，负阴抱阳，喻瓜熟蒂落，啐啄同时，既而产生，为赤子焉。夫至人含怀道德，冲泊情性，抱一守虚，澹寂无事，体合虚空，意栖胎息，故曰合德之厚，比于赤子。赤子之心，与至人同心，内为道德之所保，外为神明之所护，比若慈母之于赤子也。夫赤子以全和为心，圣人以全德为心，外无分别之意，内无害物之心。赤子以全和，故能拳手执握，自能牢固，所谓骨弱筋柔而握固，未知牝牡之合而歆作，精之至；终日号而不嘎，和之至。执牢实者，其由元气充壮，致骨弱筋柔。未知阴阳配合，而含气之

源动作者，由精气纯粹之所然也。阴为雌牝，阳为雄牡，歆谓气命之源。气命之源，则元气之根本也。言赤子心无情欲，意无辨认，虽有歆作，且不被外欲牵挽，终无吠浚尾闾之虞，其气真精，往还溯流，自然自在，任运任真而已，故曰精之至也。终日号啼，而声不嘶嘎者，亦纯和之至也，故曰和之至也。嘎者，声物之破也。赤子以元气内充，真精存固，全和之至，乃不破散也。

《上清洞真品》云：人之生也，禀天地之元气，为神为形；受元一之气，为液为精。天气减耗，神将散也；地气减耗，形将病也；元气减耗，命将竭也。故帝一回风之道，溯流百脉，上补泥丸，下壮元气。脑实则神全，神全则气全，气全则形全，形全则百关调于内，八邪消于外。元气实则髓凝为骨，肠化为筋，其由纯粹真精，元神元气，不离身形，故能长生矣。

秦少齐《议黄帝难经》云：男子生于寅，寅为木，阳也；女子生于申，申为金，阴也。元气起于子，乃人命之所生于此也。男从子左行三十，女从子右行二十，俱至于巳，为夫妻怀妊，受胎气于此也。男从巳左行十至寅，女从巳右行十至申，俱为十月受气，气足形圆，寅申乃男女所生于此也。从寅左行三十至未，未谓小吉，男行年所至也；从申右行二十至丑，丑谓大吉，女行年所至也。然乃许男婚而女娉矣。如是永久焉，则元气无所复，精气无所散，故致长生也。夫天地元气既起于子之位，属水，水之卦为坎，主北方恒，岳冀州之分野，人之元气亦同于天地，在人之身生于肾也。人之元气，得自然寂静之妙，抱清虚玄妙之体，玄之又玄，妙之又妙，是谓众妙之门，乃元气玄妙之路也。故玄妙曰神，神之灵者曰道，道生自然之体，故能长生。生命之根，元气是矣。

夫肾者神之室，神若无室，神乃不安，室若无神，人岂能

健！室既固矣，乃神安居。则变凡成圣，神自通灵。神乃爱生而室不能固，致使神不得安居，室屋于是空废，遂投于死地矣。若人自以其妙于运动，勤于修进，令内清外静，绝诸染污，则大壮营室，神魂安居。神之与祇，恒为营卫，身之与神，两相爱护，所谓身得道，神亦得道；身得仙，神亦得仙。身神相须，穷于无穷也。

夫元气者，乃生气之源，则肾间动气是也。此五脏六腑之本，十二经脉之根，呼吸之门，三焦之源，一名守邪之神，圣人喻引树为证也。此气是人之根本，根本若绝，则脏腑筋脉如枝叶，根朽枝枯，亦以明矣。问：何谓肾间动气？答曰：右肾谓之命门，命门之气，动出其间，间由中也，动由生也，乃元气之系也，精神之舍也。以命门有真精之神，善能固守，守御之至，邪气不得妄入，故名守邪之神矣。若不守邪，邪遂得入，入即人当死也。人所以得全生命者，以元气属阳，阳为荣，以血脉属阴，阴为卫，荣卫常流，所以常生也。亦曰荣卫，荣卫即荣华气脉，如树木芳荣也。荣卫脏腑，爱护神气，得以经营，保于生路。又云：清者为荣，浊者为卫，荣行脉中，卫行脉外，昼行于身，夜行于藏，一百刻五十周，至平旦大会，两手寸关尺，阴阳相贯常流，如循其环，终始不绝。绝则人死，流即人生，故当运用调理，爱惜保重，使荣卫周流，神气不竭，可与天地同寿矣。

夫混沌分后，有天地水三元之气，生成人伦，长养万物，人亦法之，号为三焦三丹田，以养身形，以生神气。有三位而无正藏，寄在一身，主司三务。上焦法天元，号上丹田也，其分野自胃口之上，心下膈已上至泥丸，上丹田之位受天元阳炁，治于亶中，亶中穴在胸，主温于皮肤肌肉之间，若雾露之溉焉；中焦法地元，号中丹田也，其分野自心下膈至脐，中丹田之

位受地元阴炁，治于胃管，胃管穴在心下，主腐谷熟水，变化胃中水谷之味，出血以营脏腑身形，如地气之蒸焉；下焦法水元，号下丹田也。其分野自脐中下膀胱囊及漏泉，下丹田之位受水元阳气，治于气海（在脐下一寸），府于气街者，气之道路也。三焦都是行气之主，故府于气街，街，乃四通八达之大道也。下焦主运行气血，流通经脉，聚神集精，动静阴阳，如水流就湿（湿即源，湿言水行赴下也），浇注以时，云气上腾，降而雨焉。

《仙经》云：我命在我，保精受气，寿无极也。又云：无劳尔形，无摇尔精，归心静默，可以长生。生命之根本，决在此道，虽能呼吸导引，修福修业，习学万法，得服大药，而不知元气之道者，如树但有繁枝茂叶，而无根茎，岂能久活耶？若以长夜声色之乐，嗜欲之欢，非不厚矣，卒逢夭逝之悲，永捐泉垅之痛，是则为薄亦已甚矣。若以积年终日，勤苦修炼，受延龄之方，依玉经之法，遵火食之禁，知元气之旨，拘魂制魄，留胎止精，此非不薄矣，卒逢长久之寿，永住云霄之境，是则为厚亦已甚矣。故性命之限，诚有极也，嗜欲之情，固无穷也，以有极之性命，逐无穷之嗜欲，亦自毙之甚矣。夫土能浊河，不能浊海，风能拔树，不能拔山，嗜欲之能乱小人，不能动君子，夫何故哉？君子乃处士也，小人乃游子也，须知性分有极，生涯难保，若不示之以枢机，传之以要道，宣之以心随，授之以精华，则片言旷代，一经皓首，不可得闻道矣。夫道者何所谓焉？道即元气也。元气者，命卒也。命卒者，惟中之术也。以存道为法，化精为妙，使气流行，运无阻滞。是故流水不腐，户枢不蠹。若知玄之又玄，男女同修，夫妇俱仙，斯谓妙道。

《仙经》云：一阴一阳谓之道，三元二合谓之丹，溯流补

脑谓之还，精化为气谓之转。一转一易一益，每转延一纪之寿，九转延一百八岁。西王母云：呼吸太和，保守自然，先荣其气，气为生源。所为易益之道，益者益精也，易者易形也。能益能易，名上仙籍；不益不易，不离死厄。行此道者，谓常思灵宝。灵者神也，宝者精也。但常爱气惜精，握固闭口，吞气吞液，液化为精，精化为气，气化为神，神复化为液，液复化为精，精复化为气，气复化为神，如是七返七还，九转九易，既益精矣，即易形焉。此易非是其死，乃是生易其形，变老为少，变少为童，变童为婴儿，变婴儿为赤子，即为真人矣。至此道成，谓之胎息。修行不倦，神精充溢，元气壮实，脑既已凝，骨亦换矣。

《仙经》云：阴阳之道，精液为宝，谨而守之，后天而老。又云：子欲长生，当由所生之门，游处得中，进退得所，动静以法，去留以度，可延命而愈疾矣。又云：以金理金，是谓真金；以人理人，是谓真人；人常失道，非道失人。人常去生，非生去人。要常养神，勿失生道，长使道与生相保，神与生相守，则形神俱久矣。王母云：夫人理气，如龙理水。气归自然，神归虚无，精归泥丸。水出高原，上入天河，下入黄泉，横流百川，终归四海。气之与水，循环天地，流注人身，轮转无穷，运行无极，人能治之，与天地齐其经，日月同其明矣。

《古诰记》云：人之元气，乃神魂之餽饌，故曰子丹进餽饌正黄。是以神服元气，形食五味，气清即神爽，气浊即神病。故常谓匀修炼气，常令气清，所谓炼神炼魂，却鬼制魄，使形神俱安。夫魂降于天谓之神，魄本于地谓之鬼，鬼即属阴，神即属阳，所以炼魂神，服元气，千万不死，身得升天；食五味，祝淫鬼，千万皆死，形没于地。夫魂飞于天，魄沉于泉，水火分解，各归本元，生则同体，死则相悬，飞沉各异，禀之自然。

何哉？如一条之木，以火燔之，烟即飞上，灰即下沉，亦是自然而然也。

《九皇上经》曰：始青之下月与日，两半同升合成一，出彼玉池入金室，大如弹丸黄如橘，中有佳味甜如蜜，子能得之慎勿失。注云：交梨火枣，生在人体中，其大如弹丸，其黄如橘，其味甚甜，其甜如蜜，不远不近，在于心室。心室者，神之舍，气之宅，精之主，魂之魄。玉池者，口中舌上所出之液，液与神气一合，谓两半合一也。

《太清诰》云：许远游与王羲之书曰，夫交梨火枣者，是飞腾之药也。君侯能剪除荆棘，去人我，泯是非，则二树生君心中矣，亦能叶茂枝繁，开花结实，君若得食一枝，可以运景万里。此则阴丹矣。但能养精神，调元气，吞津液，液精内固，乃生荣华，喻树根壮叶茂，开花结实，胞孕佳味，异殊常品。心中种种，乃形神也。阴阳乃日月雨泽，善风和露，润沃溉灌也。气运息调，荣枝叶也。性清心悦，开花也。固精留胎，结实也。津液流畅，佳味甜也。古仙誓重，传付于口，今以翰墨宣授，宜付奇人矣。道林云：此道亦谓玉醴金浆法。玉醴金浆，乃是服炼口中津液也。一曰精；二曰泪；三曰唾；四曰涕；五曰汗；六曰溺。人之一身，有此六液，同一元气，而分配五脏六腑、九窍四肢也。知术者，常能岁终不泄，所谓数交而不失出，便作独卧之仙人也。常能终日不唾，恒含而咽之，令人精气常存，津液常留，面目有光。

《老子节解》云：唾者，溢为醴泉聚，流为华池府，散为津液，降为甘露，漱而咽之，溉藏润身，通宣百脉，化养万神，支节毛发，坚固长春，此所谓内金浆也，可以养神明，补元气矣。若乃清玉为醴，炼金为浆，化其本体，柔而不刚，色莹冰雪，气夺馨香，饮之一杯，寿与天长，此所谓外金浆也。可以



固形体，坚脏腑矣。又常使身不妄出汗，汗是神之信，元调而运动微汗者，适致也，乃勿冲冷风。若极劳形，盗失精汗者，（雨脉）霖不止，大困神形，固当缓形徐行，劳而不极，坐卧勿及疲倦。行立坐卧，常能消息从容，导引按摩消息，令人起立轻健，意思畅逸。又常伺候大小二事，无使强关抑忍，又勿使失度，或涩或寒或滑多，皆伤气害生，为祸甚速。此所谓知进退存亡，圣人之道也。

夫圣凡所共宝贵者，命也；贤愚所共爱惜者，身也。是故圣人以道德、仁义、谦慈、恭俭、天文、人事、预垂瑞兆以示君子也；礼乐、征伐、法律、刑典、鬼神、卜筮、梦觉、警象以示小人也。夫养生之要，先诫其外，后慎其内，内外寂静，此谓善入无为也。欲求无为，先当避害，何者？远嫌疑，远小人，远苟得，远行止，慎口食，慎舌利，慎处闹，慎力斗，常思过失，改而从善。又能通天文，通地理，通人事，通鬼神，通时机，通术数。是则与圣齐功，与天同德矣。夫术数者，莫过修神，淘炼真气，使年延疾愈；外攘邪恶，清静心身，使祸害不干。

《道德论》曰：大中之象，莫高乎道德，次莫大乎神明，次莫广乎太和，次莫崇乎天地，次莫著乎阴阳，次莫明乎圣功。夫道德可道不可原，神明可生不可伸，太和可体不可化，天可行不可宣，阴阳可用不可得，圣功可观不可言。是知可道非自然也，可明非素真也。

夫修无为入真道者，先须保道气于体中，息元气于藏内，然后辅之以药物，助之以百行，则能内愈万病，外安万神，内气归元，外邪自却。却灾害于外，神道德于内，内外相济，保守身命，岂不善乎？

《老子》云：功成名遂身退，天之道。又云：功成事遂，

百姓谓我自然。又云：修之于身，其德乃真；修之天下，其德乃普。以身观身，以天下观天下，吾何以知天下之然哉？以此，夫何？故教天子则为事法天，教诸侯则以政理国，教用兵则不敢为主，教利器则不可示人，教处世则和光同尘，教出家则道与俗反，教养性则谷神不死，教体命则善寿不亡，教修身则全神具炁，教修心则虚心守道，教见前则常善救物，教冥报则神不伤人，所谓事少理长，由人备授。其得也者，则骨节坚强，颜色悦泽，老而还少，不衰不朽，长存世间，长生久视，寒温风湿不能伤，鬼神精魅不敢犯，五兵百虫不敢害，忧悲喜怒不为累。常以六经训俗，方士授术，此其真得道要矣。

真人云：圣人知元气起于子，生于肾，胞于巳，胎于午，故存于心，息于火，养于未土，生于申金，沐浴于酉，冠带于戌土，官荣于亥，帝王于子水，衰于丑土，病于木寅，死于震卯，墓于巽辰。墓即葬也，葬者藏也、归者，终也。元气，元始于水，归终于风，藏风于土，是谓归魂（巽即风也，辰即土也），水之所流，归于辰也，故云地缺于东南，水流于巽户。《列子》云：海之表有大壑焉，号为尾闾，是大水泄去之所。人之元气，亦有尾闾之壑，故象于水焉。是知土藏其风，风藏其土，土藏其水，水藏其土，土藏其火，火藏其土（火所以墓在戌土，水所以墓在辰土也），土藏其木，木藏其土，土藏其金，金藏其土，木所以墓在未土，金所以墓在丑土，土能藏木、金、水、火，而土自亦归于土，故墓亦在辰土，是谓還元返本、归根复命之道。

《老子》云：夫物芸芸，各归其根，归根曰静，静曰复命，复命曰常，知常曰明。是谓知常道之理，会可道之事，即知明白之路，达坦平之涯。故曰：知其白，守其黑，为天下式。知常容，容乃公，公乃王，王乃天，天乃道，道乃久，是谓公道。

盗之公道，盗之天地，万物无不通容。

《阴符经》云：三盗既宜，三才既安。故曰食其时，百骸理；动其机，万化安。真人云：知此道者，即识真水真火、真铅真汞、真龙真虎、真牙真车、真金真石、真木真土、真丹真药、真神真气、真物真精、真客真主，既皆认得其真，然乃依师用师，依道用道，依术用术，依法用法，修之炼之，淘之汰之，研之精之，调之习之，仙人所以目八字妙门，一元真法，谓之“虚心实腹，饥气渴津”八字是也。诀云：常能虚寂一心，善亦不贮，岂况一尘秽恶！所谓静心守一，除欲止乱，众垢除，万事毕，恒使腹中饱实，所谓腹中无滓秽，但有真精元气，淘汰修炼不辍，自然开花结实矣。饥即吞气，渴即咽津，不饥不渴即调习，使周流通畅，不滞不隔，蠢蠢陶陶，滔滔乐乐，不知天地大小，不知日月回转，可以八百一十年为一大运耳。

夫修炼法者，言调和神气，使周流不竭绝于肾。肾乃命门，故曰命术也。神气不竭，则身形长生，炼骨化形，游于帝庭，位为真人，以养元气，男女俱存。《经颂》云：道以精为宝，宝持宜密秘，施人则生人，留己则生己，生己永度世，名籍存仙位，人生则陷身，身退功成遂。结婴尚未可，何况空废弃，弃捐不觉多，衰老而命坠。天地有阴阳，元气人所贵，贵之合于道，但当慎无贵。夫能养其元，绵绵服其气，转转还其精，冲融妙其粹。

夫能服元气者，不可与饵一叶一花、一草一木、灵芝金石之精滞，砂砾之滓秽，同日同年而语哉！《老子》云：精者，血脉之川源，守骨之灵神，故重之以为宝；气者，肌肉之云气，固形之真物，故重之以为生。人之一身，法象一国，神为君，精为臣，气为民。民有德，可为尊，君有道，可以永久有天下。是以能养气有功，可化为精；养精有德，可化为神；养神有道，

可化为一身，永久有其生。

《三一诀》云：修炼元气真神，三一存至者，即精化为神，神化为婴儿，婴儿化为真人，真人化为赤子。赤子乃真一也，一乃帝君也，能统一身，主三万六千神。帝若在身，三万六千神无不在也，故能举其身游帝庭。

《天老十干经》云：食气之道，气为至宝，一岁至肌肤充荣，二岁至机关和良，三岁至骨节坚强，四岁至髓脑填塞（填塞，满塞也）。天有四时，气应四岁，食气守一，功备四年，则神与形通。形能通神，如日明焉，不视而见形，不听而闻声，不行而能至，不见而知之，所谓形一神千，得称为仙，形一神万，得称婴儿，形一神万八千，得称真人，形一神三万六千，得称赤子，即真一帝君矣。与日月长生，天地齐龄，道之成矣。

夫元气有一，用则有二，用阳气则能飞行自在，朝太清而游五岳；用阴气即能住世长寿，适太阳而游洞穴。是谓元气一性，阴阳二体，一能生二，二能生三，三生万物。万物若不得元气，分阴阳之用，即万物无由得生化成长。故神无元气即不灵，道无元气即不生，元气无阴阳即不形。形须有气，气须有阴阳，阴阳须有精，精须有神，神须有道，道须有术，术须有法，法须有心，心须有一，一须有真，真须有至，至无至虚，至清至净，至妙至明。至至相续，亲亲相授，授须其人，非道勿与。

人能学道，是谓真学，学诸外事，是谓淫学，亦谓邪道。夫学道谓之内学，内学则身内心之事，名三丹田三元气。一丹三神，一气分六气，阳则终九，阴则终六，阳九百六，天地之极，亦人之极，至此谓之還元返本。夫云极者，元气内藏，尽无出入之息，兼为有窍作出入息处，亦皆并无出入之息，此名得道，谓之至无也。

《真经》曰：修炼元气，至无出入息，是落籍逃丁之士，不为太阴所管，三官不录，万灵潜卫矣。夫称混元者，气也。周天之物，名之混元。混元之气者，本由风也。风力最大，能载持天地三才五行，天地三才五行，不能大其风，风气俱同一体，而能开花拆柳，结实成果，莫不由其四气八风也。

夫修心是三一之根，炼气是荣道之树，有心有气，如留树留根。根即心也，存心即存气，存气即存一。一即道也，存道即总存三万六千神，而总息万机。总息万机，即无不为，而无不为，即至丹见矣。服至丹者，与天地齐年。

何谓至丹？至丹即丹田真神，真一帝君存身为主，众神存体，元气不散，意绝淫荡，气遵禀其神，禁束其故气，至无出入之息，能胎息者，命无倾矣。谓形留气住，神运自然。

罗公远《三岑歌》云：“树衰培土，阳衰气补，含育元气，慎莫失度。”注云：无情莫若木，木至衰朽，即尘土培之，尚得再荣。又见以嫩枝接续老树，亦得长生，却为芳嫩。用意推理，阳衰气补，固亦宜尔。衰阳以元气补而不失，取其元气津液返于身中，即颜复童矣。何况纯全正气未散，元和纯一，遇之修炼，其功百倍！故学道切忌自己元气流奔也。

真人云：夫修炼常须去鼻孔中毛，宣降五脏六腑谷滓秽浊，洗漱口齿，沐浴身体，诫过分酒，忌非适色。遇饮食先捧献明堂前，心存祭祀三丹田、九一帝真、三万六千神君。恒一其意，专调和神气，本末来去，常令息匀，如此坚守，精气得固，即学节气。节气时先闭口，默察外息从鼻中入，以意预料入息三分，而节其一分令住，入讫，即料出息三分，而节其一分，凡出入各节一分，如此不得断绝。夫节气之妙，要自己意中与鼻相共一则节之，其气乃便自止，惊气之出入，人不节之，其气乃亦自专出入，若解节之，即不敢自专出入，是谓节之由人不

由气也。

夫气与神，复以道为主，道由心，心由意，即知意为道主，意亦可谓之神也。大约神使其气，以意为妙，鼻失出口，亦劳闭之，舌柱齿，觉小闷，闷即微微放之，三分留一，却复闭之。如上所说，当节气令耳无闻、目不见、心无思，周而复始调习之。气未调和，常放少许出，意度气和，即如法节之。若意能一日节之，然如常息者，其气即永固，不假放节，但勤用功，即气自永息，不从口鼻出入，一一自然从皮肤毛孔流散，如风云在山泽天地，自然自在。

《仙经》云：元气调伏，常常服之，不绝不竭，自不从口鼻出。修炼百日已来，耳目自然不闻见也。修炼之人，切不得乱食。凡味即令元气奔突，又不能清净其心。不依教法，唯贪财色，嗜欲妒嫉，恣食辛秽，怀毒抱恶，不敬仙法，但务偷窃，违负背逆为凶者，三官书过，北阴召魂，未死之间，精神亡失，忘前忘后，如騃如痴，醉乱昏迷，横遭殃祸，延于九祖，形谢九泉，此盖失道，负神明矣。

真人曰：夫道者，无义而无恩。子不见《阴符经》云，天之无恩而大恩生，天之至私，用之至公，禽之制在气，生者死之根，死者生之根，恩生于害，害生于恩。”故天与道，不私于人，乃万物而言恩，人与万物自有感仰之心，归恩于天道，不恃其功，至公至私，与物不怀其曲直，洪纤一体，贵贱同途，弃爱惜于坦然，绝去留于用意，是以顺天时者见生，逆天意者见杀。杀非以私，生非以公，但随人物逆顺，自然而致其生杀也，故曰无义而无恩。夫道可及者，虽仇讎而必化；道不可及者，虽父母而终不可言。盖夙分有无，一一出于天籍，且非一夕一朝而得偶会。生所化者曰死，死所化者曰生，生死之根，反复为常。盖善于生者，不为死之行；不善于生者，为死之行。

得死之行为其死，为生之行得其生。故得生者，莫不由于气，气所以能化于生则生；化于死则死。故曰禽之制在气者，唯以气感，不以力为。气感自于虚无，而能制于万有，至于天地日月、星宿云雷，并赖气之所转运，使不失坠落。巍巍乎，荡荡乎，无始终，安其所动，乐其所静，是谓道气自然。若以身之禽制在气者，实由乎心，不能禽制者，亦心也。

夫居于尘世，唯利与名，于中能不谄不偷，无贼无害，于物不伤和气，每怀亨育之心，斯近仁焉。不贪不争，无是无非，斯亦近乎道焉。非内非外，宝而持之，自有阴灵书其福佑，灾害远去，祸横难侵，自感上天下察，益算延龄，大道之元，兹为始也。夫惠及人物曰恩，侵毁人物曰害，行恩则福生，行害则祸至。莫忌对镜求象，从感生疑，罔类之中，狂痴之鬼，乱则难宁六寸，倾动百神，斯须之间，本则亡矣，诚深诫之（元气有六寸，内三寸，外三寸。人能保一寸，延三十年寿。若保固六寸，则万神备体，自然永保长生。失一寸，减三十年之寿）。

《元气诀》云：天地自倾，我命自然。黄帝求玄珠，使离娄不获，罔象乃获者，玄珠气也，离娄目，罔象心也。元无者，道体虚无自然，乃无为也。无为者，乃心不动也。不动也者，内心不起，外境不入，内外安静，则神定气和，神定气和，则元气自至，元气自至，则五脏通润，五脏通润，则百脉流行，百脉流行，则津液上应，而不思五味饥渴，永绝三田，道成则体满藏实，童颜长春矣。

夫元气修炼，气化为血，血化为髓，一年易气，二年易血，三年易脉，四年易肉，五年易髓，六年易筋，七年易骨，八年易发，九年易形，从此延数万岁，名曰仙人。九年是炼气为形，名曰真人。又炼形为气，气炼为神，名曰至人。

《仙经》云：神常爱人，人不爱神。神常爱者，籍身以养灵也。人若造凶作恶，即陷坏身，身既毁败，神乃去人，神去人死，得不惊哉！所谓不知常，妄作凶也。黄帝求道于皇人，皇人问所得者，凡一千二百事，乃谓曰：子所得皆末事也。又曰：子欲长生，三一当明。夫三一者，乃上皇黄策之首篇也，能知之者，万祸不干。

夫长生之术，莫过乎服元气，胎息内固，灵液金丹之上药，所以禽虫蛰藏，以不食而全，盖是息待其元气也。节气功成，即学咽气，但合口作意，微力如咽食一般。咽液咽气，皆如咽食，存想入肾入命门穴，循脊流上溯入脑宫，又溉脐下至五星。五脏相逢，内外相应，各各有元气管系连带，若论元气流行，无处不到。若一身内外疾病之处，以意存金、木、水、火、土五色，相刻相生，以意注之，无不立愈。又有妙诀，虽云呵、咽、呼、吹、嘘、唏一六之气，不及冷、暖二气以愈百病。夫节气从容稍久，含气候暖而咽之，谓之暖气，可愈虚冷；若才节气，气满便咽，谓之冷气，可愈虚热。临时皆以意度而行。又或有病，但以呵呵十至三十，知其应验，酒毒、食毒俱从呵气并出。若人能专心服元气，更须专念于一，存而祝之，可与日月同明矣。

夫天得一以清，天既泥丸，有双田宫、紫宫，亦曰脑宫。宫有三焉，丹田、洞房、明堂，乃上三一神所居也。其名赤子、帝卿、元先，常存念之，即耳聪目明，鼻通脑实矣。地得一以宁，地即脐中气海，亦有丹田、洞房、明堂三宫，下三一神所居也，其名婴儿、元阳、谷玄，存念之永久，即口不乏津，腹实心寂，不乱不惑，自通神灵矣。神得一以灵，即心主于神，心为帝王，主神气变化，感应从心，非有非无，非空非色，从粗入细，从凡入圣，心为绛宫，亦有丹田、洞房、明堂三宫，



三一神所居也，其名真人、子丹、光坚，存念不绝，即帝一不离身心，身心安宁，遇白刃来逼，但当念一，一来救人，必得免难，道不虚言。其三丹田，其神九人，皆身长三寸，并衣朱衣、朱冠帻、朱履，坐金床玉榻，机按金炉，常依形象存而念之（一云男即一神，长九分，女长六分，其两存注之）。夫元命者，元气也。有身之命，非气不生，以道固其元，以术固其命，即身形神气永长存矣。我命之神，即三丹田之三一神也。其形影精光气色，凡三万六千神，皆臣于帝一。一分二，谓阳气化为元龙，阴气化为玉女。诀云：气之所在，神随所生，神在气即还，神去气即散。若能存念其神，以守元气，气亦成神，神亦成气。修之至此，气合则为影精光气色，气散则为云雾风雨。出即为乱，入即为真，上结三元，下结万物，静用为我身，动用为我神。形神感应，在乎运用；神气变化，在乎存念。《三元经》云：上元神名曰元，中元神名还丹，下元神名子安，亦须如三一九神，专存念之。凡出入行住坐起，所遇皆然，精意专念，玄之又玄，道之极秘矣。

## 卷五十七 诸家气法部二

服气精义论（并序）      天台白云撰

夫气者，道之几微也。几而动之，微而用之，乃生一焉，故混元全乎太易。夫一者，道之冲凝也。冲而化之，凝而造之，乃生二焉。故天地分乎太极。是以形体立焉，万物与之同稟；精神著焉，万物与之齐受。在物之形，唯人为正；在象之精，唯人为灵。并乾坤居三才之位，合阴阳当五行之秀，故能通玄降圣，炼质登仙，隐景入虚。无之心至妙，得登仙之法，所学多途。至妙之至，其归一揆，或消飞丹液，药效升腾，或斋戒存修，功成羽化。然金石之药，候资费而难求；习学之功，弥岁年而易远。若乃为之速效，专之剋成，与虚无合其道，与神灵合其德者，其唯气乎！黄帝曰：食谷者知而夭，食气者神而寿，不食者不死。真人曰：夫可久于其道者，养生也；常可与久游者，纳气也。气全则生存，然后能养志，养志则合真，然后能久登，生气之域，可不勤之哉！是知吸引晨霞，餐漱风露，养精源于五脏，导荣卫于百关，既祛疾以安形，复延和而享寿。闭视听以胎息，返衰朽以童颜。远取于天，近取于己，心闲自适，体逸无为，欣邈关于百年，全浩然于一室，就轻举之诸术，置清虚之雅致欤！若兼真之业，炼化之功，则伫云輶而促期，

驰羽驾而憎远矣。服气之经颇览多本，或散在诸部，或未畅其宗。观之者，以不广致疑，习之者，以不究无效。今故纂类篇目，详精源流，庶螻蛄之兼济，岂龟龙之独善耳。凡九篇如后：

### 五牙论第一

夫形之所全者，本于脏腑也；神之所安者，质于精气也。虽禀形于五神，已具其象，而体衰气耗，乃致凋败。故须纳云牙而溉液，吸霞景以孕灵，荣卫保其纯和，容貌驻其朽谢。加以久习成妙，积感通神，与五老而齐升，并九真而列位。经文所载，以视津途，修学所遵，自宜详核。服真五牙法，每以清旦，密咒曰（经文不言面当宜各向其方，平坐握固，闭目，即叩齿三通，而祝中央向四维）：

东方青牙，服食青牙，饮以朝华。祝毕，舌料上齿表，舐唇漱口，满而咽之三；

南方朱丹，服食朱丹，饮以丹池。祝毕，舌料下齿表，舐唇漱口，满而咽之三；

中央戊己，昂昂太山，服食精气，饮以醴泉。祝毕，舌料上玄，应取玉水，舐唇漱口，满而咽之三；

西方明石，服食明石，饮以灵液。祝毕，舌料上齿内，舐唇漱口，满而咽之三；

北方玄滋，服食玄滋，饮以玉饴。祝毕，舌料下齿内，舐唇漱口，满而咽之三；

都数毕，以鼻内气，极而徐徐放之，令五过已，上真道毕矣（意调诸方，亦宜纳气，各依其数。即东方九、南方三、中央十二、西方七、北方五）。又曰：先师益中央醴泉，祝曰：

白石严严以次行，源泉涌洞以玉浆，饮之长生，寿命益长（如此语以下，乖本文，应不烦耳）。此是《灵宝五符经》中法，《上清经》中别有四极云牙之法，其道密秘，不可轻言。

凡服气，皆先行五牙，以通五脏，然后依常法，乃佳。

东方青色，入通于肝，开窍于目，在形为脉，

南方赤色，入通于心，开窍于舌，在形为血；

中央黄色，入通于脾，开窍于口，在形为肉，

西方白色，入通于肺，开窍于鼻，在形为皮；

北方黑色，入通于肾，开窍于耳，在形为骨。

又：肺为五脏之华盖第一，肺居心上，对胸，有六叶，色如缟映红，肺脉出于少高（左手大指之端内侧，去爪甲二分许，掐者之中）；心居肺下肝上，对鸠尾下一寸，色如缟映绛，心脉出于中冲（左手中指之端，去爪甲之二分许，掐者之中）肝在心下，小近后，右四叶，左三叶，色如缟映紺，肝脉出于大敦（左足大指端，乃三毛之中）；脾正掩脐上，近前，横覆于胃，色如缟映黄，脾脉出于隐白（左足大指端侧，去爪甲角如韭叶）；左肾、右肾，前对脐，搏著腰脊，色如缟映紫，左为正肾，以配五脏，右为命门，男以藏精，女以系胞，肾脉出为涌泉（左足心，掐者之中）。

凡服五牙之气者，皆宜思入其脏，使其液宣通，各依所主，既可以周流形体，亦可以攻疗疾病。令服青牙者，思气入肝中，见青气氤氲，青液融融分明，良久，乃见足大敦之气，循服而至，会于脉中，流散诸脉，上通于自然。次服诸方，仍宜以丑后，澡漱冠服，入别室焚香，坐向其方，静虑澄心，注想而为之。

## 服气论第二

夫气者，胎之元也，形之本也。胎既诞矣，而元精已散；形既动矣，而本质渐弊。是故须纳气以凝精，保气以炼形，精满而神全，形休而命延，元本既实，可以固存耳。观夫万物，未有有气而无形者，未有有形而无气者。摄生之子，可不专气而致柔乎！

### 太清行气符

欲服气断谷，先书向王吞之，七日吞一，三七日止，合符三枚，皆烧五香左右。

凡欲服气者，皆宜先疗身疹疾，使脏腑宣通，肢体安和，纵无旧疹，亦须服药去疾饮，量体冷热，服一两剂泻汤，以通泄肠胃，去其积滞。吐泻方在后。将息平复讫，乃清斋百日，敦洁操志，其间所食，渐去酸咸，减绝滋味，得服茯苓、蒸曝胡麻等药，预断谷为佳。服气之始，亦不得顿绝其药食，宜日日减药，宜渐渐加气，气液流通，体藏安稳，乃可绝诸药食，乃须兼膏饵消润之药助之。勿食坚涩、滓滞、冷滑之物。久久自觉肠胃虚，全无复饥渴。消息进退，以意自量，不可具于此述。

宜于春秋二时，月初三日后、八日前，取其一吉日为始，先服太清行气符，计至其日，令吞三符讫，于静室东向，得早朝景为佳。于东壁开一窗，令日中光正对卧，面此室之东，勿令他障隔。以子时之后，先解发梳头数百下，便散发于后矣（初服须如此，久后亦不须散发也）。烧香（勿用薰陆香），东向正坐，澄心定思，叩齿导引（其法具后篇）。又安坐定息，

乃西首而卧（本经皆云东首，然面则向西，于存息吸引，殊为不便），床须厚暖，所覆适温，自得，稍暖为佳，腰脚已下左右宜暖，其枕宜令低下，与背高下平，使头颈顺身平直，解身中衣带，令阔展，两手离身三寸，仍握固，两脚相去五六寸，且徐吐气，息令调。然后想之东方初曜之气，共日光合丹于流晖，引此景而来至于面前，乃以鼻（先拔鼻孔中毛，初以两手大指下掌按鼻左右，上下动之十数过，令通畅）微引吸，而咽之（久久乃不须引吸，但存气而咽之，其气自入，此便为妙）。咽之三，乃入肺中。小开唇，徐徐吐气，入气有缓急，宜在任性调息，必不得顿引，至极则气粗，粗则致损。又引咽之三，若气息长，加至五六咽，得七尤佳。如此，以觉肺间大满为度，且停咽，乃闭气，存肺中之气，随两肩入臂至手握中入，存下入于胃，至两肾中，随髀至两脚心中，觉皮肉间习习如虫行为度。讫，任微喘息少时，待喘息调，依法引导送之，觉手足润温和调畅为度（诸服气方，直存入腹，不先向四肢，故致四肢送冷，五脏壅滞。是以必须先四肢，然后入腹，即气自然流宣也）。此后不复须存在肺，直引气入大肠、小肠中，鸣转通流脐下为度，应如此，以肠中饱满乃止。则竖两膝，急握固闭气，鼓腹九度，就鼓中仍存其气散入诸体，闭之欲极，徐徐吐之，慎勿长。若气急，稍稍并引而吐之若觉腹中阔，此一极则止，如腹犹满急，但闭气鼓之。讫，舒脚，以手摩面，将胸心而下数十度，并摩腹绕脐，手十数度，展脚趾向上，反偃数度，乃放手纵体，忘心遗形，良久，待气息关节调平，讫，乃起。若有汗，以粉摩拭头面颈项。平坐，稍动摇关节，体和如常，可起动。其中随时消息，触类多方，既不云烦述，善以意调适之。

又服气所以必令停于肺上，入于胃至于肾者何？肺藏气，气之本也。诸气属于肺。夫气通于肺，又肺者，藏之长也，为

诸藏之华盖，呼吸之津源，为传送之官，治节出焉。又魄门为五脏之使，为四藏之主，通于十二经脉，周而复始，故为五脏使也。故令气停于肺，而后流行焉。胃者，五脏六腑之海也，水谷皆入于胃，六腑之大王也。五脏六腑皆禀于胃、五味入胃，各走其家，以养五气。是以五脏六腑之气，皆出于胃，变见于气口故也。肾者，生气之源，五脏六腑之本，十二经脉之根，左为正肾，右为命门，故令气致于肾，以益于其精液。天食人以五气，地食人以五味。五气入于鼻，藏于心肺；五味入于口，藏于肠胃。味有所藏，以五气和而生津液，气液相感，神乃自生（五味，岂独其谷而五味？气中自有其味，又兼之以药，药之五味尤胜其谷）。此虽只论肺肾，其气亦自然流通诸脏，故曰：呼出心与肺，吸入肾与肝，呼吸之间脾受其味也。呼吸之理，乃神气之要，故太上问曰：人命在几间？或对曰：在呼吸之间。太上曰：善哉！可谓为道矣。

凡服气，皆取子后、午前者，鸡鸣至平旦，天之阴，阴中之阳也；平旦至日中，天之阳，阳中之阳也；日中至黄昏，天之阳，阳中主阴也；黄昏至鸡鸣，天之阴，阴中之阴也。人亦如是。又：春气行于经络，夏气行于肌肉，秋气行于皮肤，冬气行于骨髓。又：正月、二月，天气始方，地气始发，人气在肝；三月、四月，天气正方，地气正发，人气在脾；五月、六月，天气盛，地气高，人气在头；七月、八月，阴气始杀，人气在肺；九月、十月，阴气冰，地气始闭，人气在心；十一月、十二月，冰复地气合，人气在肾。至四时之月，宜各依气之所行，兼存而为之。

凡服气，皆取天景明澄之时为好。若恒风雨晦雾之时，皆不可引吸外气。但入密室，闭服内气，加以诸药也。

凡服气断谷者，一旬之时，精气微弱，颜色萎黄；二旬之

时，动作瞑眩，肢节怅恨，大便苦难，小便赤黄，或时下痢，前刚后溏；三旬之时，身体消瘦，重难以行（已前羸弱之候，是专气初服所致。若以诸药，不至于此也），四旬之时，颜色渐悦，心独安康；五旬之时，五脏调和，精气内养；六旬之时，体复如故，机关调畅；七旬之时，心恶喧烦，志愿高翔；八旬之时，恬淡寂寞，信明术方；九旬之时，荣华润泽，声音洪彰；十旬之时，正气皆至，其效极昌。修之不止，年命延长。三年之后，瘢痕灭除，颜色有光；六年髓填，肠化为，预知存亡；经历九年，役使鬼神，玉女侍傍，脑实胁胷，不可复伤，号曰真人也。

《五灵心丹章》（行之十五日，心澄心通；五年当身心俱通）：

《东方长生章》：一气和太，得一道皆太，和乃无不和，玄理同玄际。右诵九十遍，气不调，存诵之便调。

《南方不饥章》：不以意思意，亦本求无思，意而不以思，是法如是持。右诵三十遍，饥时存诵之便饱。

《中央不热章》：诸食气结气，非诸久定结，气归诸本气，随取当随泄。右诵一百二十遍，热时存诵之便凉。

《西方不寒章》：修理志离志，积修不符离，志而不修志，己业无己知。右诵七十遍，寒时存诵之便暖。

《北方不渴章》：莫将心缘心，还莫住绝缘，心存莫存心，真则守真渊。右诵五十遍，渴时存诵之便不渴。

所主寒热等，本文如此。然放五脏之义，乃有所乖，唯渴诵北方章是。谓今为魂神不宁，诵东方章，寒诵西方章，饥诵南方章，渴诵北方章，热诵中央章，亦可以五脏行之，以义消息为之。诵既不论早晚，然以子午前为佳。诵五方数毕，即诵《大道赞》一遍：



大道无形，因物为名，乾坤万品，秀气乃成。既受新质，惟人抱灵，五行三才，秋杀春生。四九宝偈，除诵守精，修奉太和，不亏不盈。嚼之无味，嗅之无馨，察之无色，和之无声。坐卧无所，行走无程，游历太空，湛尔黄庭。动而不去，住而不宁，无营无作，无视无听。非聚非散，非离非并，非巨非细，非重非轻。非黄非白，非赤非青，道高黄老，晓朗其情。太上要章，封密金城，子得闻之，命合真星。

此《五灵章》既可通五脏气，每宜通诵之，仍各存藏位。其文有苦、寒、热、饥、渴者，始可别诵章尔。当面向其方坐，闭目澄神，闭口心诵，仍动舌触料口中，令津液生，微微引气而咽之，各入其藏中。此法专行，应至虚憊，兼以符水，药味，则不致羸顿矣。

服六戊气法：气旦先从甲子旬起，向辰地，舌料上下齿，取津液，周旋三至而一咽，止。次向寅，次向子，次向戌，次向申，次向午。又法起甲子日，匝一旬，恒向戌辰咽气，甲戌日则向戌寅，余旬依为之。此六戊法，亦是一家之义。以戊气入于脾，为仓廩之本，故也。此真不饥，若通益诸体，则不逮馀法矣。

服三五七九气法：徐徐以鼻微引气，内之三，以口吐死气，久久便三气；次后引五气，以口一吐死气，久久便五气；次引七气，以口一吐死气，久久便七气；次引九气，以口一吐死气，久久便九气。因三五七九而并引之，以鼻二十四气内之，以口一吐死气，久久便二十四气。咽逆报之法，因从九数下到三，复顺引之咽，可九九八十一咽气，而一吐之以为节也。此法以入气多，吐气少为妙。若不作此限，数渐增入，则意于常数之耳。死气者，是四时五行休死之气，存而吐之。自馀节度，仍依常法。

养五脏五行气法：春以六丙之日，时加巳，食气百二十致于心，令心胜肺，无令肺伤肝，此养肝之气也；夏以六戊之日，时加未，食气百二十以助脾，令脾胜肾，则肾不伤于心也；季夏以六庚之日，时加申，食气百二十以助肺，令肺胜肝，则肝不伤于脾也；秋以六壬之日，时加亥，食气百二十以助肾，令肾胜心，则心不伤于肺也；冬以六甲之日，时加寅，食气百二十以助肝，令肝胜脾，则脾不伤于肾也。

右此法是五行食气之要，明时各有九，凡一千八十，食气各以养藏，周而复始，不得相刻，精心为之（此法是一家之义，所在五脏事，事具在五牙论中）。

### 导引论第三

夫肢体关节，本资于动用，经脉荣卫，实理于宣通，今既闲居，乃无运役事，须导引以致和畅，户枢不蠹，其义信然。人之血气精神者，所以奉生而周其性命也。脉经者，所以行血气也。故荣气者，所以通津血、强筋骨、利关窍也；卫气者，所以温肌肉、充皮肤、肥腠理、司开阖也。又：浮气之循于经者，为卫气；其精气之行于经者，为荣气。阴阳相随，内外相贯，如环之无端也。又：头者，精明之腑；背者，胸之腑；腰者，肾之腑；膝者，肝之腑；髓者，骨之腑。又：诸骨皆属于目，诸髓皆属于脑，诸筋皆属于节，诸血皆属于心，诸气者皆属于肺。此四肢八环之朝夕也。是知五劳之损，动静所为，五禽之导，摇动其关，然人之形体，上下相承；气之源流，升降有叙。比日见诸导引文，多无次第，今所法者，实有宗旨。其五体平和者，依常数为之；若一处有所偏疾者，则于其处加数用力行之。

凡导引，当以丑后、卯前，天气清和日为之。先解发，散梳四际，上达顶，三百六十五过，散发于后，或宽作髻亦得。烧香，面向东，平坐握固，闭目思神，叩齿三百六十过，乃纵体平气，依次为之。先闭气，以两手五指交叉，反掌向前，极引臂，拒托之良久，即举手反掌向上极臂，即低左手，力举右肘，令左肘臂按著后项，左手向下力牵之，仍亚向左，开右腋努肋为之，低右举左亦如之，即低手钩项，举两肘，偃胸，仰头向后，令头与手前后竞力为之，即低手钩项，摆肘綰身，向左向右，即放手两膝上，微吐气通息，又从初为之三度（云云）。

#### 符水论第四

夫符文者，云篆明章，神灵之书字也。书有所象，故神气存焉，文字显焉。有所生，故服用朱焉，夫水者，气之津，潜阳之润也。有形之类，莫不资焉，故水为气母，水洁则气清；气为形本，气和则形泰。虽身之荣卫自有内液，而腹之脏腑亦假外滋。即可以通肠胃，为益津气，又可以导符灵，助祝术。今撰诸符水之法，以备所用，可按而为之焉。符在本经。

#### 服药论第五

夫五脏通荣卫之气，六腑资水谷之味。今既服气，则脏气之有馀，又既绝谷，则腑味之不足。《素问》曰：谷不入半日，则气衰；一日，则气少。故须诸药以代于谷，使气味兼致脏腑而全也。清阳为天，浊阴为地；清阳出上窍，浊阴出下窍；清阳发腠理，浊阴走五脏；清阳实四肢，浊阴实六腑；清阳为气，

浊阴为味。味归形，形归气，气归精，精食气，形食味。气为阳，味为阴。阴胜则阳病，阳胜则阴病，和气以通之，味以实之，通之则不怠，实之则不羸矣。今以草木之药，性味于脏腑所宜，为安脏丸、理气膏。其先无病疹，脏腑平和者，可常服此丸、膏，并茯苓、巨胜等丹服之药；若脏有疾者，则以所宜者增损之服；如先有痼疾，及别得馀患者，当别医攻疗，则非此之所愈也。其上清方药，各依本经，禀受者自宜遵服。

安和脏腑丸方：

茯苓桂心甘草（炙，已上各一两）人参柏子仁薯蓣麦门冬（去心，已上各二两）天门冬（四两）

右捣筛为散，白蜜和为丸，丸如梧桐子大。每服三十丸，日再服，以药饮下之，松叶、枸杞等诸药可为饮也。

滋润气液膏方：

天门冬煎（五升）黄精煎（五升）地黄煎（五升）术煎（五升，已上煎，各煎讫，相和著）茯苓（二两）桂心（二两）薯蓣（五两）泽泻（五两）甘草（三两，炙）

右并捣，以密绢筛令极细，内诸煎中；又内熟巨胜、杏仁屑三升，白蜜二升，搅令稠，重汤煮，搅勿令住手，令如膏便调强为佳，冷凝捣数千杵，密器贮固之。少出充服，每早晨以一丸如李核大，含消咽之，日再三。此药宜八月、九月合，至三月已来服之。若三月、二月中更煮一度，令稠硬，则经夏不复坏。

### 慎忌论第六

夫气之为理也，纳而难固，吐而易竭。难固须保而使全，易竭须惜而勿泄。真人曰：学道常如忆早餐，未有不得之者；

惜气常如惜面，未有不全之者。又曰：若使惜气常如一身之先急，吾少见于枯悴矣。其于交接言笑，务宜省约；运动呼叫，特须调缓；触类爱慎，方免所损矣。

夫人之为性也，与天地合体，阴阳混气，皮肤骨体，脏腑荣卫，呼吸进退，寒暑变异，莫不均乎二仪。应乎五行也。是知天地否泰，阴阳乱焉；脏腑不调，经脉之候病焉。因外所中者，百病起于风也；因内所致者，百病生于气也。故曰：恬憺虚寂，真气居之，精神内守，病从何来？信哉是言！故须知形神之性，而全之；辨内外之疾，畏而慎之。《素问》曰：天有宿度，地有经水，人有经脉。天地和则经水安静，寒则经水凝沍，暑则经水沸溢，卒风暴起，则经水波涌而陇起，或虚邪因而入客，亦由水之得风也。天温日明，则人血淖液而卫气扬；天寒日阴，则人血凝沍而卫气沉。血气者，喜温而恶寒，寒则沍而不能流，温则喜而去之。苍天之气清静，则志意治，从之则阳气固，贼邪不能容，此因时之孕也。月始生，则人血气始精，卫气始行；月郭满，则血气实，肌肉坚；月郭空，则肌肉减，经络虚，卫气去，形独居。是以因天时而调血气者也。若此时犯冒虚邪，则以身之虚，而逢天之虚，两虚相感，其起至骨，入则伤五脏，故曰天忌不可不知也。八正者，所以候八风虚邪以时至者也。八正之虚邪，避之如矢射，慎勿犯之。假令冬至之日，风从南来，为贼伤也。谓从虚之乡来，乃能病人也。他节仿此。阳气者，一日而主外，平旦人气生，日中阳气隆，日西阳气虚，气门乃闭，是故暮而收拒，无扰筋骨，无见雾露，反此三时，形乃困薄。

久视伤血久卧伤气久立伤骨久行伤 久坐伤肉，是谓五劳所伤也。忧愁思虑则伤心，形寒饮冷则伤肺，恚怒气逆、上而不下则伤肝，饮食劳倦则伤脾，久坐湿地，强力入水则伤肾。

人有五气：喜、怒、忧、悲、恐也。怒则气上，喜即气缓，悲则气消，恐则气下，寒即气聚，热则气泄，忧则气乱，劳则气耗，思则气结。喜怒不节，寒暑过度，气乃不固五。味所入：苦入心，辛入肺，酸入肝，甘入脾，咸入肾。阴之生，本在五味，是故味过于酸，则肝气以津，肺气乃绝；味过于）碱，则骨气劳，短肌，气折；味过于苦，则心气喘满，色黑，肾气不卫；味过于甘，则脾气濡，骨气乃厚；味过于辛，则脉沮弛，精神乃央。是故谨和五味，则骨正柔，气血以流，凑理以密。如是则气骨以精，谨道如法，长天有命。多食咸，则脉凝沍而变色；多食苦，则皮槁而毛拔；多食辛，则急而爪枯；多食酸，则肉胝𪔐而唇揭；多食甘，则骨痛而发落。此五味之所伤也。此论饮食之五味而药性亦有五味，服饵丸散，特宜慎之。服气之人，不宜食辛味，何者？辛走气，气病无食辛也。

### 五脏论第七

夫生之成形也，必资之于五脏，形或有废，而脏不可阙；神之为性也，必禀于五脏，性或有异，而气不可亏。是天有五星，进退成其经纬；地有五岳，静镇安其方位；气有五行，混化弘其埏埴；人有五脏，生养处其精神。故乃心藏神，肺藏气，肝藏血，脾藏肉，肾藏志。志通内连骨体，而成身形矣。又：心者，生之本，神之处也；肺者，气之本，魄之处也；肝者，罢极之本，魂之处也；脾者，仓廩之本，荣之处也；肾者，封藏之本，精之处也。至于九窍施为，四肢动用，骨肉坚实，经脉宣行，莫不禀源于五脏，分流于百体，顺寒暑以延和，保精气而享寿。且心为诸脏之主，主明则运用宣通，有心之子，安可不悟其神之理邪？

脏有要害，不可不察。肝生于左，肺生于右，心部于表，肾位于里，脾为之使，胃为之市。心为之汗，肺为之涕，肝为之泪，脾为之涎，肾为之唾，是谓五液。心为噫，肺为咳，肝为语，脾为笑，肾为嚏。天气通于肺，地气通于肝，雷气通于心，谷气通于脾，雨气通于肾。五脏各有所合：心之合于脉也，其荣色也；肺之合于皮也，其荣毛也；肝之合于筋也，其荣爪也；脾之合于肉也，其荣唇也；肾之合于骨也，其荣发也。五脏各有腑，脏为阳，腑为阴。五脏者，藏精神而不泄也，故满而不能实；六腑者，受水谷而不留，故实而不能满。则小肠为心之腑，大肠为肺之腑，胆为肝之腑，胃为脾之腑，膀胱为肾之腑。六腑者，各有其应：小肠者，脉其应也；大肠者，皮其应也；胆者，筋其应也；胃者，肉其应也；三焦、膀胱者，腠理、毫毛其应也。

十二脏之相使者：心者，君主之官，神明出焉；肺者，相传之官，治节出焉；肝者，将军之官，谋虑出焉；胆者，中正之官，决断出焉；膻中者，臣使之官，喜乐出焉；胸中，上焦之门户也；脾胃者，仓廩之官也，五味出焉；大肠者，传导之官也，变化出焉；小肠者，受盛之官也，化物出焉；肾者，作强之官也，伎巧出焉；三焦者，决渎之官也，水道出焉；膀胱者，州都之官也，津液藏焉，化气则能出焉。凡此十二官，不得相失也。故主明则下安和，以此养生则寿，没世不殆；主暗则十二官危，使道闭塞而不通，形乃大伤，以此养生则殆也。

### 服气疗病论第八

夫气之为功也，广矣妙矣。故天气下降，则寒暑有四时之变；地气上腾，则风云有八方之异。兼二仪而为一体者，总形

气于其人。是能存之为家，则神灵俨然；用之于禁，则功效著矣。况以我之心，使我之气，适我之体，攻我之疾，何往而不愈焉。习服闲居，则易为存，使诸有疾痛，皆可按而疗之。

凡欲疗疾，皆可以日出后，天气和静，面向日，在室中亦向日，存为之，平坐，瞑目，握固，叩齿九通，存日赤晖紫芒，乃长引吸而咽之，存入所患之脏腑。若非脏腑之疾，是谓肢体筋骨者，亦宜先存入所主之脏也。闭极又引，凡得九咽，觉其脏中有气，乃存其气攻于所苦之处。闭极，微微吐气，其息稍定，更咽而攻之，觉疾处温暖出汗出为佳。若在四肢，应可导引者，则先导引其处，已后攻之，纵是体上亦宜按念，令其气通。若在头中，当散发，梳头皮数百下，左右摇头数十过，乃吸气，讫，以两手指于项上急攀之，以头向上力拒之，仍存气向上入脑，于顶发诸孔冲出散去，一极讫，放手通气，更为之，以觉头颈汗出，痛处宽畅为候。若病在脏腑者，仰卧吸引，存入其处，得五六咽，则一度闭息攻之，皆以意消息其病，或久来痼疾，并有症块坚积者，则非气之所能愈，终亦觉积宽平也。兼药同疗亦无所妨，乃于药性易效尔。虽用气攻病，虽攻其处肤腠散出，然兼依《明堂图》，取其所疗之穴，而相引去之佳。既知其穴，宜依十二月，各用其律管，急按穴上，相而出之。则心存有所主，气行有的适矣。

黄钟十一月律也，管长九寸，空中，围九分，诸管并同；大吕十二月律也，管长八寸；太簇正月律也，管长七寸强；夹钟二月律也，管长七寸强；姑洗三月律也，管长七寸强；仲吕四月律也，管长六寸强；蕤宾五月律也，管长六寸强；林钟六月律也，管长六寸强；夷则七月律也，管长五寸强；南吕八月律也，管长五寸强；无射九月律也，管长四寸强；应钟十月律也，管长四寸强。皆取山阳之竹孔圆者，其节生枝不堪用。



手臂不援，虽云手臂诸有疾处，亦可为之。先以一手，徐徐按摩所疾之处，良久毕，乃瞑目内视，视见五脏，咽液三过，叩齿三通，正心微祝曰：

太上四玄，五华六庭，三魂七魄，天关地精，神符荣卫，天胎上明，四肢百神，九节万灵，受策玉晨，刊书玉城，玉女待身，玉童护命，永齐二景，飞仙上清，长与日月，年俱后倾，超腾升仙，得整太平。流风结疴，注鬼五飞，魍魉冢讼，二气徘徊，陵我四肢，干我盛衰，太山天丁，龙虎耀威，斩鬼不祥，凶邪即摧，考注匿讼，百毒隐非，使我复常，日月同晖，考注见犯，北辰收摧，如有干试，干明上威。

常以生气时，咽液二七过，按体所痛处，向王而祝曰：

左玄右玄，二神合真，左黄右黄，六华相当。风气恶疾，伏匿四方，玉液流泽，上下宣通。内遣水火，外辟不祥，长生飞仙，身常休强。毕，又咽液二七过，又当急按所痛处三十一过。常如此，则无疾也。

### 病候论第九

夫生之为命也，资乎形神；气之所和也，本乎脏腑。形神贞颐，则生全而享寿；脏腑清休，则气泰而无病。然且禀精结胎之初，各因四时之异；诞形立性之本，罕备五常之节。故躁扰多端，嗜欲增结，或积疴于受生之始，或致疾于役身之时。是故喜怒忧伤，自内而作疾也；寒暑饮食，自外而成病也。强壮之岁，唯知犯触；衰谢之年，又乖修养。阴阳互升，形气相违，诸疹既生，厥后多状，况乎服气者，谷肴已断，形体渐羸，精气未全，神魂不畅，或旧疹因之以发动，新兆致之以虚邪，须知所由，宜详所疗。今粗具可辨之状，以代问医，则其气攻

之术，希同勿药。

虚实之形，其何以生？自气血以并，阴阳相倾，气乱于卫，血流于经，血气离居，一实一虚。血并于阴，气并于阳，故为惊狂；血并于阳，气并于阴，乃为灵中；血并于上，气并于下，烦惋善怒；血并于下，气并于上，乱而善忘。阳虚则外寒，阴虚则内热，阳盛则内寒，阴盛则外热。五脏之道，皆出于经隧，行血气，血气不和，百病乃变化而生。气有馀则腹胀澹泄，不厥。天之邪气，感则害五脏也；水谷之寒温，感则害六腑也；地之湿气，感则害皮肉、筋脉也。又：邪之生也，或生于阴，或生于阳。生于阳者，得之风雨寒暑；生于阴者，得之饮食居处，阴阳喜怒。阳者，天气也，主外；阴者，地气也，主内。阳道实，阴道虚，故犯贼风虚邪者，易受之；饮食不节、起居不时者，阳受之，则入六腑；阴受之，则入五脏。入六腑则身热不卧，上为喘呼；入五脏则填满闭塞，下为澹泄，久为肠癖。故喉主天气，咽主地气，阳受风气，阴受湿气。阴气从足上行至头，而下行循臂至指端；阳气从手上行至头，而下行至足。故曰：阳病者，上行极而下行；阴病者，下行极而上行。伤于风者，上先受之；伤于湿者，下先受之。

头者，精明之腑，头愈视深，精则夺矣；背者，胸之腑也，背曲肩随，胸将坏矣；腰者，肾之腑也，转摇不能，肾将惫矣；膝者，筋之腑也，屈伸不得则痿附，筋将惫矣；髓者，骨之腑也，不能久立，行则掉仆，骨将备矣。

肺热病者，右颊赤；心热病者，颜先赤；肝热病者，左颊赤；脾热病者，鼻赤；肾热病者，颐赤。病虽未发，见其色者，所宜疗之。故曰：疗未病之病。肺热病者，色白而毛槁；心热病者，色赤而络脉溢；肝热病者，色苍而密枯；脾热病者，色黄而肉濡；肾热病者色黑而齿枯。

肝主春，足厥阴，少阳主治，其日甲乙，肝苦逆，急食咸以缓之。又曰：肝病欲散，急食苦以泻之，禁当风，肝恶风也。

心主夏，手少阴，太阳主治，其日丙丁；心苦缓，急食咸以收之。又曰：心病欲濡，急食咸以濡之，用酸补之，甘泻之，禁温衣热食，心恶热也。

脾主长夏，足太阴，阳明主治，其日戊己；脾苦湿，急食苦以渗之。又曰：脾病欲缓，急食甘以缓之，用苦补之，辛泻之；禁湿食、饱食、湿地、濡衣，脾恶湿也。

肺主秋，手太阴、阳明主治，其日庚辛；肺苦气上逆，急食咸以泄之。又曰：肺病欲收，急食甘以收之，咸泻之；禁寒衣饮冷。肺恶寒也。

肾主冬，足少阴、太阳主治，其日壬癸；肾苦渗，急食辛以润之，腠理致液气通。又曰：肾病欲急食苦以坚之，用辛补之，酸泻之；淬暖，无热食温衣，肾恶渗之，辛走气，气病无食辛；甘走肉，肉病无食甘；咸走血，血病无食咸；酸走筋，筋病无食酸，是谓五禁，勿多食也。

肺病者，喘咳逆气，肩背痛，汗出，尻、阴、股、膝、旄、肱、足背痛，虚则少气不能报自，耳聋、嗌乾矣。

心病者，胸中痛，胁肢满，肋下痛，膺、背、肩胛间、两臂内痛，虚则胸腹大，肋下与腰相引而痛。

肝病者，两肋下痛，引入小腹，令人喜怒，虚则恐，如人将捕之，气逆则头痛、耳聋、颊肿。

脾病者，身重，肌肉萎，足不收，行喜挈脚下痛，虚则腹胀肠鸣，泄食不化。

肾病者，肠大体重，喘咳，汗出恶风，虚则胸中痛也。

肺风之状，多汗恶风，时欲咳嗽喘气，昼日善，暮则甚，诊在眉上，其色白。

心风之状，恶风，焦绝，喜怒，诊在口，其色赤。

肝风之状，恶风，喜悲，微苍、嗑乾，喜怒，诊在目下，其色青。

脾风之状，多汗恶风，身体怠堕，四肢不通，微黄，不嗜食。诊在鼻上，其色黄。

胃风之状，多汗恶风，食饮不下，隔塞不通，腹善满，失衣则胀，食寒则泄，诊在形，瘦而腹大。

首风之状，其头痛，面多汗，恶风，先当风一日病，其头痛不可出，至其风止，则小愈矣。

## 卷五十八 诸家气法部三

### 胎息精微论

身不衰老，内食太和元气为首。清净自炼，委身放体，志无念虑，安定脏腑，洞极太和，长生久视，潜气不动，意如流水（前波已去，而后波续处不返也），行之不休，得道真矣。每日入净室，守玄元。玄元谓存玄门。玄中有玄，是我命；命中有命，是我形；形中有形，是我精；精中有精，是我气；气中有气，是我神；神中有神，是我自然。德以形为车，道以气为马，魂以精为根，魄以目为户。形劳则德散，气越则道叛，精销魂损，目勤魄微。是以静形爱气，全精宝视，道德凝密，魂魄固守。所以含道不言，得气之真；肌肤润泽，得道之根。手足流汗，精气充溢，不饥不渴，龟龙胎息。绵绵长存，用之不勤，饮于玄泉，登于太清，还年返婴，道之自然。至道不远，近在己身，用心精微，命乃延永。夫道者，或传服五牙（五牙者，五行之生气。《黄庭经》云：存漱五牙，不饥不渴）、八方、四时、日月、星辰等气，思自顶而入，自鼻而出，虽古经所载，然为之者少见成遂，亦非食谷者所致行致耳。是以服气者多不得其诀要，徒精勤矣。既得其门，复悟其诀，即在精勤不懈矣（桑榆子曰：鸟鹄而至乎天地，是不知量彼五牙、八方、

四时、日月、星辰等，教不为初地者，设无成也，当俟其稍近之时可也）。

凡胎息服气，从夜半后服内气七咽，每一咽既，调气六、七息，即更咽之。每咽如水流过坎声，是气通也。直下气海中凝结，腹中充满，如含胎之状。气从有胎中息（气海中有气充，然后为胎息之道也），气成即清气凝为胎，浊气而出（散从手足及发而出也），胎成即万疾自遣，渐通仙灵。今之学其气长也，或得古方，或授自非道，皆闭口缩鼻，但贵息长。而不知藏拥闭畜，损伤正气，殊非自然之息，但烦劳形神，无所裨益。

凡服气之时，即须关节通、胃海开，纳元气固。纳毕，即关节还闭，徐徐鼻出，纳外气自然内外不离，胎中气亦不出。但潜屈指数息，从十至百数，从一百至二百、三百，此为小通，即耳目聪明，百病皆愈。若抑塞口鼻，拟习胎息，殊无此理也。口鼻气既不通，即畜损脏腑，有何益哉！

凡饵内气者，用力寡而见功多。惟在安神静虑，不烦不扰，则气道舒畅，关节开通，内含元和，终日不散，肤体润泽，手足汗出，长生之道，诀在此矣。从夜半后服七咽，即闭气，但内气不出，鼻口常徐徐出纳外气，内气都不相杂，至五更又服七咽，平旦又服七咽，都二十一咽止。若休粮者，即不限此数，肚空即咽内气，咽内气常满，自无饥渴。初似小难，久久习惯，自然内外之气不相混杂也。渐渐关节开通也，毛发舒畅，气自来往，亦不假鼻中徐徐通外气也。胎息之妙，穷于此也。

### 茅山贤者服内气诀

侧卧，右胁著地，微缩两足，著头向南面东，两手握固，傍其颐，闭取内气，极力开喉咽之，如此七咽一吐气（若病时服气，一咽两咽一吐，然后一七咽一吐气可也）；又调息令出入气匀，准前又咽，都四十咽；乃起坐炼之；竖膝坐，两手相叉抱膝，闭气，鼓腹二七或三七，气满即吐，更调息，特不得令喘粗，调讫，又闭气二七或三七一吐气，使腹调适乃休，或汗出头足皆热，此气遍也，即当饱满，三关百节，宣通畅适，行之十年登仙，老容返少。

夫旧经皆存想，恐为烦劳，却使心意难行，服气本于胎息，但无思念，自合元化之功。久久行之，当自知其妙矣。仆游蒙山，遇此贤者，年可五十已下，其精神清朗，颇异于俗。因问，云贞观已前游此山，不道姓名，自称老夫。仆遂殷勤拜之，蒙授此诀，行之颇甚弘益，妙哉！妙哉！

凡欲得道不死，肠中无屎（音滓），欲得长生，五脏精明。故《黄庭经》云：何不食气太和精，故能不死入黄宁。《阴符》云：积火可以焚五毒，五毒则五味，五味尽，可以长生。西王母谓武帝曰：能益能易，名上仙籍；不益不易，不离死厄。所谓益易者，能益精易形也。常法能爱精握固，闭气吞液，则气化为血，血化为精，精化为液，液化为骨。常行之不倦，精神充满，为之一年易气；二年易骸（一本为易血也）；三年易血（一本为易脉）；四年易肉；五年易筋（一云易髓）；六年易髓；七年易骨；八年易发；九年易形；十年道成。位居真人，变化自由，即灵官、玉女而侍焉。

### 胎息根旨要诀

古修胎息者，寻其所著，皆未达于玄门，据其文字所陈，悉皆互有得失。或云：无气是胎，闭气不喘是息。各执一门，未有所趣，迷误后学，疑惑益滋，而修生之人，性命已殆，足可悲哉！余今所得，实为简易，将来学人，保而深惜。夫云服气，即胎息之妙用也。切在分析内、外气，及在脏腑之气，统一身之所生，不可得而知也。此气须日日生之。凡粗气在荣卫之中，为喘鸣之气。气本粗者命促，气本细者命长。众气在脏腑之内，为运动之气。此两者并非修服之气。其胎息者，是天地阴阳二气，初结精之气，气结而为形，形既成立，则精气光凝为双瞳子。双瞳子者，即父之精气，号为纯阳之精，故能鉴视万物。又受母之阴气，而成玄牝者，即口鼻也。是知形为受气之本，气为成形之根，则此二气为形之根蒂者也。根蒂既成，则能随母呼吸，绵绵十月，胎体成而生，故修养者效之。夫云复其根本，此胎息之要也。古皆云：气海者，为气之根本。此说非也。为不知其所止，是以复之无益。古仙皆口口相授，非著于文字之中，盖欲贻其同志。所谓根本者，正对脐第十九椎，两脊相夹脊中空处，膀胱下近脊是也，名曰命蒂，亦曰命门，亦曰命根，亦曰精室，男子以藏精，女子以月水，此则长生气之根本也。今之所复其根本，修其所生，斯则形中母子，何不守之。

夫气为母而神为子，气则精液也。气无形质，随精液以上下，但先立形，则因形而住，气为其母而子不舍母，则依母而住，神气住形中，故能住世长生久视。故修生之人，常令神与气合，子母相守，自然玄牝无出入息也。庄周云：真人息以踵。言其息深深也。老子经云：深根固蒂，是为复命。此乃命门元气根本之旨也。将来君子，勿得轻泄耳。



### 胎息杂诀

一经云：但徐徐引气出纳，则元气亦不出也，胎息者然。内外之气不杂，此名胎息。然用功之人，闭固内气讫，亦鼻中微微通气往来，便令不至咽喉而返，气则逆满上冲，不可抑塞。如此，即徐徐放令通畅，候气调，即复闭之。切在徐徐鼻中出入，勿令至喉，极力抑忍，为之须臾，忽然自得调畅，内外泰矣（此盖关节开，毛窍通故也）。到此，即千息亦不倦矣。又胎息之妙，切在无思无虑，体合自然，心如死灰，形如枯木，即百脉畅，关节通矣。若忧虑百端，起灭相继，欲求至道，徒费艰勤，终无成功（桑榆子曰：有苦恼之气，有贪恶之气，诸如此类，皆邪气，横中能为元气之关防，亦犹小人当路，则君子无所逞其才也）。此道至微至妙，出尘之士，方可为之；未离名利之间，徒劳介意（桑榆子曰：纵未出尘，但能使心不乱，不见可欲则可矣）。

一经云：咽气满讫，便闭气存想，意如流水，前波已去，后浪续起。凡胎息用功后，关节开通，毛发通畅，即依此，但鼻中微微引气，想从四肢百脉孔出，往而不返也，后气续到，但引之而不吐也。切在于徐徐。虽云引而不吐，所引亦不入于喉中，微微而散。如此，内气亦不下流散矣。

### 尹真人服元气术

夫人身中之元气，常从口鼻而出，今制之令不出，便满丹田，丹田满即不饥渴，不饥渴盖神人矣。是故人之始胎，不饮不啄，不饮不啄，故无出入息，即元气复，元气复即长生之道机也。所以然者，谓元气在丹田中，诸脏不隔，周流和布，无所不通，以其外不入，内不出，全元气，守真一，是谓内真之胎息也。始生之后则饮食，饮食之后即腑脏实，腑脏实即诸脏相隔，诸脏相隔即丹田气亡其本也。居乎脏腑之上，行乎心胸之中，数寸往来，安得长久？是以未终其分，已有枯首蹇足、槁形丧气之患，所以至人有已见乎，故复其气，还其本，使得延年长生者也。

夫服元气，先须澄其心，令无思无为，恬澹而已。故知绝粒者，乃长生之径路；服气者，为不死之妙门。深信不疑，力行无倦。经曰：绵绵若存，用之不勤。术曰：因其出息，任以自然，而出未至半，口鼻俱关，徐徐而已，气即上行，即举首以声咽之矣。仰息左，覆息右（其注在调气篇载），以气送通下胃气（又云：以意引气，送之至胃，胃中气转流下方，至丹田，丹田满即流达于四肢也），转下流至丹田，又从容如初咽下。咽下余息，息即丹田不隔，丹田不隔即入四肢，以意运行，即流布矣。大底气息不欲出于玄牝，但令通流，须出皆须调适，不得粗喘也。若隔气未达丹田，虽欲强为，终难致矣。是以初服者皆多防满，但资少食，必在勤行，勤心行即气自流转，自然之功著矣。所谓饮自然以御世，朝神以入微，始乎三五，成乎七九，若斯道者，岂虚语哉！谓气入腹中，皆三处有隔。初学之者，先觉胃中防满，噫气不休，但少食为之，即觉通于生脏，后自觉到丹田，然始觉气周行身中，身中调畅，即神明自然致矣。故须居于静处，刻意行之，功业若成，所在可也。如

其妄动，气即难行。初作之时，先覆仰，凡一日一夜，限取四时。四时不亏，即气息相接，气息相接，即丹田实，丹田实，即任意行之，中间停歇亦得。其四时，谓寅、午、戌、子时也。用仰势法，低枕卧，缩两肩、两膝，伸两手著两肋；用覆势法，以腹著床，以被揞胸，手足并伸。其仰咽，即令气从左下；覆咽，令气从右下。咽气之时，皆令作声，有津液来，亦须别咽，乃须出息气之。若用入息，即生风随入，不可不慎之。咽气中间，即别任意休息，待心喘俱定，然后乃可复为之。初用气时，必须安稳，坦然无事，气则流通。若心有所拘，即窒塞不流注也。慎无疑虑，亦勿畏其败失，亦勿虑其不成，但谋进取，勤勤之功，稍稍之效，自然至诚感神，神明自至矣。

夫服气断谷，不得思食，未能自静，切须捺之。若渴或热，即煮薤荔汤，饮之即定。汤中著少生姜，或煎姜蜜汤亦得。如觉心中满闷，即咬嚼些甘草、桂心、五味子等并妙。但服气不失其节，即气自盈满，纵出入行人事，或对宾客语言谈话，种种运为，百无妨废。及成之后，更不服气，气亦自足。穷神极理，妙不可言。须食即食，须休即休，复食复气，唯意所在。每日饮少许酒引气，切慎果子、五辛、邪蒿、葫荽、芸台、椿等，此物深乱人气，慎勿食之。如能至心，三七日中，可以内视五脏，历历在目，神清形静。行之七日，其效验也已自知之，更须专精，二十日来不食，即腹中尽，腹中尽之后，吃一两杯煮菜、苜蓿、芥菰、蔓菁及枸杞、叶葵等，并著少苏油、酱、醋取味食之，勿著米、面，所欲腹中谷气尽耳。更四五日，除菜吃汁，又三数日后，即总停之。可三十日，即自见矣，所谓不寒不热，不渴不饥，修行至此，世为神人，即吾道成矣。

### 服元气法

服元气于气海。气海者，是受气之初，传形之始，当脐下三寸是也。婴儿诞育时，惟脐带与母胞相连，其带空，中如管，则传气之所形，从此渐凝结也。人欲长生，必修其本，树欲滋荣，必固其根。人不知根本，外求修助，万无一成。气海者与肾相连，属壬癸水，水归于海，故名气海。气以水为母，水为阴，阴不能独生成，必以阳相配。心属南方丙丁火，是盛阳之主，既知气海以心守之，阳既下临，阴即上报，是以化为云雾，蒸薰百骸九窍，无所不达，亦能为津液，如甘雨以润草木。正气流行，他气自匿，用久转微，意思则久矣。初用与已成，不得同年而语。凡气困者，身皆有疾，沉结在内，或医药不能疗，尤须精诚，并去外想，闭气于气海，以手于脐下候之，气应之候，冲容如喘、如触，或鸣，或痛，如掣，如物动于掌下，亦须静候之。兼以目下注，是阳气照阴，阴气腾上又能为津液也。如此久久，鼻中喘息都无出入，只觉气海中时动用耳。初用意时，须平卧去枕，小努气海，便得满腹，作意勿令至心肺，至即心闷妨塞，即不能下照，下照是心守海也。良久，元气遍身，无处不暖。每关节难通，若至腰关，尤难过之，当稍以气闭，努之三两间，突然便过，过后即气常至腰踵。庄子云：息之以踵是也。已后筋骨常欲动用，每动有声，是气到无拥，常能如此，长生道也。窃用其道，不授口诀，反受其病。凡欲鼓腹，不在入气是要诀。欲过腰关，当侧卧缩两脚，兼拳两手，偃腰极努，如此，即不觉通也。不然，终成闭塞。若能常用不绝，

虽在众中密为之，用心令熟，外事不扰，尤为佳也。若膈上并头面间有疾处，即上攻之，寻常即下至踵及气海中，微微用之，息自消矣。久候液当满口，如逆吃物，下消用之随尽。每用气后，必须微调息使散，若不散，他日为疮肿，终不为佳。须先以意在疾处攻击之，徐徐用意攻击令散，疾差已后，即不得注令留滞，当遣通遍身，微微如雾露是其常也。收散俱归海中。闭目为想，开目为存，存则不专乃著，著则气滞。觉应则止，谓之常，觉觉而味谓之滞，候应专静谓之守，流液满口谓之报，报与应一也。朝饮少酒，暮食少面，不可多之。

### 胎息口诀（并序）

序曰：在胎为婴，初生曰孩。婴儿在腹中，口含泥土，喘息不通，以脐咽气，养育形兆，故得成全，则知脐为命门。凡婴孩或有初生尚活，少顷辄不收者，但以暖水浸脐带，向腹将三五过即苏，乃知脐为命门，信然不谬。修道者，欲求胎息，先须知胎息之根源，按而行之，喘息如婴儿在腹中，故名胎息矣。乃知返本還元，却老归婴，良有由矣。绵绵不闲，胎仙之道成焉。故先序经纪体用兼明备矣。

凡欲胎息，先须于静室中，勿令人入，正身端坐，以左脚搭右脚上，解缓衣带，徐徐按捺肢节，两手握固于两腿上，即吐纳三五过，令无结滞，涤虑清闲，虚心实腹；左右徐徐摇身，令脏叶舒展，讫，还徐徐放著实；即鸣天鼓三十六过，漱满华池；然后存头戴朱雀，脚履玄武，左肩有青龙，右肩有白虎；然后想眉间一寸为明堂，却入二寸为洞房，却入三寸为丹田宫（

亦名泥丸宫），宫中有神人，长二寸，戴青冠，披朱褐，执绛简；次存中丹田（中丹田，心也，亦名绛宫），中有神人，亦披朱褐；次存下丹田（在脐下二寸半紫微宫，亦名气海也），中有神人，亦披朱褐（桑榆子曰：《金刚经》云：如来说诸相具足，即非诸相具足，彼所以立相生名者，以为戒洁之阶也。夫神岂止于上？岂住于下？岂留中间？舒泽弥乎大千挈之，亦复无物。若随迹观相，随相强名，常河之沙，讵足以算数。夫神也，变化不测，宁岂如九品郎，执笏兢兢不出局门哉）；次存五脏，从心起，遍存五脏六腑。存五脏中各出本方气，及三丹田中素云合为一气，于头后出，焕焕分光九色上腾，可长三丈馀，想身在其中。此时即口鼻俱闭，心存气海中，胎气出入喘息，只在脐中。如气急，即鼻中细细放通息。候气平，还依前用心存之。以汗出为一通，亦不限过数。如体热闷，即心存气遍身出，如饭甑中气，此名满息。久久行之，入玄寂中，出妙默中，再咽洞观形中五脏六腑及大小腹，胃受一二升，如黄土色，脾长一尺二寸，在胃上，前后摩动不停，停则不和，饭食不消，如饭食不消，即是不摩矣。当须闭气，以手摩腹一百下，即自然转摩矣。次存心，心如红莲花未开下垂，长三寸，上有九窍，二窍在后，正面有黑毛，茎长二寸半；次存肺，肺似白莲花开，五叶下垂，上有白脉，膜在心上覆心；次存肝，肝在心后，七叶，紫苍色，上有黄脉，膜从左边第三下，胆在此也，其胆色青黄，长二寸半；次存肾，肾状如覆杯，黑色，却著脊，去脐三寸，上小下大，左为上，右为下。遍观一形，三十六位、乃三百六十骨节，皆有筋缠，骨青白如玉色，筋色黄白，髓若冰雪；有三百六十穴，穴穴之中皆有鲜血，如江河、池潭也。及见左脚中指第二节，是血液上源，其中涌出通流一形，一夜绕身三万六千匝，至右脚中指第二节则化尽。所以人

若睡，必须侧卧拳跼，阴魄全也。亦觉，即须展两脚及两手，令气通遍浑身，阳气布也。若如此修行，即与经所言动息善时之义合矣。久久行之，口鼻俱无喘息，如婴儿在胎，以脐通气，故谓之胎息矣。绵绵不间。经三十年，以绳勒项，不令通气，亦不喘息。喘息常在脐中，水底坐经得十日、五日亦可矣。以独行此事，功效如前。若觅得真，更须修道。此事乃是一门，不可不作也。

## 卷五十九 诸家气法部四

### 延陵君修养大略

《仙真经》云：夫人临终而始惜身，罪定而思迁善，病成方切于药，天纲已挂，胡可追耶？故贤人上士，惜未危之命，惧未萌之祸，理未至之病也。修真之品有三：上年、中年、下年。上年者，二十、三十也；中年者，四十、五十也；下年者，六十、七十也。上年者，早悟大道，识达玄微，体壮骨坚，筋全肉满，从容履道，无不成功。中年者，悟道已晚，筋肉、骨髓各有其半，处在进退，如日中功。下年者，骨髓、筋脉十有二三，犹可补修，如日暮功矣。八十已上者，罪位已定，无可救之法，脑竭髓尽，万关乾枯，神谢气亡，尸行鬼步（桑榆子曰：尸以喻无知，鬼以喻有知，而非人情者，行惟尸行，步惟鬼步，且行且步，运之者谁？则知元气尚在，但以减耗降于涸矣。若逢至人，或得大药，譬持盈车之焦蓬，爇将炉之馀焰，亦可以致其赫然而炽矣。此言无可救者，只谓气功已晚，自我之事不及矣。若遇玄圣而救，则死生其肉骨，起仆奠枯，何为而不可！况彼尚为物也）。先贤上士，知风烛之倏忽，用摄志褫情，舍荣弃俗，奉身归道，不与物伤。

道，气也。气者，身之根也。鱼离水必死，人失道岂存？



是以保生者，务修于气，爱气者，务保于精，精气两存，是名保真也。人有三丹田：上元、中元、下元是也。上元丹田、脑也，亦名泥丸；中元丹田、心也，亦名绛宫；下元丹田、气海也，亦名精门。三元之中，各有一神（桑榆子曰：精化为气，气化而神集焉。神，何物也？灵照之名也，知之则气全，气全则神全，若元气充满，百骸孔窍神必备矣。必备者无他，气至则神到。今人有忧患动中，则知见因而暂亏，盖气权有不至者耳。苟心冥气和，其神岂独三元之中而已哉）。精者，身之根；根者，气之位。精全则气全，精泄则气泄，气泄则神乘而去之，唯精与气须全。《黄庭经》云：长生至慎房中急，何为死作灵神泣。但当吸气录子精，寸田尺宅可治生。若当决海百渎倾，叶去树枯失青青。故先觉至于道者，莫不因爱气保精而能全也。

夫服气本名胎息。胎息者，如婴儿在腹中，十个月不食，而能长养成就，为新受正气，无思无念，泯然凝寂，受元气变化，关节、脏腑皆自然而成，岂有传保之流饥渴之备耶！及出母腹，即吸纳外气而有啼哭之声，即乾、湿、饥、饱似有所念，即失元气。人能依婴儿，在母腹中，自服内气，握固守一，是名曰胎息（桑榆子曰：此言失元气者，非也。苟纳外炁便失元气，即世间无复有生人矣）。《法华经》云：须行住坐卧，身心不乱者，亦言炁主心，心邪则气邪，心正则炁正。今人所举手动足，喜怒哀乐，莫不由心，心之动息，莫不是炁，炁感意，意从心，心和则炁全，炁全则身全，炁灭则神灭，神灭则为委土矣。故医家先诊脉者，则候五脏、四时之气，察诸病源，始寻方药，人但能察得气，候口鼻取舍，斯须不忘，自然五脏和，而脉调气顺也。

夫人与天地合体，阴阳混气，皮肤、骨髓、脏腑及荣卫、

呼吸进退、寒暑变异，莫不均乎二仪，应乎五行也。是知天地否泰，阴阳之气乱焉。脏腑不调，经脉之候病焉。因外所中者，百病起于风；因内所致者，起于气为百病。故曰：恬憺淡虚无，真炁从之；精神内守，病从安来。信哉！是故须知形神之理，养而全之；须审内外之病，慎而修之。歧伯高曰：食气者，则灵而寿延，食谷者，多智而限命。凡服气者，何求也？以其功至则气化为血，血化为精，精化为髓，一年易气，二年易血，三年易脉，四年易肉，五年易髓，六年易筋，七年易骨，八年易发，九年易形，即三万六千神备于兆身，化为真仙，号为真人矣。是以意在玄微，理生可测。修真之人，又有三等，任时分理，其状不一。上等之士，本性虚闲，用志清雅，发言合道，履行无瑕，如此之人，有前代之资，以石投水，无所比之也；中等之人，或身居荣录，或地势高远，或巨叶厚姻，或有名有望，迟疑进退，倏忽虚捐，闻道即寤寐不安，思名则终朝不息，两心交战，胜者即全，逡巡之间，十失六七矣；中等已降，二时既过，蹉跎暮年，筋力衰微，心神已丧，虽食厚禄，白日将倾，追念噬脐，方即正路，此时若能精心励志，尚可救其一二焉。此皆先贤所悲，表示于后，幸察根柢，生实信心。

### 赤松子服气经序

序曰：天道悠长，万品不齐；人生为贵，阴阳同阶。天道坦坦，修之不迷，世何颡愚，相随徘徊，生不及踵，性命殒颓，存亡相感，哭泣悲哀，何不服气，与仙同栖。经曰：福莫尚生，祸莫大死。子欲长生，肠中当清，长生不死，肠中无滓。生则

升仙，死化为鬼，仙升太清，死归土底。是以食谷者智；食炁者神。故曰，休粮绝食为生道，阴阳还精为重宝，能常行之永寿考，何为恣欲自使老，千金送葬无亿兆，悲呼哭泣自懊恼，岂若无为服气好，修之不释升天浩。然小人居世，狂愚急急，求荣爱宝，贪名好色，疲劳精神，破散气力，虽获富贵，凶命居侧，命若朝露，间不容息，不能知之，服气不食为道也。

### 神仙绝谷食气经

经曰：夫欲学道神仙食气之法，常以春二月、三月九日、十八日、二十七日，若甲辰、乙巳、丙辰、丁巳王相成满日，可行气也。夫欲行气，起精室于山林之中，隐静之处，必近甘泉东流之水，向阳之地，沐浴兰汤，以丹书玉房为丹田，方一寸（玉房在下三寸是也）。精念玉房，内视中丹田，内炁致之于下丹田。又先去鼻中毛，偃卧，两足相去五寸，两臂去身亦五寸，瞑目握固（握固，婴儿之拳）。蒲蒻为枕，高三寸，若胸中有病，枕高七寸，病在脐下，可去枕。既行气，不复食生菜、五辛及荤也。诸欲绝谷行气法，食日减一口，十日后可不食。二日、三日腹中或惛惛若饥，取好枣九枚，若方寸术饼九枚食之，一日一夜，不过此也。不念食者，勿啖也。饮水日可五胜，亦可三胜，勿绝也。口中恒含枣核，令人爱气，且生津液故也。

经曰：道者炁也，爱气则得道，得道则长生；精者神也，宝精则神明，神明则长久。行气一名炼气，其法正强卧，徐漱醴泉咽之（醴泉者，华池），以鼻微微内炁徐引之，莫令大极，

满入五息已，一息因可吐也。一息屈指数之至九十息。若身大烦满者，可频伸，频伸讫，复行之，满四九三百六十息为一竟。为之久久，众病自除。吐气既还，欲吸之时，先复小吐，微微往来，如是再三，更鼻引之，不尔者，令人气逆。凡内气则气上升，吐气则气下流，久自觉气周于身中。若行气未定，意中疲倦，便练气，以九十息为一节，三九二百七十息为一竟。行气令胖胖满藏，无令气大出，闭气于内，九十息一咽，咽含未足者，复满九十息，三九自足，莫顿数也。当念气使随发际上竟，及流四肢，自然下至三星（玉茎、二卵是）。

经曰：行气常以月一日至十五日，念气从手十指出；十六日尽三十日，念气从足十指出。久之，自觉气通手足，行之不止，身日轻强，气脉柔和，荣卫肢节。长生之道，在于行气，灵龟所以长存，服气故也。诸行气之后，或还欲食者，初饮米汁粥，日增一口，渐加之。十日之后，可食淖饭，勿致饱也。

经曰：行气之法，初为之时，多不调和，令人欬逆，四肢或冷，既行之久，日自益也。四九三百六十息，身如委衣，骨节皆解，久久乃觉气行体中，经营周身，濡润形体，洗涤皮肤，五脏六腑，皆悉充满，百病除去。凡初行气之时，先安其身而和其体，若气与竞争身不安者，且止和乃行之。气至则形安，形安则鼻息调和，鼻息调和则清气来至，清气来至则自觉形热，自觉形热则频汗出，且勿便起，在安徐养之，务欲其久。诸行气，皆无令意中有忿怒愁忧，忿怒愁忧则气乱，气乱则逆。思一则正气来至，正气来至则口中甘香，口中甘香则津液多生，而鼻息微长，鼻息微长则五脏安，五脏安则气各顺理，如法为长生久寿。行之之法：以鼻微微引气内之，以口吐之，此为长息。内气有一，吸也。吐气有六：呼也，吹也，噓也，呵也，噓也，咽也。凡人之息，一呼一吸，无过此数。行道之法，时

寒可吹，时温可呼。吹以去热，呼以去风，呵以去烦，嘻以下气，嘘以散滞，咽以解极。夫人之极，率多嘘咽，嘘咽者，长息之忌也，道家行气之所恶也。

### 太无先生服气法

夫形之所恃者，气也；气之所依者，形也。气全即形全，气竭即形毙。是以摄生之士，莫不炼形养气，以保其生，未有有形而无气者，即气之与形，相须而成，岂不皎然。余慕至道，备寻经诀，自行气守真，向三十馀载，所闻所见，殊未惬意。大历中偶罗浮山王公，自北岳而返，倚策高邮，依然相顾，余奇之异人，延之与语，果然方外有道之君子也。哀余愚至，见授吐纳，皆一二理身之要道也。心思罔极，非言词所能尽。每云道之要法，不在经书，悉传口诀。其二景、五牙、六戊诸服气，皆为外气，外气刚劲，非从中之事，未宜服也。至如内气已正，是曰胎息，身中自有，非假外求。不得明师口诀，徒为劳苦，终无所成。今所撰录，皆承师之旨，要以申明之，谅非愚蒙所自裁。王公常谓余曰：老君云，我命在我，不在天地；又曰，吾与天地，分一气而自理焉，天地焉能死吾。斯真言要诀也。修奉之士，宜三复之。参承诱训，敢不佩服！有偶得此诀者，慎勿轻传，无或泄露，以致其殃耳。

修真服气法：每日常卧，摄心绝想，闭气握固，鼻引口吐，无令耳闻，唯是细微。满即闭，使足心汗出，一至二数至百已上，闭极微吐之，引少气还闭。热即呵之，冷即吹之。能至千数，即不须粮食，亦不须药，时饮一盏酒或水通肠耳。数至五

千，则随处出入，有功当自知也，则有入水卧功矣。夫服食养生，贵其有常，真气既降，方有通感。岂有纵心嗜欲，而望灵仙羽化？必无此事也。但仙人至士，功行未满，尚不能致，况凡俗人乎？但信老人言，勤行之，即当自知矣。

### 墨子闭气行气法

老子曰：长生之道，唯在行气养神，吐故纳新，出玄入玄，呼吸生门，其身神不使去，人即长生也。玄者有上下，谓鼻中、口、阴也。鼻、口、阴，亦谓之生门矣。老子曰：生不再来，故遵之以道。道者气之宝，宝气则得道，得道即长生矣。神者精也，宝精则神明，神明则长生。气行之则为道也，精存之则为宝也。行气名炼气，一名长息。其法正偃卧，握固，漱口咽之三。日行气，鼻但纳气，口但出气，徐缩鼻引之，且莫极满，极满者难还。初为之时，入五息，已一息，可吐也。每口吐气欲止，辄一咽之，乃复鼻内气，不尔者，或令频。凡内气则气上升，吐气则气下流，自觉周身也。行气常以月一日尽十五日，念令气从手十指出；十六日尽月晦，念气从足十指出。若行之能久，自觉气从手足通通，则能闭气不息，便长生矣。

凡欲行气，先安其身而和其气，无与意争，若不安和，且止，和乃为之，常守勿倦也。气至则形安，形安则鼻息，鼻息则调和，调和则清气来至，清气来至，则自觉，自觉则形热，形热则汗出，且勿使起，则安养气，务欲其久。当去忿怒愁忧，忿怒愁忧止则气不乱，气不乱则正气来至，正气来至则口内无唾，而鼻息微长，鼻息微长则五脏安，五脏安则气各顺其理，

百病退去，饮食甘美，视听聪明，形体轻强，可长生矣。夜半至日中为生气，从日中至夜半为死气。当以生气时正偃卧，冥目握固，闭气息，于心中数至二百，乃口吐出之，日增数。如此身神具，五脏安。能闭气数至二百五十，即绛宫神守泥丸，常满丹田，数至三百，华盖明，目耳聪，举身无病，邪不复干，玉女使令司命著生籍矣。

### 太清王老口传服气法

此卷口诀，并是杨府脱空王老所传授。其脱空王老，时人莫知年岁，但见隐见自若，或示死于此，即生于彼，屡于人间蝉蜕转脱，故时人谓之脱空王老也。多游杨府，自言姓王，亦不知何处人耳。每逢志士，即传此诀。云秘妙方，若传非其人，自招其咎。此卷并学有次第志人口诀，非初学法也。为当学人初兼食服，以此屡言食物。且食气秘妙，切资断食，使谷气并绝。但能精修此法，知腾陟仙道不远耳。

凡人腹中三处有隔，即心有隔，初学服气者，皆觉心下胃中满，但少食，久作之，自觉通下；生藏下有隔，即觉肠中满，久而作之，自觉到脐；下丹田中有隔，能固志通之，然后始觉气周行身中，游行身中，犹自未入鸠中。后觉鸠中气出，即能与人治病也。

初学时，必须安身闲处，定气澄心，细意行之，久而不已，气入肠中，即于行住坐卧一切处不妨。胃中气未下入肠中来，即不得作，难成。初服气，皆须因入息时，即住其息，少时似闭满，其息出时，三分可二分出还住，少时咽之，咽已又作，

至腹中满休，必须日夜四时作，为初学人气未入丹田还易散，意欲得气入丹田未间，纵不服气亦气不散。四时者，朝、暮、子、午时是也。心里满，但不服气，咬少许甘草，气亦得，其满即散。丹田未满，亦不到满也。元气下时，自然有少闷也。秘之，勿妄传非其人也。

### 晁鸾法师服气法

初宽坐，伸两手置膝上，解衣带，放纵肢体，念法性平等，生死不二，经半食顷，闭目，举舌奉腭，徐徐长吐气一息二息，傍人闻气出入声，初粗渐细，十馀息后，乃得自闻声。凡觉痛痒处，便想从中而出，但觉有异，渐渐长吐气，从细至粗，十息后还如初。或问曰：初调气何意从粗而渐细，将罢何意从细而入粗？鸾答曰：凡行动、视盼、饮食、行坐、言语，是粗也（桑榆子曰：凡修气，学者未服及服罢，于饮食言语，盖常事也，鸾公欲使两相接会，不令其首尾陡异也）；凡睡寤后，复如前系念，如虎衔子，莫急莫缓，不问寒温，室中先净，所住使心不乱，静其腠耳。又曰：四大不调，何以察之？当于唇口察之。冷为风增，热为火增，滑为水增，涩为地增，不冷不热、不涩不滑为调和。又：声为风增，动为喘增，痒为热增，涎灾水增，不声不喘、不痒不涎为调和。又：心烦为热结，忧悸为喘结，志荡为水结，不烦不乱、不悸不荡为调和。四大不调有二，或外或内。寒热、饥虚、饱饫、疲劳，为外起；名利、喜怒、声色、滋味、念虑，为内起。凡气节量，一任自然，绵绵若存，用之不勤而已。但能不以生为生，乃贤于养生也（桑榆子曰：



诸经皆言吐纳不欲自闻其声，而鸾皆言初粗而渐细，后细而渐粗，始甚疑之，及睹下文，云一任自然，则知辟粗细之渐行，是为最下乘者设，不欲使之与自然争力也。然必以微细，自不闻声为上，从细微而至无息，即胎息之理尽矣，恐学者功至之后，犹拘牵文字，著于粗细先后之门，返与自然为敌，良可哀也。如此，又焉得不为之明辩）。

### 达磨大师住世留形内真妙用诀

吾昔于西国，授得住世留形胎息妙，师名宝冠，传吾秘诀。问曰：今欲东游震旦，及诸国土，弘传心地密法，其诸国土，人多遇寒暑为灾患，所伤例皆死丧。意欲拟向此土弘传心法，愿求留形，不为灾患疫疾所侵，长能住世，留形不死，不知得以否？师云：得。又问曰：云如何即得？师云：夫所生之本，始胎息，即是神与精气相合凝结，能变化为形者，即是为受之本。本气是人有的根，气因神而生，形因气而成。形不得气，无因得成；气不得形，无因为主。原其所禀之时，伏母脐下，混沌三月，玄牝具焉（玄牝者，口鼻也）。玄牝既立，犹如瓜花，暗注母气，终于此也。在胎之日，母呼即呼，母吸即吸，绵绵十月，气足形圆，神备识全，遂解胎而生矣。悲夫！母唯知贪悦其子，不知自损其躯。母既伤残，只为分形减气，为子之因。其子生于十月，情见于外，变婴孩子，指颐能笑者。先圣垂义，以为失道而后德，即人丧朴之本议（云子成，母衰也）。此其世人不知母养其子，子成母自衰矣。故知我释迦文佛，令孝敬父母，及报养育乳哺之恩，谓此故也。嗟乎！世人不知

于道，意逐外缘，不知胎息之术，住世留形之本。如有后学者，但能心不缘境，住在本源；意不散流，守于内息；神不外役，免于劳伤。人知心即念气之主，气即形之根，形即气之宅，神形之具，令人相因而立，若一事有失，即不合于至理，何能久立焉？但凡夫之人年二十，口好滋味，心怀喜怒，目眩五色，耳耽五音，身贪欲乐，意逐外缘，役智运神，间不容息。如此之流，则昼夜未曾暂息，原朴之根荡然而尽，令以形凋气散，命绝形枯，魂被恶业所牵，宅舍因而无主。故知心静即神悦，神悦即福生，福满即道增，圆明益智，明妙既通，心有照用即能用而无用。故圣人知外用而无益，所以返本还源，令以握胎息之机，即长生不死，其理昭然。故论云：形中之子母，云何长守？智者能守，寿命得长久。即知神为气子，气为神母，神行神住，即气行气住。心能主气，识凭气住。若要长生，神气相合，主心不动念，无来无去，不出不入，湛然常住。但于此修行，合真道路，勤行之，莫极言数，玄牝之门，长生之户，若能双行，慈悲甘露，外施救物，人天福祚。不思外物，不视外色，不听外声，不耽外欲，不嗜外味，常令心神魂魄，意识长生，神气相合，循环脏腑之内，御呼吸，应上下，久久修习，即神气自明。神气既明，即可照彻五脏，五脏气和，即可使神气通于四肢。故圣人三日内视，专注于一，心神充化之，绵绵存之，久而不断，可通流五脏四肢，斯言可推而得理也。但凡俗之人，神与气各别，如此之流，不可称令。若不知子母相守，气虽呼吸于内，神常劳役于外，遂使神常秽浊而神不清，神既不清，即元和之气渐散而不能相守也。道，人常用之，而不知根本以形神为主，若人不知守于内，而守于外，自然令宅舍虚危，渐见衰坏矣。况非道之人，劳神役思，无一息神气注于气海之中，而欲望其长生，岂不远乎？若知神气之所生者，即心

之主者，即修于一，了然可见矣。若不知气之所生，任运呼吸，役役寻文者，唯得通调于气，理于五脏六腑，及能消化饮食五谷而已，焉能返魂还魄、填血益脑者哉！则凡人呼吸，与圣人殊。凡人息气出入于咽喉，圣人息神气常在气海。气海，即元气之根本也。所居之处也，即脐下，合太仓，亦为子宫，为气海，即子母相合。道人能守之，绵绵不绝，此是返本还源，归本生之处，而坚住凝结，不化不散，此即皆其义也。不败，神识多静，即自然长生，留形住世要妙之真诀也。师曰：若住自然之息，神御气，即鼻无出息，令为真胎息也。凡夫之人，二境相睹之后，即情欲动，情欲动即精气悉下降于茎端，而下泄之。皆为情欲所引，制御不得，遂有猷诼之忧，衰丧其本也。

### 项子食气法

项子曰：人能清净安和自然者，十月通矣，或一年或二年通，或三年乃通。其不能通者，不能得道，适可长生寿老延年也。又曰：人之才，能静于三军之中，虎狼之间，有千人之才；能静室家之中，有百人之才；能静于市道旁，有十人之才；能静于山泽之中，有倍人之才。此凡器之人，终不知也。凡此多者，则能清净，静者能断情欲，断情欲者则能绝房室，绝房室则能休粮，休粮则能保爱气，能保爱气，则德应自然，德应自然，则十月通矣。十月通者，谓上士也，中士或三年而通；下士才薄，九年乃成。其才倍人，皆不能通，闻之不信，语之无益，此则土人行尸矣。所谓经言下士闻道，大笑之者也，常以清旦，鼻内气咽之，经行勿休，口口吐之，所谓食生吐死，

可以长生。从夜半至日中为生气，日中后至子时前为死气。常以生气正生时，仰眠，瞑目，闭口，屈十指置握固，不绝息，于心中数至二百，乃以口吐气出之，增息如此，则身神具生，五脏安矣。

### 张果先生服气法

每日常偃卧，摄心绝想，闭气握固，鼻引口吐，无令耳闻，唯是细微，满即闭，使足心汗出。一至二数至百已上，闭极，微引少气，还闭。热呵冷吹。能至一二千，即不用粮食，不须药物，时饮一两盏好酒，或水通肠耳。数至五千，则随处出入，有功当自知也，则可入水卧矣。

夫服食养生，贵其有常；真气既降，方有通感。岂有纵心嗜欲，而望灵仙羽化，必无此事也。且仙人功行未满，尚不可致，而况凡俗乎！但信老人语，勤行之，则当自知。凡气不通，冷热迟疾耳。极迟、极热、极疾、极冷，皆非道也。

### 申天师服气要诀

取半夜之后，五更已来，睡觉后，以水漱口，仰卧，伸手足，徐徐吐气一二十度，候谷气消尽，心静定后，即闭气忘情，将心在脐下丹田气海之中，寂然不动，则咽气三两度，便闭气，使心送向丹田中，渐觉气作声，下入气海中幽幽然，是气行之

候也。良久，待气行讫，又开口吐气徐徐，又闭口而咽之，如是三二十度，皆依前法。觉气饱，即冥心忘情，清息万虑，久久习之，觉口中津液甘香，食即有味，是其候也。凡欲行此道，先须忘身忘本，守元抱一，兀然久之，澄定而入，玄妙之要，在于此也。

### 王真人气诀

每四更后、五更初，当处静室，居一床，叠双足，面东端坐，先作导引，以左手握固右手虎口，台首并仰尽力后，却以右手握固左手虎口，复如之；讫，即交手掌向外三引；讫，又左右手搯颐三，交手搭头左转三，右转三，左展拓空三，右展拓空三，当面虚拓地三，背手虚拓空三，此为导引法。导引竟，然后自思神（先叩齿，自呼己名，然阴念五脏、三焦，及三魂、七魄、头面、手足、一身诸神，令辅形体也）；又前思太阳（日也），后思太阴（月也），左存青龙，右存白虎，思头戴朱雀，足履玄武（此存想四神也）；又存想七政，配合五脏。所谓肺魁、肝<鬼勾>、心魁、脾<鬼行>、胆魍、左肾<鬼甫>、右肾魍，当想真君降其本脏，仍须密念七过。次想二十八宿周遍形体，以辅七政，依此法数之，先从左手腕起角，左肘亢，左肩氏房，右胯心，右膝尾，右足踝箕；却从右手腕起斗，右肘牛，右肩女、虚，自心至左胯危，左膝室，左足踝壁；又却从右足以踝起奎，右膝娄，右胯胃，至心昴，自心至左肩毕，左肘觜，左手腕参；又却从左足踝起井，左膝鬼，左胯柳，至心星，自心至右肩张，右肘翼，右手腕轸。又自左手腕起角宿，

至右手腕匝轸宿。凡一十三处存想，象一年之有闰。计两度交互数之，一十二处皆存两宿，口心一处独存四宿，都计二十八宿。凡存想五脏六腑、三魂七魄、四神七政、二十八宿，讫，即吐出众杂死浊之气，然后闭口，从鼻左孔纳其生清之气，内想冥目，想此气绵绵下至丹田，方周流通传，汨汨作声，气满即再吐出，切不得令自己耳闻。如此十过，止。此即王真人法也。

### 大威仪先生玄素真人要用气诀

凡用气法，先须左右导引，令骨节开通，筋柔体弱；然后正身端坐，吐纳三过，使无结滞，静虑忘形，令气平息。良久，徐徐先以口吐浊气，鼻引清气。凡此六、七过，此名调气。

调气毕，即口鼻俱闭虚含，令气满口，即鼓口十五过已上更佳，如咽一大口水入腹中，直以心存至气海中；良久，更依前法咽之，但以腹饱为度，亦不限过数。然后虚心、实腹、闭口，以手左右摩腹上，令气流行，即鼻中细细放，通息，勿令喘粗，恐失中和。然后正身仰卧，四平著床枕，枕高低与身平，两手握固，展手离身四、五寸，两脚亦相去四、五寸，然后鼻中息收，即口鼻俱闭，心存气，行遍身，此名运气。如有病，即心存气偏注病处。如气急，即鼻中细细放，通息，口不开，候气息平，还依前法闭之，摇动两足指及手指并骨节，以汗出为度，此名气通。即徐徐收身侧卧，拳两脚，先左边著地，经十息。即转右边著地，亦十息，此名补损。

依此法服，经一月后，行立坐卧时，但腹空即鼓咽之，不

限时节，如吃饭了，即吃空饭一两口，和水咽下。此名洗五脏。即以清水熟漱口，虚心实腹，令脏腑叶舒展，咽之，令五脏不停五味气；讫，即以口先吐浊气，鼻引清气，不限多少，尽须放之，如下泄一浊气出，还炼一口和气补之。若寻常吃饭饮茶，此皆外气入，当须入口便合口，口既合，所入外气即于鼻中出也。鼻中却入气，即是清气也。常须合口吃饭，不令口中有气入，入即是死气。

凡人言语，口中气出，必须却于鼻中入。此常行吐纳也。行住坐卧，常须摇动脚指。此名常令气得下流。常行此事，动静念之。如节候不精，忽有外气入腹，即觉微痛，可以摩腹一百下，气即下泄也。气或上必不得出，抑之使下，此名理顺。忌破气物及生冷、黏腻等物，不宜吃动气冷物。如依此法，不阙常行，九年功成，履空如履实，履水如履地。

### 王说山人服气新诀

子夏曰：食气者，神明而寿。《黄庭经》云：玉池清水灌灵根，审能修之可长存。释氏止观，其有用气疗疾法。是知气之与液，递相通润也。古经法皆有时节行之，今议食气，不复以时节也。液则时时助气，使调滑也。所论食气，皆内气也，咽之代食耳；液者，咽之代浆耳。上食新气，下泄旧气，使推陈而纳新也。咽气不必饱满，下泄不必常出，但得无臭，即自平定。咽气不必常咽，但气清则腹内自平，夫然，不须咽矣。

初学之时，觉饥即食，食时不觉饥，即由气矣。若食常以一咽、两咽压之，则食易消。食渐消，如咽数至，食消气自调。

若觉腹中气小妨，即或行或卧，东转西侧，以意想驱逐之，使下。若未下，不得急性忙迫，但以意从容之，不久自泄也。食气时若欲上噫，但任意出，必不得抑之也（桑榆子曰：夫功浅多噫，盖由乍服所得真气尚少，痞所必多，不正而多，命宫不受，则宜常有出者；又初服之时，所咽者往往不到气海，则无所归投，返上为噫也。若得内气，又不入到气海，自然无噫，如著功多时，忽复噫者，不是伤多即是外气误入也）。欲下出，任下出，必不得秘之，在细意自审也。消息盈虚，久而自得其妙矣。宜行步，兼小导引，引亦不得频为之。世间诸事皆自细意斟酌之。有诸疾，则绝粒三数日，轻则一日、两日，更轻即绝一顿亦得。若疾在上，以意想上驱之，在下，以意想下驱之；若在四肢及左右侧，并以想驱逐之，则愈矣。大都不得闭气，若闭气，即疾生。所食物宜润畅，寒暑皆适宜也。瘴疟时，但绝粒数日，静居则差矣。

### 嵩山李奉时服气法

每欲服气，如婴儿吮乳，气息似闷，即咽之。依前吮咽，大闷即放令口出，甚须微细。每咽使心送之至脐下，有病亦使心送至病处。当服之时，第一须闭目，专意、握固，新欲服之，安神气，然后为之，先须导引，令四体舒缓，然后为之，卧服，勿枕枕，舒手足安定。如病重，气甚闷，频蹙上至极，仍便握固咽气，气行声从耳中出，即得矣。秘之秘之。此为内气，不问早晚、晴明、阴晦，须服即服，大都得晴明时大精。若服外



气，即有生气，知之十年，服之五日，不服即无益矣。每日五更、午时，服第一服了，须摄炼，兼以手按之，勿令心腹下硬。

## 卷六十 诸家气法部五

中山玉柜服气经 碧严先生撰黄元君注

### 录神诫戒序第一

昔大黄帝君（太古无名，云大黄帝君者，则黄帝有熊也）。会群仙于崆峒山，问道于广成子曰：夫人养生全真，游观于天庭间，止息于洞房中，得与众圣齐群，驻童颜而不败者，则何法最宝？广成子曰：夫人以元气为本，本化为精，精变为形，形虽好生，欲能竭之，故欲不可纵，纵之则生亏，制之则生盈，盈者精满气盛，百神备足。夫有死必有生，有生必形亏，亏盈盛衰，物之常理（日中移，月满亏，乐极哀来，物盛则衰，有生即死，是天地之常数也。圣人智通万物，以法坚身，在养育之门，无犯形本，则合于化元之道者也）。

夫人体内有百关九节（百关者，号百禄之神，为九节之用；九节者，一掌、二腕、三臂、四膊、五项、六腰脊、七腿胫、八胫腓、九脑，是谓九节也），合为形质，洞房、玉户、紫宫、泥丸、丹田以处泊（古文作措薄。今论神炁栖息，故宜处泊。洞房等，皆天庭三田神正泊处也），百神守卫，六灵潜护（百神者，百节之神，守固荣卫，保护五脏。藏亦有神，五神清则

百节灵，五神伤则百节絢，清则少，伤则老。经云：贪欲嗜味，伤神促寿。金玉满堂，莫之能守。六灵者，眼、耳、鼻、舌、身、意，亦谓之六识，常随心动，念则识暗，但闭之则宁，用之则成，察之则悟，任之则真。又有三魂伏于身，七魄藏于府，故云肝藏魂，肺藏魄，脾藏志，心藏神，肾藏精，此皆百神六灵之主也。宜防浊乱，轻躁动作，违之不守，自致败伤而已），保其玄关，守其要路（道以真一为玄关，以专精为要路）。即食百谷，则邪魔生，三虫聚（虫有三名，伐人三命，亦号三尸。一名青姑，号上尸，伐人眼，空人泥丸，眼暗面皱，口臭齿落，鼻塞耳聋，发秃眉薄，皆青姑之作也，一本作青石。二名白姑，号中尸，伐人腹，空人藏府，心旋意乱，肺胀胃弱，烝共伤胃，失饥过度，皮癬肉焦，皆白姑之作也，一本作白石。三名血尸，号下尸，伐人肾，空人精髓，腰痛脊急，腿痺靦顽，腕疼颈酸，阴萎精竭，血乾骨枯，皆血尸之化也。一本作血姑。此三尸毒流，噬嗑胎魂，欲人之心，务其速死，是谓邪魔生也。尸化为鬼，游观幽冥，非乐天庭之乐也。常于人心识之间，使人常行恶事、好嗜欲、增喜怒、重腥秽、轻良善，或乱意识，令蹈颠危。其于一日之中，念念之间，不可绝想。每于甲子、庚申日，上白天曹，下讼地府，告人阴私，述人过恶，十方刺史受其词，九泉主者容其对，于是上帝或听，人则被罚，轻者，人世违遭，求为不遂；重者，奄归大夜，分改身成，殃异而出，今俗传死次直符，雄雌殃注，破在煞星，此之是也。都由人不能绝百谷五味，诚嗜欲，禁贪妄而自致其殒歿。《内景玉书》云：百谷之实土地精，五味外美邪魔腥，臭乱神明胎烝零，三魂恍惚魄糜倾。要知成彼之三虫，由斯五谷也），贯穿五脏，环凿六腑，使丹田不华实，津液不流注，血脉不通行，精髓不凝住，胎魄不守宫，阴魄不闭户。令人耽五味，长贪欲，衰形神，老皮发。

若不却粒绝味，禁嗜诚色，则尸虫全而生，身神必死灭。若三虫弭，尸鬼失，魂魄养，精髓固形神保。天地者，非气术而不倚矣（擒制情欲，弭灭虫尸，使形神不枯朽，须服神气，還元返本，过此皆不可倚也）。且我大仙，以气术为先，元炁是本；道以太和为宗，冲元是本。及吾归之于妙，寂之于玄，化之于无，用之于自然，自然轻举，升于玄玄，出入无间，其道恬焉。与道通灵，当有何患（音还。《内景》云：勿令七祖受冥患。不许以道传非人，即七祖受冥殃也。今言“当有何患”，是亦依道奉行，保无殃咎也）。

夫上清所崇，中仙以丹术为本，下仙以药术为首，量此二者，夫何以久？皆以勤形劳神，饵金服石，动费货泉，失于归寂，盖不得自然之理，乖于真道矣。昔大隗翁曰：生吾有身，忧吾勤劳，念吾饥渴，触情纵欲，过患斯起，遂亏于玄化之道也（此广成子述初古大仙要道，所得之秘旨也）。于是大黄帝君。谨心神，观想元气（用启玄理，先静丹元，观想自然，融于归寂也）。乃感太一真君，持《玄元内景气诀妙经》一篇，授之帝君。迺后降中岳，复会群仙，宣是妙经，因名《中山玉柜服神炁经》（此碧岩受行是经于师奉传，然得分明，知其的实，故以告也）。夫太一真君，是北极太和元炁之神，神通变化，自北极紫微宫，经过于天地间，滋育万物，在天则五象明焉，在地则草木生焉，居人则神识灵焉，在鉴则五行察，在化则四运变，听之不闻，视之不见，搏之不得，无状而与万物作状，故谓之玄，谓之象。所患无不应，所真无不证，所专无不用，所精无不动，是知道以真正为玄关，专精为要路，倚于此者，则无所不通也（碧岩所受，相次显示，使其将来，不滞迷惑）。经曰：夫欲服气，服元气为本，以归寂为玄妙，若不得此门，及不知玄关要路，则终不能成就功德也（经之要言，故

不妄语)。

夫求仙道绝粒为宗，绝粒之门，服气为本，服炁之理，斋戒为先，当持斋戒，然拣好日，晏静一室，安置床席（其斋以心清意静，无诸躁动，正可二七日）。若不先斋，则不得神炁内助；若不存想，则神气不内补。夫欲修行，要当别置一室，好土香泥泥饰，明密高敞，床褥厚暖，衾枕新洁，不得使杂人秽污，辄到其中。其中地须锄深二尺，筛去滓砾，除诸秽物，更添好土，筑捣平实，更罗细土，拍踏令紧，既得稳便，勤须洒扫，务其清净。室中唯安书机、经柜，每一度焚香，念玄元无上天尊，又念太一真君（又可存乎三一、三、元、五脏、六灵、一身之神，冥心，叩齿，静默思之也）。太一真君有五诫，诚心依之，克获神应：一者，不得与女人语笑同处，致尸鬼惑乱精神；二者，勿食一切杂熏腻、五辛、留滞冷滑之物，若食之，令三尸浊触五神；三者，勿入一切秽恶处所，夫吊死问病，至人不为，杀戮决罚惊魂，大怒大怖精神飞散，就中死尸，道家大忌（海之至大，尚不宿尸，人之至灵，尸之至秽也）。或误冲见，当以桃皮、竹叶汤浴，讫，入室平卧，存想心家火遍身焚烧，身都炯然，使之如昼，然后闭气，咽新气，驱逐腹内秽气，攻下泄务令出尽，当自如故；四者，勿与一切众人争于是非，忿争斗竞，及抱小儿，减人算寿，损志伤神；五者，勿得欺罔，一切事阴神不助，常慎言语，节度行止，勿对北旋溺，犯太一紫微，殃罚非细。若有违此五戒，于二七日间，眠梦之内，自有惊觉，觉悟于人，务人修善，其事秘密，无事勿泄于人（所言《内景炁诀妙经》一篇，良有是也。夫内景是内秘之事，唯自己心内知之，固不合漏泄他人也）。

## 服气绝粒第二

要当用双日（只日则奇，双日则偶）及本命日，预前更沐浴，于室内焚香机上，上安净水一碗，设衾枕。其诀例曰：卧至夜半起坐，鸣天鼓三十六过，静心神，为元气和，此炁子时生发于心藏间，上贯泥丸、丹田，眉间却行三寸是上丹田宫，周转于身，如紫云气；又想太一真君如婴儿，左手持玉诀，右手执灵符，游于紫云气间。然后平枕正卧，绝一切浮想，浮想若不除，则心神炁当闭不行，绝想止念既定，然待出息尽便闭，玄牝气鼓满，牙齿勿得相近，欲咽之时，齿牙微相近，仍须收息缩气（音摄）腹咽下，以咽得为度，咽得饱以为期，亦无时限，此法与诸家咽气不同。若不收息缩气，取咽下，则不入大腹中，又不入食脉中。

夫喉咙中咽入之气，自有三道：一入肠胃中脉；二入五脏中脉；三入食脉。若不依前法缩气腹，但空咽得其炁，只得独入肠中，不入食脉，即无所成益也。若直下入腹中，入肠胃，缘腹中多阻隔，致令上冲下泄，食退其肠，四肢渐似无力，体内不免虚羸。纵吃汤饮，饵服诸药，并亦不免口乾、舌涩。若但依此法，候气满口，食久畜取，腹咽下，自当分入食脉及五脏，内息以此为都契。假令元气未达肠中，其食脉已先强满，与食无异，辄无虚羸，神妙无比。若不依此，一日纵三五十度咽气，其腹内未免欠乏，常有所思于食，即不可见其效矣。要坐服亦得，须依前法，以炁息畜咽入，咽入之时，仍须低头取势咽下，咽下即当时分入脏肠及食脉中，但解用气，食脉当时强满，满即自然饱足。如未曾学者，亦不过三数日便见次第。若咽物不得，纵咽不入于食脉，及心意妄思，即是夙生无分矣。

诸门咽气，皆先入肠中，冲排滓秽，经三五七日后，方达

食脉。纵达食脉，且神劳力倦，思食之意未能全绝，假令坚守数日之间，尚多腹中欠乏。若遇此法，但持四十九日，自然绝思饮食，纵有百味佳肴，都不采览，神功若此，无以加焉。切在藏秘，勿示见人者也。

凡春夏秋冬，并不假暖气，日久自悟，诸理了然。若要汤药、杏仁、姜、蜜及好蜀茶无妨，力未圆可以调助，唯姜不得多著，性能坏物，善夺人志。曾有通服鼓汤，此则未达深理，鼓且本性太冷，久淹尘秽，只辟面毒及解伤寒，大约伤坏藏府，正倾元气，特宜忌之。前云收息者，当低头纳气，炁入都亦无声，攻排滓秽，务令速退肠中滞食，纳得元炁，自然常饱，此是气与神合行之至也。三日后，亦不择行住坐卧，为之总得，亦不假致气，但咽强自下，人亦不知，自觉体理疏通，四肢过于常健。如此七日，神炁自足，不假久炼功夫，亦不要每日存想。自此一百日，三尸自除，忽尔一日，神自内现。但食气五十日，谷气方尽，便可绝诸汤药，其食出时，当有五色物出如似脓血。此物既尽，诸府通达，内视藏胃，如昼所见。若得至此，切不得慢泄于人，一旦神功通悟，亦不得辄怀怪异，尤须秘之，勿申于外。自然之功，外奸亦所不入，在阳不焦托阴不腐，一切质碍，无不穿贯，不危不殆。若谷气未尽，即到通地，如曾经受法之后，得遇此术，神气内辅，灵响外应，自然自在，无所拘束，要食亦得，不食亦得，食亦无损，绝亦无伤，再食再服，不拣月日，不论行住坐卧，处处总得。若不食多时，要得食者，可依前受法讫即食；若食多时，要得绝者，亦可受法讫，更依术为之，取以大成，诸绝为定。

夫至道无二，守之必成。但不错功，自然玄秘，世间吉凶善恶，无不晓达，上至天府，下至阴司，一切神灵，皆得使役，所有疾病，见无不理，所有异物，见无不识，颜如童女，光彩

射人，行速如风，所去无滞，一年之外，自入玄门。玄门者，谓入胎息（道言：玄牝门，天地根，绵绵若存，用之不勤。又，玄之又玄，众妙之门也）。

### 胎息羽化功第三

夫修胎息，于密室中厚设床枕，焚上好名香，兼请一至友为伴，缘初学人乍通玄路，见种种事，善恶境界，鬼神形容，自涉怪疑，心生妄乱，必恐闭息不固，事须要假相伴以安其意，切在清净心神，使寂然不动（自净其心，无想他事，善恶俱舍，出入两忘，有若处胎，了然绝息，即寂然不动也）。可正施手足，平枕仰卧，待出息尽，欬然闭之，更勿令出，当得攻面，流下四肢，浑身稍热，处处自得，绝喘绝息，乃遣至下，筹记泄息数（凡一出一入口鼻之气，名一息。以傍人出入，数其息也）。不过五百息，内景自现。若却还口鼻中，当微微放出，功至千息，其效的然，当易换骨肉，炼髓如霜，即合于大元，通于天府。上清事固不可裁其功，元力固不可明其德，神仙之法固不可宣其言，修道之术固不可示其要。所以虽言胎息，不说羽化者，良由此也。若依此术修炼，胎息得成而羽化亦成就，自有五神相伴，不假至友，此则不言之功，功已成矣。此《中山玉柜服神气经》，非至人至行，不可妄传，岂唯罪业一身，抑亦殃累七祖，切宜谨慎，勿示非人。

论曰：气功妙篇，气术之道数略同，专其精通，则世一二，且诸门咽气，或功繁语暗，理叙多端。若咽非候时，则心力多倦；若无时吐纳，食退气微；若坐想存神，志羸气惫，纵使宣明口势，吐纳开张，皆须日久月深，倦于賒阔。假令元气初得通于经脉，即经体尚虚，若元气未达经脉之间，即脏腑不免绵



懈，致其转思食道，因此弥留。辩其理者，则勤苦而进轮；昧其趣者，则懈怠而退辙。实由不通元路，未契玄关，斋禁不齐于内神，制度有亏于外法。余今所录，至秘至神，是得自然之本原，洞了道术之根蒂。后代学者，宜自勉欤！

#### 圣正规法第四

夫先圣先真之道术，通载则理合于幽微，若不逢立启之门，难达其玄牝，若获斯诀，可决成功。功满德圆，无所不可，上以升九天，下以游五岳。若居于尘世者，可以理百病，可以消众毒，可以鉴吉凶，可以察善恶，可以起垂死，可以救临危，可以役神灵，可以辟刀兵，可以却寒热，可以离世苦。若居于山谷者，可以登悬险，可以升虚空，可以涉江波，可以隐形踪，可以降毒蛇，可以伏猛兽，可以游九府，可以栖三岫。进可以飞九天，退可以沉九泉，永除饥渴，度绝缠绵，隐化无滞，盈亏自然，免三途五苦之难，削黑簿丹籍之名，名书金简之科，功记玉皇之历，此玄元之圣力，上真之秘旨，功成之后，不思而自成，不呼而自至。言通雅正，语合幽微，至道无为，了然总会，一至于此，吾道成焉。

论曰：夫达士悟道，常畏于身。故吾有大患，为吾有身，故有其患，患在毁伤形体，莫若寄寓神精，譬于器中安物，物假器而居之，畏器之破坏，物乃不得安居。形体若也消亡，精神于何处安泊？神畏身死，物忌器破。若乃小心护惜，专意保持，身器两存，神物何虑？但以粗心大胆，弃掷坠扑，色欲劳形，纵性费力，烝因兹而破坏，身自此而毁伤，形如焦谷枯木，不可复生其牙叶，纵遇阳和之春，长为阴冥下鬼，毕于朽腐，可谓愍嗟，虽位极人臣，皆行尸走骨矣（言虽位极人臣，若不

知道，皆是行尸走骨也）。

夫玄元得之于自然，广成受之于上仙，黄帝修之于内景，余今遇之于中天（中天，即中山，谓嵩岳也。碧岩于此，遇斯经焉）。此经微妙，不可思议。述服气之神功，渐通达于胎息，之道若成，羽化之期自至，便能升于天府，名纪玉书，位为大仙，阶齐圣列。将来学人见此《中山玉柜服神炁经》，安心修行，请勿有疑，必然之理，通于神明，幸宜保敬，勿负余信。

### 幻真先生服内元气诀法

#### 进取诀

凡欲服气，先须高燥净空之处，室不在宽，务在绝风攘。常令左右烧香（不用秽污）。床须厚软，脚稍令高（《真诰》曰：床高鬼吹不及，言鬼神善因地炁以吹人为祟，床高三尺可也）。衾被适寒温，令冬稍暖尤佳。枕高二寸许，令与背平。每至半夜后生气时，或五更睡之初觉，先吹出腹中浊恶之炁，一九下止。若要细而言之，则亦不在五更，但天炁调和，腹中空，则为之。先闭目，叩齿三十六通，以警身神。毕，以手指捻目大小眦，兼按鼻左右，旋耳及摩面目，为真人起居之法。更随时少为导引，以宣畅关节。乃以舌柱上腭，料口中外津液，候满口则咽之，令下入胃，存胃神承之，如此三，止。是谓漱咽灵液，灌溉五脏，面乃生光。此之去就，大体略同。便兀然放神，使心如枯木，空身若委衣，内视返听，万累都遣，然后淘之。每事皆闭目握固，唯临散气之时，则展指也。夫握固，

所以闭关防而却精邪。初服气之人，气道未通，则不得握固，待至百日或半年，觉气通畅，掌中汗出，则可握固。《黄庭经》云：闭塞三关握固停，漱咽金醴吞玉英，遂至不食三虫亡，久服自然得兴昌。

### 淘气诀

诀曰：凡人五脏，亦各有正气。夜卧闭息，觉后欲服气，先须转令宿食消，故气得出，然后始得调服。其法闭目握固，仰卧，倚两拳于乳间，竖两膝，举背及尻，间闭气，则鼓气海中气，使自内向外，轮而转之，呵而出之，一九或二九止。是曰淘气，毕则调之。

### 调气法

诀曰：鼻为天门，口为地户，则鼻纳之，口宜吐之，不得有误。误则气逆，气逆则生疾。吐纳之际，尤宜慎之，亦不使自耳闻，调之或五或七至九，令平和也。是曰调气，毕则咽之，夜睡则闭之，不可口吐之也。

### 咽气诀

诀曰：服内气之妙，在乎咽气。世人咽外气以为内炁，不能分别，何以谈哉？纳吐之士，宜审而为之，无或错误耳。夫人皆禀天地之元气而生身，身中自分元气而理。每咽及吐纳，则内气与外气相应，自然气海中气，随吐而上，直至喉中，但喉吐极之际，则辄闭口连鼓而咽之，令郁然有声，汨汨然从男

左女右而下，纳二十四节，如水沥沥，分明闻之也。如此，则内气与外气相顾，皎然而别也。以意送之，以手摩之，令速入气海。气海，脐下三寸是也，亦谓之下丹田。初服气人，上焦未通，以手摩之，则令速下，若流通，不摩亦得。一闭口，三连咽止。乾咽，号曰云行。一湿口咽取口中津咽，谓之雨施。初服气之人，炁未流行，每一咽则旋行之，不可遽至三连咽也。候气通畅，然后渐渐加之，直至于小成也。一年后始可流通，三年功成，乃可恣服。新服气之人，炁既未通，咽或未下，须一咽以为候，但自郁然有声，汨汨而下，直入气海。

### 行气诀

法曰：下丹田近后二穴，通脊脉，上达泥丸。泥丸，脑宫津名也。每三连咽，即速存下丹田所，得内元炁，以意送之，令入二穴。因想见两条白炁，夹脊双引，直入泥丸，熏蒸诸宫，森然遍下毛发、面部、头项、两臂及巨手指，一时而下入胸，至中丹田。中丹田，心宫神也。灌五脏，却历入下丹田，至三星，遍经襞膝、胫、踝，下达涌泉。涌泉，足心是也。所谓分一气而理，鼓之以雷霆，润之以风雨之状也。只如天有泉源，非雷霆腾鼓，无以润万物。若不回荡浊恶之气，则令人有不安。既有津液，非漱咽之，不堪溉灌五脏，发其光彩，终不能还精补脑；非交合，则不能溯而上之。咽服内气，非吐纳则不能引而用之。是知回荡之道，运用之理，所以法天则地。想身中浊恶结滞，邪气瘀血，被正荣气荡涤，皆从手足指端出去，谓之散气。气散则展手指，不须握固。如此一度，则是一通。通则无疾，则复调之，以如使手。使手复难，鼓咽如前。闭炁鼓咽至三十六息，谓之小成。若未绝粒，但至此常须少食，务令腹

中旷然虚净，无问坐卧，但腹空则咽之，一日通夕至十度，自然三百六十咽矣。若久服炁，息顿三百六十咽，亦谓之小成，一千二百咽，谓之大成，谓之大胎息。但闭炁数至一千二百息，亦是大成。然后胎不结，然不能炼形易质，纵得长生，同枯木无精光。

又有炼气、闭气、委气、布气并，诸诀法，具列于文，同志详焉。

### 炼气诀

诀曰：服气炼形，稍暇入室，脱衣散发，仰卧，展手勿握固，梳头令通，垂席上布之，则调气咽之。咽讫便闭气，候极，乃冥心绝想，任气所之以通理，闷即吐之，喘息即调之，候气平，又炼之。如此十遍，即止。新服气之人，未通，有暇渐加一至十；候通，渐加至二十至五十。即令遍身汗出，如有此状，是其效也。安心和气，且卧勿起冲风，乃却老延年之良术尔。但津液清爽，时为之尔；气愠乱欲睡，慎勿为也。常勤行之，四肢烦闷不畅亦为之，不必每日旦，要独清爽时，为之十日、五日。《黄庭经》云：千灾已消百病痊，不惮虎狼之凶残，亦以却老年永延。

### 委气诀

诀曰：夫委气之法，体气和平也，身神调畅，无问行住坐卧，皆可为之。但依门户调气，或伸于床，或兀然而坐，无神无识，寂寂沉沉，使心同太空，因而调闭，或十气、二十气皆通。须任气，不得与意相争。良久，气当从百毛孔中出，不复

口吐也，纵有十分无二也。复调能数至千二百息已上，弥佳。行住坐卧，亦可为之。如此勤行，百关开通，颜色光泽，气清长如新沐浴之人。但有不和则为之，亦当清泰也。《黄庭经》云：高拱无为魂魄安，清静神见与我言。

### 闭气诀

诀曰：忽有修养乖宜，偶生疾患，宜速于密室，依服气法，布手足讫，则调气咽之。念所苦之处，闭气以意想注，以意攻之，气极则吐之。讫，复咽气，相继依前攻之，气急则止，气调复攻之。或二十至五十，攻觉所苦处，汗出通润，即止。如未损，即每日夜半，或五更、昼日频作，以意攻之。不拘病在头面、手足，但有疾之处，则攻之，无不愈者。是知心之所使气，甚于使手，有如神助，功力难比也。

### 布气诀

诀曰：凡欲布气与人疗病，先须依前人五脏所患之处，取方面之炁，布入前人身中，令病者面其方，息心静虑，此与炁。布炁讫，便令咽气。鬼贼自逃，邪气永绝。

### 六炁诀

诀曰：六气者，嘘、呵、咽、吹、呼、嘻是也。气各属一脏，馀一气属三焦。咽属肺，肺主鼻，有寒热不和及劳极，依咽吐纳，兼理皮肤疮疥，有此疾，则依状理之，立愈也。

呵属心，心主舌，口乾舌涩，气不通及诸邪气，呵以去之，

大热大开口，小热小开口呵。若须作意，是宜理之。

呼属脾，脾主中宫，如微热不和，腹胃胀满，气闷不泄，以呼字烹理之。

吹属肾，肾主耳，腰肚冷，阳道衰，以吹字烹理之。

嘻属三焦，三焦不和，嘻以治之。气虽各有所治，但五脏三焦，冷热劳极、风邪不调，都属于心，心主呵，呵所治诸疾皆愈，不必六气也。

嘘属肝，肝主目，赤肿昏眩等，皆以嘘治之。

### 调气液诀

诀曰：人食五味，五味各归一藏，每藏各有浊气。同出于口。又六气三焦之气，皆凑此门，众秽并投，合成浊气，每睡觉，薰薰气从口而出，自不堪闻，审而察之，以知其候。凡口中焦乾，口苦舌涩，乳颊无津，或咽唾喉中痛不能食，是热极状也，即须大张口呵之，每咽必须依门户，出之十呵、二十呵，即鸣天鼓，或七或九，以舌下撩华池而咽津，复咽令热气退，止。但候口中清水甘泉生，即是热退五脏凉也。若口中津液冷淡无味，或呵过多，心头汪汪然，食饮无味，不受水，则是冷状也，即当吹以温之，如温热法。伺候口美心调，温即止。《黄庭经》云：玉池清水灌灵根，审能修之可长存。又云：漱咽灵液灾不干。

### 饮食调护诀

诀曰：服气之后，所食须有次第，可食之物有益，不可食之物必有损，损宜永断，益乃恒服。每日平旦，食少许淡水粥，

或胡麻粥，甚益人，治脾气，令人足津液。日中淡面饔飧及饼并佳，只不得承热食之，勃乱正气也。煮葱薤羹可佳，饭必粳米，大麦面益人。服气之人经四时，甚宜服食之。此等物不必日日食之，任随临时之意欲食之。鹿肉作白脯，食之佳，如是斋戒，即不得食也。三十六禽神直日，其象鸟并不可食。枣、栗之徒兼之追饼，亦得食也。作可饒慎勿饱，饱则伤心，气尤难行。凡热面、萝卜羹，切忌切忌。咸酸辛物，宜渐渐节之。每食毕，即须呵出口中食毒浊气，永无患矣。

服气之人，肠胃虚净，生冷、醋滑、粘腻、陈硬、腐败、难消之物，不用食。若偶然食此等之物一口，所在处必当微痛，慎之。但食软物，乃合宜也。每食先三五咽气，而吃食令作主，兼吞三五粒生椒佳也。食毕，更吞三粒下走引气。此物能消食，引气向下，通三焦，利五脏，趁浊秽，消宿食，助正气也。宜长久服之，能辟寒沍暑湿，明目生发，治气功力，不可具述，备在《太清经》中，服椒别有方。服候有气下，则泄之，慎而勿留，留则恐为疾。每空腹随性饮一两杯清酒，甚佳。冬温夏冷，助正气排遣诸邪，其功不细。戒在多，多则悞醉，醉则伤神损寿。若遇尊贵，不获已，即宜饮，放即三五口，饮并即大开口十数下，以遣出面蘖之毒，调治之。常时饮一二升，徐徐饮之，亦不中酒，兼不失食，味亦不退，乃如故矣。不用冲生产、死亡并六畜，一切秽恶不洁之气，并不宜及门，况近之耶？甚不宜正气。如不意卒逢以前诸秽恶，速闭气，上风闭目速过，便求一两杯酒以荡涤之。觉气入腹不安，即须调气，过出浊气，即却咽下，更纳新气，以意送之，当以手摩之，则便含椒及饮一两杯酒，令散矣。如不肯散，即不须过理逼，任出无苦。此则上焦拥，故终须调气理之，使和平也。而食油腻辛味，甚犯正气，切意省之。尚知向犯者，使勿忤也。亦有服气一年



通气，二年通气实，三年功成，元气凝实，纵有触犯，无能为患。日服千咽，不足为多，返老还童，渐从此矣。气化为津，津化为血，血化为精，精化为髓，髓化为 。一年易气，二年易血，三年易脉，四年易肉，五年易髓，六年易 ，七年易骨，八年易发，九年易形，即三万六千真神，皆在身中化为仙童，号曰真人矣。勤修不倦怠，则关节相连，五脏牢固。《黄庭经》云：千千百百自相连，一一十十似重山。是内气不出，外气不入，寒暑不侵，刀兵不害，升腾变化，素同三光也。

### 休粮诀

诀曰：凡欲休粮，但依前勤修，三年之后，正气流通，髓实骨满，百神守位，三尸遁逃。如此渐不欲闻五味之气，常思不食，欲绝则绝，不为难也。但觉腹空，即须咽气，无问早晚，何论限约，久久自知节候，无烦其言，何用药物！大抵服药之人，多不能服气，终日区区，但以药物为务，身形不得精实，固为未得亦非上士用心也。《黄庭经》云：百谷之实土地精，五味外美邪魔腥，臭乱神明胎气零，那从返老却还婴，何不食气太和精，故能不死入黄宁。此之谓也。

### 慎守诀

诀曰：世上之人，多嗜欲伤生伐命，今古共焉。不早自防，追悔何及！夫人临终方始惜其身命，罪定而后思求善事，病成方求其药，天纲已发，何可救之？故贤哲上士，惜未绝之命，防未祸之祸，理未病之病，遂拂衣人寰，摄心归道。道者，气也；气者，心之主；精，者命之根。爱精重气，然后身心保之

矣。《黄庭经》云：方寸之中，谨盖藏，精神还老复丁壮，养子玉树令如杖，急固子精以自偿。又曰：长生至慎房中急，何谓死作令神泣？若当诀海百渎倾，叶去树枯失青青。夫长生久视，未有不由爱精保气能致之。阴丹内御之道，世莫得知，虽务于气，而不解绝情欲，亦未免殃矣。故曰：人自失道，非道失人；人常去生，非生去人。修养君子，自保省尔。

### 服气胎息诀

诀曰：精者，气也；气者，道也。先叩齿三十六通，右转头一匝，如龟引颈，其胎息上至咽喉，即咽之。如此三遍，方闭口以舌内外摩料，取津满口漱流，昂头咽之，上补泥丸，泥丸即昂头是也。下润五脏。老子曰：甘雨润万物，胎津润五脏。昼夜不寐，乃成真人，上致神仙，下益寿考。在身所有疾苦，想气送至所苦处，即愈。真气逐浊气，上冲下泄，觉神清爽，则气自冲和。故圣人有言：夫人在气中，气在人中，人不离气，气不离人，人藉气而生，因失气而死，死生之理，尽在气也。但调得其气，求死不得。则每夜半及五更，展两脚，握固，展手去身五寸，其枕不得过二寸，闭目，依前法咽之。梳洗讫，以暖一杯酒饮之，益胎息，润六府，引气开百关。昔峨眉山仙人幽秘法，此不可言也。

老君曰：灵芝玉英，并在其腹，名山大泽，取药服之，与道甚乖。吾道甚易，但能行之。早起展两脚，喘息匀，以两手叉脑后，手前拽，头向后拽顿，如此三，毕；两手相叉向前拽，前拽三两遍，左右掣三二十遍。毕，咽津二十遍。如觉四体不和，即乃舌漱液三二十咽，流却疾去。万金不传非其人，造次传者，殃及三代也。

## 胎息经

胎从伏气中结（脐下三寸为气海，亦为下丹田，亦为玄牝。世人多以口鼻为玄牝，非也。口鼻即玄牝出入之门。盖玄者水也；牝，土母也。世人以阴阳气相感，结于水母，三月胎结，十月形体具而生人。修道者，常伏其气于脐下，守其神于身内，神气相合而生玄胎。玄胎既结，乃自生身，即为内丹，不死之道也）。气从有胎中息（神为气子，气为神母，神气相逐，如形与影。胎母既结，神子自息，即元气不散）。气入身来为之生，神去离形为之死（《西升经》云：身者神之舍，神之主也。主人安静，神即居之；主人躁动，神即去之。神去气散，其可得生？是以人耳目手足，皆不能自运，必假神以御之。学道养生之人，常拘其神以为身主，主既不去，宅岂崩坏也）。知神气可以长生，固守虚无以养神气（《道经》云：我命在我，不在天也。所患人不能知其道，复知而不行。知者但能虚心绝虑，保气养精，不为外境爱欲所牵，恬淡以养神气，即长生之道毕矣）。神行即气行，神住即气住（所谓意是气马，行止相随，欲使元气不离玄牝，即先拘守其神，神不离身，气亦不散，自然内实，不饥不渴也）。若欲长生，神气相注（相注者，即是神气不相离。《玄纲》云：纤毫阳气不尽不为鬼，纤毫阴气不尽不为仙。元阳即阳气也，食气即阴气也。常减食节欲，使元气内运，元气既壮，即阴气自消。阳壮阴衰，则百病不作，神安体悦，可觐长生）。心不动念，无来无去，出出入入，自然常住（神之与气，在母腹中本是一体之物，及生下为外境爱欲

所牵，未尝一息暂归于本。人知此道，常泯绝情念，勿使神之出入去来。能行不忘，久而习之，神自住之矣）。勤而行之，是真道路（修真之道，备尽于斯，然圣人之言，其可忘欤）。

# 云笈七签

第三部

（宋）张君房 著

## 卷六十一 诸家气法部六

### 用气集神诀

神集于虚（桑榆子曰：虚无盖为象也）。而安于实。（实为精也）。神，心中智者也。安而无欲，则神王而气和正。如此之时，一任所之，唯久弥善。行之不已，体气至安，谓之乐天（天者，虚而知之者）。乐天则寿。身外虚空亦天也。身内虚通亦天也，习之久，久乃明生焉（虚中生白）。密自内知之，久习弥广，而精上合于明，明则内发于精，如是乃至于道。道应于德，德之成矣。用而为仁，分而为义。精气昼出于首，夜栖于腹，当自尊其首，重其腹。色庄于上，敬直于中，应机无想，唯善是与。此神气事质合吾一体，谓之大顺，天实佑之，吉无不利。凡妙本有所，神在心中的虚，上通其系，气蕴肠中之实（实，精藏之府，水胞之上也），常宜温养之（桑榆子曰：凡温者，生之徒；但不得自温而失于热也）。平居常宜闭目，内视气源（下丹田也）。每行一事，利于生灵，则欣闭目，内视其心，谢之。若曰：吾身之神气，明发于吾形，使吾达道也。如此，则天降之吉。故天者，虚气之灵，吾能用之，道极于斯矣（桑榆子曰：“所谓天者，自然之谓也，非苍苍之谓乎）。

## 服五方灵气法

诀曰：子若亏于仁，则青帝非真；子若亏于义，则白帝非真；子若亏于礼，则赤帝非真；子若亏于信，则黄帝非真；子若亏于智，则黑帝非真。且夫五气之道，体通神真，子不负道违真，即可修用。是以道君保而传之于至人，以助自然，以调元化，修之于身而感于天。天乃五行顺序，地乃五岳安镇，人乃五藏保和，神乃五灵运御。是故性亏五德，凶恶顺焉。真人存用五气法，先当勿食荤血之物，勿履淹污，绝除欲念，检身口意，三业清净，别造一室，沐浴盛洁，以立春日鸡鸣时，面月建寅方，平旦坐，调气瞑目，叩齿三十六通，叩齿欲深而微缓，漱咽津液，崑目，左右各三，握固，临目，都忘万虑，放乎太空，无起无绝。良久觉身中通暖，当摇动支体，任吐浊气。即又调息，当抱守气海，朝太渊北极丹田真宫，稍用力，深满其太渊，则觉百关气归朝其内也。如此数过，复冥心太空，若东方洞然，无有隔碍，徐鼻引气使极，存见五脏，觉东方青帝真气从肝中周回，内外一体，念身中三万六千神，与青帝真气合。又调息咽液。良久，起立，再拜，事竟。如此，日日勿阙，至惊蛰面卯也，尽卯节。至清明日面辰，存黄气，从脾中周回，内外洞彻也。至立夏日面巳，存赤气，从心中周回，内外也，芒种日面午也。小暑面未，存黄气，从脾中周回内外也。至立秋日面申，存白气，从肺中出，周回内外也，至白露日面酉，至寒露面戌，存黄气，从脾中出周回内外也。至立冬日面亥，存黑气，从肾中出周回内外也。至大雪面子，至小寒日面丑，

存黄气，从脾中出周回内外也。此一周年，五气备全矣。其存想调息次第法，用如初说，崑目叩齿亦如初数，不须等级可也。至明年立春，重习三日，或五日、七日、九日，如去年次第为用，以朝其气也。其气由心应手，当把览三才五行，万灵之目也。夫掌诀，以握固为总法，所以运魁刚，封五岳，关三晨，捉鬼道，揽河源，固真气，而幽显备统之也。事竟，即随息诀遣以散其气。凡指诀，女人尚右，男子即尚左，阴阳之体然也。大指属土，食指火，中指木，无名指金，小指水。从根节为孟，中节为仲，头节为季，指甲之目为五行刀支。刀支主杀也，斩邪诛逆用之。五气既全，当随五类，互相制伏，无不如意。握固法：以大指掐四指根入毕鬼道三过，随文闭气，握之指节具十二辰，亦随其相生相剋类，例用之也。

诸步纲起于三步九迹，是谓禹步。其来甚远，而夏禹得之，因而传世，非禹所以统也。夫三元九星，三极九宫，以应太阳大数。其法：先举左，一跬一步，一前一后，一阴一阳，初与终同步，置脚横直互相承，如丁字所，亦象阴阳之会也。踵小虚相及，勿使步阔狭失规矩。当握固闭气，实于大渊宫，崑目自三，临目，叩齿存神，使四灵卫已，骑吏罗列，前后左右，五方五帝兵马，如本位北斗覆头上，杓在前，指其方，常背建击破也。步九迹竟，闭气却退，复本迹，又进，是为三反。即左转身，都遣神气纲目，直如本意，攻患害，除遣众事，存用讫，却闭目存神，调气归息于大渊宫，当咽液九过。其禁敕符水等，请五方五帝真气，如常言。真师曰：先习五气一年，乃习三步九迹星纲，一年无差，然后行诸禁法，随意克中如神也。能清慎守道，久久飞仙度世，古人真仙圣王，皆得之以佐世治俗。但世传不真，妄生穿凿，唯按此行之，乃见其验。先师云：三步九迹如既济卦，得星纲真诀，又须条习五帝之气及握固



掌诀，始合其宜，是以通彻真原也。若但受持符图宝篆，不得师传修用之门，终不获灵验，一如篆文。不尔，且谓尊奉供养而已。为之善缘，用资来业者梯级尔。

### 五厨经气法（并叙）

臣闻《易》曰：精义入神，以致用也；利用安身，以崇德也。富哉言乎！富哉言乎！是知义必精，然后可以入神致用；致用必利，然后可以安身崇德。义不精而云致用，用不利而云安身，身不安而云知道者，未之有也。然则，冲用者生化之主也。精气为物，谓之委和，漠然无间，有与立矣！则天地大德不曰生乎？全其形生者，在乎少私寡欲，抱朴柔和，游心于澹，合气于漠。且清明在躬，志气如神，嗜欲将至，有开必先。故圣人垂教以检之，广业以持之，专气致柔以导其和，向晦宴息以窒其欲，洗心藏密，穷神知化，然后身安，而国家可保，德用而百姓不知。是以自天佑之，吉无不利矣。伏读此经五章，尽修身卫生之要，全和含一，精义可以入神，坐忘遗照，安身可以崇德。研味滋久，辄为训注。臣草茅微贱，恩霈特深。天光不违，自忘鄙陋。俯伏惭惧，徊徨如失。臣愆顿首顿首。开元二十三年十二月十一日京肃明观道士臣尹愔上。

《老子说五厨经》（夫存一气和泰，则五脏充满，五神静正。正藏充则滋味足，五神静则嗜欲除。则此经是五脏之所取给，如求食于厨，故云五厨尔）。

东方一气和泰和（一气者，妙本冲用，所谓元气也。冲用在天为阳和，在地为阴和，交合为泰和也。则人之受生，皆资

一气和，以为泰和，然后形质具而五常用矣。故《老子》曰：万物负阴而抱阳，冲气以为和也。则守本者，当外绝二受，以全生分，内存一气，以和泰和，泰和一而性命全矣。故《老子》又曰：专气致柔，能如婴儿乎），得一道皆泰（得一者，言内存一气以养精神，外全形生以为车宅，则一气冲用，与身中泰和也，故云得一。如此修生养神之道，皆舍于泰和矣。故《老子》曰：万物得一以生）。和乃无一和（言人初禀一气以和泰和，若存和得一，则和理皆泰。至和既畅，非但无一，亦复无和，不可致诘，如土委地。故《老子》曰：吾不知其名）。玄理同玄际（玄妙也；理，性也。此言一气存乎中，而和理出其性，性修反德，而妙畅于和，妙性既和，则与玄同际。故老君曰：同谓之玄）。

南方不以意思意（意者，想受也。言存一气以和泰和者，慎勿存想受以缘境识，当凝神湛照，令杳然空寂，使和畅于起念之前，慧发于忘知之后。瞻彼闾者，虚室生白，则吉祥止矣。若以意思意，想受坐，坐令焚和，焉得生白？故老君曰：塞其兑，闭其门，终身不勤），亦不求无思意而不复思（但不缘想受，则自发慧照，慧照之发亦不自。若求无思，即涉想受，与彼思意无差别。故老君曰：无名之朴，亦将不欲。意无有思，内存一气，但令其虚，虚即降和，和理自畅，则不缘想受纳和，强假意名。既非境识所存，是以于思无有。故老君曰：用其光，复归其明）。是法如是持（如是内存泰和，泰和之法和畅，则是法皆遣，遣法无住，复何所持？以不持为持，故云是法如是持也）。

北方莫将心缘心（心者，发慧之质，想受之器也。正受则发慧，邪受则生想，言人若能气和于中，心正于内，内照清静，则正慧湛然。鉴明而尘垢不止，渊停而万象俱见。见象无主，

谓之常心。若以心得心，缘心受染，外存诸法，内无慧照，常心既丧，则和理亦亏矣。故《庄子》曰：得其心，以其心，得其常心，物何为最之哉），还莫住绝缘（夫以心缘心，则受诸受若正受生慧，日得常心。慧心既常，则于正无受，何等为绝缘？心亦无缘绝，湛然常寂，何所住乎？故老君曰：损之又损之，以至于无为也）。心在莫存心（慧照湛常，则云心在；心忘慧照，故曰莫存。既不将而不迎，心缘则无绝，而无住矣），真则守真渊（真者，谓常心慧照，清净不杂也。若湛彼慧源，寂无所染，既无知法，亦无缘心，则泰和含真，本不相离，故云守尔）。

西方修理志离志（理者，性也；志者，心有所注也。前绝外境受，此绝内性受也。言修性者，心有所注。心有所注，但得遍照，外尘已绝，境识无住，离形去智，同于大通，性修反初，圆照无滞，内外俱静，玄之又玄，则离于住想矣），积修不符离（上令修性离志，则内外俱寂，无起住心，亦无空心，坐忘行忘，次来次灭，若积修习，不能忘泯，起修一念，发引千钧，内照既摇，外尘咸起，则与彼离志不相符合矣），志而不修志（若心无所注，则何由渐悟？必固所注，而得定心，心得故云志也。不修志者，明离志而不积修，忘修而后性足，则寂然圆照矣）已业无已知（因心注而慧业清净，故云已业。内忘诸己，外忘诸物，于慧照心无毫芒用。则于已业自亦忘知，故云无已知也）。

中央诸食气结气（夫一气凝结，以和泰和，和一皆泰，则慧照常湛。今口纳滋味，以充五脏，身聚泡沫，以载其形。生者，受骸于地，凝湿于水，禀热于火，持息于风，四缘结漏，皆非妙质。故淄涅一气，昏汨泰和，令生想受，识动之弊秽矣。非诸久定结（言人当令泰和舍一，无所想受，守真湛常，则与

泰和合体。今以诸食结气，故非久定结也）。气归诸本气（四缘受识，六染生弊，地水火风，散而归本，根识既识，则从所受业矣）。随取当随泄（取者，受纳也；泄者，发用也。夫想有二受，业有二应，随所受纳，法用其微。若泰和和一，则一气全和，致彼虚极，谓之复命，复命得常，是名正受。正受净业，能生慧照，慧照湛常，一无所有，则出入无间矣。不者，则食气归诸四缘，业成沦于六趣）。

### 谷神妙气诀

诀曰：玄气为吾篱落，元气为吾屋宅，始气为吾床席。天为玄气正清，从我头上而下入我舍，止我肝，关川九天，从我两目而出；水为元气正白，从我左右脉下入我舍，止我肺，关川九天，从我两鼻孔中而出；地为始气正黄，从我左右足下而入我舍，止我脾，关川九天，从我口中而出。愿其三气俱来覆被其身，周年竟岁，永无穷极。次舍入身中七十二生气，发为清城君，头为三台君，眉为八极君，两耳为决明君，左目为玄明君，右目为元明君，鼻为周天妙户君，口为列元玉户君，齿为八土君，舌为无极君，咽为校尉君，喉为九卿君，肺为华盖君，胆为长命君，胃为太仓君，大肠为食母君，小肠为导引君，左肾为玄妙君，右肾为玄元君，肠为越道君，三焦为元老君，两膝为小车徘徊君，两足为雷电起君。愿师子取口中七十二生气，常当在师子身中，不得妄出。次念婴儿、真人、赤子三君，为我存泥丸、行绛宫、守丹田，不得妄出。婴儿字子元，治人丹田中，主人长生无为；真人字子丹，治人心中，主人万神长

生；赤子字太上，治人头中，主人延年益寿，制灵不死长生。事毕。上一在人脑中，其神赤子是；中一在人心中，其神真人是；下一在人脐下一寸三分，其神婴儿是。凡人久生之道，一切由是，念之不止，即见神矣。脑为紫微宫，心为洞房宫，脐下三寸名丹田宫。人常念三宫中神气，则可长生久视，次念身中五宫、六腑、五脏、肝为木宫，心为火宫，肺为金宫，肾为水宫，脾为土宫，亦为五脏。肝为左将军府，肺为右将军府，心为前将军府，肾为后将军府，脐为中骑大将军府，头为上将军府。内者见外，外者知内。内，五行、六腑、五脏。五行者，肝为木，心为火，肺为金，肾为水，脾为土，谓之五行；肺为玉堂宫、尚书府，心为绛堂宫、元阳府，肝为清冷宫、兰台府，胆为紫微宫、无极府，肾为幽致宫、太和府，脾为中和宫、太素府，谓之六腑；肺藏魄，肝藏魂，心藏精，肾藏意，脾藏志，谓之五脏。五者在天为五星，在地为五行，在物为五色。在天为五星，五星者，东方岁星、南方荧惑星、西方太白星、北方辰星、中央镇星；在地为五行者；金木水火土；在人为五脏者，心脾肝肺肾；在物为五色者，赤青白黑黄。所以有间色者，甲己为妻夫，以黄入青为绿；丙辛为妻夫，以白入赤为红；丁壬为妻夫，以赤入黑为紫；戊癸为妻夫，以黑入黄为紺；故今有间色者。甲为木，乙为林，丙为火，丁为灰，戊为土，己为赭，庚为金，辛为矿，壬为水，癸为泥。夫木气有所生，火气有所长，金气有所杀，水气有所灭，何以明之？木气有所生者，春三月万萌皆簇地而生，故是知木气有所生；夏三月万木皆成大，故知火气有所长；秋三月万物皆死，故知金气有所杀；冬三月巢虫蛰蚁动皆飞走，故知水气有所藏灭。夫木气有所生，木荣有华，而死者何自？妻来女归，春三月木王，甲召乙归，得金，故亦有所游。夏三月有所长，土有所生，麦中死者何？辛为丙

妻，金气出辛，为有所杀。榘所以先青后赤，至熟其黑者何？生故。先青后黑，火生，其气赤。熟黑者何，丁为壬妻，丙召丁归，得水气故令黑。枣先白至熟而赤者何？枣始入七月，被金故白，熟赤者，辛为丙妻，为庚召辛，得归火气，故令赤。金气有所杀，至秋八月，荠菱而生者何？乙为庚妻，以得木气，故有所生。乙为庚妻，以青入白为缥。夫五行更为夫妻者何？皆有威制，故土欲东游，木往刻之，故戊嫁己为甲妻；木欲西游，金往伐之，故甲嫁乙为庚妻；金欲南游，火往杀之，故庚嫁辛为丙妻。火欲北游，水灌而灭之，故丙嫁丁为壬妻，水欲南游，土往竭之，故壬嫁癸为戊妻矣。夫五行有相刑灭毁，或死者何？木之穿土不毁、火之烧金不灭者何？木火者仁，阳气好生不杀；金之伐木死，水之灌火死，皆阴气好贪；故所刑皆死。五行者，心为火行，肝为木行，肺为金行，肾为水行，脾为土行。为五脏，法五行，肝为木行，所以行水，而沉者何？己为甲妻，得地气令其沉。肺为金行，所以得水，而浮者何？辛为丙妻，得火气，故浮。脾者土，得水，正居中央，癸为戊妻。夫土者五行之中，癸助土，故脾得水，上不至上，下不至下，正在中央者何？癸为戊妻。夫土者五行之中义说之，以合五行意。木从亥生，盛于卯，死于未，亥卯为阴贼，不可与百官，百事不吉。水从申生，盛于子，死于辰，申子为贪狼，不可行用，辰日奸，未日邪，戌日为正，丑日为公，奸邪恶公正。

### 辨杂呼神名

天公字阳君。

日字长生。

月字子光。

北斗字长史。

雷公字吾君。

西王母字文殊。

太岁字微明。

大将军字元庄。

已上，男知不兵死，女知不产亡，入水呼引阴，入山呼孟宇，入兵呼九光，远行呼天命。凡呼之，皆免难。

弩名远望，一名箠威张星之主。

弓名曲张，一名子张五星之主。

矢名续长，一名信往，一名傍徨荧惑星之主。

刀名脱光，一名公详，一名大房虚星之主。

剑名阴阳。

戟名大将参星之主。

钺名钩伤，一名钩殃。

铍名牟，一名默唐。

楯名自障。

已上，有兵革即呼其名，所无伤害，能福于人，大吉良矣。

### 中岳都俭食气法

平旦七七四十九咽。

日出六六三十六咽。

食时五五二十五咽。

禺中四四一十六咽。

日中九九八十一咽。

晡时七七四十九咽。

日入六六三十六咽。

黄昏五五二十五咽。

人定四四一十六咽。

《黄庭经》曰：玉池清水灌灵根，子能修之可长存。名曰饮食自然。华池者，口中之唾也。呼吸如法，咽之即不饥矣。初绝谷三日，七日，小极头眩，慎勿怪也，满二十一日成矣。气力日增，欲食可食，即息禁阴阳，不可妄失精气也。食谷乃通。老君《道经绝谷气第三法》曰：先合口引气，咽之满三百六十已上，不得减此。咽之欲多多益善，能日咽至千，益佳。咽多而食日减一餐，十日后能不食也。后，气常入不出，意气常饱。不食三日，腹中惛惛若饥，或小便赤黄，取好枣九枚，或好脯如枣者九枚，念食啖一枚，若二枚至三枚，一昼一夜无过此九也。意中不念食者，不须啖也。常舍枣核受气，令口中常行津液，嘉。

## 十二月服气法

正月：朝食阳气一百六十，暮食阴气二百。

二月：朝食阳气一百八十，暮食阴气一百八十。

三月：朝食阳气二百，暮食阴气一百六十。

四月：朝食阳气二百二十，暮食阴气一百四十。

五月：朝食阳气二百四十，暮食阴气一百二十。



六月：朝食阳气二百二十，暮食阴气一百四十。

七月：朝食阴气二百，暮食阳气一百六十。

八月：朝食阴气一百八十，暮食阳气一百八十。

九月：朝食阳气一百六十，暮食阴气二百。

十月：朝食阳气一百四十，暮食阴气二百二十。

十一月：朝食阳气一百二十，暮食阴气二百四十。

十二月：朝食阳气一百四十，暮食阴气二百二十。

夫阳气者，鼻取之气也；阴气者，口取之气也。此二气，十二月中日日旦暮能不绝者，周天一竟，又一周天足，则与天同龄矣。

### 三一服气法

夫欲长生，三一当明。上一在泥丸中，中一在绛宫中，下一在丹田中，人生正在此也。夜半至日中为生气，日中至人定为死气。常以生气时强卧、瞑目、握固闭目、闭口不息，心数至二百，乃口小微吐气出之，日增其数，数得满二百五十，即绛宫守，泥丸满，丹田成。数得满三百，则华盖明，耳目聪，身无疾，邪不干，司命削去死籍，移名南极，为长生。闭气之法：以鼻微微引内之，数满，乃口小微吐之，小吐即便以鼻小引咽之，如此再三，可长吐之。为之既久，闭气数得至千五百，则气但从鼻入，通行四支，不复从口出也。自欲通之，乃从口出。如此不止，仙道成矣。饥取饱止，绝谷长久。

### 服三气法

《华阳诸洞记》云：范幼冲，辽西人也。受胎光易形之道，今来在此，常服三气。三气之法：常存青白赤三气如纵，从东方日下来直入口中，挹之九十过，自饱便止。服之十年，身中自生三色光气，遂得神仙。此是高上元君太素内景法，旦旦为之，临目施行，视日益佳，其法鲜而其事验。

### 服气杂法秘要口诀

天关中为内气（口为天关生神机，手为人关把盛衰，足为地关生命扉。并《黄庭内景》云），神庐中为外气（神庐，鼻也，神庐之中常欲修治。《黄庭外景》云）。凡服气，皆取阳时夜半平旦也，即东南向，静而端坐，叩齿三通，三漱咽之。则两手相摩，令掌心热，揩拭面目，便以大拇指上下揩其肾骨七遍，即握固。鼓气以满天关，调匀为度，闭口而咽之。既努腹讫，徐徐出神庐中气，其神庐中当修治之。鼓努每须相应，一鼓一咽一努，为相应也。其鼓之咽时，天关莫开，恐生气入腹而为疾也。

夫服气，须安神定志，徐徐咽之，急即心胸中气不散结痛。每咽五十服，渐加至一百服、二百服、三百服，有他故，即二十、三十服。行住服之并得，临时自消息也。所贵常行，不欲

关日，如初服，有噫气上，即鼓而却咽，无使出气（桑榆子曰：元气融和，不为粗厉，必若噫上，岂元和之气耶？然初服之时，特以气道未得全畅，事须仰就，且以元气待之也。若至再至，气海不受，必若著五脏之中，旧有浊气如此，故亦不宜爱惜）。忽下部有，即泄之不妨。每鼓咽气须调和徐缓，不欲天关中有声。若咽急，恐下部气秘，令人脱肛，慎之。如服内气，久而自通，通即服无时矣。但饥即服之，饱即止。每鼓咽之际，常存思气入五脏流行，即从手足心及项三关九窍支节而出；忽有疾，即思以气攻其病处，何疾不愈。如要服气休粮，即不论咽鼓努多少，常令腹满为度，勿令肠连连；若饥即时服三五咽，以意自调息，勿须仰卧，仰卧；即气难下，损人心胸。凡气相应，即腹中有声，愚者谓之肠空即有声，有声即损人，其不然矣。此由雷鸣电激，陶炼阴气，百关流润，真要深门也。

夫服气多方，若非鼓努之法，不为真妙。或有人未解，咽服气未通流，便虚其心，忘其形，虽日效，忘必无所成，多因困弊也。夫鼓努法本服自然，元气流利，脏腑气既长存，人即不死，何假于外思虑、吸引外气？夫人气尽则神亡，神去则身谢，故知守元气不失胎成，皆秘诀所传者，幸勿疑。夫行气，候闲时，鼓十咽、二十咽，含令肠满，然后存思，行入四支。有事之时，即一咽一行气，手足须著物，候气通流，必虚心忘形，然后烦蒸之气散出，四支精华之气凝归气海，久而自然胎成。封固支节，得雷鸣相应，当鼓转其腹，令气调畅也。夫服气导引，先须舒展手足，鼓咽即捩身左右，精思入骨节，行引相应，令通不断，谓之行气导引。又宛转盘回，存思气从手足关节散出。古经云，有行气导引，非至道口传，罕有知者。夫行气导引，若饥时服，候腹满，乃行之，若食饱后，旋行之（桑榆子曰：饱，宜为饮字之误也。修养者平居无饱，况行气之

时乎)。若兼服气导引，当候闲时习之，非寻常可作也。夫服气导引，当居静密房室，不欲处高屋当风，如遇暴风疾雨，沾湿冲寒，冒热远来，皆须歇息，候其体乾气和，方可为之。若欲四支常瘦，即数导引，谓肌肤充悦也。若能导引服气，不失其时，则神气常清，形容不易，暴脂虚肉不生，永无诸疾矣。

世人或谓，服气与胎息殊，误之深矣。胎从气中结，气从胎中息，久服则清气凝而为胎，浊气散而出，胎成可以入水蹈火。世人或依古方，或受非道者，以秘数之，贵其息长，不亦谬乎？殊不知五脏无常服之气，一时闭塞关门，岂知是胎中自然之意，但烦劳形，终无所益！时人服气多闭口缩鼻，皆抑忍之，但须取息长，不知反损。问曰：气外气内，二气俱出五脏，焉得内外吐纳不同（桑榆子曰：此言二气，俱出五脏，即大谬也。外气，喘息之气，即府气也，但入至荣卫，非自中而有者也，焉得谓之出于五脏乎）？答曰：服内气鼓努之时，即胃海开纳，真气封固。纳讫，即还闭，徐徐出外气，自然有殊。夫抑塞口鼻，气俱不通，不通即蓄损五脏，此乃求益而反损也。且人健时闭气息即易，有疾力微即难制，岂不失之极也。若服内气，用力甚少，而功即多，当勤行之也。问曰：夫上士先导引后出入，下士先出入后导引，何也？答曰：上士先导引，秽气随举动散出；下士后导引，恐其秽气入支节不散。此则学气导引，得与不得有殊（桑榆子曰：上下犹言先后进也，系于功用浅深，非贤愚品第之位。斯道也，岂愚者之为乎？但有贤而不能者也）天师云：内气者一，吐气有六，气道成乃可为之。吐气六者：吹、呼、嘻、煦、嘘、咽，皆出气也（桑榆子曰：煦一本为呵。大抵六气之用，与他本有五不同也）。时寒可吹以去寒；时温可呼以去热；嘻以去风；煦以去烦；又以去下气；嘘以散滞；咽以解热。凡人者则多呼咽，道家行气不欲嘘咽，

长息之忌也。悉能六气，位为天仙（咽，丑利、许气二反。桑榆子曰：凡人者，喜怒嗜欲，众邪之气不绝于中，辛咸甘酸外物之味未离于口，若即便禁长息，则秽浊之气无洞尽之期。彼得道者，无思无虑，无荣无欲，含其浩然之气，又焉取于嘘咽哉？彼视嘘咽，犹决提耳）。

凡服气毕，即思存南方荧惑星为赤气，大如珠，入其天关中，流入藏腑，存身尽为气。每日一遍，此其以阳炼阴，去三尸之患。又古涓子留口诀，令想火炼身为炭。道者商量，火气非自然阳精，但恐伤神，未可为也。其精者，真人密传，至妙精思，行之勿疑（桑榆子曰云：商量者，延陵君之意也，夫存想之中，宁暇分别其自然与非自然乎？若有所言，则存之与想得为自然否？况人间炼丹亦用火，则火与荧惑同是天地之中一物耳，亦何择然）。凡导引服气之时，衣带常欲宽，若紧急即损气，气海闷（桑榆子曰：损谓限滞之也，非能伤之）。夏冬寝处，饮食常欲温，勿食酸咸油腻之物，食之损五脏。五脏损即神不安。猪狗肉生果子，尤忌尤忌。

### 延陵君炼气法

每服气馀暇，取一静室无人处，散发，脱衣，覆被，正身仰卧，展脚及手，勿握固。净席一领，边垂著地，其发梳以理之，令散垂席上，即便调气。气候得所咽之，便闭气尽则令闷。又冥心无思，任气所之，气闷即开口放出，气新出喘息急，即且调气，七八气已来，急即定，又炼之。如此，有暇且十炼之。止为新功，恐气未通，拥在皮肤，反致疾也。更有馀暇，又炼

之，即更加五六炼，至二十，三十，或四十，五十，并无定限，何以为则？如服气功渐成，关节通，毛孔开，炼到二十、三十，即觉遍身润，或汗出，如得此状，即是功效。新炼得通润则止，渐渐汗出即好。且安心稳卧，不得早起冲风等。如病人得汗，良久将息，即可著衣，徐徐行步，小言爱气，省事澄思，身轻目明，百脉流注，四支通畅。故《黄庭经》云：千灾已销百病痊，不惮虎狼之凶残，亦以却老年永延。夫炼气者，每夜头及午时任自方便，候神情清爽，即依前次第，迅坐修咽，勤勤致之，不得堕慢。忽有昏闷欲睡，即睡，不得昏闷欲睡之时强为，即却邪乱其意，意邪气乱，失正道也。如新服未有正气，即较昏昏，已后亦无昏沉矣（桑榆子曰：所言须勤勤，不得堕慢。又说：任方便，不得勉强，消息之妙在于此矣。则知勤勤不在勉强，候未方便，宁循堕慢，藏修息游，乘自然以运，则气行矣）。夫炼气者，即不得每日行之。十日、五日有馀暇，觉不通畅，四体烦闷，即为之，常日无功，不用频也（桑榆子曰：阴阳合节，即不为灾沴。此云常日无功，若如所言，为之何害？但以不止于无功，将臻乎有咎。何以言之？借如炎帝勤稼而并功倍功，必反为大旱也。按摩亦然）。

## 卷六十二 诸家气法部七

### 太清王老口传法序

此卷口诀，并是杨府脱空王老所传授。其脱空王老，时人莫知年岁，但见隐见自若，或示死于此，即生于彼，屡于人间蝉蜕转脱，故时人谓之脱空王老也。多游杨府，自言姓王，亦不知何处人耳。每逢志士，即传此说，云秘妙方若传非其人，自招其咎。此卷并学有次第，志人口诀，非初学法也。为当学人初兼食服，以此屡言食物。且食气秘妙，切资断食，使谷气并绝。但能精修此法。知腾陟仙道不远耳。

### 说隔结

凡人腹中，三处有隔：一心有隔，初学服气者，皆觉心下、胃中满，但少食，久作之，自觉通下；二生藏下有隔，即觉肠中满，久而觉到脐；三下丹田中有隔，能固志通之，然后始觉气周行身中矣。游行身中，渐入于鸠。后觉鸠中气出，即能与人治病也。

### 初学诀法

初学时，必须安身闲处，定气澄心，细意行之，久而不已，气入肠中，即于行住坐卧一切处不妨。胃中气未下入肠中来，即不得，顾处作难。初服气，皆须因入息时即住其息，少时似闷满，其息出时三分，可二分出还住，少时咽之，咽已又作，至肠中满，休。必须日夜四时作，为初学人气未入丹田，还当易散，意欲得气入丹田，纵不服气，亦气不散。四时者，朝、暮、子、午时是也。如觉心满闷，但咬少许甘草，桂亦得，其满闷即散。丹田未满，亦不至满闷也。元气下时，自然有少闷。秘之，勿妄传非其人。

凡初服气，日夜要须四度。朝、暮二时，用仰覆势，夜半及日中，唯用仰势。其仰势：用低枕，仰卧，缩两脚，竖两膝，伸两手著两肋边，即咽气，只咽十咽，气即满丹田中，待一时咽了，然后以意运入膻中。其覆势：以腹坦床，以意撑胸令高，手脚并伸着床，即咽十咽，每咽皆以意运，令缘脊下，从熟藏中出。

### 说覆仰法

每朝、暮服气，先覆后仰，每咽气，皆须一下下作声，寻声运入丹田中，缘脊下亦须作声。若解作声，每势只十咽即足，



如不能作声，三十、五十咽亦不足。要须解作声，始得不解作声徒劳耳。

凡咽气，皆喉中深咽，不得浅，浅即发嗽。

凡咽气，每一回咽，中间十息、五息，亦非事停歇，从容任意。不解用气，咽浅即当时患嗽。

凡咽气，不得和唾咽，气须干咽，中间有津液来，别咽之。咽液，亦须用出息咽之，若用入息，恐生风入，极须用心也。

凡初受服气法，要诵祝；受法了，已后平常自用气，亦不要诵祝。与人疗病，当应诵祝。

### 服气杂法

凡服气，四度外，或非时腹中觉气少，气力不健，任意咽多少亦得。

凡初服气，气未固，多从熟藏中下泄。宜固之，勿令下泄，以意运令散。

凡初服气，必须心意坦然，无疑无畏，不忧不惧。若有畏惧，气即难行。

凡服气，若四体调和，必须意思欣乐自足，不羨一切余事，即日胜一日，欢快无极。

凡服气，不得思食，坦然无所念始得。若然忽思食，必须抑捺，如不在意抑捺，心即邪矣。如渴，煮薜荔汤，汤中著生姜少许，更煮一两沸，吃一碗，其渴即定（薜荔者，落石根是，子亦得）。或姜蜜汤亦得。若能自抑捺，纵终日对嘉饌，亦无所欲。

凡服气但不失时节，丹田常满，纵出行人事，亦不可废。若久久行惯，纵失一时两时，亦无所苦。

凡服气成者，终日不服气，气亦自足，至妙不可穷尽。

凡服气，得脐下丹田常满，叫唤读书，终日对人语话，气力不少，出入行步，无倦怠也。

凡初学服气，气未坚，亦不可过劳，劳即损气。仍须时时步行少地，令气向下，大精。

凡服气成，欲得食，即纵食，食亦不障气，纵饱食，咽气，气还作声，直至脐下。一成已后，兼食行气亦无妨。

凡初服气，欲行，以气推腹中粪令尽，且勿食，二十余日弥佳。若入头即食，理不得妙。

凡服气日别吃，少酒亦好，如或思食，吃少许姜、蜜即定仍不得多睡，能百种不吃最妙。但至诚感神，百无所畏。

凡服气，纵体中及心胸间不好，亦非他事，久久行气，自可散也。

凡初服气，小便黄赤，亦勿怪，久久自变色如常。

凡初服气，不用吃果子，恐腹中不安稳，又恐滓秽，腹中气难行。且欲空却腹藏，令气通行，但能忍心久作，自觉精神有异，四体日日渐胜，神清气爽，不可比量。若久久行气，眼中自识善恶，视人表知人里，能志心学，三七日即内视肠胃分明，如心不忘，久行始通，能内视五藏，历历使用，妙不可言。如能坚固行气，肌肤不减，亦不销瘦。若作不如法，或无坚固之志，即似瘦弱也。

凡人身中元气，常从口鼻中出，今制令不出，使脐下丹田中常满，即不至饥。若神识清明，求出不得。

凡服气丹田满，如闷，即运气令从四肢及顶上出，第一勿令从口鼻出，若从口鼻出散，虽餐百味饮食，但得虚肌，身受

诸病，渐入死地。

凡人饮酒食肉，一时虽勇健，百病易生，瘴疠蛊毒，逢即被伤。能服元气，久而行之，诸毒不能伤，一切疫病无得染。但恐不能坚持，如能坚持，久而自知其妙。

凡初服气，气闷多从下泄，闷须制，勿令泄，以意运令散即好。

凡初服气了，或气冲上，从口欲出，即须咽液送令下，咽液勿咽入息，恐外气入。

凡初学服气或太多，肠或胀满，搅转作声不安稳，即须数数以意运气，逐却肠中宿粪即好。必须数数逐却粪，令肚空，其气在内，即得安稳。如未逐粪，间仍搅转不安稳，任下泄一两下宽快，虽下泄失气，续更咽添之，若泄一下，即咽一下添之；若两下或至三下、四下，还须计数添之。意者，常令丹田气饱足为佳。

凡服气周遍，不须闭气想，但依平常，以意运之。如饥，抑捺却自定；渴，即任饮水，蜜浆、薜荔饮无妨。如有气冲上，即咽令下，能咽气，咽唾送之令下亦得。凡满闷，只从心胸间即冲上耳。

凡服气，宜日服椒三、两服。每一合椒，净治，择去目及蒂，以酒、水、薜荔饮、菜汁送之令下，益气及推肠中恶物。此是蒙山四秘。

### 辨肠转数法

凡仰咽气，入子肠运入鸠中；覆咽气，运令从熟藏中出。

凡人有熟藏、生藏，行之一月日，气始入，盘屈肠中作小声，绕肠转鸣如是。凡人盘屈肠转数多者，为上圣人；十二转已下，或十转、九转、七、五、三、两转者，是贱人。肠粗而短，聪而无智，粗属聪，长属智。候得肠长为上。如肠短更细，不是类也。

凡人肠长者，气易固；肠短者，气难固。

凡初服气，肠中搅转作声，即须右胁著床，以右手撑头，以左手牵左脚令屈，直身及直右脚，咽气令咽入右脚中，出肠中。即可久行气，每下作声，声绕盘屈处，作声皆自记得，屈数其声，流转幽幽，隐隐然小声，即是流通好也。人肠中又有四缘，又有节次，有二十四次，久行气，每气下即觉有节次，次数亦自记得。

凡元气与外气不相杂。若咽生气，须臾即从下泄出去，不得停肠中。

凡肠，贤士大肠十二节，小肠二十四节；上士大肠九节；中士大肠七节。其气每至节，经过皆自觉，至节须用气即过其洗肠多饮浆。

### 服气十事

凡服气，总有十事，所谓心为神气，肝为禁气，肺为杀气，脾为道气，肾为元气，并阳气、阴气、和气、外服气、内服气，名为十事。今时正咽者，只是内服气一事耳。至如外服气者，譬如别人在别处，患左脚肿痛，禁之，自引外气运入己左脚中，彼人即自差，所谓遥禁法。以此而论，妙不可解。

凡若运气，得应头脑中，即头脑中热气上，运气向脚亦如此。若先运阳气，即觉脚冷，然后始热应。何故如此？缘阳气排阴气出，所以如此。先运阴气，亦阳气先出，脚如火热，然后始脚冷。他皆仿此。若能运气入头中，始免面瘦（以上九条）。

服气轨则，即须得知，已取其精妙，久而自佳。腹中食尽后，并不过三七日，即自得其要。兼食行之，事似迟。至于腹中谷气，四十日始应得尽，亦有更出者，待舍后自看，若有脓血、黑物、黄物等出，即是谷气尽也。如斯物未出，即不能令气遍身周行体中。岁除日夜，以净饮食酒、獐、鹿脯等，于无人处铺设，四拜，诵祝或七遍，二七、三七遍，祝曰：

无你婆帝，无你俱沙谛，多写无你归婆僻（毗二切），能持不署婆莎诃。事讫，吃诸饮食，不尽者，致东流水中。

凡运气十五日已前，可令气从头及手出；十五日后，从两脚心出。常用气时喘息，喘息出时出尽，即闭气，令气极，更莫令入，即咽之。有强壮人作即多，有寻常人作即少，大都三四下，即得坐卧不饥。右胁著床卧，展右脚，缩左脚膝，左手攀右膝头，可经四五端，攀膝头用少力，时左胁著地卧，又如前。少是仰卧，手攀两膝，即以左右手攀膝，用少力，余如前。三事总须高枕作之，治病等用由口口者。如欲逐食，令出即作，兼取安稳。气极者，寻常初仰卧，看气与心、脾骨齐，即休取饱，即服气者别服，气即弱。肚高即胀满，大都三下、两下，取卧者自料量，看气出极即闭之，勿取入息。良久即气攻头上，得诸处热度更热，即得鼻中喘息。从月一日至十五日左畔，十六日至月暮右边。用此得冷时用热气，寒不能寒，得热时用冷气，热不能热，得热时用热法，如冷时用冷法，依热法不至热，即引入息自然冷，出息始得作热，入息极作热不得（此是自法）。左畔肝，肝气青，左边著青气；右边肺，肺气白，右边著白

气。气上即孔合，气下即孔开。乘开咽气，自然粪尽。常用气时，因喘息出尽，即闭气令气热，更莫令入即咽之，有强壮即多大精，三四下即得，气出极即闭之，勿取入息，良久即气攻头上，即诸处热，即得鼻中喘息。

又前言服气吃诸汤药等，为初学人气于三丹田中不住，多有反出，或两胁胀满，以此药散气。或言初学人力微，服饵助道，或言益气道也。且初学不可不知，久久总不用为妙。譬如婴儿居胎中，湛然不动，服何药物？有何人言事须服药者？未悟其深妙，此不可不与商量道耳。但如婴儿，他皆仿此。莫错用心，特宜大慎，不然入邪也。方中有祝，后人加之，古本无矣。王老报书已具，寻来问，非夫至人，岂能致此？甚善！甚善！此可谓元气通流，不死之道，复何疑哉！

夫寒热之气者，用气则得，此事用功，毕要在口诀，非笔所能传也。五通他智者，但行之不已，三尸自除，三尸既除，五通何远？可悬解于心也。忌死秽者，《黄庭内景》云：玄元真一魂魄炼，至忌死气诸秽贱。若能避之太好，如必不可避之，见讫，即存心家火气，从顶而出，遍烧其身，讫，即取桃皮四两，竹叶一斤，以水煮，取汤沐浴，此亦可以解秽。初见之时，仍须闭气。若涉深水，能闭气内息，此已得道气扶身，鱼龙岂能为害！夫行道之人，入水不避蛟龙，此之谓也。更不假外助，今往往亲见状若鬼神者，夫气通之后，则心合正真，而鬼神不能藏形，固是常理，复何足怪。但凝心内照，莫取莫说，自然降伏诸魔，得未曾得，岂在一二所论也。

夫神仙法者，与此法了无有异。此法精思静虑，安形定息，呼吸绵绵，神气自若，百病不生，长存不死，所谓身安道隆度世法也。

### 神息法

神息法者，观心遗照，动念即差，当用心之时，气自无滞，当用气之时，心亦不生，两法相须，事同唇齿，何谓不相应！善思念之，勿有疑虑。夫隐景藏形者，当勤修此法，使退皮炼骨，身合太无，则所遇咸适，虽山河石壁，无有拥遏之者，此必然之理。

右已后口诀，并学有次第，今口诀非初学人法，为当学人初兼食服，以此屡言食物，且服气秘妙，切资断食，使谷气并绝，知腾陟不远也。

### 服气问答诀法

问云：或有心腹不好，或痢疾等，于气如何？答曰：但能绝食服气，其疾不过数日必愈。

问云：或有心腹不好，或有病患，或须止痢，或须冷，或须热，亦拟自问得当否？故不敢隐，今仆实未通，愿悉传授。答曰：生藏在脾上，熟藏在脾下近脊，所以覆咽寻声缘脊，从熟藏中下耳。凡咽气，仰排水，覆排食，食藏在右，水藏在左，凡咽气久，即自至鸠。仆虽当时咽未至鸠头，每五更皆须自应鸠（或云，皆自应鸠），鸠健一如见敌耳。凡覆想缘脊下，只以意想腹中近脊，寻声不入熟藏中，出仍令声从右边下。

问：咽气满，下泄不得禁，亦非事，舍后有脓？答曰：自肠中先有滞结，所为不须忍，觉欲出即放令出，肚中即不鸣。

所云想气使出顶及四肢，久行之，即自觉，只凭想即是。凡咽气只得丹田气，拍之彭彭即得，纵心头未满亦得，如欲心头饱满，只是多取气即得。如虫行？答曰：久自觉，更无别法。

问曰：如何得似吃食时一种，初学只合如此，久久即共吃食一种，所云运气偏得从顶及四肢出，有妨碍不？答曰：非有妨碍，始令出，任其自出耳。但运遍身即休，不假以意令出，他气自出，如行人事。气少即咽，亦不须候时。攻击病及与人疗病，久行气得通始得，如何初学即有所望？内视肠中粪尽讫，闭目内视，即自见肠中粪极难尽，从断食二十余日始尽。初断食三七日，即须别吃一两顿煮菜，推宿粪令下。如得每顿吃一碗苜蓿、芥、姜、蔓、菁、菰、芜，在炼若苦汁著少油、酥最好，任少著盐、酱汁作味，勿著米面等。且欲肠中谷气尽，吃菜可四五日，已后即除却菜吃汁，又数日，然后总须停。每须，吃少酒任性，肠中空讫，即吃一顿酒，令吐心胸中痰极精。

姑婆服气亲行要诀问答法（此法传自李液家言。姑婆者，液之姑婆也）

所云：食讫今排粪尽，若为用气排粪？答云：其肠中先来已经荡涤净讫，不食日久，若遇难事，要须食讫，即用气排之。凡生藏在脾上，熟藏在脾下，可咽气从生藏排下，过至熟藏，其粪即尽。如不用作粪，即当时排之，其食不变色而出。候食出，可饮一碗薤荔饮洗涤，肠中常令净洁，其气即易流行。



问：所云若不须于口鼻出，气即闭之，不限时节，于诸处出息若为？”答：其闭气内息洗，以略说讫，但得谷气尽，肠中空，闭气令气热，更莫令外气入，即得鼻中喘息，馀闭法日久当自悟。

问：若为得隔塞开通？答：凡服气，欲得速流通，无隔塞，会须百物不食，即得咽气入子肠，一月日始入盘肠。其盘肠转数多者，为上圣人；十二转已下，或十转，或九转、七转、五转、三两转者，是贱人。肠粗而短者，聪而无智。其气须上即上，须下即下，须左即左，须右即右。若为所云用气自由，但行之日久，自得通畅，小小口诀，非笔所宣。

问云：常眼暗如隔数重纱，自气入头入眼极明彻若为？答：其眼漠漠如隔纱者，只为用气不坚，致令如此。但能运气入头，溜入眼中，从胸前过，注入肝中，即得眼目精明，光色异众。

问云：今服内气，与元气循还身内，无处不通，亦无饥渴，兼自通得内气，其法不可卒言者何？答：凡服气，欲得循环身中，百物不食，肠中滓秽既尽，气即易行。但能忍心久作，自觉神情有异，四体日胜一日。肠中既净，即闭目内视五脏，历历分明，知其处所，讫，即可安存此五脏神，常自卫护。久行气人，眼中别人善恶，视人表知人里。但日久行之，亦能驱使此五藏神，以治人病。其内息法，用气日久即得多，时若兼食饮、酒浆等，即内息不成，其深奥义之处，不可卒陈。

问云：其宿有患处，作意并气注之，不过三日、五日必愈者何？答：其愈病法，肠内及四肢有患处，但用气法攻其病处，想气偏攻其病即散，必请不疑。自服气来，症瘕、脚气，皆悉除愈。初攻病时若痢五色脓，亦勿畏之，病出之候。

问云：须肥用气即肥，须瘦用气即瘦，若为？答：若须瘦，

即用元气运令入头，即甚枯痒。

敢问冬月单衣不寒若为？答：先运阳气，即觉两脚冷极，然后始热，为以阳气排阴气从脚而出，所以先冷而后热，阳气以至，遍体熏熏如春月也。

敢问：从八月九月来，鼓声动即行，冒寒即面项极痒不可忍，以手搔，随手即隐疹起，如风疹，脚及胫亦然，何也？答：所云秋来患如风疹者，此为正气来入皮肤，与谷气竞，又为元气弱，排皮肉间风邪未出所致。旧云初服气时，令服椒粥，今请勿服为上，其椒粥能动心起，面亦滓秽。

敢问咽气不已，盛夏沸子浑身者何？答：所云夏日沸子，此为身中有五谷、水浆等津液，所以得生。但空腹服气，表里虚疏，此疾如何得有！

敢问忽患痢若为？答：其痢元因肠胃内有食而生，绝食日久，何得有痢！若遇难须食，登时逐出，亦不令变色，亦不至痢。如兼食服气，误食非宜之物得痢者，则须绝食以气排之，其痢即止。

敢问常腰里气一道向上，又一道气向下；从开元十八年二月十一日，从项一道向脑后至脚，从顶一道经面亦至脚，何也？答：此是气欲通彻经脉之候，其经脉甚难通彻，若能通讫，气即无滞。

敢问语笑哭泣，于气若何？答：喜怒亡魂，卒惊亡魄，哭泣之事，至人不为。但元气及丹田气常足，纵终朝读经书，亦无疲倦。

敢问今数面肿，何也？答：其面肿者，只为饮食侵肺，痰水上冲，气壅不行，所以如此。其食中尤忌葫荽、芸台、韭薤、菠薐、葱、蒜，此物皆木之精，能损脾乱气，必不可食。

敢问夏月热气攻头，头里闷，若为去得？答：此为丹田气

隔塞不通所致。宜速并气攻之，令前后经脉开通，即无所疾。

敢问从十月十日至今日，每初夜卧，玉枕连项颈极痒，何也？答：此为风疾所致。但服气日久，风除其疾即愈。

敢问闭气攻病，待十咽，小肠烹烹满，然后始得闭气攻为当，总不须咽即闭，如何？答：其用气人常令下丹田气足，然后始闭气，偏攻病处，亦不须数咽数闭。

敢问盛冬极风雪寒时，鼓声动，须要入朝，若为咽即能御得此极寒风雪气？答：但用和气运想，使周身而行，风雪亦不能为害。

敢问咽讫小肠烹烹，早晚得吊问哭泣了，哽咽得否？答：其吊死问疾，忧悲哭泣，道家所忌，必不得已而为之者，可登时于一净室处，晏坐安心，用元气排恶气出尽，然后依法服元气使足，即服丹田中气，气足即运气，令入四肢体中。

敢问今年十月行至灞桥北，荡东北寒风，登时眼肿、面肿，一宿始可；十一月冬至后行人事至永崇，坊荡冷即眼痒，以爪甲搔之，当时两眼皆肿，不知当此若为禁御得眼之不肿？答：凡服气人，皆居山藪，法即易成，岂有荡风触寒，便致于病！只为头面素多风疾，气排未尽，风在皮肤，所以如此。但正气流行，得入毛发，旧发换，新发生讫。此疾若眼肿甚者，以气偏注于肝，肝受正气，即眼目精明，亦无肿痒。

敢问咽十咽、五咽，即小肠烹烹，一食久拍之，声已无矣。若为得终一夕小肠常烹烹？答：其初用气人，令朝暮子午服者，为气微弱，不能久固，所以令四时服，欲得气相续也。但无谷气，即正气常存。

敢问固气不令泄之时，用力固为当以渐，固又用力固，即小肠微痛，并若为治？答：凡初用气，甚难固，其气多从熟藏出，但用想固之，勿令数泄。其小肠微痛者，是用气时取气伤

多，生风入腹故也。每觉微痛，即泄故气，以新气补之，即愈也。

敢问从数年以来，常患背痒，今年十一月初背痒自定，移于两臀痒，脚及胫亦痒，何也？答：此是正气初入背间，排风邪下之候也，排此风邪至两臀，令下出尽病自愈。

敢问从冬至后来，每初夜卧时，气从顶习习下至脚，夜半后先腰脚暖，此气渐上至顶，何也？答：此是元气初行，可引此气周身而行，甚善矣。

敢问有时两鼻孔里气，直上头而满面气行，何也？答云：气直上冲头者，此是逆行气之候。凡气从后向前行为顺，从前向后行为逆。

敢问初夜仰卧即三五咽，两手一时热气出如烟，须臾，浑身连头面至脚，通同一家，热气络绎行，如春月雨晴后，瓦上及地上阳气相似，连臀连曲鞦脚跟，皆热气行遍，皆从两脚大拇指甲及两脚心下出，左手极汗，何也？答：此是和气初行，循环经络，节气令度，日久行之，自通玄妙，非纸笔之所陈。

敢问有时脑连项颈自凉，冷气行甚觉好，何也？答曰：此是正气行于心肝之间，若觉伤寒、鼻塞眼热、白精不明，可用此气，登时即愈。此法亦疗时行黄病、疟疾等，极效。

敢问有时口里暖气游扬，行即入齿前，透过齿后，经过六七齿，三十余度，皆入齿内外行，何也？答：此是气欲入骨，先有此候。但坚行之，勿惧而不服。

敢问有时玉枕连项颈，暖气突突出，何也？答：此为丹田中食气多，拒正气不得环流所致。但腹中谷尽，即诸法易成，必不虑饥渴、羸弱等患。其法深妙，与人疗病腾陟等杂术，行之日久，作皆必成，诸无疑也。

王老真人经后批

太上道法，遍满万物，但所学者，百不失一。不用功夫，则坠落其身，将父母遗体，埋于太阴，骨腐于蝼蚁，宁不痛哉！

一法与万法皆同，不须看诸方术，徒役使其心，但久用功，自到微妙，是将载于纸笔。只如婴儿居胎中，岂解寻诸方术邪？前早具述，恐道者犹有错失，抄诸丹方，故再言也。然在励身持心，诀至微妙矣，即是胎息之宗，原初学之梯蹬。若有看此法，不见秘妙之言，无由得道，故今附此诀于后，必不得容易传示非道之流，定招殃咎，宜大慎之焉。

## 卷六十三 金丹部一

### 玄辨元君辨金虎铅汞造鼎入金秘真肘后方上篇

夫金虎铅汞者，不出五行。万物生成，因阳而结，因阴而生。阴者道之基，阳者盈之始。阳不能独立，阴不可自生。人民万类，皆禀一气。判二仪，从混沌分后，因兆立基，句屈伸达而生，因造化父母成形还本，各归其根变化也。阴阳相夺，法象乃立。坎一离二，从阴归阳。火一水二，从阳归阴。水二火一，前者象，后者质，如身内修道之真源。重玄义幽，暗契真理，双喻铅汞二阴，水之二也。火性炎上，寄方自守，火之一也。在天地之间，配象五行。在人身田中，心为火藏，在肺下，其数一；肾为水藏，双居命门，其数二。足明火一水二，为道之祖。悟者修行，神仙不难。玄珠优游于赤水中，胚结成胎。还丹亦生于玄一，因阳发腾为流珠。足明三五与一，天地之至精，变化须臾。且如内修得一者，阴丹气也，气能存生。外修得一者阳丹，丹成服饵，功能内固性命，外化五金。乃知修行不二，至药无双，天人合道，理契自然。非阴不生，非阳不成，还丹交媾，不出于水，火金木土，犹即符应候，丹自成矣。丹基在一，但辨得真铅真汞二物。真阴真阳，大道也。故托易象，药不须斤，立三百八十四铢。象月两弦，上下对望。

二八十六，故立一十六两。剩少即不合爻象，节符用事也。坎离为药，天地为炉，乾坤震巽，为运卦生成。但以符结，阴气，变为白马牙，阳气变为金砂。“金砂入五内，雾散如风雨。”虽无外一施，妙用无极，此皆长生出世之方，还丹之至道。元君、三景真人每至元日，会议得道之子，有分者感天曹赤帝君敕以金简朱书，乃示此诀。若内行不真，心生犹豫，口是心非，终无得理。学者但行不二之心，道师必当自至，以戒后来者也。

### 旨教五行内用诀

诀曰：辨药并火候法象，上清真经诸仙籍秘录纂要及歌中，但遇五行，不出数内，水一火二木三金四土五。土无正位，游于四季。五行生于土，土生于金，金生于水，水生于木，木生于火。甲之精结媾，万物成形，生死归于后土。土主黄，金主白，但看鸡子内黄外白，二气相感，分判自然，岂假外物为情而反也。

一、北方，黑，子水，金之寄位，五行之始，道之基。黑铅朱砂中自生者，牙也。日月照曜时足，在砂中性白伏火，名曰天生铅也。

二、南方，赤，午火之正数，火寄位朱丹。丹者，南方之异名。朱砂，铅之父母，仰月也。

三、东方，青，卯木，道之本宗，阴阳父母，万物各禀一气，皆同此祖。所资负阴抱阳，甲之精，曰火之本父母，曰魂也。

四、西方，白，酉金，神水之寄位。转北成西，卯酉相望，

金木相克，水火交运，以成大道。阴之精，月魄也。

五、中央，黄，戊巳土，华池之寄位。黄能制水，不流自死。土是还丹父母也，生死在于父母。父者火，母者土，制伏万物不起，各依本父母。故曰金鼎土釜，故云三五与一，不差也。

诀曰：日者，积阳之精，其数有九，在天成象，在地成形，含和万物，布气生灵。日之乌，黑也，色黑，象北方壬癸水，名曰阳中阴精，阳含阴也。是以离支，丙丁火宫，得九之名，结气朱英，炼之固形。三五与一，龙虎来迎。古之仙者，炼日之精，身归纯阳，飞游太清。且水银水类，而含阳性，外阳而内阴。阳象黄，阴象白，是知外赤里白，故水银生于朱砂中，是汞产于铅也。此明阳中有阴，不孤阴寡阳也。

诀曰：月者，积阴之精，而成坎位，其数守一，阴阳含牙，魂魄相应。阴阳也，如日月之蟾乌，阴阳两气双白色，象西方庚辛金，名曰阴中阳精，阴含阳也。是以坎支壬癸水宫，得一之名，气结玄英。喻人皆因父母传气而成形，递相含育，自然之道。药物象月，从阳而受阴，胎而含阳精，外阴而内阳。阴象白，阳象黄，故外白里黄，是以白金生于河车。河车者，火赤色之名，朱砂也，故云砂产于金。此明阴中有阳，不孤阳寡阴也。

诀曰：朱铅二物，入炉合销炼，取其精，添入丹魂之中，用立乾，其圣如神。故得称姹女者，铅也，砂者，白金也。金基黄轻黄攀也。

诀曰：一者，丹基，水也，铅在内；二者，火基，木也，符在内；五者，土基，母也，金在内。修丹不悟真一之理，互说金石为药，又不得节符火候，还丹因何而立乎？

诀曰：大丹并非金银、铜铁、铅锡、曾青、雄黄、五矾诸



杂金石等，盖各有毒，备诸制伏君臣，可治疾，并无延驻之功。

诀曰：朱砂得傍门制伏，治世疾，驻颜，无长生之分，何也？缘不得本父母及爻象，失其元气故也。

诀曰：汞者，水精之名，受含符信曰汞，飞起为流珠。故云：“丹砂流汞父，戊巳黄金母”也。

诀曰：凝流珠为白金，此明白金从一中成形貌也。金水道并使，以金为黑铅。阴中阳生，反老为少，阴之精，物极即反，已老却少，遂之长生。故水银生于北方，来居火位，相交以成大丹。

诀曰：上圣隐秘，愚昧自迷设用。凡铅黑金汞银为河车，雄黄为土，金银为母，并非至药之源（凡铅者，铜铁草并有铅及有矿铅，并凡铅也。真铅者，子母铅也。有银者，是铅为大丹神水，金之母也，子母相得其情也）。

诀曰：金为月精，以处阳位。汞含离气，以应六爻。天地之灵，孕日月之精，否极泰来，阴尽阳生，皆顺天道而为也。

诀曰：从月一日受符，六气从性成情，十六至三十，六气从情成性，象偃月魄月出没之象。

诀曰：金为父，木为母，震为长男，兑为少女。白者，归一之名；金者，得位之称；黑者，性含水色；铅者，同金之类；黄者，象土，牙者主生；子者，九转之运名；河者，水之基；车者，符育之功。

诀曰：世人不悟朱砂者，铅之母；符者，丹之父。生死归于后土，黄能制水不流，自生自死。生亦依于土，死亦依于土。土者，火之母也。

诀曰：朱砂是铅之祖，还丹之基，铅生于朱砂。故云：汞生于铅，砂产于金。悟者万无一焉。

诀曰：朱砂阴汞，天符运育，日月满足，自生出曰阳汞，

此是阳为君，阴为臣，二汞本一物无二。

诀曰：宝丹本乎一物而生，自无外入。譬如蚌吸月华之气，为珠在腹，岂有异类而成？

诀曰：太丹有三品：上者汞，中者丹，下者砂。悟者归一无二。金虎含阴，位属西方，真气内藏，寄生太阴，玄铅而为至精，名曰龙虎。卯酉相克，子午相望，此是天地阴阳轮轴转运造化也。

诀曰：九转二百七十日，每月换鼎至九鼎，换之便妙，不换亦得受符。金性低昂，十五金性全灭，三十日道穷乃归子，坤元受符，三物同没于土。阳符上腾，至于宗庙即下降，巽生受符。乾坤震巽，蟠虬上下，五行藏伏，阴阳变理，往来天道之用，周而复始。

### 造金鼎铭

后土金鼎生死长，七神室明，三圆五阴一混沌，徘徊天地五里。阳阳两头，状如鸡子。形具莫差，黄白在里。厚薄均匀，六一固济。好守午门，参同自契。

诀曰：一者，五行之始，月之阴魄，位居坎中，药生于阴暗之处。时人不知金公之理，金者太白之名，公者物中之尊，呼之曰铅。

诀曰：金入中宫，太一大庚成，赤鸟守黄乌，苍龙伏籍，白虎制取，本类相聚，故曰参同。

诀曰：黑铅入仰月，配合为夫妻，阳魂合阴魄，两情自和同。世人不悟，正五金八石是阴之总数，配合运动为丹者。八

石者，八卦；五金者，五行火候也。

诀曰：不容之木，是甲之父母，所以受制于金。金孕水安，水必存金；木孕火制，火必假木。

诀曰：铅水者，砂中自生之液，主阳；汞水者，砂中抽出之液，主阴。是铅水制汞水。

诀曰：铅水者，符也；汞火者，砂中抽出之液，故云铅火制汞火。水合其性，火合其形，二物在鼎中被真符制之，遂不飞走。然气相临，吞蚀变化，得称大还。

诀曰：丹砂木精，得金乃并。参铢不偏，至圣至灵。世人不悟，见金视之如土。药曰：太玄阴符，道生阴阳，阴阳生五行，合为还丹，故名龙虎。龙者，阳气，木也；虎者，阴气，金也。

诀曰：受持二木渐顺，汞虽得伏，未是大丹。且要服食，可治世疾延寿。守至九转，苍狼黄色。守三年，太元之气足，色归北方黑色。服之一刀圭金粟之小分，长生住世。刀圭可制汞一斤，成白道。守五年，服食可三铢，长生。一铢，可点铁水银各一斤，成赤道。守九年，毕法，服食可二铢，长生住世，点水银及五色瓦烁各一斤，用药一铢，各随本色成宝。

诀曰：太丹守运，三年气足，以木密为丸麻子大，依分两服食，奉药跪坐面东向，念天真，饵之。其丹九粒，系之臂后，出入往来，奏表上书，登坛拜谒，人皆钦重。或有悖恶逆党，生意向人自散；或入山林，居迥野，猛兽毒虫，山林物魅，摧心伏藏，不敢为害；至于交战斗敌，周回侍卫五百人，不遭弓矢锋刃损伤。所在之处，土地灵祇，悉皆侍卫。古今法造神镜及凡铜铁镜，用药一粒磨之，自然通灵；若用一粒书符，作法口解，召集五岳，天仙龙神，万灵立至，驱策自由。世人有疾，书一字吞之立愈。死七日未坏者，内二丸两鼻中，返魂却活。

七日外不得已死者，内一丸口中，埋之不腐，禽兽并同。药守九年，取四铢和黄土一斤水煮，三日成黄金。用之不道，殃罚七祖，身为下鬼。天道秘密，容易轻泄，见世必招仙官谴谪，种种不称意，神理同煞，顺慎无咎。

### 正隐甲法象天符用火并合金造鼎肘后方下篇

经曰：甲者，木火之祖，其数三，成数九，正位生于东方青，寄位丙丁，万物之师，火之父母，日之精魂，阳之始祖，照耀成形，名曰魂。日者，在天为直符，能发泄万物；在地为地符，燠熟万物。阳气分判，故称木精，青腰使者。阴阳二性，契证参同，金沙火并，三五与一，还丹自灵。三者木，阳精之父母，阴汞阳汞并是，阳精照耀，结媾生成，强名金沙，天地之至精也。丹者，阳之阴汞，阳反为臣，二也，朱砂是谓之火铅。五者土，主母，阴中阳精，阴之阳汞，阴反为君，一也，黑铅是谓之水基。九铢阳魂谓之真水，喻居离位，阳中阴；三炼阴魄，谓之黄银，喻居坎位，阴中阳，故号水银。水火相交，混沌自并，克复归一，成形无外物，故云阴火自会。其符理由人消息，即合天道圣意上品。

金丹第一诀曰：火铅制火火自灭，阴阳进退数七八，受气分离在半月，三十道穷起复处，养育通灵九个月。

又曰：阴阳二汞同一形，先后配合自有情；用金反应为神水，华池得母由木精。直符交运依爻象，悟者得之丹自灵；化宝服食长生路，天地反还三一并。

### 行符合天符法象

诀曰：夫修金丹，合符法象，大演易道。行符初候，喻起建子月，阳爻动，喻生坎位。初九潜龙勿用，阳气混沌分判。冬至后一阳冲，过甲子为上元，从子时起，始为一阳生。见龙在田爻动，惊蛰受阳用事，谓之一阳生。遇甲为火之父母，故法喻用火，便象十一月受阳。故从子起，阳生于阴暗之中壬癸宫。符至建午月，阳中阴生，符喻同阳全也。

经曰：起计行符，子喻斤两，爻动，初阴太阳，火阴奇阳，符共信（四五铭而两合）。

经曰：日月玄象，五行起伏，始数为一阳，生象天地，发挥傍通，情也。惊蛰萌兆并行。

经曰：但取春分，昼夜停用符，阳爻渐生，至大壮，法喻从一至十五，象春夏火木用事，从文入武。十六日取秋分，昼夜停，阴爻渐生，至阴盛月尽，法喻秋冬金水用事，从武入文。并喻合更漏一百刻，故应天之玄象，藏伏没在晦闰，合腠腠之数也。即天道，日月行度无差。

经曰：符从子起，亦非火之父母。子者，阴中一爻之始。子喻斤两，造化轴辖之总数，是阴阳起伏，法喻行符合刻漏分气，用符合斤两喻也。符动生于辰巳，至二周半，午首分气，终于戌亥，非子之正位。

经曰：还丹行符法象，只喻天符阴符行度，易道合更漏，五行四时，运转无差，二十八宿斗杓诸星位，并所主休咎吉凶之兆。修丹法象正用，不在数用之限。行符定用法本，火在下，

古法行符象喻也。

经曰：阴长生翻符在上，象冬至夏至，阳阴上下。故上用符守鼎，审依爻象，进退斤两。然用阴谷子依灰覆藉，茗炷为依尤佳。但消息皆阳向阴伏藏，通如土蜂穴，勿令气泄。

经曰：从一至第七日半，便象一季，以次遇子即加。子生坎位，故明阴内一阳生。法象故从子起，渐加爻至立夏，夏至象火，王母相背，十五十六计符，共当六十符。望前为阳，望后为阴。阴生从十七合十四，渐退至立冬，冬至五行数尽，终三十实数。共计合符，日用都依六爻，上下生成，终始数。正用符日计，都合五行天符，六候足，为阴符阳符各守界受气之总数。

经曰：起伏法象，阳符阴符，药物并不得逾斤。故合大演一周，周而复始，乾坤大理，运轴大数。又合乾策二百一十六，坤策百四十四，总喻合天符行度之数，即火符自然。初候两日半一气，三十时二周半，至五分气，符历十二支五周，计六十时，行符五日一候足，当用五爻十符；第二候两日半一气，三十时二周半，至午分气，还历五周，计六十时，行符至十日两候足，当用十爻二十符；第三候两日半一气，三十时二周半，至午分气，还历五周，计六十时，行符至十五日三候足，当用十五爻三十符。

经曰：十五日前为白月，阳符，火木用事；后十五日为黑月，阴符，金水用事。退符渐计，合还九起，爻动始数应，阳奇阴偶，合六四铭同两用。二符初爻为定，遇子则加，逢阴即退，周而复始。法象天符，建子发泄，阳动之始，混沌欲分，潜龙未见，须遇甲为阳之父母，分气属阳道上元，始阳动行符，震复用事，便象初九，并用气候，以喻孟春。每行符巡历十二辰周半终巳，三十时二日半；起午分气，又二周半终亥，计六

十时，以象仲春，二九象法，坤兑气交，初候五日。第二候阴阳起伏，天地初交，法喻季春，属上九事。后遇分气计爻，符用翻译，但从子至巳；午亥毕还复起。第三候至初九，分气属阴道上元，阴生退符，巽遯用事，便象孟秋，渐退候归三十。五行数已尽起伏，志在用火，失在抽添，即气候错令。若依玄象无亏，神灵自契，一象不足，与瓦砾无殊。进退明守期候，还丹自成。夫修至药，须用真铅汞，子母混沌自相扶，怀炼应气候，金水相并，归戊己交合。象婴儿受气于母，母隐子胎，子藏于金中含孕，自然金精石液相反，一飞一伏，阳推阴证，像鸡子黄，精在母而隐伏，外白里黄，河车运转，须臾脱胎。象萌芽伸屈，万类各禀一气而受形。然未有功能变化，神足作用，故立养育，感动大丹，明喻故用法象，方合圣意。托易道，五金八石，六爻生成，乾坤互用，运转正气，定五周，分午首，终亥起子，进退加爻，藏伏时节，乃合天道，参同自然，须依更漏用火，即合符不差。但依昼夜停用符，每十二辰，遇子即如，行符一月，便象四时。或九月，或三年，或守毕法，九祀而终，喻大演九周，太一君臣人民合局之数，丹自灵矣。能内固性命，外化五金，转弄颜色，服食多少，及变世宝，说在《辨药龙虎肘后方》。

## 卷六十四 金丹部二

### 金华玉女说丹经

太极元真帝君自洞庭陟王屋，登天坛，周览以极。天老相，风后侍，方明力牧常戒先昌宇从。时六玄宫主悉以天众会于云台，观龙轩鹤骑，仙仗森列，驻于空界。时帝命天老乘龙夬诣六玄女修敬（帝者，即轩辕黄帝也，证位曰太极元真君矣。天老为丞相，故敕之往六宫问说起居六玄女也），六宫主亦各遣仙女乘鹤蹻诣帝君修敬。事毕，甲寅宫主太玄金华玉女登堂不起，仙座浮游至于帝前，白帝君言：仙尊，我于天界诸天之中，遍礼天王，仙真道众，咸仰圣德。玉皇宝篆，三洞秘文，大道真经，普明法要。帝君当知，天策降灵，位为仙王，子同本师，是庆嘉福。

元真曰：予暗昧，至言不知，以何法事而同本师？玄女曰：中黄元君是吾本师，太阳元精是吾本服，即今太清宫左琼室



神丹也，是名天地元宝护生丹。是以天帝命我，策居寅宫，号曰金华，以旌法域。

元真曰：予当受《玉皇宝箓》、《太阳元精经》。然知其灵化至明，是真神道，而终未达其性。太阳元精以何因缘至太一君，易名龙虎？玄女曰：以吾法位，足辩道源。龙，木德也；虎，金精也。丹砂生木，铅华出金，金华之德，帝知之矣！子何言哉？

元真曰：太阳元精，为水银耶？为铅华耶？二物合成为元精耶？玄女曰：非也。我昔于紫微上宫见太上说，太阳元精，左正之灵，与道合并，化元之英。涉于水以黑，见于火而明，托体水银之胎，而非水银之形，五行相生，太阳元炁遂伏为精。何者？土生金，金生水，水生木，木生火，火生土。土之精生石，石之阴精为玉，石之阳精为金（《金经》云：一石之中分阴阳为金玉，故谓一阴一阳之道）。金之精生灵液，灵液之精生水银，水银之精生丹砂，丹砂之精生阳光，阳光之精生元炁，元炁之精生神明，神明为真灵，真道其成矣！

元真曰：何谓阳光？玄女曰：凡砂之精也。夫灵液犹金之血也，水银犹金之髓也，丹砂犹金之神也，太阳元精犹金之父也。故阳光是丹砂之精，居金火之位，而生元炁，元炁是金之子也。

元真曰：何谓生丹砂？丹砂为木精？何谓为炁气？予未知之。玄女曰：其体于运数然也。支乘其干，纳音相会，以从五行，分成阴阳者也。夫金为酉，酉配金，金嫁火，逐猪而入鼠穴，以生水也。故汞色带酉而白，体为子而液。子配水，水乘牛，随虎以入兔穴而生木也。故铅生带子而黑，体为卯而凝。卯配木为龙而称父，酉配金为虎而称母。夫火能固物而存元炁，故服元炁者，炁质永固，神合元和，以通灵也。

元真曰：元精至矣。通灵上药止于是耶？尚在妙用乎？玄女曰：有之。昔吾与天众朝会太一神君，闻无上大道，演度天人，宣说法要。其一名金液，其二名九转神丹，以授众真，普救世苦。

元真曰：其理云何？玄女曰：以筒左味，液金成水，流注五脏，坚滑四支，调补百神，润泽六腑，变易毛骨，延久生形，其力神速。

元真曰：金液然矣，九转丹其术云何？玄女曰：烹铅为砂，化砂为饼，化资丑液，实为通汁也。以饼归炉，收铅为砂，砂而复饼，终始数九。九，阳也，九九相乘，化之为砂。其不尔者，粉白可用，是为九转矣。

元真曰：既九转矣，复云何哉？玄女曰：以左味化碯，以稠为度，以调蚌粉，状如块泥。圆饼块泥，以随器量中安经。以饼覆结，是为内盖。结而不结，难为制也。既内盖已，以泥实之。实必筑固，勿盈器外。上又加盖，盖又加固。固既周际，升于炉焉。文候以月，武侯以日。日月毕，开际候鼎底红，日月相乘，赤黑乃已。

元真曰：法既度矣，复云何哉？玄女曰：粉三铢一，二两两七，以两化斤，沸如乱星，星灭事毕，刀圭奔日。

元真曰：善哉！吾道匡矣。金华复位。未几，而六宫宫主及众真飞仙，冉冉悠悠，退杳隐冥，遍虚空界奕奕晖晖，黄光曜明，于震宫之中有赤轮烝中，太一神君现于明轮之间，云轩羽盖满其光界，山川赫日，黯无晶光。是时太微真人朝拜于斋坛之下，方明力牧、天老、风后等同时赞礼。俄而灵气霏微，于其光中，暗暖徘徊，遨翔缭绕，太一神君与无鞅仙众深隐玄中，帝君臣众并六宫御女、山林道众数千万人，咸生无上道心，得不退志。

### 玄解录

余少抱甚疾，专意修养，至于金石服饵，亦当勤求。窃见时之好事者，不顾货财，大修炉鼎。谓河车立成，可变土石；谓金砂立化，可壮筋骨。然而往往有为药所误，医救莫及，何哉？岂根源不正欤？师法不明欤？致终始不相副，如此之甚也。余因览道书，偶见九霄刘泓《丹药要诀》，乃喻俗徒都未窥至道之毫末，而妄自夸炫，诳诱时人。凡所施为，无非自伐之捷径，能无悲乎！真仙之言，定不诬矣。余久怀滞惑，方困于是。今故抉其要语，书之座隅，目之曰《玄解录》。冀观览之时，疑挠尽释，虽未达金液守身之术，当必免毒丹伤命之虞，亦天年之幸也。如有同我斯志者，固愿攻其未悟耳。大中九年乙亥岁五月十七日甲子纂。

### 辨金石药并去毒诀

汉安帝时，有刘泓者，久学至道，弃官入山。后至延光元年十一月，九霄君来降，为悯道士不知烧丹之正道，乃指陈至药之根源，分别杂丹之门户，并解金石毒《守仙丸方》，传付于泓，疏之如后。

九霄君谓刘泓曰：夫学炼金液还丹，并服丹砂硫黄并诸乳石等药，世人苦求得之，将为便成至药，不得深浅，竟学服饵，

皆觅长生不死者也。并不悟金丹并诸石药各有本性，怀大毒在其中，道士服之，从羲轩已来，万不存一，未有不死者。刘泓再拜，稽首问曰：何也？

九霄君曰：世人所造金丹，服饵皆求长生，愚者即劫力以资俗事，又欲将至药求点化金银，荣其行尸，以养仆妾。但一起心，即是必死之兆，至药亦无因而见也。准教药无双能，功无二用。又不知药有至毒，造丹成后，世人只知余甘制河车，磁石引针，硫黄乾水银，将谓制金丹了便无毒矣。假如先贤炼秋石，以地霜结为石，能引生汞，亦能制金石毒，亦能壮金石毒。如有服者，中路毒发，不可禁止，必见死矣。纵不死亦卒患恶疮，此为先兆也。秋石云解毒，且见朱砂及粉霜毒并硫黄等被秋石制伏，岂能解毒矣！先圣遗教，世人难知焉。知之者真仙也，不知者凡人也。

泓问曰：变化铜铁之药，并不堪服，何也？君曰：缘点化药，法多用诸矾石消碓之类，共结成毒。虽能乾制水银及化铜铁，其用火时候，亦与至药不同。缘毒成结在其中，纵令千销万化，毒终不出。亦如人有毒心，毒在心内，必不从外入。亦如木中有火，火元在内。其点化之道，本亦在内，各受其性，色目法作不同，烝递相生，各怀毒性。雄雌消碓，杂类相助。其火候不展天时地理之法，或近或远者，盖不禀天道而成，则知古往仙人不服此药明矣。缘有大毒，造化之力不足故也。

泓又问曰：点化之药，为有杂石众毒，固不堪服。常闻换头紫粉，七返丹砂，更无矾碓所杂，可以服否？君曰：此二药，世人千百中无一人解作。纵能为之，亦不堪服，何也？且换头紫粉是仙人所合之粉，以为宫室之用，缘有硫黄在其中，水银入硫黄含大毒，岂可服哉？又七返丹砂虽燠令伏火，本无四象五行，筋骨血肉，阴阳烝不全，如服之，令人五脏血干。凡人

血少即病，血尽则死矣。

泓曰：世人修服丹砂，颗块不破，颜色如故，大火烧之不动者，服如何？君曰：凡朱砂凝结之初，皆于砂石中成质。纵是光明者，飞之每斤只得十二两水银，其四两即是山泽滓滞之物。其滓怀大毒，道士若解出滓，便相和服之，服者则涩人炁脉，干人血液，岂得有益乎？况从古已来，道士未经至仙之教，皆谓伏火丹砂是死水银，妄言金沙入五内有不死之兆，甚错矣！世人岂不知，从前服者未有不死之人？唯硫黄独体，不入他药，犹能去人积冷，但不可多服。缘是纯阳，炁不全耳。其他小术，固所不论。

泓问曰：何药则堪服可以延驻？君曰：我仙人所炼至药，例皆日魂月魄，四炁为象，日魂不离日里，月魄不离月中。假如至药，亦不离从木而生，何也？木带青，以象水银，内含其火。火为阳，以象朱砂，朱砂属离。离南方火之位，火为朱砂，亦同木中有火矣。配木火入中宫之土，土能克水，火能生土，而乃道成。如人初生婴孩，及长大还为人父母，递换相承，本处其一。至药根本，亦不处二。道之无根，以心为根；道之无用，以四时受炁发生，各得其所为用。道因炁而生，因炁而死。至药服之不死者，盖为不参杂，诸味无毒，销成汁，为器或方或圆，并能赫然透彻，昼夜光明，然始堪服。去人昏沉，定人神思，除邪魅，耐寒暑，皮肤润泽，髭鬢不白，返老成少，千日可验，故服之不死。

泓又问曰：至药有几般？君曰：真正之门有三焉：一曰神符，上仙上丹；二曰白雪，中仙上丹；三曰九转，下仙上丹。其三般丹，出一门而异名，各有《三一禁法》，不可轻传于人。何谓不可轻传？假如神符，若无太一宫天一宫，成者即名白液，终不成器。缘以天一宫名，其《三一》不可传。白雪若不坚，

不成冰，不入调青，不受青炁，亦共粉霜毒无别。亦如日无乌而不明，月无桂而无魄相似。缘引凝成坚冰，青如磁石引针，其《三一》不可传也。九转曾青，白雪成结，即入紫宫用，缘以凝四炁，纳万象而成质，其《三一》不可传也。夫至药若不受四炁混沌，岂得号曰龙虎之丹？所以我仙人，天地之玄化，同日月之光，如神符、白雪修炼功毕，始有上升之路。九转即返老成少，颜如处子，寿同南山矣。其《三一之诀》不许轻传，岂不宜哉！

刘泓曰：《三一》之旨，玄矣秘矣！未知何人即可传授？君曰：如吾者，即可传授。夫《三一》者，造化之机关也。非独至药有之，凡人身中亦皆自备。人若能修身中《三一》者，即子母不相离，神炁自相守，怡怡和煦，光照明白。子不见至阳之月，当昼之景乎！风云不去，纤罗不动，碧空澄彻，岂有障翳哉！人亦有之，若能常调三一，百虑不生，与碧空之炁相合，内外光明，虚无同体者，亦可升腾矣。世人或有窃闻此道者，云是服炁，乃鼻吸口吐，鼓腮强咽，立可致其殒毙。亦犹药中错服毒丹，不可救矣！所以身中三一，与至药三一不殊，其身中三一亦不可轻传也。

泓又问曰：如有人先服丹砂及乳石、硫黄、紫粉毒发者，如何救解之？君曰：已服死者，不可言也。如有后服者，只可救之，递须相劝，道士志造守仙丸救之，可存性命。假如换头紫粉，缘不入凝白雪为骨，骨为阳，及无调青入者，即名大毒紫粉。人服，不看多少远近，如吃杂物触犯，不问日月迟晚，如发，不在医疗例。不出三日五日，无药可救。如硫黄、紫粉、伏火丹砂及诸乳石，若发，服守仙丸犹可救之，十有三二命在。若曾服诸石药，虽未发，能防备者，服守仙丸尤妙。

泓又问曰：三大丹既延驻人命无毒，知未毕功，可以服否

？君曰：神符、白雪、九转，未经太一宫者，四象未全不可服。如有人误服者，忽觉发动不安，但急服伏龙肝汁并甘草汤、生绿豆汁乃立定，少见命终。何也？缘此三药并无杂类相挠，只空火毒，乃不至死。除三般，其余丹砂之流杂物，一朝一夕强餐服之，如或发动，命即危矣。

刘泓曰：守仙丸丹可得闻乎？君曰：守仙五子丸，此法仙家所秘，然令择有道之士授之，以护其性命。今故一一教示，并粗举三丹大略，尔宜熟思流传，以救未悟者，无忘吾言，吾将往矣。

泓乃雨泪，稽顙再拜。九霄君举手别，入云天不见矣。刘泓乃于山中刻石书记，后有道士见之录出，遂传于世。至唐开元中，通玄先生张果进上此方，玄宗大喜，秘于禁中。通玄兼述三丹之功极备，但无修丹之法，今不书，去繁也。

### 守仙五子丸方

余甘子 覆盆子 菟丝子 五味子 车前子

右已上五子，各五大两，别捣如粉面，取二月、三月枸杞嫩茎叶，捣取汁二大升，拌药末，令干尽讫。后七八月，采莲子草，取汁一大升，亦拌药末令干。又取杏仁一大升，取好酒研取汁五大升，于银器中煎，令杏仁无苦味。然后下生地黄汁半大升，真酥五两，鹿角胶五大两，炙捣末，都入前汁中，略煎过。又下五子末，一时以柳篦急搅，看干湿得所，众手丸之如梧桐子。每日酒下三十丸，如要加减，以意斟之。忌猪肉、蒜芥、萝卜等。服之百日，先服金石药毒并尽，亦益金丹之炁，

通流于五脏，润泽血肉，万毒悉除，髭鬓如漆，返老成少。皆因制其阴阳炁，两性彼此相备矣。秘之！通玄先生制五子守仙丸歌，以赞其妙。歌曰：

返老成少是还丹，不得守仙亦大难，愁见鬓斑令却黑，一日但服三十丸。松竹本自无焰故，金液因从火制干，五子可定千秋旨，百岁如同一万年。

阴真人论三品大丹之灵效，亦云五味守仙之草药，尚能守生相助，如不得上升，且为地仙，永不死矣！为其制一切丹砂及解诸石毒，永不发动，又益灵丹之功，盛行于荣卫也，决定无疑矣。阴君之意，言五子草药尚能令人不死，即神丹之功可知矣。今以傍有助于守仙丸，故附之于后。

### 王屋真人口授阴丹秘诀灵篇

夫阳丹可以上升，阴丹可以驻寿。阴丹者，还丹也；阴丹者，还精之术也。黄帝问道于广成子，曰：无劳尔形，无摇尔精，守此之道，可以长生。此之谓也。混元皇帝道德经云：深根固蒂长生久，视之道也，河上公注云：人以精为报以炁为蒂。亦此之谓也。又曰：虚其心，实其腹，弱其志，强其骨。强骨之道，亦此之谓也。《黄庭经》云：日月之华救老残。阴阳相合，故谓日月之华，亦此之谓也。《黄庭经》云：耽养灵柯不复枯，闭绝命门保玉都。命门，即精室之下是也；玉都，即五脏是也。无欲，即四肢无病，根叶俱茂，方可长生。又天之为道，盖付人愚智之性，不付短长之命。夫愚智之性者，犹木实甘酸也。至如润沃则荣，乾涸则悴，荣则长活，悴则速颠，人



之夭寿，亦犹此也。故道者相传，皆曰：“我命在我，不在乎天。”亦此之谓也。又炁序迁转，每岁一春。至于阴丹田有暄煦，故得容颜悦泽，耳目聪明，心既泰然，不寿何待？又道门有庚申守三尸之法，此即不然，使三尸自销化为精髓者也。古《仙经》云有十种仙，其一曰：坚固精色，而不休息，翕精圆成，名之行仙者，千万岁。亦此之谓也。

《王屋真人刘守依真人口诀》，进上代宗。其真人姓王，名长生，游诸名山，不常厥所。臣于王屋山获见，故为之王屋真人。真人自言东晋朝人也，一妻姓刘，自言太宗朝人也。夫妇之颜，俱若冰雪，探幽索隐，每亦相随。臣亲伯父名登常，学道于北岳恒山，事张果先生五十余载，凡寿命年一百一十六岁。天宝十四载春三月，告诸子曰：元炁错谬，不可久俱我行三山海上，以求名药，若来期稍迟，汝等勿怪。遂去而不返。其年十一月，果有禄山之叛。臣家本儒，业于道术，顷者隐居王屋，十有余年，每见樵翁，未常不敬，修行不辍，果遇异人，即王屋真人是也。固问臣出处、亲族，乃自言曾与臣伯父同事张果先生，见爱之情，更加数等。当时臣已朽迈，耳目不聪。真人见哀，授以此诀。迩来诸疾减退，虽未返童颜，渐觉似于少者。

诀曰：不敢为主而为客。此一句，借《道经》以说其事也。夫先举者为主，后举者为客。主者先施惠于人也，客者受施于人也。若施于人者，则情散精竭；受施于人者，精固而情专。以其纳和炁以助阳，夫何患焉！然则阳亢为灾，阴盛为毒，灾则自损，毒则杀人。凡口鼻炁塞，是阴之毒炁也。慎莫从高自投掷。夫阳怒急于施写，若自投掷，何可制焉？尾闾之尤，于是乎在也。《黄庭经》云：若当决海百渎倾，叶去树枯失青青。斯之谓矣！侧身内想闭诸攘。此非有事于阴门而侧身也。所为

将闭诸隙，先侧其身也。隙所谓命门，在精室之下，接脊之末。《黄庭经》云：耽养灵柯不复枯，闭绝命门保玉都。此之谓也。正展垂壶兼偃脊。垂壶，脚根是也。侧身又偃其脊，兼展脚根，则命门自闭。脚根为垂壶者，盖取其时，人不悟矣。然后安定其心，文火为嘘呵，青炁却流散入诸髓，养生之急，莫甚于此。夫如是，乃可以有事于阴门。有事之法，亦常式尔。四合五合，道乃融。合阴阳相合也，出入之间，或四或五，即当精炁渐动，诸脉通融之道也，是炁之母也。翕精吐炁微将通。翕精之道，自翕之而上也；吐炁之道，嘘呵之法是也。夫如是，即又劳精，在亦将患，理宜微写，以存其真，此所谓微将通者也。《黄庭经》云：但当翕炁录子精，寸田尺宅可治生。此之谓矣。又自古道者相传云：欲得不老，运精补脑。正在此矣！大抵是炁为精，若此即化精为炁。广成子授黄帝之道曰：无摇尔精。盖用此法也。袅袅灵柯不复空。灵柯不复空，炁允实也。徐徐玉垒补前功。既通之后，腠理必虚，若不补之，则成其病。彭祖曰：阴养阳精，命可长生。此之谓矣！举阴能养阳，即知阳亦养阴，斯亦明矣！然则，俱不得腠则害生，灵柯玉垒，不言可知也。补之其道将如何？将欲自明，故自问之也。玄牝之门通且和。此补之道也，所谓阴阳相合，更相补养。夫玄为鼻，主入炁，牝为口，主出炁。出炁与命门入炁相应，一出一翕，相续不断，畅极即止，亦无定数。诸炁不泄，凝结为精，精既补焉，何疾之有？销散三尸，用此法也。夫本来合实，虚即虫生，果虫之类也；本来合虚，实即虫生，木蠹之类也。三尸在三丹田也。三丹田者：上丹田，脑髓是也；中丹田，心虚是也；下丹田，精室是也。所以有窍，是合虚也；哀恚塞之，即生虫也；精室脑髓，是合实也，施泻过度，即生虫也。若合虚者令虚，合实者令实，三尸之虫，自当消散，夫何患焉！因之有肌肤悦

泽如春花，返其童颜，是此术也。溯流百脉填血脑。向之所务，亦已毕矣。彼灵柯既不空矣，且宜摩拭手足，掇搦筋节，既自当精炁流布，散入肌骨，百关通利，其在兹乎！溯，逆流也，故精却上而逆流也。夫妇俱仙，此得道者。夫以阳为主，阴为客；妇以阴为主，阳为客。以客助主，主当安矣。俱获畅达，非仙而何？然此乃仙之阶矣，至于羽化上升，亦犹此矣。欲求此生寿无极，阴户初开别消息。此二句，即真长生久视之道也。夫长生之术，如接树焉，以命续命者也。然则接树之法，虽以枝接之，至于妙用之要，假元炁阳和之力。续命之法，有同于此。夫阴门初开，必有血候，初正腠理始通，阴阳相感，此时也者，将有孕也。夫将成后人之命，而续我前命，事既相类，理亦昭然。唯于此时，要在勿泄。然自古道者相传，皆言施之于人则生子，存之于己则生身，此之谓矣。然此法要，尤在春初，当万物发生之时，故当兴其盛矣。凡一感是延十二岁，十二岁者，天地一周矣。频十感而延一百二十岁。此举轩辕上昇之首矣。

## 卷六十五 金丹部三

### 太清金液神丹经（并序）

夫玄虚之号，既不知其名，而字之曰道。道之为言觉，觉犹悟也。有一夕之寝者，则有一旦之觉矣。有大梦，然后有大寤，觉梦之极，其可略言乎！恋生谓之弱丧，欣死谓之乐无。乐无所乐，有不足有。恋有则甚惑，乐无亦未达。达观兼忘，同归于玄。既曰兼忘，又忘其所忘，心智泯于有无，神精凝于重玄，此穷理尽性者之所体也。独运陶钧之上，潜揜不疾之途，寂然以应万感之求，散迹以乘幽明之辙，故不可成之于一象，征之于一名也。皇王之号，已不一矣。道与尧孔奚所疑哉！且教有内外，故理有深浅耳。求之形体，则有鳞身四乳，重瞳彩眉之异。缙云生而能言，坐朝百灵。享国征伐，则乘云炁而驱虎豹，厌世升遐，则御飞龙而落六合。顾视赤县之内，争让俯仰之事，扰扰乎不犹婴儿戏于一庭哉！复有悬枕空同之上，无虑无思之客，顺风而从之，相与谈乎营神之道。比夫经世治乱之言，则有精粗宾实之间，仿佛其户牖，未究其房奥矣。若夫神化之趣，要妙之言，无理之至理，不然之大然，已备载于玄宗，非一毫之所宣也。

老子者，亦复畅其玄虚，纪道者也。其神德之状，感兴所

由，所以制经设教，纪载异闻，弥纶道俗，剖判三极。先大明逆顺，然后荡以兼忘（为人摄生耳。违生则逆，养生则顺。得顺者则不安其逆，得逆者则不详其顺，是谓死生之途，理得其一之限。兼忘之忘，各忘其所忘，犹井蛙不乐为海鳞，林兽不愿为牛马，各受生而别，天禀异自隔也）。盛称有德，然后统之以无待（此老子行炁导引，嘘吸太和之液也。盛称吸新，必得统虚微，而吐故纳津，滑利无害，出入玄玄，呼吸无间，具其身神，不使去人也）。利用出入，群生莫见其端；百姓日用常善，不知所由。此其权见于清明，而为万物津梁也（利用者，神炁也。神炁日为尸骸之用，而群生莫识神炁之端；神炁日为四体之用，而愚俗不知须神炁而生。人不可须臾无炁，不可俯仰失神。无炁则五脏溃坏，失神则颠蹶而亡。尸得炁则生，骸得炁则全。炁之与神，相随而行，神之与炁相宗为强。神去则炁忘，炁逝则人丧。百姓皆知畏死而乐生，而不知生活之功在于神炁。是以数凶其心，而犯其炁，屡淫其神，而凋其命。不爱其静而守其真者，固不免于絢残。既莫期年寿，更为权见于清明。清明者，日月之先也，既睹日月而长流，即莫知生祸迹于万物，万物既微，其有得失，咎而后生，必有津梁之关，其祸必兆，其对互生。明人不可以不惜精守炁，以要久延之视，和爱育物，以为枝叶之福矣）。其《道经》焉，其《德经》焉，推宗明本，穷玄极妙。总众枝于真根，摄万条于一要。缅然而不绝，光矣而不耀。既洞明于至道，又俯弘于世教，其为辞也，深而不淡，远而可味，磊落高宗，恢廓宏致。炜寂观三一之乐，标镜营六九之位。闭炁长息，以争三辰之年；胎养五物，以要灵真之致（三一者，脑、心、脐三处也。上一泥丸君，在头中，中一绛宫君，在心中，下一丹田君，在脐中。存之则炜烨于三府，忽之则幽寂于一身。好生者存之为乐，亡身者废之为欢也。

故炜烨寂观，三一之乐矣。按《仙经》云：“子欲长生，三一当明。”道正于此。从夜半至日中为生炁，从日中至夜半为死炁。常以生炁时正偃卧，冥目握固，闭炁息于心中，数至二百，乃口吐之。日日增数，如此身神具，五脏安。能闭炁数之，至二百五十，即绛宫神守，泥丸常满，丹田充盛。数至三百，华盖明，耳目聪，举身无病，邪炁不复干，玉女来合，使令长生无极也。“标镜营六九之位者。”六谓吐纳，御于六炁，九者，九丹之品号，太真王夫人已具记之焉。老子云：从朝至暮，常习不息，即长生也。凡行气法者，内气者一，吐气者六也。云内气一者，谓吸也，吐气六者，谓吹呵嘻呬嘘咽，皆出气也。凡人之息，一呼一吸，夫欲为长之息，宜长也。息气之法，时寒可吹，时温可呼，吹以去寒，呼以去热。嘻以去病，又以去风。呵以去烦，又以下气。嘘以散滞，咽以解极。嘘咽者，长息之谓。能适六气，位为天仙。营者自然，神气谓标挹，九丹之位谓之镜，镜标在于丹经，气存则年命遐而不坠。“闭炁长息，以争三辰之年者，”此言皆行气也。夫行气之法，先安其身，去诸忿怒，写诸愁忧，而和其气，不与意争，若不宜且止，须体和乃为之，常守勿倦。气至则形安，形安则和息，和息则气清，气清则清气来至，清气来至，则自觉长息，形热则嘘口闭中而自甘香。滋液既多，五脏长存，则寿与天地三光比年矣。“胎养五物，以要灵真之致者，”乃是胎食导养也。胎食之法，平旦漱口中之水而咽，取饱而已，亦长生也。既饱而生，则五脏自灵，灵真之致，意在于此。《仙经》曰：“玉池清水灌灵根，子能修之可长存。”“口为玉池太和宫，液为清水美且鲜。”所谓饮食自然者也。夫养生唯气与丹，经叙婉妙，幽而难论。昔闻师教，今述之焉。至于空同之辞，叙明道德玄真，且已陈之于既往，非须用之要言，故不烦复一二注，别其事，而劳费

兼宣也。将来有道，其营之矣）。冷若惠风之叩琼林，焕若晨景之晔宝肆。其叙事也，广大悉备，曲成无遗，初若森耸，终则希夷。陶群象于玄炉，领万殊于一揆。其取类也，辩而不枝，博而不杂，若微而显，若乖而合，恢诡瑰奇于大方，幽隔忘异而自纳。大哉妙唱，可谓神矣！言理之极，弗可尚也。

至于金丹之功，玄神洞高，冥体幽变，龙化灵照。其含枯绝者反生，挹生气者年辽，登景汉以凌迈、游云岭以逍遥。至乃面生玉光，体育奇毛，吐水漱火，无翮而飞，分形万变，恣意所为。塞江川不异覆篋，破山梁不烦斧斤，叱咤则云雨翳冥，指麾则丛林可移。其神难纪，其妙叵微，大哉灵要，不可具述。陵后生不达，未接高会，漂浪无涯，遂迄千载。神师秉拽，拯我险津，越自困蒙，仰窥玄路。垣然无关，而不可开，非不可开，弗能开矣。诸弟子密视玄根，揽拔其键钥焉。弟子赵升王长，乃顾影抚心，慨愧交集，灵鉴罔极，乃遭渊人。玄朗内镜，卓然先拔，钻研所通，殆则上圣之奥。侧闻其义，辄傍以为解。复率其管窥，志诸所见，标较高旨，而斟酌之焉。

金液丹华是天经，泰清神仙谅分明，当立精诚乃可营，玩之不休必长生。六一合和相须成，黄金鲜光入华池，名曰金液生羽衣，千变万化无不宜。云华龙膏有八威，却辟众精与魑魅，津入朱儿乃腾飞，所有奉词丑未衰。受我神言宜见随，九老九炁相扶持，千年之鸟水人亡，用汝求生又所攘。太上景电必来降，玄气徘徊为我用，委帛檐檐相缱绻，使汝画一金玉断。弗尊强趋命必陨，神言之教勿笑弄，受经佩身焉可放？乘云豁豁常如梦。雄雌之黄养三宫，泥丸真人自溢充，绛府赤子驾玄龙，丹田君侯常丰隆，三神并悦身不穷。勿使霜华得上通，郁勃九色在釜中。玄黄流精隐幽林，和合阴阳可飞沉，飞则九天沉无深。丹华黄轻必成金，水银铅锡谓楚皇，河上姤女御神龙，流

珠之英能延年。华盖神水乃亿千，云液踊跃成雪霜，挹而东拜存真王，陵为山称阳为丹，子含午精明班璉。是用月炁日中官，明朗烛夜永长安，天地争期遂盘桓。传汝亲我无祸患，不相营济殃乃延，冥都书罪自相生，先死父母何其冤！为子祸上考不全，祭书置废于明宣。玄水玉液朱鸟见，终日用之故不遍。山林石室身自炼，反汝白发童子咽，太和自然不知老。天鼓叩鸣响怀抱，天中之山似头脑，玉酒竞流可大饱，但用挹焉仍寿老。千年一剂谓究竟，丹文玉盛务从敬，见我外旨已除病，何况神经不延命？祸入泄门福入密，科有天禁不可抑，华精庵蔼化仙人。连城大璧愈更坚，长生由是不用牵，子将不信命九洲，祕要思之飞青天（此《太清金液神丹经》文，本上古书，不可解，阴君作汉字显出之，合有五百六字）。

### 作六一泥法

矾石戎盐卤咸礬石

右四物，分等烧之，二十日止，复取左顾牡蛎、赤石脂、滑石，凡七物，分等，视土釜大小自在，令足以泥土釜耳。合治万杵讫，置铁器中，猛下火九日九夜，药正赤，复治万杵，下细筛，和以醇醪苦酒，合如泥，名曰六一泥。取两赤土釜，随人作多少，定其釜大小，以六一泥涂两土釜表里，皆令厚三分，日中暴之十日，期令干燥。



## 合丹法

取水银九斤，铅一斤，置土釜中，猛其火，从旦至日下晡，水银铅精俱出如黄金，名曰玄黄，一名飞轻，一名飞流。取好胡粉铁器中火熬之，如金色，与玄黄等分，和以左味，治万杵，令如泥。更令以涂中上下，两釜内外，各令厚三分。暴之十日期干，无令燥拆，拆即辄以泥随护之。取越丹砂十斤，雄黄五斤，雌黄五斤，合治下筛。作之随人多少，下可五斤，上可百斤。内土釜中，以六一泥密涂其际，令厚三分，暴之十日。又捣白瓦屑下细（徒），又以苦酒、雄黄、牡蛎一片，合捣二万杵，令如泥，更泥固济，上厚三分，暴之十日，又燥。如入火更拆，拆半发者，神精去飞。若有细拆，更以六一泥涂之，密视之。先以釜置铁上令安，便以马鬣烧釜，四边去五寸，然之九日九夜。无马鬣稻米糠可用。又以火附釜九日九夜，又当釜下九日九夜，又以火拥釜半腹九日九夜，凡三十六日药成也，寒之一日发视，丹砂当飞著上釜，如奔月坠星，云绣九色，霜流炜烨。又如凝霜积雪，剑芒翠光，玄华八畅，罗光纷纭。其炁似紫华之见太阳，其色似青天之映景云，重楼蜿蜒，英采繁宛。乃取三年赤雄鸡羽扫取之，名曰金液之花。若不成者，更烧如前法，又三十六日，合七十二日，理无不成。要即通火令以时，不可冷热不均，均则三十六日而成，不复重烧之也。釜坼则无神，服之无益。泥之小令出三分，乃佳。又当猛其火，增损之以意矣。平旦，澡浴薰衣，东向再拜，心存天真灵官诸君，因长脆服如黍米，复渐小豆。上士七日登仙，下士七十日

升仙，愚民无知，一年乃仙耳。若心至诚谒，斋盛理尽，容旦服如三刀圭匕，立飞仙矣。

但道士恐惧，或虑不精，便敢自服三刀圭，即看神丹烈验。初服三刀圭，皆暂死，半日许，乃生，如眠觉状也。既生后，但复服如前粟米之法，知其贤愚之日限也。凡已死者未三日，以神丹如小豆一粒，发口含服立活。先以一铢神丹投水银一斤，合火即成黄金，不可用，当再火之。金成筒盛丹，《丹经》以绣囊裹之。先净洁作苦酒令酳，不酳不可用也。既成清澄，令得一斛，更以器著清凉处，封泥密盖，泥器四面，使通而半寸许。以古称称黄金九两，置苦酒中，百日可发，以和六一泥用之，名曰金液也。金在醴中，过三七日，皆软如饵，屈伸随人，其精液皆入醴中，成神炁也。百日欲出金，先取冷石三两捣为屑，绞三斗冷水，徐徐出金，清一宿，金复如故。初发器中取金，勿手挠之，挠则金软碎坏，若无金者，亦可借用，若土釜大则醴多，不限之一斛也。又随醴多少，或减损金两数也。丹砂、雄黄、雌黄、先捣，下重绢筛治令和合，著密器中。又令器上口如火也。又取云母粉二十斤捣，下细筛，布于地，令上见天。以穿虫桑叶十斤布著云母上，酉时以清水三斗洒桑叶上，即毕。冥出丹砂，露器于桑叶上，发其盖隐彰。日欲出，还丹砂盖，在于室中，别以席覆桑叶于地。如此七日，从甲子斋日始，讫辛未日旦，于是黄龙、云母液尽入丹妙中。天雨屋下为之，露丹砂，当每谨视护，或恐虫物秽犯之多。反侧丹砂，令更见天日。讫，又治一万杵闭锁。须申时俱内土釜中，筒令平正。勿手抑之令急，急则难飞。

### 祭受法

祭受之法，用好清酒一斗八升，千年沉一斤，沉香也，水人三头，鸡头也。皆令如法者，若用之。治取米令净洁，其米或蒸或煮之随意，用三盘，盘用三杯，余内别盘盛。座左右烧三香火，通共一座，令西北向。主人斋七日或三日讫，施祭，祭在子时，洁衣服，三再拜，谨请九天真王，三天真皇，九老仙都君，九炁丈人，太上真人，虚无丈人真官，太丹玉女，天一君王，中黄夫人九皇真神，下降某郡乡里某甲室中，因又三再拜三叩头三自搏曰：

今日吉辰，斋志奉迎太上诸君丈人，乞停住华辇，憩驾须臾。因重上香，少顷，又三再拜。良久而跪，某以胎生肉人，枯骨子孙，久沦愚俗，积聚罪考，祸咎深重，愆过山岳，唯乞太上解脱三尸，令百厄除解。今奉属太上道君，永为神民，常思清虚，以正秽身，思遇因缘，得开玄路。即日受先师告某《金液之经》，披省妙祭，萧然反生。乃知天尊灵贵，非世尸所陈，岂其顽朴，可得希闻？是不敢轻秘，故祀启天神至尊一书，委帛一传之誓，已备如本科。将辄抱佩永年，无泄无漏。唯愿太上大道诸君丈人当扶某一身，使享寿延年，所向诸会，早得从心，神药速办，妻遁山林。别启告祈，高上诸皇，以合丹液之英，依传授之科，敬受师节度。言毕，又九叩头九自搏，令徐徐声才出。若不能讽诵本咒文，可执卷读之也。又重上香、酒，毕，送神，起立稽首曰：上烦九天真王，又一拜，起曰：上烦三天真皇九老仙都君，又一拜，起曰：上烦九气丈人，又一拜，起曰：上烦太上真人，又一拜，起曰：上烦虚无丈人真官，又一拜，起曰：上烦太丹玉女。又一拜，起曰：上烦天一君王。又一拜，起曰：上烦中黄夫人，又一拜，起。凡拜祭讫，

其食不得与俗人食之矣。以写经纸墨笔砚，别著祭左右，并启白之曰：今以此纸写丹经，乞愿常无毁败。则祭盘当用生姜各三两著盘上，合九两也。其余甘果珍肴，随心所增损耳，亦无从厚也，家贫此为限也。明日所不解者，当一二口诀求解释之。祭时，勿令俗人近其房室，屏之为佳。无戎盐者，河东大盐可用；无卤咸者，取好清酒微火煎之，令如饴饧之坚者，然后令与矾石，礬石分等而用之，此是二物不可得而代之耳，且自不及真物之坚密也。但当小厚其泥也，此代是穷极也。

### 太清金液神丹阴君歌

金液还丹仙华流，高飞翱翔登天丘。黄赤之物成须臾，当得雄雌纷乱殊，可以腾变致行厨。灵人玉女我为夫，出入无间天同符。其精凝霜善沉浮，汝其震惊必来游（凡六十三字，本亦古书难了，阴君显之）。

作金液还丹之道，其方用大铜筒开孔广三寸半，令筒厚四分，高九寸。二枚，其以一枚为盖，盖高五寸也。治熟礬石一斤，铅丹半斤，夫礬石先火烧二十度，捣万杵，又铁器中，猛火九日九夜，复万杵下细（徒），调之以淳苦酒，和之如泥，涂铜筒裹，令上下俱厚四分，是第一涂也。修之法，即复当以雄黄，雌黄之精，以淳醢和，复涂两筒里，令厚半分，此第二涂也。第三次霜雪也，其上筒盖亦如下筒法涂之，内霜雪不满寸半已。药内霜雪中，以上筒盖之，再用代赭瓦屑如前以涂其会，牢涂之，无令泄，泄则华灼飞去，已复涂之。宜于阴燄洁处令其大干，置于芦苇火，马通火中央，作铁竖安之，筒令去

地高三寸，糠火亦佳也。火前后左右去筒皆三寸，不可不审详精占也。如是后至十日更近，左右前后各二寸。如是二十日复便近，火去筒一寸。如是至三十日左右，前后五十日，名曰黄金。黄金者，中神药，可以成黄金也。如是又火二十日，合七十日，药成，名曰赤金。所谓赤金者，此中神药可成赤金，名曰金液还丹。即欲作黄金，取还丹一铢，置一斤铅中，即成真金矣。亦可先内铅于器中，先火为水，方内刀圭赤药其器中，临而观之，五色飞华，紫云乱映，蓊郁玄黄，若仰看景云之集也，名曰紫金，道之妙矣。其盖上紫霜名曰神丹，服食以龙膏泽和之，令如大豆大，平旦以井华水服之，日一丸。七十日，六丁六甲诸神仙，玉女皆来朝之，侍左右前后导引。服百日，恍惚往来，无间出入，移时至矣。百五十日，玉女皆谒侍，旦夕为其侍，易形如真玉之色，得变化自在，常见按摩，致诸行厨宝物也。金主为肌肉，还丹为血脉，主致神，上下无极，出入无间，得与日月神相见。又旦旦当漱华池玉浆，便常饱满。玉浆，口中液也。玉浆主为骨髓筋肉，益人精炁上升，不劳不倦，长生久视。龙膏泽者，桑上露，著桑叶上，平旦绵拭取之。煮大干枣取上清汁，合驾羊髓，分等煎以为枣膏，亦可长服，令人填满有美色。铜筒亦可大作，向者所作寸数，是还丹之一剂耳，增损随宜也。

作枣膏法，一剂用三斗大干枣，六斗水煮之，令枣烂。又内三斗水，又煮沸，合用九斗水。绞去滓，清澄之，令得三斗。乃内驾羊髓六斗投汁中，微火更煎如饴状。无驾羊髓者，驾羊膏亦得可用。

取雄黄、雌黄精之法，雄黄雌黄各一斤，细捣治万杵，一筛得所用。六一泥固土釜以著其上下合之。即取新烧瓦屑合并和，泥釜固济，无令泄炁。暴令燥，坼，又泥之。次以苇薪三

日三夕，烧釜底及左右也。盛精华上著如霜雪，即成矣。若筒大亦可作，取釜盖上精霜雪者用之。

作霜雪之法，取曾青礬石、石硫黄、戎盐、凝水石、代赭、水银等七分，合治万杵，不须筛也。以淳醢和浥浥，则淖自适，即置土釜中，封泥皆如泥神丹土釜法。又以代赭，白瓦屑涂，固济，不可令泄也。事事如封前者无异。以苇火炊其下及左右四日四夜，小猛之，神华霜雪上著，以三岁雄鸡羽扫之，名曰霜雪。可加丹砂、雄黄、雌黄三种，并与前分等，合为十种也，名曰金华凝霜雪。如此，还丹之道毕矣。

还丹不先祭，作不成，又斋三日，以清酒五斤、白脯一二斤，祠灶神矣。铜筒用芦苇者，是天马极当用苇耳，要宜须马通火也。苇火自难将视。至于烧雄黄、雌黄之精及烧霜雪，自宜用苇火，不与铜筒火同也。金华凝精霜，正可服使人不死耳，非是霜雪，不中内者铜筒中用也。霜雪所用曾青、戎盐、凝水石皆贵药，不可用交代，非真则药不成也。《泰清金液神丹》凡五百七十六字，第七字，《金液》凡五百六字，《还丹》凡六十三字。

郑君曰：夫仙人飞沉，灵验难论，实非凡庸可得窥窬。自丹经神化者，著在实验。是故天尊真人，隐秘此道。夫真谛二事不相离，愚人返迷，故见示之高远，然达者亦奚不以方寸知之？故见示其文，为不达者耳，其智岂限耶！经非有求仙之志，固不授也。是以太真夫人犹语马君云：与安期相随少久，其术可得而传。如浅希近求，则房户闭坚。真人尚宝惜如此，岂是下流所宜与哉！阴君缮书数通，封付五岳。若好道之人，能潜身山林，精思至味，其能久于其道者，神仙自当开发石笈，显然而示之。自非笃志慕道者，于是丹经秘要，便永藏峻岫矣！马阴二君，何但仙人而已！至于观察纬度，知国存亡，审运命

之盛衰，验未然之必然，覆生民之大慈，作群方以定物，名始接圣齐光，玄照万品，可谓朗矣！可谓神矣！弟子昔闻得道真人传说，所言往往称叹，教其宝练，乃异人同辞，岂可令清真之音，坠而不书乎？故书二君神光，见世之言，自汉灵以来，称说故事，附于元纪丹经载之焉。诸有道者，可揽以进志也。

## 卷六十六 金丹部四

丹论诀旨心照五篇      南阳张玄德撰

### 旨叙诀第一

《参同契》云：诸术甚众，条有万余。即知大丹之妙，唯铅汞二物为至药也，非用四黄八石。若大丹有石药之气入二物中。即有大毒。凡言死水银固生人，即须阴阳之炁，水火结成为大丹，服之即长生。若用矾石、硫黄、礞砂等，燠伏干为药，服之有大毒，久久损人。礞砂有食钢坏铁之功，岂堪服食？矾石有杀虎之能，此可固为深诫。大凡学者，传得一小法，即言世人少双，将丹与人服之，反有天横之毙，深可哀也！自后见者生嫌，皆言丹石发于疮肿。盖此谬惑之徒，致谤金丹之功，不可。凡石乳之类，能不食为妙，不可以徇情索，强而服之，致枉夭者，世有之矣。宜审省解之药，须宣泻，吃防葵甘草汤渐出之，可服大药也。且大丹是天地玄元正真之炁，太皇众仙之食，包四象以成形，依乾坤而自化，结成红紫色，变为丹，名曰正阳、专阳、元阳；一名还丹。岂凡夫容易而会？奉道君子，审而保之，传付得人，道不废矣。天生造化，用合三才。



依《易》象而布封，顺阴阳之炁候，一年之火，终日月之度数，而成丹也，固可得之，古仙皆因此而成仙也。长生久视，凡夫闻之，抚掌大笑，智者一闻，悟解大契真元。余实不才，故引三圣真人歌证之，金丹论明之，更不烦他说。

夫还丹者，被日月运成，还其本元，却归本丹砂玄色，名曰还丹。丹有三等：一名正阳丹，上元也；二名专阳丹，中还也；次名元阳丹，三元也。本一体而三品，并大还之宗也。不知此妙，不可言修丹术事。又单以鹵水煮伏丹砂，独伏水银，并不可服。何也？孤阴无阳也，久久损人，不是正阳之位。又有用曾空熬水银。雄雌咸亦不堪服食。此互相传受，非真圣之良药。何也？八石俱有毒。《金碧经》云：损去五矾，不用八石。诀云：不用药，用五行。理之要也。

## 明辨章第二

夫硫黄三两，能制水银一斤，故知汞力不如硫黄。汞一两之力，如牛一头，即知硫黄一两制水银五两，水银力不如硫黄也（如此说功力，大丹不用硫黄用真铅也）。真铅五两，能制水银二斤，信水银力不如铅也。故知阴能伏阳，非阳能伏阴，此之为反也。夫至道求长生养志，不得大丹，终无得理。忽遇此诀，皆多积福，方得知此秘文。若传非人，皆七祖受殃，及损子孙。凡修大丹，不在药味，事在五行，精究易象。明辨节序之运移，知日月之度数，阴阳相使，神仙之要，合道之宗。辄不可信八石四黄，非长生妙药。夫铅汞大丹之根，五行之本，八石之主。金性冷，居其阳（坎中一阳），汞即生于朱中是也。

石性热，居其阴（离中二阴），铅中金，真铅也。故曰阴阳相合。所以阳即是君，阴即是臣，石浮金沉义之明矣。君臣相得，浮沉得度，药物和合，即神仙之要妙也。若不知君臣，不明本类，徒费千金，终无得理。必知君臣合乾坤之要，大丹之术自明矣。且以铅为君，能引五藏，以汞为臣，能煞三贼，通于神明，光于四海。故真人诀云：用铅不用铅，五金生于铅中；用铅不用铅，五金出自铅中。此至玄之言也，贤者审而知之，方知道可成也。用铅不用铅，铅者，五金之精髓，七宝之良媒。夫大丹味与天地而斋毕。五金切忌于铅，将何物而制之？《五金歌》曰：以黄牙为根。黄牙是何物？又欲用何鼎器？黄牙不是铅，不离铅中作。狐刚子问曰：用何物而作？又曰：不用五金八石，用何物而生？魏生答：种禾当用粟，非类不可成也。若以五金八石为之，即狐兔不乳马，燕雀不生凤，何异将胶补釜，医病用野葛乎？异类不同种，安能合体居？点金须用金，化银须用银，黄牙铅里得，方知道此亲。铅若得真，不失家神。铅若不真，其汞不亲。白虎是脑，黄牙为根，青要使者，赤血将军。此青汞中有丹砂也，非用曾青也。若人得此术，可保重之，若泄之，当减寿，殃子孙。《阴符》云：师者言，不同道者秘之，恐招有咎也。夫慕道之人，至诚感神，晓会其义。方知大道难求，世人罕会。盖是愚迷不见其义，虽积览方书，一无成者。何也？由其不遇至人明师，一一言之，乃措意罔象自为，多有此辈。余曾于嵩山见司马希夷修大丹，喜乃问访之曰：火已五月。余再请之，希夷又秘。奈何欲明此道，恐此子虚为累日久见之不成也。希夷又云：大道有三般，内用一人看。遂于铅汞中制伏雄黄也。果非大药之妙，只是罔象，寻文自为之尔！又见李尊师子虚于二味中入硫黄，亦言内用一人看。此二子并非正解，传处误也，余愍而哀之。二子根性不纯熟，迹

不及于真，终无得年。且内用一人既看，戊己之鼎。此子不了，虚而为之，徒经皓首，果不遇人，非余之过，皆道不合人。《五金歌》曰：不虑药不圣，恐药而不正；不怕药不神，恐药而不真。若智者晓会此义，是正真通灵真人也。何愁龙虎大丹不成？可谓日月在手，造化由心，真实不虚之说耳。《龙虎真文》云：虎者真铅也，龙者真汞也。反铅为黄牙，反水银为真汞。真铅不枯，真汞不飞，即此非世间水银也，已出一切尘俗耳。

《马自然歌诀》云：汞生水银死，铅因灵牙是。出世为还丹，迷人不能委。汞与水银别，迷人用之拙。若了此真源，可以凡俗隔。后之学者，固不遇真师传矣。

诀曰：用铅八两，为阳、为乾、为虎；又水银八两，为阴、为坤、为龙，此二物能变化无穷。铅亦阴也，本黑，水一也，一阴也，又一爻阳也。水银木三也，朱砂为火，火数二，火中阴也。故药自有阴阳，递相制伏，为于至药。此二灵物是天地阴阳之正象，岂有凡间八石四黄为丹乎？智者详之。此太古一切真仙人云真境真母也。故言乾坤刚柔，配合龙虎，八两属乾，八两属坤。一两有四分，一分有六铢，一分应一卦，一两应四卦，八两有三十二分。以应三十二卦；坤有八，亦应三十二卦。合六十四卦，道之本也。二八共一斤，以应六十四卦。铢有三百八十四，象一年三百六十日。古仙观《易》象，合乾坤，应于节候，一年火毕，合用天数，岂更有四黄八石，何以合之乾象乎？口诀云：黄牙一、水银二、木三、火二、水一、金四，土五，法象天地在此中矣。孤阴亦不可，孤阳亦不可。诀云：白金为君，本黑金精也。西方之位，太阳之精。《金碧经》云：炼银于铅，神物自生，灰池炎铄，铅沉银浮，洁白见宝，可造黄金牙。又隐言名黄轻，又曰黄牙，又名秋石。秋是西方之位，石是兑长之名，其性阴，阴中阳也，是长生之至药。牙是

万物之初也，故号牙，缘因白被火变色黄，故名黄牙。淮南王号秋石，王阳得之名黄牙，太古真人名还丹。至诀言：二物至灵，而堪为大丹。真人曰：金于铅中九炼，受水火炁呈，水银于太阳中受炁呈，此二物各于阴阳中受炁毕。故圣人采之为大药，相和入土器中，上下水火升降功毕，千变万化。物遇相类相从，此龙吟云起，虎啸风生，道之交感，非类不可。若以他石药参杂，意希化宝，举浩劫而无成。此二物太古真人之法，千金不可传也，金丹之证矣。

### 金丹论第三

夫丹砂，太阴之精，本受太阳之正炁，因火变白，居青帝之首，为汞之名，是木生于火，自合德而至灵。铅本黑精，化为西方庚辛正位，是以金生水，水生木，二物自相匹敌，若非至灵至圣，何以成丹乎？大凡愚人或言，岂有饵金丹而长生久视？余常（敏心）而伤之。自古真人、圣人皆炼药致长生，盖百千万数，人皆知之，岂有不信乎？皆指秦皇汉武。然大丹之灵，不救自形之祸。昔刘玄穆事魏先生，看火一年，忘情有疑，遂不遇而早夭。徐景休勤心积德，不怠昏旭，师授以药，长生而仙，今在太白山，亦一千余岁。此二子，疑以不疑，咫尺万里；得与不得，云泥有殊。今喻而言之，足可信矣！且阳春既发，令节已行，万物承春之炁，花落子孕，感炁而实，堪人食之，此炁非目击自然乎？且五谷而可济人之命，岂目击而不见之乎？况至药灵丹服之，而不变骨为真人矣。自是世人迷忘所计，不信不修，不遇不为，乃虚度百生，沉累多劫，足伤乎！

贪荣显，求色欲，以名利所系，形枯质朽，三官夺命，被阴司诛罚，又何以得长生乎？又狡计多非，损己败正，夺人物而成自家业，又何遇至人传受乎？修心静念，摄心归道，可遇；若谤毁先德，侵扰无辜，又何以闻之也！夫五谷尚能滋神养炁，是败腐之物，犹延人益生，岂况神丹而无玄德之功，换凡肌，脱病质，驻颜益命，与子论之，目击可知耳！不欲广陈委细，事涉繁词。其余妙旨清虚，尽著金简。徐君、魏先生、淳于公，此三人各通至术，并神仙之流。近谢玄冲、苏耽二子，亦羽化金丹之客，人皆知之，何言及矣！况名山麇集，往往有物外之人，混俗之间，自忘姓字，非志道同好，何以知之？请审非言，勿轻泄侮，令子得罪，将谤金丹与圣人，令子沉千劫之困矣！子不闻《参同契》云：金与砂为主，禀和于水银。即二物自灵矣。又闻：不用药，用五行，即具金木水火土也。又不闻：白马牙，好丹砂，酉二八，和两家。又淮南王炼秋石，黄帝美金华。又：铅不是凡铅，真铅真丹砂，二物相匹敌，伏炼成一家，巡火近九转，自然成黄牙。又火化白药变花红，流汞秋石自相同，流珠入体虎吞食，不知何处认金公？又：自古烧丹者，难穷铅汞情，若人知此理，修制自通灵。又：孤阳不独化，单阴独不成，本来同二物，自有变身明。又：龙虎相逢遇，何时不自顾？白液共相吞，相吞作夫妇。随化成黄牙，逐时依后土，若得紫河车，便是神仙顾。又：修丹若得诀，神用便由人，生熟在我手，参详定为真。修丹不得术，终岁损心神，莫炼枯铅汞，抛功似土尘。又：天地日月中，丹药号金公，金公尔是铅，本向铅里蒙。分明向君说，迷者又匆匆。点汞安铅里，金花约略同。此花不是药，图自枉抛功。此者神仙术，何曾不大通？熟念《参同契》，仍依古类同。但得真铅理，修持必见终。又：铅汞合天地，修作大还丹，丹成牙自见，非此实为难。太

古真人说，如今得见欢，方知神不诳，须道将即安。中有五彩灵，变化伏其般，十月脱胎出，令人见可观。为报荣华子，百年凋与残，如何空弃世，兀兀道将阑。熟说君犹谤，词虚理更漫，嗟见南山尘，积年为丘山。芒芒苦海中，生死成波澜，自古帝王居，至今何足看？又：白液炉中化，黄牙变渐成，忆初相见日，难看水银形。阳极生阴火，火衰阳炁并，自变紫河车，服食堪长生。又：一个月，白液初凝恰如雪；两个月，如酥渐渐相凝结；三个月，半含蕊绽垂珠劣；四个月，二物抱持如点血，五个月，飞腾恋母声呜咽；六个月，行到子宫阴炁绝，颜色似鹅儿，请君分明别；七个月，垂阴受炁手足厥，八个月，欲成脏腑含凝血；九个月，点点成珠长毛发；十个月，母子分明欲相别，此时母困子体全，似见颜容上如雪（铅脱胞后，铅上肉白如雪）。更向炉中温养之，名为食乳肌肤悦，出儿毒炁当依诀（药成，入赤色六十日出毒，服食）。此药如儿在母胎，精神爽玄分肌骨，劝君学者须精微，莫枉悠悠抛日月。此中玄妙不能说，有次第，莫亏越，但能修得黄牙成，变转之功不休歇。食长生，换白发，有白银，救孤拙，仁者得之修不阙。与道契，宿缘深，传之得人正在心。非道者，罪将沉，得亦为灾祸害侵。关造化，不容易，取次不得轻传付。君不闻，古人有秘词，妄有传之殃七祖。君须信，不在疑，贤者通明必得之，今日嘱君千万意，历历结盟当记之。阳初《复》（十一月用下火也），阴起《始》（十一月用至四月阳极，至五月一阴生，转火候也），炉寄中央戊己土，鼎上下，互相凑，宝守固之勿令走。消息不失看节候，有龙有虎相奔骤，婴儿寂寂颜初幼，由母养之母肌瘦，子成母困长相救。阳极《乾》，阴极《坤》，《乾》、《坤》四象《易》之门，六十四卦修中尊，龙虎相啖自相吞。立生定位此中存，水火为媒掬我魂。阴阳养我明神昏，

八节运移寒与温，看看渐变黄牙根，日月相催母感恩。因之结实立真门，千秋万岁生子孙。审藏秘慎勿须论，此道玄微未可言。时人笑道浊昏浑，宁可深居市与村。莫将妙药示凡人，见之谤之言语讟。君切记：秘而藏之贮金匱，长生之术付道人，自有天官录名字。

#### 大还丹宗旨第四

夫言还丹者，即神仙服食也。自古之天人留此术，降下人间，传付于后。自黄帝得之，白日鼎湖升仙。若古往神仙，不一一具言也。夫论还丹皆至药而为之，即丹砂之玄珠，金汞之灵异。有仙自然还丹，生太阳背阴向阳之山。丹砂皆生南方，不生北方地。自然还丹，自流汞抱金公而孕也。有丹砂处皆有铅及银，四千三百二十年丹成，左雄右雌，上有丹砂，下有曾青，抱持日月阴阳炁四千三百二十四万三千二百年，成上仙天人还丹。下界神仙，修炼铅汞一年成，取十一月一阳生下火，至来年十一月成丹象。上界仙人天人圣人取食者还丹，此自然还丹，是仙人天人圣人取食之。今修者象而成之，大千之数，服之亦长生羽化，与天同功。问曰：何以一年象天生还丹之数？答曰：上界一日一夜，为人间五年。且人间一年十二月三百六十日，一月三十日，又一日十二时，一月三百六十时，合一年四千三百二十时，象天生自然还丹。此亦上界真仙流传人间，有依法度，日月精炁，四时运移得成，服之皆延年上升。上士修真契理，羽化上升，中士服之地仙，下士延年，长生不死。服食之间，别有法矣！

### 赤松子玄记第五

赤松子曰：丹砂之精，有白有朱，含火得白，是虎，号朱是火丹，丹中生汞，三者同一体也。白虎金象，西方之艮，含五彩之瑞，包八石之异。铅是白虎，与汞为匹敌也。二物为之君臣，为天地夫妇，为子母，神也妙之，与三黄同，不与八石类，迥然造化，而修制之为丹也。余昔遇道人传授，修之合符，已至羽化，敢歌诀之，歌曰：

神仙妙难测，铅汞人不识。铅汞天地精，阴阳天地力。功归于戊己？能生一切食，万物用土功，土是母之极。母养一切子，子亦因母殖。三物自通灵，三炁玄元直。功在城垣固，稀在坚柔识，必在于人成？由人所心忆，心灵药自灵，心迷药难测。至道至心虚，玄中妙难悉。智者得宗源，他年致云翼。

### 梁朝四公诀

梁有四公子，界外神仙，周回八极，至于四周千界之上，上至于天，下入九幽。四人云：圣人有歌曰：

铅汞合神功，交归太玄旨，全在五行中，尽入三才智。神仙留至门，服食令人异。若得真铅门，神仙自然矣。



## 卷六十七 金丹部五

### 金丹序

《抱朴子》曰：予考览养生之书，鸠集久视之方，曾授披涉篇卷，以千计矣！莫不皆以还丹金液为大要者焉。然则此二事，盖仙道之极也。服此而不仙，则古无仙矣！往者丧乱，奔播四出。予周旋徐、豫、荆、襄、江、广数州之间，阅见移流道士数百人矣。或有素闻其名，在云日之表者，率皆相似。其所知见，深浅有无，不足以相倾也。人各有道书数十卷，亦未能悉解之也，但写蓄之耳。时有知行炁、断谷、及服诸草木药法，所有方书，大略皆同，理亦无异。或有得《道机经》者，以为至秘，乃云是尹喜所撰。予告之曰：“此是魏世军督王图所撰耳！非古人也。图了不知大药，止欲以行气入室求仙，作此《道机》，谓道毕于此，此复是误人之甚也。”予问诸道士，以神丹金液之事，及《三皇文》，召天神地祇之法，了无一人知之。其夸诞自誉及欺人，云已久寿，及言曾与仙人共游者，将太半矣？口之与书，微有妙说。或谓颇闻金丹，而今无复有得之者，惟上古已度仙人，乃当晓之。或有得丹方外说，不得其真经。或得杂碎丹方，便谓丹法尽于此也。昔左元放于天柱山中精思，而神人授之金丹仙经。会汉末荒乱，不遑合作，而

避地来渡江东，志欲投名山以修斯道。予从祖仙公，又从元放授之，凡受《太清丹经》三卷，及《九鼎丹经》一卷。予师郑君者，则予从祖仙公之弟子也，又于从祖受之，而家贫无资买药。予亲事之，洒扫积久，乃于马迹山中立坛，盟而受之，并具诸口诀，诀之不书。江东先无此书，书出于左元放，元放以授余从祖，从祖以授郑君，郑君以授予，故他道士了无知者也。然予受之已二十余年矣，资无担石，讵能为之？但长叹耳！有积金盈柜，聚钱如山者，复不知有如此不死之法。就令闻之，亦万无一信，如何？夫歆玉台则知浆茆之薄味，睹昆仑则觉丘垤之至卑。既览金丹之道，则使人不复视小小方书。然大药难卒得辨，当须且将御小者以自支持耳。然服他药万斛，为能有小益，而终不能使人遂长生也。故老子之诀言云：“子不得还丹金液，徒自苦耳。”夫五谷犹能活人，人得之则生，绝之则死，又况于上品之神药，其益人岂不万倍于五谷耶？夫金丹之为物，烧之愈久，变化愈妙。黄金入火，百炼不消，埋之，终天不朽。服此二药，炼人身体，故能令人不老不死。此盖假求于外物以自坚固，有如精之养火而不灭，铜青涂脚，入水不腐，此是借铜之劲以扞其肉也。金丹入身中，沾治荣卫，非但铜青之外传矣。世间多不信至道者，悠悠皆是。然万一时偶好事者，而复不值此法，不值明师，无由闻天下之有斯事也。

予今略抄金丹之都较，以示后之同志好之者，后之同志好之者精修之，精修之不可守浅近之方，而为之足以度世也。遂不遇之者，直当息意于无穷之冀耳。想见其说，必自知出潢潦而浮沧海，背萤烛而向日月，闻雷电而觉布鼓之陋，见巨鲸而知寸介之细也。如其喽喽，无所先入，欲以弊药必规升腾者，何异策蹇驴而欲追迅风，棹蓝舟而欲济大川乎？又诸小饵丹方甚多，然作之有深浅，致力势不同，虽有优劣，转不相及，犹

一酉爻之酒，不可以方九旬之醇耳。然小丹之一者也，犹自远胜其草木之上者。凡草物烧之即腐，而丹砂烧之成水银，积变又还成丹砂，其去凡药亦远矣！故能令人长生。神仙独见此理，其去俗人，一何邈邈之无限乎！世人少所识，多所怪，或不知水银出于丹砂，告之终不肯信，云丹砂本赤物，从何得成此白物？又云丹砂是石耳，今烧诸石皆成灰，而丹砂何得独尔？此近易之事，犹不可喻，其闻仙道大而笑之，不亦宜乎！上古真人愍将来之可教者，为作方法，委曲欲使其脱死亡之祸，可谓至言矣！然而俗人终不肯信，谓为虚文。若是虚文者，安得九转九变，日数所成，皆如方耶？真人所以知此者，诚不可以肤近思求也。

予少好方术，负步诸门，不惮艰险，每有异闻，则以为喜。虽见毁笑，不以为戚，安知来者而不如今！是以著此以示识者。岂苟尚奇怪，而崇饰空言，欲令书行于世，信结流俗哉？盛阳不能荣枯朽，上智不能移下愚，书为晓者传，书为识者贵。农夫得彤弓以驱鸟，南夷得袞衣以负薪，夫不知贵，焉可强哉？世人饱食终日，未必能勤儒墨之业，治进德之务，但共遨游逍遥，以尽年月。其所营也，非荣则利。或飞苍走黄于中原，或留连杯觞以羹沸，或荒沉丝竹，或耽沦绮紈，或控弦以疲筋骨，或博奕以弃功夫。闻至道之音而如醉，睹论道之事而昼睡。有身不惜，动之死地，不肯求问养生之法，自欲割削之，煎熬之，憔悴之，漉汩之。而有道者自宝秘其所知，无求于人，亦安肯强行语之乎？世人之常言，咸以长生若可得者，古之圣人富贵，以当得之，而鲜得者，是无此道也，而不知古之富贵者，亦如今之富贵者耳。俱不信不求之，而皆以目前之所见者为急，亦安能得之耶？假令不得决意信命之可延，仙之可得，亦何惜于试之，小效但使得三二百岁，不犹愈于凡人之少夭乎？天下之

事万端，而道术尤难明于他事者也。何可以中才之心，而断世间必无长生之道哉？若正以世人皆不信之，便为无，则世人智者又何太多乎？今若有识道意而犹修求之者，讵必便是至愚，而皆不及世人耶？又或虑于求长生，傥其不得，恐人笑之，以为暗惑。若所忌断万有一失。而天下果自有此不死之道者，亦当不复为得之者所笑乎？日月有所不能周照，人心亦安足孤信哉！

### 黄帝九鼎神丹序

按《黄帝九鼎神丹经》曰：“黄帝服之，遂以升仙。”又云：“虽呼吸导引，及服草木之药，可得延年，不免于死也。服神丹令人寿无极已，与天地相毕，乘云驾龙，上下太清。黄帝以传玄子，戒之曰：“此道至重，必以授贤，苟非其人，虽积金如山，勿以此道告之也。”受之者，以金人金鱼投于东流水中以为约，歃血为盟，无神仙之骨，亦不可得见此道也。合丹当于名山之中，无人之地，结伴不得过三人，先斋百日，沐浴五香，致加清洁，勿远污秽，又不得与俗人往来，又不令不信道者知之，谤毁神药，药即不成。成者举家皆仙，不但一身耳。世人不合神丹，反信草木之药。埋之即烂，烧之即焦，不能自生，况人乎？

九丹者，长生之要，非凡人所当见闻也。兆之蠢蠢，惟知贪富贵而已，岂有非行尸者乎？合时又当祭醮，自有图法一卷。

### 九转丹名

第一丹名丹华，当先作玄武，用雄黄、雌黄、矾汞、戎盐、卤盐、礬石、牡蛎、赤石脂、滑石、胡粉各数十斤，以为六一泥，固济火之，三十六日成之，服七日仙。又以玄黄膏丸此丹，置猛火上，须臾成黄金。又以二百四十铢合水银百斤火之，亦成黄金。金成者，药成也，金不成者，药不成也。更封药而火之，日数如前，无不成也。

第二丹名神符，服之百日仙也。行度水火，以此丹涂足下，可步行水上。服之，三尸九虫，皆消坏，其身中百病皆愈。

第三丹名神丹，服一刀圭，百日仙也。以与六畜吞之，亦不死。又能辟五兵。服二百日，仙人玉女，山川鬼神，皆来侍见如形。

第四丹名还丹，服一刀圭，百日仙也。朱鸟凤凰，翔覆其上，玉女至傍。以一刀圭合水银一斤火之，立成黄金。以此丹涂钱物用之，即日皆还。以此丹书凡人目上，百鬼走避。

第五丹名饵丹，服之三十日仙也。鬼神来侍，玉女至前。

第六丹名炼丹，服之十日仙也，又以汞合火，即成黄金。

第七丹名柔丹，服一刀圭，百日仙也。以缺盆汗和之，服九十日仙也，九十老翁，亦能有子。与金公合火之，即成黄金。

第八丹名伏丹，服之百日仙也。以此丹如核许带行，百鬼避之，以丹书门户上，万邪众精不敢前，又辟盗贼虎狼。

第九丹名寒丹，服一刀圭，即日仙也。玉女来侍，飞行轻举，不用羽翼。

凡此九丹，但此得一丹便仙，不在悉作之，作之在人所好者耳。凡饵九丹，欲升天则升，欲且止人间亦任意，皆能出入无间，不可得而害矣。

### 太清神丹法

抱朴子曰：太清神丹，其法出于元君，元君即老子之师也。《太清观天经》有十篇，云其上七篇不可教授，其下三篇世无足传，当沉之三泉之下。三篇者，是正丹经，上中下凡三卷也。元君者，大神人也，能调和阴阳，役使风雨，骖驾九龙十二白虎，天下众仙皆隶焉。犹自言本亦学道服丹之所致也，非自然也，况凡夫乎？其经曰：上士得道，升为天官；中士得道，栖集昆仑；下士得道，长生世间；愚民不信，谓为虚言。从朝至暮，但作求死之事，了不求生，而天岂能强生之乎？凡人惟知美食、好衣、声色。富贵而能恣心尽欲，尽命奄歿之徒，慎无以神丹告之，令其笑道慢真益罪也。传丹经不得其人，即不告。若有笃信者，可将合成药以分之，莫轻以其传之也。知此道者，或王侯。为神丹既成，不但长生，又以作黄金。金成，取百斤先设大祭。祭自有别法一卷，不与九鼎祭同也。祭当别称名衔，各检署具用金斤数。

礼天二十斤，日月五斤，北斗八斤，太一八斤，井五斤，灶五斤，河伯十二斤，社五斤，门户阁鬼清君各五斤，

凡八十八斤。余一十二斤，以好韦囊盛之，良日于都市中市盛之处，嘿声放弃之，径去，无复顾。凡用百斤外，乃得自恣用之耳。不先以金礼神，必致殃咎。

又曰：长生之道，不在祭祀事鬼神也，在导引与屈伸也。升仙之要在神丹。知之不易，为之难也。子能作之，可长存也。近代汉末新野阴君，合此太清丹得仙。其人本儒生，多才思，善著诗及丹经赞并序，述初学道随本师末。列己知识之得仙者四十余人，甚分明。他作此太清小法，难于合《九鼎经》，是白日升天之上法也。当合之日，先生华池，赤盐艮雪玄白飞符三五神水，乃可起火耳。

### 九转丹迟速效验

一转之丹，服之三年仙。

二转之丹，服之二年仙。

三转之丹，服之一年仙。

四转之丹，服之半年仙。

五转之丹，服之百日仙。

六转之丹，服之四十日仙。

七转之丹，服之三十日仙。

八转之丹，服之十日仙。

九转之丹，服之三日仙。

若取九转之丹，内神鼎中，夏日之后暴之升热，内朱儿一斤于盖下，伏伺之，候日精照之。须臾，翕然俱起煌辉，神光五色，即化为还丹。取而服之一刀圭，即白日升天。又以丹封泥之，涂于土釜中，糠火烧，先文后武，其一转至九转，迟速各有日数，多少以知之耳。其转数少，其药力未足，故服之用日多，乃得仙迟也。其转数多，则药力成，故服之用日少，而

得仙速也。

### 九光丹法

九光丹与九转丹法，大都相似耳。作之法：当以诸药合火之，以转五石。五石者，丹砂、雄黄、白矾、曾青、磁石也。一石辄五转，而各成五色，五色为二十五色，色各有一两，而异器盛之。欲起死人，未满三日者，取青丹一刀圭，发其口，内之，死人立生也。欲致行厨，取黑丹和水，以涂左手，其所求如口所道皆至，可召天下万物也。欲隐形及先知未然方来之事，及住年不老，服黄丹一刀圭，即便长生，坐见万里之外，吉凶所知，皆如在目前也。人生宿命，盛衰寿夭，贵贱贫富皆知之也。其法俱在《太清经》卷中。

### 五灵丹法

《五灵丹》一卷，凡有五法也。用丹砂、雄黄、雌黄、硫黄、曾青、矾石、磁石、戎盐、太一馀粮，亦用六一泥及神室祭醮之，合之三十六日成。又用《五帝符》，以五色书之，亦令人不死，但不及太清及九鼎丹耳。



### 岷山丹法

《岷山丹法》，道士张盖蹋精思于岷山石室中，得此方也。其法鼓黄铜以作方诸，以承取月水，以水银覆之，致日精火其中，长服之不死。又取此丹置雄黄铜燧中，覆以汞暴之。二十日，发而治之，以井花水服如小豆大，百日，盲者能视，百病即愈，发白还黑，齿堕更生。

### 五成丹法

《五成丹》亦有九首，似九鼎而不及也。其要取雄黄，烧取其中铜，铸以为器，覆之三岁，淳苦酒上，比百日，此器皆生赤乳，长数分，或有五色琅玕，取治而服之，亦令人长生。又可以菟掘取克其血，以和此丹，服之即变化在意也。又以朱草和一刀圭，服之，能乘虚而行之。朱草叶如菰，生不群，长不杂，枝干皆赤，茎如珊瑚，多生名山岩石之下，刻之汁如血，以玉及八石金银投其中，立便可丸如泥，久则成水。以金投之，化为金浆，以玉投之，即为玉体。服之皆长生。

### 金液法（威喜巨胜法附）

《抱朴子》曰：金液，太一所服而仙者也，不减九丹矣。合之，用古秤黄金一斤，并用玄明龙膏、太一旬守中石、冰石、紫游女，玄水液、金化石、丹砂，封之即成水。其经云：金液入口，则身皆金色。老子受之于元君，元君曰：此道至重，百年一出，藏之石室。合之，斋戒百日，不得与俗人往来，于名山之侧，东流之水上，别立精室，百日成，服一两便仙。若未欲去世，且作地仙者。但斋戒百日。若欲升天，皆先断谷一年，乃服之。若半两，则长生不死矣。万害百毒，不能伤之，可畜妻子，居官秩，在意所欲，无所禁也。若后升天者，乃斋戒服一两，便飞仙矣。

### 威喜巨胜法

取金液及水银，左味合煮之，三十日出，以黄玉瓿盛，以六一泥封，置猛火炊之，卒时皆化为丹，服如小豆大便仙。以此丹一刀圭粉，水银一斤即成银。又取此丹一斤置火上扇之，化为赤金而流，名曰丹，以涂刀剑，辟兵万里。以此丹金为盘碗饮食，俱令人长生。以承日月，下得神沟，如方诸之得水也，饮之者不死也。以金沟和黄土，内六一泥瓿中，猛火炊之，尽成黄金。复以火灼之，皆化为丹，服之如小豆大，可以入名山大川为地仙。受《金液经》，投金人八两于东流水中，歃血为誓，乃告之。

口诀曰：不知本法，盗其方而合之，终不成也。凡人有至信者，可以药与之，不可轻传其书，必两受其殃，天神鉴人甚

近，不可不知耳。

《抱朴子》曰：九丹成为仙药之上，然合作之，所用杂药甚多。若四方清通，市之可具；若九域分隔，则其物不可得也。又当起火，昼夜数十日，伺候火力，不可令失其适，勤苦致难，故不及合金液之易也。合金液，惟金为难得耳。古秤一斤于今秤二斤，率不过直三十许万，其使用杂药差易具。又不起火，但以置华池中，日数足便成耳。都合不用四十万，而得一剂，可足入仙人也。

## 卷六十八 金丹部六

### 太上八景四蕊紫浆五珠降生神丹方一首（并叙） （一名《三华飞纲丹》）

太上真人所以广眇众天，豁落紫空，晏观七觉，朝游万方，实由四液之飞津，五珠之丹皇矣。遂乘三英以八眇，御飞纲以保真，分神易景，逍遥上清者也。兆观琅玕之华，则降生之丹立焉。既获九真之高章，而九阴之户启矣。长年在于玄览，得道存乎精微。所宜注神真气，栖心冥几。澄五神于紫房，镜混合于太微。月华合于结璘，日晖洞于郁仪。灵变朗于九晨，把凝液以虚飞。玉经唱于朗景，焕龙华于扶希。眇眇奔乎冥汉，天地欬以推移。立变易于圆涂，电散疾于震雷。居洪渊而不溺，践兵刃而不危。将塞也，则万户键闭，欲通也，则积滞俱荡。沉飞无方，随意所宜，大哉！灵化之丹，与帝一九阴齐其光辉。服尽一剂后，三光而不衰，药名口诀：

第一绛陵朱儿七两（口诀是丹砂巴，越者是也）。

第二丹山日魂四斤（口诀是雄黄，取明者）。

第三玄台月华三斤（口诀是雌黄也）。

第四青要玉女五斤（口诀是空青）。

第五灵华沉腴三斤（口诀是薰陆香）。

第六北帝玄珠一斤（口诀是消石）。

第七紫陵文侯五两（口诀是紫石英，精好者）。

第八东桑童子七两（口诀是青木香）。

第九白素飞龙八两（口诀是白石英）。

第十明玉神珠七两（口诀是真瑰拾芥者）。

第十一五精金羊五两（口诀是阳起石）。

第十二雨华飞英五两（口诀是云母，光明者）。

第十三流丹白膏九两（口诀是粉霜）。

第十四亭炁独生六两（口诀是鸡舌香，味辛者）。

第十五碧陵文侯五两（口诀是石黛）。

第十六倒行神骨五两（口诀是戎盐）。

第十七白虎脱齿四两（口诀是金牙石）。

第十八九灵黄童三两（口诀是石硫黄）。

第十九陆虚遗生五两（口诀是龙骨，舐之著舌者佳）。

第二十威文中王六两（口诀是虎头脑阴骨，捣用）。

第二十一沉明合景四两（口诀是蚌中珠子，已穿者亦可用，但令新者）。

第二十二章阳羽玄四两（口诀是白附子）

第二十三绿伏石母五两（口诀是磁石，取悬针者可用）。

第二十四中山盈脂七两（口诀是太一余粮，取中央黄也）。

右二十四味合二十四神之炁，和九晨九阴之精，凝液结日月之明景也。以次别捣，从丹砂始，令各四千杵。药皆用精上鲜明者，捣药人当得温慎无多口舌者。当令先斋戒三十日，讫，捣药别处盛室，洁其衣服，沐浴。合药可三四人，同心齐意，隐静而处。禁忌之法，亦如斋禁例，捣药都毕，以药安著釜中。安药次第之法，先内丹砂，次内雄黄，次内雌黄，次内空青，末后乃内太一余粮，太一余粮在众药之上也。二十四种都毕，

皆当循次令竟釜中，以小柳篦子按令相薄。又以水银五斤灌诸药之上，都毕，又徐徐安上土釜，以黄丹泥泥其平际，以牡蛎泥泥其外际一寸，阴干十日取，参拆。又上泥之，毕，又通以牡蛎泥泥其外面，上下四边，厚六分。又应先作六一泥土釜内外。

作泥法：东海左顾牡蛎、戎盐、黄丹、滑石、赤石脂、蛭蝼黄土，凡六物，皆令分等捣治，下细绢筛，和以百日苦酒极酸醖者，和毕，更捣二万杵，六一之泥成。以泥雨土釜内外，渐渐薄泥，日曝令干参，使经时，稍上泥，都毕，令釜内外各厚一寸半，如此泥釜了，作六一泥隐量取足用。凡作泥之法，皆以苦酒和泥。无戎盐者，河东大盐可用。又以东海细盐二斤内一斛苦酒中，搅之去滓，以和六一泥，计此为准。

作灶屋，长四丈，南向，屋东头为户，屋南向为纱窗，屋中央作灶。灶令四方，四面开口，以大铁施四脚，以著灶之中央。上下相远，高下之法，以意裁量安隐之。所盛药土釜好安著上，以好糠火于下烧之，令去釜一尺许，调适视火。勿令暴猛，足十八日讫。更令火去釜下一寸，复五日足；更令火齐底二十七日，日足；更令半下釜之腹，三十日日足；更令火末下釜之上二寸，二十四日，日足；都毕，药成也。可复寒之七日，而徐发视，八景四蕊之华皆悬著上釜，以三岁白雄鸡羽扫之，盛以金银密器，其华当作景云之色，五十八种之气，流霞玄映，紫光郁耀，不可名字，名曰八景四蕊五珠绛生神丹。以二月、八月朔平旦，向太岁王方再拜，以东流水服一两，即头有九晨之光，面有玉华，飞映宝耀，洞观天下。闭气则立致三素之云舆，唾地则化为日月之光，左啸则神仙启首，右啸则八景合真。于是腾空上造，以诣紫虚，出入玉清，寝宴神房。若药华未尽起者，可更合泥固济，如前法使密，更烧釜腹，顿

六十日，万无不成。复寒之七日，开发如初。

右以已炼麻腴一斛，取四蕊华三两，合投之，以炭火于铜器下微煎之，三日药成，名曰四蕊紫浆。日服一合，寿同天地，分形为万，乘虚而行，所欲随意。又以西蕊紫华涂掌及手爪甲，以镜细视之，则见万里之外物，欲觐之事，则随心所视而现之，亦照见方来之仿象，生死盛衰之至运也。此丹或名八景丹，或名四蕊紫华，或名太微紫玉腴，或名五珠华丹，或名降生晨华，或名三华上丹，或名太上飞纲，或名九晨上丹，凡八名也。

### 炼麻腴法

炼麻腴之法，用清水五斛，麻腴一斛，葱韭白各二斤，合水腴葱韭四物，合煎取一斛止。作紫蕊腴，当以寂静处发火，以木盖盖铜器上，勿令腴烟散出。炼腴亦可单服，以致延年。凡糠火火八景神丹，日数既定，勿发，复更火之，如初，日时进火之日法，如先。都毕，寒之七日，乃发。药烟变成明月珠五枚，仰缀著上盖，皆裹以绛縠。送以清水，则绛云见覆，飞登上清。佩此五珠，则以映天下，与日月景同，名此丹五珠绛生。以行上清者，用一倍火之。五珠既成，勿发，复更火之，日如前。火毕，又寒之二十二日，乃开，明月五珠，又变成三华飞刚之龙。发釜之后，便恍惚长大，神光采华，吐气兴云，所谓隐龙者也。既乘之而行，以造九晨之宫，故《高上经》曰：子乘隐龙，与天无穷。夫火之倍者，计先火一日，后火则应二日，又后火则应四日，又后火则应八日，又后火则应十六日，每事效此为数。

取作虎脑之法，用马衔芎穷一斤，细捣为屑，以虎脑六两和此屑为饼而阴干。既干，更捣，而秤取六两，余者投之于东流水中。阴干虎脑，三年内亦可用也，不必新干而必佳也。干时以绢囊盛之，勿以尘附。用熏陆香而胶者，先多尘浊，当以汤水洗炼去垢，取令光明而无滓者可用。

取锡十斤，于铁镬熬之半日，投西蕊紫华一铢合搅，须臾，成萎蕤金，紫金屈伸在人，而用之，谓初成之时耳。投二铢成紫蕊玉，投三铢成玄梨绿景玉。

取八景丹滓捣三万杵，日服一丸如小豆大，身生玉光，寿同九晨，体香闻三十里。烧一丸如小豆大，辟百疾、恶气、诸鬼不祥，而香芳十日不绝。取一丸如黍米，含之而唾，则变化随意任心，藏形蔽影，从横天下，欲止，即吞此丸乃息。已死未三日，服一丸如大豆，立活，当发口扣齿，送以水，又以一丸镇心，则魂魄自还，而四体温软也。

取铅十斤于铁器中煎熬，投此二丸如鸡子黄，合搅，须臾成金。投三丸即成紫金。带一丸则山海之神来朝。以一丸涂门户，则一家无病，辟鬼精。日服一丸，百日则色如处子，三年而面反婴童也。以一丸如小豆大投水中，龙鱼浮出，而水沸。以一丸如大豆大投火中，而光停一日许。

《上清高圣中黄老君洞真金玄九阴九阳真《玉经》、《太上郁仪》、《结璘章》、《八景神丹文》，皆刻于东华仙台，不宣于世上，自非宿有仙名者，不闻见也。传授之法，皆对斋思神，审可付与立盟为誓，约无宣泄。其授《帝君九阴诀》，盟用青丝一结，以为盟誓。其受《太上郁仪文》，盟用绛纹二十四尺，此日晖之誓也。其受《太上结璘章》，盟用碧纹二十四尺，此月华之誓也。其受《八景丹经》，盟金钗三双，此无常童子圆变之誓也。今用四盟，引九晨以为约，指日月以为信，



必无宣泄，心齐天地也。若不崇信誓，身为下鬼，七世父母受拷水火，蒙山之石，投积夜之河。案：经师之授盟物也，当施散于寒穷，救贫病之急厄，拯山川之饿夫，营神灵之公用矣；若私割以自贍，贪婪以为利者，则经师之七祖长受拷于地狱，身入风火，其痛也哉！又弟子经师私心相爱，所以见根本也。道德既厚，则人鬼无间；根本既亲，则魂魄自宁。若崇始慢终，不常其德者，何年命之能长？何神仙之可要乎？得其领会者，始可与言寻道之本末矣！

### 九还金丹二章·第一章（六篇）

#### 上证品含元章叙

夫还丹本九阳之精，降受二十四真，真水真火，内外包含，含化五神，五神运气，积而为砂，积砂成丹，稟积气极，乃号紫华红英大还之丹。大还丹皆因师师相承，传之口诀，灵文藏于洞府，金简秘在仙都。仙人恐道绝源，演述隐文谜言，留传于世。遂使后来明俊，博采寻幽，旷日劬劳，终无所悟，渐渍沉溺，倏忽形腐神消，尸魄化为魔魅，深可悲哉！然大道所运，稟之专精，变通之功，必归于炼汞。炼汞要妙，备于二章。二章之中，分为九品：上三品，则抽砂出汞，炼汞投金、修金合药，合于七篇；中三品，陈五石之金、四黄伏制、阳金变通；下三品和合大丹、炉鼎火候、成丹证真之诀，俱列于九品二章之中也。

## 抽砂出汞品第一

《大洞炼真宝经》皆隐秘真铅真汞。真汞者，则上品光明砂抽出汞，转更合内水火之法，然名为真。而光明砂一斤，其中含汞十四两。

抽出汞诀：先取筋竹为筒，节密处全留三节，开孔如弹丸许，中节开小孔子如筋头许，而容汞溜下处。先铺厚腊纸两重致中节之上，次取丹砂细研，入于筒中，以麻紧缚其筒，蒸之一日。然后以黄泥包裹之，可厚三寸，埋入土中，令筒与地面平。筒四面紧筑，莫令漏泄其气。便积薪烧其上一复时，令大透其筒上节，汞即流出于下节之中，毫分不折。忽火小，汞出未尽，尚重而犹黑紫，依此更烧之，令其汞合大数，足如红马牙。紫灵砂抽汞，一同此诀。余别诀飞抽者，损折积多，而筒抽诀最妙，然具列于章上品也。

## 炼汞添金出砂品第二

凡同类丹砂虽抽出汞，未可则添于合金化砂，砂终不出。七篇犹未周备。且投金化砂，秘于《炼汞诀》，其汞则重受内水火气，遇本金相投，合化而便生砂。

《炼汞诀》：取汞一斤、石硫黄三两，先捣研为粉，致于瓷钵中，下著微火，续续下汞，急手研之，令为青砂后，便将入于瓷瓶子，可受一升。以黄土泥紧泥其瓶外，厚可二分，以盖合之，紧密固济，致之炉中。用炭火一斤，于瓶子四面，养之三日，瓶子四面长须有一斤炭。三日后，更以文武火烧之，可用炭十斤，分为两分，每一分上炭五斤，烧其瓶子，忽有青焰透出，即以稀泥急涂之，莫令焰出，炭尽为度。寒三日，开

之，其汞则化成紫砂，分毫无失。其紫砂用黑铅一斤，于鼎中熔成汁，次取紫砂研细，投入铅中，歇去火，急手炒，令和为砂，便就鼎中细研，盐覆盖，可厚二分，紧按令实，固济，武火飞之半日，灵汞即出，毫分无失，然依七篇，反数投化合金生砂。如第二反其《化宝砂篇》中用汞，则两度用石硫黄烧令成砂，两度入黑铅却抽归汞，添金化砂；第三反英砂用汞，则三度烧令抽入；第四反出妙砂中用汞，汞则四度抽烧；第五反化灵砂用汞，还五度抽炼；第六反出神砂用汞，汞亦须六度烧抽；如第七反化出玄真绛霞砂用汞，汞一依前七度著石硫黄烧成紫砂，七度用黑铅抽归灵汞。每度烧皆用石硫黄三两，却抽归汞则用黑铅一斤，转转烧抽，火候依前一诀。其汞烧抽变炼，则含其内水火之精气，亦合七篇之大数，自然水火金三光，稟气相合，会精而化灵证真也。

### 修金合药品第三

且阳元之魂，遇阴气所感，伏形成魄，谓之兑金。兑金则成见阴质更而含阳精，渐令去其滞气。灵汞投化，转转增光，反浊归清，然后正阳之体。其修金用药，穷真合无，令其灵通于七篇也。

石盐本稟坤坎之精，阴极之气，结其成质，方而棱如片石，光白似颗盐之类，味微淡于颗盐，功则能伏制阳精，销化火石之毒，力与石硫黄敌，体变炼，功性能发明金精，去粗滞飞升。七篇之中，假之为使。

马牙消亦是阴极之精，形若凝石，生于蜀川，其功亦能制伏阳精，消化火石之气。独用伏制，则力稍微，合于石盐，阴毒则甚矣。

北庭砂所禀阴石之气，性含阳毒之精，功能消败五石之金，各遣证于本性。能成能败，力颇并于硫黄，去秽益阳，其功甚著。本质亦作颗，生而浅红色，光明通透为上。七篇中用之为使，使引其阳金之精，破败阴魄。若合于大明砂、赤盐、硫黄用之，其变炼功则高于造化。

麒麟碣出于西胡，禀荧惑之气，生于阳石之阴，结而成质，色如紫藿，形若烂石，其功亦能添益阳精，消阴滞气，拘添其炼，亦有大功。真者于火中烧之，赤汁涌流，火不易本色者，是其色真也。

石胆所出于嵩岳蒲州，禀之灵石异气，形如琵琶，本性流通，精感入石，液化五金，阳遇之清归中宫。若欲识真，涂之铜铁，以火烧之，色似红金。伏制亦炼，颇最有功。又以铜器盛水，投少许入其水中，水色清碧，数日不异者，是真也。

持明砂者，虽禀阳精，从阳所养，体如琥珀，质似桃胶。其性和，而能销滌阳金，革阴滞质。若合硫黄、赤盐，变炼其阳精，转转增光。七篇之中，用御正阳之炁，复归真元，其功甚矣！

夫赤盐（戎盐是也）。所出，西戎之上，味禀自然水土之气，结而成质。其方水土气本而黄赤，其盐亦随气而生，号言赤盐，味微淡于石盐，力则能炼伏阳精，增明吐辉。若合硫黄用，功能反魂成魄，炼魄增光，制伏四黄，定质还归戊己。欲辩其元，于火中烧，汁流红赤，凝定转益其色，则本元是。

石硫黄本出波斯南明之境，禀纯阳火之精，精气结而成质。质性通流，含其猛毒，药品之中，号为将军，功能破邪归正，反浊还清，挺立阳精，消阴化魂，元真运转，偏假其功，钶金遇之，精消魄败。色微稍青，光者力大，凝黄色者力次，赤黄色者力小。合和大丹，伏炼消化，须其力大者。用之，察元气，

辨其高下。然合七篇，化金生砂，砂渐澄清明，威乃证于九丹也。

#### 中三品陈五石之金品第四

夫五石之金，各皆禀五神之阴精，合于山泽异气，结而为魄。

铁所禀南方丁阴之精，结而成形，铁形坚，服之伤肺。

铜所禀东方乙阴之精炁，结而成魄。铜性戾，服之伤肾。

银所禀西方辛阴之精，神炁而为之质。银性戾，服之伤肝。

铅锡俱禀北方壬癸之气，锡受壬精，铅禀癸气。阴终于癸，故铅所禀于阴极之精也。铅锡性濡滞而多阴毒，服之伤心胃。

金所禀于中宫阴己之魄，性本而刚，服之伤肠损肌。

右金之五性，例多阴毒，久服之，即伤肌败骨，促寿损命。凡世之士，本求长生，不明五金之性，擅意将其铅石之金，转转修炼。且其藿石之金，皆受五神阴浊之气，结而成质。质体沉重，虽遇四黄，能变易其体，阴毒之性，终不轻飞，纵令炼化丹，服之亦乃伤于五脏，乃其本性也。至理殊乖，欲服求仙，与道弥远。

#### 四黄制伏品第五

四黄者，雄、雌、砒、硫，其质皆属于中宫戊土之位，性各含阳火之毒，能败五脏之金。若别制伏，去其火毒，则能成易变转五金之质。若能制伏，拒火色而不易本元，有汗流通，即其功能变铜银而化成黄金之质。若伏火色变白，如轻粉，泮液流利者，化五金尽成白银。而四黄功力，各禀本气，变化其

五金。雄黄功能变铁，雌黄功能变锡，砒黄功能变铜，硫黄功能变银化汞。且四黄功能反铁为铜，反铜为银，反银为金，转转变化。其硫黄功力最高，能添阳益精，反浊归清，此乃是七十二石之将也。其四黄遇于赤盐、大朋砂、石胆，则伏质归本，不易其色；若遇石盐、马牙消、石胆，亦伏于火，则变质反而为白色如轻粉。是以《大洞宝经郑君修真内传》论其七十二石制伏诀，皆须含元胞胎，以黄土等分，和铅粉及石脑作鼎伏之，缘土与四黄类。铅又能消火之毒，石脑伏石毒。其《修真传》中诸石变通之诀，文理稍烦，不能具载，且略陈四黄五金伏制之弘规，乃列之于品第耳。

#### 阳金变通品第六

阳金者，所禀阳之精，五神吐符会气，托形为丹砂。丹砂而外包八石，内含金精，金精先禀气于甲，受形为丙，出胎见壬，结魄成庚，增光归戊，阴阳升降，各归其类。且如柳石五金俱受五神阴之气，炁结亦分为五类之形，形质顽狠，至性沉滞。汞则禀五神阳之灵精，会符合为一体，故能轻飞玄化，感遇万灵。汞本托胎于丹砂，位居南方，易胎乃为壬水。水则见形于北方，降魄成庚。庚则西方白金，炼形来甲之东方青金，精增于戊。戊则中宫黄金也。化质归离，功成于九。以阳金迁变，动用化机，运质易胎，合其五方之体。然后受天地，革阴阳，超三元，脱质归真，号之还丹。

#### 九还金丹二章·第二章（三篇）

### 下三品丹砂叙

夫合大丹，先须积阳之精，反紫金运动，变迁化五神，消形去质，轻化通流，假之真水，然火功，推演志精，九九数终。真水内火，黑铅、石硫黄是也。铅属北方壬癸水，硫黄性禀南方丙丁火。真铅者，含其元气，从柳石烧出，未经杯抽炼之者，为其真铅也。

### 合和品第七

取其真铅一斤，反玄真绛霞砂中紫金十五两，二物各别于其锅内消为汁，乃均合一处，去火，急手炒，令为细沙，入硫黄五两，三物于钵中熟研之一日，然后迁于鼎中，运火烧之六转，每转添阳。炉鼎火候，列在于《火候品》中。然大丹先受于天，运之于人，养育运炼，累积正阳，内含水火，外含三光，五神混蒸，或乃轻扬。化赫成丹，还归南方。清澄优游，生紫微堂。此亦犹内外水火运转感化，而成大还丹也。

### 炉鼎火候品第八

夫大丹炉鼎，亦须合其天地人三才，五神而造之。其鼎须是七反中金二十四，应二十四气。内将十六两铸为圆鼎，可受九合，八两为盖。十六两为鼎者，合一斤之数，受九合，则应三元阳极之体，盖八两则应八节。鼎并盖则为二十四两，合其大数。然后将其合了紫金砂入于鼎中，紧密固济，莫令泄阳气，则致于炉中。

《造铸诀》：于甲辰旬中取戊申日，于西南申地取净土，

先垒土为坛。坛高八寸，广二尺四寸，坛上为炉。炉高二尺四寸，为三台，象通气。上台高九寸，为天关，九窍象九星；中台高一尺为人关，十二门象十二辰，门门皆须具扇；下台高五寸为地关，八达象八风，其炉内须径一尺二寸。然致鼎于炉中，可悬二寸，下为土台子承之。其台子亦高二寸，大小令与鼎相当，然后运火烧之。

《火候诀》：夫用火之诀，亦象乎阴阳二十四气，七十二候。五日为一候，三候为一气，二气为一月。七十二候则应二十四气，为十二月。十二月为一周年，阴阳运足矣而丹成。夫起火之时，取十一月甲子日夜半甲子时动火，从子门起，火五日，用炭三两，须常有熟炭三两在其炉中，不得增少；次开丑门，发火五日，用炭四两；次开寅门，下火五日，用炭五两；次开卯门，著火五日，用炭六两；次开辰门，著火五日，用炭七两；次开巳门，著火五日，用炭八两。此六门是阳门，火须竖安炭，如阳气后发动。次至午门，火五日，用炭九两；次开未门，著火五日，用炭八两；次开申门，著火五日，用炭七两；次开酉门，著火五日，用炭六两；次开戌门，著火五日，用炭五两；次开亥门，著火五日，用炭四两。此六门火须横安炭，亦象于阴阳气候。从子门起火至亥门，周旋十二时门，终计用炭七十二两，在炉应七十二候之数，则成四象十二候。六十日两月为一转，则开看之，更添石硫黄二两，和紫金砂于钵中，以玉槌研之半日，却入鼎中，封闭固济，依前每门五日，运火烧之。

《运火诀》：还从甲子日子时于子门起火，用炭五两，丑门用六两，寅门用七两，卯门用八两，辰门用炭九两，巳门用十两，至午门却退炭归九两，未门用炭八两，申门用炭七两，酉门用炭六两，戌门用炭五两，亥门用炭四两。此第二转，运



火每门，五日为一候，周旋十二门，成十二候。六十日足，计有八十四两炭，炉中增第一转炭十二两，应十二节之数。则候炉中火歇开看之，色如褐土，金星灿然而在。又添石硫黄二两，和砂重研，却入鼎固济之。又依前运火，同遭十二门。每门五日为一候。

还从子门起火，五日用炭七两，其炭长须，应七两熟炭在炉中，不得增少。又丑门火五日，用炭八两；次寅门火五日，用炭九两；次卯门火五日，用炭十两；次辰门火五日，用炭十一两；次巳门火五日，用炭十二两；次至午门，火五日，却退炭归十一两；次未门火五日，用炭至十两；次申门火五日，退至九两；次酉门火五日，退炭至八两；次戌门火五日，退炭至七两；次终于亥门火五日，退炭至六两。其十二门皆须依本数著炭，周回十二门，匝合有一百八两炭在炉中，增于第二转炭二十四两，应二十四气之数。终十二门六十日足，候鼎寒开看，色微欲紫。又添石硫黄二两，出金砂和研令相合，则却入鼎中固济之，亦依前，门门五日火候。

亦从甲子日夜半甲子时子门起火五日，用炭九两。则开丑门著火五日，用炭十两；次开寅门，著火五日，用炭十一两；次开卯门，著火五日，用炭十二两；次开辰门，著火五日，用炭十三两；次开巳门，著火五日，用炭十四两；次至午门，却退炭至十三两；次至未门火五日，退炭至十二两；次申门，火五日，退炭至十一两；次酉门火五日，退炭至十两；次戌门，火五日，退炭至九两；次终亥门，火五日，退炭至八两。此转十二门周回，计炉中有炭一百三十二两，又增第三转炭二十四两，亦应气候。足，寒之开看，其合砂色渐转金紫，光色若星，璀璨流辉。又添石硫黄二两，出金砂于钵中和硫黄熟研，却入于鼎中固济，令紧密，视之上下无罅漏泄，然后依前，门门运

火。

亦取甲子日子时起火，从子门先入炭十一两，亦五日；次丑门入火五日，用炭十二两；次开寅门，入火五日，用炭十三两；次开卯门，著火五日，用炭十四两；次开辰门入火五日，用炭十五两；次开巳门，入火五日，用炭十六两；次至午门，退运火五日，用炭却至十五两；次至未门，入火五日，用炭十四两；次至申门，入火五日，用炭十三两；次至酉门，入火五日，用炭十二两；次至戌门，入火五日，用炭十一两；次至亥门，入火五日，用炭十两。从子门终于亥门，巡十二门，周计用炭一百五十六两。炭在炉中，旋绕其鼎，积运烧之六十日，数增于第四转炭二十四两。其炉内鼎四外紫气回绕，看之如雾。候寒开鼎，见金砂色转化为紫光之丹，丹内红星点点，似欲轻涌。更添石硫黄二两，和于钵中，熟研半日，则却入鼎中封固济，然后依气候运武火，一转还丹。

从甲子日甲子时子门起，火五日，用炭十七两；次丑门，火五日，用炭十八两；次寅门，火五日，用炭十九两；次卯门，火五日，用炭二十两；次辰门，火五日，用炭二十一两；次巳门，火五日，用炭二十二两；次午门，火五日，退炭至二十一两；次未门，火五日，用炭二十两；次申门，火五日，用炭十九两；次酉门，火五日，用炭十八两；次戌门，火五日，用炭十七两；次终亥门，火五日，用炭十六两。计从子门运武火终于亥门，合有炭二百二十八两，在炉中增于第五转炭七十二两，应七十二候。足，其炉鼎中紫气连天，日月失辉，山河震发，乃是丹成之候也。歇炉出鼎，于香坛之上寒之，然后开看：其丹赫然轻飞，脱离于质，如芙蓉花九层，连于鼎盖之上下，五日分毫无失。其鼎内有滞灰二十四两，如紫金色。其紫金一丸麻子大，亦制伏汞一斤及五石，五金尽化为至宝，然则迁其鼎

于三洞，各镇其功，功合归真，迥然蝉蜕，此乃还丹之力，其宝伟哉！

### 成丹归真品第九

夫仙者有品格，真则一同。如七反之丹砂，功力甚著，服之亦得高仙，尚未证其真仙也。缘上有质碍之体，未能轻化，离于五神，独为真水，世人所能销铸。且九还之丹成，飘飘轻化，迥脱去质，圆光洞焕，气耀冲天，遇物而化，无有碍也。千鼓万鞞备，终不销化，而精光转益。得服之者，当则羽化云飞，便为高上之真人也。故积精而致仙，积仙以成真者，则超于至阳，与天地长久，腾凌云雾，宰制万灵，役使群仙，巍巍高上，升于紫阙，乃号曰真人矣！然乾坤不偷阳精，岂减世类沦化，惟真长存也。

## 卷六十九 金丹部七

七返灵砂论（并序） 衡岳陈少微字子明撰

子自天元之初，从衡岳游于黄龙，止于宾馆，忽于岩穴之中遇至真之人，授于灵砂要诀。告曰：吾自得许仙君之后，仙君受诀于吴天师，天师受于同郡丁真人，今本即真人所出也。假如丹砂之本诀玄理深奥，固难卒寻。好道之流，志慕神仙之者，若不究其真元，沉沦于尘俗。自上古仙经，文皆秘密，隐蔽不言，不显露于世。予常愍然，今述为《灵砂七返篇》及《金丹志诀》二章，并为序论矣。

论曰：丹砂者，太阳之至精，金火之正体也，通于八石，应二十四气。丹者是金感于火，名之为丹，汞者是水去于金，而名汞。丹者受阳精而候足，汞则离本质而体不全，故丹砂是金火之精结成，含玄元澄正之真气也。此是还丹之基本，大药之根源。德合则万象生焉！体离则杳冥难测。经曰：阳精赫赫，得之可以还魂返魄。故饵阳精者所以长生，服阴魄者死而为鬼。丹砂是阳之正气，赤帝之君，据于南方火之正位，只如丹砂之体数种，受气不同，惟三种堪为至药：上者光明砂，中者白马牙砂，下者紫灵砂，余有溪砂，杂类之砂，不中入至药服饵所用。光明砂一两，服之力敌白马牙砂四两；白马牙砂一两服之，

力敌紫灵砂八两；如溪砂、土砂之力，不可比量也。或曰：一等是丹砂，俱受太阳之精气，因何有溪土杂类之砂，力有小大者？答曰：光明砂者，受太阳清通澄朗正真之精气，降结而红光耀耀，名曰光明砂；白马牙砂者，受太阴平和明彻柔顺之精气，降结而白光灿灿，如云母色者，名曰白马牙砂；紫灵砂者，中受山泽之灵气，结而成砂，而色红紫，名曰紫灵砂。如溪土杂类之砂，俱受浊滞不真之气，结而成砂，即混沌无精光也，故不中入至药所用。且如光明砂一斤伏炼得十四两，伏火鼓得至宝七两；白马牙砂一斤伏炼得十二两，伏火鼓得至宝六两；紫灵砂一斤伏炼得十两，伏火鼓得至宝六两；溪砂、土砂、杂色之砂一斤，伏炼可得六七两，伏火鼓得至宝一二两。明知溪土之砂受气不清，滞浊参杂。高上贤明之士先拣其砂，次调火候，在意消息，而成七返七还。且金石之中，至灵至圣至明，无过于丹砂者也。怀袖致之一两，尚自辟邪魔，况乎伏炼入于五藏者哉！且如七返七还，异名同体。而返者是丹砂化为金，还者是金归于丹。经曰：“返我乡，归我常，服之白日朝玉皇。”或曰：七返者，是丹砂属火，变炼成金，假名为七返者乎！论曰：火之成数是七，七度变转，以应阳九极体也。且七度变转者，是丹砂炼治得伏火也，鼓成白银出砂，令伏火鼓成黄花银，即是第二返；将黄花银化出砂，伏火鼓成青金沙，即是第三返；将青金变化出砂，伏火鼓成黄金，即是第四返；将黄金化出红砂，伏火鼓成红金，即是第五返；将红金还遣化出砂，伏火鼓成赤金，即是第六返；将赤金变化为砂，伏火鼓成紫金，至紫金即是第七返。灵砂之金，而含积阳精，真元之气足矣。而将紫金变化为砂，运火烧之一周，迥然通彻洞耀，即成紫金还丹。得服之者，形神合，当轻举。且世人多误取石硫黄，呼为太阳之精，和汞而烧七返。且硫黄受孤阳偏石之气，汞又离

于元和，二物俱偏，如何得成正真之宝？切见世人伏炼众多，终无成者，盖缘迷迷相传，至于后世，予甚哀之。只如第一返伏火丹砂，服饵一两，即去除万病；服之二两，即髭发玄青；服之三两，即颜色悦红；服之四两，即延年益寿。第二返砂，服之一两，即体和神清，返老归童。第三返砂，服之一两，虚夷忘情，心合至精。第四返砂，服之一两，即精神明彻，通于内外。第五返砂，服之一两，即身光满室，水不能溺，火不能烧。第六返砂，服之一两，即造化不能移，鬼神不能知。第七返砂，服之一两，即超然于九天之上，逍遥乎宇宙之间。更服九丹，即赴金阙，列位真人，故知丹砂之力，昭然而可观乎！自上古高仙，或昭其旨，秘其踪，皆以隐言深密，好道之流，志慕轻举者，莫究其根源。自予得其奥旨，常欲周济为功，大道垂恩，咸愿同归玄境，遂作《灵砂》七篇，《金丹》二章，并述火候、次第、药物品数高下，列之于后章，以授贤明。至诚君子得而宝之，即福寿无疆。轻泄之人，殃其九祖。亦不可诬言而蔽道，慎莫写志，用则贤愚，可熟鉴而授之矣！

### 第一返丹砂篇

本经曰：丹砂者，是万灵之主，造化之根，神明之本。而居清玄，总御万灵，动之则离体，定之则乾成。能变化者，故号曰青龙，若翱翔而为名，谓之朱鸟。上品者，生辰锦石穴之中，而有数色；中品者，生于交桂，亦有数类；下品者，生于衡邵。数种品类，皆缘清浊体异，真邪不同，降气分精，感通金石。受正气者；服之而通玄契真，为上仙矣；受偏气者；服之亦得长生留世。且上品光明砂者，出于辰锦山石之中，白牙石床之上，十二枚为一座，生色如未开红莲华，光明耀日，亦

有九枚、七枚、五枚、三枚、一枚为床座者，十二枚、九枚者最灵，七枚、五枚生者其次。每一座当中有一大珠，可重十余两，为主君；四面小者亦重八九两，亦有六七两已下者，为臣，周绕朝揖中心大者于座四面。又有杂砂一二斗，回抱其玉座朱床于其座外，杂砂中拣得芙蓉头成，夜安红绢中，光明通彻者，亦入上品。又有如马牙成白浮光明者，是上品。白马牙砂有如云母片白光者，是中品。白马牙砂圆长似笋，生而红紫色者，即上品。紫灵砂若是白片棱角生青光者，是下品。紫灵砂。如交桂所出，但是座生及打石中得者，形如芙蓉头，而光明者，亦入上品。如颗粒成三四枚，重一斤，通明者，为中品。片段成明彻者，为下品。如衡邵所出，总是紫砂，打破石中得红光者，亦是下品之砂。如溪砂有颗粒成而通明者，伏炼饵之，亦得长生留世，未得为上仙矣。如土砂生于土穴之中，溪砂养于溪水之内，而土石相杂，故不中入上药服食使用。如座生者是最上品之砂，若得其座中心主君砂一枚，伏炼入于五藏，则功勋便著，名上丹台，正气长存，超然绝累。更服至七返九还，自然魄炼尸灭，神怡体清，阴气都消，则合而轻举，永为上真之飞仙也。故知阳之真精降气，而圆光周满，无有偏邪。但是伏炼之砂，作芙蓉头成而圆光通明者，即是上品神仙服饵之药。

经言：丹砂者，自然之还丹也。世俗莫测其元。只如玉座之砂，世人总知之。如金座、天座，是太上紫龙玄华之丹，非世俗凡夫之所见知也。其玉座则俗流志士，积功修炼，服之致仙；其金座则宿有仙骨，清虚练神，隐之岩穴，则其神仙采与食之，便当羽化升腾高清矣；其天座则天上天仙真官，而所收采服饵，非下仙之药也。其玉座砂受得六千年阳灵之清精，则化为金座，黄堂中有五枚层层生，四面四十五小珠，珠周绕金座，受一万六千年，则化为天座。天座则座碧，当中有九枚层

层而生，四面七十二枚周抱，在于飘飘太虚之中，常有太一之神护持。上元之日，真官下采，其山忽开，光明照一山如火，其天座砂，真官收之，其世人不可得而取采也。故丹砂之元深秘，贤明之士，志慕轻举者，切须辩其药品高下，然可调其火候，合其阴阳，伏制自然而契于高真矣。

阴阳制伏及火候飞伏法：

经言：阳精火也，阴精水也，阴阳伏制，水火相持，故知冰炭不同处，胜负终有归。且丹砂是阳精，而须阴制。阴制者，水也；当用石盐、马牙消、玄英、化石是也。如玉座光明砂一斤，制之用石盐六两、黄英、化石各二两。座外生光明砂一斤，可用石盐及马牙消各四两，黄英、化石各一两。白马牙砂一斤，用石盐、马牙消各二两，黄英化石各三分；紫灵砂一斤，石盐、马牙消各二两，黄英、化石各三分；如溪土杂类之砂力小，每一斤可用石盐及马牙消各二两制之。其所用石盐和黄英化石，细研为粉，入锅，以文火养一日，即鼓成汁。后和马牙消，重烧令赤。先用砂盐鼓成汁后，方入前药用之。其光明砂大者，须打碎如江豆大小，然后入于土釜中。先下石盐，次下马牙消，和水，文武火昼夜煮三十日，不得火绝。日满淘澄，取砂入于鼎中，用阴阳火候飞伏，其鼎可受一升。且鼎者有五：一曰金鼎，二曰银鼎，三曰铜鼎，四曰铁鼎，五曰土鼎。土鼎者，瓷器是也。入砂于鼎中，用阴阳火候飞伏之。

《飞伏法诀》曰：五日为一候，三候为一气，用八气、二十四候、一百二十日周而砂伏火毕。每一候飞伏法：五日内，四日用坎卦，一日用离卦。坎卦者水煮四日，离卦者阳火飞之一日。初起阳火，用炭七两，竖安，鼎下须熟炭七两，不得增减。每一转后，却增炭一两飞之，增炭至五转后，忽有黑气和汞霜飞出。则收霜，和鼓了石盐半钱，重于钵中，以玉槌轻手



研之，令汞入尽，即依前却安鼎中，用坎离火候飞伏。至十二转后，每转加炭二两，使入鼓了石盐半分，作粉铺安面上，合有汞霜可二两来飞出，其霜虚光，鼎中药色渐欲黄紫。收其霜及汞，和石盐一钱，重于钵中熟研了，入鼎，依前火候飞伏。伏至十八转，加炭三两，其药色欲赤。至二十转后，每转增炭四两，只有半两已下汞霜飞出，其霜坚硬如青金片，黄白光明，亦和石盐于钵中研之，入鼎飞伏。伏至二十四转，其砂候足，伏火毕矣，而色红赤，光明可观。其砂伏了，更须用盐花包之，重以黄土泥裹紧固济，入阳炉，武火白烧之。三十日后，出砂，安淡竹筒中封之，入寒泉中深埋三十日，然后淘研，轻飞者分抽服饵；沉重者即鼓成金汁。且上品光明砂伏火了，其色红赤，淘澄，下可有金星砂六两，光明灿烂。中品马牙砂伏火了，色红鲜，淘澄，下有金星砂四两。下品紫灵砂伏火了，色稍紫赤，淘澄，下亦有金星砂三两。如溪土杂色之砂伏火了，色或赤，亦无光彩，下无金星砂。上古高仙，皆炼服其真丹砂而道成也。其上品光明砂者，即是真砂也。贤明之者，须在意采索其真精，然可合还丹耳。且伏火丹砂出寒泉了，可便熔鼓，令见真宝。

《熔鼓诀》：每一两伏火丹砂可用盐花半两，置盐花于锅底，次入伏砂于锅中，候锅及砂与火同赤，然后鼓之千下，即金汁流注，名曰白银，而面上黄花漠漠润泽，光芒可爱，是天地之中至真之宝也。如将服饵，分抽取一两，作三百六十丸，丸用枣肉和之为丸，每日服一两丸。欲服此丹砂，先须洁斋七日，然以晨朝东向，虔心叩请告：

三清紫微真君、太一真人、先师仙官、水火之灵，愿服此灵砂丹于五内，永保形神，合于至真。咒毕，礼拜七拜，然后服之。凡服丹砂后，不得吃臭秽陈积之物，及诸生血家属之肉，生死之秽，尤不可观。故经云：阳精好洁，阴尸好秽。常须虚

和其志，澡雪其形，以助阳灵之真气也。自然神怡体清，而神仙可俟也。

## 第二返宝砂篇

《本经》曰：炼真合于秘妙，炼妙合于至灵，炼灵合于至神，至神者合于至道，道合则升腾玉清，而为高仙矣。且炼砂而得宝者，是至真之药；化宝而生砂者，即成立感之灵丹也。

《化宝成丹诀》曰：将其丹砂中白银四两打作锅子，安一通油瓷瓶子中，其瓶中可受一升，其宝锅子可瓶子底大小。先将此银锅子著北庭砂一两、石盐一两、麒麟竭一分，三物和研，以苦酒调如膏，涂于锅子四面，令干，以黄土为泥包裹之，可厚一寸二分，便于糠火中烧三七日，然后白炭武火烧三日，去泥，取宝锅子安瓶子中，入真汞，须是本色丹砂中抽得者，同类感其气，而转转生砂。故上仙真经秘而不泄者，为此子母之法，恐凡愚之心见知也。然入真汞于瓶子中后，即著水五合，常须添瓶子中至五合，莫令增多，文火养一七日后，令干，固济其口，便以武火迫之三日，而红黄沙涌出于宝锅子之上，将其砂又依前添汞，常令有汞八两在瓶子中，不得增减，亦依前用文武火候养迫，令生砂出，即收之。每四两宝计收砂一斤，其宝即枯干焦脆，而精尽化为砂，瓶子中每只余二两青黑灰耳。将其砂依前篇入药，煮三十日后，淘取入鼎中，还以阴阳火候飞伏，五日为一候，一百日足，其砂伏火矣。火候加炭两多少，一依前篇。飞伏五日，为其砂伏了，不用著盐，包裹烧之，便可。熔鼓诀，亦依前篇，盐为使，引令金汁流注。此宝砂一斤，修炼而得十五两，伏火鼓得黄花银十三两，色黄光浮，容体润泽，而内外黄，名曰黄花银也。如将此砂服饵，入寒泉，出火

毒。寒泉法：入土深埋三十日，出后淘研，用枣肉为丸，每两亦作三百六十丸，每日清晨东向，虔心服一丸，服此宝砂丹后，自然虑静神清，浊气不入，而志不扰，则渐证于神仙之阶也。

### 第三返英砂篇

《本经》曰：杨元积习，而英气自会于真精，真精感化，而神丹可得耳。故曰炼真致华，真华通应，而化为金英之玄砂也。化宝砂中白金而生英砂诀曰：将其宝砂中黄花银四两打作锅子，还依前篇作用，可瓶子底大小为之。用蒲州石胆一两，石盐一两，礞砂一两，共三物，和苦酒研调如膏，涂其锅子四面，令药尽为候。候干，以黄泥为球包裹，于糠火中烧二七日后，用白炭武火烧之一七日，去泥，出锅子，依前安入通油瓶子中，入真汞四两，清水五合，文火养之二七日后，更添汞四两，又文火养一七日，候干，紧固济，武火迫之一日，其砂涌出于宝锅之上，而红黄映彻，光耀不可言。而乃收砂添汞，计取砂可得一斤，则数足。便将其砂入于鼎中，依前篇用火候飞伏，亦五日为一转，内二日用坎卦，即水煮之，三日用离卦，即阳火飞之三日，初起阳火，可用炭七两，每一转后即增炭二两，至七转后，有汞霜飞出，可二两来，其色黄赫，紫光烁烁，飞在鼎盖之下。收其霜于钵中，用蒲州石胆一钱，重和苦酒及砂，以玉槌轻手熟研之，相入后，却入鼎中飞伏，伏经十八候，九十日足，其英砂伏火毕，分毫无少，便可熔铸，亦依前篇。用盐花引鼓之，即宝汁流下，而清英光润，名曰青金。青金者，是阳精渐著，从兑见震，然坤归离，此是阳精变转巡历之终始也。如将此英砂服食，每两先用余甘子半两，生甘草二两煎取汁，于白银器中煮二七日后，澄取砂，入安淡竹筒中，入土深

埋，三十日后出，以枣肉和为丸，每两亦分为三百六十丸，每日清晨东向，叩告。三清上圣仙官，然后服，服此英丹后，自然嗜欲无婴，荤血不入，端居净室，而神和体轻，与真人为俦矣。

#### 第四返妙砂篇

本经曰：乾体阳曜，离精渐明，艮雪轻鲜，阴魄消化，乃是青金精液，感汞而生砂，英气相因，集而为妙，名曰妙化砂。

《妙化砂诀》曰：将青金四两还打为锅子，用赤盐半两、石硫黄半两、大礬砂半两、北庭砂一两、蒲州石胆一两，凡五物，和苦酒研为泥，涂其青金锅子四面，以炭火灸，渐渐逼令药泥尽干为候，一依前篇，用黄泥为球包裹之，以糠火中烧二七日后，即白炭武火烧之一七日毕。去泥，出锅子，依前篇安瓶子中，入真汞四两，清水五合，不得增减，养之二七日后，更添汞四两，又火养经七日后，令干，固济之，以武火迫之一日，而妙砂涌出，可有四两，即收之。更添汞四两，亦依前文火养之，令生砂，出即收取，计收砂一斤，即数足矣。其砂入鼎中，依前篇用火候飞伏，亦五日为一转，内二日用坎卦，是水煮，三日用离卦，则阳火飞之。飞伏火候，一依英砂篇中用火加增炭数多少，经十六候八十日，而妙砂伏火毕，则金星光璨，映彻，红耀不可言，为至英至妙之丹砂也。如将熔铸，亦须用盐花为使，引令金汁流出，便成黄金。其金凝黄皎洁，精彩光耀，既至坤形，离精渐见，故经曰：从阴而返归阳，自浊而返归清，此则是阳炁变炼，合于真妙，而自然位至神仙也。若将服饵，每一两先须余甘子半两、生甘草一两、紫石英一两煎取汁，于宝器中煮二七日后，亦入淡竹青筒中，入寒泉埋之，

三旬后出，以枣肉和为丸，每两分为三百六十丸，每日晨朝向东服一丸，自服此妙砂后，渐渐精思透彻，浊滞之气消革，则形神虚白，洞合于至真，自然超其玉京，而会金阙也。若志士得其含元炼真之诀，如神仙之事岂还哉？

### 第五返灵砂篇

本经曰：阳德播功而垂光，运动其元精，元精流化为英砂，转而入妙，妙气变炼，而生万灵。故知玄妙玄圣，转转而增光，感激真精，自然灵化。且灵砂者，是前妙砂中黄金转感汞而生，砂则红光焕赫，璨烂金星，而绛色清灵，乃号为灵砂者也。

《化灵砂诀》曰：取砂中黄金八两打作圆鼎，可受四合，又将二两金为鼎盖，其鼎内先著石硫黄一两，赤盐一两，北庭大礬各半两，共四物，和苦酒研如泥，涂于鼎内及盖内外，调匀，药尽候干。即以黄土为泥包裹之，可厚一寸，文火四面养之三七日，以不通手为候。三七日后，渐以武火迫烧一七日，昼夜不令绝火。七日满，寒之去泥，重以甘土泥其鼎外可二分，即悬安炉中。其鼎下周回令通安火，便入真汞四两于金鼎中，著水二合，以盖合之，火养经七日，其鼎下常有熟炭火五两，不得增减。其鼎中续续添水，长须二合，不得令干，在意消息，莫遣失候。七日后，更添汞四两，又依前文火养之，七日后令干，紧固济其口，即武火迫之一日，便生红光灵砂，可收得五两红砂。即须入真汞五两于鼎中，鼎中常令有炭八两，不得多少，亦文火养之，七日后令干，即固济之，便武火迫之一日而生砂，砂出则收之。更添真汞于鼎中，又文火武火养迫，令生砂，砂出收之。此一鼎中，计收砂得三十两便止，则数足矣。其金出砂后，精竭而枯脆，无光泽之色，秤只可重四两以来耳。

其精华与汞相感结，尽化为灵砂也。故经言：真汞者，皆是本色，丹砂中抽得汞添用之。若伏练光明，为药头者，即光明砂中汞，转转添用，如用白马牙砂为药头，取白马牙砂中汞添用变转。如将紫砂为药头者，即收紫砂中汞添合，如溪土砂中所出汞者，名为杂类，气色终不相感。且光明砂一斤，抽汞可得十四两，而光白流利，此上品光明砂，只含石气二两；白马牙砂一斤，抽汞得十二两，而含石气四两；紫灵砂一斤，抽汞得十两，而含石气六两；上色通明一斤，抽出汞只可得七两，而含石气九两。石气者，火石之空气也，如汞出后，可有石胎一两青白灰耳，亦于前宝砂篇中略述，真汞之诀而未周细，郑重言之，所是抽汞用事，具列于《金丹前章》之上品也。其黄金鼎中抽收得灵砂三十两，数足讫，不用阴煮，便依前篇用阴阳火候飞伏。还五日为一候。内一日用坎卦，是水煮一日；四日用离卦，即阳火飞之四日。初起阳火，用炭九两，每转后增炭二两，至五转后每转增炭三两，便有五彩金辉霜三两飞出。收其霜，和砂于钵中，著蒲州石胆半分，黄礞一分，和苦酒熟研之半日，依前安鼎中，用坎离二卦火候飞伏之。经十四候，七十日足，其霜砂伏火毕。砂既伏火，金彩光辉，色如石榴花，精彩璨璨，光曜日月，一切毒龙蛇神鬼见之潜伏，目不敢举，可得言至灵哉！其砂灵而难鼓铸，若欲熔之，先于洁净之处，取净土为锅炉，绝诸秽杂，用盐花和灵砂等入锅，鼓之二千鞴，始得消熔，即金汁流注，凝而鲜焕，名曰红金。红金者，是阴魄之气，变炼而尽，正阳之精，挺立而垂光，此是阳灵之真金也。如将服食，一依前篇，用余甘子，生甘草，紫石英煎取汁，于宝器中煮二七日，火候药数多少亦依前篇。煮了，入安竹筒中，固济其口，入土深埋三十日，出之，以枣肉和为丸，每两丸作三百六十丸，丸如麻子大。每日清晨洁心东向，启告。三

清上帝君真仙官众，然后叩拜而服之，即得心神明达，彻视表里，身生红光，而调合于至真也。

### 第六返神砂篇

经曰：妙极则灵通，灵通则致神，神合则道全，道全则玄真降，便升玉清而为高仙矣。且神砂者，是九灵构精，宝风凝集，玄华标结而化为神砂，则焕灿玄黄，光辉照灼而名为神妙者也。

《化神砂诀》曰：取前灵砂中红金九两，铸为宝鼎，可受五合，又将三两作宝盖盖之，其鼎内亦先著石硫黄一两，大礬砂一两，赤盐一两，北庭砂一两，共四物，和苦酒熟研如泥，涂其鼎内及盖周回，令匀尽为候，候干，以盖合之，著黄土泥包裹，可厚二分。为则一依前，文火养之二七日后，即武火迫烧之七日，令与火同色赤后。令去黄泥，重以甘土为泥，泥其鼎外，可厚三分，即置其鼎于炉中，入真汞六两入鼎中，用水三合，徐徐添之，不得令干，文火养七日后，更入汞三两，文火养之三日，候冷，又固济封闭，令紧密，即武火迫，经二宿，即尽化为红光神砂，收砂。又添汞八两，依前文火养七日后，便武火迫二日，亦化为砂，收之。又添汞七两，亦以文火养之，武火迫之，令生砂，砂出即收。又添汞五两，亦文火养之，武火迫之，令出砂，收之。又添汞三两，亦依前法文武火候养迫之。计前后收得神砂，可三十二两，足即止。将其砂入石硫黄四两，蒲州石胆二两，和于钵中，熟研半日，便入安宝金鼎中，阳火飞伏。其阳火者，纯离卦火候伏之，还五日一候。初起火用炭九两，每一转后加炭二两，每转转出砂于钵中熟研之，即入鼎飞伏，至六转后，每转加炭三两，如有绛金霜飞出，其霜

红赫照耀，光彩射目，收其霜于钵中，和砂用蒲州石胆一分，和苦酒熟研之半日，却入安鼎中，用火候飞伏，伏经十二转，六十日足，其神砂伏火毕矣。其色赫奕含辉，紫光洞彻，不可言尔。若得熔铸诀，一依前《灵砂篇》法度，和盐花鼓之，即宝汁流注，凝成赤金，精光如火，故号曰离，己之金者，神也。其丹砂便可以服饵，每两亦分为三百六十丸，以枣肉和之为丸，服饵诀一依前篇。且服此灵宝神丹后，自然神灵骨轻，身有光明，足蹈真境，而为上仙也。

#### 第七返玄真绛霞砂篇

本经曰：灵宝禀运，则感应而神栖归真，积精自然，玄霜绛雪，腾跃流通，流通则为高真之灵仙也。且玄真绛霞砂者，是神砂中赤金宝鼎养汞而生砂，其砂则紫霞红英，五彩辉灼，乃号为玄真绛霞之砂。

《化宝生砂诀》曰：取前篇神砂中宝金一斤，铸作圆鼎，可受七合，又将宝金五两为鼎盖。其鼎内先须用石硫黄四两、赤盐二两、北庭砂二两、大礬砂一两，共四物，以苦酒和研如泥，涂其鼎内，以药尽为候，候干则盖合之，黄土为泥包裹，可厚一寸，依前《神砂篇》，文火养之二七日后，即武火烧七日，寒之，去其黄泥，重以甘土为泥，泥其鼎外周回，可厚二分半，即安炉中。入真汞十二两，于鼎中，著水三合，不得遣干，徐徐添水，则以盖合其鼎，文火养之七日，其鼎上常令通手为候。七日养，候干，紧固济其口，即渐渐武火迫之三日，开鼎看之，其汞即尽化为绛霞玄砂也，其砂不得收之，便更添汞九两，亦依前，文武火候养迫之，日数满开看，又尽化为砂。又添汞六两，于鼎中固济，文武火候迫促之，日数足，又



开看，亦化为砂矣。更添汞五两，还以七日文火养之后，即武火迫之一日而成，其砂红紫，五彩霞光晃耀在其鼎中可三十二两，分毫无失，又出其砂于钵中，用石硫黄七两，以玉槌细研之一日，却入于此神砂赤金宝鼎中，固济其口，令紧。用纯阳火候伏之，七日为一转，即开之，出砂，和苦酒一合熟研，而却入鼎飞伏，七日为一候。初起火用炭十三两，每转加炭一两，至三转每转加炭二两，便有五色轻鲜绛霞霜二两飞出，于鼎盖之上，连连如麦颗，即收之。和砂于钵中，用蒲州石胆半两，苦酒二合熟研，却入于鼎中飞伏，经七转，转转须开看，即入石胆、苦酒和研，方可入鼎中伏之，伏经七转四十九日足，其砂伏火毕矣。便以武火烧之一日，可用炭二十斤，分为四座迫烧之，然后开之。一日开鼎看，其玄真绛霞之砂，文彩辉赫杂错，霞光洞曜于日月，可言至灵哉！极阳玄元之砂丹也。如熔铸玄真诀，用盐花和，鼓引令宝汁流注，而凝紫光耀，名曰绛霞之紫金也。若将服饵，即以枣肉和为丸，每两亦作三百六十丸，每日清晨东向服一丸。服此丹砂后，倏忽则合形而轻举，驾飞龙游于十天八极之外，岂不优游哉！此玄真丹砂一丸，点汞及铅锡铜铁一斤，立化成紫磨黄金，光泽不可言耳。余自神道设教，启于玄慈，蒲州愍在俗之贤明，而述为七篇二章，此篇本从《大洞宝经》中《仙君九品幽章隐文炼真妙诀》所出，禁文甚重，非贤莫传，岂顽愚悖戾行尸秽质之徒见闻耳，深可忌之哉！恐泄上古仙圣之真妙也。

## 卷七十 金丹部八

### 还丹内象金钥匙（并序）

（一名《黑铅水虎论》，一名《红铅火龙诀》） 昌利  
化飞鹤山真一子撰

夫金液还丹并诸经诀者，无出《古文龙虎上经》，魏伯阳《周易参同契》，为还丹经诀之最妙也。莫不以铅火为宗，龙虎为祖。诸家经诀中，有明铅而不明火者，有说虎而不说龙者，虽则互有指陈，实则殊途归于一理，尽一源也。丹诀中有《太白真人歌》四句，“少即少矣，妙即妙焉”，实为直指龙虎之幽微，全露汞铅之宗旨。歌曰：“五行颠倒术，龙从火里出；五行不顺行，虎从水中生。”此要言二十字，可谓泄天地互用之机，分阴阳反覆之道。水虎，真汞之本，火龙，真铅之门。还丹根基，于斯尽矣，实为真秘之言，不易之诤也。余因撰诸《黑铅水虎论》、《红铅火龙诀》，盖演真人之微邃，开秘诀之循途也，名之曰《还丹内象金钥匙火龙水虎论》，庶诱将来，用祛未悟者也。

### 黑铅水虎论

夫黑铅水虎者，是天地妙化之根，无质而有气也。乃玄妙真一之精，为天地之母，阴阳之根，日月之宗，水火之本，五行之祖，三才之元。万物赖以生成，千灵禀之以舒惨。至于高天厚地，洞府仙山，玄象灵官，神仙圣众，风雨晦朔，春夏秋冬，未有一物不因铅气产出而成变化也。故经云：“天得一以清，地得一以宁，神得一以灵，谷得一以盈，万物得一以生。”又云：“无名天地之始，有名万物之母。”即是真一之精，圣人异号为真铅，则天地之根，万物之母是也。岂可以嘉州诸铅、硫黄、硃砂、青盐、白雪、雄黄、雌黄、消石、铜、铁、金、银、水垢、水精、凡砂、凡汞、桑霜、楮汁、松子、柏脂、秽污之物，白石、消石、夜霜、朝露、雪水、冰浆，其诸矾土杂类之属，草木众名之类，已上皆误用，不可备载也。或问曰：“其真铅如何？乞为指的，将示未明。”答曰：“黑铅者非是常物，是玄天神水，生于天地之先，作众物之母，此真一之精元，是天地之根。”能于此精气中，产生天地五行万物。岂将天地之后所生之杂物呼为真铅？即误之甚矣！缘此精上为星辰，下为真铅之精，常与太阳和合，长养万物，所随太阳极远，不过二十六度。故我先真圣师采此阴精，设其法象，诱会太阳之气，结为神丹，故经云“太阳流珠，其性猛烈，急而难当。若不以方便法象留连，取其至精，安肯等闲住于杂物之上？非我北方正气，纯粹之精，铸成鼎器，运养周生，难见龙虎相吞，夫妇合体而成神物哉！”

## 红铅火龙诀

夫红铅火龙者，是天地妙用发生之气，万物因之以生，有气而无质，故将一年三百六十日，蹙于一月三百六十时。又于一月三十日三百六十时内，朝夕各系一卦。又移此六十卦三百六十爻，陷于五日六十时内，复象一月也。两日半三十时，便为三十日，又象一月。朝暮各占一卦，又系六十卦，计三百六十爻，复象一年三百六十日也。又于两日半三十时内，却分十五时，应半月一十五日用事。复将此半月从一至十五日，又陷于十二辰中，自子后至己前六辰之内，系三十卦，计一百八十爻，便象冬至后到夏至前，应半年一百八十日也。自十六日至三十日，又陷于六辰之内，午后至亥前六辰之中，系三十卦，计一百八十爻，便象夏至后到冬至前，应半年一百八十日也。春秋二分在时内，二分二至于一日十二辰中，都合三百六十，象一年之气。始《复》卦至《乾》，鹑，自《遯》终《坤》卦，循十二辰，侯分《震》、《巽》，甲子丑午未，阴符阳火，圆合天符三百三十六度，是晦朔阴阳、刑德交会、天地变化、万物生成之数也。皆依刻漏运行，夺取气候，入神鼎中，使真铅天地之母，受此运用而产神精。《易》曰：乾之策，三百六十日足，阴阳起伏运用，一年周星，万物之大数也。凡一年，计三百六十日，计四千三百二十时，每日朝暮两卦，计六十卦，每卦六爻，合计三百六十爻（又夺得一年三百六十日，计数夺得四千三百二十年正气，在神室中）。凡五日为一周，合六十时，应一月六十卦用事，六十时系卦三百六十爻，便应

三百六十日一年也（又夺得一月内四千三百二十年正气于两日半）。假如有一月三百六十时，便象一年三百六十日，于三百六十时内用六十卦，将六十卦气候又陷于五日六十时内，用六十卦时为一周，又象一年。复于五日内分两日半，计三百六十爻，复象一年也。又分三十卦一百八十爻，移在半月十五日，朝暮各一卦，计三十卦，又将此十五日配在半月六辰之内，共得三十卦一百八十爻，便象半年一百八十日也。每一辰内，于二十四气中分得二气，七十二侯中分得六候。此气候逐子后午前六辰阳火，入神室之中，各有寒暄气候符证，互立变化之功，此六辰是冬至巳后，夏至巳前，半年一百八十日，运火合天符，动静盈缩、造化万物之数也。圣人蹙于一百八十日节候，陷于半日六辰之中，计夺得二千一百六十年正气，入于神室中，养万灵也（如兼午后六辰，圆合一日夜火数，即夺得四千三百二十年正气，在一日夜之内也。还丹之道，要妙在震巽，起阴阳之中，复遘分进退之符，十二卦周行，一年气足，坎离运用，龙虎生成，数满周星，神精水火，进气而出，即非常药也）。午后亥前六辰，阴符分得气候，节符与巳前六辰数时刻并同，亦象夏至后冬至巳前一百八十日也。所有《震》、《巽》阴阳进退之符，刑德相背，圆缺相交，出入抽添，起伏否泰，即少有不同也。此是合天符进退，周星造化，万象生成，潜运之数也。故先真到此，皆传在口诀，至诚轻泄，勿使非人知之，令窃弄神机妙用也。诸经诀云：月有《火记》，明六百篇卦爻，行于世也，今不备录（六百篇《火记》，盖魏真论周星数，实篇篇相类，冀达士细思，道知返掌也）。今所云一日一夜内，运阴阳符火入鼎中，如《震》复至《乾》六卦为阳火也，自《巽》、《遘》至《坤》六卦为阴符候也。一日一夜内，合夺得四千三百二十年正气，在神室中，生产神精也（全依内百刻也）

。凡一时夺得三百六十年正气，一日夜夺得四千三百二十年正气，一月夺得一十二万九千六百年正气，一年夺得一百五十五万五千二百年正气也。故经云：人服金液还丹，一粒如稻米许，三气限满，必获上升。三年药成，已于身内受得四百六十六万五千六百年正气，年寿也。如常服食，以寿限无量，出天地三界之外，纯阳真精之身，有生而无死。天地阳九，否泰动静，常数服金丹之人，逃出阴阳之外，九阳之表，故寿年无数也。贤达思之，此外乃无上至真之妙道也，遇者得无保密之，缄于心口，以待贤能者哉！

凡一月三百六十时，一年十二月合四千三百二十时，象四千三百二十年。内卯酉二卦，息符一年，内合数共除出六十日，两计七百二十时，象七百二十年。汞内胎符火数，实十个月，计三千六百年，合天符，合三百六十度，符合《参同契》六百篇《火记》也。其余出息七百二十年，是金沐浴其精之限，微哉此法！是大丹红铅黑铅龙虎交媾，生成乾精坤粹真砂纯妙之上道，运火之秘诀，养赤龙之魂方也。先真圣人心之隐文，希夷之妙道也，非防闲浅近之事矣。故经云：即得真铅，又须得真汞，为此事也（经云：得在受气抽添）凡运节符火数，一一皆依约刻漏，昼夜一百刻，分四时、五行、二十四气、七十二候，不可分毫差矣。若使四季不调，五纬失度，即真砂真汞不产，龙虎不交。故经云：纤芥不正，悔吝为贼是也。贤达君子，反覆思之，无意轻动，令不合天道，则令天地妙用之气，凭何节候，而成变化，生于万象哉？《阴符经》云：天有五贼，见之者昌。知之修炼，谓之圣人也。时有习常道者，止余东邻，闻余斯言，忽叩扃而至，大诘而谓余曰：吾闻昔先圣有言曰：殆生有命，修短在天。又《西域书》云：天地及日月，时至皆归尽。至于劫，石有消，无存纤芥。天地之内，万物从起，岂

有不拘常数，而长存哉？数尽皆归于空，空者，无也。又闻言，人之生，如箭射空，力尽还坠。今子独云，饵金液还丹之人，寿年无数。复云：我命在我不在于天者，子言得非习偏见，有好恶，立虚准乎？余答曰：吁呼！此盖鄙俚偏执之谈也，岂达古贤通圣论哉！且鄙俚偏执之人，焉能凿混元征造化之端，擘鸿蒙结阴阳之表欤？岂将睫目之附近，度量寥廓之幽端乎？且乾坤之气，而生成万物，诸途而出，始因元判，受析阴阳，有万法焉，有万形焉，得泉石焉。且阳数奇，九之数也。相须阴阳之气，相禅乾坤之内，故互用之数，未有无用之物类也。且九地之下无阳精，而纯阴浊气也；九天之上无阴精，而纯阳清气也。有修积阴之气者，尽弃魂神，于无中炼妙有，任定而性寂静，故死而为阴爽之鬼也。有修纯阳之精者，谓存神气，而于有中炼妙，全身形而入无形，故生无死，为天上神仙也。且鬼神者受积阴之气，阴鬼之道，鬼贵无形，故弃阳而炼阴之气，气积即息，息即归阴，阴即归死，有得死者，故名寂灭。寂者，凝静也；灭者，空无也。鬼道贵无形，盖任空寂，于真无中炼妙有，为下土阴中清虚善爽之鬼神，非寻常之有也。鬼神阴静之中，以斯为妙道。有阴中妙门，炼阴中之妙法（炼阴之法，故有大小，以有大小之门）。天上之神仙者，受纯阳之精，神仙之道贵有形，故弃阴而炼阳。阳气积而动，动即返阳，阳即归生，生即得仙不死者，故名曰上升。上者，轻也，飞也；仙者，升也，举也。仙道贵有形，盖运气于真中有中炼妙无，为上天九阳中清真妙灵之神仙，即非常之无也。神仙于阳动之中，以斯为妙道，有阳中之妙门，消阴之妙法。炼阳法有大小门，非一也。积阴之精附地，积阳之形奋天，天地自然之道，非有为也。故《易》云：方以类聚，物以群分。本乎天者亲上，本乎地者亲下，各从其类也。故修丹者术士，炼纯阳，出阳精，

取而服之，变为纯阳之身，是以就天，乃从其类也，故名之曰上升九天。天上无阴，乃纯阳阳涛之境，出乾坤阴阳之表，故寿限无数也。真汞，无也，故不同乾坤之内有数之物，且上天不有为乐，空寂之形，不可服丹。故阴教无纯阳之神仙，与下士定寂之鬼，明有优劣，非等伦也。纯阳之真无死数，积阴之神无生数，此真阴真阳俱出天地之表，故无常数也。且天地之间，阴阳炼真形二门，于斯无别理也。又问曰：阴阳二门炼真形之法，得非西域瞿昙氏之法邪？中华李老君法邪？答曰：余始只以明天地之间，炼凡为圣，阴阳二门出世之道，元不说李老君、瞿昙氏之法邪！若以二真造兹之法，即二真何多于天地乎！此二真皆能盗天地，贼阴阳变化之情，炼阴阳纯精之道，俱无成数之身，故后世立此二真为阴阳炼真之教。且二真俱曰修道，故道之一字，是阴阳二门众妙之法，强名也，玄玄善号也，故总之曰道。老君瞿昙各得道中之一门尔，故皆出阴阳之外，俱得无生死之数也。又问曰：今修道之人存神养气，复炼金液阳丹服食，以至为纯阳之真。修阴寂之人可得服丹乎？答曰：修阳之人盖存阳魂，留暖气，故饵丹以助之成纯阳之身。修阴寂之人弃阳魂而就阴魄，阴寂之形虚而冷，不可以受阳丹也。若服阳丹，即阴形岂可为纯阴妙化乎？即阴寂不凝，炼妙空不生妙有，妙有不生空也。又问曰：阴阳铅汞别有丹药乎？答曰：阴寂之法，易阴之形，空中有空，有中不有，为乐空寂之形，不可服丹，故阴教无丹药也。此义昭然，贤达可见。但性理凝寂，绝相离言，即真为空，妙有而已。修阴之人，得此言之为心印，过此以往，无别义也。又问曰：窃闻高僧中有出没自在，死生任情，接迹见闻，不可胜数，以载于经论，动逾数百，今指一二，粗立事端。且僧佛图澄生死自在，著于明史，述《金液诀》，形于丹经，又僧昙鸾师作《气术论》行于世，



皆同道家。忽暂亡而起，忽蹶空而行，阴教之中，岂曰无之？吾仁之言，阳法有上升，阴教归空寂，即此二僧，皆留形住世，隐显自由，得非空寂乎？吾曰：嘻！有何难明哉！其二子皆内修阳法，外修僧形法，岂分外貌乎？僧玄皆人也，同天地间一物耳。若外为僧，内修阳法，何异于外貌黄冠乎？且阴阳之道，任情变化，岂有偏党乎？惟达摩师《气诀》，正是外内不出入，凝定空寂中，炼妙有之法，便是空寂法中阴真。又问曰：今云炼阳即出九天之上，炼阴即入九地之表，将欲并教天下，得否？答曰：不可也。治世之道，无出于文也。斯阴阳二门，且出世之道，不可治世，不可普教于人也。问者曰：吾偏习治世鬻誉之书，不达延生出世之道，罔知二主之旨，难通三教之情。今既闻命，实是饱于玄风，醉其真义也。吾向来并蛙醯鸡哉！乃唯唯而退，余所略书阴阳二门炼真之至道，意者为上智之人，明达而自知，无劳论也；愚昧无知，勉论不及也；中智之人，心或进退，往往执言不回，多云“生死有命，富贵在天。”复云“天地及日月，时至皆归尽。”斯言举世鲜有不言者，遂便颞颥待死，迁真失正，迷于所苦，自甘取也。即轻薄无知泛滥之徒，岂可见天地之心乎？天地之用生成乎？岂知阴阳互情乎？阴阳相盗出没乎？余因达还丹有长生无数之辞，故少立通论，以示同人。非淫欲虚诞，沽谄于贤达者哉！于斯复有向美索乎？同心之子，幸鉴于斯。

歌曰：

大道生吾真，阴阳运吾质。寄生天地间，生死互经历。死生终有门，二路各分一。一门阴静中，于中有虚寂，修成阴中神，此是西胡术。别有阳中道，道秘在仙籍。劲指天地根，此根号真一。真一天地先，天地因而辟。令人采取精，炼为庚辛石。邀取木中龙，合之令契密。忽然为夫妻，渐生男女出，十

月男女生，却化为金液。金液作神丹，饵之天地毕。书情告同人，何妨留意觅！日月疾如风，三万六千日。

### 还金术三篇（并序） 陶植撰

植尝读《金碧潜通经》，至魏先生云：三五与一，天地至精。研思十霜，妙旨斯在。谓一者水数，为五行之始，色禀北方，包含五彩，终之合道，理契自然。故能生天生地，为牝为牡，然后还日精于月窟，结粹华于冲气，灵运潜应，与真合同，即非人间术士所能窥测。窃见今时学者，咸谓水银可以为金丹，朱砂可以为河车。殊不知汞生于铅，铅产于金，既不辨真，遂假他物。譬如缀花以为子，断体以安孕，伤残既迨，精气莫全。举世作迷途之人，漏气非混成之子，茫茫志士，同归有待，或谓古人妄设，终无此道，愚甚不取也。故征经义，为《术》上、中、下，以质之同志尔。

#### 术上篇

古之人所以假《易》象而为经者，谓至道与天地配。如太上始分一气为二仪，二仪判，然后有三才，俾乾坤运而品汇贞，坎离用而金水并，此道之枢也。男冠女笄，牝牡相得，气交体合，应变无方，此道之用也。日月运矣，寒暑节矣，滋液润泽，施化流通，此道之验也。阴伸阳屈，阳用阴潜，一往一来，推移合性，道之返也。此乃明乎剖一气以法天象地，自有合于无为者矣，岂假他物而成之乎！今谨按《黄白内经》神农云：知

白守黑，求死不得。白者金精，非世间金；黑者水银，非世间银。又《龙虎经》云：若铅外黑，内怀金华。金华者，为青龙、为黄、为乾，居木位，其数三。又曰：被褐怀玉，外为狂夫。夫玉者，为白虎、为丹砂、为汞、为坤，居土位，其数五。故曰：三五即和谐，八石调正纲纪。三五则土木之位，合而言之其数八。又曰：金为水母，母隐子胎。水者金子，子藏母胞。此言金水自相含孕，韞縕于母中，须造化而生也。又曰：长子继父体，因母立兆基。此言砂产于金，汞流为子，以金养子，继体而荣，道合自然，事根至妙，不可不思也。《潜通诀》曰：玄白生金公，巍巍建始初。此明丹砂生于铅。《金碧歌》曰：赤水流为汞，汞者弄明瑯。此明汞非外入也。自是乾坤交媾，受气而生，欲生不生，焕乎其有文章。故经云：圣人不空生，上观显天符。天符，信也。天气降，地气应，是阴阳交接而流珠下也。流珠者，亦谓之流汞矣。经曰：流砂朱汞父，戊己黄金母。此数者，明铅汞合三才，应五行，而非人间凡物也。又《参同契》曰：植禾当以粟，覆鸡用其子。此明于性，性纽乎情，情性相依，还返自然，是为变化，由铅与水银非类不相为用也。且情性既分真，终始自相因，为乾坤矣，牝牡也，金水也，木土也，情性也，龙虎也，虽同出异名，须以类合，如有差谬，不相涉入矣。故曰：类同者相从，事乖不成宝。又水以土克，木以土荣，相杀相生，更为父母。且水银不在五行正位，朱砂非龙虎配合，故曰：杂类不同种，安能合体居。故古歌云：莫坏我铅，令我命全。莫破我车，废我还家。又曰：铅断河车空，所作必无功。铅破河车绝，所作无处出。又《五篇》曰：铅中有金，金中有还，见宝别宝，修心炼形，贤人得道。又曰：宁修铅中金，不修金中宝。此数者，圣人明喻以示后学，犹虑不晓，故郑重而言之，亦知龙虎二事，本乎一物者也。得

其理者，谕诸返掌；迷其迳者，譬彼上天。但以世人未悟，遂使后学舍返掌之易，从上天之难，用意逾切，去真逾远，纷纭难议，真假相乱。或曰用铅耶！或曰用水银耶！若以水银为之，乾坤其可立乎？刚柔其可分乎？必以杂铅而为之，则金水何由而得生？还返何由而得行？又焉能变化由其真欤？且古来歌诀，唯赞铅之功效，不说水银之精妙，以二事共成，不得不兼而美之乎？必以水银为言，但假铅气而成河车，何得遗本而逐末乎？作者之意，既其如彼，后学之见，又且如耕石种稻，缘木求鱼，期于有获，难矣！又况文字所传者，非精妙之至；闲诀所受者，非至人之遇。夫知与不知，犹千里之与指掌尔！自非真人，曷辨真理？今特与众人为论者，谓言者不知，知者不言，又焉知道隐乎言与不言之间哉！

### 术中篇

凡言水银可以为金丹者，妄人也；言朱砂可以驻年者，不知道也。不知道惑妄人之言，去真远矣！夫汞者，姹女之别名，砂者，铅中之至宝。丹经所谓砂汞者，此其真诀也。且铅中有砂汞，犹人之有情性。情性于人，非外物也；砂汞生于铅，非外类也。三一之道，修性合情，然后可以返魂还元。若引外物为情，为性不可合，水银代汞，则铅不可亲。性不可合，三宫其可固乎？铅不可亲，八石其能妙乎？故《参同契》云：结白见宝造黄金。此者皆非人间朱砂水银为之。有顷之间，当为白烟矣！又焉得“解散为水，马齿栏干”乎？明者省之，可以一言而辨真伪耳！术士得之，则正性不惑。正性不惑，则为道日亲，而根本自正。岂假外名遣妻，绝粒丘壑，然后希遇哉！故再叙情性，原其砂汞，重解先圣指象立喻之意，诲贻于后贤也。

## 术下篇

经曰：白者金精，黑者水基，水者道枢，其数名一。又曰：知白守黑，神明自来。是知太玄之精，为道根本，当其枢纽天地，锻炼阴阳，理契自然，功侔造化。故定两弦之数，以二八合上下，得乾坤之体也。稽六十四卦，极天地之数用卦，又云，爻爻披摘，而三百八十四神存乎其中矣。乾之策二百一十有六，坤之策一百四十有四，引而伸之，触类而长之，总一万二千五百二十，所以应万物之数，备刚柔之体。又天数二十有五，地数三十，凡天地之数，五十有五，所以成变化而还返也。若积阳为天，聚阴为地，天否地闭，神明见焉。虽元化一施，妙用无极，且世以金木水火土合之寒暑衰荣，若春夏秋冬日夜相易。阳之用也，以金生水，水生木，木生火，火生土，土生金，阴之用也。若天地在乎手，造化由乎身，自凡跻圣，名列金簿，与黄帝老子为先后，所以顾兹门而无别径也。凡我同志，庶几于此者，要在细求真诀，务以师授，不可以谏闻浅说，多言或中之义，所希企及矣。噫！今之人不达神明之意，未通天地之理，按文责实，以意推披，殊不知古人与其不可传去矣。徒议枝叶，不得根本，迷迷相指，讵可复追？植林野鲫儒，岂曰先觉？常给侍长者，侧聆斯义，以为砂汞无乾坤不可得也，龙虎舍金公无自入也。或陈梗概，以备错误焉。歌曰：

仙人拍手雪成团，黄花欲入紫河难，子母一时流作水，变化还同九转丹。

## 卷七十一 金丹部九

### 太清丹经要诀（并序）

余历观远古方书，金云：身生羽翼、飞行轻举者，莫不皆因服丹。每咏言斯事，未尝不切慕于心。但恨神道悬邈，云迹疏绝，徒望青天，莫知升举。始验还丹伏火之术，玉醴金液之方，淡乎难窥，杳焉靡测，自非阴德，何能感之？是以五灵三使之药，九光七曜之丹，如此之方，其道差近。此来握 亢，久而弥笃。虽艰远而必造，纵小道而亦求。不惮始终之劳，诘辞朝夕之倦？研究不已，冀有异闻。良以天道无私，亲听因之而启。不违其愿，不夺其志，报施功效，其何速欤！岂自衒其所能，趋利世间之意？意在救疾济危也。所以撰二三丹诀，亲经试炼，毫末之间，一无差失，并具言述，按而行之，悉皆成就。然人之志，所重者性命，其危春露，其脆秋霜，俯仰之间，相顾如失。荣华贫贱，诚为不住之容；忧悲娱乐，并是难留之事。以此而言，深可叹矣！

余比读诸方，故亦不少，观其梗概，例多隐秘。味之者，翻增其惑，说之者，返益其迷。遂使修炼之流，不见成功之处，岂其古人妄说耶？抑由学道之辈，自不能考其旨趣也。余所陈方意，于文记间，如视掌中，一试披寻，莫不洞照。相知之士，

通鉴名人，有所不同，心之取证，故列为三篇耳。处士孙思邈撰。

### 诸丹目录三品

初陈神仙大丹异名三十四种：

太一玉粉丹、太一召魂丹、返魂丹、更生丹、全生归命丹、四神丹、太一神精丹、神变丹、神液丹、假使通神丹、五灵丹、升霞丹、灵化丹、三使丹、捧香丹、太一丹、使者丹、奔云丹、控鹤丹、八石丹、丽日丹、素月丹、度厄丹、持节丹、绛色紫游丹、雄黄赤丹、赤雪流珠丹、红景丹、赤曜丹、重辉丹、红紫相间丹、艮雪丹、月流光丹、水银素霜丹。

右所陈诸小丹法等，虽时所称用，然其丹异名，未必各知之，所以今并列之。

次陈神仙出世大丹异名十三种：

黄帝九鼎丹、九转丹、大还丹、小还丹、九成丹、素子仙童丹、九变丹、太仙霞丹、太和龙胎丹、张大夫灵飞丹、升仙丹、神龙丹、马仙人白日升天丹。

右诸大丹等，非世人所能知之。今复标题其名，记斯篇目，而终始不可速值也。是以前营构方法，并不陈附此有好事者，但知其大略也。

次陈非世所用诸丹等名有二十种：

八景丹、金华丹、玉味消灾丹、神光散馥丹、凝霜积雪丹、奔星住月丹、堕月惊心丹、金液玉华丹、茅君白雪丹、白雪赤雪丹、红绛垂璧丹、七星辟恶丹、七曜灵真丹、流石鲜翠丹、金辉吐曜丹、太清五色丹、北帝玄珠丹、感灵降真丹、群鬼升云丹、太白精丹。

右按其方，服之神仙。既药物难具，营作非易，所以但列其名，不复陈其法式。若好事者，宜以广知其名也。

### 造六一泥法

凡飞金转石，唯以六一为要。自远代诸贤，销炼之流，莫不咸蔽其事。大都相传法者，皆用矾石、赤石脂、左顾牡蛎、矾石、滑石、戎盐、卤咸等，或妄用蚯蚓粪者，以此等药并亦具炼作之方。其方法又各各不同，作之例皆不能精了。古来名方要术，无不备经试炼，就此之中，未有不尽其理，不见一事近仿佛者。余常为之发愤兴叹，不能已矣！自谓古人隐秘斯术，且诳将来学者。又按古方，并用矾石用黄土泥，烧之经夕，即自然成其细粉。余遂依法烧之，经两三日，竟不觉有异。谨因闲暇，更依古方烧炼，可经十日已来，以指微捻，乃成烂粉，光润可爱，亦细腻希奇。更取新矾石烧之，二十余日到，加乾石，全不一种。始知一切方法，不可率尔轻试之，不依古法，即云无验，如此者触目皆是。又矾有种类不同，所出之处各异。并州与嵩岳出者为良，自外者不堪入用。

### 炼矾石法

凡炼矾石器，以黄土作之，其状似竹管，可长五六寸，阔三四寸。以矾二三分，其口已上，瓦作盖盖之。矾石内筒讫，别以细沙并黄土等分为泥，泥筒周遍，可厚一二分许，缓火炙之，令干。又更泥，泥又更炙，炙令干热，然后入炉烧之。但使将息伺候得所，必万无一失。



## 造烧矾石炉法

其炉垒高二尺，明阔一尺，其下四面各开一小门子，拟牵风击火也。又时时去积灰。一头别一个铁釜，大小与药筒相称，高可三四寸许。即以铁釜置炉中，筒于釜上，以炭烧之七日明，使昼夜火气不绝，恰好，更不劳多。日满取之，研极细。别以赤石脂粗捣筛，相和为泥作饼子，可厚半寸，阔四寸，曝之令干。内于矾石炉中烧之一日，更细捣筛，极细研之，别入生赤石脂细捣筛讫，与成炼者等分相和。和讫，又以矾石及赤石脂二分和之为泥，稀稠得所，搅之令极熟，用之，泥釜固济。一泥以后，即一手取药，更不得重看，其药气永不畏失。先余用之多遍，唯觉善，莫能加焉。

矾石宜取敦煌者，轻手捣之，以马尾萝下筛之，讫，置铁铛中，以猛火熬令汁尽，又捣筛令细。每计赤石脂与矾石二分相和讫，计所和之粉五两，内可加戎盐一两，卤咸二两，合和亦无妨，不著亦得。凡作六一泥者，只为固济，欲使牢固。今只二种药为泥，又加一二种亦损者，何烦多种？其六一之名，乃是古人隐秘之语，其六上加一，便是为七，以七种药为泥，故云六一也。世人不识，不知何以名之六一也。滑石所出处，其石本出东华州，今人不究其根本，乃用昆仑所出者为六一泥，所谓图北向南，于理殊非所允。又其石性有数种，硬者细细捣之，筛研令熟用之益佳。

## 左顾牡蛎法

左顾牡蛎者，意本取其细腻。比试向经二三度，亦经火炼而用者，亦经不炼而用者，皆无意。即知此一味乃是无用之物，

若更有别法，用之为佳者，非余所知也。

### 戎盐法

戎盐本方亦不言出处，既不知所出，即知出戎盐之地，亦不知用何者为良？见人皆云识之，实不能知孰是南人所出？以南土无有此盐，故关中所出者为是。余复陈此愚见，亦不知是否识者，宜详而用之。虽贵之有能，然用势亦相似，好事君子知之焉。

### 卤咸法

此物本出同州东北隅，去城可七八里，生陂泽中，其状似河中细颗盐，其味苦而不咸，本方亦不言出处。人用平泽中地有咸炆之处，因辨其土白嫩之色者为是。今推其所由，于理又全乖错，用之无验，特为于此。同州所出者，若入六一泥用，极理粘好。今但矾石、赤石脂、矾石等，并依所陈之法细用之，则不复须此药矣，诸好事者，于此更勿犹豫也。本方亦云用蚯蚓粪为泥，亦曾用之，乃与常土不异，于理殊非所宜。

凡六一泥所言诸药等，其有所用之徒，并不能精识其委曲。虽时有识者，又不闲将用之法，求炉火之妙理，亦难为具悉。今著条件六一泥者，味虽不多，用之极善。直云固本神胶，足得为上，何必要须六一也。凡按古方合炼，多不见成者。古人但恐文繁，所以不能具载其事，以此，作者遂无一法能就。非深知其本末者，则孰能照其出处乎！

### 造上下釜法

右下釜铸铁作之，深三寸，明阔八寸，底厚六分，四面各厚四分，其唇阔半寸，厚三分，平稳作之，勿令高下之也。右上釜作之高一尺，明阔八寸，厚三分许，唯飞雄黄，上高五寸以外，不平，下釜并圆作。凡欲有心试炼者，其上下釜并依样作之，大都形势更不过此法，其间上下釜但能将息用者，永无破坏之日。余自好道术已来，向二十载余，种种历试，备曾经涉，其中校殊，无所不为之者，并无成法，资财罄竭，不免至于困弊。今用此上下釜，始离其艰辛，其上下釜即须用以六一泥涂之。其泥和稀稠得所，棕刷遍涂之，日曝令干。干后，依前涂。曝干之，可三四遍，计厚三分许，必无坏时。其上釜以泥一二遍亦好，不涂亦得。今以六一泥涂上下釜者乃久，亦何必须土涂釜也，糖和乃是旧法，用既无验，虽旧何为？若有所不知，亦不简于今昔。古人贤则贤矣，然不废于此事，多不能知其理也。

### 造灶法

右其门高六寸，阔五寸，以铁为之。其坎勿令向上，宜下开之，可高三寸半许，阔二寸半。若向上开者，火则微翳，向下开之为佳也。

### 用六一泥固国际上下釜法

右留前所调和泥，用小铁匙均厚三分以来，涂讫，又缘合下釜上轻手按之，勿令过度。即以六一泥周回遍泥其际，干，即以文火细细使积渐就干。若有拆裂处，复以铁匙取泥，泥之周悉。直至药成以来，更不劳再视，此法易而且要也。

### 太一玉粉丹法

朱砂（一斤） 雄黄（一斤） 玉粉（十两）

右玉粉极硬，难捣，但以生铁臼捣之，以轻疏绢罗之再度，即得入用。磁石粉十两，其性极硬，亦依玉粉法治之，以水沉取细者用之，筛用亦得。

紫石英（五两） 白石英（五两） 银粉（五两）

空青（十两） 流良雪（一斤用银雪）

右以打作薄，以河东盐合捣研令细，绢筛下，不尽者，依前更著盐研筛，以尽为度。即以药末等和，以酃醋，微湿拌之，曝干，可十遍余上。先以白盐为籍，次布药末等，讫，又以盐覆之。即以上下釜相合，以六一泥固济，以文武火九日九夜，寒之一日一夜，开看：焕彻如寒霜素雪之状，又似钟乳垂穗之形，五色备具，无可比象。又更还取药三遍，以醋拌，如前以白盐末覆籍，一依前法布之，更无别异。如此可四五转讫，一依炼《金英丹法》炼之讫，然后将服。其势力不若金英丹，二种药并能延人寿命，愈疾。除此一小有陈丹消毒之者，并幽深难解，自非妙闲诀法，岂造次而可悟也？今所陈列，一无隐秘，冀有雅好之士，请于此无惑焉！

### 太一三使丹法

水银霜（一斤） 朱砂（十两） 石亭脂（十两） 雄黄（十两）

右朱砂等三味别捣讫，和，布置不异前法，还以银霜布诸药上，帛覆之，合上下釜，固济飞之。凡用猪负革脂者，是老母猪近脊梁边脂也。

### 造紫游丹法

朱砂雄黄曾青石亭脂（各五两）

右别捣研，水银十两别研；石胆三两，别捣筛，白石英别熬令沸，尽取三两（此别味恐是错，多是白矾，石英不沸也）；阳起石三两，别捣；石胆六两，别捣筛，取东岳者用之；矾石五两，直尔筛；生用之；朴消六两，别研筛；磁石三两，别捣筛，又朴消三两，和诸药，余三两，用覆诸药上，自外者并依前法治理，如前醋拌，令依法十遍余止，其布置飞炼日数重转，一依前，无异同也。凡承前已来飞炼诸药等精讫，皆须重转三两度，然可堪用。比见丹无验，唯觉毒害者，为转数不多，所以无验矣。但飞炼未曾重转者，如此杂石未得丹者，气盛在药中，不毒何待？然圣人设法，意在救厄难。且世中庸愚，情在名利。先不闲药理，复不究方书。或见浅方，或闻传说，因即孟浪顽心，自谓更无比类。复有无知之辈，视听未弘，疾疹既缠，岂与力惜未之于彼！又偃仰风神，旨在得物，为未欲，愧于容色。余亦不欲论之于此。然性命之事非轻，但杂石稍堪服食，实为非久，请有道君子审而详之，忽有失理于毫微，幸改之从正耳。

### 造小还丹法

水银（一斤）石硫黄（四两，飞炼如朱色，依大丹法出毒了研如粉）光明砂（三两，别捣研）犀角末（四两，别捣研）麝香（二两，别研）

右五味搅和令调，以枣肉和为丸，如大麻子许，每食后一丸，去心忪，热风鬼气，邪淫虫毒，天行瘟疫，镇心，益五藏，

利关节，除胀满心痛，中恶，益颜色，明耳目。热毒风服五百丸，瘟疫服一百丸，天行饮下十丸，虫毒准上，心忪二十丸，每食后只可二三丸，不可多服，垒至如前，功能不可具载。略而言之，余依本草。

### 又法

石亭脂（四两） 水银（一斤） 铅黄华（三两） 金（一两，成薄者）

右水银、金、铅黄等，加功细研，取大铁瓶莹磨之末。硫黄三两，先布瓶下为籍，次下前三味，讫，又布。余一两硫黄末为覆，次下盖。都毕，以六一泥固济，火先文后武，七日七夜止。又寒半日开之，其中尽化为丹，焕然晖赫，光曜眼目。准此丹一两，用牛黄、麝香各半钱，重于洪州土钵中，以玉锤研之极细，用枣穰丸如梧子。每日食后，枣裹之食三丸，治风颠病，失心鬼魅魍魉等，久服凝骨髓，益血脉，润肌肤，出颜色，安魂魄，通神仙也。

### 造艮雪丹法

汞一斤，以炼成十三两锡，破以次计之，即时合者八两汞、六两半锡，其中杂药，谨录如左：吴白矾六两，于铛中熔，以火熬沸，尽使干讫，即捣筛为末。用此炼白矾，今时炼六两秤得五两，黄矾四两为末。于铛中熬使干，更捣筛为末。太阴玄精二两，捣筛为末。朴消二两，捣碎熬使水气尽为末。伏龙肝四两为末，取一两和盐及诸药。增盐六两，捣筛为末，于铛中熬取干。初炼锡三遍讫，更熔，投好醋中杀锡毒，更于铛中熔

讠，以水银投锡中，以铁杖搅使相和置薄，掘地作浅坑子，以一张纸籍下，取写勿流于地上，纸上留者，水银和银是也。仍以好醋喷之使湿，即急盖其上，次熬盐使干讠，取黄矾、白矾、伏龙肝二两总和捣，勿留于臼中，捣之为末，以鹿筛度之，入少许醋拌，勿使湿；取二两伏龙肝籍釜下，铁匙按之，使平实；次以盐燥末二匙，按使平实；次朴消，还以匙拨使平实。即内药，但平拨，不须实，以匙多少抵使平整。即以盆子覆上，固济使密，著火三日两夜，开药收取。如恐不尽，所有恶者并铛中药滓，总和于一小盆中，取少醋喷之，使才润，细研之讠，以一匙内底，盖盐，依初飞法固济讠，著火两日一夜，即开看，所有水银并皆尽矣，取药即休。此药主镇心安藏，除邪瘴恶气、瘞忤、风癫风病等疾。飞药三两转已后，可研令极细，以枣穰和为丸，丸如麻子大，每日服四丸。若不觉有异者，渐加至六七丸。每旦服之，不过三二丸。其药性微冷，若先患冷疾，不宜服之。治传尸、疟瘵、疔时气，一切热病，入口立愈，神效。若用入面脂，治𧈧<黑曾>。太阴玄精出河东解县界，盐池中，水采之，其色理如玉质无异，其形似龟甲，以殊黑重者不堪，黄明者上也。

### 造赤雪流朱丹法

右雄黄一斤捣，轻纱筛讠，以苦酒拌和之，令浥浥，日干，干更拌，如此十遍止。与白盐末拌和，以盐覆籍，固济，一日一夜后，以微火炙六一泥，令极干。渐加火，勿须猛，更一日一夜。即加猛火，令其下釜旦暮常须与火同色，不得暂时令火微弱，如此烧三日三夜止。寒之一复时，开取上釜药精，更微研之。下釜余滓亦捣，以药精相和，饭拌令浥浥。依前布置，

文武火一如前法烧之。药成，焕然晖赫，并作垂珠色丝之状，又似结纲张罗之势，光彩鲜明，耀人目睛，见之者不觉心神惊骇，惟宜安心。若有卒暴之病，及垂死欲气绝，及已绝者，以药细研之，可三四麻子大，直尔鸡子黄许酒灌之，令药入口，即扶起头，少时即差。其口禁不受药者，可斡上齿而灌之，令药入口，以手按之下腹，及摇动之，使其药气流散，须臾即苏。治其鬼邪之病，小小疟疾，入口即愈。此药神验，不可具说，但恨造次，无人解炼用之。

#### 炼太阳粉法

石亭脂（十斤） 盐花（五升） 伏龙肝（二斤）  
左味（三斗）

右石亭脂破如豆大，用盐花和左味煮之七日七夜，其脂以布袋盛之，悬勿令著铁，煮毒性尽出，研，和前伏龙肝令均入内釜中。先布盐花，安亭脂尽，上还将白盐为盖了，固济之，三日三夜文武火，依前法锻讫，寒之半日开。谨案《本草》云：石亭脂味酸，温有毒，主治妇人阴蚀、疽痔恶血，坚筋骨，治头秃、心腹积聚邪气、冷癖在胁、呕逆上气、脚冷痿弱无力，及鼻衄、恶疮，兼下部漏疮，止血杀疥虫，治脚气。男子阳痿、阳道衰弱，妇人体冷血气、腹内雷鸣，但是患冷，诸药不能疗者，服之不过三五日愈。服之法，令研粉令极细，以饭和为丸，丸如梧桐子大，每日空腹服五六丸，酒送之，若兼余草药为丸，服之益佳也。

#### 造金丹法



黄金（八两，错碎为末）水银（八两，以前金末水银搅一宿，化为泥）雄黄（一斤）雌黄（一斤）

右以前雄雌二味细研，如粉，乃和之，皆于六一土釜中密固济，炭火九日九夜煅之，寒二日，刮取飞精。先别作筒，用淳左味铅钗丹作泥，涂筒里，令极干。又以左味飞精如软泥内筒中，坚之。以铜盖覆上，六一固济。作铁钩悬筒，令底去地二三寸，马通火温之，常令筒底微絜六七十日。寒之，发取药赤如丹，即成也。更研治，以枣穰和丸如小豆大，旦以井花水向日服一丸，七日玉女来侍，二百日行厨至，三百日寿与天地齐。此方似金液而小异，若马通难得，用糠火亦得也。

#### 造铅丹法（治一节热及鬼气、癰痼病及疟疾）

铅四斤（炼熟使）水银一斤（盐研令净）

右取黍谷二斗蒸之，令破蒸熟，以醋浆水投谷中，密盖五六日，令为醋。次用车轍中土，筛安拌中，搅和似煎饼面。取铅销之，投泥中拌半。即于好铛中，更洋铅令销，暖汞投一斤铅中，待泻凝，以绳子系之，悬于铛中二七日，其精自下醋中。收淘洗令净，和朴消、消石各一两，如飞丹法三遍，飞之，每转三日。收取精，以饭和为丸，丸如麻子大。每有诸热病者，皆治之。

#### 炼紫精丹法

水银（一斤）石亭脂（半斤）

已上二味入瓶固济，用黄土纸筋为泥，泥瓶子身三遍，可厚一大寸已。上用瓷盏合瓶子口，以六一泥固济之，可厚半寸。

用火三日三夜，一日一夜半文，一日一夜半武。日满出药，打碎，取新青竹筒盛，和醋于筒中，又于大釜中重汤煮之三日夜，常令鱼目沸，日满，以冷水淘去醋味，曝干一日，还内筒中，以清水和朴消，如前煮一复时，出药、净淘，曝干，捣为末极细，用枣穰和少麝香丸之。欲丸时，和少酥及用涂手，不然即著手。丸如梧桐子大，每日食上服之五丸，去诸风疾，明目补心。二斤已上变白，功力既多，卒难陈述。忌与《流珠方》同，亦用麝香一钱秤之。流珠方在后。

#### 造流珠丹法

硫黄一斤，铛中以小麻油煮之，取黑为度；即用灰汁煮之，去油讫，即研盐，于铛中伏之，用六一泥固济铛口，以文火经一日两夜，又用武火渐加，以铛赤为度。去火，待寒出药，清水淘去盐味，取酒七升，蜜半升，亦云一升蜜，一如《紫精丹》法煮之，三日三夜。出药，清水淘去酒味，曝干捣筛，以枣穰丸之，更捣五六千杵，至万尤佳。丸如梧桐子大。空心服，每日三十丸，觉热即减至十五丸，长年服者，每日只可五丸。所有冷风等病，无不愈者（忌蒜米醋）。

#### 七返丹砂法

汞一大斤，安瓷瓶子中，瓷碗合之，用六一泥固济讫，以文火渐烧，数至六七日，即武火一日成。如此七转，堪服。其火每转须减损之，如不减，恐药不佳也。

#### 造玉泉眼药方

右取水精二两末之，乳半合和，瓷瓶中盛之，蜜固济，勿泄气。埋地下百日，出之，置一灶孔，熏之一日。开之，青白如玉。取铅锡成炼者二斤熔之，以此药丸如梧桐子大，投中搅之，为真白矣。若眼不见物及赤，但不损睛，取一丸如黍米大点目眦，尤良。

### 太山张和煮石法

章柳根（六斤）杏仁（五升）酸枣仁（五升）槐子（一升，别捣）

右三味先捣，槐子以水搅之，去滓取汁，和前药，内不津器中，埋舍北阴地，入土一尺，以土覆之，百日发取，名曰太一神水。取河中青白石，如桃李大者五升，取北流水九升，煮之一沸，以神水二合搅之，又煮一沸。候石熟，任意食。食之五日后，万病愈，一年寿命延永，久服白日升天矣！取神水二升，渍生铁二斤，十日化为白银矣！

### 添离用兑法（凡四法）

离（一两）兑（半两）

石以坩埚之，先下离，次下兑，取柳木搅令均；次下黄矾一分，准前搅之，令均泻出成锭。取黄土和左味作坩，干之，即取黄矾硃砂，胡同律各一两，赤土一升和左味为泥裹之，内中三四，固之令密，火之十余遍，以毡拭令黑气尽为度。如难尽，取赤盐和左味为泥裹之，乱发缠之，入火烧之，其赤盐作声、如是更为数遍，以黑尽为限。然取硃砂作浆，牛粪火烧之佳也。

又法

离（一两） 兑（七钱） 熟铜（一钱）

右合洋成锭，待冷，又入火烧之，令极热。投马通中冷，将锤锤之，入火烧之，又锤，令离锭薄如纸。剪破如指大，取黄矾一升末之，同律三分，硃砂二分捣为末，取黄土为泥作埚子、埚子盖之讫，布离叶于中，以前药重重裹之，密固埚口，于牛粪火中烧之一日一夜，常令埚赤，以好为度矣。

又法

离兑对作，波斯盐、绿赤土、胡同律、硃砂等分，以左味为泥裹之，厚三分，猛火火之，如此五十遍已上。即以金牙一两末之，以浆水三升煮之，从旦至暮时，以布裹离，横木悬之，勿使着器，任用之。

又法

硃砂（一两）紫钿（一两）石胆（一分）胡同律（一两）

右以猪脂一为泥椽埚底，煇离出之，如朱而光，煇了为薄锭，以赤土十两末之，风化灰三两、硃砂三两、赤盐五两、赤石脂五两、石盐三两，右已上药必须精治之，以左味和为泥，可离锭大小布纸上，厚一二分，裹三锭寸，煇火之，以赤烟尽为度。开之，以左味洗之，准前裹火之，以浆洗之三十遍，即表里赤光，为梵天宝也。

伏汞要法

夫汞遇火则飞，不能使住。凡所为者，盖亦多矣。若非物制伏，不可为之。今以药伏之，万不失一。

乌头赤石脂石盐白盐胡椒雄黄荜拨黄矾石黄硃砂黑盐

右捣为末，以左味和为泥，团作锅形，以汞置中，巾裹之，以横木穿之，入釜煮以左味，三日夜出之，入霜钵中；还以左味和乌头、硃砂、云母等分研之，七日三易药，洗之。以油盐硃砂少许，入釜中煮之一日夜，任用也。

#### 素真用锡去晕法

右以取白不限多少，打令薄厚似纸，方二寸，十斤已上始可为之，多则热气相蒸，少则不堪。取一瓷器，可物多少令满，从下布之一重蒜韭，如此重重相次，令满，器口大小盖之，漆固令密，埋地中。经百日出，即成，不得欠一日。其马桶屋下安置，日满出之。熔一斤和上鎗一两，若软加鎗，坚加白。其蒜取赤皮者佳，左味取三年者然可用，著少盐一如食法。

#### 素真用兑添白铜法

白铜（一斤） 锡（一两）

右令烊之泻酒中，出之打破，取伏汞一两、胡同律二两、油脂一升，煮令脂尽，胡粉色赤，即伏火。即以前兑体熔之投水中，取白黑二矾、胡同律、硃砂、白盐各二两合洋之，泻安铤池中，成矣。若脆不任用，即火之令赤，投牛脂中，十遍即柔矣。

#### 赤铜去晕法

右取熟铜打作叶，长三寸，阔三寸，取牛皮胶煮之如粥，以铜叶内中，以盐封之，内炉中火之，令烟尽极赤出，冷之，于砧上打之，黑皮自落，如此十遍已上止。即以醋浆水煮令极沸，烧叶赤，内浆中，出之，以刷刷之，于锅中烱之，泻灰汁中，散为珠子，其色黄白，至十遍止。不须更泻成。兑凡十两，可得三两成，入梅浆洗之，令白也。

#### 波斯用苦楝子添鍮法

乌梅（一石） 苦楝子（一石） 硃砂（一斤） 波斯鍮（二斤）

雀粪（一升） 贺州鑑（一斤） 兑（五两）

右取苦楝子二升，熟酒研之，新醋二升，雀粪半升研之，盐一合，相和令调，取桑木作槽，长八寸，阔三寸，深七寸。置前药于槽中，熔波斯鍮一斤，下少硃砂，熟搅之。候清，泻槽中药汁里，冷出之，用毡揩洗令净，炙令干，明时用之，搅药忌铁物也。如此十遍，烱泻药槽中佳也。白兑十两，波斯鍮四两、炼锡一两，须先熔兑，次下波斯鍮，次下锡，下硃砂，搅之，泻为錠甚妙。如脆，入牛脂中，煮柔之，色不明，以梅浆洗之。

#### 素真用鍮要法

成炼波斯鍮（二两） 兑（二两） 硃砂（三豆许） 大盐（三指撮）

右置锅中相和，熔之成，熔少时，又火之令赤，泻著盐水中，如此四五遍止。即以梅浆洗之六七遍，以白为度。入梅浆

先烧令赤，然后投浆中，其浆亦瓷器中火之令热。

素真用雄黄要法（此法内雌黄似合入近后伏二黄法内）。

雄黄（一两） 雌黄（一两）

右置猪脂中，煮之三百沸，即取热铜十两、兑三两令烺，搅之，取黑矾末投中佳也。

素真用铁法

右取生铁捣碎、筛、细研，十两。打锡为薄，如杯形裹上末。用攪木为灰，熟研之令光。然后入锡杯了，重入甘锅中，入风炉内火之，候铁欲动不动即取，勿令绝碎。纸裹著炉中铁上，其铁即沸，看锡凝定，即安兑添之沸，其兑以铁上如不相入，即更下勿郎藤，其兑铁即和。即以铁焊研兑下，掠却不浮，看兑不动，即下炉中热灰覆上。良久，还将钾块余热气，以竹筋点水沃兑上，三两遍止，任意用之。勿郎藤，其茎大如指，其子亦堪食，稍饴少许，生在山中，或生平地，缠草而生，茎上有刺，刺相对生，叶如边雁，齿大如指，叶叶相对。取时勿惊动，仍取其根，必须阴干，勿令日干，七月八月，子熟赤色。其铁取犁头铁，白色佳，余并不堪用。

伏雄雌二黄用锡法（据法合有雌黄，今元本内阙）

雄黄十两（未之）锡（三两）

铛中合熔，出之入皮袋中，揉使碎，入甘锅中火之。其甘锅中安药了，以盖合之密固，入风炉吹之，令锅同火色。寒之，

开其色似金，堪入伏火用之，佳也。二物准数别行。

### 造硃砂浆池法

硃砂（五两）乌梅（半升碎）左味（一升）  
右以土釜中煎之，五分减二，堪用。

### 造梅浆法

梅（二升，去仁碎之）  
右以水一升、盐半升，土釜煮之，烧令赤洗之。

### 炼丹合杀鬼丸法

朱砂雄黄雌黄黎芦鬼比目桃仁乌头附子半夏石硫黄巴豆犀  
角鬼臼麝香白赤术鬼箭蜈蚣野葛牛黄

右各二分，捣筛为末，以兰草汁合为丸，丸如鸡子大。烧  
一丸，百鬼皆卒。抱朴子用此药飞三奇丹也。

### 炼矾石伏汞法

并州矾石十斤，捣为末，以瓜州矾和左味拌之三十遍，入  
釜飞之。每二十一日一开，更加生矾石三分之一，还拌生者飞  
之。生者性利，相接即止。三十日已上者，蝼蚁之状，光明可  
爱，百日弥佳。右取帛裹之，内筒中蒸三日夜，末之。一两粉



制汞一斤，若令赤，左味煮之，令干，色紫赤止。釜中不上，准法烧之，以赤瑾上团之，入风炉火之，百日，风化为灰。准矾石三斤，用脂一斤，铁器中炒之，以脂尽为度。汞十斤、矾石、铁器猛火火之，搅令烟入即成。然后土团前汞，密封，内釜中，火之九日夜止，任用之。能先以脂熬，后入锅中火之一百日，弥胜。取铛中熬之，加矾石末一度，如锡，再度如石。

### 造白玉法

右取大蛤蒲捣为末，细研之，取一斤内竹筒中，复内消石，密固之，内左味中，二十日成水后，取白石英半斤捣作末，投筒中，即凝。出之，好炭火火之，令赤，即成白玉，亦服饵之也。

### 造真珠法（二首）

右取光明蚌壳削去上皮，以醋中煮之令熟，出，细条之，丸作珠大小，任意取鲤，破腹开，内珠置中，还随令合，蒸之令极熟，出珠。未蒸前钻孔，以猪毛穿中。又取云母，以白羊乳煮之数沸，出令温，以珠著中渍之，经宿然后洗令净，成矣。

### 又法

以鳔胶和蚌屑作珠，随意大小，钻孔，近草火后炙令干。以两砖支一罍，置珠瓦上，复以一瓦盖上，泥砖四边作灶形，以草火烧之令赤。出之，取蚌屑盛筒中四个口，内于瓷器，以左味浸之十日，即色变珠成。

造石碌法

铜青（一斤） 石黛（半斤） 雌黄（五两） 柏汁（一斤）

右和合，日干，入尽，用之精妙也。

造石黛法

苏方木（半斤，细碎之）

右以水二斗煮取八升，又石灰二分著中，觉之令稠，煮令汁尽出讫。蓝汁浸之，五日成用。

## 卷七十二 金丹部十

### 大还丹契秘图（并序）

叙曰：大还丹者，乃日之魂，月之魄，二曜精气之所致也。本乎南方火位，袭化北方壬癸之中，历涉五行，包含五彩，功齐天地，难可备书。混沌为先，象其元气，分判清浊，以神为助，八卦相配，日月光曜，合成大丹。所论火候，以朔望为据，言药物，则铅汞为先。炉鼎华池，真人定位，神仙证赞，类成十二章，以象十二月，用晓求真之士，将传志道之人耳。

#### 混沌华池第一

夫华池者，玄元始初之气，造化天地之象，三一之数，雄雌而未分，清浊浮沉不定，处乎潜龙之位，故君子守道候时。得之者，分析有无，超凡入圣。经云：知白守黑，神明自来。是知玄为万物母，圣人秘之，不形文字，口口相传，知其诀者为仙耳。

#### 白金黄牙第二

言白金黄牙者，非金、银、铜、铁，铅、锡、水、银，朱砂、五金，入石铅铅之类。是乾坤媾精，太玄流液，感气而成。且如人之有身，皆因父母传气而生，非肉所化。至药亦然，坎男离女，情性相依，结气而成，白金黄牙，为天地之先。经云：有名万物母。时象“九二见龙在田”，如修得之者，即仙道，俯拾而取之，益人颜色，坚固骨髓。如人食玉，如玉之润，此之是也。

### 五行第三

夫五行者，水生木、水银也，非世间水银；木生火、朱砂也，非世间朱砂；火生土、神气化生，非世间土；土生金、白金也，非世间金；金生水、黑水也，非世间水。金伐木，水克火，土王四季。终始相因，五行相生相克，共成至药。若取外金木水火土，何得圣人偏赞，三五与一之功，故知迷者素丝可悲，歧路可泣，无师执文，万无一得。求真之士，可不免力精修勤志乎。

### 四象第四

夫四象者，乃青龙、白虎、朱雀、玄武也。

（卷内除已注说外，余并取宜装）

青龙者，东方甲乙木，水银也。澄之不清，搅之不浊，近不可取，远不可舍，潜藏变化无尽，故言龙也。

白虎者，西方庚辛金，白金也。得真一之位，经云：“子若得一万事毕。”淑女之异名，五行感化，至精之所致也。其伏不动，故称之为虎也。

朱雀者，南方丙丁火，朱砂也。剖液成龙，结气成鸟，其气腾而为天，其质降而为地，所以为大丹之本也。见火即飞，故得朱雀之称也。

玄武者，北方壬癸水，黑汞也。能柔能刚，经云：上善若水，非铅非锡，非众石之类，水乃河车神水，生乎天地之先，至药不可暂舍。能养育万物，故称玄武也。

如志士烧炼丹鼎，知此四象者，十方天人莫不瞻奉。古经云“四神之丹”，此是也。

#### 明铅汞真伪第五

夫言铅汞者，离流液为汞，坎结白为铅。世人以黑铅铈铅，夹生银蜜、陀僧、銜铅、铅黄花、黄丹等为铅，此大谬也。且铅中有金，金中有还丹，是知黑水中生白金，白金变黄金，黄金变紫金，紫金含五色，名曰大还丹，岂不明乎？何得更将水银、汞，以成质之物为铅。经云：鸣鹤在阴，其子和之。

又云：虎啸龙吟，物类相感，岂谬言哉？且汞为情，铅为性，情性相合，曰常道。道曰自然，诚非外物也。幸愿精思其理，天不遗于志愿也。

歌曰：

鼎鼎不用鼎，药药元无药。用铅不用铅，意向铅中作。贤者审思之，用铅依前错。

#### 日月第六

天日月者，天地之至精也，药中即以坎男为月，离女为日。日中有鸟属阴，月中有蟾属阳。白金产于河车中，即阴中有阳，水银生于朱砂中，即阳中有阴。此二者，圣人相传，贤人相授，宝诀具明，非凡常术士所能窥也。

如知日月在乎手，造化万灵事无难也。访神仙，瞻日月之精，为长生之道，实可重矣。

### 明药色第七

得此白金服者，可为地仙。

得此黄金服者，为中仙。得此紫金服者，为上仙。

夫药之权舆者，玄水生白金，白金变黄金，黄金变紫金，紫金含五色，名曰大还丹。

又古歌曰：一物有五彩，永作仙人禄。按今之修药，但以匱盛，用火养之，永无变化，兼不伏火，饵之，便随大肠而出，返丧天年，实可悲哉！终不可得之也。但在精之审之，神仙必无所误，义理晓然，即人粗心不细，详得此意，与阴丹合义，理即不同，互有修制。唯可久而披寻，方可见真也。

（外青中黄心白色）

大还丹之象

大哉无粗不包，无细不通。若悬象于天，则十方天人莫不瞻奉；若悬象于地，则冤魂得离涂炭；若悬象于身，则身神并为飞仙。

排云、控鹤、寿杖，杀活自由。铸镜杀一切魑魅，十方神仙，以此为无价珠，乃如意神珠也。无可无不可，勉力修之。

## 九还七返第八

夫九还七返者，大而论之一年，小而论之一日。只如北斗一日一夜，一周天。天降地腾，生化万物，从寅至申为七返，子至坤为九还，此则不曰还丹。大还丹须得三千六百年，气候亦如是，以小而明大。只如一日有十二时，六时阳，六时阴，阳象春夏，阴象秋冬。若然者，一时象一月，一月有三十日，三十日有三百六十时，亦象一年；即一日十二时，象十二年；三百六十日，象三千六百年。还丹之功毕。人以十月成身，丹以十月脱胎，人道相通，超凡入圣，岂不了然乎！

## 择友第九

君无友丧国，臣无友失忠，庶人无友丧家，道无友失真。所以玄元与尹喜宿契，孔子与渔父合机，马明生与阴君暗合，青牛与惠远而会同，岂非良友者乎？且今之求道，上至王侯，下及庶民，万无一得者，何？皆由不择其友也。夫至药由心所感，志士应感而归者，表天道无所不烛。时机未精，多生疑虑，又失前功，为灵官之所呻。何以然奈何王侯心希早成，情无专志，返疑术人，转托所使监守，致今凡眼所窥，而拟成至药。若然者，即率土可为仙耳。

又古经传授至药，先须清斋七日，立置坛宇，烧名香，挂十方缯彩，用黄金百两，以为心信，投简破券，向天设盟，方可传授。若不然者，获贼天机之罪，殃及九玄七祖，身被天、地、水三官所诛，岂合轻师丧得；自从胸襟造次而窥真圣至药者哉！夫人臣得遇此图，兼曾受口诀者，隐而不献君父，信为

老耄，是为不忠之臣，不孝之子矣。

### 金鼎第十

夫言金鼎者，上应天，下应地，中应人民。天平地正，人民昌泰，天歌地盈，万物丧害。故《易》云：“先天而天弗违，后先而奉天时。”可明矣。世人所修，多用黄金、白银、铜铁、铅锡之类为鼎，此即大谬矣。又于诸色鼎内用盐，或磁石锡粉，或枯铅，或黄花、曾青、石胆之类为匮焉。巧言云：天中复有天，人饰词也。此圣人又何谬？若然者，黄帝不合铸鼎于荆山，其鼎高下、尺寸，锱铢、厚薄，十病如后。

鼎法：高一尺二寸，重七十二两。其数有九：内围一尺五寸，当有放脚，下去地二寸半，底厚二寸，身厚一寸半，深六寸，内受三升半，盖厚一寸，耳高一寸半。鼎有十病：一忌秋夏，铁不精好，铸不及时；二不悬胎铸；三肚大；四脚短曲；五口大耳小；六上下厚薄不匀；七沙窍漏气，八不润滑；九不依尺寸；十铁皱。有此十病，并不宜用。

### 造炉第十一

夫炉者，是鼎之城郭，如无城郭，为邪气所侵。高象蓬壶，横象五岳。坛有三层，炉有八门，十二支月随斗建，厚薄尺寸，高下，一一自有图样，莫不开露圣意者乎。

高四尺，厚六寸，内围三尺五寸，华池炉象此炉也



太一炉于坛上，高二尺，厚六寸，内围三尺五寸，门高二寸，阔半寸，十二支周回一寸，阔坛随便宜。又华池炉高四尺，厚六寸，八门，周回二寸。坛随便宜，余象图也。

### 火候第十二

凡一斤药有十六两，每两有二十四铢；一斤有三百八十四铢；《易》有六十四卦，每卦六爻，六十四卦有三百八十四爻；一年有三百六十日，有二十四气。每月合一两一铢半。一麟阴阳之气候，从冬至建子日辰起火，此年日月大小数，至阳生合得多少两分铢，分毫如爻，动时开闭，门户相应，月随斗建，生杀有时，不逾月例之如后。若仙如线贯珠，明者省悟矣。

#### （十一月复卦一阳爻）

开警门，应杜门，斗建子，支应午。其一日冬阳生一两一铢半，其年三百六十日。此一月终，阳气合得三十二两，初九，龙潜也。“候时而行，确乎其不可拔也。”小数三日。（三日出为夹，见西南得朋）

#### （十二月临卦二阳爻）

开伤门，应塞门，斗建丑，支应未。其月终，阳气六十四两，时象九二，“见龙在田，君德也。”小数六日。

#### （正月泰卦三阳爻）

开开门，应生门，斗建寅，支应申。其月终，阳气九十六两，时象九三。“君子进德，可存义。”其小数九日。

（二月大壮卦四阳爻）

开休门，应杀门，斗建卯，支应酉。其月终，阳气一百一十八两，时象九四，“或跃在渊，欲及时也。”药中水银，上下无定，小数十二日。（八月上弦平如绳）

（三月夬卦五阳爻）

开休门，应杀门，斗建辰，支应戌。其月终，阳气一百六十两，时象九五，“飞龙在天，得其志也。”药积阳为天，小数十五日。（十五日望）

（四月乾卦六阳爻）

开伤门，应塞门，斗建巳，支应亥。其月终，得阳气一百六十二两，时象上九，“亢龙有悔。”此时药火盛，须密防护，其日积在前月耳。（十六月缺）

（五月姤卦一阴爻）

开开门，应生门，斗建午，支应子。其月一日阴生一两一铢半一鹏，阳减亦然。至月终，阴生三十二两，时象初六，“履霜坚冰，系于金柅”。明药金花凝也。小数十八日。

（六月遯卦二阴爻）

开休门，应杀门，斗建未，支应丑，其月终，阴生六十四两，时象六二，“直方大明”。药至此欲成白金，地道光也。小数二十一日。

（七月否卦三阴爻）

开开门，应生门，斗建申，支应寅。其月终，阴生九十六两，时象六三，“含章可贞，智光大也。”药不动，如山岳。小数二十四日。（下弦不动如山岳）

（八月观卦四阴爻）

开伤门，应塞门，斗建酉，支应卯。其月终，阴生一百二十八两，时象六四，“括囊无咎。”药至此，否泰未定，须劳心力，未相形即慎之，吉也。小数二十七日。

（九月剥卦五阴爻）

开开门，应生门，斗建戌，支应辰。其月终，阴生一百六十两，时象六五，“黄裳元吉。”此药物文而自美，亨之极也。小数三十日，后日月亦寄此也。

（十月坤卦六阴爻）

开休门，应杀门，斗建亥，支应巳。时象上六，“龙战于野，其道穷也。”阴生一百九十二两，并阳之数，三百八十四两。日积在前月，至此生药周毕也。

已上从子月冬至日起火至亥月，有三百六十日，都计得一百六十四两。阴阳气候，内外两月沐浴，即三千六百年。此以小明大，大还丹之功毕。

歌曰：圣人夺得造化意，手抟日月安炉里。微微胜倒天地精，攒簇阴阳走神鬼。日魂月魄若个识，识者便是真仙子。炼之饵之千日期，身已无阴那得死。

又歌曰：

九还七返三五一，龙虎相将入神室。

灰池闭炼天地间，方知大还功已毕。

乾坤不合相违避，志士元知在天地。

十月怀胎母子分，贤者何曾更运气。

此先圣之象，莫令凡俗轻闻，恐不晓其真道之情，错毁微秘，前人暗销福寿，神仙考罚，折算夺纪，殃及九玄七祖，慎之。

又歌曰：

不须劳力别求仙，碧落云梯在眼前。

曾效鼎湖延日月，岂嗟东海变桑田。

三清末降苍梧印，五帝惊书火候篇。

深属瑶台珠珮客，还丹莫妄与人传。

（死惊开景 八门 休杜伤生）

## 真元妙道修丹历验抄 草衣洞真子凝述

夫至道真旨，以凝性炼形，长生为上。所谓凝性者，心灵也。乃内观不动，湛然无为焉。虽云凝心一也，乃有二德。二德者，谓住心、空心。若凝住心，则身境与道同，形性俱超，此真得长生不死，高真妙道也；若凝空心，即性超而身沉，此得脱腔尸解之下法也。盖住心、无心，即真道自会，名虚无之身，实有之质矣。此得性遗形之妙，不得炼形之要，名为清虚善爽之鬼，故经云：“下仙者，即脱腔尸解之法”是也。凡此二说，成道之旨。若得性遗形，虽速成，然不契道旨，盖士保生者，以为毙法而不修也。凝住心神，形气俱得，得者寿延万岁，名曰仙人。又炼身成炁万年，名曰真人；又万年炼气成神，名曰神人；又炼神三千年，名曰至人；又炼至人三千年成道人，而证高真之果。此道为上品之真尔，及三万六千年，至真方具。然初学凡人，习之者如毛，成之者如角。于是无上法母为太上道君说《元精经》，令救度好生保命之人。盖古有《龙虎经》，旨天地自然。野生还丹者，案上经说，一千八十年生真金矿，真金矿一千八十年生真丹砂，真丹砂一千八十年生真水银，真水银一千八十年成还丹，为得天地阴阳五行真气，都合四千三百二十年，元精结成，出名山幽静岩石之间，自成。成时，光照千里，上真仙官降下采之。凡学者难得之。又无上元精法，母愍念修行之人，遂令以时代年，采虚无之气成真金，真金成丹砂，丹砂成水银，合三才为用，以法促促四千三百二十年阴阳元气，就十二个月感应而生成，还丹备矣。服之，便

登无上至道，白日升天。又古仙得道圣人，犹恐初学之士，一年之内，寒暑侵伤。又令将初地圣药成制凡药成灵药，生小紫河车、天生黄牙，为延驻还丹。服饵者定命长生，渐可登真，唯未有羽化之大功。此并依师口诀，及解真经之要妙不显者，今略而显之，以凡证圣，以外晓内，述易鉴难，集为图论，将俟好生君子比验。立十二图表，十二辰位，全圣功神明之道。《阴符经》云：“日月有数，大小有定，圣功生焉！神明出焉！”此之谓也。乃各证注如后。

### 三十辐共一轂图第一

经曰：三十辐共一轂。河上公曰：古者之车，三十辐共一轂，轂中有孔，故辐共辘之，法一月之数也。盖以小制大，以寡御众。《阴符经》云：日月有数，大小有定是也。经曰：当其无，有车之用。《庄子》曰：无用之用矣！一辐者，凡车亦无用也。

### 《日月要诀》三十七字法曰

一爻、三爻、五爻、七爻、九爻、十一爻、十三爻、十五爻、十七爻、二十爻、二十三爻、二十五爻、二十七爻、三十爻，周而复始，四千三百二十年，元气生此。歌曰：“时代日月应替年，周而复始道自然，十月脱胎九转满，卯（卯者玉兔之位。火木为赤日，阳符用事）酉（酉者，金鸡之位。金水为黑月，阴符用事）二意（左旋右转）对相看。三万六千神炁足，正元在内（正元者，四千三百二十年元气也）共成丹，驱除邪毒因兹尽，服之便上大罗天。

### 日火月火法曰

今法及元君、阴君、古嵩子、碧通子等行符，开落三花在上弦，花即符也。古法：开落三花在下弦。法曰：“律吕者，阴阳之位也，阳为律，阴为吕。青霞子曰：一阳生为春夏，一阴生为秋冬，阴终坤，阳终乾。子丑寅为春，卯辰巳为夏，午未申为秋，酉戌亥为冬。

凡此图者，日月火镜之妙也。若不悟此法象，即还丹远矣哉！

从外，第一晕黄、地卦炁红，第二晕白，第三晕青，第四晕浅红，第五晕白，卦炁并心并红色。

### 采真铅汞图第二

二炉并浅红色大门并红下黄色铅青  
内红下红汞青有光中青丹红馀取宜

夫铅者，玄元之泉；泉者，水之源也。人但见泉水流出于石窟之中奔腾，莫知泉源，自何而至？亦如元气生有万物成熟，莫见元气从何而来也！故《道经》云：“微妙玄通，深不可识。”夫惟不可识，故强为之容，是无状之状焉。夫天轮左旋，五星与日月右转。火铅象日；珠汞象月。月行疾，一日一夜行十二度，日行迟，一日一夜行一度。月一月一周天，日一年一周天。凡日月一年十二合成岁，生化万物，要在十二卦，周而复始，九还气足，铅汞神具，而成金丹矣。故经云：日月有迟疾，药性有燥慢，此之是也。歌曰：

迟为日，疾为月，何用多罗乱分别！真铅本是火宗精，真汞好飞含赤血。男精女血既相包，血生肉兮精产骨。全籍良媒与结婚，养成赤子方堪悦。

经云：汞者，洪元之光，万物之宗也；汞宗者，赤龙也；赤龙者，即丹砂也。非凡丹砂，乃太玄流液，二千一百六十年元气所成，号曰虚无真丹也。

### 六通图第三

六者，六候，一月之法也；通者，通十二辰，知龙虎行藏，六合六律，六吕，产见十二周之要也。

### 知阴阳六候升降诀

三日兑，越于庚，微明；八日震，坤起戏于上弦，暂停；十五日乾，健见满于田，享十六日巽，损入于辛；二十三日，艮上离，丽于丙下弦；三十日坤，顺恂陷于坎革，革者隔也。夫此日魂月魄，若交精万化，在天生万象，在地生万物，在人生万神，在药生万灵矣。要假三花力，四子共相经。欲知黄老意，秘妙在中庭。此言俱说毕，学人醒不醒。

### 阴阳交映图第四

日月交，铅汞合，故经曰：和其光，同其尘，是谓玄同。又曰：复归其明，此之谓也。

### 古今大同小异配合



崔君使天镇星呼辰星，会乾坤，立两弦，生育万物。三姓子与崔君法同。又元君亦有此法者，使此法当日，天地元气交，立道之本。本即丹田也。经曰：本立而道生。此是也。

（外青中心黄色）

诸仙君使荧惑星呼辰星两个，七十终三旬，元气始交，大同不离，辰星为元首。

#### 埏埴图第五

埏者，和也；埴者，土也。经曰：埏埴以为器，当其无，有器之用。为，和土为内外之器。内者，鼎器也，非凡用之器鼎也。乃受神汞之鼎器也。故《阴符经》曰：“爰有奇器，是生万象。八卦甲子，神机鬼藏，”此之谓也。鬼者，癸气也；无用者，乃不用之器焉。留精于鼎内成三魂，魂者龙，龙者；木精之神光也。按《元精经》云：大道君曰：太阳元精，是左正之灵，与道合并。服之身轻而长生。又曰：火能固物，坚存元气。服元精者，气质永固，神合元和，以通灵焉。元者，则真火之精也。

#### 炉郭图第六

炉郭者，外埏埴也。如人之城邑，居君民也。故阴阳万神，凭炉郭感应而立圣功，而成还丹，三极之道备矣。

鼎白炉红气，台青色，日月星纲取宜。

夫北斗随天轮，一日一夜一周，行八方，鼎转八门，同游十二神，生化万灵，二精交感，四象相生，五行相克相反，万物生矣。龙虎还丹，万灵具矣。留随于鼎内七魄，魄者，虎也；

虎者，金精金液之神也。故玄女谓太一帝君曰：金液金水，流注五脏，坚滑四肢，调养百神，润泽六腑，变易毛骨，延久生形，其力至神足矣。

### 神室图第七

#### 大九转

#### 第一品紫晨室

（黄色红缘）

经曰：“凿户牖以为室，当其无，有室之用。”服上九转丹，居上三天；服中九转丹，居中三天；服下九转丹，居下三天。盖道气神感如然矣。

#### 中九转

#### 第二品紫霞室

（红色黄缘并土字）

夫室者，非凡室也，谓三清神室也。经云：三清者，太清、上清、玉清之宫室也。谓紫微宫、紫霞宫、紫晨宫。三宫者，三丹田也。上中下三品也。三品者，小还、中还、大还。三丹立三宫，宫中各三神，三三成九，宫生三九，为大九转之室。小九转之田，中九转之宫，乃神道所居。真人出入，居游之门户，睹视之窗牖也，皆有八卦大神营卫，扶持圣道，制恶兴善之境也。

下九转  
第三品青真室  
(一曰紫微室) (青色内白)

《内景经》曰：“琼室之中八素杂。”素者本也。八者，川也；室者，青真之室也。琼霞晨微，同体异名也。夫晓之者即修生，修生者，必成真人焉。又杂者，九天之炁，合集之景也。

周易七十二候图第八

周者，三周也。三三生九周；九周者，九还也。要者，三周，日周、月周、年周。产七十二候、四时、八节、二十四气。二十四气者，旦暮一月二气，十二月法产足，即运育铅汞，成还丹之功也。

七星朱书

周易七十二候缠度诀

鹞鸟不鸣，《未济卦》，斗宿五度。  
虎始交，水山《蹇卦》，斗宿五度。  
荔挺出，山雷《颐卦》，斗宿六度。  
蚯蚓结，《中孚卦》，斗宿五度。  
麋角解，山火《贲卦》，斗宿三度。  
水泉动，地雷《复卦》。  
雁北乡，水雷《屯卦》，牛宿三度。

鹊始巢，地山《谦卦》，牛宿四度。  
野鸡始雊，火泽《睽卦》，女宿十一度半。  
鸡始乳，地风《升卦》，虚宿七度。  
鸛鸟厉疾，地泽《临卦》，虚宿三度二十五分半。  
水泽腹坚，地泽《临卦》。  
东风解冻，雷山《小过卦》，危宿六度。  
蛰虫始振，山水《蒙卦》，危宿四度。  
鱼上冰，风雷《益卦》，危宿八度。  
獭祭鱼，风山《渐卦》，室宿十二度。  
鸿雁来，地天《泰卦》，室宿五度。  
草木萌动，地天《泰》。  
桃始华，水天《需卦》，壁宿五度。  
仓庚鸣，泽雷《随卦》，壁宿五度。  
鹰化为鸠，火地《晋卦》，奎宿九度。  
乙鸟至，雷水《解卦》，奎宿八度半。  
雷乃发声，雷天《大壮卦》，娄宿二度。  
始电，雷天《大壮卦》。  
桐始华，雷地《豫卦》，娄宿十一度。  
田鼠化为鴽，天水《讼卦》，胃宿五度。  
虹始见，山风《蛊卦》，胃宿九度半。  
萍始生，泽火《革卦》，昂宿二度。  
鸣鸠拂其羽，泽天《夬卦》，昂宿九度。  
戴胜降于桑，泽天《夬卦》。  
蝼蛄鸣，火山《旅卦》，毕宿十一度。  
蚯蚓出，地水《师卦》，毕宿五度。  
王瓜生，水地《比卦》，觜宿一度。  
苦菜秀，风天《小畜卦》，参宿六度。

靡草死，《乾卦》，参宿三度。  
小暑至，《乾卦》。  
螳螂生，火天《大有卦》，井宿八度。  
鴈始鸣，风火《家人卦》，井宿十度。  
反舌无声，水风《井卦》井宿二度。  
鹿角解，泽山《咸卦》，井宿一十度。  
蜩始鸣，火风《鼎卦》，鬼宿三度。  
半夏生，天风《姤卦》。  
温风至，《巽卦》。  
蟋蟀居壁，雷火《丰卦》，柳宿七度。  
鹰始挚，风水《涣卦》，柳宿七度。  
腐草化为萤，天泽《履卦》，星宿三度。  
土润溽暑，天山《遁卦》，星宿四度。  
大雨时行，天山《遁卦》。  
凉风至，雷风《恒卦》，张宿十度。  
白露降，水泽《节卦》，张宿九度。  
寒蝉鸣，天火《同人卦》，翼宿八度。  
鹰乃祭鸟，山泽《损卦》，翼宿七度。  
天地始肃，天地《否卦》，翼宿四度。  
禾乃登，天地《否卦》。  
鸿雁来，《巽卦》，轸宿四度。  
乙鸟归，泽地《萃卦》，轸宿十度。  
群鸟养羞，风天《大畜卦》，轸宿十五度半。  
雷乃收声，山火《贲卦》，角宿五度。  
蛰虫坏户，风地《观卦》，角宿八度。  
水始涸，风地《观卦》。  
鸿雁来宾，雷泽《归妹卦》，亢宿九度。

雀入大水化为蛤，天雷《无妄卦》，氐宿七度。  
菊有黄花，地火《明夷卦》，氐宿九度。  
豺乃祭兽，泽水《困卦》，房宿五度。  
草木黄落，山地《剥卦》，心宿五度。  
蛰虫咸俯，山地《剥卦》。  
水始冰，《艮卦》，尾宿二度。  
地始冻，水火《既济》卦，尾宿八度。  
野鸡入水，化为蜃，火雷《噬嗑卦》尾宿七度。  
虹藏不现，泽风《大过卦》，箕宿四度。  
天气上腾，地气下降，《坤卦》箕宿六度。  
闭塞而成冬，《坤卦》。

#### 胞胎证混元图第九

在胎成人证

在药成神证

（并金色）

夫包者，爻也。爻者，五阴之下一阳，潜龙建子之初卦也。谓一生二，二者，丑也；一者，子也。子至丑，丑即临卦也；至寅，三阳成胎。胎者，泰也。阴阳二气并和气，三也。故云一生二，二生三，三生万物。三谓子丑寅，发生之气也。故胎者，泰也，在混沌为天地间，在人为精血气，在药为水火土。鼠化牛，牛化虎，此三象者，希夷微也。三者混沌，出《太一经》云尔。

#### 鸡子石英证含光图第十

在人证精血成形 在药证铅汞成丹

鸡者，证金也。子者，证水也。金水者，铅汞也。《阴符》

中男少女之道。石者，坚永止止，《艮卦》也。谓残金衰木，含光之喻也。英者，暑也，清静一物，含五色玄英之令象也，故引凡而喻。此英出蜀岷山及中国华山，即白石英是也。映日而光生矣。

### 瑾瑜证神宝图第十一

瑾瑜者，五色玉，出西海密山，即生还丹之类也。以证本色之真铅矣。《山海经》云：瑾瑜之玉为良，黄帝是食是乡，乃轩辕服而仙也。又经曰：五色发作，说宝玉之符彩，《玉子灵符》曰：应赤如鸡冠，黄如蒸栗，白如凝脂，青如秦碧，黑如点漆。说此之玉德五气，以喻还丹五行金木水火土之象。故引为神宝之证。神宝，即铅汞也。

### 还丹五行功论图第十二

还者，还其本质；丹者，赤色之名；五者，五星、五帝、五脏、五性、五经、五味、五金、五气、五方、五色、五岳也；五行者，亨布也；功者，通晓之用论之如后。

西方庚辛金，色白，五音商，卦兑，神白虎，令主秋，五金主银，五味主辛。气臭腥，象伤，星太白，岳华，五脏肺口，性主义。五经《书》，始数四，成数九，此白元精，服之补肺《腑》经曰：玉堂尚书府，制炼七魄，益言气，增性义，可通外五金，邪气并害气不能伤滞，能间德伏虎。金宿不能窥，谓金精神帝灵元之益也。

东方甲乙木，色青，五音角，卦震，神青龙，令主春，五

金主铅，五味主酸，气臭膻，象生，星岁，岳泰，五脏肝、胆，性主仁，五经《诗》，始数三，成数八，青元精，服之补目及内二肝胆也。经曰：肝为清冷宫，兰台府，胆为紫微宫，无极府，滋三魂，明目，令人远视，益性仁，木气不能淘，并害气不能击隔，得伏龙，木曜无能窥，盖因木精神帝灵元之益也。

北方壬癸水，色黑，五音羽，卦坎，神玄武，令主冬，五金主铁，五味咸，气臭腐，象闭，星辰、岳常、五脏肾，外通耳，性主智，五经《易》，始数一，成数六，黑元精，服之补耳，益智神。经曰：肾为出，故宫太和府，固添髓血，滋洞听，令人性智聪润，炼肌，毛发绿，阴邪惧，水不能漂溺，通太阴而合隐，出不游户，月辉中无影，水曜不能见，盖恃水玉铅精紫微帝君灵元之益也。

南方丙丁火，色赤，五音徵，卦离，神朱雀，令主夏，五金主铜，五味主苦，气臭焦，象盛，星荧惑，岳衡，五脏心，通目，性主礼，经亦《礼》，始数二，成数七，赤元精，服之补心神，益阳光，补固肌骨，化阴滞。经云：心为绛宫元阳府，内滋此府，外滋目威，令人性礼，真行不践迹，轻腾陵阳，是火不能烧，是阳毒不能热，身与太阳通元而合，现化日光，类中无影，火曜不能察，盖恃炎帝灵元之益也。

中央戊己土，色黄，五音宫，卦坤，神后土，令四季，五金主黄金，味主甘，气臭香，象含，星镇，岳嵩，五脏脾，通鼻，性主信，五经主《乐》，始数五，成数十，黄元精，服之补中，黄宫太素府，脾神益志气，滋性信，炼五形，和九气，加圣惠，伏万凶，亲五老，地岳不能埋闭，土曜不能傍窥，盖恃五星帝威，得灵元之益也。

夫还丹者，极一、冲二、和三、誉四、旋五、通六、达七、政八、灵九、极十，具无上之真道，岂不明明可睹其义乎？凡



人有才貌不可学，若遇大丹即变见如意。故经云：无可无不可，皆可矣！按《参同契太易志图》言：一象，此图舍象众美，方得通灵。又古经及《元君诀》，并草衣子，碧通子《变化图》，皆炼丹之名，或号如意珠。天帝得之为绛宫珠，天龙得之为顶上珠，铸剑则伏万邪万凶，寿杖则煞活自由。以一粒磨凡铜铁镜，能别一切精魅魍魉古藏之物，昔黄帝宝镜亦是也。元君以一粒书符作法，尸解及召集五岳灵神立至，驱策自由。

元阳子曰：乾动而还丹成，枯树得再荣，人服而长生，云游紫府。

又古先真曰：土石，五金，悉化成宝。枯骨再返，朽肉重苏。

又古嵩子曰：服之者，日月长而命益延，大海竭而神转壮。

又真，白先生曰：服之，飞腾于太清之上，逍遥于造化之中，看海水为丘陵，睹凡生如聚沫，此非天地之功，实是还丹之力。

又葛洪曰：余学道三十余年，览诸经诀数万余卷，上古以来高真上仙，无有不以还丹金液为大要也。

又《元君金液诀》曰：服一椀斗子，立成黄金色身。故《黄庭经》云：五行参差同根节。

又曰：三五合气本一。《八仙歌》曰：一物含五彩，永作仙人禄。

又《三景诀》云：至药一气不足，与瓦砾无殊。何以言之？盖人五脏元神生命扶身。若五脏皆真，则脏腑气和，身命昌炼，质存精元，气全形固，肌肤神明凝现，灵性相并，永无沉荡之味矣。若五气不和，则胜负相刑，性超而形堕，性既归空，身即沉朽。是以强弱奔散，阙足欺伤，不交冲和，终无久视之道。且如凡人身也，一脉乖，即众脉乱而患生，况五行灵元阙

一者乎？夫四黄八石五金等，非不是天地之精，盖缘五气不全，孤阴寡阳，顽滞之物，不拒五行，皆无定性，故得不可为至药也，可以理病之小药，终无长水羽化之用。若要长生，须服五色铅汞、丹砂、黄芽之药，包含五色、五味、五行者，乃是内明始无而真有也。

盖《道经》曰：视之不足见，听之不足闻，用之不可既。

又魏君曰：绵绵不断，谓之黄芽；变化无穷，名曰丹砂。

又云：服之一生不死，造化汞了留根。

又青霞子曰：汞是砂之精，牙是铅之脚，但了宗枝，用即不错。

又古经曰：金丹留身，至道全神，万般别法，徒劳苦辛。然若不遇师传，不易措手。是故石药损命，悔奚及哉！学人君子，幸请审之！真证旨略，无繆述矣。

## 卷七十三 金丹部十一

古龙虎歌 阴君真人注

四者混沌，五行之祖（一曰曾青为使，使为气，气为筋；二曰阴中阳，为日之魂，魂为日之精，精为阳，阳为父，父为胞衣；三曰从白液化为坚冰，冰是阴中阳，阳为骨，骨凭气而化白液，白液化为髓；四曰水银，为内之炁化为血，血化毛发，毛发凭皮肤为匡郭而成质。可知三个月成形，十个月生，余两个月沐浴，合一年终。质禀天成象，递用五行而轮转，得名天地至宝。如人受天地正气，亦为至人。我大道仙人药宝，不同在世有价之宝。只如世间所用金、银、珊瑚、玛瑙、真珠之类，并量其功价，以贵贱论之。唯我仙丹，象日月之光明彻，此时法天象地之宝，令人服之，可得长生，天地齐毕。皆是凭自然混沌之气，在天为雾露，在地为泉源，如在碧潭之中，即是自然之道也。学仙之士，勿令错用意，妄将变黄白药错服食。如道士得我自然之道，四气混沌至药，但服食一千日，则知神化路不远矣。如四气不足，即为神化无凭，亦象至人，日月不足，岂为至人？乃知至人合天地文理为圣，世人以时物文理为哲。哲者，自为圣人乎？乃自明其道，采世间机运动，以功成法焉。量其作事根性远近，时至尽化为灰烬。唯我三清宫神化药宝，

即得保命长生，天地齐毕。其道不合传之，如传在得人，付之。缘道本无形，以五行气相侵为根。人本无志，而心为志。如心恶即言凶，言凶即行疏，行疏即道不成。所以三品之丹，付贤不付愚。愚者心暗于世，终日览仙方书诀而念之，不得其道性，性由心也。休粮、服气、导引、忘治、谷神魂魄，魄凝神定思一法，已上并是道之空门，宝非长生之理。九鼎之丹，用四时火气，张设文武，不绝火候，而晚成大器，实贵难货，至人难识也）。

铅为匡郭，周遭祐助。青瑶为使，能调风雨（曾青能为一切金丹使，使为气，气为筋，筋成大力焉。夫药不至者，由曾青之力为使。如人不食即无力，食象气，气象使，无食力，乃事不解矣。夫功皆从力而生成大壮矣，药无力，即无灵而安身）。白液金花，水生龙虎（龙虎本从虚无气中相承，龙虎正道感化，运得四时大地，成象之器。然龙虎自然生，犹四时薰蒸，各有所归。生于无始，启道本元者，得名龙虎。龙虎缘阴阳二性和合相吞伏之气所知，从虎气中生有象之质，自然修善去恶，即成之），三一升腾，必定规矩（三者，准上三丹田，各有归魂守一之法，论至药门中四气，筋骨血肉相承之法，不差毫厘，勿令其阴阳时侯差错。每月初发火，从一日数九九之法，此三一法，并是内三一之法，用十二个月火候，管十二时，配十二位，行九宫，象八卦，合五行。黄帝于皇人处请问三一之门，因此流传口诀，受之如世世有仙士付之，亦勿令载于书，方诀止以口付之。若不依此三一规矩，纵解万般小法，能变黄白救世，财宝如积山，亦未免身死矣！终不是保命之法，学而知之者为善矣！）。赫然还丹，日月光顾。星辰透明，云中见路（其还丹成，赫然分明。亦如木中有火，火虽不露其色，如青中带赤气，服之一千日，化肉质，换骨通灵，安身定魂，反老成

少，感天神助之通神明，不得辄妄泄露，却如未得道之日，可以成道矣。虽未满阴功之间，且得度世不死矣。可知大道无迹，不失其根本，人不失其父母之遗体。阴此一方外，其妄制伏水银黄白，不得为真道之门也）。诀中思深，会者有数。百岁之间，生死不住。仙士传之，递相保护。哀哉流言！更无别故（诀中至药，教人长生之门。至药与世宝别，仙人药宝，千炼万化。金丹再炼，令人服食，可得神灵，得长生之路，所以我惜时、贵命、轻财也。愚者即惟贵世之有财宝，救一朝一夕妻妾荣华，行尸走鬼轻命，而时至自灭亡，百岁之间，死者莫知其数。元君所以哀哉！世人流行药中，妙道已化，真人勿令妄运动，各令四人归业，守道安贫，共成宝命之药。亦名卯酉二八，二八成一斤之数。白液，白雪是也，白雪压冰是也。所以言将卯酉二八，合入二性，同于丹砂，勿令常人知之。以火候九九，午之位也。然三一中云，三日一候，三三如九数足，其紫带黑色者，元君赞之，惜于后世仙士所论歌诀，原明于师，勿令心二，可以长生备矣。可知天本无亲，以心为亲；天本无私，以心为私；天本无灾，由人与，非天与。人学不违于师，子莫逆于父母，即天道长久矣，即人师转备矣。所以论至事不二，至药无双，天人合道，明然可增其福，大不杂矣。若骨多即肉不胜骨，肉多即骨不胜肉，骨肉俱由筋可壮，其力犹增也。如无力，即如有袋不盛物，岂能立焉？无婴儿不恋母，婴儿失母，即如药无筋，为药由主力也，无力自无神化之功。如会者，一言见三枝枝条；不会者，即经历千书万诀，不免为愚人。好求仙求黄白，不寻读仙书，究其至宝者多，好黄白，未见一两，不觉身亡。贤者好其至药，虽未见药之玄门，且积善如然。神无爱利之心，守道安贫，天不可罚矣。善庆从人师，自感其至，且从羲轩之前后。累代求仙者，得之几人哉）。

又歌曰：

生成数极一百八，阴气相从自凝结。赫然紫色成还丹，服饵长生不可说。

又歌曰：

丹砂一味更无别，子母相生无休歇。人世不知费财宝，悟者为之大还诀。

源真铭：

有诀不彰，有序不述。得之感之，可传可说。

药异名：

一名土之父，二名水之母，三名号黄芽，四为七十二石晶。

又歌曰：

黄芽天生物，子母相汨没，子母不相抛，母向子中出。

和合相假歌：

玄之又玄在眼前，阴中有阳道自全。阴阳不离得和合，练之服之得神仙。

又歌曰：

一名准中成，二号大道名。采续不断，添之自灵。

又药歌：

在天为雾露，在地为泉源。数尽阴阳尽，得之终不言。

又歌曰：

甲子下火当旬候，辩得子母仍依旧。旬候数足自周旋，从此堪为两分首。

又药歌：

一名真源秋石，二名大道精魂。还丹采之合宜，离尘是真仙客。

又歌曰：

日月非我形，阴阳自成质，乾坤造化中，六合皆归一。

又室歌：

坛灶为宫，濛之又濛，一句方一候，一沐又还濛。数足自灵圣，乾坤处处通。

### 金丹金碧潜通诀

神室者，丹之枢纽，众石父母，砂汞别名，出阳入阴，流曜二方，列数三轴，法象水火。制犹王者，武以讨叛，文德怀柔，土德为王，提剑偃戈，以镇四方。坎离数一二，南北独为经，故冠七十二名之长。刚柔禀自然，金火当直事，水土相含受，雄雌并一体，用之有条理。变化既未济，终即复更始。初九为期度，阳和准早晚。周历合天心，阳爻毕于己。正阳发丙午，自丁终于亥。水火列一方，守界成寒暑。东西表仁义，五行变四时。如是阴阳之互用，顺三一而得其理。神室设位，变化乎其中。神室者，上下釜也；设位者，雌雄配合之密也。变化为砂汞，砂汞者，金土二用。二用无定位，张翼飞虚危，往还性不定，上下以为常。独居不改化，独处于中宫。包囊众石，为丹祖宗。有无相制，朱雀炎空，紫华耀日，砂汞没亡。诀不辄造，理不虚拟，约文申奥，叩索神明，演爻征卦，五行为讽。

坎雄金精，离雌火光，金火自伐，水土相克，土王金乡，三物俱德。四海辐辏，以致太平，并由中宫土德黄帝之功也。金火者，真也。丹术著明，莫大乎金火。穷微以任化，阳动则阴消，混沌终一九，宝精更相持。药有三百八十四铢，铢据一斤为十六两也。金精一化，青龙受符。当斯之时，神室炼其精，火金相运推。雄阳翠玄水，雌阴葩黄金。阴阳混交接，精液包

元气。万象凭虚生，感化各有类。众丹灵迹长，莫不由于是。

元君始炼汞，神室含洞虚，玄白生金公，巍巍建始初。三五以相守，飞精以濡滋。玄女演其序，戊己贵天符，天符道渐剥，难以应玄图。故演作丹意，乾坤不复言。丹砂硫汞父，戊己黄金母。钟律还二六，斗枢建九三，赤童戏朱雀，变化为青龙。《坤》初变成《震》，三日月出庚，龙虎自相寻。《坤》再变成《兑》，八日月出丁，上弦金半斤。《坤》三变成《乾》，十五三阳备，圆照东方甲，金水温太阳，赤髓流为汞，汞者弄明珙。月盈自含亏，十六转将减。《乾》初缺成《巽》，平明月见辛。《乾》再损成《艮》，二十三下弦。下弦水半斤，月出于丙南。《乾》三变成《坤》，《坤》乙三十日，东北丧其朋，月没于乙地。《坤》乙月既晦，土木金将化。继《坤》生《震》龙，《乾》、《坤》括始终。如上三十日，《坤》生《震》、《兑》、《乾》，《乾》生《巽》、《艮》、《坤》，八卦列布曜，运移不失中。调火六十日，变化自为证。

神室有所象，鸡子为形容。五岳峙潜洞，际会为枢辖。发火初温微，亦如爻动时。上戴黄金精，下负坤元形，中和流汞情，深合应三才。乾动运三光，坤静含阳气。神室用施行，金丹然后成。可不坚乎！炼化之器，包括飞凝，开合灵户。希夷之府窟，造化之泉源。阳气发坤，日晷南极，五星连珠，日月合璧。金砂依分，呼吸相应。华盖上临，三台下辅，统录之司，当密其固。火炼中宫土，金入水北方，土水金三物，变化六十日。自然之要，先存后亡。或火数多，分两违则，或水不定，同处别居。刚柔亢行，不相涉入。非火之咎，责谴于土。土镇中宫，笼罩四方。三光合度，以致太平。五脏内养，四肢调和。水涸灭影，含曜内明。金水相莹，润色沉耀。调火温水，发之俱化，道近可求。土水独相配，翡翠生景云，黄赤混其精，紫



华敷太阳，水能生万物，圣人独知之。金德尚白，炼铅以求黄色焉。为生中宫，黄金不飞灼，土烟云起后。有无互相制，上有青龙居。两无宗一有，灵化妙难窥。炼银于铅，神物自生。银者金精，铅者北灵。水者道枢，阴阳之始，始故生银。铅化黄丹，寄立五金。为铅外黑，色禀北方，内有银精。披褐怀玉，外似狂夫。银为铅子，子隐铅中。汞者铅子，子藏母胞。素真眇漠，似有似无。灰池炎灼，铅沉银浮，洁白见宝，可造黄金。壳为金精，水环黄液。径寸以混三才。天地初分，混若鸡子。圆高中起，状似蓬壶。关闭微密，神运其中。炉灶取象，固塞周坚。委曲相制，以使无虞，自然之理，神化无方。磁石吸铁，间隔潜应。何况鸡子，配合而生！金土之德，常与汞俱。自《火记》不虚作，已下重解前文。丹术既着，不可更疑焉！故演此诀，以辅《火记》焉！庶使学者取象。下文云，文字郑重说与世人，岂不熟思？是其义也。

### 阴丹慎守诀

叙曰：世上之人，率多嗜欲，伤生伐命，今古共同。然不自防，悔将无及。仙经曰：夫人临终而思迁善，病成而方求药，天纲已发，何可追之？故贤哲上士，惜未危之命，惧未来之祸，理未病之病，遂拂衣人寰，摄心归道。道者炁也，炁者身之主。主者精也，精者命之根，故爱根重炁，然后知几乎生矣。《黄庭经》曰：方寸之中谨盖藏，三神还精老复壮，养子玉树命如杖，急固子精以自偿。又曰：长生至慎房中急，何为死作令神泣？若当决海百渎倾，叶去树枯失青青。长生久视，未有不爱

精保炁而能致之也。阴丹，百御之道，世莫得知。虽务于炁，而不绝欲者，亦未免殆哉！故曰：人常失道，非道失人；人常去生，非生去人。修养君子，深宜自省也。

### 大还心镜

《寒山子至诀》云：但悟铅真，药必自神；但记汞正，药如自圣。修之合圣，天地同庆；得因师传，为道之经。所以古之圣人，不直言之，托之《周易》，寄之五行，合之符契，真仙之理，莫若大丹之神欤！大凡人间之大丹，疑误万端，有智者了解，用之一神，所以秘易成难，贵道不可轻也。昔三圣遗言，著之金简，名曰《参同契》，世皆写之，悟无一二。得其理者，未敢造，明其事者犹豫因循，疑来，倏忽而迈，荣华闪目，金玉萦心，财色介怀，百年空弃，长生之道，罕有留心，不知为色欲劳神，光阴侵岁，以此之故，递有多疑。或至人述以远近之丹，愚者便说秦皇汉武。秦皇即口是心非，贪情肆欲，汉武乃虽慕玄境，心在色情，何得而长生不死？何不言黄帝与上古人乎？黄帝传玄女还丹之术，言补金汞于丹田。后人不诀，真宗误入御女之道。岂太上仙女，必无对心说传色之心？愚者感之，仿于万古，其歌诀书在《金丹论》中者，得可明矣。

余早年慕道，幸得传真，克奉仙师，亲承旨教。只论铅汞之妙，龙虎之真。去四黄之大非，损八石之参杂，要在铅汞。合天地之元纪，包日月之精华，上冠于乾，下顺于地，总七十二石，统天地精光，修炼成丹，服之延驻，何不信乎？且五谷既能救命，岂可不奉神丹？黄精犹服长生，勾吻服之必死，目

击可见，真圣奉之。然神丹至宝，万人之中，得者皆宿契道合，久留心志，非一朝一旦可致耳！然还丹之灵，不救自刑之祸，圣人慈愍，不救宿业之殃。此亦在人心弘道旨，又不可信任狂，非惑之神术乎！今以《大丹心镜》者明心，彼心明，丹中至药不惑他物。物非其类，丹必不灵。心非道心，修成必祸，此深可戒而省己修性也。

论大丹唯一阴一阳谓之道，即合天机也；一金一石谓之丹，亦合天地也。一金者，真铅中白虎是也；一石者，丹砂中水银是也。陶真真人云：若用世间水银化白烟。此真言也。神符白雪门马真人曰：汞与水银别，迷人用之拙。即知此言，从凡化圣，圣不离凡，因凡入圣，凡中有圣，圣中出凡；即知水银，本在丹砂中，出合铅，汞成至宝，色还本丹，丹更不能却归水银，即真汞矣。既至真汞，即从凡入圣，可以统领万灵，即马真人云“汞与水银别”也。自后之学者寡学，生疑至此矣。陶真人云：若言非世间水银。又云：砂产于金也，汞生于铅也，此非世间，何不审之妙旨矣！自古真人皆从凡入圣，与大丹同契，以至上升。而迷者多惑，如丹，唯一阴一阳龙虎二物。铅是水一之名，北方河车，金生于水，金数四，水数一，共为五也。汞是青龙，东方木，木生火，木数三，火数二，丹砂火之名，二与三共为五也。五土无定位，四季立名。水与金共五，木与火共五，故曰三五道还丹，道之玄也。还丹之妙，罕有玄解，知之者圣人乎！可为造化在乎心，变转自由耳。不知真诀，假如念诵真歌，不遇师受，终无成理。余忆昔年迷谬，徒历山川，一事不为，虚弃财货。忽然指悟，如醉醒焉。目前可致烟霄，足知大道不远。盖人秘易为难，恐愚者侮之容易，即天官减筭，神道夺寿。故《真人诫经》云：世皆延年，为人身命，渐被阴境侵之，以至阴死也，岂阳生之神术乎！夫不修

行益生，损人侵物，何长生乎！虽遇至人，道不相契，固不传其非人乎！《科仪》云，希长生，还丹取。成大丹，不可不知炉鼎也。知炉鼎，又不可不知火候也。知火候，又不可不知心也。既知心，又虑多难与宿殃也。万一自知，又不可妄传授于人也。道不传即废，传非人即殃。故知万妙不得其心也。心为出世之宗，丹为延年之药，服之阳宫，即阴司落名，已后纵往，亦神解上仙，此真圣之言不惑矣！余悟古贤真旨，至《参同契》、《金碧经》、《古文龙虎传》，三圣遗文，众真歌诀，不离真妙之铅汞乎？恐后之有疑未决者，更序之于心镜，必欲明其大道，照耀真元，涤学者凝滞之旨，晓愚者惑诞之说，悟而见受，可披青云，可致朗月当明序而说之，知不惑众者矣。

### 太清神丹中经叙

元君曰：元君者，上帝之师也。其人大神，能调和阴阳，驱役风雨，进退五星，斟酌寒暑，骖驾九龙，十二白虎，天下众仙隶之焉，人生死咸由之矣。犹言，本亦学道，服神丹之所致也，非自然尔，况小兆乎！勉力求生，勿得懈怠。上士得道，升为仙官；中士得道，栖集昆仑；下士得道，长生世间。贤者勤之，吾不虚言。

元君曰：凡言圣人、神人、仙人，此三人者，皆是学而得道者也，非天生自然矣。但德有优劣，官有尊卑，故虽神、虽圣、虽仙，犹言人者，明其素是人也。天神之自然生者，则但言神不言神人。言神者，以光气为体，言人者，犹有骨肉也，但已得道，能隐翳变化不见闻耳。凡初得仙者，但言仙人；若

得升天往来大神之处，则位为真人；若得补天曹官职，乃位为神人也。老子及太一问元君曰：凡服神丹而长生者，岂神灵候之乎？将自药之力也？元君曰：长生之事，功由于丹。丹之成，由于神。神不祐，则作丹不成也。故将合丹，必正身心，守善不履罪过，神明哀之，作丹必成。神丹入口，寿无已矣。

## 卷七十四 方药部一

太极真人青精乾石丁饭上仙灵方      王君注解

青精上仙灵方太极法，使二千二百岁中得传十人。无其人，秘之勿泄。一日有其人，听顿授之十人，过限不得复授。受之者，皆立盟约，誓启不宣漏，<贝危>有方之师，青帛三十尺，金钗两双，代歃血之信。传非其人，宣泄宝文，身考三官，死为下鬼，撻濛山之石，填积夜之河。凡受书，斋十日，授者亦然，然后乃得对传之。

太极真人曰：夫受生炁于五谷者，结胎育物，必抱谷气之流精也，含真万化，亦陶五谷之玄润也。若子寄形于父母，将因所生而摄其生矣。不缘所生之始本，而顿废其所因者，未尝不枯竭于偏见，断年命以雕伤乎！当宜因其所由，顺其精源，凝涤柔和，微而散根，使荣卫易炼于日用，六府化谷于毫渐也。故因谷以断谷者，乃卫明之良术，缘本以去本者，乃摄生之妙迹耶！于是扇南烛之东晖，招始牙之朱灵，五液夷泯，关百通盈，神乐三宫，魂柔魄宁。复以晨漱华泉，夕饮灵精，鸣鼓玉池，呼吸玄清。华腴童于规方，胃满填乎空青。所以千算一启，寿随年荣，岁与药进，飞步仙庭也。服尽一剂者，命不复倾，五云生身，体神气清，亦能久食，百关流亭。亦能终岁不饥，

还老反婴。遇食即食，不食即平。真上仙之妙方，断谷之奇灵矣！

生白粳米一斛五斗，更舂治，折取一斛二斗，得稻名有青者，如豫章西山青米、吴越青龙稻米是也。青米理虚而受药气，故当用之，盛治，勿令鸡犬秽物临见之。

南烛草木叶五斤，燥者用三斤（或都用三斤，亦可杂用茎及皮益佳，多取令淹濡一斛二斗米耳，不待斤两之制度也，以意消息之）。其树是木，而叶似草，故号南烛草木也，一名猴药，一名男续，一名后卓，一名惟那木，一名草木之王。生嵩高少室，抱犊鸡头山，名山皆有之，非但数处而已。江左吴越尤多，其土人名之曰猴叔或染叔，粗与其名相仿佛也。煮取汁极令清冷，以濡米米释炊之，洒护皆用此汁，当令饭正作紺青之色乃止。预作高格，暴令干。若不办杂得他药者，但作此亦可服。日二升，勿服血食。亦以填胃补髓，消灭三虫，为益小迟，但当不及众和者耳，亦神仙食也。《上元宝经》曰：“子食草木之王，气与神通；子食青烛之津，命不复殒。”此之谓也。合药之始，当先斋三日，乃得为之。尤禁房室秽漫，药不行也。此上真之方，不同他事，山林诸道士但按此而用耳。若不办诸杂物，及贫者又或无米，但单服此叶，或捣为散，或以蜜丸，服之皆得仙也。近易之草而俗人不知，知犹不用，可不哀哉！初欲服者，要当先作和者三二剂，剂尽无复和，乃单行耳！先宜填胃关故也。有资力者，自可常和，而服之得效尤速，百害灾病不复犯也。单以米合，犹为小迟，要自愈于胡麻、术、桂之单行也，服之使人童颜聪明，延年无病，又不令人有忧思之心矣。禁食血肉生之物，若啖脯不害也。若无和而单行者，当三蒸三曝，极令干，旦以清水渍二升或一升，再服之如食状，亦可水送餐。及以叶捣此饭为屑，以和白蜜，重捣万杵，丸如

梧桐子大，日再服，服五十丸乃佳，有愈于干饭之益也。其日遇食亦食，无苦也；如不得食，平平耳。又常当漱玉池之华，以益六液。

和用空青七两精鲜者，先细捣，重绢罗之。夫空青者，虚曜而益真，填胃而明眼，强筋而补液，增精而童颜，上仙品石也。若施之以房室，则气秽而神亡，害杀立验，可不慎哉！又用丹砂一斤精彻者，先细捣，绢筛之。夫丹砂者，朱明而阳焕，填骨而益血，强志而补脑，增气而理肺，使人百节通利，关枢调和，上仙品石也。忌血食履穢浊及房室，犯之者上气，生症积骨枯之病。

又用伏苓二斤白好而不冰者，以水五升煮之三沸，焙干而细捣，重绢筛之。伏苓者，通神而致灵，和魂而炼魄，明目而益肌，厚肠而开心。又与南烛二炆相养，调荣理卫，亦可单以干饭和之尤良。禁食酸及猪犬肉，忌见血腥，犯之者药势不行，无益于身。单干下饭合茯苓捣筛，蜜丸如前，服之良。

又用荆木杪软叶华阴干者五两，干叶益佳，细捣干下，重绢筛之。荆木叶华通神见鬼精，取荆之时，勿令鸡犬见也。

凡合此药者，皆宜静密，勿以药名字以语不同同志者，所将使人不得不示之耳，慎之！凡四物捣筛都毕，又合内臼中，重捣一万杵毕，乃以合溲青干饭中，善令调市，盛以布或绢囊，著甑中蒸之，微火半日许，令釜中水多少如干饭，斗数数反侧，囊四面令通热市，若釜中水竭而饭不市者，更以意增水微火也。毕，出囊饭著高格，日中曝之，取令极燥（以药溲干饭讫，又以清酒合溲饭令浥浥耳，然后内囊中。）当得大甑内囊饭毕，以盖密甑上，勿令气泄尘入。又曝饭，当善分解之，勿令相滞，令极干，历历可耳（亦可捣之为屑，丸以白蜜，梧桐子大，日服八十丸，日再服，使人长生延年）。又和用白蜜二斗，清酒



一斛。

右二物皆令精好，以蜜投酒中搅之，调和毕，以薄溲丁饭于大器中，皆令通市浥浥尔。乃出，日中曝，令极干，干复内如前。凡一斛二斗，令作十过溲饭，或七八过溲之，取令浥浥调市，亦务欲薄溲使调，而数于日中暴也。用酒溲丁饭，都毕。乃内囊中，复蒸如前。毕，出，干令燥，于此亦可捣而丸服，如梧桐子大，日再服八十丸。又和用一斗酒、一斗清水若井花水淋沃之，极令清彻。以南烛叶一斤或二斤，渍之或煮之一沸，出，令汁正作紺青色，小令浓也。又内白蜜五升或一斗，著青汁中，搅令匀，和毕，又以溲丁饭，如前溲，令调市，日中干之，唯欲多溲干也，须尽清汁乃止。又辄复蒸毕，日中干之极燥，青精丁饭之道都毕矣。

若釜甑蒸之不相容者，亦可分蒸之也。合药当用月之上旬于寅卯日，别安釜灶也。若药历历者，但服五合，送以饮；若药相结谩不解者，乃捣密丸，计五物合为八十丸，平旦一服或再（药成，封著蜜器中，数出干暴之，若作丸，亦当顿作之也，服毕，听得食腑）。初服之始，不便绝谷也。当减谷，以二升半为限，一年后减为二升，三年后减为一升，四年后减为半升，减之以至都尽，至于五年，令人轻明大验。自此以后，亦能一日九食，亦能终岁不食（食面乃易为减）。服丁饭，百害不能伤，疾病不能干。去诸思念，绝灭三尸，耳目聪明，行步轻腾。十年之后，青精之神，给以使之，令坐在立亡，能隐化遁变，招致风雨。一剂辄益算一千，长服不死。凶年无谷，或穷不能得米者，皆单服南烛，或和茯苓，或以蜜和南烛，或杂松柏叶，会用相参，非但须谷也，但当不得名之丁饭耳。皆宜参以吐纳咽液，以和荣卫，常当如此。丁饭须云牙之用，云牙不须丁饭而行事也。若和用古秤者，日服二合半耳。服不患多，唯患不

可供，故二合半以自节限耳。初服药，不便断谷也。此上仙之名方，去食之妙道矣。

### 太上巨胜腴煮五石英法（一名太帝君镇生五脏诀）

南岳真人告曰：吾昔有入室弟子仙人赵成子者，初受吾《镇生五脏经》，乃按而为之。成子后欲还入太阴，求改貌化形，故自死亡于幽州上谷玄丘中石室之下。死后五六年，有山行者见白骨在室中，露骸冥室，又见腹中五脏自生，不烂如故，五色之华，莹然于内。彼山行人叹曰：昔闻五脏可养，以至不朽，白骨胸中生华者，今睹其人矣。此子将有道不修，中道被试不过乎？因手披之，见五脏中各有一白石子镇，生五色华，如容状在焉。彼人曰：使汝五脏所以不朽者，必以五石生华故也。子已失道，可以相与。因取而吞之去。复四五年，而成子之尸当生。彼人先服石子，以成子当生之旦，而五石皆从口中飞出，如蝉状，隐隐雷声，五色洞明，径还死尸之脏。因此成子改形而起，如一宿醉睡之间。其人心惧恍惚，因病日甚，乃至入山寻视死尸所在。到石室前，方见成子偃据洞啸，面有玉光，而问之曰：子何人哉？忽见有五老仙翁，披锦带符，手秉羽节，头戴紫冠，言于成子曰：昔盗吞先生五脏宝石者，此人是也。言毕，彼人面上即生恶癩，噤而失言。比归达家，癩疮亦匝，一门大小，同时俱死，族亦遂灭矣。

诀曰：太极金华真人以此经文，刻于太微帝君紫微宫玄朱玉殿，东壁牖上。其文曰：五石异方，津光合形，有终而死，有始而生。万类反本，千条归真。气适浮烟，血奔流精。哀哉

！兆身飞真不成，何不竭以云草玄波，徊以卉体华英，会以七白灵蔬，和以白素飞龙？沐浴平坦，正心向东，凝精厉魂，上帝五公。再拜朝灵，镇固五方，长生天地，出入流通。各安其位，生华五脏。

此文乃上清八会龙文大书，非世之学者可得悟了者也。太素真人显别书字，受而服之，求其释注于太极帝君焉！云草玄波者，黑巨胜腴也，一名玄清；卉体华英者，蜜也；五光七白灵蔬者，薤菜也；白素飞龙者，白石英也。法当种薤菜，使五月五日不掘拔者，唯就锄壅护治之耳。经涉五年中，乃取任药，名为五光七白灵蔬。取薤白精肥者十斤，黑巨胜腴一斛五斗，白蜜凝雪者五斗，高山玄岩绝泉石孔之精水二十六斛，白石英精白无有厉鹗者五枚，光好，于磨石上砺护，使正圆如雀卵之小，小者好莹，治令如珠状，勿令有砺石之余迹。先清斋一月或六十日，令斋日讫，于九月九日。先筑土起基高二尺，作灶屋，屋成，作好灶，口向西，屋亦开西户也。当得将大铁釜安灶上，于九月九日申酉时，向灶口跪，东向，内五石子于釜中。于是乃先投一枚于釜中，祝曰：

青帝公石，三素元君。太一司命，玄母理魂。固骨镇肝，守养肝神。肝上生华，使肝永全。

次又投一枚于釜中，祝曰：

白帝公石，太一所憩。元父理精，玄母镇肺。守养肺神，使气不朽。肺上生华，十万亿岁。

次又投一枚于釜中，祝曰：

赤帝公石，帝君同音。玄母理神，桃康镇心。守养心神，无灰无沉。心上生华，华茂玉林。次投一枚于釜中，祝曰：

黑帝公石，太一同筹。玄母元父，理液混变。守养肾神，使无坏乱。肾上生华，常得上愿。

次又投一枚于釜中，祝曰：

黄帝公石，老君同威。太一帝君，理魂镇脾。守养脾神，使无崩颓。脾上生华，白日上升。

投石时，皆各闭气五息，然后乃投石。都毕，起向灶五再拜，又取薤白五斤，好积覆于五石之上。毕，内蜜灌薤上。毕，内腴一斛五斗灌蜜上。毕，乃格度腴入釜深浅高下处所也。然后稍入清水，使不满釜小许止，木盖游覆釜上。

九月十日平旦发火，当取直理之木煖燥好薪，不用蠹虫及木皮不净薪也。微火煮之，才令陷劣沸而已，勿使涌溢大沸，大沸则五石消烂。当屡发视，谓其下火，当先视腴格处所，若煮水煎竭，辄当益水，使尽二十六斛水而止。又水尽之后，更加煎，令减先腴二寸格畴量，以意斟酌视之，都毕，成也。寒之于釜中，下火灰，密盖其釜上。

五日，乃徐取五石。平旦向五方各拜，拜毕，跪以此腴杂以东流水，以次服之，余水及腴，取令送石子，入口下喉中耳闻之。再服时，亦如初投石于釜中时，一一按祝而服之也。毕，又五再拜，毕。若药煎既成，而视无复石者，非有他也，直五精伏散，隐灵化形，故自流逐于云腴之中，无所疑也。但当日服五合，以酒送之，神变反质，各自镇养五脏矣！自于五脏之内，更生成五石也。慎不可猛火，火猛，石精飞去，滓浊壤烂，云腴熬臭，殆不可服御。

又云腴之味，香甘异美，强骨补精，镇生五脏，守炁凝液，长魂养魄，真上药也。以好器盛之，密盖其上，即日服二合为始，日以为常。若腴蜜煎强者，亦可先出，服石后加腴，更和腴煎取，令凝如割肪也。人亦有丸服之者，三十丸，大都丸不如腴服佳也。趣复任人所便，便则安于体，体便则无不佳。常能服此腴者，乃佳。

若先腴尽，当更合如前，内白石英五两镇釜底，一两辄一枚，祝说如法，但不复砺石使员，而重服之耳。药成，出，此石沉东流水中不常煊竭之渊。若不欲更此合腴者，亦无损于前五石。

此腴名玄女玉液，一名飞龙云腴，一名炼五石之华膏。服之十五年，内外洞彻，寿长天地，役使鬼神。三年之后，眼可夜视。

真人云：此方愈于炼八石之饵，全胜于玄水云母之玉浆。既服此五石，石之喉径宝镇五脏中，辄有一石以守脏孔，脏孔之上，皆生五色华也。

若其人或暂适太阴，权过三官者，肉既灰烂、血沉脉散者，而犹五脏自生，白骨如玉，七魄营侍，三魂守宅，三元权息，大神内闲，太一录神，司命秉节，五老扶华，帝君宝质，或三十年、二十年、或十年、三年，随意而出。当生之时。即更收血育肉，生津结液，复质本胎，成形濯质，乃胜于昔死之容也。真人炼身于太阴，易貌于三官者，此之谓也。太微天帝君咏曰：“太阴炼身形，胜服九转丹。华容端且严，面色合灵云。上登太极阙，受书为真人。”

### 太上肘后玉经方八篇 霞栖子卢道元

昔巢居子奉事东海青童君，以节苦心，寂奉师礼，具暑雨祁寒，无懈无怠。仅二十年，乃口授玄法，手录圣方，曰：“若求跨鹤升九霄，未易致也。若优游乾坤之内，守颢然之气，容色不改，心目清朗，寿数百年，不归可得矣！”然神仙秘术，

不可传失其人。长安年中，巢居子以寒栖子贤人也，使沐浴斋戒，乃授其事。至贞元八年，寒栖子以余不揆陋微，游放自适，所从来者，匪世俗之士，无声利之交。若天与之正性，谓不虚授，乃传之。余以隐栖子文华之士，昔登上科，忽遗驰鹜，息心道门。仅六七年，其玄法秘术，无不得之。而至理之要，曾似未遇。顾余有此遗礼，留爱久之而言。余知其志士也，心忘爵禄，遁时称《骚》、《雅》之什，有而若无，实而若虚者哉！必当羽化云飞，岂止龟鹤齐寿？宝历乙未岁，霞栖子卢道元敬持《太上八方》细蕴玄宝一轴，以授隐栖施君，敬之哉！戒之哉！

《乾》，《天父地母七精散方》第一；

《坤》，《风后四扇散方》第二；

《艮》，《王君河车方》第三；

《巽》，《龟台王母四童散方》第四；

《离》，《彭君麋角粉方》第五；

《兑》，《夏姬杏金丹方》第六；

《坎》，《南岳真人赤松子枸杞煎丸》第七；

《震》，《青精先生T米饭方》第八。

《乾》，《天父地母七精散方》第一

竹宝三大两（九蒸九曝，主水气，日精）地肤子四大两（太阴之精，主肝，明目）黄精四大两（戊巳之精，主脾脏）蔓菁子三大两（九蒸，主邪鬼，明目）松脂三大两（炼令熟，主风狂痺湿）桃胶四大两（五木之精，主鬼忤）芭藤五大两（九曝，五谷之精）

右方，昔黄帝服之上升，后欲传者，立坛焚香，启告。上帝，然可授之，立盟不泄，四十年一传之尔，若违誓传之，太上夺算，七代受考于水官，慎之。

## 《坤》，《风后四扇散方》第二

五灵脂三大两（延年益命）仙灵皮三大两（强筋骨）松脂三大两（主风痹）泽泻三大两（强肾根）术二大两（益气力）乾姜二大两（益气）生干地黄五大两（补髓血）石菖蒲三大两（益心神）桂心三大两（补虚之不足）云母粉四大两（长肌肤，肥白）

右方，风后传黄帝，黄帝传高丘子，高丘子传大茅君，大茅君传弟固。凡欲传授，誓不妄泄。若轻授非道之人，考延七祖。右药十物，各如法捣筛，仍捣三万杵，同炼过白蜜和捣一二万杵，酒服，日三十丸。

## 《艮》，《王君河车方》第三

紫河车一具（《王母歌》：紫河车一，龙潜变易，却老还童，枯杨再益。下文注曰：紫河车者，首女是也，东流水洗断血一百遍，酒洗五十遍，阴干曝，和合），生干地黄八大两（补髓血）牛膝四大两（主腰膝）五味子三大两（主五脏）覆盆子四大两（主阴不足）巴戟天二大两（欲多世事加一，女去之）诃黎勒皮三大两（主胸中气）鼓子花二两（膩筋骨）苦耽二大两（治诸毒药）泽泻三大两（补男女人虚）菊花三大两（去筋风）甘草、菖蒲三大两（益精神）乾漆三两（去肌肉五脏风，熬令黄）柏子仁三两（添精）茯苓三两（安神）云英三两（缩肠）黄精二两（补脾胃）苡蓉三两（助茎力，女人去之）金钗石斛二两（添筋）远志二大两（益心力，不忘）杏仁四大两（炒令焦，去尖皮，去恶血气）菝葜四大两（延年，驻形神）。

右二十二味，共捣散，炼蜜丸，如梧桐子大，日以酒下三十丸，服三剂，颜如处子。昔王君传苏林子，当传，立盟歃血。不尔，违太上之科，延灾祖考。

## 《巽》，《龟台王母四童散方》第四

丹砂七两朱砂三两胡麻四大两（九蒸九曝，煎令香）天门冬四两茯苓五两术三两干黄精五两桃仁四两（去皮尖）

右八味，合筛捣三万杵，冬月散服，夏月丸之，服以蜜丸如梧桐子大。志服八年，颜如婴童之状，肌肤如凝脂。昔王母传大茅君，大茅君传弟哀，立盟契约，誓不慢泄，泄则太上科之，慎欤慎欤！

《离》，《彭君麋角粉方》第五

麋角三两，具不限多少，解开，厚三分，长五寸许，去心并恶物。用米泔浸之，夏三日，冬十日一换泔，约一月已上，似欲软，即取出，入甑中蒸之，覆以桑白皮，候烂如蒸芋，曝干，粉之。每斤入伏火硫黄一两（麋食菖蒲，其精实入角也）。以酒调服三钱。

右方，彭君服之，寿七百七十九岁，后入地肺山，去不知所在。今人云彭逝，谬耳。别自有传此方者，又有人于鹄鸣山石洞获此方，文法皆同，不可宣也。

《兑》，《夏姬杏金丹方》第六

杏子六斗，水研之，取一石八斗，入铁釜中煮之。先以羊脂揩铁釜，令三斤脂尽，即下杏子汁，以糠火煮之四十九日，乃取构子煎，丸如大豆，日服一丸，三两为一剂。夏姬服三剂为少女，后白日上升。此方出于《羡门子上经》，立盟勿泄，传者殃及七代，慎之慎之！

又杏金丹方

取杏子三斗，去其中两仁者，作汤才三四沸，内杏子汤中，便须手摩令皮去，熟治之，置盆中折之，清其汁，度得七八斗，弃其滓。取一石釜置糠火上，以羊脂四斤摩釜中，令膏脂尽著，釜热，复摩之，令尽四斤脂。内汁釜中，熬以糠火并蚕砂火，火四五日药成，其色如金状。如小儿哺服如鸡子黄，日三服，



百日父母不能识，令人颜色美好。

《坎》，《南岳真人赤松子枸杞煎丸》第七

枸杞根三十斤，取皮别著，九蒸九曝，捣粉。取根骨煎之，添水可三石，后并煎之，可如稀饧。即入前粉和丸，如梧桐子大。服之一剂，寿加百年。北方赤松子以传李八百，立盟不泄，如妄传，天殃将罚。

《震》，《青精先生下米饭方》第八

白粱米一石，南烛汁浸，九蒸九曝干，可三斗已上。每日服一匙，饭下。一月后用半匙，两月日后可三分之一。尽一剂，则肠化为筋，风寒不能伤，须鬓如青丝，颜如冰玉。此方若人服之，役使六丁，天兵卫侍。秘之勿传，当获神仙，切慎妄传。

### 太一饵瑰葩云屑神仙上方（并引说）

夫茂实者，翘春之明珠也；苕胜者，玄秋之沉灵也；丹枣者，盛阳之云芝也；茯苓者，绛晨之伏胎也。五华合烟，三气淘精，调安六气，养魂护神。能用得其方，位为天仙。老者复壮，反婴童颜，千害不伤，延寿万年。

三春茂实一斛，名曰茂者，茂于阳精也，故为药首。若三春不得合药者，藏茂实于密器中，封泥之，须用乃开之。到来春不佳者不复用，败者勿取，注虫，茂也。此物难藏，当素精盛，燥器盛之。若茂实变成水者，当绞去滓，以茂水和药也。

黑巨胜屑三斗，先熬令香，乃捣为屑。

茯苓十斤，细捣，下筛为屑。白蜜五升。

干枣一斗，大者剥皮去核，蒸过，捣令相和。调清美酒五

斗。

凡六物合搅令和，内一釜中，微火煎，令凝如糖，以可丸者乃出。著蜜器中，更分捣三千杵，丸如鸡子中黄大，日服三丸。夫捣药为屑，皆令极细，轻绢筛，又内釜中煎之，当数搅和之，以盖釜上。合药欲得别处，不欲得人多闻见。服此药者，六年白发还黑，面有童子之色，行步如飞，身生玉光，灾害不伤，驾云上升，位为真人。

又说药逐年功效：服药一年，目明耳聪，强志而通神；二年，愈胜；三年，癰疽皆灭，四年，体休气充；五年，行步如飞；六年，白发还黑，面有童婴之色。此药补胎益气，充精开明，上仙方也。道士有单服此药而升度者，不可胜数。此不比于常方，而宜用合饵之。

### 灵飞散方传信录（云母法附）

余与宪台察史博陵晦叔，有遗世保形超蹈山海之契，尝共话求学之士，探拟赍谬，耻营近实，虚务遐阔，未易凡鄙，便冀飞升，谓金丹坐延而仙籍立致。夫处心不置于道，练形未异于常，齿发不驻，颜色随谢，是气血内耗而容状外变，疾病未脱，嗜欲交煎，天生速死，不及常理，区区晨昏，多此类也。今所为异，必求良方。先验容齿，与俗流自别。知常限不迫，方可冀久视修仙，练神清虚，求饵芝玉。因约索精要，近拯形骸，有新闻闻，互相晓导。

晦叔异日谓余曰：有客话裴都尉者，鹤发早垂，童颜近复，访其所饵，曰：《灵飞散》之功，共知此方在《千金》第二十

八卷。

晦叔又曰：闻勋曹员外郎范阳君彝，常与修气道客吴舍人丹讲求此方。丹曰：《千金》近略，率多不真定。此方本出《太清仙经》，可求正文，如法合饵。君彝私志，亦未卜所获。时寓累于故李中书泌之宅，暇日偶入小佛室，有释籍盈几，皆断烂罕全，杂委无次。轴阅将半，忽遇一轴，标首完整，文墨其华，题曰《太清真经》，发视，乃《灵飞散》方卷。君彝执读，欣契诚怀，即赍灵文骤告于丹。丹焚香顶奉，涤手持捧，谓君彝曰：此真官曲遗灵应，特延纪于仙书，足观后学。

晦叔以余与君彝莫逆，分至传信，可凭约就咨访，便求传写。余驱乘诣门，问与闻叶，因得抄录，与晦叔同之。又方中味以云粉为主。

是岁余授钟陵奏辟，而庐阜在封部之内，炉峰跳波，脉注群壑。居人方士皆引湍春云，水沐日曝，流霜莹雪，九珠旋螺，宛若天造，货于村市，资为衣食，常肆所积，日取无限。此方难要，唯兹一物，有是行也，实天借心谋，亦将旁利同志，不然，何契会如此？似先约话。

余私贮灵感，不忘寝兴，行商洛数程，息豹藏邨。舍客有自内乡来者，曰：有邓掾融摄宰前邑，年逾从心之五而姿鬓不老，目童不昏，理剧接宾，与强仕等力。问其所得，曰：常获神方。余至邑征方，乃灵飞散所致。考其传授，乃药力验应。云：“昔岁见唐主簿，有道流口付说是灵仙上方，欲窥功用，可立变鬓发。”融有亲客，颜鬓已衰，将试灵验，因求合分。服三十日，客之容发顿易前状。融半剂之效，亦保数十年不改。恨其药力未成，便阙服饵，又远谪穷悴，资货多乖，今比凡流，犹有所异。复说：在长安日，传张裴二驸马，皆目变效，重符前闻。则此方神奇，验实相接，眼覩口问，积为明征。又孙处

士道门上流，精穷方要，掇此编录，固非偶然。

余与晦叔幸君彝之遇，果求而得之，约誓心服之，以邀效证，他日之异，续此编书。元和七年四月五日高阳齐推书心记实。

### 灵飞散方（出《太清经》第一百五十三卷）

凡欲致万神，求升仙，皆先洁斋清已，香水灌头，沐浴五体益善。百日之后，乃可致神明。欲求仙者，当从北岳西岳中岳真人灵飞散，得而服之，必得神仙矣。

真人曰：凡欲求神仙不老，长生久视，白发更黑，齿落更生，面目悦泽，肌肉有光，从表睹里者，当服灵飞散。

老君曰：此方术之要，神仙之道，必化之本。道士服之，神仙不难；术士服之，游于华山；凡夫服之，年去更还；老翁服之，返生童颜。

老君曰：服此药者，可以不老。十日服之，三年不食。服之五年，可寿二千六百二十四岁。我非一人，皆得真道，保成神仙。

云母一斤（炼成者）茯苓半斤（亦可一斤）柏子仁七两石钟乳七两菊花五两（亦可一十五两）术四两（一本人参七两）干地黄十二两（亦可十五两）桂心七两，续断七两

以丸物治下筛讫，以生天门冬十九斤捣糜，绞取汁，以丸此药，汁多可和之，汁少者溲之。著铜器中，悬著甑下蒸，黍一斛二斗，熟出药，曝干，更治捣之令细，筛。服一方寸匕，旦服，无毒可多服饵。当食十日，身轻；二十日，耳目聪明；

七十日，发白返黑，故齿皆去。若落去者而得更生。取药二七，七七以白蜜和之，捣二百下止，丸如梧桐子，可得八十一丸。曝令燥讫，视丸表里，相见如明月珠，或似萤火精珠，或赤或白，此仙人随身常所服药也。欲令头发时生者，日服此七丸，至发生，不白不落。若入深山不食，亦可作此丸，日七丸，不饥也。若头发不落未白，但可服散，可寿五六百年，不白耳。白者如前法，已白，服药，可至一百一十七年乃落耳。求道必仙，要至神仙，发齿更生，如三十时。求道服药，不头白。齿落者，老而服之，得仙之要。齿骨尸解，道之下者。凡作此《灵飞散》，服之三日力倍，五日血脉盛，七日身轻，十日面目悦泽、智虑聪明，十五日力作不知极，徐行及马，二十日力不复当，三十五日夜视有光。

### 治云母法

白盐一斤（和合）云母一斤（并捣之）

右云母糜，勿筛，内重布囊中掇铤之，水汰盐味尽，内绢囊中，悬令干，即成粉。一法以盐汤煮之，尽解如泥状，捣之为粉。

又法：云母一斤，大盐一斤，渍之铜器中三四日，蒸之一日，于臼中捣之为粉。

又法：用朴消水三升，煮治云母一斤，取成粉，燥舒之，向日光看无芒便好，有芒勿服，服之久后，病杀人，宜精治之。此本于卢司勋所得《正经上传》写记。经中云：捣云母糜，后入重布囊中，）掇铤之，令须入皮囊中）掇铤，大底不如取庐

山水) 礮舂捣者，最为轻细。自造恐功不至，忽有粗芒者损人，慎之！服药后，禁食鲤鱼，能断一切鱼为上，恐刀砧所相染害不轻。

又禁食血，是生肉、生干脯之类，血羹是熟血，却非所忌禁。生葱、蒜，生韭、酃醋、桃、李、木瓜、酸物并等不宜食。又忌流水，若江行及溪涧无井处，但煎熟食之亦得。大麦损云母力，亦宜慎之。服此药能断薰血，兼静修心气，得效尤速。不得面受，故此批上。

孙处士进《养生秘诀》云：臣遇此方已来，将逾三纪。顷者但美而悦之，疑而未敢措手。积年询访，屡有好事人曾饵得力，遂即服之，一如方说。但能业之不已，功不徒弃也。

## 卷七十五 方药部二

### 神仙炼服云母秘诀序

《本草经·玉石部》云：云母，味甘平，无毒。主身皮死肌，中寒热。如在车船上，除邪气，安五脏，益精明目，下炁坚肌，续绝补中，疗五劳七伤，虚损少炁，止利。久服，轻身延年，悦泽不老，耐寒暑，志高神仙。一名云珠，色多赤；一名云华，五色具；一名云英，色多青；一名云液，色多白；一名云沙，色青黄；一名磷石，色正白，生太山山谷、齐云山及琅琊北定山石间。二月采（泽泻为之使，畏鱼甲反流水。案《仙经》，云母乃有八种：向日视之，色黄白多青者为云英，色青黄多赤名云珠，如冰露乍黄乍白名云沙，黄白晶晶名云液，皎然纯白明彻者名磷石，色青白多黑名云母，此六种并好，服而各有时月。其白晶晶、色暗暗，纯黑若有黑文，斑斑如铁者名云胆，色杂黑而强肌者名地碌，此二种并不可服。炼之有法，唯宜精细，不尔入肠大害，人令虚劳，为丸散用之，并正尔捣筛，殊为末。出琅琊，在彭城东北，青州亦有，今江东唯有庐山者为胜。以沙土养之，岁月生长。今炼之用矾石，则柔烂如粉极细。畏百草上露，乃胜东流水，亦用五月茅屋水制之也）。

《本草经》云：云母，上品药，味甘，无毒。生太白山谷、

齐云山及琅琊北定山石间，二月采。泽泻为之使，有八种，各有名。向日视，乃别之。色黄白而多青者名云英，宜春服之，令人身轻，入水不寒，增寿四千年。

色青黄煌煌而多赤者，名云珠，宜以夏服之，令人身轻，耐寒暑，增寿三千年。

色如承云，乍白乍黄，名云沙，季夏服之，身轻生光，耐风寒，增寿二千年。

色黄白晶晶，名云液，宜秋服之，坚筋骨，通经脉，增寿一千年。

色青白多黑，名云母，宜以冬服之，身轻，入火不灼，增寿五千年。

色皎然白而明彻者，名磷石，四时皆服，坚筋骨，通经脉，增寿五千年。

色暗暗纯黑，若有黑文斑斑如铁者，名云胆，不可服，令人患淋发疮。

色杂黑而厚强肌者，是铜铁间杂，名地碌，不可服，伐人命。

又赤色厚重，名阳起石，是五云之根，别将入药用，不可服。凡五云之根，厚一寸，有一千八百年，重以土沙埋新盆，盖，着阴地，岁月既久，便自生长。

又云母五名：第一精者名云光，第二名云英，第三名云珠，第四名云母，第五名磷石。

### 炼云母法（凡十方）



炼之法，先薄擘去沙土，亦可先以东流水渍数日，乃槌破而擘之。讫，又以水淘沐百许过，极令清，乃随迟速用之。迟用者，当以五月久茅屋漏水，于白瓷器中渍之，百日漉出。若有水垢不洁，更以东流水浴之数过，漉令燥，其浮浊细者，亦别器盛之。八月中，以新布两人各持一端，亦可系竹竿头，于山野净草上拂取朝露绞汁，随复拂汁，足淹云母乃止，不必一朝取足。又以渍云母，六十日已外，便可取用。著温暖处，勿令寒冻。欲为粉者，便漉取令燥作熟，皮囊盛，急系口，手掇捺之。从旦至中，碎靡靡出，以绢筛过，余滓更掇捺，取尽止。若犹不细，以指捻看，尚见灵灵星文者，更于大木盆中，以少水搜如泥，研之良久，以水淘沐，细绢滤漉取余滓，更研淘取尽，清澄之；亦可掇竟旦，以纱葛粗筛之，乃于白瓷燥盆中研之，绢漉如法，亦善；亦可先研，以粗绢澄，令燥，乃用皮囊掇，细绢筛之；亦可露水渍，百日出，令燥，捣，以绢囊于水中漉汁，澄干治之。凡如此，皆成粉，唯令极细如面，指捻无复光明，乃佳。若犹嫌不精，可以露水煮粉散沸，出，口悬燥，乃更臼捣，重绢筛之。速用者，取洮竟薄擘，绢囊盛，内汤中，出，浮寒水中又内汤，又浮水中，如此十过易水，令冷，候视软，出曝干，革囊，槌便成粉。

又法：取矾石三斤，皮囊盛，没汤中，令消释，乃以云母渍汁中一宿，则软如纸。更水洮去沫，研掇，所宜，急成粉。矾石有微毒，特须洮去。

又法：矾石四斤，以东流水四斗渍之，取汁，以黄瓷器盛。云母十斤，烧令赤，内汁中，又出更烧，使三过止。加盐如鸡子大，内汁中烧，投令汁尽乃止。水洮去沫，渍澄自碎成粉。若不甚细，更掇筛之。用硝石亦佳。

又法：云母十斤，葱白五斤，盐三升，水淹煮之。葱出，

以水洮去盐味，研授随意，则成粉，务其精至也。

又法：捣麻母叶汁，以渍五云母，则糜如泥，研成粉。麻母生山谷，其树如梓样，纯白色，叶似樗而细，折之有白汁，山人蒸食之。

又法：露水八升作汤，分半洮洗云母二十斤，如此再过。又取二升作汤，内芒硝十斤，以云母渍中，二十日出，绢囊盛，悬屋头，使见风日，令燥，以水渍漉，皮囊槌之，从旦至中，乃细绢筛，滓复槌，令得上好粉五升。

又法：薄擘云母十斤、硝石二斤，绢囊盛，置铜器中，酒一升、水二升半，合炭上煮之沸，出囊，投寒水中，用酒复煮。如此十上十下，靡靡然，于水中槌汁出，清澄成粉。此出《玉清法》。

又法：取成汰云母，以地榆灰汁渍一月，细滤，治碎令熟，又以沸汤濯之，去灰炆，十余过，凝干。取十斤煮，以桂五斤，细槌研，以水二升半煮之，令桂无味乃止。去滓取汁，以解云母如糜。此《崔文子法》。

又法：苦酒渍云母，四十五日，出，治之水渍，搅去酸味，凝之，单绢袋盛，水中授，令汁出，澄之。此《越师法》。

又法：以茅屋水三升，铜器煮沸，同矾石三两，掏滓，内云母一斤，煎五六沸，出，干治，洮为粉。凡炼治五云，惟宜精熟，不尔伤藏致疾，或于肠中生长，不可复治，故方家殷勤备说（治之以火不如汤，多服不常，不如少服而长久也）。

### 众仙服云母法（二十六方）

中山叔卿柏桂下玉匱素书云母方

取云母五色具者一斤细擘之，以茅屋溜水，惹秋，百草上露以渍之百日，内革囊槌之，绢筛，着竹筒中，塞口悬甑下，白沙一石填其上，蒸之一日，炁达，去之；更内黍稻米一石，蒸一日，炁达，又去；更内稷稻米一石、蒸一日，炁达，去之。乃以白蜜一升和合于铜器中，汤上煎令可丸，丸如麻子。以星宿出时，一服三丸，日再。三十日加如梧子大三丸，常以鸡鸣服一九。三十日身轻目明，五十日腹中痒，七十日三虫去，八十日皮肤光，九十日入水不溺，面白、易骨，三百日走及奔马，一年为真人。又云：年七十已上，四百五十日已后，乃得仙（此是用一斤法，多合者益之。一云用二升）。

尧师方回自服云母方

取云母粉三斤、云滋五升，煎之且竭，内松脂三升洋，又内崖蜜三升合蒸之。从旦至暮下，寒暑自凝。如饵服，如弹丸，日三服，可饮水而食枣七枚。久服腾山越海，神仙长生，寒暑不侵也。

又韩众服云母方

云母粉一升，大麦屑二升，合煮令熟，去滓。服其汁，身光长生，亦能度世也。

赤松子服云母方（凡二方）

云母三斤，硝石一斤，以醇醪酒渍云母三日，细破，内生

竹筒中；以硝石俱内。复以升半醇醪酒内中，火上煎干，搅勿住，须臾如膏。出置板上半日，当细成粉。平旦，以井华水服寸七，日一服，百日三尸下，正黑如泥，盛以筒，葬之于冢。次百日许惆怅不乐，过此乃佳。二百日还少如童子，药尽更合。

又方：葱白蒸捣，绞取汁二升，桂屑、云粉各一斤，合内生竹筒中，安一石米下，蒸之成水，曝凝干，服之，还老如少童。云母、泽泻为之使。

又方：云母一斤 泽泻二两（末） 天门冬八两（末） 茯苓八两（末）。

右四味和为散，每日清旦服方寸七，渐至三七日，酒下佳。九仙君曰：以白露水和，露粉服一方寸七，日三服，一百日光生，二百日三虫伏尸下，其恶血从鼻出。夫人禀性不同，受炁亦异，或虚或实，有热有寒。初服时皆有觉触，以意消息：如觉体中热，唇口干燥，即须加三两味冷药，和粉服之；若觉冷，即加热药，候炁宣通，脏腑调适，然可单服，服时乍少，常令不绝。初服粉，苕胜一升蒸，曝干，研碎，水淘取汁，以粳米和汁作粥，稀稠得所。如人腹内暖，用粉一七和服。缘粉膩。苕胜粥，得滑利，流向下。凡人皆上热下冷，然久可依方服之。

《九仙经》云：云母者，千二百种之精，七十二气云之英，体精而光，不为水毁，不为火焦，天地相终，日月同耀。采云母，取山阳面者为佳也。

### 炁先生服云母方（凡二方）

薄削生竹筒，盛白盐半升，木盆盖，漆之，埋井傍湿地，深五尺，十余日为水；又内硝石一升，化为水；乃内云母粉二斤，复漆固口，埋之十日出，与白蜜分等，铁器中蒸之凝。如

饵服或丸如梧子，日三服，身光耐寒暑。

### 玉清服云母法

取前方所捶成粉者一斤，麦门冬屑半斤，白蜜半斤，合和，内生竹筒，蜜盖之，蒸三斗粳米下，半日许出，当如饴状。常服弹丸大，日三服，长生不死，惟志服之。

### 崔文子服云母方

取前地榆灰所渍成粉者，用青竹筒各长尺五削去皮，盛之，令不满五寸，以縑掩口，悉住甑中，细沙壅之，竹口出沙上五寸，蒸之一日。可复悉取置新瓷瓶中，縑塞口，漆周密之，以春分日内井底，秋分日出之。先取白蜜一升，炼牛脂二升，蜡半斤于铜器中，微火煎，和合，乃内云母。又煎，可丸止。吞如梧子大三丸，日三服之，三年则不饥渴，耐寒暑，不畏风湿，五年白发却黑，形体轻强，长服神仙。

### 越法师服云母方

取前苦酒渍成粉者，以生竹汁微火煮之，三日三夜已。更以清水炼之，干，三十日后，以葱涕和如糜，于瓦器中蒸之半日已。出干之，和以白蜜，服如梧子大三丸，日三服，神仙度世。

### 越女元明服云母方（凡九方）

云母粉十斤，先取竹汁一斤内器中，肉桂半斤勿屑之，合盛蒸之五日五夜，当水尽为度。出，内铜器中，真丹二斤、白蜜三斤，搅令相得，复蒸一日，当如饧状。盛以竹筒，丸之如酸枣大。每日服一丸，一月服之还年，满一岁成童子。

又法：捣葱白华，绞取汁二升，肉桂屑、云母各一斤，合内生竹筒中，蒸之一石米下，成水，曝凝干治。服一刀圭，日三服，二十日还年十岁，有童子色；四十日似婴儿，百日入火不热，入水不寒。

又方：先以桂屑一升蒸成水，乃内蜜、云母于中，又蒸之成膏。服，美酒下之，一月觉效。

又方：桂十斤，削取心，得三斤，捣筛，葱白花四十斤，熟捣，绞取汁，和桂屑，内生竹筒中，盖实，密口，悬蒸黍米五斗，熟即化为水。又内云母粉一斤，一日复为化水。日服一椀斗，日三服，二十日貌如童子。

又方：葱涕和桂屑，渍之三日，绞去滓，以和云母粉，内于薄竹筒中，密固口，内醇苦酒中，二十日成水。服之一椀斗，日三服，寿数无极。

又方：葱涕三升、桂屑二斤、云母屑五斤，合捣，和内生竹筒中，埋阴地，入土三尺，百二十日尽化为水。服一椀斗，日三服，服之长生。

又方：葱涕五升、桂屑半斤，合和，铜器蒸之，又内云母一斤，埋地中与地平，密盖三日，尽为水。服一勺，日三服，长生不老。

又方：云母粉一斤、白蜜三升，内铜器中，漆固口，埋北垣下，三十日出之，器中已化成浆水。饮之多少自在，服二十日身生光，三十日风湿不伤，百日成童子。

又方：云母五色具者，细擘，于硝石汤煮沸，即投寒水中，

如是九度止。乃以日干之，盛铁器中，烧之与火同色，即出，注白蜜中搅之，相得如糜，乃以绢绞去滓，取汁，寒凝如膏。先食，服如弹丸，日三服，神仙长生。

### 老君饵云母方（凡六方）

云母粉一斤、硝石白者一斤，捣筛，白蜜三升，都合，搅如粥，内生竹筒中，漆固口，埋北墙下，三十日出之，盛铜器中，稍稍似水若酒中。服二十日身生光，三十日露不著身，五十日入山辟虎狼、水火不能害，百日出窈入冥，纵横反覆，便成仙人。

又方：云母粉一斤，虾蟆脂如弹丸，白硝石、寒水石各如弹丸，舂内竹筒中，牢密封口，埋湿地，深四尺。九日出，以涂手，执火不热；如热，更埋七日乃成。可服之。服药一升，日再服，百病除，身面润泽，二百日与天通达。

消玉石法：取美玉一斤，细末之，内云母水中，十日乃消，可服半斤。诸石屑内中皆消，不但是玉。此方秘妙，勿传。

又方：云母粉二斤、硝石一斤，合捣如泥，内中，漆固口，湿地埋深三尺，亦可悬井中，去水三尺，十日化为水。服一椀斗，日三服，稍加之，却老还少，身形光泽。

又方：云母粉一斤，薄削生竹筒盛之，朴硝二两，置上。密封其口，内蚕屎中，七日化为水。出凝，蒸之，填以黄土，三夜或至四五日入消。更以黄帛三重密固，置阴花池中，七日又为水。出曝屋上三日，下内五六丈井，勿至底，十日成饵润泽，名云液。服一刀圭，日三服，洞视千里，百日长生。

又方：云母粉、天门冬屑、茯苓屑各三斤，合治白蜜，丸如梧子大，服三七丸，稍增至三十丸。十日后，日再服，二十

日后，日一服。欲服云母，先须作此法服，然后可单服饵。凡服云母，禁房室，履淹秽，及食五辛血腥之炁。

### 仙人炼食云母方

此方所以不依古方，是东海女子卖盐与蒙山隐居，遂求隐居得之。方云：凡服云母粉，须煮一碗粳米粥，稀稠得所。著一匙云母粉，熟搅和，服之。《仙经》云：此药多能，述之难尽。凡欲合药，先须祭灶。办以种种香华、五果、酒浆、酥蜜油等，大须洁净。药成之后，百无所忌。凡合药必须择神临日。案经，用成、除、收、开、建、满日，神必来临，药何不有神验？不得用执、破、闭之日，合药不好，服无验不效。又欲得春夏合佳，或初秋七月亦得，八月半已后不得，承冷，虽成不佳。又不用近火，亦不用汤渍，药大忌。其药欲得，瓷器盛服之佳。又云：欲玉碗铤研药益人，渍云滋最佳。已前并神仙秘法，传者勿传非人，藏之金匱。臣法藏言：“臣少长寒微，早婴疾瘵，遂投山谷，寻访良医，因之服饵，绵历年载，云云。

### 真人常服云母方

捣葱白茎汁二升，桂心半斤，以葱汁和云母一斤、蜜半斤，总内生竹筒中，蒸一石米饭中，药成为丸，服三十丸，日再服之，获神仙云母上药为君。主治万病，略之如前。唯禁血、葫荑、生鲤、鱼脍，迎三送七，已后任食。

凡服云母粉，老人服之三七日，骨髓填满，舌声清亮，丈夫弥健，是药之验也；少年服之，二七日有验。已前虽明服法，未明冷热。大便秘涩，和饮服之，如冷，大便滑，和酒服之，



良。

### 刘炼师服云母方

采得云母，礼先以木槌侧打，令叶叶开，去沙石，讫。以布袋盛瓮中，取东流水浸之，每五日一易水。浸二十日已来，便漉出，于大木盆中淘洗，以净为度。然即却入布袋盛之，内釜中，依前法煮一二十日，候水减即添之，每五日一易釜中旧水。第一度易水即除却，第二度易水即须澄。取云母粉，却入袋中，煮，但候釜中云母捻如面即止。还入木盆中淘洗曝干，以木杵臼捣为粉。其捣时须纸帐中，勿令风尘入捣。了即依前法，入绢袋，摆入瓮盛。欲煮云母时，先须煮五茄、地榆，取浓汁，以大瓮盛之，用此水旋旋添入釜中，依前法煮之。如无消石亦得，校难烂。每斤五茄，即取二斤地榆，触类而长。凡择云母，须去黑硬及瑕翳者，但向日看光明透彻，青白者为上。

### 化云母为水法（凡三方）

取葱涕，如无涕，取葱熟研代之。掇取桂心捣为末，消石研之，以二味拌云母粉，埋向墙阴地，一月日并化为水。李夫人云：但取葱汁，和蜜，拌云母，化为水，尤胜硝石。云：硝石损骨。如上二法，皆应以青皮竹筒中盛之，密固其口也。

又方：云母粉二斤、硝石一斤，合捣如泥，内 中，漆固口，埋地深三尺，二七日外，取，悬井中，七日化为水。

又方：云母一斤，白蜜三斤，合和于铜器中，微火煮之令沸，以一器覆上，漆固之，埋北壁下，入地三尺，四十日化为水，名曰云母浆。服法：粳米饮下。

### 李大夫化云母粉法

取云母侧敲，重重劈开为叶，便入铜器中，煮十数沸，令暖炆彻。即以滋布缝作夹袋，以前件云母入袋中盛之。又于盆中泻暖水相和，熟授，若得白汁，旋倾入别盆中。又用暖水和授之，候得浓汁，即泻入别盆中。以云母汁尽为度。即取诸盆中，合入一盆，又重入夹布袋中重夹过，还依前法泻入通油盆中，以云母汁尽为度。又取前件云母，重入夹绢袋中过，依前法授之，候云母汁尽为度。如此两遍，入夹绢袋中授尽汁过，其粉始精细。都向夹绢袋盛之，悬于空处，沥水尽，即以瓷钵收之。

### 道者炼云母法（白云明彻者为上）

云母不得用铁器修，砂盆中煮炼为上。云母一斤，白矾石四两，以研碎，百沸汤化为浆。初但矾汁拌云母，袋盛，蒸七日后，更入矾汁，渍之，一月日并为粉，讫。以三重绢囊滤之，水飞，澄停为粉，讫。即以黄溪砂中蒸之七日，亦以矾浆拌之。

成粉云母一斤，用白蜜二升炼蜜澄滤，讫。入竹筒，以漆固口，埋入地三尺，一月化为浆。如未成浆，浊在，更埋半月日时，寒即一月，成也。服法：每日空腹，以井花水二合，调云母浆一合服，饮少酒无妨，忌羊血。

### 煮云母法（凡二方）

云母五十斤，硝石半斤，取云母侧打，擘成叶讫，便入粗

布袋中，于清水中摆洗，去秽令尽。然始入釜中，和硝石煮六七日，当烂成粉。

又取五茄皮及葱涕煮云母，但得一复时，便烂成粉。其成粉云母即入绢袋中，选过尤妙。

### 真人服水云母法（凡三方）

葱茎取汁，桂一斤治下筛，云母一斤粉之，合盛竹筒中，蒸之一石米，顷减火使凝，令干。服方寸七，日三服，三十日颜如玉，服百日入水不溺，入火不烧。云母有五种色，今时人多不能别。法当向日看其色，详瞻视之，乃可用耳，正阴视之不见，其杂色并见。如多青者，名云英，春宜服之；五色并见。如多白者，名云液，宜秋服之；五色并见多黑者，名云母，宜冬服之；但有异色多者，名云沙，宜季月服之；其色晶晶纯白多者，名磷石，宜四时服之；色如黄而坚者，名云精，春秋冬夏常服饵之。

五云母之法，或以桂、葱、玉和之为水；或于铁器中以玄水渍之为水；或以硝石合内竹筒中，埋之为水；或以蜜酪为水；或以秋露渍之百日，以韦囊盛之为粉；或以无心草汁合饵。服之一年则病愈；三年，老翁化为童子；五年，役使鬼神，入火不烧，入水不溺，荆棘不伤，与仙人相见。又他物理之则腐，火之则焦，云母内火中，至时不然，埋之不腐，故能令人长生。

又云：服之十年，云母悉常覆之，纯黑起者，不可服，令人淋、发疮。唯当以饵之，皆当以茅屋雨水，东流水，若露水渍之，百日沙汰去土石，乃可用耳。

又方：捣葱茎绞取汁二升，桂一斤捣下筛，云母一斤粉之，三物都合，成竹筒中蒸之，炊一石米顷，一日化为水。出凝之，

曝干治，服一方寸匕，五十日作童子，百日入水不溺，履冰不寒。

### 神仙服云母方

取云母五色具者十斤，细擘去黑者，取精光明净者。八月露时，以露粉成，务令细熟，向日看无芒，乃可用也。取成粉二升，内生竹筒中，密塞其口，甑中蒸之，又以白沙覆上。蒸之一日一夜，去沙，更装一斛黍米，复蒸一日一夜。去黍米，覆装稻米，复蒸一日一夜，乃出云母，内铜器中，加云母一升合和之，浮于镬汤上，煎之半日，云母消尽，令可丸，丸如小豆大。以星宿出时服三丸，日三服，至十五日后体轻；鸡鸣时服三丸，复十五日后，增四丸，日三服，十五日后体轻，目明；五十日后肠化为筋；七十日三虫伏尸尽下；八十日身光润；九十日入水不溺，入火不烧；百日后皮肤更生；二百日更易筋骨毛发；三百日后行如飞龙，走过奔马；一岁仙道成矣。二十至四十，服三百日得仙；五十至七十，服之三百六十日得仙；八十已上，服之四百日得神仙矣。云母者，五石之精，天之精气，日月之光，神仙之药，非贤勿传。

### 真人食云母方（凡四方）

云母五斤、松脂十二斤、茯苓十斤、附子四十五枚、蜜蝎十斤，凡五物合捣三万杵，细末，曝干，作三斗淳苦酒，内中封令清，使得一斗五升。不津器盛著，众手搅令相和，埋著地中，满千日乃出，药自成无疑。药成时，其香三里闻之。服之一斤，身中三虫伏尸尽下，百病皆除；服之五斤，身中空虚，

颜色甚好十五时；服之六斤，身飞行，手摩日月；服之七斤，无所不能，出没自在，在处随形入道，教化群生，密过人间，诸有厄难者，皆能救脱之。领立诸仙，兴显大法，随所教化。此药神秘，非贤勿传。

又方：葱涕和桂屑渍三月，绞去滓，取水和粉，内竹筒中。筒须削刮皮令薄，密内浮醢中为酿酒瓮，二十日成水。服之当神，不复衰老矣。

又：云母粉一斗，大麦二升，合煮熟，去滓。服其汁，身即生光，长年不老。

又方：桂一十斤，削取肉，以得三斤，捣筛。葱白四十斤熟捣，布绞取汁。桂屑内竹筒中，覆盖上，密封口，悬蒸五斗黍米下，熟为水。内云母粉一斤，一日复化为水。日服一盞，四十日，状貌如童子。

#### 云浆法（凡二方）

云母粉一斤，硝石四两、朴硝二两、白蜜五升，右蜜煎令相得，和云母粉如煎饼面，以竹筒盛之，用盖盖之，以泥四边，勿令洩泄，埋地中一二尺许，一百五十日熟。服之，光泽肌肤，颜如童子。

又方：云母粉一大斤，泽泻四两，蜜五升（煎去二升，取三升），朴硝四两，硝石四两，桂心三两，右件云母粉，等和如煎饼面，以竹筒盛之。其竹筒去青皮，漆，固济其口。待漆干，即埋于井北，去井三尺五寸，深七八尺，用手下土实之。埋一百五十日乃出。其色凝碧，洞彻清明，可服之，百病立愈，久即长生。

赤松子见授云母神散方

吾见上仙真人学道，游山下，戏大海之滨，见一丈夫沐浴，光白鲜明异常，而问之，云：吾服神散，而得身光白鲜，如是也。因见遗方，云：日取云母粉，清旦，以井华水服之方寸匕，即身先光泽。

### 蒸云母法

法须东南作灶，釜上烧桑柴，蒸之九日九夜。凡煮云母一斗，用盐花二升和之。

终南卫叔卿柏桂下玉匮中素书服云母粉方

右以云粉一斤、白蜜一升，合于铜器中，重汤上煎令可丸，丸如麻子。以明星出时服三丸，鸡鸣服七丸，三十日身轻目明，五两腹坚，七两三虫下，八两皮肤光泽，九十日入水不濡、入火不灼，百日易骨，二百日走及奔马，一年飞行自在，便可升仙。

### 云母长生断谷丸方

云粉三斤、白蜜二升，铜器盛，汤上煎，以淡竹沥三升渐添令尽，用篥左右搅之，勿令停手，以竹沥尽为度。合时，须护净，勿令鸡犬妇人见。服时先吃一顿好饮食，任意食之，尽饱。明旦，空腹，即取药一丸如鸡子大，向生炆方服。渴任饮，食淡面饼、枸杞、蔓菁、苜蓿、龙葵等。服两剂，万病出，齿落勿怪，不经月必更生平复。凡欲食面时，皆著三两匙云粉，相和作食，不觉有别异。

### 云浆法

云母粉一斤，白蜜三斤，右和合铜器中，火上令沸。停冷，以内新瓷器中密封，以板覆上，乃埋北壁下，入地三尺，四十日化为水，名云浆。先斋戒三十日，以王相日平旦，取井花水一升、云浆一合，和饮之，日三服，身出光泽，临云不著，降玉女，感神仙。

### 服云母畏忌法

芹菜、葫荽、猪肉、鳝鱼、大麻子、鲇鱼、诸陈臭等味，不畏触药，但恐损粉力。黄衣米醋亦不可吃，制粉力难行，糠醋稍通吃。若但拟求治病补益，延年增寿，亦不假须断荤茹血肉。若修仙道，须特慎之为佳。

### 韩藏法师疗病法

疗人五劳七伤、，虚损发汗出，以粉粉身，手摩之，云粉入肉不见乃止。加食即汗出，并是虚也，数数粉摩之。欲除肌肤中风，能多涂身，令人骨腻。疗人疳湿癣疮，以粉和粳米粥，服之，差即止。疗人金疮，以少许内疮中，粉和粳米粥，两服当差，如差，永除痕迹。下部病五十年不差者，日服粉二度，二十服永差。十余日断五辛、葫荽、猪肉、生冷。

疗时行疫毒、壮热头痛、心腹胀满及患黄，以粉三两和粥半碗，稀稠得所，冷暖如人体，日三度，服之立断。

疗金石发动、头痛身体壮热，以粉一匕，和冷水二合服之，日三度即止。疗患偏风、半身不遂、口喎面㞞、精神闷乱。每日以两匕和饮服之，以差为度。兼以粉摩身，极佳也。

疗七种风气冷热炁、心腹胀满、连胸彻背、痛无常处、胸中逆气，以粉一匕和酒三合及粥等，日三服，以差为度，神验。

疗骨蒸虚热，唇口干燥、四肢羸瘦、不能饮食，依前方服粉，不过三斤，悉皆除愈。

疗十二种心痛飞尸，但依前服之，亦愈。

疗白痢多年不差者，用三七粉和粳米粥服之，二匕立效，忌血食。治带下不止，服诸药不差者，以粉内下部，兼依前法服，立愈，验。

疗刺风如行针刺，如前服，并以粉摩身，特忌房室、五辛等。

疗虫毒下血不止，及三虫痔漏，如前服，验。

疗服中冷，食不消，将粉摩身，并以方寸匕，好酒冷合和服，无不差。

疗冷及痲癖、症瘕者，但准前，以清酒服之，不过三斤，永除。曾有人被蛇咬踝上，通身肿，苦痛甚，不得屈伸，即以针刺歇其毒炁，以粉和酒，服三两匕，兼将粉少许涂所咬处，少许时毒汁出，即当消歇。比见有人因醉乱，以刀刺著三处，皆深，腹漏，诸药不能救。遂将凝粉三七为两服，服之，凝血内散，经一食久，即下部血出并鲜血片，便无痛苦，涣如冰释，因知破血有验。



## 卷七十六 方药部三

### 灵宝还魂丹方（并序）

夫人生稟于五行，拘于五常，则为五味之所贼，八风之所攻，爰自饮乳至于耄年，莫不因风而丧命。或多食而过饱，或失食而甚饥，或饮啜太多，或干渴乏水，或食咸苦，或啜酸辛，或畏热当风，或恶寒亲火，或庭前看月，或树下乘凉，或刺损肌肤，或扑伤肢体，或时餐燥药，或多啜冷浆，或久绝屏帟，或日多施泄。自此风趋百窍，毒聚一支，遂使手足不随，言词蹇涩。或痛贯骨体，或痺袭皮肤，或痒甚虫螟，或顽如铁石，或多痰唾，健忘好嗔，血脉不通，肉色干瘦，或久安床枕，起坐须臾，语涩面虚，虽活如死，或总无疾苦，辛暴而亡。男即气引于风，女即风随其血，未有不因风而丧命者也。世人不能治其风，但以药攻其内，安有风在五脏六腑之中，四肢百脉之间，而汤饮之类，曷能去乎？假令相疾，而医用药乖误，虽《难经》、《素问》三世十全，欲去沉绵，其可得也？

余久居太白，抱疾数年，万药皆施，略不能效。后有一翁遗余此药，服都五粒，疾乃全除。稽顙叩天，求其药法，然肯传授，誓不轻泄。余故录于右，置诸灵室。后人得之者，宜敬之！无或轻慢，自贻殃咎。但依法修炼，何虑不神。

夫灸药制烧药，烧药制煮药，煮药制生药，生药使煮药，煮药使烧药，烧药使灸药，递互相制，递互相使，君臣俱具，父子固全，遂得阴阳，各有其绪。阳药制阴，以引其阴；阴药制阳，而引其阳。此药虽不能致神仙，得之者，但服一豆许，则寿限之内，永无疾矣！如已患风疾及扑伤肢节，十年五年运动不得者，但依法服之，一粒便效，重者不过十粒。有人卒亡者，但心头未冷，取药一粒以醋调，一粒摩脐中一千余下，当从脐四面渐暖，待眼开后，热醋下一粒，入口即活。但是风疾，不拘年月深远，神验不可具载其功力。每丸如芥子大，日曝干，收之。凡疾人不问年月远近，先次以红雪或通中散茶下半丸，如或风湿甚者即一丸，良久，以热茶投之，令患疾人泻三两行，依法泼姜豆汤下一粒，当以他人热手更互摩之患处，良久热彻，即当觉肉内有物如火走至痛处，所苦当时已失矣！一二百日及一年内风疾下床不得者，服一粒后，当时可行步，一如不患人。至重者，每泻后，服药一粒后，歇三五日间，依前服红雪，先泻后服丹药。但每日服不过一二粒，平复如本。打扑损多年者，天阴即疼痛动不得者，尤验。只可一两粒。服此药多者，疾愈后，药力当伏脚心下，男左女右，但有所苦，发心念药，随意则至。此药神验，功效非智能测。其法：

光明砂一两一分，阳起石、磁毛石、紫石英、自然铜、长理石、石亭脂、雄黄 已上七味，各三大两。

金薄二十四片，光明砂研如面，以荞麦灰汁煮三日，淘取秤；雄黄研如面，醋煮三日，淘取秤；石亭脂研如面，酒煮三日，淘取秤之。

已上五味，各四大分，研如面，生用。

远志 巴戟天 玄参 乌蛇 仙灵皮

已上五味，各五大分。

木香 肉豆蔻 鹿茸（如干柿者） 肉桂

已上四味，各六大分。

延胡 索木 胡桐律

已上三味，各三分。

石硫黄 雄黄 朱砂 自然铜

已上四味，同一瓶子，入金薄覆籍，不固口，以火灸三日，火常去瓶子三寸，不得甚热。

阳起石 磁毛石 紫石英 长理石

已上四味，同一瓶子内，以金薄覆灰，埋瓶子一半歇口，烧三日。第一日火去瓶子二寸，第二日火去瓶子一寸，第三日火近瓶子，至夜锻通赤，无火毒。

又钟乳十两，以玉槌研七日，如面即住，用熟夹绢袋贮，系定头边，悬于锅中，煮以水二斗，煎取一斗，内取钟乳水三合，研生犀角一千下，将此水别收贮，候入皂荚仁时同研用。又将其余钟乳水煎远志等五味，仍加蔓菁子五大分，拍碎同煎，令水至七升，去滓，取此药水，又煎青木香等四味，至四升，去滓。又取药汁煎半夏（只以汤洗十度，拍破），当归（细捣），二味各一大两，煎至三升，去滓，澄净。

又地黄汁一升、无灰酒一升、童子小便一升，此三味与药汁三升，都计六升，于净器中，文武火养成煎候至一升，即下诸般金石药，搅勿住手，待如稀粥，即去火，下雄黄等五味生药末，熟搅令极匀，即下皂荚仁（炒其子，打取仁，杵为末，秤取六大分），龙脑二分于盆内研如面，入药中。并所研犀角汁，同入于乳钵中，令壮士研三千下，候可丸，丸如芥子大，不得太大。此药功效，造化无殊。又此药就后，分为三大分，如品字，取一口，即一分也。

又加炼了芒消一大两，名为破棺丹，芒消即上好蜀消，有

锋芒者即得也。于铍子内火上炼令汁尽，取为末，入于药中。或有暴亡，不问疾状，但肢体未变者，可破棺打齿，热醋调下一粒，过得咽喉即活，十救八九。其丸如绿豆大，余砂并依歌诀。

### 还魂丹歌

硫、雄、砂隔铜居上，磁、起、长棓紫作头。金上下三中各二（第一句说石药四味，依此次第入瓶子。第二句说四味，亦依前次第入瓶子。第三句说金薄上下各三片，中间两片隔石药），此烧铜炙满三休，（一瓶烧，一瓶炙，依药法，三日止），乳烹四五俱归一（乳即钟乳，烹即煎也，四五二十也，乃二斗水煎至一斗也，是归一斗也），取一仍须十一修（即此一斗钟乳水煎草药十一味，云十一修也），煎到三时还要出（即煎至三升也），地和童酉一时勾（地黄、酒、童子小便三物是也），去火石归安静室（是去火入石药）。待如肌肉五生稠（肌肉，和入体也。五生，即生牛黄五味用也），别盛三合钟间水，外边千下转犀牛（此即钟乳水磨犀也）。

修金碧丹砂变金粟子方（治一切风，延龄驻颜，治万病，兼化宝）

先作泥球子，泥用黄丹、白土、瓦末、盐、醋溲。用蜡为

胎，不得令有微果。阴干，傍边安孔，去蜡更烧过。即取好光明砂研捣为末，以纸卷灌入了。用一大蚯蚓和球子泥，捣泥令烂，却固济孔子，待干。更打一铁钗子，安于铁鼎子中，安置镕铅汁入鼎中，其上可二寸已来。即以糠火养，长令铅软为候。如此一百二十日加火，取出，更于地上以火锻过，候冷出之。其药如青紫螺子，拣取黑末不中用者，分药一半，以青竹筒贮，用牛乳蒸五遍，三度换乳，乳皮堪疗黔黯。取出，入地坑子中三宿，细研，以粟米饭为丸，丸如粟米大。年四十，日一丸；年五十，日二丸；年六十，日三丸。其力更别，不得多服。治一切风，延龄驻颜，治烝益颜色。余者细末于甘锅中，用好黄矾一两，以砂末上下布盖，固济头，干了，灰火中养四十九日，以大火锻，候冷开，皆成金粟子。取鼠尾一写，鎗三两，用半分真庚，先于甘锅内熔引鎗，乃下三四粒子粟，便化为真西方也。

### 修羽化河车法

光明砂四两，拣取如皂荚子大者，爪州黄矾半两，已上取三年米醋拌，细匀如泥，将用一一裹其朱砂，待干；别取上色西方半两打作薄，剪作小片子，更裹砂子；然后取武都上色雄黄一两，曾青一两，细研，以左味煎，以胶调，将雄、青末，捏成小饼子，将裹前砂，待干；捣盐醋为胶泥，更裹一重；总了，直待干。用真铅为柜（铅则别有法）。更烧三遍出，寒之，乃捣筛如法。取铅银六两，打作合子，其合子须相度。处口拒，深下二寸四分，深广上一寸二分，即取真铅铺于合底，可二分，

即排砂如莲子样，更以真铅盖，更铺砂，重重取尽了，即以真铅盖，却取满合，却先打银束子束定，六一泥固济，待干。取五斤盐，用消石炼过两度了，细捣筛。取铁鼎可容得前合稍宽者，实其盐，捣作陷合处，是为外柜。以盐镇持了盖，却铁筋贯定，固济待干，掘一地炉，深一尺六寸，阔一尺四寸，以马通火，糠火烧四十九日。开鼎，以铁筋拨盐柜看银合柜变为金色，即去火取出。如未，更烧七日取。待冷开合，剥下黄矾及雄、青，留著。取一粒细研，水银二两于铛中微火，取药半豆大糝上，便干，锻成宝，且惜莫用。

别取光明砂十二两研碎，和前伏火砂同研，依前用米醋煎，搜成团。取前内柜细捣筛，筑为柜。即取前剥下者雄、青细研，铺底了，安砂团，更以盖子上，便著柜，未填满，依前来固济。待干，入鼎，别泥炉，著草灰半斤，火养一百二十日，以大火锻，出炉取药，如前，当成上色西方也。此名第二转紫金河车。

若要服食，出毒，入寒泉一月日，却以乳蒸，用楮汁丸，丸如粟米大，延龄，治万病，每日服只可一丸，若志心尽一两，寿年五甲子，神秘。不得偶然轻泄，传非道之人，受其殃考。

### 神室河车方

别取光明砂一斤细研，以左味拌。取一瓷鼎子可贮得药者，将拌砂筑成柜，将伏了砂细研，醋调泥柜内。干了，著汞八两，以二两火入炉，养一百二十日成紫金。即将投名山，不宜用，告上玄，书名仙籍也。其神室收取，要用时，坐于灰中，著汞

六两，用二两火养一复时，成真上色西方也。《参同契外丹》亦云：龙虎之诀，即金华黄芽之品秘。

### 九转炼铅法

取铅十斤，汞一斤，以器，微火熔之，用铁匙掠取其黑皮，直令尽。每一遍倾在地上，复器中熔之。凡如此九遍讫，即下汞，即用猛火熬作青砂色，如不散，即糠醋洒之，即变为青砂矣。更于一铁器中盛醋，倾砂醋中讫，用铁匙研令熟。又醋烹，添取铅黄于瓦上令干。取黄牛粪汁，并小大麦面亦得，和所熬青砂，作团如鸡子大，或作饼，日曝干，一本云：阴干。于燎炉火上鞴袋吹取铅精，名铅丹，其性濡，更著器熬，令至熟，其色尽赤，又出，醋中研，令至熟澄，著瓦上使干，于器中熬令熟紫色。又别以一器，取好酒一升，下赤盐二两，和投器中，相得，即取紫色丹，一时写著酒中，待冷出之，此即名九还铅。丸为丹，名曰九转紫铅丹也。

### 金丹法

硫黄一斤（通明者，细研如粉） 山池石盐二两（亦细研如面） 伏火北亭汁三两

右三味药，并同相和令匀，便取铁合，用米醋研上好香墨，浓涂铁合内三遍，候干。便入此三味药于合内，以文火逼合令

热，候药化为汁，出尽北亭阴炁，住火。候凝冷，便用硝石四两细研如粉，入于合足内，实按了，以粘纸封定合足。候干，方入于鼎内，用法泥固济。其法泥用雁门代赭如鸡冠色，左顾牡蛎、赤石脂等三味，各细捣如粉，入伏火北亭汁匀和，入臼内杵一千以来，方用。固济相合，并足周回，唯务紧密为妙。合鼎上用铁关关定，切在紧密。候阴干，便取铅三斤于铍子内，铅化作汁，用小铁杓子抄于合足四面，候匀遍。又更消熔，熔铅汁，渐渐灌于鼎内，直至鼎满合上二寸以来。便选成合日，夜半子时起火，初六两，日加一两，至六十日满足后。药鼎冷定，用小铁凿子凿去黑铅，开合取药，真如金色，便入于乳钵内，研细如粉。

### 伏火北亭法

北亭砂三两（明白者），以黄蜡一分半（熔作汁，拌北亭令匀），作一团子，以纸裹，炒风化石灰一斗。用一磁罐，先将一半风化灰入于罐内实筑，内剜一坑子，放北亭于内，上又将一半风化灰盖，准前实筑。初用火三斤以来，渐渐加火至五、七斤，三复时足，乃起一弄十斤火锻，令通赤。火尽，候冷取出，用生绢袋子盛。又掘一地坑子，可受五、七升，满添水，候泣尽水，安一细磁碗于坑子内，上横一杖子，悬钓北亭袋子于碗上，更用一盆子合盖，周回用湿土壅盆子，勿透气。三复时并化为水，取此水，拌调前件二味药。



### 化庚粉法

上好庚一十两，汞五十两，贮于一罐内，常用火暖，将庚烧令赤，投于汞内，柳篦搅，化尽为度。用盐花三斤，与金泥同研，唯细。便入一大铛内匀平，上用勘盆子盖铛，以泥固济，周回令密，慢火锻之，却令汞飞上，以汞尽为度。次用煎汤沃盐花，候盐味尽为度。其庚粉于盘内，日晒干后，细研入在药内；雄黄八两，如鸡冠色者，研如粉；雌黄八两，通明叶子者，研如粉；戎盐四两，研如粉；金粉十两。右五味药并细研如粉，别换鼎合。一依前法，用米醋浓研，香墨匀涂合内，还用文火逼合，令药作汁。一依前法，用硝石四两细研如粉，安在合足内，实按，以面粘纸封定合足，便固济合盖，入于鼎内，准前法泥固济合足，合上用铁关定后，阴干。一依前法，先取铅三斤，于铍子内熔作汁，以杓子抄在合足四面，相次更熔铅汁，渐渐灌满鼎内，至合子上二寸以来。一依前法，选成合日，夜半子时起火。火候准前，初起六两，日加一两，至六十日满足。候鼎合冷定，用铁凿去黑铅，取合，其药当作紫金色。每一分于乳钵内细研，可制汞一斤，立成紫磨黄金。此非人世所有，是神仙秘授，若于助道，须知足乎！

### 伏药成制汞为庚法

汞一斤，药一分，于新铁铤子内，药置汞上，用茶碗子盖，固济。如法，安铤子于火上，专听里面滴滴声，即将铤子于水内淬底。如此十数度，其汞已伏。研砂如黑铅砂子，别入甘锅销龕，当为紫磨金。其于变化，不可具载。

### 四壁柜朱砂法

《四壁柜朱砂》，其法能除风冷，漫暖骨体，悦泽颜色，久服无疾，延年益寿。

针砂一斤，硫黄四两，朱砂三两，白矾四两，盐一两。

右以浓醋一斗五升，煮针砂、硫黄二味，令干，以火锻之，待鬼焰出尽后，放冷，研。别入硫黄一两，又用醋一斗五升更煮。候干，依前锻之，鬼焰尽即止。放冷，以水淘取紫汁，去其针砂，澄紫汁极清，去其水，尽阴干。即入白矾、盐同研，内瓷瓶中，四面下火锻之，侯瓶内沸定即止。待冷，出之，细研，以醋拌为柜，先用药一半入铅桶中，筑实，即以金薄两重，朱砂入柜上，又以余柜盖之，筑实，以四两火养三七日，即换入铜桶中，密固济，用六两火养，三七日足，即用十斤火锻之，任火自销。寒炉出药，朱砂已伏。于润湿地薄摊，盆合一复时，出火毒了，细研，以枣肉和丸如麻子大。每日空腹，以温水下五丸。以铅作桶，可重二斤，以铜作桶，可重三斤（忌羊血）。

## 卷七十七 方药部四

### 大洞西华玉堂仙母金丹法

右用凝白蜜三斗，真丹精明有白华者三斤，精云母屑二斤，凡三物搅令和合，著铜器中，盖器上，以器著大镬汤中，令浮铜器，桑木薪微火煎镬，令蜜及药皆干于铜器中，出器，凉之三日。又曝燥，捣为散。还内铜器中，又密盖器口，以器著灶上甑中，好桑薪蒸之三十日，当以白日竟日火蒸之，夜不火蒸也。日数足出丹，作高格曝燥之，又捣三万杵，细筛为散。又内铜器中，盖器上，如初时法，著大镬汤中，浮煮铜器三日三夜讫。都毕，名曰仙母金丹，一名西王母停年止白飞丹也。凉之三日，曝燥，更捣三万杵，筛细为散，以凝白蜜，丸如小豆大。平旦服二十丸，日常服之者，长生不死，而有少容如女子。若读《大洞真经》而服此丹者，万遍既毕，立乘云升天，不得复住止世间，观戏于风尘中也。其不诵《大洞经》者，而服此丹，便得长游于世上矣。服此丹无所禁食，食饮之宜任意耳。常在人间周旋，俗中人不觉也。所谓真仙混合，隐化八方矣。先斋三十九日，以七月七日日中时，合此丹也。

## 镇魂固魄飞腾七十四方灵丸

云母四两 雄黄四两 真瑰四两 硝石四两 玄参四两 槐子  
中仁四两 龙骨五两 猪零四两 青丘霜四两 虎杖花四两（阴干）  
鸡舌香二两 青木香二两 沉香二两 薰陆香四两 詹糖二两 戎盐  
三两 空青八两 丹砂八两 石兑黛四两 白石英二两 太阳婴童羽  
衣二两 太阴精上素华二两 桃华四两

北结阴精流华一升二合（当以九月建日取之盛别器中），  
结炁凝精素华丹一升二合（当以十二月建日取之，盛别器中），  
神华阴精流珠一升二合，（当以冬节日取之盛别器中）。

合二十七种（已见二十六种，后入白寒，成二十七种），  
上二十四种，法二十四神，三种应以三元之精炁，上应九晨，  
结魄凝魂，五色硫黄，化形变景，无有常方，故人服之，神镇  
气安。当以三月建日合药，五月壬日服丸。如合以次，从云母  
起，各别捣三千杵，匝桃华，合二十四种，合七万二千杵。毕，  
各置一 半中，未得捣药，仍告斋三十日，讫。事令童女侍香，  
皆令少口，慎言、好性、善行、肉香、骨芳之人，置药于二十四  
）杵中，露著中庭三宿，勿令鸡犬、外人见之，不使闻哭泣  
之声。露毕，以次内药著釜中，第一内云母，次内雄黄，后内  
桃华，内二十四种都毕，皆当以次序相覆，令竟釜中，以北结  
阴精流华一升二合，次内结炁凝精素华丹一升二合，次内神华  
阴精流珠一升二合。毕以清稷枲一斗二升沃药，即以上釜盖之，  
令上下、四面、四边、内外密厚七分。故以云母在下，其炁冲  
上，桃华在上，其色冠下。故有次第也。

当先作六一泥，泥土釜二枚。用东海左顾牡蛎、戎盐、赤石脂、黄丹、滑石、蛭蝼黄土六分皆等合治，捣细筛，和以百日米醋。和毕，捣令匀，以合成六一泥也。泥两土釜内外，渐渐薄泥，日曝令燥，燥则再上，内外令厚二寸半。都毕，仍作灶南向，安柴孤著灶中央，釜底令去地一尺二寸，米糠烧之九日九夕，令火去釜九寸；九日九夕进火，令近六寸；又九日九夕，令火至底三寸；合三九二十七日。毕。寒之三日，发开视药，起飞精，仰著上釜，神药成。若不起，更泥如初，又进火如先二十七日，寒之三日，无不成也。取三岁雄鸡羽扫取之，仰著上釜，神药则名飞丹紫笔华流精，有百变之色，玄光映焕七十四方，服之一铢，身生流光七十四色。左唾则三魂童子立见，右唾则七魄化生七形之童，衣飞罗羽裙，神舆玉辇，立到于前。盛之金样，精凝釜底，则为玉胎琼液之膏，和以白蜜，更合于臼中，东向捣之，令七万杵。一铢为一丸，丸毕，密器封之，露著中庭三日三夕，毕。清朝服一丸，令三日服三丸，即能乘空步虚，出有入无。令至七日，合服七丸，即自能浮景霄霞，身生五色，五岳神官，五万人卫从身形。

东向服九丸，则致青霞绿辇，青龙控辔，青阳玉童九十人，青腰玉女九十人，东岳仙官九千人，来迎兆身。

南向服八丸，则致绛霞云辇，赤龙控辔，绛宫玉童八十人，太一赤圭玉女八十人、南岳仙官八千人，来迎兆身。

西向服六丸，则致素霞玉辇；六龙控辔，耀灵玉童六十人，素灵玉女六十人，西岳仙官六千人，来迎兆身。

北向服五丸，则致皂霞飞辇，玄龙控辔，太极玉童五十人、太玄玉女五十人、北岳仙官五千人，来迎兆身。

向戊己之上服三丸，则致黄霞玉辇，十二飞龙控辔，中央黄机玉童十二人、黄素玉女十二人，中岳仙官，一千二百人，

来迎兆身。服五丸，即致五岳仙官奉玉紱凤章，请兆之身，上诣九金阙之下，受署真仙之号，可谓灵丸之妙大哉乎！凡诸变化七十四种，金银宝玉，赤树绛实立生，水火，有妙于琅玕八景，四蕊绛生神丹之用，不能一二具处，特略其大化之微尔！

凡欲游戏五岳，周流八极，不拘仙官之劳，意惮典局之类，未欲升天者，自可不须服五方之丸，但常服三丸、七丸之数，固魂镇魄，飞腾七十四方，遨游五岳，寿同三光，余可依五方之数耳！若服五方之丸，便为五岳之司，五岳之司，便有局任，不得适意也。

### 南岳真人郑披云传授五行七味丸方

《上皇保命固精丹诀》，用药味配阴阳精气。五行之精，君臣相佐，固精保命，养气安神，调理五脏，补养六腑，虚败自充，衰朽复润，血脉壮盛，筋骨长坚，发白重黑，胎发却生。功效如神，录不可尽。丹药非道，无以延其寿，道非药，何以养其身？道药相扶，何虑不痊其沉痾？某自幼年好学经方，陟岭穿崖，登云渡谷，寻师访道，仅二十余年，暮齿五旬，衰劣尤甚。苦心既久，但渴至玄，遂到南岳灵岩山，得遇志士，授传某此术，盟誓丁宁，与某修合之门，服药之法，忌鸡犬秽恶腥膻荤血，莫非洁净，处精专心修制。某遂修合，依方服之，经三月已来，顿觉精神有异，五脏之内，调畅得安，气力之间，自然强壮。又服经半剂，其效不可名状，如年三十之人。服一剂，如十五童子。奇哉！灵药具方如后：

硫黄二两（日之精） 白龙骨二两（月之精） 安息香半

两（火之精） 柏子仁二两（木之精） 兔丝子二两（土之精）  
五味子二两（金之精） 肉苁蓉二两（水之精）

右件七味药，其香用胡桃人隔杵别捣，其余并捣，罗为末和合，以魁罡日，用枣肉为丸，如小豆粒大，每日空心无灰酒下三十丸，忌鸡猪鱼蒜。欲修合服药之时，须用丙寅、丙午日，或蜜日所合和以火，命人面东合之，忌孝子师僧，妇人鸡犬，皆不得见。服药日，王相方净洁房内。经半年后，若近房色，常泄谷炁，即精气永固不泄也。神效不可具。

### 九真中经四镇丸

太一神仙生五脏，填六腑，养七窍，和九关，炼三魂，曜二童，保一身，长生万岁。《四镇丸方》：

太一禹余粮四两（定六腑，填五脏） 真当归一两（以和禹余粮，止关节百病） 薰陆香一两（以和当归，薰五脏内） 人参一两（补六腑津液，助禹余粮之势） 鸡舌香一两（除胃中客热，止痰闷）

凡五种，以禹余粮为主，四物从之。先内禹余粮，捣一百杵，次内四物，合和为散。

丹砂四大两（摄魂魄，镇三神，理和气） 甘草一两（以和丹砂，润肌肤，去白发） 青木香一两（以助甘草，去三虫伏尸） 干地黄一两（以和百髓，满脑血） 詹糖香一两（补目瞳，薰下关）

凡五种，以丹砂为主，四物从之。先内砂捣一百杵，次内四物为散。

茯苓四大两（填七窍，补久虚，和灵关）白术一两（以和茯苓，润神气，明目瞳）干姜一两（以辅术势除热痰，开三关，去寒热）防风一两（补湿痺，除秽滓，止饥渴）云母粉一两（泽形体，面生光，补骨血）

凡五种，以茯苓为主，四物从之。先内茯苓捣一百杵，次内四物成散。

麦门冬四两（去心填神，精养灵液，固百骨）干枣膏一两（以助麦门冬，凝血脉，去心秽）附子一两（炮，益脑中气，填脏内冷，去痰）胡麻一两（熬，和喉舌液，填下关，泄泽三神）龙骨一两（润六液，养穷肠，乌发止白）

凡四镇神丸，合二十种药，令精上者，其五物为一部，皆令成散。先取禹余粮部，捣三千杵，次入丹砂部，捣四千杵，次内茯苓部，捣五千杵，次内麦门冬部，捣六千杵，又内白蜜四升，捣七千杵，又内白蜡十二两，捣八千杵，更下炼蜜令可丸。若刚硬，更下蜜令柔，复捣三万杵，药成。丸如鸡子中黄许大，分为细丸而服之。以正月、九月、十一月上建日合之，满日起服之。百日中筹量服五丸，当先一日不食，后日平旦乃服，服毕，然后乃饮食如故。千日之后，二百日中服七丸；二千日之后，三百日中服二十丸；三千日之后，四百日中服三十丸，计为率。镇神守中，与天地相毕。此药万年不败。若常服此药，一切不同服杂药饵之辈。若欲合此药，先禁戒七日，永不得入房室，无令鸡犬小儿妇人见。修合之时，当烧香，设一神席于东面，为太一帝君、太一君、太一上元君坐位，心常存呼咒之。服药时，当亦心存之，以向月王。此所谓四大，以镇四神，除百病，令人不老，远视万里之外，白发却黑，齿落重生，面目悦泽，皮理生光。服之一年，宿疾皆除；二年，易息；三年，易气；四年，易脉；五年，易体；六年，易筋；七年，



易骨；八年，易齿；九年，易形；十年，役使鬼神，威御虎狼，毒物不敢近。

### 黄帝四扇散方（大茅君以授中茅君）

松脂 泽泻 干姜 干地 黄云母 桂心术 石上 菖蒲

右八味，精治，令等分，合捣四万杵，盛以密器，勿令女人、六畜诸污掩等见。旦以酒服三方寸七，亦可以水服，亦可蜜丸如大豆许，二十丸至三十丸。此黄帝受风后四扇神方，却老还少之道者也。我昔受于高丘先生，令以相传耳。

### 王母四童散方

胡麻四大两（九蒸九曝，黑肥者，去皮，熬令黄香）  
天门冬四两（高地肥甘者，干之） 白茯苓五两（白实者，亦当先煮，曝干） 术三两（时月采肥大者） 桃仁四两（当用好者，仍须大熟桃，解核取人，热汤浸去皮尖）干黄精五两（高地宿根者，干之）

右六味，精治。先熬胡麻，后入诸药，捣三万杵，细罗为散。每日平旦以酒服三钱，暮再服，宜渐加之。亦可水服。如丸，即炼蜜和之，更捣万杵，丸如梧桐子大，自二十丸加至四十丸。

## 帝女玄霜掌上录

一名帝女玄霜，二名琼浆，三名玉液，四名地母乳，五名甘露浆，六名九转阴丹，七名醍醐酥，自古神仙虽饵金丹，无不修此阴丹者。且如黑铅属水，其数一，一生二，二生三，三能生万物，岂不因阴阳乎？夫大丹者，是阴阳龙虎及至修炼了，号为正阳，如此即孤阳也。既孤阳，不可立身，须假阴丹而相负，以为梯航也，其数随阳，数用九也。若论津润五脏，灌注华盖，上添泥丸，下补精元，大药不得玄霜，服久而难见其功。大丹出于契中，阴元玄霜出自秘录，所以术士难知也。今具著修阴丹白雪玄霜法：

取上好黑铅一生者二斤，汞半斤，先于铤子中拨泻，令细，绝灰，便将汞投在铅中熟搅，铅作埚子大小，临时用瓷瓶子一口表里通油者，便取上好醋五升贮在瓶内，即于稳便房内，明净处室向阳者，下手作，假阳极之时，当合道气也。便安瓶子于土坑内，其口与地平，将铅埚安瓶口上，更以纸三四重，纸上又安瓷碗盖之。若是阳极之时，七日一度，取出。其埚上如垂雪倒悬，见风良久自硬，扫取后，其瓶内醋损，即须换。如此重重，取至一斤霜。即于瓷碗内入甜浆水，用柳木槌杀研，渐渐入浆水，如面糊末，在碗四面安，在饭甑中蒸，蒸了又研，以清水淘澄，干；又用清水杀研末，在碗上土甑内，又蒸、研、淘。准此法，五度入饭甑四度，入土甑蒸之。其土甑蒸时，碗口上别用一口碗合之。如此九转足，即须用熟绢袋盛，以清水于银器中摆过。后一复时用，却去清水，以绵盖器口，日内晒

干扫下，又用柳木槌研了。其色始如春雪，亦如面勃，其味甜澹甘美，捻在口中，冷如春冰。若有人修得者，以蜜丸如梧桐子大，日服五丸，至一岁，万病不侵，经夏不渴。但洗头，生油调涂顶，须臾至脚心自冷，神功难述。若引大还丹，返老为少，盖由津液行也。孙氏歌曰：

玄白霜，玄白霜，龙虎君中立为长。万物不从阴所生，即问孤阳何处养？

### 萤火丸方

刘子南者，汉冠军将军武威太守也。从道士尸公，受务成子萤火丸，辟病，除百鬼、虎狼、虺蛇、师子、蜂蛰诸毒，及五兵白刃、贼盗凶害。

其方用雄黄、雌黄各二两，萤火、鬼箭、蒺藜各一两，铁锤柄烧令焦黑、锻炉中灰、羖羊角各一分，九物各如粉面，以鸡子黄并丹雄鸡冠血丸如杏仁大，作三角绛囊盛五丸，带左臂上，从军者系腰中，居家悬户上，辟盗贼诸毒。

刘子南合而佩之，永平十二年行武威北，卒遇虏，大战败绩，士从奔溃，独为寇所围，矢下如雨，未至子南马数尺，矢辄堕地，终不能中伤。虏以为神人也，乃解围而去。子南以神方教其子及弟兄，为军者，皆未尝被伤，俱得其验，传世宝之。及汉末青牛道士封君达以传安定皇甫隆，隆授魏武帝，乃稍传于人间。一名冠军丸，亦名武威丸，今载在《千金翼》中所称也。

### 黄帝受黄轻四物仙方

一曰鸿光，二曰千秋，三曰万岁，四曰慈墨实（合此四物，帝曰：“此四物形状若何？可得闻乎？”黄轻曰：“鸿光者，云母也；千秋者，卷柏也，生于名山之间；万岁者，泽泻也，慈墨者，苡实也，一云兔丝子”）。

右件杵，罗为末，以白松脂和捣为丸，如梧桐子大。每日空心，温酒下三十丸，服七年，效可寿千岁。久服之，与天帝相守。帝恭拜之。

### 真人驻年藕华方

右一物，七月七日采藕华七分，八月八日采藕根八分，九月九日采藕实九分，采合道毕矣，服方寸七。授南阳刘长生，长生居清渊泽中北界，长生且药七十余年，不壮不老，长服神仙。藕实一名水丹芝，一名加实，一名芡实，一名莲华，一名芙蓉，其叶名荷，其小根名芊，大根名藕，其初根名菱，与鸡头为阴阳。以八月上戊日取莲实，九月上戊日取鸡头实，十月上旬日取藕，各等分，阴干百日治之。正月上寅日旦，并华水服一方寸七，日四五，后饭服之，百日止。主补中，益气力，养神，不饥，除百病，久服，轻身延年，不老，神仙。鸡头实，一名雁实，一名天门精，一名天禹，一名曜。味甘，治湿痺、

腰、脊、膝病，补益气，强志，耳目聪明，久服，身轻，不饥，神仙也。

### 老君益寿散方

天门冬五两（去心，焙）白术四两防风一两（去芦头）熟地黄二两细辛三分干姜一两（炮裂，锉）桔梗一两（去芦头）天雄半两（炮裂，去皮脐）桂心半两远志一两（去心）肉苁蓉一两（酒浸，去皱皮）泽泻一两石斛半两（去根锉）柏实半两云母粉半两石韦半两（去毛）杜仲半两（去粗皮锉）牛膝半两（去苗）白茯苓半两菖蒲半两五味子半两蛇床子半两甘菊花半两山茱萸半两附子一两半（炮裂，去皮脐）

右件药捣，罗为散。平旦酒服三钱，冬月日三服，夏平旦一服，春、秋平旦日暮各一服。药后十日知效，二十日所苦觉灭，三十日气力盛，四十日诸病除，六十日身轻如飞，七十日面光泽，八十日神通，九十日精神非常，一百日已上，不复老也。若能断房，长生矣！

### 骊山老母绝谷麦饭术

黑豆五斗 大麻子一斗五升 青州枣一斗

右件黑豆净水淘过，蒸一遍，曝干，去皮，又蒸一遍，又曝令干。麻子以水浸去皮，共枣同入甑中，蒸熟取出，去枣核。

三味一处烂捣，又再蒸一遍，团为拳大，又再蒸之。从初夜至夜半，令香熟，便去火，以物密盖之，经宿，曝干，捣罗为末，任性吃，以饱为度。遇渴得吃新汲水、麻子汤、柏汤。第一服七日，三百日不饥。第二服四日，约二千日不饥。若人依法服之，故得神仙。若是奇人服，即得长生。甚是殊妙，切不可乱传。若食，犯之损人。如要食，即以葵子为末，煎汤服之，其药即转下如金色，此药之灵验也。

### 文始先生绝谷方

雄黄半两（细研） 禹余粮一两 麦门冬一两半（去心焙） 白矾一两（烧灰）云母粉一两

右件药捣，罗为末，炼蜜和，捣一千杵，丸如梧桐子大。欲服药，先作牛羊肉羹、稻米饭饱食，明旦服三十丸，以井华水下之，可一月不饥矣。

### 太清飞仙法

方曰：当取松脂、茯苓各一十二斤。先次水渍茯苓一七日，朝朝换水，满日曝干；以醇酒二斗又渍茯苓七日，出，曝令干，月食一斤。欲不食，即取松脂炼去苦臭汁，以火温之，内茯苓中治合，和以白蜜，三物合服之，月各一斤。百日身轻，二百日寒热去，三百日风头眊目去，四百日五劳七伤去，五百日腹

中寒癖饮癖炁去，六百日颜色驻，七百日面<黑干>去，八百日黑发生，九百日灸癰灭，千日两目明，二千日颜色易，三千日行无迹，四千日诸痕灭，五千日夜视光，六千日肌肉易，七千日皮脉藏，八千日精神强，九千日童子薄，万日形自康，二万日神明通，三万日白日无影，四万日坐在立亡。日服食，慎勿忘。但过万日，仍纵横，变名易姓升天耳！

### 太白星官洗眼方

嘉州刺史张评士，中年已来，夫妇俱患瞽疾，求方术之士不能致，退居列墅，杜门自责，唯捣醮星辰，以祈所祐。岁久，家业渐虚，精诚不退。元和七年壬辰八月十七日，有书生诣门请谒。家人曰：主公夫妇抱疾，不接宾客久矣。书生曰：吾虽是书生，亦医术人，闻使君有疾，故此来尔。家人入白，评士欣然曰：久疾不接宾客，客既有方药，愿垂相惠。书生曰：但一见使君，自有良药。评士闻之，扶疾相见。谓使君曰：此疾不假药饵，明日请丁夫十人，锹钁之属，为开一井，眼当自然立愈。评士如其言而备焉，书生即选胜地，自晨穿一井，至夕见水。令评士斋洁焚香，志心，取水洗之。评士眼疾顿胜轻，即时明净，平复如初，即其数年之疾，一旦豁然。夫妇感而谢之，厚遗金帛，书生辞曰：焉用金帛为？吾非世间人，太白星官也。以子抱疾数年，不忘于道，精心捣醮，上感星辰，五帝星君，使我降授此术，以祛子重疾，答子修奉之心。金帛之遗，非吾所要也。因留此法，今传教世人，以救疾苦，用增阴德。其法曰：

子午之年，五月酉戌日，十一月卯辰日；丑未之年，六月戌亥日，十二月辰巳日；寅申之年，七月亥子日，正月巳午日；卯酉之年，八月子丑日，二月午未日；辰戌之年，三月寅丑日，九月未申日；巳亥之年，十月申酉日，四月寅卯日，取其方位，年月日時，即为福地，浚井及泉，必有良效。评士再拜受之，言讫书生升天而去，此乃精诚通感之应也。

### 张少真炼九转铅精法

青铅二斤（屎多者曰杯铅，泽精者曰唐，并不堪用，唯伊阳及波斯计紫者为上）

右置一仰月铁釜，量大小著铅，用猛火炒之，候洋讫，彻底匀搅之，须臾，自成青砂，但匀搅不停，变尽即止。欲便成铅黄花者，即将青砂猛火，不歇搅之，久之，即成铅黄花。乃取青砂于盆中，少少益苦酒，渐添研之。苦酒即用糠醋，不全用醪者，澄滤细好讫，于火上爆干，须臾，微微火逼之，取为汁，流浆入左味团之，磁粉入左味也。不得此法，团鼓之不成铅。曝干，即入铸道铁锅内，上下用双皮袋，猛火鼓之，其青砂须臾即变为铅，从铸道流出，下著一铁器盛取，以尽为度。其色明白，名铅孙，八返九转成紫色。凡一斤铅九转，耗折十五两，得一两，强名曰金公丹，一曰紫河车，一曰金狗子，一曰九转铅精，可用之矣（别有经，在《上清灵书》中及《龙虎正篆》中）。



茯苓岳方

茯苓三大斤（去黑皮剉如酸枣大）甘草二小两剉）

右以水六大升，先下甘草，煮取三升，漉出，去滓，澄弃浊者。又入白蜜三大升，牛乳九大升，和茯苓煎尽。及热出，掇令散，择去赤膜。又更熟掇，令如面，阴令干。日三四服之，初服二方寸匕，稍稍加之任性。大忌松菜、米酢春秋合，不须着乳，临时着乳下。

## 卷七十八 方药部五

### 三品颐神保命神丹方叙

若夫胤者，五行之秀气，二仪之纯精。津液流，形体分，三品之别，刚柔为用，功标百炼之奇。故能匿锐燕图，白霓翹而贯日，潜芒丰匣，紫霭发而冲星。在物之灵，莫斯为最。虽表名于兑域，实取效于离方。是以上古圣人，历尝诸味，甘而无毒，可以养神。遂变柔成刚，从粗入妙，或作规而写圆璧，或为矩而象方诸。鉴同明月之辉，藏于《习坎》之地。金水相合，自表生成之数，玄台吸引，用召太阳之精。因其自然而生，故即体之名为胤。麦合姿于酉德，为酒热而且宣，枣成气于震宫，为药温而又润。以斯相和，合而服之。再饵晨晡，一无所忌。可以坚实骨髓，羸体变而成刚，可以悦泽肌肤，衰容反而为少。至于男女之道，房室之间，姬媵数百，取御之仪。俄顷，亦具辟鬼除邪，蠲疴去疾。风劳虚悸之辈，李臂疽癰之徒，饵一剂而便瘳，匝三周而并愈。复本质于平素，如旧姿而有佳。倚《震》柱而不惊，当离牖而宁惧？若能依八节，顺四时，采百物之初生，合众药而为长。或干或湿，为散为丸。适寒暑以调和，随道引而消息。一服之后，万事都捐，心若死灰，形同槁木。滓秽日去，清虚日来，通幽洞冥，驱神役鬼。纯浆不觉

其浊，绝粮不觉其饥。肠渐化而为筋，髓渐化而为骨。体生羽翼，身若虚空。驾鹤乘龙，将烟霞而迴惊，长生久视，与穹壤而相侔。斯则天仙之上品也。若也，不救物表，取足人间。初服之日，闭情无逸。一二三年，微用节宣。八九十岁，方始任使。耳目唯有聪察，神彩弥加精明。颜与日而俱新，智将年而共远，力则拔山扛鼎，倒曳九牛，诵则一日万言，五行俱下。蠲途靡乏，任意所为。偃仰六合之中，高视数百年外。虽未能观东海以成桑田，诣西母而摘桃实，抑亦优游自在，其地仙之亚欤？语曰：上药养命，中药养性，下药去病。总三者以为言，唯此可以备矣！岂与夫种石齐偶，功效相侔？肤体才未充，虚发彻已通，中外可得同年而语哉！但代人迷于摄养，自致危脆，苟徇目前，不图久远。以为寿有定极，非关药饵。所资自然者，饮鸩羽，宁得斯须？吞乌喙，行为丘死。既能促之使短，岂不能延之使长？信彼而不信此，斯为惑也，不亦愚乎！且食铁之兽，得其粗犷，犹能猛健，有异毛族。况人为之，取其精粹，取其轻清，而无殊特之姿，不获延长之寿，未之有也。余以胤丹之妙，功用无比，故申述旧方，更为新题，庶有识君子知此，评之不虚也。其有余小功能，并合和节度，随时附出，并论之于后。大唐开耀二年，岁次壬午正月乙未朔十五日己酉，苏游撰。

### 上品颐神保命篇第一

#### 论胤功能第一

论曰：凡铁胤丹，体性沉缓，若欲纯服，获验多迟，盖由

脏腑先虚故也。若本充实，宁有是乎？粗药服之，其效必速，何也？如兔丝子之得清酒，若鸢尾之佐黄芩，故以草药先导之，冀相宣发也。又草性速发而易歇，铁性迟效而长久，是以服药之人，暂饵便获验者，此皆药力，非关铁功也。铁性沉缓，服者初未即效，谓言药无功，中道而绝，此盖同于弃井，劳而无益者焉！故三品方中，皆兼草木，以相宣佐耳。是以《本经》云：上中药，并堪久服，今制三品，兼而用之。若姬后之获太公，济巨川而须舟楫者矣！铁丹虽与金丹同类，而长服者终无发动之期，所以不言解疗之法，喻如俗间食器盛铁为之，未尝闻有患铁之人。以此而论，用堪久服。至如硫黄、云母、乳石之徒，有为汤酒服之，或作丸散饵者，而服之者既众，发之者犹多，莫不寝膳乖常，背穿脑裂。夏则重裘热酒，未解其战；冬则处泉寒食，宁释其温？少服犹敝于斯，多饵翻令寿夭，事皆目击，今古共知，以此而论，讵堪久服！若欲方之铁胤，岂可同日而语哉！故本方云，铁主坚肌奈痛，明目镇心，实髓充肤，安魂定魄，热风虚损，惊悸癲痢，如斯等疾，悉皆除愈。能久服者，令人体气壮勇，一人当百，志意刚决，心力无敌。每一见闻，终身不忘，延年长寿，绝粒休粮，鬓发常黑，已白更变。又有五劳、七伤、八风、十二痺，莫不能愈。服满千日，行及奔马。又按《本草经》云：铁味辛、甘平而无毒。熟铁，铁精稍温，久服微热，生铁，铁浆微冷。冷热虽殊，俱至明目镇心，安魂定魄，实五脏，坚肌肤，除心烦，去黑子，疗热风，皮肤中气风，癲痢惊悸恍惚，恶疮痈疽疥痒，胸膈中气塞，不能化食，诸下部恶病，阴脱肚，蛲虫五痔，皆悉主之。《别录》云：铁屑烧之，投酒中饮。主贼风，风症。又云：以铁团烧赤，投盐醋中，青布裹之，熨腋下多时，除胡臭及汗气。又铁浆及锻家磨铁汁，澄清饮之，令妇人断产。又以刚铁合半夏

汤，能疗气噎反胃等疾。又《仙方古录》有铁丹，既非常药，人怯不能服。又以铁化为水饮之，镇心强记，除风去热。又有服铁末法，终不逮此。又按《古今经方》，唯金玉不可辄服，令人心肠焦烂，有毒故也。唯银铁二种，乃堪久服，无毒故也。常有人服胤，具一年之中少觉异常，二年中间气力益健，三年之后十倍加常，自兹已往，渐更健壮，口鼻之中气息冲逸，遍饵诸药，皆不能过。至于房帷特苦强盛，行坐之间，茎不委歇。若去此弊，可依别方（即余所造《开性闭情》者，今具《上品篇》中）。又近代有增损此方，加诸胡椒、毕拔、苏蜜、干姜、荜、澄茄等总十余味，和胤丹服。寻其药性，热而且补，又兼下气，宁有不强阳道乎？应是矫俗之人，故述斯诈，以惑凡庶矣。嗟乎！莫不由贵远贱近之所致也。余制《开性闭情方》，药既中华，不俟边城，频经试验，今故出之，拟昭学道之贤，不传矫俗之子。凡此功效，实珍奇异，合和等法，列之如左。

## 造胤丹法第二

凡欲合铁胤神丹者，必先辩诸铁性，择其善者乃为之。古方多以雅州百丈，建州东瞿为上，陵州都卢为次，并州五生为下，又牛羊犄及广榔二州所出，并不烦灌炼，即堪打，用此即自然刚也。又嘉陵荣资四州所出，功力与广榔相似，而灌刚之时，要须百丈者相参，乃堪服用。又蕲州及忠渝等州所出，并力薄不堪用。而硃州所出，与当阳连接，故亦其次矣。遍常用并不如荆州当阳者最佳。自古以来，楚金等一其性劲快，服者必俊快，江汉英灵，山水之应也。铁者感山水气以成其形，而服之者必当俊健。又说者云：辽左军中有刀千口，用斩贼并甲

俱断，诸刀相刻皆不逮之，或问其故，云：是当阳铁造，众并可奇异，咸共惜之。以此而论，其俊如是，今之合炼，用此为佳。又灌刚之时，必须栎栗等炭，余皆不堪用。调停火色，唯须善别生熟，失宜即不任用。其方曰：刚铁一百斤（取自然成刚铁上，次取捣刚，五灌已上者佳）。

右取前件铁打作镜，中央开孔容指许，状似璧形，面径五寸已上，一尺已下，厚三分许，两面刮削令极平净。亦有打作方铎，长七寸，阔四寸厚三分，上微开孔，尽此百斤作镜毕。

### 次作神水法

调和腑脏盐一升（煎作亦得） 玄台引铁磁石十两（毛亦得） 清净花水一升半（并大作两）

右以花泉和盐，搅令消，次内引铁末。毕（若用尽更作，准此数为之）。以此神水嚙镜两面令湿，穿于长铁箸上，片片相去三分许。先埋瓮于地中为架，架上重重安之，以凡盆合瓮口（其瓮欲得贮物者良，若无，可用新者为佳）。毕，盆上覆土，可厚一尺许，每日盐水洒上，令湿，满一百五十日发之，其面有胤如铁衣之状。以刚刀刮取，作紫赤色。于铁钵内以玉槌和清酒研之，唯须极细。毕，更添酒，泛取浮者，倾置别器中，澄取淀曝干，更和酒研，泛澄，如上法，再三为之。毕，即堪服用。所有粗者更研令细，准前泛取，以尽为度。其埋瓮处，勿使妇人、小儿、鸡犬、污物犯之（若先患冷气症癖并欲肥者，于前神水加钟乳末十分，欲加增阳道者，加阳起石末十分，并须令极细，自非年七十以上者，不加。阳起石出太山黑白二色者，余并不堪用）。又法：清水一斗（九月二日者佳）。玄台引铁一斤（毛亦得），和嚙镜面，令浓。自外如前。又一

法：瓮底穿作一小孔，瓮下掘地作一小沟，内常使有水流，不得露风日，如是百日即成。有胤多前，若急须之，五十日亦得（余谓此于山间，则可为之）。又云：明日欲埋瓮，今夜须宿斋净心。当埋之时，勿令妇人、小儿、鸡犬、疾病人见之，又以成、满、除日为之，复得福德建王盛洁等地埋之，最佳。

### 开性闭情方第三

论曰：余以至道幽玄，求之者寡，纵有好生君子，而鲜能终卒者，莫不由染习尚存，情欲仍在。致使南宫朱火，炼质靡期，北府黑编，刊名何日？病斯等事，披览经方，自制《开性闭情》，绝诸淫思，频经试用，心若死灰。则于入道之贤，神安志定，摄生之士，髓实命延。因是众疾自疗，群妖殄迹，恒饵不绝，仙路可升。故为之方，岂不务也。

胤丹三十二分 萱草根二十四分（日干） 女贞实二十四分 龙葵子二十四分（切，日干） 青木香二十四分 苦参十八分（切，日干） 白瓜子十分（甘者） 干蒲桃二十八分（陇西者） 菰首二十分（八九月采） 寄生实十八分（诸木并得） 杜苦根十二分（切，日干） 莲子三十二分（去皮心，干）

右十二味，合治如法。净室中，清洁童子捣筛之。诸子有脂润者共处捣如膏，令细，乃和散更捣，令极细调。若春月合者，以樱桃实汁和丸，非此时者，以大麻子汁煎为稀面糊以丸之，如梧桐子大。一服二十丸，日二服，以酒若蜜汤姜饮等下之。忌五辛、血味、陈臭之物。

### 其二

胤丹十二分 薤白一握（干之） 槐子三合（渍之七日）  
萱草根八分（切炒） 菰首三分（八月采） 甘草六分（炙） 韭  
子五合（炒令黄） 薏苡人六分 右八味，合治如法。于净室  
中，令童子捣筛，和以白蜜，丸如梧桐子大。以枣汤服二十五  
丸，日再服，渐加至六十丸，为恒，忌猪肉、蒜、鱼、面血羹、  
五辛、陈臭物。

四主保神守中安魂定魄可以去俗长服神仙方（以建王日  
为始）

胤丹一百二十分 茯神八十一分 人参三十六分 赤箭十分  
（去心） 麦门冬二十四分 牛膝三十二分

右六味，以枣膏若白蜜和丸，如梧桐子大。若酒服十二丸，  
日二服，加至二十四丸止。四时常服，满千日，则肠化为筋，  
色如童子，发白更黑，齿落再生，力敌十人。经三千日，行五  
百里，走及奔马，能役使鬼神。满七千日，形体骨髓皆易，更  
受新者，五岳朝拜，青腰玉女，皆来侍卫。满万日，白日升天，  
上谒太上玉宸君，拜为仙公，寿与天地相毕。忌大醋、陈臭物  
及遇死丧孝家，合药时，勿使小儿、妇人、鸡犬残疾不足人见  
之。

五主留年还白坚实骨髓通神延命长服方（以六丁日为始）

胤丹一百二十分 茯苓三十二分 薺目实八十一分 牛膝七  
十二分 桂心二十四分 天门冬三十二分

右六味，以枣膏若白蜜和丸，梧桐子大。若饮酒，酒服十  
二丸，日二服，加至二十四丸止，四时不绝。若宿有风病者，  
加防风三十二分；有气者，加橘皮二十八分；心腹满胀者，加



枳壳二十四分；灸。皮肤枯干者，加柏子仁三十二分；无心力，加远志二十四分（去心）；梦泄精者，加白龙骨二十四分；若精涩者，加桑寄生二十四分；有冷者，加干姜二十八分；有热者，加干地黄二十八分（生作之）服经一月，皮肤内风并尽；满百日，筋脉中风并尽；满一年，体中风并尽；满二年，髓中风并尽；服千日，五脏六腑中风并尽；满三千日，形体皆易，疮痂总灭，白发并变，齿落更生，颜如十五六童子，日日聪慧，渐渐自污俗间，神鬼皆悉见之，能役使六丁玉女，身轻如风，日夜见物，力能负重，经涉山川，妖邪恶魅，不敢近之，诸山林神，皆来谒见。深宜秘之，忌如前法。

六主镇精神补髓肉坚如铁气力壮勇一人当百长服方（以王日为始）

胤丹一百二十分 干地黄八十一分 兔丝子七十二分（蒸）

茯苓二十四分炼黄用 徐长卿三十二分 巴戟天七十二分

右六味，蜜和，丸如梧桐子大。若饮酒，酒服二十四丸，日再服，日加二丸，至三十二丸为恒。服百日，雄气大至，语声寥亮，行步如风。经得一年，万病消除，筋髓充实，力敌百人，帷房之间，夕能御百，亦不疲倦，面皮光悦，色如华英，通幽洞冥，监照一切，制伏鬼神，莫不从心，疫气流行，身终不染。服经十年，轻举云霄，纵赏三清，遨游五岳，往来圆峤，出入方诸，仙圣同居，永辞生死。有效不得语，大泄药功能，仙家大忌。故古人服药，要入名山大薮，良有以也。慎之！

七主开心益智

胤粉一百二十分 菖蒲八十一分 远志三十二分

人参四十九分

龟甲二十四分（炙） 署预二十四分 龙骨一十二分

右七味，蜜和，丸如梧桐子大。酒服二十四丸，日三服，别加二丸，满三十二丸，为恒。服得百日，心神开悟；二百日，耳目聪明；三百日，问一知十；满三年，夜视有光，日诵万言，一览无忘，长生久视，状若神明。忌羊血饧陈臭物。

八主无草药和丹服者单饵防万病方（以甲子日为始）

胤丹三百六十分

右件以枣膏倍之，和为丸，研令相入，丸和麻子大。一服七丸，酒服，或井花水皆任意服，旦朝日晚两时服之，渐加至二十丸为恒。服经百日，腰肾实；三百日，五脏皆实；满千日，骨髓坚强，夕御百女，终无所卷，若生男女，聪慧如神，颜色光华，若童子；满三千日，日行三百里，力举千斤，身重三百六十斤，树径尺者，拗拉折之。能万日，必证神仙。虽然，要不如和上品药三五种味，服之佳，其验速耳！

### 九延命澄神论

论曰：凡上品药养命安神，将服之人，须持上法。若能真心奉道，苦节求仙，如是修行，神仙可冀。若不求仙出俗，取乐人间，自服之后，一年断欲。要令药力成就，骨髓坚充。因此百病消除，真气来入。身神既具，藏腑端严。表里清澄，魂魄雄盛。内与道合，外以辟邪。所有功能，一如经说。若未能顿绝，耽淫世华，百日以来，微用宣泄，此之意况，以理可知。如不能慎，徒服无益，斯可谓扬汤止沸，不如离薪也。故说云

：鸡雏养蚕，续不供口，此之谓也。至于坐卧居处，极须清静。衣物众具，并宜香洁。鞋履杂物，不用借人。恐杂气相乱，正气不居；则魂魄散越，多诸梦想，则神识不澄；神识不澄，则志诚不定；志诚不定，则情怀燥扰；情怀燥扰，则有始无终；有始无终，则于服饵养生，有能终卒者，鲜矣。若居处清静，衣香严洁，药物精新，怀形一定，服饵不辍，志存长年，不杂交游，唯知内视，依方禁戒，受气宝精。如是十年，则诸仙毕至，青腰丞翼，咸侍卫之。六甲直符，任其驰使，十二守土，应答俱臻，八使天官，随怀即感。若能阶此，已证神仙，何拘于长者焉！其荤辛血属，仙家大忌，乃至凶秽之处，亦勿履之。若正疗病，暂时所不论耳。三品服饵丸散，任情随时取宜，亦无恒，唯消息节度，触类引之。上品养生，道尽于此也。

## 中品和形养性篇第二

十主头面诸疾可以和形长服留颜还白方（以立春日为始）  
胤丹三十六分 槐子十九分 夜干十二分 牛膝二十四分  
防风十二分

右五味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日二服，别加二丸，以三十丸为恒。服得百日，缘身头面所有诸疾悉皆除愈。服得周年，白发总变，色如童子，身轻目明。能满千日，见诸鬼神，夜视有光。忌诸肉陈臭物。

十一主心腹诸疾可以和形长服驻年还白方（以立春日为始）

胤丹三十六分 蜚廉十二分 人参十一分 白术十二分  
茯苓二十分

右五味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日二服，别加二丸，至三十丸为恒。服得百日，缘身心腹所有诸疾悉皆除愈。服得周年，白发更黑，颜如十五女子，日可四五顿食，定心神。能满千日，役使山精。忌桃李、大醋、陈臭等物。

十二主四肢诸疾可以和形长服反颜还白方（以夏至月为始）

胤丹三十二分 山茱萸十八分 牛膝十二分 石龙芮十二分 杜仲十二分

右五味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日二服，别加二丸，至三十丸为恒。服得百日，缘身四肢所有诸疾皆悉除愈。服得一年，腰脚轻利，阳道不衰，白发更黑，耳目聪明。能满千日，尸虫并死，四大舒缓，调和关节，去诸头寒，多生男女。忌恶鱼肉、陈臭物。

十三主胸诸疾可以和形长服更还白方（以立秋日为始）

胤丹三十六分 白芷六分 防风十二分 细辛六分 牛膝二十分 甘草十八分（炙）

右六味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日再服，别加二丸，至三十丸为常。服得百日，缘身胸背所有诸疾皆悉除愈。服得一年，耳聪目明，口气香洁，肉色肥泽，眼目头面轻利，风邪并除，九窍通爽，五藏安和，去诸烦满。忌生菜、陈臭、菰菜等物。

十四主人福薄少媚令人爱念好容色延年方（以立春日为

始)

胤丹七十二分 麦门冬三十二分 万岁二十四分 牛膝二十四分 薯实二十四分 独摇草二十四分

右六味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日二服，服加二丸，至三十二丸为恒。服得百日，皮肤光悦。二百日，面如十五六童子。三百日，媚好具足，见者皆爱，神彩纵逸，不可名之，有所好求，莫不依允。忌五辛、鱼肉、陈臭、生菜等物。

十五主利关节四肢九窍通百脉令人能食轻身长生方（以建日为始）

胤丹八十四分 天门冬四十二分 苦参二十四分 白术二十四分 青木香十二分 兔丝子十二分 桂心二十四分 甘草十二分 茯苓二十四分 牛膝二十四分

右十味，蜜丸如梧桐子大。一服十五丸，日再服，服加二丸，至二十四丸止。欲得阴大而坚，加巴戟天二十四分。肉苁蓉二十四分，欲得小便滑利者，加泽泻二十一分。多风者，加防风三十分。多头风，加芎藭二十四分，山茱萸二十四分，薯蓣二十分。若内伤绝者，加鹿角胶二十八分，灸续断二十分。热者，加干地黄二十四分。忌桃李、蒜菜、陈臭、鲤鱼、醋等物。

十六主安神强记方

胤丹八十一分 防风三十四分 远志二十四分 天门冬十一分 菖蒲二十四分（寸九节者） 人参十二分 茯苓二十四分 通草十二分

右八味，蜜丸如梧桐子大。服二十丸，日再服，加二丸，至二十八丸止。服得三百日，旧日之事，皆总记之；六百日，

平生习学者，悉记俨然；九百日，诵万言终身不忘，志气虚豁，声音柔和，所有热风，皆悉除愈，身神具，腑脏安；服九年，聪慧若神，颜色充美；终身不懈，及获神仙。忌羊肉饧、鲤鱼、大醋、陈臭、五辛等物。

十七主心虚恐怖惊忪不定方（以平定日合之）

胤丹八十一分 茯苓四十九分 卷柏三十一分 龙齿十二分（研） 人参十二分

右五味，蜜丸如梧桐子大。一服十二丸，日再服，日加二丸，至二十四丸止。服得百日，恐怖即定；服二百日，迅雷不惊，临危不惧，神安志定，延命无穷，肌肉充华，颜如童子；终身不绝，效验若神。忌大醋、猪肉、陈臭等物。

十八主辟邪鬼魅山精魍魉等方（以五月五日腊日合之）

胤丹四十九分 苏合香三十分 青木香二十四分 安息香二十四分 麝香十二分 生犀角二十四分 羚羊角十二分 白木香二十四分

右八味，以枣膏丸，如小豆大。一服七丸，日再服，不过七日，邪鬼病皆瘥。亦可七丸合为一丸，烧于香火上，薰病人隐处，若鼻孔中吸噎，日夕各一度薰香，即差。若山行野宿，烧之，则群妖敛迹，不能近。若欲召真神，烧之，则仙官并至，玉女卫形。若能久服，满百日，衣汗皆香。千日，所卧床枕，吐气言语，香气远闻，非说可尽。一云：迎风而立，香闻三十里，久久百邪不干，群妖速殄。万日道成，白日升仙，役使鬼神，拯济无极，长生久视，与天地齐备。忌五辛、生鱼肉、生菜、桃李及陈臭等物。

十九主荒年绝谷不饥去俗方（以成满日为始）

胤丹一百二十分 白术三十六分 天花菴三十分 天门冬九十一分（去心）真苏合二十四分 茯苓三十九分 松柏十二分 炼蜡四十九分 青木香二十四分 干地黄三十六分 大豆黄四十九分 松根白皮二十二分

右十二味为散，好炼酥三斤，入鼎为丸，如弹子大。日服五丸，久久不饥渴，饮冷水及醇酒为佳，身轻目明，力作不倦，可以入山往险，亦无所殆，久久服者，神仙也。其辟邪魅，毒虫、蛇虺，皆不敢近。亦甚省睡，至梦相见如晨事，识与神通，久久谙知幽冥间事，当密之。忌血味、生菜、鲤鱼、大饭、陈臭，若绝谷者，则都不食余物。

### 二十养性宜食论

论曰：凡中品药性为宗，至于服饵，皆须导引相助，能兼上法尤益。其性房帷之间，月惟一泄。年五十已上，四十日一交，此于药饵，过无妨损，但为药力未成，骨髓须实，所以制之。是三年一发，可御百女。然铁有鉴形之明，鬼神惧触其锋，精魅丑彰其质，所以妖邪魍魉，终身免之。然三年始服一剂，剂即百斤，计有千余日也。此非药力将成，精灵自卫，其功效一如方述。四时消息，临时制宜，所论服日，皆依下注。当服之时，须食牛羊獐鹿雉兔鸡鸭鹅酒面之属，以助药势。大说如是，自外依常。中间亦有禀受，盛衰不同，强弱不等，或一年药力乃盛，或数年始效，此并受性不同，气候有异，未可怪也。（此谓单服，如兼草药，则一依其方，所陈功效深浅）。若修行上道，不顾妻孥，可行上品闭情真法。此则强身益智，永绝骄淫，朱室紫房，何能远矣！子自服胤丹来，向欲周岁，中间获验，非笔能申，惟恨过之，失期晚也。今故具述，广宣流布，

有道君子，知我志焉。

### 下品疗疾蠲痾篇第三

二十一主心风虚弱健忘心家诸病方（以上戊巳日合）

胤丹三十二分 茯苓二十四分 远志十二分 人参十二分

右四味，蜜丸如梧桐子大。一服十二丸，日再服，加二丸，至二十四丸止。服尽更合，病差仍停。忌大醋、陈臭等物。

二十二主脾风虚不能食脾家诸病方（以庚子日合）

胤丹三十六分 白术二十四分 甘草十二分 豆蔻十三分（去皮）

右四味，蜜丸如梧桐子大。一服十五丸，日再服，加至二十丸为恒。忌桃李、蒜菜、生冷、难消之物。

二十三主肺风虚兼嗽或气上肺家诸疾方（以壬癸日合）

胤丹三十六分 天门冬二十四分 五味子十四分 紫苏子五合

右四味，蜜丸如梧桐子大。一服十五丸，日再服，渐加至二十一丸为恒。忌鲤鱼、生臭、大酢、咸等物。

二十四主肾虚腰痛肾家诸疾方（以定日合之）

胤丹三十六分 杜仲二十四分 牛膝二十四分 鹿角胶十八分（炙）

右四味，蜜丸如梧桐子大。一服二十丸，日再服，渐加至三十丸为恒。忌生菜、生鱼。

二十五主肝风虚目暗肝家诸病方（以丙子日合之）

胤丹三十六分 车前子二十四分 槐子十八分 决明子十



八分

右四味，蜜丸，一服十丸，渐加至三十丸为恒。忌五辛热毒物。

二十六主五劳七伤八风十二痹乏气少力弱房方（以四时常服）

胤丹八十一分 肉苁蓉三十九分 白胶二十四分（炙）  
防风二十四分 蛇床仁十二分 兔丝子十八分 薯蓣十二分  
茯苓十二分 五味子十八分 杜仲十八分 桂心十二分 牛膝  
二十四分

右十二味蜜丸，一服二十五丸，日再服，渐加至三十丸为恒。忌大醋、生菜、陈臭等物。

二十七主房帷间衰弱方

胤丹八十一分 巴戟天皮二十四分 兔丝子二十四分 蛇  
床仁二十四分

右四味，雀卵和丸，一服二十丸，用鸡子和亦得，渐加至三十丸。忌如前法。

二十八主宿食不消心腹冷痛胀满虚鸣不能食方

胤丹十八分 当归十二分 干姜二十分 白术十二分 姜  
黄十分（炙）甘草十分 厚朴十分（炙） 吴茱萸十分

右八味蜜丸，一服二十丸，日再服，渐加至三十丸为恒。忌同前法。

二十九主心腹积症瘦腹大方

胤丹十二分 鳖甲十分（炙） 蝉甲十分（炙） 牛膝十  
分 大黄十分 附子八分（炮） 防葵八分 桑耳十分（金色者）

右八味，蜜丸，一服十丸，日二服，久疾根者即差。忌如前法。

三十主五尸九注骨蒸传尸复连灭门方

胤丹二十四分 獭肝二具（炙） 安息香十分 苏合香十分

鬼督邮十一分 白术十分 青木香八分

右七味，丸散任意，每服七丸，日再服，散即服一钱七。忌如前法。

三十一主疥癬痈疽手足挛（辟足）鼻柱断坏者方

胤丹一百二十八分 天门冬八十分 蛇脯三十六分 茯苓三十六分 真木兰皮三十分 苦参八十一分 梔子仁十四分 白术二十八分 苍耳子二十分 干地黄二十四分 牛膝二十四分 枳壳二十分

右十二味蜜丸，一服三十六丸，日二服，服之百日已外，周年以来，所患无不愈者。如极重，不过千日。一差之后，色胜于未病前。忌法同前。

三十二主消渴中昼夜饮水乃至一石不能食方

胤丹四十分 苦参三十二分 知母二十八分 栝蒌三十二分

黄连三十八分 麦门冬二十四分（去心）

右六味，生地黄汁及竹沥和丸，如梧桐子大。众手为丸，曝干，以荆根汁服三十丸，日再服，加至四十丸。忌如前法。

三十三主痢下黄赤水若鲜血无时度方

胤丹十二分 茯苓十八分 黄连二十四分 黄芩二十四分 黄蘗十八分 龙骨十二分 犀角十二分

右七味筛，饮服方寸七，日再，渐加至三七为度。忌如前法。

三十四主冷痢下浓血下部疼痛小腹胀满方

胤丹十二分 干姜二十四分 吴茱萸二十四分 黄连二十分 厚朴二十分（炙） 豆蔻二十分（去皮） 白术十二分 赤

石脂十八分

右八味下筛，饮服方寸匕，日再服，渐加至二匕，疾愈当止。忌如前法。

三十五主小儿惊痫壮热发作有时方

胤丹二十八分 龙齿十二分 牛黄十三分 茯苓六分 人参八分 蚺蛇胆八分 麦门冬八分 甘草六分（炙）

右八味下筛，以牛乳和五钱匕服之，日再，尽此一剂，但惊痫除差，亦终身不染时气，永定心力，开聪明，强记不忘，亦不患温气无辜等疾。忌如前法。

三十六主目暗眼中三十六疾方（以开日合之）

胤丹八十一分 莽子四十九分 车前子七十二分 决明子三十二分 槐子二十二分

右五味捣末，以麦门冬汁煎溲为丸。每食后服二十丸，日再服。尽更合，能满千日，夜视有光，久久能跳赴深谷，身轻目明，心神清朗。忌五辛、酒肉、陈臭等物。

三十七主耳聋耳中三十六疾方（以开日合之）

胤丹八十一分 磁石三十八分 菖蒲十八分 通草十八分 玄参十八分

右五味，以葱涕溲为丸。一服二十八丸，日再服。满千日，则闻百步中人语声事。周万日则神与物通，有所警诫皆闻语。忌如前法。

三十八主鼻塞鼻中三十六疾方（以开日合之）

胤丹八十一分 通草三十二分 细辛二十八分 干姜三十八分（炮）

蒲黄十二分

右五味，以生地黄汁煎溲为丸。一服二十八丸，日再服。满千日，闻百步内香。周万日，人闻药物则知善恶。

三十九主口舌青黑口内三十六疾方

胤丹八十一分 黄莲七十二分 升麻三十二分 檀

恒二十八分

天门冬二十八分（去心）

右五味，以砂糖和丸。一服二十八丸，日再服。满千日，唇如朱丹，面色赤白，肌肉润悦，滑腻异常，与人谈论，见者欢喜，功能不可具言。忌如前法。

四十主身体粗皮肤甲错多诸癍疥身中三十六疾方

胤丹八十一分 千秋七十二分 干地黄七十二分

人参三十分

麦门冬七十二分（去心）

右五味，以酥蜜和为丸。一服三十二丸，日再服。满千日，则体生光白，行步纵阔，举止生清，多有逸能。周万日，则颜如十五女子，无问人鬼，见者欣爱。所为善事，莫不从心。

四十一主心虚悸战栗多汗心中三十六疾方（以定日合之）

胤丹八十二分 人参七十二分 茯苓三十二分 高良姜八

十分 赤石脂二十八分

右五味，以麦门冬汁煎和为丸。一服三十二丸，日再服。满百日，所患皆愈。周千日，则问一知十，闻雷声亦不惊悚，神安志定。万日备通，触目之事，见则自悟。若多以菖蒲代高良姜，可以常服。

四十二主阴 疝气等方

胤丹四十分 蒺藜子十二分 桃仁四十分 狸阴一具（去

毛，灸）海藻二十四分（马毛者，沉之）

右五味，蜜丸如梧桐子大。酒服二十丸，日再服，讫任意。忌菴穉，百日外无忌。

四十三主少小脱肛或因虚冷者主之方

胤丹三十分 卷柏十二分 肉苁蓉十分 兔丝子十分

右四味，蜜丸如梧桐子大。酒服二十丸，再服，无忌。又兼胤丹传肛上，三五度差。

#### 四十四主虚劳五痔方

胤丹三十分 兔丝子十二分 覆盆子十二分 五味子十二分 牛膝二十分 干地黄二十分 当归十二分 桂心十二分

右八味蜜丸，酒服，满百日即差。服既，更合之。忌行房、生菜、陈臭物。

#### 四十五蠲痼禁忌论

论曰：下品疗病，暂服纵延时日，不过数剂。一差已后，能久服之，非惟疗病，神仙亦可冀也。胤丹之体，特忌猪肉酒醉，变吐无所不至，于余食并无妨废。前知三品所论者，为兼草药，所以须然。大凡论饵之法，伤慎犹好，既不损药势，得益弥速。其陈秽之物，凡人亦不宜多食，惟令昏浊精神，乱忤真气。真气既乱，邪气反入，由是百病竞生，死亡无日，而况求延年乎？而况求神仙乎？摄生之士，可不勗哉！此之教识，略举纲目，服饵之法，触类而长。凡正服药，病未全疗，必不得近房，一犯损十日药，再犯百日，三犯毕剂力绝，乃更生余病，何论于旧疾乎？有病君子，深须达之。子自服饵以来，今将二十余载，其间禁忌节度，乃至犯诫违方，善恶备经，今具述，服饵之士宜知之。得者慎重而勿秘，阴德济人，其功大矣。

胤丹二十八分 人参十分 石斛六分 兔丝子六分 苟杞子六分 牛膝六分 茯苓六分 桂心四分 达志六分 署预六分 肉苁蓉六分 蛇床子四分

右十二味，依常法服。

胤丹四分 人参二两 茯苓二两 远志二两 署预二两 五味子二两 杜仲二两 甘草二两 兔丝子二两 牛膝二两

续断二两 当归二两 枣膏八两 麦门冬二两（去心） 巴戟  
天二两 肉苁蓉三两

右十六味，准上，日再服，服二十丸，渐加三十丸为恒。

### 古铁胤粉方

夫金玉之药，停置积久，终无自坏，以其自然生。因其自生，故名为胤。凡断割万病，非胤不克，理药化金，非铁不成。劲利坚健，既刚既快。或光辉烛地，或销熔变化，邪精惧其鉴形，鬼神畏其刚利。夫人但贵玉石药，不知铁胤强筋骨，益气力，使心健人勇，身体轻利，疗五劳七伤，补腰脚不足，尤疗虚损，反白变黑，延年益寿，补精填髓，起阴发阳，增长业命，无三五妇，则不可辄服。功效极多，难可具记。其法取精刚蒸铁，打作片如笏形，两面磨砭使净，作三四十枚，以水净拭，即侧著瓮中，放篋上盖头，泥之，置阴润处。百日开取，尽生胤也。以竹篋刮取，其丹色赤黄。于瓮钵中玉碯研筛三遍，以酒浸三日，少浑，即转泻别器中，轻细飞过者，随酒取，淀著下者弃之。其随酒者又澄一日，更倾者酒，取下胤淀，日曝干，枣肉为丸，如梧桐子大。初服十五丸，日再服，渐加至三十丸，用所澄酒服益佳，百无所忌。

### 后代名医造铁胤粉

右取蒸刚铁一百斤，任意大小打作叶，厚三分许，两面刮削，平净如镜，长短方圆任意作。讫，取白盐一合，磁石毛一两，磁石亦得，水一合半，和盐搅令消，内磁石末，更若多，亦准此为数。以此盐水濯，即侧著瓮中，令盖口。其瓮先盛酱者佳，新者不堪。盖讫，埋瓮于北阴地下，使不见日，盖瓮土可一尺许，每日以盐水洒之，一如前法。

## 卷七十九 符图部一

### 五岳真形图序 东方朔

《五岳真形》者，山水之象也。盘曲回转，陵阜形势，高下参差，长短卷舒。波流似于旧笔，锋芒畅乎岭嵴。云林玄黄，有书字之状。是以天真道君下观规矩，拟纵趣向，因如字之韵，而随形而名山焉。子有《东岳真形》，令人神安命延，存身长久，入山履川，百芝自聚；子有《南岳真形》，五瘟不加，辟除火光，谋恶我者，反还自伤；子有《中岳真形》，所向唯利，致财巨亿，愿愿克合，不劳身力；子有《西岳真形》，消辟五兵，入阵刀刃不伤，山川名神，尊奉伺迎；子有《北岳真形》，入水却灾，百毒灭伏，役使蛟龙，长享福禄；子尽有《五岳真形》，横天纵地，弥纶四方，见我欢悦，人神攸同。黄帝征师诸侯，与蚩尤战于涿鹿之野，遂擒之，诸侯咸宗轩辕为天子，代神农氏，是为黄帝。天下有不顺者，从而征之，破山通道，未尝宁居。东至于海，登太山及岱宗；西至崆峒，登鸡头；南至于江，登熊湘；北遂獯鬻，登符釜山，而邑于涿鹿之阿，迁徙往来，无有常处。察四岳，并有佐命之山，而南岳独孤峙无辅，乃章词三天太上道君，命霍山、潜山为储君。奏可，帝乃自造山，躬写形像，连五图之后。又命拜青城为丈人署，庐山



为使者形，皆以次相续，此道始于黄帝耳。

东岳太山君，领群神五千九百人，主治死生，百鬼之主帅也，血食庙祀所宗者也。世俗所奉鬼祠邪精之神而死者，皆归泰山受罪考焉。诸得佩《五岳真形》，入经山林及太山，诸山百川神皆出境迎拜子也。泰山君服青袍，戴苍碧七称之冠，佩通阳太平之印，乘青龙，从群官来迎子。

南岳衡山君，领仙七万七百人，诸入南岳所部山，山神皆出迎。南岳君服朱光之袍，九丹日精之冠，佩夜光天真之印，乘赤龙，从群官来迎子。

中岳嵩高君，领仙官玉女三万人，道士入其中岳所部，名灵皆来迎拜。中岳君服黄素之袍，戴黄玉太乙之冠，佩神宗阳和之印，乘黄龙，从群官而来迎子。中岳五土之主，子善敬之。太上常用三天真人有德望者以居之。

西岳华山君，领仙官玉女四千一百人，道士入其所部之山川，神并来迎。华山君服白素之袍，戴太初九流之冠，佩开天通真之印，乘白龙而来迎子。

北岳恒山君，领仙人玉女七千人，道士入其所部之山川，神皆来迎。北岳君服玄流之袍，戴太真冥灵之冠，佩长津悟真之印，乘黑龙，而来迎子。

青城丈人，黄帝所命也，主地仙人，是五岳之上司，以总群官也。丈人领仙官万人。道士入山者，见丈人服朱光之袍，戴盖天之冠，佩三庭之印，乘科车，从众灵而来迎子。

庐山使者，黄帝所命，秩比御史，主总仙官之位，盖五岳之监司。道士入其山者，使者服朱绀之袍，戴平华之冠，佩三天真形之印，而来迎子，亦乘科车。

霍山南岳储君，黄帝所命，衡岳之副主也，领灵官三万人。上调和气，下拯黎民，阅校众仙，制命水神，是峻险之府，而

诸灵之所顺也。道士入其境，储君服青锦之袍，戴启明之冠，佩道君之玉策而来迎子，或乘科车，或驾龙虎。

潜山储君，黄帝所命，为衡岳储贰，时参政事，今职似辅佐者也。道士入其山者，潜山君服紫光绣衣，戴参灵之冠，佩朱宫之印，乘赤龙之车而来迎子。

诸佐命山君，并辅弼岳君，预于位政。道士入其山，佐命服朱袍，戴仙华之冠，佩太上真形之章而来迎子，所乘无常。

东方朔言：古书《五岳真形》首目者，乃是神农，前世太上八会群方飞天之书，法始于鸟迹之先代也。自不得仙人译注显出，终不可知也。凡道士欲佩图，进取山象及书古文卷毕，以此题外面。

### 五岳真形神仙图记

《神仙图》曰：一切感到，妙应备周。或天或人，或山或水，或飞或沉，或文或质，皆是真精之信，有字总号为符。符验证感，皆由善功。功无妄应，其路莫因。因悟立功，其符必现。现而未得，兼者由功。行未充，方应修戒，积精存神，常想真形，受符佩服。妙气入身，智慧通达。达士通人，勤密遵崇。消灾厌恶，精则有征。征则神降，所愿必谐。是以三五，传用至今。但后人善少，得之偏颇。或时遇值，旨诀不明。明之者希，希故为贵。贵不可妄得，得不可妄行。臣择君而奏，君卜臣而传。传奏非人，两受灾害。下未达者，上行之宜。奏未通者，下修之宜。潜密则各保元吉，诸和则俱享利贞。君臣父子，男女师朋，更相晓喻，疑则勿行。了然无惑，正信同心，上下

和睦，必通神明。玉帛钟鼓，礼乐外形。三牲百味，嗜欲之事。日损之教，止杀之科，明者惊悟，不复曲言。今录古迹记时，不因风移俗易，三牲可停。观妙之徒，勿拘文以翳理。缘本取悟，必守源以究流，源一生二，二为父母，不可忘常，当存念。

《老君中经》曰：东王父者，清阳之气也，万神之先。治东方，下在蓬莱山，姓无为，字君解。人亦有之在头顶，精气为日，在左目中，名伏戏，字偃昌。西王母者，太阴之气也。姓自然，字君思。下治昆仑之金城，九重云气五色，万丈之巔。上直北斗华盖紫房北辰之下。人亦有之在右目中，姓太阴，名玄光，字偃玉。人须得王父母两目中护之，乃能行步，视瞻聪明，别知好丑，下流诸神。如母念子，子亦念母，精明相得，万世常存。人之两乳，万神精气，阴阳之凑液，左乳下有日，右乳下有月，王父母之宅，上治目中，游戏头上，止于乳下，宿于绛宫，此阴阳之气。人欲长生神仙，务和阴阳之气。气中有神，神验有符。符次于神，神为符本。本是谁乎？太一父母也。太一祖宗，源本之主，父为东帝，母为西君。应感赴救，随念而来。来无所从而来，去无所至而去。众生大感，都应有方。寓昆莱，并立宫殿大会，集乎大岳，位居五岳之端。符信之始，始于此方。元气周回，北斗分下，天地交泰，父母转居。人能得者，混合玄黄，驱使六甲，正定五行。常以岁暮，三元之朝，诸王之辰，拜讯父母。练符建德，上乘玄元，制化一切，赏罚分明。始气荡涤，正之以符。常起王初，受符施行。应当拜者，皆回向日晷。

《五岳真形》、《神仙图记》，并出太玄真人。汉初，有司马季主师事太玄仙女（太玄仙女，号西灵子都，居委羽石室大有宫中，有诸妙法，《五岳》备焉。）咨受《五岳》，以奏孝文帝。帝不能勤行，又教贾谊。谊未练习，粗谙本源。文帝

受厘，坐于宣室。未央殿前正室也，祠还至福祚曰厘。因问鬼神事，谊具道之。帝曰：“吾久不见贾生，自以为过之，今不及也。”虽有此言，犹斥远谊。谊既失志，法遂不行。后孝武好道，少君荐之，王母感降图文，宣明不能专修，俄复散逸。季主同学，道士季守及西门君惠，图讖兼精，知刘季当为天子，光武中兴，诣上此科，帝务未遑，信用疏略。建武七年（此年日蚀，积两为灾，阴阳变怪，四方多垒，寇逆纵横。及至八年，上自西征。颍川盗贼、河东叛逆，京师验动，求福神明。方士道术，颇被信用）。乃征道士郭宪，代张堪为光禄勋，从驾南郊，委以祭事，遍醮五岳，行戒立功，后不能从，兹法又绝。至桓帝时，仲甫卖算辽刀城市上，以供酒脯，为百姓祈福。外人斋礼，即皆设之，远近歌恩，昏朝所忌。李公嘉遁，左生微行。葛孝先为孙权修之，多诸效验。李方回为晋武修之，亦有休征。世尘难荡，善始少终。元帝过江，鲍太玄频奏，王丞相雅重之。鲍为广州长史，南海太守，化行丹天，传授葛洪。洪传滕叔，叔传乐玄真，条流稍广，约在至诚，修行唯密也。

### 王母授汉武帝真形图

西王母既降汉宫，武帝见王母巾器中有一卷书，盛以紫锦之囊。帝问：此书是仙灵方也。不审其目可得瞻盼否？王母出以示之，曰：此《五岳真形图》也。昨青城诸仙就吾请求，今当过以付之，乃三天太上所出。文秘禁重，岂汝秽质所宜佩乎？今且与汝《灵光生经》，可以通神劝志也。帝叩头，请求不已，王母曰：上皇清虚元年，三天太上道君下观六合，瞻海河

之长短，察丘山之高卑，名立天柱，安于地理。植五岳而拟诸镇辅，贵昆陵以舍灵仙，尊蓬丘以馆真人，安水神乎极阴之源，栖大帝乎扶桑之墟。于是方丈之阜，为理命之室，沧浪海岛，养九老之堂，祖瀛玄炎，长元流生，凤麟聚窟，各为洲名。并在沧流大海玄津之中。水则碧黑俱流，波则震荡群精。诸仙玉女，聚乎沧溟，其名难测，其实分明。乃因山源之规矩，睹河岳之盘曲，陵回阜转，山高陇长，周旋逶迤，形似书字。是故因象制名，定实之号，画形秘于玄台，而出为灵真之信。诸仙佩之，皆如传章，道士执之，经行山川，百神群灵，尊奉亲迎。汝虽不正，然数诣山泽，扣求之志，不忘于道，欣子有心，今以相与。当深奉慎，如事君父，泄失凡人，必致祸考也。

夫人语帝曰：阿母今以琼笈妙韞，发紫台之文，赐汝八会之书，《五岳真形》，可谓至珍且贵，上帝之玄观矣。子自非受命合神，弗见此文矣。今虽得其真形，睹其妙理，而无《五帝六甲左右灵飞之符》、《太阴六丁通真遂灵玉女之录》、《太阳六戊招神天光策精之书》、《左一混沌东蒙之文》、《右庚素昭摄杀之律》、《壬癸六遁隐地八术》、《丙丁入火九赤斑符》、《六辛入金致黄水月华之法》、《六巳石精金光藏影化形子午卯酉八稟十决六灵威仪》、《丑辰未戌地直曲素诀辞长生紫书三五顺行》、《寅巳申亥紫度炎光内现中方》。凡关此十二事者，当何以召山灵、朝地神、摄万精、驱百鬼、来虎豹、役蛟龙乎？子所谓适知其一，未见其他。

帝下席叩头，曰：彻，下土浊民，不诚清真，今日闻道，是生命遇会。圣母今当赐与真形，修以度世。夫人方今告彻，应须六甲六丁六戊致灵之术。既蒙启发，弘益无量，唯愿告诲，济臣饥渴。使已枯之本，蒙灵阳之润。焦火之草，幸甘雨之溉。不敢多陈，帝启陈不已。

王母又告夫人曰：适《真形》宝文，灵官所贵。此子守求不已，誓以必得，故亏科禁，将以与之。然五帝六甲通真招神，此术眇邈，必须精洁至诚，逮非流浊所宜施行。吾今既赐彻以《真形》，夫人当爱之矣。吾当亿与夫人共登玄陇羽野及曜真之山视童子，王子就吾所请《太上隐书》。吾以三九秘言，不可传泄于中仙。夫人时亦有言见守，助子童之至矣。吾既难违来意，不独执惜。至于今日之事，有以相似。后来朱陵食灵瓜味甚好，忆此久而已七千岁矣。夫人既已告彻篇目十二事，毕，当匠而成之，何缘令主人稽首谢某乙流血邪？

夫人曰：环不苟惜，向不持来耳。此是太虚群文，真人赤童所出。传之既自有男女之别耳，又且宣得道者。恐彻下才，未应用此耳！

王母色不平，乃曰：天禁漏泄，犯违明科，传必其人，授必知真者，夫人何向下才而说灵飞之篇目乎？妄说则泄，说而不传，是为害天道，此禁乃重于传耶！别敕三官司，直推夫人之轻泄也。吾《五岳真形文》，乃太上天皇所出。其文宝妙，而为天仙之信，岂复下授于刘彻也！直以彻孜孜之心，数请川岳，勤修斋戒，以求仙之应，志在度世，不遭明师，故吾等有下眇之耳。至于教仙之术，不复限惜而传。夫人但有致灵之方，能独执之乎？吾今所以授彻《真形文》者，非谓其必能得道，欲使其精神有验，求仙之不惑，可以诱进向化之徒。又欲令悠悠者，知天地间有此灵真之事，足以却不信之狂夫耳！吾意在此也。子性气淫暴，眼时不红，何能得成真仙，浮空参差乎？勤而行之，适可庶于不死乎！明科云：非长生难也，闻道难；非闻道难也，行之难；非行之难也，终之难。良匠能与人规矩，不能使人巧也。必何足隐之耶？

夫人曰：谨受命矣！但环蒙倒景君，无常先生，二君传灵

文，约以四千年一传，女授女，男授男，太上科禁，以表于昭生之符矣。环以来并贤大女郎，抱简凡六十八女子，固不可授男也。顷见浮广山青真小童受《六甲灵飞》于太微中元君，凡十二事，与环所授者同。青真是环入火弟子，所受《六甲》，未闻别受于人，彼，男官也。今正敕取之，将以授彻也。先所以告其篇目者，亦是愍其有心，将欲坚其专气，令且广求，他日与之，亦欲与男，授男承科而行，使勤而方获，令知天真之珍贵耳！非徒苟执，衒泄天道矣。愿不罪焉！阿母《真形》之贵，愍于勤志，亦以授之，可谓大不宜矣！

王母笑曰：亦可恕乎！夫人即命侍女纪离容但到浮广山，敕青真小童出。若《左右六甲灵飞》致神之方十二事，当以授刘彻也。须臾，侍女还，捧八色玉笈凤文之韞，以出《六甲之文》，曰：弟子柯昌言，向奉使绛河，摄南真七源君，检校群龙猛兽事毕，过门授教，承阿母相邀，诣刘彻家。不意天灵至尊，下降于浊臭。不审起居，此来何如？侍女纪离容至，云：尊欲得金书秘字，《六甲灵飞左右策精》之文十二事，欲授刘彻，封一通付信。且彻虽有心，实非仙才，讵宜以此传泄于行尸乎？昌近在帝处，见有上言之者甚众，云：山鬼哭于（++聚）林，孤魂号于绝域，兴师而族有功，妄兵劳而纵白骨，淫酷自恣，罪已彰于太上，怨已见于天气，嚣言玄闻，必不得度世也。值尊见敕，不敢有违耳。王母笑曰：言此子者诚多然，帝亦不必推也。夫好道慕仙者，精神志念，斋戒思愆，辄除过一百。克己反善，奉敬真神，存真守一，行此一月，辄除过一千。彻念道累年，齐亦勤矣。累祷名山，愿求度脱，校计功过，殆已相掩。但自今已去。勤修志诚，奉上元夫人之言，不宜复奢淫暴虐，使万兆劳残，急魂穷鬼破掘之诉，流血之尸忘功赏之辞耳！夫人乃下席起立，手执八色玉笈凤文之韞，仰天向帝而咒

曰：

天九浩洞，太上耀灵，神照玄微，清虚朗明。清虚者妙，守气者生，至念道臻，寂感真神。役神形辱，安精年荣。授彻《灵飞》，及此《六丁》，《左右招神》，《天光荣精》。可以步虚，可以隐形，长生久视，还白留青。我传有四万之寿，彻传在四十之龄，违犯泄漏，祸必族倾，反是天真，必沉幽冥，示其福祸，敢告刘彻。师主是青真小童，太上中黄道君之司直，元始十天王入室弟子也，姓口名陵阳，字庇华，形有婴孩之貌，仙宫以青真小童为号。其为器也，玉朗洞照，圣同万变，玄镜幽览，才为真俊。游于浮广，推此始运，馆于玄圃，治仙职分。子在师君，尔从所愿。不存所授，命必倾沦。言毕，夫人一一手指所愿用节文，以示帝焉。

凡十二事都毕，又告帝曰：夫五帝者，五方之真精，六甲者，六位之通灵。佩而尊之，可致长生。此书上帝封于玄景之台，子其宝秘焉。

王母曰：此三天太上之所撰，藏于紫陵之台，隐以灵坛之房，封以华琳之函，韞以兰简之帛，约之以紫罗之索，印之以太帝之玺，受之者，四十年传一人，如无其人，八十年可顿受二人。得道者四百年一传，得仙者四千年一传，得真者四万年一传，得升太上者四十万年一传。传非其人，谓之泄天道；得人不传，是为蔽天宝；非限妄传，是谓轻天老；受而不敬，是谓慢天藻。泄蔽轻慢四者，取死之刀斧，延祸之车乘也。泄者，身死于道路，受土形而骸裂；蔽者，盲聋于来世，命雕枉而卒殁；轻则祸终于父母，诣玄都而受罚；慢则曝终而堕恶，生弃疾于后世。皆道之科禁，故以相戒，不可不慎也。

王母因授以《王岳真形图》，帝拜受之。



## 五岳真形图法（并序）

弟子葛洪曰：夫至道无形，机妙难论，神仙之事，诚非小丑所宜缘寻。然世人不睹其门，皆谓之无。既见真验，复肯以语人。是以清浊乖体，香臭绝伦。若道士得秘圣之书，皆当吐于一人口者，则灵真之文，将坠于独见，何缘得存流于百代乎？洪谓传授当必得其人，岂可都蔽邪？自江东都无有此书，若郑君复秘而不出，则斯文永翳也。昔曾以此白郑君曰：道书人皆有之，始《三皇天文大字》，及灵书至妙，修勤求慕时，忽闻见《五岳真形》在目录之首，吴越之人，无有得传，将斯文之不出，文贵而不授乎？不审先生有此书与不佞，令鱼目之珠，映于九阳之光；滂丘丸石，暂眇南和之肆。若遂仰瞻天真，则洪心坚愈深。郑君曰：此书吾似有之，传授禁重，不可妄泄，传非其人，罪咎必至。凡道士辈虽心希清正，而行多不备。不备则有虑祸谄，急令致祸之书而为刀锯乎？是以先流得之者，又不敢轻以授人，便自都绝，正如此耳。卿极有心，必能通玄畅昧，是故相告，且勿宣之。吾先此书受于青牛先生，自吾受《图》以来，未传一人。依仙科，当传一人，乃得绝身弃迹耳。世上波波，不可复停，行当以此文与卿。后复是一年许，七月闲夜见呼，告曰：吾方当去，可具素写《图》。洪乃斋戒祭受，公施用节度，皆出于郑君也。

郑君说：青牛先生，仙人封君达，本陇西人也。初服黄连五十余年，入鸟鼠山中，服炼水银百余年，还乡里，年如三十者。常乘青牛，故号青牛道士。行闻有疾殆死者，识与不识，

便以腰间竹管中药与服之，或为下针，应手皆愈。世多得其验效，都不以姓字语人，人通识乘青牛为名耳。人间复二百余年，入玄丘山中，不知所在。青牛先生言：人家有《五岳真形》，一岳各遣五神来卫护图书。所居山川近者，山泽神又常遣侍官防身，凶逆欲见伤害，皆反受其殃，辟除五兵五瘟，可带履锋刃。又司人之奸秽，言人之不正。不正者祸身，奸秽者祸门，是以宜深忌慎。人有带此文及执持以履山林者，其山地源灵主皆出境拜迎。尊贵图信，鬼神犹执卑降之礼，何况几凡人而可慢堕哉！

郑君言：在家一岁辄一祭《图》，令人居家富昌，宦身升隆，行来诣合，凶祸远逆，求欲得愿，长生延年。若山林独处，可亏祭也。所以然者，山林幽寂，栖心无邪，又非酒炙所出，唯当恭而已矣。家居混杂，有妇女、鸡犬、尘秽生于部界，堕慢出自言语，或污浊神炁，产乳堂宇。是故斋祭灵图，为谢灾属。以月建斋三日，又须夜半之时，出庭中，或密室中，西向，勿令人见。祭用白米粿脯二十五斤，清酒一斛，以十杯酒者一案上，无案，新布巾上亦可。燔两炉香，大例祭，余酒以别盛座左，随杯奠粿花脯，余脯著盘盛座右。取可食菜覆祭上，令花脯在菜下，有果尤良，安施既毕，主人立而不拜，因以朱书章纸著案上，《图》著案后。席上若别有所道，当令声载出口，祭食，须讫也。祭毕，即于祭所室中烧章文，烟尽，取灰，以杂水汤中，令举家各取少多，喷澡面目手足，令人目明无患，辟兵，却鬼，去尸，安神。若家富财丰，而歇尽珍宝，欲置腴于神明，益善也。亦如祠山川，务厚耳。古人祭多用大牢或少牢，饭粿之物，殆崇厚者也。其传授，祭用粿花脯五斤，酒二斗。凡祭胙唯得与同志人，若大祭馔多，得分一家饮食之耳。食胙者，除灾辟祸，褰诸恶气。《祭五岳文》，以好纸朱书之。

请五岳储佐等君（郑君所出）

年月岁在某日，子男生州郡县乡里（某甲），年若干岁，谨依道明科告斋，请五岳君、霍、潜储君、青城丈人、庐山使者、诸佐命八山神君：

东岳泰山君，罗浮括苍佐命。

南岳衡山君，黄帝所命霍山、潜山储君。

中岳嵩高山君，少室武当佐命。

西岳华山君，地肺女几佐命。

北岳恒山君，河逢抱犊佐命。

太岳众官君，千山百川诸墟陵真仙，地主源泽丘阜大神、有泰清三天玄录飞精称下土者，皆登游降于某郡县乡里村中斋盛处，某昔以某年月日受先师真像如千年，按《九都千明之科》，九炁丈人昭生之符，五岳君共遣二十五神，千山百源，皆遣侍官，营卫图书，防捍某身。某身生长浊世，动多违离。才非通真，识浅术薄。未得远避风尘，游适林岫。抱持灵图，汙染秽气，文禁深重，惧以抵触。谨告虔斋祠，诚照至心。当令某长生久视，所向无前。凶害藏匿，金石为开。精光神炁，常在身中。愿欲如意，昌盛隆丰。谋议者反死，毁谤者反伤。令此二十五神、千灵侍官，长守某身，拥护灵文。日月代序，当复以闻。某居在郡县乡里中，因九光使者，威明大夫谨请祭文。如此细书，如道家章状。其所书山神郡县乡村，上叙年月姓字，当如常法。自从后应所道，斟酌出入随意耳。此是岁祭仪。若祭酒祭者，兼建道家之治位。郑君云：神飨下是太上道君致神

符，仙人秘鲁女生所出，以付封先生者。

昔黄帝游观六合，后造神灵，见东、中、西、北四岳并有佐命之山，唯衡山峙立无辅。乃与昌宇、力牧、方明等章词，三天太上使霍山、潜山为南岳储君，拜青城山为丈人，署庐山为使者，令总衡岳，以鼎镇举德真而为主。储君者，衡山之副君也。吴越人或谓霍山为岳，其实非正也。

### 授图祭文

某以胎生肉人，白骨子孙。耽酒器恶，流浊世务。运遇有幸，得奉大化。涤荡秽俗，许以更始。修心慎违，希企灵真。夙夜驰竞，不敢宁舍。昔以某年月日岁在某处，受先师甲乙《真形》，按《九都干明之科》，许得传授。谨按道法，当付良密。今有同志道士，某郡县乡里男生某甲，年如干岁，小心勤翼，必能宣启灵化，敷正神炁。即以今年月誓书，授其真图，委绶告盟，禁以不泄。天亲同心，常相爱护，不得弃元崇末，要荣希利。其五八大约，祸福所期，量己审人，任之处焉。谨斋祭以符，唯即一列上。

### 受图祭文

某胎生肉人，枯骨子孙。生长浊世，染乱罪考。宿行积咎，祸高丘陵。天启其衷，得闻圣化。心开改迹，好生乐道。仰慕

灵感，思求真应。庶蒙清荡，以延性命。常舍秽率善，愿为种民。钻求遐年，当须天启。登山履川，亦赖灵助。注心道门，不敢携贰。并仰贡方，物自辅信。诚以今即日，受《五岳真形》，藏戢一已，与之终始。五八有期，永无中泄。传授相亲，爱护同炁。蠲齐荣辱，天科所祐。不敢慢惰，抵犯禁纲。遵受法诀，付之于心。谨清斋告祭，以为其始，唯即一列上，三天章奏太上。除某三尸，登书生录。刻题玉札，緘之绛府。五方灵岳，各遣五神。千百山川，时差侍官。营守图，永防护。某身使长生永存，寿延亿千。

### 晋鲍靓施用法

靓按《黄帝九籥玉匮内真玄文》，此书是三天太上撰次所出。曾闻之于先达也，言西王母紫兰宫室，通画此象，在诸宫壙玉女仙人服衣，皆以此形画之。昔遣中黄太一，以此图下授名山隐逸有仙录者，结约五八之年而传也。自无运命之遇，莫见其篇目矣。如鲁女生山中，受之皆此也。仙人玄道士佩此类文，入山林川泽，所经诸灵神，皆出郊境奉迎焉。然五岳各有所部，东方之山则属东岳，其西岳、南岳、北岳亦同。唯平地、江河、淮水及中央之山陵，皆统之中岳之部也。诸入山采八石、石象、石脑、流丹珠、飞节、黄子，石髓、桂英、芝草诸神药，自无《五岳》佩之，此仙物终不可得也。欲佩之法，以青为缙，或用白为缙，或盛以紫囊，或带之头上，或带之心前，或肘后。山无大小，皆有灵神。神来见形，自称某山某甲来迎拜也。是太上真人以为竹使策文，五岳卫此图书，如今世人二监司之章

节状，所以丘山之神而来拜谒也。受付之法，限之四十年一传，歃血委誓而约。人有此文在家者，五岳君各遣五神来奉卫图文，所居山川源泽诸灵各遣侍人营护子耳。他人憎嫉，谋议口舌、凶逆贼害、及官系子者，五岳所卫二十五神，及山川侍官，即白所居之部岳君，岳君即使鬼物反害彼人自中也。奉之者，不可不净身清神，若行邪乱慢，不尊所受，忽贱灵信，轻侮宗末者，祸至灭家，不可不慎。入山无其《真形》，则众精坏人；采药不得《真形》，则群灵蔽之；为道士不得《真形》，则魂炁不定，三尸乱干；术士不得此文，皆不成。但就有此文以佩身，乃是弥纶众神，横行天地。在家则神人奉卫，入山则群灵奉迎，采药服芝草则真仙营护，结疫沙害则妖灾自灭尔。乃虚往实来，真验祸福，将有道者，其秘而尊焉！汉元封元年西王母授孝武皇帝。

## 卷八十 符图部二

### 洞玄灵宝三部八景二十四住图

大运告期，赤明开光，三景朗焕，五劫始分。元始天尊与十方大圣、至真尊神、无极太上大道君、飞天神人、玄和玉女、无鞅之众，同坐南浮洞阳上馆柏陵舍中，清淡空泊，素语自然。灵音十合，妙唱开真，诸天欢乐，日月停轮。星宿默度，九天徊关。河海静波，山岳吞烟。龙麟踊跃，人神欢焉。是时，太上元极道君稽首作礼，上白天尊：今日侍坐，太漠开昏。无极世界，一切见明。法音遐振，泽被十方。过泰因缘，劫劫化生，转轮圣位，任居总真。方当玄御，部判六天。考劫理运，料度种民。推算长夜，检实三官。役劳任重，欢戚难言。敢附灵风，回向披心。前与元始天王俱于长桑碧林园中，闻天尊并告大圣尊神云：洞玄天文灵宝玉奥，有三部八景神二十四图，上应二十四真，中部二十四炁，下镇二十四生。灵章璀璨，妙绝空洞。睹之者，九天书名，金简记录，生死得仙，来运当促，三五伤亡。万兆短命，流泄八难。风刀痛体，五苦备婴。沦于长夜，不睹三光。无知受封，任运死生。抚之生化，痛感人神。今大慈道行，惠泽普隆。伏愿天尊，有以哀矜。冀发玄科，教所未闻。使未见者见，未成者成。福流一切，亿劫恩而蒙训授，辄

当承神鼓风，因流阳波，清荡三界，肃检众魔，部正六天，馘斩群邪，安国育民，使阴阳宁，明化既兴，道畅太虚矣。

于是天尊仰而含笑，有青黄赤三色之气从口中而出，光明彻照，十方内外，无幽无隐，一切晓明。金书紫字，玉文丹章，文彩灿烂，在三炁之中。三部八景神二十四真，各从千乘万骑，在空玄之上，辅卫灵文。诸天日月，流洒华光。众津交灌，飞香八缠。万圣称庆，一时礼真。天尊告曰：今生一切欢乐，难譬倾心露蕴，情无遗隐。当依玄科，七宝镇灵，黄金为坛，授子神真之道。道尊法重，四万劫一行，下世度人，秘则真降，泄则祸臻。今已相告，明识之焉。太上道君欣喜惶惧，唯此向而立，叉手听命。天尊登命九光太真、十方飞天、侍经玉郎，披九光玉蕴，出金书紫字玉文丹章，《三部八景二十四图》，盛以白玉立空之案，九色之巾，云精空结，飞文锦盖，悬覆经上。诸天大圣、无极天尊、飞天神王、三天真人，同时监盟，烧香散花，诵咏灵章，旋行宫城，绕经三周，一依旧典，俯仰之格，自然威仪，付度道君。法事粗毕，三景复位，众真退席。是明赤明天中，是男是女，莫不范德，归心信向，皆得度世。

上皇元年九月二日，后圣李君出游西河，历观八方。值元始天王乘八景玉舆，驾九色玄龙，三素飞云，导从群仙，手把华幡，师子白鹤，啸歌邕邕，浮空而来，同会西河之上，李君稽首请问天王：昔蒙训授天书玉字《二十四图》，虽得其文，未究妙章。虽有图赞，而无其像，修之庵蔼，妙理难详。今遇天尊，喜庆难言，愿垂成就，极其道真。于是天王口吐《洞玄内观玉符》，以授于君。使清斋千日，五香薰体，东向服符。子形神备见，自当洞达，诸疑顿了。李君稽首，奉承教旨，具依天仪，长斋千日，东向服符，三部八景神并见，口吐金书玉字，《二十四图》，空中而明，文彩光鲜，洞彻无穷，罗缕自



然，是时，即命主图上仙而画图焉。金书紫字玉文丹章，于此成音。自南极上元、九光太真王夫人、东西二华、南北真公、五岳神仙、清灵真人所受真文并是，后圣所画图像，而各系之焉。

《真人沐浴东井图》上部第一真气颂

天河灌东井，石景水母精。圆光拂灵曜，玄晖莹高明。元始披重夜，天人逐月生。沐浴兰池上，龙负长庚瓶。金童洒香华，玉女流五星，冠带濯玉津，练度五仙形。体香万神降，乘景登高清。

《神仙五岳真形图》上部第二真气颂

妙哉元始道，五灵敷真文。上开龙汉劫，灿烂三景分。十部飞天书，安镇五帝神。灵岳承玄宫，郁勃吐宝云。上有不死炁，殖牙练五仙。玉芝玄中奥，体洁自生薰。精思高灵降，交游上帝君。

《通灵决精八史图》上部第三真气颂

三景吐灵华，晃朗八门开。中有智慧神，被服飞天衣。八史通灵气，玉符洞精微。宝云映玉字，巨兽振天威。灿烂八会宫，纷纷灵人飞。思精招真气，五符生光辉。八景策玉舆，上登入紫微。

《神仙六甲通灵图》上部第四真气颂

灵宫飞天女，六真宴常阳。抱日负明月，仰摄三晨光。通灵究幽微，洞观朗十方，招致自然厨，五芝六府昌。变化练万神，分形改正容。乘虚步玄都，高奔入空洞。时降金霄人，解衿三素房。携契策飞盖，逍遥升玉京。

《神仙九宫紫房图》上部第五真气颂

紫房映高清，宫室互相扶。香烟绕日月，飞天翳太虚。至真大圣众，萧条咏羽书。开度诸天劫，尘沙始一周。九气固灵

运，长保天地居。精思安能远，紫宫生我躯。

《元始太清图》上部第六真气颂

太清无边际，青气郁紫微。灵风迅七宝，琳树何萋萋。紫凤鸣长条，龙麟交横驰，太上观十方，诸天整法衣。旋行绕宫城，三周长夜开。若能思灵气，自得乘景飞。

《神仙真道混成图》上部第七真气颂

荡荡元始初，混沌气未分。三色无中化，回合霭庆云。幽冥生真景，焕落敷灵文。豁朗长夜府，植立天地根。自然妙真气，淳淳气常存。运通九天界，开度诸天门。

《神仙西升宝篆图》上部第八真气颂

乘运迅灵气，驾景升西宫。之造玉那国，万乘来相从。神魔稽首伏，天王并归降。分金范正法，世恭道德王。故施正真气，别号度一方。是时有道世，称曰福德堂。

《灵宝神仙图》曰：《上部八真神图》，以洞天元始之气，化生自然八景上真在人身中，致上元生气。精心内思，八真见形，千乘万骑，运致景云，载人上升。

## 玉符

第一景聪明神，名觉元子，字道都，色白。一景《玉符》，上元洞天炁部一景神（符并朱书）。

第二景发神，名玄父华，字道衡，色玄。《二景玉符》上元洞天炁部二景神。

第三景皮肤神，名通众仲，字道连，色黄。《三景玉符》上元洞天炁部三景神。

第四景目神，名灵监生，字道童，五色。《四景玉符》上元洞天炁部四景神。

第五景项髓神，名灵谟盖，字道周，色白。《五景玉符》上元洞天炁部五景神。

第六景臂神，名益历辅，字道柱，白玉色。《六景玉符》上元洞天炁部六景神。

第七景鼻神，名仲龙玉，字道微，青黄白三色。《七景玉符》上元洞天炁部七景神。

第八景舌神，名始梁峙，字道岐，色赤。《八景玉符》上元洞天炁部八景神。

《神仙图》曰：《八景神真玉符》，上元洞天自然之气，以部上部八景，镇在人身上元宫中。服之八年，八景见形，为已通达幽微之事，洞观自然，坐在立亡。降致天仙，千乘万骑，云舆羽盖，白日登晨。

《神仙通微灵化图》中部第一真气颂

大道妙无像，运气凝高真。结空自然生，灵化表三神。朝引五星精，中喻日中津，夕食黄月华，寝卧练五仙。变景随空

化，倏欻立自然。

《神仙蹑灵九天图》中部第二真气颂

萧萧九天气，清澄自高玄。庆云翳重虚，金阙承紫烟。中有太极宫，道君罗大千。青林弥众梵，十方并飞天。南陵福德堂，四座皆须宾。散华庆我愿，逍遥无波津。

《神仙九变图》中部第三真气颂

妙化因空感，专思通至灵。上食九天气，导引五云精。三日练万神，一日九变形。脱身游九域，游戏三界庭。乘景望太素，灵风扇绿鞵。飞烟绕十绝，黄幡召万灵。诸天降羽仪，郁郁入上清。

《神仙常存图》中部第四真气颂

默念招幽真，专静神自归。漏尽外应消，正气自夷微。积感妙真降，六府生光辉。玄会空相和，万物应向回。八景浮云盖，焕落迅羽仪。载我大梵外，逍遥乘空飞。

《神仙守一养身图》中部第五真气颂

导引九天气，摩手熨身形。遏断邪魔迳，莹饰练光明。凤翔通真气，龙超制万灵。辰旦众真会，养身觉神生。恬惓还守一，静思正气停。神备景自飞，高升入上清。

《神仙守神舍景图》中部第六真气颂

泥丸置魄营，中元抱一宫。丹田三灵府，混合生神王。二关统九天，呼吸日月光。五星奥玄滋，流演六胃充。静思万气归，神安形亦芳。三部八景真，携我入太空。长居天地劫，无始永无终。

《神仙寂嘿养精守志图》中部第七真气颂

清朝餐五星，专思守泥九。正中咽日光，默念绛府薰。黄昏导月精，奥灌丹田君。三真生一景，变化形自分。一见万神归，摄气景高奔。上登日月宫，出入观八门。龙汉无终劫，妙

哉《灵宝文》！

《芝英玉女图》中部第八真气颂

飘飘散灵气，芝英随风回。诸天洒香华，日月灌灵晖。玉女擎金盘，粲粲乘空飞。仰思真颜降，咽芝五神开。导引光明彻，万劫体不衰。

《灵宝神仙图》曰：《中部八景神图》，以元始灵宝洞玄之气，化生自然，中部八景在人身中中元宫，致中元生气。精思八年，八真见形，千乘万骑，运致神仙羽盖，飞行太空。

中真一景喉神，名百流放，字道通，九色。《洞玄中元一景》，真符部一景神。

中真二景肺神，名素灵生，字道平，色白。《洞玄中元二景》，真符部二景神。

中真三景心神，名焕阳昌，字道明，色赤。《洞玄中元三景》，真符部三景神。

中真四景肝神，名开君童，字道青，色青。《洞玄中元四景》，真符部四景神。

中真五景胆神，名龙德拘，字道放，色青黄绿。《洞玄中元五景》，真符部五景神。

中真六景左肾神，名春元真，字道卿，五色衣。《洞玄中元六景》，真符部六景神。

中真七景右肾神，名象他元，字道主，白黑色。《洞玄

中元七景》，真符部七景神。

中真八景脾神，名宝无全，字道骞，正黄色。《洞玄中元八景》，真符部八景神。

《神仙图》曰：《灵宝洞玄中元八景真符》，以部中部八景神真，镇在人身中元宫中。服之八年，中元八景见形，为已通灵达神，洞观八方，神芝玉浆，五气云牙，身中光明，神仙乘骑，飞行太空。

《神仙六阴玉女图》下部第一真气颂

灵飞秀太微，玉女翠朱琼。窈窕飞空出，飘飘乘空生。玄妙自然气，六阴安常形，遐念希良会，仰眄降六丁。携景金房内，嫵婉娉精神。玄感自相求，岂期形与名。变化因款发，应向神自灵。

《神仙九元导仙图》下部第二真气颂

玉清辉玄都，十圣回紫微。神仙披云出，纷纷流羽衣。香华随风散，十天乘空飞。丹霞映轻盖，日月灌灵晖。仰思妙真降，神感因心归。

《神仙导引图》下部第三真气颂

郁郁五云芝，玄晖吐玉光。凝津洞灵府，徘徊日月宫。五色理高真，流津灌十方。吸吸不觉疲，飞天并金容。导引餐灵气，玄哺六胃充。精思易致感，安坐睹空洞。

《神仙洞中皇宝图》下部第四真气颂

澄气理太玄，萧萧群真居。下治诸名山，洞房清且虚。五色焕日月，列号众仙厨。上统紫微宫，总录天宝书。中有守一士，精思待洞开。五老监魔试，心端情自灰。身度水火宫，名入九天庐。苦哉有衿人，遂得乘景舆。

《神仙变化隐侧图》下部第五真气颂

变化空无中，五行兆身形。洞思自然气，金木水火精。土为隐侧府，六戊合景庭。玉女变衣裳，老壮应响生。细入毫牕里，大包山岳灵。种植通神草，身与八史并。万化随所欲，逍遥可娱情。

《神仙采芝开山图》下部第六真气颂

灵岳郁嵯峨，翠阜凌景霄。五芝秀玄岭，仙草茂霜条。上有采芝人，被服乘羽飏。灵洞万劫开，一焕诸天交。得妙安觉淹，尘沙如一朝。

《神仙明镜图》下部第七真气颂

妙铁生威光，流焕照八冥。洞彻方圆内，通真别鬼精。自然观重阴，照耀诸天形。伏魔致神仙，变化入紫庭。

《神仙无极太一图》下部第八真气颂

灿烂帝一真，身生龙凤文。威光动九天，焰照天囿圆。上御诸天气，总为万仙君。巍巍至道宗，落落大范门。

《灵宝神仙图》曰：《下部八真神图》，以元始灵宝，洞玄之气，化生自然。下部八景在人身中元宫中，致下元生气。精思八年，下元八真使千乘万骑，运致神仙，羽盖载人，俱升七宝林中。

下真一景胃神，名同未育，字道展，黄色。《洞神下元一景》，灵符部一景神。

下真二景穷肠神，名兆腾康，字道还，黄赤色。《洞神下元二景》，灵符部二景神。

下真三景大小肠神，名逢送留，字道厨，赤黄色。《洞神下元三景》，灵符部三景神。

下真四景胴中神，名受厚勃，字道虚，九色。《洞神下元四景》，灵符部四景神。

下真五景胸膈神，名广映宅，字道仲，白色。《洞神下元五景》，灵符部五景神。

下真六景两胁神，名辟假马超，字道成，赤白色。《洞神下元六景》，灵符部六景神。

下真七景左阳神，名扶流起，字道圭，青黄白色。《洞神下元七景》，灵符部七景神。

下真八景右阴神，名包表明，字道生，青黄白色。《洞神下元八景》，灵符部八景神。

《神仙图》曰：《灵宝洞神下元八景灵符》，以部下部八景神真，镇在人身下元宫中。服之八年，下元八景见形，为人养精补气，炼髓凝真，身生光泽，八景云舆，载人飞行。

《玉清七宝神仙图》总三八部真气颂

萧萧三清上，凝真大罗天。琼林翠玄台，日月焕灵轩。飞天梵绿气，驾景乘紫烟。郁郁披云出，纷纷灵宝仙。逍遥七宝林，五色焕金银。振响众真会，灵歌庆万神。精思三八景，超步登霄门。



### 五称符二十四真图

案《五称符上经》云：

子欲求道法，先沐浴臭秽，当得《东井图》。

子欲定五帝，役山精，当得《五岳图》。

子欲通神灵，洗先诀八精，当得《八史真形图》。

子欲通吾行厨，当得《六甲通灵图》。

子欲存吾身，致天神，当得《九宫紫房图》。

子欲奉道法，当得《太清图》。

子欲奉顺道，当得《混成图》。

子欲通道机，当得《西升宝篆图》。

子欲通变化，当得《灵化图》。

子欲蹶大道，当得《九天图》。

子欲脱身形，当得《九变图》。

子欲隐存身守神，当得《常存图》。

子欲定身心，守身神宝，当得《含景图》。

子欲恬淡守一以存身，当得《养身图》。

子欲寂默养其志，当得《精诚守志图》。

子欲清静洁白致芝英，当得《芝英玉女图》。

子欲娉六丁，当得《六阴玉女图》。

子欲致仙策，当得《九元导仙图》。

子欲食道气，当得《导引图》。

子欲治道术，当得《洞中皇宝图》。

子欲为变化，当得《隐侧图》。

子欲临炉定九丹金液，当得《太一图》。

子欲登五岳求神仙芝药，当得《采芝开山图》。

子欲保神形，别邪精魔魅，当得《明镜图》。

凡二十四真图，天之灵宝也。子能得之，必得长生，萧萧高仙，飞步太清也。

### 元览人鸟山形图

太上曰：无数诸天，各有人鸟之山，有人之象，有鸟之形。峰岩峻极，不可胜言。玄台宝殿，尊神所居。林涧鸟狩，木石香花，芝草众药，不死之液，又难具陈。陈之无益于学，学者自应精寻。得一知万，了然究知。教须题名，是故标文。妙气结字，圣匠写之，以传上学，不泄中人。妙气之字，即是山容，其表异相，其 庶殊姿，皆是妙气，化为成焉。玄达之思，闭目见之，周览既毕，行久有征。妙气既降，肉身能飞，久炼得妙，肉去妙充。其翔似鸟，出游三界之外；其神真人，入宴三清之中。总号人鸟。学者游山，缘山至道，永保常存。自非至精，勿妄叩也。

#### 人鸟山形图

太上曰：人鸟山之形质，是天地人之生根，元气之所因，妙化之所用。圣真求其域，仙灵仰其神。敬而事之，存而念之，受而带之，精而行之，和而密之。无致懈怠，三气调均，生身赤子，为道种民。在世行化，入山研方，出处自在，魔不敢当。

于是朝致五岳，使役八溟，从三天之君，佩日月之精。知之不死，习之永生，谛之合智，究之同神。其山之上，元始天王所居；其山之下，众圣真仙所处。其山之气，生五色之水，名反魂流液，成脂名震檀之香。西王母初学道，诣元始天王。三千年道成德就，应还昆仑之山。临去，辞元始天王，共刻铭人鸟山上，虚空之中，制作文字，字方一丈，悬在无中，以接后学，于今存焉。九老仙都君，九炁丈人图画山形，佩之于肘。天帝写空中之书，以附人鸟之体。百年一出，以传真入。道士有此山形及书文备者，便得仙度世，游宴昆仑。能读此书万遍，修行不负文言，天帝君即遣使云车羽盖来迎。不须服御丹液，无劳导引屈伸，精之不休，自获升天矣。

太上曰：凡能清斋三月，别于静室修行，仙人当降，自以文字语人。受之密遵，速得成真。道士佩之，役使万神。正月有甲子，二月有壬申，三月有戊子，一年之中，唯取三日，祭醮山形于金镜之上。相传口诀之事，慎勿妄泄书文。若年中无此三日，或有而邂逅，趣得甲子一年三醮也。醮时皆斋，清严禁断，明月之夜，露出中庭，不须坛纂，不可他知。密自洒扫，净席南向，兆敷别席，向北施礼。先以明镜九寸面者置座中央，紫纹复伞以罩座上，紫锦囊巾覆籍山图，正安镜中。清酒三碗置图之前，香脯枣果圆施镜外。酌酒半碗漱口，捻香即位，闭目叩齿三通，存思依常。鸣鼓发炉亦如常法。又三捻香，临目见太上大道、十方天尊、元始真王、人鸟山元气生神、大帝君，云驾罗列，布满空中，同来向座。良久，仍密称名位臣妾姓名，奉请太上大道、十方天尊、元始真王、人鸟山元气生神、大帝君一切诸灵官，今日吉时，良散荐芬芳，表献至诚，仰希垂降。臣妄某等稽首礼拜（仍礼三拜伏地，闭目存神降座，良久乃起）。又三招酒，长跪称位臣妾姓名，上启：

太上大道君、十方天尊、元始真王、人鸟山元气生神、大帝君一切神明，臣妾叨恩，得见今日，奉对尊神，喜惧交集。唯愿大慈开度，当使臣妾学道得道，求仙得仙，神通自在，永保长存。小丑贱臣妾，不敢多陈，不胜踊跃屏营，谨稽首礼拜（三拜毕，三招酒，招毕，又启如此）。三招三启都毕，三捻香，启起倚送神，称位臣妾姓名上启：太上大道、十方天尊、元始真王、人鸟山元气生神、太帝君一切灵官，缘恩上请，纡回云仪，神驾已整，还升三清，臣妾恋慕，俯仰屏营，唯愿大慈，流布洪恩。臣妾得道，谒见王宫。后宜有请，仰希重降。臣妾某稽首礼拜。讫，起复炉。某复炉毕，东一碗酒，泻浸四周毕，依次敛之也。同志者还房进胙，不得妄与非法之人。夫妻接待，皆同此法。不同，不得交会。此禁至重，明各慎之！清斋千日，丹书山形于薄纸上，方三寸至五寸，玉池之泉，向王吞服。一服长生不死，二服神仙飞行，三服升登尊位，与道合同。清斋起图，佩之三年，晨夕诵文，吉日修事，慎终如始。一千日限足，游行山泽，威制五岳，三河四海，八溟九地，一切神灵，奉迎拜谒。功德流布，五年七年，不过九年，超登三清矣！

## 卷八十一 庚申部一

上清元始谱录太真玉诀（凡二门又名解形遁变流景玉光三恶门）

### 三尸三恶门

第一门名色欲门，一名上尸道，一名天徒界。

第二门名爱欲门，一名中尸道，一名人徒界。

第三门名贪欲门，一名下尸道，一名地徒界。

此三恶之门，一名三尸之道，一名三徒之界。常居人身中，塞人三关之口，断人三命之根，遏人学仙之路，抑人飞腾之魂。为学之本，而不落尸于三道之上，去欲于三界之门，真何由降？道何由成？夫学上法，宜遣诸欲，灭落尸根，道自然成。克得飞腾，上升三清。

### 三尸五道门

第一门名色累苦心门，一曰太山地狱苦道。

第二门名爱累苦神门，一曰风刀苦道。

第三门名贪累苦形门；一曰驂山负石苦道。

第四门名华竞苦精门，一曰作江河苦道。

第五门名身累苦魂门，一名吞火食炭镬汤苦道。

此五苦五道之门，常居于人身，系人命根，遏人招真之路，

断人修仙之门。为学之本，而不解形于五道之上，灭迹于五苦之下，众累不断，沉沦罪门，何由得脱？腾身遁变，流景玉光也！夫欲上学，当先断诸累，绝灭苦道，真自然降，神仙自然成。克得变形，游宴诸天。

落上尸之道，当青书《上玄灭欲斩尸变景流光玉符》著头上，当于色欲之门，北向衔刀，请一杯清水，面临水上，师于弟子后，叩齿九通，咒曰：上尸青欲，自号彭倨，变化九种，鸟头蛇躯。混沌无心，或沉或浮。贪欲滋美，华色自居。走作魂魄，司人过咎。断人命根，气散神游。放浪三宫，小虫无劬。真人甲乙，佩篆带符。色欲已断，死路已除。元始有命，请斩尸头。三台监形速出无留。灭根绝种，勿使遗余。甲乙练真，三宫清虚。五帝监映，太一定书。北元沐浴，冠带行畴。飞度天界，流景玉舆。遁变上清，乘空遨游。毕，取所衔刀，师以绕弟子头结九过，下所卷玉符，埋于色欲门下，以杯水灌上。行此之道，上尸即灭，色欲自除，身过天徒之界，形魂无复苦恼之患。太真上道，慎勿轻传。

以次进中门，而落中尸。落中尸当黄书《中元灭欲斩尸变景流光玉符》著心前，于爱欲中门，向王捉刀向腹，请一杯清水著前，师于后，叩齿十二通，咒曰：

中尸彭质，号曰中黄。爱欲自居，依腹逃藏。沉浮变化，形无常方。执人魂魄，走作三宫。赤子驰竞，使人发狂。欲性丧神，罪由小虫。真人甲乙，上帝已征。身佩玉符，丹文金章。列名元图，三欲已忘。元始符命，斩灭尸形。断根绝种，勿得飞扬。甲乙受练，五符休粮。真仙安镇，藏内生光。五帝监映，太一列行。中元沐浴，冠带衣裳。解形遁变，流景玉光。飞升上清，食息太空。长保自然，天地无穷。

毕，以次进下门而落下尸。落下尸当白书《下元灭欲斩尸

变景流光玉符》著两脚上，于下贪欲门，向南横刀于两足上，请一杯清水著足下，师于后，叩齿三通而咒曰：

下尸彭矫，贪欲自荣。白色混沌，体无常形。依人两足，絺动人情。言白得失，走作魂灵。三宫扰乱，赤子不宁。贪欲小虫，贾备幽冥。真人甲乙，三炼已清。欲门断塞，不受邪精。元始急令，三台临庭。速出无隐，及汝弟兄。九种子孙，一时斩形。五帝度真，太一记名。下元沐浴，冠带羽青。玄度三界，上饮元精。解形遁变，流景上清。飞玄步虚，三界齐明。毕。三界既度，便度五苦之道。

《解形遁变飞度五道之法》，当作新衣一通，巾履并新，于第一色累苦心门上，黑书《解形遁变灭度地狱流景玉符》置两足下，北向平立，师叩齿五通，咒曰：

解形遁变，落尸五难。三欲已清，神津内灌。脱故炼新，体香气兰。玉符灭迹，地无拘挛。飞度天界，超凌云端。魔王保真，气合自然。七祖同升，飞步天门。五帝监映，万神咸关。毕，脱中解结，埋符于两足下，脱履而去。

次进爱欲苦神门，于爱欲苦神门上，白书《解形遁变灭度风刀流景玉符》置两足下，西向平立，师叩齿九通，咒曰：

云行飞步，遁变玉光。解形脱迹，散发翱翔。人界无拘，乘虚空行。天魔已保，五道开通。越度风刀，形升上宫。毕，埋符两足下，去之勿顾。

### 论庚申存童子去玄灵诀（凡五法）

《颖阳经》曰：童子者，心神也，众神之主。玄灵感人耳

目鼻口身意。玄灵者，三尸六甲神，同游内外。其神咸有色象，触物皆欲，令人重车马玄黄，声利饮食，多有求欲，不知止足，行妨身辱也。先锻炼其心，使欲者不欲，令不欲者欲。观欲如道，志道如欲。大底苦于色味。其色味者，情欲之府，丧乱之原。不得求言，亦勿求有。至道人云：欲者不欲，不欲者欲（或云，至人惜言，以制欲物。心因有而生欲，有者欲之主，言者，道之筌，道契则言忘，欲无则事息）。此语无不如在，至人乃消息之。消一百刻，息一百刻。息减消加，稽古之道也（刻遍也，每遍为一欲）。肇启一门，就万欲中窥离（去声）一门。知至至之，知终终之。动用消息，必嗅其迹（注云：嗅为委气，练心根无为。有欲情广施，至敬无私念。故文曰：敬胜欲者昌，欲胜敬者亡）。审自训难，专气致柔。每寻一刻，皆以谦道而寻之。觉昏沉睡生，寻理不出，乃凝然内省。大丈夫恳责其心，节慕圣贤，兴谕洗零（历逢切），故经云：少则得，多则惑（注云：少谓退，方寸之源，本来无事，则可应万物而不乱也）。天道恶盈，神道托灵。知心惟微，达理至静。积习有常，自成广大，贞一会道之谓也。常思往者、来者、今者之事（注曰：往谓已过之事，来谓未然之事，今谓即日消息之事，了然自知）。动无二过。常于欲者，擘不欲之，欲于心尤苦。当如割截肌肤、叩物悬解，乃可超生死之门，浴澄净之境。研之不止，声参太极，大无不包，细无不入，以息情欲，节滋味，清五脏，通神明，至真久寿之要道。

### 制六欲神法



舌者，荣辱之机，祸害之阃（乱之所生者，必言语以为阶，故君子慎言语，节饮食也）。六神各主其欲，断欲断识，于理咸宜用平，若并平之，则弱坐生矣。是以对境，先从欲制（六神谓六欲门，耳、目、鼻、口、身、意，泄乱神机之路也。意从内发，寄在于物，物从外入，经自何门？应接之时，心尽知见，常起悲敬，性本不生，此应物之义。文子曰：万物之总，皆阅一孔；百事之根，皆出一门）。当豫断之，肇启一门，消之于未形，息之于未乱，令心壮于欲。用壮处谦，壮乃全也。

《黄庭》曰：“负甲持符、开七门备，”豫之谓也。夫性者本乎心，情者本乎性，情动则性乱，性乱则心荒，心荒则移神伐性，亡无日矣。故对物识交之际，于中不有情欲（欲至识动，物之常情。若对心真无形，欲何用？能止而顺，动不穷也）。启妙一门，复其生源。本无流动，神用澹泊。喘息安徐，令魂魄和通，意虑精密（养之以忘，欲之以生）。若物应心摇，动乱而惑我，我乃息机深敬，介如石焉，不可转也。久当委顺遗形，言忘理析。言忘理析，故积其弱以为强，舍其美而自康矣。如觉物去情余，进退未决（谓不欲之欲也）。宜息心谦下，洁诚责己，超然离欲，气静安神。候心见欲如朽木虚空，是欲者不欲也（道之相应，必有所因。信乃心师，安为动主，动识生于无地，无地自是宜安）。正寻理之时，万绪躁心，乘念飞越，昏机内应，真兴不彰。为尔心神，传习成妄，浊气薰灼，世业坚深。正用诀邪，邪神恋欲（谓玄灵也）。交战于内，而致斯也。若不誓心惕虑，反伪还真，乃随欲居心，是滋泄慢（以一柔之性驭六刚之情。情与物亲，性与道合。坚正自理，去邪勿疑之也）。又言：念玄灵，欲我懈怠。当建志弘愿，苦节安贞。如谋必成，如战必克。仁而能武，正以杀情。大丈夫天地同心，清宁无事。常自激励，若对严君。肃然一门，谦以养德。烦结

都尽，欲境不生，是不欲者欲也（欲不生，则神不死也）。斯乃静胜，欲消诸难，将解恒退，藏于密焉（夫能解难，释险以处安也。险必处安，宜其对境悟心，为难于易，视无前欲，往有功也。“功成身退天之道。”得鱼忘筌之道也）。《黄庭》曰：“经历六腑藏卯酉，转阳之阴藏于九，常能行之不知老。”其此之谓乎！凡心者，公平之司，非亲于欲，而疏于道。玄灵，习之然矣。欲心躁滑，道性深微。不自执为，任其浮动，情之所变，物莫能全，人有心识，不觉变动，得非潜慎玄灵之运哉！宜加恳倒也。至人哀其迷方，示其生理，见于不见，知于不知，感通神明，是谓道用。言之者甚众，行之者罕及，实志之不至耳！且亡丧犹影响，履真岂独远哉！其三尸者，托阴气以为灵，感私欲而致用，邪蕴脏腑，变生乱习，世相组织，流落贪昏，非天机清明至叹沉浊者，不能易其心矣！观我生无，无能彰有。色为空影，欲是影宾。欲生则三尸生，欲灭则三尸灭。古人云：欲者不欲，不欲者欲。反覆自明之谓也。去尸成道之速者，先外制声色名利，内平喜怒爱恶，退心自察，彻底真无（真为实，无余欲）。动静能知，身世不碍。宛其见情类，殉物而死。圣人兴悲，于物兼济。为心者，以此苦心零于情，卓然虚静，尸乃无处潜留，则遁迹而逝。常思正道，朗然不寐，尸亦无再宅于心仍心。私言曰：所欲者玄灵之欲，不欲者玄灵不欲也。严心王而使之零（以身喻国，心则王也，王侯能守之，万物将自化三尸其如子何？）。故君子存而不忘亡，理而不忘乱。身安而国家可保也，神定而性命可全也。若荒怠不敬，冒于寝寐，贪于饮食，尸乃千变万化，随欲而归，令人世患日深，多愚早亡（《道书》曰：勿与争曲直，当减人寿算也，争尚如此，其况大者！沦于世务，非达者之莫弃）。玄灵飞去，心神凝定，则五方秀气入于灵台，滋于童子。经曰：“惚兮恍兮，

其中有象。恍兮惚兮，其中有物。”惟恍惟惚，而童子生焉。

《黄庭经》曰：“窥离（去声）。天地有童子。”（窥犹欺也，因欺其心，敬于天地之间，不欲一物，则神气不丧也）。夫天地者，阴阳列位也。童子者，人神至精也。非精无以崇其圣，非荡无以长其愚。是故圣人修之以真，行之以勤。若能克己励志，不出三年，道成矣！乃心中有白气，拂拂然生光明，久习弥广。

### 六甲存童子去玄灵法

又有甲子日辰，其人年月命算日减，被玄灵伐命。至夜半，起坐端策，私诵玄灵名彭倨、彭质彭矫七遍，无令耳闻也。依守清净法，动用消息之宜，继书不睡，六甲庚申日守之亦耳。

《黄庭》曰：昼夜不寐乃成真。此之谓也。

《颖阳书》下篇略例：（容成公曰：凡算，先扣上古变日，六甲积日辰，变见天地甲子诸神，沁心清静而应之，以十二律扣之。声同于律者，先存童子，童子可以听之。若存童子，先去三尸，可以合道）。

### 治脾肾舌术

甲子旬（玄灵多游黄庭幽关灵根之内，令人好色、极欲、意乱、精施、贪滋味、妄言笑）。右旬内日辰及年月日，命算日结，舌正言，闭目思神，依经肇启一门，欲者不欲，不欲者欲（他旬仿此）。即于灵根，却味保气，静意全真（脾藏主意。

意者，气之帅也，意宁即脾泰）。其旬正五方秀气，应律于心，而玄灵自化矣。其道闭精尤急，宜啄齿咽液，令灵根坚固（灵根，舌本也。其下有华池，通肾，池不欲枯竭，津液同源，肾舌相固耳）。若人依法守之，心乃清零（去呼）。其神日生。故经云：“藏养灵根不复枯，闭塞命门如玉都。”（藏谓无言，养谓咽液。肾宫主寿，故曰命门。玉者，津液之状，都犹聚也）。容成公曰：凡人两肾，有日月命门，左男戴日，右女戴月，虚无相生，寒暑相成，男女相形。中有二神，皆衣青，子能见之可长生。昼敬玄光，夜履真迹，久视道也。

#### 治鼻口喉咙术

甲戌旬（玄灵多游神庐天阙气管之内，令爱香憎臭，入鼻触心也）。右旬，依肇启一门于神庐，用平香臭，治中毛，专气寡言，养精饮液，消气管，口吐浊，鼻引清，绵绵若存。如此，玄灵不复入人脑，则上元清静矣。故经曰：神庐之中当修治，玄膺气管受精符，急固子精以自持。人生而静，天之性也。天假其生，地成其形。天地造化，有为物性。清者能久，浊者多咎。则知本乎天真，可谓至人。亲于地利，曷足为贵？形有三关之号，鼻与天通，用之不穷，余可知也。

#### 治肺心耳术

甲申旬（玄灵多游玉堂灵台神牖之内，令人贪欲乱神，忧惊伤魄，叛道离德，轻燥烦劳也）。右旬，依肇启一门于灵台，不妄是非，不妄察听，除色去味，吐纳宽舒，斯乃乾坤合气之所，谓玉堂灵台也。必在内视无形，反听无声，则其神各守司

舍。故经曰：六腑五脏神体精，皆在心内运天经，昼夜存之自长生。闭守三关，勿令邪气得入，玄灵无所施其巧（上关，口也；中关，手也；下关，足也。关者，闭固之异名，邪谓心摇，物感也）。洗五脏，有节度。修六腑，令洁清（能调三关，则为洗五脏、修六腑矣。五脏者，心、肝、脾、肺、肾也；六腑者，大、小肠、胃、胆、膀胱、三焦也。脏为阴，腑为阳，迭相生也）。不求道而道自至，不求有而有自来。不出三年，坐见万里之外，豫观成败，辩天下笔数，如响之应声也。

#### 治两眉间脑舌中神术

甲午旬（玄灵多游明堂、泥丸、灵根、赤宅之内，令人妄视昏寐，重味轻言也）。右旬，依肇启一门于三丹田，收视养心，精诚自保，屏其寢梦，节其言语饮食。静于关，润于舌。二府相得，命门自开（润，谓饮其华池，二府，肾、舌也。精液相得，元气开通，阳净阴凝，幽关洞见矣）。明堂者，正室也。真一常游其间。一气含三，周流变化，未始有极（天地之气，稟于真一。真一之气，从道而生也）。故经曰：“明堂四达法海员，真人子丹当我前。”固守一门于三灵，不求道令道自见（三灵者，三丹田也。眉间入三寸为上丹田，心为绛宫中丹田，脐下三寸为下丹田。守为精神不散，合三以为一也）。所思则存，不思则亡。攻之不止，通天合道，天人玉女六甲诸神，自于左右，而与人言，玄灵灭矣。

#### 治肝目身中阳气术

甲辰旬（玄灵多游兰台，寸田阳气之内，令人喜怒忘魂，

沉迷思寝，恐惧懈怠，鄙 矜夸也）。右旬，依肇启一门于身中，莫敢懈怠，端心默念，含垢黜聪。令魂魄太平，志气不慑。息喜怒哀戚，节五味色音（前此者，皆乱正气也）。修炼心关，童子清静，则玄灵不能为祟也。左目为日，王父治其中；右目为月，王母治其中。人能守之，与天地相保，日月齐明，外本三阳，自去，内阳三神自生（外本者，玄灵也；内阳者，三关神也）。故经曰：魂欲还天，魄欲入渊，还魂返魄道自然。此之谓也（真性自然，非所造作，退藏于密，不系有无，则还魂返魄之道也）。

#### 治两手足术

甲寅旬（玄灵多游四关之内，令人手欲妄持，足欲妄行也）。右旬，依肇启一门于四关，握固，思手不妄持，足不妄行，严策其心，动用清静，玄灵不复得安，便飞去。故经云：口为天关精神机，足为地关生命扉，手为人关把盛衰。关门杜龠闾两扉，丹田之中精气微（两扉谓双肾门，连于下关也。龠动则扉开，精流则命竭。善闭藏者，真气会于丹田，化为赤子矣）。

#### 三尸中经（一名去尸驻色得不死之道）

《太上三尸中经》曰：人之生也，皆寄形于父母胞胎，饱味于五谷精气，是以人之腹中各有三尸九虫为人大害。常以庚申之日上告天帝，以记人之造罪，分毫录奏。欲绝人生籍，减人禄命，令人速死。死后魂升于天，魄入于地，唯三尸游走，

名之曰鬼。四时八节企其祭祀，祭祀既不精，即为祸患，万病竞作，伐人性命。上尸名彭倨，在人头中，伐人上分，令人眼暗、发落、口臭、面皱齿落。中尸名彭质，在人腹中，伐人五脏。少气多忘，令人好作恶事，啖食物命，或作梦寐倒乱。下尸名彭矫，在人足中，令人下关搔扰，五情勇动，淫邪不能自禁。此尸形状似小儿，或似马形，皆有毛长二寸，在人身中。人既死矣，遂出作鬼，如人生时形象，衣服长短无异。此三尸九虫，种类群多。蛔虫长四寸五寸或八寸，此虫贯心人死。白虫长一寸相生甚多，长者五寸，躁人五脏，多即杀人，兼令人贪食烦满。肺虫令人多咳嗽。胃虫令人呕吐不喜。肺虫令人多涕唾。赤虫令人肠鸣虚胀。蜣虫令人动止劳剧，则生恶疮颠痴，癰疔疽痿，癬疥痼癩，种种动作。人身中不必尽有，亦有少者，其中有十等就中，妇人最多也。其虫凶恶，好污人新衣，极患学道，欲调去之即可矣。凡至庚申日，兼夜不卧守之若晓，体疲少伏床数觉，莫令睡熟，此尸即不得上告天帝。

又《太上律科》云：庚申日，北帝开诸罪门，通诸鬼神诉讼，群魔并集，以司天下，兆人及诸异类善恶之业，随其功过多少，赏劳谪过，毫分不遗。

经曰：三守庚申，即三尸振恐；七守庚申，三尸长绝。乃精神安定，体室长存，五神恬静，不复搔扰，不迷不惑，不乱不淫，瞋怒平息，真灵卫佐，与天地相毕。每夜临卧之时，叩齿三七，以左手抚心上，呼三尸名，使不敢为害耳。

### 去三尸符法（符并朱书）

太上曰：三尸九虫能为万病，病人夜梦战斗，皆此虫也。可以用桃板为符，书三道埋于门纁下，即止矣。每以庚申日书带之，庚子日吞之，三尸自去矣（常以六庚日书姓名，安《元命录》中，三尸不敢为患也）。

此符消九虫，当以六庚日，常以白薄纸竹纸书，服之。每庚皆如之，唯庚申书之，不限多少。从庚申日早朝服一枚，次庚午日吞一枚，值六庚勿失，虫皆不贯五脏，人身无病也。敕符咒曰：

日出东方，赫赫堂堂。某服神符，符卫四方。神符入腹，换胃荡肠。百病除愈，骨体康强。千鬼万邪，无有敢当。知符为神，知道为真。吾服此符，九虫离身。摄录万毒，上升真人。急急如律令！



## 卷八十二 庚申部二

### 三尸篇

《洞章》曰：太上三气，化为神符，号曰《三元无量洞章》，制命六甲，运使五行，率离还合，却死来生，消除三鬼，涤荡五神。五神一曰五尸，三鬼一曰三虫。虫尸互名，参神乱鬼。三尸，上尸、中尸、下尸也；五尸，青尸、赤尸、黄尸、白尸、黑尸。神祝曰：三尸、五尸，俱入黄泉。吾升清天保长生，乐史世世居天王。

### 神仙守庚申法

常以庚申日，彻夕不眠，下尸交对，斩死不还，复庚申日，彻夕不眠，中尸交对，斩死不还；复庚申日，彻夕不眠，上尸交对，斩死不还。三尸皆尽，司命削去死籍，著长生录上，与天人游（或六月八月庚申弥佳，宜竟日尽夕守之。二守庚申，三尸伏没。七守庚申，三尸长灭）。

### 庚申夜祝尸虫法

常以庚申夜中平坐，叩齿七下，击额呼彭倨；次叩齿七下，抚心呼彭质；又叩齿七下，扞腰呼彭矫。先两手心书太上祝曰：

吾受《太上灵符》、《五岳神符》，左手持印，右手持戟，日月入怀，浊气出，清气入。三尸彭倨出，彭质出，彭矫出。急急如律令！

### 用甲子日除三尸法

常以甲子日夜半时，披发东向坐，呼腹中伏尸名字。第一之名盖东，第二之名彭侯，第三之名虾蟆。一呼其名，以右手抚心三过，尸当应人，便不复去言人过也。又云：男用左手、女用右手抚心，留伏尸，即尸不离人，上言其过。人但能劝行气闭气者，身中神亦自安尔，久之消尸。

### 六甲除三尸法

法曰：清心扫除中庭，正向北用一案，三杯罗列案上，以井华水著中。甲子日夜半时，披发置后，三拜跪称，臣自某州郡县乡里曾孙某甲，奉请北极三台君、斗中真人，请以三杯水。

除去三尸，令某修道得神仙。因饮三杯水，先从东起，饮时祝曰：

日月君水，除我头尸。次饮中央，祝曰：真人水，除我腹中尸。次饮西杯，祝曰：日月君水，除我足尸。毕，称臣三拜，左回还床卧，当应梦见人辞谢去者止。不尔未去，未去者，后甲子日，当又如此，勿忘。

### 除三尸法

常以鸡鸣时，漱取醴泉，咽之，三而止。徐徐定气，勿与人言语。

### 祝去伏尸方

以正月五日，七月七日，取商陆根细切，以玄水渍之三日，阴干，可治为末。服方寸匕，玄水服下，日三服。百日，伏尸尽下，出如人状，醢埋之，祝曰：

伏尸当属地，我当属天。无复相召，即去随故道，无还顾常。先食，服之，禁一切血肉、辛菜物。

### 厌尸虫法

真人曰：江南多白芷草，掘取根，细捣末，以沐浴用之。此香乃三尸所憎者。

又方

三月三日取桃叶，一云桃根，捣取汁七升，以大醋一升同煎，令得五六分，先食，顿服之。隔宿无食，即尸虫俱下。

### 上仙去三尸法

丹砂一斤（细研飞过），淳大酢（三升），纯漆（二升）。

右合和令相得，于微火煎之，令干稠。可丸之如麻子大。日再服，从三丸渐加至二十一丸。经四十日，百病自愈，三尸自出；服之百日，肌肤坚固；千日，令人长生不死，与天地相保。不能俱言，后当自知。

### 下三尸方

贯众五分（主伏虫）白藜芦十二分（主长虫，欲得雄者）  
蜀漆三分（主白虫）茺萸五分（主肉虫）石蚕五分（主蜣虫）  
厚朴三分（主肺虫）狼牙子四分（主胃虫）雷丸六分（主赤虫）  
僵蚕四分（主膈虫）

右九味物，熬令黄，合捣筛之，炼蜜丸如梧桐子大。以粉浆服五丸，日三服之。渐加至十丸。十二日症聚下，六十日百病愈。服之，先从小起，若女人，如斋戒恭谨者，亦可服之。

### 仙人下三虫伏尸方

茯苓十斤，商陆根削去上皮，但取下白者五斤，清酒，麦曲各五斤，并炊酿之，酒置盆中封之，二十日药成。挤之，但淳。大豆熬之作末如饴状，合丸如大弹丸。日服三丸，十日以去，稍益如鸡子黄。上尸者百日，中尸六十日，下尸四十日，当烂出。上尸如手，中尸如足，下尸如鸡子。上尸黑，中尸青，下尸白。此三尸与人俱生，常欲令人死。至晦朔日，上天白人罪过。每至其日，当拘制七魄，及守庚申夕，于是三尸不能得动矣。是庚申夕，人梦与他诤斗者，是魂与尸魄鬼斗。夫魂常欲令人身安，故静。魄常欲令人恍惚，盖欲人早死，故欲攻夺，此之谓也。

凡道士医师，但按方治身，而不知伏尸所在。上尸好宝货千亿，中尸好五味，下尸好色，若不下之，但自欺耳。去之，即不复饥，心神静念，可得延生。真人贵其道，道士尊其药，贤者乐其法，愚俗笑其事。所以言人死为尸骸者，乃是三虫之号位也。当服当陆散者，乃自除去三尸，不必酒酿而服之也。槐子亦善。能服气者，不用此术。又真气是青牙五方之精，道士服之，二十一日，三虫走出矣。

### 神仙去三尸法

真人去三尸延年反白之方，宜服浮水玄云之髓。此自然能

生，千岁一变，百岁一化。先变后化，药之精英也，故可服之而得长生也。丹光之母者，松脂也。浮水之髓者，茯苓也。能伏鬼神，却死更生。松脂流入地中，千年变为茯苓，茯苓千年化为琥珀，琥珀千年变为丹光。丹光之色，赫然照人。丹光千年变为蜚节芝，蜚节芝千年变为浮水之髓，浮水之髓千年变为夜光，夜光千年变为金精，金精千年化为流星，流星千年化为石胆，石胆千年化为金刚，金刚千年化为木威喜。夫金入火不耗，入水益生。夫松脂变化，盖无常形，故能沉沦无方，上升太清。此飞仙之法，勿传其非人。方曰：当取茯苓、松脂各十二斤，以水渍松脂七日，朝阳去水，以淳酒二斗与茯苓合渍之，日暴令干，月食一斤。欲不食用，练松脂去苦臭，以火温之，内茯苓中治合。和以白蜜，三物合服之，月各一斤。百日身轻，二百日寒热去，三百日风头眇目去，四百日五劳七伤去，五百日腹中寒癖饮症气去，六百日颜色住，七百日面<黑干>除，八百日黑发生，九百日灸瘢灭千日两目明，二千日颜色易，三千日行无迹，四千日诸痕灭，五千日夜视有光，六千日肌肉易，七千日皮脉藏，八千日精神强，九千日童子薄，万日形自康，二万日神明通，三万日白日彰，四万日太一迎，五万日坐在立亡。日三食，慎勿忘。但过万日，仍自纵横，变名易姓，升天游岳，皆可耳。

### 神仙去三虫杀伏尸方（凡二方）

章陆根，味酸，有毒，主胸中邪气，涂臃肿，杀精物，炼五脏，散水气，根如人形者神。生故墟田间，三月八月采。章

陆一名夜呼，一名荡根，一名当陆，一名芄陆，一名长根，一名商陆草，一名神陆，一名白华，一名逐邪，一名天草，一名逐阴之精，此神草也。去三虫，杀伏尸，去面黧黑，益智不忘，男女五劳七伤、妇人乳产余病、带下结赤白皆愈。

右用曲十斤，米三斗，加天门冬成末一斗，酿酒渍章陆六日。便斋服五日，食减，二十日谷绝肠肥，容气充茂，诸虫皆去，耳目聪明，癥痕皆灭。以月宿与鬼日加丁时，取商陆服如枣，日三。道士常种此药草于静室之园，使人道神，令人不老长生，去三虫，治百病，毒不能伤矣。

### 又方

取当陆根四十斤，削去粗皮细切之。以水八斗于东向灶煎之，令减半。去滓更煎之，令可丸。服如梧桐子大。丸蜜作之，勿令人见。又一方：章陆根三十斤，正月、二月、九月、十月、十一月、十二月采取，过此不中用。取章陆根净洗粗切，长二寸许。勿令中风也，绢囊尽盛，悬屋北六十日，阴燥为末，以方寸七水服，旦先食。服十日见鬼，六十日使鬼，取金银宝物，作屋舍，随意所欲，八十日见千里，百日身飞行，登风履云，肠化为筋，久服成仙矣。

### 除去三尸九虫法（并药术）

先生曰：夫三尸之鬼，变化无方，或见厉鬼，或假人形。虽千祆万怪，即黠而不神，不悟人言语，不能鉴其情。欲修法

事，慎无发扬，心或默语，鬼闻人声。既闻人声，即为祸害，厌暴崇戾，其忧百端。审察灾源，急宜详解，逆为人之备，无令寢淫。故诀称：用建日修法，破日服符，及造药术，欲为消去，即其尸鬼亦常忌此日也。兼虑人用月晦庚日开执之日，故于此日能迷沦人意，俾耽眠睡，造作梦寐，颠倒非常。或缘人性之所畏恶，辄变此物，恐怖多端。或于眠中，唤人名字。或假吏卒，收录执缚。或托人父母兄弟，责詈于已。或梦妻子，困病死丧，使人悼惶，悲哀哭泣。或梦冢墓，狼籍尸骸。或若乘危，为其迫塞。或若犬来咋啮，或见牛马奔冲，往来号吠，仓卒抵踏。或鸟豕之形千状，或虫蛇之物万端。或颠倒其巾冠，或讪扬人过恶，比皆其所为也。可先期一二日间，收心敛意，以道自处，庶几行法而去之耳！《仙经》云：凡服仙药，先去三尸。其方如左：

附子（七枚炮） 茺萸（二两炒） 干漆（二两炒令烟）

右三物筛捣为散，常以空腹酒服一匕，日再服。七日而上尸去，九日中尸去，十二日下尸去。后当痢于盆中，即见三尸虫状。以绵裹之，葬东流水中，微哭之，咒曰：“汝死属地，我得升天。”别道而归，更勿回顾之。经三日后，或自于日中大哭，烦恼恍惚。勿自讶之，后当爽朗为道人耳。

### 刘根真人下三尸法（此方与前方稍类，但别出耳）

真人曰：欲求长生，先去三尸。三尸去，则志意定，志意定则嗜欲除。乃以神方五篇见授。云：伏尸常以月望晦朔日上



天，白人罪过，故司命夺人算，使人不寿。欲去之法用此方。蜀狗脊，七枚。干枣（二两）。茺萸（二两）。

右药并皆依法事，持杵罗为散，以清水服一合，日再服。七日上尸去，九日中尸去，十二日下尸去。其形似人，以绵帛裹之，埋于东流水，咒曰：

子死属地，我当升天。易道而归，勿复回顾。三日之中当恍惚，后乃佳耳。

### 神仙古方传授所来（二首）

朱璜者，广阳人也。少病瘦瘠，就睢山下事道士阮丘。丘怜之，言：卿除腹中三尸，真人之业可度教也。璜曰：病愈当为君作客，三十年不敢自违。丘因与璜七物药，日服九丸，百日病下如肝脾者数升乃愈。后数十日肥健，心意日更开朗。乃与《老君黄庭经》令读之，告曰：日三过，通之能思其意，当度世。丘遂与璜俱入浮阳山玉女祠，且八十年，复归故处，白发尽黑，须更长三尺余。过家食止，数年复去，至武帝末犹存焉。

沈文泰者，九疑人也。得红线神丹，去土符还年益命之道，服之有效。往昆仑，留安息二十余年。以传李文渊，曰：土符不去，服药行道无益也。文渊遂受秘要，后亦升仙。今以竹根汁煮丹及黄白去三尸法，出此二人矣。

## 游稚川记

僧契虚姓李，其父开元中为御史。契虚幼好浮屠氏，年二十，髡发衣褐，居长安中佛舍。及明皇幸蜀，羯胡陷两京，契虚乃入太白山，食柏叶绝粒。遇道士乔君，清瘦高古，发鬓皎白，谓契虚曰：师神骨孤秀，后当寓游仙都。契虚谦谢之。乔君曰：异日师于商山，备食物于逆旅，有桺子必犒而馈焉。或有问师所求，但言愿游稚川，当有桺子导师去矣。及禄山破，上皇还京，天下息兵。契虚即于商山旅舍备食膳，遇桺子而馈焉。近数月，馈桺子数百人，食毕辄去，无问者。契虚怠，为乔君见欺，将归长安。忽遇一桺子，年甚少，问契虚所诣。答曰：愿游稚川，积有年矣！桺子惊曰：稚川，仙府也，安得至乎？契虚曰：幼而好道，曾遇至人，劝游稚川，但不知其路耳！桺子曰：与我偕行，可以到也。于是与之俱至蓝田上，理行，俱登玉山，涉危险，逾岩巘，十八余里至洞穴，水自洞侧而出。桺子与契虚运石填水，三日而水绝。俱至洞中，昏晦不可辨。遥见一门在十数里外，望门而去。既出洞外，风日恬灵，山水清丽。凡行百余里，登一高山，攒峰回拨，石径危峻。契虚眩惑，不敢前去。桺子曰：仙都近矣，无自退也。挈其手而登，既至山顶，缅然平坦，下视山峰川源，杳不可辩。又行百余里，入一洞中。又数十里，及出洞，见积水无穷，中有危径，才横尺余，长亘百里。桺子引之，蹑石而去，颇加悚栗，不敢顾视。即至一山，下有巨木，烟景繁茂，高数十寻。桺子遂登而长啸，久之风生林杪。俄有巨索自山顶悬竹囊而下，桺子与契虚入竹

囊中，闭目危坐，势如腾飞，举巨絙引之，即及山顶，城邑宫阙，玃玉交映，在云物之外。桒子指而语曰：“此稚川也。”与契虚俱诣其所，仙童百辈罗列。有一大仙谓桒子曰：此僧为何而来？桒子曰：此僧愿游稚川久矣，故挈而至。一殿中，见冠冕大仙貌甚伟，据玉几而坐，侍卫环列，呵禁极严。桒子命契虚拜谒，且曰：此稚川真君也。既拜，召升阶，问曰：尔绝三彭之仇乎？契虚不能对。真君曰：此未知道，不可留此。即命桒子引登翠华亭，见亘空丹槛云矗，内一人袒而寐，发长数十尺，凝膩黯黑洞莹人心目。又命契虚拜曰：此杨外郎，因隋室奔乱，入山得道。非其瞬目，乃彻视之。彻视者，寓目人世耳。拜请，忽寤而开目，光若日月之朗焉。又见一人卧石壁之下，桒子曰：此乙友君，名润，亦得道人也。既而桒子承真君之教，引契虚归人间，凡所涉历，皆是来时所经之路。契虚问桒子曰：真君问三彭之事，我所未了何？答曰：三彭者，三尸之姓也。常居人身中，伺人之过，欲令人死。每以庚申日，条列人罪目，奏于上天。学仙之士，不去三尸，无由得道，徒苦无益也。既及平地，在泰川矣，亦不知桒子所之。

契虚自此居太白山，未尝言稚川之事。贞元中，徙居华山。荥阳郑绅，吴兴沈聿自京出关，值契虚见契虚绝粒，不置庖爨。郑异其不食，访其所遇，因话其事。郑甚奇之，自关东却回，诣其舍，契虚已遁去，不知所之，郑君述《稚川记》耳。

### 梦三尸说

《道书》曰言：人身中有三尸虫，居三丹田，好惑人性，

欲得早亡，每至庚申日，上谗于帝，请降灾祸于人，故人多夭枉祸厄。修炼者，用术及药以去之，则年长不死。有广羊人，宋彦华，家于濮上，好儒文及术伎，因于道者处受术及药百计，求去三尸。忽一夕梦三人，古冠服而立堂阁之内。彦华问曰：君何人乎？答曰：吾即是君身中三彭也。欲辞子，故来相告耳。彦华梦中责之曰：吾受生于天，天赋有命，命有短长，必自悉矣。闻君好居吾身中，谗贼幻惑恼乱吾神，使邪夭祸厄，则喜而去，吾何负于君辈哉！今吾师道术以杀汝，汝不速去，必遭楚苦。三尸曰：子能听我言，将以辨吾非罪，而以辞子，可欤。彦华曰：何也？答曰：吾之族，阴阳之精也。上系太虚，自无入有。凡人有生质，则上帝乃颁吾兄弟赋于人中，主其魂魄，护其性而保其中也。盖人中及壮，则百绪之为，贪财食，溺邪淫，矫诈欺诬，奸狡佞妄，外示正直，内趋僻违，不孝友，不慈惠，抑民掠财，逞形恃势，潜窥阴谋，自丰其家，喜利忌贤，轻贫叶富，昼夜役使，兄弟甚劳苦哉！吾之疲倦，且录其尤以害之得速死，冀吾有暇耳。不如是，何得适哉！今子若好道，不必去吾兄弟。子但修中正，抛荣去味，远世弃欲，息役沉光，涤清三宫，凝定九府，日月内烛，星斗高临。则吾兄弟优游清闲，虽千万岁，与子周旋，宾护外物，吾无劳役，又何敢怠？况谗贼乎！今子且爱荣好奢，恋世情命，矫谋财色，既而返逐于我，我今去矣。若上彭去，则子言语倒错，耳窒目暗，容貌滋味无复畅也；中彭去，则子规谋失算，治官乖政，荣业壮图、文词术艺无复适也；下彭去，则子风月荡绝，驰骋艰难，坐立无复强也。子孙废灭，去魂飘沉，如此则子返为行尸，非人也。夫人之处世，赖我兄弟以为精识思虑。子不修中正，保元气，而诬我以罪，岂非戾乎！言讫，揖彦华将去。彦华梦中牵其袂而留之，曰：自古皆有死，民无财不活，今吾不能保其真矣。

子且为我留居，共子谋财，不复反覆矣。三彭倏然跃入其鼻，恍而惊乃寤。自后但以积财为业，不复更言道术。

溟洪先生曰：吾闻大道虚无，无一物可辩。自无入有，盖赋形也。人禀中正，不可自邪也。中正则天地合，其神岂小虫能害乎？三彭诚有灵者，岂能制天地乎？亦信人自不端，阴役其内，则更有小于三彭者，固能致祸矣！是其说可深信欤！宋氏多金，能转货，尝余财。所慕道艺，今尽掷矣。与予话梦，故书以传之，笑其惑也如此。

## 卷八十三 庚申部三

### 中山玉柜经服气消三虫诀

昔大黄帝君（太古无名，云大黄帝君者，则黄帝有熊）。会群臣于崆峒山，问道于广成子，曰：夫人养生全真，游观于天庭间，止息于洞房中，得与众圣齐群，驻童颜而不败者，则何法最宝？

广成子曰：夫人以元气为本，本化为精，精变为形。形虽好生，欲能竭之。故欲不可纵，纵之则生亏，制之则生盈。盈者，精满气盛，百神备足。夫有死必有生，有生必形亏。亏盈盛衰，物之常理（日中则移，月满则亏。乐极悲来，物盛则衰。有生死是天地人之常数也。圣人智通万物，以法强身，在养育之门，无犯形本，则合于化元之道者也）。夫人体内有百关九节（百关者，号百禄之神，为九节之用；九节者，一掌、二腕、三臂、四膊、五肩项、六腰、七腿踝、八胫踝、九脑，是谓九节也）。合为形质，洞房、玉户紫宫、泥丸、丹田以处泊（古人作楮薄，今论神气栖息，故宜处泊。洞房等皆天庭三田神，正泊处也）。百神守卫，六灵潜护（百神者，百节之神，守固营魂，保护五脏神。五神清，则百节灵，五神伤，则百节勤，清即少，伤则老。经云：贪欲嗜味，伤神促寿。金玉满堂，莫

之能守。六灵者，眼耳鼻舌身意，亦谓之六识。常随心动，动念则识，便从之。是故制之则宁，用之则成，察之则悟，任之则冥。又有三魂伏于身，七魄藏于府。故云：肝藏魂，肺藏魄，脾藏志，心藏神，肾藏精，此皆百神六灵之主也。宜防浊乱，轻躁动作，违之不守，自致败伤而已）。保其玄关，守其要路（道以真一为玄关，以专精为要路）。既食百谷，则邪魔生，三虫聚（虫有三名，伐人三命，亦号三尸。一名青姑，号上尸，伐人眼，空人泥丸。眼暗面皱，口臭齿落，鼻塞耳聋，发秃眉薄，皆青姑之作也。一本作青石。二名白姑，号中尸，伐人腹，空人脏腑。心旋意乱，肺胀胃弱，气共伤胃，失饥过度，皮癣肉焦，皆白姑之作也。一本作白石。三名血尸，号下尸，伐人肾，空人精髓。腰痛脊急，腿痹臀顽，腕疼胫瘦，阴萎精竭血干骨枯，皆血尸之作也。一本作血姑。此三尸毒流，噬嗑胎魂，欲人之心，务其速死，是谓邪魔生也。人死则尸化为鬼，游观幽冥，非乐天庭之乐也。常于人心识之间，使人常行恶事，好色欲，增喜怒，重腥秽，轻良善，惑乱意识，令陷昏危，无于一日之中，念念之间，不可绝想。常以甲寅庚申日，上曰天曹，下讼地府，告人罪状，述人过恶，十方刺史受其词，九泉主者容其对，于是上帝或听，人则被罚，轻者在世逆遭，求为不遂，重者奄归，大夜分改身形，成殃而出。今俗传死吹直符，雄雌殃注，破在杀心，此之是。都由人不能绝百谷，断五味，诫嗜欲，禁贪妄，而自致其伤殒。《内景玉书》云：“百谷之实土地精，五味外美邪魔腥，臭乱神明胎气零，三魂恍恍魄麋倾。”要知成败，彼之三虫由斯五谷也）。贯穿五脏，环凿六腑，使丹田不华实，津液不流注，血脉不通行，精髓不凝住，胎魂不守宫，阴魄不闭户，令人耽五味，长贪欲，形老神衰，皮皱发落。若不却粒绝味，禁嗜戒色，则尸虫全而生，身必死。若灭

三虫，弥尸鬼，安魂魄，养精髓，固形神，保天地者，非气术而不可倚矣（擒制情欲，弥灭虫尸，使形神不枯朽，须服神气，還元返本，过此皆不可倚也）。且我大仙以气术为先，元气是本。是以太和为宗，冲元是本。及吾归之于妙，寂之于玄，化之于无，用之于自然，自然轻举，升于玄玄，出入无间，其道恬焉。与道通灵，当有何患（音还《内景》云：“勿令七祖受殃患。”但不许以道传于非人，即七祖受其殃也。今言当有何患，是亦依道奉行，保无殃咎也）？夫上仙以元气为宗，中仙以丹术为本，下仙以药术为首，量此三者，夫何以久！皆以勤劳神，饵金服石，动费货泉，失于归寂，盖不得自然之理，乖于真道矣。昔大隗翁曰：生吾有身，忧吾动劳，念吾饥渴，触情纵欲，过患斯起，遂亏于玄化之道也（此广成子述初古大仙要道所得之秘旨也）。

于是黄帝君谨心神，观想元气，（用启玄理，先静丹元，观想自然，融于归寂也）。乃感太一真君持《玄元内景气诀妙经》一篇授之帝君。帝君尔后降中岳，复会群仙，宣是妙经，因名《中山玉柜服神气经》（此碧岩受行是经，于师奉传，然得分明，知其的实，以为诰）。夫太一真君者，是北极太和元气之神，神通变化，自北极紫微宫经过，于天地间，滋育万物，在天则五象明焉，在地则草木生焉，居人则神识灵焉，在鉴则五行察焉，在北则四运变焉。听之不闻，视之不见，搏之不得，无形无状，而与万物作状，故谓之玄，谓之象。所感无不应，所真无不证，所专无不用，所精无不动。是知道以真正为玄关，专精为要路。倚于此者，无所不通也（碧岩受之，相次显示，使其将来不滞迷惑）。

经曰：夫欲服气，服元气为本，以归寂为玄妙。若不得此门，及不知玄关要路，则终不能成就功德也（经之要言，故不



妄语)。夫求仙道，绝粒为宗；绝粒之门，服气为本；服气之理，斋戒为先。当持斋戒，然拣好日，晏静一室，安置床荐（其斋以心清意净，无诸躁动止，可二七日）。若不先斋，则不得神气内助；若不存想，则神气不得内补。夫欲修行，要当别置一室，好土香泥，泥饰明密高敞，床褥厚暖，衾枕新洁，不得使杂人秽污，辄到其中。其中地须深锄深二尺，筛去滓砾，除诸秽物，更添好土，筑捣平实，更罗细土，拍踏令紧。既得平稳，勤须洒扫，务其清静。室中唯安书机经柜，每一度焚香，念玄元无上天尊，又念太一真君（又可呼三一，三元五脏六灵，一身之神，冥心叩齿，静默思之也）。太一真君有五诫，诚心依之，克获神应。一者，不得与女人语笑同处，致尸鬼惑乱精神。二者，勿食一切荤膩、五辛、留滞、冷滑之物，若食之，令三尸浊触五神。三者，勿入一切秽恶处所，夫吊死、问病、至人为杀戮、决罚、惊魂，大怒、大怖，精神飞散，就中死尸，道人大忌（海之至大，尚不宿尸，人之至灵，尸之至秽也）。或误冲见，当以桃皮竹叶汤浴。讫，入室平卧，存想心家火遍身焚烧，身都炯然，使之如尽。然后闭气，咽新气，驱逐腹内秽气，使攻下泄，务令出尽，当自如故。四者，勿与一切众人争于是非、忿诤斗竞、及抱小儿，减人算寿，损志伤神。五者，勿得欺罔一切事，阴神不助，常慎言语、节度、行止，勿对北旋溺，犯太一紫微，殃罚非细。若有违此五戒，于二七日间，眠梦之内，自有惊觉，觉悟于人，务人修善，其事秘密，勿泄于人（所言《内景气诀妙经》一篇，良有是也。夫景是内秘之事，唯自己心内知之，固不可漏泄他人也）。

### 说三尸

真人云：上尸名彭倨，好宝物；中尸名彭质，好五味；下尸名彭矫，好色欲。三尸之为物，常居人脾。至修法之夜，即宜右覆卧，则脾不得动；脾不得动，则三尸不得作恐耳。亦乃一助也。是夕，心中祝言曰：

三尸九虫，我已知你所能也。若眠中闻唤误应者，即当起正坐，叩齿十二通，心中祝曰：吾知汝是三尸九虫耳。但知行正意役使，梦中勿与相应对也。常先预思忆敕戒之，亦无能变化矣。

### 说三尸所居法

上尸彭倨，居人头上，在泥丸宫中，一名上丹田宫，却入眉后三寸，自有宫殿楼阁。

中尸彭质，居人心后，却入三寸三分，居其间，名曰中泥丸，一名中丹田，自有宫殿楼阁。

下尸彭矫，居人下丹田，亦名下泥丸，在人小腹去脐下三寸，却入腹三寸七分，自有宫殿楼阁。

### 候三尸法

若忽梦起屋舍篱障者，是腹中尸虫共相依止。若梦与女人交通者，其尸虫会也，重者皆成病。若服丹砂有功者，当梦大火烧其屋宇。服诸药有应者，当梦父母丧亡，妻子被杀，或是姊妹兄弟之属或女人，或冢墓破坏失去棺槨，及被五刑死者，此是尸虫皆将消灭候也。

### 赵先生口诀祝尸虫法（凡三法）

赵先生口诀曰：欲祭三尸九虫法，常以月建之日夜半之时，密出中庭，正立东向，平体正气，叩齿三十通，讫，举头小仰，即复下头小俯，因咽液二十过，又向前仰两手二七过，前后仰，缓手为之，窃祝曰：

南昌君五人，官将百二十人，为某甲除三虫伏尸，将某周游天下，过度灾厄。讫，徐徐左回还卧。行之三年，尸虫消灭。若月中有重建者，亦重为之。修此法，欲斋戒独住，不欲杂错人众，务令寂静，勿使知之，及六畜鸟兽并不闻声。为此法易行，无恍惚之患。

#### 又法

先生曰：欲除尸虫之法，春月择甲乙夜，视岁星所在，朝

之再拜，正心，窃祝曰：

愿东方明星君，扶我魂，接我魄，使我寿如松柏，生年万岁，生不落愿。为甲除身中三尸九虫，尽走消灭。常择洁静，频行之，为善。此仁德乐生，君木也，木克土，所以土尸去，妙诀秘之。

#### 又法

先生口诀去三尸九虫法：常以月晦日，日出昕昕时，东向日所出处，禹步三祝曰：

诺辇（辇者，唤声，如言号耳）。月中有虫兔虾 麻，日中有虫三足乌，水中有虫蛇与鱼，土中有虫蛾蝼蛄，腹中有虫蛭白从。凡三祝，止之，秘而勿传。

### 东方氏制三尸法

常以庚申日存头中，有太上老君、泥丸真人二人并共坐上，著远游冠，服玄袍，坐于冥光帐中，下视、口、目、耳、鼻，清涤神气，谓之上一，拘面部之魂；次存心中，有太一太帝、绛宫真人二人并共坐，上著九阳冠，服丹南逸景之袍，坐于朱陵帐中，下视四体清波，肝肺胆肾，皆令净洁如五色玉，谓之中一，拘四肢之部精；次存脐内，有太黄老君、黄庭真人二人并共坐，上著十灵之冠，服黄罗之袍，坐于黄锦帐中，下视脾腹之下孔窍，令分明如白素，谓之下一，拘制骸魄。于是，三尸无从得动矣。

## 紫微宫降太上去三尸法

夫人身并有三尸九虫。人之生也，皆寄形于父母胞胎，五谷精气，是以人腹中尽有尸虫，为人之大害。常以庚申日夜，上告天帝，记人罪过，绝人生籍，欲令速死，魂升于苍天，魄入于黄泉，唯有虫尸独在地上游走，曰鬼。或四时八节，三牲祭祀不精，辄与人作祸害，心痛疰忤，伐人性命。上尸彭倨，在人头中，伐人眼目，令人好作恶，啖食众生，或口臭齿落。中尸彭质，在人腹中，伐人五藏，少气多忘，令人好作恶，啖食众生，或作恶梦，惊恐不安。下尸彭矫，在人足，令人下关搔扰，五情踊动，不能自禁。若尸为神则害子，是故复疰不绝。

又云：上尸彭倨名青服，中尸彭质名白服，下尸彭矫名赤口。此三尸状如小儿，或似马形状，皆有须发，毛长三四寸。人既死，遂出作鬼耳，如人生时形象，衣服长短，亲人见之，谓是亡人还家，实非亡人灵也。身中三尸九虫，种类群多。夫学道修长生者，若不先灭三尸九虫，徒烦服药断谷，求长生不死，不可得也。后人谓先圣经方虚谬，乃未究害之所由也。此上圣之至训，真人之秘言，宜可勸哉！制之法，每至庚申日，夕不眠以守之，令不得诉天帝。罪满五百条，其人必死。三守庚申，三尸振伏。七守庚申，三尸长绝，太玄镬汤，煮而死矣。尔乃精神安定，五脏恬和，不复搔扰。

### 太虚真人消三尸法

真人曰：常以春甲寅日、夏丙午日、秋庚申日、冬壬子日瞑卧时，先捣朱砂、雄黄、雌黄三物，等分细捣，以绵裹之，使如枣大，临卧时塞两耳中，此消三尸炼七魄之道也。明日日中时，以东流水沐浴毕，更整饰床席，易著衣物，浣故者，更履屐，先除澡之。都毕，又扫洒于寝床下，通令所住一室净洁，平安，枕卧向上，闭气握固良久，微咒曰：

天道有常，改易故新。上帝吉日，沐浴为真。三气消尸，朱黄安魂。宝炼七魄，与我相亲。此道是消炼尸秽之上法，改真易形之要诀也。四时唯各取一日为之。

### 思念道诚去三尸法

老君遗诫，教子防躯，外如空城，里如丹朱。外常不足，内实有余，保道五脏，勿得发舒。行正念道，常覆子躯，思道念道，坐致行厨。思道念道，常以道俱，内怀金宝，外常如无。保神爱气，万邪不拘，长生在己，三尸自去。百病九虫，皆自消除，身过千灾，仙人邻居。

### 五行紫文除尸虫法（凡三法）

《五行紫文》曰：常用朔望之日日中时，临目西向，存两目中出青气，心中出赤气，脐中出黄气，于是三气相绕，合为一，以冠身，尽见外，洞彻如光之状。良久，乃叩齿四十通，毕而咽液。此谓炼形之道，除尸虫之法，久行之佳也。

#### 又法

常以七月十六日去手爪甲，烧作灰服之，即自灭。消九虫，下三尸。

#### 又法

凡寅日去手爪甲，午日去足爪甲，名之斩三尸。

### 存心中赤气去三尸法

经曰：常念心中出赤气，上行通喉咙，以意闭之于泥丸，为之不止，三尸自去，长生久视，司命刻名，著不死之紫篆也。

## 卷八十四 尸解部一

### 太极真人石精金光藏景录形经说

上宰总真西城王君，昔受之于紫阳公。施行道成后，以付弟子茅盈，以传南岳夫人，使授学道者当为真人。

### 释石精金光藏景录形法

夫石者，铁之质；精者，石之津；金者，剑之干；光者，刃之神。藏玄飚乱，景录四宝之形。挥割百魔，映彩五星，观焕七元，激烈火兵者矣。轩辕有桥山之葬，所以剑舄在焉；玉子有渤海之冢，剑鸣空椁；王乔有京陵之墓，而剑飞冲霄。斯实真验九玄，精应太虚，神方之灵，致威剑之妙化也。诸以剑尸解者，以剑代身，五百年之后，此剑皆自然还其处也。幽响无间，恍惚难寻，不可得言矣！不可得书矣！为之者，见之者，唯当应之于心耳。

轩辕自采首山铜以铸鼎，虎豹百禽为之视火参炉。鼎成而轩辕疾崩，葬桥山。五百年后山崩，空室无尸，唯宝剑赤舄在



焉，一旦又失所在也。

一说云：黄帝丹成，乘龙上天，群臣攀慕，葬剑舄于桥山。后五百年山崩，空室唯剑，又失所在。玉子者，帝尝也，曾诣钟山，获《九化十变经》，以隐遁日月，游行星辰，后一旦疾崩，营冢在渤海山。夏中衰时，有发玉子墓者，室中无所有，唯见一剑在北寝上，自作龙鸣虎噪，人遂无敢近者，后亦失所在也。既发墓时，亦当在五百年之间也。王子乔墓在京陵，战国时，复有发其墓者，唯见一剑在室，人适欲取视，而剑忽然飞入天中也。案神剑代身，五百年后剑自归其处，当是灵人使故，有崩发者，令剑得出，而上飞冲天乎！

### 尸解叙

夫尸解之道，如为小妙，既令希者情阻，闻者不及，以一死镇其路，亦无所复论。唯彭铿游山，凤纲市朝，四皓假首以素，八公变形万化，亦吾所不愿矣！自有方诸刻名，应得尸解之仙者，或禀受使然，或志行替败，或学寻浅狭，或情向颓住。此自希尚所及，正以分得之。非向所论诸君衍门子辈。既饱上药，而故为尸解者也。吾昔受先师尸解上方委化之道，虽不得获用，常所依依。今向尘埃四会，交兵激合，三官驱除，疾贤害道，言神仙者致疴，寻淫利者富贵，志道求生者，亦何为波波折于风火之中，束带以入乎牢市者哉！今密出尸解之方，可各以传示弟子应得为真人者，用之潜遁，足以远凶恶；施之而逝，可以尽子孙之近恋；隐之而游，可以登名山也。若夫道数兼备，方术斯明，役使百鬼，招召众灵，坐在立亡，分气散形。虽处

三军而飏锋不能兵，虽行凶危而灾疢弗能干，虽入市朝而百害不能生者，可无复施尸化之迂耳。夫此之解者，率多是不汲汲于龙轮乐，安栖于山林者矣！

### 又叙

《真诰》曰：吞琅玕之华而营丘墓者，衍门子、高丘子、洪崖先生是也。衍门子墓在渔阳潞县，高丘子墓在河中闻喜县，洪崖先生墓在武威姑臧县，此三郡并云上古死人之空冢也。而不知高丘子尸解入六景山后，服金液之水，又受琅玕华丹于中山，复托死乃入玄洲，受书为中岳真人。衍门子今在蒙山大洞黄金之庭，受书为中元仙卿。洪崖先生今为青城真人也。漱龙胎而决死，饮琼浆而叩棺者，王西城及赵伯玄、刘子先是也。服金丹而告终者，臧延甫、张子房、墨翟子是也。挹九转而尸臭，服刀圭而虫流者，司马季主，宁仲君、燕昭王、王子晋是也。夫尸解托死者，正欲断以死生之情，示民有终始之限耳！岂肯腐骸太阴，以肉饷蝼蚁者哉。直欲遏违世之夫，塞兆民之源望也。

### 造剑尸解法

真人用宝剑以尸解者，蝉化之上品也。当自斋戒百日，乃使锻人，用七月有庚申日，八月有辛酉日，作精利剑。使长三

尺九寸，广一寸四分，厚三分半，以杪九寸为左右刃处，其柄任长短，取适也，头可安录环也，唯使长三尺九寸耳。

录钗者，镂刻剑钗也。钗左右面刻之作刃字，面有九刃字也。钗背上刻作己字，作九己字也。深刻之，字刻皆从刀背而下，顺刃也，顺钗而刻之也。

诸刻处，欲得以金银厕填之，益分明佳也。剑身中有刻象在后，钗中央复有坚起如小半钗者，名之曰伏基。内钗刻左面为日字，刻右面为月字。先又圆刻日月之外为郭也。所谓伏日月之光。基五百年还，出以挥五岳，入以藏无间，下以制九阴，上以承玄冥，卫足以逐邪魔，威足以鉴七精，仰以映录五气，俯以代身化形矣。欲知剑之左右内外，以剑正指南，使剑背在上，使剑刃在下也。于是乃以东面为右，西面为左，东为内面，西为外面，所谓回巛黄赤，纵到五行，步斗含阴，斩电割风者也。斗谓七星，阴谓六丁之神也。剑杪九寸，有两刃处，并刻两刃中，脊上内外面各作三丁字，从两刃头始作丁字，分以三寸为一丁字，字顺向剑杪。

此剑恒置所卧床上枕衽被褥之间，使常不离身，以自卫也。既足以逐辟邪魔，又可以照映五形尔。乃神药题之，即得遁景潜冥矣。此剑尺度长短，广狭厚薄，刻镂文字，乃太极四真人灵剑之模范也。或谓曰分景，或曰挥神刀，但当论铤质有利钝耳。上人皆陶昆吾之石，冶西流之金，铸而作之，准其成范也。此之上质，非世人所得。但取精铁，按而作之，亦足以流景逸真，隐灵化形。药既陈矣，将不待西吾之质，乃成其妙也。凡铁亦皆可用也，所存在于范质而已。夫虎狼恶兽，闻麟唱而窜穴，百鸟群游，听凤鸣而绝响。麟角岂锐于虎狼之爪牙哉？凤声岂猛于雕鹗之攫乎？所贵在于灵音神气，道妙发焕，德为群物之轨，真为至空之柄，足以镇万精之眩惑，威千凶之用矣。

奚必须昆吾之金、割玉之铤耶？王子乔剑乃凡下之铁耳，黄帝今所带剑，是桥山中尸解剑也。若是者，复非西昆之流金也。

### 尸解次第事迹法度

若欲且遁潜名山，栖身高岫，或欲随时观化，逍遥林泽；或欲断儿子之情，令始终道毕，外割亲悲，内遏希尚，不愿真官隐浪自足者，当修剑尸解之道，以曲晨飞精，书剑左右面，先逆自托疾，然后当抱剑而卧。又以津和飞精作丸如大豆，于是吞之。又津和作一丸如小豆，以口含，缘拭之于剑铔，密呼剑名字，祝曰：“良非子干，今以曲晨飞精相哺，以汝代身，使形无泄露，我当潜隐，汝暂入墓，五百年后，来寻我路。今请别矣，慎勿相误，上登太极，言功八素。”祝毕，因闭目咽气九十息，毕，开目忽见太一以天马来迎于寝卧之前，于是上马，顾见所抱剑已变成我之死尸在彼中也。临时当易著太一迎服，留故衣巾以覆剑也。乃乘马蹶虚，任意所适。或可改名易姓，还反故乡，无所忌难矣。剑成死尸，与真不异，又有臭气，又乃生虫。既剑入棺，即复剑形，不复为尸形也。天马者，吉光腾黄之兽也。太极真人命太一使者赍马执控，并迎以宝衣，恍惚而来，不知所以然也。马去之时，虽众医侍疾，子孙满侧，而我易服束剑，流景变迹，徒相卫比肩对目，而不觉我之云为也。所谓化遁三辰，巛徊日精，呼吸万变，非复故形者也。宝衣，无缝衣也。剑字，子干，名良非。若未用剑之时，眠卧常祝呼剑名字曰：“良非子干，神金挥灵。使役百精，令我长生。万邪不害，天地相倾。”当密祝于剑铔之中。上马时，以藏景

录形灵丸二枚著剑青囊中，结空囊口，著被中，良久，已复变成向者囊中剑也。二三年间，乃忽然自失之耳。此曲晨飞精，一名七阳日精之华，盖琅玕之并例矣。此丹复能流遁散形，分景藏毫，四海不能容其体，粟米固能缠其外者也。隐回七度，昏蔽三光，实其妙矣！其用他药得尸解，非是用灵丸之化者，皆不得返故乡。返故乡则为三官执之也。有死而更生者，有头断已死，乃从一旁出者，有死毕未殓而失尸骸者，有人形犹存而无复骨者，有衣在而形去者，有发脱而失形者。白日去谓之上尸解，夜半去谓之下尸解，向晓暮之际而去者谓之地下主者。此皆迹兆不灭，为人所疑，虽获隐遁，令世志未厌，又不得返旋故乡，游栖靡定，深所恨，恨意在于此。此自是《太清尸解之法》，那得比太极之化遁乎？高卑绝轨，良有由也。

### 太极真人诫

太极真人诫：夫传受此，虽年多者，所谓道初起耳。上古之世平，当全其限；中古世衰，渐可半之；下古世乱，三分之一乃可传授。不但此法而已，长生大道亦然。若必是其人，亦复不限。下古，谓金马之世也。事在《太极真人诫》中。

### 尸解神杖法

《赤书玉诀》云：当取灵山阳向之竹，令长七尺，有节，

作神杖，使上下通直，甘竹乃佳。书《黑帝符》，著下第二节中。《白帝符》，第三节中。次《黄帝符》，第四节中。次《赤帝符》，第五节中。次《青帝符》，第六节中。空上一节，以通天；空下一节，以立地。蜡封上节，穿中印以《元始之章》。又蜡封下节，穿中而印以《五帝之章》。绛文作韬，长短大小足容杖，卧息坐起，常以自随。行来可脱杖衣，隐以出入，每当别著净处。以杖指天，天神设礼；以杖指地，地祇伺迎；以杖指东北，万鬼束形。乘杖行来，及所施用，当叩齿三十六通，思五帝直符吏各一人，衣随方色，有五色之光流焕杖上，五帝玉女各一人合共卫杖左右，微祝曰：

太阳之山，元始上精。开天张地，甘竹通灵。直符守吏，部御神兵。五色流焕，朱火金铃。辅翼上真，出入幽冥。召天天恭，摄地地迎。指鬼鬼灭，妖魔束形。灵符神杖，威制百方。与我俱灭，与我俱生。万劫之后，以代我形。影为吾解，神升上清。承符告命，靡不敬听。”毕，引五方炁各五咽，合二十五咽止。行此道九年，精谨不慢，神真见形，杖则载人空行。若欲尸解，杖则代形。倏欻之间，已成真人。朝拜以本命八节日，当烧香左右，朝拜此杖，则神灵感降，道则成矣。

### 水解（凡三人）

#### 辛玄子

辛玄子，字延期，陇西定谷人。好道行，度秦川长梁溺死。西王母酆都北帝愍之，敕三官摄取骸还魄，复得成人，度命南宫。今正差领东海，侯补禁元中郎将，为吴越鬼神之司。

段季正

《道迹灵仙记》云：代郡段季正，隐士也。晚从司马季主学道，渡秦川，溺水而死，盖水解也。今在委羽山中。

王进贤

王进贤者，琅玕王衍之女也。遭石勒略，共侍女名六出赴黄河，自誓不受辱，即投河中。时遇嵩山女仙韩西华出游，见而愍焉，抚接二人，救而度之，外示沉没，内实密济矣。西华即将入嵩高山，授以道要，今在华阳易迁宫中矣。六出本姓田，渔阳人，浚仪令田讽孙也。年可二十二三，体貌端正，善有志节，故能与进贤同赴于河。又田讽曾有阴德行善，福及六出，故亦得仙也。

## 卷八十五 尸解部二

### 太极真人飞仙宝剑上经叙

夫尸解者，尸形之化也。本真之炼蜕也，躯质遁变也，五属之隐适也。虽是仙品之下第，而其禀受所承未必轻也。或未欲升天，而高栖名山；或崇明世教，令生死道绝。欲断子孙之近恋，盖神仙为难矣！或欲长观世化，惮仙官之劬劳也。妙道一备，高下任适，固不可用，明死生以制其定格也。所谓隐回三光，白日陆沉者也。

又云：以录形灵丸涂火炭，则他人见形而烧死，谓之火解。以一丸和水而饮之，抱木而卧，则他人见已伤死于空室中，谓之兵解。凡百纵任，即不得还故邑也。当变姓名，易容貌尔。昔有人作此法，入林虑山，积三年而复还家也。夫修下尸解者，皆不得反望故乡。此谓上解之道，名配紫简三官，不得复窥其间隙，岂妄以死加之也？

### 戎胡授舜十转紫金丹叙



《集灵经》云：昔舜移平阳而欲出都于蒲坂，路逢北戎之胡，以柱形而触舜。舜曰：异人哉！而左右执胡而咨之。舜曰：是老胡矣！命释之。左右舍胡令去。胡曰：余以柱故而得见于汝君，不柱而不见于余者何？遂不肯去。左右以状闻，舜曰：致之左右。不肯进，谓左右曰：天子鄙我也以命，命所继于汝君也。然余非汝君不自致，致由于汝君。君之至，致余，余自致哉！遂卧为本土之歌，左右以状而告于君。君曰：致而不来者，慢于余致也。就人之国，慢人之本者，谅有以也。遂命驾回之于胡所，仍卧不起。舜就而请之曰：客抗于主，主无于主之礼，请客据客礼，朕就主事焉！胡曰：礼也，何如而遣？余之生也。余不知礼而生，余之长也。不约而长，生而不知礼，而天生之，长而不知礼，而天长之。生长，天之道也。礼者，忠信薄也。今为天子，不知所生，而孜孜于礼说，恶能达生而体也！舜闻而吒曰：胡岂圣人欤！朕当受教。遂礼之。胡乃授舜《十转紫金丹方》，遂南巡于九疑，尸解而不返。

### 太一守尸

夫解化之道，其有万途。或隐遁林泉，或周游异域，或亲逢圣匠，或会遇真灵，或授箓而记他生，或交带而传仙诀，或坐死空谷，或立化幽岩，或髻发但存，或衣结不解。乃至水火荡炼，经千载而复生；兵杖伤残，断四肢而犹活。一足不化，五脏生华，若赵成子之类，皆名著紫府，籍在丹台，是得三官太一守尸而不泯也。太一守尸而号务犹收，字归会昌，一名解萌，一名寄频，盖专主性命也。

### 景霄真人

高圣帝君告景霄真人曰：欲刻名《玄纪回天九霄》解形之法，当以五月五日上合之时，沐浴清斋，正中入室，烧香，北向九拜，朝礼玉天。毕，北向叩齿十二通。思斋室之内，中有丹云灿烂于一室之内，存五老仙伯在丹云之中，披飞青之帔，冠通天玉冠，手执青文之录。思领仙玉郎，着云锦之袍，冠七宝玉冠，手执白银之简。思见二真，为我记名于白简之上，结录于青文之编，以我简录付监真使者，定录左仙，上刺九天帝王，七圣凡下简录定名，五老仙伯领仙玉郎化入我身绛宫之中，便祝曰：

朱明南丹，庆合上阳。天元交会，六愿内昌。九圣七真，齐灵琼堂。上刺玄简，结录西宫，刻书正音，明达四通。丹云回霄，来降我房。飞羽仪卫，翼翼光光。左策朱凤，右挺游龙。六辔同举，超登华堂。五老携契，四极齐双。长保玄晖，日月同光。毕，又七拜礼七圣，咽七气止。行此七年，则玄纪得道之名于上宫，九霄回映升入无形。

### 太玄阴生符

《灵宝太玄阴生之符》，夏禹文，命受之于钟山真人，其祭醮服佩，皆有法在本经。

### 太极真人遗带散

真人曰：凡尸解者，皆寄一物而后去。或刀或剑，或竹或杖，及水火兵刃之解。既得脱去，即不得回恋故乡，及父母妻子之爱也。惟此散化即当解之，涂于衣带之上，紧结而系之，闭息作法而去，颇易于他尔。方药如后：

水金、一大分，丹砂、二大分，水汞、三大分，庚铅四大分，黄土、五大分。

右共细研之，取九阴神水调匀，涂衣带上，紧结之，当自脱去，但见其尸卧于床簀尔。

### 轩辕黄帝

黄帝者，号曰轩辕，能劾百神朝而使之。弱而能言，圣而预知，知物之纪，自以为云师，有龙形。自择亡日，与群臣辞。至于卒还葬桥山，山崩，柩空无尸，唯剑舄在焉。仙书云：黄帝采首山之铜，铸鼎荆山下。鼎成，有龙垂胡髯下迎，帝乃升天。群臣百僚悉持龙髯，从帝而升，攀帝弓及龙髯，拔而弓坠，群臣不得从，仰望帝而悲号。故世以其处为鼎湖，名其弓为号焉。

赞曰：

神圣渊玄，邈哉帝皇。暂莅万物，冠名百王。化周六合，

数通无方。假葬桥山，超升昊苍。

### 宁封（火解）

宁封者，黄帝时人也。世传为黄帝陶正。有人过之，为其掌火，能出五色烟，久则以教封子。封子积火自烧，而随烟气上下。视其灰烬，犹有其骨，时人共葬于宁北山中，故谓之宁封。赞曰：

奇矣封子，妙禀自然。铄质洪炉，畅气五烟。遗骨寒烬，寄坟宁山。人睹其迹，恶识其玄。

### 玉子

玉子者，姓章名震，南郡人也。少学众经。周幽王征之不出，乃叹曰：人生世间，去生转远，去死转近矣。而但贪富贵，不知养性，命尽气绝则死。位为王侯，金玉如山，何益？形为灰土乎？独有神仙度世可以无穷尔！乃师桑子，具受众术，乃别造一家之法，著道书百有余篇。其术以务魁为主，而精于五行之意，演其微妙，以养性治病，消灾散祸。能起飘风，发屋折木，作雷雨云雾。能以草芥瓦石为六畜、龙虎，立便成行。分形为数百千人。能涉江海，含水喷之，皆成珠玉，遂亦不变也。或时闭气不息，举之不起，推之不动，屈之不曲，申之不直，百日、数十日乃复起。与弟子行，各丸泥为马与之。皆令

闭目，须臾皆成大马，乘之一日行千里。又能吐气五色，起数百丈，飞鸟过，指之即坠。临渊投符，召鱼鳖，即皆上岸。又能使诸弟子举眼即见千里上物，亦能久矣。其务魁时，以器盛水著两魁之间，吹而嘘之，上直有赤光辉辉，起一二丈。以此水治百病，病在内者饮之，在外者澡之，皆便立愈。后入崆峒山合丹。服之佯死，尸解而去。

### 王子乔

王子乔者，周灵王太子晋也。好吹笙，作凤鸣。游伊洛之间，道人浮丘公接以上嵩高山。三十余年后，求之于山上，见桓良曰：告我家，七月七日待我于缑氏山头。至时，果乘白鹤驻山头，望之不得到，举手谢时人，数日而去。亦立祠于缑氏山下及嵩高首焉。

赞曰：

妙哉王子！神游气爽。笙歌伊洛，拟音凤响。浮丘感应，接手俱上。挥策青崖，假翰独往。

### 清平吉

清平吉，沛国人也，汉高皇帝时卫平也。至光武时容色不老，后尸解去。百余年复还乡里，数日间又尸解而去。

## 司马季主

司马季主者，楚人也。卜于长安市。文帝时，贾谊宋忠为中大夫，曰：吾闻圣人不在朝廷，或游蓬肆，试往观之焉。见季主闲坐，弟子侍而论阴阳之纪。二人曰：望先生之状，听先生之辞，世未尝见也。尊官高位，贤者所处，何举之卑？何行之污？季主笑曰：观大夫类有道术，何言之陋？今蛮夷不服，四时不和，徒赅赅而言，相引以势，相延以利，贤者乃何羞尔！夫内无饥寒之累，外无劫夺之忧，处上而人敬，居下而无害，君子之道也。卜之为业，所谓上德不德也。凤凰不与燕雀同群，公等琐琐，何足知长者乎！二人忽尔自失，后相谓曰：道高者安，势高者危，卜而不审，不见夺精，为人主计而不审，身无所处。宋忠抵罪，贾谊感鹏，梁孝王坠马，吐血而死。季主入委羽山大有宫中，师西灵子都，受《石精金光藏景化形之道》，临去之际，留枕席以代形，粗似如其真身不异也。家人乃葬之于蜀升盘山之南，诸葛亮为其碑赞云：玄漠大寂，混合阴阳。天地交泮，万类滋彰。先生理著，分别柔刚。鬼神以观，六度显明。季主得道后，常读《玉经》，服明丹之华，挹扶晨之辉，颜如少女，须三尺，黑如墨。有子二人，男名法育，女名济华，乃俱在委羽山，并读《三十九章》。

### 鲍叔阳

鲍叔阳者，广宁人也。少好养生，服桂屑。后与司马季主俱在委羽山，师西灵子都太玄仙女，得尸解之道。

### 徐弯

徐弯者，吴郡海盐人也。少有道术，能收束邪精。钱塘杜氏女患邪，弯为作术召魅，即见丈夫著白夹葛单衣入门。弯一叱之即成白龟。一旦为群从兄弟数人登石崎山斫春柴，日暮弯不返。明旦寻觅，见弯在山上，腋挟镰，倚树而不动。或向前抱，唯有空壳。

### 董仲君

董仲君者，临淮人也。少行气炼形，年百余岁不老。常见诬系狱，佯死，臭烂生虫。狱家举出，而后复生，尸解而去。

### 龙述

龙述，不知何许人也。于金山得神芝，实如梧桐，治而服之，日二刀圭。服二年得仙，尸解而去。

### 王方平

王远者，字方平，东海人也。举孝廉，除郎中，稍加至中散大夫。博学五经，兼明天文图谶河洛之要，逆知天下盛衰之期，九州吉凶，如握已成。汉孝桓帝闻之，连征不出。使郡国逼载以诣京师，低头闭口，不肯答诏，乃题宫门扇四百余字，皆记方来。帝恶之，使人削之，外字适去，内字复见，墨皆彻入材里。方平无复子孙，乡里人累世传事之。同郡故太尉公陈耽为方平架道室，旦夕朝拜之，但乞福愿，不从学道也。方平在耽家三十余年，耽家无疾病死丧，奴婢皆安然，六畜繁息，田蚕万倍，仕宦高迁。后语耽云：吾期运当去，不得复停，明日日中当发。至时，方平死。耽知其化去，不敢下著地，但悲啼叹息曰：先生舍我去，我将何怙？具棺器烧香，就床著衣。至三日三夜，忽然失其所在，衣带不解，如蛇蛻也。方平去后百余日，耽薨。或谓耽得方平之道他去，或谓方平知耽将终，故委耽去也。方平东入括苍山，过吴，住胥门蔡经家。



### 栾巴（兵解）

栾巴者，蜀郡人也。好道，不修俗事。太守诣与相见，屈为功曹，待以师友之礼。尝谓巴曰：闻功曹有神术，可使见否？巴曰：唯唯。即平坐却入壁中去，冉冉如云气状，须臾失巴。而闻壁外作虎声，而虎走还功曹宅，乃巴尔。后入朝为尚书，正旦大会，而巴后至，而颇有酒态，酒至又不饮，即西南嚬之。有司奏巴大不恭，诏以问巴。巴顿首曰：臣乡里以臣能治鬼护人，为臣立生庙。今旦耆老皆令臣饮，不得即委之，是以颇有酒态。适来又观臣本郡大火，故嚬酒为雨以灭之。诏原复坐，即令驿书问成都。果信云，正旦日，雨自东北来，而有酒气。后为事而诛，即兵解也。

### 女真赵素台

赵素台者，汉幽州刺史赵熙之女也。熙少有善行，济穷困，救王惠等族诛，有阴德数十事。熙得身诣朱陵，儿子得遁化游洞天，素台在易迁宫中，已四百年，不肯移去，自谓天下无复乐于此处也。数微服游行，盼山泽以自足也。

### 女真程伟妻

汉期门郎程伟妻者，能神通变化。伟当从出而无衣，甚愁之。妻即为致两缣，无故至前。伟好作黄白，连时不成。妻乃出其囊中，以少药投其所以煎，水银须臾成银。欲从求方，终不可得，云伟骨未应得之。逼不得已，妻尸解而去。

### 刘卞画

刘卞画者，不知何许人也，长大多须，垂手下膝。久住武当山，去襄阳五百里，旦发夕至。不见有所修为，颇以药术救治百姓，能劳而不倦。用药多自采，识草石，乃穷于药性。雍州刺史刘道产忌其臂长，于襄阳录送文帝。每旦槛车载往蒋山采药，暮还廷尉。卞画后以两短卷书与狱吏，吏不敢取。卞画焚之。一夜失卞画，关钥如故。门吏行夜，得卞画，送还廷尉。卞画语狱吏云：官寻杀我，殓后勿钉棺也。既被杀，后数日，文帝疑其言，使开棺，不见尸，有竹杖云。

### 张玄宾

张玄宾者，定襄人也，曾举茂才。始师西河苏公，受服术，行洞房白元之事。后遇樊子明于少室山，授以遁变隐景之道。昔在天柱山，今来华阳内，为理禁伯主诸水雨官。玄宾善谈空无，无者，大有之宅，小有所以生焉。积小有以养小无，见大有以本大无。有有亦无无焉，无无亦有有焉。所以我目都不见物，物亦不见。无寄有以成无，寄无以得无。于是无则无宅也。太空亦宅，无矣。我未生时，天下皆无无也。其所论端据如此，桐柏诸灵仙亦不能折之。自云：昔于蓬莱遇宋晨生论无，粗得其意也。

### 王嘉（兵解）

王嘉字子年，陇西安阳人也。久在于东阳谷口，携弟子登崖穴处，御六气，守三一，冬夏不改其服，颜色日少。苻坚累征不就。坚寻大举南征，以弟融为大将军，遣人问嘉。嘉曰：金坚火强。仍乘使者马，正衣冠，徐徐东行，数百步而策马驰反，脱衣服，弃冠履而归，下马踞床而不言。坚又不解，更遣人问：世祚如何？嘉曰：未央。坚欣然，以为吉征。明年岁在癸未，坚大败于寿春，遂亡秦国，是殃在未年也。以秦居西为金，晋都南为火，火能铄金也。嘉寻移嵩高山，姚萇定长安，问嘉：朕应九五不？嘉曰：略得之。萇大怒曰：得当云得，何略之有？遂斩之及二弟子。萇先使人陇右，逢嘉将两弟子，计已千余里，正是诛嘉日也。嘉使书与萇，萇令发嘉及二弟子棺，并无尸，各有竹杖一枝。萇寻亡。

## 阴君传鲍靓尸解法

鲍靓，字太玄，陈留人也。少有密鉴，洞于幽元，沉心冥思，人莫知之。按《洞天记》云：靓及妹并是先身七世祖李湛、张滤者，俱杜陵北乡人，同在渭桥为客舍，积行阴德，好道希生，故福逮于靓等，使易世变炼，改氏更生，合为天伦，根胄虽异，德阴者同。靓学明经术纬候，师左元放受《中部法》及《三皇五岳》，劾召之要，行之神验，得能役使鬼神，封山制魔。晋大兴元年，靓暂往江东，于蒋山北道见一人，年可十六七许，好颜色。俱行数里，此人徐徐动足，靓奔马才及已渐远。因问曰：相观行步，似有道者。此人曰：吾仙人阴长生，太上使到赤城。君有心，故得见我尔。靓即下马，拜问寒温，未及有所陈。阴君曰：此地复十年，当交兵流血。计至苏峻乱，足十年。君慕道久矣，吾相当得度世尔。仙法，老得仙者，尸解为上。上尸解用刀，下尸解用竹木，皆以神丹染笔，书《太上太玄阴生符》于刀刃左右，须臾便灭所书者面目，死于床上矣。其真身遁去，勿复还家，家人谓刀是其人也。用竹木如刀之法。阴君乃传靓此道。又与靓论晋室修短之期，皆美一为十，广十为百。以表元帝，托云推步所知，不言见阴君所说，是阴君戒其然矣。

### 折象

折象，字伯式，广汉人也。少好黄老之业，后师东平先生虞叔雅，亦得道者也。笃尚养生，玄默无言。家世丰财，以为多藏厚亡无益，散千金以赈贫苦。或谏之，象曰：昔襄子文有言：“我之施物，乃逃祸，非避时也”。知者咸服焉。自刻亡日，尸解如蛇蛻而去。

### 吴猛

吴猛，字世云，豫章人也。性至孝，小儿时在父母膝下，殊无忤乔慢色。夜寝在父母边，未曾离也。夏月多蚊虻，不摇扇。有同寝人见猛在，不患蚊虻，问其故。猛云：恐蚊虻去我及父母尔。得道后，登庐山，与三弟子越三石梁，至一处，高堂多珍玩，不可识。弟子乃窃取一物，欲以示世人。还见向经梁化小如指，须臾昼昏。猛知弟子有过失，使送还，方得度。后太尉庾亮迎猛至武昌，便归，自言算讫。未至家五十里亡，殁后疑化，弟子开棺无尸。

### 左慈

左慈，字元放，庐江人也。少明五经，兼通星纬。见汉祚之将尽，天下向乱，乃叹曰：值此衰运，官高者危，财多者死，当世荣华不足贪矣！乃学道术，尤明六甲，能役使鬼神，坐致行厨。精思于天柱山中，得石室内《九丹金液经》，能变化万端，不可胜纪。曹公闻，召取关一室中，使人守视，断谷，日与二升水，幹年乃出之颜色如故。曹公乃欲窥杀之，慈知之，乃求乞骸骨。曹公曰：何忽尔？慈曰：知君欲杀，故乞去尔。曹公曰：固无此意，君欲高尚其志，亦当不久相留。乃为设饮。慈曰：今将分旷，愿乞分杯饮酒。公曰：善。是时天寒，温酒尚冷。慈解剑以搅酒，须臾剑都尽，如人磨墨之状。初，曹公问慈求分杯饮酒，谓慈将使公先饮，以余酒与慈。拔簪以画杯酒，酒即中断，其间相去一寸许，慈即饮其半送与公，公不喜，未即为饮。慈乞饮尽之，以杯掷屋栋，杯便悬著栋动摇，似飞鸟之俯仰，若欲落而复不落，举坐莫不属目。杯良久乃堕地。诸人乃视杯，已失慈所在，寻还问所常住处。曹公欲杀之，知慈足以免死，乃敕外收慈。慈走入群羊中，而奄忽失之。后有人见慈住处，乃往白公。公又遣人收之，得慈。慈非不能隐，故令世人知其神尔！于是受执入狱，狱吏欲拷诘，户中有一慈，户外有一慈，不知当拷何者？曹公闻而恶，使将军引出市杀之。须臾有七慈，相似如一。官收得六慈，失一慈。有顷，六慈皆失。于是奏上，乃令闭四市门而索之。或不识慈，问慈何如人？曰：一目眇，著葛巾青单衣。见有此人便收之。正尔视之，一市数万人，皆眇一目，葛巾青单衣，无非慈者，竟不知所收。曹公令捕得，逐人便斩。后数日见慈，便斩，头断，以白曹公。公大喜，言果左慈头也，就而视之，一束苑尔，还视其尸，亦失所在。人有从荆州来，见慈在荆州矣。

## 王延

王延，字子玄，扶风始平人也。九岁从师西魏，大统三年丁巳入道，依贞懿先生陈君宝炽，时年十八。居于楼观，与真人李顺兴特相友善。又师华山真人焦旷，共止石室中，餐松饮泉，绝粒幽处。后周武帝钦其高道，遣使访之。焦君谓曰：世道陵夷，伫师拯援，可应诏出，以弘大法，吾自此逝矣。延来至都下，久之，请还西岳，居云台观。周武诏修所居观宇，以山高无土，运取为劳。延默告玄真，愿有灵贶。忽于观侧岩间涌土，取之不竭。又山上无油，延置一瓮，为贮灯油之器，一夕自满，累岁燃灯，用之不减。既居山顶，杜绝人寰，每有人来，宾客将至，即有二青鸟先来报之。其鸟如乌，常飞左右。延每登仙掌莲峰，摄衣前行，如履平地，常有猛兽驯卫所止。其《三洞玄奥真经玉书》，皆焦君所留，俾后传于世。周武以沙门邪滥，大革其讹，玄教之中，亦令澄汰。而素重于延，仰其道德，又召至京，探其道要。乃诏云台观，精选道士八人，与延共弘玄旨。又敕置通道观，令延校三洞经图，緘藏于观内。延作《珠囊》七卷，凡经传疏论八千三十卷，奏贮于通道观藏。由是玄教光兴，朝廷以大象纪号。至隋文禅位，置玄都观，以延为观主。又以开皇为号。六年丙午，诏以宝车迎延于大兴殿，帝洁斋请益，受智慧大戒。于时丹凤来仪，飞止坛殿。诏以延为道门威仪之制，自延始也。苏威、杨素皆北面执弟子之礼。仁寿四年，告门人曰：吾欲归止西岳，但恐帝未悉耳。是年九月，委化于玄都观，体柔香洁，俨然如生。白鹤群飞，彩雾徊

合，异香之气，闻于远近。炀帝初即宝位，闻之尤加叹异，赐物百段，钱二十万，设三千人斋，送还西岳，所至之处，奇香异云，连属不散，入圻之日，但空棺而已，得解化之妙焉。

### 王叟

王叟寓居冀氏县四十余年，不知其所来，状貌七十余矣。常以针割理疾，无不效者。乡里传其所用针砭，异于常医。有患邪疾者，以刃开其喉，取一物如蚯蚓，头足并具，独少尾而已。叟曰：此物形状足，则人必死矣，幸去之速也。疾即愈。有背转急痛如束缚者，以刃割其背数寸，去两腋下筋各截尺余，其疾遂已。或问针割者，皆不言觉有割之痛，而疾立除矣。如此得效者，历年不可胜纪。忽谓人曰：余明年夏初将有所适，不可复住矣。及期无疾而卒，邻里之间，但闻香气累月。及瘞葬之时，棺轻若无物，皆以为尸解仙矣。



## 卷八十六 尸解部三

### 洞生太帝君镇生五脏诀

太极金华真人以此经文刻于太微帝君紫微宫玄珠玉殿东壁牖上。其文曰：五石异方，津光合形。有终而死，有始而生。万类反本，千条归真，气适浮烟，血奔流精，哀哉！兆身，非真不成！何不竭以云草玄波，徊以卉醴华英，会以七白灵蔬，和以白素飞龙？沐浴平坦，正心向东。凝精厉魂，上帝五公。再拜朝灵，镇固五方。长生天地，出入流通。各安其位，生华五脏。

此文乃上清八会交龙大书，非世之学者可得悟了者也。太素真人显别书字，受而服之，求其释注于太极帝君焉。云草玄波者，黑巨胜腴，一名玄清；卉醴华英者，蜜也。五光七白灵蔬者，薤菜也，白素飞龙者，石英也。法当种薤菜，使五月五日不掘拔，唯就锄壅护治之耳。经涉五年中，乃取佳，药名为五光七白灵蔬。择取薤白精肥者十斤，黑巨胜腴一斛五斗，白蜜凝雪者五斗，高玄岩绝泉石孔之精水三十六斛，白石英精白无有厉缕者五枚，光好，于磨石上砺护，使正圆，如雀卵之小，小者好莹，治令如珠状，勿令有砺石之余迹，先清斋一百六十日，令斋日讫于九月九日。先筑土起基高二尺，作灶屋，屋成，

作好灶，以灶口向西，屋亦用西户，当得新大铁釜安灶上，是九月九日申酉时，向灶口跪，东向，内五石子于釜中。于是乃先投一枚于釜中，祝曰：

青帝公石，三素元君，太一司命，玄母理魂，固骨镇肝，守养肝神，肝上生华，使肝永全。

次又投一枚于釜中，祝曰：

白帝公石，太一所憩，元父理精，玄母镇肺。守养肺神，使无朽废，肺上生华，千万亿岁。

次又投一枚于釜中，祝曰：

赤帝公石，帝君同音，玄母理神，桃康镇心，守养心神，无灰无沉，心上生华，华茂玉林。

次又投一枚于釜中，祝曰：

黑帝公石，太一同算，玄母元父，理液混变。守养肾神，使无坏乱，肾上生华，常得上愿。

次又投一枚于釜中，祝曰：

黄帝公石，老君同威，太一帝君，理魂镇脾。守养脾神，使无崩颓，脾上生华，白日上升。

投石时，各闭气五息，然后乃投石。都毕，起向灶五再拜。又取薤白五斤好者，覆于五石之上。毕，内蜜灌薤上。毕，内腴一斛五斗灌蜜上。毕，乃格度腴入釜深浅高下处所也。然后稍入清水，使不满釜少许止，木盖游覆釜上。

九月十日平旦发火，当以直理之木煨燥好薪，不用蠹虫及木皮之不净。薪火煮之，才令槛劣沸而已，勿使涌溢大沸。当屡发视其下火，当先视腴格处所。若煮水煎竭，辄当益水，所尽三十六斛水而止。又水尽之后，更加煎，令减先腴二寸格畴量，以意斟酌视之。都毕，成也。寒之于釜中，去下火灰，密盖其釜上。

五日，乃徐取五石。平旦向五方各拜。拜毕，跪以此腴杂以东流水，以次服之。余水及腴，取令送石子入口下喉中，耳闻之时，亦如初投石于釜中时，一一按祝而服之也。毕，又五拜，再毕。若药煎既成，而视无复石者，非有他也，直由五精伏散化形，故自流逐于云腴之中，无所疑也。但当日服五合，以酒饮送。神变反质，各自镇养五脏之内，更生成五石也。慎不可猛火，火猛石精飞去，滓浊坏烂，云腴熬臭，不可服御。

又云腴之味，香甘异美，强骨补精，镇生五脏，守元凝液，长魂魄，真上药也。以好器盛之，密盖其上。即日服二合为始，日以为常。若腴蜜煎强者，亦可先出，服石后，加腴更和腴煎取，令凝如割肪也。人亦有丸服之者，日三十丸，大都丸不如腴服佳也。趣后，任人所便，则安于体，体便则无不佳。常能服此腴者，石乃住。

若先腴尽，当更合如前。用白石英五两镇釜底，二两辄一投，祝说如法，但不复砺石圆，而重服之耳。药成，出此石，沉东流水中，不常煖竭之渊。若不欲更合此腴者，亦无损于前五石。

此腴名玄水玉液，一名飞龙云腴，一名炼五石之华膏。服之十五年，内外洞彻，长生天地，役使鬼神。三年之后，眼可夜视。

真人云：此方愈于炼八石之饵，全胜于玄水云母之玉浆。既服此五石，五石入喉，径宝镇五脏。一脏中辄有一石，以守脏孔，脏孔之上，皆生五色华也。

### 太阴炼形

《真诰》曰：若人之死暂适太阴，权过三官者，肉既灰烂，血沉脉散，而犹五脏自生，白骨如玉，七魄荣卫，三魂守宅，三元护息，大神内闭。或三十年二十年，随意所出。当生之时，即便收血育肉，生津成液，质本胎成，易形濯貌，乃胜于未死之容也。真人炼形于太阴，易貌于三官者，此之谓也。太微天帝咏曰：太阴炼身形，胜服九转丹。形容端且严，面色合灵云。而能登太极，金阙为真人。又云：赵成子死后五六年，樵人入华山中见之。盖得炼形于太阴之道矣。

### 水火荡炼尸形

《本行经》云：北方洞阴朔单郁绝五灵玄老君者，本姓浩，字敷明，盖玄黄之胤，太清之胄。先于元福弃贤世界始青天中。年至十二，性好幽寂，心玩山水，远于家中，或去十日，时复一还。时天下大荒，人民饿死，一国殆尽。敷明于地镜山下遇一顷巨胜，身自采取，饷惠穷乏，日得数过，救度垂死数千余口。随取随生，三年不讫。他人往觅，即莫知其处。是时辛苦，形体羸弱，不暇营身，救于百姓，遂致疲顿，死于山下。九天书其功德，金格记其玉名，度其魂神于朱陵之宫。帝遣金翅大鸟，常敷两翼，以覆其尸，七百年中，形体不灰。至水劫改运，

洪灾滔天，水捧其尸，漂于无涯，水过之后，敷明尸落贝胄耶渠初默天郁单之国，北垄玄丘。四十年中，又经山火，火行燔烧尸形。尸于火中受炼而起，化生成人，五色之云，覆盖其上。火尚猛盛，敷明嗽唾，成洪雨大水，以灭火势。敷明虽已得道，輶轲备经水火艰辛，亦为理尽。至开明元年，于北垄玄丘改姓黑节，讳灵会。元始乃锡灵会洞阴朔单郁绝五灵玄老君号。

### 阴阳六甲炼形质法

正一真人曰：炼质者何？其状有三。夫修长生之道，皆须明晓生气，接续衰厄。每甲子六十日为一甲，人间有六十甲，为阴甲；天上有六十甲，为阳甲。每十日一甲尽，半夜天上降阳甲十日，续阴甲。阴阳不孤，生气相续，即人无病。若十日一甲尽，半夜阳甲不降，即人病生，为邪所入。《六壬经》曰：甲己之日半夜生甲子，六十日皆尽，周而复始，六十年为一大期旬。修行正一，朝请生气，无邪所乱。至六十年即更延请六十年，至一百二十年稍异于前。缘真气积实，气与神合，所为克获。从一百二十年更延至三甲子一百八十年，直至五六三百年，阴阳三万六千，神气集不散，得为尸解。昼死而暮生，肉身周行五岳、七十四方，一一受事讫，即得白日腾翥，飞行无待，皆正一之道。或有效修正一，功满成就，洗涤玄祖，黑簿除名，露影阳炼，虽功成道著，先未知道之时，积罪殃结，毁破肌肤，损伤骨脉。成就之后得蝉蜕，留皮换骨，隐迹岩穴，养骨髓，滋皮肉，千日方朝，五岳受事，与前等同功也。或有积褻幽结，代不流善，百邪必集。饮啖贪淫，损伤五脏，暮方

晓知。劝修正人，虽成就名入仙民之籍，然质殒尸重，道期将至，质不能佳，即太阴君降体中，五脏六腑三百六十阴神侍卫，暗消肌肉，露骨留五脏，百神守卫。或经一年、二年，或十年，随先福深浅，方降太医博士，再肥骨肉，徐徐如旧，反生再起，体如玉人。或世事岩穴，隐养形质，经千日方游太阴水帝，受事讫，得为水府掾吏，居四海名山，为封柱官。积功成就，迁效五岳官吏，即渐徐见真仙之道（王真人曰：“此三状炼法，并在下卷，更不繁述尔。”）。

### 修九真中道

《上清九真中经内诀》云：夫人修身中九真之道，身未升登，翳景示俗，暂入太阴，身经三官，三官不得摄也。则九真召魂，太一守骸，三元护气，太上摄魂。骨肉不朽，五脏不隕。能死能生，能阴能阳。出虚入无，天地俱生。是道士精静营形，感致九真之气应也。三元飞精以盈虚，太一抱尸而反质，微乎，深哉！九真名字多，此不具录之，略钞出在道例第九《名数品》中。又常存九真神，常所居育，乃在此房，紫明之北。观生续精，防守玄谷。出入命室，遨游洞阙。时入中宫，上通太无。太一守魂，寢息幽庭。

### 化形濯景

《真诰》第七云：受学化形，浊景易气，十二年气摄神魂，十五年神束藏魄，三十年棺中骨还附神气，四十年平复如生人，还游人间，五十年位补仙官，六十年得居广寒之台，百年得入昆瀛之宫。

### 地下主者

《太微金简玉字经》云：尸解地下主者，按《四极真科》一百四十年乃得补真官，于是始得飞华盖，驾群龙，登太极，游九宫也。

夫至忠至孝之人，既终皆受书为地下主者。一百四十年乃得受下仙之教，授以大道。从此渐进，得补仙官。又一百四十年，听一试进也。至孝者，能感激于鬼神，使百鸟山兽驯其坟埏也。至忠者，能公抱直心，精贯白日，或剖藏杀身，以激其君者也。比干今在戎山，李善今在少室，有此得变炼者甚多，略举二人为标耳。

夫有上圣之德，既终皆受三官书，为地下主者。一千年乃转补三官之五帝，或为东西南北明公，以治鬼神。复一千四百年乃得游行太清，为九宫之中仙也。

夫有萧邈之才，有绝众之望，养其浩然，不营荣贵者，既终受三官书，为善爽之鬼。四百年乃得为地下主者。从此以进，以三百年为一阶。

夫有至廉至贞之才者，既终受书为三官清爽之鬼，二百八十年乃得为地下主者。从此以渐，进补仙官，以二百八十年为一阶也。

先世有功在三官，流远后嗣。或易世炼化，改氏更生者，此七世阴德，根叶相及也。既终当遗脚一骨，以归三官，余骨随身而迁也。男留左骨，女留右骨，皆受书为地下主者。二百八十年乃得进受地仙之道矣。临终之日，视其形如生人，尸不强直，足指不青，手皮不皱者，谓之先有德行，自然得尸解者也。

右此五条，皆积行获仙，不学而得，但阶级之难，造道用年岁耳。要自得度名方诸，不复承受于三官之号令矣。

诸有英雄之才，弥罗四海，诛暴整乱，拓平九州，建号帝王，臣妾四海者，既终受书为三官四辅，或为五帝上相，或为四明公宾友，以助治百鬼，综理死生。此等自奉属于三官，永无进仙之冀。坐杀伐，积恶，害生尤多故也。秦始皇今为北帝上相，刘季今为南明公宾友。有其人甚多，略示于标的耳。齐桓公今为三官都禁郎，主死生之简录。晋文公今为水官司命。其楚严公、赵简子之徒数百人，今犹息于三官之府，未见任也。此等名位，自是三官之宾耳，无豫真仙家事矣。

### 宁先生

《十真记》曰：宁先生者，古之神仙，在黄帝之前，常游四海之外。昆丘之下，有兰沙之地，去中都万里。其沙随步随没，不知浅深，非得道之士，莫能涉之。沙如细尘，风吹成雾，泛泛而起。有石蓝之花，轻而坚劲，一枝千花，千年一开，随风靡靡，名曰青蓝花，灼烁可玩。又有鱼鳖龙蛇，飞于尘雾中。先生因玩蓝花，常游其地。又食飞鱼而死，卧沙百余年，蹶然



而起，形容复故。乃作《游海诗》曰：青蓝灼灼千载舒，百龄暂死食飞鱼。

### 灵寿光

《神仙传》第十云：灵寿光者，扶风人也。年七十余，乃得未英丸方，合而服之，年如二十许。建安元年，已年二百二十岁，后死于江陵胡罔家。殓埋百余日，人见之在小黄，寄书与罔，罔得书，掘视之，棺中空无所有，钉亦不脱，唯故履存焉。

### 赵成子

南岳夫人告曰：吾昔有入室弟子仙人赵成子者，初受吾《镇生五脏上经》，乃案为之。成子后欲还入太阴，求改貌化形，故自死亡于幽州上谷玄丘中石室之下。死后五六年，有山行者见白骨在室中，露骸冥室。又见腹中五脏自生，不烂如故，五色之华，莹然于内。彼山行人叹曰：昔闻五脏可养，以至不朽，白骨中生花者，睹其人矣。此子将有道不修行乎？将中道被试不过乎？因手披之，见五脏中各有一白石子镇，生五色华，如容状在焉。彼人曰：“使汝五脏所以不朽，必以五石生华故也。子已失道，可以相与。因取而吞之，去。复四五年，而成子之尸当生，彼人先服石子，以成子当生之旦，而五石皆从口中飞

出，如蝉状，隐隐雷声，五色洞明，径还死尸之藏。因此成子改形而起，如一宿醉睡之间。其人心惧忽，因病日甚，乃至入山寻视死尸所在。到石室前，方见成子偃据洞啸，面有玉光，而问之曰：子何人哉？忽见有五老仙公，披锦带符。手秉羽节，头建紫冠，言于成子曰：昔盗吞先生五脏宝石者，此人是也。言毕，彼人面上即生恶癩，噤而失言。比归达家，癩疮已匝，一门大小，同时俱死，族亦遂灭矣。

### 许玉斧

《真诰》第十，许长史第三男，名岁，字道翔，小名玉斧。幼有珪璋标挺，清秀莹洁，糠粃尘务。居雷平山下，修业精勤。常愿早游洞室，不欲久停人世，遂诣北洞。以梁太和五年，于茅山旧宅，年三十而告终。即居方隅山洞方源馆中，常去来四平方台，后为上清仙公。

### 张鲁

《真诰》云：张镇南在北洞北石坛上，烧香礼拜，因伏而不起，遂乃夜解。明旦视形如生。此坛今犹存历然也。

### 许道育（女真）

许黄民女道育，宋孝建元年甲午岁于埭山亡，世谓之许大娘。卧尸石上，尸坏不殓，常有香气也。亦出《道学传》第二卷。

### 范豺

范豺，字子恭，巴西阆中人也。宋元嘉中，有名香数十斛，细捣煮以作汤，朝用汤自浴，正中汤尽，不复闻声。侍者入，看见豺还著故时布衣，披帽坐而无复气。江夏王令殓殓，而不下棺盖，四日尸不臭，送还，葬于新亭。豺亡时年四十九，肤貌颜色犹如初。刘凝之为豺作传，书置道书部，不传于世。

### 乔顺

乔顺，字仲产，扶风茂陵人也。少好黄老，隐山修道。年七十不肯娶妻，绝交接之道，心不染可欲之地。一旦归家，自言死日，其时果死。世人以为知命，既葬之。后有见顺于敦煌者，前世传之，皆以为升仙。故《诀录》曰：仲产知道，遁化

云笈七签

· 1196 ·

神仙，七十不娶，毕命幽山。

## 卷八十七 诸真要略部

太清神仙众经要略

武当山隐士南阳翟炜撰

抱朴子初受业于从祖玄，其览悟超至，包络身神，以为奇伟所达也。精旷之流，金亦归属，乃分居浙阳之山。既而患门人学者有征众之惑，复追玄于宜都，问曰：夫晷以度征，人以貌兆。若巫咸之《星经》，度无遗算，季咸之神占，貌无失揣。列子之三顾，而季咸陋其术；滔天之襄陵，而巫咸空其籍。谓圣人天道，不可得而测之欤？谓二咸之虚诡而妄经术欤？天道圣人，故以远矣！今之即事，人有求度于洪者众矣。始进之貌，俛视谨，精沉肃弥，笃若志至而不可加者。及服道暂年，学宗未淹，而毁随已兴，沮徒愆结，蕞尔隐居，二三之众，貌非一子之类，然而不可得而详。又何况子长驱世利，驰竞生荣，阴机密巧，广群术众，以感其君，而可辨哉！此洪所乱也。乱所实洪，圣人其无病诸乎？

玄曰：巫咸之准玄度，季咸之辨血机，并得之于数分，亦圣习之一途，未可以侮而欺也。夫人精神之蒸生，非气无以兆其形；气之结形，非性无以成其体。故形长而烦性滋深，年茂而浊欲愈甚也。是以圣人之垂道，清静以洁精神，除烦以混元一。故能囊括玄和，照明无障。而习洁有诣否，除烦有深浅，

致使神裕有远近，叡能有彼此。陵阳所以善啜霞于朝阳，而不能袭冯夷于涛驾者也。夫学穷尽于数分者，未必通于心明；通于心明者，未必陶于气表；陶于气表者，未必至于虚寂之真表也。而责巫氏之暗洪灾，季占之迷灵貌，谓圣人之乱，处物不其固矣！夫天地以元气而著成，圣人以性炼而陶真。元气有浑烦，浑烦在剖判之前。剖判然后有象列，象列然后有晷度，晷度在数见之内，洪灾生于浑烦之运，故洪灾不可以数见审也。性炼有苞玄，苞玄在蒸生之外，蒸生然后有形色，形色然后有血机，血机在观揣之内，灵貌生于苞玄之运，故灵貌不可以观揣得也。是以至人不责鉴于备途，知其神分之有巨细，学炼之有高卑也。

昔者，吾尝学于陶先生，与邯郸太子王休长、延闾子甘元淑、弘农张伯英、青牛子封君达、河南卜文先、陈留成仲式等，俱受《五气端玄经》。数子并以学达升玄，而吾以滞味浊质，弗通味旨，然所志略犹可得而言。

夫人禀生之有真伪，神分之有巨细，皆五气之所流也。是以至人莫不精乎五气之学，以鉴神分之源；师导者莫不明乎五气之本，以弘真玄之教；王者莫不通乎五气之性，以阐天地之和。贯于五气之用，大矣哉！

夫五气者，阴阳之中五常之气也。夫人生天地之间，其形骸五脏之气，一象天地五行四时之赋也。天以五行为五常，人以五行为五脏。

天以木府仁，其温为春，以主生生之常，温精上结为岁星，以照开筮之表；人以木为肝，其识为慈，以为温恭喜悦之脏，其脏精上形为口，以任启泄之司，象天之有春德，以生其吐舒发叙之意也。

天以火府礼，其炎为夏，以主茂盛之常，明灵上临为日，

以宣曜明之道。炎精上结为荧惑之星，以表察司之禁；人以火为心，其识为哲，以为鉴达之脏，其脏精上形为目，以任光视之司，象天之有夏有日，以生其明胜长大之意也。

天以土府信，其厚为地，主王季夏，统维四方，以主产施安给之常，厚精上给为镇星，以照公靖之表；人以土为脾，其识为公正之脏，其脏精上形为舌，以任审味弘当之司，象天之有土德，以生其受宜辩重之意。

天以金府义，其凉为秋，以主威裁万物之常，凉精上结为太白之星，以照断肃杀之表；人以金为肺，其识为气威之脏，其脏精上形为鼻，以任猛决臭馨之司，象天之有秋德，以生其威亮敷简之意。

天以水府智，其寒为冬，以主保实澄严之常，义灵上临为月，以宣晦皇赞玄之道，寒精上结为辰星，以表法慎之禁；人以水为肾，其识为领，以为禽兽沉惊之脏，其脏精上形为耳，以主听采闻鉴之司，象天之有冬有月，以生其谦承纳之意。

人之有五脏，温凉寒燥，犹天之有四时也，人之有耳目，犹天之有日月也。人之有精神，犹天之有太帝也。精神居乎心脾之中，肺肝之间，犹太帝处四守之内也。精神以胆为御坐，犹太帝之居紫微宫也；以心为御庭，犹太帝以太微为御庭也；以脾为内室，犹太帝以轩辕为内舍也；以肝为咸池，以肺为天河，以肾为司阍，犹太帝之有四守也。紫微执计而先左，故精神据胆而守肝，是以人生莫不以温恭慈喜为先治也。精神以气为乘舆，以行为五识，犹太帝以运为术，行以周乎天也。

夫气之在人，亮清而为严。气激浊而为喏，声摇延而为音。喏放舒而为呼，音平辩而为言，呼怒鼓而为詈。言深为语，语深为谈，谈深为论，论深为议，议深为骂，骂深为詈，詈深为谤，谤深为诽，诽深为讟。

气整冲至，精神笃之，为志；气循准常，精神守之，为性；气会机指，精神适之，为情；气密隐模，精神运之，为意；气合里遇，精神澄之，为怀；气因事结，精神系之，为忧；气美偶触，精神降之，为勇；气耸驰御，精神崇之，为愿；气仁垂注，精神钟之，为念。念深为矜，矜深为愍，愍深为慈，慈深为悲，悲深为啼，啼深为号，皆肝府之气起也。

夫肝者，精神首运之路也。故婴儿之生，坠藉而先啼，肝气激也。未知偶识于人，寤寐怡然而独笑，肝气浮也。未知有摇于人，扼支躁然而独摇，肝气烦也。多恐惊而无当捍之威，善直一而无繁顽之欲，皆精神未及周御于肺、脾、心、肾、四脏之气也。

夫魂魄者，精神所首，左枕为魂，精神所体，右据为魄。故肝藏魂，魂动为恐；肺藏魄，魄动为惧。魂震为惊，魄震为怖。故婴儿之所以多恐惊者，精神之所在肝也。及其长有怯勇者，胆虚为怯，胆实为勇。胆附乎肝，生而怯；胆附乎肺，生而勇。刚捍而生，胆附乎肺；柔泽而生，胆附乎肝。人怯，积习御捍，变而成勇者，胆气渐而增也。人怯，醉酒恚乱，奋而成勇者，胆气胀而满也。醉而喜怒，悲呼交错，不至其常者，五脏之气浮而乱也。

精神御气于肝，气清而为温恭慈仁深念之远。其体恭而安，其视治而正。气浮而为喜适感会之悦，气烦而为戏欢笑剧之极，气激而为啼号哀泣之至。由是有乐极则悲，悲极则乐，亦复为忧恐怵惕愧惭之时，皆肝府之气激动之中，因事周环惧忧之所生也。

精神御气于脾，气清而为公正弘畅吟咏闲远之思。其貌则和而舒，其视则平而亮。气浮而为轻委，于物不虑之误，气烦而为宽慢，骄纵豪诞忽忘之失，气激而为矜扰怨恚嫌恨忿怒距



塞之违。

精神御气于心，气清而为鉴达周物之敏，其容是有决速之精。气浮而为虚华、矜妄、轻谈、齟齬、诋诃是非之论，气烦而为耽爱、美著、奢华、矜诞、克好胜人之傲。其视则高而眇，其与人对则以貌忽人，有萧然无偶之状。举动不自胜守，气激而为脱轻飏躁之烈。

精神御气于肺，气清而为貌威色尊不可狎之颜。气浮而为轻冶貌列高深失准，有不常之色，气烦而为凌侮莫顾之畜，气激而为勃怒振勇惊急之害。

精神御气于肾，气清而为谦俭约谨之节。气浮而为妄欲讳匿悔恼之弊，气烦而为贪吝嗜欲聚敛无厌之鄙，气激而为冲忌阴邪谋逆之毒。

夫人之生气，未尝不烦。烦者，气积之大恒也。遇静则清气有生，遇动则浮气益起，遇发则烦气益盛，遇触则激气益迅。气有流谢，故气烦则怠，怠必弊，弊而多过者触，触而激，激必竭，竭则衰，衰则精神散矣！散则绝，绝则形体朽矣！竭遇骄极，风厉入之，则暴卒而僵。衰极气尽，则老毙而终。此人生之所以死也。

温恭慈喜之变，变而为谄，柔而为曲，恭而为媚。其俯仰之谨色，色则虚而俯措，俯措则婉而卑，其容貌有不安之候。公正之变，变而自专无惮，翹陆肆固之骄，其措则好讦人之行，以为已正之验也。貌威之变，变而为侮，忽凌诞之慢，自嫉矜害，其道掩善，其目则崛而冗，其色则颜而懔，其与言则不称，忧人之徵也。鉴达之变，变而为巧佞机诡谗毁之奸，其言则易而若真，其宣则浮而振亮，其目睛候，膝则摇易而窃速，有不治守之动，其操则不能久居重定也。谦俭之变，变而为密毒阴违之武，亦为残虐替逆之奸。其视则下而郁，其直则巧而

严，其意则旷而戾，其与居则有愤噫遽奋之效也。是五变之俗，皆化利之所由也。是以圣人之和天地达民，有五气之变，故不以意利而化之也。

夫上好逸豫，爱民有由恭阿顺之巧。厚之以利，则民竞谄柔色顺之媚以求之。故邪伪化惑之俗兴，而木行笃直之气失矣！失积则咎气有余缩之差。世犯岁星之忌，殃灾则有温毒之疫，民负司命之禁，殃则有项痛、烦殒、夺寿促命之死。咎气流注蒸产，而相生为谄谀遗衅之炆。

上好宽委，爱民有径执偏专之守。厚之以利，则民竞肆固矜夸之见以求之。故狠轶忿戾化乱之俗兴，而土行公利之气失矣。失积则地有舒泄、秽结、乱积、风雷反震动之故，世犯镇星之忌，灾则有悸气蒸毒之疫，民负司危之禁。咎气流注蒸产，而相生为骄逸恣情遗衅之炆。

上好烦品，爱民有降若风迈之貌。厚之以利，则民竞魁岸豪杰争第妄进之奸以求之。故相凌践蔑忽祸化流亡之俗兴，而金行信质之气失矣。失积则时有雪霜愆节之侵，世犯太白之忌，灾则有气痛之疫，民负司契之禁，殃则有疴竭气断及兵凶、震杀、夺寿促命之死。咎气流注蒸产，而相生为侮慢，相仇遗衅之炆。

上好慧敏，爱民有文辨彩艳之巧。厚之以利，则民竞机饰浮诡流尚之伪以求之。故佞为俺听化暗之俗兴，而火行哲明之气失矣。失积则日有病无光，勃蚀之促，世犯荧惑之忌，灾则有暑毒之疫，民负司顺之禁，殃则有鬼魅、忤痛、心闷、殒绝、慌恼及狂逆、妄图不道之觊，夺寿促命之死。咎气流注蒸产，而相生为奢华侵害、窥觊遗衅之炆。

上好严厉，爱民有敢断克决之巧。厚之以利，则民竞怀毒逞其害烈之能以求之。故空患阴图祸背化逆之俗兴，而水行义

守之气失矣。失积则月有魇亏魄伤，迟速不常之度，世犯辰星之忌，灾则有阴毒之疫，民负司录之禁，殃则有残痼、滞瘠、暴僵及盗贼、狱戮夺寿迫促残命之死。咎气流注蒸产，而相生为凶淫禁虐遗衅之炁。化失五常之气，世运五常之灾，民沈五促之炁，皆荣辱争夺耻怨仇侮嫉 自之所生也。

夫民之生性莫非气烦，气烦则嗜欲生焉。原夫嗜欲之本，势不逾乎口实五味，体充衣暖，男女偶适之间而已矣。五德之后，无故以珍食华服，重嫔嬙之选，利害炫耀，长而茂之，为无厌之盛也。于是乎利害生荣辱，荣辱生喜怒，喜怒生是非，是非生赏罚。赏罚者，化末之季秽者也；听讼者，天下之祸，弊者也。赏罚、听讼，非所以断嗜欲之茂也。古先之为者，盖自尊其势而为之者也。

夫嗜欲之茂，好利而恶害，喜荣而忿辱。夫其常性为五炁之源，岂有厌乎极已哉！故其向荣也，靡知足其喜；故其触辱也，莫知己其忿。当其所争也，奋剑振锐，冒严陷凶，不违矢刃之屠，不顾性命之没，父子兄弟不暇相格。故胡可以介介乎。是非绳墨而欲以裁之哉？胡可以未来乎，赏罚之准令而能以遏之哉？乱民五清之气，成民五炁之殃，皆由王者使五炁之士，治五炁之民，不自知已有五炁之固。其知拯民有五炁之难乎？祇相激戾而生其衅怨，此不达之咎也。故虽昧旦不忘，徒苦心而无成；星言夙驾，徒劳役而无济。夫道德之运世也，不眩民以烦利，则民无所驰其奸求；不促民以烦辱，则民无所忿其耻怨。奸求、耻怨弗行，则嗜欲自简，嗜欲自简则民俗定一，民俗定一，则太平淳朴，雍和淑豫之深至矣。太平之民，不自知在太平之世，所以雍和淑豫然也。恶识夫荣辱争夺、耻怨仇侮，嫉 自之措哉！

若夫昆 虚之南，而西北东北诸域之俗不传，此东南赤县

之名教遗策而其民弗知，有甲兵攻伐之乱，而其世弗知，有相暴杀逆之祸，精保性常，而大仙大贤慈净之神出焉。由兹言之，何琐琐乎庸尔准令，故事之有乎！夫炁土之执政也，势傍典刑，隆崇矜据，明其权柄，识其寒暑，欲以擅秉而恣违忤，富贵而制苍生，弗觉夫鄙哉！流末参差，人情转易，已滑其在始立意之顽，而成其固弊仇众溃逆之败也。积代相习，岂悟之哉！是以炁土不可以任之者也。为其将则祸大矣！任之道学，清静之众，则道学丧矣！任之王者，朝廷之列，则王者亡矣！睹其血机，观其举候，岂离乎五变之气乎？圣人之粗教耳！易可以审，何乱之有哉？惜乎而固，奚其甚哉！是以至人之所以潜栖山谷者，岂好为遁世之名乎？盖不欲以五炁之俗，滑其五清之气也！五炁之俗，莫不以声势相倾而乱其清气者也。触其契色，逆其声音，欲无忿憾溃中之气者，难矣！事有蹇违，以己求人，欲无卑侧媚悦之巧者，希矣！遇有势居，人求于己，欲无骄凌豪御之张者，鲜矣！此三者，皆五炁殃气，有生之常也。与之糅俗，望无乱清气，其可得乎？是以道士不可得与其杂处而狎之者也。

《九灵上宝经》云：夫五情者，阴阳五府之神气形于人者也。故学仙者，必隐靖山林，洁修五清，欲清静而精至，以会真玄神应。是以温恭慈悦之气，藏于肝，木府之所赋也，司命所守也。其治肝洁，常以正月十日斋，治少阳，令人肝气生；至二月八日，定少阳，应春风；至三月六日，治阳明，定春风；至于四月四日，于甘泉东流水之北岸，东面向朝阳之地，晨早沐浴兰汤，使身意清静，香火向日，礼祈无上正真大道太真太宝内内及左太禁上师之神、上宫左诸司，顿首稽首三百数，然后靖跪，以手捧心，至诚定息，静念木府之真灵，徇无他思。其禁不得有求于世利，妄为不柔之温，妄为不诚之恭，妄为不

实之慈，妄为不衷之悦。其修洁摄息有定，则肝气真而无虚，春温不睦之眚，不能得侵其实气。体节休和，干力强利，首无暴痛之疾。司命之神奉之，青龙护之，青气绕之，青液调之，东岳之精随之，山谷之神卫之。若独处林岭，则百兽依仁，有自驯之验；狼虎归慈，有息猛之征。其修洁有积，则青帝之芝及黑玉之芝，见于所行止之前，得而服之升仙，三千岁而息羸。其洁深大至著，极于木府，则神弟视昆仑之东，少阳之域，慈净之仙。其神变能为洪海之溢，涸能为天地之倒，易能为琼宫玉宇，满乎天地之见。木府，少阳之神性也。

哲明敏见之气，藏于心，火府之所赋也。司慎之所守也。其治心洁，则常以四月四日斋，定阳明，受夏气；至五月一日应阳调气；至于六月二十七日，常以日中沐浴兰汤，使身意清净，香火南面向日，礼祈无上正真大道太真太宝内内及太阳太觉之神、上宫都司，顿首稽首三百数，然后靖跪捧心，至诚定息，静念火府之真灵，阒无他思。其禁不得有规于世利，妄为不道之哲，妄为不顺之明，妄为不真之敏，妄为不正之见。其修洁摄息有定，则心气真而无烦，夏暑不睦之眚，不能得侵其实气，其意明澄朗慧，用道微妙，鉴彻真性，目无味睡之疾。司慎之神奉之，赤龙护之，赤气绕之，赤液调之，南岳之精随之，山谷之神卫之，则鸿鹤鸾凤之鸟应而归之。其修洁有积，则赤帝之芝及青玉之芝见于所行止之前，得而服之升仙，九千岁而息羸。其法深大至著，极于火府，则神弟视昆仑之南太阳之域，太觉之仙其神变能为项佩日曜，能为光照四海，而震摇诸域，能为飞腾，所诣无碍之至。火府，太阳之神性也。

公正弘重之气藏于脾，土府之所赋也。尸蜃之所守也。其治脾洁，则常以六月二十七日斋，定太阳，受秋气；至于七月二十七日 夫时沐浴兰汤，使身意清净，香火向日，礼祈无上

正真大道太真太宝内内及上宫太均之神、宫内诸司，顿首稽首三百数，然后靖跪捧心，至诚定息，静念土府之真灵，珣无他思。其禁不得交扰于世事，妄为求名不体之公，妄为矫图不淳之正，妄为纵堕昏忘之弘，妄为专固不泰之重。其修洁摄息有定，则脾气真而无怠，衷豫安静，而无愤荡塞闷、体沉不收、肿疽之病，季暑不睦之眚，不能侵其实气。志意益冲，而无厌免之痼，舌味药物，而无不进之滋。蜃尸之神奉之，黄龙护之，黄气绕之，黄液调之，中岳之精随之，四方群臣卫之，万鬼归之，其修洁有积，则黄帝之芝及赤玉之芝见于所行止之前，得而服之升仙，二万岁而息羸。其洁深大至著，极于土府，则神弟视昆仑之顶，太和之仙。其神贵常寂，不贵变动之见。土府，大均之神性也。”

尊严威仪之气藏于肺，金府之所赋也。司契之所守也。其治肺洁，常以七月二十七日斋，治人利气；至八月三日，定少阴，令人受生气；至九月二十七日，治厥阴，令人受刚气。常以日晡沐浴兰汤，使身意清静，香火向日，礼祈无上正真大道太真太宝内内及右太禁收土之神，宫右诸司，顿首稽首三百数，然后靖跪捧心，至诚定息，静念金府之真灵，珣无他思。其禁不得有御于世趣，妄为骄逸抗戾之尊，妄为怀害之严，妄为侮忽之威，妄为淫饰之仪。其修洁摄息有定，则肺气真而无倦，秋冷不睦之眚，不能得侵其实气，则喘引和亮，胸中无竭寒断气之毒。司契之神奉之，白龙护之，白气绕之，白液调之，西岳之精随之，山泽之神卫之，津梁之精侍之，虎狼依之，为之驱用。修洁有积，则白帝之芝及黄玉之芝见所行止之前，得而服之升仙，七千岁而息羸。其洁深大至著，极于金府，则神弟视昆仑之西少成之域，成道之仙。其神变能为偃月之照，能为行水而足不濡，行地若水而地不坚，能为身上身下漂出水火之

变。金府，少阴成道之神性也（城阳郗孟节疏注：尊严威仪之义曰：“不狎褻黷为尊，色正俨然为严，神肃澄↑谷为威，举动徐详为仪”）。

谦俭妙密之气藏于肾，水府之所赋也。司录之所守也。其治肾洁，则常以十月十八日斋，治厥阴，受冬气；至十一月十五日，治太阴，定五脏气；至十二月十三日，通太阳，受肾气；至于正月十日，皆以夜半沐浴兰汤，使身意清净，北面向阴，香火礼祈无上正真大道太真太宝内内及沆澄（当作濯字）。太阴之神、宫后诸司，顿首稽首三百数，然后靖跪捧心，至诚定息，静念水府之真灵，珣无他思。其禁不得有驰于世务，妄为倾邪之谦，妄为失其常守及贪欲无厌之俭，妄为倾毒阴匿谓人不觉之妙，妄为潜谋奸私之密。其修洁摄息有定，则肾气真而无损，冬寒不睦之眚，不能得侵其实炁。则行步劲速，进退坚强，腰窍玉房及膀胱股胫无疼滞之疾。其修洁有积，则司录之神奉之，黑龙护之，黑气绕之，黑液调之，北岳之精随之，太阴之神卫之，灵葵归之，其居水滨则蛟龙鱼鳖依之。其修洁有积，则黑帝之芝及白玉之芝见所行止之前，得而服之升仙，一万岁而息羸。其洁深大至著，极于水府，则神弟视昆仑之北玄都之域。太豫玉膏之仙。其神变能为晦天之变；能为他方远膳之馈；能以大为小，以小为大，以有为无，以无为有之变。水府，沆濯之神性也。

凡学道不能精立至洁于所行，则五府之神未嘉祐之，而以服气及进服药物、药精，饵术丹石之小法，多为所败矣。设小有效，不逾五百年之力耳！其术多退溺而无成也。夫殖至洁之气于五府，其精不泯，及蒸人道，莫不于九元之清而生之者也。莫不常为仙为神为圣矣。

其斋法，沐浴清净，所以常于正月十日、二月八日、三月

六日、四月四日、五月一日、六月十七日、七月二十七日、八月三日、九月二十日、十月十八日、十一月十五日、十二月十三日者，以道气数之，此日皆天帝游东井之日也。是以行道輒当于此日，更起新意，为沐浴清静之始，倍加谨敬之笃也。

其服气法，摄五情之息，渐能有定，然后常以二月三日、九日、十八日、二十七日，若甲寅、乙巳、丁巳、甲子、丁卯王相成满日，于山林隐靖之处，近东流水醴泉向阳之地，地气阳而调也。沐浴兰汤，以丹书玉房为田字，方一寸。玉房在脐下三寸。精念玉房，令气致于丹田。去鼻中毛，正偃卧，两足相去五寸，两臂去身各五寸，合目握固，如婴儿之拳，是用蒲弱为枕，高可三寸，若胸中有病，可高五寸，若病在脐下，可去枕。既服气，不复得食生菜及生果硬物。服气时，食日减一口，十日后可不食。二三日腹中或涓涓若饥，选好肥干枣上术煎，微得食之，一日一夜不过此。不念食者，勿有进啖。其饮水，一日一夜可五升而已。其太一醴醴，亦可一日一夜五升，勿绝。口中常含枣核者，令人受气且生津液故也。如此则胸中上下气胀，肠胃致令得空虚，空虚则和气通焉。五神宗而助之，则升仙矣。《孔子家语》云：“食气者，神明而寿；食谷者，智慧而夭；不食者，不死而神；杂食者，百疾妖邪之所钟焉。”是以食愈少者，心愈开而延年益寿；食愈多者，心愈塞而年愈夺也。翟炜《释周传论》云：“悠悠九天，茫茫万寓，气之所蒸，产之所烦。品物丛生，迭相大小，扰扰营营，为利害所缠。”有生之为乎！其犹尘粉之一毫，暂浮于污池之内；有国之所域，其犹芥石之一片，孤寓于大衍之中。是以庄周称四海之于天下，犹垒空之在大泽；有国之于四海，犹一粟米之在大仓。其中一世之是非，芥石之利害焉，足以经于旷然之念哉！是以至人之所以轻天下，细万物也。岂措心于矫亢之观乎？直以世



利无以干其胸怀，荣华无以褻其顾盼，将在子靖气洁精，其贵存真而已矣！

## 卷八十八 仙籍旨诀部

道生旨 谷神子裴铏述

钟陵郡之西山，有洪崖坛焉。坛侧有栖真子杨君，知余有道，诣予请述道生之宗旨。余曰：子不听《西升经》云：人徒知天地万物，而不知生之所由。又曰：吾与天地分一气而治，自守根本，非效众人。是知修道之士，若不知生之所由，道之根本，则茫茫然罔测道之来矣！欲求长生，先修所生之本。子能晓耶？杨生曰：未悟。予告曰：欲晓则速具誓戒。

杨君再拜具词曰：某才器琐微，行能幽晦。将荤血为滋味，以艳容为欢娱。罪根既深，神彩益浊。岂三魂之宁谧？被五贼之战争。以恍惚而畅怀，极其喜乐，俄悼亡而感物，过甚悲伤。振荡命门，坏堕元气。虚羸渐逼，岂异尸居？枯槁欲来，何难骨立？盐梅销铄，寒暑煎熬。既非金石之身，须示风霜之鬓。大患拟作，微躯岂安？实为聋瞽之徒，岂觉幽玄之理？步步就死，兀兀不知。人间或有道高河上，术入壶中。霓服羽衣，一游而缩其地脉，珠幢玉节，一举而登其天门。变瓦砾于金丹，改容仪于玉液。造化由己，修行在心。鱼纵涸而重波，骨虽枯而再肉。伏以小子蝼蚁之命，纤芥之躯，昏浊无知，败亡有日。忽神凿其窍，天启其心，善达玄关，志求道要。慕真仙而汲汲，

如饥渴中肠；陋浮世之悠悠，若烟埃满眼。欲冀希夷之质，长含橐籥之间。摆去尘机，冥搜真朴。推无形于恍惚，见有物而萌芽。至此时则万象空摇，寸诚不挠，敢匍匐恳请，誓戒深词。存归太上之清坛，靖想虚皇之宝座。仙童握节，侍女焚香。既得事之证明，岂将心而犹豫？疑误冰泮，端倪釭流。荷重德而使顶丘山，感深恩而已铭肝膈。若非人妄泄，得土不传，则触景罪殃，动足受祸。指陈白日，契约丹诚，无任惊悚泣血之至。

予即告之曰：子既诚恳如是，予当语子生生所由。

人之根本者，男精女血既凝，有道自然而生，为水一点，今膀胱之水，是其余也。水中有气，郁郁然未有所著。欬然感天地纯阳真精之华，入于气而相依凭，气遂养之，是谓之神。神之甚微，虽得水气养之浇溉，惧气强而见迫。若水之浇溉，物之甲拆，又不可以浸之，浸之则其甲即死矣。仍于水中，纯阳真精之华生为二肾也。二者，以应阴阳之数，遂隔水擎捧其神与气，乃得炁与肾神之灵，是谓气为母，神为子。道干既育，万物成体。子母既长，不可同处。须放其子之造化，成其窟宅，然母亦安矣。神又须物引而离其母，乃借水之两点气，如肾之数。神以阳光守而凝之，然又虑水之盛，兼五行不足，无以成物，而假土来克其水。虑土克其水尽，又假木来克其土。虑木克其土尽，又假金来克其木，虑金克其木尽。又假火来克其金。火若克其金尽，即内以水救之。是谓转相生，转相制成物，是谓人之眼。眼者，与天地合体，五行足矣。所以眼当中黑，水也；次黄，土也；次青，木也；次白，金也；次赤，火也；其事明也。五色既成，阳神乃寄光于其上，是谓神光焉。眼之位属肝者，缘光明如日，日出东方，肝在东方而属木，故肝藏得而管之。《黄庭经》云：肝神龙烟字含明。注云：日出东方，故曰含明。神者，纯阳也，势长飞动，如天之日月而转动也。

其眼渐上升，须照烛其外，为神之枢机。而神则合居其内，而主其中。神专盼其眼，渐渐不觉已离其母。若眼者，只要引神而离其母，后居外与神相应，不可附其眼，则依前不成造化矣。

其气母虽离其子，终须养其子成长安稳，若中途而废，则彼此不能安矣。即须假木来生火，是为心焉，使心而盛其神。心之内空方寸，乃受神而居，其神曰灵也。故谓心为灵台。神是阳也，心为火焉，故神得而居其内。盖水流湿，火就燥之义。道书曰：心为神之都是也。所以心灵于诸脏者，缘神之故，非心独能灵焉！若无神之在内，则与诸脏何异？但缘心属阳之故，势多飞动，因兹便乃不得停尔！目但确然而定其神，则心亦不动矣。盖须修道习熟，不然者，大难不摇动其心耳。其次肝、肺、脾、六腑、五体、九窍、毛发之类，皆神得而造化焉！盖取眼之规则耳，即眼为五脏之苗也。如此三九二百七十日，则应阳之数极，人之体备具矣。

然神自离其母后，更不复到本来凝结之处。盖人渐被五味沉之而不清冷，神虽同用，炁虽同行，终不解却相养、却相成，但相反尔！今以子母相离本者，盖缘未有窟宅，诸体尚阙，所以事须相离而各造化。及其彼此安稳，更不相吊省，岂有子母得为顺序哉！今言心为气马，但意到则气到。今人或偶使气到诸处，则不解到根本从来相合处耳。修道之士，不可不留意焉。脾去肾近者，若眼中黑，与赤远矣，足可明之。其神虽都于心，亦寄位于精中，养其体，润其性，保其骨髓，使其坚强，人之寿考，神亦得久安于人体中矣！凡人临危险而毛发寒竖者，是神恐伤其窟宅尔。若人之暴横而死者，元气犹强而未弱，還元返本不得，或为匿鬼而凭陵于人。盖元神不病，器用不消耗使其然也。则《春秋》云：匹夫匹妇，强死魂魄，凭依于是焉。于强死中，其神或渐耗未尽，却被炁盛将去为人，则分明记得

前生事也。则鲍靓记并，羊祜识环之类，大约记得前生事者也。童子暴横而死，精气未散使其然尔。所言精者，积津气而成，若动摇而出，则神不安，为滑而决泄，减耗神之用也。精之既竭，神亦耗尽，微微然渐与初来相类。然心气既壮，水气又盛，人体坚强，五味薄铄，则气与神不相当。既而无恋，求住不得，欻然而去归空，却成旧时真精之英华，附之于天，所言泄性不灭是也。则《礼记》云：骨肉化为土，魂气归于天。元神如主，千神如臣，元神既去，千神无主，国之空耳。所以谓心为帝王。水气既无阳气管摄，亦便散也。二物既去，则人体倾去，谓死即无所知也。

举世人皆为好道修道，不知道是何物而修耶？凡人好酒，必知是曲米所作，凡人好色，必知是西施洛甫，凡人好财，必知是金珠宝货耳。且押韵从东字起首，至于“法”字数万，皆著切脚，人尽能辨认之，唯至“道”一字，则懵然不会。或云虚无自然，修心行善，竟不能知其旨也。既不知之，则向何门而修哉？殊不知：道，水也，在人身曰气也。所以云道生一，盖水藏也。一阴一阳谓之道，盖水火也。一阳既去，一阴亦散，是不成道也，人须死矣。夫天地生于道，盖浮世界耳。是谓道去则人死，水干则鱼终。所以阴气为母者，是内阴之根本，非外阴邪之气也。所说阳神者，是纯阳之精英，是元神也，非五脏诸体之神也。元神能生其三魂七魄及诸体之神尔！

《黄庭经》云：肾神玄冥字育婴。注曰：肾精为子，故曰育婴。二肾之中，男为精门，女为子宫。精门既开，肾气亦泄，不独内阳而散，内阴亦竭。所以肾为阴之都，心为阳之都。凡生化先从阴而入阳，是万物从湿而生也。盖精亦从肾中而出，其子亦从肾中而成，是不离肾脏耳。大约心之元神，俱借其体而共治之，三魂亦助成尔。但专为害者，乃七魄三尸，勾外阴

邪之气而贼身，往往神气多不敌，则人死矣。人死，则三尸七魄畅焉！夫元神，君也，尸魄之类，亦臣耳。若狡蠹之臣，乱其国而迫其君也。若修养其气，壮其神，则七魄三尸终不能胜，寿自长生耳。夫不疾暴死者，盖脉偶然蹶涩，不到一脏，其脏既弱，遂为五行递相克，至于火尽阳脉绝，则神去人自死矣。盖脉蹶涩不行而阻之，亦中有伤败使其然也。昔扁鹊治虢太子病云，所谓尸蹶也。以阳脉下坠，阴脉上争，会闭气而不达，上有绝阳之脉，下有破阴之经，绝阳之气，色气管于脉，故形浊如死状。夫阳入支兰脏，蹶者生；阴入支兰脏，蹶者死。此数事者，皆五脏之中，时时暴作者也。良工取之，拙者疑殆。信有之矣！

于戏！目营万象，心虚异端，神被牵驱，身无管摄，则室家无主，国邑倾颓，固其宜矣！主人不修舍宇而外经营，则舍宇日有危坏矣！夫人若知神之所主，子母运行，则修身了达之门可见矣！若无所主，但任呼吸喉中，主通理脏腑，消化谷气而已。终不能还阴返阳，填补血脑。又众人之呼吸，与真人之呼吸殊矣！《南华真经》云：众人之息以喉，真人之息以踵。注云：从根本中来。又云：其息深深。此其义也，岂容易哉！若但信其自呼吸，未有得道哉！夫一呼一吸不得神宰，则不全其呼吸耳。真人曰：“若神能御气，则鼻不失息。”斯言至矣！又能咽其津，以意送之至气海中，则直灌其灵根矣！

吁！今之人不会神与体彼此是非邪？人能算尽万物，而不能算其神与体，何感而相成？但记三岁之后事，而三岁已前昧无所知也。若到算归其尽处，即自见神与体元气配合之根由，则了然无二物。知神与真气同体假名，则一存一想，归其真矣！此所谓深根固蒂。

夫复气者，复于本生之处，如《周易·复卦》彖云：一阳

生五阴之下。若还丹之义，非伏与服也，其义明矣！天为受气之始，气是有形之根。气不得形，无因而立；形不得气，无因而成。二物相资，乃能混合。圣人知外用之无益，所以還元返本，握固胎息，洞明于内，调理于中，取合元和之大朴，不死之福庭。夫神和则可以照彻于五脏，气和则可以使用于四肢。道经云：三月内视，注一心，守一神，则神光化生，缠绵五脏。凡人劳神役役，无一息驻于形中，而希长生，不亦远乎！若能胎息道成，精气有主，则使男子茎中无壅精，妇人脐下不结婴。万化之用，莫先乎气。至人之用，莫妙乎神。虚无之中，有物谓之神；窈冥之中，有精谓之气。吁！其神与气，来既恍惚，去无朕兆。其来也则难，其去也甚易，是以圣人悲痛而惜之。于戏！世人何容易而驱其气也。不知形者，不可与言气；不知炁者，不可与言神。知神者，则资道矣。

《易》曰：精炁为物，游魂为变。变易不节，人不长生。所以王母有金珰玉佩之道，轩辕行内视返本之术，不可不信之。

吁！万物有终，而天地长久。人民有死，真人长生，乃俱阴阳交感之气矣。人能守其阴阳，阴阳亦能守人矣。天地不死，而人自死，化腐于其间哉！夫崩墙毁堞，土能填之；老木衰果，以枝接之；破车漏船，木能补之；折鼎穿釜，铁能固之；人遇衰老，返神活之；皆上仙成败之言，不可不知也。夫阳丹可以上升，阴丹可以轻举。阳丹即大还之丹，阴丹即是内修返本之理。黄帝问道于广成子，广成子曰：无劳尔形，无摇尔精，少思寡欲，可得长生。夫道之最要，以精为根，以炁为蒂。经云：毓养灵柯不复枯。夫含真之道，御养之术，诀之在口，不传之于笺翰也。但能寂然不动，感而遂通，泯灭万虑，久久习熟，用晦而明，必得道矣。

## 养生辨疑诀 栖真子施肩吾述

一炁无方，与时消息。万物生死，共气盛衰，处自然之间，而皆不知所以然而然。其所稟习，在覆载之下，有形者先须知其本，知其本则未无不通；修道者先须正其源，正其源则流无不应。若弃其本而外求，背其源以邪究，虽尽百家，学穷诸子，徒广虚论之功，终无摄养之效。得者观之，实为自悟耳！今历观世间，好道之流，不可胜数。虽知恬淡以自守，全不知恬淡之中有妙用矣。虽知虚无以为理，全不知虚无之中而无不为矣。若不知虚无恬淡妙用之理，徒委志于寂默之间，妄作于形神之外，是谓无益之用，非摄生之鸿渐也。且神由形住，形以神留，神苟外迁，形亦难保。抑又服饵草木金石以固其形，而不知草木金石之性，不究四时顺逆之仪，久而服之，反伤和气，远不出中年之内，疾害俱生。使夫轻薄之流，皆谓系风捕影，不可得也。翻以学者为不肖，以真隐为诡道，不亦伤哉！或人以此事而讥余曰：“吾闻学道可致长生，吾自童年至于暮齿，见学道之人，已千数矣。服气绝粒者，驱役考召者，清净无欲者，修仙炼行者，如斯之流，未有闻其不死者也。身歿幽壤之下，徒以尸解为名。推此而论之，盖得者犹灵骨耳！非可学而得之。”余闻斯论，不觉心愍然于内，神恍惚于外，沉吟之间，乃太息而应之曰：观子向来所说，实亦鄙之甚矣！迷之尤矣！今世人学凡间之事，犹有成与不成，岂况妙本玄深，昏昏默默，胡可造次而得之？且大道无亲，感之即应，苟云灵骨，无乃疏乎！然夫服气绝粒者，道家之所尚，人苟得之，皆有不



食轻举之效。便自言肠胃无滓，立致云霓，形体获轻，坐希鸾鹤。采饵者复以毛女为凭，呼吸者又引灵龟作证，曾不知真炁暗减，胎精内枯，犹执滞理于松筠，守迷端于翰墨，良可嗟矣！宁不怪乎？至于驱役考召之流，盖是道中之法事，研讨至精，穷其真诰，诚为身外之虚名，妄矣！且元和之气，非时长而有之，未有此形，天地之间，已有之矣。经曰：先天地而生。即元气矣。此身有者，父母交合，施其元气。元气者，真精矣。何以明之？精留于身则身生，精施于人则生人，移此精气，结彼元气，彼既成于形，此则受损耳。《内景经》云：长生至慎房中急。此在乎妙用之道，元气结之为精矣。身中之精，元气之本。能使气一溯精，移之上元、下元之中，又采新气，旬日还为精矣。如彼釜熟其物，则出之，更添新者，回还无穷，天地不足为久寿矣！上元充满，百节自实，老者反丁，丁者反婴。斯得上元下元，我能经络运度，宽猛是则。审修我宫，神仙必得，不修我宫，死之必克。人在气如鱼在水，沉浮东西，莫不由己。修炼经时，百节尽畅，炁若阳春，久乃自知。若有不通及疾病之处，注意中元，发火以焚之，乃自通，通则愈矣。心为绛宫，绛宫者赤色，犹火也。存心炎火，亘乎一身，非特为气道流通，抑亦销其邪也。凡欲行气之前，但焚之一度。经曰：广成子积火焚五毒。五毒，五味矣。五谷五味不焚之，必能壅遏气道。焚之或久，令人烦热。存之燄通，即须行气。行气之法，但泯思虑，任神庐微微，元气自然遍体。夫炁者，百节毛孔，皆自有之，能以意行之，是贤臣化百姓矣。何以明炁之在身？但以一丈之竹通其节，以扁一头，口向中吹之，气忽到达于筒中，自有元气相撑而出。人身中亦犹此筒，思虑既绝，元气遍身。遍身之后，兀然而定。其取定之术，具载《下元篇》中，审而行之，万不失一矣。

### 下元歌

契真之道飘遥易，动不动中如有寄。那知有无可超忽，去住玄机此其义。

此篇调下元之诀。契真之要，甚不难，人自强难。飘遥，犹闲暇矣。能闲暇其身，澄心绝想，三元俱通，仙则近矣。动不动者，玄珠矣。谓存下元之中，作一珠可弹丸许大，焰焰然如动又不动。动中寄者，注意于下丹田之中，有炁海，使炁细细于海，绕珠四合，炁入足，动中寄有其珍珠矣。中元注下元之珠，元炁乃定，定则外炁不入，内气不出，兀然与天地同和，命无涯矣。天地自倾，我长自然矣。黄帝于赤水求玄珠，赤水则赤血矣。如玄珠在于气中，求此珠，珠得必生。故使罔象，则无思无虑，冥然之后，乃自得此珠矣。欲知超忽飞升之道，切在去机。机去身存，机住身死。无机胸中纯白，自处得失之要。此其义矣。

#### 后序

冲和子云：余少学道，长乃尤益。天下名山，靡不寻览。跻危蹑险，敢惮乎劳！意有殊观，不远千里。乙未岁，步青城之燕谷，幽邃百里，松萝上蔽于天。偶遂樵人，步入石窟。窟内有真人。云姓李氏，不知何许人也。垂发过腰，姿容冰雪。余再拜之，怡怡如矣！良久，问从何而来？余因述诚素，愿处机履之傍，天幸见录。俄经四十三载，忽授《三元之术》。如诀修之，俾昼作夜。一纪之后，往往自飞。玄之又玄，难于数载。受之者可三十一年传，传非其人，灾罚可见。行此道者，

五辛陈臭并宜损之，损之在渐，不宜顿矣。一年之后，气道充实，自不食矣，其大要在乎泯机，机绝则炁不召而至，不谋而成。躬自行之，一一神效。今为注解，庶无后迷。高尚之徒，幸秘斯诀矣。

## 卷八十九 诸真语论部

### 经告

安非告曰：冲风繁激，将不能伐君之正性。绝飏勃郁，焉能回己之清淳。尔乃空冲自吟，虚心待神，营摄百绝，栖澄至真。当使忧累靡干于玄宅，哀念莫挠于绛津。

太上曰：高才英秀，惟酒是耽，麴蘖薰心，性情颠倒。破坏十善，兴隆十恶，四达既荒，六通亦塞。

天尊曰：一切众生，久习颠倒。心想杂乱，随逐诸尘，舍一取一，无暂休止。犹如猿猴，游于林泽，跳踯奔趋，不可禁止。是诸凡夫，心性亦尔。游五欲林，在六根泽，纵逸腾跃，不可拘制。

又曰：人情难制，犹如风中竖幡，飘飘不止。或思作伪，以邀名誉。

《定志经》云：人既受纳有形，形染六情。六情一染，动之弊秽。惑于所有，昧于所无。世务因缘，以此而发，招引罪垢，历世弥积。轮回于三界。漂浪而忘返；流转于五道，长沦而弗悟。婴痾抱头，不能自和。驰神惶悸，惟罪是履。

太上曰：天之道，利而不害；圣人之道，为而不争。故与时争之者昌，与人争之者亡。是以有兵甲而无陈之，以其不争。

夫不祥者，人之所不争。垢辱者，人之所不欲。能受人所不欲，则足矣。

《妙真经》曰：视过其目，明不居；听过其耳，精泄漏；爱过其心，神出去。常于欲事汲汲惧，为利动者惕惕惧，结连党友以自助者，非真也。

又曰：罪莫大于淫，祸莫大于贪，咎莫大于僭，此三者，祸之车也。小则亡身，大则残家。

道言：吉凶祸福，窃冥中来。其灾祸也，非富贵者请而可避，其荣盛也，非贫贱者欲而可得。盖修福则善应，为恶则祸来。

天尊曰：气不可极，数难可穷。死而复生，幽而复明，天地运转，如车之轮，人之不灭，如影随形，故难终也。

《妙林经》曰：夫有为生死，众生漂浪，如虚中云，如空中色，如谷中响，如水中月，如镜中象，如热中炎，如电中火，如聋中听，如盲中视，如哑中言，如二头鹤，如三足鸡，如龟中毛，如兔中角。如是无明，贪著爱见，生死之本，亦复如是。毕竟皆空，不可论说。譬如灯灭，不可寻求。生死本空，亦复如是。如大猛火，如四毒蛇，不可亲近。生死之法，亦复如是。

天尊告圣行真士曰：若复有人，于诸法中，生有见心，舍于秽土，求三清乐。舍众生身，求真道相。欲断烦恼，而入无为，求离诸见，乃得寂灭。如是等相，我说此人名大邪见。譬愚人，畏于大地，而欲走避。所至之处，不离大地。众生亦耳，畏生死身疾，舍三界有心，厌离所得之身，

不离生死。如是众生，未能见法，求真道相，深实可哀。真道相者，名为不作，无起无灭，非有非无，非常非断，非大非小，非色非心，体如此，名为修习真道正行。

又告圣行真士曰：世间众生，无明重暗，真道在身，莫能睹见。譬如愚人，东西驰走，求觅空色，而不能知，即色是空。一切世间，亦复如是。心性驰走，欲求真道，不知身心，即是真道。

又宝瑞降之，有千善则后代神真，有二千善则为圣真仙将吏，有三千善则为圣真仙曹掾，有四千善则为天下师圣真仙主统，有五千善则为圣真仙魁师，有六千善则为圣真仙卿大夫，有七千善则为圣真仙公王，有八千善则为圣真仙皇帝，有九千善则为元始五帝君，有万善则为太上玉皇帝。元君曰：万善之基，亦在三业。十善相生，至于万善。行善益算，行恶夺算，赏善罚恶，各有职司。报应之理，毫分无失。长生之本，惟善为基也。专精养神，不为物杂，谓之清。反神服气，安而不勤，谓之静。忘念以定志，修身以安神，宝气以存精。思虑兼忘，冥想内视，则身神并一。身神并一，则近真矣。

道曰：凡人遇我以祸者，我当以福往。是故福气常至，此害之气重徙还在于彼。此道者之行也。

徐来勒问曰：何谓兼忘？高玄真人曰：一切凡夫，从烟煴之际起愚痴，染著诸有，虽积功勤，不能无滞。故使备定，除其有滞。有滞虽净，犹滞于空，空有双净，故曰兼忘，是故名初入正观之相。

《盟威经》云：道无不在，在师为师，在经为经，不离中也。

《宝玄经》云：裁制偏邪，同归中正，能返流末，还至本源。源即道也。道无形状，假言象以为津。既言冲用，用实无物。

《三皇经》曰：天下无常，岂有坚固者？故急当厌远之，求索自然，以脱身耳。又曰：万物无有常，成者，皆不久完。

三光永明，天地常昭然。

《黄老玄示经》曰：道者不可以言传，欲使学者述书以相授，然可得闻也。夫善述事者，必通其言。善言词者，必通其意。其意若通，道可得也。夫天地之初，知其联也。入于虚无者，知其有实也。故云：其以成法其初，始终也。是以圣人见有书，即知其本无书也。闻其言，即知其出无言也。见书知言，闻言知意，知意即知道也，知道即知其可以书传也。故真人以神听，听可尊也，圣人以身教，教可珍也。

太上告王母曰：夫人受天地之气生，气之来也，谓之精。精之媾也，谓之灵。灵之变化之谓神。神之化也之谓魂。随魂往来之谓识。随魂出入之谓魄。生管精魄之谓心。心有所从之谓情。情有所属之谓意。意有所措之谓志。志有所忆之谓思。思而远慕之谓虑。虑而用事之谓智。智者，尽此诸见者也。夫性者，静也；气者，动也。动静如一，内外和顺，非至人安能措心于此哉。术藏于内，随务应变；法设于外，适时御民。民用其道而不知其数者，术也。悬教设令以示民者，法也。变万物而见其象，术化万民而不见其形，故天以气为灵，王以术为神。

《四等智慧观身经》云：夫道者，要在行合冥科，积善内足，然后始涉大道之境界。若自不能，皆为徒劳于风尘耳！无益生命之修短也。道在我，不由彼，惟慈，惟爱，惟善，惟忍。能行此四等，乃与道为邻耳。

《老君戒经》云：恶人者，胎于离薄之精，形于刍狗之类。魂微魄盛，尸毒满腹。人面虫心，体性狼敌。嫉妒蛆蚘，常怀阴贼。坏成作败，言则噉噉，自遇如玉，遇人如土。阳推鬼黠，不计殃咎。昔有一人，不念居业，专行偷盗，入大臣家。此人夜作狗形，既到其家，值其大建功德。吾时见此偷徒作狗

形，吾即叱之，令长作狗，使常御巨石还此大臣家，积以为山。

《盟威经》云：“淫犯内外，逼掠非偶，翻复阴阳，公私戚属，烝通奸狡，异类妖交。

《本行经》云：昔有国王元庆，放心于爱欲之门。值劫运终，寄胎于洪氏之胞。上天以其先身好色，故转为女子，遂其先好也。

《太平经》云：何谓为多言？然一言而致大凶，是为上多言人也。一言而致辱，是为中多言人也。一言而见穷，是为下多言人也。夫古今圣贤也，出文辞满天地之间，尚苦其少有不及者，故灾害不绝。后生贤圣复重言之，天下以为法，不敢厌其言也。故言而除害者，常苦其少。是以善言无多，恶言无少。故古之圣人将言也，皆思之。圣心出而成经，置为人法。愚者出言，为身灾害，还以自伤。

《真诰》曰：夫百思缠胸，寒热破神。营此官务，当此风尘，口言吉凶之会，身靡得失之门。众忧若是，万虑若此，虽有真心，固不为笃。抱道不行，握宝不用，而自然望头不白者，亦希闻也。在官无事，夷真内炼，纷错不秽，其聪明争竞不交于心胸，此道士之在官也。

《太清中经》云：慎无卖吾以求宝也，慎无传吾非其人也，慎无闭吾绝其学也。传吾学者昌，闭塞吾学者，虽独行之，必遇天殃。传吾道者，当法则天地、江河、淮海。法则天地者，何等不生？何等不成？法则江河淮海者，何水不流？何川不行？

《西升经》云：欲者，凶害之根也。气者，天地之元也。莫知其根，莫识其元，是故圣人，欲入气以辅其身。

《洞神诫身保命篇》云：黄帝曰：圣人保命之最，莫上于身心。利害身心，岂过于善恶？善恶所起，本于心。心法不住，



攀缘是用。所缘者名曰境界，能缘者名之曰心。故万品所起，莫过于心。萌于心者，名曰行业。行业所操，名曰善恶。故纵欲为恶，息贪为善。善者能为济俗出尘之益，恶者必作败德染秽之资。故圣人知无形而用者心也，形不自运者身也。然心不托于身，则不能显班借用；身不藉于民，则亡灭不起。故身心体异而理符，致用万善而趋一。故能表里为用，动静相持。身无独往，为心所使。心法不净，惟欲攀缘。身量无涯，纳行不息。故心为凡圣之根，身为苦乐之聚。圣人知患生于心，愆必由己。是以清心除患，志消愆。凡俗之流，其即不然。肆情纵欲，不知欲出于心；侮慢矜奢，不知慢生于己。情骋愚暴，不顾其身。故以祸难所阶，由之不识危亡，自此日用不知，故圣达愍愚而垂教也。

## 卷九十 七部语要部

### 连珠（凡六十五首）

神静而心和，心和而形全。神躁则心荡，心荡则形伤。将全其形，先在理神。故恬和养神，则自安于内，清虚栖心，则不诱于外也。

七窍者，精神之户牖也。志气者，五脏之使候也。耳目诱于声色，鼻口悦于芳味。肌体之于安适，其情一也，则精神驰鹜而不守。志气靡于趣舍，则五脏滔荡而不安。嗜欲连绵于外，心腑壅塞于内，曼衍于荒淫之波，留连于是非之境，而不败德伤生者，盖亦寡矣。

人之禀气，必有情性。性之所感者，情也。情之所安者，欲也。情出于性而情违性，欲由于情而欲害情。情之伤性，性之妨情，犹烟冰之与水火也。烟生于火，而烟郁火；冰生于水，而冰遏水。故烟微而火盛，冰泮而水通。性贞则情销，情炽则性灭。夫明者刳情以遣累，约欲以守贞。食足以充虚接气，衣足以盖形御寒，美丽之华，不以滑性；哀乐之感，不以乱神。处于止足之泉，立于无害之岸，此全性之道也。

海蚌未剖，则明珠不显；昆竹未断，则凤音不彰；情性未炼，则神明不发。譬诸金木，金性包水，木性藏火。故炼金则

水出，钻木而火生。人能务学，钻炼其性，则才慧发矣。

吴竿质劲，非箬羽而不美；越剑性利，非淬砺而不銛；人性怀慧，非积学而不成。人不涉学，犹心之聾盲，不知远近。祈明师以放心术，性之蔽也。

奕秋，通国之善奕也。当弈之思，有吹笙过者，乍而听之，则弈败矣。非弈道暴败，情有暂暗，笙滑之也。隶首，天下之善算也。有鸣鸿过者，弯弧掇之，将发未发之间，问以三五，则不知也。非三五难算，意有暴昧，鸿乱之也。奕秋之奕，隶首之算，穷微尽数，非有差也。然而心在笙鸿，而弈败算挠者，是心不专一，游情外务也。

瞽无目，而耳不可以察，专于听也；瞽无耳，而目不可以闻，专于视也。瞽瞽之微，而听察聪明审者，用心一也。

善者，行之不可斯须离，可离，非善也。人之须善，犹首之须冠，足之待履。首不加冠，是越类也；行不蹑履，是夷民也。今处显而修善，在隐而为非，是清旦冠履，而昏夜僂跣也。

蘧瑗不以昏行变节，颜回不以夜浴改容。句践拘于石室，君臣之礼不替；冀缺耕于垆野，夫妇之敬不亏。斯皆慎乎隐微，枕善而居。不以视之不见而移其心，听之不闻而变其情。故居室如见宾，入虚如有人。

昧暗之事，未有幽而不显，昏惑而行，未有隐而不彰。修操于明，行勃于幽，以为人不知也。若人不知，则鬼神知之。鬼神已知之，而云不知，是盗钟掩耳之智也。

若身常居善，则内无忧虑，外无畏惧。独立不惭影，独寝不媿衾。上可以接神明，下可以固人伦。德被幽明，庆祥臻集。

仁爱附人，坚于金石。金石可销，而仁爱不离。则太王居邠，而人随之也。

水性宜冷，而有华阳温泉。犹曰水冷，冷者多也。火性宜

热，而有萧丘寒焰，犹曰火热，热者多也。迅风扬波，高下相临，山隆谷洼，差以寻常，较而望之，犹曰水平，举大体也。

智者作法，愚者制焉。贤者更礼，不肖者拘焉。拘礼之人，不足以言事；制法之士，不足以论理。若握一世之法，以传百世之人，犹以一衣拟寒暑，一药治疵痼也。若载一时之礼，以诤无穷之俗，是刻舟而求剑，守株而待兔。故制法者为理之所由，而非所以为治也。拘礼者成化之所宗，而非所以成化也。成化之宗，在于随时；为治之本，在于因世。未有不因世而欲治，不随时而成化也。

言以译理，理为言本；名以订实，实为名源。有理无言，则理不可明；有实无名，则实不可辩。理由言明，而言非理也；实由名辩，而名非实也。故明者论言以寻理，不遗理而著言，执名以责实，不弃实而存名。是乃言理兼通，名实俱正。

灵气谓之神，休气谓之鬼，烦气谓之虫豸，杂气谓之禽兽，奸气谓之精邪。气之浊者，愚痴凶虐；气之刚者，高严壮健；气之柔者，仁慈敦笃。所以君子行正气，小人行邪气。

万善之要者，道德孝慈功能也。万恶之要者，反道背德，凶逆贼杀也。若乃强然之善者，天亦福之。自然之善者，即可知也。若乃强然之恶者，天亦祸之。自然之恶者，即可知也。但有为小善者，勿为无福；为小恶者，勿为无祸。小善者，如九层之台起于累土，千里之行起于足下，为一善以至于万善，一一而皆有福应。既万善功满，乃为九天大帝。为小恶者，如积小以成大，从微至著，为一恶以至于万恶，一一而皆有祸应。既万恶业满，乃为薜荔狱囚众，永无原放之期也。

形者，气之聚也，气虚则形羸。神者，精之成也，精虚则神悴。形者人也，为万物之最灵；神者生也，是天地之大德。最灵者是万物之首，大德者为天地之宗。万物以停育为先，天

地以清静是务。故君子养其形而爱其神，敬其身而重其生。莫不禀于自然，从于自在，不过劳其形，不妄役其神。

形者，生之具。神者，生之本。形不得神，不能自生；神不得形，不能自成。形神更相生，更相成。形神合同，可以长久。形者，神之舍也，神之主也。主人安静，神即居之；主人躁动，神即去之。神之无形，难以自固；形之无神，难以自驻。若是形神相亲，则表里俱济。

夫人只知养形，不知养神；不知爱神，只知爱身。殊不知形者，载神之车也。神去即人死，车败则马奔，自然之至理也。

若乃养其身，爱其神，自合于至真。除其好，去其躁，自合于大道。则有神有余而形不足者，亦有形有余而神不足者。神有余者，贵也；形有余者，贱也。假如石韞玉而山辉，水有珠而川媚，乃知形有神而遂灵，神有灵而乃圣。是以庖牺、女娲、神农、夏后，蛇身人面，牛头虎足，虽非有人之状，而有大圣之德也。

阴阳粹灵，胎化而成，乃成乃生，乃性乃情。所以性者阳也，情者阴也；性者静也，情者动也。性有愚智，情有利欲。性者，仁义礼智信也；情者，喜怒哀惧好恶欲也。

夫清静恬和，人之性也；恩宠爱恶，人之情也。凡人不能爱其性，不能恶其情，不知浊乱躁竞多伤其性，悲哀离别多伤其情。故圣人云：“顺物者物亦顺之，逆物者物亦逆之。不失物之性情，乃自然性情之道者也。”

理好憎之情，则爱弗近也；和喜怒之性，则怨弗犯也。故喜怒乱气，嗜欲伤性。性之相近，习以之远。如水性欲清，泥沙污之。人性欲平，嗜欲害之。与性相害，不可两立。一起一废，不可俱兴，故圣人损欲而从其性也。性同者相善，情同者相成。扶其情者，害其神；为其贤者，困其性。若是无其能者，

无所求也。无其能者，唯圣人耳。

夫生死之道，弘之在人。生死常也，确乎在天。但禀以自然，则生死之道，无可而无不可也。或未生而已死，或已死而重生；或不可以生而生，或不可以死而死；或可以死而不死，或可以生而不生；或有生而不如无生，或惜死而所以致死。是以致死之地则生，致生之地则死。或为知而不可以死，或为时而不可以生。或云劳我以生，生者好物也，不可恶其生。或云休我以死，死者恶物也，不可好其死。凡人心非不好其生，不能全其生；非不恶其死，不能远其死。

草木反者，带甲而生；鸟兽驯者，守节而死。经冬之草，覆而不死；在廩之粟，积而不生。一溉之苗，死必在后；有蠹之木，死必在前。卵生者轻清，生必在前；胎生者重浊，生必在后。草生在英，木生在心。及草木之死也，乃英心而无异。鸟生乃在天，兽生乃在地。及鸟兽之死也，乃天地以同归。

晴空之中有蠛蚋者，因雨而生，见阳而死；朽壤之上有菌芝者，生于朝，死于夜。则知生者死之根，死者生之根。

天之道利而不害，圣人之道为而不争。故与时争者昌，与人争者亡。是以虽有甲兵，无所陈之者，以其不争也。

夫不祥者，人所不争；垢辱者，人所不欲。能受人所不欲者则足矣，得人之所不争者则宁矣。制生杀者，天也；顺性命者，人也。非逆天者，勿杀也；非逆人者，勿伐也。故王法当杀而不杀，纵天贼；当活而不活，杀天德。为政如是，使后世攸长。

君子之立身，以玄德为父，以神明为母，清净为师，太和为友。为虎为龙，与天地同终；为玄为默，与道穷极。非时不动，非和不言。图难为易，治之于根本，绝之于末也。

为善者自赏，造恶者自刑。故不争无不胜，不言无不应者

也。

尚争贵武，威势流行，名盖天下，残委忠信，伐纪灭理，与善为怨，与鬼为仇，与恶为友，饮食重味，多积珍宝。此为扬祸之人，危亡之大数。故名在青云之上，身居黄泉之下矣。

执道德之要，固存亡之机。无为事主，无为事师。寂若无人，至于无为。定安危之始，明去就之理，是可全身，去危离咎，终不起殆也。

口舌者，祸患之宫，危亡之府；语言者，大命之所属，刑祸之所部也。言出患入，言失身亡。故圣人当言而惧，发言而忧，常如临危履冰，以大居小，以富居贫，处盛卑之谷，游大贱之渊，微为之本，寡为之根，恐惧为之宅，忧畏为之门。

福者祸之先，利者害之源，治者乱之本，存者亡之根。上德之君，质而不文，不视不听，而抱其玄。无心无意，若未生焉。执守虚无，而因自然。原道德之意，擦天地之情。祸莫大于死，福莫大于生。是以有名之名，丧我之橐，无名之名，养我之宅。有货之货，丧我之贼；无货之货，养我之福。

罪莫大于淫，祸莫大于贫，咎莫大于僭，此三者，祸之车，小则危身，大则残家。

天下有富贵者三：贵莫大于无罪，乐莫大于无忧，富莫大于知足。知足之为足，天道之禄；不知足之为止，害乃及己。

五色重而天下爽，珠玉贵而天下劳，币帛通而天下倾。是故五色者陷目之锥，五音者塞耳之锥，五味者截舌之斧。

言者万神之机关，非言无以序形，非言无以畅声，非言无以序真，非言无以化人。言者瞩玄睹之像，非言何以序人？言声而相须，形响而共俱。

大德者，受天下之大恶；大仁者，受天下之大辱。能受天下之大恶，故能食天下之尊禄；能受天下之大辱，故能为天下

之独贵。奔想飞驰，迅于游鸟；荒动滞固，给（疑给作急）若两绞。胶附素疏，坏之若流。欲风速发，色火亦然。婴发猛虎，恶光莫当。欲之气移，不滑其族。放散无常，解目染著。累色至玄，亦不有足。钓鱼不饵，纲而不缁，戈而不缴，钺而不煞。虽为柯锋，而心不施。有道者处之，有德者居之。虎兕措爪而无所虑；鬼神同群而无所惧。獬鸟鸚鵡，不相畏恐；狸犬兔鼠，不相避忤。故君子自处，不群不党，不曜不动，不利不害，常守静不移，故成君子也。

任重唯重，其重心累；居藏不藏，其藏必涌。好淫与淫，其淫唯昏；好帛与帛，终亡乃止。凌谋不生，摄亦俱然。故摄心者若仰中著，止意者若以盗凌，昼夜怵怵，忧道不行。是以道人忧道不忧贫，忧行不忧身。

处恶不坏，居秽不尘，在弱不诤，临亨不望，期谓志业之行。可独修之道者，是故不行而知，不取而取，故曰取。

其味甘焉，和而谓养；其药善焉，众和乃医；其疾徒焉，先后乃所；其佃作焉，日足获矣。故累足成步，著备成德。接下举高，敷德以正。截他不修，勤于三道。三道讫备，通天达道。是故太初降于太始，太始降于太素。崇正匠者，其万备也。钟鼓鸣乎，非手不声。水中有像，非质不映。川谷有神，不呼不返。朴中有器，非匠不崇。子有长质，非功不苗。故道加一切。

从气满太虚，随前降对，有之以有，无之以无。道德圆入，不拘一切。众生假明而见其物，假声以听其音。非谓听见之所能，因前而有之。故道人修于假明之明，习于假声之声，故能听见而不可彰。体于未言之言，知于未声之声，故辩言而可极。是故真人所为处异，所造者返。何以故？盖知天道无亲，唯与善人。



养蚕贵叶，功乃就之；养神贵道，真乃可登。贵本尚末，上下通达；敬根重枝，天道可为。存母得子，可保终始；珍道保身，大道可因。守默不移，故能广载；执直不曲，故能道长。本法无也，质真若渝。抱一化元，存元以通其道，守本以致其子。故善道者吉，审己者达，察过者泰。忖短者思齐贤哲，贪高进，务先活。是以真人常以守一逊过，攘而无臂，动而不摇，高而不贵，故能常贵。

饰兵者不祥之器，严观者无厌之至。假使战胜，何益乎命？是以有道者贵于廉，无道者贵于贪。国贪则民病，好兵则民残。民残者，无道之极也。

去不修之道，故能长生；绝自圣之力，故能无极。祛外来之知，故能发大慧之慧；任自然之德，故能合大德之德。是以进可进之进，去可发之发，以斯之业，故能果耳。

质真者德，著德者真，积行者达，和气者圣。不行而知，不见而明，故曰他心力也。是以道人行于不足，故能有足；处下不让，故能成高。夫欲兴太山之功，要须宽居乃得成高；为太极之道，要须广德乃能达道。故真人自卑下细，以致标远。

金处矿砾，性同内殊。两人同名，形性心别。狼彘贪侣，所求趣异。故安危心殊，所类各别。水之无味，万用崇之；土之无气，广载生物。故无味为味，无气为气，故成气味。处下居德，能为不失。

累丝至疋，累土至山，累业至圣，累灵至真。故万里之涉，累足乃达。云海中漂，明行自悦。敦朴易匠，是盈是显。冲而不厌，和而不嘎。正道易兴，而人反是。

气盈于内，弥耀于外。周流表里，津及百节。六甲错形，流灌丹元。敷道广成，无极太康。少而不老，昏而不耄。或先于人，或游太极。无形无色，非品而利。成之不居，故能大成。

伴豕而为群，徒游天下；伴羔而为党，交行野路。去留无趣，生死无在。愚恶侣行，通于天圣。无隐无伏，皆至神明。故真人治身，不淫不弊，绝荒闲原，炼神守一，赤子安宁，保国常道也。禾穡邪外，非种同茂，青苗共逸，无可分别。银鍤鑱锡，同室而藏，遣不识任意之流，无可分别，唯有审顾之士，乃可了耳。是以真人审匠投身，而无有悞，顾比学士而师事之。何以故？非其审者，冰汤同爨，莫有全之。审己择交，而无漏败。

其日莫宵，长明不殆；其月莫亏，长登景曜。劫运到灭，坠会而没。是以道人托而不久，功而不处，自容自受，正气不离。

道成四生，广育万物；性入万类，因人成器。明行者器，贪饵者绝。是以道生一，德生二，人生三。故天生万物，以人为贵。人能知贵，可以成器。若不知贵，杂生其精。识斯理者，大通无极。夫真人者，不为而功高，不拔而德集。声而不答，动而不摇，五彩加形，不以曜其目；五甘入口，不以爽其味。故心流速于飞电，驰想急于风云。是故折心不在严刑，绝味不在五甘。故去而不为，天道阶津矣。

万筭之途，因路而达；珠罗之服，因针而成。故学道君子，非路而同趣，异居而同心。是以道不同，不相为谋。非其同行之路殊，而心见异，故以非同之同也。

石利伤腰，铁利伤身，宝利伤命，心利伤性。夫惟伤者，善或竞兹，异厉必申。故割利去伤，道必附将；举下取中，气必充养。无阶之期，大愿果常。积在元气，而布和大康。无英公子，善举朱场。由除烦结，累心道梁。会我无边，是乃无伤。

真人散玉华以却秽，金仙散日精以拂尘，八素虚映以赞灵，三元命仙以运冥。明气九回，神精八缠。若能夷遐心于床室，

云笈七签

· 1235 ·

思神颜于自然，招灵景之幽华，荣朽老以长存。

# 云笈七签

第四部

（宋）张君房 著

## 卷九十一 七部名数要记部

### 九守（凡九篇）

#### 守和第一

老君曰：天地未形，窅窅冥冥。浑而为一，自然清澄。凝浊为地，清微为天。离为四时。分为阴阳。精气为人，烦气为虫。刚柔相成，万物乃生。精神本乎天，骨骼根乎地，精神入其门，骨骼及其根，我尚何存？故圣人法天顺地，不拘于俗，不诱于人；以天为父，以地为母，阴阳为纲，四时为纪。天静以清，地定以宁，万物失者死，顺者生。故静寞者，神明之宅也，虚无者，道之所居也。夫精神所受于天也，而骨骼所禀于地也。故曰：一生二，二生三，三生万物。万物负阴而抱阳，冲气以为和，故贵在守和。

#### 守神第二

老君曰：人之受天地变化而生也。一月而膏，二月而胞，三月而胚，四月而胎，五月而筋，六月而骨，七月而成，八月而动，九月而躁，十月而生。形体以成，五脏乃形。肺主鼻，

肾主耳，心主舌，肝主眼，外为表，中为里。头之圆以法天，足之方以象地。天有四时、五行、九星，三百六十日，人有四支、五脏、九窍，三百六十节。天有风雨寒暑，而人有兴居喜怒。胆为云，肺为气，脾为风，肾为电，肝为雷，以与天地相比类，而人之心为主。耳目者，日月也；血气者，风雨也。日月失其行，薄蚀无光；风雨非其时，毁折生灾；五星失其度，郡受其殃。天地之道，至阔且大，尚犹节其章光，爱其神明。人之耳目，何能久劳而不息？人之精神，何能驰骋而不乏？是故圣人内守而不失。

### 守气第三

夫血气者，人之华也；五脏者，人之精也。血气专乎内而不越外，则胸腹充而嗜欲寡，嗜欲寡即耳目精而视听明。五脏能属于心而无离，即气意胜而行不僻，精神盛而气不散，以听无不闻，以视不见，以为无不成，患祸无由入，邪气不能袭。故所求多者所得少；所见大者所知小。夫孔窍者，精神之户牖也，气意者，五脏之使候也。故耳目淫于声色，则五脏摇动而不定，血气淫荡而不休，精神驰骋而不守，祸福之至，虽如丘山，无由识之矣。故圣人爱而弗越，诚使其耳目清明玄达，无所诱慕，气意虚无和静而少嗜欲，五脏便利，精神内守，形体不越，即观乎往世之外，来事之内，祸福之间何足见也！故其出弥远者，其知弥少，以言精神之不可使外淫也。故五色乱目使目不明；五音入耳，使耳不聪；五味乱口，使口历爽；趋舍滑心，使性飞扬。故嗜欲使人之气衰杀，好憎使人之心劳倦。疾至，即志气日耗也。夫人所以不能终其天年者，以其生生之谓也。夫唯无以生为者，即所以长得生也。天地运而相通，万

物总而为一。能知一，即无一之不知也，不能知一，即无一之能知也。吾处天下亦为一物，而物亦物也，物之与物，何以相物？欲生不可事也，憎死不可辞也，贱之不可憎也，贵之不可喜也；自其资而宁之，弗敢极也。敢极，即失至乐矣。

老君曰：所谓圣人者，因时而安其位，当世而乐其业。夫哀乐者，德之邪也；好憎者，心之累也；喜怒者，道之过也。故其生也天行，其死也物化。静即与阴合德，动即与阳同波。故心者，形之主也；神者，心之宝也。形劳而不休即蹶，精用而不已即竭，是故圣人尊之弗敢越。以无应有，必究其理；以虚受实，必穷其节；恬愉虚静，以终其命；无所疏，无所亲；抱德养和，以顺于天；与道为际，与德为邻；不为福始，不为祸先；死生无变于己。故曰至人。即神以求，无不得也；即神以为，无不成也。

#### 守仁第四

老君曰：轻天下即神无累，细万物即心不惑，齐死生即意不慑，同变化即明不眩。夫至人倚不立之柱，行无关之途，稟不端之府，学不死之师，无往而不遂，无至而不通，屈伸俯仰，抱命而行，宛转祸福，利害不足以患心。夫为义者，可迫以仁而不可劫以兵；可止以义，而不可悬以利。君子义死，不可以富贵留。故为仁义者，不可以死亡恐也，况于无为者乎！无为即无累。无累之人，以天下为量。夫上观至人之论，源道德之意，以考世俗之行，乃足薄也。

#### 守简第五

老君曰：尊势厚利，人之所贪也，比之身即贱。故圣人食

足以充虚接气，衣足以盖形蔽寒。适情辞余，不贪多积。清目不视，静耳不听，闭口不言，委心不虑。弃聪明，反泰一，休精神，去知故无好无憎，是为大通。除秽去累，莫若未始出其宗，何为而不成？故知养生之和者，即不可悬以利；通乎外内之府者，不可诱以势。无外之外至大，无内之内至贵。能知大贵，何往而不遂也！

### 守易第六

老君曰：古之道者，理情性，治心术，养以和，持以适，乐道而忘贱，安德而忘贫。性有弗欲而不拘，心有弗乐而不有。无益于情者，不以累德；不便于性者，不以滑和。不纵身肆意，度制可以为天下仪。量腹而食，度形而衣，容身而游，适情而行。余天下而弗有，委万物而弗利，岂为贵贱贫富失其性命哉！若然，可谓能体道矣。

### 守清第七

老君曰：人所受形于天者，耳目之于声色也，口鼻之于芳臭也，肌肤之于寒温也，其情一也。或以死，或以生，或为君子，或为小人，其所以为制者异也。神者，知之源也，神清即知明。知者，心之府也，知公即心平。人莫鉴于流水，而鉴于澄水者，以其清且净也。故神清意平，乃能制物之情，故用者必假之于弗用也。夫鉴明者，尘垢弗污染也；神清者，嗜欲弗<sub><身除></sub>著也。故心有所至，神既然之，反之于虚，即消烁灭息矣！此圣人之游也。故治天下者，必达性命之情而后可已。

老君曰：夫所谓圣人者，适情而已。量腹而食，度形而衣，



节乎己，而贪污之心无由生。故能有天下者，必无以天下为者也；能有名誉者，必不以趋行求者也。诚违乎性命之情，仁义自付。若夫神无所奄，心无所载，通同修达，澹然无事。势利不能诱也，声色不能淫也，辩者不能说也，知者不能动也，勇者不能恐也，此乃真人之道也。夫生生者不死，化物者不化。不达乎此，虽知统天地，明照日月，辩解连环，泽润金石，犹无益于天下，故圣人不失所守。

老君曰：静漠恬淡，所以养生也；和愉虚无，所以处德也。外不乱内，即性得其宜；静不动和，即得安其位。养生以安世，抱德以终年，可谓能体道矣。若然者，血脉无郁瑾，五脏无积气，祸福弗能挠滑，毁誉弗能尘累。非有其世，孰能济焉？有其人不待时，身犹不能脱，又况无道乎！夫目察秋毫之末者，耳不闻雷霆之声；耳调玉石之音者，目不见太山之峻。故小有所志者，必大有所忘。今万物之来，擢拔吾性，倦苦吾情，精若泉源，虽欲勿衰，其可得耶？今盆水清之终日，不能见尘祗，浊之不过一挠，即不能见方圆之象。精神难清而易浊，犹盆水也。

老君曰：上圣法天，其次尚贤，其下任臣。任臣者，危亡之道也，尚贤者，疑惑之源也，法天者，治天地之道，虚静为主。虚无不受，静无不待，知虚静之道，乃能终始。故圣人以静为治，以动为乱。故曰：勿惑勿撓，万物将自清，勿惊勿骇，万物将自理，谓之天道。

### 守盈第八

老君曰：天子公侯，以天下一国为家，以万物为穡。怀天下之有，万物之多，即气实而志骄。大者用兵侵伐，小者居傲

凌下，用心奢广，譬犹飘风暴雨，不可长久。是以圣人以道损之，执一无为，不损冲气。见小守柔，退而无为，法于江海。江海弗为，百川自归，故能成其大；圣人弗强，万兆自归，故能成其王。为天下牝，故能不死。人自爱，故能成其贵。万乘之势，以万物为功名，权任至重，不可以自轻，自轻则功名不成。天之道，大以小成，多以少生。故圣人以道莅天下。柔弱微妙者，见小也，俭啬损缺者，见少也。见小故能成其大，见少故能成其美也。天之道，抑高举下，损有余，奉不足。江海处地之不足，故天下归之，奉之。圣人卑谦，清净辞让者，见下也；虚心无为者，见不足也。见下者故能致其高，见不足者故能成其贤。跂者不立，矜者不长。强梁者死，满溢者亡。飘风骤雨不终日，小谷不能须臾盈。飘风骤雨行强梁之气，故不能久而灭；小谷处强梁之地，故不得不夺。是以圣人执雌牝，去此奢泰，不敢行强梁之气。执雌牝，故能立其雄；不敢奢泰，故能长久也。

老君曰：天道极即盈，盈即损，日月是也。故圣人保冲气，不敢自满，日进以牝，功德不衰，天道自然也。人之情性，皆好高而恶下，好得而恶亡，好利而恶病，好尊而恶卑贱。众人之为，故弗能成；执之故弗能得。是以圣人法天，弗为而成，不执即得，与人同情而异道，故能长久。故三皇五帝有戒之器，命曰侑瀍。其冲即正，其盈即覆。夫物盛即衰，日中则移，月满则亏，乐终而悲。是故聪明俊智守以愚，多闻博辩守以俭，武勇骁力守以畏，贵富广大守以狭，德施天下守以让。此五者，先王之所以守天下也。服此道者，不欲盈。夫唯不盈，是以能弊不新成。

### 守弱第九

老君曰：圣人与阴俱闭，与阳俱开，能至于无乐也，即无不乐也，即至乐极矣。是以内乐而外不乐，以乐内者也，故有以自乐也，即至贵乎天下。所以然者，因天下而为天下也。天下之要，不在于彼而在于我，不在于人而在于身，身得即万物备矣。故达于心术之论者，即嗜欲好憎外矣。是故无所喜，无所怒，无所乐，无所苦，万物玄同，无非无是。故士有一定之论，女有不易之行。不待势而尊，不须财而富，不须力而强。不利财货，不贪势名。不以贵为安，不以贱为危。形神气志，各居其宜。夫形者，生之舍也，气者，生之元也，神者，生之制也。一失其位，即三者伤矣。故以神为主者，形从而利；以形为制者，神从而害。贪骄多欲之人，冥乎势利，诱慕乎名位，几以过人之智，立高于世，即精神日耗以远。久淫而不还，形闭口距，即无由入矣，是以时有盲妄之患。夫精神气志者，静而日充以壮，躁而日耗以老。是故圣人持养其神，和弱其气，平夷其形，而与道沉浮。如此，则万物之化无不偶也，百事之变无不应也。

老君曰：所谓真人者，性合乎道者也。故有若无，实若虚，治其内不知其外。明白入素，无为而复朴。体性抱神，以游天地之间。芒然彷徨尘埃之外，逍遥无事之业。机械知巧，弗载于心。审于无假，不与物迁。见事之化，而守其宗。心意专于内，通远归于一。居不知所为，行不知所之。弗学而知，弗视而见，弗为而成，弗治而辨。感而应，迫而动，不得已而用。如光之不耀，如景之不炎。以道为循，有待而然，廓然而虚，清静而无为。以死生为一化，以万异为一方。有精而弗使，有神而弗行。守大浑之朴，立至精之中。其寝不梦，其知不萌，其动无形，其静无体。存而若亡，生而若死，出入无间，役使鬼神，所以能假乎道者也。使神阳达而不失于充，日夜无阴而

与物为春，即是合而生时于心者也。故形有靡而神未尝化，以不化应化，千变万化。千变万转。而未始有极。化者复归于无形者也，不化者与天地俱生者也。故生者未尝其生，化者未尝其化。此真人之游也，纯粹素朴之道矣。

### 十三虚无

老君曰：生从十三：虚、无、清、静、微、寡、柔、弱、卑、顿、时、和、啬。

一曰遗形忘体，恬然若无，谓之虚。

二曰损心弃意，废伪去欲，谓之无。

三曰专精积神，不与物杂，谓之清。

四曰反神服气，安而不动，谓之静。

五曰深居闲处，功名不显，谓之微。

六曰去妻离子，独与道游，谓之寡。

七曰呼吸中和，滑泽细微，谓之柔。

八曰缓形从体，以奉百事，谓之弱。

九曰憎恶尊荣，安贫乐辱，谓之卑。

十曰遁盈逃满，衣食粗疏，谓之损。

十一曰静作随阳，应变却邪，谓之时。

十二曰不饥不渴，不寒不暑，不喜不怒，不哀不乐，不疾不迟，谓之之和。

十三曰爱视爱听，爱言爱虑，坚固不费，精神内守，谓之啬。

## 七报

真人曰：负阴抱阳，因缘各异。舍死得生，果报不同。为善善至，为恶恶来。如影随形，毫分无谬。善恶多端，福报难数。大而言之，其标有七：

一者先身施功布德，救度一切。今身所行，与先不异。必得化生福堂，超过八难。受人之庆，天报自然。

二者先身好学，志合神仙，崇奉玄科，敬信灵文，念善改恶，立行入真。今身所行，与先不异。得接帝皇，名书紫简，上升玉晨。

三者先身乐道，不惮苦寒，随师执役，唯劳为先，饥渴务效，不生怨言。今身所行，与先不异。得策飞縑，游宴五岳，乘虚落烟。

四者先身真洁，不淫不奸，不贪不欲，见色无欢，心如死灰，执固道源。今身所行，与先不异。得报灵人，超度三涂，五苦不经。

五者先身施善，愿天普隆，同得升度，去离八难，众身不过，已身不安，割已之服，以拯穷寒，捐粮饷鸟，遗物空山。今身所行，与先不异。四司称善，感彻玉皇，书名紫简，礼补上仙。

六者先身忠孝，恭奉尊亲，崇敬胜已，宗礼师君，腹目相和，如同一身，心无嫉妒，口无轻言，内外齐并，动止合真。今身所行，与先不异。得受灵入，不经三涂，超过八难，善善相注，福福相资。

七者生世不良，怀恶抱奸。攻伐师尊，訾毁圣文，不崇灵章，疑二天真。外形浮好，假求华荣。口是心非，行负道源，窃盗经书；不盟而宣；泄露秘诀，流放非真。今身所行，与先不异。违科犯忌，身入罪源。七祖横罗，责及穷魂。身死负掠，食火践山。三途五苦，万劫不原。楚挞幽夜，痛切其身。

夫欲修学，熟寻此文。改恶行善，速登神仙。

### 七伤

真人曰：学贵六合，宜慎七伤。

第一之伤：带真行伪，淫色丧神，魂液泄漏，精光枯干。气散魄零，骨空形振，神泣穷府，上闻天关。真仙远逝，则与凡尘结因。土府同符，岂复得仙？

第二之伤：外形在道，皮好念真，而心抱阴贼，凶恶内臻。愿人破败，嫉贤妒能。口美心逆，面欢内嗔。形论得失，妄造罪原。毁慢同学，攻伐师友。三官所记，标为恶门，仙真高逝，邪魔攻身。走作形景，飞散体神，故令枉横，极其恶源。考满形灰，灭已九泉，图有玄名，岂保自然。

第三之伤：饮酒洞醉，损气丧灵。五府攻溃，万神振惊。魂魄飞散，内外朽零。本室空索，赤子悲鸣。真仙高逝，邪魔入形。如此之学，徒损精诚。虽有玄记，空失玉名。神升上宫，身灰幽冥。恍惚求延，年焉久停？

第四之伤：行不引物，责人宗匠。心忽口形，骂詈无常。嗔喜失节，性乖不恒。气激神散，内真飞杨。魄离魂游，九孔尘埃，五府奔丧。皆由性之不纯，行之不祥。真仙高逝，外疴

入形，如此之学，将欲何蒙？虽有玄图，不免斯殃，望仙日悠，地里日长。

第五之伤：或玄图表见，得受宝经；或运遇灵师，启授神文，而不依科盟，形泄天真。未经九年，投刺名山。使青宫有录，金阙结篇。便传于人，流散世间。轻真泄宝，考结己身。图有玄名，反累七玄。仙道高逝，身死幽泉，长充鬼责，万劫不原。

第六之伤：身履殄穉，灵关失光。五神飞散，赤子蹇扬。邪魔来攻，内外交丧。如此之学，望成反伤。真仙高逝，空景独沦于溷浊，仙胡可冀？

第七之伤：啖食六畜之肉，杀害足口之美。臭气充于脏腑，伐生形于非己。真气扰于灵门，游神骇于赤子。魂魄游于宫宅，浊滞缠于口齿。仙真高登于玉清，己身沉顿于地里。图有玄名帝简，亦不免于不死。

高圣帝君曰：为学之本，当以七伤为急。既得瞻眄洞门，披睹玉篇，不犯七伤之禁，将坐待灵降，白日升晨。如外勤存学，内不遣于《七伤》者，此将望成而反败，期生而反亡，希吉而反凶，求飞而反沉。灵仙游于高清，五神散于八荒，赤子号泣于中宅，游魂悲鸣于玄宫。故仙相有成败，上学有《七伤》。笃尚之士，熟精其真。诸有神挺应图，琼胎紫虚，名题东华，得见《七伤》检文。自无。此神挺灵篇不可得妄披，宝文不可得而看。得见此文，皆玄质合仙。九年修得，克得飞行玄虚，上升玉清也。

## 卷九十二 仙籍语论要记部一

### 众真语录

安妃告曰：冲风繁激，将不能伐君之正性；绝飏勃郁，焉能回己之清淳？尔乃空中自吟，虚心待神，营摄百绝，栖澄至真。当使忧累靡干于玄宅，哀念莫挠于绛津。

太上曰：高才英秀，惟酒是<身除>，麦蘖薰心，性情颠倒。破坏十善，兴隆十恶，四达既荒，六通亦塞。

天尊曰：一切众生，久习颠倒。心想杂乱，随逐诸尘。舍一取一，无暂休止。犹如猿猴，游于林泽，跳踯奔趋，不可禁止。是诸凡夫，心性亦尔。游五欲林，在六根泽。纵逸腾跃，不可拘制。

又曰：人情难制，犹如风中竖幡，飘飘不止。或思作伪，以邀名誉。

《定志经》云：人既受纳有形，形染六情。六情一染，动之弊秽。惑于所有，昧于所无。因务因缘，以此而发。招引罪垢，历世弥积。轮回于三界，漂浪而忘反；流转于五道，长沦而弗悟。婴抱痛毒，不能自知；驰神惶悸，惟罪是履。

太上曰：天之道，利而不害；圣人之道，为而不争。故与时争之者昌，与人争之者凶。是以兵甲而无所陈之，以其不争。



夫不祥者，人之所不争。垢辱者，人之所不欲。能受人所不欲，则足矣。得人所不争，则宁矣。

《妙真经》曰：视过其目，明不居；听过其耳，精泄漏；爱过其心，神出去。牵过于利动惕惧。结连党友，以自助者，此非真也。

又曰：罪莫大于淫，祸莫大于贪，咎莫大于僭。此三者，祸之车也。小则亡身，大则残家。

道言：吉凶祸福，窃冥中来。其灾祸也，非富贵者请而可避；其荣盛也，非贫贱者欲而可得。盖修福则善应，为恶则祸来。

天尊曰：气不可极，数难可穷。死而复生，幽而复明。天地运转，如车之轮。人之不灭，如影随形。故难终也。

《妙林经》：天尊曰：夫有为生死，众生漂浪，如虚中云，如空中色，如谷中响，如水中月，如鉴中象，如热中炎，如电中火，如聋中听，如盲中视，如哑中言，如二头鹤，如三足鸡，如龟中毛，如兔中角。如是无明，贪著爱见，生死之本，亦复如是。必竟皆空，不可论说。辟如灯灭，不可寻求。生死本空，亦复如是。如大猛火，如四毒蛇，不可亲近。生死之法，亦复如是。

天尊告圣行真士曰：若复有人，于诸法中生有见心，舍于秽土，求三清乐。舍众生身，求真道相。欲断烦恼而入无为，求利诸见乃得寂灭。如是等相，我说此人名大邪见。譬如愚人畏于大地而欲走避，所至之处不离大地。众生亦耳。畏生死身疾，舍三界有心，厌离所得之身，不离生死。如是众生，未能见法，求真道相，深实可哀。真道相者，名为不作，无起无灭，非有非无，非常非断，非大非小，非色非心。能体如此，名为修习，真道正行。

又告圣行真士曰：世间众生，无明重暗，真道在身，莫能睹见。譬及愚人，东西驰走，求觅空色，而不能知即色是空。一切世间，亦复如是。心性驰走，欲求真道，不知身心，即是真道。又如愚人，但见竹木，而不知火。舍木求火，四散奔走。一切世间，亦复如是。舍身求道，不知道在身中尔。又如愚人舍形求影，默声求响，而不知形是影根，声为响本。以是当知世间邪见，烦恼炽盛，犹荆棘林，如蒺藜园，不可亲近。我今宣示汝等，令知将来三清，不离烦恼；令知大道不在他方，但观身心，修习正道，自然解脱。

天尊告遍通真士曰：一切众生心法如生。云何一切众生心法如生？一切众生，本有生邪？若有生者，生从何有？一切众生，本无生邪？若无生者，见有生身，汝众今见身有耶？见身无耶？遍通答言：我等今众见身是无，何以故？前色灭已，后色生故。天尊曰：心法亦尔。非有非无，念念生灭。前心灭故不为后因，后心生故不为前果。是故我言，一切众生心法如生。遍通又问曰：一切众生心法如生，生法见生，生法如心，心可见耶？天尊答曰：心法可见。欲见心法，还如见生。生无方所，欲见心法，亦无方所。遍通又问：心法如生，俱无方所，云何安慰令得安乐？天尊答言：身可安耶？遍通曰：身法念念，不可安慰。天尊曰：心法亦然，不可安慰。遍通又问：既不可安，云何向言安慰其心令得乐耶？天尊答曰：为见有身，故令安慰。既安慰，已知心非有，亦复非无，名得真心，故得安乐。

《保圣纂要》曰：情者，魂之使；性者，魄之吏。情生于阴，以起造；性生于阳，以治理。阳仁阴贪，故情有利欲，性有仁和。精多则魂魄强，气少则情性弱。情性为嗜欲乱之，由素丝染于五色也。

又曰：人之情性，为利欲之所败，如冰雪之曝日，草木之

沾霜，皆不移时而消坏矣。冰雪以不消为体，而盛暑移其真；草木以不凋为质，而大寒夺其性。人有久视之命，而嗜欲灭其寿。若能遵引尽理，则长生罔极。

又曰：神者魂也，降之于天；鬼者魄也，经之于地。是以神能服气，形能食味。气清则神爽，形劳则魄浊。服气者绵绵而不死，身飞于天；食味者混混而殂，形归于地。理之自然也。

《仙经》曰：有者因无而生，形者须神而立。故有为无之宫，形乃神之宅。莫不全宅以安主，修身以养神。若气散归空，游魂为变。火之于烛，烛靡则火不居；水之于堤，堤坏则水不存。魂劳神散，气竭命终矣。

又曰：人常失道，非道失人；人常去生，非生去人。养神者，慎勿失道；为道者，慎勿失生。道与生相守，神与气相保，形神俱久矣。

圣母元君曰：功术之秘者，惟符药与气也。符者，三光之灵文，天真之信也。药者，五行之英，华池之精液也。气者，阴阳之和，万物之灵爽也。此三者，致道之机要，求仙之所宝也。

又曰：凡人有一千恶者，后代祲逆，二千恶者为奴厮，三千恶者六疾孤穷，四千恶者恶病流徙，五千恶者为五狱鬼，六千恶者为二十八狱囚，七千恶者为诸方地狱徒，八千恶者堕寒冰狱，九千恶者入无边底狱，一万恶者堕薛荔狱。万恶之基，起于三业。一一相生，以至于万恶。堕薛荔狱者，永无原期，渺渺冬天，无由济援，得不痛哉？夫人觉有一恶，急宜改而不犯者，去道近矣。若为魔邪所干者。当洗心责己，悔过自修，即可反恶为善矣。人有一善，则心定神安。有十善则气力强壮，有百善则宝瑞降之，有千善则后代神真，有二千善则为圣真仙将吏，有三千善则为圣真仙曹掾，有四千善则为天下师圣真仙

主统，有五千善则为圣真仙魁师，有六千善则为圣真仙卿大夫，有七千善则为圣真仙公王，有八千善则为圣真仙皇帝，有九千善则为元始五帝君，有万善则为太上玉皇帝。元君曰：万善之基，亦在三业。十善相生，至千万善。行善益算，行恶夺算。赏善罚恶，各有职司。报应之理，毫分不失。长生之本，惟善为基也。

又曰：专精养神，不为物杂，谓之清。反神服气，安而不动，谓之静。制念以定志，静身以安神，宝气以存精。思虑兼忘，冥想内视，则身神并一。身神并一，则近真矣。

道曰：凡人遇我以祸者，我当以福往。是故福之气常至此，害之气重徒还在于彼，此学道者之行也。

徐来勒问曰：何谓兼忘？高玄真人曰：“一切凡夫，从气氤氲际而起愚痴，染著诸有，虽积功勤，不能无滞。故使备定，除其有滞。有滞虽净，犹滞于空。空有双净，故曰兼忘。是故名初入正观之相。

《盟威经》云：道无不在，在师为师，在经为经，不离中矣。

《宝玄经》云：裁制偏邪，同归中正。能返本流末，还至本源。源即道也。道无形状，假言象以为津。既言冲用，用实无物。

《三皇经》曰：天下无常，岂有坚固者？故急当厌远之，求索自然，以脱身耳。”

又曰：“万物无有常，成者皆不久完。三光明冥，天地常照然。

《黄老玄示经》曰：道者不可以言传，欲使学者，述书以相授，然可得闻也。夫善述事者，必通其言。善言词者，必通其意。其意若通，道可得也。夫天地之初，知其无联也。入于

虚无者，知其有实也。故云：其以成法，其初始终也。是以圣人见有书，即知本无书也；闻其言，即知其本无言也。见书知言，闻言知意，知意即知道也。知道即知其可以口言，不可以书传也。故真人以神听，听可尊也；圣人以身教，教可珍也。

太上告王母曰：夫人受天地之气生。气之来也，谓之精。精之媾也，谓之灵。灵之变也，谓之神。神之化也，谓之魂。随魂往来谓之识。随魂出入谓之魄。主管精魄谓之心。心有所从谓之情。情有所属谓之意。意有所指谓之志。志有所忆谓之思。思而远慕谓之虑。虑而用事谓之智。智者，尽此诸见者也。夫性者，静也；气者，动也。动静一如，内外和顺，非至人安能措心于此哉！术藏于内，随务应变；法设于外，适时御民。民用其道而不知其数者，术也。悬教设令以示民者，法也。气变万物而不见其象，术化万民而不见其形。故天以气为灵，王以术为神。

《四等智慧观身经》云：夫道者，要在行合冥科，积善内足，然后始涉大道之境界。若自不能尔，皆为徒劳于风尘耳！无益生命之修短也。道在我，不由彼。惟慈，惟爱，惟善，惟忍。能行此四等，乃与道为邻耳。

《老君戒经》云：恶人者，胎于离薄之精，形于刍狗之类。魂微魄盛，尸毒腹满。人面虫心，体性狼狼。嫉妒蛆蚘，常怀阴贼。坏成作败，言则噉噉，自遇如玉，遇人如土。阳推鬼黠，不计殃咎。昔有一人，不念居业，专行偷盗，入大臣家，此入夜作狗形，既到其家，值其大功德。吾时见此偷往作狗形，吾即叱之，令长作狗，使常御巨石还此大臣家，积以为山。

《明威经》云：淫犯内外，逼掠非偶，翻覆阴阳，公私戚属，相通奸狡，异类袄交。

《本行经》云：昔有国王元庆，放心于爱欲之门。值劫运

终，寄胎于洪氏之胞。上天以其先身好色，故转为女子，遂其先好也。

《太平经》云：何谓为多言？然一言而致大凶，是为上多言人也。一言而致辱，是为中多言人也。一言而见穷，是为下多言人也。夫古今圣贤也，出言文辞满天地之间，尚苦其少有不及者，故灾害不绝。后生贤圣，复重言之，天下以为法，不敢厌其言也。故言而除害者，常苦其少。是以善言无多，恶言无少。故古之圣人将言也，皆思之。圣心出而成经，置为人法。愚者出言，为身灾害，还以自伤。

《真诰》曰：夫百思缠胸，寒热破神。营此官务，当此风尘，口言吉凶之会，身扇得失之门。众忧若是，万虑若此。虽有真心，固不为笃。抱道不行，握宝不用，而自然望头不白者，亦希闻也。在官无事，夷真内炼，纷错不移，其聪明争竞不交于心胸者，此道士之在官也。

《太清中经》云：慎无卖吾以求宝也，慎无传吾非其人也，慎无闭吾绝其学也。传吾学者昌，闭塞吾学者，虽独行之，必遇天殃。传吾道者，当法则天地、江河、淮海。法则天地者，何等不生？何等不成？法则江河淮海者，何水不流？何川不行？

《西升经》云：欲者，凶害之根也；无者，天地之元也。莫知其根，莫识其元，是故圣人去欲入无，以辅其身。

《洞神诫身保命篇》云：黄帝曰：圣人保命之最，莫尚于身心。利害身心，岂过于善恶？善恶所起，本于心。心法不住，攀缘是用。所缘者名曰境界，能缘者名曰之心。故万品所起，万过于心。萌于心者，名曰行业。行业所操，名曰善恶。故纵欲为恶，息贪为善。善者能为济俗出尘之益，恶者必作败德染秽之资。故圣人知无形而用者，心也；形不自运者，身也。然

心不记于身，则不能显班备用；身不藉于心，则亡灭不起。故身心体异而理符，致用万善而趣一。故能表里为用，动静相持。身无独往，为心所使。心法不静，惟欲攀缘。身量无涯，纳行不息。故心为凡圣之根，身为苦乐之聚。圣人知患生于心，愆必由己，是以清心除患，洁志消愆。凡俗之流，其即不然。肆情纵欲，不知欲出于心；侮慢矜奢，不知慢生于己。惟骋愚暴，不顾其身。故以祸难所阶，由之不识危亡，自此日用不知，故圣达愍愚而垂教也。

## 卷九十三 仙籍语论要记部二

### 神仙可学论

《洪范》响用五福，其一曰寿。延命至于期颐，皇天犹以为景福之最，况神仙度世永无穷乎！然则长生大庆，无等伦以侔拟，当代之人，忽而不尚，何哉？尝试论之，中智已下，逮于庶民，与飞走蛸翹同。其自生自死，昧识所不及，闻道则相与笑之。中智已上，为名教所检，区区于三纲五常不暇，闻道而若存若亡。能挺然竦身，而不使常情汨没，专以修炼为务者，千万人中或一人而已。又行之者密，得之者隐，故举俗罕为其方。悲夫！昔桑矫问于涓子曰：自古有死，复云有仙，如之何？涓子曰：两有耳。夫言两有者，为理无不存。理无不存，则神仙可学也。嵇公言：神仙，特受异气，禀之自然，若积学所能致。此未必尽其端矣。有不因修学而致者，禀受异气也；有必待学而后成者，功业充也；有学而不得者，初勤中惰，诚不终也。三者各有其旨，不可以一贯推之。人生天地之中，殊于众类，明矣。感则应，激则通。所以耿恭援刀，平陆泉涌；李广发天，伏石饮羽。精诚在于斯须，击犹土石，应若影响，况丹恳久著，真君岂不为之潜运乎？潜运则不死之阶立致矣。孰为真君？则太上也。为神明宗极，独在于窅冥之先，高居紫微



之上，阴鹭兆庶。《诗》称上帝临汝，《书》曰，天监孔明，福善祸淫，不差毫末。而迷悟之子，焉测其源？日用不知，背本向末。故远于仙道者有七焉，近于仙道亦有七焉。

当世之士，未能窥妙门，洞幽赜。雷同以泯灭为真实，生成为假幻。但所取者性，所为者形。甘之死地，乃为常理。殊不知乾坤为《易》之韞，乾坤毁则无以见《易》，形气者为性之府，形气败，则性无所存。性无所存，于我何有？远于仙道一也。

其次，谓仙必有限，竟归沦坠之弊。彼昏于智察，则信诬调。诂知块然之有，起自寥然之无。积虚而生神，神用而孕气。气凝而渐著，累著而成形。形立神居，乃为人矣。故任其流遁则死，反其宗源则仙。所以招真以炼形，形清则合于气；含道以炼气，气清则合于神。体与道冥，谓之得道。道固无极，仙岂有穷乎？举世大迷，终于不悟。远于仙道二也。

其次，强以存亡为一体，谬以前识为悟真。形骸以败散为期，营魄以更生为用。乃厌见有之质，惟谋将来之身。安知入造化之洪炉。任阴阳之鼓铸？游魂迁革，别守他器。神归异族，识昧先形。犹鸟化为鱼，鱼化为鸟，各从所适，两不相通。形变尚莫之知，何况死而再造？诚可哀者而人不哀。远于仙道三也。

其次，以轩冕为得意，功名为不朽，悦色<身除>声，丰衣厚味，自谓封植为长策，贻后昆为远图。焉知盛必衰，高必危，得必丧，成必亏。守此用为深固，置清虚于度外。肯以恬智交养中和，率性通真为意乎？远于仙道四也。

其次，强盛之时为情爱所役，斑白之后，有希生之心。虽修学始萌，而伤残未补。靡蠲积习之性，空务皮肤之好。窃慕道之名，乖契真之实。不除死籍，未载玄录。岁月荏苒，大期

奄至。及将殂谢，而怨咎神明。远于仙道五也。

其次，闻大丹可以羽化，服食可以延龄，遂汲汲于炉火，孜孜于草木，财屡空于八石，药难效于三关。不知金液待诀于灵人，芝英必资于道气。莫究其本，务之于末，竟无所就，谓古人欺我。远于仙道六也。

其次，身栖道流，心溺尘境，动违科禁，静无修习。外招清静之誉，内蓄奸回之谋。人乃可欺，神不可调。远于仙道七也。

若乃性耽玄虚，情寡嗜好。不知荣华之可贵，非强力以自高；不见淫僻之可欲，非闲邪以自正。体至仁，含至静。超迹尘滓，栖真物表，想道结襟，以无为为事。近于仙道一也。

其次，希高敦古，克意尚行。知荣华为浮寄，忽之而不顾；知声色能伐性，捐之而不取。剪阴贼，树阴德，惩忿欲，齐毁誉，处林岭，修清真。近于仙道二也。

其次，身居禄位之场，心游道德之乡。奉上以忠，临下以义。于己薄，于人厚。仁慈恭和，弘施搏爱。外混嚣浊，内含澄清。潜行密修，好生恶死。近于仙道三也。

其次，萧洒华门，乐贫甘贱。抱经济之器，泛若无；洞古今之学，旷若虚。爵之不从，禄之不受。确乎以方外为尚，恬乎以摄生为务。近于仙道四也。

其次，禀明颖之姿，怀秀拔之节。奋忘机之旅，当锐巧之师，所攻无敌，一载而胜。然后静以安身，和以保神，精以致真。近于仙道五也。

其次，追悔既往，洗心自新。虽失之于壮齿，冀收之于晚节。以功补过，过落而功全；以正易邪，邪忘而正在。轹轳不能移其操，喧哗不能乱其情。唯精惟微，积以诚著。近于仙道六也。

其次，至忠至孝，至贞至廉。案《真诰》之言，不待修学而自得。比干剖心而不死，惠风溺水而复生。伯夷、叔齐，曾参孝己，人见其没，道之使存。如此之流，咸入仙格，谓之隐景潜化。死而不忘，此例自然。近于仙道七也。

放彼七远，取此七近，谓之拔陷区，出溺涂，碎祸车，登福舆，始可与涉神仙之津矣。于是识元命之所在，知正气之所由。虚凝澹泊怡其性，吐故纳新和其神。高虚保定之，良药匡补之，使表里兼济，形神俱超。虽未升腾，吾必谓之挥翼于丹霄之上矣。

夫道无为无形，有情有性。故曰：人能思道，道亦思人。道不负人，人负于道。渊哉言乎！世情谓道体玄虚，则贵无而贱有；人资器质，则取有而遗无。庸知有自无而生，无因有而明，有无混同，然后为至。故空寂玄寥，大道无象之象也；两仪三辰，大道有象之象也。若但以虚极为妙，不应以吐纳元气，流阴阳，生天地，运日月也。故有以无为用，无以有为资。是以覆载长存，真圣不灭。故为生者，天地之大德也。所以见宇宙之广，万物之殷，为吾存也。若烟散灰灭，何异于天倾地沦？彼徒昭昭，非我所有。故曰：死者，天人之荼毒。孰能黜彼荼毒，拂衣绝尘，独与道邻？道岂远乎？将斯至矣！

夫至虚韞妙，待感而灵。犹金石含响，待击而鸣。故豁方寸以契虚，虚则静。凭至静以积感，感则通。通则宇宙泰定，天光发明。形性相资，未始有极。且人之禀形，模范天地。五脏六腑，百关四肢，皆神明所居，各有主守。存之则有，废之则无。有则生，无则死。故去其死，取其生。若乃讽《太帝之金书》，研《洞真之玉章》，集帝一于绛宫，列三元于紫房，吸二曜之华景，登七元之灵纲。道备功全，则不必琅玕大还而高举矣。此皆自凡而为仙，自仙而为真。真与道合，谓之神人。

神人能存能亡，能晦能光。出化机之表，入太漠之乡。无心而朗鉴，无翼而翱翔。嬉明霞之馆，宴羽景之堂。欢齐浩劫而无疆，寿同太虚而不可量。此道布在金简，安可轻宣其密奥哉？好学之士，宜启玉检，以探其秘焉。

又儒墨所宗，忠孝慈爱；仙家所尚，则庆及王侯，福荐祖考，祚流子孙。其三者孰为大？于戏！古初不得而详，羲轩已来，广成、赤松、令威、安期之徒，何代不有？远则载于竹帛，近则接于见闻。古今得者，皎皎如彼。神仙可学，炳炳如此。凡百君子，胡不勉之哉！

### 道性论

天尊告善才言：善男子，我欲海空修习因者，即是道性。道性无生无灭。无生灭故，即是海空。海空之空，无因无果。无因果故，以破烦恼。以是因缘，名为修习。善才又言：如所说，道性之性，无生无灭。众生道性，为悉共有各各有之。若共者，一人得入海空藏时，一切众生亦应俱入。譬如怨讎，或千或百。若一人可和千百，则千百亦和一人相怨。道性亦尔，一人时和。一切众生道性，不一不二，究竟平等。犹如虚空，一切众生同共有之。天尊告曰：善男子，深山有宝，名曰上胜，人若取之，则成富有。众生道性，亦复如是。善才又言：如所说上胜宝者，是一是多？若一者，一人得已，则应有尽。山空宝尽，云何而言，一切众生修持净戒得入一乘海空智藏？若是多者，云何而言是海空者，非一切法，众生道性亦如是耶？天尊答曰：善男子，譬如一路，或大或小，一切众生，悉于中行，

无障碍故。道性众生，亦复如是。善男子，譬如宝珠，唯有一门，虽有人多，经游出入，曾无逼怎亦无人能破坏宝珠而赍持去。道性众生，亦复如是。善男子，譬如桥梁，随诸行人，或重或轻，以是桥梁，无有增减。众生道性，亦复如是。又譬如盐味，置于诸物，乃至水中，皆悉咸物。物不名盐，盐不名物，乃至水中，亦复如是。名字虽变，性不失偏。五味之中，皆悉咸味。若有饮水，盐味甚逼，实不见盐于水中。众生道性，亦复如是。维遍五道，长短异身，而道性常一不异。

### 三相论

《海空智藏经》云：三相者，所谓有相，非有相，非无相。若照此相，则得入于智慧之源。夫观三相，舛越不同。自有众生，从有相观，入至无相；自有众生，从无相观，入至有相；自有众生，神意定然，非彼二相，而得观见有无之相。善男子，若有众生，作人学人，常运其心，从有观无，而树意，言：我见万物，今虽现有，必归于无。当知一切，尽是虚无，非有实事。无湛然慧，无观空慧，无应用慧。当知此人，是为断见，虽似智慧，而乖其宗。善男子，若复有人，常运其心，从无观有而树意，言：即此世中，皆从无生，向本无此，而今有之，有何缘生，必因于无。是知无中，皆悉有有。以有有故，一切无无。当知此人，是为狭见。虽以智慧，而失其宗。善男子，若复有人，常运其心，从非有非无中观于有无而树意，言：即世众生，悉皆非有，亦复非无。所以尔者，若言有者，则终归无；若言无者，今见则有；若必尔者，则为不定。不定业故，

不得出生。人天果报，当知六道，形有则有，形灭则无。若作此观，是谓成见，非谓智慧。如此三见，失智慧本。善男子，若复有人，观于三者，作如此心曰：“我观一切无，即是寂寞，不能生物。豁然不动，不能感应。善男子，譬如大山，善能兴云生雨，如此等从有出有，决定当知无无不出。又复观于即有形质。即此形质，是有象有；离此形质，无处名有。又复观于非有非无。善男子，譬如风声，声响遍彻。如此等例，风质非无，质不可得。若言实有，又非碍著。响亦如是。应知此例，非有非无。若有学人作此观者，亦皆失于智慧之本。

善男子，复有人观于三相，作四种意，妙无妙有，粗无粗有。明此四意，自然能见非有非无。何谓妙无？即是道性。以何因缘，道性之理，自为妙无，以渊寂故，以应感故。若以住于渊寂之地，观于诸有，则见无相；若以住于感应之地，观于诸有，则见有相。善男子，若言道性，命为无有中有应感；若言道性，令为有者而实寂泊。以是当知道性之有，非世间有；道性之无，是谓妙无。何等因缘？观于妙有，即是应感。法身之端，岩茂发起，超绝三有。虽有其质，不同凡有。以是因缘，谓为妙有。善男子，以何因缘，观于粗无？粗无即无，无感无应，空处寂漠，豁然而已，谓为粗无。善男子，以何因缘，观于粗有？若粗有者，即是质碍。以碍著故，谓为粗有。善男子，若能善知，遍此四意，分别体相，当知此人已得知非有非无。以何因缘，而得知之？即寻道性义理得之。若有学人，习观三相，了此四意，则为入于智慧宝城，游智慧室，坐智慧床，餐智慧食，是得智慧机相之本。

### 真相论

曜明真人稽首问天尊曰：不审世间真相，为一相耶？天尊告言：曜明真士，今当问子，子之所见，为法见耶？曜明答曰：世间真相，有法见耶？有相见耶？天尊答曰：告言真相，世间本无差别，众生所见，未能通达。但观其相，未能见法，是故分别。世间真相，其相不同。今以慧眼，观世间相，即相是真。能了真相，名为见法。以是之故，不坏世间，而得真相。曜明又曰：不坏世间而得真相，未审世间，何以为相？而言不坏，即是真相。天尊曰：世间相者，即是无明，贪著爱见，瞋恚愚痴等诸烦恼，是世间相。若人能知，烦恼性空，本无贪爱，无明永静，无法可断。以是当知，不断烦恼，而得真相。无相无断，无得无明，无法，无断，无得，名断烦恼。无断，名得真相。以是当知，不断烦恼，而得真相。如向所说，是有二种：一者相见，二者法见。法见之人，言得真相；相见之人，言得烦恼。以是当知，法见之人，常得妙本，故得真相。相见之人，常观粗迹，故得烦恼。若人能知烦恼性空，未曾有法，从迹观本，名得法见。

### 阴阳五行论

阴潜阳内，阳伏阴中。阴得阳蒸，故能上升，阳得阴制，

故能下降。阳蒸阴以息气，阴凝阳以澄精。日月升降，乾坤交泰，而万化成焉。阴阳自少至老，而分为五行。少阳成木，老阳成火。少阴成金，老阴成水。参而和之，而成夫妇。火性炎蒸，木性劲直，金性坚刚，水性润滋，土性和柔。故木以发之，火以化之，水以滋之，土以和之，金以劲之，故得品物成焉。五胜者，皆以生我为利，克彼为用。利用相乘，故有成败。经云：“五行相克，万物悉可全。”云动静者，终始之道，聚散者，化生之门也。阳其动乎？阴其处乎？动以生之，静以息之。淳阳不生，淳阴不成。阴阳更用，昼夜相资。昼日行阳，夜月行阴。阳养于阴，阴发于阳，而明生焉。阳和气者，发于春，王于夏，收于秋，藏于冬。九地之下反有阳，九天之上反有阴。故十一月卦辞云：《复》见其天地之心乎？阳在下也。阳伏地内，潜静之时，故见天心。其在人也，肾藏于阳，脑潜于阴。及其老也，和气不足，阴阳将散，则阳上升，阴下降。故脑热而肾冷。肾无阳气，则脚无力；脑无阴气，则眼目不明。故阴阳不交，万物不成。纯阳亢极，则日月无光，草木以之焦枯。纯阴滞畜，则霖雨淫泆，水淹以之漂荡。故阴阳相磨，天地相荡。震而为雷，击而为电，鼓而为风，结而为雹，蒸而为云雾，液而为雨露，凝而为霜雪。和气为民人，偏气为禽兽，杂气为草木，烦气为虫鱼。



## 卷九十四 仙籍语论要记部三

### 坐忘论（并序凡七篇）

夫人之所贵者，生也；生之所贵者，道也。人之有道，如鱼之有水。涸辙之鱼，犹希升水。弱丧之俗，无心造道。恶生死之苦，爱生死之业。重道德之名，轻道德之行。喜色味为得志，鄙恬素为穷辱。竭难得之货，市来生之福。纵易染之情，丧今身之道。自云智巧，如梦如迷。生来死去，循环万劫。审惟倒置，何甚如之！故《妙真经》云：人常失道，非道失人；人常去生，非生去道。故养生者慎勿失道，为道者慎勿失生。使道与生相守，生与道相保，二者不相离，然后乃长久。言长久者，得道之质也。经云：生者，天之大德也，地之大乐也，人之大福也。道人致之，非命禄也。又《西升经》云：我命在我，不属于天。由此言之，修短在己，得非天与，失非人夺。扪心苦晚，时不少留。所恨朝菌之年，已过知命，归道之要，犹未精通。为惜寸阴，速如景烛。勉寻经旨，事简理直，其事易行。与心病相应者，约著安心坐忘之法，略成七条，修道阶次，兼其枢翼，以编叙之。

### 信敬

夫信者道之根，敬者德之蒂。根深则道可长，蒂固则德可茂。然则璧耀连城之彩，卞和致刖；言开保国之效，伍子从诛。斯乃形器著而心绪迷，理事萌而情思忽。况至道超于色味，真性隔于可欲，而能闻希微以悬信，听罔象而不惑者哉！如人有闻坐忌之法，信是修道之要，敬仰尊重，决定无疑者，加之勤行，得道必矣。故庄周云：隳肢体，黜聪明，离形去智，同于大通，是谓坐忌。夫坐忌者，何所不忌哉！内不觉其一身，外不知乎宇宙，与道冥一，万虑皆遗，故庄子云，同于大通。此则言浅而意深，惑者闻而不信，怀宝求宝，其如之何？故经云：信不足，有不信。谓信道之心不足者，乃有不信之祸及之，何道之可望乎？

### 断缘

断缘者，谓断有为俗事之缘也。弃事则形不劳，无为则心自安。恬简日就，尘累日薄，迹弥远俗，心弥近道，至神至圣，孰不由此乎？故经云：塞其兑，闭其门，终身不勤。或显德露能，来人保己；或遗问庆吊，以事往还；或假修隐逸，情希升进；或酒食邀致，以望后恩。斯乃巧蕴机心，以干时利，既非顺道，深妨正业。凡此之类，皆应绝之。故经云：开其兑，济

其事，终身不救。我但不唱，彼自不和；彼虽有唱，我不和之。旧缘渐断，新缘莫结。醴交势合，自致日疏，无事安闲，方可修道。故庄子云：不将不迎。为无交俗之情故也。又云：无为名尸，无为谋府，无为事任，无为知主。若事有不可废者，不得已而行之，勿遂生爱，系心为业。

### 收心

夫心者，一身之主，百神之帅。静则生慧，动则成昏。欣迷幻境之中，唯言实是；甘宴有为之内，谁悟虚非？心识颠痴，良由所托之地。且卜邻而居，犹从改操；择交而友，尚能致益。况身离生死之境，心居至道之中，安不舍彼乎？能不得此乎？所以学道之初，要须安坐，收心离境，住无所有，不著一物，自入虚无，心乃合道。故经云：至道之中，寂无所有，神用无方，心体亦然。源其心体，以道为本。但为心神被染，蒙蔽渐深，流浪日久，遂与道隔。今若能净除心垢，开释神本，名曰修道。无复流浪，与道冥合，安在道中，名曰归根。守根不离，名曰静定。静定日久，病消命复。复而又续，自得知常。知则无所不明，常则永无变灭。出离生死，实由于此。是故法道安心，贵无所著。故经云：夫物芸芸，各归其根。归根曰静，静曰复命。复命曰常，知常曰明。若执心住空，还是有所，非谓无所。凡住有所，则自令人心劳气发，既不合理，又反成疾。但心不著物，又得不动，此是真定正基。用此为定，心气调和，久益轻爽。以此为验，则邪正可知。若心起皆灭，不简是非，永断知觉，入于盲定。若任心所起，一无收制，则与凡人元来

不别。若唯断善恶，心无指归，肆意浮游，待自定者，徒自误耳。若遍行诸事，言心无染者，于言甚美，于行甚非，真学之流，特宜戒此。今则息乱而不灭照，守静而不著空，行之有常，自得真见。如有时事，或法有要疑者，且任思量，令事得济，所疑复悟，此亦生慧正根。事讫则止，实莫多思，多思则以知害恬，为子伤本，虽骋一时之俊，终亏万代之业。若烦邪乱想，随觉则除。若闻毁誉之名，善恶等事，皆即拨去，莫将心受。若心受之即心满，心满则道无所居。所有闻见，如不闻见，则是非美恶不入于心。心不受外，名曰虚心；心不逐外，名曰安心。心安而虚，则道自来止。故经云：人能虚心无为，非欲于道，道自归之。内心既无所著，外行亦无所为。非静非秽，故毁誉无从生；非智非愚，故利害无由至。实则顺中为常，权可与时消息，苟免诸累，是其智也。若非时非事，役思强为者，自云不著，终非真觉。何邪？心法如眼也。纤毫入眼，眼则不安；小事开心，心必动乱。既有动病，难入定门。是故修道之要，急在除病。病若不除，终不得定。又如良田，荆棘未诛，虽下种子，嘉苗不成。爱见思虑，是心荆棘。若不除翦，定慧不生。或身居富贵，或学备经史，言则慈俭，行乃贪残。辩足以饰非，势足以威物，得则名己，过必尤人。此病最深，虽学无益。所以然者，为自是故。然此心由来依境，未惯独立，乍无所托，难以自安。纵得暂安，还复散乱。随起随制，务令不动，久久调熟，自得安闲。无问昼夜，行立坐卧，及应事之时，常须作意安之。若心得定，但须安养，莫有恼触。少得定分，则堪自乐。渐渐驯狎，唯觉清远。平生所重，已嫌弊漏，况因定生慧，深违真假乎！牛马，家畜也，放纵不收，犹自生鳃，不受驾御；鹰鹞野鸟也，被人击绊，终日在手，自然调熟。况心之放逸，纵任不收，唯益粗疏，何能观妙？故经云：虽有拱

璧，以先驷马，不如坐进此道。夫法之妙者，其在能行，不在能言。行之则此言为当，不行则此言为妄。又时人所学，贵难贱易。若深论法，惟广说虚无，思虑所不达，行用所无阶者，则叹不可思议，而下风尽礼。如其信言不美，指事陈情，闻则心解，言则可行者，此实不可思议，而人不信。故经云：吾言甚易知，甚易行。天下莫能知，莫能行。夫唯不知，是以不吾知也。或有言火不热，灯不照暗，称为妙义。夫火以热为用，灯以照为功。今则盛言火不热，未尝一时废火；空言灯不照暗，必须终夜然灯。言行相违，理实无取。此只破相之言，而人反以为深元之妙。虽则惠子之宏辩，庄生以为不堪。肤受之流，谁能科简？至学之士，庶不留心。或曰：夫为大道者，在物而心不染，处动而神不乱，无事而不为，无时而不寂。今犹避事而取静，离动而之定，劳于控制，乃有动静二心，滞于住守，是成取舍两病。不觉其所执，仍自谓道之阶要，何其谬耶！述曰：总物而称大，道物之谓道，在物而不染，处事而不乱，真为大矣！实为妙矣！然谓吾子之鉴有所未明。何则？徒见贝锦之辉焕，未晓始抽于素丝；才闻鸣鹤之冲天，诂织先资于谷食？蔽日之干，起于毫末；神凝之圣，积习而成。今徒学语其圣德，而不知圣之所以德。可谓见卵而求时夜，见弹而求鸛炙。何其造次哉！故经云：玄德深矣远矣！与物反矣！然后乃至大顺。

### 简事

夫人之生也，必营于事物。事物称万，不独委于一人。巢

林一枝，鸟见遗于丛苇；饮河满腹，兽不吝于洪波。外求诸物，内明诸己。知生之有分，不务分之所无；识事之有当，不任非当之事。事非当则伤于智力，务过分则毙于形神。身且不安，何情及道？是以修道之人，要须断简事物，知其闲要，较量轻重，识其去取，非要非重，皆应绝之。犹人食有酒肉，衣有罗绮，身有名位，财有金玉。此并情欲之余好，非益生之良药，众皆徇之，自致亡败。静而思之，何迷之甚！故庄子云：达生之情者，不务生之所无。以为生之所（无生之所无以为者，分之外物也）。蔬食弊衣，足延性命，岂待酒食罗绮，然后为生哉！是故于生无要用者，并须去之；于生虽用，有余者，亦须舍之。财有害气，积则伤人。虽少犹累，而况多乎！今以随侯之珠，弹千仞之雀，人犹笑之。况弃道德，忽性命，而从非要，以自促伐者乎！夫以名位比于道德，则名位假而贱，道德真而贵。能知贵贱，应须去取。不以名害身，不以位易道。故《庄子》云：行名失己，非士也。《西升经》云：抱元守一，至度神仙，子未能守，但坐荣官。若不简择，触事皆为，则身劳智昏，修道事阙。若处事安闲，在物无累者，自属证成之人。若实未成，而言无累者，诚自诳耳。

### 真观

夫观者，智士之先鉴，能人之善察。究徬来之祸福，详动静之吉凶。得见机前，因之造适。深祈卫定，功务全生。自始之末，行无遗累。理不违此，故谓之真观。然则一餐一寝，居为损益之源，一言一行，堪成祸福之本。虽则巧持其末，不如

拙戒其本。观本知末，又非躁竞之情。是故收心简事，日损有为。体静心闲，方能观见真理。故经云：常无欲，以观其妙。然于修道之身，必资衣食。事有不可废，物有不可弃者，当须虚襟而受之，明目而当之，勿以为妨，心生烦躁。若见事为事而烦躁者，心病已动，何名安心？夫人事衣食者，我之船舫。我欲渡海，事资船舫。渡海若讫，理自不留。何因未渡，先欲废船？衣食虚幻，实不足营。为欲出离虚幻，故求衣食。虽有营求之事，莫生得失之心。则有事无事，心常安泰。与物同求，而不同贪；与物同得，而不同积。不贪故无忧，不积故无失。迹每同人，心常异俗。此实行之宗要，可力为之。

前虽断简，病有难除者，且依法观之。若色病重者，当观染色，都由想耳。想若不生，终无色事。若知色想外空，色心内妄，妄心空想，谁为色主？经云：色者，全是想耳！想悉是空，何有色耶？又思妖妍美色，甚于狐魅。狐魅惑人，令人厌患。身虽致死，不入恶道，为厌患故，永离邪淫。妖艳惑人，令人爱著，乃至身死，留恋弥深。为邪念故，死堕地狱，永夫人道，福路长乖。故经云：今世发心为夫妻，死后不得俱生人道。所以者何？为邪念故。又观色若定是美，何故鱼见深入，鸟见高飞？仙人以为秽浊，贤士喻之刀斧？一生之命，七日不食，便至于死。百年无色，芄免夭伤。故知色者，非身心之切要，适为性命之讎贼，何乃击恋，自取销毁？若见他人为恶，心生嫌恶者，犹如见人自杀己身，引项，承取他刃，以自害命。他自为恶，不遣伐当，何故引取他恶，以为己病？又见为恶者若可嫌，见为善者亦须恶。夫何故？同障道故。若苦贫者，则审观之，谁与我贫？天地平等，覆载无私，我今贫苦，非天地也。父母生子，欲令富贵，我今贫贱，非由父母。人及鬼神，自救无暇，何能有力，将贫与我？进退寻察，无所从来，乃知

我业也，乃知天命也。业由我造，命由天赋。业命之有，犹影响之逐形声，既不可逃，又不可怨。唯有智者，因而善之，乐天知命，不觉贫之可苦。故庄子云：业入而不可舍。为自业。故贫病来入，不可舍止。经云：天地不能改其操，阴阳不能回其业。由此言之，故知真命非假物也；有何怨焉？又如勇士逢贼，无所畏惧，挥剑当前，群寇皆溃，功勋一立，荣禄终身。今有贫病恼害我者，则寇贼也；我有正心，则勇士也；用智观察，则挥剑也；恼累消除，则战胜也；湛然常乐，则荣禄也。凡有苦事，来迫我心，不作此观，而生忧恼者，如人逢贼，不立功勋，弃甲背军，以受逃亡之罪。去乐就苦，何可愍焉！若病者，当观此病，由有我身，我若无身，患无所托。故经云：及吾无身，吾有何患？次观于心，亦无真宰，内外求觅，无能受者。所有计念，从妄心生，若枯体灰心，则万病俱泯。若恶死者，应念我身，是神之舍。身今老病，气力衰微，如屋朽坏，不堪居止，自须舍离，别处求安。身死神逝，亦复如是。若恋生恶死，拒违变化，则神识错乱，自失正业。以此托生，受气之际，不感清秀，多逢浊辱。盖下愚贪鄙，实此之由。是故当生不悦，顺死无恶者，一为生死理齐，二为后身成业。若贪爱万境，一爱一病。一肢有疾，犹令举体不安，而况一心万疾，身欲长生，岂可得乎？凡有爱恶，皆是妄生。积妄不除，何以见道？是故心舍诸欲，住无所有，除情正信，然后返观旧所痴爱，自生厌薄。若以合境之心观境，终身不觉有恶；如将离境之心观境，方能了见是非。譬如醒人，能知醉者为恶；如其自醉，不觉他非。故经云：吾本弃俗，厌离人间。又云：耳目声色，为子留愆，鼻口所喜，香味是怨。老君厌世弃俗，犹见香味为怨。嗜欲之流焉知鲍肆为臭哉！



## 泰定

夫定者，尽俗之极地，致道之初基，习静之成功，持安之毕事。形如槁木，心若死灰，无感无求，寂泊之至。无心于定而无所不定，故曰泰定。庄子云：宇泰定者，发乎天光。宇则心也，天光则慧也。心为道之器宇，虚静至极，则道居而慧生。慧出本性，非适今有，故曰天光。但以贪爱浊乱，遂至昏迷，澡雪柔挺，复归纯静。本真神识，稍稍自明，非谓今时，别生他慧。慧既生已，宝而怀之，勿为多知，以伤于定。非生慧之难，慧而不用为难。自古忘形者众，忘名者寡。慧而不用，是忘名者也，天下希及之，是故为难。贵能不骄，富能不奢，为无俗过，故得长守富贵。定而不动，慧而不用，德而不恃，为无道过，故得深证常道。故《庄子》云：知道易，勿言难。知而不言，所以之天；知而言之，所以之人。古之人，天而不人。慧能知道，非得道也。人知得慧之利，未知得道之益。因慧以明至理，纵辩以感物情。与心徇事，触类而长，自云处动，而心常寂焉。知寂者，寂以待物乎？此行此言，俱非泰定。智虽出众，弥不近道。本期逐鹿，获兔而归。所得盖微，良由局小。故《庄子》云：古之修道者，以恬养智。智生而无以知为也，谓之以智养恬。智与恬交相养，而和理出其性。恬智则定慧也，和理则道德也。有智不用，以安其恬。养而久之，自成道德。然论此定，因为而得成。或因观利而见害，惧祸而息心；或因损舍涤除，积习心熟，同归于定，咸若自然。疾雷破山而不惊，白刃交前而无惧。视名利如过隙，知生死若溃疡。故知用志不

分，乃凝神也。心之虚妙，不可思也。夫心之为物，即体非有，随用非无；不驰而速，不召而至；怒则玄石饮羽，怨则朱夏殒霜；纵恶则九幽匪遥，积善则三清何远？忽来忽往，动寂不能名；时可时否，蓍龟莫能测；其为调御，岂鹿马比其难乎！太上老君运常善以救人，升灵台而演妙，略二乘之因果，广万有之自然。渐之以日损，顿之以不学。喻则张弓凿户，法则挫锐解纷。修之有途，习以成性。黜聪隳体，嗒焉坐忘，不动于寂，几微入照。履殊方者，了义无日，由斯道者，观妙可期。力少功多，要矣！妙矣！

### 得道

夫道者，神异之物，灵而有性，虚而无象，随迎莫测，影响莫求，不知所以不然而然之。通生无匮，谓之道。至圣得之于古，妙法传之于今。循名究理，全然有实。上士纯信，克己勤行。空心谷神，唯道来集。道有至力，染易形神。形随道通，与神为一。形神合一，谓之神人。神性虚融，体无变灭。形与之同，故无生死。隐则形同于神，显则神同于形。所以蹈水火而无害，对日月而无影，存亡在己，出入无间。身为滓质，犹至虚妙，况其灵智益深益远乎！故《灵宝经》云：身神共一则为真身。又《西升经》云：形神合同，故能长久。然虚心之道，力有深浅，深则兼被于形，浅则唯及其心。被形者，则神人也；及心者，但得慧觉而已。身不免谢，何则？慧是心用，用多则体劳。初得小慧，悦而多辩，神气散泄，无灵润身，生致早终，道故难备。经云尸解，此之谓也。是故大人舍光藏晖，以

期全备。凝神宝气，学道无心，神与道合，谓之得道。故经云：同于道者，道亦得之。又云：古之所以贵此道者，何不日求以得，有罪以免耶？山有玉，草木因之不凋，人怀道，形体得之永固。资薰日久，变质同神。练神入微，与道冥一。散一身为万法，混万法为一身。智照无边，形超有际。总色空以为用，合造化以为功。真应无方，信惟道德。故《西升经》云：与天同心而无知，与道同身而无体，然后大道盛矣。而言盛者，谓证得其极。又云：神不出身，与道同久。且身与道同，则无时而不存。心与道同，则无法而不通。耳则道耳，无声而不闻；眼则道眼，无色而不见。六根洞达，良由于此。至论玄教，为利深广，循文究理，尝试言之。夫上清隐秘，精修在感，假神丹以炼质，智识为之洞忘；《道德》开宗，勤信唯一，蕴虚心以涤累，形骸得之绝影。方便善巧，俱会道源；心体相资，理逾车室。从外因内，异轨同归。该通奥赜，议默无逮。二者之妙，故非孔释之所能邻。其余不知，盖是常耳。

## 卷九十五 仙籍语论要记部四

### 法性虚妄

《妙林经》云：天尊告度命真士曰：所谓安乐，皆从心生。心性本空，云何修行？知诸法空，乃名安乐。譬如愁人，心意昏乱，烦毒热闷。于此人前，设诸幻术，木男木女，木牛木马，罗列施张，作诸戏术。愁者见之，如生平牛马相，息诸烦愤，心意泰然。我今亦尔，一切众生，虚妄愁毒，未能安乐。是故我说，修诸功德，无量无边，及诸往生，不思议土。若知虚妄，本无所有，一切众生，举足行步，诸所作为，悉不思议。若知清静，自在无碍，心所求愿，恣意充足。若有修善，当得往生，三清妙土。如此方便，止彼虚妄，而实未曾有彼三清常乐境界之所希望。若欲速得三清宝城，常乐净土，当以大乘无上慧心，观我身相，从无量劫，因何法生？既知无因，乃知我以无我故，是我身常在三清常乐净土。

### 道性因缘

海空智藏作礼问言：天尊，我今思念万兆造化之由，云何一切诸法各有道性从因缘生？以是因缘，应有缚耶？应无缚耶？是五阴耶？是六尘耶？天尊答曰：譬如众生临欲终时，如日之没，临欲没时，山陵堆阜，影见东移，理无西没。众生业果，亦复如是。此五阴灭，彼五阴生。譬如灯明暗灭，灯灭暗生。譬如泥瓶，泥与瓶合，泥灭瓶成。而是泥相，终不名瓶。瓶虽非泥，不余处来，以泥因缘而生是瓶。五阴生灭，亦复如是有烦恼故，名为系缚，无烦恼故，名为解脱。譬如眼根，开时见色，闭时无见。烦恼系缚，合散生灭，更无别法。众生五阴，亦复如是。

### 本性淳善

天尊告最胜童子：当知夫一切六道四生业性，始有识神，皆悉淳善，唯一不杂，与道同体。依道而行，行住起卧，语默饮食，皆合真理。如鱼在水，始生之初，便习江湖，不假教令。亦如玉质本白，黛色本青，火性本热，水性本冷，不开习学，理本自然。一切众生识神，亦复如是。禀乎自然，自应道性，无有差异。云何而生种种恶缘，地狱饿鬼畜生等报？当知皆是六根所引。所以六根六浊六情六染，是四大结，能生种种善恶业因，增长三途。种种知恼，能断无始以来一切善本。又真人决理礼白天尊：既言一切众生，有神识，初淳善不杂，行必合规，动应真理，进退俯仰，行住起卧，莫有失节，一一诸法，皆合道宗，无有差异。若如此者，众生所见及与所闻，动止所为，云何得染粗秽之事？天尊曰：譬如冰寒之堂，淳以冰冻而

为梁柱，床席屏帟，莫非冰结，就此中间，云何得火？云何得热？烦恼之患，一切众生，识神之初，亦复如是。本既为善，所习复善，云何获种种果报？又复天尊：譬如百和之香，共在一筐之内，芬芳流溢，无有一家臭秽之气。识神之初，亦复如是，本既香洁，滓秽无方。又复天尊：譬如日光，灵发明照，于其中间，了无暗黑。识神之初，亦复如是。本既晓了冥昧，云何犹复并用？我今有疑，世间不容于善法中，生无量恶。唯愿大德，为我解说，令诸众会悉皆洗然，离诸疑滞。尔时天尊安详答言：决理真人，如斯切问，不可思议。汝等已曾亲近无量无边一切真人，供养无量无边一切天尊，通达大智，晓了无碍，故能发此微妙之言，我当为汝具实解说，汝等谛听，勿生疲惫。决理大真，夫人心法，不可全以譬喻。如冰冻、琉璃香等。所以尔者，如此物等皆为静法，其安谧，不能变易。是以其体，不能生他。以静因故，物不能入，此譬为异。若喻日者，是义或同。所以尔者，日不恒明，不恒，正有时薄蚀，有时晨隐。心法亦尔，迁动不定，染滞所驱，贪著利己所招尔。

### 有为无为法

尔时天尊告海空智藏言：汝勿邪疑，孰有著相，以寻至真无上之道，宁可得乎？真士当知一切诸法，有为性相，悉皆灭坏，无有常住。所以者何？三界之所行诸法，是知因众生心力。众生之性，念念生灭。有为之法，亦复皆尔。念念生灭，即其生时，已是灭相，即其实时，便生空相。有不常故，故谓为空。无为之法，不可毁灭，不可测量。若有感应，则随事显，若无

感应，湛然恒存。以是当知，继有为者，则有灭相。有灭相故，是谓为空。无所继者，则无毁坏。无毁坏故，是谓为有。汝当思惟，善加分别，一切妙法，本源所在。

### 观四大相

上真童子曰：观诸众生四大之相，何大是我？如空中云，如热时火，如电中光，如水中月，如幻如化，如镜中像，如空中响。包想行识，悉皆如是。众生心相，不可思议，非是二乘之所能了。大哀天尊！众生之相，亦复如是。不来不去，非有非无，非内非外，来无所从，去无所至，而常流转妄受。若皆以众生无始以来，染著我故，增长恶根，受大烦恼，无有穷尽。众生之相，烟煴之温，神本澄清，湛然无杂，一切法本从中而有。以是因缘，一切众生，善恶诸业，唯一心作，更无余法。是故众生，不来不去，不有不无，同等虚空，无分别相。大哀天尊！我观众生，相法如是。

### 色身烦恼

海空智藏白天尊言：大哀天尊！云何凡夫，不见烦恼？于烦恼中，当有身耶？过去世中，身本有耶？未来见在，是身有耶？是身无耶？若有身者，即是色耶？即非色耶？身属他耶？不属他耶？非属他耶？非不属他耶？有命无身耶？无命有身耶？

？有身有命耶？无身无命耶？身之与命，俱有常耶？俱无常耶？常无常耶？非常非无常耶？尔时天尊，安心含笑，答海空言：善哉！善哉！善男子，一切凡夫，有身无身，烦恼之身。何以故？烦恼身者，囊里脓血，障于道性。是故众生，不悟烦恼，有真道性。真道之性，不在内耶，不在外耶，不在中间。亦不有耶，亦不无耶，非过去耶，非见在耶，非未来耶，非色心耶，非自他耶。非有命耶，非无命耶，非有身耶，非无身耶，非有常耶，非无常耶。尔时海空稽首作礼，白天尊言：如是所说，非有身耶，非无身耶，云何烦恼障于道性？道性之身，从父母耶？从微尘耶？从幻化耶？从自然耶？从虚空耶？从变易耶？从善生耶？从恶生耶？从畜生耶？从地狱耶？从天上耶？若从父母生道性者，云何父母是烦恼耶？非烦恼耶？若是烦恼，云何能生真道性者？若是真生，真性应常，云何真性从烦恼生？若从烦恼，烦恼之障，或堕于地狱，道性之生，亦堕地狱。若是不堕，云何道性从烦恼生？若无烦恼，云何烦恼障于道性？以是义故，唯愿慈尊垂哀愍。说时，众颦颦欲有所闻。尔时天尊发微妙音，答海空言：善男子，言道性者，无性之性。非有法性，非无法性。道性之生，亦有亦无。善男子，言道性者，非有身生。非无身生。非非无有，非非有无。亦有身生，亦无身生。善男子，云何烦恼障于道性？言道性者，即烦恼生。非烦恼生，亦是烦恼生。是烦恼亦非烦恼，云何障于道性？善男子，譬如黑云障于日光之光，不生不灭，不去不来，不有不无。道性之生，亦复如是。善男子，道性之生，非父母生，是父母生。何以故？若父母生，父母生已，生无所生。无生之生，譬如花果。花生无果，果生无花。道性之生，亦复如是。道性云何从父母生？善男子，云何道性从微尘生？言道性者，是微尘生，非微尘生；是幻化生，非幻化生；是自然生，非自然生；



是虚空生，非虚空生；是变易生，非变易生；是善因生，非善因生；是恶因生，非恶因生；是畜生生，非畜生生；是地狱生，非地狱生；是天上生，非天上生。以是因缘，无生之生，生生无生。非无法生，非有法生。若如是者，生相不生。若是无者，无生不无，不无不有，是为道性。道性之生，生之所生，生生不生。善男子，向难云，若从父母生道性者，云何父母是烦恼耶？善男子，今当为说道性者，从父母生。善男子，譬如莲花，从淤泥生之生，亦不是泥，亦不非泥。道性之生，亦复如是。亦是父母，亦非父母。善男子，譬如人寄屋生，屋非有人。道性之生，亦复如是。如木寄生，随木而生，生非木种。道性之生，亦复如是。生于烦恼非烦恼。云道性犹如虚空，相不可得。以是当知非烦恼。本亦非众生，亦非非众生。善男子，一切众生，若非父母因缘而生，不识因缘，妄造诸恶，生分别想，不信经典，不爱众生，任命死生，无复极已。以是因缘，分别善恶，不摄六情，生种种爱，诽谤一乘。海空宝藏，闻说不闻，听说不听，起种种念。以是因缘，或得癞病，或得聋盲，或受畜生牛马猪犬，或受人形，六根不具，虽有人形，而无情智。

### 筏喻

《海空智藏经》云：昔有国王以四虎令人养食，瞻视卧起，摩洗虎，令曰：若令一虎生瞋恚者，我依律法当斩汝命。尔时其人闻王教令，心大怖畏，惶惶无所。于是思惟，舍虎而走。尔时大王闻人已走，即遣少刚拔刀随之。其人回顾，见后少刚，即便疾走。是时少刚以恶方便，即藏持刀，密遣一人，假为亲

善而语之言：汝可来还。其人不信，即入空城而自匿。既入城中，视诸精舍，悉空无人。既不见人，即便坐卧。闻空中声，咄哉男子！此城空旷，无有人居。今夜当有四百贼来，汝设遇者，命不安全。汝当云何而得免之？尔时其人益增恐怖，复舍而去。路碍河水，漂流无有船舫，心又愁烦，即取种种草木为筏。复更思惟，我必住此，当为猛虎之所危害。若渡此河，筏不可依，当没水死，终不为彼虎所伤害。即推草筏置之水中，身倚其上，还动手足，截流而去。当到彼岸，安隐如故，心大欢喜。

### 病说

天尊告善种王曰：我说病者，即是烦恼。烦恼既空，病法亦空。病法既空，身法亦空。何以故？烦恼身者，如幻梦故。以是因缘，以空为空。善种又言：地水火风四大之中，何大是身？答云：烦恼身者，非地大生，不离地大。水火风大，亦复如是。一切众生，烦恼身者，从四大起，以之为病，是故真士，随之为病。于是善种得闻说已，即起作礼，赞叹一乘。海空智藏，是我大师，为我辈说言病，诸行无常，身法无我。不说海空，厌离于身。说身有苦，不说常乐。玄都玉京，教导三乘，为诸众生，作大桥梁，度生死海。于空城中，托身有疾。哀彼众生，令识宿世，亿劫中苦，当念饶益一切众生，修弘福田。念于众生，勿令忧恼。劝助众生，勤行进道。作大医王，疗治众生一切病根，慰喻众生，以疾而卧。

尔时海空智藏告善种王：汝等勿疑，我身疾者，而言无疾。

今我疾者，皆前世因，妄相颠倒，诸烦恼生，无有实法，惟之为疾。所以者何？四大合故，假名为身，四大无主，身亦无著。今我疾者，皆由身起。是故于身，不应生著。善种王既知病本，即除我想及烦恼想，当灭法想。汝等大王，应作是念。但以众法，合成此身。我身之身，唯起灭法。此法身者，各不相知。起时不言，我起汝灭，灭时不言，我灭汝起。我念众生，亦复如是。善种大王，汝等当知，应作是念。此法身者，亦是颠倒。是我身者，即是大患。汝等应当厌离此身，云何为离我所？离我所者，即离二法。离二法者，不念内外，诸法平等。云何平等？我等常乐清静，内外无我，我亦清静。此二法者，悉皆空空。以何为空？但以名字，名字故空。如此二法，无决定性。得是平等，无有余病，唯有空病。空病亦空。了空病故，是我有病。今我病者，无受而受，说身无常。法相不灭，而取证信，故设有身。普念众生，发大慈心，说一乘藏，调伏我身。亦当调伏一切众生，除种种病。今我说病，为断众生，攀缘病本。诸根若尽，是我无病。善种大王，若有一人有疾而卧，汝等应当作如是念，诸法无我，我身无常。若空非我，虽身有疾，在生死中，化度一切，而不厌倦，是名方便。汝等又复念于我身，身不离身，是病是身，悲新悲故，是惠方便。设身有病，而寂寞故，莫知方便。善种大王，若有众生有疾而卧，不作是念，不调伏心，不厌离身，而贪求爱，如是人者，是愚人法，当知是人，不离生死地狱。若有一人有疾而卧，念想法法，若空无我，是我身疾在生死中，而不生死。无生死故，生死无我。我于生死，亦无污行。住于常乐，亦不常乐。不寂静故，是海空行。如是之行，永离生死烦恼域中。虽有我身，不依身心。虽在三界，不坏法性。虽行于空，亦无空想。又告善根长者大王：我身虽病，为诸众生有疾而卧。虽行无相，为彼众生而现受

作。虽行无动，为彼众生而作动相，种种演说。虽行一乘，海空智藏，为彼众生而遍现微尘之身。虽行智慧，转大法轮，为彼众生无明暗室，现大道光，照彼烦恼，俱发善心，行一乘行。说是语已，善种大王及诸群臣八千余人，皆发善心。

### 求道二患

天尊告度命真士曰：修身求道，具有二患：一者由有恶患，二者见有身故。如是二患，道之大病。是故众生，若欲求道，当以大乘无上慧心观我身相。既了无身，三业自净。修六度行，行四等心，是名随顺，方便引接。譬喻如行客，隔碍汤谷，欲到彼岸，无因得过。假借舟航，以济沉溺。既至彼岸，向之舟航，无所用之。六度四行，亦复如是。为诸众生，未能体了无生道岸，是故假借六度，安慰其心，令得调伏，即了无身，得致道地。六度诸行，无所复用。度命又言：大德天尊，所说譬喻，要妙深远。一切众生，修众行以求度世。既得度已，无所复行。如是一切成真得道，无所行邪。既无所行，应失大悲。云何大道于众生常行四弘以度众苦？天尊答曰：度命真士，天尊大圣，济生度苦，无彼此故，无爱憎故，无成坏故，无得失故。譬如桥梁，无心度物，不拣净秽，是人非人，牛马骡驴，皆悉通过。天尊大圣，无心大度，亦复如是。虽度众生，无彼此相，无爱憎相，无成坏相，无得失相。犹如大海，容纳百川，无增无灭，无秽无净，无心简择。

### 梦喻虚妄

天尊谓正见童子曰：十方天尊出现于世，为欲断诸众生虚妄，说此妙经深邃之法。诸众生各得净慧，明了法性，无所障碍，知诸法空，本无虚妄。虚妄既空，心性清静，乃知十方一切天尊无出没相。以是之故，十方天尊出现于世，得大利益，一切众生，皆得正见，泰然安乐。譬如夜梦，见诸毒蛇，开利牙齿，近来逼身，拟作吞噬。心神惶惧，东西驰走，叫声烈天，迷闷辟地。床边觉人呼之曰：咄哉睡梦，如斯叫耶？而其梦人，忽然睡觉，伸舒手足，乃知梦见，虚妄非真，心意正定，泰然安乐。一切众生，同在三界无明巨室，诸所为作，皆悉梦幻，无有真实。天尊大圣，说此大乘微妙经典，觉悟一切令得正见。

### 散花喻

《真藏经》云：天尊在灵解山散本微花，其华飘摇遍满法界，非青非白，非赤非黑，非长非短，非大非小，非广非狭，入于细微，离诸色像。华中有自然之果，其果圆净，具一切味，非一切味；具一切声，非一切声；具一切色，非一切色；具一切香，非一切香；具一切触，非一切触；具一切法，非一切法；具一切智，非一切智。其果名具慈甘泉，得此泉味，自然饱满，无饥无渴，恣容端正，妙丽希有，到灵解山，不生不灭，

湛然常住，证无生果。

尔时众中有一童子，名曰善达，从坐而起，上白天尊：不审本微之华，中有自然之果，散满法界，尽诸微尘，无大不覆，无小不入，为赤为白，为青为黑，为长为短，为大为小，为广为狭，为见为闻，为来为去，为天为地。如是华果，浩溥周普，遍成法界，不可思议。不审一切众生，同禀一华，云何诸缘各有差别，善恶不同？生死之业，苦乐殊形？返覆往还，受生各异？或生边夷，或生中国；或生奴婢，或生人王；或生贫贱，或生富贵；或生跛（辟足），或生具足；或生愚痴，或生智慧；或生慳贪，或生布施；或生好杀，或生慈悲；或生五逆，或生孝顺；或生受苦，或生受乐；或生聋盲，或生聪哲；或生禽虫，或生鱼鳖。如此业报，种种不同。唯愿慈悲，分别解释。天尊告善达童子曰：一切法生，皆从一本微华，种种相好，众生迷惑不自觉知。于实相中，横生颠倒。法成受苦见惩。自生不孝，慈爱远离。失本求末，冥冥不晓。长处暗中，无有解脱。慈（敏心）种种，济度显法，因由众中疑惑不了业缘，诸法空寂，毕竟无我。推问：东方生物，有边崖不？南方显照，有极源不？西方衰杀，有情变不？北方冥昧，有穷通不？色声香味触，有色声香味触不？贪嗔痴缚，有贪嗔痴缚不？善恶行业，可修不也？大师所显，推问诸法行业，并无所得，云何差别，苦乐不同？天尊曰：诸法幻生，幻生幻灭。诸法幻灭，幻灭幻生。如是幻相，生灭幻无，生灭幻相，去来幻无，去来，幻相贪痴，幻无贪痴，幻相取舍，幻无取舍，幻相烦恼，幻无烦恼，幻相恩爱，幻无恩爱；幻相差别，幻无差别。幻相一切众生，业缘端正。生灭无幻，来去无幻，贪痴无幻，取舍无幻，烦恼无幻，恩爱无幻，差别无幻。如是空寂，究竟道场。善达闻之，忽然觉悟。

## 论种子

天尊告曜明真人曰：向问言：譬如种子，种子不坏，牙茎枝叶花实等法，从何而生？吾今问子：种子坏邪？牙实生邪？种子若坏，坏则无因，无因有果，斯无是处。牙生种坏，坏则不生，坏为生因，亦非有是，当知种子牙茎，枝叶花实，非生非坏，非因非果，非不因果。烦恼真相，亦复如是，非前非后，非一非异，非不一异。又语曜明：汝为种子坏乃牙生。今又问种子，牙坏时生耶？未坏生耶？坏后生耶？若坏时生者，以坏为生，生则不生。生则坏者，以生为坏，坏则不坏，云何种坏而得生牙？譬如荫壤，身则不生，无荫有身，理则不然。以是当知，种子既坏，牙则不生。无种有牙，理亦不然。是故我言，坏则不生。若有说坏生者，与坏同体，云何得生？譬如一身，诸根同体，云何头坏，而得足生？理则不然。以是当知，种子坏时，牙则不生。生坏同体，理亦不然。是故我言，坏时不生。坏后生者，生灭相离，云何为因？譬如种已先灭，灭即无牙，云何牙后从败种生？以是当知，坏后不生。坏已牙生，理亦不然。是故我言，种子坏后，牙亦不生。又语曜明：种坏牙生，生坏一耶？生坏异耶？生坏一者，坏相相违，云何同体？灭则不生，云何生坏？生坏异者，异则非因。非因生果，理则不然。譬如虚空，非兔角因，虚空非因，生兔角果，理则不然。以是当知，异亦不生。云何不生？又语曜明：未坏生者，则种子体中未变，未变牙生，则无因，无因有果，无种有耶，理则不然。犹如无形，影则不生。形若未生，有影生者，当知此影，不从

形生。譬如麻子未坏，油则不生。以是当知，未坏不生，云何有生？又语曜明：坏后生者，彼种已灭，灭则无因，灭后生牙始生，生则非果。彼种灭已，有芽生者，理则不然。犹如无乳，酪则不生。若无彼乳，而有此酪，是则酪有不从乳生。以是当知，坏后不生，云何有生？检求生相，毕竟永灭，不可得故，是故无生。

### 真假

《升玄经》子明问曰：既无所有，以何为有？道陵答曰：以无所有，而名为有。又问：何名所义？答曰：形声虚伪故。又问：何为虚伪？答曰：乃不住故。又问：云何不住？答曰：速变异故。又问：虽速变异，非无所有也。既已变异，果是有物可变，安得云无？答曰：向变异者，亦不言都无如虚空耶？但言一切所有，皆为非真。生者必死，有者必无，成者必坏，盛者必衰，少壮必老，向有今无，寒暑推移，恍惚无常。父母兄弟，妻子室家，朋友交游，富贵强盛，豪势欣乐，未盈几时，豁然分散，死亡别绝，老病衰耗，诤讼忿恨，失心丧志。诸如此者，忧恼万端，皆为虚幻，无一真实。惟贤人道士，知此非真，是虚伪法。思惟分别，得其真性。冲漠淡泊，守一安神。深解世间，无所有故。即亦俗法，守道念真，安神无为，得不死之术，升仙度世，到长寿官，是名得无所得。又曰：有性常假，无性常无。虽有二名，求之则一。是则一体，而有二名。又曰：有无二名，生于伪物。形见曰有，亡形曰无。相因而然，并非真实。



### 空法

天尊告遍通真人曰：空不可说，我今说空，虚空既空，我说亦空。以是当知，世间虚妄，本无所有。我说世间，不坠虚妄，何以故？虚妄本无所有。我说世间，不坠虚妄，何以故？虚妄性空。我说虚妄，说妄亦空。是故我说，不虚妄。遍通白言：大德天尊，所说世间，一切皆空，随顺众生，有何利益？天尊答曰：遍通真士，为化引故，得出离故，入空门故，灭诸见故，了无相故，明无作故。一切诸行，毕竟寂灭，永不复生。既不生灭，常住不动。是故我今以大悲心，随顺世间，令诸众生，得此大利。

## 卷九十六 赞颂部·赞颂歌

### 太微天帝君《赞大有妙经颂》一章

丹晖映云庭，紫烟光玉林。灿烂七宝花，璀璨瑶灵音。宫商自相和，妙灵开人衿。玄唱种福田，广度无界心。

### 天帝君《赞大有妙经颂》一章

玄化本无迹，有迹生道宗。遨游九天际，息驾六领宫。道畅虚漠内，灵歌发太空。形感至寂庭，思咏希微通。

### 太帝君《赞大有妙经颂》一章

翳翳元化初，渺渺晨霞散。太寂空玄上，寥朗二仪判。凝精抱空胎，结化孕灵观。含真颐神内，倏启冥旦。始悟忧促龄，运交反天汉。

### 《老君本生经颂》一章

众生之本际，寂然无起灭。弱丧迷其根，自与真源别。妄作善恶缘，祸福报无绝。欲得苦海倾，当使爱河竭。守一固专柔，持此无疵缺。正智通群有，妙慧摧诸结。万行混同归，三乘泯殊辙。真静离尘垢，清凉无恼热。

### 《太上智慧偈玄经颂》一章

灵仙乘庆霄，驾龙蹑玄波。洽真表嘉祥，濯足入天河。福应不我期，故能释天罗。道德冠三界，地纲亦以过。感遇灵真会，净慧经莲华。

### 《太上智慧经赞》一章

学仙绝华念，念念相因积。去来乱我神，神躁靡不历。灭念停虚闲，萧萧入空寂。请经若饥渴，持志如金石。保子飞玄路，五灵度符籍。

### 《本愿大戒经颂》一章

学仙行为急，奉戒制情心。虚夷正气居，仙圣自相寻。若不信法言，胡为栖山林。

### 玉皇授演生大洞三十九章与《登龙台歌》二章

飚飚三霞领，徊刚七元盖。八景入太元，飞洒九天外。琼扉生景云，灵烟绝幽藹。西宫咏《洞玄》，清唱扶桑际。守雌森峰间，玄吟五老。欵生有心哉！与尔结中带。（其一）

匏河振沧茫，天津鼓万流。八风驾神霄，缅缅虚中游。咏洞神明唱，音为汝玄投。欵生必至行，肘伏尘中趋。可为苦心哉！当告尔所求。（其二）

### 《西王母授紫度炎光神变经颂》三篇

啸歌九玄台，崖岭凝凄端，心理六觉畅，目弃尘滓氛。流霞耀金室，虚堂散重玄。积感致灵降，形单道亦分。倏欵盼万劫，岂觉周亿椿。（其一）

秀圃蔚神阶，朱扉琼林庭。流风鼓空洞，玉籁乘虚鸣。紫烟缠曲户，丹晖映绿綵。飞旗郁玄盖，羽节耀紫清。登景九霄际，遨游戏凤城。顾爱幽境子，一乐同朝生。（其二）

腾轡控朗晖，宴景洞野外。流浪寻灵人，合形庆霄际。手披朱岛户，朗若神冲泰。金阙郁嵯峨，清景无尘秽。解衿玄阊台，适我良愿会。脱屣三途难，保炼固年迈。（其三）

《灵宝真一自然太上玄一真人颂》一章

众妙出洞真，灿烂曜太清。奉者号仙人，体无永长生。逍遥戏玄虚，宫殿罗无形。蒨粲七宝林，晃朗日月精。龙鳞交横驰，凤凰翔悲鸣。太上治紫台，众真诵洞经。捻香稽首礼，旋行绕宫城。三周归高座，道王为应声。人主弘至道，天下普安宁。

《太上弘道颂》一章

太上玄虚宗，弘道尊其经。俯仰已得仙，历劫无数龄。巍巍太真德，寂寂因无生。霄景结空构，乘虚自然征。日月光炳灼，安和乐未央。

方诸宫东华上房灵妃歌曲一章

紫桂植瑶园，朱华声凄凄。月宫生蕊渊，日中有琼池。左拔员灵曜，右掣丹霞晖。流金焕绛庭，八景绝烟回。绿盖浮明朗，控节命太微，凤精童华颜，琳腴充长饥。控晨挹太素，乘欸翔玉墀。吐纳六虚气，玉嫔挹巾随。弹徵南云扇，香风鼓锦

披。叩商百兽舞，六天摄神威，倏歟亿万椿，龄纪郁巍巍。小鲜未烹鼎，言我岩下悲。

青童大君常吟咏一章

欲植灭度根，当拔生死栽。沉吟堕九泉，但坐惜形骸。

太虚真人常吟咏一章

观神载形时，亦如车从马。车败马奔亡，牵连一时假。哀世俱识此，但是惜风火。种罪天纲上，受毒地狱下。

西城真人王君常吟咏一章

形为渡神舟，泊岸当别去。形非神常宅，神非形常载。徘徊生死轮，但苦心犹豫。

小有真人王君常吟咏一章

失道从死津，三魂迷生道。生生日已远，死死日已早。悲

哉苦痛客，根华已颠倒。起就零落尘，焉知反枯老。

已上四首诗，去月秋分日，瑶台大会，四君吟此言，以和《玄韵》、《广韶》之弦声。右英夫人说此。

### 郭四朝常乘小船游戏塘中叩船而歌四首

清池带灵岫，长林郁青葱。玄鸟翔幽野，悟言出从容。鼓楫乘神波，稽首希晨风。未获解脱期，逍遥丘林中（晨风谓上清玉晨之风，非《毛诗》所称“鸛彼晨风”之鸟也）。（其一）

浪神九陔外，研道遂全真。戢此灵凤羽，藏我华龙鳞。高举方寸物，万吹皆垢尘。顾哀朝生蟪，熟尽汝车轮（女笼不蔽席，男爱不尽轮。朝生，蜉蝣也。以喻人之在世，易致消歇）？（其二）

游空落非飚，灵步无形方。圆景焕明霞，九凤唱朝阳。挥翮扇天津，晻蔼庆云翔。遂造太微宇，挹此金黎浆。逍遥玄陔表，不存亦不亡。（玄陔，九陔也。皆八极之外，九霞之顶名也。飞登木星，亦云朗东阳之陔。故若士语卢敖云：“与汗漫期于九陔之上也。”）（其三）

驾欵舞神霄，披霞带九日。高皇齐龙轮，遂造北华室。神虎洞琼林，风云合成一。开阖幽冥户，灵变玄迹灭（四朝为玉台，执盖郎，故云：“高皇齐轮”）。（其四）

保命仙君告许虎牙杜广平常喜歌一章（杜契字广平，隐居华阳。）

淳景翳广林，暖日东霞升。晨风匡六烟，勃郁八道腾。五岳何必秀？名山亦足陵。矫首蹶洞阜，栖心潜中兴。吐纳胎精气，玄白谁能胜？

### 西王母宴汉武帝上元夫人弹云林之瑟歌步虚之曲一章

昔涉玄真道，腾步登太霞。负笈造天关，借问太上家。忽过紫微垣，真人列如麻。绿景清飏起，云盖映朱葩。兰宫敞珠扇，碧空启琼沙。丹台结空构，曜晔生光华。飞凤蹑薨峙，烛龙倚逶蛇。玉胎来绛芝，九色纷相擎。挹景练仙骸，万劫方童牙。谁有寿前终？扶桑不为查。

### 西王母又命侍女田四妃答歌一章

晨登太灵宫，挹此八玉兰。夕入玄元阙，采蕊拨琅玕。濯足匏瓜河，织女立津盘。吐纳挹景云，味之当一餐。紫微何济济，琼轮服朱丹。旦发汗漫府，暮宿句陈垣。去之道不同，且各体所安。二仪复犹存，奚疑亿万椿。莫与世人说，行尸言此难。

### 王母赠魏夫人歌一章（并序）



夫人既白日升晨，在王屋山时，九微元君、龟山王母、三元夫人双礼珠、紫阳左仙石路成，太极高仙伯延盖公子、西成真人王方平、太虚真人南岳赤松子、桐柏真人王子乔等，并降夫人，小有清虚上宫绛房之中，时夫人与王君为宾主焉。设琼酥绿酒，金觞四奏，各命侍女陈曲成之韵。于是王母击节而歌：

驾我八景舆，欵然入玉清。龙裙拂霄汉，虎旂摄朱兵。逍遥玄津际，万流无暂停。哀此去留会，劫尽天地倾。当尽无中景，不死亦无生。体彼自然道，寂观合太冥。南岳挺真翰，玉映曜颖精。有任靡期事，虚心自受灵。嘉会绛河内，相与乐未央。

### 双礼珠弹云縠而答歌一章

玉清出九天，神馆飞霞外。霄台焕崖峨，灵夏秀蔚翳。五云兴翠华，八风扇绿气，仰吟《消魔》咏，俯研智与慧。万真启晨景，唱期绛房会。挺颖德音子，神映乃拂沛。天岳凌空构，洞台深幽邃。游海悟井隘，履真觉世秽。舞轮宴重空，笙鱼自然废。回我大椿罗，长谢朝生世。

### 高仙盼游洞灵之曲一章（并序）

玉皇又命欵生入隐室，见上清元君、龟山君。于是二真乃

各命侍女王延贤、于广运等弹云林琅轩之敖，侍女安德音、范四珠击昆明之筑，侍女左抱容、韩能宾吹凤鸾之箫，侍女赵运子、李庆玉拊流金之石，侍女辛白鹄、郑辟方、燕婉来、田双连等四人合歌。

玉室焕东霞，紫辇浮绛晨，华台何盼目，北宴飞天元。清净太无中，渺渺蹑景迁。吟咏《大洞》章，唱此《三九》篇。曲寝大漠内，神王方寸间，寂室思灵晖，何事苦山林。须臾变衰翁，回为孩中颜。

#### 四真人降魏夫人歌共五章（并序）

四真人降魏夫人静室，教神真之道，授《黄庭》等经，因设酒肴，四真吟唱。太极真人先命北寒玉女宋联消弹九气之敖，方诸青童又命东华玉女燕景珠击西盈之钟，扶桑暘谷神王又命云林玉女贾屈庭吹凤喉之箫，清虚真人又命飞玄玉女鲜于灵金拊九合玉节。于是太极真人发《飞空》之歌一章。

丹明焕上清，八风鼓太霞。回我神霄辇，遂造玉岭阿。咄嗟天地外，九围皆吾家。上采日中精，下饮黄月华。灵观空无中，鹏路无间邪。顾见魏贤安，浊气伤尔和。勤研玄中思，道成更相过。

#### 方诸青童歌一章

太霞扇晨晖，九气无常形。玄辔飞霄外，八景乘高清。手

把玉皇袂，携我晨中生。盼观七曜房，朗朗亦冥冥。超哉魏氏子！有心复有情。玄挺自嘉会，金书东华名。贤安密所研，相期暘谷汧。

### 次扶桑神王歌一章

晨启太帝室，超越匏瓜水。碧海飞翠波，连岑赤岳峙。浮轮云涛际，九龙同轡起。虎旗郁霞津，灵风翻然理。华存久乐道，遂致高神拟。拔徒三缘外，感会乃方始。相期阳洛宫，道成携魏子。

### 次清虚真人歌二章

驾歛控清虚，徘徊西华馆。琼林既神杪，虎旗逐烟散。慧风振丹旂，明烛朗八焕。解襟庸房里，神铃鸣籥。栖景若林柯，九弦玄中弹。遗我积世忧，释此千年叹。怡盼无极已，终夜复待旦。（其一）

紫霞舞玄空，神风无纲领。歛然满八区，祝尔豁虚静。八窗无常朗，有冥亦有灵。洞观三丹田，寂寂生形景。凝神挺相遇，云姿卓铄整。愧无郢石运，盖彼自然颖。勤密摄生道，泄替结灾眚。灵期自有时，携袂乃俱上。（其二）

### 《人间可哀》之曲一章（并序）

太子文学陆鸿渐，撰《武夷山记》云：武夷君，地官也，相传每于八月十五日，大会村人于武夷山上，置幔亭，化虹桥，通山下。村人既往，是日，太极玉皇、太姥魏真人、武夷君三座空中，告呼村人为曾孙，汝等若男若女呼坐。乃命鼓师张安凌槌鼓（木槌也），赵元胡拍副鼓，刘小禽坎苓鼓，曾少童摆兆鼓，高知满振嘈鼓，高子春持短鼓，管师鲍公希吹横笛，板师何凤儿抚节板。次命弦师董娇娘弹箜篌，谢英妃抚掌离（芭蕉）。吕阿香戛圆腹（琵琶），管师黄次姑噪悲栗（芭蕉），秀琰鸣洞箫，小娥运居巢（笙也），金师罗妙容挥撩铍（铜铍也）。乃命行酒，须臾酒至，云酒无谢。又命行酒，乃令歌师彭令昭唱《人间可哀》之曲，其词曰：

天上人间，会合疏稀。日落西山兮！夕鸟归飞。百年一饷兮！志与愿违。天宫咫尺兮！恨不相随。

### 巴谣一章（并序）

秦始皇三十一年九月庚子，茅盈高祖蒙于华山之中，乘云驾鹤，白日升天。先是时有《巴谣歌》曰：

神仙得者茅初成，驾龙上升入太清，时下玄洲戏赤城。继世而往在我盈，帝若学之腊嘉平。

杨羲真人梦蓬莱仙公洛广休召四人各赋诗一章石安庆先作诗一章

灵山造太霞，竖岩绝霄峰。紫烟散神州，乘飚驾白龙。相携四宾人，东朝桑林公。广休年虽前，壮气何蒙蒙？实未下路让，推年以相崇。

次张诱世作诗一章

北游太漠外，来登蓬莱阙。紫云构灵宫，香烟何郁郁！美哉洛广休，久在论道位。罗骈真人座，齐观白龙迈。离式四人用，何时共解带？有怀披襟友，欣欣高晨会。

次许玉斧作诗一章

游观奇山献，漱濯沧流清。遥睹蓬莱间，屹屹冲霄冥。五芝被绛岩，四阶植琳琼。纷纷灵华散，晃晃焕神庭。从容七觉外，任我摄天生。自足方寸里，何用白龙荣。

### 次丁玮宁作诗一章

玄山构沧浪，金房映灵轩，洛公挺奇尚，从容有无间。形沈比寒宇，三神接九天，同寮相率往，推我高胜年。弱冠石庆安，未肯崇尊贤。嘲笑蓬莱公，呼此广休前。明公将何以，却此少年翰？

### 吴王夫差书一章（并序）

《天文五符》云：仙人乐修门于劳盛山上，刻石作《五符文》。

玄津流绛波，昆碧映琅山。朝日控晨辉，荟艳何婉孌！游云落太阳，飏景凌三天。《灵宝》曜九虚，幽明钟山间。夏禹登八窗，散气响金兰。因枝振玉条，绿波讨洪源。扶质立灵干，垂叶以结繁。渺邈龙凤迹，灿烂九天翰。仰挹三辰精，保身永长安。俯漱五华液，还复反童颜。腾神温凉宫，岂知热与寒。千秋似清旦，万岁犹日半。鼓翼空洞上，要我灵宝官。焚焚五帝驾，俱会景漠端。相问饥与渴，玄泉饶流丹。永仙方寸内，八遐无易难。顾闻朱门臭，当涂中有难。铭碣劳岩阴，穴岫可稽盘。

辛亥子诗三首（并序）

玄子字延期，陇西定谷人也。汉明帝时，谏议大夫、上洛云中赵国三郡太守辛隐之子也。

玄子少好至道，遵奉法戒，先世殃流，享年不永，没命于长津。西王母见我苦行，酆都北帝愍我道心，告敕司命，传檄三官，摄取形骸，还魂复真，使我颐胎，位为灵神。近得度名南宫，定策朱陵，藏精待时，方列为仙。而太帝令见差领东海

氏更生，又选补禁元中郎将吴越鬼神之司。故来相从，今赠诗三篇，以叙推情之至也（注云：“杨君既为吴越司命，董统鬼神。玄子职隶，方应相闻，故先造此诗陈情。”）。

畴昔入冥乡，顺驾应灵招。神随空无散，气与庆云消。形非明玉质，玄匠安能雕。蹠足吟幽唱，仰手玩鸣条。林室有逸欢，绝此轩外交。遗景附圆曜，嘉音何寥寥（此篇叙事迹之本志也）。（其一）

寂通寄兴感，玄气摄动音。高轮虽参差，万刃故来寻。萧萧研道子，合神契灵襟。委顺浪世化，心漂窈窕林。同期理外游，相与静东岑（此篇抒情寄之来缘也）。（其二）

命驾广邺阿，逸迹幽冥乡。空中自有物，有中亦无常。悟言有无际，相与会濠梁，目击玄解了，鬼神理自忘（此篇论人鬼之幽致也）。（其三）

## 卷九十七 赞颂部·歌诗

### 太微玄清左夫人歌一首（并序）

太微玄清左夫人，太微之上真也。晋兴宁三年乙丑十二月十七日，与太元真人众真降于句曲金坛真人杨羲之室，吟北渚宫中歌，词曰：

郁蔼非真墟，太元为我馆。玄公岂有坏，縈蒙孤所难。落凤控紫霞，矫辔登晨巘。寂寂无濠涯；晖晖空中观。隐芝秀凤丘，逡巡瑶林畔。龙胎婴尔形，八琼回素旦。琅华繁玉宫，结葩凌岩灿。鹏扇绝亿岭，拊翮扶霄翰。西庭命长歌，云敖弃虚弹，八风缠绿宇，丛烟豁然散。灵童掷流金，火微启辞案。三元折腰舞，紫皇挥袂赞。朗朗扇景辉，晔晔长庚焕。超絳眇明刃，下眄使我惋。顾哀地仙辈，何为栖林涧？

### 灵凤歌一首（并序）

《本行经》云：西方卫罗国王有女，字曰丑瑛，与凤共处。于是灵凤常以羽翼扇女。十二年中，女忽有胎。王意而怪之，



因斩凤头，埋着长林丘中。女后生女，名曰皇妃，叹而歌曰：  
杳杳灵凤，绵绵长归。悠悠我思，永与愿违。万劫无期，  
何时来飞？

于是王所杀之凤郁然而生，抱女俱飞，径入云中去。

### 女仙张丽英石鼓歌一首（并序）

《金精山记》云：汉时张芒女，名丽英，面有奇光，不照镜，但对白纨扇如鉴焉。长沙王吴芮闻其异质，领兵自来聘。女时年十五，闻芮来，乃登此山仰卧，披发覆于石鼓之下，人谓之死。芒妻及芮使人往视，忽见紫云郁起，遂失女所在，得所留歌一首，在石鼓之上，歌曰：

石鼓石鼓，悲哉下土。自我来观，民生实苦。哀哉世事！悠悠我意。我意不可辱兮！王威不可夺余志。有鸾有凤，自歌自舞，凌云历汉，远绝尘罗。世人之子，其如我何？暂来期会，运往即乖。父兮母兮！无伤我怀（至今石鼓一处黑色直下，状女垂发，时人号为张女发）。

### 汉初童谣歌一首（并序）

汉初，有四五小儿戏于路中一儿歌曰：

著青裙，入天门，揖金母，拜木公。

时人皆莫知之，唯张子房知之，乃往拜焉，曰：此乃东王

公之玉童也。言仙人得道升天，当揖金母而拜木公也。自非冲虚登真之子，莫知其津矣！

### 萼绿华赠羊权诗三首（并序）

萼绿华者，仙女也。年二十许，上下青衣，颜色绝整。以晋穆帝升平三年己未十一月十日夜降于羊权家，自云是南山人，不知何山也。自此一月辄六过其家。权字道舆，即晋简文帝黄门郎羊欣之祖也。权及欣皆潜修道要，耽玄味真。绿华云：我本姓杨。又云：是九嶷山中得道女罗郁也。宿命时曾为其师母毒杀乳妇，玄洲以先罪未灭，故暂谪降臭浊，以偿其过。赠权诗一篇，并火浣布手巾一条，金玉条脱各一枚。条脱似指环而大，异常精好。谓权曰：慎无泄我下降之事，泄之则彼此获罪。因曰：修道之士，视锦绣如弊帛，视爵位如过客，视金玉如瓦砾。无思无虑，无事无为。行人所不能行，学人所不能学，勤人所不能勤，得人所不能得。何者？世人行嗜欲，我行介独；世人学俗务，我学恬漠；世人勤声利，我勤内行；世人得老死，我得长生。故我今已九百岁矣。授权尸解药，亦隐影化形而去，今在湘东山中。绿华初降，赠诗曰：

神岳排霄起，飞峰郁千寻。寥笼灵谷虚，琼林蔚萧森。羊生标美秀，弱冠流清音。栖情庄惠津，超形象魏林。扬彩朱门中，内外迈俗心。（其一）

我与夫子族，源胄同渊池。宏宗分上业，于今各异枝。兰金因好著，三益方觉弥。（其二）

静寻欣斯会，雅综弥龄祀。谁云幽鉴难？得之方寸里。翹

想樊笼外，俱为山岩士。无令腾虚翰，中随惊风起。迁化虽由人，藩羊未易拟。所期岂朝华，岁暮于吾子。（其三）

### 九华安妃赠杨司命诗二首（并序）

九华安妃者，晋兴宁三年乙丑六月二十五日夜，与紫微王夫人降金坛杨羲家。妃著云锦裙，上丹下青，文彩光鲜，腰中有绿绣带，系十余小铃，铃作青黄色，更相参间。左带玉佩，亦如世间佩，但几小耳。衣服倏倏有光，照眠室内。如日中映视云母形也。云发鬢鬢，整顿绝伦，顶中作髻，余发垂下至腰，指著金环，白珠约臂，年可十三四许。左右有二侍女，一著青衣，带青章囊，手持一锦囊，长一尺二寸，盛书，书当十许卷，以白玉检检囊口，检上刻字云《玉清神虎内真紫元丹章》。其一侍女著青衣，捧白箱，以绛带束络之，白箱似象牙形。侍女年可十七八许，整饰非常。妃及侍者颜容莹朗，鲜彻如玉，五香芬馥，如烧香婴气也。初来入户，在紫微夫人后行，夫人启之，始乃见告曰：今日有贵客来。于是杨君起立。紫微曰：可不须起，但当共坐，自相向作礼耳！于是就坐，相礼毕，紫微曰：此即上真元君金台李夫人之少子也。太虚元君昔遣诣龟山学上清道，道成，受太上书，署为紫清上宫九华真妃也，赐姓安名郁嫫字虚箫。紫微问杨君：世曾见有此人否？答曰：灵真高秀，无以为喻。妃手中先握三枚枣，色如乾枣而形长大，亦不作枣味，食之无核，味似梨，而妃、夫人、杨君各食一枚。妃问：君年几？答：三十六，庚寅岁九月生。妃曰：君师南真夫人，司命秉权，道高妙备，实德之宗也。闻君德音甚久，不

期今日契冥运之会。君答：以沉湎下俗，尘染其质，高卑云邈，无缘稟敬，猥亏灵降，欣踊罔极。唯蒙启训，以祛其暗，济其兀兀，夙夜所愿也。妃曰：君今语不得有谦饰之词，谦饰殊非事宜。良久，命杨染笔，为诗毕，妃取视之，曰：今以相赠，以宣丹心，若意中有不解者，自可徵访耳。诗曰：

云阙竖空上，琼台竦郁罗。紫宫乘绿景，灵观蔼嵯峨。琅轩朱房内，上德焕绛霞。俯漱灵瓶津，仰掇碧蘼花。濯足玉天池，鼓枻牵牛河。遂策景云驾，落龙轡玄阿。振衣尘滓际，褰裳步浊波。愿为山泽结，刚柔顺以和。相携双清内，上真道不邪。紫微会良谋，唱纳享福多。（其一）

驾欵发西华，无待有待闻。或眇五岳弁（音峰），或濯天河津。释轮寻虚舟，所在皆缠绵。芥子忽万顷，中有昆仑山。小大固无殊，远近同一缘。彼作有待来，我作无待亲。（其二）

### 中候王夫人诗四首（并序）

东华夫人、紫清内传妃，领东宫中候真夫人，亦为紫微之姊，理在沧浪云林宫，晋兴宁三年乙丑，降金坛杨羲之家，云：灵王有子三十八人，子晋太子也。师事嵩岳浮丘公，白日升天，中候名观香，字众爱，是宋姬子，于子晋为别生妹。子晋兄弟五人，妹二人，凡七人得道。弟眉寿，即观香同母兄也。是夕，裴清灵真人、王桐柏真人、昭灵李夫人、紫微王夫人、右英王夫人、南岳魏夫人同降。中候所受修真之道，与定禄同，受曰：凤巢高木，素衣衫然，履顺思贞，凝心虚玄。五公石腴，彼体所便，急宜服之；可以少颜。三八令明，次行玄真，

解驾偃息，可诵洞篇。琼刃应数，精心高栖，隐嘿沈闲，正气不亏。木散除疾，是汝所宜，次服丁，兼谷勿违。益髓除患，肌肤充肥，然后登山，咏洞讲微。寅兽白齿，亦能见机，遂得不死，过度壬辰。偃息盛木，玩执周书，太极植简，金名西华。与服可否，自应灵符，理契同神，（原厥）洞相求（此解许长史名穆字思玄，及玉斧虎牙名字，劝修习服饵）。众真为诗，中候吟曰：

龙旗舞太虚，飞轮五岳阿。所在皆逍遥，有感与冥歌。无待喻有待，相遇故得和。沧浪奚足辽，玄井不为多。郁绝寻步间，俱会四海罗。岂若绝明外，三劫方一过。（其一）

八涂会无宗，乘运观器罗。化浮尘中际，解衿有道家。眇烟忽未倾，携真造灵阿。虚景磐琼轩，玄钧作凤歌。适路无轨滞，神音匡云波。齐德秀玉景，何用世间多？（其二。受此毕，吟良久，复受曰）

但观夷天真，去累纵众情。体寂废机驰，崇有则摄生。焉得齐物子！委运任所经。（其三）

登縟发东华，扇风舞太玄。飞辔腾九万，八落亦已均。暂眇山水际，窈窕灵岳间。同风自齐气，道合理亦然。龙芝永遐龄，内观摄天真。东岑可长静，何为物所缠？（其四）

### 方丈台昭灵李夫人诗三首（并序）

方丈台东宫昭灵李夫人者，即北元中玄道君李庆宾之女、太保玉郎李灵飞之妹也。以汤时得道，白日升天，受书为东宫昭灵夫人，治方丈台第十三朱馆中。东晋哀帝兴宁三年乙丑八

月二十二日夜，降于真人杨羲之家。夫人著紫锦衣，带《神虎符》，握流金铃，年可十三四许。有两侍女，年可二十一二，名隐晖，皆青绫衣，捧白玉箱二枚，青带络之，题曰《太上帝章》，一曰《太上玉文》。夫人带青色绶，如世人带章囊状，隐章当长五丈许，三四尺。与上元夫人、紫微夫人、右英夫人，诸真同降，临去作诗曰：

云幄带天构，七气焕神凭。琼扉启晨鸣，九音绛枢中。紫霞与朱门，香烟生绿窗。四驾舞虎旗，青綵掷玄空。华盖随云列，落凤控六龙。策景五岳阿，三素眇君房。适闻臊秽气，万浊污我胸。臭物薰精神，嚣尘互相冲。明玉皆璀璨，何独盛得躬？高揖苦不早，坐地自生虫。

其年九月三日复降，又歌曰：

纵酒观群慧，倏欻四落周。不觉所以然，实非有待游。相遇皆欢乐，不遇亦不忧。纵影玄空中，两会自然畴。

十二月一日夜，南岳夫人又吟寄许玉斧诗曰：

飞轮高晨台，控轡玄垄隅。手携紫皇袂，倏忽八风驱。玉华翼绿帟，青裾扇翠裾。冠轩焕崔嵬，佩玲带明珠。薄入风尘中，塞鼻逃当除。臭腥凋我气，百阿令心徂。何不飏然起，萧萧步太虚？

### 南极王夫人授杨羲诗三首（并序）

南极王夫人，王母第四女也。名林，字容真，一号南极紫元夫人，或号南极元君，理太丹宫，受书为金阙圣君、上保司命。汉平帝时，降于阳洛山石室之中，授清虚真人、小有天王

王褒字子登《太上宝文》等经三十一卷。夫人年可十六七许，著锦帔，青羽裙，左佩虎书，右带挥灵，形貌真正，天姿掩蔼。乘羽宝之车，驾以九龙，女骑九千。居渤海丹海，长离山中，主教当为真人者。晋兴宁三年乙丑，降真人杨羲之家，与真人同会，因吟授羲曰：

控飏扇太虚，八景飞高清。仰浮紫晨外，俯看绝落溟。玄心空间间，上下弗流停。无待两际中，有待无所管。体无则能死，体有则摄生。东宾会高唱，二待何足争（东宾，东岳上卿大茅君也）？（其一）

命驾玉锦轮，舞辔仰徘徊。朝游朱火宫，夕宴夜光池。浮景清霞杪，八龙正参差。我作无待游，有待辄见随。高会佳人寝，二待互是非。有无非有定，待待各自归。（其二）

是岁六月二十三日夜，南极夫人又吟 受杨君曰：

林振须类感，云郁待龙吟。玄数自相求，触节皆有音。飞綯出西华，总辔忽来寻。八遐非无娱，同咏理自钦。悼此四维内，百忧常在心。俱游北寒台，神风开尔襟。（其三）

### 紫微王夫人诗一十七首（并序）

紫微夫人名青娥，字愈音，王母第二十女也。昔降授《太上宝神经》与裴玄仁，裴得道，拜清灵真人。晋兴宁三年乙丑六月，降杨羲之家。时与太元真人、桐柏真人、右英夫人、南岳夫人同降，言夫人位为紫微宫左夫人，镇羽野玄陇之山上宫，主教当成真人者。是夕，真人会右英夫人，歌修真之事。夫人答歌曰：

乘飚溯九天，息驾三秀岭。有待徘徊盼，无待固当静。沧浪奚足劳，孰若越玄井？

又吟曰：

龟阙郁巍巍，墉台落月珠。列坐九灵房，叩敖吟太无。玉箫和我神，金醴释我忧。

又吟曰：

宴酣东华内，陈钧千百声。青君呼我起，折腰希林庭。羽帔扇翠晖，玉佩何铿零！俱指高晨殿，相期象中冥。

又叙玄陇之游，吟曰：

超举岁绛霄，飞飚北垓庭。神华映仙台，圆曜随风倾。启晖挹丹元，靡景餐月精。交袂云林宇，浩轸还童婴。萧萧寄无宅，是非岂能营？世纲自扰竞，安可语养生？

九月六日夕，云林又降，命杨君染笔喻作，吟曰：

解轮太霞上，敛辔造紫丘。手把八天气，纵身空中浮。一眄造化纲，再视索高畴。道要既已是，可以解千忧。求真得良友，不去复何求？

吟此令示许长史穆及郗方回。又吟曰：

紫空朗玄景，玄宫带绛河。济济上清房，灵台焕嵯峨。八舆造朱池，羽盖倾霄柯。震风回三晨，金铃散玉华。七轡降九陔，宴眇不必家。借问求道子，何事坐尘波？岂能栖东秀，养真收太和？

亦令示许与郗。十月十八日又与众降，命杨君书曰：

左把玉华盖，飞景蹑七元。三晨焕紫辉，竦眇抚明真。变踊期须臾，四面皆已神。灵发无涯际，勤思《上清》文。何事坐横途？令尔感不专。阴疴失玄机，不觉年岁分。

徐谓杨君曰：夫令勤者勤其事，耽其玄微耳！慎者亦触类而作也。学道之难，不可书矣！有耻鄙之心者，于道亦辽乎！



灌秉然后可贵耳！贤者之举，自更始尔，今且当内忘也。因吟曰：

玄清眇眇观，落景出东渟。愿得绝尘友，萧萧罕世管。

吟此再三，又曰：

灵人隐玄峰，真人韬云来。玄唱非无期，妙应自有待。岂期虚空寂，至韵固常在。携襟登羽宫，同宴广寒褰。借问朋人谁？所存惟玉女。

吟竟曰：卓云虚之骏，抗翮于崆峒之上。斯人也，岂不长挹南面，求谢千乘乎！二月三十日吟一章曰：

褰裳济渌河，遂见扶桑公。高会太林墟，赏宴玄华宫。信道苟淳笃，何不栖东峰（此亦叙方诸东华之胜也）？

四月十四日又作七章，词曰：

控景始挥津，飞飏登上清，云台郁峨峨，闾阖秀玉城。晨风鼓丹霞，朱烟洒金庭。绿叶灿玄峰，紫芝岩下生。庆云缠丹炉，炼玉飞八琼。宴眇广寒宫，万椿愈童婴。龙旗启灵电（旗音斤）。虎旗徵朱兵。高真回九曜，洞观均潜明。谁能步幽道？寻我无穷龄。（其一）

翳蔼紫微馆，郁台散景飏。鸾唱华盖间，凤钧导龙輶。八狼携绛旌，素虎吹角箫。云勃写灵宫，来适尘中器。解辔佳人所，同气自相招。寻宗须臾顷，万龄乃一朝。椿期会足衰，劫往岂足辽？真真乃相目，莫令心徂抄。虚刀挥至空，鄙滞五神愁。（其二）

朝启东晨晖，飞綈越沧溟。山波振青涯，八风扇玄烟。回眇易迁房，有怀真感人。三金可游盘，东岑宜永甄。纷纷当途中，孰能步生津？（其三）

飘摇八霞岭，徘徊飞晨盖。紫綈腾太虚，晒眇九虚外。玉箫激景云，灵烟绝幽蔼。高仙宴太真，清唱无涯际。去来山岳

庭，何事有待迈？（其四）

神玉曜灵津，七元焕神扉。虚迁方寸里，一跃登太微。妙音乘和唱，高会亦有机。齐此天人眄，协彼晨景飞。总辔六合外，宁有倾与危？（其五）

薄宴尘飚岭，代谢绿还归。奚识灵劫期？顾眄令人悲。（其六）

云草荫玄方，仰感旋曜精。洗洗繁茂萌，重德必克昌。（其七）

## 卷九十八 赞颂部·诗赞辞

### 太真夫人赠马明生诗二首（并序）

太真夫人者，王母之小女也。年可十六七，名婉罗，字勃遂。事玄都太真，有子名三天，太上府司直，总紘天曹之遗，此地上之卿佐。年少，好委官游逸，虚废事任。有司奏劾，不以不亲局察，降主东岳，退真王之编，司鬼神之帅，五百年，一代其职。夫人因来视之，励其后使修守政事，以补其过。道过临淄，值县小吏和君贤为贼所伤，当时殆死。夫人见而愍之，问其何伤乃尔？君贤以实对。夫人曰：汝所伤乃重，刃关于肺，五脏泄漏，血凝绛府，气激肠外，此将死之急也，不可复生，如何？君贤知是神人，叩头求哀，乞赐救护。夫人于肘后筒中，出药一丸，大如小豆，即令服之。登时而愈，血绝疮合，无复惨痛。君贤再拜跪曰：贫家不足以谢，不知何以奉答恩施？唯当自展弩力，以报所受耳。夫人曰：汝必欲谢我，意亦可佳，可见随去否？君贤乃易姓名，自号马明生，随夫人执役。

夫人还入东岳岱宗山峭壁石室之中，上下悬绝，重岩深隐，去地千余丈。石室中有金床玉几，珍物奇玮，乃人迹所不能至处也。明生初但欲学金疮方，既见其神仙来往，乃知有不死之道，旦夕供给扫洒，不敢懈倦。夫人亦以鬼怪虎狼眩惑众变试

之，明生神情澄正，终不恐惧。又使明生他行别宿，因以好女于卧息之间，调戏亲接之。明生心坚志静，固无邪念。夫人或行，去十日五日还，或一月二十日还，见有仙人宾客乘龙麟驾虎豹往来。或有拜谒者，真仙弥日盈坐。客到，辄令明生出外别室，或立致精细厨食，肴果非常，香酒奇浆，不觉而至，不可目名。或呼明生坐，与之同饮食。又闻空中有琴瑟之音，歌声宛妙。夫人亦时自弹琴瑟，有一弦而五音并奏，高朗响激，闻于数里。众鸟皆为集于岫室之间，徘徊飞翔，驱之不去。逮天人之乐，自然之妙也。夫人栖止，常与明生同石室中而异榻耳。若幽寂之所，都唯二人。或行去，亦不道所往之处。但见常有一白龙来迎，夫人即著云光绣袍，乘白龙而去，其袍专是明月珠缀著衣缝，带玉佩，戴金华太玄之冠，亦不见有从者。既还，即龙自去，不知所在。石室玉床之上，有紫锦被褥，绋罗之帐中，有服玩之物，瑰金函奁，玄黄罗列，非世所有，不能一一知其名也。两卷素书，上题曰《九天太上道经》。明生亦竟不敢发舒视其文也。唯供给洒扫，守岩室而已。至于服玩，亦不敢窃窥之，亦不敢有所请问。

如此五年，愈加勤肃，辄不怠惰。夫人谓之曰：汝可谓真可教也，必能得道者也。以子俗人，而恭仰灵气，终莫之废，虽欲求死，亦焉可得乎？因以姓字本末告之，曰：我久在人间，今奉君王命，又被太上召，不复得停。念汝专谨故相语，欲教汝长生之方，延年之术。而我所授服以太和自然龙胎之醴，适可授三天真人，不可以教始学之者，固非汝所得闻矣。纵或闻之，亦必不能用之持身也。有安期先生《晓金液丹法》，其方秘要，是元君太一之道，白日升天者矣。安期明日来，吾将以汝付嘱之焉！相随稍久，其术必传。明日，安期先生至，乘骄麟著朱衣，戴远游冠，带玉佩及虎头鞶囊，视之可年二十许，

洁白严整，从六七仙人，皆执节奉卫。见夫人甚揖敬，称下官。须臾厨膳至，饮宴半日许，夫人语明生曰：吾不复得停，汝随此君去，勿忧念也。我亦时时当往视汝。因以五言诗二篇赠之，可以相存。明生流涕而辞，乃随安期先生受《九丹之道》。诗曰：

暂舍墉城内，命驾岱山阿。仰瞻太清阙，云楼郁嵯峨。虚中有真人，来往何纷葩！炼形保自然，俯仰挹太和。朝朝九天王，夕馆还西华。流精可飞腾，吐纳养青牙。至药非金石，风生自然歌，上下凌景霄，羽衣何婆娑？五岳非妾室，玄都是我。下看荣竞子，笃似蛙与蟆。眄顾尘浊中，忧患自相罗。苟未悟妙旨，安事于琢磨？祸凑由道泄，密慎福臻多。（其一）

昔生昆陵宫，共讲天年延。金液虽可遇，未若太和仙。仰登冥仙台，虚想咏灵人。忽遇扶桑王，九老仙都真。驾骖紫虬辇，灵颜一何鲜！启我寻长涂，邀我自然津。告以鸿飞术，授以《玉胎篇》，琼膏凝玄气，素女为我陈。俯挹琳凤腴，仰上飘三天。云纲立尔步，五岳可暂旋。玄都安足远？蓬莱在脚间。传受相亲爱，结友为天人。替即游刑对，祸必无愚贤。秘则享无倾，泄则躯命颠。（其二）

### 云林右英夫人忽杨真人许长史诗二十六首（并序）

云林右英夫人，名媚兰，字申林，王母第十三女也。受书为云林宫右英夫人，治沧浪山。晋兴宁三年乙丑七月三日东岳上卿司命诸真同降于杨君，因受书曰：弱丧罔养，笃灵未尽，倚伏异因，云梯未抗。虽有怀于进趋，犹未渊于至理矣。君才

实天工，以清澜凝浪于高韵，志栖神乎太玄，期紫庭而步空矣！有心洞于飞滞，柔翰蔚乎冥契也。动合规矩，等圆殊方；静和真味，吐纳兴音，可谓纵诞德挺，良为钦然矣？然秽思不豁，鄙吝内固，淫念不斩，灵池未澄，将未得相与论内外之期，况二景之交耳！

夫失机者，贵在能改，相释有情，今无妨矣。虽暂弭群听，故克和也。前途悠邈，此比非一，漏绪多端，当恒辑密。苟情有愆散，得随事失，悟言微矣？将何以遏之？将何以遣之？清响散空，神风洒林，身超冥衢，志咏灵音，仁侯其人也。守真一勤笃者，一年使头不白，而秃发再生。苟内忧子孙，外综王事，朋友之交，耳目广用，声气杂役，此亦无益矣！

又述玉斧修道之事，因喻以薛季和七试不过，乃长里先生薛公之弟，为淫溢失位。然性好箫音凤响，长里乞之于太上，使其生，因言肇阿阴德，可以及于许侯玉斧也。

又云：闻北风则悲，睹启曜怀泰，思骏騄以慕骋，嘉柔顺以变郁，世人心，曷尝不尔！此则其本乡之风气，首丘之内感也。苟能信之，君其谐矣。如其壅露秉欲，丹绛不畅，灵人携手而空返，高友敛袂而回晏，神气不眄其宅，寂通不鼓其目，自命矣夫！故可悲耶！

夫得道者，以其排却众累，直面而进，于是百度自静，众雾云散。该其优者，不足为劳；披于艰者，可以表心。正月中必有龟山客来。”贤者之举，复宜详之。自古及今，死生有津，显默异会，藏往灭智，与世同之者，皆得道之行也。若夫琼丹一御，九华三飞，云液晨酣，流黄徘徊，仰咽金将，咀嚼玉蕊者，立便控景登空，玄升太微也。自世事乖玄，斯业未就，当暂履太阴，潜生冥乡，外身弃质，养胎虚宅，陶气绝龠，受精玄漠，故改容于三阴之馆，童颜于九练之户。然后知神仙为奇，

死而不亡，去来之事，理之深也。”

夫垂荫万亩者，必出峻极之岭；滔天振岑者，必发板桐之源。洪哉！积阴德之贤，有似邠人也。逸磷逍遥大荒之表，故无羁络之忧；灵羽振翅玄圃之峰，以违罗縵之患。人之修道，岂垞乎藏身之密，匿迹之深也。且寻飞绝影之足，不能骋逸于吕梁；凌波浪泉之舟，不得陟峻于太行，此才之异也。繁林翳荟，则羽族云华；玄泉浩瀚，则鳞群竞赴，此在德之茂也。为道者，实为勤苦者，必得之矣。学道者当在专道任真，情无散念，拨奢侈，保冲白，寂焉如密有所睹，熙焉如潜有所得，专如临深谷，战如履薄冰，此得道之门耳，而未得道之室也。所谓学道，甚难而甚易。若其探玄耽味，保和天真，注神栖灵，耽研六腑，惜气杜情，无视无听，此学道之易也。若其不能行此数者，所以为难也。”

况山岳气扰，则禽兽号于林，川渎结滞，则龙蛇惨于泽，此自然象也。苟趣舍理乖，则次万之用不同也！非静顺无以要谦，非虚栖无以冥会。思之无邪，则无祸害矣。在冥其心而斥其累，澄其源而清其流也。若南起而北骋，心念而口违，捐芥（卅尼）而茹荼，晒九成而悦北鄙，我知其无识和音之听鉴也。因告晋简文帝，宜以麝香一具于颈间辟水注及恶梦。

学道在积功累善。太虚真人常云：人有众过，而不自悔，罪归共身，如川赴海，日益深广矣。有恶知非，悔过从善，亦得道也。夫人遇我以恶者，以善对之；遇我以祸者，以福对之，善常在己矣。恶人害善人，如常仰天而唾，唾不污天，还自污身；逆风扬尘，尘不污彼，还污其己。道不可毁，祸必灭己。又饭凡人百，不如饭一善人；饭善人千，不如饭一寒栖学道之人。此高真之秘言，太上之要戒也。

财色之于身也，譬如小儿舐刀刃之蜜。蜜不足以美口，而

有截舌之忧。戒之哉！爱欲之大，莫大于色，其罪无外，其恶无救，得不戒邪？学道在阴德，施惠解救也。用志莫大于守身奉道，其福甚大，其生甚固。夫人 受诗曰：

驾欵遨八虚，回宴东华房。阿母延轩观，朗啸蹑灵风。我为有待来，故乃越沧浪。（其一）

腾跃云景轂，浮观霞上空。霄綵纵横舞，紫盖托灵方。朱烟缠旂旄，羽帔扇香风。雷号猛兽攫，电吟奋玄龙。钧籟昆庭响，金筑唱神钟。采芝沧浪阿。掇华八渟峰。朱颜日以新，劫往方婴童。养形静东岑，七神自相通。风尘有忧哀，陨我白鬓公。长冥遗遐欢，恨不早逸踪。（其二）

停驾望舒移，回轮返沧浪。未睹若人游，偶想安得康。良因候青春，以叙中怀忘。（其三）

控景浮紫烟，八景观汾流。羽童捧琼浆，玉华饯琳腴。相期白水涯，扬我菱蕤珠。（其四）

沧房焕东霞，紫造浮绛晨，双德秉道宗，作镇真伯藩。八台可盼目，北看乃飞元。清静云中视，眇眇蹑景迁。吐纳洞岭秀，藏晖隐东山。久安人事上，日也无虚闲。岂若易翁质，反此孩中颜。（其五）

晨阙太霞构，玉室起霄清。领略三奇观，浮景翔绝冥。丹华空中有，金映育挺精。八风鼓锦披，碧树曜四灵。华盖阴兰晖，紫轡策绿綵。结信通神交，触类率天诚。何事外象感，须睹瑶玉琼。（其六）

三景秀郁玄，霄映朗八方。丹云浮高宸，逍遥任灵风。鼓翼乘素飚，竦眄琼台中。绿盖入协晨，青綵掷空同。右揖东林帝，上朝太虚皇。玉宾剖凤脑，敖酣飞叶浆。云钧回曲寝，千音何琅琅。锦旂召猛兽，华幡正低昂。香母折腰唱，紫烟排栋梁。总轡高清阙，解驾佳人房。昔运挺未兆，灵化顺气翔。心



眇玄涯感，年随积椿崇。形垢甘臭味，动静失沧浪。我友实不尔，荣辱昨已忘。（其七）

绛景浮玄晨，紫轩乘烟征。仰超绿关内，俯眇朱火城。东霞启广晖，神光焕七灵。翳映汎三烛，流任自齐冥。风缠空洞宇，香音触节生。手携织女舞，并衿匏瓜庭。左徊青羽旗，华盖随云倾。宴寝九度表，是非不我营。抱真栖太寂，金资日愈婴。岂似愆穉中，惨惨无聊生。（其八）

四旌曜明空，朱轩飞灵丘。玉盖阴七景，鼓翼霄上浮。九音郎紫空，玉璈洞太无。宴咏三晨宫，唱啸呼我俦。不觉春已来，岂知二景流？佳人虽兼忘，而未放百忧。长林真可静，严中自多娱。（其九）

北登玄真阙，携手结高罗。香烟散八景，玄风鼓绛波。仰超琅园津，俯眇霄陵阿。玉箫云上奏，凤鸣动九遐。乘气浮太空，曷为蹑山阿。金节命羽灵，征兵折万魔。齐挹二晨晖，千春方婴牙。丧真投竞室，不解可奈何！（其十）

仰眇太霞宫，金阁曜紫清。华房映太素，四轩皆朱琼。掷轮空洞津，总辔舞绿綈。玉华飞云盖，西妃运锦旂。翻然尘浊涯，倏欵佳人庭。宿感应真降，所招已在冥。乘风奏霄晨，共酣丹林罍。公侯徒眇眇，安知真人灵？（其十一）

清晨挹绛霞，总气霄上游。徊輶蹑曲波，遂睹世人忧。辞旨蔚然起，不散三秀嵎。何若巡玄乡，抚璈为尔娱，君心安有际，我原有中无。（其十二）

辔景登霄晨，游宴沧浪宫。采云绕丹霞，灵藹散八空。上真吟琼室，高仙歌琳房。九凤唱朱籟，虚节错羽钟。交栖金庭内，结我冥中朋。俱挹玉醴津，倏忽已婴童。云何当路蹲，愆痼随日崇？（其十三）

晨游太素宫，控綈观玉河。夕宴郁绝宇，朝采圆景华。弹

漱北寒台，七灵晖紫霞。济济高仙举，纷纷尘中罗。盘桓器藹内，愆累不当多。（其十四）

驾气骋云綈，晨登大渟丘。绛津连岑振，清波鼓浚流。步空观九纬，八纲皆已游。暂宴三金秀，来观建志俦。勤懈不相掩，是以积百忧。（其十五）

凌波越沧浪，忽然造金山。四顾终日游，罕我云中人。（其十六）

紫阙构虚上，玄馆冲绝飚。琳琅敷灵囿，华生结琼瑶。骋綈沧浪津，八风激云韶。披羽扇北翳，握节鸣金箫。凤籁和千钟，西童歌晨朝。心豁虚无外，神襟何朗寥？回舞太空岭，六气运重幽。我途岂能寻？使尔终不雕。（其十七）

玄波振沧涛，洪津鼓万流，驾景眇六虚，思与佳人游。妙唱不我对，清音谁可投。云中骋琼轮，何为尘中趋？（其十八）

松柏生玄岭，郁为寒林桀，繁葩盛严水，未肯惧白雪。乱世幽重岫，巡生道常洁。飞此逸轡轮，投彼遐人辙。公侯可去来，何为不能绝？（其十九）

清净愿东山，阴景栖灵穴。愔愔闲庭虚，（++翳）荟青林密。圆曜映南轩，朱风扇幽室。拱袂闲房内，相期启妙术。寥朗远想玄，萧条神心逸。（其二十）

纵心空洞津，竦轡策朱綈。佳人来何迟，道德何时成？（其二十一）

寓言必可用，不用是无情。焉得驾欵迹，寻此空中灵？微音良有旨，当用慎勿轻。事应神机会，保尔见太平。（其二十二）

轡景落沧浪，腾跃青海津。绛烟乱太阳，羽盖倾九天。云與浮空同，倏忽沧浪间。来寻真中友，相携侍帝晨。玉子协明德，齐首招玉贤。下眇八河宫，上寝希林巔。漱此紫琼腴，方

知秽途辛。佳人将安在？勤之乃得亲。（其二十三）

绛阙排广霄，披丹登景房。紫旗振云霞，羽晨舞八风。停盖濯碧溪，采秀月支峰。咀嚼三灵华，吐吸九神芒。椿数无绝纪，协日积童蒙。携袂明真馆，仰期无上皇。北钧唱羽人，玉玄粲贤众（音终），云何波浪宇，得失为我钟？引领嚣庭内，开心拟秽冲。习适荣辱域，罕蹑希林宫。一静安足苦？试去视沧浪。（其二十四）

世珍芬馥交，道宗玄霄会。振衣寻真畴，回轩风尘际。良德映玄晖，颖拔粲华蔚。密言多偿福，冲静尚真贵。《恒》当二象顺，携手同襟带。何为人间事，日焉生患害？（其二十五）

有心许斧子，言当采五芝。芝草不必得，汝亦不能来。汝来当可得，芝草与汝食。（其二十六）

### 太极真人智慧经赞六首

学仙绝华念，念念相因积。去来乱我神，神躁靡不历。灭念停虚闲，萧萧入空寂。请经若饥渴，持志如金石。保子飞玄路，五灵度符籍。（其一）

济我六度行，故能解三罗，清斋礼太素，吐纳养云牙道家养生术，谓由口吐出污浊之气，由鼻纳入。逍遥金阙内，玉京为余家，自然生七宝，人人坐莲华。仰嚼玄都醪，俯含空洞檐，容颜曜十日，奚计年劫多？法鼓会天仙，鸣钟征大魔。（其二）

灵风扇香花，灿烂开繁襟。太真抚云璈，众仙弹灵琴。雅歌三天上，散慧玉华林。七祖升福堂，由此步玄音。前世德未足，斯经邈难寻。信道情不尽，图飞乃反沉。太上无为道，弘

之在兆心。（其三）

学道由丹信，奉师如至亲。揖景偶清虚，孜孜随日新。众人未得度，终不度我身。大愿有重报，玄德毕信然。阴恶罪至深，对来若转轮。（其四）

学道甚亦苦，晨夕建福田。种德由植树，根深果亦繁。子能耽玄尚，飘尔升清天。修是无为道，当与善结缘。太上弘至道，经书《智慧篇》。拔苦由大才，超俗以得真。灵资世所奇，烨若渊中莲。（其五）

人行各有本，皆由宿世功。立德务及时，发愿莫不从。善恶俱待对，倚伏理难穷。贤士奉法言，道德在兼忘。解是大智慧，上为太极公。宝盖连玉舆，命驾御九龙。金华擎洞经，捧香悉仙童。啸歌彻玄都，鸣玉叩琼钟。（其六）

## 卷九十九 赞颂部·赞诗词

### 吴子来写真赞一首诗二首（并序）

费玄真者，成都双流县兴唐观道士也。大中末有道士自称吴子，止观中，淹留岁余，养气绝粒，时亦饮酒。其为志也，泛然自适，无所营为。忽谓玄真曰：吾欲为师写真，可乎？玄真笑曰：夫欲写真，先须自写。吴子如其言，引镜濡毫，自写其貌，下笔惟肖，顷刻而毕。复自为赞，兼诗二章，留遗玄真。为赞及诗，未尝抒思。

赞曰：

不才吴子，知命任真。志尚玄素，心乐清贫。涉历群山，翛然一身。学未明道，形惟保神。山水为家，形影为邻。布裘草带，鹿冠纱巾。饵松饮泉，经蜀过秦。大道杳冥，吾师何人？矚念下土，思彼上宾。旷然无己，罔象惟亲。

诗曰：

终日草堂间，清风常往还。耳无尘事扰，心有玩云闲。对酒惟思月，餐松不厌山。时时吟《内景》，自合驻童颜。（其一）

此生此物当生涯，白石青松便是家。对月卧云如野鹿，时时买酒醉烟霞。（其二）

寂尔孤游，翛然独立。饮木兰之坠露，衣鸟兽之落毛。不求利于人间，绝卖名于天下，此山居之道士也。

题罢，振衣理策而去，莫知所在焉。

### 仙人贻白永年诗一首（并序）

白椿夫，字永年，湖南衡岳人也。少有高趣，习神仙之道。三元八节以诣岳中诸观，助焚修朝谒之礼，问玄经参真之义，颇为高尚之所叹异。至于负薪汲水，勤苦寻师，不以为替。因得丹书飞步核邪之术，修之二十年，由以济俗救民，惩袄祛疾，赖其力者众矣。巢寇犯阙，大驾西巡，海内干戈，纪纲凌紊。酋豪犷暴者，所在自树置，不遵法度。永年必约正道，以戒教之，从者多矣。时境内有豪师，亡其姓名，尝为其子娶妇。吉日之前一辰，忽有一少年，骑从十余辈，不知所从来，径造其厅事，箕踞诟之曰：我先欲娉某氏，汝何为夺之？众虽惊骇，莫敢酬对。因使其徒取缠绉、羔雁、青钱、束帛，备物之数以还之，而欲迫其女。众疑其鬼物，豪师无以拒之，选迅足者，百余里召永年。诘明将至，少年初无惧色，良久，自谓曰：白尊师果来矣！乃泫然流涕，跳跃上屋，号呼数声而灭。所致之物皆在，永年乃散之以遗贫病者。因显以逆顺，理谕豪师。豪师知非，乃散释堡聚，祛解兵卫，复为编民廉使。州将嘉其事，湘衡间贤不肖者，皆美师之德，仰师之教焉。一日，有樵人扣户曰：西峰岩中有仙人会话，师可造之。永年疑其山水之妖也，睨其目睛，以辨邪正。方摄衣将行，樵者曰：师功行已著系仙籍，何邪之敢干？然毫厘之差，勿为恨也。言毕，由他径去。

师策杖寻之，至即暝矣。但见崖壁有光，因熟视之，有诗焉，翰墨犹湿。其诗曰：清秋无所事，乘雾出遥天。凭伏樵人语，相期白永年。读讫，即空壁无字，光亦止矣。

### 李公佐仙仆诗一首（并序）

李公佐举进士后，为钟陵从事。有仆夫自布衣执役勤瘁，昼夕恭谨，迨三十年，公佐不知其异人也。一旦告去，留诗一章。其诗曰：

我有衣中珠，不嫌衣上尘。我有长生理，不厌有生身。江南神仙窟，吾当混其真。不嫌市井喧，来救世间人。苏子迹已往（注云苏耽是也），颛蒙事可亲（公佐字颛蒙）。莫言东海变，天地有长春。

自是而去，出门不知所之，邻里见仆距跃凌空而去。

### 攄浩然泛虚舟辞遗栾浑之诗二首（并序）

栾先生者，名清，字浑之。好道术，与东海徐戡，字玄贞为方外之友。同游江南，泊舟于渚。雨霁微风，闻上流有清啸之声，乃相与上流望之。见二人共乘一舟，不刺不棹，顺风簞流。栾移舟迎之，见二客舟中有笔砚、莲叶及酒器，二莲叶上各有文字。因并舟问之，二客不对，栾先生坚诘之，笑持莲叶以遗焉。曰：熟读此，明日当便知我，无烦问也。

一叶题曰《攄浩然》其诗曰：

行时云作伴，坐即酒为侣。腹以元化充，衣将云霞补。纣虐与尧仁，可惜皆朽腐。

一叶题云《泛虚舟》，其诗曰：

楫棹无所假，超然信萍查。朝浮旭日辉，夕荫清月华。营营功业人，朽骨成泥沙。

有顷，遗浑之酒一卮，甚馨香，饮讫别去。浑之纵棹追之，杳不可及。须臾，风涛忽起，二人惊伏舟中，良久方定，失莲叶之所在。栾大醉，日暮及渔人家。至夜半，栾转侧啼叫良久，吐数斗物。徐生疾起，举烛视之，乃其五脏烂黑，皆在于地。先生欢然而起，拊掌而歌曰：

得饮攄公酒，复登攄公舟。便得神体清，超遥旷无忧。

歌毕，复长啸和之，清响激越，非昔所习。数月，栾谓徐曰：吾醉遗所佩九寸镜，今端午将及，议欲重铸。宜买酒收直，以备资费。开篋取药屑二升，和水十石，自寅及午便成酒，载于舟中，沿岸沽之，不知所适。徐玄贞与旅人朱仿熟，于江表相遇。玄贞维舟登岸，与仿展叙。未竟，风雨暴至。及霁，徐生与舟复失所在。其后有人于庐山悬岩中，见醉人抱樽而卧，识者疑是徐生，以其素好酒焉。时贞元十四年也。

### 灵响词五首（并序）

《道德经》云：视之不见，听之不闻，搏之不得。详乎老君之旨趋，盖喻以众庶之俗民，非修生之道民也。尹真人《节解经》云：内观者睹神光，不可谓之不明；返听者闻神声，不



可谓之无音；握固者精神备体，不可谓之无形。凡在道中之民，当须视不见之形；听不闻之声，搏不得之名。三者皆得，谓之道民矣。余慕道年久，修持没功，夙夜自思，如负芒棘。尝因暇日，窃览《三清经》云：夫修炼之士，当须入静三关，淘炼神气，补续年命。大静三百日，中静二百日，小静一百日。愚虽不敏，情颇激切，神道扶持，遂发至恳。且试以小静。即开成三年戊午岁起，正月一日，闭户自修，不交人事，克期百日，方出静堂。虽五谷并绝，而五气长修，幸免瘦羸，不知饥渴。未逾月而神光照目，百灵集耳，精爽不昧，此三者皆应，则知仙经秘典，言不虚设也。人不修，即不知。既不知，则信彼前。后学咸谓神仙之教，尽为诳诞之辞。今古相蒙，未始有极。小兆忝为前得者，故发言为词，以正将来之惑。因创五篇，篇之四句，贻诸同好，用纪玄深。其词曰：

此响非俗响，心知是灵仙。不曾离耳里，高下如秋蝉。（其一）

入夜声则励，在昼声则微。神灵斥众恶，与我作风威。（其二）

妙响无住时，昼夜常轮回，那是偶然事，上界特使来。（其三）

何以辨灵应？事须得梯媒。自从灵响降，如有真人来。（其四）

存念长在心，展转无停音。可怜清爽夜，静听秋蝉吟。（其五）

### 众仙步虚词五首

飘飘上云路，黯黯入长霄。星宫日去远，光阴劫数遥。仰德金颜隐，倾想伫神飚。愿得映霞辇，焚香稽首朝。（其一）

玄风转飞盖，紫气泛仙车。浮空不待驾，倏忽升虚无。徘徊哀下界，顾眄愍群诸。三元真化毕，倏然入太虚。（其二）

万气浮空上，千光合太微。霄间望华盖，虚里眇霞衣。真仪入云路。圆曜逐风飞。愿得三元会，金容乘运归。（其三）

吉光腾紫气，霄路逸丹天。幡扬香风转，盖动超浮烟。道中还复道，玄中已复玄。真光不识际，大道竟无形。法轮常自转，希音不可听。空闲待三宝，虚中闻洞经。七变游魂反，万气驻颓龄。（其四）

香风飘羽盖，游气转飚车。冷冷上云路，窈窕入长虚。顾愍埃尘子，应运演灵书。妙果谐今日，冥契自然符。（其五）

### 青童天君常吟一首

欲植灭度根，当拔生死栽。沉吟随九泉，但坐惜形骸。

### 南岳夫人作与许长史一首

灵谷秀澜萦，藏身栖岩京。披褐均袞龙，带素齐玉鸣。形盘幽辽里，掷神太霞庭。霄上有陞贤，空中有真声。仰我曲晨飞，案此绿轩綈。下观八度内，俯叹风尘萦。解脱遗波浪，登此眇眇身。忧竟三津竭，奔驰割尔龄。

南岳夫人作一首

玄感妙象外，和声自相招。云书郁紫晨，兰风扇绿轺。上真宴琼台，邈为地仙标。所期贵远迈，故能秀颀翘。玩彼八素翰，道成初六辽。人事胡可豫？使尔形气消。

## 卷一百 纪传部·纪一

### 真宗皇帝御制《先天纪叙》

盖闻幽通造化，是谓神功；胥泊范围，斯云圣迹。若乃六合无外，亿世相因。仰之若日星，遵之若绳墨，上宾之御，默赞于高旻；长发之祥，隆兴于丕绪。故当邇追盛烈，昭示群伦，广五典之阙疑，为六经之首冠者也。

思文圣祖，肇初生民，时属洪荒，政方朴略。储精曾宙，下抚于八紘；应运中央，茂宣于三统。先觉以化庶汇，总己以御众灵。涿鹿观兵，济人而定难，梁峰纪号，奉天而告成。顺拜峒山，所以尊乎冲妙；轻举冶谷，所以登乎紫清。俗畏其神，民习其教。九国承于世纪，三代继于大宗。宜乎竹帛之文，纪丕功而罔尽；车书之域，仰遗迹而咸周。岂止唐尧之协和万邦，姬文之本支百世，庖牺之始画八卦，高辛之正是五行者哉！顾以眇躬，绍兹宝历。元符之降，宝荷于鸿仁；真驭之临，获闻于淳诲。知开先之有自，怀积累之无疆。

由是宝绶以奉徽称，栋宇以新原庙。夙夜之意，靡舍于归尊；卿士之心，弥思乎顺美。枢密使检校太尉、同平章事王钦若，枢机协赞，文史博通。仰锡羨于元都，徇追崇于凉德。覃精细素，尽铨鲁壁之编；率励铅黄，感正晋河之误。以至琅函

琼蕴，竹简芸签，远访名山，近观藏室，群分类聚，索隐造微。缵集成书。盖无乎遗论，封章来上，尤见乎资忠，庶谐永世之期，求乃冠篇之作。庆基绍祚，思祖德之垂鸿；惇史杨辉，表孙谋之继志。虽有惭于丽薄，盖聊叙乎徽音。式制佳名，用标緌裹，题曰《先天纪》。冀夫恢隆世表，丕显天宗。龙门补艺之言，常传其实禄；阙里升堂之士，莫得而措辞云尔！

### 轩辕本纪

轩辕，黄帝。姓公孙（自周制五等诸侯后，乃有公孙姓。轩辕为黄帝，长于姬水，合以姬为姓，不知古史何据也？），有熊国君少典之次子也（伏羲生少典，少典生神农。及黄帝袭帝位，居有熊之封焉）。其母西乔氏女，名附宝，暝见大电光绕北斗，枢星照于郊野，附宝感之而有娠，以枢星降，又名曰天枢。怀之二十四月，生轩辕于寿丘（地名，在鲁东门之外）。帝生而神灵，幼而徇齐（疾而速也），弱而能言，长而敦敏，成而聪明。龙颜日角。河目隆颡，苍色大肩，始学于大项，长于姬水。帝年十五，心虑无所不通，乃受国于有熊，袭封君之地（在郑州新郑县）。以制作轩冕，乃号轩辕，以土德王，曰黄帝。得奢龙，辨乎东方（解在下文）。得祝融，辨乎南方，（心星以火，火在正南，大明也。融，光明也。主火之官号祝融，南字从南从午。南求也，求正对为明为暗。则南为阳，北为阴也）。得火封辨乎西方，酉之半也（鸡之鸣旦，则望东而身居西也。酉，鸡也。以少入时名之，酉半为西也）。得后土，辨乎北方（北，阴也，背也。故曰北。四方之名也。东者，动也，

日出万物乃动也。东字从日穿木，以日出望之，如穿扶桑之林木也。日所出在扶桑东数十万里）。

帝娶西陵氏于大梁，曰嫫祖，为元妃。生二子玄器、昌意。初喜天下之戴己也，养正娱命，自取安而顺之，为鸿黄之代，以一民也。时人未使而自化，未赏而民劝，其心愉而不伪，其事素而不饰，谓之太清之始也。耕者不侵畔，渔者不争岸，抵市不预价，市不闭鄙，商旅之人，相让以财，外户不闭，是谓大同。

帝里天下十五年之后，忧念黎庶之不理，竭聪明，进智力，以营百姓，具修德也。考其功德，而务其法教。时元妃西陵氏始养蚕为丝（今《礼记》，皇后祭先蚕西陵氏。葛稚川《西京记》曰：“宫内有先蚕坛。”）。乃有天老，五圣以佐理化。帝取伏牺氏之卦象，法而用之，据神农所重六十四卦之义，帝乃作八卦之说，谓之《八索》，求其重卦之义也。时有臣曹胡造衣，臣伯余造裳，臣于则造履，帝因之作冠冕（冠者则服之，又名冕者，则冠中之别名。以其后高前下，有俯仰之形，因曰冠寇，冕也）。始代毛革之弊，所谓黄帝垂衣裳而天下理也。帝因以别尊卑，令男女异处而居，取法乾坤天尊地卑之义。帝见浮叶方为舟，即有共鼓化狄三臣助作舟楫，所谓“剡木为舟，剡木为楫也”。以取诸涣。涣，散也，物大通也，所以济不通也。帝又观转蓬之象以作车。时有神马出，生泽中，因名泽马。一曰吉光，又曰吉良，出大封国（亳州东，古国也）。文马缟身朱鬣，乘之寿千岁，以圣人为政，应而出（今飞龙司有吉良厩，因此也。薛综曰：“与腾黄一也。”所出之国各别。葛稚川曰：“腾黄之马，吉光之兽。”则兽马各异。今据吉光即马，腾黄即兽，稚川之说又别）。又有腾黄神兽，其色黄，状如狐，背上有两角，龙翼（一本云龙翼而马身，一名乘黄，一名飞黄，

或曰古黄，又曰翠黄，出日本国，寿三千岁，日行万里，乘此令人寿二千岁）出日本国，寿二千岁（《六典》曰：宋齐梁陈皆有车府乘黄之官。今太仆寺有乘黄署，即其事）。黄帝得而乘之，遂周旋六合，所谓乘八翼之龙游天下也。故迁徙往来无常。帝始教人乘马，有臣胘作服牛以用之。《世本》云：所谓服牛乘马，引重致远，以取诸《随》，得随所宜也。有臣黄雍父始作舂，所谓断木为杵，掘地为臼，以济万人，取诸《小过》也。小过者，过而通也。帝作灶以著经，始令铸釜造甑，乃蒸饭而烹粥，以易茹毛饮血之弊。有臣挥始作弓，臣夷牟作矢，所谓“弦木为弧，剡木为矢”也（《史记》云，黄帝为之也）。弧矢之利，以威天下，取诸《睽》。睽，乖也，制不顺也。帝始作屋，筑宫室，以避寒暑燥湿，谓之宫室，言处于中也。所谓上栋下宇，以待风雨，取诸《大壮》。大者，壮也。帝又令筑城邑以居之，始改巢居穴处之弊。又重门击柝，以待暴客，以取诸《豫》，备不虞也。又易古之衣薪，葬以棺槨，以取诸《大过》也。

帝服斋于中宫，于洛水上，坐玄扈石室，与容光等观。忽有大鸟衔图置于帝前，帝再拜受之。是鸟状如鹤，而鸡头鸾喙，龟颈龙形，骈翼鱼尾，体备五色，三文成字。首文曰“慎德”，背文曰“信义”，膺文曰“仁智”。天老曰：是鸟麟前鹿后蛇颈，背有龙文，足履正，尾系武。有九苞，一曰包命，二心合度，三耳聪达，四舌屈伸，五采色备，六冠钜锐钩，七金目鲜明，八音激扬，九腹大。一名鸛，其雄曰凤，其雌曰凰，高五六尺，朝鸣曰登晨，昼鸣曰上祥，夕鸣曰归昌，昏鸣曰固常，夜鸣曰保长，皆应律吕，见则天下安宁。黄帝曰：是鸟遇乱则去，居九夷矣！出于东方君子之国，又出丹穴之山。”有臣沮頌，苍颉观鸟迹以作文字，此文字之始也（先儒论文字之始不

同，或始于三皇，或始于伏羲，或云与天地并兴。今据司马迁、班固、韦延、宋衷、傅玄等云，苍颉、黄帝臣，今据此载之。诸家说苍颉，亦无定据）。

黄帝修德义，天下大理。乃召天老谓之曰：吾梦两龙挺白图，出于河，以授予，敢问于子。天老对曰：此《河图》、《洛书》将出之状，天其授帝乎！试斋戒观之。黄帝乃斋于中宫，衣黄服，戴黄冕，驾黄龙之乘，载交龙之旗，与天老五圣游于河洛之间。求梦未得，帝遂沉璧于河，乃大雾三日。又至翠妫之泉，有大鲈鱼，河中溯流而至。杀三牲以醢之，即甚雨，七日七夜，有黄龙负图而出于河。黄帝谓天老五圣曰：子见河中者乎？天老五圣乃前跪受之，其图五色毕具，白图兰叶而朱文，以授黄帝，乃舒视之，名曰《绿错图》，令侍臣写之，以示天下。黄帝曰：此谓《河图书》。是岁之秋也，帝既得龙凤之图书，苍颉之文，即制文章，始代结绳之政，以作书契，盖取诸夬。夬，决也，决断万事（自垂衣裳至制文字，凡九事。按皇甫谧《帝王代记》载，此九事皆黄帝之功。今各以当时事及众书所载，列之如前以明之。然于《易系》说此九事，则上自黄帝，下至尧舜。以其先儒说者，或以为不独黄帝。若以皇甫所载，及今所引众书，则九事皆黄帝始创制之以服用，后代圣人至尧舜，但继作修饰尔！）。于是黄帝定百物之名，作八卦之说，谓之《八索》。一号帝鸿氏，一号归藏氏，乃名所制曰《归藏书》，此《易》之始也。

黄帝垂衣裳之后，作龙袞之服，画日月星辰于衣上以象天，故有《龙袞之颂》。帝纳女节为妃，其后女节见大星如虹，下临华诸，女节感而接之，生少皞（《代记》云，女节即嫫祖，非也）。帝又纳丑女，号嫫母，使训宫人，而有淑德，奏《六德之颂》。又纳费修氏为夫人。是时庶民甘其食，美其服，乐



其俗，安其居，无羡慕之心。邻国相望，鸡犬之音相闻，至老而不相往来，无求故也。所谓黄帝理天下，便民心，谓之至理之代。是时风不鸣条，谓之天下之喜风也。雨不破块，谓十日一小雨，应天下文；十五日一大雨，以叶运也。以嘉禾为粮，谓大禾也，其穗异常。以醴泉为浆，谓泉水味美如酒，可以养老也。以五芝为芳，谓有异草生于圃，则芝英、紫芝、金芝、黑芝，五芝草生，皆神仙上药。时有水物洋溢，山车满野，于是德感上天，故有黄星之祥，谓之异星，形状似月，助月为光，名曰景星。又有赤方气与青方气相连，赤方中有二星，青方中有一星，凡三星。又有异草生于庭，月一日生一叶，至十五日生十五叶，至十六日一叶落，至三十日落尽。若小月，即一荚厌而不落，谓之蓂莢，以明于月也，亦曰历荚。帝因铸镜以象之，为十五面神镜，宝镜也。

于时大挠能探五行之情，占北斗、衡所指，乃作甲乙十干以名日，立子丑十二辰以名月，以鸟兽配为十二辰属之，以成六旬，谓造甲子也。黄帝观伏羲之三画成卦，八卦合成二十四气，即作纪历，以定年也。帝敬大挠以为师，因每方配三辰，立孟仲季，自是有阴阳之法焉。黄帝闻之，乃服黄衣，带黄绅，首黄冠，斋于中宫。即有凤凰蔽日而至，帝乃降阶，东面再拜稽首曰：天降丕祐，敢不承命。凤乃止帝东园，集于梧桐，又巢于阿阁，非竹实不食，非醴泉不饮，其饮也，则自鸣舞，音如笙箫。帝即使伶伦往大夏之西（大夏国在西，去长安万里）。阮榆之溪，昆仑之阴嶰谷，采钟龙之竹，取其窍厚均者，断两节，间三寸七分，吹之为黄钟之音（十一月律为黄钟，谓冬至一阳生，万物之始也）。以本至理之代天地之风气。所谓黄帝能理日月之行，调阴阳之气，为十二律吕，雄雌各六也（《晋书》云，律管长尺，六孔，十二月之音。票之以竹，取自然圆

虚也；以玉取坚贞温润也）。时有女娲之后容成氏，善知音律，始造律历，元起辛卯。又推冬至日在之星（南斗后星也）。又问天老，得天元日月星辰之书。天文刻漏之书以纪时。有臣隶首善算法，始作数著算术焉。臣伶伦作权量（权，秤也，量即斗斛也）。

黄帝得蚩尤，始明乎天文（据《管子》言之，蚩尤有术，后乃叛）。帝又获宝鼎，乃迎日推策。于是顺天地之纪，旁罗日月星辰，作盖天仪，测玄象，推分星度，以二十八宿为十二次。角亢为寿星之次，房心为大火之次，箕斗为析木之次，牛女为星纪之次，虚危为玄枵之次，室壁为谏觜之次，奎娄为降娄之次，昂毕为大梁之次，觜参为实沉之次，井鬼为鹑首之次，星张为朱火之次，翼轸为鹑尾之次。立中外之星，作占日月之书，此始为观象之法也。皆自《河图》而演之。又使羲和占日，常仪占月，鬼臿区占星，帝作占候之法，占日之书，以明休咎焉。

黄帝有茂德，感真人来游玉池，至德所致也。有瑞兽在囿，玄枵之兽也。《尚书·中候》云：麋身、牛尾，狼蹄、一角，角端有肉，示不伤物也。音中黄钟，文章彬彬然。牝曰麒麟，牡曰麟。生于火，游于土。春鸣曰归禾，夏鸣曰扶幼，秋冬鸣曰养信。帝又得微虫蛄蝼，有大如羊者，大如牛者，虫名螭，大如虹者，应土德之王也。有兽名 恙，如师子，食虎，而循常近人，或来入室，人畏而患之。帝乃上奏于天，徙之北荒。

帝以景云之瑞，庆云之祥，即以云纪官，官以云为名，故有缙云之官（或云帝炼金丹，有缙云之瑞，自号缙云氏。赤多白少为缙）。于是设官分职，以云命官，春为青云官，夏为缙云官，秋为白云官，冬为黑云官。帝以云为师也。是时炎帝之裔姜姓者也。缙云者，帝之祥云，其云非云非烟，非红非紫。

又以帝炼丹于婺州缙云之堂，有此祥云也。

帝置四史官，令沮诵、仓颉、隶首、孔甲居其职，主图籍也（《周礼》，掌版图，人户版籍也）。又令苍颉主人仪。孔甲始作盘盂，以代凹尊坏饮之朴，著《盘盂篇》，盘盂之诫也。帝作巾几之法以著经，黄帝书中通理，黄帝史谓之《坟》。坟，大也（孔安国曰：遭秦焚之，不可闻也）。有臣史王始造画，又济南人公玉带上黄帝明堂图，有复道，上有楼，从西南入，此楼之始也。帝依图制之，曰合宫，可以观其行也。乃立明堂之议，以观于贤也。时有仙伯出于岐山下，号岐伯，善说草木之药性味，为大医。帝请主方药。帝乃修神农所尝百草性味，以理疾者，作《内外经》。又有雷公述《炮炙方》，定药性之善恶。扁鹊、俞附二臣定《脉经》，疗万姓所疾。帝与扁鹊论脉法，撰《脉书上下经》（汉文里阳公淳于意能知疾之生死，按《脉经》也）。帝问岐伯脉法，又制《素问》等书及《内经》（今有二帙，各九卷，后来就修之，按《素问》序云岐伯作，今卷数大约阙少，其八十一难，后来增修。又云天降素女以治人疾，帝问之，遂作《素问》也）。帝问少俞针注，乃制《针经》明堂图灸之法，此针药之始也。

黄帝理天下，始以中方之色称号。初居有熊之国，曰有熊帝（如颡项为高阳帝，帝尝为高辛帝，唐尧为陶唐帝也），不好战争。当神农之八代榆冈始衰，诸侯相侵。以黄帝称中方，故四方僭号，亦各以方色称（史载而不言名号，即青帝太皞，赤帝神农，白帝少昊，黑帝颡项，时有四帝之后，子孙僭越而妄有称者也）。金共谋之，边城日骇。黄帝乃罢台榭之役，省靡丽之财，周戎士，筑营垒。帝问于首阳山（在河中郡，不安其居）。令采首山之金，始铸刀造弩。有于东海流波山得奇兽，状如牛，苍身无角一足，能出入水，吐水则生风雨，光如日月，

其音如雷，名曰夔牛。帝令杀之，以其皮冒之，以为鼓，以击之，声闻五百里（《世本》云，殷巫咸始作鼓，则非也）。帝令军人吹角为龙鸣，此鼓角之始也。于是又令作蹴鞠之戏，以练武士。（今击球也。《西京记》曰，鞠场即球也）。黄帝云：“日中必昃，操刀必割。狂屈竖闻之曰：黄帝知言也。”

帝有天下之二十有二年，忽有蚩尤氏不恭帝命，诸侯中强暴者也。兄弟八十人，并兽身人语，铜头铁额，不食五谷，啖沙蚕石（蚩尤始作铠甲兜牟，时人不识，谓是铜头铁额。李太白曰：南人兵士见北地人所食麦饭糗粮，不识，谓之啖沙吞石，以喻于此）。不用帝命，作五虐之刑，以害黎庶。于葛卢山发金作冶，制为铠甲及剑，造立兵仗刀戟大弩等，威震天下，不顺帝命。帝欲伐之，征诸侯，一十五旬未克敌，思念贤哲以辅佐，将征不义。乃梦见大风吹天下尘垢，又梦一人执千钧之弩，驱羊数万群。觉而思曰：风号令，执政者也；垢去土，解化清者也，天下当有姓风名后者。夫千钧之弩，冀力能远者也；驱羊万群，是牧人为善者也，岂有姓力名牧者乎？帝作此二梦及前数梦龙神之验，即作梦之书。令依二梦求其人，得风后于海隅，得力牧于大泽。即举风后以理民，初为侍中，后登为相，力牧以为将。此将相之始也。以大鸿为佐理。于是顺天下之纪，幽明之数，生死之说，是谓帝之谋臣也。

帝问张若谋敌之事，张若曰：不如力牧，能于推步之术，著《兵法》十三卷，可用之。乃习其干戈，以征弗享。始制三公之职，以象三台（天象有三台星）。风后配上台，天老配中台，五圣配下台（太公《六韬》曰：风后、力牧、五圣为七公。则五圣五人也）。黄帝于是取合己者四人，谓之四面而理。时获宝鼎，迎日推策。又得风胡为将，作五牙旗及烽火战攻之具，著《兵法》五篇。又以神皇为将，帝之夫人费修之子为太子，

好张罗及弓矢，以大将谓之抚军大元帅，为王前敌；张若、力牧为行军左右别乘；以容光为大司马，统六师兼掌邦国之九法（容光一曰常光）。又置左右大监，监于万国。臣龙纁者，有勇有义，亦为将。

帝之行也，以师兵为营卫，乃与榆冈合谋，共击蚩尤。帝以玉为兵（玉饰兵器）。帝服黄冕，驾象车，交六龙，大丙、太一为御，载交龙之旗，张五牙彩旗引之，以定方位。东方青牙旗，余各依方色。帝之行也，常有五色云气，状如金枝玉叶，止于帝上，如葩华之象，帝因令作华盖（今之伞盖是也）。黄帝即与蚩尤大战于涿鹿之野（地在上谷郡，南有涿鹿城）。帝未克敌，蚩尤作百里大雾，弥三日，帝之军人皆迷惑。乃令风后法斗机，作指南车，以别四方（崔豹《古今注》曰：“周公作指南之车。”据此，时已有指南车，即周公再修之尔）。帝乃战，未胜，归太山之阿，惨然而寐。梦见西王母遣道人，披玄狐之衣，以符受帝曰：太一在前，天一在后，得之者胜，战则克矣。帝觉而思之，未悉其意，即召风后告之。后曰：此天应也，战必克矣！置坛祈之。帝依以设坛，稽首再拜，果得符，广三寸，长一尺，青色，以血为文，即佩之。仰天叹所未捷，以精思之，感天大雾，冥冥三日三夜。天降一妇人，人首鸟身，帝见稽首，再拜而伏。妇人曰：“吾玄女也，有疑问之。”帝曰：“蚩尤暴人残物，小子欲万战万胜也。”玄女教帝《三宫秘略五音权谋阴阳之术》”（兵法谓玄女战术也。卫公李靖用九天玄女法是也。又神符，黄帝之符也。《阴阳术》即《六壬太一遁甲运式法》也）。玄女传《阴符经》三百言，帝观之十旬，讨伏蚩尤。授帝《灵宝五符真文》及《兵信符》，帝服佩之，灭蚩尤。又令风后演《河图》法而为式用之，创十八局，名曰《遁甲》（周公时约为七十二局，汉张子房共向映，一云

四皓议之为十八局。案神龙负图文，遁其甲，乃名之《遁甲》，今为一局，揭帖是也）。以推主客胜负之术。

黄帝又著《十六神历》，推《太一》、《六壬》等法。又述六甲阴阳之道，作胜负握机之图及《法要诀黄帝兵法》三卷（《宋武传》云：神人出之。《河图出军诀》称黄帝得《王母兵符》。又有《出军大帅》、《年命立成》各一卷，《太一兵历》一卷，《黄帝出军新用诀》一十二卷，《黄帝夏氏占兵气》六卷，此书至夏后时重修之也）。《黄帝十八阵图》二卷（诸葛亮重修为八阵之图）。《黄帝问玄女之法》三卷，《风后孤虚诀》二十卷，《务成子玄兵灾异占》十四卷，《鬼臿区兵法》三卷、图一卷（或作《鬼谷区》。设兵法以来，皆起于黄帝，亦后来增修也）。

黄帝于是纳五音之策，以审攻战之事。复率诸侯再伐蚩尤于冀州。蚩尤率魑魅魍魉，请风伯雨师，从天大风而来，命应龙蓄水以攻黄帝。黄帝请风伯雨师及天下女祆，以止雨于东荒之地，北隅诸山，黎土羌兵，驱应龙以处南极，杀蚩尤与夸父。不得复上，故其下旱，所居皆不雨。蚩尤乃败于顾泉，遂杀之于中冀，其地因名绝轡之野（在妫州也）。既擒杀蚩尤，乃迁其庶类善者于邹屠之乡，其恶者以木械之。帝令画蚩尤之形于旗上，以厌邪魅，名蚩尤旗。杀蚩尤于黎山之丘（东荒之北隅也）。掷械于大荒之中，宋山之上，其械后化为枫木之林（《山海经》曰：融天山有枫木之林，蚩尤之桎梏所化也）。所杀蚩尤，身首异处，帝闵之，令葬其首冢于寿张（县名，在郓州，冢高七尺，土人常以十月祀之，则赤气如绛见，谓之蚩尤旗）。其肩髀冢在山阳（县名，在楚州，肩髀，府藏也）。其髀冢在钜鹿（邢州钜鹿县也）。收得蚩尤《兵书行军秘术》一卷，《蚩尤兵法》二卷。黄帝都于涿鹿城（上谷郡涿州，地名独鹿，

又曰浊鹿，声传记误也）。

黄帝又与榆冈争天下，榆冈恃神农帝之后，故争之。黄帝始以雕鹖鹰鹖，一云隼之羽，为旗帜（《六典》曰：今鷩鷩旗也）。以熊罢郤虎为前驱，战于阪泉之野（地名，在上谷郡，今妫州也）。三战而后克之。帝又北逐獯鬻之戎（即匈奴也）。诸侯有不从者，帝皆率而征之。凡五十二战，天下大定。

帝以伐叛之功，始令岐伯作车乐鼓吹，谓之箫铙歌，以为军之警卫。《柷鼓曲》、《灵夔吼》、《雕鹖争》、《石坠崖》、《壮士怒》、《玄云》、《朱鹭》等曲，所以扬武德也，谓之凯歌（《六典》曰：汉时张骞得之于西域，凡八曲，军乐之遗音。箫、箛也，金铙如铃而无舌，有柄，执之以止鼓也）。

于是诸侯咸尊轩辕为天子。帝以己酉岁立，承神农之后，火生土，帝以土德，称王天下，号黄帝。位居中央，临制四方。帝破山通道，未尝宁居。令风后负寿书，伯常荷剑，旦出流沙，夕归阴浦，行万里而一息，反涿鹿之阿。帝又试百神而朝之。帝问风后：“予欲知河所泄。”对曰：“河凡有五，皆始于昆仑之墟。黄河出于昆仑山东南脚下，即其一也。”（余四河，说在于东方朔《十洲记》）。

帝令竖亥步自东极，至于西极，得五亿十选九千八百八步（一云二亿三万三千）。南北二亿三万一千三百里（二亿二十万）。竖亥左手把算，右手指青丘北，东尽泰远，西穷邠国，东西得二万八千里，南北得二万六千里（万里曰选。神农时东西九千万里，南北八千万里，逾四海之外。韦昭注《汉书》，不信此阔远于海外。臣瓚据道书，神农乘龙游远也，黄帝乘马以理土境，只四海内也。《淮南子》云：北极至于南极，二亿三万三千五百七十里也。淮南王学道，此言绝远，亦据道书也）。黄帝始画野分州，令百郡大臣授德教者，先列圭玉于兰蒲席上，

使春杂宝为屑，以沉榆之胶和之为泥，以分土别尊卑之位，与华戎之异。文出《封禅记》。

帝旁行天下，得百里之国者万区。今之县邑者也。所谓“首出庶物，万国咸宁。”有青乌子能相地理，帝问之以制经。帝又问地老，说五方之利害。时有瑞草生帝庭，名屈轶，佞人入则指之，是以佞人不敢进。时外国有以神兽来进，名獬豸，如鹿，一角。置于朝，不宜之臣，兽即触之。帝问食何物？对曰：春夏处水泽，秋冬处松竹。此兽两目似熊。

容成子，有道，知律者，女娲之后。初为黄帝造律历，元起辛卯，至此时造笙以象凤鸣。素女于广都来，教帝以鼓五十弦瑟（《古史考》曰琴则非也）。黄帝损之为二十五弦，其瑟长七尺二寸。伏羲置琴，女娲和之。黄帝之琴名号钟，作清角之弄。帝始制七情，行十义之教。七情者，喜、怒、哀、乐、惧、恶、欲七情也。十义者，君仁、臣忠、父慈、子孝、兄良、弟悌、夫义、妇听、长惠、幼顺，十义也。帝制礼作乐之始也。

《黄帝书》说东海有度索山，或曰度朔山，伪呼也（此山间以竹索悬而度也）。山有神荼、郁垒，神能御凶鬼，为百姓除患，制驱傩之礼以象之。帝以容成子为乐师，帝作《云门》、《大卷》、《咸池》之乐。乃张乐于洞庭之野。北门成曰：其奏也，阴阳以之和，日月以之明，和风俗也（唐至德二年，洞庭侧有人穿地得古钟，有古篆文，黄帝时乐器也。永泰二年，巴陵令康通中得采药人石季德，于洞庭乡采药，得古钟，上有篆。岳州刺史李萼进之。可明《庄子》所谓黄帝于洞庭张乐，诚不妄者也）。

黄帝将会神灵于西山之上，乃驾象车六交龙，毕方并辖，蚩尤居前（蚩尤旗也）。风伯进扫，雨师洒道，凤凰覆上，乃到山大合鬼神。帝以号钟之琴，奏清角之音（师旷善于琴，晋



平公强请奏角弄，师旷不得已，一奏云从西北起，再奏大风起、大雨作，平公惧而成疾焉。谓昆仑山之灵封，致丰大之祭，以诏后代，斯封禅之礼也。于时昆仑山北玉山之神人也。西王母太阴之精，天帝之女也。人身虎首（《山海经》曰虎颜，一云虎色）。豹尾，蓬头戴胜，颀然白首，善啸，石城金台而穴居，坐于少广之山，有三青鸟常取食，此神人西王母也。慕黄帝之德，乘白鹿来献白玉环。又有神人自南来，乘白鹿献鬯，帝德至地，秬鬯乃出。黄帝习乐以舞众神，又感玄鹤二八翔舞左右。帝于西山尝木果，味如李，状如棠华，赤无核，因名沙棠，食之御水不溺。帝立台于沃人国西王母之山，名轩辕台。帝乃休于冥伯之丘，昆仑之墟。

帝游华胥国，此国神仙国也（伏羲生于此国，伏羲母此国人），帝往天毒国居之，因名轩辕国（后来曰天竺，去长安一万二千里，《古史考》曰在海外，妄也）。

帝又西至穷山女子国，北又复游逸于昆仑宫赤水北，及南望还归而遗其玄珠。使明目人离娄求之，不得；使罔象求而得之。后为蒙氏之女奇相氏窃其玄珠，沉海去为神（玄珠喻道，蒙氏女得之为水神）。

帝巡狩东至海，登桓山，于海滨得白泽神兽，能言，达于万物之情。因问天下鬼神之事，自古精气为物，游魂为变者，凡万一千五百二十种，白泽言之，帝令以图写之以示天下，帝乃作《祝邪之文》以祝之。

帝周游行时，元妃嫫祖死于道，帝祭之以为祖神。令次妃嫫母监护于道，以时祭之，因以嫫母为方相氏（向其方也，以护丧，亦曰防丧氏。今人将行，设酒食先祭道，谓之祖饯。祖，送也。颜师古注《汉书》云黄帝子为道神，乖妄也。崔实《四民月令》复曰黄帝之子，亦妄也。皆不得审详祖嫫祖之义也）。

黄帝以天下大定，符瑞并臻，乃登封太山，禅于亭亭山（泰山下小山也）。又禅于几几山，勒功于乔岳，作下时以祭炎帝。以观天文、察地理、驾宫室、制衣服、候气律、造百工之德，故天授舆服、斧钺、华盖、羽仪。天神之丘，黄帝著《轩舆之铭》。

帝以事周毕，即推律定姓（孔子京房皆行此事）。纪钟甄声。帝之四妃（嫫祖、嫫母、费修、女节是也）。生二十五子，得姓者十二人（一云十三人），姬、酉、祈、巳、滕、箴、任、苟、僖、诘、旋、依（《史记》云六十一姓，惟厘、嫫二姓不同。所云黄帝姓公孙者十八代，合一千五百年，其十二姓十三代，合一千七十二年。《史》又云：“十二姓德薄不记录，”亦不可也。姬、祁、滕、任、僖、诘皆有德有名者也。所云黄帝姓公孙，虽古史相传，理终不通。且黄帝生于有熊，长于姬水，只合以姬为姓。至周武王称黄帝十九代孙，姬姓之后，即黄帝姬姓，非公孙也。且周置五等诸侯，以公侯伯子男，后诸侯子孙多称公孙，言公之子孙也。故连公子为姓者，且有八十五氏，皆非黄帝时人）。黄帝九子，各封一国（潘安仁诗言之，未知其源）。元妃嫫祖生二子，玄器、昌意，并不居帝位。玄器得道，为北方水神。昌意娶蜀山氏之女，生颡顼，居帝位，即黄帝嫡孙也，号高阳氏。摯字青阳，即帝位，号金天氏，黄帝之小子也。少昊后有子七人，颡顼时，以其一子有德业，高阳帝赐姓曼氏，余不闻。

黄帝以天下既理，物用具备，乃寻真访隐，问道求仙，冀获长生久视，所谓先理代而后登仙者也。时有甯子为陶正，有神人过，教火法，出五色烟，能随之上下，道成仙去，往流沙之所，食飞鱼，暂死，二百岁更生，作《沙头颂》曰：“青蕖灼灼千载舒，万龄暂死饵飞鱼。”有务光子者，身長八尺七寸，

神仙者也（至夏时，饵药养性鼓琴，有道寿永者）。有赤蒋子舆，不食五谷，啖百花而长年（尧时为木工，能随风上下，即已二千岁矣）。有容成公善补导之术，守生养气，谷神不死，能使白发复黑，齿落复生。黄帝慕其道，乃造五城十二楼以候神人。即访道游华山、首山，东之太山，时致怪物，而与神仙通。接神人于蓬萊，回乃接万灵于明庭、京兆、仲山、甘泉、寒门、谷口（在长安北，甘泉，云阳）。黄帝于是祭天圆丘，将求至道，即师事九元子，以地皇元年正月上寅日斋于首山（在河东蒲坂县）。复周游以访真道。令方明为御，昌宇骞乘，张若谬彛道焉（谬音习，彛，舒氏切，或作明）。昆阇、滑稽从车，而至襄城之野，七圣俱迷，见牧马童子，黄帝问曰：为天下若何？小童曰：理天下何异牧马？去其害马而已。黄帝称天师而退。至于圆丘，其国有不死树，食其子与叶，人皆不死。有丹峦之泉，饮之而寿。有巨蛇害人，黄帝以雄黄却逐之，其蛇留一时而反（《外国记》云，留九年也）。帝令三子习服之，皆寿三百岁。北到洪堤，上具茨山（在于阳翟）。见大隗君（密县大隗神也）。又见黄盖童子，受《神芝图》七十二卷。适中岱，见中黄子中，受《九茹之方》（一云至崆峒山见中黄真人，其方原州有崆峒之山。应劭云：在陇右，非也）。登崆峒山，见广成子问至道（司马彪注《庄子》云：“崆峒，当斗之山也。一方在梁国虞城东三十里是也”）。广成子不答。帝退，损天下，筑特室，藉白茅，间居三月，方往再问修身之道，乃授以《自然经》一卷。

黄帝舍帝王之尊，托猥豚之文，登鸡山，陟王屋山，开石函，发玉笈，得《九鼎神丹注诀》。南至江，登熊、湘山（熊山在召陵长沙也，湘山在长沙益阳县）。往天台山，受《金液神丹》。东到青丘山，见紫府先生，受《三皇内文大字》（《

抱朴子》云：有二十卷），以劾召万神。南至五芝玄涧，登圜垠，建木观，百灵所登，降采若乾之芝（一云花）。饮丹峦之水。南至青城山，礼谒中黄丈人。乃间登云台山，见甯先生，受《龙蹻经》。问真一之道，皇人曰：子既居海内，复欲求长生不死，不亦贪乎！频相反覆，而复受道，即中黄真人，黄帝拜谢讫，东过庐山，为使者以次青城丈人也。庐山使者秩比御史，主总仙官之道，是五岳监司也。又封潜山君为九天司命，主生死之录。黄帝以四岳皆有佐命之山，而南岳孤特无辅，乃章词三天太上道君，命霍山为储君，命潜山为衡岳之副以成之，时参政事，以辅佐之。帝乃造山躬写形象，以为《五岳真形之图》。

黄帝往练石于缙云堂，于地炼丹，时有非红非紫之云见，是曰缙云，因名缙云山（在婺州金华县，一云永康县也）。帝藏兵法胜负之图，六甲阴阳之书于苗山（禹会计功于此集诸侯，因名会稽也）。黄帝合符瑞于釜山，得不死之道。奉事太一元君，受要记，修道养生之法。于玄女素女受房中之术，能御三百女。玄女授帝《如意神方》，即藏之崆峒山。帝精推步之术，于山稽、力牧著体诊之诀，于岐伯、雷公讲占候，于风后先生救伤残缀金冶之事，故能秘要，穷尽道真也。黄帝得玄女授《阴符经》义，能内合天机，外合人事。

帝所理天下，南及交趾，北至幽陵，西至流沙，东及蟠木（蟠桃在度索山，具在《山海经》也）。帝欲弃天下曰：吾闻在宥天下，不闻理天下。我劳天下久矣，将息驾于玄圃，以返吾真矣（昆仑山上有玄圃也）。黄帝修兴封禅礼毕，采首山之铜，将铸九鼎于荆山之下，以象太一于雍州（虢州湖城县有石记述黄帝铸鼎于此，旧曰鼎州弘农郡，《地理志》云，冯翊怀德县南之荆山是也）。是鼎神质文精也，知吉知凶，知存知亡，能

轻能重，能息能行，不灼而沸，不汲自满，中生五味，真神物也。黄帝炼九鼎丹服之。逮至炼丹成后，以法传于玄子，此道至重，盟以诚之。帝以《中经》所纪，藏于九嶷山东，号委羽，承以文玉，覆以盘石。其书金简玉字，黄帝之遗谶也（夏禹得之，亦仙化去。又云藏之于会稽覆釜山中也）。帝又以所佩《灵宝五符真文》书金简一通，封于钟山，一通藏于宛委之山。

帝尝以金铸器，皆有名，题上古之字也，以记年月，或有祠也。时有薰风至，神人集，成厌代之志，即留冠剑珮舄于鼎湖极峻处昆台之上，立馆其下，昆仑山之轩辕台也。

时有马师皇善医马，有通神之妙思。有龙下于庭，伏地张口闭目，师皇视之曰：此龙病求我医也。师皇乃引针于龙口上下，以牛乳煎甘草灌之。龙病愈，师皇乘此龙仙去。黄帝闻之，自择日卜云，还宅升仙之日，得戊午，果有龙来。垂胡髯下迎，黄帝乃乘龙与友人无为子及臣僚等从上，七十二人同去。小臣不得上者，将龙髯拔坠髯及帝之弓，小臣抱其弓与龙髯而号泣，弓因曰乌号，铸鼎之地后曰鼎湖（至周王时封虢叔于此，因名曰号州，古曰鼎州，于汉曰湖城县也）。其后有臣左彻削木为黄帝象，率诸侯朝奉之。臣僚追慕，靡所措思，或取几杖立庙而祭，或取衣冠置墓而守，是以有乔山之冢（在上谷郡周阳县。又肤施县有黄帝祠四所，邠州乔山，黄帝冢在焉）。黄帝曾游处皆有祠，五百年后，乔山墓崩，惟剑与赤舄在焉，一旦亦失（《荆山记》、《龙首记》具载之也）。黄帝居代总百一十一年，在位一百年。自上仙后，升天为太一君，其神为轩辕之宿，在南宫。黄龙之体象（火体，祭天神，轩辕星一也）。后来享之，列为五帝之中方君也，以配天。黄帝土德，居中央之位，以主四方（东方青帝太昊，南方赤帝神农，西方白帝少昊，北方黑帝颛顼）。以镇星配为子，名枢纽之神，为佐配享于黄帝。

帝之子昌意居弱水。昌意弟少昊，帝妃女节所生也。帝之女溺于东海，化为鸟，名精卫，常衔西山木石以堙东海。少昊名摯，字青阳，即帝位，号金天氏，黄帝之子也。颛顼高阳氏，黄帝之孙也，各有圣德，在位七十八年终，母蜀山氏所生都商丘。濮阳禹强，黄帝之胤，不居帝位，与颛顼俱得道，居北方为水神（颛顼已来，以所典之地为名号）。帝啻高辛氏，黄帝之孙（螭极生高辛也），帝啻高辛神灵，自言其名，都偃师（亳州，河南）。在位七十年，寿一百五岁。帝尧陶唐氏，黄帝之玄孙也。姓伊祁，名放勋，兴于定陶，以唐侯为帝（济阴定陶，又云定州唐县）。都于平阳（郡在晋州）。在位九十八年，一百一十八岁。舜有虞氏，黄帝八代孙。禹为玄孙也。按《遁甲开山图》曰：禹得道仙人也。古有大禹，女娲十九代孙，大禹寿三百六十岁，入九嶷山，仙飞去。后三千六百岁，尧理天下，洪水既甚，人民垫溺，大禹念之，乃化生于石纽山。泉女狄暮汲水，得石子如珠，爱而吞之有娠，十四月生子。及长，能知泉源，代父鲧理洪水，三年功成。尧帝知其功，如古大禹，知水源，乃赐号禹。推之，是黄帝玄孙无疑也。殷汤，黄帝十七代孙（黄帝子少昊生螭极，螭极生高辛，十四世后，即天为一为殷王是也）。

黄帝子孙各得姓于事，帝推律定姓者十二（具在中卷）。少昊有子姓曼，颛顼姬姓（以黄帝居姬水，帝啻子后稷，姬姓也）。尧姓伊祁，舜姓姚，禹姓姁，汤姓子。又张、邓、轩、路、黄、寇、宋、酈、白、薛、虞、资、伊、祁、申、屠、黄公、托拔（昌意少子封北土，以黄帝土德化俗，以土为托，以君为拔，乃以托拔为姓）。黄帝有九子，各封一国（具在中卷）。总三十三氏，出黄帝之后。黄帝相承凡一千二百五十年，自黄帝己酉岁至今。

## 卷一百一 纪传部·纪二

### 元始天王纪

元始天王，禀天自然之胤，结形未沌之霞，托体虚生之胎，生乎空洞之际。时玄景未分，天光冥远，浩漫太虚。积七千余劫，天朗气清，二晖缠络，玄云紫盖映其首，六气之电翼其真。夜生自明，神光烛室。散形灵馥之烟，栖心霄霞之境，练容洞波之滨，独秉灵符之节，抗御玄降之章。内气玄崖，潜想幽穷，忽焉逍遥，流盼忘旋。琼轮玉舆，碧辇玄龙，飞精流霭，耀电虚宫。东游碧水豪林之境，上憩青霞九曲之房。进登金阙，受号玉清紫虚高上元皇太上大道君。受金简玉札，使奏名东华方诸青宫。于时受命，总统亿津，玄降玉华之女、金晨之童各三千人。飞龙毒兽，巨虬千寻，攫天奋爪，备卫玉阙。天威焕赫，陈于广庭。飞青羽盖，流紫凤章。《金真玉光》，《豁落七元》，《神虎上符》，《流金火铃》，结编元皇，位在玉清，掌括上皇，高帝之真。

### 太上道君纪

《洞玄本行经》云：太上道君者，于西那天郁察山浮罗之岳，坐七宝骞木之下，清斋空山，静思神真。合庆冥枢，萧朗自然。拥观万化，俯和众生。

是时，十方大圣，至真尊神，诣座烧香，稽首道前，上白道君：不审《灵宝》出法，从何劫而来？至于今日，凡几度人为尽？如是复有转轮，天尊是何劫生，值遇《真文》，得今太上之任，致是得度，何独如之！巍巍德宗，高不可胜。愿垂赐告，本行因缘，解说要言，开悟后生。

道言：天元轮转，随劫改运。一成一败，一死一生。灭而不绝，幽而复明。《灵宝》出法，随世度人。自元始开光，至于赤明元年，经九千九百亿万劫，度人有如尘沙之众，不可胜量。赤明之前，于眇莽之中，劫劫出化，非可思议。赤明已后，至上皇元年，宗范大法，得度者众。终天说之，亦当不尽。今为可粗明真正之纲维，标得道者之遐迹尔。今聊以开示于后来，领会于灵文之妙。我濯紫晨之流芳，盖皇上之胄胤。我随劫死生，世世不绝，常与《灵宝》相值同出。经七百亿劫中，会青帝劫终，九气改运。于是托胎于洪氏之胞，凝神于琼胎之府，积三千七百年，至赤明开运，岁在甲子，诞于扶刀。盖天西那玉国浮罗之岳，复与《灵宝》同出度人。元始天尊以我因缘之勋，锡我太上之号，封郁悦那林昌玉台天帝君，位登高圣，治玄都玉京。实由我身尊承大法，《灵宝真文》，世世不绝。广度天人，慈心于万劫，溥济于众生。功德之大，勋名缙于亿劫之中，致今报为诸天所宗焉。



## 上清高圣太上玉晨大道君纪

《洞真大洞真经》云：上清高圣太上大道君者，盖二晨之精气，九庆之紫烟，玉晖焕耀，金映流真。结化含秀，苞凝玄神。寄胎母氏，育形为人。讳篆，字上开元。母妊三千七百年，乃诞于西那天郁察山浮罗岳丹玄之阿。于是受录紫皇，受书玉虚，眺景上清，位司高仙，为高圣太上玉晨大道君。治蕊珠日闕馆七映紫房，玉童玉女各三十万人侍卫。于是振策七圃，扬青九霄，腾空匡旌，驾景驰飚。徘徊八烟，盘桓空涂。仰簪日华，俯拾月珠。摘绛林之琅实，饵玄河之紫蕖。偃蹇灵轩，领理帝书。万神入拜，五德把符。上真侍晨，天皇抱图。乃仰空言曰：子欲为真，当存日中君，驾龙骖凤，乘天景云，东游桑林，遂入帝门。若必升天，当思月中夫人，驾十飞龙，乘我流铃，西朝六岭，遂诣帝堂。精根运思，上朝玉皇。荟荟敷郁仪以蹑景，晃晃散结璘以暨霄。双皇合辇，后天而凋。夫大有者，九天之紫宫；小有者，清虚三十六天之首洞。

于是高圣太上大道君初乘一景之舆，驾八素紫云，摄希微苍帝，名录丰子，俱东行，诣郁悦那林昌玉台天，见玉清紫道虚皇上君，受《九晖大晨隐符》。

太上大道君次乘二景之舆，驾七素绛云，摄中微赤帝，名定无彦，俱南行，诣高桃厉冲龙罗天，见玉清翼日虚皇太上道君，受《观灵元晨隐符》。

太上大道君次乘三景之舆，驾六素红云，摄太微白帝，名渠渊石，俱西行，诣碧落空歌余黎天，见玉清昌阳始虚皇高元

君，受《总晨九极隐符》。

太上大道君次乘四景之舆，驾五素青云，摄玄微黑帝，名齐元旋，俱北行，诣叩摩坦娄于翳天，见玉清七静导生高上虚皇君，受《沓曜旋根隐符》。

太上大道君次乘五景之舆，驾四素黄云，摄始微上帝，名接空子，俱东北行，诣扶刀盖华浮罗天，见玉清大明虚皇洞清君，受《玄景晨平隐符》。

太上道君次乘六景之舆，驾三素绿云，摄灵微中帝，名秉巨文，俱东南行，诣贝谓耶渠初默天，见玉清始元虚皇太霄君，受《合晖晨命隐符》。

太上大道君次乘七景之舆，驾二素紫云，摄宣微下帝君，名宏肤子，俱西南行，诣冲容郁离沙天，见玉清七观无生虚皇金灵君，受《齐晖晨玄隐符》。

太上大道君次乘八景之舆，驾一素灵云，摄洞微真帝，名泗澄摅，俱西北行，诣单绿察宝轮法天，见玉清八观高元虚皇淳景君，受《高上龙烟隐符》。

太上大道君又乘洞景玉舆，驾太霞紫烟玄景之晖，摄九微内帝君，名申名闲，及上皇九玄九天诸真仙王等，俱仰登弥梵罗台霄绝寥丘飞元云根之都玉清上天，见玉清紫晖太上玉皇明上大道君，受《高清太虚无极上道君隐符》。

### 三天君列纪

上真人总仙大司马长生法师主三天君，姓柏成，讳欽生，字芝高，乃中皇时人，岁在东维之际，诞于北水中山柏林之下。

夫名为歛生者，以母感日华而怀孕。年九岁，求长生之道。至十四，与西归公子，巨灵伯尹俱师事黄谷先生。黄谷先生者，能为不死，修静无为，不营他术，含精内观，凝神空漠，思真安炁，以致不死。

后五百年，遇金仙石公、甯氏先生、晁夜童子三人，受《胎精中记》、《化胞内经》，养神上法，解结之要。又登太帝沧浪山洞台中双玉穴，酣紫明芝液，遇上清万石先生，授以乘飞驾虚八气景龙之躋，反胎守白越度之法。又广成子授以《丹青玉炉》、《炼云根柔金刚之经》，又授以飞烟发霜沉雪浮日朱之法。又遇始元童子、丰车小童，受《虚皇帝策》。仙忌真戒，化一成万解形之法。

后遇玉清文始东王金晖仙公，号曰玉皇二道君，告以胎闭静息、内保百神、开洞云房、坚守三真之事。后复诣二玉皇君，问云房之道，三真之诀。二玉皇君曰：“三真者，兆一身之帝君，百神之始真也。若使辅弼审正，三皇内宁，太一保胎，五老扶精。一居丹田，司命护生；一居绛宫，紫气灌形；一居洞房，三素合明。于是变化离合，与真同灵。明堂云宫，紫户玉门，黄阙金室，丹城朱窗，皆帝一之内宅，三真之宝室也。于是云房一景，混合神人。上通昆仑，下临清渊。云盖嵯峨，林竹葱竿。七灵回转，七门幽深。金扉玉匱，符籍五篇。公子内伏外牵，白元混一成形，呼阳召阴。上帝司命，各保所生。微哉难言！非仙不传。”又问呼阳召阴出入无方之法，气出神变之道。二玉皇曰：“呼阳者，三气之所出入也；召阴者，六丁之所往来也。若得三气之所生，能知六丁之所因者，则阳气化为龙车，阴气变为玉女，则腾转无方，轮舞空玄之上也。夫气之所在，神随所生焉。神在则气成，神去则气零。气者，即二十四神之正气，是为二十四气也。气能成神，神亦成气。散之

为云雾，合而为形影；出之为仙化，入之为真一。上结三元，下结万物。静为兆身，动为兆神。是以常混合二十四神，变化三五之真人，混成正一，合为帝君，即兆本神也。夫人受生于天魂，结成于元灵。天魂生之根，元灵生之胎。流会太一，达观三道，神积玉宫，液溢玄府，津流地户，泽憩洞房。日月焕于霄晖，五神混于元父。元父主气，化散帝极。玄母主精，变会幽元。是以司命奉符，固形扶神。公子内守，桃康保魂。左携无英，右引白元。云行雨施，万关流布也。

后二玉皇授欸生《大洞真经》三十九章《回风混合帝一之道》，断环割青，盟誓而传，得为上清真人位，曰总仙大司马长生法师主三天君，理太玄，都阊风玉台，总司学道之仙籍，主括三天之人神。万仙受事于玉台，五帝北朝于灵轩矣。

### 青灵始老君纪

《洞玄本行经》云：东方安宝华林青灵始老帝君者，往在白气，御运于金劫之中，暂生郁悦金映云台那林之天，西娄无量玉国浩明玄岳，厥名元庆。于此天中，大建功德，初无懈心，勋名仰彻，朱陵火宫，书其姓名，记于赤简。仙道垂成，而值国多采女，元庆遂以寄世散想，灵魔举其浊目，朱宫辍其仙名。一退遂经三劫，中值火劫，改运元庆，又受气寄胎于洪氏之胞。上天以其先身好色，故转为女子。朱灵元年，岁在丙午，诞于丹童龙罗卫天洞明玉国丹霍之阿，改姓洪，讳那台。年十四，敬好道法，心愿神仙。常市香膏，然灯照瞑，大作功德，诸天所称，名标上清。南极上灵紫虚元君托作佣人，下世教化。见

那台贞洁，好尚至法。回驾于丹霍之阿，授那台《灵宝赤书·南方真文》一篇。

于是那台励志殊勤，自谓一生作于女子，处于幽房，无由得道。因斋持戒思念，愿得转身为男。丹心遐彻，遂致感通，上真下降，元始天尊，时于琅碧之溪、扶摇之丘，坐长林枯桑之下，众真侍坐。是日，那台见五色紫光，曲照斋堂。于是心悟，疑是不常。仍出登墙四望，忽见东方桑林之下，华光赫奕，非可胜名，去那台所住数百里，中隔碍阳谷沧海之口，心怀踊跃，无由得往。因叉手遥礼，称：名那台，先缘不厚，致作女身。发心愿乐，志期神仙，高道法妙，不可得攀。日夕思念，冀得灭度，转形为男。历年无感，常恐生死，不得遂通，弥龄之运，有于今日，天河隔碍，无由披陈。今当投身碧海，没命于天，冀我形魂，早得轮转，更建功德，万劫之中，冀见道真。言讫，便从墙上投身掷空，命赴沧海极渊之中，纷然无落，即为水帝神王，以五色飞龙捧接。女身俄顷之间，已于悬中得化形为男子，乘龙策虚，飞至道前。于是元始即命仙都锡加帝号，于火劫受命，辅于《灵宝青帝玉篇》。七百年中，火劫数极，青气运行，随元灭度。以开光元年，于弥梵罗台霄绝寥丘飞元云根之都沧霞九云之墟，元始又锡安宝华林青灵始老帝君号。

### 丹灵真老君纪

《洞玄本行经》云：南方梵宝昌阳丹灵真老君者，本姓郑，字仁安，大炎之胤，生于禅黎世界赤明天中。生有三气之云缠其身，朱鸟鼓翮覆其形。三日能言，便知宿命。年及十二，面

有金容玉颜，便弃世离俗，远游山林。于寒灵洞宫遇玄和先生，授仁安《灵宝赤书·五气玄天黑帝真文》一篇，《智慧上品》、《十戒》而去。仁安于是奉戒而长斋，大作功德，珍宝布施，以拯诸乏，割口飴鸟，功名彻天。因于西那国遇天洪灾，大水滔天，万姓流漂。仁安于洪波之上，泛舟诵《戒书》《黑帝真文》，以投水中，水为开道，百顷之地，鸟兽、獐鹿、虎豹、狮子，皆往依亲，悉得无他。是时国王百口，登楼而漂没，叹不能得度。仁安见王垂没，乃浮舟而往，以所佩《真文》授与国王。王敬而奉之，水劫即退，翕然得过。王既得免，《真文》于是即飞去入云中，莫知所在。

仁安失去《真文》，退仙一阶，运应灭度，托命告终，死于北戎之阿。暴露灵尸三十余年，形体不灰，光色鲜明，无异生时，在于北戎长林之下。时国王游猎，放火烧山，四面火匝，去其灵尸之间，百步之内，火不得然，獐鹿虎豹，莫不依亲。王怪而往，见灵尸之上，有三色之光，云雾郁冥，鸟兽匝绕。王乃伐薪围尸，放火焚烧。于时尸放火中，郁起成人，坐青烟之上，指拈虚无，五色灿烂，左右侍者，仙童玉女，三百余人，肃然而至。凡是禽兽依亲之者，并在火中，皆得过度。仁安以赤明二年，岁在丙午，于叩摩坦娄于翳天中洞寥之岳，改姓洞浮，讳曰极炎，受锡南单梵宝昌阳丹灵真老帝，号丹灵老君也。

### 中央黄老君纪

《洞真九真中经》云：中央黄老君者，太上太微天帝君之弟子也，以混皇二年始生焉。年七岁，乃知长生之要，天仙之法。仍眇纶上思，钦纳真玄，萧条灵想，栖心神源。解脱于文蔚之罗，披素于空任之肆。于是太上授《九真之诀》、《八道秘言》，施修道成，受书为太极真人。

### 金门皓灵皇老君纪

《洞玄本行经》云：西方七宝金门皓灵皇老君者，本乃灵凤之子也。灵凤以呵罗天中降生于卫罗天堂世界，卫罗国王取而蓄之。王有长女，字曰配瑛，意甚怜爱，常与共戏，于是灵凤常以两翼扇女面。后十二年中，女忽有胎，经涉三月，王意怪之，因斩凤头，埋著长林丘中。女后生女，堕地能言，曰：我是凤子，位应天妃。王即名曰皇妃。生得三日，有群凤来贺，玄哺玉霜，洪泉曲水，八炼芝瑛。年八岁，执心肃操，超拔俗伦，常朝则谒日，暮则揖月。于重宫之内，王设厨膳，物不味口。天作大雪，一年不解，雪深十丈，鸟兽饿死。王女思忆灵凤，往之游好，驾而临之。长林丘中，歌曰：

杳杳灵凤，绵绵长归。悠悠我思，永与愿违。万劫无期，

何时来飞？

于是王所杀凤郁然而生，抱女俱飞，径入云中。王女今于景霄之上，受书为南极上元君，常乘九色之凤，此女前生万劫，已奉《灵宝》，致灵凤降形，得封南极元君之号。

皇妃功德遐彻，天真感降，以上元之年，岁在庚申，七月七日中时，元始天尊会于卫罗玉国凤麟之丘，坐骞华之下，众真侍坐。是时皇妃所住室内，忽有日象如镜之圆，空悬眼前。皇妃映见，天真大神普在镜中长林之下，一室光明。于是自登通阳之台，遥望西方，见凤生丘上，紫云郁勃，神光炜焕，非可得名，去皇妃所住五百步许，逼以女根处在宫内，无由得往。须臾，忽有神凤来翔，集于台上。皇妃白凤言曰：西方有道，心愿无缘，不审神凤可得暂驾见致与不？于是凤即敷翮，使坐翮上，举之就至道前。元始天尊指以金台王母；即汝师也，便可施礼。皇妃叩头上启，惟愿众尊，特垂哀矜，则枯骸更生。”言毕，金母封以西灵玉妃之号，即命九光灵童披霜罗之蕴，出《灵宝赤书·白帝真文》一篇，以授皇妃。受号三百年中，仍值青劫改运，皇妃方复寄胎于李氏之胞。三年，于西那玉国金垄幽谷李树之下而生，化身为男子，改姓上金，讳日昌。至开光元年，岁在上甲，元始天尊锡西方七宝金门皓灵皇老君号。

### 五灵元老君纪

《洞玄本行经》云：北方洞阴朔单郁绝五灵元老君者，本姓浩，字敷明，盖玄皇之胤，太清之胄，生于元福弃贤世界始青天中。年十二，性好幽寂，心玩山水。远于家中，或去十日，



时复一还。时天下灾荒，人民饿殍，一国殆尽。敷明于地境山下，遇一顷巨胜，身自采取，饷系穷乏，日得数过。救度垂死数千余口。随取随生，三年不讫。他人往觅，莫知其处。是时辛苦，形体憔悴，不暇营身，遂致疲顿，死于山下。九天书其功德，金格记其玉名，度其魂神于朱陵之宫。后帝遣金翅大鸟，常敷两翼，以覆其尸。七百年中，尸形不灰。至水劫改运，水泛尸，漂于无崖之渊。水过而后，敷明尸泊贝渭邪源初默天郁单之国北塋玄丘。四十年中，又经山火盛行，焚烧尸形，于火中受炼而起，化成真人，五色之云，覆盖其上。至开明元年，于北塋玄丘，改姓节，讳灵会，元始天王锡灵会洞阴朔单郁绝五灵玄老君号。

## 卷一百二 纪传部·纪三

### 混元皇帝圣纪

太上老君者，混元皇帝也。乃生于无始，起于无因，为万道之先，元气之祖也。盖无光无象，无音无声，无宗无绪。幽幽冥冥。其中有精，其精甚真。弥纶无外，故称大道焉。夫道者，自然之极尊也，于幽无之中而生空洞焉。空洞者，真一也。真一者，不有不无也。从此一气化生，后九十九万亿九十九万岁，乃化生上三气。三气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共生无上也。自无上生，后九十九万亿九十九万岁，乃化生中三气，三气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共生玄老也。自玄老生，后九十九万亿九十九万岁，乃化生下三气，三气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共生太上也。

自太上生后，复八十一万亿八十一万岁，乃生一气。一气生后，复八十一万亿八十一万岁乃生前三气。三气各相去八十一万亿八十一万岁，三合成德，共生老君焉。老君生后，八十一万亿八十一万岁，化生一气。一气生后，八十一万亿八十一万岁，化生后三气。三气又化生玄妙玉女。玉女生后，八十一万亿八十一万岁，三气混沌，凝结变化，五色玄黄，大如弹丸，

入玄妙口中。玄妙因吞之，八十一年乃从左腋而生。生而白首，故号为老子。

老子者，老君也。此即道之身也，元气之祖宗，天地之根本也。夫大道玄妙，出于自然，生于无生，先于无先，挺于空洞，陶育乾坤，号曰无上正真之道。神奇微远，不可得名。故曰：吾生于无形之先，超乎太初之前，长乎太始之端，行乎太素之元。浮游幽虚，出入杳冥。观混沌之未判，视清浊之未分，盼仿佛之兴光，瞻响罔之眇然，窥惚恍之容象，睹鸿洞之无边，步宇宙之旷野，历品物之族群。惟吾生之卓兮！独立而无伦，消则为气，息则为人矣。

老君者，乃元气道真，造化自然者也。强为之容，则老子也。以虚无为道，自然为性也。夫莫能使之然，莫能使之不然，亦不知其所以然，不知其所以不然，故曰：自然而然者也。至若以地为舆，操天为盖，驰骛旷荡，翱翔八外，不足比其大也。穷幽极微，至纤无际，析毫剖厘，刃铍锋锐，不足言其细也。丝竹八音，《箫韶》九成，宫商调畅，律吕和平，不足言其声也。玄黄灿烂，丹青燦煜：焜煌炜晔，丽靡华饰，不足言其色也。激耀熠烁，神明恍惚，风流电游，霆振响逸，不足言其疾也。结根九泉，沉峤八海，水凝数泽，渊亭岳峙，不足言其止也。阴阳不测，变化无伦，飘遥太素，师虚友真，不足言其神也。光烛玄昧，洞鉴无形，仰观太极，俯察幽冥，不足言其明也。影离响绝，云销雾除，钻冰求火，探巢捕鱼，不足言其无也。涤宇宙之尘秽，扫云汉于天衢，下坑宏而无底，上寥廓而无隅，包六合而造域，跨八维以为区，不足言其虚也。然则道固无形，夫何为名？故乃托虚寄无，假道以言之。言之不足以尽意，故归之自然。自然者，理之极，乃道之常也，故众圣所共尊。道尊德贵，夫莫之爵，而常自然，惟老氏乎！

老君者，乃元生之至精，兆形之至灵也。昔于虚空之中，结气凝真，强为之容，体大无边，相好众备，自然之尊。上无所攀，下无所蹶，悬身而处，不颓不落。著光明之衣，照虚空之中，如含日月之光也。或在云华之上，身如金色，面放五明，自然化出，神王、力士，青龙、白兽，麒麟、师子，列于前后。或坐千叶莲花，光明如日，头建七曜冠，衣晨精服，披九色离罗帔，项负圆光。或乘八景玉舆，驾五色神龙，建流霄皇天丹节，阴九光鹤盖，神丁执麾，从九万飞仙，师子启涂，凤凰翼轩。或乘玉衡之车，金刚之轮，骖驾九龙，三素飞云，宝盖洞耀，流焕太无，烧香散华，浮空而来，伎乐骇虚，难可称焉。或坐宝堂大殿，光明七宝之帐，朱华罗网，垂覆其上，仙真列侍，神丁卫轩，幡幢旌节，骑乘满空。或金容玉姿，黄裳绣帔，凭几振拂，为物祛尘。或玄冠素服，白马朱鬃，仙童夹侍，神光洞玄。夫妙相不可具图。学上道之子，宜识真形。真形不测，但存此足以感会也。

夫学不知其本，如婴儿之失母。能知其母，又知其子。既知其子，复守其母。母者何也？无中之有也。是道也，至真也，宗极也，一切所崇也。随感而应，应有著微。微则妙象恍惚，乍存乍亡。屈者资之得伸，暗者向之获明，迷者归之果定。故神明之君，应著之时，形像相好，动静有则，以正理邪，周遍无滞，救度无穷，故称为圣。或君或臣，或师或友，依缘相逢。逢此应者，皆由精心感道，道气通感，是故随机适品矣！

夫大道处于无形，无形非凡所见。应感以形，妙相随时而出。或玉姿金体，爱及肉身。或飞或步，或尊或卑，或山或岱，或夷或夏，不可测量。随感一妙，应已则藏。或来无所从，去无所至。洞有洞无，周遍一切。悟者即心得道，迷者触向乖真。能崇识老君，尊而敬之，则得正真道矣！

论曰：夫道不可见，见而非也；道不可闻，闻而非也。盖示理教俱空寂，而不动也。而道亦能使未见者见，未闻者闻。此明境智相发，感而遂通也。然通寂虽殊，其至一焉。故曰：“道常无为而无不为。”以此论之，盖由人心者也。夫心之念道，凡有二种：一念法身，七十二相，八十一好，具足微妙，三界特尊。二念真身，犹如虚空，圆满清静，不生不灭。若于此相，未能明审，须凭图像，系录其心，当铸紫金，写此真形。泥水铜采，称力所为。殿堂帐座，幡华灯烛，随心供养，如事真身。想念丹成，功德齐等。若能洞观非身之身，图像真形，理亦无二。是以敬像，随心获福，报之轻重，惟在其心，念念增进，自然成道。所谓人能念道，道亦念人，即此之谓也。

### 太微天帝君纪

《紫度炎光神玄变经》云：太微天帝君，生于始青之端，九曜神灵之胤，玄气未凝之始，结流芳之胄而法形焉。连光映灵，紫云曜电，玄烟流霭，丹晖缠络，妙觉潜启，仍采纳上契，条畅纯和，吐纳冥津，遂降灵生之胎，哺兼洪泉曲芝。行年二七，金容内发，玉华外映，洞慧神聪，朗睹虚玄，编掌帝号。其所任乎！澄流九霄之霞，飞眺洞清之源。明机览于极玄，领综运于亿津，积感加于冥会，妙启发于自然。是以得御《紫度炎光回神飞霄登空之法》，修行内应，上登玉清高上之尊，道备以付中央黄老君焉。

## 青要帝君纪

《洞真青要紫书金根众经》云：青要帝君者，九阳元皇玉帝之弟子也。以中皇元年，岁在东维，天始告晖，君育于玄丘王国。无崖之天，琼林七宝之下，溟蒙九域之滨。法化应图，三日启晨。厥姓尧，讳字伯开，仍有九龙翼君侧，七色琼凤阴君身。神麟含芝以哺玄，天女吐精以灌真，玉童掷华以却秽，神妃散香以攘尘。含漱胎息，法秀自然。年冠二六，面发金容，体生灵符。容与顺化，应运浮沉。栖心明霞之境，遨游玉国之墟，执抗元皇之策，落景九域之丘。逍遥流盼，遂经万劫。方还清斋云房之间。以紫云为屋，青霞为城，黄金为殿，白玉为床。五气交结，高台连藹，玉陛文阶，凤阙四张，金童侍侧，玉华执巾，天仙罗卫，五千余人。九阳元皇玉帝君，时乘碧霞九凤飞舆，琼轮羽盖，从桑林千真，万乘亿骑飞行，侍仙三十六人，宴景霄庭，来降于君，与君共登九老仙都之京，九曲之房。命西台龟母开云凤之蕴，紫锦之囊，出《紫书真诀玉篇》，已受于君。君修行道备，位登玉清。太上大道君授君飞云羽盖，流紫凤章，《金真玉光》，《豁落七元》，《金神虎符》，《流金火铃》，青玉玺，九色无缝之章，单青羽裙，飞行上清。于是纵景万变，回转五晨，策虚召月，摄日扬轮。洞化离合，与真同灵。解形遁变，倏欻亿千。上登三元，朝谒玉宫。游览无崖，匡落九天。出入洞门，携契玉仙。仰禀高上元始太真，应气顺命，位掌帝晨。纵颢万道，无仙不关。下摄十天，山灵河源，五岳四海，莫不上隶于君者也。

### 总真主录纪

《洞真变化七十四方经》云：上清总真主录南极长生司命君，姓王，讳改生，字易度。乃太虚元年，岁洛西番，孟商启运，朱明谢迁，天元冥遁，三晖翳昏，晨风迅虚，六日明焉，君诞于东林广昌之城长乐之乡。行年十四，弃世离俗，心慕神仙。遇紫府华先生，授阴阳补养、削死修生、三五变炼、七九复神、道御中和、胎息之方。行其术，寿至四百年。登玄溪之涧、隐岩之房，诣屠先生，受金丹炼云芝之根桑金刚之经，飞烟起霜沉雪之方，招霞咽精之道。服御七年，与日合景，行经神州空洞之山，遇太一真人戴先生，受帝君九炼之方。

### 中天玉宝元灵元老君纪

《洞玄本行经》云：中天玉宝元灵元老君者，本姓 晃，字信然，盖洞元之胤，中和之胄，生于善忍世界青元天中流生之丘。受生一劫，默然不语，混沌无心，食气为粮。天地未光，无常童子于无色之国，授信然《灵宝赤书·赤帝真文》一篇，于是而言。是时惟修一身，初不开张，广度天人，善功未充，运应更灭。于青元天中，命终流生之州，灵体绝丘之下，经一百余年，死而不灰，常有黄气覆盖其上。至水劫流行，天下溟然，灵骸四面，涌土连天，遏云水道。信然应化，郁然而起，

更生成人，改姓通班，讳曰元氏。水过之后，天地开光，三象玄曜，七元高明，元始天尊以开光元年，岁在己丑，于高桃厉冲龙罗天反魂林中，锡元氏玉宝元灵元老君号。

### 赤明天帝纪

《洞玄本行经》云：昔禅黎世界，队王有女，字絳音（一曰继音）。生乃不言。年至十四，王怪之，乃弃女于南浮长桑之阿空山之中。女乏粮食，常仰日咽气，引月服精，自然充饱，体不疲损。常行山中，周匝岩洞。忽与神人会于丹陵之舍，柏林之下，执絳音右手题赤石之上，语絳音曰：汝虽不能言，可忆此也。絳音私心自悼，受生不幸，口不能言，弃在穷山。誓心自愿，得还人中，当作功德，无有爱惜。百劫之后，冀与愿会。天为其感，遣朱宫灵童下教絳音理身之术，受《赤书》八字之音，于是能言。絳音晨夕朝礼天文，道真既降，逆知吉凶，役使百灵，坐命十方。于山而出，还于王国。

时天下大旱，人民焦燎。王大惧怖，祈请神明。絳音往白王言：常闻山中，有女不能言，能感于天，王识之乎？王于是悟，识是王女，乃迎女还宫。见女能言，王见愧颜。女显其道，为王仰啸，天降洪雨，注水至丈，于是化形隐景而去。仍更寄形王氏之胞，运未应转，方又受生，还为女身。父字以福庆，名曰阿丘曾。年及人礼，乃发大慈之心，布施穷乏，独寝一处，不杂于物。然灯烧香，长斋幽室。丹诚感积，道为之降。

以开光元年，十方大圣尊神、妙行真人，会南圃丹霍之阿，三元洞室青华林中，众真侍坐，香华妓乐，五千余众，真文奕



奕，光明洞达，映朗内外。云景炜烁，如星中之月，去阿丘曾所住舍数十里中。丘曾时年十六，见舍光明，内外朗照，疑似不常，乃出南向，望见道真。丘曾欢喜，叉手作礼，遥称名曰：丘曾今遭幸会，身睹天尊，非分之庆，莫知所陈。归命十方，天中之天。惟蒙玄鉴，赐以诚言，万劫灭度，冀得飞仙。魔见丘曾心发大愿，力过魔界，因化作五帝老人，往告丘曾云：我受十方尊神使命，来语汝曰：《灵宝》法兴，五道方行。每欲使人仁爱慈孝，恭奉尊长，敬承二亲。如闻汝父，当娉汝身，已相许和，受人之言，父母之命，不可不从，宜先从之。人道既备，余可投身，违父之教，仙无由成。女答魔言：我前生不幸，夙无因缘，功德未充，致作女身。晨夕克厉，誓在一心，用意坚固，应于自然。生由父母，命归十天，诚违父教，不如君言。魔见丘曾执心曷正，于是便退。丘曾自云：道既高邈，无缘得畅。乃聚柴发火，焚烧身形，冀形骸得成飞尘，随风自举，得至道前。于是火然，丘曾投身，纷然无著，身如蹈空，俄顷之间，已见丘曾化成男子，立在道前。元始天尊师命南极尊神为丘曾之师，授丘曾《十戒》、《灵宝真文》。元始天尊又告南极尊神曰：丘曾前生万劫，已奉《灵宝》。功德未备，致寄生转轮。至于今日，化生人中。见吾出法，即得化形。当更度人九万九千，乃得至真大神，为洞阳赤明天帝。

### 南极尊神纪

《洞玄本行经》云：南极尊神者，本姓皇，字度明，乃阎浮黎国宛王之女也。生于禅黎世界赤明天中，生乃当贵。父为

国王，女居宫内，金床玉榻，七色宝帐，明月双珠，光照内外。王给妓女数千人，国中珍宝，无有所乏。常欲布散，大建功德。志极山水，访及神仙。逼限宫禁，津路无缘。志操不乐，心自愁煎。王意怜愍，慰谕百端。问女意故，女终不言，泪落如雨，切无一欢。王加其妓乐，日日作唱，度明闻乐，常如不闻。独在一处，清净焚香，长斋持戒，日中乃餐。王知其意，乃于宫中，为踊土作山，山高百丈，种植竹林，山上作台，名曰寻真玉台。度明弃于宫殿，登台栖身。遮遏道径，人不得通。单影独宿一十二年，积感昊苍。天帝君遣朱宫玉女二十四人，乘云驾凤，下迎度明。

当去之夕，天起大风雨，雷电激扬，地舍旋转，惊动一国。王大振惧，莫知所从。天晓分光，失去山台，不见其女。天帝迎度明于阳丘之岳，丹陵上舍相林之中，朱凤侍卫，神龙翼轩，玉童玉女三百余人。于后大劫数交，天地易位，度明应在弃落之例。南上感其丹至，朱宫书其紫名，化其形骸于无始之胞，一劫而生，得为男身。于南丹洞阳上馆明珠七色宝林，亦帝梵宝昌阳丹灵真老君锡度明以南极上真之号。

## 卷一百三 纪传部·传一

### 宋真宗御制《翊圣保德真君传序》

盖闻天心降顾，邦家所以会昌；灵命丕昭，神道所以协赞。考载籍之攸记，固今古而同符。矧复吾宗，在于战国，基绪方始，精感实繁。或山祗而见形，或帝所而协梦，其来已久，斯谓不诬。乃有接三统而开基，将隆景业，冠百神而储佑，茂显明征。奠条梅之名区，号龟玉之奥主，见之于翊圣保德真君矣。

太祖肇膺元历，观德而无言；太宗祇绍睿图，顺期而前告。若夫述玉晨之宝睭，序斗极之仙阶，告国命之延洪，示真科之秘蹟，洪威显洽，屏乎物魅神奸，諄诲博临，扬乎天祺民祉。由是灵坛爰峙，徽称斯崇，钦奉于芬馨，仰祈于先觉。固惟九域咸被底绥，岂止三秦独增忻戴？暨兹冲眇，缵乃基局。仰嘉话之在人，瞻至神之佑世。

由是载稽茂典，恭益尊名，以为上帝之恒符，文考之真应，安可默而无述？故当垂之丕刊。爰诏辅臣，俾詮灵训，询求斯至，编帙旋

成。想风烈而昭然，思音徽而可觐，诚足镂之金板，祕于兰台。披封奏归美之心，愿裁于序引，属乙夜观文之暇，聊志于岁时。题曰《翊圣保德真君传》云尔。

### 翊圣保德真君传

推忠协谋同德守正佐理功臣、枢密使、开府仪同三司、行吏部尚书、同中书门下平章事、上柱国、太原郡公臣王钦若編集

建隆之初，凤翔府盩厔县民张守真，因游终南山，忽闻空中有召之者，声甚清彻。守真惊惧。四顾无所见，默行悚听，约数里，又闻语云：汝若先行，吾即在后。如是者数日，守真莫能测。既还其家，又闻于室中曰：吾受命降灵，汝何为顽梗如此，不听吾言？吾若不为宋朝大事，当已粉碎汝矣！守真方异之而且惧，因曰：未审是何星辰如此临降？守真性本愚戆且昧，神祇愿勿凭陵，必无事奉。乃曰：吾是高天大圣玉帝辅臣，授命卫时乘龙降世。但以非正真之士，无以奉吾教。汝有异骨，不类常流，汝可虔心奉吾道训也。守真曰：窃闻在男曰巫，在女曰覡。守真虽处凡庸，耻为兹类。又曰：吾上天之神，非鬼魅也。五岳四渎，吾能役使。汝若回心入道，勤奉香火，当令汝应大国之徵命，受真主之恩遇，岂同巫覡之辈耶！守真曰：神人既若此教导，敢不虔事？乃设酒肉之饌以祀焉。又闻言曰：吾神人也，汝何为以腥秽渎我？以汝未晓，不欲罪汝。此去但以香茶及素食鲜果为供，吾虽不食，歆汝之意也。守真稽首而谢。又曰：吾为汝天上之师，汝别有人间之师，但访高士，以求度焉。

守真乃礼古楼观先生梁筌为师，度为道士，遂于所居之侧择隙地出家，则于北帝宫内立殿以事神，旦暮崇奉，颇极精至。

神谓之曰：观汝虔心，称吾教导，贞洁之士，可以驱邪。吾先将诲汝剑法，俾汝为民除妖。后当令汝结坛，俾汝为国祈福。守真再拜曰：守真本实凡庸，粗怀愚直，当缘夙生奉事，乃致今获归依。愿以至心，永奉灵德，坛仪剑法，恭俟灵训。真君曰：剑法有三。但以刚铁锻为利刃，吾目一视，便可用也。有疾之人，俾汝挥击，邪气销铄，其人无损。或地祇作孽，水族生妖，分野为灾，国家轸虑，当以上剑治之。或山泽之怪，飞走之雄，震骇闾阎，侵毒黎庶，当以中剑治之。或魑魅之徒，夔<鬼卢>之辈，挟邪暴物，作祟害人，当以下剑治之。守真曰：三剑之法，已闻命矣。结坛之仪，伏俟指教。真君曰：结坛之法有九。上三坛则为国家设之。其上曰顺天兴国坛，凡星位三千六百，为普天大醮，旌旗鉴剑弓矢法物罗列次序，开建门户具有仪范。其中曰延祚保生坛，凡星位二千四百，为周天大醮，法物仪范，降上坛一等，其下曰祈谷福时坛，凡星位一千二百，为罗天大醮，法物仪范，降中坛一等。倘非时祷祀，不及备此三坛，亦当精洁词章，鲜异花果，扣鼓集神，恳祷而告，去地九尺，焚香以奏，亦可感应也。中三坛则为臣寮设之。其上曰黄箓延寿坛，凡星位六百四十；其中曰黄箓臻庆坛，凡星位四百九十；其下曰黄箓去邪坛，凡星位三百六十。此三坛所用法物仪范，各有差降。下三坛则为士庶设之。其上曰续命坛，凡星位二百四十；其中曰集福坛，凡星位一百二十；其下曰却灾坛，凡星位八十一。所用仪范，量有等差。此九坛之外，别有应物坛，或六十四位，或四十九位，或二十四位。法物所须，各以差降，士民之类，可量力而为之。如臣庶上为帝王祈佑，当作祈谷福时坛，凡一千二百位。或为父母师尊禳灾祈福，当为醮设坛，随仪增益也。守真拜而受之，自尔多有徵验，不能备纪。

乾德中，太宗皇帝方在晋邸，颇闻灵应，乃遣近侍赍信币香烛，就宫致醮。使者斋戒焚香，告曰：晋王久钦灵异，欲备俸缗，增修殿宇，仍表乞敕赐宫名。真君曰：吾将来运值太平君，宋朝第二主修上清太平宫，建十二座堂殿，俨三界中星辰，自有时日，不可容易而言。但为吾启大王，言此宫观上天已定增建年月也，今犹未可。使者归以闻，太宗惊异而止。

太祖皇帝素闻之，未甚信异。遣使赍香烛青词，就宫致祷，召守真诣阙，备询其事。守真具言之，且曰：非精诚恳至，不能降其神。仍以上圣降灵事迹闻奏。太祖召小黄门长啸于侧，谓守真曰：神人之言若此乎？守真曰：陛下悦谓臣妖妄，乞赐按验，戮臣于市，勿以斯言褻黷上圣。诏守真止于建隆观，翌日，遣内臣王继恩就观设醮，移时未有所闻。继恩再拜虔告，须臾，真君降言曰：吾乃高天大圣玉帝辅臣，盖遵符命降卫宋朝社稷，来定遐长基业，固非山林魑魅之类也。今乃使小儿呼啸，以比吾言，斯为不可！汝但说与官家，言上天宫阙已成玉锁开，晋王有仁心，晋王有仁心。凡百余言。继恩惶惧不敢隐，具录以奏，因复面言，神音历历，闻者兢悚。太祖默然异之，时开宝九年十月十九日之夕也。

翌日，太祖升遐，太宗嗣位。寻召守真于琼林苑，为周天大醮，作延祚保生坛。醮罢，真君降言于内臣王继恩曰：吾有言，汝当为吾奏之。曰：

建隆元年奉帝言，乘龙下降卫人君。扫除妖孽犹闲事，纵横整顿立乾坤。国祚已兴长安泰，兆民乐业保天真。八方效贡来稽首，万灵振伏自称臣。亲王祝寿须焚祷，递相虔洁向君亲。吾有捷疾一百万，诸位灵官万垓人。若行忠孝吾加福，若行悖逆必诛身。赏罚行之既平等，天无氛秽地无尘。爱民治国胜前代，万年基业永长新。继恩录之于简，翌日以闻。太宗览之惊

异，稽首谢曰：国家之幸，宗庙之庆，虔荷上圣，赐此格言。命絨藏于内殿，寻遣内供奉官王守节、起居舍人王龟从，就终南山下筑宫。

方卜地于终南镇，真君忽降言于龟从等曰：此地乃修建上帝宫阙之地，不可易也。于是乃定。凡三年，宫成。中正之位列四大殿，前则玉皇通明殿，次紫微殿，次七元殿，次真君所御殿。东庑之外，有天蓬、九曜、东斗、天地水三官四殿。西庑之外，有真武十二元神、西斗、天曹四殿。又有灵官堂、南斗阁，并列星宿诸神之像。竖钟经二楼，斋道堂室，靡不完备。建碑以纪其事，题曰上清太平宫，一如真君预言之制。命常参官一人监宫，择道士焚修。每岁三元及诞节、上本命日，并遣中使致醺。祀神之夕，上望拜焉。岁或水旱，或国家将举事，率致祷焉。

初宫成，真君忽降言谓王龟从等曰：汝奉诏修宫，勤则至矣。然何为不开日月华门？不画八小殿壁？阶墀甃甃亦未严备，惟求速成，以冀恩宠。然上天亦不掩尔功，亦不赦尔罪。守节、龟从颇切惊惧，然已奏乞，役不及增备，惟稽首祈谢。及至阙，皆获增秩，赐白金千两，既而守节染疾而亡，龟从歿于兵刃，此乃不掩功不赦罪之戒明矣。

太平兴国初，太宗皇帝亲征太原，真君忽降言于守真曰：官家已临汾晋，非久克复城池，汝当令监宫内臣等设醺，以谢胜捷于上帝。守真等曰：国家大事，乞俟捷音。真君曰：上天已定，胜负也。逾旬而王师告捷，监宫等以闻，帝遣内臣卢文寿赍内库香药、御署词章，诣宫陈醺以谢上帝。是夕，真君降言曰：官家设此大醺，上帝与诸天皆喜，国祚延远，过于有唐矣。

至六年，守真以乾明节诣阙朝贺召见，因面奏曰：“圣真

下降，俯为昌朝，乞降诏加号以答灵贶。”上允其奏。寻下诏曰：太平宫神，受命上穹，降灵下土。苾致荐，肸蚩有徵，大庇斯民，屡垂丕贶，宜加美号，以答神休，其封神为翊圣将军。诏命至宫，守真焚香以告，真君忽降言曰：汝当上问，官家所言翊圣者，翊于何圣？守真数日疑惧，不敢答。复言曰：汝但驰奏，官家不罪汝。守真遂具章以闻，太宗览之，召近臣谓之曰：“玉帝辅臣所辅翊者，上帝也。当以此意报守真，令启白也。”既而内臣传命到宫，守真诣殿，焚香以告真君，曰：“此意是也。”七年，守真复诣阙朝贺，真君忽降言曰：“吾有言，汝当闻于官家。曰：“大道兴隆阴谋灭，诸天众圣皆欣悦。宋朝社稷甚延年，太平景运初兴发。君上端心显明哲，爱民治国常须切。万年基业永长新，金枝玉叶无休歇。”守真得之，到阙以闻。诏赐守真紫衣，号崇元大师。自后每遣使醮告，真君或有言，守真皆密以闻。

至道初，忽降言谓守真曰：“吾建隆之初，奉上帝命下降卫时，今基业已成，社稷方永，承平之世，将继有明君。吾已有期，却归天上，汝等不复闻吾言矣。傥国家祈祷，但严洁焚香，北面告吾，虽不降言，当授福卫护宗社。”又曰：“汝遇吾下降，至今三十五年，勤亦多矣，上帝已有符命，授汝为五土之主，此限满日，升汝仙官，汝亦不久住也”。自是不复降言。

明年闰七月十六日，守真谓门人等曰：吾已领符命，今将去矣。言讫而化。既而圣上嗣位，崇奉之典，率遵旧式。洎受元符，封泰山，建玉清昭应宫，于宫中宝符阁之西北隅作凝命殿，殿后为凝命阁，以奉真君。

大中祥符七年，诏曰：诞敷宝命，仰荷于至神；昭报殊徵，虔增于懿号。盖为邦之大典，庇民之深旨也。而况翊宣元化，



式表众灵，司阴鹭于含生，播明威于福地。当王基肇启，固降治而已彰；洎文考缵承，复先期而斯应。由是亟营珍馆，备荐徽章，蒙介福于无垠，佐鸿图于累盛。顾惟眇质，绍抚绵区，属典礼之交修，实祺祥之沓委。缅怀幽赞，罔怠钦崇。是用益以丕称，奉之茂则，式达至精之恳，庶伸祗答之文。期克享于夙恭，永保宁于品汇。爰颁成命，俯告宰司，深体予怀，共宣其事，翊圣将军宜加号曰翊圣保德真君。

自真君之降世也，或时有所受，人即传录。而岐、雍之间，有物魅妖怪为害之极者，皆投诚致告，则守真祈祷，奉教而往，靡不祛殄。凡所灵验，不可胜纪，今录其传闻者云。

守真常朝礼至玉皇大殿，睹其题曰通明殿，不晓其旨，因焚香告曰：通明之理，窃所未谕，敢祈真教。真君曰：上帝在无上三天，为诸天之尊，万象群仙，无不臣者。常升金殿，殿之光明，照于帝身，身之光明，照于金殿，光明透彻，无所不照，故为通明殿。诸天帝君，万灵侍卫，仙众梵佛，悉来朝谒，仰视其殿，惟见大光明中，上帝俨然。仙班既退，光明遍彻诸天焉。

有王叟者，年七十余，少事戎帅，老而退居终南镇，胆气雄杰，谈五代时事，历历可听。每闻妖怪诞妄之事，则扼腕切齿。自真君之始降，未甚信响。洎目睹灵异，欣然归仰。自后常日二时赴宫，焚香伏拜，虽风雨霜雪，未尝暂旷。一日忽告守真启殿门，瞻礼焚香，且泣曰：老夫本怀刚气，幼事军门，不信邪魔，常守正直。百生有幸，得遇上真。今已衰耗，大期将至。所愿归全之后，得在左右，以备驱使，为万足矣。真君降言而许之。未几，叟无疾而终。逾旬，守真忽于真君殿前，闻空中有呼其名者曰：我铁轮将军也，汝何以略不见录？守真仰而问曰：真君左右有四将军，常侍殿中。守真常所虔事，未

知铁轮将军是何星辰名位？空中又曰：我即王叟也。曾有至愿，乞侍左右，今蒙收录，使掌铁轮，位在四将军之下。汝今后或有醮祭，勿忘吾名也。

真君尝谓守真曰：吾每巡游周天，有诸位灵官，捷疾吏兵数逾百万。彗孛妖沴，知吾骑从所至，皆屏迹远避。岳镇海渚可以麾召，而世之物魅邪怪，岂足数耶！吾念汝正直，付汝剑法，俾汝为民救患禳灾。汝宜精勤，无或懈怠，积功立名，加惠及物，上天所鉴，当录汝名。若慢道轻教，不守虚寂，自有阴责矣！吾若一怒，万物立为埃尘，汝其可当乎！然汝每有责罚，乃吾小将军怒汝不专谨尔！汝自宜致恭于彼。汝所兴念，彼各预知，不可欺心，贻汝祸患。

守真尝一日从容焚香，虔诚问曰：守真睹释氏之教，言天上下无如佛者。未知三清之上，品位何若？愿赐真语，以蠲蒙滞。真君降言曰：佛即西方得道之圣人也，在三清之中，别有梵天居之，于上帝则如世之九卿奉天子也。守真曰：其教流演，颇盛于世，又何理也？真君曰：教流中夏，帝之念也。随世盛衰，亦帝之念也。守真曰：道释经典，并垂于世，未审崇奉何者，即获其福？真君曰：《太上道·德经》大无不包，细无不纳，修身炼行，治家治国。世人若悟其指归，达其妙用，造次于是，信奉而行，岂惟增福，谅无所不至矣。释氏之四十二章经，制心治性，去贪远祸，垂慈训诫，证以千恶，亦一贯于道矣！奉之求福，固亦无涯。至于周公、孔子，皆列仙品，而五经六籍，治世之法、治民之术，尽在此矣。世虽讽诵，多不依从。若口诵而心随，心随而事应，仁义信行礼智之道常存于怀，岂惟正其人事，长生久视之理，亦何远矣！

守真又尝启请云：终南山中赤谷神祠者，近乡之人多所祈祀。屠牛击豕，以为飧饌。酒乐喧沸，民氓鼓舞。若斯之事，

其获佑乎？真君曰：终南山实名山福地，人凡境圣，今古皆然。兴妖致邪，杀命祈福。以兹俟福，斯亦远矣！既而草窞潜匿其下，捕贼者积薪焚之，祠宇煨烬，寂无灵异。建隆末，长安进士刘颀颇有文学，出于流辈，尝诣宫再拜祷曰：颀欲知将来位秩高卑，愿赐灵语。真君降言曰：天赋汝文性，不赋汝禄位。汝若学道退闲，当犹延永。若妄求进身，虑促汝寿算也。颀闻之，不悦而退。后三岁，果无成而卒。

雍熙中，华山希夷先生陈搏卒于张超谷石室中，世多传其羽化。守真朝礼之次，因焚香启告曰：华山陈搏近卒，时人谓之尸解，未审其人功行证仙阶乎？敢希上真，略赐指谕。真君降言曰：搏之炼气养神，颇得其要，然及物之功未至，但有所主掌尔。端拱中，知凤翔府、比部郎中高凝祐尝就宫致礼。既去，真君忽降言于监官李铸曰：高凝祐行亏忠信，死非久矣。铸窃志之。俄而凝祐秩满还京，为三司判官。铸闻之，乃复焚香启告曰：高凝祐今为此职，又何福耶？真君降言曰：死将至矣。数月而凝祐卒。吏部尚书宋白，乾德中家于盩厔。有弟显，小字曰岐哥。年十余岁，为狐魅所惑，号呼无度，举动失常，忽力敌数夫，家人莫能制。医砭之至者，必遭凌扑。白因斋心，遣所亲诣宫致祷，恳求卫护。真君降言曰：汝去，吾当令守真往彼。守真受教而往，方至其家，坐于客馆，而岐哥已觉，惶惶失次。家人遽出迎拜，守真具问之，因厉声呼其名。须臾，岐哥捧其首，从中唯唯而出，至守真前，战汗悚息。守真呵责移时，鬼乃露形，叩头伏罪。守真以术戮之，应手而毙。岐哥仆地良久而苏，即获平愈。

真君尝忽谓守真曰：山下李靖庙中，有狐鬼数十，盘泊于彼，本方地神适有驰报，虑其为妖害民，汝可速往逐之。守真禀命，仗剑而去。须臾坐于庙前，震呼数四，俄而狐鬼数十悉

出，遍列于前，惶惑惊悸。守真乃责之曰：此上真下降之地，汝辈岂宜杂处！今未欲戮，汝可速返林莽，无以血汙我灵剑！鬼等相顾，狼狽匍匐而散。守真自往至还，曾不移时。寓宫道士王德渊问其所适，守真具道之。德渊曰：自此至彼，往复二十里，何其速耶？守真曰：我离庙时，以剑挥下庭树低枝在地，可验也。德渊俟晓，跃马而观焉。果于庙前闻腥秽之气，不可近，得断枝而还，始再拜称异。时又有妖狐数百，在邠州城中，颇为怪异。守真闻之，因焚香致告，具道其事，愿奉教往彼除之。真君降言曰：此狐妖辈尝于长安南山中，化形为菩萨之状，诱彼居民，舍财为寺，其间回心归善，亦十有八九。上帝以此故授其符命，俾为邠州土地，亦有限数，俟其岁满，当自远去，无能为害，汝不必往也。

开宝中，凤翔府民陈英美家有山魃为怪。投掷瓦砾，日盈其庭。时放烟焰，欲焚其舍。财物耗散，亲族愁苦。召术士禳禁，命僧徒课诵，皆不能止，乃移居远遁，亦蹊踪而至。英美计无所出，因斋戒持香，躬诣宫庭，精虔以告。真君降言，谓守真曰：汝今速受吾命令，往为除。守真再拜，负剑跃马，再宿而至其家。而掷瓦之声，喧嚣如故，观者填隘，皆曰：此道士必不能去此怪。守真乃盥涤严洁，整衣引剑而入，其怪忽然而止。是夕，为坛于庭中，守真嚬剑立其上，厉声徐呼曰：山魃鬼何在乎？傥为妖未已，当出与吾较胜。不然，则当去万里之外，释汝之罪。如是移时，悄无影响，自是其家安肃，乃随守真诣宫，陈醮以谢焉。

又长安富民杨氏家有鬼物为怪，掷瓦纵火一日万变，聚族忧惶，莫可宁处。时有术士李捉鬼者，尤善符禁。杨氏召之，方及其门，若为物所系，匍匐而起，俄复颠陨，如是者三，遂狼狽而走。杨氏复召僧众为道场，诵经作梵呗以祛之。俄又若

有物攫其道具，或投于屋，或弃于井，群僧惶惧而去。乃至捣衣砧石，亦自空中腾起，三三两两，相逐而落中庭，遇物凌触，而物无所损。如是之怪尤众，不可具纪。杨氏素闻真君之灵，乃躬持香烛等，驰赴焚祷，具言其怪，且求驱殄。真君降言曰：汝当速归，吾令守真继往也。守真寻再拜而往其家，士民观者填隘其户。守真易衣整冠，咒水挥剑，行于四隅，其怪即寂然无声。守真谓杨氏曰：此妖伏矣！请为醮以祛之。向夕，结坛焚章，礼毕而去。一城之众，稽首称叹。守真既归，杨氏随诣宫中，陈醮以谢。

又富民刘文璨者，忽为狐鬼所惑，心神恍惚，动止不宁。市中逢道流，语之曰：子面有妖气，必为邪物所著。真君下降，可虔心祷之，必愈斯疾。文璨乃自赍香烛，晨夕驰赴，中路为鬼物所迫，或为僧尼妇女，或为商贾，万端诱惑不进。文璨既迷且惑，复遇道流于路，具告其故。道流曰：是皆鬼物也。汝宜迳往，无或退志，为群妖所害。文璨心悟，不数日奔迫至宫，洁斋恳至，百拜殿下。真君降言曰：知汝远来，吾今令守真为汝除邪。是夕，守真立文璨于庭中，守真仗剑噀水，呵叱数四，文璨懵然踣于地，移时而起，曰：适先生呵叱之际，见数人若神将者，各擒二鬼而去。文璨惶骇，不觉颠仆。今神思清爽，如酣醉之始醒也。百拜而去。

自真君之临降，官吏民庶，不远千里，或驰诚遥祷，或斋戒朝拜，以祈真受。时有所闻，大抵多随其性习，加以训勸，人臣依于忠，人子依于孝，清淳者示之格言，贪酷者警以要道，词甚平易，颇叶音韵，然获闻之者至寡。今据其所传，录之如左。

乾德中，骊山白鹿观道士冯洞元朝礼之次，焚香虔告曰：洞元讲孔子之书，依老氏之教，积有年矣。而修身炼行，未得

真旨，幸逢上真，敢求一言。真君降言曰：到境始知安，形忘灵物闲。真空须照达，幽微即大还。动观无障碍，希夷合自然。功成神莫测，变化可冲天。去住由自己，三官赦旧愆。命曹除罪薄，六丁奏上天。众生要修道，须知无上源。洞元百拜，虔谢而去。

开宝中，侍御史路冲奉诏知凤翔府，就宫礼请守真，就府署中陈醮祈降。是夕，洁斋致祷曰：冲身居职守，阻拜真仪，辄以苹藻，虔祈降鉴，乞赐真语，以导蒙昧。真君降言曰：尽力事君，以为忠臣，浊财勿顾，邪事莫闻。整雪刑岳，救疗人民。动合王道，终为吉人。积愆累咎，必有沉沦。众生本无形之性，配有形之躯。旷劫以来，不能自悟，自有无极世界，不夜之乡，混合太虚，杳冥同理。又曰：六合乾坤内，众生多不会。造业向前行，如盲蓦江海。如将智慧观，自越千重海。冲再拜，录而奉之。左补阙王龟从，一日斋心诣宫，焚香恳祷曰：凡庸贱类，衅咎无涯，幸逢上真，愿赐灵诲。如何修身，以获遐寿？真君降言曰：劝汝修炼，莫如精勤。精勤不怠，上圣皆闻。太平降世，用武兴文。无文则不正，用武则益君。食禄利勿违王命，行吉善但守清贫。清贫者响合天地，浊富者像火投冰。投冰者火缘渐灭，积恶者自贯其身。自贯者殃及七祖，地府下痛苦及亲。吾悬千尺之索，提钓有缘之人。道之尊，德之贵，大道能生一切物。众生头象天，足象地，中心空然合真理。凿户牖，以为室，房室之中有一物，亦无形，亦无影，杳杳冥冥人不识，若能识者得长生。阳在天，阴在地，二气同和诚有谓，空中造化乃自然，自然之中生万类。天不高，地不卑，大道混合虚无理，学道众生审欲闻，此是修行崇妙门。

开宝中，丞相沈伦尝连绵卧疾，虔心遣使诣宫，陈醮致告曰：伦浊秽之质，病恼所侵，如何修行，得免兹患？敢期圣语，

以导愚蒙。真君降言曰：灵物不病，形躯自安。形躯有病，返照而看。来人录之，归致于伦。伦捧览之，惊喜曰：吾得之矣。寻而疾愈，复遣人诣宫醮谢。

道士王德渊因游终南山，寓止宫中，勤奉香火，好养生而性褊，多所恚怒。忽一日，真君降言谓之曰：汝学道修真，先当调习其性，以顺天和。忘诸有为，勿耗心识。融怡凝湛，道乃可见。复戒之曰：莫管内，莫管外，来往真灵无挂碍。所居安乐是汝家，各自勤行莫相待。莫相待，先达之人无滞碍。真空妙乐有天堂，与圣相同灭诸罪。

又曰：妙理须行到，周旋皆合道。举措见真空，真空无烦恼。混合太虚中，自有无声乐。地炉天灶间，皆同凡圣道。常将智慧观，可向今生了。德渊曰：上感真君降言教示，不晓前篇内‘与圣相同灭诸罪’，愿垂诲谕。真君曰：汝若除烦入静，炼心修真，积累其功，数盈之后，泥丸百节，元神灵通，而自同于圣。天堂妙乐，无所不至，岂更有诸罪也？故言‘与圣相同灭诸罪。’太平兴国中，驾部员外郎李铸尝知凤翔府，备睹灵应。俄复奉诏监宫，凡十余年，志颇严洁。真君前后降语仅十余篇，其所录者数首。一曰：建隆之初，方稟希夷。上帝命吾，众圣皆知。乘龙下降，列宿相随。五岳受命，主张地祇。潜扶社稷，密佐明时。吾要李铸，知吾降期。不得轻泄，免漏天机。

又曰：与吾独异佐国，与吾以道理民，与吾慈善理家，与吾不饮自醉。醒时理民，醉时理神。此语是延年益寿之法，吾劝府主记取。

又曰：为官求理在贞明，智慧俱通临事清。观天行道合阴德，食君爵禄常若惊。为吾洗心复换骨，背凡入圣奔长生。天宫快乐胜凡世，不夜之乡挂一名。

又曰：府主累世为人生中国，与吾清直，莫行斜曲，与吾积善累功，与吾辅佐明主。与吾洗雪黎民，与吾挂心刑狱。上帝若知名天官也，克取舍住世转流之财，但修取有形之像，获随身之功，得无量之福。与吾不得因循，不奈时光迅速。灵官赏汝功勋，天曹与汝添福。若一一依吾圣言，必得延年益寿。

又曰：年登七十余，住世不久居。饶君寿百岁，问汝得几秋？地府直须怕，冥司难请求。有功无惊惧，积罪必遭诛。子孙难替代，早觉莫痴愚。

又曰：有缘无缘，福业相牵。有缘福至，无缘业缠。三业大罪，信根不圆。若遵吾语，如倚太山。

又曰：听吾之语必延年，亦将康健保安然，至诚不退修真理，今生若在玉皇前。

又曰：为汝虔心，星辰下降。来驾于玄风，去乘于法雨。开盲愚之耳目，回积恶之人心，尽归投于正路。因汝醮告上玄，恶人尽来归敬，此汝之功也。吾已与汝闻于上帝，俾汝获福也。汝宜清者重清，白者重白，明者重明。勿初勤末怠，中路变异，回清为浊，回善为恶。设灵官奏闻，上帝若知，有误于吾也。又七月十日夜，真君降言：汝忠勤奉国，惠爱临民，更要用心，勿违吾诫。未遇吾之前，所作诸恶，吾与汝并消除也。遇吾之后，况无诸业，左右已录汝功也。更须晨夕，与吾积其善功，勿得怠惰吾圣言也。

又曰：但行王事，洗雪冤沉，常差灵官，护助汝也。或有诸事，常行平正，依吾圣言。况是太平君治化，诸事前程，汝但莫忧。

又曰：托托莫忧烦，军府自然安。每事依王道，从他天下传。

又曰：为主虔诚拜上玄，宋朝社稷保长安。不久太平天下



乐，一家受福镇如山。

又曰：为主合虔诚，将心助太平。天宫系其职，每事更宜精。众圣皆知汝，举措直须惊。一朝功满后，永住看三清。

又曰：生前莫乱忧，已后亦无愁。主判阳间事，凡人得几秋。但依圣言著，长生上天求。

铸每受一篇，未尝不晨夕讽诵焉。又尝谓铸曰：汝年及八十，别无修炼之功，未免掩形升魂，亦当有所主掌尔。铸再拜曰：此生得遇上真下降，屡受祕语。他日傥获主掌，愿与守真同列。真君曰：人间官职，守真不及汝。天上名位，汝不及守真也。但心归真正，升仙阶亦有时矣。

淳化中，西京留守中书令赵普，尝遣使备礼，致醺虔祈，愿闻休咎。真君降言曰：赵普扶持社稷，甚有勋劳，上帝所知，赐汝福寿。然以大妨小，幽府亦有冤对。当启诵真经。告祈天地。首忏前非，吾亦与汝达于上帝，庶解兹咎，汝官职寿数，已有限矣。其使录之而去。普跪读感涕，因焚香谢过，复遣人诣宫设醺。

给事中、参知政事贾黄中，尝遣人投诚致祷，以祈圣诲。真君降言曰：圣主命臣，臣之事君。道佐当代，心依古人。善恶无隐，奸邪必闻。君臣合道，可立勋劳。又曰：爱民用心，赏罚平等，但依吾语，合家保安。

殿中丞张卓尝乞圣言，真君曰：大道养汝性，阴阳生汝身。为吾勤行道，为吾勤修真。公廉常用意，忧恤在乎民。遇时佐明主，清浊上帝闻。浊富终不久，清贫为天人。莫教人道富，从他人笑贫。自有真家富，清高不愧贫。又曰：形凡性不凡，为国显清廉。家积千余口，有罪自家担。又曰：但服阳和气，天灶再熏蒸。地炉别有用，道德日日新。延年积福应，真空若至清。虚无有妙理，度脱有缘人。

道士周务本尝诣宫奏词一通，乞降真语。真君降言曰：汝有词言慕上天，其如心意隔关山。仙宫不远如指掌，内外工夫全未圆。阴官察录无谴过，免坠酆都数百年。依吾所语合吾道，要复三清应不难。

张守真子元济，常斋戒诣宫。真君降言曰：汝父守真遭逢于吾，故令子孙受福。汝岂不闻信州龙虎山张道陵，至今子孙不绝，亦逢于上圣，得道之后，应及后世。汝亦于吾有缘，直须在家孝于父母，食禄忠于帝王，立身扬名，岂非好事！又诲之曰：无事莫街行，勤学必立名。扬名在天下，道荫有长生。又曰：为过自家知，善恶日相随。分明违天道，问汝阿谁痴？

淳化中，真君降言示守真曰：当今显圣明，修德动三清。上天归正道，四海息交兵。八方钦睿圣，五谷尽收成。劝君须修德，上帝赐长生。又曰：关西贼寇，缘应时数，官家须指挥招捉，使臣莫杀平人。官家修德之际，正贼须剪灭。

又尝降言诫辅道士曰：千人心不同，万人心皆错。举意不相通，与圣难相约。

真君又尝降言诫官吏等曰：每存忠信齐其天，文武班行自有贤。为主万年定基业，常忧黎庶恐饥寒。长行德行合其道，烧香虔祝告虚玄。但愿国安君长久，齐心辅佐太平年。

又尝降言诫朝臣等曰：擎天之柱著功勋，包罗大海佐明君。文王治世及尧日，辅弼乾坤在忠臣。为主直须行决烈，死生齐却戴皇恩。常行吉善合其德，慎终如始莫忧身。

## 进翊圣保德真君事迹表

臣钦若言：臣闻高穹睠命，元圣膺期，必有至神，聿彰幽赞，《谟》《训》标于保瞳，《雅》《颂》载于监观，考古今之冥符，见天人之交感。臣钦若诚庆诚抃，顿首顿首。伏以灵源锡羨，炎德嗣兴。景祚有开，丕微允赫。帷玉晨之元辅，奉金阙之明威。降精爽不貳之民，显阴阳莫测之造。佐大邦之启运，告神宗之绍图。兆自几先，聳乎闻听。繇是增隆靖馆，茂荐徽称，钜典崇严，纯禧响答。乃至扈晋绅乡士，横目蒸黎，稽首以瞻睟容，洗心以伫灵诰。随其性之远近，视其器之浅深，时亦戒以徽音，警其蒙惑。谆谆之诲，咸洞其隐微。蚩蚩之氓，潜识其真正。或魑魅为孽，夏鼎之所未刊；或膏肓致妖，秦医之所难究。亦复俯聆虔恳，遥授指踪。真教猥临，群邪必殄。窃冥之象，既炳于人寰；颯飈之游，亟还于霄极。永载苾芬之纪，潜施睠佑之祥。凡厥祕言，悉存旧录，将伸伦次，以示方来。

敢谓微臣，猥承明诏，齐心仰诵，盥手兢持，莫究渊冲，粗伸绌绎。窃念上真之茂躅，实为昭代之明徵。岂夫庸琐之材，辄敢形容其

事？伏望皇帝陛下，垂旒注览，援翰摛文，贍名以纪芳蕤，作序以冠篇首，式彰夤奉，永耀洪休。臣无任瞻天望圣，战汗屏营之至。其所录成《真君事迹》三卷，谨随表上进以闻。臣诚惶诚惧，顿首顿首，谨言。

批答

省表具知。夫妙道为大，本于若冲；至神无方，昭首善应。惟玉虚之元辅，冠琼简之真阶。幽赞裁成，亶彰阴鹭。当艺祖之受命，降福壤而炳灵，逮文考之绍休，告帝期而前兆。式申美报，肇建殊庭。奉襁褓之严科，介苍黔之丕祉。若乃夷微委鉴，肸兹攸凭。示淳诲以惟勤，昭明威而叵测。恍兮之应犹响，泠然之馭亟旋。自朕慕承，夤加崇奉。俨睟仪于恭馆，荐嘉号于元都，念祕诰之具存，表格思之攸盛。期于综缉，以耀休徵。卿任寇枢衡，道熙邦采，雅资博洽，庶就编联。而能细缊帙以惟精，封縹囊而来上。恳求制序，复冀命名。再循浅昧之辞，曷叙直聪之烈。勉从勤请，良积腆惭。嘉尚之怀，寐兴无舍。所请宜依。

## 卷一百四 纪传部·传二

玄洲上卿苏君传 周季通集

先师姓苏，讳林，字子玄，濮阳曲水人也。少禀异操，独逸无伦，访真之志，与日弥笃。常负担至赵，师琴高先生，时年二十一，受炼气益命之道。琴高初为周康王门下舍人，以内行补精术及丹法，能水游飞行。时已九百岁，唯不死而已，飞仙也。后乘赤鲤入水，或出入人间，而林托景丹霄，志不终此。后改师华山仙人仇先生。仇先生者，汤王时木匠也，服胎食之法，还神守魂之事，大得其益。先生曰：子真人也，当学真道，我迹不足躐矣！乃致林于涓子。

涓子者，真人也。既见之，遂授以真诀，告林曰：欲作地上真人，必先服食药物，除去三尸，杀灭谷虫。三尸者：一名青古，伐人眼，是故目暗面皱，口臭齿落，由是青古之气穿凿泥丸也。二名白姑，伐人五脏，是故心气少，喜忘荒闷，由白姑贯穿六腑之液也。三名血尸，伐人胃管，是故肠轮烦满，骨枯肉焦，志意不开，所思不固，失食则饥，悲愁感叹，精诚昏怠，神爽杂错，由血尸流噬魂胎之关也。若不去三尸，而服药者，谷食虽断，虫犹不死也。徒绝五味，虽勤吐纳，亦无益者。盖其虫生，而求人不死，不可得也。是故服食不辟于死生，

由青古、白姑、血尸三鬼不去所致尔！虽复断谷，人体重滞，奄奄淡闷，又所梦非真，颠倒翻错，邪淫不除，由虫在内，摇动五神故也。凡欲求真，当先服制虫丸。制虫丸者，一名初神去本丸也。欲作真人，当先服制仙丸。制仙丸者，太上八琼飞精之丹也。夫求长生不死，仙真之初，罔不先服制虫丸，以除尸虫，建长生之根矣。若人腹中有虫，宁得仙乎？形中饶鬼，安得真乎？其虫凶恶，速人之死，故当除之。

涓子后告林曰：我被帝召，上补中黄四司大夫，领北海公，去世无复日也。后林诣涓子寝静之室，得书一幅，以遗林也。其文曰：五斗三一，太帝所秘。精思二十年，三一相见，授子书矣！但有三一，长生不灭，况复守之乎！能存三一，名刊玉札，况与三一相见乎！加存洞房为上清公，加知三元为五帝君。后圣金阙帝君所以乘景迅雷，周行十天，实由洞房三元真一之道。吾饵术精三百年，服气五百年，精思六百年，守三一三百年，守洞房六百年，守玄丹五百年。中间复周游名山，看望八海，回翔五岳，休息洞室，乐林草之垂条，与鸟兽之相激。川渌吐精，丘陵蓊郁。万物之秀，寒暑之节。弋钓长流，遨游玄濑。静心山岫，念真养气。呼召六丁，玉女见卫。展转六合，无所羁束。守形思真二千八百余年，实乐中仙，不求闻达。今卒被召，上补天位。徘徊世泽，惆怅绝气。吾其去矣，请从此别。子勤勩之，相望飏室也。林省书流涕，彷徨拜空，涓师之迹，于是绝迹矣！

夫玄丹者，泥丸之神也，其法出《太上素灵诀》。守三一为地真，守洞房为真人，守玄丹为太微官也。林谨奉法术，施行道成。周观天下，游睠名山。分形散影，寢息丹陵。卖履市巷，丑形试真。得意而栖，遁化不伦，时人莫能识也。以汉元帝神爵二年三月六日，告季通曰：我昨被玄洲召为真命上卿，

领太极中候大夫，与汝别。比明旦，有云车羽盖，骖龙驾虎，待从数千人迎，林即日登天，冉冉西北而去。良久，云气覆之，遂绝。

林未去之时，先是太极遣使者下拜为中岳真人，后又太上遣王郎下拜为五岳地真人，宫在丹陵。予见先师得道为仙，已三被拜授，而乃登升。盖洪德高妙，玄韵宿感。灵化虚源，神澄八方。龙升凤逐，飞步真门。隐显津梁，观试风尘。其道神矣！其法珍矣！非纸札粗意所能述宣。今聊撰本师之标略尔。将来有道之士，以游目也。

### 太和真人传（元阳子附）

太和真人尹轨，字公度，太原人也，乃文始先生之从弟。少学天文，兼通讖纬，来事先生。因教服黄精花，及授诸道经凡百余篇，皆蒙口诀。先生登真之后，即与隐士杜冲等同于先生宅修学，时年二十八，绝粒行气，专修上法。太上哀之，赐任太和真人，仍下统仙寮于杜阳宫。时复出游，带神丹十余筒，周历天下，济护有缘。或炼金银，以赈贫穷，或行丹药，以救危厄。求哀之人，咸得其福利焉。或上朝玉京，校一切行业善恶报应宿命之期；或论天地日月星辰运度除促之分；或游宴诸天，参校神仙图策，品位部御之方，或论童真始仙威仪俯仰之格；或临诸地，领察兆人建功立行斋请之福；或监度学道男女，经方药饵之道，或游百山千川，检阅神司鬼神考录罪福之目；或论风雨雷电水旱丰俭之事焉。吾所游行，或为道士，或为儒生，或为童愚，或为长老，不可以一涂限也。或与群真众仙，

骖龙馭凤，策空驾虚，云驰电迈，出有入无，分形散影，处处游集。或巡五岳之洞，适十洲之宫，出八荒之域，入九幽之府。或酌碧海之津，挹玄丘之云，采丹华于阆苑，掇绛实于玉圃。故《上清琼文帝章》曰：太和真人与太华真人、三天长生君、南极总司禁君、西台中候、北帝中真、九灵王子、太灵仙妃、赤精玉童、玄谷先生、南岳赤松子、中山王乔、紫阳真人、西城王君、中黄先生、赵伯玄、山仲宗等，同修行三真宝经上法。皆面发金容，项负圆光，乘虚登霄，游宴紫庭，变化万方，适意翱翔，啸命立到，征召万灵，摄制群魔，决生死，驾霄乘烟，出入帝庭焉。

### 附：元阳子

元阳子者，仙人也。生于北极之端，育于虚无之中，与天地浮沉，随日月周回，被服自然，含刚怀柔，优游乎太漠之外，踟蹰乎中岳之上，观和气之布施，察万物之经纪，览纬度之差序，图盛衰之终始。乃遇老君，哀愍元阳，遣经一卷，名曰《黄庭》。乃太素之始元，阴阳之至道，分理之真要，养神之诀文。上古之人，行得其真；中古以来，不得其要。传授谬误，亦从来久也。本黄老作此经，令学者皆得神仙。然黄老已来，英儒之士多为注解，不得黄老之本旨，失其要说。于是元阳恍然退思，采黄老之妙讖，粗为其注，不能究尽道意，深远至通，犹可为学之徒使微悟之尔！有得《黄庭经》者，老子也。《史记》或云：“黄者、黄帝；老者、老子。今亦谓《太上经》为正也。”



## 太极真人传

太极真人杜冲，字玄逸，镐京人也。以周昭王丁巳年，闻文始先生登真，乃于兹灵宅栖玄学道。于时幽人逸士自远而来者，有五人焉。并沈默虚远，方雅高素，道术相忘，共弘不伐之则也。后穆王闻之，为修观建祠，置冲为道士焉。将以气均巢许，德为物范，故天子礼之而不臣，诸侯敬之而不爵，盖以其弘修道业故也。

冲闲居幽室，吟咏道德，常摄护气液，吐纳光华。经二十余载，幽感真人展先生降于寝静，侍者二人，捧碧玉函立于左右。冲乃拜首求哀，蒙授《九华丹方》一函。谓冲曰：老君与尹先生于东海八渟山，召太帝，集群真，天下山川洞室仙人，不远而至。时有地司保举子之勤劳，老君敕我付尔仙经也。冲依按合服，而身生玉映，五脏坚润，裁容气息。又感真人李君授以《太上素灵洞玄大有妙经》，冲复修之，甚得其验，遂乃解胞释结，保命凝真，领摄群神，洞观众妙焉。

穆王亲崇道教，以祈神仙，共策遗风之骏，日驰千里，中到昆仑山，升玄圃之宫；西诣龟山，谒王母于青琳之室；东游碧海，展敬丈人，采若木之华；北适玄垄；南迈长离，同挹绛山之髓。驱策虎豹，役使百灵，通冥达幽，莫测其涯。年一百二十余，以懿王己亥岁，上清元君遣仙官下迎，授书为太极真人，下任王屋山仙王矣。

## 太清真人传

太清真人宋伦，字德玄，洛阳人也。以厉王甲辰岁入道，于是凝心寝景，抱一冲和，不交人事，日诵《五千文》数遍，服黄精白术。积二十余年，乃密感老君，项负圆明，面放金光，披九色离罗之帔，建七映晖晨之冠，有仙童六人，负真执箒。伦匍匐乞哀，乃告伦曰：吾有景中之道，通真之经，生乎三元之始，出乎九玄之庭。五德合庆，六气凝精，分真散景，保遐固龄。子能修之，立致云轩，出有入无，彻幽洞冥。三光并耀，二气灵，变化适意，飞升上清。伦拜受之，乃开蕴，出《灵飞六甲素奏丹符》以付于伦。伦得经修之，乃自然通感。常有玉童六人，更递侍之，察物如神，言无不验。能望岩申步，凌波涉险，不由津路。或化为獐鹿，或托作鸠鸽，翱翔原陆，试人之心。年九十余，以景王时，受书为太清真人，下司中岳神仙之录焉。

论曰：按《楼观仙师传》及《楼观本记》并云，昔周康王闻尹先生有神仙大度之志，乃拜为大夫，并赐嘉名，因号此宅为楼观焉。次昭王时，大夫遇老君，因遂得道。其次穆王乃钦尚遗尘，为建祠修观，召幽逸之人，置为道士，自尔相承，于今不绝。故《楼观碑》云：楼观者，昔周康王大夫关令尹喜所立也，以其结草为楼，因即为号。又云：周穆王西游，秦文东猎，并枉驾回轮，亲崇道教。始皇建庙于楼南，汉武立宫于观北，晋宋谒板，于今尚存。秦汉庙户，相继不绝。由是论之，乃验老君西度关在于昭王之时，信矣！或云幽厉平敬之时西度

者，此由后人不见《老君本纪》，妄为穿凿者也。幽王时，孔子时有见老君者，斯并化胡之后，复还中夏幽演之时也。或云老君西出散关者，按张天师述《老君本纪》云，老子幽演讖，乃与文始先生游此赤城上虞山，过女几鸡头天柱太白山。秦昭襄王闻之，于西麓下为修城邑，今散关中其故墟犹在是也。谓曾于此过，乃升于昆仑山，故此旧墟尚称尹喜城，老停驿等名尔。以此详之，则癸丑年复非度此散关明矣。或云《史记》无文，事同虚妄者，至如九天九垒，川源土俗，遍于六合，犹有不书，况其一区一第，辄能备载焉？若编以史为实录者，则天下谱牒图书，讖纬经论，并为虚诞，岂独此一观一传而已哉！盖验之在实，其来久矣。周宣王时，郊闻采薪之人行歌曰：巾金巾，入天门。呼长精，歛玄泉。鸣天鼓，养泥丸。时人莫能知之，惟老君曰：此活国中人，其语秘矣！斯皆修习无上正真之道也。

太元真人东岳上卿司命真君传      弟子中候仙人李  
道字安林撰

真人姓茅，讳盈字叔申，咸阳南关人也。姬胄分根，氏族于茅，积德累仁，祚流百世，诞纵明贤，继踵相承。高祖父讳濛，字初成，深识玄远，察览兴亡，知周之衰，不仕诸侯。乃师于北郭北阿鬼谷先生，遂隐遁华山，盘桓灵峰，逍遥幽岫，静念神仙，高抗萧寥，绝尘人间也。盈曾祖父讳偃，字泰能，濛之第四子也。仕秦昭王之世，位为舍人，稍迁车骑校尉、长平恭侯，毗弼霸正，有功业于时焉。盈祖父讳嘉，字正伦，仕

秦庄王，为广信侯。始皇即位，嘉辅帝室。当庄襄王时也，秦地渐以并巴蜀、汉中、宛郢，置南郡矣，北收上郡以东，为河东、太原、上党，东至荥阳，灭二周，置三川郡。以吕不韦为丞相，号文信侯，以嘉为德信侯，使招置宾客游士，欲并天下。始皇六年，韩、魏、赵、卫、楚共击秦，取寿陵。始皇使嘉将兵攻之，有功焉。卫迫东都，嘉又克讨，皆平之。始皇壮嘉志节，赐金五千斤。二十五年，秦大兴兵，使嘉攻燕辽东，得燕王而还。又遣嘉定荆，江南地皆降，是年置会稽郡，嘉将兵于会稽而亡。始皇哀其忠，因以相国礼葬之于长安龙首山西南。嘉有六子，并知名于时，始皇皆官爵承先，并各赐姓。其第六子讳祚字彦英，不仕不学，志愿农巷，即盈之父也。祚有三子：长子讳盈，字叔申；次子讳固，字季伟；小子讳衷，字思和。

盈少秉异操，天才颖烁。矫志萧抗，行迈远逸。不营闻达，不交非类，独味清虚，恬心玄漠。盈时年十八，遂弃家委亲，入于恒山，读老子《道德经》及《周易传》，采取山术而饵服之。潜景绝崖，素挺灵岫，仰希标玄，与世永违。

始皇三十年九月庚子，盈高祖父濠，于华山之中，乘云驾龙，白日升天。先是时，其邑谣曰：神仙得者茅初成，驾龙上升入太清，时下玄洲戏赤城。继世而往在我盈，帝若学之腊嘉平。始皇闻谣歌而问其故，父老具对曰：此仙人之谣，劝帝求长生之事。于是始皇忻然，乃有寻仙之志，因改腊曰嘉平。

盈于恒山积六年，思念至道，诚感密应，寝兴妙论，通于神梦，仿佛见太玄玉女把玉札而携之曰：西城有王君得真道，可为君师，子奚不寻而受教乎？心豁灵畅，启徒内爽，觉悟流光之腾晔，自谓已得之于千载矣。明辰植晖，东盼霄迈，登岭陟峻，径到西城。斋戒三月，沐浴向望，遂超榛冒险，稽首灵域，卒见王君。

后二十年，从王君西至龟山，见王母。盈乃叩头再拜，自陈于王母曰：盈小丑贱，生枯骨之余。敢以不肖之躯，而慕龙凤之年，欲以朝菌之质，窃求积朔之期。虽仰远流，莫以知济，津途坚塞，所要无寄。常恐一旦死于钻放之难，取笑于世俗之夫。是以昔日负笈幽林，贪师所生，遂遇王君，哀盈丹苦，见授治身之要，服气之法。于是静斋深室，造行其事。师重见告，以盈身非玉石，而无主于恒。气非四时，常生于内。正当率御出入，呼吸中适。和液得修，形神靡错。感应思积，则魂魄不滞。理合其分，气甄其适，乃可形精不枯。宅不可废也。若使精神疲于往反，津液劳于出入，则形当日凋，神亦枯落，岁减其始，月亏其昔矣。宜便妙访，求其长易之益。西王母曰：子心至矣！吾昔先师元始天王及皇天扶桑太帝君见遗以要言，汝愿闻之邪？于是口告盈以玉佩金珰之道、太极玄真之经。盈拜受所言，稽首而立。又告盈曰：“夫金珰者，上清之华盖，阴景之内真，玉佩者，太上之隐玄，洞飞之宝章。得其道者，皆上陟霄霞，登遨太极，寝晏高空，游行紫虚也。向说元始天王、太帝君言，是《太霄二景隐书》，玉佩金珰之文章也。又有《阴阳二景内真符》，与本文相随太上法，惟令授诸司命。子玉札玄挺，录字刊金，黄映内曜，素书上清，似当为上卿之君，司命之任矣。此道后别当付于子也。然不先闻明堂玄真之道，亦无由得《太霄隐书》也。

盈于是辞师乃归，带索混俗，亦不矫于世。自说入恒山北谷学儒俗之业，时年四十九也。盈父母尚存，父见大怒：为子不孝，不亲供养，寻逐妖妄，流走四方，吾当喻汝为不生之子也。欲杖罚之。盈长跪谢曰：盈受命应当得道，道法世事两不相济。虽违远供养，无旦夕之益。能使家门平安，父母老寿。盈已受圣师符箓，见营助者以天丁之兵，见侍卫者以仙童玉女。

今道已成，不可打击，恐三官考察，非小故也。父外信礼度未该，内修道德玄域，意有未释。故验盈情状，俾众不惑。于是操杖向盈，适欲举杖，杖即摧折成数十段，段皆飞扬，如弓矢之发，中壁壁穿，中柱柱陷。父悟不凡，嗔意乃止。盈曰：向所启正虑如此，邂逅中人，则有所伤故耳。

至汉宣帝时，二弟俱贵。衷为五官大夫、西河太守，固为执金吾，并当之官，乡里相送者数百人。时盈亦在座，谓宾曰：吾虽不作二千石，亦有仙灵之职矣。来年四月三日当之官，能如今日之集会不？众许之。至期日，盈门前数顷地忽自平治，无复寸芥，皆青缣幄屋，屋下铺数重白毡，容数百人坐。远近翕赫相语，来者塞道。客乃有数倍于送弟时。众宾并集，尔乃大作主人，不见使人，但见金盘玉杯，自至人前，奇醜异果，不可名字。酒又美好，又有妓乐，丝竹金石，声动天地。香麝之芳，达于数里。饮食随益，六百余人，莫不醉饱。明日迎官来至，文官则朱衣素带数百人，武官则甲兵牙旗器械曜日。盈与家人及亲族辞决，而语宗室子弟曰：夫真仙道隐，贵在迹翳，不应表光曲饰，动耀视听。吾所以不得默遁藏景，潜举空同者，盖欲以此道诱劝二弟之追慕也。亦何但固衷之返迷耶？天下有心者，尽当注向神仙之冀获尔！言讫，遂归句曲。邦人因改句曲为茅君之山。

时二弟在官，闻盈玄迹眇迈，白日神仙，乘飞步虚，越波凌津，灵官奉从，著于民口，节盖旌旗，光耀天下。始乃信仙化可学，神灵可致。然后明松乔不虚，鼎湖实有。于是并各弃官还家，以日仄之年，方修盈糟粕遗事。不得口诀，未为补益。乃相与共叹而相谓曰：家兄得道，非他人也。曷不往从亲禀问秘诀，而留此按云云方书，以规度世乎？纵往而不达，兄之神仙，终不使吾等死于非所也。遂共弃家，扶輿自载，以寻斯举。

以汉元帝永光五年三月六日渡江，求兄于东山，遂与相见。悲忻流涕，告二弟曰：悟何晚矣！二弟跪曰：固衷顽下，不达道德。愿赐长生，济弟元元。盈曰：卿已老矣，欲难可补复。纵得真诀，适可成地上仙耳。其上清升霄大术，非老夫所学。今且当渐阶其易行，以自支住。于是并教二弟服青牙始生、咽气液之道，以住血断，补焦枯摄筋骨之益，亦停年不死之法也。因以长斋三年，授以上道，使存明堂玄真之气，以摄运生精，理和魂神。三年之内，竭诚精思，神光乃见。于是六丁奉侍，天兵卫护。盈又各赐九转还丹一剂，并神方一首，各拜而服之，仙道成矣。

后授《紫素》之书各百字，以付固、衷。固、衷拜受，其时亦有执仪者以启正之。《紫素文》曰：太上有命，天载真书，言咸阳茅固，家于南关，厥字季伟，受名当仙。位为定录，兼统地真。使保举有道，年命相关，勤恭所莅，四极法令，宫馆洞台，治丹阳句曲之山。固其勛之，动静察闻。又曰：盈、固弟衷，挺业该清。虽晚反正，思微彻诚。断馘六天，才颖标明。今屈司三官，保命建名。总括岱宗，领死记生。位为地仙，九宫之英。劝教童蒙，开道方成。教训女官，授诸妙灵。莅治百鬼，典崇校精。开察水源，江海流倾。封掌金谷，藏录玉浆。监植龙芝，洞草夜光。治于良常之山，带北洞之口，镇阴宫之门也。使者授书讫而去。

至汉平帝元寿二年八月巳酉，五帝各乘方面色车，从群官来下，受太帝之命，授盈为司命东卿上真君。文以紫玉为板，黄金刻之。其文曰：帷盈虚挺远朗，幽耽妙玄。爰自童蒙，散发北山。静心林泽，积思求神。登峻履谷，艰寻师门。掷形绝崿，投躯万津。丹诚率往，肆其天然。遂造明匠，乃授灵篇。剪发祝<贝危>，残首截身。带索自乐，不耻饥寒。所适惟道，

所保以真。情昭上帝，感激太玄。今敬授盈位为太元真人，领东岳上卿司命神君。君平心正格，秉操金石，丹心矫众，栖神高映。故报盈以玉钺、绿旌、八威之策，使盈征伐源泽，折冲万神。君寒冻林谷，味玄仰真，思激穷岫，启心精诚。今故报盈以紫髯之节，藕敷华寇，使盈招驱万灵，封山召云。君弃家独往，离亲乐仙，契阔险巖，冬袒山川。今故报盈绣羽紫帔，丹青飞群。使盈从容霄阶，携命玉真。君步骤深藪，足履危仞，心耽志尚，曾不愆惮。今故报盈以斑龙之舆，素虎之辔，盈浮晏太空，飞轮帝庭。君披榛并景，寒凌霜雪，心求明真，不战不慄。今故报盈以曲晨宝盖，琼帙绿室。使盈游盼九宫，静神温密。君远秀遁荣，无疲于心，潜形幽岳，静思万林。今故报盈以流金火铃，双珠月明。可以上闻太极，通音上清。君贞心高静，谣累不经，素挺浩映，内外坦平。今故报盈以锦旌绣幡，白羽玄竿。可以呼召六阴，玉女侍轩。君慈向触物，阴德万生，蠢动之毛，皆念经营。今故报盈以凤鸾之箫，金钟玉磬。可以和神虚馆，乐真舞灵。君饥渴养神，艰辛求真，万物不能致其惑，千邪不能毁其淳。今故赐盈紫琳之腴，玉浆金醴。可以寿同三光，刻简丹琼也。盈标领清玄，紫玮八映，心晖重离，神曜太霞。实真人之长者，故以太元为号。君九德既备，感积太微，天人虚白，不期同归。今酬九事，以报往怀。盈心神方朗，四灵所栖。丹神启焕，秉直不回。正任全固，监无昭微。今屈宰上卿，总括东岳。又加司命之任，以领录图籍。给玉童玉女各四十人，以出入太微，受事太极也。治宫赤城玉洞之府，盈其莅之，动静以闻。

于是盈与二弟决别，而与王君俱去，到赤城玉洞之府。道次，诸山川神灵有司迎启，引者将以千万矣。临去，告二弟曰：吾今去矣，便有局任，不得复数相往来，旦夕相见。要当一



年再过来于此山，三月十八日、十二月二日期，要吾师及南岳太虚赤真人，游盼于二弟之处也。将可记识之。及有好道者，待我于是乎！吾自当料理之，以相教训未悟。

于是季伟思和遂留治此山洞内，立宫结构于外。将道著万物，流润苍生。德加鸟兽，各获其情。神验祸福，罪恶必明。内法既融，外教坦平。尔乃风雨以时，五禾成熟。疾疢不起，暴害不行。父老歌曰：茅山连金陵，江湖据下流。三神乘白鹄，各治一山头。召雨灌旱稻，陆田苗亦桑。妻子咸保室，使我无百忧。白鹄翔青天，何时复来游？

## 卷一百五 纪传部·传三

清灵真人裴君传      弟子邓云子撰

清灵真人裴君，字玄仁，右扶风夏阳人也，以汉孝文帝二年，君始生焉。为人清明，颜仪整素，善于言笑，目有精光，垂臂下膝，声气高彻，呼如钟鸣。家奉佛道，年十余岁，昼夜不寐，精思读经。尝于四月八日，与冯翊赵康子、上党皓季成共载诣佛图。时天阴雨，忽有贱人著故布单衣，巾黄巾，诣君车后索载，君礼而问之，不答，君下车以载之。康子、季成并大怒，呵问：何等人而上吾车乎？君乃陈谕，遂听俱载。君自徒行在后，颜无变色，寄载人自若，亦不以为惭也。将至佛图，乃曰：吾家近在此。乃下车，奄然失之。佛图中道人支子元者，亦颇知道，宿旧人传之，云已年一百七十岁。见君而叹曰：吾从少至老，见人多矣！而未尝见如子者。乃延君入曲室之中、幽静之房，大设丰饌。饮食既毕，将君更移隐处，呼之共坐，乃谓曰：吾善相人，莫如尔者。子目中珠子，正似北斗瑶光星，自背已下象如河魁。既有贵爵，又当神仙，天下志愿，子宝享焉。然津梁未启，七气未淳，不见妙事，亦无缘而成也。因以所修秘术密以告君，道人曰：此长生内术，世莫得知。吾昔游焦山，及鰲祖之阿，遇仙人蒋先生者，乃赤将子舆也，以《神

诀》五首授吾。奉而行之，于今一百七年矣，气力轻壮，不觉衰老。但行之不动，多失真志，不能去世，故虽延年，不得神仙也。犹是行之多违，精思不至之罪也。今以教子，子秘而慎传之。

第一思存五星，以体象五灵。存之法：常于密室，以夜半后生气之时，服挹五方之气。于寝床上平坐，向月建所在，先叩齿九通，咽液三十过。毕，存想五星，使北方辰星在头上，东方岁星在左，西方太白星在右，南方荧惑星在膝中间，中央镇星在心中。久久行之，出入远行，常思不忘，无所不却，万祸所不能干也。后当奄见五老人，则是五星精神也。若见者，当问以飞仙之道。五神共扶人身形，白日升天。

第二初以甲子上旬，直开除之日为始，以生气之时，夜半之后，勿以大醉大饱，身体不精，皆生疾病也。当精思远念，于是男女可行长生之道。其法要秘，非贤勿传，使男女并取生气，含养精血，此非外法，专采阴益阳也。若行之如法，则气液云行，精醴凝和，不期老少之皆返童矣。凡入靖先须忘形忘物，然后叩齿七通而咒曰：

白元金精，五华敷生，中央黄老君，和魂摄精，皇上太精，凝液骨灵，无上太真，六气内缠，上精玄老，还神补脑，使我合会，炼胎守宝。祝毕，男子守肾，固精炼炁，从夹脊溯上泥丸，号曰還元。女子守心，养神炼火，不动，以两乳气下肾，夹脊上行，亦到泥丸，号曰化真。养之丹扃，百日通灵。若久久行之，自然成真，长生住世、不死之道也。

第三用《五行紫文》，以除三尸。常用朔望之日，日中时，临目南向。临目者，当闭而不闭也。心存两目，中出青气，心中出赤气，脐中出黄气。于是三气相绕，合为一气，以贯一身。须臾，内外洞彻，如火光之状，良久，乃叩齿十四通，咽液十

四过毕。此炼形之道，除尸虫之法也。久而行之，体有五香之气，目明耳聪，长生不死。

第四名曰《阴德致神仙之道》。其文曰常以甲子日沐浴竟，甲子上旬日，当烧香于所止床之左右，久久行之，天仙玉女下降也又一法：当养白犬白鸡，犬名曰白灵，鸡名曰白精。诸八节日及行入五岳，乃登名山，诸有神仙之所在处，密放鸡犬于其间，去勿回顾。天真仙官，当与子芝英灵草矣。又一法：作素奏使长一尺二寸，丹书其文曰：“某郡县乡里某，欲得长生，登仙度世，飞行上清。真人至神，五岳群灵，三官九府，乞除罪名。”书奏毕，以青丝系金环一双，合以缠奏，再拜，北向置奏石上，因以火烧成灰，乃藏环于密石间而去，勿反顾。无环，可用条脱一双以代环，古人名为纵容珠子也。慎与多口嫉妒之人道之，非但无益，乃更致祸。如此十过，天上五帝三官九府，更相属敕除人罪过，著名生录，刊定仙籍。入山求芝草灵药，所欲皆得，山神玉女，自来营卫，狼虎百害，不敢犯近，神灵祐助，常欲使人得道，开人心意，恶鬼老魅，不敢试人。行此道易成而无患。若道士不知此术，入山必多不利，数为鬼物所试；在人间则多轆轳疾病，财物不昌，所愿不从。若能行此道，长生神仙。

第五太极真人常以立春之日，日中时，会诸仙人于太极宫，刻玉简记仙名。常以其夕夜半时，正北向仰视北极，再拜顿首，陈乞己罪多少之数，求解释之意，毕，复再拜乃止。至春分之日，日中时，昆仑瑶台太素真人会诸仙官，校定真经。至立夏之日，日中时，上清五帝会诸仙人于紫微宫，见四真人，论求道者之功过。至夏至之日，日中时，天上三官会于司命河侯，校定万民罪福，增年减算。至立秋之日，日中时，五岳诸真人诣中央黄老君于黄房云庭山，会仙官于日中，定天下神图灵药。

至秋分之日，日中时，上皇大帝乃登玉清灵阙太微之观，会太上三老君，北极诸真公、八海大神、五岳尊灵、仙官万万共集，议定天下万兆之罪福、学道之勤懈，一一列，副之司命。至立冬之日，日中时，阳台真人会诸仙官玉女，定新得道始入仙录之人。至冬至之日，日中时，天真众仙诸方诸东华大宫，见东海青童君，刻定众仙籍金书内字。常以八节日夜半日中，谢七世祖父母及身中罪过，罪过自除也。久行之，神仙不死。夫秋分日者，太上神真观试万仙，自非真正者，不可轻用其日谢罪也。真人仙官以八节日日中时，共会集三日乃解，欲修道者，当先斋戒，勿失之也。又一法：每至八节日，常当行入五岳，若神仙真人所栖名山之处也，每于深僻隐岩之中，密烧香乞愿，祝曰：玄上九灵，太真高神，使某长生，所欲从心，百福如愿，寿如灵山，谨以节日，登岩请生。毕，因散香于左右，勿顾而返。常能行此，必长生神仙，所欲如心，玉女诣房，众灵卫身也。若或有栖遁冥契而不获登山者，寄心启愿，精意向真，亦与身诣名山者无异。每事决在心诚密畅，求真坚正，乃获之也。此赤将子與五首隐诀内道要事毕矣。

君乃再拜而奉要言还归，精思行之，常处隐室，不棣名好。乃服食茯苓，饵卉醴华腴。积十一年，夜视有光，常能不息，从旦至中。年二十三，本郡所命为功曹，君不应命。寻又州辟主簿，转别驾，举秀才，诣长安拜博士高第，转尚书，选曹郎、御史中丞、散骑常侍、侍中。出为北军中候，以伐匈奴有功，封濉阳侯，后迁冀州刺史。别驾刘安之，时年四十五，初迎君为主簿，后转别驾，亦知仙道。饮食黄精，积二十余年，身轻，面有华光，数与君俱斋静室中。以正月上旬，君沐浴斋于静室，至三月，奄有仙人，乘白鹿，从玉童玉女各七人，从天中来下在庭中，他人莫之见。君拜顿首，乞请一言，仙人曰：我南岳

真人赤松子也，闻子好道，故来相过，君何所修行乎？君长跪自陈所奉行凡百二十事。松子曰：勤存五灵，别当授子真道。奄然而去。君于是乃求解去官，自称笃疾，欲诣太上请命，遂弃官委家，逃游名山，寻此微妙，别驾刘安之从焉。

君时年四十五，帝累征召，一不应命。逼之不已，君乃北游到阳谿山，以避人间之网罗也。遂入石室北洞中，学道精思，无所不至，安之不能久处山中，时复出于人间。君于后将云子去，乃登太华山，入西洞玄石室里，积二十二年，奄见五老人皆巾来诣，君再拜顿首，乞请神诀，乃出神芝见赐。一老人巾青巾，著青衣，拄青杖，带通光阳霞之符，乃东方岁星之大神也，以青华之芝见赐，出青书一卷，是《紫微始青道经》也。又一老人巾苍巾，著苍衣，拄苍杖，带郁真箫凤之符，乃北方辰星之大神也，以苍华之芝见赐，出《苍元上策北斗真经中命四旋经》四卷见授。又一老人巾白巾，著白衣，拄白杖，带皓灵扶希之符，乃西方太白星之大神也，以白华之芝见赐，出《太素玉策宝玄真经》三卷见授。又一老人巾赤巾，著赤衣，拄赤杖，带四明朱碧之符，乃南方荧惑星之大神也，以丹华之芝见赐，出《龙胎太和丹经》二卷见授。又一老人巾黄巾，著黄衣，拄黄杖，带中元八维玉门之符，乃中央镇星之大神也，以黄华之芝见赐，出《四气上枢太元黄书》八卷见授。乃五星之精，天之大神也。

君再拜，服此神芝，读神经。十旬之间，视见万里之外，能日步千里，能隐能彰，役使鬼神，乃游行天下。东到青丘，遇谷希子青帝君，授以青精日水饮食青芝。还到太山，遇司命君，授以《上皇金录》。乃西到流沙滨白水岸，遇太素真人，乘龙云轩，建紫晨巾，以紫羽为盖，仗七色之节，侍从神童玉女各二百许人，在白水沙洲空山之上，方游观金城，鸣玉钟，

舞华幢，望在空山之上，往而不至。君乃身投长渊，浮白水，冒洪波，越沙岸，嶮巇沈溺，遂登空山，见而拜焉，顿头稽顙，乞请真诀。太素真人笑曰：危乎济哉！子今日始当得之矣。因口教《服二景飞华上奔日月之法》，又授《太上隐书》。告君曰：此足以为真矣。遂留空山上，修二景引日法，诵《隐书》。

积十一年，太素真人曰：子道已成矣。因以景云龙舆见载，羽盖华宝之仪，诣太素宫，见上清三元君。君当尔之时，亦不知在何处也。三元君治太素宫，诸仙童玉女侍者有千余人，以黄金为屋，青玉为床。君既诣金阙，再拜稽首。三元君以玉玺金真见赐，玉女二十四人，玉童三十二人见侍。乃乘飞云中辇，复北游诣太极宫，见太极四真人。四真人见授神虎符、流金火铃。乃诣太微宫，受书为清灵真人，治青灵宫。佩三华宝衣，乘飞龙景舆，仗青旂、玉钺七色之节，游行上清九宫。

西玄者，葛衍山之别名。葛衍有三山相连，西为西玄，东为郁绝根山，中央名葛衍山。三山有三府，名曰三宫，西玄山为清灵宫，葛衍山为紫阳宫，郁绝根山为极真宫。三山缠固万三千里，高二千七百里，下有洞庭，潜行地中，通玄洲昆仑府也。西玄山下有洞台，方圆千里，金城九重，有玉堂兰室，东西宫殿，中有四百二十真人处焉。其树则绛碧，草则芝英，其鸟兽则麒麟凤凰。距昆仑七万里，其间有高晖山，上有洞，光如日，葛衍、西玄、郁绝根三山也。

道人支子元受蒋先生入室精思、存五灵之神光、服气之法，常以夜半之时，静室独处，平坐向东，瞑目阴咒曰：

苍无皓灵，少阳先生，九气还肝，使我魂宁，上帝玉篆，名上太清。毕，因闭气九息，咽液九过，叩齿九通。次南向，瞑目，阴咒曰：

赤庭绛云，上有高真，三气归心，是我丹元，太微绿字，

书名神仙。毕，因闭气三息，咽液三过，叩齿三通。次西向瞑目，阴咒曰：

素元洞虚，天真神庐，七气守肺，与神同居，白玉金字，九帝之书，使我飞仙，死名已除。毕，因闭气七息，咽液七过，叩齿七通。次向生年之本命处，瞑目阴咒曰：

黄元中帝，本命之神，一气侍脾，使我得真，老君玄篆，书名神仙，长生久视，与命永存。毕，因闭气一息，咽液一过，叩齿一通。次北向瞑目，阴咒曰：

玄元北极，太上之机。五气卫肾，龟玉参差，神名玉札，年同二仪，役使六甲，以致八威。毕，因闭气五息，咽液五过，叩齿五通。尔乃存五方之气都毕，又咽液九过，北向再拜，阴咒曰：

谨白太上太极四真君，请存五方五灵神，使某相见得语言。毕乃精思。此一法存五灵先服气阴祝之道，与出中庭存法等耳。此法乃迳要不烦，又于静思易也。裴君后重更授传如此。于静室祝时，亦先存五灵在体中使备，然后服气尔。庭中之法，所修烦多难行，又于致神之验不胜于静室之速也。后出要言秘之勿传，庭中之法，以劝于始学，使不懈怠尔。笃而言之，室中为要法。

支子元受蒋先生第五首之诀，以八节之日，存思陈己立身已来罪过多少之数，输诚自状已上，希天皇诸真开写之祐，剋身归善，以求长生神仙者也。盖秋分之节者，气处清灵太和之正日也。众真诸仙，是其日皆听讼焉。又地上刺奸吏部境域诸仙官，并纠奏所在道士之功过，及万民有罪应死生者也。《仙忌真记》曰：子欲升天慎秋分，罪无大小皆上闻。以罪求仙仙甚难，是故学道为心寒。此是朱火丹陵仲阳先生之要言矣。

秋分气调日和，中顺天地者也。夫火炎之气，摧于凋落之



势；玄水包津，胎于金生之府。乃太阳光转少阳，藏养天地，于是所以定刚柔之际，合二象之序，焕成流明，乃别阴阳三元，实八节之标日，求道之要梯矣。每至其日日中之时，上皇太帝君玉尊陛下，乃登广寒上清灵宅、太空之阙、丹城紫台、长锦玉楼，群真集于太微之观，上关九天之真皇，中要太上三老君、北极诸真及八海大神，下命五岳名山诸得道者，尊灵万万，并会于阳寥之殿，共集议定天下万民之罪福，记学道求仙者之勤疏，议犯过日月修行善恶刑罚之科、生死之状。各随其所属部境，根源条例，副之司命，书之皇录。罪福纤芥，刻于丹城之籍，伏匿之犯恶、阴德之细切者，无不一二缕而知之者也。

其夕夜半，当出中庭，北向脱巾，再拜长跪，上启太上北极天帝太帝君，因密自陈己立身已来犯罪多少之状，乞得赦赏、从今自后改往修来之言，言之必使信，誓于丹心，盟于天地，不敢复犯恶之行也。其中言在意陈之也。毕云愿太上皇帝削其罪名，移书三官，使神仙之录某厕玉札，长生久视，通真达灵。毕，又叩齿四下，再拜而还静室，深自刻责，并存念三元中神，令上启太上。如此者三，名上仙籍，罪咎除灭也。三元、泥丸、绛宫、丹田三神也。存令三元三神，上启天尊，求恩救助。已自陈令，必上闻也。三启秋分，生籍乃定，死名乃除。此一法出《经命青图》，是长生秘法矣。俗人虽存道，未离人间，甚多罪咎，犯之者非一，恐未便可施用秋分首过之法也。入山林中，远去人事，萧然独处，不犯万物者，乃可为之。既有反善之词，誓有改行之言，言已闻于高上之听，慎不可复使犯恶远生之事也。重犯罪十过，天地弗救，身死为验，非可复改补者矣。以此求道，无所复索也。养生者有如水火之交尔，得其益则白日升天，犯戒律则身没三泉也。

又此日独重于七节，赵伯玄所谓生死门户者也。《三九素

语》曰：秋判之日，尊卑尽会，生死之日也。古人以秋分之日为秋判之日也。所以尔者，秋分之日，乃会九天八地众真人神、上皇至尊，三日三夕，共定万民之命，所聚议者咸多，而神尊并集故也。诸八节日，会天地诸真官，先后及节，凡三日三夕，而各还所司。此是支公之口诀，又别此一事，不离七节之条例也。《候夜神童金根经》曰：八节之日，求仙极会，天命众真，皆当集对。未节一日，万灵诣阙，节日日中，尊毕入谒。节后一日，罪福分别，三日三夕，天事乃毕。子其慎罪，务为功德，名可上真，列编太极。吾不试言，知者深密，急宜谢过，秘而慎泄。此亦支公所告，出以传示裴君。

太素真人教裴君二事。为真人之法，曰：旦视日初出之时，临目闭气十息，因又咽日光十过，当存令日光霞，使入口中，即而吞之。毕仍存青帝君，从日光中，来在我之左；次存赤帝君，从日光中来，在我之右；次存白帝君，从日光中来，在我之背；次存黑帝君，从日光中来，在我之左手上；次存黄帝君，从日光中来，在我之右手上。五帝都来，乃又存阳燧绛云之车，驾九龙，从日光中来，到我之前，仍与五君共载而奔日也。

裴君止于空山之上，修行精思。一年之中，仿佛形象。二年之中，五帝俱乘日形见在左右。三年之中，终日而言语笑乐。五年之中，五帝日君遂与裴君骖乘飞龙之车，东到日窟之天、东蒙长丘、大桑之宫、八极之城，登明真之台，坐希琳之殿。授裴君以《挥神》之章，《九有》之符。食青精日 台，饮云碧玄腴。于是与五帝日君日日而游，此所谓奔日之道也。日中亦有五帝，一曰日君。《太上隐书》中篇曰：子欲为真，当存日君，驾龙骖凤，乘天景云，东游希琳，遂入帝门。精思仍得，要道不烦，名上清灵，列位真官，乃执《郁仪文》。

第二事为真人之法：日夕视月，临目闭气九息，因又咽月

光九过。当存月光，使入口中，即而吞之。毕仍存青帝夫人，从月光中来，在我之左；次又存赤帝夫人，从月光中来，在我之右；次又存白帝夫人，从月光中来，在我之背，次又存黑帝夫人，从月光中来，在我左手上；次又存黄帝夫人，从月光中来，在我右手上。五帝夫人都来，乃又存流铃飞云之车，驾十龙，从月光中来，到我之前，仍存五夫人共载而奔月也。

裴君止于空山之上，修行精思。一年之中，仿佛姿容。二年之中，五夫人遂俱乘月形见在君左右。三年之中，并共笑乐言语。五年之中，五帝月夫人遂与君共乘飞龙之车，西到六岭之门、八络之丘、协晨之宫、八景之城，登七灵之台，坐太和之殿。授裴君《流星夜光》之章、《十明》之符。食黄琬紫津之醴，饮月华云膏。于是与五夫人夕夕共游，此所谓奔月之道矣。月中亦有五帝夫人，《外经》云：日君月夫人者，是少有仿佛也。《太上隐书》中篇曰：子欲升天，当存月夫人，驾十飞龙，乘我流铃。西到六岭，遂入帝堂，精思乃见，上朝天皇，乃执《结璘章》。

裴君白日精思对日，存日中五帝君；夜则精思对月，存月中五夫人。五年之中，日月精神并到，共乘飞龙，上游太玄。始学则五灵形见，授书赐芝。终成则日月五帝君五夫人，骖辔清虚，乘云太丹，朝谒三元，稽首金阙，乃获玉玺金真，威制群神，役使玉女玉童。北朝四真人，受书为真。佩神虎之符，以制严六天，授流金之铃，以命召众精；仗青旄之节，以周流九宫。皆由精思微妙，幽感天心，是以灵降扶身，上升帝庭尔。道士行之者则是耳，不必以已仙人也。若处密室，及日月不见时，但心中存而思之可也，不待见日月。要见视之为至佳。惟精思心尽，无所不通，此言要也。

临目者，令目当闭而不闭之间也，少令得见日月之光景。

密而行之，勿令人知。虽杂人同室而止，有密其思者，比肩仍自不觉。每事尽当尔，不但此一条而已。求生养命在于心，三丹田三寸之间耳。是以龙变蝉蜕，皆以一致而成也。《八素经》曰：仙者心学，心诚则成仙；道者内求，内密则道来；荣者外求，口发则贵至；财者动心，心寂则富集。诸寂动异用，而所攻者一，守之在役用之机也。

太素真人曰：为真不知道者，亦复多耳。要于乘光扬景，腾云升虚，并日月之精，游九天之表，餐霞饮玄，呼吸太和，乃不可不为此奇道，此道亦易成而速得也。众真有不知此道者，见吾乘云而携日月五帝五夫人，莫不敬亲而求请问之也，吾亦复未示之也。《内视中方》曰：子欲步空常，当存日月；子欲登清冷，当存五星。密室密行，不出宇庭，此之谓也。

夫守道者，及学道求仙者，修行至精，皆可为之。为之既得，便成升天仙人也。此道不必真人，而当独行之也。子有真骨真性而密行之，必能舍章守慎，不妄传泄，故以相教耳。《黄老秘言》曰：子得《郁仪》《结璘》，乃成上清之真。子得《大洞真经》，乃能飞行上清。无此三文，不得见三元君，要道尽此，仙子加勤。中仙都无知此道者，此道相传惟口诀耳。能知此道，不问贤愚，皆乘云升天，役使鬼神。群仙立盟为约，不得妄宣，泄则灭门。口诀者，《黄老秘言》是也。

裴君受命，留在空山之上，精思存修二事。五年之中，得见日月之精五帝夫人。读《隐书》及《九有》、《十明》之符，积十一年，太素真人来告曰：子成真矣。因锡以龙车，给以羽盖，并日月之游精，参五帝之同乘。诣太素宫，见上清三元君，受玉玺金真，给玉女二十四人，玉童三十二人，北游诣太极宫及太微宫，位为清灵真人。

太素真人曰：子存日精五帝君，口含《太上郁仪文》，须

此道成，乃见日中君，无此徒劳自烦冤。太素真人曰：“子存月精五帝月夫人，口含《太上结璘章》，须此道成，乃见月中夫人，无此徒劳自悼伤。右二条太素真人受太帝君诀言。《太上隐书》云：存时执之。帝君云：含之。太素真人教裴君：存时含一文，执一文，并行之。

《太上隐书》曰：欲行此道，不必愚贤，但地上无此文耳。真官玄法，启誓乃传。金丹之信，道乃备焉。青帛之盟，道乃可宣。有得而行，位为真人。乃乘步景云晏，羽旂琼轮，游行九天，上诣太极宫，谒高皇上元君。裴君乃先密受《太上郁仪文》、《太上结璘章》二书，然后斋戒，而得存日月之精尔。有仙名骨录者，乃得见此二书。见之者仙，为之者真。《郁仪》、《结璘经》及《大洞真经》，乃太极四真人之所秘，上清天皇之所珍贵也。西玄山下洞台中有此书，刻以玉简，书以金字。及王屋清虚洞中，亦见有《郁仪》《结璘》之篇目尔，而不具备具，惟大玄宫高上台，及蓬莱府北室，金柱玉壁，刻文并具备具也。精心存念，昼夜为之，十一年而成尔。与修洞经者大都等尔。

夫此二文，是《洞经》之祖宗，《素灵经》之园囿尔。凡诸下仙，莫有闻《郁仪》之篇目、《结璘》之密旨者。得其道皆速成，而无试也。又致神之验，是为迳疾，得其要道者，但速于《大洞》之秘妙尔。非有仙名者，皆不得闻此书。闻见此书，而敢妄以语一人者，即灭侍真官玉女玉童各十人，自然使天火灾而失之。语二人已上，不可得以学仙也。按泄《洞经》之科条，即已有轻重之异，减损侍真，便十倍于《大洞》。地上骨录有相之道人而有此书者，皆为师主。男称监灵大夫，女称执明大夫，男称左，女称右。《素奏丹符》曰：大哉《郁仪》，妙行《结璘》，非上真不见，非上仙不闻。以致日月五精

之神，乘龙步空，足蹑景云，遂与五帝，上入天门。有之闻之，慎忽妄言。去世可出，誓金乃传。要付弟子，有心之者。勿道篇目，玉童上言。泄则被考，身终不仙。玉童玉女，去而不还，书文必失，获刑三官。子其慎之，言为罪先。

峨嵋山北洞中石室户枢刻石书字曰：《郁仪》引日精，《结璘》致月神，得道为上宫，位称大夫真。凡二十字，下仙读此，不解其意，仙人自有不见其篇目者，多矣。其金液九丹，盖小术也，皆不得飞行上清。《大洞真经》有泄之者，按玄中科，即减一纪，玉童玉女，各减一人。三泄之身死，不得复成仙人。太上《郁仪文》、《结璘章》有泄之者，减玉童玉女各十人，天火烧屋，书从火中失，而还上天也。再泄身刑，死不复生，学道终不成仙也。泄言妄说篇目，并受考于三官。师有当因缘去世之日，或归反阴涂，绝迹藏变之时，要当有所授，若无其人，乃自随身。受之者皆青金丹缕之<贝危>，为誓天地，不泄宣之，盟约乃得出之，师随事上闻，而有奏署日月也。不从科条，皆为妄泄。

《大洞真经》乃中央黄老君之宝书，非至真上士有玉名之者，莫见篇章条目也，真仙亦有不闻此书者矣。初限令一百年乃得一出传，可成而不得妄说篇目。太上《郁仪》、《结璘》文章，以致于日月之精神，上奔日月，通天光，飞太空之道也。皆乘云车羽盖，驾命群龙，而上升皇天紫庭也。《大洞真经》以致于朝灵之道，招神成真人之法也。乘云驾龙，腾跃玄虚，衣绣羽，佩金真玉光，逍遥太霞，上升九霄矣。此二书，天帝之秘途，微妙哉！太素真人犹隐其篇目，但漫云二事者，是秘讳之甚也，况世人而令知其甲乙乎！有相遇而得之者，至诚好事，仍可为之，别有事旨，故不一二。

裴君所受真书篇目，列之于左：

《支子元神诀》五首，蒋先生所秘用，咸阳城南佛图中曲室密房受之。

青帝君授《紫微始青道经》一卷。

苍帝君授《苍元上策北斗真经中命四旋经》四卷。

白帝君授《太素玉策宝玄经》三卷。

赤帝君授《龙胎太和丹经》二卷。

黄帝君授《四气上枢太元黄书》八卷。

青帝君授《通光阳霞》之符。

苍帝君授《郁真箫凤》之符。

白帝君授《皓灵扶希》之符。

赤帝君授《四明朱碧》之符。

黄帝君授《中元八维玉门》之符。

右十书于太华山西洞玄石室受。

谷希子青帝君授青精日水青华芝。东到青丘受服。

《上皇金策》，司命君于太山授。

太素真人授《太上郁仪文》。在白水沙洲空山之上授；

太素真人授《太上结璘文》。在白水沙洲空山之上授。

太素真人授《太上隐书》。在白水沙洲空山之上授。

上清三元君授《玉玺金真》。在太素宫金阙下授。

四真人授《神虎符》、流金火铃。在太极宫授。

日中五帝君授《挥神》之章、《九有》之符、青精日飴、云碧玄腴。

月中五帝夫人授《流星夜光章》、《十明之符》、黄琬紫津之飴、月华云膏。右裴君所受众书符之目。

裴君授支子元《服茯苓法》，焦山蒋先生所传。茯苓五斤，盛治去外皮，乃捣下细{徒}，以渍白蜜三斗中，盛之以铜器，若耐热，白瓦器，以此器著大釜中，著水裁半于所盛药器腹，

微火烧釜，令水沸煮药器，数反侧药，令相和合，良久蜜销竭煎，出著铁臼中，捣三万杵，令可丸。但服三十丸，如梧桐子大。百日百病除，二百日可夜书，二年使鬼神，四年玉女侍卫，十年夜视有光，能隐能彰，长生久视。服此一年，百害不能伤，疾病不复干，色反婴儿，肌肤充悦，白发再黑，眼有流光。合药斋三日，煮之于密盛处，勿令妇人鸡犬见，及秽漫之也。五斤茯苓、三斗白蜜为一剂。当作木盖，盖之煮药器上，勿露也。煮之时，反侧药，熟乃开之耳。火以好薪炭，不可用不成樵辈以煮之也。当用意伺候料视，恒以为意，欲并合多少在意。药成，预作丸，盛之以密器，可经于千岁不败。

裴君受支子元《服胡麻法》，蒋先生于黄金罍祖山中授支公也。

胡麻三斗肥者，黄黑无拘，在可择之，使精洁，于微火上熬令香，气极令燥，细捣以为散，令设设尔，勿下{徒}。白蜜三斗，以胡麻散渍会蜜中，搅令相和，使调匝，安器，著釜水中乃煮，如前煮《茯苓法》也。伺候令煎竭可捣，乃出捣之三万杵，如桐子大，旦服三十丸，尽一剂，肠化为筋，不知寒热，面反童颜，役使众灵。蒋先生惟服此二方，先生已凌烟化升，呼吸立至，出入无间，與乘群龙，上朝帝真，位为仙宗者也。当簸择胡麻令精。

此二方与世方书小异，裴君所秘者，验而有实也。云体先不虚损，及年少之时，当服茯苓，若出三十者，当服胡麻。蒋先生云：此二方是大有之要法，长生神仙之秘宝。《宝玄经》云：茯苓治少，胡麻治老。合以斋戒，服以朝蚤。卉醴华腴，火精水宝。和以为一，还精归宝。此之谓也。卉醴华腴，蜜也。火精，茯苓也。水宝，胡麻也。裴君以年少时所用，故服茯苓，二方同耳，皆长生不死、必仙之奇方也。若大有资力者，亦可



合二物，倍用蜜共煎，捣以为丸乃佳，亦并治老少矣。茯苓、胡麻，不必别作之也。此二方，蒋先生乃各在一处授支公，不顿之也。是以焦山而茯苓方传，鳖祖而胡麻方出，明道秘之文，乃不可得一尽其根源也。至于支公授裴君，亦乃顿倒囊笈之奥言，肆倾玄真之秘途，将以逆鉴察天录，必当已知应为仙真乎！

## 卷一百六 纪传部·传四

清虚真人王君内传      弟子南岳夫人魏华存撰

华存师清虚真人王君，讳褒字子登，范阳襄平人也，安国侯七世之孙。君以汉元帝建昭三年九月二十七日诞焉。洪基大业，世籍贵盛。君父讳楷，以德行懿美，比州所称，举茂才，除议郎，转中垒大夫、上党太守、黄门侍郎、侍中、左将军、雁门太守。楷正色彤管，坦诚献替，纳言推谏，披衿拔领，率职莅民，政以礼成，舍刑宽赋，不肃而敬。天子贤之，迁殿上三老，使宾皇太子，讲《春秋》、《尚书》、《论语》、《礼》、《易》。恢恢仁长，循循善诱。微言既甄，矜绅乘其范，大义已陈，百王格其准。迁光禄大夫，谥曰文侯。夫人司马迁之孙，淑慎沈博，德配母仪。盖以清源高流，圆颖远映，灵根散条，芳华朗曜。是用忠孝启于上叶，善诱彰于文德，世载英旌，斯人有焉。

君体六和之妙炁，挺天然之嘉质，含岳秀以植韵，秉灵符而标贵，晖灼焕于三晨，峻逸超于玄风。少读五经，傍看百子，综算象纬，通探阴阳，及风炁律吕，靡有不览也。父为娉丞相孔光女，娶妇在室，以和人伦。而君凝形淳观，明德独往，高期真全，绝不内盼。峨峨焉若望庆云之沓轸，浩浩焉似泛沧溟

之无极。神栖万物之岭，气迈霄汉之津。鸿渐邓林，展翮东园。将藏凤羽以翳于南风，匿龙华以沉于幽源。是乃夜光潜跃，映耀于难掩。遂名沸绝圃，声驰京夏，四府交辟。君即闲夜之感，喟然悲叹曰：人间尘蔼，趣竞得失，利害相攻，有逾鹬乌之视老燕矣！遂决志辞亲，入华山中。九年，契阔备至，精感昊穹，神映幽人，体期冥灵，心唱至真尔！

一日夜半，忽闻林泽中有人马之声，箫鼓之音，须臾之间，渐近此山，仰而望之，见千骑万乘，浮虚空而至。神人乘三素云辇，手把虎符，朱钺启途，握节执旄，曲晨倾荫，锦旂蔽虚。神人暂停驾而言曰：吾太极真人西梁子文也。闻子好道，劬劳山林，未该真要，诚可愍也！勤企长生，实为至矣！君乃驰诣轮毂之下，叩头自抃而言曰：褻以肉人，愚顽庸贱，体染风尘，恣躁乱性。然少好生道，莫知以度？真人曰：夫学道无师，无缘自解。我太极真人，神仙之司，主试校学者，领举正真尔！子玄录上清，金书东华，名编清虚，位登小有，必当掌括宝籍，为天王之任尔。但注心四景，勤慕上业，道自成也。

后隐阳洛山中，感南极夫人、西城真人并降。南极夫人乃指西城曰：君当为王子登之师，子登亦佳弟子也。良久，西城真人长叹而谓君曰：夫学道者，谅不可以仓卒，期求生者不可以立尔，综故冥术，栖于玄元，而高偕太妙，凌重霄以累抗矣。夫道虽无形，其实有焉；妙虽昧昧，其实坦然。子当勤求其无，然后见其至有。子广延诸妙，然后究其坦大。得有则有生，得妙则年全也。子求生虽笃，而未见其涯。慕道虽勤，而未启其门。殆犹汹涌波以索鸟巢，寻长木而访渊鳞尔！是故子心疲于导引，而朱宫为之丧溃。肺弊于理炁，故神华为之凋落。肝劳于视盼，而魂精为之辽索。脾竭于守神，而丹田为之阂滞。肾困于经纬，而津液为之不泽。胆锐于趣竞，故四肢为之乱作。

五脏相攻，六腑颠覆。三焦滞而不泻，八关绝而无续。赖悍饭以劲汝身，恃丹青以固汝内尔！正可却衰白之凋折，犹不免必死之期会。徒有万年之寿，岂足贵乎？

西城真人遂以即日授君《太上宝文》、《八素隐书》、《大洞真经》、《灵书八道》、《紫度》、《炎光》、《石精》、《玉马》、《神真》、《虎文》、《高仙》、《羽玄》凡三十一卷，依科立盟，结誓而付。乃将，须臾而至。四面大海，悬涛千丈，洲上宫阙，朱阁楼观，琼室瑶房，不可称记。西城真人曰：此仙都之府，太上丈人处之。乃将君入紫桂宫，见丈人著流霞羽袍，冠芙蓉之冠，腰带神光，手把火铃，侍女数百，龙虎卫阶。太上丈人与西城真人相礼而已，相携共坐，君时侍侧焉。太上丈人曰：彼所谓王子登乎？学道遭逢良师，将得之矣。西城真人笑，因命君拜。拜毕，太上丈人使坐北向。丈人乃设厨膳，呼吸立具，灵肴千种，丹醴湛溢，燔烟震檀，飞节玄香，陈钧天之乐，击金璆于七芒，崆峒启音，彻朗天丘。于是龙腾云崖，飞凤鸣啸，山阜洪鲸，涌波凌涛，云起太虚，风生广辽，灵歌九真，雅吟空无，玉华作唱，西妃折腰。尔乃众仙挥袂，万神迁延，羽童拊节，庆云缠绵。于是太上丈人会二十九真人，皆玄洲之太真公也。其第一真人自称主仙道君，指君而向西城真人言曰：彼悠悠者，将西城之室客，上宰之宾友耶！视此子心眸澄邈，神渟形凝，圆晨不煊，六景生华，殆真人之美者、小有之贤王也。未彼果何人哉？于是西城真人笑而答曰：道君今何清音之不妙、曲问之陋碎哉？请粗陈其归要焉。盖夫圣匠剖太混之一朴，分为亿万之体；发大蕴之一包，散为无穷之物。是故立三光，呼天而置晷仪，封区域，呼地而制五服，制漏刻以分日夜，正四时以财岁月，五位以正方面，山川以定险阻，城郭以自居焉，兵械以自卫焉，旌旗舆服以自

表，用九谷以自养。凡此之类，象玄乎天，而形存乎地，日月有幽明之分，寒暑有生杀之气，震雷有出入之期，风雨有动静之节，类气浮乎上，而众精流乎下，废兴之数、治乱之运、贤愚之质、善恶之性、刚柔之气、寿夭之命、贵贱之位、尊卑之班、吉凶之征、穷达之期普陈矣。性发乎天，而命成乎人也。故立之者天，而行之者道，受焉性合神同，混而为一，流通并行，不可细得分别也。于是主仙道君命侍女范运华、赵峻珠、王抱台等，发琼笈、披绿蕴，出《上清隐书龙文八灵真经》二卷授子登，又以云碧阳水晨飞丹腴二升赐君，君拜服之。

真人遂将君还西城，九年道成，给飞飏之车，东行渡启明沧海，登广桑山，入始晖庭，诣太帝君，稽首再拜，太帝授以《龙景九文紫凤赤书》、《上清神图八道玉篆》。次南行渡渤海、丹海，登长离山，诣南极紫元夫人，一号南极元君，授以《九道回玄太丹绿书》。又诣赤台童子、华盖上公，授以五云夜光云琅水霜。南极夫人曰：昔日之言，岂负举哉！君稽首谢恩辞退。次西行，渡庾丘巨海沉羽之津，登丽农山，诣紫盖晨夫人、景真三皇道君，授以《玉道绿字回曜太真隐书》。次北游，渡彫柔玄海，济饮龙上河匏瓜津，登广野山，诣高上虚皇大道玉君。会其出游，驾日月之晨，乘紫始之光，郁蔼黄素之云，勃蔚八景之曜，飞真万亿，不可称数。君再拜，道侧唱者曰：闻君乃诣上清玉晨帝君、玄清六微元君，二君授以《宝洞飞霄绝玄金章》及赐《太极隐书》、龙明珠绛和云芝，君拜而饮之，即身金色，项映圆光，七曜散华，流焕映形。又退登阊风之野，玄圃之宫，诣中皇玉帝，受《解形遁变流景玉经》。乃越郁绝，济弱河，西诣龟台，谒九灵太真上清夫人，退更清斋三月，受《三华宝曜琼文琅书》、《灵晖上篆》、《七晨素经》。退又清斋三年，浮浩汗之河，登白空虞山，山周回三万

里游行。翌日，趋诣紫清太素琼阙，即太素三元上道君所治焉。处丹灵白玉宫，飞映绝曜，紫霞落焕，七光交陈，结于云宇之上，奇丽玄黄，不可名字。仙童玉女侍右，天尊，盖无数也。君既至，稽首再拜，诣琼阙之下，久时，太素三元上道君乃使绣衣命者西林藻授君《金真玉光流金火铃豁落七元八景飞晨》。又使清真左夫人郭灵盖、右阳玉华仲飞姬，赍神策玉玺授君，以为太素清虚真人，领小有天王、三元四司、右保上公，治王屋山洞天之中，给玉童玉女各三百人，主领上清玉章、太素宝玄、太极上品、九天灵文、六合秘籍、山海妙经，悉主之焉。又总括洞内明景三宝，得乘虎旂龙辇、金盖琼轮、八景飞舆，出入上清，受事太素，寝宴太极也。后归西城，清斋三月，授书为太素清虚真人矣。

### 紫阳真人周君内传

紫阳真人姓周，讳义山，字季通，汝阴人也。汉丞相勃七世之孙，以冠族播流，世居贵宦。祖父玄，元凤元年为青州刺史。父秘，为范阳令，时君始生焉。父后积秩累迁，官至陈留刺史，君时年十六，随从在郡，始读《孝经》、《论语》、《周易》。为人沉重，少言笑，喜怒不形于色。好独坐静处，不结名好。然精思微密，所存必感。常以平旦之后，日出之前，正东向立，漱口咽液，服气百数，向日再拜。旦旦如此，为之经年。父怪而问之：所行何等？君长跪对曰：义山中心好日光长景之晖，是以拜之尔。至月朔旦之日，辄游市及闾阎陋巷之中，见穷乏饥饿之人，解衣与之。时时上登名山，喟然悲叹，

或入石室中，欢然独笑。时陈留大儒名士，闻君盛德，体性沉美，咸修诣焉。君辄称疾，不见宾客。汉侍中蔡咸，陈留高士，亦颇知道。闻君德行，数往诣君，辄解疾，不欲见之。父乃大怪，怒责之，督切使出见之。既不得已，遂出相见。咸大发清谈，及论神仙之道，变化之事。君乃凝默内闭，敛神虚静，颌而和之，一不答也。

是岁大旱，斗米千钱，路多饥莩。君乃倾财竭家，以济其困，阴行之，人亦不知是君之慈施也。对万物如临赤子，斯积善德仁爱之施矣。后遇陈留黄泰，告君曰：闻君好道，阴德流行，用思微妙，诚感于我，是以相诣。吾是中岳仙人须林，字子玄也。本卫人，灵公末年生，少好道德，受学于岑先生，见授炼身消灾之道术。后又遇仇公，公乃见教以服气之法，还神守魂之事，吾行之甚验，大得其益。子少知还阳，精髓不泄。又知导引服气，吞景咽浆，不复须阴丹内术补胎之益也。然犹三虫未坏，三尸未死，故导引服气不得其理。可先服制虫细丸，以杀谷虫。虫有三名：一名青虫，二名白姑，三名血尸，谓之三虫。三虫在内，令人心烦满，意志不开，所思不固，失食则饥，悲愁感动，精志不至，仍以饮食不节断也。虽复断谷，人体重滞，奄奄淡闷，所梦非真，颠倒翻错，邪俗不除，皆由此虫在内，摇动五脏故也。杀虫之方如后：

附子（五两） 麻子（七升） 地黄（六两） 术（七两）

茱萸根（大者七寸） 桂（四两） 云芝英（五两）

凡七种，先取菖蒲根，煮浓作酒，使清淳重美，一斗半，以七种药 父咀，内器中渍之，亦可用牝咀。三宿乃出，曝之令燥。又取前酒汁渍之，三宿又出曝之，须酒尽，乃止曝令燥。内铁臼中捣之，下细筛令成粉。取白蜜和之，令可丸。以平旦东向，初服二丸如小豆，渐益一丸，乃可至十余丸也。治腹内

弦实上气，心胸结塞，益肌肤，令体轻有光华。尽一剂则虫死，虫死则三尸枯，三尸枯则自然落矣。亦可数作，不限一剂也。然后合四镇丸，加曾青、黄精各一两以断谷。毕，若导引服气，不得其理，可先服食众草药，巨胜、茯苓、术、桂、天门冬、黄连、地黄、大黄、桃檉及皮任择焉。虽服此药以得其力，不得九转神丹金液之道，不能飞仙矣。为可延年益寿，亦辟其死也。

君按次为之，服食术五年，身生光泽，彻视内见五脏，乃就仙人求飞仙要诀。仙人曰：“药有数种，仙有数品。有乘云驾龙，白日升天，与太极真人交友，拜为仙宫之主，其位可司，真公定元公、太生公，及中黄大夫、九气丈人、仙都公，此皆上仙也；或为仙卿大夫，上仙之次也。游行五岳，或造太清，役使鬼神，中仙也；或受封一山，总领鬼神；或游翔小有，群集清虚之宫，中仙之次也。若食谷不死，日中无影，下仙也；或白日尸解，过死太阴，然后乃仙，下仙之次也。我受涓子秘要，是中仙耳。子名上金书，当为真人，我之道，非子非真人所学也。今以《守三之一法》、《灵妙小有之书》二百事传子，石菌朱柯若乾芝与子服之，吾道毕矣。子可远索师也。”

君再拜受教，退而服神芝，五年，目视千里外，日行五百里。遂巡行名山，寻索仙人。闻蒙山栾先生能读《龙峻经》，遂往寻之。遇衍门子，于是授以《龙峻经》及《三皇内文》。退登王屋山，遇赵佗子，受《芝图》十六首及《五行秘符》。又遇黄先生，受《黄素神方》、《五帝六甲》、《左右灵飞》之书四十四诀。退登礪冢山，遇上卫君，受太素传《左乙混沌东蒙》之录《右庾素文摄杀》之律。退登嵩高山，遇中央黄老君，合会仙人在其上太室洞门之内，君顿头再拜，乞长生度世。黄老君曰：子存洞房之内，见白元君耶？君对曰：实存洞房，



尝见白元君。黄老君曰：子道未足矣，未见无英君也。且复游行，受诸要诀，当以《上真道经》授子矣。见白元君，下仙之事，可寿三千年，见无英君，乃为真也，可寿一万年矣。

君再拜，受教而退，游行天下名山大泽，西登白空山，遇沙野帛先生，受《太清上经》。退登峨嵋山，入空洞金府，遇宁先生，受《太丹阴书》八禀十诀。退登岷山，遇阴先生，受《九赤班符》。退登岐山，遇臧延甫，受《忧乐曲素诀辞》。乃登梁山，遇淮南子成，受《天关三图》。乃退登牛首山，遇张子房，受《太清真经》。乃退登九嶷山，遇李伯阳，受《李氏幽经》。乃游登钟山，遇高丘子，受《金丹方》二十七首。乃登鹤鸣山，遇阳安君，受《金液丹经》、《九鼎神丹图》。乃登猛山，遇青精先生，受《黄素传》。乃登陆浑山，潜入伊水洞室，遇李子耳，受《隐地八术》。乃登戎山，遇赵伯玄，受《三元素语》。乃登阳洛山，遇幼阳君，受《青要紫书》，三五顺行。乃登霍山，遇司命君，受《经命青图》、《上皇民籍》。乃登鸟山，遇墨翟子，受《紫度炎光内视图中经》。乃登曜名山，遇太帝侯夜神童，受金根之经。乃登委羽山，遇司马季主，受石精金光藏景化形。乃登大庭山，遇刘子先，受七变神法。乃登都广建木，遇谷希子，受黄气之法、太空之术、阳精三道之要。乃登桐柏山，遇王乔，受《素奏丹符》。乃登太华山，遇南岳赤松子，受《上元真君书》。乃登太冥山，遇九老仙都君，受《黄水月华四真法》。乃登合黎山，遇皇人，受《八素真经》、《太上隐书》。乃登景山，遇黄台万毕先生，受《九真中经》。乃登玄垄羽山，遇玉童十人、九炁丈人，得白羽紫盖、服黄水月华法。乃到桑林，登扶广山，遇青真小童君，受《金书秘字》。乃退南行朱火，登丹陵山，遇龚仲阳，受《仙忌真记》。

乃西游登空山，见无英君而退洞房中，无英君处其左，白元君处其右，黄老君处其中。无英君服金精朱碧玉绶之袍，光赤朝霞，流景耀天，要太上灵炁之章，佩九帝祛邪之策，戴翠上紫灵之冠。盖太玄丹灵上元赤子之祖父也。左连青宫之炁炁灌万神，乃未有天地，先自虚空而生矣。白元君服丹玉之锦云罗重袍，白光内朱，流景参天，垂晖映神，玄黄彻虚，要太上灵精之章，佩玄元摄魔之策，戴招龙皂冠。盖玉房云庭上元赤子之父，右夹皓青之室，朝运生者也。中夹黄老君是太极四真王之师老矣。上摄九天，中游昆仑，黄阙来其外，紫户在内，下与二君入洞房，圆三寸，威仪具焉。夫至思神见，得为真人。若见白元君，得为下真，寿三千岁；若见无英，得为中真，寿万岁；若见黄老，与天相倾，上为真人，列名金台。君既诣之，乃再拜顿首，乞与上真要诀。黄老君曰：可还视子洞房中。君乃冥目内视，良久，果见洞房中有二神人：无英、白元君也，被服状如在空山中者。黄老君笑言曰：微乎深哉！子用意思之精也。此白日升天之道，子还登常山，授子上真之道。

君乃还常山室中，斋戒念道，复积九十余年中，白元君、无英君、黄老君遂使受之《大洞真经》三十九篇。有玉童二十一人、玉女二十一人，皆侍直烧香，昼夜习之。积十一年，遂乘云驾龙，白日升天，上诣太微宫，受书为紫阳真人，佩黄旄之节，八威之策，带流金之铃，服自然之衣，食玉醴之台，饮金液之浆，治葛衍山金庭铜城，所谓紫阳宫也。紫阳有八真人，君处其右，一日三登昆仑，一朝太微帝君，以礪豕为紫阳别宫，所谓洞庭潜宫也。礪豕山有洞穴，潜行通王屋清虚小有天，亦潜通阊风也。

## 马明生真人传

马明生者，齐国临淄人也，本姓和，字君宝。少为县吏捕贼，为贼所伤，遇太真夫人适东岳，见而悯之。当时殆死，良久忽见一女子，年可十六七，服奇丽，姿容绝世，行步其傍，问君宝曰：汝何伤血也？君宝以实对。夫人曰：汝所伤，乃重刃关于肺，五脏泄漏，血凝绛府，炁激肠外，此将死之急也，不可复生，如何？君宝知是神人，叩头求哀，乞赐救护。夫人于肘后筒中出药一丸，大如小豆，即令服之，登时而愈，血绝疮合，无复惨痛。君宝再拜，跪曰：家财不足以谢，不知何以奉答恩施？惟当自展努力，以报所受尔！夫人曰：汝必欲以谢我，意亦可佳，可见随去否？君宝乃易名姓，自号马明生，随夫人执役。

夫人入东岳岱宗山峭壁石室之中，上下悬绝，重岩深隐，去地千余丈。石室中有金床玉几，珍物奇玮，乃人迹所不能至处也。明生初但欲学金疮方，既见其神仙来往，乃知有不死之道，旦夕供给扫洒，不敢懈倦。夫人亦以鬼怪狼虎眩惑众变试之，明生神情澄正，终不恐惧。又使明生他行别宿，因以好女于卧息之间调戏，令接之。明生心坚志静，固无邪念。夫人或行，去十日五日还，或一月二十日，辄见有仙人宾客，乘龙驾凤往来，或有拜谒者，真仙弥日盈座。客到，辄令明生出外别室，或立致精细厨食，肴果非常，香酒奇浆，不觉而至，不可目名。或呼明生坐，与之同饮食。又闻空中有琴瑟之音，歌声宛妙。夫人亦时自弹琴瑟，有一弦五音并奏，高玄响激，闻于

数里，众鸟皆为集于岫室之间，徘徊飞翔，驱之不去。盖天人之乐，自然之妙音也。夫人栖止，常与明生同石室中，而异榻尔。幽寂之所，都惟二人。或行去，亦不道所往之处，但见常有一白龙来迎，夫人即著云光绣袍，乘白龙而去。袍上专是明月珠缀著衣缝，带玉佩，戴金华太玄之冠，亦不见有从者。既还，即龙自去，不知所在。石室玉床之上，有紫锦被褥，绯罗之帐，中有服玩之物，瑰金亟英，玄黄罗列，非世所有，不能一一知其名也。有两卷素书，上题曰《九天太上道经》，明生亦竟不敢发舒视其文也。惟供给扫洒，守岩室而已。至于玩服，亦不敢窃窥之，亦不敢有所请问。

如此五年，愈加勤肃，辄不怠惰。夫人叹而谓之曰：汝可谓真可教也，必能得道者也。以子俗人，而不谣不慢，恭仰灵气，而莫之废，虽欲求死，亦焉可得乎！因以姓字本末告之曰：我名婉罗，字勃遂，事玄都太真，有子为三天太上府都官司直，总纠天曹事，官秩比人间卿佐也。年少，数委官游逸，虚废事任，有司奏劾，降主东岳，退真王之编，司鬼神之师，五百年一代其职。因来视之，励其后，使修守政事，以补其过。我久在人间，今奉君王命，又被太上召，不复得停。念汝专谨，故以相语，欲教汝长生之方、延年之术。而我所受服以太和自然龙胎之体，适可授三天真人，不可以教始学之者，固非汝所得闻矣。纵或闻之，亦必不能用以持身也。有安期先生，晓金液丹法，其方秘要，便可立用，是九君太一之道，白日升天者矣。安期明日来，吾将以汝付嘱之焉，相随稍久，其术必传。明日安期先生至，乘罍麟，著绯衣，戴远游冠，带玉珮及虎头鞶囊，视之可年二十许，洁白严整，从六七仙人，皆执节奉卫，见夫人揖之甚谨，称下官。须臾，设酒果厨膳，饮宴半日许。夫人语明生曰：吾不复得停，汝随此君去，勿忧念也。我亦时

时当往视汝。因以五言诗二篇赠之，可以相存。明生流涕而辞，乃随先生受九丹之道。诗曰：

其一

暂舍墉城内，命驾岱山阿。仰瞻太清阙，云楼郁嵯峨。虚中有真人，来往何纷葩！炼形保自然，俯仰食太和。朝朝九天王，夕馆还西华。流精可飞腾，吐纳养青牙。至药非金石，风生自然歌。上下凌景霄，羽衣何娑婆。五岳非妾室，玄都是我家。下看荣竞子，笃似蛙与蟆。顾盼尘浊中，忧患自相罗。苟未悟妙旨，安事于琢磨？祸凑由道泄，密慎福臻多。

其二

昔生昆陵宫，共讲天年延。金液虽可遇，未若太和仙。仰登冥灵台，虚想咏灵人。忽遇扶桑王，九老仙都真。驾骖紫虬辇，灵颜一何鲜！启我寻长途，邀我自然津。告以鸿飞术，受以《玉胎篇》。琼膏凝玄气，素女为我陈。俯挹琳凤腴，仰上飘三天。云纲立尔步，五岳可暂还。玄都安足远，蓬莱山脚间。传授相亲爱，结友为天人。替即游刑对，祸必无愚贤。秘则享无倾，泄则躯身颠。

明生乃随安期先生负笈，西之女几，北到圆丘，南至秦庐，潜及青城九嶷，周游天下。二十年中，勤苦备尝。安期乃曰：子真有仙骨，何专恭之甚耶！吾所不及也。遂授以太清金液神丹方，而告之曰：子若未欲升天，但先服半剂。与明生相别而去。明生乃入华阴山，依方合金丹，饵之半剂得仙，而与俗人无异，人莫识其非凡。汉灵帝时，惟太傅胡广知其有道，尝访

明生，以国祚大期问之。明生初不对，后亦告焉，无不验者。后人怪其不老，遂复服金丹半剂，白日升天。临去，著诗三首，以示将来，汉光武三年也。诗曰：

其一

太和何久长！人命将不永。喻如朝露晞，奄忽睡觉顷。生生世所悟，伤生由莫静。我将寻真人，澄神挹容景。盘桓昆陵宫，玄都可驰骋。涓子牵我游，太真来见省。朝朝王母前，夕归钟岳岭。仰采琼瑶葩，俯漱琳琅井。千龄犹一刻，万纪如电顷。

其二

天地自有常，人命最险羸。年若惊弦发，时犹轻矢逝。虽有灼灼姿，玉为尘土秽。林草无秋耀，绿叶岂终岁？惜此繁茂摧，哀彼寒霜厉。有存理必亡，有兴故有废。真官戏玄津，与物无凝滞。神冲紫霄内，形栖山水际。对虚忘有怀，游目记容裔。风尘将何来？真道故可大。

其三

浊涂谅为叹，世乐岂足预？振褐扫尘遐，飘飘独远举。寥寥岩岳际，萧萧纵万虑。灵真与我游，落景乘鸿御。朝乘云轮来，夕驾扶摇去。嗷嘈天地中，嚣声安得附？

## 阴真君传（阴真君自叙附）

阴长生者，新野人。汉和帝永元八年三月己丑立皇后阴氏，即长生之曾孙也。少处富贵之门，而不好荣位，潜居隐身，专务道术。未闻有马明生得度世之道，乃以入诸名山求之。到南阳太和山中，得与相见，乃执奴仆之役，亲运履舄之劳。明生不教以度世之法，但旦夕与之高谈荣华当世之事，治生园圃之业。十余年，长生未尝懈怠。同时有共事明生者十二人，皆怨恚归去，独长生礼敬弥肃，而明生数因言语得失之际屡骂之，长生乃和颜悦心，奉谢不及。

如此积二十年，后清闲之日，明生问其所欲。长生踞曰：惟乞生尔。今以粪草之身，委质天匠，不敢有所汲汲，惮于迟速也。明生哀其语，乃告之曰：子真是能得道者也。乃将长生入青城山中，煮黄土为金以示之，立坛歃血。即日，以太清金液神丹授之，欲别去。长生乃叩头陈谢，暂留仙驾，拜辞曰：弟子少长豪乐，希执卑逊，克身励己，若临冰谷。不能弘道赞德，宣畅妙味，徒尸素壁立，而老耄及之。是以心存生契，舍世寻真，天赐嘉会，有幸遭遇。自执箕帚二十二年，心力莫植，常惧毁替筋，力弱蒲薄，微效靡骋，恩养不酬，夙夜感慨。告以更生，顿受灵方。是将灰之质，蒙延续之年；炎林焦草，惠膏泽之霑。若绝烝以其苏息，瞽暗开其视听，感荷殊戴，非陋词所谢。昔太岁庚辰，闻先生与南岳真人、洪崖君、云成公、瀛洲仙女数人共坐，论传授当委绢之誓，教授有交带之盟，应祭九老仙都、九气丈人诸君。祷祠受之，大药必行；不祭而受，

为之不成。弟子预在曲室，尝侍帷侧，亦具闻诸仙起未得道之言，说昔受丹节度矣。先生今日见谕，不复陈此，或非先生所授之不尽，将恐是弟子困穷尔！”马明生慰谕之曰：非有不尽。汝性耽玄味，专炁而和，灵官幽鉴，以相察矣！不复烦委，为俗人之信耳。

于是长生入武当山石室中含丹，又服半剂，不即升天，而大作黄金数万斤，以布施天下穷乏，不问识与不识。周行天下，与妻息相随，举门皆寿。后委之入平都山，白日升天。临去，著书九篇，云：上古仙者多矣，不可具记而论。但汉兴以来，高士得仙者四十五人，迨予为六矣。二十人见尸解去，余者白日升天焉。弟子丹阳葛洪，字稚川，尝闻谚言有云：不夜行，则不知道，上有夜行人。今不得仙者，亦安知天下山林间，密自有学道得仙者耶？阴君已服神药，虽未升天，然方以严丽同声相应，使自与仙人相寻求闻见，故知此近世诸仙人之数尔！而俗人谓为不然。己所不闻，则谓之无有，不亦悲哉！夫草泽闲士，以隐逸得志，经籍自娱，不耀文彩，不扬名声，不修求友，不营闻达，犹不能识之，又况仙人！亦何急令朝菌之徒，知其所云为哉！

### 阴真君自叙

惟汉延光元年，新野山之子，受仙君神丹要诀。道成去世，副之名山。如有得者，列为真人。行乎去来！何为俗间？不死之道，要在神丹。行气导引，俯仰屈伸，服食草木，可得小道；不能永度于世，以至天仙。子欲闻道，此是要言。积学所致，



不为有神。上士为之，勉力加勤。下愚大笑，以为不然。能知神丹，久视长存。

### 吴猛真人传

吴猛字世云，豫章人也。性至孝，小儿时在父母膝下，无骄慢色。后得道，海昏上僚，路有大蛇，时或断道，以炁吸吞行人，行旅为绝。猛与弟子往除蛇害，蛇乃入藏深穴，猛敕南昌社公追蛇。蛇头高数丈，猛踏蛇尾，沿背而以足按头，弟子斫杀之。猛云：此蛇是蜀精，蛇死则杜毅灭矣。果如言。将军王敦迎猛，道过宫亭，庙神具官僚迎猛。猛曰：汝神王已尽，不宜久居，非据我不相问也。神乃去。至蜀见敦，时多疫病，猛标浦水百步，饮者皆愈，日中请水者将千人。敦恶之，于座收猛，奄然失去，大相检覆。猛恐坐者多，乃徐步于万人之中还船，天地冥合，乘风迅逝，一宿至家。弟子见两龙负船，眼如瓮大。猛云：敦践人君之位，命终此稔。其年敦死。后太尉庾亮迎猛，至武昌便归，自言算尽，未至家五十里亡。殁后疑化，弟子开棺，不见其尸。

### 许逊真人传

许逊字敬之，南昌人也。少以射猎为业，一旦入山射鹿，鹿胎从弩箭疮中出堕地，鹿母舐其子，未竟而死。逊怆然感悟，

折弩而归。闻豫章有孝道之士吴猛学道，能通灵达圣。叹我缘薄，未得识之。于是旦夕遥礼拜猛，久而弥勤。已鉴其心，猛升仙去时，语其子云：吾去后，东南方有人姓许名逊，应来吊汝，汝当重看之，可以真符授也。至时逊果来吊，其子以父命，将真符传逊。奉修真感，有愈于猛。

### 许迈真人传

许迈字叔玄，小名映，丹阳句容人也。世为胄族，冠冕相承。映总角好道，潜志幽契。曾从郭璞筮卦，遇大壮之大有上六爻发。璞谓映曰：君元吉自天，宜学轻举之道。初师鲍靓，受中部之法及《三皇天文》。一旦辞家，往而不返。东入临安县山中，散发去累，改名远游，服术黄精，渐得其益，注心希微，日夜无间。数年之中，密感玄虚，太元真人、定录茅君，降授上法，遂善于胎息内观，步斗隐逸，每一感通，将超越云汉。后移临海赤山，遇王世龙、赵道玄传《太初》。映因师世龙，受解束反行之道，服玉液，朝脑精，三年之中，面有童颜。临应得道，三官都禁遣典柄侯周鲂、主非使者严白虎，出丹简罪簿，各执一通，诘映诸愆，如其无答，便当执也。赖得龚幼节、李开林相助，映甚怖惧，强长啸叱咤而答曰：大道无亲，唯善是与。天地无私，随德乃矜。是以阪泉流血，无违龙髯之举，三苗丹野，涿鹿絳草，岂妨大圣灵化，高通上达耶！吾七世祖许子阿者，积仁蕴德，阴加鸟兽，遇凶荒疫疠之年，百遗一口，子阿散财拯救，自营方药，已死之命，悬于子阿手，得济者四百八人。德坠我等，应得仙者五人，皆录字青宫，岂是

尔辈所可豫乎？言毕，会司命君遣中候李遵握铃而至，魴等笑而走，即得度名东宫，为地仙中品。

映第五弟谥，小名穆，官至护军长史、散骑侍郎，年七十二，舍世寻仙，能通灵降真。先经患满，腹中结寒，小便不利。遇西王母第二十七女，号曰紫微夫人，谓穆曰：此病冢讼之所致，家又有怨鬼为害，可服术，自得豁然除去。紫微夫人因作服术，叙以传。穆依方修合，服十旬都愈，眼明耳聪，容貌日少。司命君授以飞步之道，告穆曰：渊奇体道，解幽达精。虚中授物，桑德顺贞。宽慈博采，闻道必行。逍遥飞步，启诚坦平。策龙上超，浮烟三清。实真仙之师友，乃长里之先生。必当封牧钟邑，守伯仙京，传佐上德，列书绛名。

穆第二子虎牙，耀颖玄根，列景真图，诸天仙人咸谓为寅兽白齿。定录君所告服药事多隐语，志诸姓名，曰：凤栖乔木，素衣炳然。履顺思贞，凝心虚玄。五公石腴，彼体所便。急宜服之，可以少颜。三八合明，次行玄真。解驾偃息，可识洞篇。琼刃应数，适心高玄。栖隐默沉，正气不衰。木散除疾，是汝所宜。次服丁饭，兼谷勿违。益髓除患，肌肤充肥。然后登山，咏洞讲微。寅兽白齿，尔能见机。遂得不死，过度壬辰。偃息盛木，玩报周书。太极殖简，金书西华。学服可否，自应灵符。理契同归，神洞相求。

穆第三子玉斧，含真渊疑，少有微誉，司徒辟掾不就，隐居茅山。师杨羲，受《三天正法》、《曲素凤文》。后定录君授其上道，告玉斧曰：斧欲学道，当如穿井，井形愈深，土愈难运出。若不坚其心，正其行，岂得见泉源耶？又曰：夫学道当专注，精无散念。拔奢侈，保冲泊。寂焉如密有所睹，熙焉若潜有所得。始得道之门也，犹未入道之室也。所谓知道为易，学道为难者也。若乃幽寂沉味，保和天真，耽正六腑，无视无

听，此乃道之易也。即是不能为之者，所以为难矣。许侯研之哉！斧子莹之哉！年二十八，超然登仙。

映于东山与穆书曰：吾自寄神炁，收景东林，沐浴明丘，乖我同生。每东瞻沧流，叹逝之迅。西盼云崖，哀兴内发。仿佛故乡，郁何垒垒！将欲返身归途，但矫足自抑尔！于是静心一思，逸凭灵虚。登岩崎岖，引领仰玄。真志飞上，游空竦真。始觉形非我质，遂忘躯逐神矣。浪心飚外，世务永绝。足乐幽林，外难一塞。建志不倦，精诚无废。遂遇明师，见授奇术。请讲新妙，玉音洞密。吐纳平颜，炼形保骨。冲炁夷泯，无复内外也。但恨吾遭良师之太晚，返滞性之不早。吾得道之状，艰辛情事，定录真君以当说之矣。崇赖成覆，救济之功，天地不能逾也。闻弟远造上法，偶真重幽。心观灵无，炁陶太素。登七关之巍峨，味三辰以积迁。虚落霄表，映朗九玄。此道高妙，非吾徒所闻也。亦由下挺稟浅，未由望也。然高行者常戒在危殆，得趣者常险乎将失。祸福之萌，于斯而用。道亲于勤，神归精感。丹心待真，招之须臾。若念虑百端，协以营道，虽骋百年，亦无冀也。三官急难，吾昔闻之在前。七考之福，既已播之于后。因运乘易，不亦速耶！几成而败，自己而作，试校千端，因邪而生矣！尔想善功，苦心劳形，勤立功德，万物芸芸，亦何益哉？斧子萧萧，其可羨也。各不自悟，当造此事，斧独何人，享其高乎？师友之结，得失所宗，托景希真，在于此举也。吾方栖神空岫，荫形深林，采汧谷之幽芝，掇丹草以成真矣。昔约道成当还，旅信虽未通彻，粗有仿佛，亦欲暂偃洞野，看望坟莹，不期而往，冀暂见弟。因缘简略，临书增怀。映报。

### 杨羲真人传

杨羲者，不知何许人也。仕晋简文帝为舍人，朝隐唯要，人莫能识。少好道，服食精思，遂能进灵接真，屡降玄人。茅君、定录、安九华等授其道要，西城王君又教服日月之精，及思泥九绛宫、炼魂制魄、灭三尸之法。玄清真人谓羲曰：夫为道当如射箭，箭直往不顾，乃造棚的。操志入山，惟往勿疑，乃获至真。羲恭受，勤行得仙。简文后师羲得道。

### 鲍靓真人传

鲍靓字太玄，陈留人也。少有密鉴，洞于幽元，深心冥肆，人莫之知。按《洞天记》云：靓及妹并是先身七世祖李湛、张虑者，俱杜陵北乡人，同在渭桥为客舍居。积行阴德，好道希生，故福逮于靓等，使易世变炼，改氏更生，合为天伦。根胄虽异，德荫并同。靓学明经、术纬侯，师左元放，受中部法及三皇五岳劾召之要。行之神验，能役使鬼神，封山制魔。

晋太兴元年，靓暂往江东，于蒋山北道见一人，年可十六七许，好颜色。俱行数里，其人徐徐动足，靓奔马不及，已渐而远。因问曰：相观行步，必有道者。其人曰：吾仙人阴长生也。太上使到赤城，君有心，故得见我尔。靓即下马，拜问寒温，未及有所陈。阴君曰：此地复十年，当交兵流血。计至苏

峻乱，足十年也。君慕道久矣，吾相见，当得度尔仙法。考得仙者，尸解为妙，上尸解用刀，下尸解用竹木，皆以神丹染笔，书《太上太玄阴生符》于刀刃左右。须臾，便灭所书者，而目死于床上矣。其真身遁去，勿复还家，家人谓刀是其人也。用竹木如刀之法。阴君乃传靓此道。又与靓论晋室修短之期，皆演一为十，广十为百，以表元帝，托云推步所知，不言见阴君所说，是阴君戒其然矣。

## 卷一百七 纪传部·传五

陶先生小传      吴兴谢瀹永明十年作

先生讳弘景，丹阳人也。幼标异操，聪明多识，五经子史，皆悉详究。善书，得古今法。不肯婚宦，以资营未立，且薄游下位，为宜都王侍读。年二十余，便稍就服食，遵行道要，所得符文妙法，并是真人遗迹。于是业行渐进，乃拂衣止于茅山焉。观其神仪明秀，盼睐有光，形细长项，耳间矫矫，显然异众矣。

华阳隐居先生本起录      从子翊字木羽撰

永明十年，太岁己卯，谢詹事瀹先从吴兴还，闻先生已辞世入山，甚怀嗟赏。于路中仍为前传，虽未能究洽，而粗举大纲，有似王右军作《许先生传》。翊从叔隐居，先生讳弘景，字通明，丹阳人也。宅在白杨巷南冈之东，宋初土断，仍割秣陵县西乡之桐下里，至今居之。

陶氏本冀州平阳人，帝尧陶唐之苗裔也。尧治冀州平阳，

故因居焉。汉兴，有陶舍为高祖右司马，子青擢位至丞相。十三世祖超，汉末渡江，始居丹阳。七世祖浚，交州刺史璜之弟，仕吴为镇南将军，封句容侯，食邑二千户，与孙皓俱降晋，拜议郎散骑常侍、尚书。六世祖谟，浚第三子，永嘉中为东海王越司马，领屯军随王出许昌。因败，仍复过江，为大将军王敦参军。敦为丞相，转军谘祭酒。后随敦南下，而情惧祸及，乃启分属籍，禁锢积年，晚起为车骑丞相参军，不就。升平四年卒，始别葬白石山之岭，贍湖北。高祖毗有理识，器干高奇，以文被黜，不肯游宦，州郡辟命并不就，后板授南安正佐，亦不起，元兴三年卒。曾祖兴公多才艺，叵营产殖，举郡功曹，察孝廉，除广晋县令，义熙二年卒。祖隆身长七尺五寸，美姿状，有气力，便鞍马，善骑射，好学，读书善写，兼解药性，常行拯救为务。行参征南中郎军事，侍从宋孝武伐逆有功，封晋安侯，除正佐，固辞。颜峻恃宠，就求宅以益佛寺，弗与，因辞官。见譖削爵，徙广州，后被恩除南海西平县令，后监新会郡。大明五年，卒于彼。

父讳贞宝，字国重，司徒建安王刘休仁辟为侍郎，迁南台侍御史，除江夏孝昌相。亦闲骑射，善藁隶书。家贫，以写经为业，一纸直价四十，书体以羊欣、萧思话法。深解药术，博涉子史，好文章，美风仪，凡游从，与萧思话、王钊、刘秉周旋，多为诸贵胜所赏遇。元徽四年冬，衔使肤庭，通邻国之好，甚得雅称。升平元年还都，具撰游历记并诗数千字，及所造文章等，刘秉索看，仍值石头事亡失，无复别本，不得传世。建元三年于县亡，背丧还葬旧墓。母东海郝夫人，讳智湛，精心佛法，及终，有异焉。先是，贞宝携家随萧之郢州，孝建二年，萧亡。其年九月，母觉有娠，仍梦见一小青龙，忽从身中出，直东向而升天，遂视之，不见尾。既觉，密语比丘尼，云：弟



子必当生男儿，应出非凡人，而恐无后。尼问其故，以所梦答。尼云：将出家？又答：审尔亦是所愿。时年二十五。其冬，仍随萧部伍还都，住东府射堂前参佐廨中。以孝建三年太岁丙申四月三十日甲戌夜半，先生诞焉。是年乃闰三月，明日朔旦，便是夏至，母即沐浴而起，了无余患。

先生四五岁便好书，今犹有六岁，时书已方幅成就。九岁十岁读《礼记》、《尚书》、《周易》、《春秋》杂书等，颇以属文为意。年十一，为司徒左长史王钊子昊博士。十三，父貽宅席卷，随吏部尚书刘秉之淮南郡。十五归都，寓憩中外徐胄舍，后仍立别宅，从此不复还旧庐。十七乃冠，常随刘秉尹之丹阳郡，得给帐下食，出入乘厩马。秉第二男侯，少知名，时为司徒祭酒。侯雅好文籍，与先生日夜搜寻，未尝不共味而食，同车而游。侯与江敦、褚炫等俱为顺帝四友，故最以才学得名。侯作《宋德颂》，连珠七警，当世称绝。侯既亡后，文章皆零落，先生欲为纂集，竟不能得。是岁升明元年冬，先生年二十二，随刘丹阳入石头城，就袁粲建事，先生与韩贲、麋淡同掌文檄，及事败城溃，即得奔出。侯及弟孩为沙门以逃，为人所获，建康狱死，人莫敢视。先生躬自收殓瘞葬，查斫旧墓，营理都毕，自此弃世，寻山而止。

值宋齐之际，物情未安，既结刘宗，常怀忧惕。父乃因纪僧真求事高帝于新亭，即蒙帐内驱使。二年正月，沈攸之平，从还东府，公仍遣使侍弟五息絜、六息嵩侍读，兼助公间管记事。先生时年二十三，除巴陵王侍郎。明年，侍从高祖登极，还台住殿内，除太尉、豫章王侍郎。先生云：革运之际，颇有微勤，何处不容三两阶级？遂不拜。又明年，随安成王出镇石头。次岁夏，丁孝昌府君忧，上郢奉迎，冬，还都安厝。世祖即位，以振武将军起侍宜都王侍读。齐世侍读任皆总知记室，

手笔事选须有文才者。先生于吉凶内外，仪礼表章，爰及笺疏启牒，莫不绝众，数王书、佐典书皆承授以为准格。诸侍读多有惭惮，颇致谗嫉，先生亦任之，不以介意。年二十八服阕，召拜左卫殿中将军，颇郁时望。先生惊，亦不解所以，即告庾道敏，论诸屈滞，庾为面启武帝，帝云：先帝昔亲命此官，卿不知耶？其何辞之！庾告先生，先生喟然叹曰：昔不受豫章王侍郎，于今五年，翻为此职，驿马非驥驎。犹欲固辞。庾切言之云：太元已来，此官皆用名家，裴松之从此转员外郎。但问人才，若官何所枉君，恐为尔误我事。庾子时正被委任总知诸王府事，先生不获已而拜矣。年二十九，清溪宫新成，帝宴乐之，先生拜表献颂，又有伏曼容亦上赋。于是敕遣中书省舍人刘系宣旨褒赞，并敕豫旧宫金石会。于时上意欲刻此颂于石碑，王俭沮议而止。时献赋者五人，惟以先生为最，将欲迁擢，会母忧去职，寻授振武将军，起特赐酒食省禄，随宜都王赴京。帝欲幸武进宫，先生复作颂，颂成而车驾事废，不复得奏云。此颂体制爽绝，倍胜旧格。三年还都，方除奉朝请，拜竟，怏怏。与从兄书云：昔仕宦应以体中打断，必期四十左右作尚书郎，出为浙东一好名县，粗得山水，便投簪高迈。宿昔之志，谓言指掌，今年三十六矣，方作奉朝请，此头颅可知矣！不如早去，无自劳辱。

明年五月，遂拜表解职，求托岩林，青云之志，于斯始矣！是岁永明十一年壬申岁也。先生初隐，不欲辞省，出仍脱朝服，挂神虎门，鹿巾径出东亭，已约语左右曰：勿令人知尔。乃往与王晏语别，晏云：主上性至严治，不许人作高奇事，脱致忤旨，坐贻罪咎，便恐违卿此志，讵可作？先生嘿思良久，答云：余本徇志，非为名，若有此虑，奚为所宜？于是即不诣省，直上表陈诚。诏赐帛十疋、烛二十铤，又别敕月给上茯苓

五斤、白蜜二斗，以供服饵。先生既遂命，理舳东下，众宾并饯于征虏亭，举酒挥袂，皆云：江东比来未有此事，乃见今日尔！于是止于句容之句曲山。先生云：此山是金坛洞宫，周回百五十里，名曰华阳之天，有三茅司命之府，故名曰茅山。所以自称华阳隐居，亦犹士安之玄晏，稚川之抱朴。凡絃人间书疏，皆以此号代名。先善稽古，训诂七经，大义备解，而不好立义，异于先儒，议论惟著纸，不甚口谈。尤好五行阴阳，风角气候、太一遁甲、星历算数、山川地里、方国所产，及医方香药分剂，虫鸟草木，考校名类，莫不该悉。善隶书，不类常式，别作一家，骨体劲媚。琴棋骑射，亦皆领括。常言心中恒如明镜，触形遇物，不觉有滞碍。为人少忧戚，无嫉竞，淡哀乐，夷喜怒。时有形于言迹者，云皆是欲显事厉物，了无欢愠于胸襟。

先生以甲子、乙丑、丙寅三年之中，就兴世馆主东阳孙游岳，咨禀道家符图经法，虽相承皆是真本，而经历模写，意所未惬者，于是更博访远近以正之。戊辰年始往茅山，便得杨许手书真迹，欣然感激。至庚午年，又启假东行浙越，处处寻求灵异。至会稽大洪山，谒居士娄慧明，又到余姚太平山，谒居士杜京产；又到始宁跂山谒法师钟义山；又到始丰天台山谒诸僧标，及诸处宿旧道士。并得真人遗迹十余卷，游历山水二百余日乃还。爰及东阳长山、吴兴天目山，于潜、临海、安固诸名山，无不毕践。身本轻捷，登陟无艰。瞻恤寒栖，拯救危急，救疗疾恙，朝夕无倦。其别有阴恩密惠，人莫得知之。虽借人书，随误治定。在人间制述甚多，了不存录，谨条先生所撰记世道书，名目如左：

《学苑》十秩百卷（此一书，先生常云：“群书舛杂，欲探一事，不可遍检。”乃钞撰古今要用，以类相从，为一百五

十条，名为《学苑》，比于《皇览》，十倍该备。近赐翊语：“吾无复此暇，汝可踵成之。此书若毕，于学问手笔家，无复他寻之劳矣。”）。《孝经》、《论语集注》并自立意共一秩（十二卷），《三礼序》共一卷，并自注。注《尚书》、《毛诗序》共一卷（《左传》已有刘实、贺道养注。《易略例》即是《易序》，不假复注）。《老子内外集注》四卷（并自立意）。《三国志赞述》一卷，《抱朴子注》二十卷，《世语阙字》二卷（依陆文更以意造《世语》所阙者）。《续临川康王世说》二卷，《太公孙吴书略注》二卷，《古今州郡记》三卷，（并造《西域图》一张）。《帝王年历》五卷（起三皇至汲冢竹书为正，检五十家书历异同共撰之也）。《真仪集》三卷，《玉匮记》三卷（说名山福地事）。《七曜新旧术》二卷，《占筮略要》一卷（有十三法）。《风雨水旱饥疫占要》一卷（有十法）。《算数艺术杂志》一卷，《举百事吉凶历》一卷。《本草经注》七卷，《肘后百一方》三卷（增补葛氏）。《效验施用方》五卷（此二十四种并世用所撰目书，又作《相书序》《述异记序》，如此等并在集中）。《登真隐诀》三秩（二十四卷，此一诀皆是修行上真道经要妙秘事，不以出世）。《真诰》一秩七卷（此一诰并是晋兴宁中众真降授杨许手书遗迹。顾居士已撰，多有漏谬，更詮次叙注之尔，不出外闻）。《梦记》一卷（此一记先生自记所梦征想事，不以示人），《合丹药诸法式节度》一卷，《集金丹药白要方》一卷，《服云母诸石药消化三十六水法》一卷，《服草木杂药法》一卷，《断谷秘方》一卷，《灵方秘奥》一卷，《消除三尸诸要法》一卷，撰集《服气导引法》一卷，集《人间诸却灾患法》一卷（此九种，所撰集道书，自先生凡所撰集，皆卷多细书大卷，贪易提录，若大书皆得数四，又有图象杂记甚多，未得一二尽知尽见

也)。

又作浑天象，高三尺许，地居中央，天转而地不动。二十八宿度数，七曜行道，昏明中星，见伏早晚，以机转之，悉与天相会。云此修道所须，非但史官家用。又欲因流水作自然漏刻，使十二时轮转循环，不须守视，而患山涧水易生苔垢，参差不定，是故未立。

先生形细，身長七尺二寸，腰止围二尺六寸。薄皮肤，露筋骨，青白色，长头面，疏眉目，鼻小而平直，长额耸耳，左耳内轮有大黑志如豆，耳两孔里各有十余大毛出外二三寸。方颐秃鬓，露颡少须发。右肩上有一紫志如两钱大，右股内有数十细黑子，多作七星形，起正方，如铁枪脚。眼中常见有异光象。左右各类，未尝言其状。闻人说，小来本神仪端洁，十五已上，弥为美茂，每出，路人多叹羨。虽冬月行，常执扇自障。年二十九时，于石头城忽得病，不知人事，而不服药，不饮食。经七日，乃豁然自差，说多有所睹见事。从此容色瘦瘁，言音亦跌宕阐缓，遂至今不得复常。音响本清正，大小称形，言词率易无姿制。行步举动，翩翩轻利，颜仪和明不严毅，小大见之，皆乐悦附，而自令人畏服。门徒胥附，承奉祇肃，有如宫庭。小来与人有隔，数岁便不与人共瓯箸饮食。及长，游处宿息，常自然安置。性不嘲调，世中戏谑，一切不为。为人强精魂，夜行独宿，无所疑畏，一生不识魔。入山以来，巾褐未尝离体。

梁茅山贞白先生传

唐李渤撰

吴荆牧陶浚七代孙，名弘景，字通明，丹阳秣陵人也。初娠，母梦日精在怀，并二天人降，手执香炉。觉语左右曰：当孕男子非凡人，亦恐无后。及生标异，幼而聪识，成而博达。因读《神仙传》，便有乘云驭龙之志。年十七，与江敦、褚炫、刘侯为宋升明四友。仕齐，历数王侍读，皆总记室，笺疏精丽，为时所重师法。及清溪宫成，献颂，宣旨褒赞，无欲刻石，王俭议异乃止。年二十余服道，后就兴世馆孙先生谘禀经法，精行道要，殆通幽洞微。转奉朝请，乃拜表解职，答诏优叹，赐与甚厚。公卿祖之征虜亭，供帐甚盛，咸云自齐已来，未有斯事。遂入茅山，又得杨许真书，遂登岩造静，自称华阳隐居，书疏亦如此代名。特爱松风，庭院皆植，每闻其响，便欣然为乐。至明帝，欲迎往蒋山，恳辞得止，然敕命饷赆，恒为烦剧。乃造三层楼，先生居其上，弟子居中，接宾于其下，令一小竖传度而已。潜光隐曜，内修秘密，深诚所诣，远属霞人，可谓感而遂通者也。身長七尺八寸，为性圆通谦谨，心如明镜，遇物斯应。少忧戚，无嫉竞，灭喜怒，澹哀乐，或有形于言迹者，是显事厉物。深慕张良之为人，率任轻虚，飘飘然恒有云间器。其所修为，皆自得于心，非傍识能及。尤长于铨正伪谬，地理历算，文不空发，成即为体。造浑天仪，转之与天相会。其纂《真诰》、《隐诀》，注《老子》等书二百余卷。至永元二年，深托向晦。及梁武帝革命，议国号未定，先生乃引诸讖记，梁是应运之符。又择郊禘日，灵验昭著，敕使入山，宣旨酬谢。帝既早与之游，自此之后，动静必报。先生既得秘诀，以为神丹可成，恒苦无药，帝皆给之。又手敕咨迓，先生画两牛，一牛散放于水草之间，一牛著金笼头，有人执绳，以杖驱之。帝笑曰：此人无所求，欲效曳尾龟，岂有可致之理？时有大事，无不前已奏陈，时人谓为山中宰相。以大通初献刀二，一名善

胜，二名成胜，为佳宝。梁帝《金楼子》云：于隐士重陶贞白，士大夫重周弘正。其于义理，精博无穷，亦一时名士也。先生常作诗云：夷甫任散诞，平叔坐谈空，不言朝阳殿，化作单于宫。其时人事竞谈玄理，不习武事，侯景之难，并如所言。大同二年告化，时年八十五，颜色不变，屈伸如常，屋中有香气，积日不散。诏赠中散大夫谥曰贞白先生，仍遣舍人监护丧事（马枢《得道传》云：“授蓬莱仙监。”）。弟子数十人，唯王远知、陆逸冲称上足焉。

## 卷一百八 纪传部·传六

### 列仙传

#### 赤松子

赤松子者，神农时雨师。服水玉以教神农，能入火自烧。至昆仑山上，常止西王母石室中。随风雨上下。炎帝少女追之，亦得仙俱去。至高辛时复为雨师，今之雨师本是焉。

#### 宁封子

宁封子者，黄帝时人也，世传为黄帝陶正。有人遇之，为其掌火，能出五色烟，久则以教封子。封子积火自烧，而随烟炁上下，视其灰烬，犹有其骨，时人共葬于宁北山中，故谓之宁封子焉。

#### 马师皇

马师皇者，黄帝时马医也。知马形气死生之诊，理之辄愈。后有龙下，向之垂耳张口。师皇曰：此龙有病，知我能理。乃针其唇下口中，以甘草汤饮之而愈。后数有疾，龙出其陂，告而治之。一旦龙负而去。

#### 赤将子舆



赤将子舆者，黄帝时人。不食五谷，而啖百草花。至尧时为木工，能随风雨上下。时于市中货缴，亦谓之缴父。

偃佺

偃佺者，槐山采药父也。好食松实，形体生毛，长数寸，两目更方，能飞行逐走马。以松子遗尧，尧不暇服也。松者，简松也。时人受服者，皆至二三百岁焉。

容成公

容成公者，自称黄帝之师。见周穆王。能善补导之事，取精于玄牝，其要谷神不死，守生养精气者，发白复黑、齿堕更生。事与老子同，亦云老子师。

方回

方回，尧时隐人也，尧聘以为閭士。炼食云母粉，亦与人民之有病者，隐于五柞山中。夏启末为宫士，为人所劫，闭之室中，从求道，回化而得去，更以方回印封其户。时人言，得回一圆泥涂，门户终不可开。

涓子

涓子，齐人。好饵术，接食其精，至三百年乃见于齐。著《天地人经》四十八篇。后钓于荷泽，得鲤腹中有符。隐于宕山，能制风雨，受伯阳《丸仙法》。淮南王安少得其文，不能解其旨也。其《琴心》三篇，有条理焉。

啸父

啸父，冀州人。少在西周市上补履数十年，人不知也。后奇其不老，好事者造求其术，不能得，唯梁母得其作火法。临

上三亮山，与梁母别，列数十火而升天。西邑多奉祀之焉。

### 师门

师门者，嘯父弟子也。亦能使火，食桃李葩。为夏孔甲龙师，孔甲不能顺其心意，杀而埋之野外。一旦风雨迎之，讫则山木皆焚。孔甲祀而祷之，还而道死。

### 务光

务光，夏时人。耳长七寸，好琴，服蒲韭根。汤伐桀，因光而谋，光曰：非吾事也。汤曰：孰可？曰：吾不知也。汤曰：伊尹何如？曰：强力忍垢，吾不知也。汤既克桀，以天下让于光，曰：智者谋之，武者遂之，仁者居之，古之道也。吾子胡不遂之？请相吾子。光辞曰：废上非义也，杀人非仁也。人犯其难，我享其利，非廉也。吾闻非义不受其禄，无道之世不践其位，况于尊我？我不忍也。遂负石自沉蓼水，已而自匿。后四百余岁，至武丁时复见，武丁欲以为相，不从。武丁以舆迎，而从逼不以礼，遂投河浮山，后游尚父山。

### 仇生

仇生者，不知何许人。汤时为木正，三十余年而更壮，皆知其寿人也，咸共师奉之。其人云常食松脂。在尸乡北山上自作石室。至周武王，幸其室祠之。

### 邛疏

邛疏者，周封史也。能行炁炼形，煮石髓而服之，谓之石钟乳。至数百年，往来入太室山中，有卧石床枕焉。

马丹

马丹者，晋狄人也。当文侯时为大夫，至献公灭时复为幕正。献公灭狄，杀恭太子，丹去至赵。宣子时，乘安车入晋都，候诸大夫。灵公欲仕之，逼不以礼。有迅风发屋，丹入回风中而去。北方人尊而祠之。

陆通

陆通者，云楚狂接舆也。好养生，食橐卢木实及芡菁子。游诸名山，在蜀峨嵋山上，人世间见之，历数百年也。

葛由

葛由者，羌人也。周成王时，好刻木羊卖之。一旦骑羊而入蜀。蜀中王侯贵人，追之上绥山。绥山在峨嵋山西南，高无极也。随之者不复还，皆得仙道。故里谚曰：若得绥山一桃，虽不得仙，亦足以豪。山下立祠数十处也。

琴高

琴高，赵人。能鼓琴，为宋康王舍人。行涓彭之术，浮游冀州涿郡间二百余年，后辞入涿水取龙子，与诸弟子期。期日皆斋洁，待于水傍设祀，果乘赤鲤来坐祠中，且有万人观之。留一月，复入水去。（一本涿作碭。）

寇先生

寇先生者，宋人也。钓鱼为业，居睢水傍百余年，得鱼或放或卖或食。常著寇带，好种荔，食其葩实焉。宋景公问其道，不告，即杀之。数十年，踞宋城门鼓琴，数十日而去。宋人家奉祀焉。

安期生

安期生者，琅邪阜乡人。卖药于东海边，时人皆言千岁翁。秦始皇东游，请见，与语三日三夜，赐金璧度数千万。出于阜乡亭，皆置去，留书以赤玉舄一双为报曰：后千年，求我于蓬莱下。始皇即遣使者徐市、卢生等数百人入海。未至蓬莱山，辄逢风波而还。立祠阜乡亭海边，数十处也。

桂父

桂父者，象林人也。时黑而时白，时黄而时赤，南海人见而尊事之。常服桂及葵，以龟脑和之，千丸用十斤桂。累世见之，今荆州之南，尚有桂丸焉。

瑕丘仲

瑕丘仲，宁人也。卖药于宁百余年，人以为寿。而因地动舍坏，仲及里中数十家，屋临水皆败。仲死，民或取仲尸弃水中，收其药卖之。仲被裘而从，诣之取药。弃仲者惧，叩头求哀，仲曰：非恨汝，使人知我尔！吾去矣。后为夫余胡王驿使，复来至宁，北方谓之谪仙人。

酒客

酒客，梁市上酒家人也。作酒常美，售，日得万钱。有过而逐之，主人酒常酢败，贫穷梁市中贾人多以女妻而迎之，或去或来。后百余岁，来为梁丞，使民益种芋莱，曰：三年当大饥。果如其言，梁民不死。后五年，解印绶去，莫知所终焉。

任光

任光，上蔡人。善饵丹，卖于都里间，积八十九年，乃知是故时任光也，称说如故。后数十年间，顷后长老识之。赵简子聘与俱归，常在柏梯山上。三世不知所在，晋人常服其丹矣。

### 祝鸡翁

祝鸡翁，洛人。居尸乡北山下，养鸡百余年，鸡皆有名字，千余头，暮栖树上，昼放散之。欲引呼名，即种别而至。卖鸡及子，得千余万，辄置钱去之吴，作养鱼池。后升吴山，白鹤孔雀数百，常止其傍矣。

### 朱仲

朱仲，会稽人，常于市上贩珠。高后时，下书募三寸珠，仲（读音同御名）书，笑曰：真值汝矣！赍三寸珠诣阙上书，珠好过度，即赐五百金。鲁元公主复私以七百金从仲求珠，仲献四寸珠，送至阙即去。下书会稽征聘，不知所在。景帝时复来，献三寸珠数十枚辄去，不知所之云。

### 修羊公

修羊公，魏人。华阴山石室中有悬石榻，卧其上，石尽穿陷，略不动。时取黄精食之。后以道于景帝，礼之，使止王邸中。数岁，道不可得。有诏问公何日发？语未讫，床上化为白石羊，题其胁曰：修羊公谢天子。后置石羊于通灵台上，羊后复去，不知所在。

### 稷丘君

稷丘君者，太山下道士。武帝时以道术受赏赐。发白再黑，齿落更生。后罢去。上东巡太山，君乃冠章甫，衣黄衣，拥琴

来迎，拜武帝曰：陛下勿上，必伤足指。及数里，左足指果折。上讳之，但祠而还。为君立祠复百户，使承奉之。

### 崔文子

崔文子，太山人，世好黄老事，居潜山下。后作黄老丸，成石父祠。卖药都市，自言三百岁。后有疫烝，民死者万计，长吏告之请救。文拥朱幡，系黄散，以循民间。饮散者即愈，所愈计万。后去蜀卖黄药，故世宝崔文赤丸黄散，实近于神焉。

### 赤须子

赤须子，酆人也。酆中传世见之，云秦穆公主鱼吏也。数言酆界灾害水旱，十不失一。臣向迎而师之，从受业。以长好食松实、天门冬、石脂，齿落更生，发白还黑，服霞绝粒。后往吴山下十余年，莫知所之。

### 犊子

犊子，邺人也。少在黑山采松子、茯苓，饵而服之。且数百年，时壮时老，时美时丑，乃知是仙人也。常过酤酒于阳都家。都女者，眉生而连，耳细而长，众以为异，皆言此天人也。会犊子牵一黄犊来过，都女悦之，遂相奉侍。都女随犊子出，取桃李，一宿而返，皆连兜甘美。邑中随伺逐之，出门共牵犊耳而走，不能追也。旦复在市中。数十年乃去，见礪山下，冬卖桃李也。

### 骑龙鸣

骑龙鸣者，浑亭人。年二十，于池中求得龙子，状如守宫者十余头，养食，结草庐而守之。龙长大，稍稍去。后五十余

年，水坏其庐而去。一旦骑龙来，至浑亭下，语云：我冯伯昌孙也。此间人不五百里，必当死。不信之者，以为妖言。至八月果水至，死者万计。

### 主柱

主柱，不知何许人。与道士共上宕山，言此有丹砂，可得数万斤。宕长吏知而上山封之，砂流出飞如火，乃听柱取。为邑令章君明饵砂三年，得神砂飞雪。服之五年，能飞行，与柱俱去矣。

### 鹿皮翁

鹿皮翁，淄川人也。少为府小吏，工木精巧，举手能成器械。岑山上有神泉，人不能至。小吏白府君，请木工斤斧三十人，作转输悬阁，意思横生。数十日，梯道四间成，上其巅作祠舍，留止其傍，绝其二间以自固。食芝草，饮神泉。且七十年，淄水来，三下呼宗族家室，得六十余人，令上山半。水尽漂一郡，没者万计。小吏乃辞遣宗家，令下山。著鹿皮衣，遂去复上阁。后百余年，下卖药于市。

### 昌容

昌容，常山道人，自称汤王女。食蓬（𦵏累）根。往来上下见之者二百余年，颜色如二十许人。能致紫草，货与染家，得钱以遗孤寡，历世而然，奉祠者万计也。

### 溪父

溪父，南郡甌人。居山间，有仙人常止其家，从买瓜，教之炼瓜子与桂、附、枳实，共藏而对分，食之二十余年，能飞

走，升山入水。后百余年绝，居山顶，呼溪下父老，与道生时事也。

### 山图

山图，陇西人。少好乘马，马踏之，折脚。山中道人教以雌黄、当归、羌活、独活、苦参散服之，一岁而不嗜食，病愈身轻。追道士问之，自言五岳使之名山采药，能随吾，便汝不死。山图追随之六十余年，一旦归来，行母服于家。幹年复去，莫知所之。

### 谷春

谷春，栌阳人。成帝时为郎，疫死而尸不冷，家发丧行服，犹不敢下钉。三年，更著冠帻，坐县门上。邑中人大惊，家人迎之，不肯归，发棺有衣无尸。留门上三宿，去之长安，止横门上。人知，追迎之，复去之太白山。立祠于山上，时来至其祠中止宿焉。

### 阴生

阴生，长安渭桥下乞儿。常止于市中乞，市人厌苦，以粪洒之，旋复见，身中衣不污如故。长吏知之，试收系，著桎梏，而续在市中乞。又试欲杀之，乃去。洒者之家室自坏，杀十余人。故长安谣曰：见乞儿，与美酒，以免破屋之咎。

### 子主

子主者，楚语而细音，不知何所人也。诣江都王，自言：宁先生雇我作客，三百年不得作。直以为狂人也。问先生所在？云在龙眉山上。王遣吏将上龙眉山巅，见宁先生，毛身广耳，



被发鼓琴。主见之叩头，吏致王命。先生曰：此主，吾比舍九世孙。且念汝家，当暴死女子三人，勿预吾事！语竟，大风发。吏走下山，比归宫中，相杀三人，王遣三牲立祠焉。

### 陶安公

陶安公，六安铸冶师。数行火，火一旦散上行，紫色冲天。安公伏冶下求哀，须臾，朱雀止冶上曰：安公安公，冶与天通，七月七日，迎汝赤龙。至期赤龙到，大雨，而公骑之东南上，一城邑数万人众共送视之，皆与辞决也。

### 赤斧

赤斧者，巴戎人。为碧鸡祠主簿。能作水瀝炼丹与硝石，服之三十年，反如童子，毛发生皆赤。后数十年，上华山取禹余粮饵，卖之于苍梧溟江间。累世传见之，手掌中有赤斧焉。

### 呼子先

呼子先，汉中阆下卜师。老寿百余岁，临去，呼酒家老姬曰：急装，当与姬共应中陵王。夜有仙人持二茅狗来至，呼子先，子先持一与酒家姬，得而骑之，乃龙也。上华阴山，常于山上大呼言：子先，酒家母在此矣。

### 负局先生

负局先生，不知何许人，语似燕代间人。常负磨镜局，循吴市中。衔磨镜一钱，因磨之，辄问主人：得无有疾苦者？辄出紫丸药以贻之，得莫不愈。如此数十年，后大疫病，家至户到，与药活者万计，不取一钱，吴人乃知其真人也。后上吴山绝崖头，悬药下与人。将欲去时，语下人曰：吾还蓬莱山，为

汝曹下神水。崖头一旦有水白色，流从石间来下。服之多愈疾，立祠十余处。

### 阮丘

阮丘，睢山上道士。衣裘披发，耳长七寸，口中无齿，日行四百里。于山中种蒟葱薤百余年，人不知。时下卖药，广阳人朱璜有毒瘕疾，丘与七物药，服之而去三尸。后与璜俱入浮阳山，朱璜发明之，乃知是神人也。地动、山崩，道绝，豫戒于人世。共禀奉祠之。

### 陵阳子明

陵阳子明，铎乡人。好钓鱼，于旋溪获得白龙子。明惧，解钓拜而放之。后得白鱼，腹中有书，教子明服食之法。子明遂上黄山，采五石脂，沸水而服之。三年，龙来迎，去止陵阳山上百余年。山去地千余丈，大呼下人，令上山半。所言溪中子安当来，问子明钓车在否？”后二十余年，子安死，人取葬著山中，有黄鹤来栖其冢边树上，呜呼子安。

### 御子

駟子，自言蜀人。好放犬，知相犬。犬走入山穴，駟子随入，十余宿行度数百里，上出山头，上有台殿宫府，青松森然，仙吏侍卫甚严。见故妇主洗鱼，与駟符一函，使还与成都令乔君。君发函，有鱼子也。著池中养之，一年皆为龙。駟复送符还山上。犬色更赤，有长翰，常随駟往来，百余年遂留止山上。时下来护其宗族。蜀人立祠于穴口，常有鼓吹传呼声，西南数十里，共奉祠焉。

木羽

木羽，钜鹿南和平乡人。母贫贱，主助产。尝探产妇，儿生便开目视母大笑，母怖惧。夜梦见大冠赤帻守儿，言：此司命君也，当报汝恩，使汝子木羽得仙。母阴信识之。后母生儿，字为木羽。所探儿生年十五，夜有车马来迎去，遂过母家呼：木羽为我御来。遂俱去。后二十余年，鹳雀旦旦以衔二尺鱼，著母户上。母匿不道而卖其鱼，三十年乃发云。母至百年乃终。

玄俗

玄俗，称河间人。服巴英，卖药都市，七丸一钱，善治百病。河间王患瘕，买药服之，下蛇十余头，问药意，俗曰：王瘕乃六世馀殃下堕，情非王之所招。王尝放乳鹿、麟母也，仁心感天，故遭俗尔！王家老舍人，自言父世见俗，俗之身无影。王乃呼著日中，看实无影。王以女娉之，俗夜亡去，后人见于常山下。

## 卷一百九 纪传部·传七

### 神仙传

#### 广成子

广成子者，古之仙人也。居崆峒之山石室之中，黄帝闻而造焉，曰：敢问至道之要。广成子曰：尔治天下，云不待族而雨，木不得黄而落，奚足以语至道哉！黄帝退而闲居，三月复往见之，膝行而前，再拜请问治身之道。答曰：至道之精，杳杳冥冥。无视无听，抱神以静，形将自正。必静必清，无劳尔形，无摇尔精，乃可长生。慎内闭外，多知为败。我守其一，而处其和，故千二百年，而未尝衰老。得吾道者上为皇，失吾道者下为土。子将去汝，入无穷之间，游无极之野，与日月齐光，与天地为常。人其尽死，而我独存焉！

#### 若士

若士者，古之仙人也，莫知其姓名。燕人卢敖者，以秦时游乎北海，经乎太阴，入乎玄阙，至于蒙谷之山，而见若士焉。其为人也，深目而玄准，鸢肩而修颈，丰上而杀下，欣欣然方迎风而舞。顾见卢敖，因遁逃乎碑下。卢仍而视之，方蹠龟壳而食蟹蛤。卢敖乃与之语曰：唯以敖焉，背群离党，穷观六合

之外。幼而好游，长生而不渝，周行四极，唯此极之未窥。今睹夫子于此，殆可与敖为友乎？若士淡然而笑曰：嘻！子中州之民，不宜远而至此。此犹光乎日月，而载乎列星，比乎不名之地，犹鼈舆也。昔我南游乎：罔：两之野，北息乎沉嘿之乡，西穷窈冥之室，东贯鸿洞之光。其下无地，其上无天，视焉不见，听焉无闻。其外犹有沃沃之汜，其行一举而千万余里，吾犹未之能究也。今子游始至于此，乃语穷观，岂不陋哉！然子处矣，吾与汗漫期于九垓之上，不可以久驻。乃举臂竦身，遂入云中。卢敖仰而视之，不见乃止，恍惚若有所丧也。敖曰：吾比夫子也，犹黄鹄之与壤虫也。终日行不离咫尺，而自以为之远，不亦悲哉！

### 沈文泰

沈文泰者，九疑人也。得红泉神丹去土符还年益命之道，服之有效。欲之昆仑，留安息二千余年，以传李文渊，曰：土符不去，服药行道无益也。文渊遂受秘要，后亦升仙。今以竹根汁煮丹，及黄白、去三尸法，出此二人矣。

### 皇初平

皇初平者，丹溪人也。年十五，家使牧羊。有道士见其良谨，将至金华山石室之中，四十余年，傭不复念家。其兄初起，行索初平，历年不得。后见市中有一道士，善《易》，而问之曰：吾弟牧羊，失之四十余年，不知存亡之在，愿君与占之。道士曰：昔见金华山中有一皇初平，非君弟乎？初起闻之惊喜，即随道士去求弟，果得相见，悲喜语毕，兄问初平曰：牧羊何在？答曰：近在山东。初起往视之，杳无所见，但有白石垒垒，复谓弟曰：山东无羊也。初平曰：羊在耳，兄自不见。兄与初

平偕往寻之，初平言：叱叱羊起。于是白石皆起，成羊数万头。兄曰：我弟独得神仙道，如此可学否？弟曰：唯唯，好道便得耳。初起于是便舍妻儿，留就初平，共服松柏、茯苓。至万日，坐在立亡，日中无影，颜有童子之色。乃俱还乡里，亲戚死方略尽，乃复还去。临行，以方教南伯逢，易姓为赤松子也。初起改字为鲁班，初平改字为松子。其后服此药成仙者，其有数十人。

### 沈建

沈建者，丹阳人也。世为长吏，而建独好道，不肯仕宦，学导引服食之术，还年却老之法。又能理病，病无轻困，见建者愈，奉之者数千家。每远行，寄奴侍三五人，驴一头，羊数十口，各与药一丸，谓主人曰：但累屋舍，不烦饮食也。便辞去。主人大怪之，云：此君所寄奴畜十五余口，并不留寸资，当如何？建去之后，主人饮食奴侍，奴闻食气，皆吐逆不视。又以草与驴羊，亦避去不食，更欲抵触人，主人乃惊异之。后百余日，而奴侍身体光泽，异于食时，驴羊俱肥。沈建三年乃返，各复以一丸药与奴侍、驴羊，乃还饮食如故。建遂断谷不食，能举身飞行，或去或还。如此三百余年，乃绝迹，不知所在也。

### 华子期

华子期者，淮南人也。师角里先生，受山隐灵宝方，一曰《伊洛飞龟秩》，二曰《白禹正机》，三曰《平衡接合》。服之，日以还少，一日能行五百里，能举千斤。一岁十易皮，后乃得仙去。

## 魏伯阳

魏伯阳者，吴人也，高门之子，而性好道术，不肯仕宦，闲居养性，时人莫知其所从来，谓之治民养身而已。入山作神丹，将三弟子，知两弟子心不竭诚。丹成，乃诫之曰：金丹虽成，当先试之，饲于白犬。犬即能飞者，人可服之。若犬死者，即不可服也。伯阳入山时，将一白犬自随。又丹转数未足，和合未至，自有毒丹，毒丹服之皆暂死。伯阳故便以毒丹与白犬食之，犬即死。伯阳乃复问诸弟子曰：作丹恐不成，今成而与犬食，犬又死，恐是未得神明之意。服之恐复如犬，为之奈何？弟子曰：先生当服之否？伯阳曰：吾背违世路，委家入山，不得仙道，吾亦耻复归。死之与生，吾当服之耳。伯阳便服丹，丹入口即死。弟子相顾谓曰：所以作丹者，欲求长生耳！而服之即死，当奈此何？惟一弟子曰：师非凡人也，服丹而死，得无有意邪？又服之，丹入口复死。余二弟子乃相谓曰：作丹求长生耳！今服丹即死，当用此何为？若不服此，自可得数十年在世间活也。遂不服，乃共出山，欲为伯阳及死弟子求棺木殓具。二人去后，伯阳即起，将服丹弟子姓虞，及白犬而去。逢入山伐薪人，作手书与乡里人，寄谢二弟子。弟子见书，始大懊恼。

伯阳作《参同契五相类》凡二卷，其说如似解释《周易》。其实假借爻象，以论作丹之意。而儒者不知神仙之事，多作阴阳注之，殊失其奥旨矣。

## 沈羲

沈羲者，吴郡人也。学道于蜀中，但能消灾除病，救济百姓，不知服食药物。功德感天，天神识之。羲与妻贾氏共载，诣子妇卓孔家。还道逢白鹿车一乘、青龙车一乘、白虎车一乘，

从骑数十人，皆朱衣，仗矛带剑，辉赫满道。问羲曰：君是道士沈羲否？羲愕然，不知何等。答曰：是也，何以问之？骑曰：羲有功于民，心不忘道。从生以来，履行无过。受命不长，寿将尽矣。黄老命遣仙官下来迎之。侍郎簿延，白鹿车是也；度世君司马生，青龙车是也；送迎使者徐福，白虎车是也。须臾有三仙人，著羽衣，持节，以白玉板青玉界丹玉字授羲，羲不能读，遂载升天。尔时，道间耕锄人，皆共见之。不知何等，须臾大雾，雾解失其所在。但见羲所乘车牛在田中食苗。或有识是羲车牛，以语羲家。弟子数百人，恐是邪魅将羲入山谷间，乃分布于百里之内求之，不得。后四百余年，求还乡里，推求得数十世孙名怀。怀喜曰：闻先人相传，有祖仙人，仙人今来。留数十日，说初上天时云，不见天帝，但见老君，老君东向坐，左右敕羲不得谢，但嘿坐而已。宫殿郁郁，有如云气，五色玄黄，不可名字。侍从数百，多女少男。庭中有珠玉之树，众芝业生，龙虎辟邪，游戏其间。但闻琅琅如铜铁声，不可知测，四壁习习，有符书著之。老君身形，长一丈，被发文衣，身体有光，须臾数变。玉女持金案玉杯盛药，赐羲曰：此是神丹，饮者不死。夫妻各得一刀圭。告言饮毕，拜而不谢。服药后，赐枣二枚，大如鸡子，脯五寸。遣羲去曰：汝还民间，治百姓之疾病者。若欲来上界，书此符悬之竿杪，吾当迎汝。乃以一符及仙方一首赐羲。羲奄忽如睡，已在地上，今多得符者矣。

### 李八百

李八百者，蜀人也。莫知其名，历世见之，时人计之已八百岁，因名云李八百。或隐山林，或居廛市。知唐公房有志，而不遇明师，欲教授之。乃先往试之，为公房作佣客，公房乃不知仙人也。八百驱使任意，过于他人，公房甚爱之。后八百



诈为病，困劣欲卒。公房乃命医合药，费用数十万钱，不以为损。忧念之意，形于颜色。八百又转作恶疮，周遍身体，溃烂臭浊，不可近也。公房乃流涕曰：汝为吾家，勤苦历年，而得笃疾，吾甚要汝得愈，无所吝惜。而今正尔，当奈汝何？八百曰：吾疮可愈，须得人舐之。公房令三婢舐之。八百又曰：婢舐不能使疾愈，若得君舐应愈耳。公房即自舐之。八百言：君舐复不能使吾愈，若得君妻舐之，当差。公房乃复使妻舐之。八百曰：吾疮已差，欲得三十斛旨酒以沐浴，乃当都愈耳。公房即为具酒三十斛，至于器中，浴疮即愈，体如凝脂，亦无余痕。乃告公房曰：吾是仙人，子有志心，故来相试，子定可教也。今真相授度世之诀矣。使公房夫妻及舐疮三婢，以其浴馀酒澡洗。即皆更少，颜色美悦。以《丹经》一卷授公房，入云台中合作丹，丹成，乃服之仙去也。

### 李阿

李阿者，蜀人也。传世见之，不老如故。常乞食于成都市，所得随多少，与贫穷者。夜去朝还，市人莫知其所宿。有古强者，疑阿是异人，常亲事之。试随阿还所宿，乃去青城山中。强后欲复随阿去，然未知道，恐有虎狼，私持其父大刀。阿见而怒强曰：汝随我行，那畏虎也？取强刀以击石，刀折败。强窃忧刀折。至旦复出。阿问强曰：汝忧刀败耶？曰：实愁父怒。阿即取刀以左右击地，刀复如故。以还强。强逐阿还成都，未至，道逢人奔车。阿以脚置车下辄，其骨皆折，阿即死。强守视之，须臾阿起，以手抑脚，而复如常。强时年十八，见阿如五十许人，至强年八十余，而阿犹如故。语人言：“被昆仑召，当去。”遂不复还。

## 王远

王远者，字方平，东海人也。举孝廉，除郎中，稍加至中散大夫。博学五经，兼明天文、图讖、河洛之要，逆知天下盛衰之期，九州吉凶之事。汉孝桓帝闻之，连征不出，使郡国逼载，以诣京师。低头闭口，不肯答诏，乃题宫门扇四百余字，皆纪方来。帝恶之，使人削之。外字适去，内字复见，墨皆彻入木里。方平无复子孙，乡里人累世传事之。同郡故太尉公陈耽，为方平驾道室，旦夕朝拜之，但乞福，愿从学道也。方平在耽家三十余年，耽家无疾病死丧，奴婢皆安然，六畜繁息，田蚕万倍，仕宦高迁。后语耽云：吾期运当去，不得复停，明日日中当发。至时，方平死，耽知其化去，不敢下著地。但悲啼叹息曰：先生舍我去，我将何怙？具棺器，烧香，就床上衣装。至三日三夜，忽然失其所在，衣带不解，如蛇蛻也。方平去后百余日，耽薨，或谓耽得方平之道化去，或谓方平知耽将终，故委耽去也。方平东入括苍山，过吴，住胥门蔡经家。

## 蔡经

蔡经者，小民耳，而骨相当得仙，方平知之，故往其家，谓经曰：汝生命应得度世，故来取汝补官僚。然汝少不知道，今气少肉多，不得上天去，当作尸解。须臾，如从狗窦中过耳。告以要言，乃委经去。经后忽身体发热如火，欲得水灌，举家汲水灌之，如沃焦状。如此三日中，消耗骨尽。乃入室，以被自覆，忽然失其所在。视其被中，有皮头足俱存，如蝉蛻也。

去后十余年，忽还家。去时已老，还更少壮，头发皆黑。语家云：七月七日，王君当来过。到其日可作数百斛饮，以供从官。乃去。到其日，家假借瓮器，作饮数百斛，罗列覆置庭中。至其日，方平果来。未至经家，一时间但闻金鼓箫管、人

马之声，比近皆惊，不知何等。及至，经举家皆见之。方平著远游之冠，朱衣，虎头鞶囊，五色之绶，带剑，黄色少鬣，长短中人也。乘羽盖之车，驾五龙，龙各异色，前后麾节，旌旗导从，威仪如大将军出也。有十二队、五百士，皆以蜡密封其口，鼓吹皆乘麟从天上来下，悬集不从人道行也。既至，从官皆不复知所在，唯尚见方平身。坐须臾，引见经父兄。因遣人与麻姑相问，亦莫知麻姑是何神也。言：王方平敬报，久不行民间，今来在此，想姑能暂来语否？有顷，信还，但闻其语，不见所使人也。答言：麻姑再拜，但不相见，忽已五百余年。尊卑有序，修敬无阶。思念久烦，承来在彼，故当躬到。而先彼诏，当按行蓬莱，今便暂往。如是当还，便亲觐，愿未即去耳。如此两时间，麻姑来也。来时亦先闻人马之声。既至，从官当半于方平也。麻姑至，蔡经亦举家见之。是好女子，年可十八许，于顶中作髻，余散发垂之，至腰。其衣有文章，而非锦绮，光彩耀日，不可得名字，皆世所无有也。入拜方平，方平为起立。坐定，各进行厨。皆金盘玉杯，醑膳多是诸华，而香气达于内外。擘脯而行之，如行柏灸，云是麟脯也。麻姑自说，接待以来，见东海三为桑田。向到蓬莱，水乃浅于往者，会将略半也，岂时复为陵陆乎？方平笑曰：圣人皆言，海中复行扬尘也。麻姑欲见蔡经母及经妇，弟妇新产数十日，麻姑望见乃知之，曰：噫，且止勿前。索少许米来，便以掷之，视以堕地，皆成真珠。方平笑曰：麻姑故作少年戏也。吾老矣，不喜复作此狡狴变化也。方平语经家人曰：吾欲赐汝辈酒。此酒乃出天厨，其味淳醲，非俗人所宜，饮之或能烂人肠胃。今当以水添之，汝辈勿怪也。乃以水一斗，合酒一升搅之，以赐经家人。人饮一升许，皆醉。良久，酒尽。方平语左右曰：不足，复还取也。以一贯钱与馀杭姥，相闻求酤酒。须臾，信还，得

一油囊，酒五斗许。信传馀杭姥答言：恐地上酒不中尊饮耳。又麻姑手爪不似人形，皆似鸟爪。蔡经心言，背大痒时，得此爪以爬背，当佳也。方平已知经心中所言，即使人牵经鞭之。曰：麻姑神人也，汝忽谓其爪可爬背，何也？但见鞭著经背，亦不见有人持鞭者。方平告经曰：吾鞭不可妄得也。

经家比舍有姓陈者，失其名字。尝罢尉，闻经家有神人，乃诣门叩头，求乞拜见。于是方平引前与语，此人便乞得随从驱使，比于蔡经。方平曰：君且起，向日立。方平从后视之，言：噫！君心邪，不正于经，不可教以仙道也。当授君地上主者之职。临去，以一符并一传著小箱中，以与陈尉，告言：此不能令君度世，能令君延寿，本寿自出百岁也。可以禳灾治病，病者命未终及无罪过者，君以符到其家，便愈矣。若有邪鬼血食作祸祟者，君使带此符，以敕社吏，当收送其鬼，君心中当亦知其轻重，临时以意治之。陈尉以此符治病有效，事之者数百家，寿一百一十岁而死。死后子孙行其符，不复效。

方平去后，经家所作数百斛酒饮在庭中者，皆尽，亦不见人饮之也。经父母私问经曰：王君常在何处？经答言：常治昆仑，往来罗浮山、括苍山，此三山上皆有宫室如一。王君常平天曹事，一日之中，与天上相连，反覆者数十过，地上五岳生死之事，皆先来关王君。王君出，或不尽将百官，唯乘一黄麟，将十数人。每常见山林在下，去地数百丈。所到则山海之神，皆来奉迎拜谒也。或有干道白言者。后数十年，经复暂归省家。方平有书与陈尉，真书书字，廓落大而不楷。先是，人无知方平名远者，起此乃知之，陈尉家于今世世存录王君手书，及其符传小箱也。

涉正

涉正者，字玄真，巴东人也。说秦始皇时事，了了似及见也。汉末从数十弟子入吴，而正常闭目，虽行犹不开也。弟子随之数十年，莫有见其开目者。有一弟子固请之，正乃为开目。目开时，有音如霹雳，而光如电，照于室宇。弟子，皆不觉顿伏，良久乃能起。正已复还闭目。正道成，莫见其所服食施行，而授诸弟子皆以行气房室及服石脑小丹云。李八百呼正为四百岁儿。

### 孙博

孙博者，河东人也。有清才，能属文，著诗百篇，诵经数十万言。晚乃学道，治墨子之术，能使草木金石皆为火光，照耀数十里中。亦能令身成火，口中吐火，指火树生草即焦枯，更指之即复故。亦能使三军之众各成一聚火。有藏人亡奴在军中者，累日求之不得。博语奴主曰：吾为卿烧其营舍，奴必走出，卿但当谛伺捉取之。于是博以一赤丸掷军中，须臾火起张天，奴果走出而得之。博乃更以一青丸掷火，火即灭。所燔屋舍百物向已焦然者，皆悉复故。博每作火有所烧，他人虽以水灌之，终不可灭，须博自止之，乃止耳。行大水中，不但己身不沾，乃能使从己者数百人皆不沾。又能将人于水上布席坐，饮食作乐，使众人舞于水上，不没不濡，终日尽欢。其病疾者，就博自治，亦无所云为，直指之，言愈即愈。又山间石壁及地上磐石，博乃入其中去，初故见背及两耳出石间，良久乃没。又能吞刀剑数十枚，及从壁中出入，如有孔穴也。引镜为刀，屈刀为镜，可积时不改。须博指之，乃复故形耳。后入林谿山中，合神丹仙去矣。

### 玉子

玉子者，姓章名震，南郡人也。少学众经，周幽王征之，不出。乃叹曰：人生世间，去生转远，去死转近矣。而但贪富贵，不知养性，命尽气绝则死位王侯。金玉如山，何益形为灰土乎？独有神仙度世，可以无穷耳！乃师桑子，具受众术。乃别造一家之法，著道书百有余篇。其术以务魁为主，而精于五行之意，演其微妙，以养性治病，消灾散祸。能起飘风，发屋折木，作雷雨云雾。能以草芥瓦石为六畜龙虎，立便成行。分形为数百千人。能步涉江海。含水喷之，皆成珠玉，遂亦不变也。或时闭气不息，举之不起，推之不动，屈之不曲，申之不直，百日数十日乃复起。与弟子行，各丸泥为马与之，皆令闭目，须臾，皆成大马，乘之，一日行千里。又能吐炁五色，起数百丈。飞鸟过，指之即堕地。临渊投符召鱼鳖，即皆上岸。又能使诸弟子，举眼即见千里之物，亦不能久也。其务魁时，以器盛水，著两魁之间，吹而嘘之，水上直有赤光辉，辉起一二丈。以此水治百病，病在内者，饮之，病在外者，澡之，皆便立愈。后入崆峒山合丹，白日升天。

### 天门子

天门子者，姓王名刚，尤明补养之要。故其经曰：阳生立于寅，纯木之精；阴生立于申，纯金之精。夫以木投金，无往不伤，故阴能疲阳也。阴人著脂粉者，法金之白也。是以真人道士，莫不留心注意，精其微妙，审其盛衰。我行青龙，彼行白虎，取彼朱雀，前我玄武，不死之道也。又阴人之情，有急于阳，而外自收抑，不肯请阳者，明金不为木屈也。阳性炁刚躁，志节疏略，至于游宴，声炁和柔，言辞卑下，明木之畏于金也。天门子既行此道，年二百八十岁，犹有童女之色。乃服珠缊得仙，入玄洲中去。

### 南极子

南极子者，姓柳名融。能含粉成鸡子，吐之数十枚，煮而啖之，与鸡子无异。黄中皆余有少许粉，如指端者，取杯咒之，即成龟，煮之可食，肠脏皆具，而杯成龟壳。煮取肉，则壳还成杯矣。取水咒之，即成美酒，饮之醉人。举手即成大树，人或折其细枝，以刺屋间，连日犹在，以渐萎坏，与真木无异也。服云霜丹，得仙去矣。

### 黄卢子

黄卢子者，姓葛名越。甚能治病，千里寄姓名，与治之皆愈，不必见病人身也。善禁之道，禁虎狼百虫，皆不得动，飞鸟不得去，水为逆流一里。年二百八十岁，力举千钧，行及走马。头上常有五色炁，高丈余。天下大旱时，能到渊中召龙出，催促使升天，使作雨，数数如此。一旦与亲故别，乘龙而去，遂不复还矣。

### 张道陵

张道陵字辅，汉沛国丰人也。本大儒生，博综五经。晚乃计此无益于年命，遂学长生之道。弟子千余人。其九鼎炁大要，惟付王长。后得赵升，七试皆过。第一试，升初到，门不通使，骂辱之，四十余日，露霜不去。第二试，遣升于草中守稻驱兽，暮遣美女，诈言远行过寄宿，与升接床，明日又称脚痛未去，遂留数日，颇以姿容调升，升终不失正。第三试，升行路上，忽见遗金四十余饼，升趋过，不取不视。第四试，升入山伐薪，三虎交搏之，持其衣服，但不伤。升不恐怖，颜色自若。谓虎曰：我道士也，少不履非，故远千里来事师，求长生之道，汝

何以尔？岂非山鬼使汝来试也？汝不须尔？虎乃去。第五试，升使于市，买十余疋物，已估直，而物主诬言未得直。升即舍去，不与争讼。解其衣服，卖之于他交，更买而归，亦不说之。第六试，遣升守别田谷，有一人来乞食，衣不蔽形，面目尘垢，身体疮脓，臭恶可憎。升为之动容，即解衣衣之，以私粮为食，又以私米遗之。第七试，陵将诸弟子登云台山绝岩之上，有桃树大如臂，生石壁下，临不测之谷，去上一二丈，桃树大有实。陵告诸弟子，有能得此桃者，当付以道要。于时伏而窥之三百许人，皆战慄却退汗流，不敢久临其上，还谢不能得。唯升一人曰：神之所护，何险之有？圣师在此，终不使吾死于谷中矣。师有教者，是此桃有可得之理。乃从上自掷，正得桃树上，足不蹉跌。取桃满怀，而石壁峭峻，无所攀缘，不能得还。于是——掷上，桃得二百枚。陵乃赐诸弟子各一枚，馀二枚，陵食一，留一以待升。于是陵乃临谷，伸手引升。众人皆见陵臂不加长，如掇一二尺物，忽然引手，升已得还。仍以向余一桃与升，食毕，陵曰：赵升犹以正心自投桃上，足不蹉跌，吾今欲试自投，当得桃否？众人皆谏言不可，唯赵升、王长不言。陵遂自投，不得桃上，不知陵所在。四方则皆连天，下则无底，往无道路，莫不惊咄。唯升、长二人，嘿然无声。良久乃相谓曰：师则父也。师自投于不测之谷，吾等何心自安？乃俱自掷谷中，正堕陵前。见陵坐局脚玉床斗帐中，见升、长，笑曰：吾知汝二人当来也。乃止谷中，授二人道要。

### 栾巴

栾巴者，蜀郡人也。好道，不修俗事。太守诣与相见，屈为功曹，待以师友之礼。尝谓巴曰：闻功曹有神术，可使见否？巴曰：唯唯。即平坐，却入壁中去，冉冉如云气状，须臾失



巴。而闻壁外作虎声，而虎走还功曹宅，乃巴耳。后入朝为尚书，正旦大会，而巴后至，而颇有醉态。酒至又不饮，即西南嚬之。有司奏巴大不恭。诏以问巴，巴顿首曰：臣乡里以臣能治鬼护人，为臣立生庙。今旦耆老皆入臣庙，不得即委之，是以颇有酒态。适来又观臣本郡大火，故嚬酒为雨以灭之。诏原复坐。即令驿马书问成都。果信云：正旦日大火，雨自东北来灭之，而有酒气焉。

### 淮南王八公

淮南王刘安，高皇帝之孙。好儒学方技，作《内书》二十一篇。又著《鸿宝万毕》三卷，论变化之道。有八公往诣之，门吏自以意难问之曰：王上欲得延年却期、长生不老之道，中欲得博物洽闻、精义入微之大儒，下欲得勇敢武力、扛鼎暴虎横行之壮士。今先生皆耆矣，自无驻衰之术、赅育之气也，岂能究《三坟》、《五典》、《八索》、《九丘》，钩深致远，穷理尽性乎？三者并乏，不敢相通。公笑曰：闻王钦贤好士、吐握不倦，苟有一介，莫不毕至。古人贵九九之学，养鸣吠之士，诚欲市马者以致骐驎，师郭生以招群彦。吾等虽鄙，不合所求，故远致身，欲一见王。就令无益，亦不作损，云何限之，逆见嫌择？若王必见少年则谓之有道，见垂白则谓之庸人，恐非发石取玉、探渊索珠之谓也。薄吾等老，谨以少矣。言毕，八公化为十五童子，露髻青鬓，色如桃花。于是门吏惊悚，驰以白王。王闻之，不及履，即徒跣出迎，以登思仙之台，张锦绮之帷，设象牙之床，燔百和之香，进金玉之机，穿弟子之履，北面拱手而言曰：安以凡材，少好道德，羁锁世业，沉沦流俗，不能遗类，贞藪山林。然夙夜饥渴，思愿神明，沐浴垢秽，精诚浮薄。抱情不畅，邈若云泥。不图厚幸，道君降屈。是安禄

命，当蒙拔擢。喜惧屏营，不知所措。唯乞道君哀而教之，则螟蛉假翼，去地飞矣。八公便以成老人矣，告王曰：虽复浅识，具备先学，知王好道，故来相从。不知意何所欲？吾一人能坐致风雨，立起云雾，画地为江河，撮土为山岳；一人能崩高塞渊，牧虎豹，致龙蛇，役神鬼；一人能分形易貌，坐在立亡，隐蔽六军，白日尽暝；一人能乘虚步空，起海陵烟，出入无间，呼吸千里；一人能入火不焦，入水不湿，刃之不伤，射之不中，冬冻不寒，夏暑不汗；一人能千变万化，恣意所为，禽兽草木，立成转徙，万物陵岳，移行宫室；一人能防灾度厄，辟却众害，延年益寿，长生久视；一人能煎泥成金，锻铅为银，水炼八石，飞腾琉珠，乘龙驾云，浮游太清。在王所欲。安于是旦夕朝拜，身进酒果。先乞试之变化风雨云雾，无不有效。遂受《丹经》及《三十六水银》等方。

## 卷一百一十 纪传部·传八

### 洞仙传

元君

元君者，合服九鼎神丹，得道，著经九卷。

九元子

九元子者，炼紫金、合神丹，登仙，其经曰《庚辛经》。

长桑公子

长桑公子者，常散发行歌曰：巾金巾，入天门，呼长精，吸玄泉，鸣天鼓，养丹田。柱下史闻之曰：彼长桑公子所歌之词，得服五星、守洞房之道也。

龚仲阳

龚仲阳者，受嵩山少童步六纪之法。

上黄先生

上黄先生者，修步斗之道，得隐形法。

蒲先生

蒲先生者，常乘白鹿，采芝草于茅山。

茅蒙

茅蒙，字初成，咸阳南关人也。即东卿司命君盈之高祖。入华山修道，后乘云驾龙，白日升天。先是，其邑歌曰：神仙得者茅初成，驾龙上升入太清，时下玄洲戏赤城。继世而往在我盈，帝若学之腊嘉平。秦始皇闻之，因改腊曰嘉平。

常生子

常生子者，常漱水成玉屑，服之以升天。

长存子

长存子者，学道成，为玄洲仙伯。

蔡琼

蔡琼，字伯瑶，师老子，受《太玄阳生符》、《还丹方》，合服得道，白日升天。常以《阳生符》活已死之人，但骸骨存者，以符投之即起。

张穆子

张穆子者，修太极上元年纪以升仙，后以此法授龚叔进、王文卿、尹子房，皆得道。

童子先生

童子先生者，于狄山学道，修《浴契铃经》得仙。

九源丈人

九源丈人者，为方丈宫主，领天下水神，及阴精水兽蛟鲸之类。

谷希子

谷希子者，学道得仙，为太上真官。东方朔师之，受阊风、钟山、蓬莱及神州真形图。

王仲高

王仲高，常在淮南市行卜，父老传云比世见之。伍被言于淮南王安，安欣然迎之。谓安曰：“黄帝，吾父之长子也。昔师朱襄君，受长生之诀。”即以传安。

阳生

阳生者，住少室西金门山，山有金罍浆，服之得道。

西门君惠

西门君者，少好道，明诸讖纬，以开山图授秦始皇，而不能用。

玄都先生

玄都先生者，受仙人《黑玉天地铃经》，行而得道。

黄列子

黄列子者，尝游猎九江，射中五色神鹿，逐迹寻穴，遇神芝，服而得风仙。

公孙卿

公孙卿者，学道于东梁甫山，一云滋液山。山宫中有合成仙药，得服之人立仙。日月之神，并在宫中。合药时颂曰：玉女断分剂，蟾蜍主和捣，一丸练人形，二丸容颜好。

蔡长孺

蔡长孺者，蜀郡人。夫妻共服十精丸，体气充盈。年九十生一男，名度世；一百五十岁复生一男，名无极。年三百岁视之如少童。

延明子高

延明子高者，服麋角得仙。

崔野子

崔野子者，服术以度世。

灵子真

灵子真者，服桃胶得仙。

宛丘先生

宛丘先生者，服制命丸得道。至汤之末世已千余岁。以方传弟子姜若春，服之，三百年视之如十五童子。彭祖师之，受其方三首。

马荣

马荣者，住梁国谷城中，两眼赤烂，瞳子不见物，而能明察洞视。北方多病癰，乡里不容者，辄来投荣，荣为治之，悉

差。荣云患脚，常乘鹿车，行无远近，不见人牛推引，而车自至。或一日赴数十处请，而各有一荣。凡与人语，自称厄子。作牵三诗，类乎讖纬。孝建二年三月初，作书与两国人别，至十六日中时，果卒。

任敦

任敦，博昌人也。少在罗浮山学道，后居茅山南洞。修步斗之道及《洞玄五符》。能役鬼召神，隐身分形。玄居山舍，虎狼不敢犯。

敬玄子

敬玄子，修行中部之道，存道守三一。常歌曰：遥望昆仑山，下有三顷田。借问田者谁？赤子字元先。上生鸟灵木，双阙侠两边。日月互相照，神路带中间。采药三微岭，饮漱华池泉。遨游十二楼，偃蹇步中原。意欲观绛宫，正值子丹眠。金楼凭玉几，华盖与相连。顾见双使者，博著太行山。长谷何峥嵘，齐城相接邻。纵我飞龙辔，忽临无极渊。黄精生泉底，芝草披岐川。我欲将黄精，流丹在眼前。徘徊饮流丹，羽翼奋迅鲜。意犹未策外，子乔提臂牵。所经信自险，所贵得神仙。

帛举

帛举，字子高。尝入山采薪，见二白鹄飞下石上，即成两仙人，共语云：顷合阴丹成，就河北王母索九剑酒，服之至良。子高闻仙人言，就访王母者，得九剑酒，还告仙人，乞阴丹服之，即翻然升虚，治于云中，掌云雨之任。

徐道季

徐道季，少住鹄鸣山。后遇真人谓曰：夫学道，当巾天青，咏大历，跣双白，徊二赤。此五神道之秘事也。其语隐也。《大历》者，《三皇文》是也。道季修行，得道。

#### 赵叔期

赵叔期，不知何许人。学道于王屋山中，遇卜者谓叔期曰：欲入天门，修三关，存朱衣，正昆仑。叔期请其要道，因以素书一卷与之，是《胎精中记》。拜受之，后得道。

#### 毛伯道

毛伯道、刘道恭、谢稚坚、张兆期皆后汉时人也，同于王屋山学道三十余年。共合神丹成，伯道先服，即死；次道恭服之，又死。稚坚、兆期不敢服，弃药而归。未出山，忽见伯道、道恭各乘白鹿在山上，仙人执节以从之。二人悲愕悔谢，道恭授以服茯苓方，二人后亦度世。

#### 庄伯微

庄伯微者，少好道，不知求道之方，惟以日入时，正西北向，闭目握固想昆仑山，积三十年，后见昆仑山人，授以《金液方》，合服得道。

#### 刘道伟

刘道伟，少入嶧冢山学道，积十二年，遇仙人试之，将一大石，约重万斤，以一白发悬之，使道伟卧其下，颜色无异，心安体悦。又十二年，遂赐以神丹，服之升天。

#### 匡俗



匡俗，字子希，少以孝悌著称，召聘不起，至心学真，游诸名山。至覆笥山，见山上有湖，周回数里，多生灵草异物，不可识。其傍有石井，泉通湖中；又有石雁，至春秋时，皆能群飞；复有小石笥，中有玉牒，多记名山福地，及得道人姓名。后服食得道。

#### 卢耽

卢耽者，少学道得仙。后复仕，为州治中，每时乘空归家，到晓则反州。尝元会，期会在列，时耽后至，回翔阁前欲下次，为威仪以帚掷耽，得一只履坠地，耽由是飞去。

#### 范豺

范豺者，巴西阆中人也。久住支江百里洲，修太平无为之道。临目嘘漱，项有五色光起，冬夏惟单布衣。而桓温时头已斑白，至宋元嘉中状貌不变。其占吉凶，虽万里外事，皆如指掌。或问：先生是谪仙邪？云：东方朔乃黠我，我小儿时，数与之狡狴。又云：我见周武王伐纣洛城头，战，前歌后舞。宋文帝召见豺，答诏称我，或称吾。元凶初为太子，豺从东宫过，指宫门曰：此中有博劳鸟，奈何养贼不知？文帝恶之，敕豺自尽。江夏王使埋于新亭赤岸冈，文帝令发其棺，看柩无尸，乃悔之。越明年，豺弟子陈忠夜起，忽见光明如昼，而见豺入门就榻坐，又一老翁后至，豺起迎之。忠问是谁？豺笑而不答。须臾俱出门，豺问忠：比复还东乡，善护我宅，即百里洲也。

#### 傅先生

傅先生者，学道于焦山中。精思七年，遇太极真人，与之木钻，使以穿一石盘，厚五尺许，戒云：石盘穿，仙可得也。

于是昼夜钻之，积四十七年，钻尽石穿。仙人来，曰：立志若斯，宁有不得道者！即授以金液还丹，服之度世。

石坦

石坦，字洪孙，渤海人也。游赵魏诸名山，得道。能分身同时诣十馀家，各家有一坦，所言各异。

郑思远

郑思远，少为书生，善律历候纬。晚师葛孝先，受《正一法文》、《三皇内文》、《五岳真形图》、《太清金液经》、《洞玄五符》。入庐江马迹山居，仁及鸟兽。所住山虎生二子，山下人格得虎母，虎父惊逸，虎子未能得食。思远见之，将还山舍养饲。虎父寻还，又依思远。后思远每出行，乘骑虎父，二虎子负经书衣药以从。时于永康横江桥，逢相识许隐，且暖药酒，虎即拾柴然火。隐患齿痛，从思远求虎须，欲及热插齿间得愈，思远为拔之，虎伏不动。

郭志生

郭志生，字通明，朱提郡人。晋元帝时，云已四百岁，见之如五十许人。有短卷书满两筐中，常负之。多止乌场张绩家，每叹曰：兵荒方生，毒流生民，将以沟渎为棺材，苍蝇为孝子，必然之期，可为痛心。后二年，孙恩妖乱，冬夏杀害及饿死者，十不遗一。忽谓绩曰：应亡，为吾备粗材器，殓不须钉，材亦不须埋，但送山岩中，以石镇材上。后少日而死，绩谨依斯教。经数日，绩亲人自富阳还，见志生骑白鹿山中行，作书与绩。

介琰

介琰者，不知何许人也。师白羊公，受玄白之道，能变化隐形。常随师入东海，暂过吴，为先主礼之。先主为琰起静室，一日之中，数过遣人问起居。琰或为童子，或为老翁，无所食啖，不受饷遗。先主欲学其术，琰以帝多内御，遂不传道法。先主大怒，敕缚琰著车甲轘，引弩射之，弩发而绳索独存，不知琰所之耳。

### 徐福

徐福，字君房，不知何许人也。秦始皇时，大苑中多枉死者横道，数有鸟如乌状，衔草覆死人面，皆登时活。有司奏闻，始皇使使者赍此草，以问北郭鬼谷先生。先生云：是东海中祖洲上不死之草，生琼田中，一名养神芝，其叶似菰，生不丛，一株可活一人。始皇于是乃谓可索得，因访求精诚道士徐福，发童男童女各五百人，率楼船等入海寻祖洲，不返，不知所在。逮沈羲得道，黄老遣福为使者，乘白虎车、度世君司马生乘龙车、侍郎簿延乘白鹿车，俱来迎。

### 车子侯

车子侯者，扶风人也。汉武帝爱其清净，稍迁其位至侍中。一朝语家云：我今补仙官，此春应去，至夏中当暂还，还少时复去。如其言。武帝思之，乃作歌曰：嘉幽兰兮延秀，蕈，妖媛兮中塘。华斐斐兮丽景，风徘徊兮流芳。皇天兮无慧，至人逝兮仙乡。天路远兮无期，不觉涕下兮沾裳。

### 苏耽

苏耽者，桂杨人也。少以至孝著称。母食欲得鱼羹，耽出湘州市买，去家一千四百里，俄顷便返。耽叔父为州吏，于市

见耽，因书还家，家人大惊。耽后白母曰：耽受命应仙，违远供养。作两大柜留家中，若欲须食扣小柜，欲得钱帛扣大柜，是所须皆立至。乡里共怪其独，如此白官，遣吏检柜无物，而耽母用之如故。先耽将去时云：今年大疫，死者略半，家此井水饮之无恙。果如所言，合门元吉。母年百馀岁终，闻山上有人哭声，服除乃止。百姓为之立祠矣。

### 张巨君

张巨君者，不知何许人也。许季山得病不愈，清斋祭太山请命，昼夜祈诉。忽有神人来问曰：汝是何人？何事苦告幽冥？天使我问汝，可以实对。季山曰：仆是汝南平舆许季山，抱疾三年，不知罪之所在？故到灵山，请决死生。神人曰：我是仙人张巨君，吾有《易》道，可以射知汝祸祟所从。季山因再拜请曰：幸蒙神仙回降，愿垂告示。巨君为筮卦，遇震轸之恒揔，初九、六二、六三有变。巨君曰：汝是无状之人，病安得愈乎？季山曰：愿为发之。巨君曰：汝曾将客东行，为父报仇，于道杀客，内空井中，大石盖其上。此人上诉天府，以此病谪汝也。季山曰：实有此罪。巨君曰：何故尔耶？季山曰：父有为人所搏耻，蒙此以终身，时与客报之，未至，客欲告怨主，所以害之。巨君曰：“冥理难欺，汝勤自首，吾还山为请命。”季山渐愈，巨君传季山筮诀，遂善于《易》占。但不知求巨君度世之方，惜哉！

### 冯伯达

冯伯达者，豫章建昌人。世奉孝道，精进济物。道民陈辞得旨，与戴矜生相似，又是同时人也。元嘉中，伯达下都，后寄戴乡人，还南行，至梅根，阻风连日。伯达谓船主曰：欲得

速至家，但安眠，慎勿开眼。其夜，闻舫下刺树杪，而不危抗，窃有窥者，见两龙挟梁翼船，迅若电逝，未晓到舍，伯达寻入庐山，不返。

### 韩越

韩越者，南陵冠军人也。心慕神仙，形类狂愚。随师长斋诵咏，口不辍响。常著屐，行无远近，入山或百日、五十日辄还。家人问越，未尝实对。后乡人斫枯木作弓，于大阳山绝崖石室中，见越与六七仙人读经。越后山中还，于峦村暴亡。家迎觉棺轻，疑非真尸，发看，唯竹杖耳。宋大明中，越乡人为台将北使，于青州南门遇越，容貌更少，共语移时，访亲表存亡，悲欣凝然。越云：吾妇患嗽未差，今因与卿散一裹，令温酒顿服之。台将还都番下，具传越言，而越妇服散，嗽即愈。

### 郭璞

郭璞，字景纯，河东人也。王敦欲反，使之占梦，曰：吾昨梦在石头外江中扶犁耕，卿占之。璞曰：大江扶犁耕，耕亦自不成，反亦无所成。敦怒，谓璞曰：卿自占命尽何时？璞曰：下官命尽今日。敦令诛璞。璞谓伍伯曰：吾年十三时，于栅塘脱袍与汝，言吾命应在汝手中，汝可用吾刀。伍伯感昔深惠，衔涕行法。殡后三日，南州市人见璞货其平生服饰，与相识共语。敦闻之不信，使开棺，无尸。璞得尸解之道，今为水仙伯。

### 戴孟

戴孟，字成子，武威人也。汉武帝时为殿中将军，本姓燕，名济，字仲微。得道后改姓名。入华阴山，授秘法于清灵真人裴君，得《玉佩金珰经》、《石精金光符》。仙人郭子华、张

季连、赵叔达、山世远，常与之游处。

### 郭文举

郭文举，河内轵人。少爱山水，常游名山，观华阴石室。洛阳陷，入吴居大辟山，停木于树，苫覆而止。时猛兽为暴，文举居之，十余年无患。丞相王导使迎至京师，朝士咸共观之，文举颓然箕踞，旁若无人。周顗问曰：猛兽害人，先生独不畏邪？文举曰：吾无害兽之心，故兽不害人。周顗、庾亮、桓温、刘恢共叹：文举虽无贤人之才，而有贤人之德。咸和元年，恳求还山，导不许。复少日，遁入临安白土山。明年，苏峻作乱，时人谓文举逆知，故去也。有《老子经》二卷，缣盛悬屋，未尝见读之。山外人徐凯师事文举，受篆篆上将军，吏兵并见形于凯，使役之。今凯见社灶神，戒凯曰：不可有房室，不复为卿使。凯后娶暨氏女，诸神即隐，唯馀篆吏二人，不复从命。语凯云：汝违师约，天曹已摄吏兵，留我等守《太上篆》，不复可使。文举亡，如蝉蛻。山下人为之立碑。文举书箬叶上，著《金雄诗》、《金雌记》。后人于其所住床席下得之，次第寻看，讖纬相似，乃传于世。

### 姚光

姚光者，不知何许人也。得神丹之道，能分散形影，坐在立亡，火之不焦，刀之不伤。吴主身临试之，积荻数千束，令光坐，荻千束旅裹十馀重，火焚之，烟焰翳日。观者盈都，咸谓光为煨烬矣。火息后，见光从灰中振衣而起，神容晏如也。手把一卷书，吴主读不能解，后不知所之。

### 徐弯

徐弯者，吴郡海盐人也。少有道炁，能收束邪精。钱塘人杜氏女患邪，弯召魅，即见丈夫著白侠葛单衣入门，弯一叱，即成白龟。一旦与群从兄弟数人，登石崎山斫春柴，日暮弯不返。明旦寻觅，见弯在山上，腋挟镰，倚而不动。或乃抱弯，唯有空壳。

### 丁令威

丁令威者，辽东人也。少随师学得仙道，分身任意所欲。尝暂归，化为白鹤，集郡城门华表柱头，言曰：我是丁令威，去家千岁，今来归，城郭如旧，人民非，何不学仙离冢累？夫左元放为羊，令威为鹤，斯并一时之迹耳，非永为羊鹤也。《辽东诸丁谱》载，令威汉初学道得仙矣。

### 王嘉

王嘉，字子年，陇西安阳人也。久在于东阳谷口，携弟子登崖穴处。御六炁，守三一，冬夏不改其服，颜色日少。符坚累徵不就。坚寻大举南征，以弟融为大将军，遣人问嘉，嘉曰：金坚火强。仍乘使者马，衣冠徐徐东行数百步，因堕其衣裳，奔马而还，踞床而不言。坚又不解，更遣人问：世祚云何？嘉曰：未央。坚欣然以为吉征。明年岁在癸未，坚大败于寿春，遂亡秦国。是殃在末年也。以秦居西为金，晋都南为火，火能铄金也。嘉寻移嵩高山。姚萇定长安，问嘉：朕应九五不？嘉曰：略当得。萇大怒曰：小道士答朕不恭。有司奏诛嘉及二弟子。萇先使人陇右逢嘉将两弟子，计已千馀里，正是诛日。嘉使书与萇，萇令发嘉及二弟子棺，并无尸，各有竹杖一枚。萇寻亡。

寇谦之

寇谦之者，不知何许人也。弱年好道，入东岳岱宗山，精苦累年。一旦得真人分以成丹，白日升天。谦之符章，救治百姓神验。于今北方犹行其道者，多焉。

董幼

董幼者，海宁人也。兄弟三人，幼最小。早丧父，幼母偏念其多病，不能治家。年十八，谓母曰：幼病困，不可卒愈，徒累二兄，终不得活。欲依道门洒扫，以度一世。母许之。幼在师家，恭谨勤修，长斋笃学，未尝暂怠，遂洞明道术。年四十一，夜有真人降，授幼水行不溺之道。以一马鞭与幼，令幼以鞭水，行于水上，如行平地。晋义熙中，幼还家辞母云：幼已得道，不复留人间，今还与家别。母曰：当应往何处去？复几时可还？幼曰：应往峨嵋山，更受业，未有归期。中表乡邻共送幼，至区阳西江，见幼鞭水而行，渐渐而远，顾谓二兄曰：世世传道业矣。

刘𡗗

刘𡗗画者，不知何许人也。长大多须，垂手下膝。久住武当山，去襄阳五百里，旦发夕至。不见有所修为。颇以药术救治百姓，能劳而不倦，用药多自采，所识草石，乃穷于药性。雍州刺史刘道产忌其臂长，于襄阳录送文帝。每旦槛车载将往山采药，暮还廷尉。𡗗画后以两短卷书与狱吏，吏不敢取，𡗗画焚之。一夜失𡗗画，关钥如故。阖闾门吏行夜得𡗗画，送廷尉，𡗗画语狱吏云：官寻杀我，殓后勿钉棺也。后果被杀。死数日，文帝疑此言，使开棺，不见尸，但有竹杖耳。



王质

王质者，东阳人也。入山伐木，遇见石室中有数童子围棋歌笑。质聊置斧柯观之，童子以一物如束核与质，令含咽其汁，便不觉饥渴。童子云：汝来已久，可还。质取斧柯，烂已尽。质便归家，计已数百年。

## 卷一百一十一 纪传部·传九

### 洞仙传

于吉

于吉者，琅琊人也。其父祖世有道术，不杀生命，吉精苦有逾于昔人。常游于曲阳流水上，得神书百馀卷，皆赤界、白素、青首、朱目，号曰《太平青策书》。孙策平江东，进袭会稽，见士民皆呼吉为于郎，事之如神。策招吉为客在军中。将士多疫病，请吉，水歠漱辄差。策将兵数万人，欲迎献帝，讨曹公，使吉占风色，每有神验。将士咸崇仰吉，且先拜吉，后朝策。策见将士多在吉所，因怒曰：吾不如于君耶！乃收吉，责数吉曰：天久旱，水道不通，君不同人忧，安坐船中作鬼态，束吾将士，败吾部曲，今当相除。即缚吉，暴使请雨。若能感天，今日中大雨者，当相原，不尔加诛。俄而云兴雨沴，至中漂没。将士共贺吉，策遂杀之。将士涕泣收葬。明旦，往视失尸，策大怆恨，从此常见吉在其前后。策寻为许贡伏客所伤，照镜，见吉在镜中，因掬镜大叫，胸创裂而死。世中犹有事于君道者。

昌季

昌季者，不知何许人也。入山担柴，崖崩堕山下，尚有微气。妇来见之，涕泣哀恻，仙人尹伊闻之，怆然谓妇曰：吾是仙人，能治汝婿。即以角煎赐之，并付其方，药尽未差，可随合作也。能长服之，令人神仙。妇以药治季，即愈。季合药服之千日，忽然飞升。妇流涕追之，顾谓妇曰：道与世殊，卿善自爱敬。妇慨然，复合药服之三年，便复飞去，至蓬莱山见季，季曰：知卿当来尔。

#### 王子乔

王子乔者，河东人也。汉明帝时为尚书郎，出为叶县令。汉法：畿内长吏，节朔还朝。每见子乔先生至，不见有车马迹，而怪之。明帝密使星官占候，辄见双凫从东南飞来，乃罗，得一只履，时人异之。

#### 杜契

杜契，字广平，京兆人也。建安初，渡江依孙策，后孙权用为立信校尉。黄武二年，起学道，师介琰，受黄白术，久久能隐形遁迹。后居茅山之东，时与弟子采伐，货易山场市里，而人不能知之。数入洞中得仙。

#### 范幼冲

范幼冲者，辽西人也。受《太素胎化易形之道》，常旦旦存青白赤三炁各如縆，从东方日下，直入口中，挹之九十过，自饱便止，行之。十年得道，其法约、其事验，太素秘道也。

#### 青谷先生

青谷先生者，不知何许人也。常修行九息服气之道。后合

炉火大丹，服之得道。一旦天降刘文饶于寝室，授其杖解法，得入太华山。文饶名宽，弘农人也，仕后汉，位至司徒、太尉，视民如赤子，怒不形颜，口无疾言，好行阴德，拯寒困，万民悦，而附之如父母焉。

### 夏馥

夏馥者，不知何许人也。少好道，常服术和云母。后入吴山，遇赤须先生，传之要法。又遇桐柏真人，授之黄水云浆法，行之得道。馥少时被公府辟，书致于桑树乃去，当时咸服其高迈。

### 刘讽

刘讽，字伟惠，颍川人也。师季主，服日月精华，得道。后归乡里，托形杖履而去。

### 展上公

展上公者，不知何许人也。学道于伏龙地，乃植李，弥满所住之山。上公得道，今为九宫右保司，其常白诸仙人云：昔在华阳下，食白李美，忆之未久，忽已三千岁矣！郭四朝后来住其处，又种五果。上公云：此地善，可种柰。所谓福乡之柰，可以除灾病。

### 周太宾（姜叔茂附）

周太宾、巴陵侯姜叔茂者，并不知何许人也。学道在句曲山，种五果、五菜，货之以市丹砂。今姜巴地多韭薤，即其种耶！二人并得仙，叔茂曾作书与太极官僚云：昔学道于鬼谷，得道于少室，养翮于华阳，待举于逸域。时乘飙车，宴于句曲。

太宾善鼓琴，昔挥独弦乃弹，而八音和。以教麋长生、孙广田，即登也。二人后皆得道尔。

### 郭四朝

郭四朝者，燕人也。秦时得道。来句曲山南所住处，作塘遏涧水，令深基庶垣墙，今犹有可识处。四朝乘小船游戏其中，每扣船而歌。

其一曰：清池带云岫，长林郁青葱。玄鸟翔幽野，悟言出从容。鼓楫扬神波，稽首乘晨风。未获解脱期，逍遥丘林中。

其二曰：浪神九陔外，研道遂全真。戢此灵凤羽，藏我华龙鳞。高举方寸物，万吹皆垢尘。顾哀朝生辈，孰尽汝车轮。

其三曰：游空落飞飙，虚步无形方。圆景焕明霞，九凤唱朝阳。挥翮扇天津，置裼庆云翔。遂造太微户，挹此金梨浆。逍遥玄陔表，不存亦不亡。

其四曰：驾欵舞神霄，披霞带九日。高皇齐龙轮，遂造九华室。神虎洞琼林，香风合成一。开阖幽冥户，灵变玄迹灭。

### 张玄宾

张玄宾者，定襄人也。曾举茂才。始师西河蓊公，受服术、行洞房白元之事。后遇樊子明于少室山，授以遁变隐景之道。昔在天柱山，今来华阳内，为理禁伯，主诸水雨官。玄宾善谈空无：无者大有之宅，小有所以生焉。积小有以养小无，见大有以本大无。有有亦无焉，无无亦有焉。所以我目都不见物，物亦不见无。寄有以成无，寄无以得无。于是无则无宅也，太空亦宅无矣。我未生时，天下皆无无也。桐柏诸灵仙，亦不能折之。自云：曾于蓬莱遇宋晨生，论无，粗得其意也。

赵威伯

赵威伯者，东郡人也。少好道，受业于邯郸张先生。挹日月之景，服九云明镜之华得道。来入华阳内，为保命丞。《河图》云：吴楚多有得见太平者。常语人云：此论不虚，此验不久。其所存明镜，非世间常法。又善啸，声若冲风之击长林、众鸟之群鸣，须臾归云四集，零雨其濛。

乐长治

乐长治者，不知何许人也，仕汉桓帝，至中书侍郎。后师中岳李先生，受步七元法，修之得道。

杜曷

杜曷，字叔恭，吴国钱塘人也。年七八岁，与时辈北郭戏，有父老召曷曰：此童子有不凡之相，惜吾已老，不及见之。曷早孤，事后母至孝，有闻乡郡，三礼命仕，不就。叹曰：方当人鬼淆乱，非正一之炁，无以镇之。于是师馀杭陈文子，受治为正一弟子。救治有效，百姓咸附焉。后夜中有神人降云：我张镇南也。汝应传吾道法，故来相授诸秘要方，阳平治。曷每入静烧香，能见百姓三五世祸福，说之了然。章书符水，应手即验。远近道俗，归化如云。十年之内操米户数万。

晋太傅谢安，时为吴兴太守，见黄白光，以问曷，曷曰：君先世有阴德于物，庆流后嗣，君当位极人臣。尚书令陆纳，世世临终而并患侵淫疮，纳时年始出三十，忽得此疮。曷为奏章，云：令君大庥得过。授纳灵飞散方，纳服之，云：年可至七十。大司马桓温北伐，问以捷不？曷云：公明年三月专征，当挫其锋。温至坊头，石门不开，水涸粮尽，为鲜卑所摄。谓弟子桃叶云：恨不从杜先生言，遂至此败。符坚未至寿春，车

骑将军谢玄领兵伐坚，问以胜负。曷云：我不可往，往必无功；彼不可来，来必覆败，是将军效命之秋也。坚果散败。卢竦自称先生，常从弟子三百余人。曷以白桓温，竦协东治老木之精，衍惑百姓，比当逼突宫阙，然后乃死耳。咸安中，竦夜半从男女数百人直入宫，称海西复位，一时间官军诛剿，温方叹伏。

后桓冲欲引曷息该为从事，曷辞曰：吾儿孙并短命，不欲令进仕，至曾玄孙，方得吾福耳。曷曰：吾去世后，当以假吾法以破大道者，亦是驱除也。与黄巾相似。少时消灭。素书此言，函封付妻冯氏：若有灾异，可开示子侄。劝修德自守。隆安中，郎玕孙泰以妖惑陷咎，及祸延者众。曷忽弥日聚集，纵乐无度。敕书吏崇桃生市凶具，令家作衣衾，云：吾至三月二十六日中当行。体寻小恶，至期，于寝不觉，尸柔气洁，诸道民弟子为之立碑，谥曰明师矣。

### 扈谦

扈谦者，魏郡人也。性纵诞，不耻恶衣食，好饮酒，不择精粗。常吟曰：风从牖中入，酒在杯中摇，手握四十九，灵光在上照。巍峨帘蓍下，独向冥理笑。又曰：进不登龙门，退不求名位，无以消天日，常作巍峨醉。精于《易》占，常在建康后巷许新妇店前筮，一卦一百钱，日限钱五百止。次卦千钱不为也。谦母住尚方门外路西，有养女三四人，自料理。谦日日送钱三百供养母，馀钱二百，谦以饮酒，乞与贫寒。晋海西旦出，见赤蛇盘于御床，俄尔失蛇。诏谦筮卦，《易林》曰：晋室有盘石之固，陛下有出宫之象。海西曰：可消伏不？谦曰：后年应有大将北征失利，以三万人逆之于寿春北，此灾可消。明年秋，桓温北讨败绩，咎豫州刺史袁真不为后援，诛真。还

镇石头，发海西，立简文。温妾产息玄至艰难，谦筮曰：公第西北六间马敞坏竟，便产是男儿，声炁雄烈，当震动四海。温赐谦钱三十万，谦云：谦用筮钱，常患不尽，且家无容钱处，请还公库。温不听，许氏以空槛借谦贮钱，俄而夫人复送钱三十万。谦从得温钱后，日筮三卦以供养母，以温钱饮酒，求能酣客，不问识与不识，群聚极饮，于是远近嗜饮客随谦者众。许氏常以贤人礼待谦，不计求酒之多少。谦后断，不复诣许氏。寻觅经年，忽于谯沟遇谦，曰：家中欲得槛用，先令随还家，取先所寄钱。谦笑曰：三年饮酒数千斗，唯四十者才足相补，正馀一百半许有耳，夫人不复足雇矣。吾以瓜刻壁记之，写算便知也。许氏试依自言算，不差一文。谦后母夜亡，谦旦还，云因缘尽矣而去，不知所之。数日，许氏家人于落星路边，见谦卧地，始谓其醉，捉手牵引，唯空衣，无尸也。

### 朱库

朱库者，不知何许人也。久服石春辟谷符水，不饥不渴，强丁不老。库忽云：应得仙，克日发，与亲旧别云：当有迎者，单衣白鞬。须臾，有两黄鹤下中庭，库便度世，中庭仍有三黄鹤，相随飞向东郭外，成三黄衣道士，携手东行，因乡人附书与家，家人看尸，唯有空壳者。

### 姜伯真

姜伯真者，不知何许人也。少好道，在猛山采药，忽值仙人，使伯真平立日中，背后观之，其心不正。仙人曰：劝学之至，而不知心不正，为失。因教之服石脑。石脑色斑柔软，形如小石，处所皆有。久服身热而不渴。后遂得仙。繁阳子服之，亦得道。



## 卷一百一十二 纪传部·传十

### 神仙感遇传

#### 吉宗老

吉宗老者，豫章道士也。巡游名山，访师涉学，而未有所得。大中二年戊辰，于舒州村观遇一道士，弊衣冒，风雪甚急，忽见其来投观中。与之道室而宿，即暝，无灯烛，雪又甚。忽见室内有光，自隙而窥之，见无灯烛而明，唯以小葫芦中出衾被帷幄、衲褥器用、陈设服玩，无所不有。宗老知其异，扣门谒之，道士不应，而寝光亦寻灭。宗老乃坐其门外，一夕守之，冀天晓之后，聊得一见。及晓推其门，已失所在。宗老剖心责己，周游天下，以访求焉。

#### 叶迁韶

叶迁韶者，信州人也。幼年樵采，避雨于大树下，忽见雷公为树枝所夹，奋飞不得，树枝雷霆后却合，迁韶为取石楔开枝间，然后得去。仍愧谢之曰：约来日却至此可也。如其言，明日复至树下。雷公亦来，以墨篆一卷与之曰：此行之，可以致雷雨，祛疾苦，立功救人也。我兄弟五人，要雷声，唤雷大雷二，必即相应。然雷五姓刚躁，无危急之事，不可唤之。自

是行符致雨，咸有殊效。尝于吉州市中醉，太守擒而责之，欲加凌辱。迁韶于阶下大呼雷王一声，时中旱，日光猛炽，使震霹一声，人皆颠沛。太守下阶礼接之，请为致雨。信宿大沴雨，泽遂足。因为远近所传。游滑州时，方久雨，黄河泛，官吏被水为劳，忘其寝食。迁韶以铁札长二尺，作一符，立于河岸之上，水涌溢堆阜之形，而蓼河流下，不敢出其符外，人免垫溺，于今传之。人有疾请符，不择笔墨，书而授之，皆得其效。多在江浙间周游，好啗荤腥，不修道行，后不知所之。

#### 于满川

于满川者，是成都乐官也。其所居邻里阙水，有一老叟，常担水以供数家久矣。忽三月三日，满川于学射山通真观看蚕市，见卖水老人，与之语，云居在侧近，相引蚕市看讫，即邀满川过其家。入桤竹径，历渠谿，可十里许，即见门宇殿阁，人物喧阗，有像设图绘，若宫观焉。引至大厨中，人亦甚众，失老叟所在，问人，乃葛瓚化厨中尔。云来日蚕市，方营设大斋，顷刻之间，已三日矣。卖水老叟，自此亦不复来。

#### 进士王叡

进士王叡，渔经猎史之士也。孜孜矻矻，穷古人之所未穷，得先儒之所未得，著《灸穀子》三十卷，六经得失、史册差谬，未有不针其膏而药其育矣。所有二种之篇、释喻之说，则古人高识洞鉴之士，有所不逮焉。嗜酒自娱，不拘于俗。酣畅之外，必切磋义府，研核词枢，亦犹刘闾之诂诮古人矣。然其咀吸风露，呼嚼岚霞，因亦成疹，积年苦冷，而莫能愈。游燕中，道逢樱杖棕笠者，鹤貌高古，异诸其侪，名曰希道。笑谓之曰：少年有三惑之累耶？何苦瘠若斯？辞以不然。道曰：疾可愈也，

予虽释忤，有炉鼎之功，何疾不除也。馥委质以师之，斋于漳水之滨，三日，而授其诀曰：木精天魂，金液地魄。坎离运行，宽猛无成。金木有数，秦晋合宜。近效六旬，远期三载尔。歌曰：魄微入魂牝牡结，阳响阴滋神鬼灭。千歌万赞皆未决，古往今来抛日月。受而制焉饵之，周星疹且瘳矣。乃隐晦自处，佯狂混时，年八十，殁于彭山道中，识者瘞之。无几，又在成都市，常寓止乐温县。时挚兽结尾，为害尤甚。馥醉宿草莽，露身林野，无所惮焉，斯亦蝉蜕得道之流也。

#### 王从 己

王从 己者，宦官也。蜀王初节制邛蜀，黎雅为永平军，从 己为监军判官。自是收剋成都，罢镇为郡。从 己栖寓蜀中十余年，食贫好善，不常厥居。于邛市有老叟，睨而视之曰：将有大厄，滨于死所。探怀袖中小瓢，以丹砂十四粒与之，曰：饵此旬日而髯生，勿为怪也，可以免难矣。服之三五日，髯果生焉。月余，诏诛宦官，从 己亦在其数，人或劝其遁去，答曰：君父之命，岂可逃乎！俛首赴紲，太守哀，而上请蜀王，特乞宥之，视其状貌，无复宦官矣。

#### 令狐绚

令狐绚者，馀杭太守纁之子也。雅尚玄微，不务名宦。于开化私院自创静室，三日五日即一度，开室焚香，终日乃出。时有神仙降之，奇烟异香，每见闻于庭宇，因言入静之时，有青童引入，至天中高山之上，朝谒老君，见册命张天师为元中大法师，以代尹真人之任。初，尹与三天论功于太上之前，太上曰：群胡扰于中原，蚕食华夏，不能戢之，尹真人之过也。再立二十四化，分别人鬼，泽及生灵，道陵之功也。此二者各

宜登台冥思，取验于大道。可即敕尹真登一莲华宝台，端寂而坐。顷之，万景昏噎。又命道陵亦登此台，既坐良久，则奇彩异光，种种变化，天人交畅矣。自是以道陵代尹为元中法师焉。乙未年，闻令狐之说。丁酉年于西川濛阳见张道士，云：天师降授道法，远近敬而事之，因聆其天师降教之事，云天师进位，近为元中法师。与令狐所说符契，论功登台之事，一无异者焉。玄功杳冥，难可详验，聊以纪其异也。

### 李筌

李筌，号达观子。居少室山，好神仙之道，常历名山，博采方术。至嵩山虎口岩，得《黄帝阴符》、《本经素书》，朱漆轴，緘以玉匣，题云：大魏真君二年七月七日。上清道士寇谦之藏诸名山，用传同好，其本糜烂。筌抄读数千遍，意不晓其义理。因入秦，至骊山下，逢一老母，髻髻当顶，余发半垂，弊衣扶杖，状貌甚异。路傍见遗火烧树，因自言曰：火生于木，祸发必克。筌惊而问之曰：此《黄帝阴符》，老母何得而言之？母曰：吾受此符已三元六周甲子矣，少年从何而得之？筌稽首再拜，具告所得。母曰：少年颧骨贯于生门，命轮齐于日角，血脑未减，心影不偏，贤而好法，神勇而乐智，真是吾弟子也，然四十五当有大厄。因出丹书符一道，贯于杖端，令筌跪而吞之，曰：天地相保。于是坐于石上，与筌说《阴符》之义，曰：《阴符》凡三百言，一百言演道，一百言演法，一百言演术。上有神仙抱一之道，中有富国安民之法，下有强兵战胜之术。皆内出心机，外合人事。观其精微，《黄庭》、《八景》不足以为玄；察其至要，经传子史不足以为文；任其巧智，孙吴韩白不足以为奇。非有道之士，不可使闻之。故至人用之得其道，君子用之得其术，常人用之得其殃，识分不同也。如传同好，

必清斋而授之，有本者为师，无本者为弟子也。不得以富贵为重，贫贱为轻，违者夺纪二十。本命日诵七遍，益心机，加年寿。每年七月七日，写一本藏于名山石岩中，得加算。久之，母曰：日已晡矣，吾有麦饭，相与为食。袖中出一瓠，令筌谷中取水，既满矣，瓠忽重百余斤，力不能制而沉泉，及还，已失母所在，但留麦饭数升而已。筌食之，自此绝粒。开元中，为江陵节度副使、御史中丞。筌有将略，作《太白阴经》十卷，又著《中台志》十卷。时为李林甫所排，位不大显意，入名山访道，后不知其所也。

### 刘彦广

刘彦广者，金陵礪壁仓人也。尝为浙西衙职，事节度使唐若山。若山好道，与其弟若水皆遇神仙，授以道要。开元中，明皇宠异之，杖节镇浙西，逾年而弃位泛海，遗表于船舫内。监军使以事上闻，诏若水于江岭仙山访之，不知所适。彦广十年后奉使扬州，于鱼行遇若山，担鱼货之。若山召彦广至其家，门巷陋隘，蒿径荒梗，露草沾渍，才通人行。入门渐平，布砖花卉，台榭繁华之饰，迥非世有。命生设食。闻其尚负官钱，家内穷罄，悯之，形于容色，既而令于所止店中备生铁及炭。是夕，唐诣其店，置炭铁，列火而去，谓之曰：汝后世子孙，合于仙山遇道，不宜复居小职，但贞隐丘园可也。此金三分之一以支官中债，其二丰产资家力。勿食珍羞，以增尔禄；勿衣绮绣，以增尔福。阴功及物，济人之急，道之所重也。度人上品《五千文妙经》，行而勤之焉。彦广得金，如其言偿官债，营家业于礪壁。世世八九十，其孙松年入道天台焉。

### 宋文才

宋文才者，眉州彭山县人也。文才初与乡里数人游峨眉山，已及绝顶，偶遗其所赍中，履步求之。去伴稍远，见一老人，引之徐行，皆广陌平原，奇花珍木，数百步乃到宫阙，玉砌琼堂，云楼霞馆，非世人所睹。老人引登萼台，顾望群峰。棋列于地，有道士弈棋。青童采药，清渠漱石，灵鹤翔空。文才惊骇，问老人曰：此为何处也？答曰：名山小洞，有三十六天，此峨眉洞，天真仙所居第二十三天也。揖坐之际，有人连呼文才之名，老人曰：同侣相求，不可久住，他年复来可也。命侍童引至门外，与同侣相见，回顾失仙宫所在。同侣曰：相失已半月矣，每日来求，今日乃得相见尔。文才具述所遇之异焉。

### 刘景

彭城刘景，因游金华山寻真访道，行及山半，觉景物异常，山川秀茂。见崇门高阁，势出云表，入门左右，池沼澄澈，嘉树垂条，棋布行列，披蔓柔弱，其实如梨，馨香触鼻。景顾望无人，因掇擷其实于怀袖中，未暇啗食，俄有犬子数辈，驰出吠之，竞欲搏噬。景乃仓惶支梧，四顾无瓦口可投，探怀中所摘之果以掷之，果尽而犬亦去也。回顾前之宫宇，但林谷榛莽而已。时僧休与刘景友善，常话其事迹者也。

### 蓬球

蓬球，字伯坚，北海人也。晋太始中，入贝丘西玉女山中伐木，忽觉异香，球迎风寻之，此山廓然自开，宫殿盘郁，楼台博敞。球入门窥之，见五株玉树，复稍前，有四仙女弹棋于堂上，见球俱惊起，谓曰：蓬君何故得来？球曰：寻香而至焉。言讫，复弹棋如初。有一小者登楼，弹琴戏曰：元晖何谓独升楼？球于树下立，饥，以舌舐叶上垂露。俄有一女，乘鹤而至，

曰：玉华，汝等何故有此俗人？王母即令王方平按行诸仙室，可令速去。球惧出门，回头忽然不见。及还家，已是建平中矣。旧居閭舍，皆为墟墓，因复周游名山，访道不返。

### 王可交

王可交者，苏州昆山人也。本农田之夫，素不知道。年数岁，眼有五色光起，夜则愈甚，冥室之中，可以鉴物。或人谓其所亲曰：此疾也，光尽即丧其目矣。父母愚，召庸医以灸之，光乃绝矣。咸通十年十一月，可交自市还家，于河上见大舫一艘，络以金彩，饰以珠翠，张乐而游。可交立而观之，舫舳于岸，中有一青童，引之登舫。见十余人，峨冠羽服，衣文斑驳，云霞山水之状，各执乐器。一人唱言曰：王三叔，欲与汝相见。亦不知何许人也。傍一人言曰：好仙骨为火所损，未可与酒，但不食十年，方可得道耳。以栗子一枚与之，令食，可交食一半，留一半在手中。遂奏乐饮酒，童子复引之上岸。忽如梦中，足才及地，已坠于天台山瀑布之岩下，顷刻之间，水陆千里。台州刺史袁从疑其诈妄，移牒验其乡里。自失可交之日，泊到天台之时，已三十日矣。可交自此不食，颜状鲜莹。袁以羽褐授之，使居紫极宫。越州廉察御史大夫王讽奏曰：始以神游，天上之《箫韶》一曲；俄如梦觉，人间之甲子三旬。虽云十载为期，终恐一朝飞去。诏曰：神仙之迹，具载缣缃，灵异可称。忽详听鉴，定非凡骨。况在名山，今古不殊，蓬瀛何远。委本道切加安鹾，遂其栖隐。于是任其游息，数年犹在江表间。

### 陈简

陈简者，婺州金华县小吏也。早入县，未启关，踣蹐以候。忽逢道流，其行甚急，睨简，不觉随之。行三五里所，及一宫

观，殿宇森竦，旁倚大山。引之至一室内，有机案笔墨之属，以黄素书一卷、纸十余幅授之，曰：以汝有书性，为我书之。发褫视之，皆古篆文。素不识篆字，亦未尝攻学，心甚难之。道流已去，无推让之所。试案本书之，甚易，半日已毕。道流以一杯汤与之，曰：此金华神液，不可妄得，饮之者寿无限穷。味甚甘美。因劳谢而遣之，曰：世难即复来此金华洞天也。出门，恍如梦觉，已三日矣。还家习篆书，道劲异常，而不复饮食。太守鲜梓方将受篆，颇异其事，以为神仙嘉应，判县状曰：方传秘篆，有此嘉祥，既彰悟道之阶，允叶登真之兆。寻复入金华山去，亦时还郡中。

### 金庭客

金庭客，咸通中，自剡溪金庭路由林岭间将抵明州，行三十里，忽迷失旧路，匆匆而行。日已将暮，莫知栖息之所，因遇一道士荷锄，问津焉，道士曰：此去人家稍远，无寓宿之所，不嫌弊陋，宿于吾庐可也。引及其家，则林径幽邃，山欲冲寂。既憩庑下，久之，烹野蔬药苗食之。顷有扣其门者，童子报云：隐云观请来日斋。即晓，道士去，约童子曰：善祇奉客。客因问：隐云观置来几年，去此观远近。答曰：自古有此观，去此五百里。常隐云中，世人不见，故以为名。客惊曰：五百甚远，尊师何时当还？答曰：尊师往来亦顷刻耳。俄而道士复归，欲留客久住，客方有乡关之念，恳辞而出，乃遣童子示其旧路。行三二里，失向来所在。及问，岁月已三四年矣。寻即复往，再访其踪，无能知其处所矣。

### 裴沈

裴沈，仕为同州司马。云其再从伯自洛往郑州，日晚，道



左闻人呻吟，下马披蒿莱寻之，见一病鹤，垂翼俯味，翅上疮坏无毛，异其有声，惻然哀之。忽有白衣老人，曳杖而至，谓曰：郎君年少，岂解哀此鹤耶？若得人血一涂，必能飞矣。裴颇知道，性甚高逸，遽曰：某请刺此臂，血不难。老人曰：君此志甚佳，然须三世人，是其血方可中用。郎君前生非人，唯洛中胡芦生三世人矣，郎君此行非有急切，岂能却至洛，为求胡芦生耶？裴沈然而返洛中，访胡芦生，裴沈具陈其事，拜而祈之。生无难色，取一石合子，大如两指，以针刺臂，滴如乳下，满合以授裴曰：无多言也。及鹤处，老人喜曰：固是信士。乃以血尽涂鹤疮上，言与之结缘。既而谓裴曰：我所居去此不远，可少留也。裴觉非常人，以丈人呼之。随行数里至庄，竹落草舍，庭庑狼籍。裴渴甚，求茗，老人指一土龕曰：中有少浆，可就饮之。裴视龕中，有杏核一扇，大如笠，中有浆，其色正白，乃力举饮之，味如杏酪，不复饥渴。裴拜老人，愿为仆。老人曰：君世间微禄，不可久住。君贤叔真有所得，吾与之友，出入游处，君自不知，今有一信，凭君达之。因裹一幞物，大如羹盎，戒无窃开。共视鹤疮，并已生毛矣。又谓裴曰：君向饮浆，当哭九族，但戒酒色耳。裴还洛中，将窃开其幞，四角各有赤蛇出头，乃止。其叔开之，有物如乾大麦饭，因食之，入王屋山，不知所终。裴寿至九十岁也。

### 权同休

权同休，元和中举进士下第，游江湖间，遇病贫窘，有村夫赁雇，已一年矣。秀才疾中思甘豆汤，令其市甘草，雇者但具汤火，意不为市。疑其怠惰，而未暇诘之。忽见折小树枝，盈握搓之，近火已成甘草，又取粗沙，挪之为豆，汤成，与真无异。秀才大异之，疾稍愈，谓雇者曰：余贫病多时，既愈将

他适，欲市少酒肉，会村中父老，丐少路粮，无以办之。雇者乃斫一枯桑树，成数筐札聚于盘上，以水洒之，悉成牛肉，汲水数瓶为酒，会村中父老，皆至，醉饱，获束缣、三十缗。秀才方惭，谢雇者曰：某遭遇道者，遇亦甚矣，今请为仆役，以师事焉。雇者曰：余少有失，谪为凡贱，合役于秀才，自有限日，勿请变常，且卒其事。秀才虽诺之，每所呼指，常蹙蹙不安。雇者乃辞去，因为说修短穷达之数，且言万物无不可化者，唯汙泥中朱箸及发须，药力不能化。因去，不知所之。

#### 曹桥潘尊师

杭州曹桥福业观，有潘尊师者，其家贍足，处襟大度，延接宾客，行功济人。一旦有少年，容状疏俊，异于常人，诣观告潘曰：某远聆尊师德义，拯人急难，甚欲求托师院后竹径中苑斋内，寄止两月，以避厄难，可乎？或垂见许，勿以负累为忧，勿以食饌为虑，只请酒二升，可支六十日矣。潘虽不测其来，闻欲逃难，欣然许之。少年遂匿于茅斋中，亦无人追访之，亦不饮不食。六十日既满，再拜谢焉。从容问潘曰：尊师曾佩授符篆乎？潘云：所受已及洞玄中盟矣，但未敢参进上法耳。少年曰：师之所受，品位已高，然某曾受《正一九州社令篆》一阶，以冒奉传，以申报答耳。即焚香于天尊前，传社令名字，及灵官将吏。随所呼召，兵士骑乘，应时皆至。既毕，令之曰：传授之后，随逐尊师营卫，召命举今无异。由是兵士方隐。又谓潘曰：可于中堂垒床为坛，设案机，焚香恭坐，九州内外吉凶之事，靡不知也。但勿以葷血为犯，苟或违之，冥必有谴。若精洁守慎，可致长生神仙矣。言讫隐去，不知所之。潘即设榻隐几，坐于中堂。须臾，四海之内，事无巨细，一一知之。如是旬日，为灵官传报，颇甚喧聒。潘勃然曰：我闲人也，四

远之事，何须知之！严约灵官，不使传报，答曰：职司不宜旷阙。所报益多，约之不已。潘乃食肉啗蒜以却之，三五日，所报之声渐远，灵官不复至以亡。

一夕，少年来曰：吾轻传真诀，已罹谴责。师犯污真灵，罪当冥考，念以前来相容之恩，不可坐观沦陷。别授一术，广行阴功，救人疾苦，用赎前过。不尔，当堕于幽狱矣。潘自啗荤食之后，自知已失，及闻斯说，忧惧异常。少年乃取米屑，和之为人形，长四五寸，置于壁龕中，又授玉子符两道，戒潘曰：民有疾苦厄难来求救者，当问粉人，以知灾崇源本，然以吾符救之，勿取缗钱，务在积功赎过耳。勤行不替，十年后我当复来。自是潘以朱篆救人，祛灾蠲疾，赴之者如市。十余年，少年复至，淹留逾月，多话诸天方外之事，然后别去。岁余，潘乃无疾而终，疑其得尸解之道也。

### 卢钧

相国卢钧，进士射策，为尚书郎。以疾求出为均州刺史。到郡，疾稍加，羸瘠而不耐见人，常于郡后山斋，养性独处，左右接待亦皆远去，非公召，莫敢前也。忽有一人，衣饰故弊，逾垣而入，公诘之，云：姓王。问其所自，云山中来。公笑而谓之曰：即王山人也，此来何以相教？王曰：公之高贵，位极人臣，而寿不永，灾运方染，由是有沉绵之疾，故相救耳。山斋无水，公欲召人力取汤茶之属，王止之，以腰巾蘸于井中，解丹一粒，捩腰巾之水，以丹与之。因约曰：此后五日，疾当康愈倍常，复三年，当有大厄，劝立阴功，求人悯物为意。此时当再来，相遇在夏之初也。自是卢公疾愈，旬日平复。

明年，解印还京，署盐铁判官。夏四月，于本务东门道左，忽见山人寻至卢宅，会而言曰：君今年第二限终，为灾极重，

以君在郡，去年雪冤狱，活三人之命，灾已息矣，只此月内三五日小不康，已困无忧也。翌日，山人令使二仆持钱十千，于狗脊坡分施贫病而已。自后复去，云二十三年五月五日午时，可令一道士于万山顶候，此时君节制汉上，当有丹华相授，勿愆期也。自是公扬历任清切，便蕃贵盛，而后出镇汉南之明年，已二十三年矣。及期，命道士牛知微，五月五日午时，登万山之顶。山人在焉，以金丹二粒，使知微吞之，谓曰：子有道气，而无阴功，未契道品，勤更宜修也。以金丹十粒授于公，曰：当享上寿，无怠修炼，世限既毕，儻还蓬宫矣。与知微揖别，忽不复见。其后知微年八十余，状貌常如三十许。卢公年仅九十，耳目聪明，气力不衰，既终之后，异香盈室。

### 王子芝

王子芝，字仙苗，自云河南缑氏人。常游京洛。闻耆老云，五十年来见之，状貌常如四十许，莫知其甲子也。好养气而嗜酒。故蒲帅琅玕公重盈作镇之初年，仙苗届于紫极宫，王令待之甚厚，又闻其嗜酒，日以二杯饷之。间日，仙苗因出，遇一樵者，荷檐于宫门，貌非常也，意甚异焉。因市其薪，厚偿厥价，樵者得金，亦不让而去。子芝令人蹑其后以问之，樵者径趋酒肆，尽饮酒以归。他日复来，谓子芝曰：是酒佳即佳矣，然殊不及解县石氏之酝也，予适自彼来，恨向者无侣，不果尽于斟酌。子芝因降阶执手，与之拥炉，祈于樵者曰：石氏芳醪可致不？樵者颌之，因丹笔书符一，置于火上。烟未绝，有小竖立于所，樵者敕之曰：尔领尊师之仆，挈此二杯，第往石家取酒，吾待与尊师一醉。时既昏夜，门已扃禁，小竖谓芝仆曰：可闭目。因搭其头，人与酒壶偕出自门隙，已及解县，买酒而还。因与子芝共倾焉，其甘醇郁烈，非世所侔。中宵，樵者

谓子芝曰：子已醉矣，予召一客伴子饮，可乎？子芝曰：可。复书朱符置火上。瞬息闻异香满室，有一人甚堂堂，美鬢眉，紫袍，秉简揖坐，樵曰：坐。引满而巡，二壶且竭，樵者烧一铁箸，以煖紫衣者，云：子可去。时东方明矣。遂各执别。樵者因谓子芝曰：识向人否？少顷可造河渚庙睹之。子芝送樵者讫，因过庙所，睹夜来共饮者，乃神耳，铁筋之验宛然。赵均郎中时在幕府，自验此事，弘文馆校书郎苏税亦寓于中条，甚熟踪迹。其后子芝再遇樵仙，别传修炼之诀，且为地仙矣。

### 郑又玄

郑又玄者，名家子，居长安中。其小与邻舍閻丘氏子，偕学于师氏。又玄性倜傥率，自以门望清贵，而閻丘子寒贱，往往戏而骂之曰：尔非类，而与吾偕学，吾虽不语，尔宁不愧于心乎！閻丘默有惭色，岁余乃死。又十年，又玄明经上第，补蜀州参军。既至官，郡守命假尉唐兴。有同舍仇生者，大贾之子，年始冠。其家资产万计，日与又玄宴游，又玄累受仇生金钱之赂，然以仇生非士族，未尝以礼貌接之。一日，又玄置酒高会，而仇生不得预。及酒阑，友谓又玄曰：仇生与子同舍，子会宴，而仇生不预，岂其罪邪？又玄惭而召仇。既至，又玄以卮饮之，生辞不能引满，固辞。又玄怒骂曰：尔市井之氓，徒知锥刀，何僭居官秩耶！且吾与尔为伍，尔已幸矣，又何敢辞酒乎！因振衣起，仇生惭耻而退，弃官闭门，月余病卒。

明年又玄官罢，侨居濠阳，而常好黄老之道。闻蜀山有吴道士，又玄高其风，往而诣之，愿为门弟子。留之且十年，未稟有所授，又玄稍惰，辞之而还。其后因入长安褒城，逆旅有一童子，十余岁，貌秀而慧，又玄与语，机辩万变，又玄深奇之。童子谓又玄曰：我与君故人有年矣，省之乎？又玄曰：忘

之矣。童子曰：吾生閭丘氏，居长安中，与子偕学，而子以我为非类，骂辱我。又为仇氏子作尉唐兴，与子同舍，受我厚赂，而谓我为市井之氓，何吾子骄傲之甚也！子以衣纓之家，而凌侮于物，非道也哉！我太清真人也。上帝以尔有道气，使我生于人间，与汝为友，将授汝神仙之诀，而汝轻果高傲，终不得其道。吁，可悲哉！言讫，忽不复见。又玄既悟其罪，而意以惭怍而卒矣。

### 虬须客

虬须客道兄者，不知名氏。炀帝末，司空杨素留守长安，帝幸江都，素持权骄贵，蔑视物情。卫公李靖，时檐簪谒之，因得素侍立红拂。妓姓张，第一，知素危亡，不久弃素而奔靖。靖与同出西京，将适太原，税辔于灵石店，与虬须相值。乃中形人也，赤须而虬，破衫蹇卫而来，投布囊于地，取枕欹卧，看张妓理发委地，立梳于床。靖见虬须视之，甚怒未决，时时侧目。张熟观其面，妓一手握发，一手映身，摇视靖，令勿怒。急梳头毕，敛衽前问其姓。卧者曰：张。妓曰：妾亦姓张，合是妹。遽拜之。问第几，云：第三。又曰：妹第几？曰：最长。喜曰：今日幸得逢一妹。妓遂呼靖曰：李郎且来拜三兄。靖遂拜之，环坐，割肉为食。客以余肉饲驴，笑曰：李郎贫士，何以致异人？且话其由。客曰：然则何之？曰：避地太原。复命酒共饮，又曰：尝知太原之异人乎？靖曰：州将之子年可十八，姓李。客曰：似则似矣，然须见之。李郎能致予一见否？靖言：余友人刘文静，与之甚狎，必可致也。客曰：望气者，俾吾访之。遂约其日，相候于汾阳桥。

及期，果至。靖话于文静曰：吾有善相者，欲见郎君，请迎之。文静素奇其人，方议匡辅，遽致酒迎之。俱见太宗，不

衫不履，褐衣裘而来，神气扬扬，貌与常异。客见之默然，居未坐，气丧心死。饮数杯，招靖谓曰：此真天子也。靖以告刘，益喜贺。既出，虬须曰：吾见之，十得八九也，然亦须令道兄见之。又约靖与妹于京中马行东酒楼下，既至，登楼，见虬须与一道流对饮。因环坐，为约与道兄同至太原。道与刘文静对棋，须靖俱会。文皇亦来，精彩惊人，长揖而坐，神清气爽，满坐风生，顾眄炜如也。道兄一见，惨然下棋子，曰：此局输矣，于此失局，奇哉！救无路矣，知复奚言。罢弈既出，谓虬须曰：此世非公世界也，他方可矣。勉之，勿以为念。同入京，虬须命其妇妹与李郎相见，其妇亦天人也。虬须纱巾褐裘，挟弹而至，相与入中堂，陈乐欢饮。女乐三十余人，非王侯之家所有也，殆若洞天之会。既而舁二十床，以绣帟盖之，去其帟曰：此乃文簿钥匙耳，皆珍宝货泉之数，并以充赠。吾本欲中华求事，或龙战三五年，以此为轻费，今既有主，亦复何为。太原李氏，真英主也，三五年内，即当太平。李郎一妹，善辅赞之，非一妹不能赞明主，勉之哉！此去十年后，东南数千里外有异，是吾得事之秋也，闻之可潜以酒相贺。因呼家僮百余人出拜，曰：李郎一妹是尔主也。言讫，与妻戎装，乘马而去，道兄亦不知所之。靖得此事，力以助文皇，缔大业。

贞观中，东南夷奏，有海贼以 娄船千艘，兵十余万入扶余国，杀其主，自立为王，国内以定静。靖知虬须成功，归告其妻，乃沥酒东南而贺焉。故知真人之兴，乃天受也，岂庸庸之徒，可以造次思乱者哉！

### 崔希真

会稽崔希真，严冬之日，有负薪老叟，立门外雪中，崔凌晨见之，有伤悯之色。揖问之，叟去笠与语，顾其状貌不常，

乃问其姓氏，云：某姓葛，第三。崔延坐。崔曰：雪寒既甚，作大麦汤饼可乎？叟曰：大麦四时烝足，食之益人，勿以鼓，不利中府。崔然之，自促令备饌。时崔张绢，欲召画工为图，连阻沍寒，画工未至。张绢倚于壁，叟取几上笔墨，画一株枯松，一采药道士，一鹿随之。落笔迅逸，画踪高古，殆非人世所有。食毕，致谢而去。崔异其事，宝以自随。因游淮海，遇鉴古图画者，使闷之。鉴者曰：此稚川之子葛三郎画也。崔咸通初入长安，于灞桥遇鬻蔬者，状貌与叟相类。因问：非葛三郎乎？蔬者笑曰：非也，葛三郎是晋代葛稚川之子，人间安得识之？负蔬而去，不知所之。

#### 越僧怀一

越僧怀一，居云门寺。咸通中，凌晨欲上殿燃香，忽见一道流相顾而语曰：有一奇境事，能往游乎？怀一许诺，相与入山，花木繁茂，水石幽胜。或连峰概天，长松夹道；或琼楼蔽日，层城倚空。所见之异，不可殫述。久之觉饥，道流已知矣。谓曰：此有仙桃，千岁一实，可以疗饥。以一桃授之，大如二升器，奇香珍味，非世所有。食讫复行，或凌波不濡，或腾虚不碍，或矫身云末，或振袂空中，或仰视日月、下窥星汉。如是复归还旧居，已周岁矣。怀一自此不食，周游人间，与父母话其事，因入道。历诣仙山，更寻灵胜，去而不复返。

#### 王廓

布衣王廓，咸通中，自荆渚随船，将遇洞庭。风甚，泊舟君山下，与数人出岸，寻山径，登山而行。忽闻酒香，问诸同行，皆曰无。良久香愈甚，路侧崖间见有洞穴，廓心疑焉，遂入穴中。行十余步，平石上有洼穴，中有酒，掬而饮之，味极



醇美。饮可半斗余，陶然似醉，坐歇洼穴之侧，稍醒乃归。舟中话于同侣，众人争往求之，无复所见。自此充悦无疾，渐厌五谷，乃入名山学道。去后看仙经云，君山有天酒，饮之升仙。廓之所遇者，乃此酒也。

### 杨大夫

杨大夫者，宦官也。亡其名，年十八岁，为冥官所摄，无疾而死。经宿乃苏，云：既到阴冥间，有廨署官属，与世无异。阴官案牒示之，见其名字历历然，云年寿十八，而亦无言请托。旁有一人为其请，乞愿许再生，词意极切。久之，而冥官见许，即令还。其人送杨数百步，将别，杨愧谢之，知再生之恩，何以为报，问其所欲，其人曰：或遗鸣砂弓，即相报也。因以大铜钱一百余与杨。俄然而觉，平复无苦。自是求访鸣砂弓，亦莫能致。或作小宫阙屋宇，焚而报之，如是者数矣。

杨颇留心炉鼎，志在丹石，能制反魂丹。有症暴死者，研丹一粒，拗开其口，灌之即活，尝救数人。有阉官夏侯者，杨与丹五粒以服之，既而以为冥官追去，责问之次，白云：曾服杨大夫丹一粒耳。冥官既遣还夏侯得，丹之效。既苏，尽服四粒。岁余，又见黄衣者追捕之，云非是冥曹，乃泰山追之耳。夏侯随去，至高山之下，有宫阙焉。及其门，见二道士，问其平生所复，一一对答，徐启曰：某曾服杨大夫丹五粒矣。道士遽令却回，夏侯拜谢曰：某是得神丹之力，延续年命，愿改名延年，可乎？道士许之。后即因改名延年矣。杨自审丹之灵效，常以救人。其子暄，因自畿邑归京，未明，行二十余里，歇于大庄之上，忽闻庄中有惊喧哭泣之声，问其故，主人之子暴亡。暄解衣带中取丹一粒，令研而灌之，良久亦活。

杨物产贍足，早解所任，纵意闲放，唯以金石为务，未尝

有疾，年九十七而终。晚年遇人携一弓，问其名，云：鸣砂弓也。于角面之内，中有走砂，杨买而焚之，以报见救之者。见其反魂丹方，云是救者授之，自密修制，故无能得其术者矣。

### 薛逢

河东薛逢，咸通中，为绵州刺史。岁余，梦入洞府，见骰饌甚多，而不睹人物，亦不敢食之。乃出门，有人谓曰：此天仓也。明日，话于宾友，或曰：州界昌明县，有天仓，洞中有自然饮食，往往游云水者，得而食之。即使道士孙灵讽，与亲吏访之。入洞可十余里，犹须执炬，十里外渐明朗，又三五里，豁然与人世无异。崖室极广，可容千人。其下平整，有石床罗列，床上有饮食，名品极多，皆新食，软美甘香。灵讽拜而食之，又割开三五所，请以奉于薛公为信。及赍出洞门，形状宛然皆化为石矣。洞中左右有散面漉面，堆盐积豉，不知纪极。又行一二里，溪水迅急，既阔且深，隔溪见山川，居第历然，不敢渡而止。近崖坡中，有履迹往来，皆长二三尺，才如有人行处。薛公闻之，叹异灵胜，而莫穷其所以也。

余按《地理志》云，少室山有自然五谷、甘果神芝、仙药。周太子晋学道上仙，有九千年资粮，留于少室山。山在嵩山西十七里，从东角上四十里下，又上十里，得上定思，十里中，有大石门，为中定思。自至崖头下，有石室，中有水，多白石英。室内有自然经书、自然饮食。与此无异矣。天台山东有洞，入十余里，有居人，市肆多卖饮食。乾符中，有游僧入洞，经历市中，饥甚，闻食香，买蒸饼啗之。同行一僧服气，不食既饱。行十余里，出洞门，已在登州吴平县界。所食之僧，俄变为石。以此言之，王列石髓、张华龙膏，得食之者，亦须累积阴功。天挺仙骨，可上登仙品，若常人啗之，必化为石矣。

## 蜀氏

蜀氏遇晋氏饥辈三五人，挟木弓竹矢，入白鹿山，捕猎以自给。因值群鹿骇走，分路格之。一人见鹿入两崖间，才通人过，随而逐之。行十余步，但见城市栉比，闾井繁盛，了不见鹿。徐行市中，因问人曰：此何处也？答曰：此小成都耳，非常人可到，子不宜久住。遂出穴，密志归路，以告太守刘俊。俊使人随往，失其旧所矣。

庾仲冲《雍荆记》曰：武陵西阳县南数里，有孤山。岩石峭拔，上有葱，自成畦垆，拜而乞之，辄自拔食之，甚美。山顶有池，鱼鳖至七月七日，皆出而游。半岩室中，有书数千卷，昔道士所遗经也。元嘉中，有蛮人入此山射鹿，入石穴中，蛮人逐之，穴傍有梯，因上，即豁然开朗，别有天日。行数十步，桑果蔚然，阡陌平直，行人甚多。蛮人惊遽而出。旋削树记路，却结伴寻之，无复处所。顾野王云，天地之内，名山之中，神异窟宅，非止一处。则桃源天台，皆其类也。

## 僧悟玄

僧悟玄，不知何许人也。虽寓迹缁褐，而潜心求道。自三江五岭，黔楚诸名山，无不游历。每遇洞府，必造之焉。入峨嵋山，闻有七十二洞，自雷洞之外，诸崖石室邃穴之间，无所遗焉。偶歇于巨木之下，久之有老叟，自下而上，相挹而坐。问其所诣，悟玄具述寻访名山灵洞之事。叟曰：名山大川，皆有洞穴，不知名字，不可辄入访。须得《洞庭记》、《岳渎经》，审其所属，定其名字，的其里数，必是神仙所居，与经记相合，然后可游耳。不然，有风雷洞、鬼神洞、地狱洞、龙蛇洞，误入其中，害及性命，求益反损，深可戒也。悟玄惊骇久

之，谢其所教，因问曰：今峨嵋洞天，定可游否？叟曰：神仙之事，吾不敢多言，但谒洞主，自可问耳。悟玄又问，洞主为谁。叟曰：洞主姓张，今在嘉州市门，屠肉为事，中年而肥者，是也。语讫别去。

悟玄复至市门求之，张生在焉。以前事告之，张曰：无多言也。命其妻烹肉，与悟玄为饌，以肉三器与之，悟玄辞以不食肉久矣。张曰：游山须得炁力，不至饥乏，然后可行。若不食此，无由得到矣。勉之再三，悟玄亦心自计度，恐是神仙所试，不敢拒命。食尽二器，厌饫弥甚，张亦劝之，固不能食矣。食讫求去，张俯地拾一瓦子以授之，曰：入山至其峰下，值某洞门，有长松，下有回溪，上有峭壁，此天真皇人所居之洞也，以瓦扣之，三二十声，门开则入，每遇门即扣之，则神仙之境可到矣。依教入山，果得洞，与所指无异。以瓦扣之，良久，峭壁中开，洞内高广平稳，可通车马。两面皆青石莹洁，时有悬泉流渠，夹路左右。凡行十余里，又值一门，扣之复开，大而平阔，往往见天花夹道，所窥见花卉之异，人物往来之盛，多是名姝丽人、仙童玉女，时有仙官道士，部伍车骑，憧憧不绝。又遇一门，扣之弥切，瓦片碎尽，门竟不开。久之，闻震霆之音，疑是山石摧陷，惶惧而出，奔走三五十步，已在洞门之外，无复来时景趣矣。复访洞主，已经月余，屠肆宛然，而张生已死十许日矣。自此志栖名山，誓求度世，复入峨眉，不知所之矣。

### 费冠卿

费冠卿者，池州人也。进士擢第，将归故乡，别相国郑余庆。公素与秋浦刘令友善，喜费之行，托以寓书焉。手札盈幅，缄授费，戒之曰：刘令久在名场，所以不登甲乙之选者，以其

徧率不拘于时，舍高科而就此官，可善遇之也。费固请公略批行止于书末，贵其因所慰荐，稍垂青眼，公然之，发函批数行，复缄之如初。

费至秋浦，先投刺于刘。刘阅刺，委诸案上，略不顾眄。费悚立俟命，久之而无报，疑其不可干也，即以相国书授阍者，刘发缄览毕，慢骂曰：郑某老汉，用此书何为！擎而弃之，费愈惧，排闥而入，趋拜于前。刘忽惘然顾之，揖坐与语。日已暮矣，刘促令排店，费曰：日已昏黑，或得逆旅之舍，已不及矣。乞于厅庑之下，席地一宵，明日却诣店所。即自解囊装，舒毡席于地。刘即拂衣而入，良久出曰：此非延宾之所，有一阁子，可以憩息，仆乘于外可也。即令左右引仆夫卫子，分给下处。刘引费挈毡席，入厅后对堂小阁子中。既而闭门，锁系甚严，费莫知所以，据榻而息。是夕月明，于门窍中窥其外，悄然无声。见刘令自操彗畚，扫除堂之内，庭庑阶壁，靡不周悉。费异其事，危坐屏息，不寐而伺焉。

将及二更，忽有异香之气，非常人世所有。良久，刘执版恭立于庭，似有所候。香气弥甚，即见云冠紫衣仙人，长八九尺，数十人拥从而至。刘再拜稽首，此仙人直诣堂中，刘立侍其侧。俄有筵席罗列，骖馐奇果，香溢阁中。费闻之，已觉神清气爽。须臾奏乐饮酒，命刘令布席于地，亦侍饮焉。乐之音调，非世间之曲。仙人忽问曰：得郑某信否？对曰：得信，甚安。顷之，又问：得郑书否？对曰：费冠卿先辈在长安中来，得书。笑曰：费冠卿且喜及第也，今在此耶？对曰：在。仙人曰：吾未合与之相见，且与一杯酒，但向道早修行，即得相见矣。即命刘酌一杯酒，送阁子中。费冠卿窥见刘自呷酒了，即于阶下取盆中水投之，费疑而未饮。仙人忽下阶，与徒从乘云而去，刘拜辞呜咽。仙人戒曰：尔见郑某，但令修行，即得相

见也。

既去，即诣阁中，见酒犹在。惊曰：此酒万劫不可一遇，何不饮也？费力争得一两呷，刘即与冠卿为修道之友，卜居九华山。以左拾遗征，竟不起。郑相国寻以去世，刘、费颇秘其事，不知所降是何仙也。

### 郑南海紫逻任叟

郑南海为牧梁宋，其表弟进士刘生寓居汝州，有紫逻山，即神仙灵境也。刘以寓居力困，欲之梁宋求救，因行诸药肆中。既坐，有樵叟倚檐于壁，亦坐焉。主人连叱之，曰：此有官客，何忽唐突！刘敛衽而起，谓主人曰：某闲人也，樵叟所来，必有所求，或要药物，有急难所请，不可令去。恳揖叟令坐，问其所要。叟曰：请一幅纸及笔砚耳。刘即取肆中纸笔以授之。叟挥毫自若，书毕，以授于刘。书曰：承欲往梁宋，梁宋灾方重，旦夕为人讼。承欲访郑生，郑生将有厄，即为千里客，兼亦变衫色。紫逻樵叟任其书呈。刘览惊异，笔势遒逸，超逾常伦。看读之际，失叟所在。月余，郑为人所讼，黜官千里之外，皆如其言。刘即于紫逻葺居，物色求访，不复见叟。世宝其书，巢寇犯阙，方失其所在也。

## 卷一百一十三上 纪传部·传十一

任生

任生者，隐居嵩山读书，志性专静。常夜闻异香，忽于帘外有谓生曰：某以冥数，合与君偶，故来耳。生意其异物，坚拒不纳，其女子开帘而入。年可二十余，凝态艳质，世莫之见。有双鬟青衣，左右翼侍。夜渐久，顾谓侍者曰：郎君书籍中取一幅纸，兼笔砚来。乃作赠诗一首，曰：我名籍上清，谪居游五岳。以君无俗累，来劝神仙学。又曰：某后三日当来。言毕而去。书生览诗，见笔札秀丽，尤疑其妖异。三日果来，生志弥坚。女子曰：妾非山精木魅，名列上清，数运冥合，暂谪人间，自求匹偶。以君闲澹，愿侍巾箱。不止于延福消祸，亦冀贵而且寿。今反自执迷，亦薄命所致。又赠一篇曰：葛洪亦有妇，王母亦有夫。神仙尽灵匹，君子意何如。书生不对，面墙而已。女子重赠一篇曰：阮郎迷不悟，何要申请素。明日海山春，彩舟却归去。嗟叹良久，出门东行数十步，闪闪渐上空中，去地百余丈，犹隐隐见于云间。以三篇示于人，皆知其神仙矣。痛生之不遇也。

数月，生得疾。见二黄衣人，手持牒来追，曰：子命已尽。遂被引去，行十余里，忽见幢节幡盖，迤邐不绝，有女子乘翠辇，侍卫数十人。二黄衣与生辟易，隐于墙下。女子望见，既至，问曰：何人？黄衣具言。女子笑曰：是嵩山读书薄命汉。

谓黄衣把牒来，曰：公数尽矣，今既相遇，不能无情。索笔判牒，更与三年。生再拜之，二使者曰：此三素元君仙官，最贵，既有命，既须回。使者送至旧居，见身卧于床上，使者从后推之，乃苏。嗟恨累日，后三年果卒。

### 罗公远

罗公远，八月十五日夜，侍明皇于宫中玩月。公远曰：陛下莫要月宫中看否？帝唯之。乃以拄杖向空掷之，化为大桥，桥道如银。与明皇升桥，行若十数里，精光夺目，寒气侵人，遂至大城。公远曰：此月宫也。见仙女数百，皆素练霓衣，舞于广庭上。问其曲名，曰：“《霓裳羽衣》也。乃密记其声调。旋为冷气所逼，遂复蹶银桥回，返顾银桥，随步而灭。明日召乐工，依其调作《霓裳羽衣曲》，遂行于世。明皇欲传隐形之术，公远秘而不说。上怒，乃选善射者十人伏于壁，召公远与语，众矢俱发，公远致毙，上令瘞于宫内。月余中，使自蜀回，奏事讫，云：臣至骆谷，见罗公远，令附起居，专于成都望车驾。上大惊，问其行李如何。曰：跣足，携鞋一只。乃令开棺，视之，唯见一草鞋在棺，有箭孔十数。安禄山犯阙，明皇幸蜀，有称维亼延来谒，召之即不见。思其意，维亼延盖公远字也。上悔恨，叹息累日。

### 罗方远

罗方远，江夏人也。刺史春致设，观者如市。有白衣人，长丈余，质貌甚异，门卫者皆怪。俄有一小儿傍过。叱曰：汝何故离本所，惊怖官司？其人摄衣而走，官吏执小儿至宴所，具白刺史，问甚姓，对曰：姓罗，名方远，自幼好道。适见守江龙入州看设，某叱令回。刺史不信，曰：尔何诞妄！若诚有



龙，即令我见本形。方远曰：请试之。乃于江滨作小坑，深阔一丈，去岸八九尺，引江水注之。刺史与寮佐、郡人皆往注视，逡巡有白鱼，可长五六寸，随水入坑，腾跃渐大。有青烟如练起，须臾黑气满空，雷电粲赫，风雨驰骤，久之乃息。见龙于江心，身与云气相连，素光满水，食顷方灭。刺史具表，以进方远。时明皇方留意神仙，即日召见。上与张果老、叶法善弈棋次，二人见之，大笑曰：村儿有何解。乃各执棋子数枚，谓方远曰：此有物。曰：空手。及开手，果无所有，悉在方远处。上大惊异，自后累试，其术如神。

### 李师稷

会昌元年，李师稷中丞为浙东观察使。有商客遭风，飘不知所止。月余至大山，瑞云覆绕，奇花异树，尽非人间所睹。山侧有人，迎问安得至此，客具以告。乃令移舟于岸，既登岸，乃云须谒天师。遂引至一处，若大宫观。既入，见一道士，眉鬓俱白，侍卫十余人，坐大殿，令上与语，曰：汝中国人也，兹地有缘，方得一到，此即蓬莱山也。乃令左右，引于宫内游观，玉台翠树，光彩夺目。院宇数十，皆有号。至一院，扃锁严固，窥之，众花满亭堂，有几褥焚香阶下。客问之此院谁何？答曰：此是白乐天院，乐天在中国，未来耳。乃潜记之，遂辞归。数旬至越，具白廉使，李公尽录以报白公。公已脱烟埃，投弃轩冕，与居昧。昧者，固不闻也，安知非谪仙哉！

### 袁滋

袁相名滋，未达时，居复郢间。复州青溪山，秀丽无比。袁公因晴登临此山，行数里，迳渐幽小，阻绝无踪。有人儒服，市乐为业，结庐山之下。袁公与语，甚相狎，因留宿其舍。袁

公曰：此境山泉奇异，当为灵仙之所都府。儒生曰：有道士五六人，盖物外之士也，数日一来，莫知其所居处。与之虽熟，不肯细言。袁公曰：某可来相谒否？曰：彼其恶人，然颇好酒，足下但求美酝一榼，或得见也。袁公辞归，后得美酒，挈而往。历数宿，五人果来，布裘纱帽，藜杖草履。相见遂通寒暄，大笑，乃相与临清涧，据石濯足戏调。儒生为列席致酒，五人顾酒甚欢，曰：何处得此物？来且各三五盏。儒生曰：非某所能致，有客携来，顾谒仙兄。乃引袁公出历拜，五人相顾失色，悔饮其酒，兼怒儒生，曰：公不合以外人相扰。儒生曰：此人诚志，复是士流，许之从容，亦何伤也。意遂渐解。见袁公谦恭特甚，乃时与笑语，目袁生曰：坐。袁生再拜就席。少顷酒酣，乃视袁公相谓曰：此人似西华坐禅僧。良久云真是，便屈指计之，曰：此僧去来四十七年矣。问袁公之岁，适四十七。抚掌曰：须求官职，福禄已至。遂与袁公握手言别，过洞逾岭，扞萝跳跃，翩翩如飞，倏忽不见。袁公后乃登第，果拜相，领西蜀节制。

### 王水部

大历中，有水部王员外者，笃好道术。虽居朝列，有布衣方乐之士，日与游从。一日有道侣数人在厅，王君方与谈谐。会除厕，裴老携秽路侧，密近厅所，王君妻令左右止之。因附耳于壁，听道侣言，窃笑不已，王君仆使皆怪之。少顷，裴老佣事毕，王君将如厕，遇于户外。裴老敛衣，似有白事，曰：员外甚好道。王君惊曰：老人安得知？莫有所解否？对曰：某曾留心，知员外酷似好道，然无所遇。适来厅上数人，大是凡流，但眩惑员外，希酒食而已。王君异之。其妻骂之曰：君身为朝客，乃与秽夫交结。遣人逐之，裴老笑请去。王君邀，从

容曰：老人请后日相访。王君斋沐净室，裴老布袍曳杖而至，有隐逸之风。王君坐话，茶酒更进。裴老曰：员外非真好道，乃是爱药术，试炉火可验。取一铁合重二斤，分为两片，致于火中，须臾色赤。裴老解布衫角药两丸，小于麋粟，捻碎于合上，复以火烧之，食顷，裴老曰：成矣。令王君仆使壮者，以火箸持之，掷于地，逡巡成金色，如鸡冠。王君降礼，再拜而谢之。裴老曰：此一两敌常金三两，然员外亦不用留，将施贫乏。遂辞去。曰：从此亦无复来矣。王君曰：愿至仙伯高第申起居，容进否？裴老曰：可兰陵西坊大菜园后相寻。遂别。王君乃易服往，果见小门。叩之，有苍头出，曰：莫是王员外否？遂引入，堂宇甚新净，裴老道服相迎，侍女十余人，皆有殊色。茶酒果实甚珍，服用辉焕。迨晚，王君告去，裴老送出门。旬日再去，其第已为他所，质裴老，亦不知所在。

### 崔生

进士崔生，常游青山，解鞍放驴，无仆御，驴逸而走，驰之不能及。约行十里，至一洞口，时已曛黑，驴即奔入，崔生惊悚，不敢前进，力固疲矣，遂寝岩下。至晓，洞中微明，乃入十余里，望见岩壑间有金城绦阙，而被甲执兵者守卫之。崔生知是仙境，乃告曰：某尘俗之士，顾谒仙翁。守吏趋报，顷之召入。见一人居殿，服羽衣，身可丈余，侍女数百，与崔生趋拜，使坐与语，忻然留宿。酒味珍香，异果罗列，谓崔生曰：此非人世府也，驴追益走者，余之奉邀也。盖一女子愿事于君，此亦冥数前定耳。生再拜谢，遂以女妻之。数日，令左右取青合中药两丸，与生服之。但觉脏腑清莹，摩体若蝉蛻，莹然婴儿之貌。每朔望，与崔生乘鹤，而上朝蕊宫。月余，崔生曰：某血属在人间，请归一诀，非有所恋也。仙公戒之曰：崔

郎不得淹留。遂与符一通，急有患祸，此可隐形，慎不可游宫禁。临别，又与一符曰：甚急即开。乃命取一驴付之。

崔生到京都，试往人家，皆不见，因入内。会剑南进太真锦绣，乃窃其珍者。上曰：计无贼至此，必为妖取之。遂令罗公远作法，以朱字照之寝殿户，后果得崔生。崔生具写本末，上不信，令笞死。崔生乃出仙翁临行之符，照公远与持执者，当时绝倒，良久方起。启上曰：此人已居上界，不可杀也，纵杀之，臣等即受祸，亦非国之福。上乃赦之，犹疑其事不实，遣数百人，具兵服，兼术士，送至洞口。复见金城绛阙，仙翁御殿，侍从森然，出呼曰：崔郎不取吾语，几至颠毁。崔生拜乞，遂升洞门。所送者欲随之，仙翁以杖画地成川，阔数丈，崔生妻掷一领巾，化为五色绛桥，令崔生踏过，桥随步即灭。既至洞口，崔生谓送人曰：事只如此，可以归。须臾，云雾四合，咫尺不见，唯闻鸾鹤箫籁之声，遥望云山而去，上方知其神仙也。

### 黄尊师

茅山黄尊师，法箓甚高尝于山前修观，起天尊殿，置讲求资，日有数千人。时讲众初合，忽有一人，排门大呼，貌甚粗黑，言词鄙陋，腰插驴鞭，如随商客者。骂道士，奴时正热，诱众何事！自不向深山学修道业，何敢妄语！黄师不测之，即辍讲，逊词谢之，众人悉畏，不敢抵忤。良久，词色稍和，曰：如是聚集，岂不是要修堂殿耶？都用几钱？尊师曰：要五千贯。其人曰：可尽犂破铁釜及杂铁来。黄师疑是异人，遂遽令于观内诸处，收拾约得铁八百斤。其人乃掘地为炉，以火销之，探怀中取一葫芦，泻出两丸药，以物搅之，少顷，去火已成银。曰：此合钱万贯，若修观，计用有余，请施贫乏，如所获无多，

且罢之。黄师与徒众皆敬谢，问其所欲，笑出门去，不知所之。后十余年，黄师奉诏入京，忽于市街西见插驴鞭者，肩舁小复子，随骑驴老人行，全无茅山气色。黄欲趋揖，乃拨手指乘驴者，复连叩头，黄但搥礼而已。老人发尽白，视之如十四五女子也。

### 卢杞

卢相名杞，少时甚贫，与市姬麻婆者，于东都废宅，税舍以居。麻婆亦孑然，卢公常以疾卧，月余，麻婆悯之，常来为作粥食。卢病愈，多谢之。后累日，向晚自外归，见金犊车子，立麻婆户外。卢且惊异，密候之。见一女子，年十四五，真神仙人。明日潜访，麻婆曰：郎君莫要作婚姻否？如是则为请求之。卢曰：某贫贱，安敢辄有此意？麻曰：亦何妨。既夜，麻婆曰：事谐矣，请郎君清斋三日，会于城东废观。既至，见古树荒草，久无人居，逡巡雷电震曜，风雨暴至，化为楼台，金炉玉帐，景物华丽。俄有輶辇降空，即所见女子也。与卢相见曰：某奉上帝命，遣人间自求匹偶，郎君有仙相，故遣麻婆传意旨，更七日清斋，当再奉见。女子呼麻婆，付药两丸。须臾雷电黑云，女子忽失所在，古树荒草，苍然如旧。麻婆与卢遂归。又清斋七日，钁地种药，适已蔓生，未移刻，二胡芦生于蔓上，渐大如两斛瓮许，麻婆以刀剝其中。及七日之期，与卢公各处其一，仍令卢公具油衣三领。风云忽起，腾上碧霄，耳中唯闻波涛之声，迤邐东去。又谓卢公曰：莫寒否？令著油衣，如冰雪中行，复令著至三重，即甚温暖。谓麻婆曰：此去洛阳多少？婆曰：已八万里。良久，胡芦止息，遂见楼台，皆以水晶为墙垣，被甲仗者数人。麻婆引卢公入，见女子居殿，侍从女数百人。命卢公坐，具酒馔。麻婆屏息，立于诸卫之下。女

子谓卢公曰：郎君合得三事取一事，可者言之。若欲长留此宫，寿与天毕，次为地仙，常居人间，时得至此；下为中国宰相。如何？卢生曰：在此实为上愿。女子喜曰：此水晶宫也，某为太阴夫人，仙格已高。郎君便当白日升天，须执志坚一，不得改移，以致相累也。仍须启上帝。乃索青纸为写素，当庭拜奏。

少顷，闻东北喧然声，云帝使至。太阴夫人与诸仙趋降，俄有幢节香幡，引朱衣少年，立于阶下。朱衣宣帝命：公得太阴夫人状，云卢杞欲住水晶宫，如何？卢公无言。夫人但令疾应，又无言。夫人及左右大惧，驰入，取蛟绡五疋，以赂使者，欲其稽缓。食顷间，又问卢杞欲求水晶宫住否，欲地仙否，欲人间宰相否。卢公大呼曰：欲得人间宰相。朱衣趋去，太阴夫人失色，令麻婆速领回。遂入葫芦，依前闻风雨之声，至地，遂到旧居。尘榻俨然，时已中夜，葫芦与麻婆俱不见矣。杞后果为相。

### 卢李二生

昔有卢李二生，隐居太白山读书，兼习吐纳导引。一旦李生告归曰：某不能甘于寒苦，且浪迹江湖。决别而去。后李生为桔子园吏隐欺，折官钱数千贯，羈縻不得，他去，贫悴日甚。偶过扬州阿师桥，逢见一人，草履麻衣，视之乃卢生也，昔号二舅。李生与之语，哀其衣弊，卢生大骂曰：我贫贱何耻！公不外物，投身凡冗之所，又有积负，且纓拘囚，尚何面目以相见乎？李生原谢，二舅笑曰：居所不远，翌日驰马奉迎。至旦，果有一仆。御骏足而来，云二舅邀郎君。既去，马疾如风，出城之南，行数十里，路侧有朱门斜开，二舅出，星冠霞帔，容貌光泽，侍女数十人，与桥下仪质全别。邀李生中堂宴饌，名花异木，疑在仙府。又累出药品，悉皆珍奇。既夕，引李生坐

北亭，置酒曰：适命得佐酒者，颇善箜篌。须臾，红烛引一女子至，容貌极丽，新声甚嘉。李生视箜篌，上有朱书十字云：天际识归舟，云间辨江树。罢酒，二舅曰：莫愿作婚姻否？此人名家，质貌兼美。李生曰：某安敢及此。二舅许为成之。又曰：公所负官钱几何？曰：二千贯。乃与一拄杖曰：将此于波斯店内取钱，可从此学道，无自秽身陷罪也。迨晚，仆人复御前马至，二舅令李生去，送出门。

泊归，颇疑讶为神仙矣。即以拄杖诣波斯店，其辈见杖曰：何以得之？依语付钱，遂得免赘而去。既惊且异，乃再往卢二舅所居，将谢之。即荒草原地而已，怅望而归。其年往汴州，行军陆长源以女嫁之。既见，颇类卢二舅北亭见者。复解箜篌，仍有朱字，视之，果见“天际”之句也。李生具说扬州城南卢二舅亭中筵宴之事，女曰：某少年兄弟戏书之句，尝梦见云仙官追，如公所言也。李生叹讶之甚，后竟不能得遇。

### 李石

唐相李石，未达时颇好道。尝游嵩山，荒草中间，有人呻吟声，视之，乃病鹤。鹤乃人语曰：某已为仙，厄运所锤，为樵者见伤，一足将折，须得人血数合，方能愈也。君有仙骨，故以相托。李公解衣，即欲刺血。鹤曰：世间人少，公且非纯人。乃拔一眼睫，曰：持往东都，但映照之，即知矣。李公中路自视，乃马首也。至洛阳，所遇颇众，悉非全人，或犬彘驴马首。偶于桥上，见一老翁骑驴，以睫照之，乃人也。李公敬揖，具言病鹤之事。老翁忻然下驴，宣臂刺血。李公以小瓶盛之，持往鹤所，濡其伤处，裂衣封裹。鹤谢曰：公即为明皇时宰相，后当轻举，相见非遥，慎勿堕志。李公拜之，鹤冲天而去。

## 李主簿

近有选人李主簿者新婚，东出关，过华岳庙，将妻入谒金天王。妻拜未终，气绝而倒，唯心上微暖。舁归客邸，驰马诣华阴县，求医术之人。县宰曰：叶仙师善术，奉诏投龙回，去此一驿，公可疾往迎之。李公单骑驰去，约十五里遇之。李公下马伏地，流涕敬拜，具言其事。仙师曰：何等妖魅，乃敢及此！遂与李公先行，谓从者曰：鞍馱速驱，来持朱钵及笔。至舍，已闻哭声。仙师入见，曰：事急矣，且将墨笔及纸来。遂书一符，焚香，以水噀之。符北飞走，声如飘风，良久无应。仙师怒，又书一符，其声如雷，顷之亦无验。少时，鞍馱到，取朱笔，令李公左右煮少许薄粥，以候其起。乃以朱书一符，喷水叱咤之声如霹雳。须臾，口鼻有气，眼开，良久能言。问其状，曰：某初拜时，金天王曰好夫人，第二拜云留取，遣左右扶归院。适已三日，亲宾大集，闻敲门，门者走报，王曰何不逐却，乃第一符也。逡巡门外闹甚，门者数人，细言于王，王曰且发遣，是第二符也。俄有赤龙飞入，王扼喉绕能出声，曰放去，某遂有人送出，第三符也。李公罄囊以谢之，是知灵庙，女子不得入也。

## 卢常师

秘书少监卢常师，进士擢第。性恬淡，不乐轩冕世利，蔑然无留意。因弃官之东洛，谓所亲曰：某与浙西鱼尚书故旧，旬日当谒去。又曰：某前身是僧，坐禅处犹在会稽，亦拟自访遗迹。家人亦怪其将远行，而不备舟楫。不旬日而卒。

## 裴令公



裴令公少时，有术士云，命属北斗廉贞星将军，宜每以清酒名果敬祭，当得冥助也。裴公自此未尝懈怠。及为相，机务繁迫，乃遗始志，心或不足，未始言于人，诸子亦不知。在京有道者来，宿于裴公第。中夜谓曰：相公昔年尊奉天神，何故中道而止？崇护不已，亦有感于相公。裴公心知其廉贞，不知灵应。后为太原节度使，家人染疾，召女巫视之。有弹胡琴巫，颠而倒之，良久嘑然而起，曰：请见相公，廉贞将军遣某传语，何大无情，都不相知也。将军怒甚，相公何不敬谢之？裴公大惊，女巫曰：当择良日斋洁，于静院焚香，设酒果，将军亦欲示见于相公。别日，裴公沐浴具，朝服，立于阶前，东南奠酒，再拜。见神披金甲、持朱戈，身長三丈余，南向而立。裴公惊悚流汗，俯伏于地不敢动，少顷即不见，问左右，皆曰无之。自是裴公尊奉，有逾厥初。

## 卷一百一十三下 纪传部·传十二

### 续仙传

#### 续仙传序

古今神仙，举世知之，然飞腾隐化，俗难可睹，先贤有言曰，人间得仙之人，且千不闻其一，况史书不载神仙之事，故多不传于世。详其史意，以君臣父子、理乱忠孝之道，激励终古也，若敦尚虚无、自然之迹，则人无所拘制矣。《史记》言三神山在海中，仙人居金银宫阙，不死之药生其上，人有欲往者，则风引舟而去，终莫能到。斯亦激励拘制之意也。

大哉！神仙之事，灵异罕测。述云初之修也，守一炼气，拘谨法度，孜孜辛勤，恐失于纤微。及其成也，千变万化，混迹人间，或藏山林，或游城市。其飞升者，多往海上诸山，积功已高，便为仙官，卑者犹为仙民。何者？十洲间，动有仙家数十万，耕植芝田，课计顷亩，如种稻焉，是有仙官，分理仙民，及人间仙凡也。其隐化者如蝉蜕，留皮换骨，炼气养形质于岩洞，然后飞升成于真仙，信非虚矣。

汾生而慕道，常愧积习。及长，游历宦途，周游寰宇。凡接高尚所说，或览传记，兼复闻见，皆铭于心而书于牋。又以国史不书，事散于野，矧当中和兵火之后，坟籍犹阙，诒有秉

笔记而述作者，处世斯久，人渐稀传，惜哉！他时寂无遗声，今故编录其事，分为三卷，冀资好事君子、学道之人谭柄，用显真仙者哉！朝请郎、前行溧水县令、兼监察御史、赐绯鱼袋沈汾撰。

### 玄真子

玄真子姓张名志和，会稽山阴人也。博学能文，进士擢第。善画，饮酒三斗不醉。守真养气，卧雪不寒，入水不濡。天下山水，皆所游览。鲁公颜真卿与之友善。真卿为湖州刺史，与门客会饮，乃唱和，为《渔父词》。其首唱，即志和之词，曰：西塞山边白鸟飞，桃花流水鳜鱼肥，青箬笠，绿蓑衣，斜风细雨不须归。真卿与陆鸿渐、徐士衡、李成矩共唱和二十五首，递相夸赏。而志和命丹青剪素，写景夹词，须臾成五本，花木禽鱼、山水景像、奇绝踪迹，今古无伦。而真卿与诸宾客传玩，叹伏不已。其后真卿东游平望驿，志和酒酣，为水戏，铺席于水上独坐，饮酌啸咏。其席来去迟速，如刺舟声，复有云鹤，随覆其上。真卿亲宾参佐，观者莫不惊异。寻于水上搥手，以谢真卿，上升而去。今犹有传宝其画在人间者。

### 蓝采和

蓝采和，不知何许人也。常衣破蓝衫，六铤黑木腰带阔三寸余，一脚著靴，一脚跣行。夏则衫内加絮，冬则卧于雪中，气出如蒸。每行歌，于城市乞索。持大拍板，长三尺余，常醉踏歌。老少皆随看之，机捷谐谑，人问应声答之，笑皆绝倒。似狂非狂，行则振鞋踏歌云：踏踏调，蓝采和。世界能几何。红颜一春树，流年一掷梭。古人混混去不返，今人纷纷来更多。朝骑鸾凤到碧落，暮见桑田生白波。长景明辉在空际，金银宫

阙高嵯峨。歌词多率尔而作，皆神仙意，人莫之测。但以钱与之，绳穿拖行。或散失亦不回顾，或见贫人即与之，或与酒家。周游天下，人有为儿童时见者，及斑白见之，颜状如故。后踏歌濠梁间，于酒楼上乘醉，有云鹤笙箫声，忽然轻举，于云中掷下靴、衫、腰带、拍板，冉冉而去。其靴衫等，旋亦失亡。

### 朱孺子

朱孺子，永嘉安固人也。幼而师道士王玄真，居大箬岩（岩即陶隐居修《真诰》于此，亦为真诰岩，岩之西有陶山在焉）。勤苦事于玄真，深慕仙道。常登山岭采黄精服饵，历十余年。一日，就溪濯蔬，见岸侧二小花犬，孺子异之，乃寻逐，入枸杞丛下。归告，玄真讶之。遂与孺子俱往伺之，复见二犬戏，跃逼之，又入枸杞下。玄真与孺子共寻掘，乃得二枸杞根，形状如花犬，坚若石。洗洁归以煮之，而孺子益薪看火三日，昼夜不离灶侧，试尝汁味，取吃不已。及见根烂，以告玄真，共取食之。俄顷，孺子忽飞升在前峰上，玄真惊异，久之，孺子谢别玄真，升云而去。到今俗呼其峰为童子峰。玄真后饵其根尽，不知其年寿，亦隐于岩之西。陶山有采捕者，时或见之。

### 王老

王老，坊州宜君县人也。居于村野，颇好道爱客，务行阴德为意。其妻亦同心不倦。一日，有缙道士造其门，王老与妻俱迎礼之。居月余，间日与王老玄谈，杯酌甚相欢洽。俄患恶疮偏身，王老乃求医药，看疗益加勤切，而疮日甚。迨将逾年，道士曰：此不烦以凡药相疗，但得数斛酒，浸之自愈。于是王老为精洁酿酒，及熟，道士言：以大瓮盛酒，吾自加药浸之。遂脱衣入瓮，三日方出，鬓发俱黑，而颜复少年，肌若凝脂。

王老闾家，视之惊异。道士谓王老曰：此酒可饮，能令人飞升上天。王老信之。初，瓮酒五斛余，及窥，三二斗在尔。清冷香美，异于常酒。时方与二人持麦次，遂共饮，皆大醉。道士亦饮，云：上天去否？王老曰：愿随师所适。于是祥风忽起，彩云如蒸。屋舍草树、全家人物鸡犬，一时飞去，空中犹闻打麦声。数村人共观望惊叹。惟猫鼠弃而不去。风定，其赁持麦二人，乃遗在别村树下，后亦不食，皆得长年。今宜君县西三十里，有升仙乡存焉。

#### 侯道华

侯道华，自言峨嵋山来。泊于河中永乐观，若风狂人，众道士皆轻易之。而道华能斤斧，观舍有所损，悉自修葺，登危历险，人所难及处皆到。又为事贱劣，有客来，不问道俗凡庶，悉为担水汲汤，濯足浣衣。又淘濶灌园，辛苦备历，以资于众。众益贱之，驱叱甚于仆隶，而道华愈忻然。又常好子史，手不释卷，一览必诵之于口。众或问之：要此何为？答曰：上天无愚懵仙人。众咸笑之。经十余年，殿梁上或有神光，人每见之。相传云开元年中，有刘天师尝炼丹成，试犬犬死，而人不敢服，藏之于殿梁，皆谓妄言。忽暴风雨，殿微损，道华乃登梁，复见光于梁上陷中，凿起木，得一合，三重内有小金合子，有丹，遂吞之，掷下其合。吞丹讫，遽无变动，谓之虚诞。忽一日，入市醉归，其观前素有松树偃盖，甚为胜景，道华乃著木履上树，悉斫去松枝。群道士屡止之，不可，但斫，曰：他日碍我上升处。众人常为风狂，怒之且甚。适永乐县令至，其公人观见斫松，深讶之。众具白于县官，于是责辱之，道华亦忻然。后七日，道华晨起，沐浴装饰，焚香曰：我当有仙使来相迎。但望空拜不已。众犹未信。须臾，人言见观前松上，有云鹤盘

旋，笙箫响亮。道华忽飞，在松顶坐，久之，众甚惊忙。永乐县官吏道俗，奔驰瞻礼，其责辱道华县官，叩磕流血。道华捻手，以谢道俗，云：我受玉皇诏，授仙台郎，知上清宫善信院，今去矣。俄顷，云中仙众作乐，幡幢隐隐，凌云而去。

### 马自然

马湘，字自然，杭州盐官人也。世为县之小吏，而湘独好经史，攻文学。乃随道士，天下遍游。后归江南，而常醉于湖州，堕雪溪。经日而出，衣不湿，坐于水上而来言：适为项王相召，饮酒欲醉方返。溪滨观者如云，酒气犹冲人，状若风狂，路人多随看之。又时复以拳入鼻，及出拳，鼻如故。又指溪水令逆流，食顷，指柳树随溪水走来去，指桥令断复续。

后游常州，遇马植出相，任常州刺史，素闻湘名，乃邀相见迎礼，甚异之。植问：道兄幸同宗姓，欲为兄弟，冀师道术，可乎？湘曰：相公何望？曰：扶风。湘戏曰：相公扶风，马湘则马风，牛但且相知，无征同姓。意言与植风马牛不相及也。然植留之郡斋，益敬之。或饮会次，植请见小术，乃于席上，以瓷器盛土种瓜，须臾引蔓，生花结实。取食，众宾皆称香美，异于常瓜。又于遍身及袜上摸钱，所出不知多少，掷之皆青铜钱。撮投井中，呼之一一飞出。人有以取者，顷复失之。又植言，此城中鼠极多。湘书一符，令人帖于南壁下，以箸击盘长啸，鼠成群而来，走就符下俯伏。湘乃呼鼠，有一大者近阶前，湘曰：汝毛虫微物，天与粒食，何得穿穴屋宇，昼夜挠于相公？且以慈悯为心，未能杀汝，宜便率众离此。大鼠乃回，群鼠前，皆叩头谢罪，遂作队莫知其数，出城门去，自此城内便绝鼠。

后南游越州，经洞岩禅院，僧三数百人方斋。而湘与婺州

永康县牧马岩道士王知微、弟子王延叟同行，僧见湘、知微到，踞而食，略无揖者，但使以饭。湘不食，促知微、延叟速食而起，僧斋未毕。及出门，又促速行，到诸暨县南店中，约去禅院七十余里。深夜闻寻道士声，主人遽应此有三人。问者极喜，请于主人，愿见道士。及入，乃二僧，见湘但礼拜哀鸣，曰：禅僧不识道者，昨失迎奉，致貽责怒，三数百僧，到今下床不得。某二僧是主事，且不坐，所以得来，固乞舍之。湘惟睡而不对，知微、延叟但笑之。僧愈哀乞，湘起曰：此后无以轻慢人为意，回去入门，僧辈当能下床。僧回，果如其言。湘翌日又南行，时方春，见一家好菰菜，求之不得，仍闻恶言，命延叟取纸笔。知微言求菜见阻，诚无讼理，况在道门，讵宜施之。湘笑曰：我非讼者也，作小戏尔。于是延叟捧纸笔，湘画一白鹭鸶，以水喷之，飞入菜畦中啄菜，其主人赶起，又飞下再三。湘又画一豸子，走赶捉白鹭鸶，共践其菜，碎尽不已。其主人见道士戏笑求菜，致此虑复为他术，即来哀求。湘曰：非求乞菜也，故相戏尔。于是呼鹭及豸，皆飞走投入湘怀中，视菜如故，悉无所损。又南游霍桐山，入长溪县界，夜投旅店。宿舍小，而行旅已多，主人戏言无宿处，道士能壁上睡，即相容。已逼日暮，知微、延叟曰：只能舍宿，争会壁睡？湘曰：尔但俗旅中睡，我坐可到明。众皆睡，而湘跃身梁上，一脚挂梁倒睡。适主人夜起，烛火照见，大惊异。湘曰：梁上犹能，壁上何难。而入壁久之，不出。主人祈谢移时，请知微、延叟入家内净处，方出。及旦，主人留连，忽失所在。知微、延叟前行数里寻求，已在路傍。

自霍桐回永康县东天宝观驻泊，观前有大枯松，湘指之曰：此松已三千年余，即化为石。自后果化为石，忽大风雷震，石倒山侧作数截。杨发自广州节度，责授婺州刺史，发性尚奇

异，知之，乃徙两截就郡斋，致之龙兴寺九松院。各高六七尺，径三尺余，其石松皮鳞皴，今犹存焉。或有告疾者，湘无药，但以竹杖打病处。腹内及身上百病，以竹杖指之，口吹杖头如雷鸣，便愈。有患腰裹脚曲，持拄杖而来者，亦以杖打之，令放拄杖，应手便伸展。时有以财帛与湘，阻让不免，留之，复散与贫人。所游行之处，或宫观岩洞，多题诗句。其登杭州秦望山，诗曰：太一初分何处寻，空留历数变人心。九天日月移朝夕，万里山川换古今。风动水光吞远峤，雨添岚气没高林。秦皇谩作驱山计，沧海茫茫转更深。

后归故乡省兄，适兄远出，嫂侄喜归，湘告曰：我与兄共此宅，今归要分，我惟爱东园尔。嫂侄异之，小叔久离家归来，兄犹未见面，何言分地？骨肉之情，必不忍如此。驻留三日，嫂侄诤之，不食但饮酒。而待兄不归，及夜遽卒。明日，兄归问妻子，具以实对。兄感恻，乃曰：弟学道多年，非归要分宅，是归托化于我，以绝思望耳。乃棺殓之。其夕，棺鞫然有声，一家惊异，乃葬于东园。时大中十年也。明年，东川奏，剑州梓桐县道士马自然，白日上升。湘于东川谓人曰：我盐官人也，新羽化于浙西，今又为玉皇所诏，于此上升。以其事奏之，遂敕浙西道杭州覆之，发冢视棺，乃一竹杖而已。

### 邬通微

邬通微，不知何许人也。为道士，神气清爽，静默虚夷。或吟或醉，多游于洪州名山。见之多年，或十数年不见，则颜状益少于当时，如此，识者不测其服炼丹药，游行无定止。后于酒楼，乘醉飞升而去。

### 许碯



许碯，自称高阳人也。少为进士，累举不第。晚学道于王屋山，周游五岳名山洞府。后从峨嵋山经两京，复自荆、襄、汴、宋抵江淮，茅山、天台、四明、仙都、委羽、武夷、霍桐、罗浮，无不遍历。到处皆于悬崖峭壁人不及处题云：许碯自峨嵋寻偃月子到此。观笔踪者，莫不叹其神异，竟莫详偃月子也。后多游庐山，尝醉吟曰：“阆苑花前是醉乡，滔（以冉切）翻王母九霞觞。群仙拍手嫌轻薄，谪向人间作酒狂。好事者诘之，曰：我天仙也，方在昆仑就宴，失仪见谪。人皆笑之，以为风狂。后当春景，插花满头，把花作舞，上酒楼醉歌，升云而去。

### 金可记

金可记，新罗人也。宾贡进士。性沉静好道，不尚华侈，或服气炼形，自以为乐。博学强记，属文清丽。美姿容，举动言谈，迥有中华之风。俄擢第不仕，隐于终南山子午谷菴居。怀退逸之趣，手植奇花异果极多。常焚香静坐，若有念思，又诵《道德》及诸仙经不辍。后三年，思归本国，航海而去。复来，衣道服，却入终南。务行阴德，人有所求，无阻者。精勤为事，人不可偕也。大中十一年十二月上表言：臣奉玉皇诏，为英文台侍郎，明年二月十五日当上升。时宣宗颇以为异，遣中使徵入内，固辞不就。又求见玉皇诏，辞以为别仙所掌，不留人间。遂赐宫女四人、香药金彩，又遣中使二人专看待。然可记独房静室，宫女、中使多不接近。每夜闻室内常有人谈笑声，中使窃窥，但见仙官仙女各坐龙凤之上，俨然相对，复有侍卫非少，而宫女中使不敢辄惊。二月十五日，春景妍媚，花卉烂熳，果有五云喉鹤，翔鸾白鹄，笙箫金石，羽盖琼轮，幡幢满空，迎之升天而去。朝列士庶，观者填溢山谷，莫不瞻礼叹异焉。

## 宋玄白

宋玄白，不知何许人也。为道士，身長七尺余，眉目如画，端美肥白，言谈秀丽，人见皆爱之。颇有道术，夏则衣绵，冬则单衣。卧于雪中，去身一丈余，周匝气出如蒸，而雪不凝。又指灯即灭，指人若隙风所吹，飐飐然；指庭间花草，飒飒而动。多游名山，自茅山出润州希玄观，入括苍洞。辟谷服气。或时食彘肉五斤，以蒜韭一盆，撮吃毕，即饮酒二斗，用一白梅。人有求得其一叶蒜食之者，言不作蒜气，味如异香，终日在齿舌间，香不歇。得食之者颇多，而毕身无病，寿皆八九十。玄白到处，住则以金帛求置二三美妾，行则舍之。人皆以为得补脑还元之术。

又游越州，适大旱，方暴庭乐龙以祈雨，涉旬，亢阳愈甚。玄白见之，以为凡所祈雨，须候天命，非上奏无以致之。乃于所止观，焚香上祝，经夕，大霡雨告足。越人大神异之。复到信州，又逢天旱祈祷，有道士知玄白能致雨，州人乃请之。遽作术飞钉，钉城隍神双目。刺史韦德邻怪其贮妇女、复钉城隍神，此妖怪也。将加责辱，使健步辈欲向之，手脚皆不能动，悉自仆倒，枷杖亦自摧折。玄白笑谓德邻曰：使君愕忤刘根，欲诛罚祖祢也？德邻方惧，祈谢。须臾雨足，礼而遣之。其灵术屡施，不可备录。后于抚州南城县，白日上升而去。

## 贺自真

贺自真，莫究其所来也。为道士，居嵩山，有文学。为事高古，常焚修精勤。年少，人亦不知其甲子，然道俗相传，见之多年矣，皆不甚为异。一日，云鹤满空，声乐清亮，自真忽飞升而去。时有处士陈陶在东都，见洛城人观望瞻礼，惊叹不

已，乃为诗曰：“子晋鸾飞古洛川，金桃再熟贺郎仙。三清乐奏嵩丘下，五色云屯御苑前。朱顶舞翻迎绛节，青鬟歌对驻香綈。谁能白昼相悲泣，太极光阴几万年。”

### 酆去奢

酆去奢，衢州龙丘人也，家住于九峰山下。少入道，游学道术，精思忘疲。年三十余，便居处州松阳县安和观，其观即叶静能故乡学道之所。而观北五里有卯山，高五十余丈，相传云汉张天师及叶静能，皆居此山修道。去奢慕前事，登其山结庵以居。后观中道士，相率山下居人为构屋，及造堂殿。设老君、张天师像，及叶静能真影，朝夕焚修朝礼。山东南有一方石，阔二丈余，平若砥，盖天然也。去奢常坐其上，拱默静想，一旦感神人，谓之曰：张天师有斩邪剑二口，并瓶贮丹在此石下，可以取之。去奢谢神人曰：此石天设，非人力可加。自惟荒谬，守真而已。托兹山栖获安，久蒙圣佑，丹之与剑，讵可辄取？神人曰：但勤修无怠，剑丹自可立致。后三年，神人乃以剑丹送于去奢。剑乃张天师七星剑。丹以石匣藏之，一瓶贮之，倾药有斗余，如麻子，红色光明。去奢自服及施人，有疾皆愈。

时丽水县人华造，因中和年荒乱之后，拥土人据岩险。浙东连帅具以上闻，朝廷议欲息兵，乃授造以刺史。而造凶险，闻去奢神与剑丹，乃以兵围其山，取去奢并剑丹，到州夺其剑丹，而囚锁去奢于空室中。时方炎暑，一月日不与之水，造为去奢已毙矣。及开室，见神色俨然，颜状红白，愈于来时。造惊异，乃却送去奢归山，剑丹留之。一夜风雷，飞鸣失所，去奢闻剑却归石下尔。

后居山十五余年，每言常见龙虎异鸟，行于庭际。安和观

道士多寓山顶烧奏，见龙虎鸟迹，咸惊异之。去奢不食多年，或人秽触其山，春冬则猛兽来惊，秋夏则毒蛇所螫。去奢又言，每雷雨只在山半，常见云龙、雷公、电姥、神鬼甚众，或到此相见，咸有礼焉。又寄宿道士，夜闻去奢所居静室，若与人谈话，窃窥之，惟闻异香满室，及环珮声。或见有戴远游冠、绛服、螺髻垂发、碧绡衣男女四人对坐，侍从皆玉童玉女，光明照身，复有神人远立于侧，而道士皆不敢惊，但虔敬而已。一日，去奢告道士曰：恐当离此山去，不长相见也。后数日，有彩云鸾鹄，声乐满空，徘徊山顶。后有綍輿幡幢，灵官驾龙鹿，皆五色，亦骑鸾凤迎，去奢升天而去，山下道俗观望者甚众。

### 孙思邈

孙思邈，京兆华原人也。七岁就学，日诵千言。及长，好谈庄老百家之说。周宣帝时，以王室多事，隐于太白山学道，炼气养形，求度世之术。洞晓天文推步，精究医药，审察声色，常蕴仁慈。凡所举动，务行阴德，济物为功。偶出路行，见牧牛童子杀小蛇，已伤血出，思邈求其童，脱衣赎而救之，以药封裹，放于草内。

复月余出行，见一白衣少年，仆马甚壮，下马拜思邈，谢以言曰：小弟蒙道者所救。思邈闻之，不以为意。少年复拜思邈，请以别马载之，偕行如飞。到一城郭，花木正春，景色和媚，门庭焕赫，人物繁杂，俨若王者之居。少年延思邈入，见一人端正美貌，袷帽绛衣，侍从甚众，欣喜相接，谢思邈曰：深思道者，故遣儿子相迎。前者小儿独出，忽为愚人所伤，赖脱衣赎救，获全其命。此中血属非少，共感再生之恩，今得面道者，荣幸足矣。俄顷，延入若宫闱内，见中年女子，领一青衣小儿出，再三拜谢思邈曰：此儿痴騃，为人伤损，赖救免害。

思邈省记尝救青蛇，即讶此何所也。又见左右皆阉人，宫妓呼裕帽君王，呼女子为妃后，心异之。潜问于左右，曰：此涇阳水府也。王者乃命宾寮，设酒饌妓乐，以宴思邈，辞以辟谷服气，惟饮酒尔。留连三日，问其欲，对曰：山居乐道，思真炼神，目虽所窥，心固无欲。乃以轻绡珠金赠行，思邈坚辞不受。曰：道者不以此为意耶？何以相报？乃命其子，取龙宫药方三十首与先生，曰：此真方，可以济世救人。俄复命仆马送先生归山。既归，深自为异，历试诸方，皆若神效。后著《千金方》三十卷，散龙宫方在其内。又以声色诊人之疾，著《脉经》一卷，大行于世。

隋文帝辅政，徵为国子博士，不就。尝谓人曰：过此五十年，当有圣人出，吾方助之，以济生人。至唐太宗时，召诣京师，讶其容貌甚少，曰：故知有道者，诚可尊重，羡门之徒，岂虚言哉！将授以爵位，固辞不受。高宗初，拜谏议大夫，复固辞。时年九十余，视听不衰。

范阳卢照邻有时名，而染恶疾，嗟禀受之不同，昧遐天之殊致，问于思邈曰：名医愈疾，其道如何？对曰：吾闻善言天者必质于人，善言人者必本于天。夫天有四时五行，寒暑迭代。其转运也，和而为雨，怒而为风，凝而为霜雪，张而为虹蜺，天地之常数也。人有四肢五脏，一觉一寐，呼吸吐纳，动而为往来，流而为荣卫，彰而为气色，发而为音声，此人之常数也。阳用其精，阴用其形，天人之所同也。及其失也，蒸则生热，否则生寒，结而为疣赘，陷而为痈疽，奔而为喘息，竭此而为焦枯。诊发乎面，变动乎形。推此以及天地，则亦如彼。故五纬盈缩、星辰失度、日月错行、彗孛流飞，此天地之疾疹也；寒暑不时，此天地之蒸否也；石立土涌，此天地之疣赘也；山崩地陷，此天地之痈疽也；奔风暴雨，此天地之喘乏也；雨泽

不时、川源涸竭，此天地之焦枯也。良医遵之以药石，救之以针剂，圣人和之以道德，辅之以人事。故人有可愈之疾，天地有可销之灾。又曰：胆欲大而心欲小，智欲圆而行欲方。《诗》曰：如临深渊，如履薄冰，谓小心也；“赳赳武夫，公侯干城”，谓大胆也；不为利回，不为义疾，行之方也；见机而作，不俟终日，智之圆也。其文学也颖出，其道术也不可胜纪。

高宗后无何，制授承务郎，致之尚药局，不就。永徽三年二月十五日，晨起沐浴，俨其衣冠，端拱以坐。谓子孙曰：我为世人所逼，隐于洞府修炼，将升无何之乡，臣于金阙，不能应召往来。俄而气绝，遗令薄葬，不设盟器牲牢之奠。月余颜色不变，举尸入棺，如空衣焉，已尸解矣。

### 张果

张果隐于恒州条山，往来汾晋间，时人传有长生秘术。耆老云，为儿童时，人见之，自言数百岁矣。唐太宗、高宗徵之，不起。则天召之出山，佯死于妒女庙前。时方炎暑，须臾臭烂生虫，于是则天信其死矣。后有人于恒州山中复见之。

开元二十三年，明皇诏通事舍人裴晤，驰驿于恒州迎之。果对晤气绝而死，晤乃焚香，宣天子求道之意，俄顷渐苏。晤不敢逼，驰还奏之，乃命中书舍人徐峤、通事舍人卢重玄，赍玺书迎果。果随峤到东京，于集贤院安置，肩輿入宫，备加礼敬。公卿皆往拜谒，问以方外之事，皆诡对，每云：余是尧时丙子年人。时人莫能测也。又云尧时为侍中，善于胎息，累日不食。时进美酒，及三黄丸。明皇留之内殿，赐之酒，辞以小臣饮不过二升，有一弟子可饮一斗。明皇闻之喜，令召之。俄顷一小道士，自殿檐飞下，年可十六七，美姿容，旨趣雅澹。谒见上，言辞清爽，礼貌臻备。明皇命坐，果曰：弟子常侍立

于侧，不可赐坐。明皇愈喜，赐酒。饮及一斗，不醉。果辞曰：不可更赐，过度必有所失，致龙颜一笑尔。明皇又逼赐之，酒忽从顶涌出，冠子扑落地，化为榼。明皇及嫔御皆惊笑，视之，失道士矣。但金榼在地覆之，榼贮一斗，验之，乃集贤院中榼也。累试仙术，不可穷纪。乃下诏曰：恒州张果先生，游方之外者也，迹先高尚，心入茱萸，是混光尘，应召城阙。莫知甲子之数，且谓羲皇上人，问以道枢，尽会宗极。今则将行朝礼，爰升宠命，可银青光禄大夫，号通玄先生。

果累陈老病，乞归恒州。赐绢三百疋，随从弟子二人给驿，肩舁到恒州，弟子一人，放回，一人相随入山。天宝初，明皇又遣徵诏，果闻之示卒，弟子葬之。后发之，但空棺而已。

### 许宣平

许宣平，新安歙人也。睿宗景云年中，隐于城阳山南坞，结庵以居。不知其服饵，但见不食。颜若四十许人，轻健，行疾奔马。时或负薪以卖，薪檐常挂一花瓢，及曲竹杖。每醉行腾腾以归，吟曰：负薪朝出卖，沽酒日西归。时人莫问我，穿云入翠微。迩来三十余年，或施人危急，或救人疾苦。城市之人，多访之不见，但览庵壁题诗云：隐居三十载，筑室南山颠。静夜玩明月，闲朝饮碧泉。樵人歌垅上，谷鸟戏岩前。乐矣不知老，都忘甲子年。好事者多诵其诗。有抵长安者，于驿路洛阳同华间传舍是处题之。

天宝中，李白自翰林出东游，经传舍，览诗吟之，叹曰：此仙人诗也。诘之于人，得宣平之实。白于是游及新安，涉溪登山，累访之不得，乃题诗于庵壁曰：我吟传舍诗，来访仙人居。烟岭迷高迹，云林隔太虚。窥庭但萧索，倚杖空踟蹰。应化辽天鹤，归当千载余。宣平归庵见壁诗，又吟曰：一池荷叶

衣无尽，两亩黄精食有余。又被人来寻讨著，移庵不免更深居。其庵后为野火烧之，莫知宣平踪迹。

后百余载，至咸通十二年，郡人许明恕家有婢当逐，伴入山采樵。一日独于南山中，见一人坐石上，方食桃，甚大。问婢曰：汝许明恕家人也？婢曰：是其人。曰：我即明恕之祖宣平也。婢言曰：常闻家内说，祖翁得仙多年，无由寻访。宣平谓婢曰：汝归，为我向明恕道我在此山中。与汝一桃食之，不得将出，山内虎狼甚多，山神惜此桃。婢乃食之，甚美，顷之而尽。遣婢随樵人归家言之。婢归，觉檐樵轻健。到家，具言入山逢祖翁宣平。其明恕嗔婢将上祖之名牵呼，取杖打之。其婢随杖身起，不知所之。后有人入山内，逢见婢，童颜轻健，身衣树皮，行疾如风，遂入升林木而去。

### 刘商

刘商，彭城人也，家于长安。好学强记，攻文，有《胡笳十八拍》，颇行于世，儿童妇女悉诵之。进士擢第，历台省为郎中。性耽道术，逢道士即师资之。炼丹服气，靡不勤切。每叹光景甚促，筋骸渐衰，朝驰暮止，但自劳苦，浮荣世宦，何益于己！古贤皆堕官以求道，多得度世，幸毕婚嫁，不为俗累，岂劣于许远游哉！是以托病，免官入道。

游及广陵，于城街逢一道士卖药，聚玩颇众，人言多有灵效。众中见商，目之甚相异，乃罢药，携手登楼，以酒为欢。道士所谈，自秦汉历代事，皆如目视。商颇为异，即师敬之。复言神仙道术，不可得也。及暮，商归侨止，道士下楼，闪然不见，商益讶之。翌日，又于街市访之，道士仍卖药。见商愈喜，复挈上酒楼，剧谈欢醉。出一小药囊赠商，并戏吟曰：无事到扬州，相携上酒楼，药囊为赠别，千载更何求。商记词得



囊，暮乃别去。后商寻之，不复见也。商乃开囊视，重重纸裹一葫芦，得九粒药，如麻子。依道士口诀吞之，顿觉神爽不饥，身轻飘然，过江游茅山。久之，复往宜兴张公洞。当春之时，爱罨画溪之景，乃入胡父诸葛居，隐于山中。近樵者犹见之，曰：我刘郎中也。莫知所止，盖已为地仙矣。

### 刘 替

刘 替（音僭），小字宜哥，兄瞻也。替家贫，好道。常有道士经其居，见替异之，问：知道否？曰：知。然替性饶俗气，业应未净，遽可强学。道士曰：能相师乎？替曰：何敢。于是师事之，随道士入罗浮山。替与瞻俱读书，替山栖求道，无巾裹鬓角，布衣事道士为文，而瞻性慕荣达。替谓瞻曰：鄙必不第，则逸于山野尔，得第则劳于尘俗。竟不及于鄙也，然慎于富贵，四十年当有验。曰：神仙遐远难求，秦皇汉武，非不区区也。廊庙咫尺易致，马周、张嘉贞可以继踵矣。自后替愈精思于道，乃隐于罗浮山。

瞻进士登科，屡历清显，及升辅相，颇著燮调之称。俄谪南行，次广州潮台，泊舟江滨，忽有鬓角布衣少年，冲暴雨而来，衣履不湿，欲见瞻，左右皆讶，乃语之，但言宜哥来也，以白瞻。问形状，具以对。瞻惊叹，乃迎而见之。替颜貌可二十来许，瞻已皤然衰朽，为逐臣。悲喜不胜，替复勉之：与尔为兄弟，手足所痛，曩日之言，今四十年矣。瞻益感叹，谓替曰：可复修之否？替曰：兄身邀荣宠，职和阴阳，用心动静，能无损乎！自非弟奈何，况已升天仙，讵能救尔？今惟来相别，非来相救也。于是同舟行别，话平生隔阔，一夕，失替所在。今罗浮山中，时有见者。瞻乃南行，歿于贬所矣。

## 罗万象

罗万象，不知何许人。有文学，明天文，洞精于《易》。节操奇特，惟布衣游行天下。居王屋山，久之，后游罗浮山，叹曰：此朱明洞天，昔葛稚川曾栖此以炼丹，今虽无邓岳相留，聊自驻泊尔。于是爱石楼之景，乃于山下结庵以居。常饵黄精，服气数十年。或出游曾城泉山，布水下采药，及入福广城市，卖药饮酒，来往无定。或一食，则十数人之食；或不食，则莫知岁月。光悦轻健，日行三四百里，缓行奔马莫及。后却归石楼庵，竟不复出，隐于山中矣。

## 司马承贞

司马承贞，字子微，博学能文。攻篆，迥为一体，号曰金剪刀书。隐于天台山玉霄峰，自号白云子，有服饵之术。唐则天累诏之，不起。睿宗深尚道教，屡加尊异，承贞方赴召。睿宗问阴阳术数之事，承贞对曰：《老君经》云，损之又损，以至于无为。且心目所见，知每损之尚未能已，岂复攻乎异端，而增智虑哉！睿宗曰：理身无为，则清高矣，理国无为，如之何？对曰：国犹身也。《庄子》云，游心于澹，合气于漠。顺于自然，乃无私焉，而天下理。《易》曰圣人者，与天地合其德。是知天不言而信，不为而成。无为之旨，理国之要也。睿宗深赏异，留之欲加宠位，固辞不可，告归山。乃赐宝琴花帔以遣之，公卿多赋诗以送。常侍徐彦伯，撮其美者三十余篇，为制序，名曰《白云记》，见传于世。时卢藏用早隐于终南山，后登朝居要官，见承贞将还天台，藏用指终南谓之曰：此中大有佳处，何必天台？承贞徐对曰：以仆所观，乃仕宦之捷径尔。藏用有惭色。

明皇在宥天下，深好道术，徵诏承贞，到京留于内殿，颇

加礼敬。问以延年度世之事，承贞隐而微言，明皇亦传而秘之，故人莫得知也。由是明皇理国四十五年，虽禄山犯阙，銮舆狩蜀，及为上皇回，又七年方始晏驾，虽由天数，岂非道力之助延长耶！初，明皇登封泰山回，问承贞：五岳何神主之？对曰：岳者，山之巨镇。而能出雷雨，潜诸神仙，国之望者为之。然山林神也，亦有仙官主之。于是诏五岳，于山顶别置仙官庙，自承贞始也。

又蜀女真谢自然泛海，将诣蓬莱求师，船为风飘到一山。见道士指言天台山司马承贞名，在丹台，身居赤城，此真良师也。蓬莱隔弱水三十万里，非舟楫可行，非飞仙无以到。自然乃回，求承贞受度，后白日上升而去。承贞居山，修真勤苦。年一百余岁，童颜轻健，若三十许人。有弟子七十余人。一旦，告弟子曰：吾自玉霄峰东望，蓬莱常有真灵降驾，今为东海青童君、东华君所召，必须去人间。俄顷气绝，若蝉蜕，已解化矣！弟子葬其衣冠焉。

### 闾丘方远

闾丘方远，字大方，舒州宿松人也。幼而辩慧，年十六，精通《诗》、《书》，学《易》于庐山陈元晤。二十九问大丹于香林左元泽，泽奇之。后师事于仙都山隐真岩刘处靖，学修真出世之术。三十四受法箓于天台山玉霄宫叶藏质，真文秘诀，尽以付授。而方远守一行气之暇，笃好子史，群书每披卷，必一览之，不遗于心。常自言：葛稚川、陶贞白，吾之师友也。铨《太平经》为三十篇，备尽枢要，其声名愈播于江淮间。唐景祐二年，钱塘彭城王钱肸，深慕方远道德，礼谒。于余杭大涤洞筑室宇以安之，列行业以表之。昭宗累徵之，方远以天文推寻，秦地将欲荆榛，唐祚必当革易，侔之园绮，不出山林，

竟不赴召。乃降诏褒异，就颁命服，俾耀玄风，赐号妙有大师玄同先生。阐扬圣化，启发蒙昧，真灵事迹，显闻吴楚。由是从而学者，若正一真人之在蜀。赵升、王长亦混于门下，弟子二百余人。会稽夏隐言、谯国戴隐虞、荥阳郑隐瑶、吴郡陆隐周、广陵盛隐林、武都章隐芝，皆传道要而升堂奥者也。广平程紫霄应召于秦宫，新安聂师道行教于吴国。安定胡谦光、鲁国孔宗鲁十人，皆受思真炼神之妙旨。其余游于圣迹，藏于名山，不复得而记矣。

天复二年二月十四日，沐浴焚香，端拱而坐，俟亭午而化。颜色怡畅，屈伸自遂，异香芬馥，三日不散。弟子以从俗葬，举以就棺，但空衣而尸解矣。葬于大涤洞之傍白鹿山。后有道俗，于仙都山及庐山累见之。自言：我舍大涤洞，归隐 山天柱源也。

### 聂师道

聂师道，字通微，新安歙人也。性聪淳直，言行谨，养亲以孝闻，深为乡里所敬。少师事道士于方外，即德海之从兄也。德海自省郎出牧新安之二年，方外从之荆南书记，早舍妻子入道，学养气修真之术，周游五岳名山，到新安。德海乃于郡之东山选胜地，构室宇以居之，目为问政山房，而师道事之。辛勤十余年，传法纂修真之要。后出游续溪山，自言尝览内传，见服松脂法。乃与道侣，上百丈山采松脂。崖石回耸百丈，遂以名之，其四望高千余仞。夜宿于崖顶松下，天清月朗，忽闻仙乐起，自东南紫云上遥遥而来，迟缓过于石金山。石金与百丈，其高相等，虽平地隔三十里，山顶相望咫尺间。乃闻仙乐到彼，辍少时，敲小鼓三通，复奏乐，金石笙箫，丝匏响亮，击鼓而拍，莫审其曲调，声揭而清，特异人间之乐。自三更及

鸡鸣而止。后问于山下人，是夜皆闻之。其同侣叹曰：方采灵药，遽闻仙乐，岂非有感？此亦君得道之嘉兆矣。

其后游行归南岳，礼玉清及光天二坛。后泊招仙观，入洞灵源。时当春景，闻蔡真人旧隐处不远，有花木甚异，采樵者时或见蔡真人在其间。师道喜之，乃辟谷七日，晨起独趋山中渐行，见花有异香，不觉日晚。忽到大溪傍，见一樵人，临水坐于沙上。师道骤欲亲近之，乃负薪将下溪，回顾师道，却驻樵檐，问独此何往。应之曰：学道寻仙，深心所切，闻蔡真人隐此山，愿一礼谒耳。樵人曰：蔡君所居极深，人不可到。师道曰：攀萝登崖，已及于此，有山通行，岂惮远近！樵人又曰：日将暮矣，且行过此山东，有人家可宿。师道欲随樵人去，樵人遽入水，甚浅，及师道入水，极深而急，不敢涉。樵人曰：尔五十年后，方过得此溪。目送樵人，步水面而去，不见乃回。

山东行十余里，遥望见草舍三间，有篱落鸡犬。渐近，见一人青白色似农者，年可三十，独居。见师道到，甚讶师道深山自行。忽曰：家累俱出何为？主人又问师道：此来何之？应曰：寻蔡真人。居主人曰：路上见一樵人否？曰：见。主人曰：此蔡道者适过也。师道闻之，礼祝曰：凡愚见仙圣不识，亦命也。已逼夜，山林深黑，投宿无地。又问曰：从何来？具以发迹新安，寻真之由以对。乃许入其舍，复指师道，令近火炉边床上坐。曰：山中偶食尽，求之未归。师道曰：绝粮多时，却不以食为念。见火侧有汤鼎，复有数个黄瓷合，主人曰：合内物皆堪吃，任意取之。乃揭一合，是茶。主人以汤泼，及吃，气味颇异于常茶。复思茶，更揭之，合不可开。遍揭诸合，皆不能开。师道心讶不似村人家，而不敢言。主人别屋睡，日高不起，又无火烛，睡中曰：此孤寂之处，忽病无以相待，前村

人家甚多，可以往彼。

师道便行，数里不见人家，悉是崖险，乃回，已迷向宿之处。复行约三十余里，即逢见一老人，欣喜，邀于石上坐，问入山之意，具以前事对之。老人曰：蔡君父子俱隐于此山，昨夜所宿之处，即其子也。又曰：尔道气甚浓，仙骨未就，入山饥渴，何能却回？俄折草一茎与师道，形如姜苗而长尺余，嚼之味甘美。复令取泉水，吃次举头，已失老人所在。师道悲叹不已，而觉食茶草之后，气力轻健，愈于来时。却欲沿山路寻宿处，其路已为棘蔓蔽塞，前去不通。却回招仙观，众道士忽见师道，惊异曰：此观地虽灵岳，侧近虫兽甚多，人罕能独行，何忽去月余日？实久忧望。师道曰：昨日方去，始经一宿。具言见樵人及宿处，又逢老人。道士皆叹曰：吾辈虽同居此观，徒为学道，知有蔡真人，无缘一见。吾子夙有仙分，已见蔡君父子。其老人者，昔闻彭真人亦隐此山，岂非彭君乎？子一入见，遽逢三仙人。一日一宿，人间月余矣。其实积习之命也。师道深自叹异。

驻招仙观修炼逾年，后以亲老思归，却回问政山。每入诸山，拾薪鬻药，或逢虎豹，见师道垂耳摇尾，俯伏于地。师道以手抚而呼之，乃起随行。或以薪药附于背上，负之送归而去。昔郭文泰之居大涤洞，伏虎亦如之歎之。近山颇有猛兽，而不为人之害者，自师道之感也。其亲时问师道游学所益，具陈其事。亲闻之而喜曰：汝以孝养我，以道资我，亦幸为汝母矣。此盖宿庆之及也。

后又出游，复思往南岳九嶷山。早闻梅真人、萧侍郎皆隐玉笥山，时人多见之。梅即汉南昌尉福也。箫即子云，字景乔，梁之公子，自东阳太守避侯景之乱，全家入山。二人俱得道于此。师道且止玉笥清虚观，思慕梅、萧，三游郁木坑，或冀一

见，坚心以去。山行极深，忽见一人，布衣乌纱帽，颜若五十许人，师道礼敬问之。初自称行者，问师道何往，乃以寻梅萧为答。行者曰：闻尔精勤慕道，遍访名山，情亦非易。欲见二君，行者可以相引。尔宿业甚净，已应玉籍有名。虽未便飞升，当亦度世尔。行者又曰：“我谢修通也，恐尔未识，故以自言，本居南岳，与彭蔡同隐，已三百年。知尔常游洞灵源，我适为东华君命，主玉笥山林地仙，兼掌清虚观境土社令，尔与我素有道缘，是时相见。然梅萧日中为小有天王所召，恐未便还，非可俟也。师道于是虔拜曰：凡世肉人，谬探大道，凝神注想，以朝继夕。未知要妙，若浮于海，讵识其涯。不期今日获见道君，实百生之幸也。修通曰：丹心恳苦，深可悯哉！尔世事未了，且当送尔出山路，往我所止。随行数里，忽见草舍两间，甚新洁，有床席，小铛然火煎汤，俨若书生所居，而无人。修通命师道入，坐于木兔上，修通自坐白石鹿床上。俄有一总角童，以汤一碗与师道，呷之神气爽然。又指令架上自袖取书一卷，修通曰：此《素书》也，但习之无怠，当得真旨。师道意欲求住师学，未之启言，而修通已知，曰：尔有亲垂老，虽有兄能养，若欲更南游，此未可言住。我弟子紫芝在九嶷山，若往彼见之，为我传语，兼出《素书》示之，得尽其旨矣。或不见，但投《素书》于毛如溪上洞中，仍题石壁，记我传语之意，紫芝当自授尔要道。言讫，乃发遣师道回，俄不见修通，已在郁木坑，师道入清虚观矣。众道士惊曰：一去七日而返，何之也？师道具以对之。有道士二人欣跃，乞与师道共入郁木坑。到旧处，岩石草树，历历宛然，但失其草舍，竟日怅望而回。

师道得《素书》，文字可识，皆说龟山王母，理化众仙秘要真诀也。他仙习此，当得升天。世人授之，迹参洞府。其间有疑义，不可究也。后到南岳九嶷山湘真观，月余，寻问紫芝

踪迹，咸言毛如溪有一隐士，莫知姓名，人或见者。师道累入山，寻之不见，乃如修通之言，投书题石壁。后常梦神人，称紫芝，教之以释凝滞，意乃醒然。经岁余，复还问政。居二十余年，每焚修，即以二蔡、彭、谢真形画像瞻礼，仍自以管幅编异，传于道俗。

其后吴太祖霸江淮间，闻师道名迹，冀其道德护于军庶，继发召止，及广陵建玄元宫以居之。每升坛，祈恩祈福，水旱无不应。致天地感动，烟云呈祥。是以人情咸依道化，境若华胥，俗皆可封。虽古今异时，实大帝之介君也。乃降褒美为逍遥大师、问政先生，以显国之师也。弟子邹德匡、王处讷、杨匡翊、汪用真、程守朴、曾景霄、王可儒、崔繹然、杜崇真、邓启遐、吴知古，皆得妙理，传上清法，散于诸州府。袭真风而行教，朝廷皆命以紫衣，光其玄门。有秦、吴、荆、齐、燕、梁、闽、蜀之士，咸来逾纪，勤苦奉事。师道常谓之曰：我无道术，何以远来若此？弟子皆曰：昔张君居蜀，天下之人，悉往师之。随其所修，各授以道要焉。群弟子执奴仆之役，久而不去者，方得成仙。今悉是枯骨子孙，日逼朽腐，思避短景，希度长生，愿无却恳切也。然师道以仁慈接众，言不阻违，随其性识，指以道要。若久行雾露，余润渍衣，近罗沉檀，轻香袭体。

由是居广陵三十余年，有弟子五百余人。而师道胎息已久，炼丹有成。一旦，告弟子曰：适为黑帟朱衣一符吏，告我为仙官所召，必须去矣。顷之，异香满室，云鹄近庭，若真灵所集，爽然言别而化。弟子殓之，棺忽有声，视之若蝉蛻尸解矣。后数日，人自豫章来，见之领一祝角童随行，道俗多识之，咸问：何为远游。曰：离南岳多年，今暂往尔。所在多泊旧游宫观。而去半年后，有人自长沙来，亦如豫章所见。复言衡阳路见，



归洞灵源去。樵人言五十年后过此溪，适足验矣。详其由来，是二蔡、彭，谢之俦侣也。隐化而往，绝世思望，神仙皆然矣。

### 殷文祥

殷七七，名文祥，又名道笈。常自称七七，俗多呼之，不知何所人也。游行天下，人言久见之，不测其年寿。面光白若四十许人，到处或易其姓名，不定。曾于泾州卖药，时灵台蕃汉疫病俱甚，得药入口即愈，皆谓之神圣。得钱即施之于人，而常醉于城市间。周宝于长安识之，寻为泾原节度，迎之礼重，慕之道术還元之事。及宝移镇浙西，数年后，七七忽到，复卖药。宝闻之惊喜，遽召之，师敬益甚。每醉，自歌曰：解酲须臾酒，能开顷刻花。琴弹碧玉调，炉炼白朱砂。宝尝试之，悉有验。其于种瓜钓鱼，若葛仙公术也。

鹄林寺杜鹃花高丈余，每春末花烂熳。僧传言，贞元年中，有外国僧，自天台钵盂中，以药养其根来种之，自后构饰花院，锁闭。人或窥见女子，红裳艳丽，游于树下，有辄采花折枝者，必为所祟，俗传女子花神也。所以人共保惜，故繁艳异于常花。其花欲开，探报分数，节度使宾寮官属，继日赏玩。其后一城士女，四方之人，无不以酒乐游从。连春入夏，自旦及昏，闾里之间，殆于废业。宝一日谓七七曰：鹄林之花，天下奇绝，尝闻能开非时之花，此可开否？七七曰：可也。宝曰：今重九将近，能副此日否？七七诺之。乃前三日，往鹄林寺宿焉。中夜女子来谓七七曰：道者欲开此花耶？七七乃问：何人深夜到此？女子曰：妾为上玄所命，下司此花，在人间已逾百年，非久即归阆苑去，今与道者共开之，非道者无以感妾。于是女子倏然不见。来日晨起，寺僧或讶花渐拆蕊，及九日，烂熳如春。乃以闻宝，一城士庶异之，游赏复如春夏间。数日，花俄不见，

亦无落花在地。

后七七偶到官僚家，适值会宾次，主与宾趋而迎之。有佐酒倡优共轻侮之，七七乃白主人：欲以二栗为令，可乎？咸喜，谓必有戏术，资于欢笑。乃以栗巡行，嗅者皆闻异香，惊叹，惟佐酒笑七七者二人，嗅之化作石，缀于鼻，掣不落，但言秽气不可堪。二人共起狂舞，花钿委地，相次悲啼，粉黛交下。优伶辈一时辞舞，鼓乐自作，声颇合节，奏曲止而舞不已。一席之人，笑皆绝倒。久之，主人祈谢于七七。有顷，石自鼻落，复为栗，传之皆有异香。及花钿粉黛悉如旧，略无所损，咸敬事之。又七七酌水为酒，削木为脯，使人退行，止船即住，呼鸟自随，唾鱼即活，撮土画地，状山川形势，折茆聚蚁，变城市人物。有人曾经行处见之，言历历皆似，但小狭尔。凡诸术不可胜纪。

后二年，薛玄、刘浩作乱，宝南奔杭州。而宝总戎为政，刑或无辜。前上饶牧陈全裕经其境，构之以祸，尽赤其族。宝八十三，筋力尤壮，女妓百数，盖得七七之术，后为无辜及全裕作厉，一旦忽殁。七七刘浩军变之时，甘露寺为众推落北崖，谓堕江死矣。其后人见在江西十余年，卖药。入蜀，莫知所止。其鹄林花，兵火焚，树失，根株信归阆苑矣。

### 谭峭

谭峭，字景升，国子司业洙之子，幼而聪明。及长，颇涉经史，强记，问无不知，属文清丽。洙训以进士为业，而峭不然。迥好黄老，诸子及周穆、汉武、茅君、列仙内传，靡不精究。一旦，告父出游终南山，父以南山近京都，许之。自经终南、太白、太行、王屋、嵩、华、泰岳，迤逦游历名山，不复归。宁父驰书责之，复谢曰：茅君昔为人子，亦辞父学仙，今

峭慕之，冀其有益。父母以其坚心求道，岂以世事拘之，乃听其所从。而峭师于嵩山道士十余年，得辟谷养气之术，惟以酒为乐，常醉腾腾，周游无所不之。夏则服乌裘，冬则绿布衫。或卧于风雨雪霜中经日，人为已毙，视之，气出怵怵然。父常念之，每遣家僮寻访，春冬必寄之衣及钱帛。捧之且喜，复书，遽遣家僮，乃厚遗之。才去，便以父所寄衣出街，路见贫寒者与之。及寄于酒家，一无所留。人或问之何为如此，曰：何能看得盗之所窃，必累于人，不衣不食，固无忧也。常欣欣然，或谓风狂，每行吟曰：线作长江扇作天，鞞鞋抛向海东边。蓬莱信道无多路，只在谭生拄杖前。尔后居南岳，炼丹成，服之，入水不濡，入火不灼，亦能隐化，复入青城而去。

### 杜升

杜升，字可云，自言京兆杜陵人也，莫测其年寿。不食，常饮酒三斗不醉，颜甚悦泽，若三十许人。裹大方巾，破帽，冬夏常著绿布衫，而言谈甚高，颇有文学。人有与换新巾衫，必受之，旧者坚不脱，得新者出门，逢人便与。常游城市门醉行。能沙书，好于水碗及盆内，以沙书龙字，浮而左右转，或叱之，则飞起，高丈余，隐隐若云雾，作小龙形，呼之复下水中。不就人求钱，人自以钱与之。召人穿檐行，少顷之间，得钱甚多，便散与贫人及酒家。如此到处，日为之，人皆不厌以钱与之，疑以术惑于众也。冬则卧于雪中三两日，人以为僵毙矣，或拔看之，徐起，抖擞雪而行，犹若醺酣气出，如夏醉睡醒也。

杜孺休，邠国公琮之子也，为苏州牧。或闻可云在城市，极喜，乃延入州，拜之，呼为道翁。宾客僚属皆讶之，孺休曰：先君出镇西川，日与此道翁深相喜重，常来去书斋中。时孺

休才年十余岁，今五十余岁，别道翁四十年，而装饰颜貌，一如当时。乃留之郡斋，咨以道术。可云曰：但以政化及人，慈爱为意，况今多事，尤在保身，未能脱履世尘，委家林野，宜远于兵伤，道术诂可问也。时郡人以钱帛与之，阻让不可，出城便散与人，孺休敬之愈甚。可云或与孺休宾僚聚饮，有唱和者，而可云出口成章，属章深远，多神仙旨趣，人无以缀之。后军乱，孺休果为兵伤而死。可云人见亦被伤杀，顷之，但有旧衫一领，作三四段斫破痕在地。后数日，人多见过松江、浙江，经杭、越、衢、信入江西，市醉吟、沙书如故。又一年，人于湖南见之，问苏州事，历历话而笑，复言曾居南岳，即当去矣。详而究之，是得隐形解化之道，人莫可知也。

### 羊愔

羊愔，太山人也。以世禄官，家于缙云。明经擢第，解褐喜州夹江县尉，罢归缙云。兄忻为台州乐安令。愔幽栖括苍山，性惟沉静，薄于世荣，志尚逍遥，常慕道术。一旦妻暴亡，曰：庄生鼓盆，迴为达者，今乐矣，葬之不亦宜乎！男且有业，女已有归，永无累也。后游阮郎亭，崖上去地十余丈，有篆石刻石，字极大，世传言阮肇题诗所成，使匠人鑿石摸搭。验之，乃唐李阳冰常为缙云令，游此亭题诗，曰：阮客身何在，仙云洞口横。人间不到处，今日此中行。

愔于亭侧，与缙云观道士数人，花时饮酒，日午，忽仆地若毙，气息犹暖，乃舁还家，七日方醒。乡里之人，与道士俱往问之，愔曰：“初为一人青帟绛服，自称灵英，邀入洞府中，见楼观宏丽，鸾鹄徘徊，天清景暖，异于人间。须臾，一石穴中有物飞出，状如簪，青色，柄长。灵英指之曰：此青灵芝也，可食之得仙。愔觉饥方甚，取坐于石上食之，味甘美，俄而都

尽。灵英曰：尔夙有仙分，今日遽得见仙官。乃引见仙官，戴远游冠、霞帔三人，文武侍从极多。灵英谓愔曰：一人小有天王君，一人华阳大茅君，一人隐玄天佐命君。愔历拜之，咸曰：有仙骨未能飞升，犹宜地上修炼。俄而灵英送出，乃括苍洞西门也。

愔方悟此身，后不喜谷气，但饮水三升，日食百合一盏。身轻，骨节皆动，抖擞如竹片及拍板声。又多言语吟咏，若与人谈话，昼夜不已。时或以纸三二百幅书之，顷刻皆遍文字，人莫识之。愔读之悉是文章，道侣好事者，依口录之，实亦清辞丽句，多神仙瀛洲阆苑之意。如此经年，清瘦轻健。有不信者，谓之妖物所魅。及二年，渐肥白，不喜食百合，惟饮水饮酒。三年，鬓发如漆，面有童颜，行步轻健似飞，饮酒三斗不醉，衣布褐。后南行入委羽山，人莫得见。

## 卷一百一十四 经传部·传十三

### 墉城集仙录叙

《墉城集仙录》者，纪古今女子得道升仙之事也。夫去俗登仙，超凡证道，驻隙马风灯之景，享庄椿蟾桂之龄，变泡沫之姿，同金石之固，长生度世，代有其人。绵历劫年，编载经诰，玄图秘篆，灿然可观。神仙得道之踪，或品升上圣，或秩预高真，或统御诸天，或主司列岳，或骑箕浮汉，或隐月奔晨，或朝宴九清，或徊翔八极。开皇已往，劫运之前，三洞宝书，多所详述。洎九皇三古之后，服牛乘马已还，皆辍天府而下拯生灵，由仙曹而暂司宰制，垂法立教，秉国佐时，儒籍史臣，备显其事。至有韬光混迹，驾景登晨。或功著岩林，朔烟霞而轻举；或身离器浊，控鸾鹤以冲虚。或躬赞帝王，或乐居氓俗。阴功克就，玄德升闻，使鸡犬以俱飞，拔庭除而共举。光于简册，无世无之。

昔秦大夫阮苍、汉校尉刘向，继有述作，行于世间。次有《洞冥书》、《神仙传》、《道学传》、《集仙传》、《续神仙传》、《后仙传》、《洞仙传》、《上真记》，编次纪录，不啻十家。又名山福地之篇、括地山海之说、搜神博物之记、仙方药品之文，旁引姓名，别书事迹，接于闻见，讵可胜言，则神仙之事，焕乎无隐矣。常俗之流，或言神仙者，必俟身形委谢，魂识成真，而后谓之神仙，非是骨肉升翥，此盖愚瞽未

达之甚也。何者？《真经》云：得道去世，或隐或显，证道虽一，修习或殊。故云神仙之道百数，非一途所限，非一法所拘也。或为真人之友，或为天帝之宾，倏忽而龙驾来迎，参差而云骈遐迈者，则谷希、长里、青光、赤松之例是也。或受书禀箒，阴景炼形，灵肉再生，前功克懋者，则五老、上帝、四极真王之例是也。或精诚不易，试难不移，目注昆丘，心朝大帝而得道者，黄观、韦道微、傅君之例是也。况复《大洞》、《七变》、《八禀》、《三图》、《胎精》、《斑符》、《隐芝曲素》、《玉精金液》、《黄水秘符》。《赤树青英》、《环刚绛实》、《白羽皇象》、《九转八琼》，服之而化凤化龙，饵之而为金为玉。复有《金珰》、《玉珮》之诀，《三皇》、《八景》之文，华丹素奏之灵，《神虎》、《金真》之要。飞行之羽，超虚蹑空；流金之光，摄神制逆。翱翔则翠羽玄翮，控御则飞盖曲晨。七十四方之所修，靡亏毫发；三十七色之所授，渐备羽仪。至或降九锡以腾凌，践七试而贞介。资师秘诀，证自我心。历象不能易其坚，雷霆不能骇其听，富贵不能惑其志，声色不能诱其衷，此则我命在我，长生自致。故古今得者，讵可殫论。南真云，功满三千，白日升天。弘道无已，自致不死。此之谓也。

夫神仙之上者，云车羽盖，形神俱飞；其次牝谷幽林，隐景潜化；其次解形托象，蛇蛻蝉飞。然而冲天者为优，尸解者为劣。又有积功未备，累德未彰，或至孝至忠、至贞至烈，或心不忘道、功未及人、寒栖独炼于己身、善行不加于幽显者，太上以其有志、太极以其推诚，限尽而终，魂神受福者，得为善爽之鬼。地司不制，鬼录不书，逍遥福乡，逸乐遂志，年充数足，得为鬼仙。然后升阴景之中，居王者之秩，积功累德，亦入仙阶矣。如此则善不徒施，仙固可学，功无巨细，行无洪

织，在立功而不休，为善而不倦也。修习之士，得不勩哉！

又一阴一阳，道之妙用，裁成品物，孕育群形，生生不停，新新相续。是以天覆地载，清浊同其功；日照月临，昼夜齐其用。假彼二象，成我三才。故木公主于震方，金母尊于兑泽，男真女仙之位，所治昭然。观夫诰籍之中，图传所述，混同载录，未有解张。今按上清七部之经、存注修行之事、日月五星之内、空常飞步之篇，元父玄母以兼行，阳号阴名而具著，纂彼众说，集为一家。女仙以金母为尊，金母以壙城为治，编记古今女仙得道事实，目为《壙城集仙录》。《上经》曰：男子得道，位极于真君；女子得道，位极于元君。此传以金母为主，元君次之，凡十卷矣。广成先生杜光庭撰。

### 西王母传

西王母者，九灵太妙龟山金母也。一号太灵九光龟台金母，亦号曰金母元君，乃西华之至妙、洞阴之极尊。在昔道气凝寂，湛体无为，将欲启迪玄功，生化万物，先以东华至真之气，化而生木公焉。木公生于碧海之上，苍灵之墟，以主阳和之气，理于东方，亦号曰王公焉。又以西华至妙之气，化而生金母焉。金母生于神洲伊川，厥姓缙氏。生而飞翔，以主阴灵之气，理于西方，亦号王母。皆挺质太无，毓神玄奥，于西方眇莽之中，分大道纯精之气，结气成形。与东王木公共理二气，而育养天地，陶钧万物矣。体柔顺之本，为极阴之元，位配西方，母养群品。天上天下，三界十方，女子之登仙得道者，咸所隶焉。

所居宫阙，在龟山之春山西那之都、昆仑玄圃阆风之苑。有金城千重，玉楼十二，琼华之阙，光碧之堂，九层玄台，紫翠丹房。左带瑶池，右环翠水。其山之下，弱水九重，洪涛万丈，非飙车羽轮不可到也。所谓玉阙壁天，绿台承霄，青琳之



宇、朱紫之房，连琳彩帐，明月四朗。戴华胜，佩灵章，左侍仙女，右侍羽童，宝盖沓映，羽旗荫庭。轩砌之下，植以白环之树，丹刚之林，空青万条瑶干。千寻无风，而神籁自韵，琅然皆九奏八会之音也。神洲在昆仑之东南，故《尔雅》云“西王母日下”是矣。又云王母蓬发戴胜、虎齿善啸者，此乃王母之使金方白虎之神，非王母之真形也。元始天王授以《万天元统》、《龟山九光》之策，使制召万灵，统括真圣，监盟证信，总诸天之羽仪。天尊上圣朝宴之会、考校之所，王母皆临映焉。上清宝经、三洞玉书，凡所授度，咸所关预也。

昔黄帝讨蚩尤之暴，威所未禁，而蚩尤幻化多方，徵风召雨，吹烟喷雾，师众大迷。帝归，息太山之阿，昏然忧寐。王母遣使披玄狐之裘，以符授帝曰：太一在前，天一在后，得之者胜，战则剋矣。符广三寸，长一尺，青莹如玉，丹血为文。佩符既毕，王母乃命一妇人，人首鸟身，谓帝曰：我九天玄女也。授帝以三宫、五意、阴阳之略，太一遁甲、六壬步斗之术，《阴符》之机，《灵宝五符》、《五胜》之文。遂克蚩尤于中冀，剪神农之后，诛榆罔于阪泉，而天下大定，都于上谷之涿鹿。又数年，王母遣使白虎之神，乘白虎，集帝之庭，授以地图。其后虞舜摄位，王母遣使，授舜白玉环，又授益地图。遂广黄帝之九州，为十有二州。王母又遣使献舜皇猷，吹之以和八风。

《尚书帝验期》曰：王母之国，在西荒之野。昔茅盈字叔申、王褒字子登、张道陵字辅汉，洎九圣七真，凡得受书者，皆朝王母于昆陵之阙焉。时叔申、道陵侍太上道君，乘九盖之车，控飞虬之轩，越积石之峰，济弱流之津，渡白水，凌黑波，顾盼倏忽，谒王母于阙下。子登清斋三月，王母授以《琼华宝曜七辰素经》。茅君从西城王君，诣白玉龟台，朝谒王母，求

乞长生之道曰：盈不肖之躯，慕龙凤之年，欲以朝菌之脆，求积朔之期。王母愍其勤志，告之曰：吾昔师元始天王，及皇天搏桑帝君，授我以玉珮金珰二景缠练之道，上行太极，下造十方，溉月咀日，以入天门，名曰《玄真》之经，今以授尔，宜勤修焉。因敕西城王君，一一解释以授焉。又授宝书《四童散方》。洎周穆王满命八骏与七萃之士，骅骝赤骥，蹈骊山子之乘，驾以飞縞之轮，柏夭导车，造父为右，风驰电逝三千里，越剖閭无帛之乡，犀玉玄池之野。吉日甲子，鼉鼉鱼龟为梁，以济弱水，而升昆仑玄圃阊风之野，而宾于王母。穆天子持白珪重锦，以为王母之寿。歌白云之谣，刻石纪迹于弇山之上，而还中土矣。

世之升天之仙，凡有九品：第一上仙，号九天真王；第二次仙，号三天真皇；第三号太上真人；第四号飞天真人；第五号灵仙；第六号真人；第七号灵人；第八号飞仙；第九号仙人。凡此品次，不可差越。然其升天之时，先拜木公，后谒金母，受事既讫，方得升九天，入三清，拜太上，觐奉元始天尊耳。故汉初有四五小儿，戏于路中，一儿歌曰：著青裙，入天门，揖金母，拜木公。时人皆莫知之，唯张子房知之，乃往拜焉，曰：此乃东王公之玉童也。仙人得道升天，当揖金母，而拜木公也。自非冲虚登真之子，莫知其津矣。

汉孝武皇帝彻，好长生之道。以元封元年，登嵩高之岳，筑寻真之台，斋戒精思。四月戊辰，王母使墉城玉女王子登来语帝曰：闻子欲轻四海之祿，迂万乘之贵，以求长生，真乎勤哉！七月七日，吾当暂来也。帝问东方朔，审其神应。乃清斋百日，焚香宫中。夜二唱之后，白云起于西南，郁郁而至，径趣宫庭。渐近，则云霞九色，箫鼓震空，龙凤人马之众，乘麟驾鹿之卫，科车天马，霓旗羽幢，千乘万骑，光耀宫阙。大仙

从官，森罗亿众，皆长丈余。既至，从官不知所在。王母乘紫云之辇，驾九色斑龙，带天真之策，佩金刚灵玺，黄锦之服，文彩鲜明，金光奕奕，腰分景色之剑，结飞云大绶，头上华髻，戴太真晨纓之冠，蹑方琼凤文之履，可年二十许，天姿奄蔼，灵颜绝世，真灵人也。下车扶侍二女登床，东向而坐。帝拜，跪问寒温，侍立良久，呼帝使坐，设以天厨。芳华百果，紫芝萎蕊，纷若真摠，精珍异常，非世所有，帝不能名也。又命侍女取桃，玉盘盛七枚，大如包（音保，与敌同）子，四以与帝，母自食三。帝食桃，辄收其核，母问何为，帝曰：欲种之耳。母曰：此桃三千岁一实，中国土地薄，种之不生，如何？于是王母命侍女王子登弹八珍之璈，董双成吹云和之笙，石公子击昆庭之玉，许飞琼鼓震灵之簧，婉凌华拊吾陵之石，范成君拍洞阴之磬，段安香作九天之钧，法婴歌玄灵之曲。众声激朗，清音骇空。歌毕，帝下席叩头，以问长生之道，王母曰：汝能贱荣乐卑，耽虚味道，自复佳耳。然汝性姿体欲，淫乱过甚，杀伐非法，奢侈姿性。夫侈者，裂身之车也；淫者，破身之斧也。杀者响对，奢者心烂，积欲则神陨，聚秽则命断。以子蕞尔之身，而宅残形之贼；盈尺之材，乃攻之者百刃。欲以解脱三尸，全身永久，不可得也。有似无翅之鷄，愿鼓天池；朝生之菌，而乐春秋者哉！若能荡此众乱，拔秽易意，保神气于绛府，闭淫宫而不开，静奢侈于寂室，爱众生而不危，守慈务施，炼气惜精，傥有若斯之事，岂无仿佛耶！若不尔者，譬如抱石，而济长河耳。帝跪受王母之诫，曰：彻不才，沉沦流俗，承禅先业，遂羁世累，刑政乖谬，罪积丘山，今日之后，请事斯语矣。

王母曰：夫养性之道、理身之要，汝固知矣，但在勤行不怠也。我师元始天王，昔于严霄之台，授我要言曰：欲长生者，

先取诸身，坚守三一保灵根，玄谷华体灌沉珍，溉长清精入天门，金室宛转在中关，青白分明适泥丸，养液闭精具身神，三宫备卫存绛宫，黄庭戊己无流源，彻通五脏十二经，吐纳六府魂魄欣，却此百病辟热寒，保精留命永长存。此所谓呼吸太和、保守自然，真要道者也。凡人为之，皆必长生，亦可役使鬼神，游戏五岳，但不得飞空腾虚而已。汝能为之，足可度世也。夫学仙者，未有不由此而始也。至若太上灵药，上帝奇物，地下阴生，重云妙草，皆神仙之药也。得上品者，后天而老，乃太上之所服，非中仙之所宝。其中品者，有得服之，后天之逝，乃天真之所服，非下仙之所逮。其次药有九丹金液，紫华虹英，太清九转，五云之浆，玄霜绛雪，腾跃三黄，东瀛白香，玄洲飞生，八石千芝，威喜九光，西流石胆，东沧青钱，高丘余粮，积石琼田，太虚还丹，盛以金兰，长光绛草，云童飞千。有得服之，白日升天，此飞仙之所服，非地仙之所闻。其下药有松柏之膏，山姜沉精，菊花泽泻，苟杞茯苓，菖蒲门冬，巨胜黄精，灵飞赤板，桃胶木英，升麻续断，威蕤黄连。如此下药，略举其端，草类繁多，名数有千。子得服之，可以延年。虽不能长享无期，上升青天，亦可以身生光泽，返老童颜，役使群鬼，得为地仙。求入道者，要先凭此阶，渐而能致远胜也。若能呼吸御精，保固神气，精不脱则永久，气长存则不死，不用药石之费，又无营索之劳，取之于身耳。百姓日用，而不知此，故为上品自然之要也。且夫一人之身，天付之以神，地付之以形，道付之以气。气存则生，气去即死，万物草木，亦皆如之。身以道为本，岂可不养神固气，以全尔形也。形神俱全，上圣所贵，形灭神逝，岂不痛哉！一失此身，万劫不复，子其宝焉。我之所言，乃我师元始天王所授之词也。即敕玉女李庆孙书，出之以付于帝，勸善修之焉。王母命驾将去，帝下席，叩头请

留。王母即命侍女，召上元夫人同降帝宫。良久，上元夫人至，复坐，设天厨。久之，王母命夫人出《八会》之书，《五岳真形》、《五帝六甲灵飞》之符，凡十二事，云此书天上四万劫一传，若在人间，四十年可授有道之士。王母乃命侍女宋灵宾开云锦之囊，取一策以授帝。王母执书，起立以付帝，王母咒曰：

天高地卑，五岳镇形。元真激气，太泽玄精。天回九道，六和长平。太上八会，飞天之成。真仙节信，由兹通灵。泄坠灭腐，宝归长龄。彻其慎之，敢告刘生。祝毕，帝拜授之。王母曰：夫始学道受符者，宜别祭川岳诸真灵，洁斋而佩之焉。四十年后，若将传付汝之所有，董仲君、李少君可校之尔。况为帝王，可勤祭川岳，以安国家，授简真灵，以祐黎庶也。言讫，与上元夫人命车言去，从官互集，将欲登天。因笑指方朔曰：此我邻家小儿，性多滑稽，曾三来偷桃矣。昔为太山仙官，因沉湎于玉酒，失部御之和，谪佐于汝，非流俗之夫也。

其后武帝不能用王母之戒，为酒色所惑，杀伐不休。征辽东，击朝鲜，通西南夷，筑台榭，兴土木，海内愁怨，自此失道。幸回中临东海三祠，王母不复降焉。所受之书，置于柏梁台上，为天火所焚。李少君解形而去，东方朔飞翥不还，巫蛊事起，帝愈悔恨。元始二年，崩于五柞宫，葬于茂陵。其后茂陵所藏道书五十余卷，盛以金箱，一旦出于抱犊山中，又玉箱玉杖出于扶风市。验茂陵宛然如故，而箱杖出于人间，此亦得托形尸解之验也。

又大茅君盈，南治句曲之山。元寿二年八月己酉，南岳真人赤君、西城王君、方诸青童，并从王母，降于茅盈之室。顷之，天皇大帝遣绣衣使者冷广子期，赐盈神玺玉策；太微帝君遣三天左宫御史管脩条，赐盈八龙锦舆、紫羽华衣；太上大道

君遣协晨大夫石叔门，赐盈金虎真符、流金之铃；金阙圣君命太极真人使正一上玄玉郎王忠、鲍丘等，赐盈以四节燕胎流明神芝。四使者授讫，使盈食芝佩玺，服衣正冠，带符握铃而立。四使者告盈曰：食四节隐芝者，位为真卿；食金阙玉芝者，位为司命；食流明金英者，位为司禄；食长曜双飞者，位为真伯；食夜光洞草者，总主左右御史之任。子尽食之矣，寿齐天地，位为司命，授东岳上卿，统吴越之神仙，综江左之山源矣。言毕，使者俱去。五帝君各以方面车服，降于其庭，传大帝之命，赐盈紫玉之版，黄金刻书，九锡之文。拜盈为东岳上卿司命真君太元真人。授事讫，俱去。王母及盈师西城王君，为盈设天厨，酣宴，歌玄灵之曲。宴罢，王母携王君及盈，省顾盈之二弟，各授道要。王母命上元夫人，授茅固、衷《太霄隐书》、《丹景道精》等丛刊宝经。王母执《太霄隐书》，命侍女张灵子执交信之盟，以授于盈、固及衷。事讫，西王母升天而去。

其后紫虚元君魏华存夫人，清斋于阳洛隐元之台，西王母与金阙圣君降于台中，乘八景舆，同诣清虚上宫，传《玉清隐书》四卷以授华存。是时三元夫人冯双礼、紫阳左仙公石路成、太极高仙伯延盖公子、西城真人王方平、太虚真人南岳赤松子、桐柏真人王子乔等三十余真，各歌太极阴歌阳歌之曲，母为之歌曰：

驾我八景舆，欵然入玉清。龙旌拂霄上，虎旗摄朱兵。逍遥玄津际，万流无暂停。哀此去留会，劫尽天地倾。当寻无中景，不死亦不生。体彼自然道，寂观合太冥。南岳挺真幹，玉映辉颖精。在任靡其事，虚心自受灵。嘉会绛河曲，相与乐未央。歌毕，三元夫人答歌亦竟，王母及三元夫人、紫阳左仙公、太极仙伯、清虚王君，乃携南岳魏华存，同去东南行，俱诣天台霍山，过句曲之金坛，宴太元茅真人于华阳洞天，留华存于

霍山洞宫玉宇之下，众真皆从王母，升还龟台矣。太真金母，师匠万品，校领群真，圣位尊高，总录幽显。至若边洞玄躬朝而受道，谢自然景侍而登仙，故《洞玄》及《自然传》，谓金母师即王母也。《玄经》所证事迹盖多，此未备录矣。

### 九天玄女传

九天玄女者，黄帝之师圣母元君弟子也。黄帝在昔，为有熊之国君，佐神农之孙，榆冈既衰，诸侯相伐，干戈相寻，各据方色，自称五行之号。太皞之后，自为青帝；榆冈神农之后，自号赤帝；共工之后，自号白帝；葛天氏之后，自号黑帝；帝起有熊之墟，自号黄帝。帝乃恭己下士，侧身修德，在位二十一年，而蚩尤肆虐。弟兄八十一人，兽身人语，铜头铁额，啖砂吞石，不食五谷，作五虎之形，以害黎庶，铸兵于葛炉之山，不用帝命。帝欲征之，博求贤能，以为己助。得风后于海隅，得力牧于大泽，以大鸿为佐，天老为师。置三公以象三台，风后为上台，天老为中台，五圣为下台。始获宝鼎，不爨而熟，迎日推策。以封胡为将，以夫人费修之子为太子，用张若、隰朋、力牧、容光、龙行、仓颉、容成、大挠、奢龙、众臣以为辅翼，战蚩尤于涿鹿。

帝师不胜，蚩尤作大雾三日，内外皆迷。风后法斗机作大车，以杓指南，以正四方。帝用忧愤，斋于太山之下。王母遣使，披玄狐之裘，以符授帝曰：精思告天，必有太上之应。居数日，大雾，冥冥书晦。玄女降焉，乘丹凤，御景云，服九色彩翠之衣，集于帝前。帝再拜受命，玄女曰：吾以太上之教，有疑可问也。帝稽首曰：蚩尤暴横，毒害蒸黎，四海嗷嗷，莫保性命。欲万战万胜之术，与人除害，可乎？玄女即授帝六甲、六壬兵信之符，《灵宝五符》策使鬼神之书，制袄、通灵五明

之印，五阴、五阳遁甲之式，太一、十精、四神胜负握机之图，五岳、河图策精之诀，九光、玉节、十绝、灵幡命魔之剑，霞冠火珮，龙戟霓旗，翠辇绿綵，虬骖虎骑，千花之盖，八鸾之舆，羽龠、玄竿、虹旌、玉钺神仙之物，五龙之印，九明之珠。九天之节以为兵信，五色之幡以辨五方。

帝遂复率诸侯再战。蚩尤驱魑魅杂祲以为阵，雨师风伯以为卫，应龙蓄水以攻于帝。帝尽制之，遂灭蚩尤于绝轡之野、中冀之乡，冢分其四肢以葬之。由是榆冈拒命，反诛之于版泉之野。北逐獯鬻，大定四方。步四极，凡二万八千里。乃铸鼎立九州，置九行九德之臣，以观天地，祠万灵，无法设教。然后采首山之铜，铸鼎于荆山之下，黄龙下迎，帝乘龙升天。皆由玄女之所授符策图局也。



## 卷一百一十五 纪传部·传十四

### 梁母

梁母者，盱眙人也。孀居无子，舍逆旅于平原亭。客来投憩，咸若还家，不异住客还钱多少，未尝有言，客住经月，亦无所厌。粗衣粝食之外，所得施诸贫病。曾有少年，住经月，举动异于常人。临去云：我是东海小童。母亦不知小童何人也。宋元徽四年丙辰，马耳山道士徐道盛暂至蒙阴，于绛城西遇一青羊车，车自住，见一小童子唤云：徐道士前来。道盛行进，去车三步许止。又见二童子，年十二三许，齐著黄衣，绛里，头上角髻，容服端正，世无比也。车中人遣一童子传语云：我是平原客舍梁母也，今被太上召还，应过蓬莱寻子乔，经太山检考，召意欲相见，果得子来。灵轡飘飘，玄岗险巖，津驿有限，日程三千，侍对在近，我心忧劳，便当乘烟三清。此三子见送玄都，因汝为我谢东方清信士女。太平在近，十有余一，好相开度，过此无忧危也。举手谢去，云太平相见。驰车腾游，极目而没。道盛还逆旅访之，正是梁母度世日相见也。

### 鲍姑

鲍姑者，南海太守鲍靓之女，晋散骑常侍葛洪之妻也。靓字太玄，陈留人也。少有密鉴，洞于幽元，沉心冥肆，人莫知之。靓及妹并先世累积阴德，福逮于靓，故皆得道。姑及小妹，

并登仙品。靓学通经纬，后师左元放，受中部法，及三皇五岳劾召之要。行之神验，能役使鬼神，封山制魔。东晋元帝大兴元年戊寅，靓于蒋山，遇真人阴长生，授刀解之术。累徵至黄门侍郎，求出为南海太守。以姑适葛稚川，稚川自散骑常侍，为炼丹砂，求为句漏县令。太玄在南海，小女及笄，无病暴卒，太玄时对宾客，略无悲悼。葬于罗浮山，容色若生人，皆谓为尸解。靓还丹阳，卒，葬于石子岗，后遇苏峻乱，发棺无尸，但有大刀而已。贼欲取刀，闻冢左右兵马之声，顾之惊骇，中间其刀旬然有声，若雷震之音，众贼奔走。贼平之后，收刀别复葬之。靓与妹亦得尸解之道，姑与稚川相次登仙。

#### 孙寒华

孙寒华者，吴人孙奚之女也。师杜契，受玄白之要，容颜日少，周旋吴越诸山十余年，乃得仙道而去。

#### 李奚子

李奚子者，晋东平太守李忠祖母也，不知姓氏。忠祖父贞节丘园，性多慈悯，以阴德为事。奚子每与一志，务于救人。大雪寒冻，路积稻及谷于园庭，恐禽鸟饿死，其用心如此。今得道而居华阳洞宫中也。

#### 韩西华

韩西华者，不知何许人也。慈爱于物，常行阴功，至于蛸翘微命，皆爱而护之。学道得仙，今在嵩山洞天之中。

#### 窦琼英

窦琼英者，窦武之妹也。其七代祖名峙，常以葬枯骨为事，

以活死为心，故祚及琼英，令行女仙，在易迁宫中。

刘春龙

刘春龙、郭叔香，并不知何许人也。以其先世有阴德，故皆得遁化练景，入华阳易迁宫中。刘春龙、窦琼英、韩太华、李奚子，并天姿严丽，仪冠骇众，才识伟铄。皆得为明晨侍郎，以居洞中。侍郎之任，以良才举之，不限男女也。

赵素台

赵素台者，汉幽州刺史赵熙之女也。熙少有善行，常济穷困，救王惠等族，殊有阴德。数十年，熙得身诣朱陵，儿子得游洞天素台，在易迁宫中已四百年，不肯移去。自谓天下无复乐于此处也。数微服游行，眇山泽以自足。易迁夫人者，乃其品也。

傅礼和

傅礼和者，北地傅建之女也。举家奉佛，礼和常日日洒扫佛前，每发愿，云独慕仙道。常服五星精，身生光华，得道仙去。善为空洞之歌，歌则禽鸟翔舞而集飞，聚其前以听之。此乃至诚所感而获道也。

黄景华

黄景华者，汉司空黄琼之女也。景华少好仙道，常密修至要。后师韩君，授其岷山丹方，服之得入易迁宫，位为协晨夫人，领九宫，诸神女亦总教授之。

张微子

张微子者，汉昭帝大匠张庆之女，不知何郡人也。微子少好道，因得尸解去，在太元司命华阳舍真台，师东华玉妃，受服雾气之道。云雾是山泽水火之华，金石盈气，久服之，能散形入空，与云雾合体。微子修之，得其仙道也。

丁淑英

丁淑英者，不知何许人也。有救穷之阴德，度赵阜之急难，上感皇人，授其道要。今为朱陵嫔，数游三清，司命亦令听政也。

王法进

王法进者，剑州临津县人也。孩孺之时，自然好道。家近古观，虽无道士居之，其嬉戏未尝轻侮，于尊像见必敛手致敬，若有凜惧焉。十余岁，有女官自剑州，历外邑过其家，父母以其慕道，托女官以保护之，与授《正一延生策》，名曰法进。而专勤香火，护持斋戒，亦茹柏绝粒，时有感降。是岁三川饥歉，斛斗翔贵，死者十有五六，多采山芋野葛充饥。忽有二青童降于其庭，宣上帝之命曰：以汝宿稟仙骨，归心精诚，不忘于道，今以青童召汝，受事于玉京也。法进即随青童，腾身凌虚，径达太帝之所，命以玉杯霞浆赐之。

饮讫，帝谓之曰：人稟五行之大体、天地之和气，得为人形，复生中土，甚不易也。而天运四时之气，地稟五行之秀，生五谷百果，以养于人。而人不知天地养育之恩，轻弃五谷，厌舍丝麻。使耕农之夫、纺织之妇，身勤而不得饱，力竭而不免寒，徒施其劳，曾不爱惜。斯固神明所责，天地不祐也。近者，地司岳渎日有奏，言人厌贱米麦，不贵衣食之本。我已敕太华之府，收五谷之神，令所种不成，下民饥饿，因示责罚，

以惩其心。世愚悠悠，曾未觉悟。旋奉太上所敕，以大道好生，不可因彼恶民，以害众善。虽天地神明，罪之愚民亦不知过之所起，因无忤请首原之路，虚受其苦耳。汝当为无上侍童，入侍天府。今且令汝下于世，告谕下民，使其悔罪，宝爱桑蚕，贵敬农事，惜五谷百果，知大道之养人、厚地之育物，宗奉正道，崇事神明。至于水火之用，不可厌弃，衣食之养，俭已约身。皆能行此明戒，天地爱之，神明护之，风雨顺调，家国安泰，此乃增益汝之阴功也。即命侍女披琅笈珠璣，出《灵宝清斋告谢天地法》一卷付之，传行于世。曰：世人可相率幽山高静之处，置斋悔谢，一年之内，春秋两为，春则祈于年丰，秋则谢于道力。如此则宿罪可除，谷父蚕母之神为置丰衍也。龙虎之年，复当召汝矣。命青童送还其家，已三个月也。

所受之书，即今《灵宝清斋告谢天地之法》是也。其法简易，与《灵宝自然斋》大率相类。但人间行之，立成徵效。苟或几席器物，小有轻慢浊污者，营奉之人，少有不公心者，即飘风骤雨坏其坛筵，迅雷吼雷毁其器用。自是三川梁汉之人，岁皆崇事，虽愚朴之士，狂暴之夫，罔不战栗兢戒，肃恭擎跽，知奉其法焉。或螟蝗旱潦害稼伤农之处，众诚有率勉于修奉之处，炷香告玄，旦夕响应，必臻其祐。与不虔不信之徒，立可较其徵验矣。巴南谓之清斋，蜀土谓之天功斋，盖一揆矣。法进以天宝十一年壬辰岁，云鹤迎之而升天。此乃亦符龙虎之运、神人之言矣。

### 王氏

王氏者，中书舍人谢良弼之妻也，东晋右军逸少之后，会稽人也。良弼进士擢第，为浙东从事而婚焉。既而抱疾沉痾，历年未愈，良弼赴阙，竟不果行，而加绵笃。时吴筠天师游四

明、天台、兰亭、禹穴，驻策山阴，王氏之族，谒而求救，为禁水吞符，信宿即愈。王氏感道力救护，乃诣天师，受篆精修，焚香寂念，独处静室，志希晨飞。因绝粒咽气，神和体轻。时有奇香，异云临映居第，仿佛真降，密接灵仙，而人不知也。

忽谓其女曰：吾昔之所疾，将仅十年，赖天师救之，而续已尽之命。悟道既晚，修奉未精，宿考过往，忤之未尽。吾平生以俗态之疾，颇怀妒自，今犹心闭藏黑，未通于道。当须阴景炼形，洗心易藏，二十年后，方得蝉蜕耳。吾死勿用棺器，可作柏木帐，致尸于野中，时委人检校也。是夕而卒，家人所殡如其言，凡事俭约。置其园林间，偃然如寐，亦无变改。二十年，有盗发殡，弃其形于地。隆冬之月，帐侧忽闻雷震之声，举家惊异，驰行看之。及举其尸，则身轻如空壳，肌肤爪发，无不具备，右肋上有折痕，长尺余，即再收瘞。为南岳夫人尝言，得道者，上品白日升天，形骨俱飞，上补真官；次者蜕如蛇蝉，亦形骨腾举，肉质登天，皆为天仙，不居山岳矣。良弼亦执弟子之礼，躬侍天师，仍与天师立传，详载其事迹矣。

### 花姑

花姑者，女道士黄灵微也。年八十而有少容，貌如婴孺，道行高洁，世人号为花姑。蹠履徐行，奔马不及，不知何许人也。自唐初来往江浙湖岭间，名山灵洞，无所不造。经涉之处，或宿于林野，即有神灵卫之，人或有不正之念，欲凌侮者，立致颠沛。远近畏而敬之，奉事之如神明矣。闻南岳魏夫人，平昔渡江修道，有坛靖在临川郡，临汝水西石井山，有仙坛，遂访求之。岁月且久，榛芜沦翳，时人莫得知之。以则天长寿二年壬辰冬十月，诣洪都西山，谒道士胡超而问焉。超字拔俗，能通神明，即为指南郭六里许，有乌龟原，古有石龟，每犯田

苗，被人击，其首折则其处也。姑访之，见龟之左右，坛迹宛然，立处当坛中矣。于其下得尊像、油瓷、锥刀、灯盏之类，因葺而兴之。复梦夫人指九曲池于坛南，访而获之，砖砌尚在。

景云中，睿宗皇帝使道士叶善信，将绣像幡花来修法事，仍于坛西建洞灵观，度女道士七人，住持洎明皇，醮祭祈祷不绝。每有风雨，或闻箫管之声。凡是礼谒，必须严洁，不尔，有蛇虎惊吼之异。时有云物如鸟，群飞垂带，直下坛上，倏忽西出，如向井山，前后非一而已。花姑盼苾灵通，密有所告曰：井山古迹，汝须崇修。俄闻异香从西来，姑累得嘉兆，躬申葺理，行宿洞口，闻钟磬之音，虽荒梗多时，若有人接导。寓宿林莽，怡然甚安。达明入山，果遇坛殿余址，遂立屋宇，闻步虚仙梵之响，环坛数里。有樵采不精洁者，必有怪异之惊。有野象中箭，来投花姑，姑为拔之，其后每斋前，则衔莲藕以献姑。开元九年辛酉岁，姑欲升华，谓其弟子曰：吾仙程所促，不可久住，吾身化之后，勿钉吾棺，只以绛纱罩覆棺上而已。明日，无疾而终，肌肤香洁，形气温暖，异香满于庭堂之内。弟子依所命，棺不钉，以绛纱覆之而已。忽闻雷震击纱上，有孔大如鸡子，棺中唯有被覆木简，屋上穿处可通人。座中奠瓜，数日生蔓，结实如桃者二焉。每至忌辰即风云郁勃，直入室内。明皇闻而骇之，使复其事，明日，使道士蔡伟，编入《后仙传》。

开元二十八年庚辰三月乙酉，敕道士賁龙璧来醮，忽有白鹿自坛东出，至姑冢间而灭，即花姑葬空棺木简之处。又有五色仙蛾，集于坛上。刺史张景佚，以为圣德所感，立碑颂述。天宝八载己丑，以魏夫人上升之所，度女道士二人，常修香火。大历三年戊申，鲁郡开国公颜真卿为抚州刺史，旧迹荒毁，阙人住持，召仙台观道士谭仙岩、道士黄道进二七人住洞灵观，

又以高行女道士黎琼仙七人居仙坛院。颜公述仙坛碑而自书之，以纪其事迹焉。

### 徐仙姑

徐仙姑者，隋朝仆射徐之才女也。不知师奉何人。已数百岁，状貌常如二十四五岁矣。善禁咒之术。独游海内，三江、五岳、天台、四明、罗浮、括苍，名山胜赏，无不周遍。多宿岩麓林窟之中，亦寓止僧院。忽为豪僧数辈，微词巧言，姑辄骂之。群僧激怒，欲以刃制之，词色愈孌女，姑笑曰：我女子也，而能弃家云水，不避蛟龙虎狼，岂惧汝鼠辈乎！即解衣而卧，遽撤其烛，僧辈喜，以为得志也。明日，姑理策出山，诸僧一夕皆僵立尸坐，若被拘缚，口禁不能言，姑去数里，僧乃如故。来往江表，吴人见之四十余年矣，颜色依旧。其行若飞，所至之处，畏而敬之，若神明矣，无敢以非正之意戏侮者。咸通初，谓贍县白鹤观道士龔云陶曰：我先君仕历周隋，以方术闻名，阴功及物，今亦得道，故我为福所及，亦延年长生耳。以此详之，即实之才之女也。

### 缙仙姑

缙仙姑者，长沙人也。入道居衡山，年八十余，容色甚少。于岳之下魏夫人仙坛，精修香火十余年，孑然无侣。坛侧多虎狼，常人游者须结侣，执兵器方敢入，仙姑深隐其间，曾无所畏。数年后，有一青鸟，形如鸠鸽，红顶长尾，飞来所居，自语曰：我南岳夫人使也，以姑修道精苦，独栖穷林，命我为伴耳。他日，又言西王母姓缙，乃姑之圣祖也，闻姑修道勤至，将有真官降而授道，但时未至耳，宜勉于修励也。每有人游山，必青鸟豫说其姓字，及其日，一一皆验。又曰：河南缙氏王母



修道之处，故乡之山也。

又一日，青鸟飞来曰：今夕有暴客，无害，勿以为怖也。其夕，果十余僧来。魏夫人仙坛，乃是一片巨石，方可丈余，其下宛然浮寄他石之上，或一人以手推之则摇动，人多则屹然而住。是夜群僧持火杖刀，将害仙姑。入其室，姑在床上，而僧不见，既出门，即推坏仙坛，轰然有声，山震谷裂，谓已颠坠矣，而终不能动，僧相率奔去。及明，有至远村者，分散九僧，为虎噬杀。一僧推坛之时，不同其恶，免为虎害。夫人仙坛俨然无损，姑亦无恙。岁余，青鸟语姑迁居仙所，因徙居湖南，鸟亦随之，而他人未尝会其语。相国文昭郑公敞，自承旨学士左迁梧州牧，师事于姑，姑谓文昭公曰：此后四海多难，人间不可久居，吾将卜隐九疑矣，一旦遂去。

#### 广陵茶姥

广陵茶姥者，不知姓氏乡里。常如七十岁人，而轻健有力，耳聪目明，头发鬢黑。晋元南渡之后，耆旧相传见之，百余年颜状不改。每持一器茗往市鬻之，市人争买，自旦至暮，所卖极多，而器中茶常如新熟，而未尝减少，人多异之。州吏以冒法系之于狱，姥乃持所卖茗器，自牖中飞去。

## 卷一百一十六 纪传部·传十五

### 南溟夫人

南溟夫人者，居南海之中，不知品秩之等降，盖神仙得道者也。有元彻、柳实二人，同志访道，于衡山结庐栖遁。岁余，相与适南，至广州合浦县，登舟将越海而济，南抵交止。维舟岸侧，适村人享神，箫鼓喧奏，舟人水工，至于仆使，皆往观焉，唯二子在舟中。俄尔飓风断缆，漂舟入海，莫知所之，几覆没者二三矣。忽泊一孤岛，风浪亦定。

二子登岸，极目于岛上，见白玉天尊像，莹然在石室之内，前有金炉香炷，而竟无人。二子周览怅望，见一巨兽出于波中，若有所察，良久而没。俄尔紫云涌于海面，弥漫三四里，中有大莲花，高百余尺，叶叶旋舒，内有帐幄，绮绣错杂，虹桥阔数十尺，直抵岛上。有侍女捧香，于天尊像前，炷香未已，二子哀叩之，以求救拔，愿示归路。侍女讶曰：何遽至此耶？以事白之，侍女曰：少顷，南溟夫人与玉虚尊师约子，可求而请之也。侍女未去，有一道士，乘彩云白鹿而至。二子哀泣以告之，道士曰：可随此女，谒南溟夫人也。二子受教，随侍女登桥，至帐前，再拜稽首，以漂泛之由，述其姓字。夫人命坐，尊师亦至，环坐奏乐，顷之进饌。尊师曰：二客求人间饌以享之。饌毕，尊师以丹篆一卷授夫人，夫人拜受讫，尊师告去，谓二子曰：有道气，无忧归路也。合有灵药相赠，子分未合，

当自有师，吾不当为子之师也，他日相见矣。二子拜辞，尊师乘鹿而去。

顷有武夫，长十余丈，金甲，执剑进曰：奉使天吴，清道不谨，法当显戮，今已行刑。遂趋而没。夫人即命侍女，示二子归路，曰：从百花桥去。赠以玉壶，曰：前程有事，可叩此壶也。遂辞夫人，登桥而去。桥长且广，栏干上皆异花，二子花间窥见千虬万龙，互相缴结而为桥矣。见向之巨兽，已身首异处，浮于波间。二子问所送使者斩兽之由，答曰：为不知二客故也。使者谓二客曰：我不当为使送子，盖有深意，欲奉托也。衣带间解琥珀合子与之，中有物隐隐然，若蜘蛛形。谓二子曰：我辈水仙也，顷与番禺少年，情好之至，有一子三岁，合弃之，夫人令与南岳郎君为子矣。中间回雁峰使者有事于水府，吾寄与子所弄玉环与之，而为使者隐却，颇以为怅。望二客持此合子，于回雁峰庙中投之，若得玉环，为送岳庙，吾子亦当有答，慎勿开启。二子受而怀之。又问：玉虚尊师云子自有师，谁也？曰：南岳太极先生耳，自当遇之。须臾桥尽，与使者相别，已达合浦之岸。问其时代，已十二年矣。于是将还衡山，中途馁甚，试叩玉壶，则珍味至。二子一食，不复饥渴。

及还，妻已谢世，家人曰：郎君溺海，十余年矣。自此二子益有厌俗之志，无复名宦之心。乃登衡岳，投合子于回雁峰庙，瞬息之间，有黑龙长数丈，激风喷电，折木拔屋，霹雳一声，庙宇立碎。战栗之际，空中有人以玉环授之，二子得环，送于岳庙。及归，有黄衣少年，持二金合以酬二子，曰：南岳郎君，持此还魂膏以报君也。家有毙者，虽一甲子，犹可涂顶而活。既受之，而失其使。二子遂以膏涂活其妻。后因大雪，见一樵叟负重凌寒，二子哀其老，以酒饮之。忽见其檐上有“太极”字，遂礼而为师，曰：吾得神仙之道，列名太极矣，太

上敕我来度子耳。因见玉壶，曰：此吾贮玉液之壶，亡来数十甲子，甚喜再见。遂以玉壶献之。二子随太极先生入朱陵宫、祝融峰，历游诸仙府，与妻俱得升天之道。

### 边洞玄

边洞玄者，范阳人女也。幼而高洁敏慧，仁慈好善。见微物之命，有危急者，必俯而救之，救未获之间，忘其饥渴。每霜雪凝沍，鸟雀饥栖，必求米谷粒食，以散鬻之。岁月既深，鸟雀望而识之，或飞鸣前导，或翔舞后随。年十五，白其父母，愿得入道修身，绝粒养气。父母怜其仁慈且孝，未许之也。既笄，誓以不嫁，奉养甘旨。数年，丁父母忧毁瘠不食，几至灭性。服阕，诣郡中女官，请为道士。终鲜兄弟，子无近亲，性巧慧，能机杼，众女官怜而敬之。纺织勤勤，昼夜不懈。每有所得，市胡麻、茯苓、人参、香火之外，多贮五谷之类。人或问之：既不食累年，而贮米麦何也？岂非永夜凌晨，有饥渴之念耶？笑而不答。然每朝于后庭，散米谷以饷禽鸟，于宇内以饷鼠，积岁如之，曾无怠色。一观之内，女官之家，机织为务，自洞玄居后，未尝有鼠害于物，人皆传之，以为阴德及物之应也。性亦好服饵，或有投以丹药、授以丸散，必于天尊堂中，焚香供养，讫而后服之。往往为药所苦，呕逆吐痢，至于疲剧，亦无所怨叹，疾才已，则吞服如常。其同道惜之，委曲指喻，丁宁挥解，而至信之心，确不移也。苟遇岁饥，分所贮米麦以济于人者，亦多矣。

一旦，有老叟负布囊，入观卖药，众因问之：所卖者何药也？叟曰：大还丹，饵服之者，长生神仙，白日升天。闻之皆以为笑。叟面目<黑干>黑，形容枯槁，行步伛偻。声才出口，众笑谓之曰：既还丹可致不死，长生升天，何憔悴若此，而不

自恤邪？叟曰：吾此丹初熟，合度人立功，度人未滿，求仙者难得，吾不能自服，便飞升冲天耳。众问曰：举世之人，皆愿长生不死，延年益寿，人尽有心，何言求仙者难得也？叟曰：人皆有心好道，而不能修行。能好道复能修行，精神不退，勤久其事，不被声色所诱，名利所惑，奢华所乱，是非所牵，初心不变，如金如石者，难也。百千万人无一人矣。何谓好道也。问曰：贵为天子，富有四海，有金丹之药，何不献之，令得长生永寿也？叟曰：天上大圣真人，高真上仙，与北斗七元君，轮降人间以为天子。期滿之日，归升上天，何假服丹而得道也。又问曰：既尽知之，今天子是何仙也？曰：朱阳太一南宮真人耳。问答之敏，事异于人，发言如流，人不可测。逡巡暴风雷雨，递相顾视，惊悸异常，众人稍稍散去。

叟问众曰：此有女道士，好行阴德，绝粒多年者何在？因指其院以示之。叟入院，不扣问，径至洞玄之前，曰：此有还丹大药，远来相救，能服之邪？洞玄惊喜延坐，问药须几钱。叟曰：所直不多，五十万金耳。洞玄曰：此穷窘多年，殊无此钱，何以致药耶？叟曰：勿忧，子自幼及今四十年矣，三十年积聚五谷，餽饲禽虫，以此计之，不啻药价也。即开囊示之，药丸青黑色，大如梧桐子者二三斗，令于药囊中自探之。洞玄以意，于药囊中取得三丸，叟曰：此丹服之，易肠换血，十五日后，方得升天，此乃中品之药也。又于衣裾内解一合子，大如钱，出少许药，如桃胶状，亦似桃香。叟自于井中汲水调此桃胶，令吞丸药，叟喜曰：汝之至诚感激，太上有命，使我召汝。既服二药，无复易肠换血之事，即宜处台阁之上，接真会仙，勿复居臭浊之室。七日即可以升天，当有天衣天乐自来迎矣。须臾雨霁，叟不知所之。众女官奔诣洞玄之房，问其得药否。具以告之，或嗤其怪诞，或叹其遭遇，相顾惊骇。由是郡

众之人有知者，亦先驰往观之，于是洞玄告人曰：我不欲居此，愿登于门楼之上。顾眄之际，楼犹扃锁，洞玄告人曰：我不于此。语犹未终，已腾身在楼上矣。异香流溢，奇云散漫，一郡之内，观者如堵。太守僚吏、远近之人，皆礼谒焉。

洞玄告众曰：中元日早必升天，可来相别也。众乃致斋大会，七月十五日辰时，天乐满空，紫云蓊郁，莹绕观楼，众人见洞玄升天，音乐导从，幡旌罗列，直南而去，午时云物方散矣。太守众官具以奏闻。是日辰巳间，大唐明皇居便殿，忽闻异香纷郁，紫炁充庭，有青童四人，导一女道士，年可十六七，进曰：妾是幽州女道士边洞玄也，今日得道升天，来以辞陛下。言讫，冉冉而去。乃诏问所部，奏函亦驺骑驰至，与此符合。敕其观为登仙观，楼曰紫云楼，以旌其事。是岁，皇妹玉真公主咸请入道，进其封邑及实封。由是上好神仙之事，弥更勤笃焉。仍敕校书郎王端敬之为碑，以纪其神仙之盛事者也。

### 黄观福

黄观福者，雅州百丈县民之女也。自幼不食荤血，好清净。家贫无香，取柏叶柏子焚之，每凝然静坐，无所营为，经日不以为倦。或食柏叶，饮水自给，不嗜五谷。父母怜之，听其率性任意。既笄欲嫁之，忽谓父母曰：门首水中极有异物。常时多与父母说奇事，先兆往往信验，闻之，固以为然。随往看水，果汹涌不息，乃自投水中，良久不出。父母捞拯，得一木像天尊，古昔所制，金彩已驳，状貌与女无异。水即澄清如旧，无复他物，便以木像置于路侧，号泣惊异而归。其母时来视之，忆念不已。忽有彩云仙乐，导卫甚多，与女伴三人下其庭中，谓父母曰：女本上清仙人也，有小过谪在人间，年限既毕，复归上天，无至忧念也。同来三人，一是玉皇侍女，一是大帝侍

晨女，一是上清侍女。我姓黄名观福，此去不复来矣。今年此地疾疫，死者甚多，以金遗父母，使移家益州，以避凶岁。即留金数饼，升天而去。父母如其言，移家蜀郡。其岁疫毒黎民，雅地尤甚，十丧三四，即麟德年也。今俗呼为黄冠佛，盖以不识天尊像，仍是相传语讹，以黄观福为黄冠佛也。

### 阳平治

阳平治，谪仙妻，不知其名。九陇居人张守圭家甚富，有茶园在阳平化仙居山内，每岁召采茶人力百余辈，男女佣工者杂之园中。有一少年，赁为摘茶，自言无亲族。性甚了慧勤，愿守圭怜之，以为义儿，又一女年二十余，亦无亲族，愿为义儿之妇，孝义端恪，守圭甚善之。一旦山水泛滥，市井路绝，盐酪既阙，守圭甚忧。新妇曰：此可买耳。取钱出门十数步，置钱树下，以杖扣树，得盐酪而归。后或有所要，但令扣树取之，无不得者，其夫术亦如此。因与邻妇十数人，于棚口市相遇，为买酒一碗，与众妇饮之。皆醉而碗中酒不减，远近传说，人皆异之。

守圭请问其术受于何人，少年曰：我阳平洞中仙人耳，因有小过，谪于人间，不久当去。守圭曰：洞府大小，与人间城阙相类否？答曰：二十四化各有一大洞，或方千里五百，三百里。其中皆有日月飞精，谓之伏神之根，下照洞中，与世间无异。其中皆有仙王，仙卿仙官辅相佐之，如世之职司。有得道之人，及积功迁神反生之者，皆居其中，以为民庶。每年三元大节，诸天各有上真下游洞天，以观其所理善恶。人世死生兴废、水旱风雨，预关于洞中焉。其龙神祠庙、血食之司，皆为洞府所统也。二十四化之外，其青城、峨嵋、益登、慈母、繁阳、蟠冢皆亦有洞，不在十大洞天、三十六小洞天之数。洞之

仙曹，如人间郡县聚落耳，不可一一详记之也。旬日之间，忽夫妇俱去。

### 神姑

神姑者，卢眉娘是也。后魏北祖帝师卢景祚之后，生而眉长且绿，因以为名。永贞元年，南海太守以其奇巧而神异，贡于京。卢眉娘幼而慧晤，能以一丝析为三缕，染彩于掌中，结为伞盖五重。其中有十洲三岛、天人玉女、台殿麟凤之像，而外列执幢捧节仙童，不啻千数。其阔一丈，秤之无三数两。自煎灵香膏传之，则虬硬不断。顺宗皇帝叹其巧妙，二宫内谓之神姑。入内时方年十四，每日但食胡麻饭三二合。至元和中，宪宗皇帝嘉其聪慧，因赐金凤环，以束其腕。久之，不愿在宫掖，乃度为女道士，放归南海，赐号曰逍遥。数年不食，常有神人降会，一旦羽化，香气满室。将葬，举棺觉轻，撤其盖，唯旧履而已。往往人见乘紫云，于海上罗浮。李象先作《卢逍遥传》，苏鹗载其事于《杜阳编》中焉。

### 王奉仙

王奉仙者，宣州当涂县民家之女也。家贫，父母以纺织自给。而奉仙年十三四，因田中饷饭，忽见少年女十余人，与之嬉戏，久之散去，他日复见如初。自是，每到田中饷饭，即聚戏为常矣。月余，诸女夜会其家，竟夕言笑，达晓方散。或携奇果，或设珍饌，非世所有。其房宇湫陋，来众虽多，不以为窄。父母闻其言笑，疑焉，伺而察之，复无所见。又疑妖魅所惑，诘之甚切，必托他词以对。自是诸女不复夜降，常昼日往来。或引其远游，凌空泛回，无所不到，至暮乃返。仍不饮不食，日加殊异。一日将夕，母氏见其自庭际竹杪，坠身于地，



母益为忧，恳问其故，遂以所遇之事言之，父母竟未谕其本末。诸女剪奉仙之发，前露眉，后垂至肩，自此数年，发竟不长。不食岁余，肌肤丰莹，洁若冰雪，螭首蛟领，皓质明眸，貌若天人，智辩明晤。江左之人谓之观音焉。

咸通末，相国杜公审权镇金陵，令狐公綯镇维扬，延请供养，声溢江表。其后秦彦请留于江都，展师敬之礼。高士主父怀杲正直倜傥，疑以为邪，诣而问之。奉仙欣然加敬，话道累日。主父问：所论之理，颇合玄要，何复有观音之目耶？奉仙曰：其所遇者道也，所得者仙也，嗤俗之徒，加我以观音之号耳。然顷岁，杜公搜于蓬茅之下，欲贡于宫掖之内，适以断发免。未容归侍膝下，遂虐留寺中。闾巷不知，腾口虚誉，至有擎香捧烛，施宝投金，嚣然经年，莫知窜免。而今日遂其修养，不拘闭于后庭者，亦是真仙冥祐，断发齐领之明效也，得不自以为慰喜耳。且名之与道，两者无滞。庄生云，人以我为牛，而我为牛；人以我为马，而我为马。忘形体真者，不以名为累也，故亦不鄙人尔。且某所见之女，年可十八九，容貌异常，著云霞锦绣，大袖之衣。执持者仙花灵草，吟咏者仙经洞章，所话乃神仙长生度世之事。随其所行，逍遥迅速，不知其倦。所到天宫仙阙，金楼玉堂，修廊广庭，芝田云圃，神禽天兽，珍木灵芳，非世间所睹。过星汉之上，不知几千万里，朝谒天尊。天尊处广殿之中，羽卫森列，告奉仙曰：汝寄生人世，五十年后当还此。敕左右以玉浆一杯见赐。饮毕，戒曰：百谷之实、草木之果，食之杀人，夭汝年寿，特宜绝之。是以不食二十年矣。

夫天尊，行化天上，教人以道，延人以生，主宰万物，覆育周遍，如世人之父也。释迦行化世上，劝人止恶，诱人求福，如世人之母也。仲尼儒典，行于人间，示以五常，训以百行，

如世人之兄也。世之婴儿，但识其母，不知有兄、父之尊。故常常之徒，知道者稀，尊儒者寡，不足怪也。且所见天上之人，男子则云冠羽服，或髻髻青襟，女子则金翘翠宝，或三鬟双角。手执玉笏，项负圆光，飞行乘空，变化莫测。亦有龙麟鸾鹤之骑，羽幢虹节之仗，如人间帝王耳。了不见有菩萨佛僧之像也。因出其所供养图绘甚多，率是天人帝王、道君飞仙之状，亦无僧佛之容焉。

自咸通迄光启四十年间，游淮浙之宛陵，所至之处，观者云集。其警俗也，常以忠孝贞正之道、清净俭约之言、修身密行之要，故远近瞻敬。凡金宝货，委之于前，所施亿万，皆弃之去，而未尝顾也。虽三淮沸浪，四野腾烟，栖止自若，曾不为患。其有拥众威悍，如孙儒、赵宏、毕师铎，欲以不正逼之，白刃胁之，及睹其神貌，不觉折腰屈膝，伸弟子之礼。后与二女弟俱入道，居洞庭山。光启初，迁余杭界千顷山。山下之人，为棣华宇以居之。岁余，无疾而化，年四十八。有云鹤异香之瑞，果符五十年之言矣。况其不食三十年，童颜雪肌，常若处子，非金丹玉液之效，岂能与于此哉！又往往神游天界，端坐逾月，或下察地府冥关之事，坐见八极，多与有道者言之。世人不知，以为坐忘耳。乃南极元君，及东陵圣母之俦侣者乎。

### 薛玄同

薛氏者，河中少尹冯徽之妻也，道号玄同。适冯徽二十年，乃言素志，托疾独处，誓焚香念道，持《黄庭经》，日三两遍。又十三年，夜有青衣玉女二人降其室内，将至，有光如月，照其庭庑，香风飒然。时当初秋，残暑方甚，而清凉虚爽，飒若洞中。二女告曰：紫虚元君，主领南方下教之籍。命诸真大仙，于四海之外、六合之内、名山大川，有志慕长生、心冥真道者，

必降而教之。玄同善功，为地司累奏，简在紫虚之府，况闻女子立志，元君尤嘉其用心，即日将亲降于此。如是凡五夕，焚香严盛，以候元君。咸通十五年甲午七月十四日，元君与侍女群真二十七人，降于其室，玄同拜迎于门。元君憩坐良久，示以《黄庭》填神存修之旨，赐九华之丹一粒，使八年后吞之，当遣玉女飙车，迎汝于嵩岳矣。言讫散去。玄同自是冥心静神，往往不食。虽真仙降眄，光景烛空，灵风异香，云璈钧乐，奏于其室，冯徽亦不知也。徽以玄同别室修道，邈不可亲，愚嫉之怀，常加毁笑，每获东陵之疑矣。

洎广明庚子之岁，大寇犯阙，衣纓奔窜，所在偷安。冯与玄同寓迹于常州晋陵，存注不辍，益用虔恭。中和元年十月，舟行至直渚口，欲抵别墅，亲邻女伴数人，乘流之际，忽见河滨有朱紫官吏，及戈甲武士，立而序列，若候玄同舟楫之至也。四境多虞，所在寇盗，舟人见之，惊骇不进。玄同曰：无惧也。即移舟及之，官吏皆拜，玄同指挥曰：未也，犹在春中私第，去无速也。其官吏遂各散去，而同舟者虽见，莫究其由。明年壬寅二月，玄同沐浴，饵紫虚所赐之丹，二仙女密降其室，促嵩高之行。是月十四日，示以有疾，一夕终于私第。有仙鹤三十六只，翔集室宇之上。玄同形质柔暖，状若生人，额中灵然白光一点，良久化为紫气。沐浴之际，玄发重生，立长数尺。十五日夜，云彩满室，忽闻雷电震霹之声，棺盖飞起在庭中，失尸所在，空衣衾而已。异香云鹤，浹旬不去。

浙西节度使、相国周宝奏曰：伏闻赵夫人登遐之日，玉貌如生；陶先生厌世之时，异香不绝。同其羽化，录在仙经。岂谓明时，复睹斯事。伏以冯徽妻薛氏，早抛尘俗，久息玄门。神仙秘密之书，能采奥旨；女子铅华之事，不挠冲襟。非绝粒茹芝，守真见素，履圣世无为之化，穷玄元守一之规，不然者

安得。方念鼓盆，灵禽叠降；正悲鸾镜，玄发重生。雷电显祥，云霞表异，天迴而但闻丝竹，棺空而唯有衣衾。谪来暂住人间，仙去却归天上。事传千古，美称一时，虽属郡之休祲，乃国朝之盛事。臣忝分优寄，辄具奏闻，干冒天廷，无任战越喜贺之至。是岁二月十五日，奏于成都行在。敕曰：惟天法道，著在仙经，上德勤修，玄功是致。览兹申奏，颇叶殊祥。同魏氏之登仙，比花姑之降世。光乎郡县，焕我国朝。宜付史官，编于简册。仍委本道以上供钱，于其住，处修金篆道场，以答上玄，用伸虔感者。时驻蹕成都之三年也。

## 卷一百一十七 灵验部一

### 宫观

#### 真宗皇帝御制叙

夫妙道本于混成，至神彰于不测。经诰所以宣契象，宫观所以宅威灵，符篆所以备真科，斋词所以达精恳。验徵应之非一，明肫苾之无差，诚觉悟于苍黔，而彰亶于善恶也。朕顾惟寡昧，获纂隆平，荷祉福之咸臻，务斋盟而匪懈。思扬妙理，普示群生。因览杜光庭所集《道教灵验记》二十卷，其事显而要，其指实而详。今昔所闻，盈编而有次；殊尤之迹，开卷以斯存。冀永流传，俾列方版，庶资训范，克畅淳风。直叙厥由，题于篇首云尔。

#### 广成先生序

道之为用也，无言无为；道之为体也，有情有信。无为则

任物自化，有信则应用随机。自化则冥乎至真，随机则彰乎立教。《经》曰：善者吾善之，不善者吾亦善之。此明太上浑其心，而等观赤子也。《书》曰：不独亲其亲，天下皆亲，不独子其子，天下皆子。此明圣人体其道，而慈育苍生也。恶不可肆，善不可沮，当赏罚以评之。《经》曰：人之不善，何弃之有。故立天子，置三公，此圣人教民舍恶从善也。又曰：为恶于明显者，人得而诛之；为恶于幽暗者，鬼得而诛之。又曰：为善者善气至；为恶者恶气至。此太上垂惩劝之旨也。《书》曰：惟上帝不常，作善降之百祥，作不善降之百殃。此圣人法天道，祸淫福善之戒也。由是论之，罪福报应，犹响答影随，不差毫末。岂独李、释言其事哉！抑儒术书之，固亦久矣。宣王之梦杜伯，晋侯之梦大厉，恭世子之非罪，浑良夫之无辜，化豕之报齐侯，结草之酬魏氏，良宵之殒驷带，郑玄之粹，刘兰之笔不遗，良史攸载，足可以为罪福之鉴戒、善恶之准绳者也。况积善有余福，积恶有余殃，幽则有鬼神，明则有刑宪，斯亦劝善惩恶至矣。大道不宰，太上好生，固无责于刍狗，而示其报应。直以法字像设，有所主张，真文灵科，有所拱卫。苟或侵侮，必陷罪尤。故历代已来，彰验多矣。成纪李齐之《道门集验记》十卷，始平苏怀楚《玄门灵验记》十卷，俱行于世。今访诸耆旧，采之见闻，作《道教灵验记》凡二十卷。庶广慎微之旨，以匡崇善之阶，直而不文，聊记其事。

### 饶州开元观神运殿阁过湖验

饶州开元观，旧在湖水之北。去郭二里，巨殿层楼，回轩

广厦，枕湖有水阁，松径有虚亭，松竹森疏，花木秀茂。郡人避暑寻春，为一州胜赏之所。其后道流既少，廊庑摧损，唯上清阁大殿，斋堂三门，皆在里中。民庶多葬于观地中，坛殿之外，尽为墟墓矣。大中二年，郡中夜闻千万人声，如风雷之响。及明，见开元殿阁门堂四十余间，移在湖水之南平地之内，其所布列，形势远近，殿阁相去，与旧不殊。太守上闻，请易其名额，以旌神异。诏旨依旧为开元观，只改上清阁为神运阁，别命崇修。远近归心，争舍美利，遂加缮葺。《观殿鼎新记》云，所移之地，途超二里，水越一湖，出自神功，事资圣感是也。

### 洋州冯行袭毁素灵宫验

洋州素灵宫，云汉武帝为素灵夫人降真内殿，于太白之前为筑宫宇，即其地也。年代浸远，遗址仅存。我唐高祖既至长安，受隋恭帝禅。是岁，梦素衣神人云，我太白之主也，居素灵台。以荒毁为告。诏访其地，特创台殿，命为素灵宫。开元中，傅天师曾奉诏，斋醮于其上。德宗幸梁洋，欲驾幸其地，又加营饰，由是材石之功，最为宏壮。冯行袭自金州，遥统洋州武定军，命其子守之，欲毁素灵屋宇，以修公署。工人揭瓦，皆有毒蛇，居于甍中，莫知其数。竟无所措手，以事白焉。冯子怒，使吏焚之。曳薪炷火，而雷电大震，风雨总至。群吏奔骇，数辈死之，灵迹岿然，无敢犯者。

## 文殊台二僧击救苦天尊像验

文殊者，长安人也。父母令于别业读书，为庄前堆阜之上，置书堂焉。而性本疏诞，不乐文字，但与邻里少年，弹射飞鸟，捕格野兽，以为戏乐。至于筌笱之具，罟罗之属、弋网置罩、弓矢槌刃，靡不置之。数年之间，杀获不可胜记。忽有道士见之，谓曰：子之头何遽变也？殊惊而问之，乃引于台下，令其窥井照之，自见其人形而兽头矣。欲求道士悔谢，更令熟视井中，顷刻之间，身形不改，而头已百变，或鸟或兽，或蛇或鱼，殊见之，异常忧惧。道士曰：万物营营，各贪其生，至于飞动，皆重其命。尔反天道而杀之，当有此报耳。每变一头，则受一生，终尔所杀之数，一一偿之，积月累日，计其寿限。自此之后，尔身则死，乃历生异类之中，报所杀之命，百千万年，未有还复人身之日。殊号泣求救，愿焚弋猎之具，以谢前愆，洗心改悔，不敢更犯。道士见其诚至，乃谓之曰：我奉太上之敕，历救众生之苦，名曰救苦真人。尔有昔缘，早合遇道，此若不救，沦陷无期。乃以道士衣与之，令其终身修道，阴功救世，广济物命，方免前罪。道士即踊身而起，去地数丈，立于金莲花上，左执琼碗，右执柳枝，金冠凤履，身逾三丈，通身有五色之光，上连天表，照耀一川，逡巡乃隐。

文殊乃焚罗网之具，披道士天衣，于其处立殿，制所见之像，昼夜精勤，焚香忏罪。居十余年，又感真仙，授以药诀，令游行海内，救人疾苦，后乃得道而去。其俗所居处，相传号曰文殊台，而救苦天尊之像犹在。忽有僧数人游行，见之曰：



既是文殊圣迹，何得有道士功德？固知道士无良，侵我古迹，已多年矣。因拔得大木，唯二僧共击天尊像，手折耳伤，口鼻亦坏，力击其项，未能致损，用力甚困。二僧少歇，看天尊所伤之处，并已如旧，唯二僧口耳鼻项痛楚极甚，及看其手，亦已折矣。匍匐号叫，告于众人，自述其事。良久而死。

### 亳州太清宫老君挫贼验

亳州真源县太清宫，圣祖老君降生之宅也。历殷周至唐，而九井三桧，宛然常在。武德中，枯桧再生。天宝年再置宫宇。其古迹，自汉宣、汉桓增修营葺，魏太武、隋文帝别授规模，边韶、薛道衡为碑，以纪其事。唐高祖、太宗、高宗、中宗、睿宗、明皇六圣御容，列侍于老君左右。两宫二观，古桧千余树，屋宇七百余间，有兵士五百人，镇卫宫所。咸通中，庞勋据徐州，十道征师招讨，长围将合，庞勋恐力不支久，遂领徒三千余人径来，欲夺宫所，据为营垒。是日，避难土庶千余家咸在宫内，见黑气自九井中出，良久，昏噎一川，老君空中应现。庞勋徒党迷失道路，自相蹂践，蕲水桥断，尽溺死水中。逡巡开霁，贼党无子遗矣！

广明中，黄巢将领徒伴欲焚其宫，亦有黑雾遍川，迷失行路。又有草贼遍地，自欲凌毁太清宫，迷路，乃往亳州城下，因围逼州城，攻打弥急。刺史潘稠望宫焚香，以希神力救护。顷之，黑雾自宫中而来，周绕城外，腥风毒气，闻者顿仆，密雪交至，寒冻异常，死者十有五六。初攻城之时，有神鸦无数，衔接贼箭，投于城中，贼辈已加惊异。既而城内朗晏，城外风

雪，贼人惧此神力，解围而去，寻亦散灭。潘稠奏云，自大寇犯阙之后，群凶诛殄已来，大小寇逆，前后一十八度，欲犯太清宫。或迷失道途，或龙神示见，终挫凶计，宫城晏然。所庇护居人，不知其数。请移真源县，就宫安置。敕旨恐移县就宫，必多秽渎，县依旧所宜，准万年例升为赤县。仍降青词，修斋告盟。

### 周真人居上经堂基验

周真人，名太玄，陶隐居弟子也。年二十一而得道，先于隐居证位。其所居，即今紫阳观，处茅岭之前，平陆爽垲，实为福地。堂侧一片地稍高，如旧屋基，而无砖甃踪迹。太玄于其上植花木，时见有人，高冠褰衣，或三或二。亦有介金之士，明月静夜，立于其中。家有小儿，名小豆，才五六岁，游戏其上，逡巡有人送置庭中，如是者数四，而无伤损。一旦问陶君，说此祥异。陶曰：晋朝许君旧宅乃上经堂，基正当其地，速作静室，为焚香之所，不可褻渎也。太玄因问：上经所安之地，何神明如此耶？陶曰：三洞宝经所在之地，万灵侍卫，百神朝揖，岂可不尊之耶？太玄曰：真经已去，其地久虚，而犹真灵卫之耶？陶曰：上经所安之地，地祇守之七百年；法宇之地千年；正一所安之地，善神护之三百年。经法虽去，年限未滿，所以然耳。太玄遂作静室，每旦夕香灯，而不敢于此室朝拜存修，恐法位高卑，有真凡之隔尔。

### 魏夫人坛十僧来毁九遭虎噬验

魏夫人坛，在南岳中峰之前，巨石之上。是一片大石，方可丈余，其形方稳，下圆上平，浮寄他石之上。尝试一人推之，似能转动，人多即屹然而定，相传以为灵异。往往神仙幽人，游憩其上，奇霁灵气，弥覆其顶。忽有衲僧十余人，秉炬挟杖，夜至坛所，欲害缙仙姑。入其居处，仙姑在床上，而僧不见，乃出诣坛所，推坏夫人坛。轰然有声，若已颠坠，回烛照之，元不能动，知其灵异，奔进遁去。及明，有至远村者，大都不过走十余里。十人同志，九人为虎噬杀。一人推坛之时，不同其恶，遂免虎害。乃以其事白于村乡之人，远近惊异焉。

### 严礫掘洪州铁柱验

洪州铁柱，神仙许真君所铸也。晋朝豫章，有巨蛟长蛇水兽，肆害于人。许君与其师吴君，得正一斩邪、三五飞步之术，制御万精。自潭州井中，奋剑逐蛟，出于此井。君出谓吴君曰：此井之下，蛟螭所冗，若不镇之，每三百年一度，为民之害，后来复何人制之？役鬼神运铁数百万斤，铸于井中，溢于井外数尺，屹若柱焉。于井之下，布巨索八条，以锁地脉。自是钟陵之境，无妖惑之事，无垫溺之灾。誓之曰：后人坏我柱者，城池淹没，江波泛滥。人皆知之，固不敢犯。或有渔人敲柱上

铁，用坠其网，所损颇甚，近亦官中禁之。严节制江西，信诽谤之词，使人掘铁柱，将欲碎之。迅雷大击，江波遽溢，掘未二三尺，城池震动，内外惊惧，撰方信之，焚香告谢而止。柱侧道院为其所毁，近亦再修矣。

### 王峰吴行鲁毁掘成都龙兴观验

成都龙兴观，即后周至真观也。基址广袤，四面通街，大殿讲堂、玉华宫碑碣皆在。有王峰者，事颖川王，于小蛮坊创置私第。以基地卑湿，乃使力役者鬲观门土墙，及广掘观地，取土数千车筑基址，土木未毕，已数口凋亡。一旦自衙归宅，于其门外，见二黄衣人，曰为观中取土事，要有对勘。应答之间，下马而卒。其观内有钟楼，曰灵响台，有门楼宏壮，制度精巧。节度使吴行鲁，奏移门楼于天王寺，拆其钟楼，遗踪胜赏，并为毁荡矣。顷年驾在蜀，明道大师尹嗣玄，云行鲁之吏，因疾入冥，数日复活，言见行鲁为鬼吏所驱，般运龙兴材木，铁锁击械，昼夜不休，木才积垛，又却飞去，如是捷运，不知何年当得息尔。欲求子孙为立观门，赎其罪，子孙贫窘，固不及尔。

### 刘将军取东明观土修宅验

刘将军者，隶职右神策军。居近东明观，大修第宅，于观内取土，筑基脱壑，计数千车。功用既毕，刘忽得疾沉绵，旬日稍较，忽如风狂，于其阶庭之中，攫土穴地，指爪流血，而终不已。骨肉扶救之，似稍歇定，又须匍匐冗土，似有驱迫之者。时间闻为物捶击痛楚之声，但流泪呜咽而已。问之竟无所答，日又沉困垂命，巫医殫术，略无徵应。偶召瞽者筮，云求道法救之。刘素不信道，未尝有道士过其家。妻子既切，因诣金仙观，请符理之。置符于床前，又焚数道，和水饮之，刘乃言曰：我以无知，犯暴道法，取东明观土，修筑私舍，地司已奏天曹，罚令运土填陪，不知车数，计我独力般运，三二百年，恐未可足。稍或迟怠，冥官考责，鞭撻极严，卒无解免之日。言讫，呜咽号叫，若有所诉，一家闻之，俱为嗟痛。其妻子就东明大殿上，焚香祈乞，续买净土五千车，填送所穿坑处，设斋告谢，求赐宽赦，疾乃稍定。一旦又自言曰：天符有敕，穿掘观土，修筑私家，虽已陪填，尚未塞责，有十二年禄命，并宜削夺，所连累子孙，即可原赦。是夕遂死。余按道科，凡故意凌毁大道，及福地灵坛，殃流三世。今刘生以陪填首谢，罪止一身，得不为戒尔。

### 南康王梦二神人告以将富贵验

南康王、太尉、中书令韦公皋，为成都尹相国张公之爱婿，而量深器大，举止简傲，不狎于俗。张家奕世相家，德望清贵，张族皆轻侮于韦，以此见薄，亦未之悟也。忽梦二神人谓之曰：天下诸化，领世人名籍，吾子名系葛瓊，禄食全蜀，富贵将

及，何自滞耶？勉哉行矣！异日当富贵，无以葛瓚为忘也。由是韦有干禄之志，谋于其室，室家复勉励之，以收奩数十万金，资其行计。既达秦川，属岁饥久雨，因知友所聘，署陇州军事判官。俄而驾出奉天，郡守奔难行在，率土客甲士，馈饩军储，以申扈卫。以功就拜防御使，复请赴覲行朝，德宗望而器之。既平寇难，大驾还京，以功检校右仆射、凤翔节度使。恳让乞改西川，乃授西川节度，与张公交代焉。拥师赴任，张假道归阙，以避其锋。既而累年蜀境大穰，金帛丰积。南诏内附，乞为臣妾，威名益重，而贡赋不亏，朝廷倚注，戎蛮慑伏。由是请许南诏置习读院，入质子学生，习《诗》、《书》、《礼》、《乐》。公文翰之美，冠于一时。南诏得其手笔，刻石以荣其国，而葛瓚之事，久已忘矣。

又梦二神人曰：“富贵而忘所因，其何甚耶？公梦觉，流汗惊骇。久之，乃躬诣云林，炷香祈福。遂命工度木，揆日修崇，作南宫飞阁四十间，巨殿修廊，重门邃宇，范金刻石，知无不为。支九陇租赋，于山下列屯输贮，糗粮山积，匠石云趋。自制碑刊于洞门之侧，上构层楼。焚僮七十人以供洒扫，良田五百亩以贍斋储。在镇二十余年，封以王爵矣。即本命丁卯，属葛瓚化也。

### 果州开元观工匠同梦得材木验

果州开元观接郡城，颇为爽垲，以形胜之美，选立观额。虽州使旋具结奏，而制置之，内犹阙大殿。州司差工匠及道流，将溯嘉陵江，于利州上游采买材木。临行，道流工匠同梦有人

云：朱凤潭中有木，可以足用。如此者三。因聚议曰：梦兆如斯，必有大商货木，公江而至，可踌躇三五日以伺之，或免远适，颇以为便。一匠曰：吾于朱凤山下江中寻之，莫有商筏已到来否。即往山下寻求，潭水澄澈，忽见潭底有木。因使善沉者钩求，得梓木千段。构成三尊殿，钟楼经阁、三门廊宇，咸得周足。又市砖甃坛，内有黄赤色者，疑其火力未足，弃而不用，信宿皆化为金，起观之费，过于丰资。殿宇既成，将塑尊像，又于白鹤山观，掘地得铁数万斤。铸三尊铁像，仅高二丈，今谓之圣像。远近祈祷，立有徵验。起观道流何氏家，世代丰足，今为胄族焉。至今负贩之徒、锥刀求利者，每以三日五日，必诣圣像前，焚香祈祐。或阙而不精信者，即贸易无利，货鬻不售焉。

### 北都潜丘台崔相国应梦修观验

北都潜丘台，有古观焉。像设精严，楼台宏丽，地形显敞，迥出于都城之中。制创多年，久无崇葺，风号雨渍，日以倾摧。相国崔公彦昭，常梦野步寻幽，至古台之下，翘首仰望，其上有紫气氤氲，样光四照，无登蹑之路。良久，复聆天乐笳箫之音，寻访之意弥切，但四隅陡绝，咫尺万里。忽前有金桥如梯，层级宽博，遂攀梯而上。中路三四级，板阙栏摧，跻登不得，即见巨手金色，引指而接之，公握指未定，已登台上矣。徘徊四顾，唯古殿欲摧，荒坛芜没，叹嗟数四。复到天尊之前，认金桥乃座前之桥耳，金手乃天尊之手耳。不复闻天乐之声，亦绝紫气之像，因言曰：岂天尊有所付嘱耶？何变化如此也？天

尊忽言曰：子即居此地，无忘摧残也。俄而惊觉。旬日，授北都留守到镇。幹月恍恍然，似有所失，似有所疑，因命驾纵游，用摅其志。闻潜丘台不远，造而观焉，唯古殿摧残，深草埋翳。乃瞻拜天尊，见仪像侍卫，宛若曾所游睹。徐视座前，金桥在焉，栏折板断矣。复睨金臂及指，皆醒然顿寤，即前之所梦也。施俸金，募工役，革故之弊，鼎新其宇，惟殿屋且久，随其古制，增修而已。其余垣墙廊宇、坛庭门房、图绩丹牖、赭堊金翠，靡不毕备焉。绵构之功、香花之献，郁为一时之盛也。

### 相国刘瞻梦天尊言再居相位验

相国刘公瞻，南迁交趾，道过江陵。既登扁舟，将欲解缆，回首道左，见像设甚严，而朽殿倾圯。问其名，即真符玉芝观也。入门升阶，拜手潜祝。是夕，舟中梦青童前导，登大山之上，松径连延，崖巘奇秀，芳芝幽草，好鸟灵花，灿然在目。行一里许，见元始天尊，坐宝花座上，瞻仰粹容，乃玉芝殿中天尊也。拜祝曰：某得罪圣朝，窜逐且远，非敢怨望，但祈生还尔。天尊曰：尔之青简，列于方诸矣，何忧于世难乎！再居相位，而后得道。自此斋一旬，戒三日，则蛮陬瘴海魑魅之乡，无所惮矣。辰未巳午，与子为期也。自是刘公南征，至湖岭间，所在藩方，劳问相继。旋得金帛，寓信于荆帅，特创天尊殿，斋厅廊宇，选精介焚修之士以居之。于是再徵，入掌钧轴，泊厌俗弃世，果符梦中之言，岁辰亦无爽矣。



### 李蔚相国应梦天尊修观验

李相国蔚，拥旄汴州，兼太清宫使。每翹心玄关，思真念道。一夕，梦野步郊外，丛箔间见奇光五色，中有天尊像，顶光半缺，手握玉芝，状如白莲花，而圆茎修细，芝有八秀。历历详记，注于心目。翌日，因送宾出郊，顾见有道像暴露，问其所，即玉芝观也。相国异之，回鑕而礼谒。莎莠盈庭，萧蒿蔽路，披榛而后进。所睹尊像，与梦同焉。虽不握玉芝，而名与梦叶，遂广加崇饰焉。巨殿森沉，飞梦薨烜赫，斋宫讲肆，月牖霜坛，前阍通街，雄临郭郭，为藩方之壮观焉。噫！开元皇帝，尊祖奉先，耽玄味道，精诚上彻，祯祝下通，得真符于灵峰，产玉芝于内殿。因敕大镇重地置观，以真符玉芝为名。封太白山为灵应公，改华阳为真符县。上瑞已彰于昔日，嘉徵复显于兹辰。所以相国名臣，皆符吉梦，夷门渚宫之完葺，自非大道应灵，其孰能与于此乎！

### 郑相国还愿修宁州真宁观验

宁州真宁县通圣观，即开元皇帝梦二十七真，得刻石真像之所置也。岁祀浸深，旋已摧毁，边徼素寡，道流缮修之事，因已旷绝矣。相国司空郑公畋，登龙之年，偶尝游礼，赋诗三十韵，以纪其故实，亦冥祝曰：异日官达，必冀增修。洎入掌

丝纶，尊居钧轴，枢机少暇，前愿都忘。一夕，梦游洞府之中，群仙赏玩，奏钧天广乐，以恣嬉游。俄而幢节羽卫自天而下，使者一人降曰：太上有命，徵还上清。于是群仙或控鸣鹤，或驾飞龙，腾跃而去。相国亦欲振袂骞飞，一仙人回首笑曰：还毕真宁之愿，然后可此来尔。既觉，省忆真宁修观之事，乃辍鼎食之资，为缔构之费。邠帅李尚书侃，命都校以董其事，十旬而灵观鼎新矣。相国尝话斯梦，以为洞天者，罗川之洞也，群仙者，二十七真也。惊其忽忘，懋此巨功，信大道之明徵矣。

### 段相国报愿修忠州仙都观验

忠州丰都县平都山仙都观，前汉真人王方平、后汉真人阴长生得道升天之所。芜没既久，基址仅存。晋代高先生首为崇构。太元中姚泓再加缮饰，其后梁隋共葺，国朝继修。华阁翔虚，丹檐照日。黔、荆、蜀、梓元戎重臣，或弭棹登临，必命修葺。相国邹平、段文昌旅寓之年，遭回峡内，时因登眺，炷香稽首，祝于二真曰：苟使官达，粗脱栖迟，必有严饰之报。自是不十岁，拥旄江陵。视事之初，已注念及此。俄梦二真仙，若平生密友，引公登江渚之山，及顶，乃阴君洞门矣，二真亦不复见。翌日，施一月俸钱修观宇，一月俸为常住本钱。常俾缮完，以答灵祝。

### 楼观赤光示人以避难验

楼观者，周康王大夫尹喜宅也。在京兆鰐屋县神就乡闻仙里，居终南之阴。观内有周穆王、秦始皇、汉武帝所置殿宇，及秦始皇墨迹。尹喜、灵井、老君、支革树升天台，晋宋谒板，秦汉铭记，历代存焉。大唐将受命，义师起于河东，观内有赤光属天者六七夜。广明庚子，寇犯长安，观中有光，如义宁之岁。近车驾幸凤翔，鰐屋将陷，观中复有光景之异。由是避难士庶，多投观中，灵迹岿然，人莫敢犯。高祖时，赐号为宗圣观焉。

## 卷一百一十八 灵验部二

尊像见

木文天尊见像验

木文天尊者。开元七年，蜀州新津县新兴尼寺，四月八日设大斋。聚食之次，有一道流后至，就众中坐，众人轻侮之，不与设斋。斋毕，道流起，入佛殿中，良久不出。人皆异之，争入殿寻求，无复踪迹。忽见道流隐形在殿柱中，隐隐分明。以刀斧削之，益加精好。其像于殿柱中，自然而见，高三尺五寸以来。云冠霞衣，左手执手炉，右手炷香于烟上，冠中有鸟如鸳鸯形。足下方头履，履下莲花，花后荷叶，上有神龟之形。左肘后有云片连焰，光中有青龙之首，右肩之前有虎形，回顾于左。此外周身光焰，如太一天尊，眉髯鬓发，细于图画，自外绕身，有云叶天花，一十二处。头光之上，有大花如盖，以荫其身。长史张敬忠，具以上闻。敕内官林昭隐，就川迎取像柱，令作宝舆，好好立安。至京，进于内殿，上躬亲礼谒。三日大斋讫，令卫尉寺于东明观陈设，宣送天尊就观安置。大开道场，许臣庶瞻礼。仍令两街大宫观，每处作道场七日。

是时僧等上表抗论，云寺中示现，必是维摩诘之像，非关道门所有。上令宣示曰：朕观像柱之异，是天尊之冠，非维摩诘巾也。僧等既惭于妄奏，乃雇有力之士，使于东明观道场中窃之。既供养数日，人心怠倦，力士夜于道场中，抱取像柱，以绢绳系缚，负之而出观院之外。历街坊极远，约十余坊，力疲而坐歇。须臾既晓，只在道场之前，众遂擒之。讯其所以，乃西明寺僧，招募三十人，令其窃取像柱。具事密奏，明皇不令寻究，收像柱于大内。其后榻写绢本，宣赐诸道及宰臣焉。

### 汉州什邡县水浮铁像天尊验

汉州什邡县铁像天尊，高丈二三，俗谓之乌金像。元在金堂峡中崖壁之下，大水石摧，像仍露现。或浮于水上，出五六尺，其侧即昌利化也。道众焚香，备幡花迎引，寻却沉隐不见。稍晴，又泛泛而出昌利，三迎之，皆不可致。明年夏，大水泛滥，乃溯流至什邡县兴道观。后水脉甚小，不知其所来之由。邑人迎引上岸，初只百人引拽，已及平地，欲置于大殿之中，数百人挽之，竟不能动，因立讲堂以盖之。至今频经乱离，虽堂宇尽焚，此像不损。

### 青城丈人真君赐钱验（铁像验附）

青城山丈人观真君像，冠盖天之冠，著朱光之袍，佩三亭

之印，以主五岳，威制万神。开元中，明皇感梦，乃夹鍼制像，送于山中。自天国祠宇，移观于今所盖，取春秋祭山，去县稍近，以天国太深故也。数十年，金冠之色，宛如新制。有村人无知，以赋税所迫，徵促鞭箠，一夕走投观中，斋三数钱神香，于真君烧香，告以官税所切，累遭杖责，乞真君头冠，卖以充税。因睡，忽梦见真君谓之曰：我头上冠，非是纯金，乃金薄耳，卖无所直。汝或得金，亦为官中所责，损汝性命，其祸不小。山门庙前，有十千钱，碑傍木叶下，可以取之。官税之外，资汝家产。此人礼敬致谢，出山得钱，租税既毕，家亦渐富，自是每月送香油观中。至今真君头冠，低俯向前，传云令此人看验，冠非纯金，所以然矣。

云顶山铁像天尊，高三四尺，亦是则天朝濠阳匠人廖元立所铸。其山本是仙居观，有两处洞门，及卢照磷碑。近无道士住持，为僧徒所夺为。寺碑及洞穴，亦已掩蔽摧损，唯天尊一躯。每有僧徒，创意欲毁之，立有祸患。捶击不坏，锤锻不伤。僧徒托言山神有灵，掩闭天尊之验，远近莫能知之。廖元立初铸天尊之时，有紫云如城，其上吐五色，以捧于日，众共瞻礼。忽有灵鹤数只，引一大鸟，翼广丈余，通身赤色，其形如凤。众鹤绕炉盘旋，嘹唳相应，大鸟飞势迅疾，径入炉中。众方惊异，即有火焰，高三五十丈，其声如雷，迥迤属天，迸散流溢，直遍山上。众人奔骇，但闻异香之气，弥日方歇。既铸成，天尊仪相奇妙，四方祷请，立蒙福祐。灵验如此，岂常凡之意，可以毁伤哉！

金州洵阳县望仙观天尊理讼验

金州洵阳县望仙观天尊，古迹所造，极多灵应。县境之人，有论讼难理之事，公私攘窃之徒，但焚香披陈，即有响答。有隐情诬蔽者，即夜有神人，诣门唤之，遽令对会。被唤者见宫阙官署，在大殿之后，别有楼阁十余间，两廊下列曹吏，鞠勘一如人间官府矣。故有匿情狡蠹、朋党奸恶者，亦见送于狱中。送狱者于此即死，对会者但具情状，即复放还。由是境内畏威，各洗心改过，而为善矣。其邑中失走猫犬、巨细论讼，陈状于殿壁之上，动盈百幅矣。至今常然。

### 张仁表念太一救苦天尊验

左街道士张仁表，辩博多才。应内殿讲论，逗机响答，抗敌折冲，莫能当之也。而所履浮诞，未尝有由衷之言，及于侪友险躁诡妄，人多薄之。因疾作逾月，医不能效，梦为司命所摄，步卒骑吏，就所居以捕之，亦如世上之擒寇捕奸尔。窜匿无所，縻束将去，历荒径旷原，皆荆棘之地，牵顿舁曳，其速如飞。衣挂丛刺，肉碎芒棘，苦不可堪。行可三十余里，遥见黑城，上有烟焰，渐近视之，乃铁城也。拥关卫门、守陴抗敌，皆兽头人身、辨蛇臂蛇之士。或四口八目，或十臂九头，齿若霜雪，牙如锋剑，真世之所画地狱状也。入门则珠宫琼堂、玉楼金殿，非常目所睹，顿异于冥关之中。行四五里，一无所睹，徐问所驱捕者：此何处也？与门外所见不同。或答曰：此太一天尊宫耳，过此方到本司。仁表闻太一之名，忽记得平常讲说之处，多劝人念太一救苦天尊，今此乃天尊之宫，何可不念。

即高声念太一救苦天尊十余声，牵顿者皆笑曰：临渴穿井，事同噬脐，胡可得也！既闻众笑，不阻其念，更唱十余声，其调哀楚，其音悲切，亦泪下沾衣。如是忽有赤光，照其左右，牵顿者一时舍去，独在光明之中。顾眄四方，即山川明媚，云物闲暇。顷之，天尊与侍从千余人，现其前矣。

仁表礼谒悲咽，叩搏稽颡，述平生之过，愿乞忏悔。天尊坐五色莲花之座，垂足二小莲花中，其下有五色狮子九头，共捧其座，口吐火焰，绕天尊之身。于火焰中，别有九色神光，周身及顶，光焰锋芒外射，如千万枪剑之形。覆七宝之盖，后有骞木宝花，照耀八极。真人力士、金刚神王、玉女玉童，充塞侍卫。阴阳太一、四十六神，自领队从，亦侍左右。云车羽盖，遍满空中。天尊谓仁表曰：人之在生，大慎三业十恶。三业之中，口过尤甚。一人妄说，万人妄行。妄说之人，首当其罪。汝之三业，罪无不为，吾不救护，永沦幽苦。汝寿命已尽，不当复还，今赦汝七年，诱化于世，以吾此像，广示于人，开引进之门，为趣善之要，勉宜行之。即使童子引还，疾已瘳矣。数日后，以己之财帛，于肃明观画天尊之像。东洛关外、畿辅之间，传写其本，遍令开悟。仁表因出城，于春明门外，见蒿棘之中，如曾行之处，视棘刺之末，有所罥挂衣线紫缕，及棘上微有血痕。果是所追之夕，经行其路，七年而终。

### 李邵画太一天尊验

李邵者，为葭萌县令。云其妻亡已八九年，素不在京国。忽因参选入京，就于三洞观侧客邸之中，偶见其家亡婢，自邻



居而出。熟视之，果其婢小玉也，以名呼之，敛衽而至。问其故，即云：某随娘子在此，已岁余矣，暂出买物，逡巡即回，回即与报娘子矣。邵待之，食顷方至，买果实茶饼之属，奔驰还家。良久，延邵相见。所居两间，自有庭除少许。既见，叙存没之事，或泣或悲，而频令小玉看时节。久之，小玉报云：来矣。颜色惨悴，语声哽咽，揖邵请去。邵未出门，有一少年，张盖而入，邵忽遽避之，小玉即引于帘后且立。其妻出迎少年，拜亦不顾，掷盖于地，化为大镬，水满火起，烟焰蓬勃，少时即沸。少年去大帽，即牛头神人也。持义立于镬前，以叉其妻，抛于镬中，号叫痛楚。不久即烂，骨肉分张，寻亦火灭。以叉挑其骨，排于庭中，张盖而去。其妻身亦复旧，苏而徐起，泣谓邵曰：平生罪业，合受三年，今已一年余矣。每日如此，痛苦难言。

邵见其变化苦楚，亦深悲叹，问妻曰：今既相见，所须何物？莫要作功德救拔否？妻曰：适令小玉相邀，全无功德相托尔。此处邻里，有受苦者，画太一天尊一身，便得免罪。知之数月，无托人处，今得君来，将有离苦之望矣。邵即于三洞观中，访太一天尊之像。殿上有古本剥落，厚以金帛，召工画之，亦就观设斋表祝。只三日内，事事周毕，躬自检校无暇。到妻所居，功德既了，方得往报。见其所止，已空屋尔。留托邻母，深荷太一功德，已得解脱往生矣。昨日辰巳间，与小玉俱去也。邵每劝人作太一天尊像，其福报可以立待矣。

杨师谟修观享寿验

合州庆林观，多年摧朽，殿宇不修，穿漏尤甚，雨滴太上尊容。刺史杨师谟，梦太上示现，而左目有泪痕，乃巡谒诸观，朝礼功德。至庆林方验，尊像左目前，漏滴之痕，宛若垂泪。因畷薶荒芜，恢张制度，创两殿二楼，重门邃宇，壮丽华盛，冠绝一时。既毕，复梦太上谓之曰：子以崇葺之功，上简玄府，当流化十郡矣。其后师谟累典符竹，日深渥恩，凡一十一郡，享寿九十焉（大中年）。

### 吕细修观仙人来往验

益州唐隆县大通观，晋义熙元年乙巳置，周末摧残，仅存基址。武德中，邑人吕细，因过其地，遇一道士，乘青驴自天而下，于观基之内，盘回指画，良久升天。吕细与范仲良同受其教，即日共出金帛，特造观宇。有紫微阁，高八十余尺，尤为宏壮。太尉南康王韦皋，再加修饰。其侧有市城，观在县西南八里，有石像天尊一十三，身高一丈三尺。每至斋月吉辰，钟或自鸣，夜有神灯，昼有仙人来往，远近共知焉。

### 黑髭老君召代宗游十洲三岛验

黑髭老君，在京左街务本坊光天观东圣祖院。夹纈所作，功用精能，相好周圆，常作所不可及。日月角隆起，身长丈五六余。左右侍立玉童玉女十二人，真人八身，金刚力士、神王

各四身。两壁画金甲神王各八人，天乐一部。老君黑髭，山水帔，黄金九凤冠，凭机而坐。帐幄严备，不知所置年月，亦不知所制之由。代宗皇帝，常梦为二青童所召，混元圣祖，命皇帝从游四海之外。梦中随二童至老君所，帝著绛纱衣，平天冠，执圭立于老君之后，游十洲三岛。六合四方、海岳山川，无不备到。历历记之，队从仪卫，一无遗忘。既觉，命画工图之，宣示京师，求访其像。于光天观所验部仗人物，与所梦同焉。敕塑御容，乘五色云，立从老君之后。选高德道士七人，焚修住持。内库及度支，别给服用斋厨。刻石以纪其瑞焉。

### 玉局化玉像老君应梦验

玉局化玉像老君，天宝中，观前江内，往往夜中有光，从水而出，高七八尺，上赤下白，其末如烟。众人瞻之，以为有宝器之物，捞摭求访，又无所见。明皇幸蜀，梦有圣祖真容，在江水之内。果有人见神光，于光处得玉像老君以进。高余一尺，天姿莹洁。其相圆明，殆非人工所制。驾回，留镇太清宫，其光见处，号为圣容坝，亦是玉女坝、金砂泉古迹连接矣。玉像老君，自近年以来，不知所在。

### 自然石文老君降雨验

阆州石壁自然石丈老君像。中书舍人高元裕，责授阆州刺

史。是岁大旱，元裕祷祈，山川祠庙，无不周诣。忽于玉台观前，瞻望山东丛林之上，见有异气。披榛径往，果有嵌窦悬泉，在峭岩之曲，乔木之下，有石壁奇文，自然老君之状。前有玉童，袞袖捧炉，双髻高竦；后有神王之形，恭若听命。元裕焚香叩祈，以崇葺为请雨。还未及州，甘雨大沴，连绵两夕，远近告足。乃翦薙芜翳，创为斋宫，立碑以纪其事。于悬泉之下，堰为方塘，引水注为流杯小池，植花木松竹，遽成胜赏。光启年，大驾还京，光庭奏置玄元观，宠诏褒允。至今郡中水旱，祈祝灵验益彰矣。

### 赖处士预言老君降生作幼主验

赖处士者，江湖人也。在杨公玄默门馆为客，十余年矣，不知其道术所习。杨公每尽礼敬之，若师友焉。多在宅内，少有见者。杨公时为左军，有小判官数人，有王有梁。王则辩博聪明，人多致敬，必谓其有非常之位也；梁则谦默谨静，慎重寡言，人多睥之，必谓其不肖也。唯使宅军将成君，常与梁稍狎。赖处士忽于宅门，与成语曰：致身之道，先须识贵人，颇识之乎？成曰：某愚暗，何以能辨？愿山丈教之。处士曰：梁大夫贵人也，此后当主枢机重务，吾子立身领旄节，须在其手，善依托焉。王大夫虽聪颖如此，寿且不永，将歿于他乡。此后宗社不宁，天下荒乱，兵戈竞起，祚历甚危。太上老君自降王宫，作幼主以扶此难，社稷可以存尔。梁大夫主机务，吾子领藩方，皆在幼主之手，可自保爱尔，吾自此不复留也。数日，处士辞杨公而去。成异其言，礼敬于梁，交结甚固。俄而杨公

罢权位，王有罪窜于南方，死于道路，其言愈验。咸通十四年秋，梁为内枢密，成为军使。僖宗即位，三日对军，日色初出，微照阶砌，圣上起，更衣未坐，梁公醒然忆悟赖处士之说，因临阶与成话之。左军韩公颇异其私语，诘之再三，梁与成以实白之。韩以少主初立，中外未安，闻此言，极为慰喜。自是成持节沧州，皆如赖处士之说。中原纷扰，祸乱积年，社稷晏安，宫城再复，驻蹕数年，圣德如一，僖宗中兴之力也。

### 贾湘严奉老君验

贾湘，累世好道，崇奉香灯。隶职计司，家颇富赡，然其修奉勤至，人所不及。有一幅老君像帧，持以自随，所至之处，虽一日一夕，亦设焚香之位，应感之效，不可殚述。黄巢既陷长安，大驾西幸，湘赭金帛，挈骨肉，自东渭桥出，道路剽掠之人，不知纪极，其一家百余人，行李无所惊惧。遂于龙角山下，葺居避难。衣冠及远近道流，皆投其家，各与拯给，请道流转《道德度人经》不啻万卷。有群贼忽围其家，湘入告老君，乃出与语，贼投刃于地，罗拜其前。湘问其故，默而不答，拜亦不已。湘舍而入门，群贼犹拜，唯称罪过。湘哀之，持缁帛，使人与之，慰勉移时，稍稍而去，一无所取。自此外户不扃，人无敢犯。或问群恶，有何所见，而反拜之。曰：我见贾湘常侍左右，神兵极多，皆长数丈，呀口瞪目，似欲吞噬，不觉亡魂丧胆，唯恐不得命耳。时既修宫阙，车驾将还，湘于老君前，请进退之兆。忽见香炉边，有粟苗甚茂，上有两穗，如风所动，粟穗西指，乃破产移家，归京永兴里。寻其旧第，已隳拆，有

小舍一二十间，权为栖止。三月驾归京师，方薙草构宇，于基址之下，得银六千两，家产益贍。五载乱离，力未尝阙，乃其严奉精专，太上垂祐，使之然也。

### 沈莹供养老君验

吴兴沈莹，宿奉至道，常供养老君，于越州剡县市中有居第。时草寇裘甫，起自农田，聚集凶徒，奔突县邑。素无武备，官吏奔骇，甫因据有县城。诏征陈、许、郑、滑、淮、浙、徐、泗之军以讨之。八道天军围城以攻之，海内久无兵戈，居人不识征战，师至之日，皆潜窜村落。莹仓惶锁其外门而逸，士马既至，莹误锁小童一人在舍中，却回将开门，则营幕施列，不敢窥犯而去。其后或胜或败，兵势不常，市肆半被焚翦。或逆徒所据，或家军所收，十余月日，方至诛殄。罢兵之后，莹所居六七间，扃趯如常，篱垣完备。及开趯，小童安然，问其故，云门闭之后，有一童子，青衣，年可十三四，云老君令与其嬉戏。良久，引去一大宅内，得饮食果实。餐啗了却，与童子为伴游戏。如半日顷，即闻老君令其添香，才炷香了，即闻开门之声。莹入门时，香烟未歇，问其斗战火烛、邻里焚烧、惊怕之事，一无所闻。是则十月战争，比邻灼热，如同顷刻，殊不觉知。列肆并焚，其家独在，非大圣神通之力，孰能及于此乎！莹亦自此栖心玄门，探真慕道，将有长往之志。寻离乡邑，莫知所之，只领此童而去。

### 姚鹄修老君殿验

台州刺史姚鹄，因游天台山天台观，命于讲堂后凿崖伐木，创老君殿焉。将平基址，于巨石下得石函，方可三尺。发之，中有小石函，得丹砂三两，玉简一枚。长九寸、阔二寸、厚五六分，上有文曰：海水竭，台山缺，皇家宝祚无休歇。具以上闻，敕曰：上天降祉，厚地呈祥，爰有白简之灵书，出于玄元之宝殿，告国祚延洪之兆，示坤珍启迪之符。惟此休征，实为上瑞，宣付史馆，颁示万方。乃咸通十三年壬辰之岁也。

鹄塑老君像，而山中土石相浑，求访极难。梦青童告之曰：殿东丈余，所有土如堊，可以用之。求而果得，塑太上之容，侍卫凡八九身，土无余矣。既成，天仪粲然，眸容伊穆。月玄日角，若载诞于涡川；双柱三门，疑表灵于相野。洎洁斋以赞之，则景气融空，奇光炜烁，似闻笙磬丝竹之音，咸以为休瑞。昔桐柏初构天尊之堂，有云五色，浮霭其上，三井有异，云气入堂，复出者三书于国史，以纪符应。清河崔尚碑文详焉。此圣祖殿亦自有记。

### 杨闹儿奉事老君验

成都杨闹儿，父母崇道，常奉事老君，精勤不怠。闹儿在军伍中，于金堂把截，为敌人擒虏，往南山寨中，不被伤杀。

昼夜常念老君，愿再见父母。忽梦老君赐云一朵，令童子引之，送于平地。童子曰：可以归矣。及觉，已出山寨，因得还家。到家之日，父母为其作百日斋矣。



## 卷一百一十九 灵验部三

### 昭成观壁画天师验（绢画验附）

昭成观壁画天师，岁月既深，彩粉昏剥，在通廊之下，未尝有香灯之荐。颍政坊内居人姓李，患疾逾年，医不能愈，日以羸瘠，待时而已。忽梦一道流，长八九尺，来至其前，以大袖布衣，拂其面目之上，顿觉清凉。谓之曰：自此差矣，勿复忧也。于是醒然疾愈，稍能饮食。洎晚策杖，行绕其家，不觉为倦，但觉所梦道流，犹在其前，遽欲入昭成观。家人虑其困惫，亦颇多止之，不听，入观，于天师真前，瞻视良久，曰：即所梦也。拜礼数四，乃命夹钹塑人刘处士塑天师真，改葺堂宇，旦夕供养，人所祈祷，福祥立应。其所塑夹钹真，于夹钹内，画罗隔布肉色，缝绲采为五脏肠胃。喉咙十二结十二环，与舌本相应。脏内填五色香，各依五脏两数。当心置水银镜，一一精至，与常塑不同。其塑中土形，移在天长观，金彩严饰，亦皆灵验。

彭城刘存希，天师灵验，云自幼以来，于唐兴观瞻礼天师，发心图写供养，因得绢本，出入护持。虽祇命运行，奉使南北，未尝一日阙香火之荐。黄巢犯阙，时在内署，苍惶之际，随驾不及，唯卷天师帧，捧持而行。同伍三十余人，皆为掳捉，或

被杀伤，独于众中得免。将入南山，夜深村落，行次遇避难人偶语，而闻妻在其间，因得同往洋州大岩山深处，结草寓居。况素无骨肉，唯夫妇而已，既免支离，决志林谷，不复有名宦之望。野麋山鹿，性已成矣。山下居人，以其口食不多，时亦助其粮储，馈其盐酪。此外拾柏子焚香，礼敬天师而已。无何，旧交宋开府入掌枢务，知其在洋山之中，强之使出，锡以朱绂，加以品位。固辞不获，黽勉从焉。又驾出石门，因便奔窜，投莎城山中，自匿数月。有军士搜山谷，不得安居，夫妇弃缁帛之衣，夜行四十余里。出及平陆，遥见马军十余骑，两面交至，已擒掳行人数辈。存希夫妇惊恐而立，马军过其侧，似若不见，由是得免。后数年，奉使西川，携天师帙而至。余亦传写其本。存希深山穷谷、虎狼之中，军士纷扰、白刃之下，心常坦然，若与数人居，忧惧之际，隐隐然若侍立在天师之侧。亦有感降之事，秘而不言。

### 陵州天师井填欠数盐课验

《陵州天师井本传》云，天师经行山中，有十二玉女，来谒天师，愿奉箕帚。天师知其地下阴神也，谓之曰：汝等何以为献？将观汝心厚薄，选而纳焉。玉女各持一玉环，径皆数寸。天师曰：所献一般，不可并纳。吾化此十二环，令作一环，投之入地，有得之者，即纳之焉。遂合十二环为一大环，径余一尺，投于地中，随即深陷，已成井矣。玉女皆脱衣入井，以探玉环，竟不能得。天师取其衣，藏石匮中，玉女至今只在井内。今陵州盐井，直下五百七十尺，透两重大石，方及咸水。每年

一度，淘洗其中，须歌唱喧聒，然后入井。不然必见玉女，裸居井中，见者多所不利。井既深，不可数入，或絙索断损，皮囊坠落，唯于天师前，炷香良久，玉女自与挂之，依旧不失。

顷年井属东川，有张常侍主其盐务，于事稍怠，盐课不登，欠数千斤，交替之后，縻留填纳，未得解去。替人素亦崇道，因与虔告天师云：张填所欠之盐，家资已尽，空此留滞，益恐困穷。于三五日内，愿借神力，增加所出，为其填纳。与张俱拜，祈诉恳切。自每日所煎水数，四十五函如常，而盐数羨溢，五六日内填之果足。此后一如旧数，无复增减矣。十二玉女，戊亥二人在天，唯十人在井，所煎盐至戊亥时亦歇。天师初以兹地荒梗，无人安居，山川亦贫，不可耕植，化盐井以救穷民。民聚居井傍，户口日众，遂置州统之。以天师名，故曰陵州。天师誓曰：我所化井，以养贫民，若官夺其利，千年外井当陷矣。今诸井皆有天师玉女之像焉。

### 李环梦遇天师告授陵州刺史验

李环，咸通中为王府长史，以勋贵之族，不惯食贫，居闲力阙，郁郁不得志。中夜而寐，梦入深山穷谷，栈阁萦折，流水潺湲，如此者不知其几千百里。又见闾阖杂遄，城隍爽垲，飞宇横楼，摩霄概日，不知其几千万家。纵神游目，熙熙自得。又出郊甸，涉冈源，荒榛茂草，小松巨木，间以果林，厕以筠筱，山岭危峭，或迂或平。山回途尽，抵一小郡，茅栋纵横，隘路欹侧，傍有公署。署内白气属天，其大如屋，中有悲歌号呼之声。见一青童，引环即路，蹶危磴，步石梯，入门甚峻，

门内古树芳草，若古观宇焉。环素崇玄教，颇为慰悦，俄而升殿，见像设尊仪，笑而谓之曰：尔来耶，吾待尔久矣。入天门、漱玄泉，古人所修也；注丹田、存白元，上士所修也。混而合之，子其行之。阴功及人，阴德济物。千百之家，待子而字之。勉哉，勉哉！明年之春。环再拜稽首，受其言而觉。是冬频诉于宰执，复希入用，乃授陵州刺史之任。是时经历山川郡邑，神思恍恍，皆如常所经行。素未入蜀，莫可知其由也。至郡，乃谒天师，升阶及门，至于殿所。观其真像侍卫、屋宇布列，醒然而悟，乃叶其所梦矣。乃以俸金修天师之堂，加以丹牖，立为铭碑志。其白气属天，乃盐井之所也；悲歌之声，乃转车之人也。而内修之诀，环未得之矣（环即西平王孙也）。

### 谢贞精意圻塿遇天师授符验

谢贞者，临邛工人也，善圻塿而用意精确。鹄鸣化天师修道、老君感降之所，顶上有上清古宫，相传云天师时所制，岁月甚多，而结构如旧，但氏破壁坏而已。贞赁工为修泥之，贞精研尽意，塿饰周密。有道流引二从者，观其功用，神彩异常，身逾九尺。自门而入，谓贞曰：山中难值修葺，颇愧用心。以手画地作一符，使贞再三审记之，曰：此后有疾者，虽千里之外，行符必效，勿多取钱，但可资家，给终身衣食。而贞具记符，行之极效，大获金帛，家业殷丰。鹄鸣诸山无天师真像，陵州井中所塑，又非世代子孙所传之真。贞忽于青城山，遇峡中贾客修斋，有天师小幀供养，乃是授符应现之真尔。

### 道士刘方瀛依天师剑法治疾验

天台道士刘方瀛，师事老君，精修介洁，早佩毕道法箓，常以丹篆救人。与同志弋阳县令刘翺，按天师剑法，以五月五日，就弋阳葛溪炼钢造剑，敕符禁水，疾者登时即愈。尝于黄岩县修斋敕坛，以救疫毒。有见鬼巫者，潜往视之，见鬼神数千，奔北溃散，如大阵崩败，一县之疫，数日而愈。咸通末，方瀛无疾而终，戒其门人，使与剑俱葬，莫敢违之。乾符中和间，台州帅刘文下裨将李生，领徒发其墓，欲以取剑。见其尸柔软，容色不变，如醉卧而已，顾视其剑，哮吼有声，群党惊惧，卒不敢取，李生命瘞之而去。不独剑之有灵，刘方瀛亦阴景炼形，得道之流也。

### 西王母塑像救疾验（三将军附）

玉局化西王母塑像多年，顷因观宇烧焚，廊屋颓坏，而仪像不损，人称其灵。居人范彦通忽患风癰，疮痍既甚，眉须渐落，因入观于王母前发愿，但所疾较损，即竭力修装。是夕，梦一玉女，手执花盘，以衣袖拂其身，曰：王母令我救汝，疾即愈矣。数日之间，所疾渐退，疮肿皆息，眉须复生。遂造纱窗，装金彩，通檐两楹，严洁修奉，每月自送香灯，近年方稍不见。

观中三将军，亦古之所塑。观因南诏焚烧，屋宇摧尽，而三将军塑像不坏，起观之日，再于其上立堂宇。居人阎士林，卧疾月余，迨将不救。梦三将军，以戟挥其身上，穿一物去，状如黑犬，自此疾愈。乃舍衣物制纱窗，重加彩绩矣。

### 归州黄魔神峡水救船验

归州黄魔神。因相国李吉甫，自忠州除替，五月下峡，至峡水之中，波涛极甚，忽有神人涌于水上，为其扶船，三面六手，丑眸朱发，袒而虓讟，风涛遽息。李公祝而谢曰：是何灵神，拯危救难？神曰：我是黄魔神也。既而归州驻船旬月，选地立宇，于紫极宫作黄魔堂，言是黄天魔王横天檐力之神也，刻石纪焉。相国萧遘，自拾遗左迁峡内，征还京师，峡水泛涨，舟船将没，亦见其神捧船以救之。复命修饰，加其粉绩，严其室宇，刻石为志，亦列于次焉。

### 青城丈人同葛瓚化灵官示现验

青城丈人真君。太和六年壬子，节度使赞皇李公德裕，差军将蔡举二人，就山修斋，便令访寻草药。蔡举于六时岩下，忽有劲风自谷中出，因见二神人行虚空中。一人在前，长丈余，著大袖衣，平冠；一人居后，著青衣大袖，捧一帙书。举惊悸问曰：何鬼神也？前一人答曰：我是竹枝老。又指其后人曰：

此是瓚之躁。我有密语两纸，可一一记之，录与尚书。今年西蜀合有水灾，以修斋之故，我回后山一峰，堰水向东，梓州当秋大水，即其应也。于是授以密语，述李公吉凶未兆之事，蔡举一一记之。归常道观，录于纸上，果得两纸，依神人之言，封题送李公。书写既毕，并亦遗忘矣。是年八月，东川水深数丈，西蜀无害。李公历问官寮及道流，解隐语不得。李公曰：竹枝，老丈人也，此当是丈人真君耳。瓚之躁者，本命属葛瓚化，亦恐是化中灵官。特此示见，以彰灵应也。

### 罗真人降雨助金验

罗真人，即神仙罗公远也。于濛阳罗江坝，接九陇、什邡之界，在漓沅化后今相传号罗仙范仙宅，修道于青城之南，今号罗家山。明皇朝，出入帝宫，辅导圣德，自有内传。至今隐见于棚口、什邡、杨村、濛阳、新繁、新都、畿服之内，人多见之。不常厥状，或为老姬，或为丐食之人。每风雨愆期，田农旷废，则必见焉。疑其仙品之中，主司风雨水旱之事也。杨村居人众以旱 又，将祷于洛口后城李冰祠庙。热甚，憩于路隔树阴之下，忽有老姬，歇而问曰：众人欲何往也？悉以祈雨事答之。姬曰：要雨须求罗真人，其余鬼神，不可致也。言讫不见，众知姬即罗真人也，于是见处焚香以告焉。俄而风起云布，微雨已至，众乃还家。是夕，数十里内，甘雨告足。乃于其所置天宫，塑像焉。诸乡未得雨处，传闻此说，以音乐香花，就新宫祈请，迎就本村，别设坛场，创宫室，雨亦立应。如是什邡、绵竹七八县界，真人之宫，处处皆有，请祷祈福，无不

征效。忽为乞士，于棚口江畔，谓人曰：此将大水，漂损居人，信我者迁居以避之，不旬日矣。有疑其异者，即移卜高处，以避水灾，其不信者，安然而处。五六日，暴雨大至，漂坏庐舍，损溺户民，十有三四焉。居人以为信，立殿塑像以祠之。金银行人杨初，在重围之内，配纳贍军钱七百余千，货鬻家资，未支其半。初事母以孝，每为供军司迫促，必托以他出，恐母为忧。尝于山观，得真人像帧一幅，香灯严奉，已数年矣。至是，真人托为常人，诣其肆中，问以所纳官钱，以何准备。具以困窘言之。此人令市生铁，备炭火。明日，复来燃炭，垒铁投之，一夕而去。临行谓之曰：我罗公远也，在青城山中。以尔孝不违亲，心不忘道，以此金相助，支官钱之外，可以肥家。复引初往山中，时令归觐。初亦得丹药，以奉其亲。发白还青，老能返壮矣。

### 嘉州开元观飞天神王像捍贼验

嘉州开元观，后周所创，本名弘明观。隋大业中，方制大殿，于殿西头，塑飞天神王像。坐高二丈余，坐二鬼之上。初修观，道士吕元操，数夕梦神人在山顶，其形接天，或白日仿佛如见。郡人有好道者，时亦见之，或通梦寐，遂商议塑此形像。本有十身，初制其一。而隋末多事，中原沸腾，不果遍。就像之灵应，郡人所知矣。疾瘵之家，祈祷必验。其下二鬼青黑者，往往见于人家。

太和中，相国杜元颖镇成都，闾场不修，关戍失守，为南诏侵軼。木源川路境上，夷人导诱，蛮蜚分三道而来，掩我不



备，将取嘉州。去州四十余里，寇乃大惊，奔溃而去。州境稍安，方设备御。有擒得夷人觚侯者，大寇及境，何惊而去？云三路蛮寇，本欲径取嘉州，谓州中无备。去州四十里，忽旗帜遍山，兵士罗立，不知其数。有三五人大将军，金甲持斧，长三二丈，声如雷霆，立二鬼之上，麾诸山兵士，齐为拒捍，自量力不可敌，惊奔而去。是日蛮中主军酋帅，死者三人。蛮国之法，行军有死伤及糞秽，旋即瘞藏，不令露见，由是不知酋帅瘞埋之所。时众闻之，皆言飞天神王兵示现，以全州境。自是祈福祷愿，迨无虚日。

又尝有人，下峡之时，曾诣飞天，求乞保护。至瞿唐，水方泛滥，波涛甚恶，同宗三船，一已损失，二皆危惧。忽见神人立于岸上，如飞天之形，使二大鬼入水扶船，鬼亦长丈余，船乃安定，风涛亦止。惊迫之际，莫知所自，徐而思之，乃飞天所坐二鬼，救其船耳，一赤一青，形与所塑无异。

成都乾元观在蚕市，创制多年，顷因用军，焚毁都尽。三门之下，旧有东华、南极、西灵、北真四天神王，依华清宫朝元阁样，塑于外门之下，并金甲天衣。门既隳坏，而神王无损，风雨飘渍，亦无所伤。邑人相传，颇为灵应。时蜀王既克川蜀，移军收彭州，围州久矣，因暂还成都。方当暑月，参从将吏所在，取便而行。大将杜克修，先至神王之所，见众人聚观塑像，问其故，云塑神皆动。克修以器盛水，致神手中，果摇动而水溢出。顷之蜀主至，复祝而试焉，曰：若即克彭州，更观摇动之应。良久而振动数四。不逾月而克州城，歼殄大敌。乃施金币，命本邑创制堂宇，以崇饰之。

### 楚王赵匡凝北帝祥应

楚王赵匡凝，镇襄州也。州郭旧有北帝堂，岁久芜毁，在营垒中。一旦，楚王寝室之上，有物如曳戟皮革之声，瓦皆震动。潜起视之，见黑气一道，自北帝旧基之所，至板屋上。楚王异之，密加庆祝，将欲兴创堂宇，以答祥应。诘明视事之际，先尝选将校五十人，俾往营田，日给以衣装农器，指挥教命，一无应者，楚王疑有异图，拘而讯之，得其构孽之状，咸剿戮焉。王乃谓人曰：北帝灵验，信有征矣。中夜有云气之异，诘朝乃奸慝彰明，若非玄功告示，几有不测之祸。遂缔饰堂庑，崇严像貌，俾谒之士，主其香灯。阖境瞻祷，累获符应矣。

### 李昌遐诵《消灾经》验

李昌遐者，后汉兖州刺史之后也。生而奉道，常诵《太上灵宝升玄消灾护命经》。而稟性柔弱，每为众流之所侵虐。忽因昼寝，梦坐烟霞之境，四顾而望，熊黑虎豹，围绕周匝，莫知所措。不觉伤叹：何警戒之甚邪！谓积善之无验。于时空中有一道士，呼其名而语之曰：吾即救苦真人也，汝勿惊骇，吾奉太上符命，与诸神将密卫于汝。且汝常念者，经云流通，读诵则有飞天神王、破邪金刚、护法灵童、救苦真人、金精猛兽，各百亿万众，俱侍卫是经。昌遐既觉，豁然大悟，因知自前侵

虐我者，未有无祸患殃咎，盖诵经之所验也。

### 崔昼诵《度人经》验

崔昼者，汉汶阳侯仲牟之后。尝谒白云先生，学修身之术。先生曰：汝富贵之子，何思淡泊？崔子避席而对曰：以财赈人，财有数而人无厌矣；以爵赏人，爵既崇而人或骄矣。如何示我以道，将以普济生灵。先生曰：吾道之内，有《度人经》在，汝可诵之。崔昼乃作礼承受，至诚诵之。厥后有使者，驰一緘遗崔公曰：子之先君，令吾持此谢汝。言讫，使者忽然不见。于是启緘熟视，果备认得，先君亲札云：感汝念诵《度人经》功德之力，累世之祖，尽得生天。自后崔昼一家，至今念诵。

### 姚元崇女精志焚修老君授经验

开元宰相姚元崇，昔出官为冯翊太守。有一女，名长寿，年七岁，不茹荤，不饮酒。父母常令于玄元像前，焚香点灯。忽昼寝，梦见老君，有二侍童、二神将夹侍，左右侍童语长寿曰：尔之焚修，精志可随，口授汝《九天生神经》一章云云。

### 王道珂诵《天蓬咒》验

王道珂，成督双流县南芭居住。当僖宗幸蜀之时，常以卜筮符术为业，行坐常诵《天蓬咒》。每入双流市，货符卜得钱，须吃酒至醉方归。其郭门外，有白马将军庙，晓夕有人祈赛。长垂帘，帘内往往有光，及闻吹口之声，以此妖异，人皆竞信。所下酒食，忽忽不见，愚民畏惧，无有辄敢正视者。道珂因吃酒回归，入庙朗诵神咒，则庙堂之上悄悄然。傍人视之，无不惊骇。道珂异日，晨鸡初叫，忽随村人担蒜趁市，夜行至庙前，忽然倒地。苍惶之间，见野狐数头，眼如火炬，御拽入庙堂阶之下，闻堂上有人呵责曰：你何得恃酒入我庙内，念咒惊动我眷属？道珂心中默持《天蓬神咒》，逡巡却苏。盖缘其时与擎蒜同行，神兵远其秽臭，而不卫其身，遂被妖狐擒伏。泊擎蒜人抛去，道珂心中想念神咒，即妖狐便致害不得。

既苏息之后，遂归家沐浴清洁，却来庙内，大诟而责曰：我是太上弟子，不独只解持《天蓬咒》，常诵《道经》。《经》云天得一以清，地得一以宁，神得一以灵。尔若是神明，只合助道行化，何以恶闻神咒？我知非白马明神。狐狸精怪，傍附神祠，幻惑生灵。今日我决定于此止泊，持咒为民除害。遂志心朗念神咒，至夜不歇。庙堂之上，寂然无声，亦无光透帘幕，唯闻自扑呻吟之声。至明，呼唤邻近居人视之，唯见老野狐五头，皆头破，血流满地，已毙。自后寂无妖异，竟绝祭祀，庙宇荒废。是知凡持此咒，勿得食蒜，至甚触秽。天蓬将军是北帝上将，制服一切鬼神，岂止诛灭狐狸小小妖怪矣。

### 王清远诵《神咒经》验

王清远，世居北邙山下。唐咸通年，时多疫疾。清远身虽在俗，常服气行药，诵《神咒经》，自称是缙山真人远孙。是时天子蒙尘入蜀，兵火不息，疫疠大行，连州匝县，饥荒病患众矣。清远佩受《神咒经》策，每行符药，救人多不受钱，只要少香油，供养经策。乡人迎请医疗，日夕喧阗。清远有表弟一人为僧，名法超，亦持《大悲轮行秘字》，自清远之医道大亨。忽一日，冒夜来投宿止，潜以瓶盛狗血，倾于清远道堂内。至二更已来，忽闻空中有兵甲之声，顷闻法超于床上，如有人挽拽叫晶，唯言乞命。清远命灯照之，但见以头自顿地，头面血流，至平明不息。须臾之间，但见两脚直下，如人拖拽奔窜，入缙水江内，浮尸水上。阖市目击，无不惊叹。是知神咒真经，实有神将吏兵守护，岂容嫉妒。庸僧将秽恶之物犯冒，所谓为不善于幽暗之中，神得而诛之。清远袭气持经，阴功济物，寿一百七岁。辞世之夕，阖境皆闻异香仙药，斯亦证道之渐阶矣。

### 忠州平都山仙都观取《太平经》验

忠州平都山仙都观阴真人镇山《太平经》，武德中，刺史独孤晟，取经欲进。舟行半日，有二龙，一青一白，横江鼓波，船不得进。舟人惊惧，复溯流还郡。晟即命所由垫江路，陆行进经。时山川之中，久无摯兽，至是蛇虎当道，经使恐惧，将经却回。晟即脩黄箓道场，拜表上告，然后取经以进，在内道场供养，绵历岁年。开元中，供奉道士司马秀，准诏祭醮名山，

开函取经，但空函而已。诃诘道众，疑是观司隐藏，法侣惊惧，无词披雪。遂焚香告真，述武德中经已将去，今诏旨搜访，无经上进，仰忧谴责。时景气晴朗，野绝尘埃，忽阴云覆殿，迅雷震击。俄而檐宇溢霁，经在案上，异香盈空，祥烟纷霭，复得昔日所取之经以进。会昌中，赐紫道士郭重光、晏玄寿，复赉诏醮山，取经石函之中，经复如旧。至今镇观者，犹是此经，不知何年归还耳。

### 天台玉霄宫叶尊师符治狂邪验

天台山玉霄宫叶尊师，修养之暇，亦以符术救人。婺州居人叶氏，其富亿计，忽中狂瞽之疾，积年不瘳。数月沉顿，后乃叫号悲笑，裸露奔走，力敌数人。初以绢索縻縶之，俄而绝绊出通衢，犯公署，不可枝梧。官以富室之子，不能加罪，频有所犯，亦约束其家，严为守卫，加持禳制。饭僧祈福，祠神鬼，召巫覡，靡所不作，莫能致效。其家素不信道，偶有人谓之，令诣天台，请玉霄宫叶尊师符，可祛此疾，不然莫知其可也。乃备缯帛器皿，入山请符。尊师谓使者曰：此符到家，疾当愈矣。无以器帛为用，尽归之使者。未至三日，疾者方作，断絙投石，举家闭户以拒之，折关枝椽，力不可御，如此狂猛，非人所遏。忽忽遽敛容，自归真室，盥洗巾栉，束带郭足，执板磬折，于门内道左，其色怡然。一家忻喜，争问其故。笑而不答，但言天使即来。饮食都忘，夕不暇寝，孜孜焉企踵翘足，延颈望风，汗流浹背，不敢为倦。如此二日三夕，使者持符而至，入门迎拜，欢呼踊跃，前导得符，服之瞑然，食顷疾

已瘳矣。由是躬诣山门，厚施金帛，助修宫宇，一家脩道，置靖室道堂，旦夕焚脩焉。初，玉霄赐二符，一已吞之，一帖房门之上。叶之女使窃酒饮之，呕于符下。叶见一神人，介金执剑，长可三四寸，从符中出去，焚香拜谢，而不见其归。数日，亲戚家女使近患风魔疾，尚未甚困，来叶房之前，立且未定，忽叫一声。叶见符中将军，如前之形，挥剑加女使头上。问其故，云适有神人，以剑于头上斩下一物，坠于衣领中。令二三女仆捧持，验有蛇头如指，断在衣领中，血犹滴焉。风魔之疾，自此亦愈。

### 贾琼受《童子策》验

成都贾琼，年三岁。其母因看蚕市，三月三日，过龙兴观，门众齐受策，遂诣观，受《童子策》一阶。十余年后，因女兄有疾，母为请处士吴太玄，为入冥看检致疾之由，仍看弟兄年命凶吉。经宿太玄还，言疾在江渚，求之即差，籍中不见有贾琼之名。父母愈忧，复请太玄看之。时太玄每与人入冥检事，必锁于一屋中，安寝而往，不复人惊呼，候其自醒，唤人开门，乃开之，历历说冥中之事，有如目击，言必信验。或两宿，然后回尔。既再往检琼名字，云年三岁时，三月三日，于龙兴观受《正一策》，已名系天府，不属地司，籍中不见名字，于天曹黄簿之内，检得其名。

### 尹言念《阴符经》验

尹言者，修德坊居。与明道大师尹嗣玄为宗姓之弟，常崇道慕善，孜孜不倦。因诣嗣玄，受《阴符经》，至诚敬奉讽念。为其常少记性，愿得心神聪爽，受之数年，念逾万遍，稍觉心力开悟。因本命日斋洁焚香，念三十遍，忽了忆前生之事。姓张名处厚，在延寿坊居。家有巨业，儿女皆存，记其小字，年几一一明了。与其家说之，乃往寻访，述张生死年月，形色情性，无所差异。张之儿女，闻之呜咽感认，言其今之状貌，与昔不殊。但性较舒缓尔。自是两家契为骨肉，黄寇犯阙之前，其二家皆在。

### 赵业受《正一策》验

赵业，定州人。开成中，为晋安县令。因疾暴卒，手足柔软，心上微暖，三日乃苏。云初为冥官所追，牵拽甚急，问其所以，但云为欠债抵讳事，自思身心无此罪犯，必恐误追。行三五十里，过一山岭，上有宫阙崇丽，人物甚多，有一青衣童子，前来问云：汝非道士赵太玄乎？某答云：晋安县令赵业耳。童子笑曰：岂得便忘却耶？又一童子续来，云太一令唤赵太玄追事。人一时散去，即与童子到宫阙中，不见太一，但见一道流云：汝六岁时，为有疾，受《正一八阶法策》，名为太玄，



岂得流于俗官，并忘此事耶？太一有命，便令放还，却须佩箬修真，行功及物，居官理务，勿贪渎货财，轻人性命。言讫不见，所疾已苏。遂于思依山参受法箬，累置坛场，广崇功德，复以法名太玄矣。

### 僧法成窃改道经验

僧法成，姓陈，不知何许人。立性拘执，束于本教，而矫饰多端。因游庐山，至简寂观，不遇道流，而堂殿经厨，素不关钥，遂取道经看之。将三十四卷，往灵溪观栖止，诳云：某在僧中，本意好道，欲于此驻泊，转读道经，兼欲长发入道。人皆善其所言。又取观中经百余卷，日夕披览。每三五日一度，下山化粮。人闻其所说，施与甚多，粮盐所须，计月不阙。乃改换道经题目，立佛经名字。改天尊为佛，言真人为菩萨罗汉，对答词理，亦多换易。涂抹剪破，计一百六十余卷。

忽山下有人请斋，兼欲求丐纸笔，借观奴一人同去。行三二里，见军吏队仗，呵道甚严，谓是刺史游山，法成与奴下道，于林中回避。良久，见旗帜驻队，有大官立马于道中，促唤地界，令捉僧法成来。法成与奴闻之，未暇奔窜，力士数人，就林中擒去，奴随看之。官人责曰：大道经教，圣人之言，关汝何事，辄敢改易！决痛杖一百，令其依旧修写，填纳观中，填了报来，别有处分。即于道中决杖百下，仆于地上，疮血遍身。队仗寻亦不见。奴走报观中，差人看验，微有喘息而已。扶舁入山，数日方较。遂出所改换经本，呈众道流。法成本有衣钵，寄在江州寺中，取来货卖，更求乞纸笔，经年修写。经足送还

本观，烧香恳谢，欲愿入道，道流以其无赖，无人许之。是夜叫呼数声，如被殴击，耳鼻血流而死矣。

### 僧行端辄改《五厨经》验

僧行端，性颇狂譎。因看道门《五厨经》，只有五首咒偈，遂改添题目，云《佛说三停厨经》，以五咒为五如来所说，经末复加转读功效之词，增加文句，不啻一纸。《五厨经》属太清部，明皇朝，谏议大夫、肃明观主尹愔注云：盖五神之秘言，五脏之真气，持之百遍，则五气自和，可以不食。其经第一咒云：一气和太和，得一道皆泰，和乃无不和，玄理同玄际。开元中，天师赵仙甫为疏，皆以习气和神为指。行端旁附此说，即云读诵百二十遍，可以咒水，饮之令人不食。名为《三停厨经》。词理鄙浅，与尹、赵注疏，殊不相近。改经既了，已写五六本，传于他人。

于窗下写经之际，忽有神人，长八九尺，仗剑而来，谓之曰：太上真经，历代所宝，何得轻肆庸愚，辄为改易！奋剑斩之，以手拒剑，伤落数指。同居僧二人，共见其事，惊为哀乞。神人曰：如此无良也，解惜命促！令追收写换，然后奏听敕旨。行端与同居僧，散寻所行之本，只得一半，余本已被僧将出关，别写元本经十本，烧香忏悔，所改添本，香上焚之。神人复见曰：訾毁圣文，追收不获，不宜免死。逡巡顿仆而卒。其所改经，至今往往传行诸处，览观其义，自可晓焉。

## 崔公辅取宝经不还验

崔公辅，明经及第，历官至雅州刺史。至官一年，忽觉精神恍惚，多悲恚狷急，往往忽忘，举家异之。一旦无疾而终，心上犹暖，三日再苏，亦即平复。谓其寮佐曰：昨为冥使赍帖见追，随行三五十里，甚为困惫，至城阙，入门数重，追者引到曹署之门，立于屏外，逡巡有官人，着绯执版，至屏迎之先拜，公辅惊曰：某为帖所追，乃罪人也，官人见迎致拜，深所不安。官人曰：使君固应忘之矣，某是华阴县押司录事巨简，使君初官，曾获伏事庭庑。近奉天符，得酆都掾地司所奏，使君任酆都县令之日，于仙都观中，取《真人阴君宝经》四卷，至今不还。天符令追生魂勘责，使君之魂，日夕在此对会，恐使君不知，故欲面见，具此谕述，以报往日之恩耳。使君颇觉近日忿怒悲愁，精神遗忘否？此是生魂被执系故也。于是引至厅中，良久言曰：此有茶饭，不可与使君食，食之不得复归人间矣。但修一状，请置黄箓道场，忏悔所犯，兼请送经却归本山，即生魂释放矣。因本司检使君年禄远近，逡巡有吏执案云：崔公辅自此犹有三任刺史，二十三年寿。言讫，公辅留手状，官人差吏送还。乃于成都及雅州紫极宫、忠州仙都山三处，修黄箓道场，赍送经还本观。公辅平复如常。其后历官、年寿皆如所说。此事是开成年中任雅州刺史也。

## 刘载之诵《天蓬咒》验

彭城刘载之，儒家子。修辞学外，常事北极，香火不懈。多寓京师，少而神气怯懦，每惊魇，往往不悟。尝遇苏门道士刘大观，授以《天蓬神咒》，令持诵千遍，载之勤而行焉。绝荤腥，专香火，逆旅之中，亦拳拳修尚，自是无复魇悸矣。寇陷长安，在宣杨里，为寇所虏。力役劳苦之事，素非其所能，稍或迟舒，必承之以剑，性命忧迫，在乎顷刻，而密诵神咒，以求其祐。是夕，有一人如军士之饰，谓之曰：劳役之事，吾为子免之，此有径路，可以脱祸，可相随而行也。载之疑为寇所试，辞焉。此人引其手，若腾跃于空中，良久覆地。

是夕月光如昼，但见山川参差，泉声流激，已在巨石之上。惊异之际，有村童前引，入洞府中。宫阙深严，层城焕丽，金楼玉堂，奇禽珍木，周还数十里。有谒者，平冠褰袖，云太帝君令于宾宇憩息，俄赐酒饌仙果。二仙官与之宴饮。载之问：太帝君所主何国？某未曾朝拜，忽奉恩敕，深所忧惧。仙官曰：太帝是北斗之中紫微上宫玄卿太帝君也，上理斗极，下统酆都。阴境帝君，乃太帝之所部；天蓬上将，即太帝之元帅也。吾子冥心北元，尊奉神咒，而值此危难，将陷锋镝。太帝阅籍，当在驱除之伍，仰轸圣虑，已奏章太上，述勤瘁之心，延寿三纪，使还于故里尔。顷之，得朝谒太帝，叩蝼谢恩于阙下，命二童送之，食顷已达泗州。其友人谢良，奏事行朝，具话其事。载之今犹在江表。是则太帝之昭鉴、天蓬之威神，不遗毫分之善也。

### 姚生持《黄庭经》验

姚生者，华原人也。幼而好道，持《黄庭经》。光启中，僖宗再幸陈仓，远近惊扰。姚为贼所迫，夜走堕枯井中，伤足，求出未得，乃旁有窖穴，匿于其中，昼夜念经，因不饥渴，足疾亦愈。时襄土既平，大驾归阙，乡里人户稍复。有游军夜宿井侧，见井中有光，拯而出之，具述经灵验。遂为道士，居华原西界观中焉。

## 卷一百二十 灵验部四

## 处州青田县清溪观古钟自归验

处州青田县清溪观，古有铜钟，因袁晁乱，后失其所在，有墨书《青田》字，人或记焉。其后温州岛屿山水中，舟人时闻钟声，幽咽不远。一旦，有人忽见水中一物，如半钟之形，侧露水上，荡桨视之，既近即覆矣。露其一半，认其模范之迹、蒲牢之形，乃钟也。以物触之，沉于水中矣。与人语其异，好事者乘舟看之，天气晴霁，亦时一见。州寺僧结彩舫，具幡花，致斋迎之，或经宿水上道场，礼忏而请，或得见之，寻又沉去。道门亦备幡花、舟舫、香火迎之，见而不得。清溪道士，时亦在迎钟众中，稽首祝之曰：此州观寺皆自有钟，唯清溪观无钟多年，极是阙事。远地不办香花，丹心而已。钟若有灵，愿溯流自往。某旬日，即归于观前溪中奉候。众闻其说，皆笑之。十余日，道士归青田，钟已在观前潭中矣。焚香迎之，泛泛就岸，重千余斤，数人挽拽悬挂，若百许斤耳。日后时亦飞去，旬日却回，今以大锁系之，不复去矣。其上墨书“青田”字，久在水中，宛然不灭。井邑老人详认其字，乃观中旧钟也。

### 青城山宗玄观铜钟不能损验

青城山宗玄观古迹铜钟，三千余斤，隐花文，飞仙幢节之状，工甚精好。刘辟据成都，取管内铜像大钟，铸兵器及钱。此钟差县人挽拽下山，磨其上隐起花文欲尽，频以巨石捶击，终不能损。拽至江干，将入竹筏，力敌万斤，竟亦不动。县状申辟，辟异之，令送山中。三二十人牵送上山，才若一二百斤耳。既复悬挂，时或击之，立致云雨，至今见在。

### 温江县太平观铸钟道士得道验

温江县太平观，有任尊师者，于市中，每日户乞一钱，铸钟万斤，数年钟成，尊师年已八十余矣。作大斋表赞，扣钟数百下，辞决而去，即大历年中也。其后刘潼仆射拥旄西川，观寺钟上，皆镌刻彝罗尼咒。至是任尊师复归，领巧工，于咒边刻云：观家铜钟，不合妄刻佛咒。别立誓词数句。而人见任状貌益少，壮于当时，信是得道者。

### 眉州故彭山市观大钟伤寺匠验

眉州故彭山市观，有大钟重千斤。观去州二十余里，每扣钟之时，声应州郭。顷年，僧辈诳陈文状，云观无道士，钟在草中，当用运之。时官无正理，遂移于州寺。悬挂上钟之时，折匠人之足，人以为灵验。寺当州门，扣击之声，不闻州内。群僧别铸大钟，此钟不还本观，卖与嘉州寺中。下楼之时，伤其二匠，断足折腰。入船出岸，皆有伤损。聋俗不以为灵验，至今流俗未还，良可惜也。

#### 浴爰赤木古钟水洗疮验（古钟验附）

爰赤木古钟，开元中所进。云赤木庄在玉山之下，时闻地中隐隐然有钟声，寻求莫能致。一旦赤木患疮疾且甚，医不能祛，梦一青童曰：得浴钟水洗之即愈。赤木就近观寺中，以水洗钟，用器盛之，归以洗疮，微加痛剧。乃令人于常闻钟声处听之，果闻钟在地下，掘数尺而得形，上有坐师子为鼻，鼻下平阔，其顶圆大，围三尺余，六七寸顿小，如腰鼓形，向下复大。奇文隐镂，万状千名，迥非镕范所作。既得，以水浴去泥土，取其水洗疮，即日痊愈。夜有光影，时或自鸣，为邻里所异，不敢藏隐，奉表进焉。敕赐景龙观。黄巢前，此钟犹在。

宝应中，盩厔县居人耕地，亦得古钟百余斤。上有伏虎形为鼻，自鼻以下顿大，数寸而小杀之，如是再杀三成，共高一尺八九寸，遍身天花云叶，工用殊妙，比赤木所得圆厚而重。既得，夜夜有光，或飞于空中，声韵清越。亦表上进，诏送玄真观。久之，取留内殿。



### 渝州南平县道昌观古钟奇巧验

渝州南平县道昌观，有古钟焉。以二狮子，对立捧花座，蛟螭为鼻，蛟尾分绕狮之足，盘于钟上。钟形再杀三成，如盪屋古钟之状，于其杀处，细花文五条。当中一条，黄色明净，累累若珠贯焉；次珠条之外，作花片之状，屈曲相萦；又外一重，云叶缠绕。踪迹奇巧，工甚周细，若非人工。此外周身有花，不可细记。云是湘东王送与隐居陶贞白。近因乱离，钟已遗失。

### 黔南盐井古钟多年无毁蚀验

黔南盐井中，因摧损修筑，得一古钟。长三四尺，中细而实，如腰鼓瓦腔之状，两头圆厚，扣之皆有声，奇音响亮，与常钟异。在盐井多年，益加光腻，无毁蚀之势，时有金色，精明异常。节度使僖公，留镇府库焉。

### 天台山玉霄宫古钟僧偷而卒验

天台山玉霄宫古钟，高二尺，重百余斤。制度浑厚，形如

铎，上有三十六乳，隐起之文，亦甚精妙，相传云夏禹所铸，或云是越王乐器。顷年于空中，夜夜飞鸣，人皆闻之。忽墮于禹庙内，藏之府库，绵历七八十年。累有名僧求请，欲彰其异，而皆嫌间不与。咸通中，左常侍李绾为浙东观察使，请玉霄峰叶尊师，修斋受箓，于使宅立坛，出此钟以击之。既而水部员外柳韬白，上京得老君夹鍼像，高三四尺，圣相奇妙。乃重装修，作毗顶宝帐，以白金、香鸭、香龟数事，送于玉霄，亦便留箓坛内。供养斋毕，李乃命宾为钟铭，具以岁日，刻于钟上，并老君像，皆送山中。所刻之处，灿然金色。禹迹寺僧频求此钟不得，既知镌勒铭篆，已送天台，计无所出，乃扬言曰：天台所得古钟，乃真金也。匠人所刻之末，是数两金，况于钟乎！又有香鸭、器皿，计其所直多矣。因有衲僧，与不道辈十余人，夜入玉霄宫，伏于版阁之下，中夜逾栏干而上，于道场中取香鸭、香龟金龙道具，实于囊中，磨钟于背，出门群呼而去。尊师知之，不许徒弟追之。僧等约行三十余里，憩一大树下，良久天明，只在阁柱之侧。众小师往视之，背钟者已僵死矣。其余徒党，痴懵凝然，不辨人物，钟及金帛，一无所失。尊师咒水洒之，良久，僧亦稍醒，群贼乃苏。发愿立誓，乞不闻于官，乃尽释之，扶舁病僧而去，僧至山下乃卒。

### 开州龙兴观钟雪冤验（云安钟附）

开州龙兴观钟，七八千斤，未有钟楼，悬于殿上而已。相传云，州中有<襄支>敝之徒、遗失之物、诤讼不决之事、沉滞抑屈之情，焚香扣钟，立有明效。至有囚徒刑狱，推鞠不得其

实者，即入款请击钟，便可分雪明白。余顷驻泊观中，忽见官吏押领囚徒，来于钟前，焚香告誓，援槌将击之际，有人抑止之，更令取款，如是数四，都不击钟，论讼已得其理矣。因问其故，云累有公案不决者，请击此钟，击钟之后，旬日之内，诬调冤抑于人者，必暴病而死；情有相党、事有连累者，一年之中，无子遗矣；有理被抑之人，宛然无苦。由是刑狱大小，无敢有欺，以钟为准的也。云安白鹤观钟，亦类于此，远近传焉。

### 施州清江郡开元观钟见梦验

施州清江郡开元观，有钟焉。其形绝古，用麟为鼻，以系於虞，状若悬匏。扣之，初则清音纤远，俄而震然，响闻数里，然不知何代之器也。初有郡民，牧牛于郡南田间，忽闻有异声自地中发，民与牧童数辈闻之，皆惊走辟易。其后，民热病旬余，梦一丈夫，衣青襦，告之曰：汝迁我于开元观。民亦不悟其旨。又到田间，再闻其声如前，而密志其地，即以事白于郡守。郡守封君怒曰：此民妄，辄以不急之事干我耶！叱去之。是夕，民又梦青襦者曰：吾委迹于地下有年矣，汝不速出者，必有大咎。民大惧，及晓，与其子皆往，凿其地，深丈余得此钟，色青，如所梦丈夫色也。遂再白郡守，置于开元观。是日辰时，不击自鸣，震响极远，郡人俱异而叹之。郡守以其事上闻，明皇诏编于国史，复命宰臣李林甫写其奏，以颁示天下矣。

### 洪州游帷观钟州官强取入寺验

洪州游帷观有二钟，一是观司特敕所铸，一是许真君修行钟，历代传之，在真君殿，稍小于观钟尔。节度使严跼，创置节制，威令风行。素重缁徒长老，增修其院，长老欲取许真君钟，严令官吏取而授之，道士皆不敢论其曲直。取钟之日，雷风震击，是时大设斋筵，费用极广，风雨暴至，曾不施张，顷刻水溢数尺。及扣其钟，如击土木，并无音响。长老谓严曰：此州道士，例多妖法，必是禁钟，使无声尔。严怒捕诸道士，所在禁系，责其邪幻，将加重法，官吏畏威，无敢谏者。严忽沉然思寐，梦见许真君与二从者，来至其前，谓严曰：无知无道，强取我钟，又加法于道士，若不送钟还观，礼谢大道，令侍者断其头来。即见授剑于侍者。严惊觉汗流，而侍者持剑，仿佛在其前。遽释诸道士，送钟还观，自诣游帷，焚香致谢。回顾见持剑侍者，谓之曰：汝为不道，加害于人，上帝所责断头之事，恐将不免。言讫而去。不久，已开江事败，断鞅而死。

### 天师剑愈疾验

天师剑，五所铸。状若生铜，五节连环之柄，上有隐起符文、星辰日月之象，重八十一两。尝用诛制鬼神，降剪凶丑。升天之日，留剑及都功印，传于子孙。誓曰：我一世有子一人，

传于印剑及都功篆。唯此，非子孙不传于世。顶上有朱发十数茎，以表奇相，于今二十一世矣。其剑时有异光，或闻吟吼，乍存乍亡，颇彰灵应。至十六世，天师好以慈惠及人，忧轸于物，以神剑灵效，每有疾苦者，多借令供养，即所疾旋祛。邻家夜产，性命危切，亦以此剑借之。既至产家，有神光如烛，閃然照一室之中，墮地而折。

经数十年，十八世孙惠钦，性温和，守谦退，与物无竞，俗机世务，泛然不经其心。人有所言，虽譎诈者，亦皆信用，略无疑虑。一旦，有人挈布囊，入云锦山仙居观，周行廊庑之下，瞻礼功德，云解磨镜钉铰。门人令其缀焊小铜锁子，师见之，问曰：我有折剑，焊缀得乎？此人请剑看之，云可矣，请别扫一室，须炭数斤。反扃其门，以巨石为砧，炽炭锤击，声闻于外。门人皆股慄心战，忧此剑碎于其手，师殊不为虑。顷之，锤锻声绝，工人执剑以呈，果完缀如旧，所焊之处，微有黑痕，如丝发尔。师以钱半千酬之，此人得钱愧谢，致于老君前，负囊而去。出门数步，寻失所有。识者疑是天师化现，降于人间，自续其剑。不然，何得重新若此，而锤击不伤，完复如故。

### 张让黄神印救疾验

张让家于桂州，客游湘鄂间。因得心疾，初则迷忘，在途忘行，在室忘坐，惑于昏晓，迷其东西。累月之后，复多狂怒，诟责鬼神，凌突于人，至于裸露驰聘，不知避忌。履水火，冒锋刃，不为忧患，时亦烧灼害之，伤割及之。道士袁归真，新

刻黄神越章印，醮祭方毕，试为焚香，依法以印印之，印心及背。让正狂走，执而印焉，然而睡，归真知印之效也。复染丹炷香，再印其心，倏然疾愈。有物如鹞，从其口中，飞去数丈之外，坠于地上。众往视之，乃大蝙蝠耳。背上印字宛然，让乃平复如旧。归真持此印，所在救疾，大获灵验。

### 范希越天蓬印祈雨验

范希越，成都人也。事北帝修奉之术，雕天蓬印以行之，祭醮严洁，逾于常法。广明庚子岁，三月不雨，五月愈望，人心焦然，谷稼将废。愿于万岁池试行神印，为生灵祈雨，于是诣至真观致斋。是日庚辰，以戌时投印池中，阴风遽起，云物周布，亥时大雨达晓，及辰，大雷迅电，惊震数四，至巳少霁，乃得归府。升迁桥水，渐及马腹，罗城四江，平岸流溢，螟蝗之属，淹渍皆死，自是有年矣。

驾驻成都，上知其道术，召对问以逆寇诛锄、宫城克复之事，命持印于内殿，奏醮积雨之中，云霁月朗。是夕，梦神人示以诛寇复城之兆。上大悦，授太常寺奉礼郎，累迁主客员外郎、卫尉少卿，锡以朱绂。黄巢捷至，果符圣梦之旨，特加宠异。自言初居煮胶巷，印篆初成，而蛮寇凌突，居人奔散，藏印于堂屋瓦中，蛮去之后，四邻焚烬，其所居独在，疑印之灵也。

### 越州上虞县钟时鸣地中验

越州上虞县郭郭间，有隙地数亩，时闻钟鸣地中。咸通年，县令夏侯颇倾心崇道，以县邑无观，买其地创造观宇。掘地获古钟，百余斤，上有文字，曰正观。是冬赐额，以降诞节祝寿所奏，赐名延庆观焉。

### 王谦据蜀隋文帝黄箓斋克平验

隋文帝开皇之初，干戈不施，寰海克定。唯王谦后周旧臣，勋名素重，畏惮隋祖，恐祸及身，遂据三蜀以图变。帝出师征之，频战不克，兵士多病，死者相枕。乃于内殿修黄箓道场，祈天请祐。三日，夜梦神人降曰：帝王上承天命，下顺人心，天人合符，然后有国。今陛下革周立隋，天所命也，一方之力，何以敌于四海之力乎！帝曰：剋蜀吊民，盖不获已，但主帅疾疫，以此为忧尔。神人曰：疾疫者，北人不堪瘴毒，所以多病。坛中法水，可救亿兆，况偏师乎！”即见神人取坛中禁水，向西南嚥之，曰：雨至即愈，无烦圣虑也，子日进军，必当剋蜀。旬日军中奏，某夜雷雨洒营垒之上，三军疾者皆苏，无复疾疫矣。其后王谦传首，三蜀底宁，果是子日也。

### 青城丈人授黄帝龙韞并降雨验

青城山，黄帝诣龙峻真人宁先生，受《龙峻经》，得御飞云之道。乃封先生为五岳丈人，戴盖天之冠，著朱光之袍，佩三庭之印，为五岳之上司，与潜山司命、庐山使者为三司之尊。敕五岳神，一月再朝虚中，洒水以代晷漏。其后历代帝王，虽置祠斋祭，未再加封号。僖宗皇帝中和元年辛丑七月十五日诏：内臣袁易简、刺史王兹、县令崔正规，与朕诣山修醮。封为五岳丈人、希夷真君。是时县境亢旱，苗谷将焦。封醮之夜，龙吟于观侧，溪中风雨大至，枯苗再茂，县境乃丰。以事上闻，编于国史矣。

### 天师叶法善设醮摄魅验

天师叶法善，括州人也。三世为道士，皆有神术，摄养登真之事，法善符篆，尤能劾役鬼神。显庆中，高宗征入内道场，恩礼优异。时驾幸东都，法善于陵空观作大坛，设大醮，城中士女，咸往观之。俄有数十人，奔投火中，众皆大惊，救之而免，亦无伤损。法善曰：此人皆有魅病，为吾法所摄。及问之，果然。尽为劾之，其病皆愈。法善自高宗、中宗、则天、睿宗、明皇五朝，来往名山，累召入内。先天二年，拜鸿胪卿、越国公，赠其父歙州刺史焉。



### 范阳卢蔚醮本命验

范阳卢蔚，弱冠举进士。有日者言其年寿不永，常宜醮本命，以增年禄。蔚素崇香火，勤于修醮，未尝辍焉。年二十五，寝疾于东都，逾月益困。忽梦为亲友所招，出门乘马，其行极速，疑为冥司所摄。有一人乘马，奔来所在留滞，必为搃解遮救，言旨恳切。及到所司，此人又恳为请托，因得却还。部署行里，有如亲吏焉。所还道中，见兵士数千，初颇疑惧，此人曰：此皆他日郎君所主兵士也。将至所居，自后垣乘虚而入，径及庭中，有门旗麾钺武器之属。此人曰：他日当用之。瘞于两阶之下，将别去，蔚曰：素未相识，何忧勤之甚也？答曰：某乃本命神尔，郎君为冥官所召，大限欲及，某已于天司奏陈，必及中寿，疾亦就痊，无以为忧也。蔚愧谢而去，疾亦寻愈。其后策名金紫，亦享中年。除宿州刺史、角桥都知兵马指挥使，不到任死，以其瘞武器门旗故也。

### 崔图修黄箓斋救母生天验

崔图者，坊州中都人，好游猎。驰马于野中猎次，马忽不行，鞭箠数下亦不进，图怒，下马欲射之。马作人言曰：吾是汝之母也，不得相害。曾窃取汝三十千钱，私与小女为嫁资，不告于汝。吾死，冥司罚吾与汝为马八年，今限已毕，吾将死

矣。图闻之，举身自扑，迷闷良久，悲告母曰：儿之不孝，致令我母见受如斯罪。马亦流泪曰：吾为马身，报汝未了，更罚与汝为瞽目之婢，仍复喑哑。图闻之，号哭言曰：如何免得此罪业？母曰：吾闻罪障重者，须作黄箓道场忏悔，即得免苦。言讫而死，图收葬其马，焚射猎之具。请道流修黄箓道场，三日三夜。至第三夜，图闻扣门之声甚急，出看乃是其母，还现本形，立于门外。谓其夫妇曰：人生世间，愿作善业，勿为恶事，冥司报应，一一分明。母用子钱，尚被责罚如此，况他人非己之物，岂可偷盗乎！吾受此罪，苦痛万般，不可言说。赖汝夫妇，为吾修无上黄箓宝斋，功德一切，吾乘此功德，已得生天，故来相别。于是乘虚而去。图自此知罪福必应，大道可依，夫妇诣王屋山，同志修道矣。

### 赫连宠修黄箓斋解父冤验

赫连宠者，灵州定远县人也。父惊，领军于边上，杀降兵一千余人。武德二年八月，死于边上，冥司论对，受诸罪苦，宠总不知。宠为灵州押衙，贞观八年，奉使入京，因与友人游终南山。行至炭谷口，有道士杨景通，结庐修行三百余岁，宠醉歇庐前，谓景通曰：吾饥，有何所食？景通素不饮食，笑而不对。宠令左右取火，焚其庐室。景通曰：汝父屈杀生民，见受罪地府，不能修善救父，更害于吾。宠曰：何以知之？景通曰：汝坐于此，吾与汝唤，令汝见之。言讫书一符，掷于空中，逡巡有黑云至于庐前，云中有二十余鬼，领一人枷杻锁械，来景通前曰：汝子不孝，不能救汝。宠见之，果父惊也。悲泣谓

父曰：何故受苦如斯？父曰：吾杀降兵，被他冤讼，于地狱下受诸罪苦，汝何故更毁真人，令吾转转罪重？宠乃匍匐悲泣，忏悔谢过，乞舍己身之罪，救亡父之魂。景通曰：汝要免父之罪，修黄箓道场，可以救拔，必得汝父生天，免此罪报。逡巡父被诸鬼领去，宠乃礼谢景通，入城于三洞观，设黄箓道场，七日七夜。至第五日，见父乘云气而来，谓宠曰：吾奉天符，乘黄箓功德，已生天堂，凡是所杀冤魂，皆已托生人世。

### 唐献修黄箓斋母得生天验

唐献者，蔡州平舆县人也，年二十三。隋大业四年，授导江县尉。宠狎侍婢春红，不亲官务，公事数阙，兼患风劳，久未痊瘥。母曰：我儿狂疏疾病，皆嬖婢所致也。母令货此婢，婢告于献，献恨母拟货其婢，与婢为计，遂鸩其母。母死月余，献亦暴死。三日心暖，家人不敢便葬，忽即起活，曰：我有大罪，毒母之过也，冥司令我生受罪报。自是每夜有二鬼使，领夜叉数人，舁大镬于堂中，良久火起汤沸，夜叉叉献于镬汤之中，痛楚号叫，至五更方息。如此三年，万般舍施功德，终不能免。忽有卖药道士，献问其方术，道士曰：众生罪业重大，无过黄箓道场，祈告天地，三日三夜，烧香散花，悬诸幡盖，歌赞礼愿，忏悔拔罪，救度亡魂，解除冤对，最为胜妙之法尔。献遂请道士置黄箓道场，三日之后，鬼使夜叉不复更至，身心安愈，无复忧患。忽见黄衣使者一人曰：昨奉天符，以修斋之力，母生天堂，汝大逆之罪，亦已原赦，唯罪婢春红，令疮疥三年尔。自此春红果患三年方愈。献弃家，于晋州羊角山，请

为道士，志修道矣。

### 李承嗣解妻儿冤修黄箓斋验

李承嗣者，鄂州唐年人也。家富巨万，而娶妻貌丑，有子年十岁，仍患腰脚，承嗣常恶之。乃娶小妇四人，终日伎乐。忽因酒醉，小妇佞言，与丑妻一百千钱，令其离异。妻欲诣官讼之，因此方免。承嗣遂与小妻为计，夜饮之次，以毒药杀其丑妻及儿。葬后旬日以来，每至午时，即见二乌，来啄承嗣心，痛不可忍，驱之不去，迷闷于地，久而方定。如此一年，万法不能救。青城道士罗公远游淮泗间，承嗣请命至家，问禳救方术。公远曰：冤魂所为，皆上告天帝，奉天符来报，人间方术不能免之，只有修黄箓道场，拜表奏天，可解斯罪尔。承嗣遂修黄箓道场，三日三夜。二日之后，乌鸟不复来，其妻与儿现于梦中曰：汝枉杀我母子二人，并命毒药，我上诉于天帝，许报汝冤。今以黄箓善功，太上降敕，我已生天，受诸福报，与汝永解冤结。留一玉合子，可收之。觉后，于寝室中得玉合子一枚。承嗣舍于鄂州开元观，大修道门功德，塑尊像，葺理观宇，以报道恩矣。

### 吴韬修黄箓斋却兵验

吴韬者，汴州开封人也，家富。为魏大将军，领兵三万，

彡斥江入蜀。至戎州，值蜀将关羽，总师五万拒之，与韜水陆大战。韜素好道，常持《黄帝阴符经》。是日阵败，告天曰：吾闻持《阴符》者，危急之日，有阴灵助之，丧败如此，愿赐救护。言讫，有二白衣谓韜曰：汝自入峡，纵意杀人，幽魂咨怨，致此亡败。韜曰：危既如此，何以免之？二神人曰：汝速为冤魂告天发愿，请修黄箓大斋，拔赎亡者，如此当免失利。韜如其言，即为发愿。关羽亦已收军，韜收合败卒，直至夷陵屯集。乃修黄箓道场三日，前二神人复见，谓之曰：冤魂并已托生诸方，汝亦沾此余福，神兵密卫，必得大胜，慎勿杀人。夫天地生万物，一草一叶，尚欲其生长成遂，况人命至重，上应星辰，岂可非理致杀，恣汝胸襟也！古今名将，不及三世者，为其心计阴谋，杀人利己。虽立功为国，亦须道在其间，善分逆顺，不枉物命，使功过显明，即必征伐有功，神明祐助。今蜀不久坐见败亡矣。旬月，关羽兵至，收夷陵。交兵之次，风雷震击，大雨忽至，羽兵溃散，韜开门纳降，得蜀兵三千，擒其裨将，关羽领兵却回。自兹蜀亦削弱矣。

### 公孙璞修黄箓斋忏悔宿冤验

公孙璞者，雍州高陵人也。武德二年，为华州司马。年四十余，沉湎酒肉，荒淫财色。常令家童渔钓弋猎，恣杀物命，甘其口腹。忽梦千余人，持刀剑弓矢入其家，擒璞杀之。璞流汗惊惧，因成疮疾，遍身有疮，皆有口及舌，日夜楚痛，求死不得。璞表兄华阴令贾宣古，见其所疾，惊曰：未尝见有此疮，当是杀生太多，宿业所致然也。华山道士姚得一，多记神方，

可使人一往求问也。璞依教，令其长子到华山，具述所疾，涕泣求救。得一曰：此疾是杀生害命，众冤所为。可修黄箓大斋，忏悔宿冤，疾异可愈尔。

其子以此告璞，便于所居，修黄箓道场七日。至第五日，璞梦青童二人，引至一处，门阙宏丽，有如府署。良久，天上有黄光如日，直照地司，其门大开，即见鱼鳖鸟兽、猪羊牛马、奇形异状者千百头，从门中出，乘此黄光，旋化为人，飞空而去，逡巡化尽。青童曰：此是汝之所杀冤魂，今天符既下，乘功德力，托生为人，汝罪已除，疮疾亦愈。旬日之间，璞乃平复。遂入华山，礼谢姚尊师。看览云泉，恋慕幽境，直至日晚。得一曰：山中无食可以延留长者，若住宿宵，必恐仆从饥馁，此有径路，可以还家。取一卷仙经掷之，展于崖上，化为一桥，二青龙负之，放五色光，其明如画。送璞与仆从此而去，须臾到家。明日差人入山致谢，已失得一所在。璞全家修道，居于华阳山焉。

## 卷一百二十一 灵验部五

### 胡尊师修清斋验

胡尊师名宗，自称曰𡗗（孚郭切），居梓州紫极宫。尝彳公江入峡，道中遇神人，授真仙之道。辩博该赡，文而多能，斋醮之事，未尝不冥心涤虑，以祈感通。梓之连帅皆贤相，重德慕下，尽皆时英硕才，如周相国李义山，毕加敬致礼，其志亦泊如也。洎解化东蜀，显迹涪陵，方知其蛇蝉之蜕，得道延永尔。梓、益、褒、阆间，自王法进受清斋之诀，俗以农蚕所务，每岁祈谷，必相率而修焉。至有白衣之夫、缁服之侣，往往冒科禁而蒔事者，固以为常矣。

有郡人刘崧，慕师之道德，请于别地以致斋焉。师谓之曰：夫啸俦侣、命侪友者，犹须正席拂筵，整筵洗爵，恭敬以成礼，严恪以致事，或惧其谗让，责其不勤，况感降天真，祷求福祐，岂可陡然而买罪乎！俗之怠惰，有自来矣。子可训勸于众，必精必虔，乃可为尔。崧承命誓众，洁己率先，而撰香花，备坛墀，师然后往，犹叮咛戒诲。既升坛，展礼思神之际，有黑云暴起，旋飈入座，拔其二柱，飘其竹席，投其鎗釜于千步之外，而后卒事，而融风熙熙，祥气亘野。师诘所投之物，其二柱尝阁于豕圈之上，竹席尝蔽于产妇之室，鎗釜尝爨于繡经

之家。其不投者，皆物之洁矣。师曰：器用不洁，神明恶之，况尔之心乎！心苟有疵，行苟有玷，虽百牢陈于席，九韶奏于庭，适足以渎神明、延大祸尔。人之修心，必使乎言行相吻，内外坦然，明不愧于人，幽不惭于鬼，吾知其可尔。反于是者，岂言之足征哉！士君子、里巷之人，闻师之言，各革恶趣善矣。

### 崔玄亮修黄箓斋验（持经验附）

崔公玄亮，奕叶崇道，虽登龙射鹄，金印银章，践鸳鹭之庭，列珪组之贵，参玄趋道之志，未尝怠也。宝历初，除湖州刺史。二年乙巳，于紫极宫修黄箓道场，有鹤三百六十五只，翔集坛所。紫云蓬勃，祥风虚徐，与之俱自西北而至。其一只朱顶皎白，无复玄翮者，栖于虚皇台上，自辰及酉而去。杭州刺史白居易，闻其风而悦之，作《吴兴鹤赞》曰：

有鸟有鸟，从西北来。丹顶火缀，白翎雪开。辽水一去，缙山不回。噫吴兴郡，孰为来哉。宝历之初，三元四斋。当白昼下，与紫云偕。三百六十，拂坛徘徊。上昭玄呪，下属仙才。谁其尸之，太守姓崔。

崔公常持《黄庭》度人，《道德》诸经未尝旷矣。其后以感通之至，弥加笃励。去世之时，入靖室，翳《黄庭》，无疾而化。将葬，棺轻若空衣焉。



### 武昌人醮水验

武昌人，寓居蜀之青城。其邑每岁修竹柞之堰，以堤川防水，赋税之户，轮供其役。武昌是岁籍在修堰之内，邑吏第名分地以授之。自冬始功，讫岁而毕。所受之地，当洄水之穴，新有漩注，基址不立。虽运石以塞之，负土以实之，一夕之后，已复深矣。主吏疑其龙神所为也，求陀罗尼幢三四尺，投于其中，侵陷弥甚。昼勤夕劳，不离其所，诸家有绪，而独未定其址，颇以为忧。乃备祷醮之礼，撰词以告焉。其大旨曰：国以人为本，人以食为先。人依神以安宁，神依人而变化。蜀之田畴既广，租赋是资。所修堤堰二百余里，或少有怠废，则垫溺为灾，岁苟不登，则饥寒总至，人或失所，神何依焉。况复漂陷为忧，沦胥是惧，有一于此，则粢盛不供，椒浆莫给，春祈秋报，何所望于疲民哉！当使封畛克完，浸淫息患，地租天赋，无旷于循常，东作西成，克彰于幽赞矣。如是洁其器用，丰其礼物，扫地而醮焉。是夕，梦众人纷纭，檐囊荷囊，襁婴携孺，若迁于他所。明日投石以实之，水乃退涸，遽成其堰。八月之后，方复摧陷，浚为洄潭焉。

### 徐翥为父修黄箓斋验

高平徐翥，涟水人也。因官迁于青州，货殖殷赡。有子三

人，其二癯残，小者项有肉枷，人见所共惊畏。翥初锐意求官，骄佚自任，下犂成宴，言行事随，欣欣然有凌云霄之志。见二子之疾，未甚介意，及睹肉枷之异，悒悒不乐，道遽丧矣。因游东海山观中，与道士话其事。道士曰：三子之疾，非己之过，非子之罪，盖宿业所钟尔。道门所谓宿业，非是疾者前生之业，乃先人之罪，殃流后裔也。君家先世，当有酷于刑法，暴于捶楚，为官不恤牢狱，不矜囚徒，意生法外，残毒害物，遂使子孙受其报尔。翥泫然流涕曰：实然！先父为官，当则天之朝，世乱谗胜，诛锄李氏诸王，屠杀宗室。朝廷德望，必设法以陷之，残刑以毒之，诛剿考掠，不胜其毒者，陷于狴牢，死于系械，故不可胜纪。如武懿宗、来俊臣、周利贞、李义府之徒，恩渥隆异，回天转日，天下畏之。以矜恕慈惠者为懦夫，以强愎忍酷者为能吏，仁悯道息，贞正事隳，势使然也。先父虽位卑威薄，时称能官，累案大狱，宁无枉抑？今日之报，信而有征。将祛此罪，涤此冤，奈何？道士曰：拔先世之考，当修灵宝解厄斋；救存歿之苦，当修黄箓斋。勿 金宝，一遵天科，竭财向善，孜孜不倦，可以谢其罪尔。

翥还家，大修黄箓道场三日。第二日夜，时方响晦，中夜闻门外，车马人物之声甚众，出门视之，则白光如昼，天兵千余人，官吏数百，罗列门外，若有所候。良久，黑气郁勃，直北而来，中有三人，枷锁械缚，鬼神数十人领之，列于官吏天兵之前，一人即翥父玄之也。俄而黄赤光一道，自西北来，照地上草木、屋宇、人物之形，皆若金色，异香盈空。光中神仙一人、青童十余人，二力士执节前引，其左一人，武弁朱衣，执金策，去地三丈许。众官拜迎，神仙俯揖，武弁者称太上之敕，读金札曰：徐玄之侮法害人，宜加考谪，以其子精修黄箓，功简上玄，即宜赦宥，同恶延逮，并为原除。于是神仙复去，

官吏皆隐。即见其父素服麻衣，谓翥曰：吾不知罪福，但恣胸襟，法外害人，久被冤诉，考责已十八年。同官属吏，皆均其罪，犹有十二年。殃苦报讫，方履恶道，痛苦之状，不可具言。赖汝归向法门，精修此福，太上降赦，前罪并除，冤讼之人，先已解脱，延累之罪，自此亦销。吾得生天去矣，勤于香火，以报道恩。乃飞空而去。翥之三子，旬月之间，残病者完复，肉项亦销。更修黄箓斋十坛，广为存殁，仍令小子于山观入道，永奉香灯。翥终身高闲，不窥禄利，常持诵真经，时亦炼气绝粒。

### 张郃妻陪钱纳天曹库验

成都张郃妻死三年，忽还家下语曰：圣驾在蜀之时，西川进军，在兴平定国寨，以讨黄巢。其时邻家冯老父子二人，差赴军前，去时留寄物，直三十千，在某处。冯父子歿阵不回，物已寻破用却，近忽于冥中论理，某被追魂魄对会，经今六年。近奉天曹断下，云自是歿阵不归，非关巨蠹故用，令陪钱三十贯，即得解免。缘腊月二十五日已后，百司交替，又须停住经年，其钱须是二十五日已前，就玉局化北帝天曹库子送纳，一张纸作一贯。其余库子门司，本案一一别送，与人间无异。光化三年腊月二十三日，就北帝院，奏前件钱讫。是夕，妻梦中告谢而去。又成都县押司录事姓冯，死十余年。其侄为冥司误追到县，冯怒，所追吏放其侄，自县后门仓院路而还，见路两旁有舍六十余间，云是天曹库，收贮玉局化所奏钱。

## 苏州盐铁院招商官修神咒道场验

苏州盐铁院招商官，姓王，其家巨富，货殖丰积，而疾苦沉痾，逾年不痊。斋供像设，巫医符咒，靡不周诣，莫能蠲除。玉芝观道士陈道明，专勤清斋，拜章累有征验，而招商素不崇道，闻之蔑如也。攻理所疾，费货财万计矣，日以羸歎，俟时而已。其亲友劝勉，俾请陈道明章醮祈禳，不获已而召焉。道明为于其家，修神咒道场。疾方绵笃，不保旦夕，促以启坛。当禁坛之际，疾士冥然，家眷亲友，相顾失色。禁坛既毕，道明持剑水，诣房内外，喷水除秽。疾士曰：请尊师就此喷水，可否？道明就卧内喷之，忽然起坐，稽首顶礼曰：深谢神功，我疾有瘳矣。

乃求衣命机，隐坐而喜曰：一生错用心，不知有大道，今日方荷天兵之力也。徐与亲友、妻子言曰：我初困顿绝甚，谓今夕死矣，尊师开道场之时，都不醒悟。但闻空中有言，大帝下降，领天兵讨逆。如是即黄光如日，照灼远近，即见千乘万骑、天兵神将围绕此宅，鬼物邪怪，并已擒缚去矣。方见大帝、太一乘七宝车，对行前引，侍卫仪仗，如人间帝王。忽令召某至太一前，令神以水喷面，清凉彻心，无复痛楚，但气稍羸歎。即云元始下降，乃见大帝、太一对望迎拜，队仗倍于前百倍多矣。元始天尊有光一道，下照某身，今则气力亦似胜任矣。速备盥洗，自要临拜坛前。亲友尚恐其未任，劝俟来日。愿要盥漱更衣，扶杖而立良久，舍杖而行，便于拜跪数四，家人扶策，挥手拒之。因坐观法事，素若无疾，饮食气力，逡巡如常。

自是三日斋坛，炷香虔对，略无暂替。乃独修创玉芝观，讲堂大殿，三门通廊，斋厨道院，前及官河开街，广四十余步。土木之用、像设之制、床机器皿、服玩庖厨，凡计钱数百万。二年之内，毕周备焉。自兹气爽神清，智识明敏，乃乞解所职，养道闲居。

### 相国杜鹵公修黄箓斋免阎罗王验

相国杜鹵公，幼履显荣，历居大任，名藩重镇，皆再领之。年九十余，薨于荆渚。是夕，中使杨鲁周，自五岭使回，止于传舍。一更之后，风势可惧，敲磕击触，若兵甲之声，人人股栗，莫知所以。鲁周驱骑所倦，寻亦成寐。四衢之内，师旅充斥，不通人行，问其故，皆曰：迎阎罗王，今夜四更去。又问王是何人，曰：此州大将，官高年长者。既觉，召驿吏问之，时公不愈半月矣，官高年长，首冠众人，疑其必有薨变，是夕四更，果去世矣。鲁周话此事于侪友间，自是京师亦有知者。

明年春，女妓间有暴殁而苏，传公之命云：我今居阎罗之任，要作十坛黄箓道场，以希退免。令送钱二百万，图幕各二百事，于开元观古柏院，诣冲真大师胡紫阳，严修斋法。斋毕，前传命之妓，复暴殁如初，云：我已奉上帝之命，为他国之王，免冥官之任矣。言罪福之报，信如影响，不可不戒也。凡修黄箓道场，表奏上帝，上帝降命，无所不可。

### 南康王韦皋修黄箓道场验

太尉、中书、令南康王韦皋，节制成都，于万里桥，隔江创置新南市，发掘坟墓，开拓通街。水之南岸，人逾万户，亘阁楼阁，连属宏丽，为一时之盛。然每至昏瞑，则人多惊悸，投砾掷石，鬼哭呜咽。其丧失坟垅，平铲墟墓，无所告诉，故俗谓之虚耗焉。居既不安，市亦不甚完葺。韦公知之，请道流置黄箓道场，精伸忏悔。至第三日，鬼哭之声顿息，居人亦安。韦公梦神人曰：所营南市，开发坟冢，使幽鬼之类，失其所居，丧其骸骨，相与悲怨，几为分野之灾。赖黄箓之功，为其迁拔，上帝敕穷魂三万余辈，皆乘此福，托生诸方。居人自此安矣，勿复为忧也。公深异之，自制《黄箓记》，立于真符观。

### 李约妻要黄箓道场验

李约者，咸通十二年，为诸卫小将军。妻王氏，死已逾年。忽一日还家，约勒大小，干当家事，言语历历，一如平生。初一家甚惊，及旬月后，亦已为常矣。约罢官二年，力甚困阙，频入中书，见宰相求官，未有成命。妻忽谓约曰：人间命官，须得天符先下，然后受官。近见阴司文字，五月二十五日，方得符下，必受黄州刺史。可用二十三日，更入中书投状也。约如其言，二十三日入中书求官。时相待中路严，性甚强正，早

闻其妻还魂之事，又闻二十五日必除刺史，适会其日，路公知即，因会话之际，已与诸厅有约云：李约祆妄之言，固不可听，某已断意，不与除官矣。至二十五日，路公知即，黄州刺史有阙，路迟疑多时，未欲注拟。忽下笔与署黄州刺史，亦总不知，敕下之后，方复醒悟。乃叹曰：此天道也，岂人力可争乎！约将赴任，妻亦随之，发日及上官日，皆其妻所择。

到任旬月，妻谓约曰：我人间世限尽，与君生死之决，所以未去者，为天司与一主持处日限，未即赴任，又以平生过咎，未得原免，今居官之际，可为作少功德也。约问要何功德，妻曰：请修黄箓道场三日。约素不好道，意甚疑之，问何故须修黄箓道场。曰：天上地下，一切神明，无幽无显，无小无大，皆属道法所制，如人间万国，遵奉帝王尔。黄箓斋者，济拔存亡，消解冤结，忏悔罪犯，召命神明，无所不可。上告天地，拜表陈词，如世间表奏，帝王即降明敕。上天有命，万神奉行。天符下时，先有黄光，如日出之象，照地狱中，一切苦恼，俱得停歇，救济拔赎，功德极速，故须修黄箓道场为急矣。约问曰：佛家功德，甚有福利，何得不言？妻曰：佛门功德，不从上帝所命，不得天符指挥，只似世间人情，请托嘱致而已。神鬼无所遵禀，得力极迟，虽云来世他生，亦恐难得其效。

约闻之，乃备法物，置黄箓道场，三日三夜。其儿女复为母氏，于紫极宫别修一坛，亦三日三夜。斋时，妻于坛前，设位奉香，观听法事。既毕，谓约曰：此官二十九个月即当除替，授金吾小将军。但勤心奉公，济恤贫弱，矜悯孤独，睟薄财货，重人性命，哀矜刑狱，崇奉大道，清静身心，勿食珍鲜，勿衣华美，即为上矣。勿以久贫而贪财帛，人生各有定分，勉之思之。此去授一职位，足以自安，无以眷属为念也。长子后宰昌明，亦在道乡；中子一尉，不足荣显；小子当令入道，以奉香

火。十年之内，四海多事，善自保焉。言讫，不复影响。约更焚香虔请，竟无言矣。后三子及约官任，如知其所言。

### 卢贲修黄箓道场验

卢贲者，邠州三水人也。晋永和二年，为道州司法参军。性强毒，凡推诘刑狱，鞭笞捶楚，人不胜酷，死者甚众。忽一日，厅前地裂，有二鬼舁一大镬，置于庭中，发火煎之，水已沸涌，数人上厅擒贲，投入镬中煎煮，楚痛叫唤，半日余，乃擎出于地上，诸鬼乃去。醒后浑身犹如火色，官吏共见。如此半年，每日受苦，无方救拔。罗浮山道士孟知微，因游州境，贲延请到家，告以斯苦。知微曰：此乃枉害良善，魂告于天，乃受斯报。急修黄箓道场，得天符，放救冤魂生天，此罪方免。遂请道士，修黄箓道场，三日礼谢。至第三日，梦三十余人，有鬼吏引之，谓贲曰：国之刑律，自有常科，讯狱详刑，哀矜而勿喜。赏宜从重，所以示恩也；罚宜从轻，所以示仁也。忧人之情，惜人之命，常兢兢而慎之，岂可肆汝心胸，法外加罚，苦毒捶楚，害及于人。非罪而死者，其魂告天，幽冥不能制，鬼神不能拒，上帝有命，许其雪冤，所以汝受其苦。今黄箓忏悔，救彼冤魂，魂既生天，冤即解矣。此三十余人，各执莲花，乘云气，从道场之侧，翩翩上天。自此镬汤永息，贲遂舍官，入峨嵋山修道矣。



## 樊令言修北帝道场诛狐魅验

樊令言者，汴州人也。庄在外县，因晚归庄，仆从行迟，其马骏疾，不觉独行。三二十里，道傍见一少女悲泣，驻马问之，睹其袄艳，迟回不去。遂与此女同入道侧，数里之间，到其居处，屋宇宏丽，侍从繁奢，如公郡之家矣。是夕，女之母约与令言为婚，留连饮宴，亲宾皆集，不觉已三日矣。思欲还庄，母亦令从者车檐、侍女数人，使其女随往庄所。燕婉欢乐，弥日移时，令言日以瘦削，因而成疾。未及床枕，体弱气衰，唯荒诞是务，不接宾友，恶见于人，时多恚怒，心神恍惚。偶自庄还家，数里下马，频频憩息。于店中遇一道士，自言是终南圭峰杜太明，熟视令言，谓之曰：子之邪气贯心，袄疾已作，百脉奔散，五藏虚劳，若不救理，死亡无日矣。吾之山童善于杂术，子可遽还，与此童偕往，可密室之中，作北帝道场，今夕当有其效，勿为惊怛，如此即性命可全，形骸可保矣。

令言异其说，奉其教，素亦贮疑，径与此童还庄中，扫泔密室，备香火案几。其妇望而怒之曰：信邪妄之言，行非正之事，祸由自投，非我本所知也。泊晚，有十余人，将鹰犬弋猎之具，从空中而下，径入堂内，杀其妇及女仆凡七八人，既死，皆化为狐矣。令言惊惧，投密室中，不见童子，但留朱字一行，曰：太上命北帝鹰犬军，诛樊令言家害人狐魅之鬼，如符命。自此令言所疾日痊，心力日益，神气充溢，年八十犹如少童。则天时，为东台御史。

### 鲜于甫为解冤修黄箓道场验

鲜于甫者，邓州南阳人也。属隋朝丧乱，年三十七，胆勇多计，率庄户一百余人，初即自卫乡里，寻乃攻劫近封。汝、郢、荆、襄之间，大为劫夺，杀害户口，侵掠行人。至武德初，甫忽患双手痛疹，如被烧煮，三日一烂，疾状异常，万药千医，了不能救。舍数百千钱，作诸功德，亦无所应。乃入京寻医，至蓝田，与道士同店止宿，因话所疾，道士曰：此冤横杀人，业报使然也，急诣宫观，修黄箓道场，可以济拔耳。遂还家，置黄箓道场，三日三夜，手不复痛，平复如常。有十余人，或朱或紫，或官或庶，去坛百余步，于东北隅仿佛而现，使人致谢于甫，甫往见之，欣然款晤曰：君昔以无辜杀我，实抱沉冤，上诉于天，乞报其酷，皇天降命，得以相讎。君忽值神仙，示以至道，依玄经圣典，开黄箓道场，奏表九天，垂恩大宥，非止我等之身，君之九祖，亦同得生天矣。斋功重大，圣力显明，所有冤对，自此永解。十华真人奉太上命，下校善功，但当修福，勿复念恶也。甫舍钱三千余贯，广修宫观，补葺尊像，施及贫病，救厄济危。于邓州修观立碑，具纪灵验之事。

### 窦德玄为天符专追求奏章免验

都水使者窦德玄，贞观中，奉诏于淮浙名山，检括真经。

于汴河上逢一使者，脚痛途步，甚为艰难，欲托船后，谓从者曰：某远道行役，脚疾忽甚，官程有限，又难驻留，欲寄船后，聊歇三五十里，不知可否？从者白于德玄，德玄亦以窗中窥见，深有哀悯之心，因令船后安泊，日给茶饭。直过淮口，将息已较，欲辞德玄出船，方问其行止，曰：某太山使者，非世间人也，奉天符往扬州，追窦都水耳。闻之极惊，请天符一看，如人间符牒，不敢开之。因问曰：某都水使者窦德玄也，既是专追，何须待到扬州耶？使者曰：某不识其人，但据文字行耳。所到之处，下天符之后，当处土地同共追收，未到之间，固不合妄泄于天机也。既君是都水，与牒中事同，数日存血卅之恩，理须奉报。欲免此难，可径诣扬州王远知仙伯，拜章求请，某即未下天符，待上章了，必有敕命尔，此外不可禳之也。德玄至扬州，主客参迎才华，便诣王仙伯，具述性命之急，恳乞拜章。仙伯曰：某退迹自修，不营章表，既有冥数之急，敢不奉为也。乃与自写章拜之。是夕，使者复来，白章已达矣。太上有敕，更延三十年，位为左相。其后年寿官秩，皆如其言矣。

### 马敬宣为妻修黄箓道场验

马敬宣者，怀州武陟人也。开元六年春，授司农寺丞，移家入京。妻亡，有二男一女，亦皆幼小。后妻姓谢，前室儿女多被抑挫，衣食不足，鞭楚异常，敬宣皆不得知。因夜作煎饼，前室女，方七岁，饥甚，窃而食之，谢氏候敬宣不在，以热火箸刺其手掌。不经旬日，女乃致死，数日，谢亦无疾而卒。心上微暖，三日却活，敬宣问其所见之事，曰：汝前妻诉我，为

火箸之事，冥司罚我生受烂足之报，今乃双足痛苦，不可堪忍。敬宣遂看之，足已烂矣，脓血横流，痛楚极甚。敬宣初不知火箸刺女手之事，及是闻之，甚加痛恨。谢之所病三年，求死不得，医药弥甚，广作功德，亦无济益。敬宣于永穆观烧香，女冠杜子霞颇有高行，因以此事问之。子霞曰：解冤释结，除宿报之灾，唯黄箓道场，可以忏拔冤魂生天，疾病自损，过此不知也。遂于景龙观，修黄箓斋七日七夜。谢梦前妻及亡女曰：以功德故，舍汝大冤，天符下临，不得久住，今则受福，于天堂去矣。足疾遂愈。敬宣夫妇，常修斋戒，归心妙门矣。

### 秦万受斗尺欺人罪修黄箓斋验

秦万者，庐州巢县人也。家富，开米面彩帛之肆，常用长尺大斗以买，短尺小斗以卖，虽良友劝之，终不改悔。元和四年五月身死，冥司考责了，罚为大蛇，身长丈余，无目。在山林中，被诸小虫日夜嚼食，疼痛苦楚，无休歇时。托梦与其子，具说此苦云：汝明日于南山二十里，林间看我，与少水吃，广造功德。其子梦觉语之，一家悲叹，坐以待旦。及明，径至城南林中，果见大蛇无目，被众虫嚼食，鳞甲血流，异常腥秽。一家见之号泣，以水于盆饮之。饮水欣喜，举身蟠屈，若有所告。

其子广求救护，历问于人。紫极宫道士霍太清曰：可修黄箓道场三日忏悔，必可济拔。其子即于宫中修斋，三日三夜。至第二日，见一大蛇，在道场中香案之下，与林中蛇大小无异，忽复不见。是夜，妻梦见万著白衣，坐紫云中，谓其妻曰：深

愧修此道场，已蒙天符释放，前罪并尽，今便生天上。更可舍三千贯钱，大修道门功德，以救贫病。自此子孙不得轻秤小斗、短尺狭度，欺于平人，受无眼众毒之报。此事显然，如影随形尔。非黄箓大斋忏拔，上达天宫，太上有敕，天符放赦，此罪万劫不可卒除。吾有金装割爪刀子，留以为验。梦觉，果得此刀，乃是棺中随殓之物，信知生天非谬。斋毕，却往林中，不复见大蛇矣。乃施刀子，入紫极宫，大修宫宇，立碑标载其事。

### 杜鹏举父母修南斗延生醮验

京兆杜鹏举，相国鸿渐之兄也。其父年长无子，历祷神祇，乃生鹏举。二三岁间，终年多疾，十岁犹羸劣怯懦，父母常以为忧。太白山道士过其家，说阴阳休咎之事，因以鹏举甲子问之。道士曰：此子年寿，不过十八岁。父母大惊曰：年长无子，唯此一儿，将以绍续祭祀，如其不永，杜氏之鬼神，将有若敖之馁乎！相视沥涕，请其禳护之法。道士曰：我有司命延生之术，但勤而行之，三年之外，不独保此一儿，更当有兴门族、居大位者。父母拜而请之，因授以醮南斗延生之诀，使五月五日，依法祈醮，然后每日所食，别设一分，若待宾客，虽常馔亦可设之，如是一年，当有嘉应。父母勤奉无阙，致醮之夕，有物如流星坠席中。

一年之外，忽有青衣吏二人，过憩其门，留连与语，吏曰：主人每日常馔，亦设位致飧，何所求也？具以前事白之，吏曰：司命知君竭诚，明年复当有一子。此之二子，皆保眉寿，其名有一边著鸟，向下悬针者，当居重任，必为相国。所食自

此无烦致享。明年果有此子，兄弟俱充盛无疾。自是兄名鹏举，终安州都督；弟名鸿渐，为国相、西川节度使。并寿逾九十，终身无疾。

## 卷一百二十二 灵验部六

### 衢州东华观监斋隐欺常住验

衢州东华观，物产殷赡，财用丰美。主持纲领，多恣隐欺。有监斋一人，其过尤重，不知祸福，不信神明，或闻罪福报应，谓之虚诞。常曰：道士用常住物，如子孙用父母物耳，何罪之有！以此故教诲所不及矣。辩于饰非，给于应对，人有文过者，率引之以为语端，如俗中之说徐六、侯白耳。既死数年，一旦，道侣三五人，纵步园林游春，肆目坐石藉草之际，观中牛十余头，饮齧于坐侧。一人偶曰：某监斋常能排斥罪善，不信报对，量其积过，莫在群牛中否？众方言笑，一牛直诣众前，驱之不去，试以某监斋呼之，跪而两泪，每呼名，必随应焉。道侣愍之，为拜章修斋，谢过迁拔。二日，夜寓梦致谢，言宿过已赦，径得往生矣。三夕而牛毙。

### 婺州开元观蒙刺史复常住验

婺州开元，却倚小坡，形势高兴。元置之地，四面通街，

其后居人所侵，基地渐狭，大殿之后，便逼居人私舍。亦有州司势要，占地造宅，道士明知其事，未尝敢言。主观道士，梦天上官吏三五十人，自空而下，集于殿前，即唤此道士，问观地疆界。答云：某后生晚长，自主观来，祇据见在而已。据老人所言，此观元置为御容，四面通街，以防水火。今去街极远，尽隔人家。官人点头曰：实然。又见一人，云是地司，所说亦同。有朱衣吏一人进曰：此事不烦躬亲指说，但处分刺史温璋。即时，忽见令人往传处分。言讫，升空而去。明日，刺史忽入观行游，登尊殿上顾望，问道流此观形势，布置不合隘窄如此，何得侧近便有人居住。道流逡巡未敢祇对，温郎中曰：固应难说。即令悬榜，发遣居人，四面以官街为界，并还常住。所侵占地者，据侵住年月，限一月日内，陪纳租地钱，随间数征地租，约数百千，充版筑垣墙，修饰屋宇。六十余日，观复旧制。温夜梦青童降曰：汝有政理常住之功，赐节镇三任，若渎货杀人，得其一矣。亦如其言。

### 杭州余杭上清观道流隐欺常住验

杭州余杭上清观，田亩沃壤，常住丰实。主持道流，每减克隐欺，以私于己。虽教门钤辖，官中举明，必广费金帛，以请托于局吏。贿货既行，多覆藏其罪，掩蔽其恶。由是州吏县曹相知罔冒，积弊久矣。殿宇摧残，香灯寝绝，游客经过，略无投足之所。有识者为之寒心，嫉恶者为之扼腕，固有日矣。

会昌中，人家并产儿女五六辈，皆形骸不具，暗聋瞽瞍。数岁，有白尊师自金华山至，驻留旬日，住持道流因话其事，



尊师促令召之。既至，愍然曰：汝何得作此重业，犯负大道，致兹考责邪？谓观中诸道流曰：此奴婢辈，皆是此观前辈道流，隐欺常住，恣为罪业，不唯祇受此报，方欲更履诸苦，未有解免之期。即次第呼其昔日姓名，一一问之，数辈亦以晓悟先身之罪，啼号呜咽，闷绝于地。尊师令其家各备香油，为之焚香忏悔，求乞赦宥，常住亦为办斋食供养。如是三日，尊师冥心静定，经宿方起曰：太上有明科，常住法物，供养三宝，传于无穷之世，固不可辄有。隐盗侵欺之者，罪及七世，生受荼毒，死履诸苦，或为贱人畜类，以偿昔债。虽三元八节，天地肆赦，此罪不在可赦之例。吾以愍物之故，适为昌禁，上干天府，此辈已得止此一报，即生身得于善处矣。三旬之后，相次有应。此后主持者，当明为鉴戒，勿履此辙也。月余，瘡瞽聋者相续而死，惟瞽者足稍能履，十余年后，平复如常。白尊师言：此奴罪名稍轻，即当赦免，此奴免之日，诸辈皆释其幽牢也。果如其言。以此奴平复能行，为冥中赦宥之期尔。

### 李赏斫龙州牛心山古观松柏验

龙州牛心山古观，即大唐远祖陇西李龙迁，梁武陵王萧纪理益州，使迁筑城于此所居。既没，葬于山侧，乡里立祠，号李古人庙，武德中，改为观。其后武氏篡国，潜欲革命，敕凿断山脉，其岗断处，水色变赤，其腥如血。天宝末，明皇幸蜀，驾入剑门，有老人苏坦，迎驾奏曰：龙州牛心山，国之祖墓，因李古人名，遂为州名。古老相传，皆有灵应，陛下今日蒙尘之祸，乃则天掘凿所致。请御衣一袭，藏于山脉断处，修筑复

旧，山必有声。如此则克复两京，回銮有日矣。明皇异其言，即命内使，赍御衣国信，祭山修筑。刺史苏邈准诏，以近山四乡百姓，放明年租税，并功修填，还使如旧，山果有声如牛响焉。明年，诛禄山，复宫阙。

至德二年十月二十八日，昭曰：江油旧壤，境带灵山，自狩巴梁，屡昭感应。眷兹郡邑，合有增崇，可升龙州为都督府，赐号应灵郡。长庆四年，中使张士谦、王元宥，刺史蔚迟锐修之。宝历元年三月，内使阎文清，又赍诏祈醮。僖宗朝，宗子李特立，复以前事上奏，请修观及庙，置金箓道场。乃授特立龙州录事参军，与内使高品、王彦忠就山修饰。委东川节度使杨师立，选高法道士袁道常等，开黄箓道场，醮山祈福，山亦有牛响之声。明年，诛黄巢，复京邑，灵应复如初。

中和三年，诏升江油为望县。其后东川修造将李赏，尝过山观，见贞松古柏，皆可材用，因修立廨署，苟图其功，不奉使司指挥，径往望林采伐。山临江浒，便于运载，所斫材木，捷运未半，日夜常有神人诟责之。赏历历闻所诟之声，莫知禳谢之路，既而以脏贿发露，为众所怒，今相国琅琊公，斩之于都市。

### 蜀州新津县平盖化被盗毁伐验

蜀州新津县平盖化，即第十六化也，神仙崔孝通得道之所，真像存焉。化有玉人，长一丈，见则天下太平。殿左有玉女泉，水深三四尺，饮之愈疾。化之上，当山之半有榑木，树径六七尺，居人常闻其下有考楚号叫之声，莫知所以。大顺元年丁未，

山下居人何六者，性本凶悍，不惧罪福，因值干戈，化中无道流栖止，乃毁拆屋宇，采伐林木，为樵薪以货之，固有日矣。一旦，诣山前僧舍中求水浆，以救其渴乏。僧素与相识，闻其声哀切，出门视之。见其仰面反手，如被拘缚，喉口喘急，流涕于口，问其所疾，答曰：我为毁平盖化屋宇，斫伐树木，今有黄衣使者，追捉系缚，将往搏木树下地狱中考问去，渴乏既甚，乞少水相救耳。以水与之，良久径去，死于搏木之下，乡里共所知焉。又有人取水泉侧古迹雕塑二玉女，以为奇玩，传于人间，既无玉女之像，泉畔小舍，亦被人毁拆。近化居人，见擒取盗玉女人生魂入化中，其人遂风癲焉。

### 嘉州开元观门扉为马栈验

嘉州开元观，在层岗之上，下眺城邑，俯视江山，二水萦回，众峰环抱，颇为郡中之胜。旧有高阁临崖，崇楼切汉，制度宏巧，远近称之。久旷葺修，楼已摧坏。官收其材用之，余者为马厩焉。有古制门扉，坚朽不蠹，亦置于木栈之旁。既而夜夜有光，炯然可鉴，以其为怪，弃而不用。及迁于紫极宫，玄元殿内有小赤蛇，蟠缀门棧之上，累日不去，虽众人聚观，以物驱斥，宛然犹在。涉旬之外，不知所之尔。

### 成都景云观三将军堂柱础验

成都景云观，旧在新北市内。节度使崔公安，潜置新市，迁于大西门之北。观有三将军堂，此颇灵应。既毁撤之后，唯柱础一枚，穿掘不得，置手足于其上，热愈于火，逡巡应心。侧近居人有犯触者，立有祥应，至今犹存。

### 成都卜肆支机石验

成都卜肆支机石，即海客携来，自天河所得，织女令问严君平者也。君平卜肆，即今成都小西门之北、福感寺南严真观是也。有严君通仙井，《图经》谓之严仙井，及支机石存焉。太尉炖煌公，好奇尚异，多得古物，命工人镌取支机一片，欲为器用，以表奇异。工人镌刻之际，忽若风瞥，坠于石侧，如此者三，公知其灵物，不复敢取，至今所刻之迹在焉。复令人穿掘其下，则风雷震惊，咫尺昏瞠，遂不敢犯。

### 成都玉局化洞门石室验

成都玉局化洞门石室，昔老君降现之时，玉座局脚从地而涌，老君升座传道，既去之后，座隐地中，陷而成穴，遂为深洞，与青城第五洞天相连。天师以为，玉局上应鬼宿，不宜开穴通气，将不利分野，乃刻石以闭之。因为石室，高六七尺，广一步，中镂玄元之像焉。节度使长史章仇兼琼，开元中偏修观宇，崇显灵迹，欲开洞门，使人究其深浅。发石室之际，睛

景雷震，大风拔木，因不敢犯。

### 汉州金堂县三元观辙迹验

汉州金堂县大厅前，有双辙迹，与三元观殿前相连，入昌利江际而绝。无洼陷之状，与平地一般，但隐隐然土色稍异。昼视之，其迹似黑；夜视之，其色似白；月中看之，亦带黑色。屈曲行势，远近相合。雨霁即先乾，雪即先消，此最为异。绵历岁年，虽锄耨践蹂，其迹常在。顷因离乱，主兵者斩人于其厅前，微汙其迹。所汙之处，微不相续尔。青城山天仓峰侧地中，亦有此迹。陷地四五寸，阔一尺，虽年岁更移，其迹依旧。缙云仙都山、温州仙岩山，皆有辙迹，或辗石上，或在平地，与此辙迹灵应无异矣。

### 玉局化九海神龙验

玉局化九海神龙，会稽山处士孙立画也。乾符庚子年九月庚辰，辰时下笔，巳时已毕。蟠拏蹴缩者七十三尺，壁广一丈八尺许，喷云鼓波，颇为奇状。燕国公刘景宣，因梦神龙降于玉局，遂画其像。颖川王陈公敬宣浚井于其前，远近居人，时有祷祈者，率言有应。一旦川境亢旱，有一健步者恃酒，卧于龙前井栏之上，慢骂曰：天旱如此，用汝何为？以大石击画龙之脚，其痕尚在。既还家，足疾忽甚，痛不可忍。使人焚香

告谢，竟不能解，于是数日而殂。

### 青城绝顶上清宫天池验（六时水验附）

青城绝顶上清宫，有天池焉。距宫之下东南十步，深三尺，广亦如之。水常深尺许，滞雨不加，积旱不减。每春游山致斋者，多则一二百人，少或三五十人，饮用其水，亦无涸竭。经夏霖沴，无人汲水，水亦不溢。或人所汙秽，立致竭焉。顷因游礼，有府中健步一人，随余登山，令以碗汲水，误投足于其间，顷刻即涸数月，经雨竟亦无水。余宿于上清宫，焚香祈谢，一夕复旧矣。

昔黄帝命宁君为五岳丈人，岳神一月再朝虚中沥水，以代刻漏，阳时则飒然而下，阴时即无昼夜，凡六时沥水，故号六时水焉。其所出处，在天仓巨岩之前、宗玄观之南、三师坛侧，其下有明皇御容碑。水所落处侧石为六角池，阔三四尺，以贮之焉。上无泉源，亦无流注，应时悬降，势若暴雨。人或炷香执炉，祝而引之，自东自西，随香而沥，可移数步之内。乾符己亥年，观未兴修，水常如旧。忽有飞赴寺僧，窃据明皇真碑舍中，拟侵占灵境，创为佛院，其水遂绝。半岁馀，僧为飞石所惊，蛇虺所扰，奔出山外。县令崔正规，秋醮入山，闻乡闾所说，芟薶其下，焚香以请，水乃复降，至今不绝。

### 葛瓚化丁东水验

葛瓚化周回岩峦，左右嵌穴，地灵境秀，迴绝诸山，故有二十四峰、八十一洞焉。观下有溪泉，深在谷底，汲之非便。此宫之西，过崖磴十五步，巨石之下，有丁东水。出于崖腹，滴入洼石窍中，积雨不加，久旱不竭。人或污之，立致枯涸。中和年，刺史安金山准诏投龙，郡县参从者三百余人。忽有污触其水者，顷刻乃竭。安公与道流颇为忧惧，夜至泉所，拜手焚香，叩祈良久，涓涓而滴，虽从骑之众，食之充足。每年三月三日，蚕市之辰，众逾万人，宿止山内，饮食之外，水常有余。

### 金堂县昌利化玄元观九井验

金堂县昌利化玄元观南院玄元殿前，有九井焉。平陆之上，才深一二尺，或方或圆，大者五六尺，小者三二尺，相去各数步，泉脉相通，而水色皆异，其味甘香，盖醴泉之属也。无水旱增减之变，常涵岸不溢。蜀王讨东川之年，岐陇之师赴援，乘锐深入，来届金堂江侧，江水泛涨，雷雨异常，遂不克济，师惊而遁。时以盛暑，探骑十余人，入昌利化，见井而喜，系马解衣，将赴泉以浴。忽大井中，有马绊蛇腾涌而出，首如白虎，大若车轴，嘘气喷毒，势欲噬人，骑卒见之，奔迸而去。又每岁三月三日，蚕市之辰，远近之人，祈乞嗣息，必于井中，探得石者为男，瓦砾为女，古今之所效验焉。

### 仙都山阴君洞验

仙都山阴君，将欲升天，谓门人刘玄远曰：此山孤峙，势若龙蟠，其首东向，必当吐云送我。言讫，有五色云从地涌出，乘云升天。出云之处，呀成洞穴，水旱祈祷，立有感通。大历九年七月十五日，邑人宇文万年、女人阿件等一十五人，以元节之辰，奉香花于洞门礼拜，忽见洞中波涛涌溢，出一金手、一玉手，其大如扇，良久乃隐，水波亦不复见。长庆元年，江陵人傅绡，闻洞中雷吼之声。咸通初，道士王芳芝，闻洞中声如群鸟飞，异香纷郁，偏于山顶。乡人常占于岁，鹤翔必致于年丰，鹿鸣必致于岁歉。不栖凡鸟，每有二鸟。广明辛丑岁，刺史陈侔修置道场，有祥云天乐之应，甘露兹于丛林，宠诏褒美。中和甲辰年，赐紫大德曹用言准诏斋醮，有卿云瑞雪之祥。时既毕黄箓道场，未撤门纂。有神人见曰：灵山斋醮，必命神祇主张，某即近庙之神，差卫坛靖，斋功既毕，门纂未移，某不敢辄还本庙。道众闻其言，睹其异，遽坼门纂，其神见形，愧谢而去。兹山灵应，今古昭彰，传于众多，非可备述。

### 嘉州东观尹真人石函验

嘉州东十余里，有东观，在群山中。石壁四拥，殿有石函，长三尺，其上旃鸟兽花卉，文理纤妙，邻于鬼工，緘锁极固，



泯然于毫缕之隙。相傳云是尹喜真人石函也。真人升天之时，以石函付门弟子，约之曰：此函中有符箓，慎不可开，犯之必有大祸。郡人远近，咸所敬之。大历中，清河崔公为太守，惟刚果自恃，闻有真人石函，笑谓官属曰：辛坦平之诈见矣。即诣观视函，使破其锁。道士白曰：真人有遗教，启吾函者，必有大祸。幸君侯无犯仙官之约。崔怒曰：尹喜死且千年，安得独有函在！促命破锁，而坚不可动，即以巨索系函鼻，以数牛拽之，鞭驱半日，石函乃开。但有符箓数十轴，黄素为幅，丹书其文，炳然如新矣。崔观毕，谓道士曰：吾向者谓函中有奇宝，故开而阅之，今但符箓而已。于是令缄锁如旧。

崔既归郡，是夜暴卒，三日而苏。官吏将佐，且谒且贺。崔谓其众曰：吾甚大愚，未尝知神仙之事，无何开关尹真人石函，果有紫衣冥吏，直至寝门曰：我冥吏也，奉命召君，君不可拒，拒则祸益大矣。始闻甚惧，不觉随吏俱去，出郡城五十余里，至一官署，其冥官即故相吕公欵也，谓吾曰：子无何开尹真人石函乎，今奉上帝命，削君之禄寿，果如何哉！即召吏案吾名籍，吏曰崔公有官五任，有寿十五年，今奉上帝命，削五任官，削十三年寿，独有二年在矣。于是听崔还生。崔与吕公友善，泣告吕公曰：某之罪，固不可逃，上帝之责，固非三赦所及矣。过自己招，甘心受责，知复何言！然故人何以为救乎？公曰：折寿削官，不可逃矣。吾为足下致二年假职，优其禄廩，用副吾子之托耳。崔拜谢，即为吏所导，还郡廨中，见其身卧于榻，妻子环而哭之。使者命崔俯视其尸，魂神翕然相合，即苏焉。问其家，已三日矣。本郡以白廉使，崔即治装，尽室之成都，具以事告，节制崔宁署摄副使，月给俸钱二十万，果二年而卒矣。

### 九嶷山女仙鲁妙典石盆铁臼验

九嶷山，鲁妙典仙女得道之所。妙典居山修道，自山门渐迁，就高深岑寂之地。每居作一麓床，踪迹皆在。妙典初居山北无为观中，去何侯宅舜坛三二里，后居第一麓床，已在山上，去舜坛五里。其居所有古镜一面，阔三尺。次作第二麓床，又直北上山三十里，中有石盆，可广三尺，长四尺，自有神水，雨不加溢，旱不减耗，饮之不竭。又有铁臼，重二百五十斤。延唐县令王翱，令人强取药臼，行未及县，王翱家举二十余口，两三日中，相次俱死。药臼今在潭州麓山寺中，寺中有犯者，辄病极，有灵验。

### 真宗皇帝御制《天童护命妙经序》

夫妙本难穷，至真善应，可道而非常道，无为而靡不为。是以琼简瑶函，爰敷宝训，云章凤篆，咸演秘文，标示明科，形容造化。所以宣扬博利，饮助洪钧，为善教之筌蹄，道舍灵之耳目。朕获膺元命，茂育群黎，冀广真诠，潜资庶品。以《天童护命经》者，太清密语，金阙真符，素有前征，播于别策。其或洗心诚诵，结念奉持，固可却病蠲邪，臻和致寿。类羲图之立象，幽赞神明；同夏鼎之除祲，不逢魑魅。愈凶灾于六极，集戩谷于百祥。因模写以颁行，乃标题而叙列，所期寰海，共

乐生成云耳。

### 《太上天童经》灵验录

益州西门内石笋街百姓李万寿者，年五十余。景福元年，壬子岁三月中值乱，城门尽闭，家道罄竭，亲属二十余口，悉皆沦没，万寿一身穷悴。其月城开之后，遂往汉州，投托亲知。行至新都县，觉日色犹早，乃更前去，殆至昏黑，无处止息。遥见西山之下，隔桥似有人居茅斋，四向园林森耸。万寿至门，扣扉良久，一女子出，年才及笄，忽见万寿，甚惊，问曰：君是何人？因何至此？万寿曰：欲往汉州，至此抵夜，愿寄一宿，希不艰阻。女子曰：君宜速去，此不可住。万寿再三恳告，乃曰：缘妾夫婿非人也。万寿坚问其故，乃曰：妾夫即行病鬼王也，啖食生人，莫知其数。妾即新都县蓝淀行内王万回家女也，偶然被摄至此，无由归得。万寿曰：某至此，山路险恶，去亦死，住亦死，愿得一处藏匿，必可免难，当为娘子通报本家，令知在此。女子良久欣然，遂引万寿入大瓮中，以物蒙之。万寿既喜又惧，不敢喘息，但志心密诵《太上天童护命经》。

四更以来，忽闻大风拔树，走石飞砂，俄见鞍马铿锵，旗队震耀，入于堂内，须臾而风止。俄又闻鼾睡之声，雷吼达于屋外。夜未晓，女子潜至瓮间，语万寿曰：我王与群鬼睡矣。然王问妾云：适来忽见宅四面，金刚力士遍满，空中紫云之内，白鹤仙童罗列前后。吾遂急归，复遇一老翁，四目，部领兵使三十余万，逐吾至大铁围山，吾奔进窜避，直俟兵散，崎岖至此。今大困乏，岂是有术人至此否？妾但答云，此无人也。君

必有秘术邪？为妾言之。万寿曰：某无所能，适但至心密诵《天童护命经》耳。女子曰：君试诵之，我愿闻也。万寿遂密密历诵经一遍。女子稽首跪听，移时赞叹，乃曰：岂非此经灵验否？言讫，复入室内，忽寂然无物，但有空房四向，寻觅绝无影响，但闻香风飒飒，觉在土穴中。仰见天色皎然，遂奔至瓮所，惊告万寿，同寻香气而出。天色渐晓，方知身在大古墓中，相顾悚惧。万寿遂引女子，至新都县寻其本家。父母聚族悲喜，问其事由，远近人民，传说惊叹。以钱十万、庄一所赠万寿。即于严真观入道，其女子之父王万回，即于万寿处，传受《天童经》于玉皇观中入道。